高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成１８年６月

奈良工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

基準３　教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 449

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 471

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 721

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 741

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 803

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 837

Ⅳ　選択的評価事項に係る目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 889

選択的評価事項Ａ　研究活動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 891

選択的評価事項Ｂ　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況 ・・・・・・・・・ 913

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名

奈良工業高等専門学校

（２）所在地

奈良県大和郡山市矢田町２２

（３）学科等構成

学科：機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，
情報工学科，物質化学工学科

専攻科：機械制御工学専攻，電子情報工学専攻，
化学工学専攻

（４）学生数及び教員数

（平成18年５月１日現在）

学生数：学　科１，０３５名

専攻科７８名

教員数：８１名

２　特徴

奈良工業高等専門学校（以下，本校という）は，高度成長期に５年制の高等教育機関として，昭和 39 年に２学科（機械工学科：２学級，電気工学科：１学級）が創設され，昭和 44 年には化学工学科が増設された。本校では技術者育成の期待に応えるべく，中学卒業後という早い年齢段階から５年間の一貫した専門職業教育，理論的な基礎の上に立っての実験・実習・実技を重視した実践教育，少人数クラス編成によるきめ細かな教育指導，また寮や各種クラブ等の課外活動を通して指導と支援を行ってきた。その教育成果は広く産業界や大学から高い評価を得る等，独自の複線型学校制度として定着している。

この間，本校は県下に学部相当の工科系の高等教育機関を持たなかったことから，社会が必要とする工学の分野拡大や時代の要請に対応して，昭和 61 年に情報工学科の新設，平成 2 年に機械工学科の分離改組による電子制御工学科の設置，平成 9 年には化学工学科を物質化学工学科へ改組し，いち早く生物系コースを導入した。現在は一般教育及び専門教育を５学科体制で実施している。さらに，２年制の専攻科が全国の高専に先駆けて，平成４年に３専攻（機械制御工学専攻，電子情報工学専攻，化学工学専攻）で設置され，時代に即応した人材育成を柔軟に行い，成果を挙げてきている。特に専攻科では特別研究活動を重視しており，論文や国際会議を始めとする学会での発表件数は毎年約 110 件程度で，学協会から表彰された学生は延べ 37 名となっている。専攻科修了生は全員，これまで大学評価・学位授与機構から学士を取得している。

本校の卒業生は，準学士課程（6,002 名）・専攻科課程（388 名）で，一部上場・地元企業や大学・高専等各界で活躍している。最近は，準学士の 65 %が専攻科・大学へ，専攻科修了生の 60 %が大学院に進学しており，求人企業は 1,360 社（平成 17 年度）となっている。

また，本校では多様な人材の確保と国際化の流れの中で，昭和 55 年に工業高校から編入生を，昭和 58 年には留学生の受入れを開始している。留学生受入れとは別に，（独）国際協力機構（JICA）のプロジェクトに参画し，インドネシアとタイに長期・短期専門家として教員を派遣すると共に，トルコからの外国人受託研修員を受入れる等開発途上国の技術教育支援を積極的に進めている。

平成１６ 年 4 月からの独立行政法人化に伴って，新しい時代に向けた本校の教育指針として，従前からの教育理念である「創造の意欲」「幅広い視野」「自律と友愛」の三つの標語をベースに据えつつ「国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」と定めている。さらに本校では，本科４ー5 年生と専攻科生を対象として「豊かな人間性」「工学の基礎知識」「コミュニケーション能力」「新規システムを創成する能力」を目標にした「システム創成工学」教育プログラムを設けており，この教育プログラムは日本技術者教育認定機構（JABEE）から工学（融合複合・新領域）関連分野において認定を受けた。

本校は高等教育機関の使命の一つである地域密着型を基軸にした産学官連携事業等を推進している。地域や近隣の産業界（奈良県，八尾市，東大阪市）等との共同研究，受託研究を通して，学生のインターンシップの充実を図り，教育・研究支援の一助としている。特に，平成 16 年に協定調印された地元大和郡山市と本校との学市連携事業「スーパーサイエンスの達人派遣」は，各方面から高い評価を受け，本事業をベースとし専攻科生の問題解決型学習（PBL）をも包含した取組，「サイエンス・『ものづくり』・地域力の展開」事業が，平成 17 年度の文部科学省「大学改革推進等補助金（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）」（現代 GP）に採択された。

また平成 16 年 10 月には大阪大学大学院工学研究科と単位互換制度等包括的な協定の締結を行ない，専攻科生の教育研究活動を積極的に支援し進路保障にも資している。

Ⅱ　目的

1　奈良工業高等専門学校の使命

本校は中学校卒業を入学資格とした学生を受け入れ，５年間の一貫教育によって深く専門の学芸を教授し，豊かな教養と職業に必要な能力を育成することを使命としている。また本校は，専攻科を全国高専に先駆けて設置し，県下で唯一の学部相当の工学系高等教育機関として教育研究活動を行うと共に，奈良県や地域産業界等の要請に応え，連携を図りつつ，技術的・社会的な人材の養成と支援を行うことも使命としている。

2　教育活動の基本的な理念と指針

本校の教育理念は，「創造の意欲」，「幅広い視野」，「自律と友愛」の三つの標語で表されている。
これらの教育理念のうち「創造の意欲」は，技術者として未知の新しい課題に積極的に取組み，それを実現できる能力を育成することであり，「幅広い視野」は，単に自己の専門分野の知識のみならず幅広い知識に基づいて物事を多面的に考察し，判断できる能力を育成すること，そして「自律と友愛」は，自己を冷静に見つめ，他者を理解しようとする姿勢を身に付けさせることにある。

平成16年4月からの独立行政法人化にともなって，本校では新しい時代に向けた教育指針として，上記の教育理念をベースに据えつつ，「国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」を掲げている。

3　養成すべき人材像と教育目標

本校は，中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行うため，自ら理工系・技術系分野に対し興味と基礎能力・適性を有し，学習意欲の旺盛な入学者を選抜することが，優れた教育効果を挙げるために不可欠なことである。こうした観点から本校では，アドミッションポリシー（学生受入れ方針）として次の４項目を掲げている。

(1) 技術者としての夢を持ち，情熱を持って自ら勉学に取組める人
(2) 創造力を生かし，新しい技術にチャレンジしたい人
(3) 技術を通して世界に羽ばたきたい人
(4) 技術的好奇心があり，それを実践により確かめたい人

アドミッションポリシーに則り受け入れた学生に対し，本校では以下のような人材を養成する。

準学士課程

準学士課程は機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，情報工学科，物質化学工学科の５学科があり，各学科独自の教育目標は次の通りとなっている。

機械工学科では，機械の設計・製作に関する基礎知識と技術を身につけた，工業技術の急速な動きに即応できる機械技術者の育成を目標としている。

電気工学科では，電気主任技術者Ⅱ種の資格認定を堅持しつつ，電気電子機器・設備から材料・デバイス，情報・通信装置に至る領域の設計，開発，運用に関する基礎的な知識と技術を習得させ，現代の工学技術の幅広い分野に適合しうる電気電子技術者の育成を目標としている。

電子制御工学科では，工学技術分野における急速な自動化の進展及びコンピュータによる制御技術の発展に対応できる，総合的な処理能力を持った実践的メカトロニクス技術者の育成を目標としている。

情報工学科では，計算機のハードウエアとソフトウエアの双方に精通した専門技術者を育成し，これを基礎として計算機を有効に利用できる能力，問題分析能力，システム化技術を修得させ，広範囲にわたる情報技術分野について，柔軟に適応できる能力の育成を目標としている。

物質化学工学科では，産業構造の変革と技術の高度化に対応し，先端技術を担えるような研究開発能力を持った質の高い実践技術者を養成することを目標としている。

このように各学科独自の教育目標をもっているが，共通となる準学士課程の学習・教育目標は，「社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる，豊かな人間性を備えた技術者の育成」，「幅広い工学的知識を基礎に，実践力を備えた技術者の育成」，「コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成」，「自主的・継続的に学習し，課題解決能力を備えた技術者の育成」としている。

専攻科課程

本校の専攻科教育は，準学士課程と同様にアドミッションポリシー及び３専攻がそれぞれの教育目標を持ち，専攻独自の特徴を生かした教育を行っているが，３専攻が共通して実施している点は，実験（問題解決型学習（PBL）），特別研究，専門応用に重点をおき，基礎と実践を重視した複合・融合教育であり，より高度な技術開発能力の育成である。専攻科では準学士課程教育における一貫性と，大学の教育課程とは一線を画した高等専門学校専攻科教育の独自性を前面に出して，学習・教育目標を設定している。具体的には４つの標語（より高く，より幅広く，より新しく，再び）を指針とし，以下の項目を学習・教育目標としている。

(1) 豊かな人間性……文化の重要性と多面的思考能力，技術者として社会的責任等を理解する。

(2) 工学の基礎知識……数学と自然科学の知識や思考力により，工学的諸問題の解決に適用する。基礎工学の知識を専門工学に応用し，情報関連機器を駆使して情報検索・収集やデータ解析をすることができる。

(3) コミュニケーション能力……日本語による論理的な記述能力と発表し討論する能力，英語（読解，記述，発表等）の基礎能力を育成する。

(4) 新規システムの創成……新規システムを創成する意欲と能力，自主的・継続的に問題解決に向けて学習し，デザイン能力を身につけることができ，チームワークにより課題を完成させる。

上記の教育目標は，日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定された，融合複合・新領域におけるシステム創成工学教育プログラムに掲げた学習・教育目標をも包含している。

4　教育と研究活動の基本的な方針

本校は技術者として有為な人材を養成するため，次のような取組によって行っている。

(1) アドミッションポリシーを明示して，近隣（奈良・大阪・京都・滋賀・和歌山・三重等）の中学生から技術や理工系分野に関する基礎能力と適性を有し，学習意欲の旺盛な入学者を選抜する。

(2) 優れた教職員を確保し，恵まれた環境を生かしつつ施設・設備等の教育環境を充実させて，本校の持つ魅力と成果を広く社会に発信し，優れた入学生を確保すると共に地域社会や産業界等との連携を深め支援を行う。

(3) こうした教育環境の下で準学士課程では，中学卒業という早い年齢段階から５年間の一貫した専門職業教育，ものづくりを基盤とする実験・実習・実技による実践的な技術教育，また寮や課外活動等を通して全人格的教育を行い，国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者を養成する。

(4) 専攻科課程ではコミニュケーション能力，実験（問題解決型学習（PBL）），特別研究，専門応用に重点をおき，準学士課程で学習した基礎と実践を重視した融合・複合教育を実施し，より高度な技術開発能力の育成を行う。

5　学生支援に係る基本的な事項

(1) 学習支援：シラバスの作成，オフィスアワーの実施と学習相談，専攻科生の Teaching Assistant (TA) による低学年の補習授業，ALC Network Academy を導入し自学・自習の確保，障害等を持つ学生への学習支援。

(2) 学生生活支援：新入生校外オリエンテーション，進路指導（就職支援・進学指導），奨学金等経済的支援，学生会活動，各種スポーツ大会，高専祭，課外活動，健康管理，学生相談，安全指導と対策，生協による支援。

(3) 学生寮支援：宿日直による指導，生活指導，寮生会活動と諸行事の支援，安全指導，留学生支援。

(4) 施設・設備：図書館の充実，課外活動施設，視聴覚機器室，マルチメディア・情報処理演習室の確保。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　目的として，高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

（観点に係る状況）

高等専門学校としての本校の目的は，以下の通り明文化されている（資料１－１－①－１）

資料１－１－①－１　目的

第１章　目　的

第１条　奈良工業高等専門学校（以下「本校という。」は，教育基本法（昭和２２年法律第２５号）及び学校教育法（昭和２２年法律第２６号）に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典 奈良工業高等専門学校学則 昭和３９年４月１日制定:規程集）

創設時に上記学則に係る規程が定められ，以来，本校の目的は一貫したものであるが，専攻科の設置に伴って，専攻科に係る目的を追加した（資料１－１－①－２）。

資料１－１－①－２　専攻科

第７章　専攻科

第３１条　専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工学の高度な専門知識と技術を教授し，その研究指導をすることを目的とする。

（出典 奈良工業高等専門学校学則 平成４年４月１日改正:規程集）

次に，本校が教育研究活動を実施する上での基本的な指針である「教育理念と目標」について述べる（資料１－１－①－３）。本教育理念については，昭和５２年に明文化されて学校概要を始め，学生生活のしおり，ホームページに掲載され，以降，本校の学生・教職員・受験者向けの印刷物で周知し，定着している。

資料１－１－①－３　教育理念

本校の教育理念は「創造の意欲」・「幅広い視野」・「自律と友愛」の三つの標語で表している。これらの教育理念のうち「創造の意欲」は，技術者として未知の新しい課題に積極的に取り組み，それを実現できる能力を育成することであり，「幅広い視野」は，単に自己の専門分野の知識のみならず幅広い知識に基づいて物事を多面的に考察し，判断できる能力を育成すること，そして「自律と友愛」は，自己を冷静に見つめ，他人を理解しようとする姿勢を身に付けさせることであり，この三つの標語を本校の基本的な理念としている。

平成１６年４月からの独立行政法人化に伴って，本校では新しい時代に向けた教育指針として，上記の教育理念をベースに据えつつ，「国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した，実践

的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」を掲げている。

（出典 奈良工業高等専門学校 学生生活のしおり）

本校は，中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行うため，自ら理工系・技術系分野に対し興味と基礎能力・適性を有し，学習意欲の旺盛な入学者を選抜することが，優れた教育効果を挙げ人材養成を図るために不可欠なことである。こうした観点から本校では，アドミッションポリシーとして次の４項目（資料１－１－①－４）を掲げている。

資料１－１－①－４　アドミッションポリシー

準学士課程のアドミッションポリシー（学生受入れ方針）

（１） 技術者としての夢を持ち，情熱を持って自ら勉学に取り組める人
（２） 創造力を生かし，新しい技術にチャレンジしたい人
（３） 技術を通して世界に羽ばたきたい人
（４） 技術的好奇心が有り，それを実践により確かめたい人

（出典 奈良工業高等専門学校入学者募集要項）

アドミッションポリシーに則り，受け入れた学生に対し，本校では以下のような能力及び豊かな教養と人間性を兼ね備えた人材を養成する（資料１－１－①－５）。

資料１－１－①－５　養成すべき人材像

準学士課程の学習・教育目標

準学士課程は機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，情報工学科，物質化学工学科の５学科があり，各学科独自の教育目標を持っているが，共通となる学習・教育目標は上記教育理念と指針のもと，次のように定めている。

（１） 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる，豊かな人間性を備えた技術者の育成
（２） 幅広い工学的知識を基礎に，実践力を備えた技術者の育成
（３） コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
（４） 自主的・継続的に学習し，課題解決能力を備えた技術者の育成

（出典 奈良工業高等専門学校 学校概要）

本校の専攻科課程は，準学士課程と同様にアドミッションポリシー（資料１－１－①－６）に則り，高専卒業と同程度の基礎能力を有した学生を受け入れ，３専攻がそれぞれの教育目標を持ち，複合・融合を生かした独自の教育を行っている。特に，専攻科では準学士課程教育における一貫性と，大学の教育課程とは一線を画した高等専門学校専攻科教育の独自性を前面に出して，学習・教育目標（資料１－１－①－７）を設定している。

資料１－１－①－６

専攻科課程のアドミッションポリシー（学生受入れ方針）

（１） 豊かな人間性を有する技術者になりたい人

（２） 自らの専門分野を生かし，さらに応用する力を育みたい人
（３） 技術を通して国際社会に貢献したい人
（４） 創造性を高め，新しいシステムをつくり出したい人

（出典 奈良工業高等専門学校専攻科入学者募集要項）

資料１－１－①－７

専攻科課程の学習・教育目標

（１） 豊かな人間性・・文化の重要性と多面的思考能力。技術者として社会的責任等を理解する。
（２） 工学の基礎知識・・数学と自然科学の知識や思考力により，工学的諸問題の解決に適用する。基礎工学の知識を専門工学に応用する。情報関連機器を駆使して情報検索・収集やデータ解析をすることができる。
（３） コミュニケーション能力・・日本語による論理的な記述能力と発表し討論する能力，英語（読解，記述，発表等）の基礎能力を育成する。
（４） 新規システムの創成・・新規システムを創成する意欲と能力，自主的・継続的に問題解決に向けて学習し，デザイン能力を身につけさせ，チームワークにより課題を完成させる。

（出典 奈良工業高等専門学校専攻科入学者募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的は学則により明文化されて定められている。教育研究活動を遂行する上での基本理念と指針，学習・教育目標，養成しようとする人物像及び達成しようとする基本的な成果等は，学校概要を始め，学生生活のしおり，ホームページに掲載され，本校の学生・教職員・受験者向けの印刷物，各種広報誌で周知している。

以上のことから，本校は高等専門学校の教育目的，使命等を明確に定めている。

観点１－１－②：　目的が，学校教育法第７０条の２に規定された，高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものでないか。

（観点に係る状況）

本校は規程集（資料１－１－①－１）のなかで，教育基本法（昭和２２年法律第２５号）及び学校教育法（昭和２２年法律第２６号）に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的としていると定めている。したがって，本校では創設以来，この目的を達成するために具体的な教育理念と指針（資料１－１－①－３），学習・教育目標（資料１－１－①－５）を掲げ有為な技術者の養成を図ってきた。ここでは学校教育法第７０条の２に規定された，二つの大きな目的と具体的な本校の教育理念と指針，学習・教育目標の関係を示す（資料１－１－②－１）。

資料１－１－②－１

学校教育法第７０条の２に規定された目的と本校の教育理念と指針，学習・教育目標の関係

本校の目的		「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
教育理念 及び 指　針		創造の意欲 独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者の育成	自律と友愛，　幅広い視野 国際社会でも活躍しうる豊かな人間性
学　習・ 教育目標	準学士 課　程	・幅広い工学的知識を基礎に，実践力を備えた技術者の育成 ・自主的・継続的に学習し，課題解決能力を備えた技術者の育成	・社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる，豊かな人間性を備えた技術者の育成 ・コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
	専攻科 課　程	・工学の基礎知識 ・新規システムの創成	・豊かな人間性 ・コミュニケーション能力

（出典　奈良工業高等専門学校 学校概要等から作成）

上記の通り教育理念と指針，学習・教育目標は，「深く専門の学芸を教授し」並びに「職業に必要な能力を育成」の両者に対し，バランス良く定められている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育理念と指針，学習・教育目標は，学校教育法第７０条の２に規定されている目的から外れるものではなく，（資料１－１－②－１）から明らかなように十分対応をしている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

教職員への周知状況：本校の目的は学則に定められており，全文が「学生生活のしおり」に記載され，毎年教職員へ配付し広く周知されている。教育理念と指針，学習・教育目標は，「学校概要」や「ホームページ」にも載せており，教職員はいつでもこれを見ることができる。また，月例のFDにおいても周知を図っており（資料１－２－①－１），特に校長，３主事，人事係長による新任教職員研修では各種書類が配付され，本校の目的等が周知され理解されている（資料１－２－①－２）。

資料１－２－①－１　月例 FD

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課保管資料）

資料１－２－①－２

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課作成新人研修会実施要項）

学生への周知状況：上記の「学生生活のしおり」は，教職員同様に毎年全学生に配付されており，

学生には４月の全校集会時（資料１－２－①－３）や年度当初に担任から常に読むように指導をしている。また，本校の目的，教育理念と指針，学習・教育目標及び JABEE プログラムの学習・教育目標は，学校玄関や各教室等に掲示され理解を深めている。新入生に対しては，入学前（資料１－２－①－４）及び入学後の新入生オリエンテーション時（資料１－２－①－５）に説明をし，本校の教育理念と目標等について理解させている。

資料１－２－①－３　全校集会

平成１８年度　全校集会日程

１．　日　時：平成１８年４月６日（木）　９時２０分 ー ９時５０分
２．　場　所：第１体育館
３．　内　容：校長挨拶，教務主事挨拶と諸連絡（奈良高専の目的，教育理念と目標等について），
学生主事挨拶と諸注意，新人教員の紹介，留学生と編入学生の紹介，表彰，諸連絡

（出典　学生課教務係作成全校集会実施要項）

資料１－２－①－４

平成１８年度　入学予定者（保護者）オリエンテーション日程

１．　日　時：平成１８年３月２３日（木）　１０時 ー １５時
２．　場　所：大視聴覚室
３．　内　容：教務主事（学生生活のしおり，シラバス等を配付）
奈良高専のアドミッションポリシー，目的，教育理念と目標について
学習と教務に関すること及び共通試験等について
学生主事
学生生活とカウンセラー，通学，校則と表彰制度等について
寮務主事
寮生活と寮室の確認等
教科書，教材，制服，自転車等購入（奈良高専生協が支援）

（出典　入学予定者オリエンテーション実施要項）

資料１－２－①－５

平成１８年度　入学者オリエンテーション日程

１．　日　時：平成１８年４月１３日（木）ー １４日（金）　１泊２日
２．　場　所：信貴山
３．　内　容：教務主事補
奈良高専の目的，教育理念と目標について
高専での学習に関する心構えについて
教務に関する手続き及び当面の諸行事について
（以下省略）

（出典　入学者オリエンテーション実施要項）

これら教育理念や目標等の認知度に関する１年生のアンケート結果は（資料１－２－①－６）とな

っており，知っている，やや知っているを入れると約７７％となっている。このことから１年生は，本校の教育理念や目標等の認知度が高いと言える。

資料１―２－①－６

教育理念・目標等の認知度に関するアンケート結果

問	＼	機　械	電　気	制　御	情　報	化　学	合　計
問１	ア	９	７	１４	５	５	４０
	イ	２３	３１	２３	３１	３４	１４２
	ウ	７	５	０	１０	３	２５
	合　計	３９	４３	４１	４２	４２	２０７
問２	ア	３	５	１２	１	０	２１
	イ	２３	２３	３０	２７	３７	１４０
	ウ	１３	１５	０	１４	５	４７
	合　計	３９	４３	４２	４２	４２	２０８
問３	ア	３	４	１０	２	２	２１
	イ	２４	２６	３２	２５	３４	１４１
	ウ	１２	１３	０	１５	６	４６
	合　計	３９	４３	４２	４２	４２	２０８
問４(1)	ア	０	０	０	０	０	０
	イ	０	０	０	０	０	０
	ウ	０	０	０	０	０	０
	合　計	０	０	０	０	０	０
問４(2)	ア	１８	２３	３	２０	２５	８９
	イ	１４	１７	４	１７	１３	６５
	ウ	５	２	１	３	３	１４
	合　計	３７	４２	８	４０	４１	１６８

アンケート項目：問１　あなたは，本校の教育理念を知っていますか。

ア．知っている。　イ．具体的な内容は忘れたが，知っている。　ウ．知らない。

問２　あなたは，本校のアドミッション・ポリシーを知っていますか。

ア．知っている。　イ．具体的な内容は忘れたが，知っている。　ウ．知らない。

問３　あなたは，本校の学習・教育目標を知っていますか。

ア．知っている。　イ．具体的な内容は忘れたが，知っている。　ウ．知らない。

問４(1)　学生生活の満足度についてお聞きします。

ア．している。　イ．どちらとも言えない。　ウ．していない。

問 4(2)　資格取得や検定試験受講，外国留学等に興味を持っていますか。

ア．持っている。　イ．どちらとも言えない。　ウ．持っていない。

（出典　運営会議資料）

学生生活のしおり，学校概要，ホームページ，シラバス等における本校の目的，教育理念と指針，学習・教育目標の掲載状況と配付状況は，次のようになっている（資料１－２－①－７）。

資料１－２－①－７

本校の目的，教育理念と指針，学習・教育目標の掲載状況と資料の配付先

資　料	目　的	教 育 理 念	教育指針	学習・教育目標	配　付　先
学 校 概 要	○	○	○	○	全教職員・企業・大学・中学校等
学生生活のしおり	○	○	○	○	全教職員・全学生
シ ラ バ ス	○	○	○	○	全教員・全学生
ホームページ	○	○	○	○	
奈良高専中期計画		○	○	○	全教職員
入学者募集要項	○	○	○	○	全教員・大学・高等学校・中学校等

（出典　庶務課・学生課保管資料）

（分析結果とその根拠理由）

教職員に対しては，学生生活のしおりや学校概要が毎年配付され，ホームページにも載せており広く周知されている。また，月例の FD においても周知を図っており，特に校長，３主事，人事係長による新任教職員研修では各種書類が配付され，本校の目的と教育目標等が周知され理解されている。

学生には学生生活のしおりの配布や４月の全校集会時，年度当初に担任からも指導を行っている。また，本校の教育理念や学習・教育目標等は，学生玄関や各教室等に掲示され理解を深めている。新入生に対しては，入学前及び入学後の新入生オリエンテーション時に説明をし，本校の目的等について理解させている。

以上のことから，本校の目的は構成員（教職員及び学生）に周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校は創設以来，学則第１章第１条に高等専門学校の目的を記載し，これに基づいて学校概要（資料１－２－②－1）に分かり易く記載し，かつ教育理念と指針を学校概要の冒頭に掲げて，広く社会に公表してきた。学校概要は（資料１－２－②－２）に示した各種機関等に配布されている。

資料１－２－②－1

学校概要の冒頭文

（前文略）

高等専門学校は，中学校卒業程度を入学資格とする５年制の高等教育機関であり，深く専門の学芸を教授して，豊かな教養と職業に必要な能力を育成することを目的としている。

（以下略）

（出典　奈良工業高等専門学校 学校概要）

資料１－２－②－２　配付先

学 校 概 要 の 配 布 先

配　　布　　先	部　数
教職員及び各課事務室等	１３７
名誉教授，学校医，非常勤講師	８３
独立行政法人・国立高等専門学校機構（事務局・留学生募集用）	４１
国公立高等専門学校	５９
奈良地区六機関	6
近畿地区国立大学	１２
文部科学省大臣官房人事課	1
〃　　会計課	1
〃　　文教施設企画部	1
〃　　高等教育局専門教育課	1
〃　　高等教育局学生課	1
国立国会図書館	5
産学交流・地域連携	２００
学生募集に係る諸行事（含，中学校等訪問）	１，０００
来校企業等就職用	１，０００
保存用・予備	５２
合　計	２，６００

（出典　庶務課保管資料）

また，学生募集に係る諸行事（体験入学，中学校訪問，入試説明会，入試懇談会，学習塾主催説明会，中学校主催説明会等）において学校概要等を配布し，積極的に広報活動を進め，目的等を説明している。各行事の参加者数は資料の通りとなっている（資料１－２－②－３）。さらに目的等に関しては，本校のホームページにも掲載されており，ホームページにアクセスする数は月平均１万３千件となっており，多くの方が本校の状況を閲覧している（資料１－２－②－４）。特に１１月は入試説明会後の入試情報等を閲覧するために２万件強となっている。

資料１－２－②－３

平成１７年度　学生募集に係る諸行事

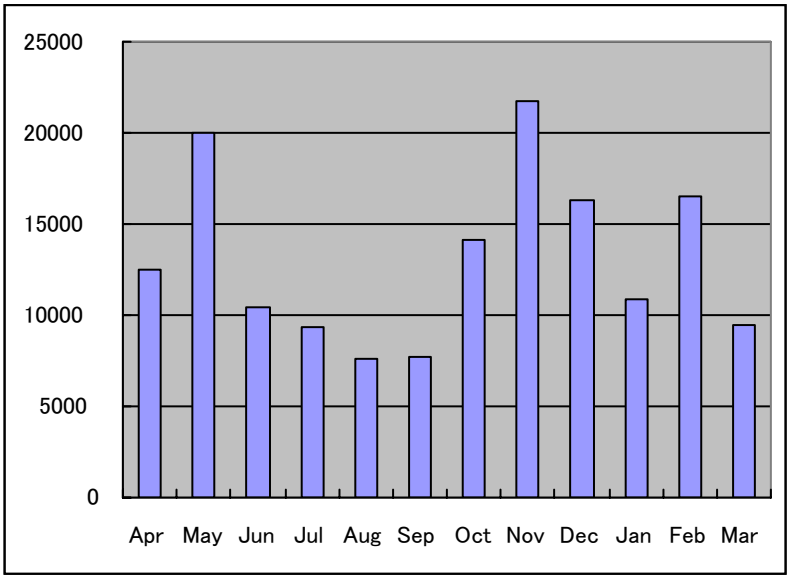
行　事　名	実 施 時 期	担　当　者	実 施 内 容 及 び 参 加 者
体験入学	７月２８日（木） ７月２９日（金）	校長 教務主事 教務主事補（３名） 各科教員	ビデオ上映 校長 挨拶 教務主事 学校の目的・制度等の説明 各学科で実施 ２日間の合計：３３１名
中学校訪問	８月下旬から ９月中旬まで	全教員 学生課・庶務課職員	３２９校 （内，県内９５校）

入試説明会 （中学校教員及び 学習塾教員）	10 月４日（火） 10 月７日（金） 10 月 11 日（火） 10 月 12 日（水） 10 月 14 日（金）	校長 ３主事 教務主事補（３名）	奈良県北部　３６名 京都府　１２名 大阪府　１１名 奈良県南部　３９名 学習塾　２０名 計　１１８名
入試説明と懇談会 （中学生・保護者）	10 月 22 日（土） 10 月 23 日（日）	教務主事 教務主事補（３名） 各学科教員	１２６組：２３０名 １４３組：２９７名 計　５２７名
学習塾主催説明会	９月 23 日（金） 12 月３日（土）	教務主事	大和郡山市内　４８２名 奈良市内（２回）　１，３７８名
中学校主催説明会 （生徒及び保護者）		教務主事 教務主事補（３名）	７中学校　９６４名
来 校 者 （中学生・保護者）	９月ー１２月	教務主事 教務主事補 教務係職員	７４名

（出典　教職員会議配布資料）

資料１－２－②－４

平成 17 年度　ホームページへのアクセス数



（出典　事務用電算機室資料）

（分析結果とその根拠理由）

高等専門学校の目的については，本校では分かり易く記載し，かつ教育理念と指針を学校概要の冒頭に掲げ，広報誌として各種機関等に広く配布をしている。本校あるいは外部機関による学生募集に

係る諸行事では，学校概要や各種広報誌を利用して，本校の目的，教育理念と指針，アドミッションポリシー，学習・教育目標等を，さらに入学予定者及び保護者に対するオリエンテーションにおいても同様な説明をしている。また，教育目的等はホームページにも掲載されている。

以上のことから，本校の目的は社会に広く公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 高等専門学校の目的について，本校では分かり易く記載し，これに基づく教育理念と指針を掲げて学習・教育目標を設定し，準学士課程と専攻科課程で養成する人材像と技術者像を明確にしている。

（改善を要する点）

- 該当なし。

（３）基準１の自己評価の概要

高等専門学校としての「目的」は，創設時に明文化され学則に定められており，以来，本校の目的は一貫したものであるが，専攻科設置に伴って，専攻科に係る「目的」を追加した。高専の目的について本校では分かり易く記載し，これを基盤として昭和５２年に教育研究活動を実施する上で，基本的な「教育理念」を，独法化に伴って「教育指針」を定めている。目的，教育理念と指針は学校概要を始め，学生生活のしおり，ホームページに掲載され定着している。

本校は，中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行うため，自ら理工系・技術系分野に対し興味と適性を有し，学習意欲の旺盛な入学者を選抜することが，優れた教育効果を挙げ，人材養成を図るために不可欠なことである。このような観点から本校ではアドミッションポリシーを掲げ，基礎能力を有した学生を受入れている。準学士課程は機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，情報工学科，物質化学工学科の５学科があり，各学科独自の教育目標を持っているが，共通となる学習・教育目標は教育理念と指針のもとで定めている。

専攻科課程では，準学士課程と同様にアドミッションポリシーを掲げ，高専卒業と同程度の能力を有した学生を受け入れ，３専攻がそれぞれの教育目標を持ちつつ，複合・融合を生かした教育を行っている。特に，専攻科では準学士課程における一貫性と，大学の教育課程とは一線を画した専攻科教育の独自性を前面に出して，学習・教育目標を設定している。

こうした目的，教育理念と指針，学習・教育目標は，教職員に対して毎年配付する学校概要等を通して，またホームページにも載せ，広く周知されている。特に，新任教職員には研修会を実施し，本校の目的等が周知され理解される機会を設定している。学生には学生生活のしおりの配布や４月の全校集会時，年度当初に担任からも指導を行っている。本校の教育理念や学習・教育目標等は，学校玄関や各教室等に掲示し理解を深めている。新入生と保護者に対しては，入学前及び入学後のオリエンテーション時に説明をし，高専の目的等について理解を図っている。

目的，教育理念と指針，学習・教育目標を記載した学校概要等は，広報誌として各種機関や学生募集に係る諸行事等で配布し，また説明を行っている。このように本校の目的等は，構成員（教職員及び学生）や社会に広く公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は５学科構成となっている（資料２－１－①－１）。

資料２－１－①－１　学科構成

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次の通りとする。

学　　科	学　級　数	定　　員
機 械 工 学 科	1	４０
電 気 工 学 科	1	４０
電子制御工学科	1	４０
情 報 工 学 科	1	４０
物質化学工学科	1	４０

（出典　奈良工業高等専門学校学則）

各学科（含，一般教科）の概要は次の通りである（資料２－１－①－２）。

資料２－１－①－２　各学科の概要

○ 一般教科

一般教科では，各専門学科と協力して優れた技術者の育成を期すため，広い視野と社会人として必要な教養を備え，創造的で個性豊かな人間性及び健全な身体と精神を育む教育を目標としています。一般教科の科目は全学年にわたって学ぶもので，総授業数の約半分を占めています。５年間の一貫教育の中で，高校１年から大学２年程度の内容を学ぶことになります。文科系科目では，幅広い教養と語学力を身につけた国際感覚溢れる技術者の養成を，また理科系科目では，数学，物理，化学等専門科目を習得するのに十分な基礎となる能力を培うことをねらいとしています。

○ 機械工学科

機械工学科では，各産業分野における設計開発，生産技術，品質管理等の幅広い分野に対応できるできる技術者の養成を目標としている。このため，機械工学の基礎的科目に加えて，電子・電気工学の知識を修得させるとともに，情報処理系科目については４年間にわたって講義及び演習を行っている。また，コンピュータ援用技術を導入した設計教育を行うほか，生産にかかわる技術教育を実施している。さらには，設計・製図から製作に至るプロセスを体験させる等して，開発能力及び創造能力を培わせるとともに，機械技術者としての洗練されたセンスが身につくよう教育内容を充実させている。

○ 電気工学科

電気工学科では，電気・電子機器や装置等の「ものづくり」を基盤とした知識と技術を修得させ，現代の工学技術の幅広い分野に適合しうる創造性豊かな電気技術者の育成を目標としている。このため，電気・電子工学に関係する専門の基礎理論から，電力・エネルギー・制御系，電子・新素材・デバイス系，情報・通信・コンピュータ系分野に関する専門知識を段階的に教授し，しかも，演習と実験・実習を重視して技術的な実践能力を高める指導を行っている。５学年では，より高度な専門知識を修得させるために，高電圧工学と電力応用工学を軸とした電力系，信号処理

とコンピュータ応用を軸とした電子系のいずれかを選択できるようになっている。しかも電気主任技術者のⅡ種資格認定が両系ともに満たされている。さらに，個人指導による卒業研究によって計画・調査・設計・実験等を行い，卒業論文にまとめさせ，技術能力を向上させる指導を行っている。

○ 電子制御工学科

電子制御工学科では，工学技術分野における急速な自動化の進展及びコンピュータによる制御技術の発展に対応できる総合的な処理能力を持った実践的メカトロニクス技術者の育成を目標としている。このためメカトロニクスノ分野では不可欠な機械工学，電気・電子工学，情報処理，制御工学，ロボット工学等の基礎知識を修得させた上に，これらを総合的に取り扱えるように指導する。また，実験・実習・演習を通じて各分野及び相互間の有機的つながりを実践的に教育することにより総合的な技術力を養う。

○ 情報工学科

情報工学科では，高度情報化社会の形成に不可欠であり，またあらゆる産業分野で必要とされる，コンピュータのハードウエアとソフトウエア及び情報処理に関する知識と技術を身につけた情報処理技術者の育成を目標としている。このため一般科目並びに電気・電子に関する理論や情報処理に関する基礎を修得させたうえ，コンピュータのハードウエア，ソフトウエア及び情報処理システム開発の等の専門技術を教授する。これらは単に理論だけではなく実験・演習によって具体的に身につくように指導する。さらに第５学年においては，情報工学科分野における主な先端的技術に関する科目を開講し，学生の興味と適正に応じて選択できるように配慮している。また，卒業研究では，修得した専門技術をもとに，総合的な技術開発能力を高めさせるよう指導する。

○ 物質化学工学科

産業構造の変革と技術の高度化に対応し，先端技術を担えるような研究開発能力を持った質の高い実践技術者を養成するため，平成９年度化学工学科を改組し，物質化学工学科と改めた。物質化学工学科では，第４学年から「化学応用工学コース」と「生物化学工学コース」の２コース制を導入し，より専門教育の充実をはかっている。学生は，４学年に２つのコースの内どちらか希望するするコースを選択することになっている。低学年（１ー３学年）では基礎課程として共通カリキュラムを編成し，講義以外に実験・実習を通じ化学技術者としてより確かな基礎学力がつくよう配慮している。また，第５学年ではすべての学生に卒業研究が課せられている。各研究室に配属し各々の専門分野に関する研究テーマについて，修得した専門技術を基に技術開発能力の向上を目指して個人指導を行う。

- 化学応用工学コース：従来の単位操作，反応工学等を基礎とした化学装置の設計・操作について学ぶと共に，新たに分子レベルでの新物質の合成や機能性材料の設計，さらに電気エネルギーや光エネルギー等化学エネルギーに関する関する基礎及び応用技術について学ぶ。
- 生物化学工学コース：生物化学を基礎として，微生物の機能を利用した有用物質の生産，遺伝子工学やタンパク質工学を用いた新規物質の生産及び食品加工・農産物製造におけるバイオ技術について学ぶ。さらに，生物化学工学を基礎にして，バイオプロセスの最適設計・制御や生成物の分離生成プロセス等の生産技術に関する基礎と応用技術について学ぶ。

（出典　奈良工業高等専門学校 学校概要）

本校は，高度成長期に５年制の高等教育機関として，昭和 39 年に２学科（機械工学科：２学級，電気工学科：１学級）が創設され，昭和 44 年に化学工学科が増設された。この間，本校は県下に学部相当の工科系高等教育機関を持たなかったことから，社会が必要とする工学の分野拡大，地元産業界や地域（資料２－１－①－３），また時代の要請に対応して，昭和 61 年に全国の高専では数少ない情報工学科が新設された。その後，平成２年に機械工学科が分離改組されて電子制御工学科が設置，平成９年には化学工学科を物質化学工学科へ改組し，いち早く生物系コースを導入した。現在は一般

教育及び専門教育を５学科体制で実施している。

資料２－１－①－３　新学科増設，専攻科設置に係る要望

奈良工業高等専門学校に情報工学科を増設することに関する要望書

要　望　書

本県の教育振興につきましては、日ごろから格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

今日、わが国の工業技術は高度情報化社会の中で、著しい進歩発展を遂げてまいりましたが、そうした中で、情報処理技術や計測・制御技術などの先端技術の基盤となる高度な技術教育の拡充は、今後一層重大な教育課題となることは必定であります。

本県におきましても、専門学科をもつ高等学校では、時代のニーズに応えるために産業教育の一層の充実を図るとともに、普通科高等学校にも「情報科学型」のコースを設置して、情報処理技術の習得を目指すなど、21世紀に向けてその要望に応え得る技術者の育成に努めてきたところであります。

さて、こうした中で国立奈良工業高等専門学校では、わが国産業界における科学技術部門の果たす役割について、その現状と将来を的確に分析・把握され、従前の３学科に加えて新たに「情報工学科」の増設を考えられていることは、誠に時宜を得た企図であります。

もとより、国立奈良工業高等専門学校では、時代の要請に即応して、昭和39年の創立以来、幾多のすぐれた工業技術者を育成されてきましたが、その卒業生の多くの逸材が、本県産業界で活躍し、地域の発展に大きく貢献していることは言をまたないところであります。

以下に述べる国立奈良工業高等専門学校「情報工学科」増設理由に基づき、これが実現に格別の御配慮方お願いします。

記

1　「情報工学科」は、近畿圏の国公私立の工業高等専門学校７校にはいまだ開設されていない学科であり、本県にこれが開設されることは、地理的位置からして最適である。

2　本県の人口は、全国有数の社会増加率を示しており、高校進学適齢人口の急増地域として全国第３位にあり、関西学術研究都市構想計画の進展に伴う都市人口の増加も見込まれるため、高校進学適齢人口の収容力を高める上からも時宜にかなうものである。

3　本県では、次代を展望した県内産業振興策の１つの方向として、先端技術産業の誘致を考えており、技術系高等教育機関としての人材養成機能と研究開発機能の産・学・官の協調に大きな期待を寄せるものである。

昭和60年７月

国立奈良工業高等専門学校長
中　西　義　郎　　殿

奈　良　県　知　事
上　田　繁　潔

要　望　書

国立奈良工業高等専門学校「情報工学科」の増設について

高度情報化社会の中で先端技術の基礎となる技術教育の拡充は、今後一層重要な教育課題となることは必定である。

こうしたなかで、国立奈良工業高等専門学校では、従前の３学科に加えて新たに「情報工学科」の増設を考えられていることは、誠に時宜を得た企図である。

特に本県では、次代を展望した県内産業振興策の一つの方向として、先端技術産業の誘致を考えており、技術系高等教育機関としての人材養成機能と研究開発機能の産・学・官の協調に大きな期待を寄せるものであり、これが実現に格別の御配慮を願いたい。

奈　良　県

国立奈良工業高等専門学校機械工学科の分離改組について（要望）

要　望　書

今日、我が国の工業技術は、産業構造の変革と技術革新の中で、著しい進歩発展を遂げて参りましたが、そうした中で、特に機械技術と電子技術をあわせもつメカトロニクス技術教育の拡充は、今後一層重大な教育課題となることは必須であります。

本県におきましても、専門学科をもつ高等学校では時代のニーズに応えるため産業教育の一層の充実を図るとともに、21世紀に向けて科学技術の進展に応え得る技術教育の育成に努めてきたところであります。

さて、こうした中で貴校では、本県産業界における科学技術部門の果たす役割について、その現状と将来を的確に分析・把握され、従来の機械工学科（定員80名）を機械工学科（定員40名）と電子制御工学科（定員40名）への分離改組を考えていることは、誠に時宜を得た計画であります。

ついては、貴校機械工学科を電子制御等の新しい分野に対応できる学科に分離改組され、優れた技術者を養成し本県産業界の発展に一層の寄与されんことを要

（出典　奈良工業高等専門学校 三十年誌）

資料２－１－①－３　新学科増設，専攻科設置に係る要望

望します。

平成元年７月７日

国立奈良工業高等専門学校長

中　西　義　郎　　殿

奈　良　県　知　事

上　田　繁　潔

平成元年７月７日

国立奈良工業高等専門学校長

中　西　義　郎　　殿

奈良商工会議所

会頭　小　林　茂　市

要　望　書

産業教育の充実と進行を通じ、本県産業界の発展のため常々格別のご高配とご尽力を賜り深甚なる感謝と敬意を表するものであります。

また、地元産業界は本県唯一の技術教育の場としての奈良工業高等専門学校に最も大きな期待を寄せているものであります。

さて、県内の中小企業を取り巻く経営環境は、まことに厳しいものがあります。

特に、先端技術分野を中心とする技術革新の急激な進展や要望の多様化、高度化等に即応して中小企業自らの技術開発が求められております。

ご高承のとおり、奈良県にあっては地域活力の活性化に向けて研究機関、先端技術産業、高度情報産業等の誘致を進めているところでありますが、一方、地元産業界では技術の細分化、複合化等を背景に、より事業分野を拡大して行くためには、技術力の向上に合わせ確固たる技術基盤の確立が必要になる。

しかしながら、県内産業各分野において技術者不足がいわれており、技術革新の中心となっている電子制御系技術者不足が深刻であり、産業構造高度化の大きなネックになっている実情であります。従って、実践的技術者の養成が急務であり、そのために学校における体系的かつ一貫した技術教育の体制作りが必要となっております。

以上の観点から、地元産業界の要請に応えて頂きたく、奈良工業高等専門学校「機械工学科（定員80名）」を「機械工学科（定員40名）・電子制御系学科（定員40名）」に分離改組されますよう強く要望するものであります。

188

国立奈良工業高等専門学校専攻科の設置について（要望）

要　望　書

今日、我が国の工業技術は、産業構造の変革と技術革新の中で、著しい進歩発展を遂げてきましたが、そうした中で、特に先端技術を中心とする技術革新の急激な進展や要望の複雑多様化、高度化に即応できる高度技術教育の拡充は、重大な教育課題となっています。

本県においても、専門科をもつ高等学校では時代のニーズに応えるため産業教育の一層の充実を図るとともに、21世紀を担う科学技術の進展に応える技術者の育成に努めてきたところであります。

さて、こうした中で貴校では、本県産業界における科学技術部門の果たす役割について、その現状と将来を的確に分析把握され、この度の大学審議会の答申を受けた学校教育法や高等専門学校設置基準などの関係法令が改正されるや、いち早く、専攻科の設置を検討され、高等専門学校卒業後、２年間にわたり、より高度な技術力と創造的な技術開発力を有する技術者を養成するとともに、工科系大学のない本県において、県内企業に働く社会人の再教育の道をも開き、地域に根ざした工学系高等教育機関としての役割を果たされることは誠に時宜を得た計画であります。

また、本県に設置が決定された奈良先端科学技術大学院大学との関連からも大きな意味があります。

ついては、貴校に修業年限２年の専攻科が設置され、精深な教育を受けた優れた技術者を養成し、本県産業の発展に一層の寄与をいただきますよう要望申し上げます。

平成３年７月１日

国立奈良工業高等専門学校長

中　西　義　郎　　殿

奈　良　県　知　事

上　田　繁　潔

平成３年７月１日

国立奈良工業高等専門学校長

中　西　義　郎　　殿

社団法人　奈良工業会

会長　藤　岡　和　夫

要　望　書

（出典　奈良工業高等専門学校 三十年誌）

資料２－１－①－３　新学科増設，専攻科設置に係る要望

平成３年７月１日

国立奈良工業高等専門学校長
中　西　義　郎　　殿

奈良商工会議所
会長　小　林　茂　市

要　　望　　書

産業教育の充実と振興を通じ、本県産業界の発展のために常々格別のご尽力を賜り深甚なる感謝と敬意を表するものであります。

また、地元産業界では本県唯一の技術教育の場としての奈良工業高等専門学校に最も大きな期待を寄せているものであります。

さて、県内の中小企業を取り巻く経営環境は、まことに厳しいものがあります。

特に、先端技術分野を中心とする技術革新の急激な進展や要望の多様化、高度化等に即応して中小企業自らの技術開発が求められております。

ご高承のとおり、奈良県にあっては地域活力の活性化に向けて研究機関、先端技術産業、高度情報産業等の誘致を進めているところでありますが、一方、地元産業界では技術の細分化、複合化等を背景に、より事業分野を拡大して行くためには、技術力の向上に合わせた確固たる技術基盤の確立が必要であります。

しかしながら、最近の技術の急速な進歩に対応して、社会・産業界は、単なる課題解決型の実践的技術者のみならず研究開発能力をもった創造型技術者を必要としております。

以上の観点から、地元産業界の要請に応えて頂きたく、奈良工業高等専門学校に専攻科（２年制）を設置されるよう強く要望するものであります。

奈良県工業の振興のため、奈良工業会に対して常々格別の御配慮とご尽力を賜り深く感謝いたしております。

今、近畿圏では、関西新空港や関西文化学術研究都市など世界的に注目されている大型プロジェクトが急ピッチで進められており、奈良県においても、こうした事業の積極的な推進を図り、将来に向けての基盤の整備が進められております。

その一つである「テクノパーク・なら」は21世紀を展望したインテリジェント工業団地として奈良県南部地域の活性化の拠点として新産業ゾーンを形成しつつあります。

奈良工業会は、技術革新、国際化、情報化等に伴う産業構造の急激な変化に対応しつつ、奈良県工業の振興・発展を図り、もって地域経済社会の進展に寄与するため、先端技術応用利用研究、中堅技術者研修、異業種交流グループ活動等々を行い、企業の活性化を目ざして実行をあげております。また、近年の技術革新、産業構造の変化、国際化にどのように対応して行くか、近畿圏の関係団体と連携して大きな視野に立って活動を続けております。

奈良工業会の企業では会社の将来の発展、しいては地域産業発展のため、高度の技術と創造性をもった人材を求めており、本県で唯一の実践技術者を養成する高等教育機関として、貴校に大きな期待を寄せて来たところであります。

しかし、県内工業分野においては技術高度化、産業構造の複雑多岐化に対応する技術者不足が深刻であり前述の「テクノパーク・なら」に進出する企業を含め、人材の確保・養成に大変苦慮している状況であり、これに即応するため、教育機関における高度の技術をもった人材の養成並びに企業の技術者の再教育の体制を確立することが急務となって降ります。

このような状況の中、今回の教育改革により、高等専門学校の分野拡大、専攻科の設置を盛り込んだ関係法令の改正が行われました。

以上の観点から、地元工業会の要請に応えていただきたく、貴校に工学の広い分野に対応した２年制の専攻科を設置され、実践的な技術を身につけたうえに、創造的な技術開発能力を有する技術者を養成するとともに、県内企業に勤務する技術者の技術の高度化を図る再教育を行い、地元工業の振興・発展に一層寄与されることを強く要望するものであります。

189

（出典　奈良工業高等専門学校 三十年誌）

本校の学科は，大きく分けて工学の基盤であり，また産業の基幹となる機械系，電気系，化学系の３分野５学科（機械系分野は機械工学科と電子制御工学科，電気系分野は電気工学科と情報工学科，化学系分野は物質化学工学科）から構成されており，高専の目的である「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」に合致するものである。

（分析結果とその根拠理由）

技術者養成の期待に応えるべく本校の学科は，主に産業の基幹となっている機械系，電気系，化学系の３分野５学科（機械工学科・電気工学科・電子制御工学科・情報工学科・物質化学工学科）から構成されている。５学科は共通の学習・教育目標を持って，中学卒業後という早い年齢段階から５年間の一貫した専門職業教育，工学的な基礎の上に立っての実験・実習・実技を重視した実践教育，少人数クラス編制による教育指導を行ってきている。その教育成果は，広く産業界や大学から高い評価を得る等，独自の複線型学校制度として定着している。このように本校の学科構成は，工学の基盤領域を担いつつ，産業界や地域からの要請に基づいて設置されており適切なものとなっている。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

学校教育法の改正により新しく高専に専攻科を設置できることとなったが，この制度改正では，学校教育法 70 条２にある「高専は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする」という高専制度の基本は変えていない。それゆえ専攻科の設置目的は「高専教育のアイデンティティを保持しながら，精深な程度において特別な事項を教授し，その研究指導をする」こととしている。こうした背景で，本校は平成４年に３専攻を持つ２年制の専攻科を全国の高専に先駆けて設置し，専攻科教育の目的を達成するため３専攻の構成を以下のようにした（２－１－②－1）。

資料２－１－②－1　専攻科

第７章　専攻科

第３２条　専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入　学　定　員
機 械 制 御 工 学 専 攻	８人
電 子 情 報 工 学 専 攻	８人
化 学 工 学 専 攻	４人

（出典　奈良工業高等専門学校学則）

専攻科の設置にあたっては，大学評価・学位授与機構の認定を得ることが前提であり，このことは，高専の専攻科が上記したように高専教育のアイデンティティを保持し，その教育レベルにおいて少なくとも大学学部教育以上のレベルであることの制度的な保証として意味を持つものである。したがって，専攻科は学科があって成り立つものであり，各学科との連携によって適切に組織されるべきものである。本校では，機械工学科と電子制御工学科をベースとする機械制御工学専攻，電気工学科と情報工学科をベースとする電子情報工学専攻，物質化学工学科をベースとする化学工学専攻で組織されている（２－１－②－２）。

資料２－１－②－２　組織

専　攻　科　の　組　織

専　　攻　　科	準 学 士 課 程（本 科）
機 械 制 御 工 学 専 攻 （入学定員８名／学年）	機 械 工 学 科 電子制御工学科
電 子 情 報 工 学 専 攻 （入学定員８名／学年）	電 気 工 学 科 情 報 工 学 科
化 学 工 学 専 攻 （入学定員４名／学年）	物質化学工学科

（出典　奈良工業高等専門学校専攻科パンフレット）

設置当初の専攻科の教育目標としては，文部省（現，文部科学省）が監修し，国立高等専門学校協会が編集した『高等専門学校・専攻科』に以下の３項目が挙げられている（２－１－②－３）。

資料２－１－②－３

国立高等専門学校協会が指針とした専攻科の教育目標

1. 高専の実践的技術を駆使する研究開発能力，創造能力を育成すること。
2. 高度の技術科学を体系的に教授し，専門領域の幅を拡大すること。
3. 国際的職業人として，より広い視野を持った実践的技術者を育成すること。

（出典　奈良工業高等専門学校 2002 年度自己点検・評価報告書）

他方，本校専攻科教育の特色は，（資料２－１－②－３）以前につくられた専攻科新設に伴う学生募集のためのパンフレットと，これ以降の専攻科紹介の中で次の４つの標語を用いて分かりやすく説明している（資料２－１－②－４）。

資料２－１－②－４

専攻科教育の特色を４つの標語で記載

1. より高く・・・特別実験，特別研究を重視しつつ基礎力の充実を図り，高等専門学校（準学士）課程で培われてきた実践的技術者としての能力を高める。目標の設定から達成まで一貫して遂行できる実践的な研究開発能力をもった人材の養成を目指す。
2. より幅広く・・専門技術を核にしつつも，広く人間社会に対する視野を培う総合的な人間教育を心がけ，適正な価値観と判断力を合わせもった人材の育成を目指す。また，外国語能力の増強だけではなく，他国の文化・習慣に対する知的関心を高め，国際社会でも活躍できる人材の養成を目指す。
3. より新しく・・本校は，京阪神に近く，文化発祥の地で四方を緑に囲まれた環境にある。この豊かな自然の中で，これからの技術のあり方を重視した技術教育を心がけ，地球環境を保護し，人に優しい技術を具現できる新しい感覚を持った技術者の養成を目指す。
4. 再び・・・高専の卒業生等に門戸を開き，技術者の再教育に貢献する。各専門分野において，新しく展開してきている技術を中心に，基礎に加えて応用力を付与し，技術者としての活性化を推進する。

（出典　奈良工業高等専門学校専攻科パンフレット）

このように専攻科教育の目的を達成するため，本校は３専攻の構成にあたって高専教育のアイデンティティを保持し，準学士課程を構成する各学科との複合・融合を基本として組織されている。したがって各専攻は，機械工学科と電子制御工学科による機械制御工学専攻，電気工学科と情報工学科による電子情報工学専攻，物質化学工学科による化学工学専攻で構成されている。これによって専攻科では，準学士課程教育における一貫性と，大学の教育課程とは一線を画した高等専門学校専攻科教育の独自性を前面に出し，教育指針（より高く，より幅広く，より新しく，再び）を掲げ，学習・教育目標（資料１－１－①－７）を設定して有為な人材の養成を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校専攻科の構成は，高専教育のアイデンティティと一貫性を保持しながら，創設当初から学校教育法に記載されている「精深な程度において特別な事項を教授し，その研究を指導をする」に準拠しており，ふさわしいものとなっている。したがって本校では，専攻科教育の目的と専攻科の構成に整合性が取れている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には全学的なセンターとして次の施設がある（資料２－１－③－1）。

資料２－１－③－1

奈良工業高等専門学校 情報メディア教育センター規程（抜粋）

（設置）

第１条　奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に 情報メディア教育センター（以下「センター」という。）を置く。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

情報メディア教育センター（平成 16 年に図書館と統合し，総合情報センターから名称変更）の設置目的としては，教育研究のための学術情報等の収集・管理，本校の教職員及び学生に対してのその情報提供の２点が明示されている（資料２－１－③－２）。また，これを具体化するための業務は以下のとおり定めている（資料２－１－③－３）。

資料２－１－③－２

奈良工業高等専門学校 情報メディア教育センター規程（抜粋）

（目的）

第２条　センターは，教育研究に資するため，広く学術情報等を収集・管理し，本校の教職員及び学生に対してその情報を提供することを目的とする。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料２－１－③－３

奈良工業高等専門学校 情報メディア教育センター規程（抜粋）

（業務）

第５条　センターは，第２条の目的を達成するため次の業務を行う。

（１）　センターの業務計画及び管理運営に関すること。

（２）　学術情報等の収集とその管理運用に関すること。

（３）　センターの利用計画，総括及び連絡調整に関すること。

（４）　その他目的達成に必要な事項に関すること。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

情報メディア教育センターは，図書館，情報処理演習室・マルチメディア演習室・LL 教室等から構成されており，センター長・副センター長・ネットワーク管理員及びセンター員によって管理運営され，目的と業務に記載されているような役割と機能を持っている。同センターは，本校の学習・教育目標にある「幅広い工学的知識を基礎に，実践力を備えた技術者の育成」と「工学の基礎知識」を身に付けるために必要不可欠なものであり，今日の情報社会を担っていくためにも重要かつ全学的な共同利用施設である。授業での利用状況は以下のとおりである（資料 ２－１－③－４）。

資料２－１－③－４

平成 17 年度 授業での利用状況（前期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
情報処理演習室	プロⅡ(3I) プロ製図(5C)	機器分析(5C) 信号処理(5S) 情報理論(3M)	情報理論(2M) プログラミ(3S)	国語(2S) 国語(2M)	英語 I-2B(5IC) 英語(4S) 情報(2C) プログラミ(2S)
マルチメディア演習室	国語(2E) 国語(2I)	ドイツ語 (4 学年全クラス)	ドイツ語(専１) プログラミ(3E)	英語(4E) 英語(4I) 英語(4C)	ドイツ語(全５) プロ設計(5C) 数値解(5S) 統計(専 2)
ＬＬ 教室	英語(2S) 英語(3E) 英会話(1M)	英会話 I(1E) 英会話 I(1S) 英会話 I(1I) 英会話 I(1C) 英語表現 I(専１)	英語表現 I(専 2) 英語(3I) 英語(4M)	英語(3S) 英語(3M) 英語(3C)	英語 I-2A(5MES) 国語(2C)

平成 17 年度 授業での利用状況（後期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
情報処理演習室	情報処理(2M) 国語(2I)	国語(2E) プログラミ(3I)	数値解(5S) プログラミ(3E)	国語(2M) 国語(2S)	プログラミ(2S) プログラミ(3S)

					情報処理(3M)
マルチメディア演習室	国語(2S) 英語(3C)	物化工演(4C) ドイツ語 (4学年全クラス)	ドイツ語(専１) 英語表現Ⅰ(専１) 英語(4M)	英語(4E) 英語(4I) 英語(4C)	ドイツ語(全５) 情報科学(2C) 機器分析(5C)
ＬＬ教室	英会話Ⅰ(1E) 英会話(1M) 英語(3E) 英会話Ⅰ(1S)	英会話Ⅰ(1I)	英語表現（専2) 英語(3I) 英会話Ⅰ(1I)	英語(3M) 英語(3S)	英語Ⅰ-2B(5IC) 英語(4S) 国語(2C)

（出典　平成 17 年度授業時間割表）

マルチメディア演習室や LL 教室には，平成 16 年度に ALC Network Academy（アルク社の語学演習システム）が導入され，学習教育目標の「コミュニケーション能力を備えた技術者の育成」，JABEE 学習教育目標の一つである「TOEIC 試験 400 点」を達成するため，言語教育の充実化を図っており全学的な利用体制としている。学生達は昼休みや放課後，本システムを積極的に利用して自学自習に励んでおり，特に放課後には，専攻科生による TA（ティーテングアシスタント）によって２学年以上の学生が，また専攻科生自身の自学自習に際し便宜を図っている（資料２－１－③－５）。

資料２－１－③－５

平成 16 年度 授業時間以外での利用状況（後期）

	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科
２学年	５０	８４８	４７０	９３２	１１８
３学年	5,５１０	5,８６７	5,８６４	5,１１９	6,３１４
４学年	2,４２２	1,９４０	1,７７５	1,８３７	1,２４６
５学年	６２１	９２８	２０４	４９１	１１
専攻科生	1,２７１				

（平成 16 年 10 月 1 日ー平成 17 年 3 月 31 日）

（出典　情報メディア教育センター統計資料）

このように情報メディア教育センターは，本校が全学的に教育研究活動を行っていく上で重要な機能を持っている。

（分析結果とその根拠理由）

全学的なセンター施設として情報メディア教育センターを設置している。当該センターは情報処理教育と研究，本校内外への情報提供，情報収集等共同利用のために必要な支援を行うと共に，本校の学習・教育目標を達成するための全学的に必要不可欠な共同利用施設である。以上のことから，情報メディア教育センターの設置は適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開

するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動を行っているか。

（観点に係る状況）

教育課程全体を企画・立案し調整するための検討・運営体制としては企画会議がある（資料２－２－①－1）。企画会議は，平成１６年度にスタートした国立高等専門学校機構の発足を踏まえ，主事会議から名称と機能を変更したものである。

資料２－２－①－1　企画会議規程（抜粋）

奈良工業高等専門学校企画会議規程

（設置）

第１条　奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に企画会議（以下「会議」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　会議は，次の各号に掲げる事項を企画・立案する。

(1) 本校の運営に関する基本方策に関すること。

(2) 本校の教育，研究の基本方策に関すること。

(3) 予算等財務に関する基本方策に関すること。

(4) 施設，設備の整備等に関する基本方策に関すること。

(5) その他本校の管理，運営に関する重要事項。

（組織）

第３条　会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 校長

(2) 教務主事

(3) 学生主事

(4) 寮務主事

(5) 専攻科主任

(6) 事務部長

(7) 庶務課長，会計課長及び学生課長。

（議長）

第４条　会議に議長を置き，校長をもって充てる。

（以下省略）

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

企画会議で企画・立案・調整された教育課程や教育活動全般に係る重要かつ新規事項については，運営会議（運営委員会から名称と機能を変更）において審議される（資料２－２－①－２）。企画会議及び運営会議は，毎月定例で，また必要に応じて臨時に開催している（資料２－２－①－３）。

資料２－２－①－２　運営会議規程（抜粋）

奈良工業高等専門学校運営会議規程

（設置）

第１条奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議（以下「会議」という。）を置く。
（審議事項）
第２条会議は，企画会議，委員会等から提案された事項を審議する。
（組織）
第３条会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 校長
(2) 教務主事
(3) 学生主事
(4) 寮務主事
(5) 専攻科主任
(6) 一般教科及び専門各学科主任
(7) 情報メディア教育センター長
(8) 事務部長
（会議の召集等）
第４条　会議は，校長が召集し，その議長となる。
（以下省略）

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料２－２－①－３

平成１７年度 企画及び運営会議活動状況

開　催　日　時	活　動　状　況
平成 17 年４月１日（金）	定例企画会議
平成 17 年４月５日（火）	臨時運営会議
平成 17 年４月 12 日（火）	定例運営会議
平成 17 年５月１１日（水）	定例企画会議
平成 17 年５月１２日（木）	定例運営会議
平成 17 年６月６日（月）	定例企画会議
平成 17 年６月 14 日（火）	定例運営会議
平成 17 年６月 16 日（木）	臨時運営会議
平成 17 年６月 23 日（木）	臨時運営会議
平成 17 年７月８日（金）	定例企画会議
平成 17 年７月 12 日（火）	定例運営会議
平成 17 年９月 13 日（火）	定例企画会議
平成 17 年９月 15 日（木）	定例運営会議
平成 17 年 10 月７日（金）	定例企画会議
平成 17 年 10 月 13 日（木）	定例運営会議
平成 17 年 11 月９日（水）	定例企画会議
平成 17 年 11 月 17 日（木）	定例運営会議
平成 17 年 12 月７日（水）	定例企画会議

平成 17 年 12 月８日（木）	定例運営会議
平成 17 年 12 月 20 日（火）	臨時運営会議
平成 18 年１月 10 日（火）	定例企画会議
平成 18 年１月 12 日（木）	定例運営会議
平成 18 年１月 29 日（日）	臨時企画会議
平成 18 年１月 30 日（月）	臨時運営会議
平成 18 年２月６日（月）	定例企画会議
平成 18 年２月９日（木）	定例運営会議
平成 18 年２月 21 日（火）	臨時運営会議
平成 18 年３月２日（木）	臨時運営会議
平成 18 年３月４日（土）	定例企画会議
平成 18 年３月７日（火）	定例運営会議
平成 18 年３月 13 日（月）	臨時運営会議

（出典　庶務課保管資料）

企画会議と運営会議の他，教育課程を立案し，有効に展開するための検討・運営体制としては教務委員会がある（資料２－２－①－４）。

資料２－２－①－４　教務委員会規程（抜粋）

奈良工業高等専門学校教務委員会規程

（設置）

第１条 奈良工業高等専門学校に教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

（審議事項）

第２条 委員会は，校長の命により教務に関する重要事項等を審議する。

（組織）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。ただし，第２号の委員は，第３号又は第４号の委員を兼ねることができる。

（１）　教務主事

（２）　教務主事補

（３）　一般教科から選出された専任教員　２名

（４）　専門各学科から選出された専任教員　各１名

（５）　学生課長

（委員の任期）

第４条 委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。

２　補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条 委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。

（議長）

第６条 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（以下省略）

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

教務委員会においては，校長から命を受けた教務主事が教育課程を有効に展開するため，教育計画の立案その他教務に関することを掌理し（資料２－２－①－５），以下の事項を審議する（資料２－２－①－６）。また，教務主事が委員長（資料２－２－①－４）となっていることで，委員会の責任の所在が明確となっている。

資料２－２－①－５　教員組織

第４章　教員組織

（主事）

(1) 本校に教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものは除く。）を掌理する。

4 寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（以下省略）

（出典　奈良工業高等専門学校学則）

資料２－２－①-６　審議事項

教務委員会における審議事項

1 教育課程の編成及び実施に関する事項。

2 授業，定期試験，成績評価，進級・卒業認定に関する事項

3 教務関係行事等に関する事項。

4 学級担任業務，学生の身分異動に関する事項。

5 教育内容と方法等の改善に関する事項。

6 その他，教務に関する事項。

（出典　奈良工業高等専門学校学生指導必携）

教務委員会は，教務主事と主事を補佐する教務主事補（３名）の他，一般教科担当教員（２名），各専門学科担当教員（５名）から構成され，各々の立場で教育計画の立案・運営等に参画し，学科との綿密な連絡体制をとっており，委員会に学生課長と教務係長が加わり専門的な立場から教育計画の立案・運営等に携わっている。教務委員会の活動状況は，夏季休業期間を除く毎月定例で１１回となっており，また進級・卒業認定や学生の身分異動に係ることでは，臨時委員会を４回程度開催している。平成１７年度の教務委員会活動状況（資料２－２－①－７）と，直近の審議内容に係る議事概要を示す（資料２－２－①－８）。

資料２－２－①－７

平成１７年度 教務委員会活動状況

開　催　日　時	活　動　状　況
平成 17 年４月４日（月）	定例教務委員会
平成 17 年５月 10 日（木）	定例教務委員会
平成 17 年６月２日（木）	定例教務委員会
平成 17 年６月 22 日（水）	臨時教務委員会
平成 17 年７月５日（火）	定例教務委員会
平成 17 年９月６日（火）	定例教務委員会
平成 17 年 10 月６日（木）	定例教務委員会
平成 17 年 11 月１日（火）	定例教務委員会
平成 17 年 12 月１日（木）	定例教務委員会
平成 18 年１月５日（木）	定例教務委員会
平成 18 年２月２日（木）	定例教務委員会
平成 18 年２月 17 日（金）	臨時教務委員会
平成 18 年３月１日（水）	定例教務委員会
平成 18 年３月 10 日（金）	臨時教務委員会

（出典　学生課教務係保管資料）

資料２－２－①－８　議事概要

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係議事概要）

議事概要は学生課教務係が作成し，校長決済を経て各学科選出の教務委員から各科内会議で報告され，またホームページ（学内専用閲覧）に掲載される。ここでは，電気工学科で開催された直近の科内会議議事要録を示す（資料２－２－①－９）。

（資料２－２－①－９）

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　電気工学科科内会議 議事要録）

教育課程に係る重要かつ新規事項については，企画会議で調整され運営会議で審議される他，学生の学籍に係ることは運営会議の議を経て教職員会議において審議される（資料２－２－①－10）。教職員会議（直近）の議事要録を（資料２－２－①－11）に示す。

資料２－２－①－10　教職員会議規程（抜粋）

奈良工業高等専門学校教職員会議規程

（設置）

第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教職員会議（以下「会議」という。）を置く。

（目的）

第２条 会議は本校の運営に関し，校長が必要と認める事項について連絡調整を図ることを目的とする。

（審議事項）

第３条会議は，学籍に関する事項及び校長が必要と認める事項を審議する。

（組織）

会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 校長

(2) 常勤の教員

(3) 事務部長

(4) 庶務課長，会計課長及び学生課長

(5) 総合技術室長

（会議の開催）

第４条　会議は，原則として毎月１回校長が召集し，その議長となる。なお，必要ある時は臨時に開催することができる。

（以下省略）

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

（資料２－２－①－11）

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　教職員会議 議事要録）

（分析結果とその根拠理由）

本校は教育課程全体を企画・立案・調整するための検討機能として企画会議がある。企画会議で企画・立案・調整された教育課程や教育活動全般に係る重要かつ新規事項については，運営会議において審議される。企画会議及び運営会議の他，教育課程を立案し，有効に展開するための検討・運営体制としては教務委員会がある。特に，学生の学籍に係ることは教務委員会及び運営会議の議を経て教職員会議において審議される。企画会議，運営会議及び教務委員会は，規定により委員構成，役割，責任体制等が明確にされており，毎月定例と臨時で会議を開催し，重要事項等を審議・決定して運営を行っている。審議・決定された重要事項等は，一般教科，各専門学科の科内会議や各課で報告され全教職員に周知されている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

一般科目及び専門科目を担当する教員間のネットワーク組織，連携活動としては言語教育ワーキング・グループと数学教育ワーキング・グループがある。この他学級担任・教科担当連絡会があるが，これについては学級担任支援体制のところで述べる。言語教育ワーキング・グループは，本校中期計画の柱の1つである言語教育を充実するため，一般教科及び専門５学科から各々語学を担当する教員代表（国語，英語，ドイツ語，各専門学科の英語担当から各1名の計５名）を構成員として，平成１５年1月に発足した（資料２－２－②－１）。

資料２－２－②－１

〔非開示につき省略〕

（出典　第２回将来計画検討委員会議事要録）

言語教育ワーキング・グループでは，各専門学科のニーズと一般教科の教育の現状とを互いに確認しつつ，教育改善等に向けての議論を重ね，以下の提案を行っている（資料２－２－②－２）。

資料２－２－②－２

言語教育ワーキング・グループの提案事項

(1) 日本語による自己表現能力を身に付けさせる。
(2) 科学系英語文章「読み，書く」能力をしっかり身に付けさせる。
(3) 英語によるコミュニケーション「聞き，話す」基礎能力を養成する。
(4) TOEIC-IP試験を複数回受験させ，80%以上の学生をスコアアップさせる。
(5) 語学教育と工学教育とを結び付ける教育目標として，プレゼンテーション教育を位置づける。
(6) 多文化共生の時代に対応した異文化理解の態度を身に付けさせる。

（出典　言語教育ワーキング報告書）

言語教育ワーキング・グループからの提案は，JABEE等の学習・教育目標やカリキュラムの設計（例えば「日本語表現法」,「英語表現法」の科目新設）等に反映されており，またTOEIC-IP試験による学生の英語能力評価の継続的な実施や，語学演習システム（ALC Network Academy）の導入が行われている。

数学教育ワーキング・グループは，本校の数学教育と専門教育の充実と連携を図るため，平成１５年度に組織され（資料２－２－②－３），言語教育WGと同様に次のような提案がされている（資料２－２－②－４）。

資料２－２－②－３

〔非開示につき省略〕

（出典　第17回将来計画検討委員会議事要録）

資料２－２－②－４

数学教育ワーキング・グループの提案事項

(1) 数学に興味を持たせることにより，理工系科目修得の意欲をより高める。
(2) 問題の本質をつかみ，筋道を立てて対応する数学的思考力を養う。
(3) 数学- 専門科目対応表と専門科目における数学的解法例集の作成と配布。
(4) 数学学力試験（FE試験相当）の実施。

（出典　数学教育ワーキング報告書）

言語教育・数学教育ワーキング・グループを核として，本校では一般科目及び専門科目を担当する教員間のネットワーク組織，連携活動が機能的に行われている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，一般科目及び専門科目を担当する教員間ネットワークや連携活動がワーキング・グループを通して組織的かつ機能的に行われ，各種の提案がなされている。提案の一部は，具体的な形となって実施されている。また，これらの成果は月例FD等において報告され周知されている。

観点２－２－③：　教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校は教育活動を円滑に実施するための支援体制として，学則第９条の規程に基づく教務主事，学生主事及び寮務主事の他，次の職を置いている（資料２－２－③－１）。

資料２－２－③－１

教育活動実施のための支援体制（校務分掌）

（ア）専攻科主任・副主任
（イ）情報メディア教育センター長・図書館担当副センター長,マルチメディア担当副センター長
（ウ）一般教科主任・副主任
（エ）専門学科主任・副主任
（オ）JABEE 統括会議委員長・副委員長
（カ）産学交流室長・副室長
（キ）ネットワーク管理室長
（ク）学級担任
（ケ）教務主事補，学生主事補，寮務主事補
（以下省略）

（出典　平成１８年度役付職員，学級担任及び諸会議・各種構成員一覧から作成）

各主任，センター長，室長，主事補等は，各々の立場で教育活動に対する支援を行っているが，円滑に実施するために学級担任が校務分掌のなかで重要な役割を果たしている。学級担任は，担任業務の効果を上げるため１学年から４学年までの２年間，一般教科教員と専門学科教員（助手は除く）が交互に同一学級を受け持ち，５学年は専門学科教員（含，主任）が受け持つ体制としている。具体的な学級担任の職務は次の通りであり，円滑に学級運営が実施できるようにマニュアル化して支援を行っている（資料２－２－③－２）。

資料２－２－③－２　学級担任

学級担任の職務と支援（教務関係）

第３章　学級担任
3-1 学級担任の年間計画
3-2 特別活動の指導
3-2-1 特別活動の目的
3-2-2 特別活動の成績評価
3-2-3 特別活動の実施計画
3-3 学生指導及び学級運営
3-3-1 学生指導
3-3-2 学級日誌
3-3-3 教室備え付け備品，物品の不足・破損
3-3-4 学級費
3-3-5 身上調書

3-3-6 慶弔
3-3-7 保護者懇談会
3-2-8 その他
3-4 教室・その他の清掃
3-4-1 教室の清掃
3-4-2 屋内共通部分の清掃
第４章　学生の身分の異動
4-1 退学
4-1-1 退学の理由
4-1-2 手続き
4-1-3 その他
4-2 休学及び復学
4-2-1 休学及び復学
4-2-2 手続き
4-2-3 留学

（出典　奈良工業高等専門学校学生指導必携）

上記以外に担任の学級生活指導に係る支援（含，経費）としては，主に次の事項がある（資料２－２－③－３）。

資料２－２－③－３

学級生活指導に係る支援（学生関係）

１ 人権教育
２ 新入生オリエンテーション
３ 学生相談室の利用
４ セクシャル・ハラスメント相談室の利用
５ 保健室の利用
６ 違反，事故，事件に係ること
７ 事故等の緊急措置について
８ 障害を持つ学生への対応について
９ 懲戒に係る指導措置等について
10 家庭訪問について
11 クラス行事等引率経費について

（出典　奈良工業高等専門学校学生指導必携）

本校では学級担任が各クラスで行っている特別活動の一環として，学年毎に合同特活を実施すると共に，人間の素養の涵養に係る諸行事を実施し，担任への支援を図っている（資料２－２－③－４）。

資料２－２－③－４

平成 18 年度 合同特活及び諸行事の実施予定表

実　施　時　期	対　象　学　年	合同特活及び諸行事の実施事項
平成 18 年４月６日（木）	２学年ー５学年	全　校　集　会
平成 18 年４月７日（金）	３学年ー５学年・専攻科	TOEIC-IP テスト
平成 18 年４月 10 日（月）	１ 学 年	新入生校内オリエンテーション
平成 18 年４月 13 日（木）	１学年（一泊２日）	新入生校外オリエンテーション
〃	１・２学年	基 礎 学 力 共 通 試 験
平成 18 年４月 14 日（金）	２学年ー４学年	春 季 ハ イ キ ン グ
〃	５ 学 年	進　路　指　導
平成 18 年４月 27 日（木）	クラブ部長・副部長等	校内リーダース研修会
平成 18 年５月 11 日（木）	１学年ー５学年（留学生）	学 生 会 総 会
平成 18 年５月 23 日（火）	全学年・専攻科	春季スポーツ大会
平成 18 年５月 25 日（火）	２ 学 年	交通安全教室（合同特活）
平成 18 年６月 22 日（木）	２ 学 年（３年留学生）	古典芸能観賞会（合同特活）
〃	３ 学 年	卒業生と語る会（合同特活）
平成 18 年６月 24 日（土）	クラブ部長・副部長等	夏季リーダース研修会
平成 18 年６月 29 日（木）	２ 学 年	人権合同特活（ビデオ研修）
平成 18 年７月６日（木）	４ 学 年	インターンシップ特別講演会
平成 18 年９月１日（金）	全 学 年	全　校　集　会
平成 18 年９月７日（木）	１学年ー５学年（留学生）	学 生 会 総 会
平成 18 年９月 12 日（木）	３ 学 年	マリンバ演奏会（合同特活）
平成 18 年 10 月 12 日（木）	２学年ー４学年	単 車 安 全 講 習 会
平成 18 年 10 月 17 日（火）	全学年・専攻科	秋季スポーツ大会
平成 18 年 10 月 19 日（木）	５学年・専攻科	人権特別講演会（エイズと人権）
平成 18 年 10 月 26 日（木）	４ 学 年	人権特別講演会（障害者と人権）
平成 18 年 11 月８日（水）	５学年（10 日まで）	卒　業　旅　行
平成 18 年 11 月９日（木）	４学年・専攻科（一泊２日）	秋季社会工場見学
平成 18 年 11 月 10 日（金）	１学年ー３学年	秋季社会工場見学
平成 18 年 11 月 16 日（木）	１ 学 年	人権合同特活（ネチケットについて）
平成 18 年 12 月 14 日（木）	３ 学 年	人権合同特活（環境問題）
平成 18 年 12 月 16 日（土）	クラブ部長・副部長等	冬季リーダース研修会
平成 19 年１月９日（火）	全 学 年	全　校　集　会
平成 19 年１月 11 日（木）	１ 学 年	保健衛生教室（合同特活）
平成 19 年１月 25 日（木）	４ 学 年	消費者教育特別講演会

（出典　学生生活のしおり：平成 18 年度年間行事予定）

さらに学級担任が成績不振学生等を指導する場合の手助けとして，また教員間ネットワーク活動と

して，本校では学級担任・教科担当連絡会を年２回設けている（資料２－２－③－５）。

資料２－２－③－５

学級担任・教科担当連絡会

学生支援の一環として，指導対応が必要な学生を担任及び教科担当が把握するため，後期中間成績が出た時点で，学年別に教科担当と学級担任との連絡会を開催しています。日時等，詳細については教務係より連絡します。

実　績

平成１８年１月６日（金）１０時００分ー１２時３０分　１学年から３学年まで
１３時３０分ー１４時３０分　４学年及び５学年
平成１８年３月７日（火）１３時３０分ー１５時００分　１学年から５学年まで

（出典　奈良工業高等専門学校学生指導必携）

学級担任間の情報交換と引き継ぎ業務をスムーズにする支援策として，学年毎の特別活動記録を小冊子として綴じ，供している（資料２－２－③－６）。

資料２－２－③－６

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係特別活動記録資料）

学級担任は校務分掌のなかで重要な役割を果たしている。担任業務の効果を上げるため，本校では学級担任制度を組織的に確立し，担任が教育活動を実施するに当っては，各種の支援策が広くなされている。

次に課外活動の指導教員が，人間の素養の涵養に係る教育活動を実施する場合には，教員全員が顧問となって指導に当っている（資料２－２－③－７）。

資料２－２－③－７ クラブ顧問

平成18年度　クラブ顧問・部員一覧

体 育 部

クラブ名	顧問教員（一番左が連絡担当）	部員数
アーチェリー	三木功次郎・本間啓道・山口賢一	２２
合　気　道	多喜正城・石飛 学	7
空　手　道	北村 誠・岩井保善・木村倫幸	１３
弓　　道	鍵本有理・片山悦男・京兼 純・片倉勝己・石丸裕士・谷口幸典	２８
剣　　道	中村善一・福田和広・土井滋貴	２８
硬式野球	酒井史敏・桐川 修・野々垣 稔・平 俊男・勢田勝郭・三木功次郎	４８
サッカー	小山雅史・梅原 忠・多喜正城・山口智浩・松尾賢一・山口賢一・竹村憲太郎	４７
柔　　道	中西茂巳・小畠耕二・小柴 孝	7
少林寺拳法	河越幹男・福嶌克彦	１０
水　　泳	石飛 学・廣 和樹・島岡三義・平 俊男	２１
ソフトテニス	伊月亜有子・西田茂生・泉 生一郎・宇田亮子	３２
卓　　球	飯田賢一・榊原和彦・和田任弘・武田充啓・市原 亮・名倉 誠	３０
テ ニ ス	阪部俊也・大植正敏・嶋田豊司・櫟 弘明・西野 悟	４１
バスケットボール	北川誠之助・中谷武志・片倉勝己・伊月亜有子	３８

バドミントン	谷口幸典・藤井治久・押田至敬・竹村憲太郎	１９
バレーボール	松井良明・守屋雅博・早川恭弘・金澤直志・矢野順彦	９
ハンドボール	大谷真弘・桐島俊之・市原 亮	１７
ラ グ ビ ー	小柴 孝・中西茂巳・井村榮仁・森 弘暢	２０
陸 上 競 技	長瀬 潤・安田智之・坂本雅彦・森 弘暢	１９

文 化 部

か ら く り	宮本止戈雄・堀内泰男・矢野順彦・竹村憲太郎	３９
機械研究会	谷口幸典・平 俊男小畠耕二・櫟 弘明	１０
軽 音 楽	近藤勝也	２８
茶　　道	西田茂生・宇田亮子	１２
将　　棋	勢田勝郭・西野 悟	２２
情報処理研究会	世古 忠・成田紘一・松尾賢一	２０
吹 奏 楽	藤田直幸・名倉 誠・荒金憲一・京兼 純・土井滋貴・島岡三義	５６
美　　術	大矢良哲	８
放　　送	勢田勝郭・榊原和彦・三木功次郎	８

同 好 会

SF 研究会	河越幹男・堀内泰男・	７
化　　学	宇田亮子・石丸裕士・伊月亜有子・西野 悟	２１
クラシック同好会	北川誠之助	９
現代視覚文化研究会	世古 忠	１５
サイエンス研究会	三木功次郎・石丸裕士・北村 誠・名倉 誠	１２
生協学生同好会	大谷真弘・木村倫幸	１１
電気技術同好会	大谷真弘・	１１
料理研究会	伊月亜有子・木村倫幸	１６

（出典　学生課学生係保管資料）

顧問となった指導教員が課外活動を行う時の支援体制は，次の通りであり（資料２－２－③－８），支援の一環としてクラブ顧問会議を開催している（資料２－２－③－９）。

資料２－２－③－８

クラブ顧問への支援体制

１．クラブ顧問会議
２．指導謝金の支給
３．高専大会，対外試合等の支援
４．クラブ活動に必要な備品・設備の支援
５．外部コーチによる支援

６．安全対策に関すること
７．緊急時連絡及び事故発生時の措置に関すること

（出典　学生課学生係保管資料）

資料２－２－③－９　クラブ顧問会議

平成１７年度 クラブ顧問会議 議事要録

平成１７年5月２６日（木）１６時 ー １８時

（議　題）

１．合宿について
２．月間計画表について
３．練習試合について
４．クラブ活動に必要な設備・備品調査について
５．外部コーチ謝金について
６．部室入替について
７．地区大会について
８．クラブ指導謝金及び教員特殊業務手当（講師・助手）について
９．クラブ活動禁止について
10. 部室等の鍵の管理等について
11. 施設・設備の管理について
12. 物品購入について
13. 学生会への支出伝票提出について
14. その他

（出典　学生課学生係作成）

学級担任とクラブ顧問が実施する教育活動を側面から支援する業務は学生課で行っており，学生課の事務分掌を以下に示す（資料２－２－③－10）。

資料２－２－③－10

第２章　組織・運営（学生課の事務分掌のみ掲載）

第７条 学生課の専門職員及び各係は，次の事務をつかさどる。

専 門 職 員（学務担当）

(1)　学生募集及び入学者の選抜に係る専門的事項に関すること。
(2)　専攻科学生の修学指導に係る専門的事項に関すること。
(3)　外国人学生に係る専門的事項に関すること。
(4)　その他学務に係る事務のうち，重要な企画・調査及び連絡調整に関すること。

教 務 係

(1)　学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
(2)　教育課程の編成，授業及び試験に関すること。
(3)　学生の学籍に関すること。

(4)　学生の指導要録その他学生の諸記録の整理保管に関すること。
(5)　教科書及び補助教材に関すること。
(6)　進級及び卒業の認定に関すること。
(7)　学生の身分，成績，卒業等の証明に関すること。
(8)　学生の表彰及び懲戒に関すること。
(9)　学生の校外実習（インターンシップ）及び見学等に関すること。
(10)　外国人留学生に関すること。
(11)　研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(12)　卒業証書及び修了証書等の交付に関すること。
(13)　その他学生課の他係に属しない事項に関すること。

学　生　係

(1)　学生の課外活動に関すること。
(2)　学生の団体に関すること。
(3)　学生の集会，印刷物，掲示に関すること。
(4)　学生の保健衛生及び保健施設の管理運営に関すること。
(5)　奨学生に関すること。
(6)　授業料の免除に関すること。
(7)　学生旅客運賃割引証，通学証明書及び諸証明に関すること。
(8)　学生の就職及びアルバイトに関すること。
(9)　学生相談に関すること。
(10)　その他学生の厚生補導に関すること。

寮　務　係

(1)　学寮の管理運営に関すること。
(2)　寮生の保健衛生並びに栄養管理に関すること。
(3)　寮生の団体，集会等に関すること。
(4)　寄宿料の免除等に関すること。
(5)　学寮における教員の宿日直に関すること。
(6)　その他寮務に関すること。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

学生課の各担当者は，学級担任やクラブ顧問と協力し連携して，例えば専門員や教務係は学生の修学指導面等で，学生係は学生の厚生補導や課外活動等について，寮務係は寮生と留学生の生活指導面等で教育活動が円滑に進められるように支援を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

学級担任制度が整備され，担任が教育活動を実施する場合に，学生指導必携で活動業務がマニュアル化されており，教務委員会を始め各種の支援策が広くなされている。

また本校では課外活動に際し，教員全員がクラブ顧問となって学生の指導に当たると共に，時間外での教育活動を実施する場合，学生委員会や学生課等からの支援体制が整備されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・学科と専攻科は，高専教育のアイデンティティと一貫性を保持しながら，大学の教育課程とは一線を画した高等専門学校の独自性を前面に出し，高専教育の目的に沿って構成されている。

・本校では独立行政法人化に伴って，委員会制度を見直し企画会議と運営会議を導入し，規程により委員構成，役割，責任体制等を明確にしている。毎月定例と臨時で会議を開催し，重要事項等を審議決定し運用を行っている。審議・決定された重要事項等は，一般教科，各専門学科の科内会議や各課で報告がなされ，またホームページにも掲載され全教職員に周知されている。

・一般科目及び専門科目を担当する教員間ネットワークや連携活動は，ワーキング・グループを通して組織的かつ機能的に行われ，各種の提案がなされ，一部は具体的な形となって実施されている。これらの成果は，月例FD等において報告され周知されている。

・学級担任は校務分掌のなかで重要な役割を果たすと共に，担任制度が組織的に確立しており教育活動を実施するに際し，各種の支援策が広くなされている。また本校では課外活動の指導教員が，人間の素養の涵養に係る教育活動を実施する場合に，種々の支援体制が整備されている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準２の自己評価の概要

本校の学科は，機械系，電気系，化学系の３分野５学科（機械工学科・電気工学科・電子制御工学科・情報工学科・物質化学工学科）から構成されている。５学科は共通の学習・教育目標を持って，中学卒業後という早い段階から５年間の一貫した専門職業教育，実験・実習等を重視した実践教育を行っており，産業界や地域からの要請に基づいて設置されている。

専攻科は５学科の上に，機械制御工学専攻，電子情報工学専攻，化学工学専攻の３専攻から構成されており，高専教育のアイデンティティと一貫性を保持し，学校教育法にある「精深な程度において，特別の事項を教授し，その研究を指導する」に準拠しており，教育目的と専攻科の構成には整合性が取れている。

全学的なセンター施設として情報メディア教育センターがある。当該センターは情報処理教育と研究，本校内外への情報提供・収集等共同利用のために必要な支援を行うと共に，学習・教育目標を達成するために必要不可欠な共同利用施設であり，センターの設置は適切なものとなっている。

本校は教育課程全体を企画・立案し調整する検討体制として企画会議がある。企画会議で立案・調整された重要かつ新規事項については，運営会議で審議される。企画・運営会議の他，教育課程を立案・検討し，有効に展開するための体制として教務委員会がある。特に，学生の学籍に係ることは教務委員会及び運営会議の議を経て教職員会議において審議される。企画・運営会議及び教務委員会は，規程により委員構成，役割，責任体制が明確にされており，毎月定例と臨時で会議を開催し，重要事項等を審議・決定して運営を行っている。審議・決定された事項は，ホームページに掲載され，また各学科の科内会議や各課で報告され，全教職員に周知されている。

一般科目及び専門科目を担当する教員間ネットワークや連携活動は，ワーキング・グループを通して組織的かつ機能的に行われ，各種の提案がなされている。提案の一部は，TOEIC試験導入等具体的な形となって実施されている。

学級担任制度は校務分掌のなかで重要な役割を担っており，担任が教育活動を実施する場合，学生

指導必携で活動業務がマニュアル化され，教務委員会を始め各種の支援策がなされている。本校では課外活動に際し，教員全員がクラブ顧問となって学生の指導に当たると共に，時間外においても学生委員会や学生課等からの支援体制が整備されている。

基準３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

平成１７年度における教員（専任）の現員は，校長１名，教授，助教授，講師，助手計８１名，合計８２名である（資料３－１－①－１）。そのうち，一般科目担当教員，主として応用数学，応用物理を担当する専門基礎科目担当教員及び非常勤講師の教員数を示す（資料３－１－①－２）。専任の教員数は，教授１２名，助教授９名，講師４名，合計２５名（専門基礎科目担当教員を含む）であり，非常勤講師数は２３名である。なお，専門基礎科目担当教員３名は，組織上機械工学科に所属しているが，担当科目は，応用数学，応用物理以外に数学，物理も担当している。また，科内会議についても，一般教科の科内会議に出席しているため，本基準では一般科目担当教員とした。一般科目担当教員及び専門基礎担当教員の担当科目は，学校概要（資料３－１－①－３，４）等で広く公開されている。

専任の一般科目担当教員の専門分野等については，本校ホームページ（資料３－１－①－５），奈良高専自己点検・評価報告書（資料３－１－①－６）等で広く公開されており，一般科目担当教員としての専門分野等をまとめて示す（資料３－１－①－７）。一般科目担当教員は，低学年の科目を比較的多く担当しているため教員免許を持つ者が２５名中１７名，高等学校等での教職歴を持つ者２５名中７名と多く，低学年の教育，指導に有効な配置となっている。また，一般科目担当教員が担当する講義科目は，担当教員の専門分野との整合性が見られる（資料３－１－①－７）。理科・数学・化学等の理数系科目担当教員１１名中５名が，博士の学位を持っている。また，専門性が要求される英会話（外国人教員），音楽，美術等は非常勤講師が担当している（資料３－１－①－８）。

授業の実態として，平成１７年度前期及び後期の授業時間割表（資料３－１－①－９）と，教員別授業時間配当表（資料３－１－①－１０）を示す。

（分析結果とその根拠理由）

高等専門学校設置基準第６条２項４号の規定によれば，一般科目を担当する専任者の数は，入学定員に係る学生を５の学級に編制する場合，２２人の専任者の数を下回ってはならないこととなっている。本校の場合，専任者は２５名であるので設置基準を満たしている。また，一般科目担当教員の教員数及び授業担当者としての適性も確保されていることから，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

資料３－１－①－１　教員現員数

組織概要 Organization

現　員 Present Number of Staff

平成17年4月1日現在
As of Apr.1,2005

区　分 Classification	教育職員 Academic Staff						事務職員 Administrative Staff	合計 Total
	校　長 President	教　授 Professor	助教授 Associate Professor	講師 Assistant Professor	助手 Research Associate	計 Total		
現　員 Present Number	1	36	26	10	9	82	51	133

組織図 Organization Chart

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－①－２　平成１７年度　一般科目担当教員数（専門基礎科目，非常勤を含む）

一般科目

	国語	倫理・哲学	政治・経済	歴史	地理	数学	物理	化学	生物	保健体育	美術	音楽	英語	ドイツ語	合計
教員数(専任)	3	1	0	1	0	5	2	1	0	3	0	0	5	1	22
教授	1	1		1		2	1	0		0			3	1	10
助教授	2	0		0		1	1	0		2			2	0	8
講師	0	0		0		2	0	1		1			0	0	4
教員数(非常勤)	2	1	3	2	1	2	0	1	1	1	1	1	3	1	20
教員数															42

専門基礎科目

	応用数学系	応用物理系	合計
教員数(専任)	2	1	3
教授	1	1	2
助教授	1	0	1
講師	0	0	0
教員数(非常勤)	2	1	3
教員数			6

（出典　教員別授業時間配当表（学生課教務係作成）等から集計）

資料３－１－①－３　一般科目担当教員

教員及び担当科目 Academic Staff and Subject in Their Charge

職名 Title	氏名 Name	担当科目　【専攻科】 Subjects【Faculty of Advanced Engineering】	備考 Note
教授(文博) Professor Dr.Lit.	勢田勝郭 SETA,Katsuhiro	国語Ⅰ Japanese I 【日本文学概説】 Outline of Japanese Literature	
教授 Professor	木村倫幸 KIMURA,Tsuneyuki	人文科学総合 Human Science 哲学 Philosophy	情報メディア教育センター長 Director of the Center for Multimedia Aided Education
教授 Professor	大矢良哲 OHYA,Yoshiaki	地理 Geography 歴史 History 【人間学概論】 An Introduction to Humanistic	2C 学級担任 2C Homeroom Teacher
教授 Professor	北川誠之助 KITAGAWA,Seinosuke	数学α Mathematics α 代数・幾何Ⅰ Algebra and Geometry I	1E 学級担任 1E Homeroom Teacher
教授 Professor	荒金憲一 ARAGANE,Kenichi	代数・幾何Ⅱ Algebra and Geometry II 微分積分Ⅰ,Ⅱ Calculus I,II 【基礎数理】 Applied Mathematics	一般教科主任 Chief of the Liberal Studies Division
教授 Professor	堀内泰男 HORIUCHI,Yasuo	物理 Physics 物理Ⅰ Physics I 【科学と数理】 Mathematical Sciences	一般教科副主任 Sub-Chief of the Liberal Studies Division 2M 学級担任 2M Homeroom Teacher
教授 Professor	守屋雅博 MORIYA,Masahiro	英語Ⅰ English I 英会話Ⅰ English Conversation I	1I 学級担任 1I Homeroom Teacher
教授 Professor	片山悦男 KATAYAMA,Etsuo	英語 English 選択英語Ⅰ English I(Elective)	
教授 Professor	桐川修 KIRIKAWA,Osamu	独語 German 【ドイツ語】 German	寮務主事 Dean of Dormitory Affairs
教授 Professor	神澤和明 KAMIZAWA,Kazuaki	英語 English 選択英語Ⅰ English I(Elective)	
助教授 Associate Professor	武田充啓 TAKEDA,Mitsuhiro	国語 Japanese 【比較現代文化論】 Views on Comparative Modern Cultures	図書担当副センター長 Sub-Director of the Library Committee
助教授 Associate Professor	市原亮 ICHIHARA,Ryou	微分積分Ⅰ,Ⅱ Calculus I,II 応用数学α Applied Mathematics α 【基礎数理】 Applied Mathematics 【解析数理】 Analytical Mathematics	4S 学級担任 4S Homeroom Teacher
助教授(理博) Associate Professor Dr.Sci.	榊原和彦 SAKAKIBARA,Kazuhiko	物理 Physics 応用物理 Advanced Physics 【統計力学】 Statistical Mechanics	ネットワーク管理室副室長 Sub-Director if the Network Administration Office
助教授 Associate Professor	中西茂巳 NAKANISHI,Shigemi	保健・体育 Health and Physical Education 保健・体育Ⅰ Health and Physical Education I 【スポーツ・トレーニング特論】 Sport Training Method	4E 学級担任 4E Homeroom Teacher
助教授 Associate Professor	松井良明 MATSUI,Yoshiaki	保健・体育 Health and Physical Education	
助教授 Associate Professor	金澤直志 KANAZAWA,Naoshi	英語 English 選択英語Ⅰ English I(Elective) 【英語表現法Ⅰ】 English Expression I	教務主事補 Vice-Dean of Educational Affairs
助教授(文博) Associate Professor Dr.Lit.	鍵本有理 KAGIMOTO,Yuri	国語 Japanese 人文科学総合 Human Science	学生主事補 Vice-Dean of Student Affairs
助教授(文博) Associate Professor Dr.Lit.	高橋美帆 TAKAHASHI,Miho	英語 English 英会話Ⅰ English Conversation I 【英語表現法Ⅱ】 English Expression II	
講師 Assistant Professor	森弘暢 MORI,Hironobu	保健・体育 Health and Physical Education 保健・体育Ⅰ Health and Physical Education I	3C 学級担任 3C Homeroom Teacher
講師(理博) Assistant Professor Dr.Sci.	長瀬潤 NAGASE,Hiroshi	数学α,β Mathematics α,β 微分積分Ⅰ Calculus I	1S 学級担任 1S Homeroom Teacher
講師(工博) Assistant Professor Dr.Eng.	北村誠 KITAMURA,Makoto	化学 Chemistry 化学Ⅰ Chemistry I	寮務主事補 Vice-Dean of Dormitory Affairs
講師(数博) Assistant Professor Dr.Mat.	名倉誠 NAGURA,Makoto	数学α,β Mathematics α,β	

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－①－４　専門基礎科目・専門科目（機械工学）担当教員

教員及び担当科目 Academic Staff and Subject in Their Charge

職　名 Title	氏　名 Name	担当科目　【専攻科】 Subjects【Faculty of Advanced Engineering】	備　考 Note
教授（工博） Professor Dr.Eng.	岩 井 保 善 IWAI,Yasuyoshi	材料力学 Mechanical of Materials 材料工学特論 Engineering of Materials 基礎材料学 Basic Mechanical Metallurgy 材料強度学 Mechanical Metallurgy 新素材論 New Engineering Materials 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 【新材料特論】 New Engineering Materials 【機械制御工学特別実験 LII】 Advanced Experiments of Mechanical and Control Engineering LII	機械工学科主任 Chief of the Department of Mechanical Engineering 5M 学級担任 5M Homeroom Teacher 学生相談室員 Counselor
教授（工博） Professor Dr.Eng.	小 畠 耕 二 KOBATAKE,Koji	機械工作法 Mechanical Technology 機械工作実習 Workshop Practice 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 学外実習 Internship 【生産加工学】 Production Technology	産学交流室長 Director of the Interchange between Industry and the Academic
教授（工博） Professor Dr.Eng.	矢 尾 匡 永 YAO,Masanori	熱工学 Thermodynamics 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 【計算機力学】 Computational Dynamics	学生主事 Dean of Student Affairs
教授（工博） Professor Dr.Eng.	和 田 任 弘 WADA,Tadahiro	機械工作法 Mechanical Technology 機械工作実習 Workshop Practice 機械設計製図 Machine Design Drawing 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 【精密加工学】 Precision Machining	産学交流室副室長 Sub-Director of the Interchange between Industry and the Academic 専攻科副主任 Sub-Chief of the Faculty Advance Engineering
教授（工博） Professor Dr.Eng.	野々垣　稔 NONOGAKI,Minoru	設計工学 Advanced Machine Design and Drawing 機械設計製図 Machine Design Drawing 機械工学特論 Exercise of Mechanical Engineering メカトロニクス Mechatronics 【トライボロジー】 Tribology	機械工学科副主任 Sub-Chief of the Department of Mechanical Engineering
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	小 柴　孝 KOSHIBA,Takashi	工業数学 Engineering Mathematics 機械工学入門 Introduction to Mechanical Engineering エネルギ基礎力学 Basic Mechanics 振動工学 Vibration Engineering 制御工学 Control Engineering 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 【連続体力学】 Continuum Mechanics	4M 学級担任 4M Homeroom Teacher
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	坂 本 雅 彦 SAKAMOTO,Masahiko	工業外国語 Technical English 流体工学 Mechanics of Fluids 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 【実用技術英語】 Practical English for Advanced Mechanical Engineering 【連続体力学】 Continuum Mechanics	学生主事補 Vice-Dean of Student Affairs
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng	平　俊 男 HIRA,Toshio	生産システム工学 Engineering of Production System 情報処理 Information Processing 数値解析 Numerical Analysis 創造設計製作 Mechanical Design and Production 設計工学演習 Design Engineering Exercises 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering 【機械制御工学概論】 Mechanical and Control Engineering	
講　師 Assistant Professor	廣　和 樹 HIRO,Kazuki	情報処理 Information Processing 創造設計製作 Mechanical Design and Production 計測工学 Measurement Engineering 電気工学 Electric Engineering 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering	1M 学級担任 1M Homeroom Teacher
助手（工博） Research Associate Dr.Eng.	酒 井 史 敏 SAKAI,Fumitoshi	制御工学 Control Engineering 電気工学 Electric Engineering 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering	
助手（工博） Research Associate	谷 口 幸 典 TANIGUCHI,Yukinori	基礎材料学 Basic Mechanical Metallurgy 材料強度学 Mechanical Metallurgy 新素材論 New Engineering Materials 機械工作実習 Workshop Practice 機械工学実験 Experiment of Mechanical Engineering	

専門基礎 Foundation for Specialized Subjects

教　授 professor	宮 本 止戈雄 MIYAMOTO,Shikao	物理 Physics 応用物理 Advanced Physics 【物理学特論】 Basic Concept of Physics	3M 学級担任 3M Homeroom Teacher
教　授 professor	福 嶌 克 彦 FUKUSHIMA,Katsuhiko	応用数学α,β Applied Mathematics α,β	学生相談室長 Counselor
助教授（理博） Associate Professor Dr.Sci.	安 田 智 之 YASUDA,Tomoyuki	微分積分II Calculus II 代数・幾何II Algebra and Geometry II 応用数学α Applied Mathematics α 【解析数理】 Analytical Mathematics	4I 学級担任 4I Homeroom Teacher

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－①－５　一般科目担当教員の専門分野等（奈良高専ホームページ）

（出典　奈良高専ホームページ）

資料３－１－①－６　一般科目担当教員の専門分野等（自己点検・評価報告書）

勢田　勝郭

一般教科・教　授　　博士（文学）

【学位論文題目】　連歌とその式目作法についての新研究
【専門分野】　中世国文学（連歌）
【所属学協会】　中世文学会，俳文学会
【著書・研究論文等の発表件数（H12～16 年度）】

著書	学術論文（査読付）	解説等	国内学会口頭発表	国際会議 proceedings	研究紀要	技術等相談（平成 16 年度）
2	1	0	1	0	1	0

【シンポジウム・講習会・講座等での講演件数（H12～16 年度）】

奈良工業高等専門学校公開講座	2
大和郡山市元気城下町クラブ	1
ＮＰＯ法人やまと新発見の会設立記念フォーラム	1

【平成 12～16 年度の論文等】（原則として，著書，学術論文等とする）
・連歌，和歌，俳諧　検索システム　KEIKOⅡ，国際日本文化研究センター，2002 発行.
・連歌研究支援用例検索システム「Ｋｅｉｋｏ Ⅱ－Ｒ」，文学第３巻・第５号，2002，p. 136.
・中世日記紀行文学全評釈集成・第７巻，勉誠社，2004 発行

木村　倫幸

一般教科・教　授　　文学修士

【学位論文題目】　ヘーゲルの Sittlichkeit について
【専門分野】　倫理学
【所属学協会】　関西倫理学会
【著書・研究論文等の発表件数（H12～16 年度）】

著書	学術論文（査読付）	解説等	国内学会口頭発表	国際会議 proceedings	研究紀要	技術等相談（平成 16 年度）
1	0	19	0	0	5	0

【シンポジウム・講習会・講座等での講演件数（H12～16 年度）】

大阪哲学学校	6

【平成 12～16 年度の論文等】
・鵜見俊輔の家族論について，奈良高専研究紀要，35，2000，p. 124.
・哲学・倫理学概論，学術図書出版社，初版，2001 発行.
・鵜見俊輔のプラグマティズムについて，奈良高専研究紀要，36，2001，p. 152.
・鵜見俊輔と戦後日本民主主義の諸問題，奈良高専研究紀要，37，2002，p. 136.
・鵜見俊輔と「日本のアイデンティティー」の諸問題，奈良高専研究紀要，38，2003，p. 132.
・鵜見俊輔の視点から近代日本社会の意識を考える――戦争責任の問題をめぐって，

－ 35 －

（出典　自己点検・評価報告書（平成１７年１０月発行）

資料３－１－①－７　一般科目・専門基礎科目担当教員の専門分野等（専任教員）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　一般教科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－①－７　一般科目・専門基礎科目担当教員の専門分野等（専任教員）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　一般教科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－①－８　一般科目担当教員の専門分野等（非常勤講師）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　一般教科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－①－９　平成１７年度授業時間割（前期）

平成17年度　前期

月

学年	学科	1 9:00-9:45	2 9:50-10:35	3 10:40-11:25	4 11:30-12:15	5 13:00-13:45	6 13:50-14:35	7 14:40-15:25	8 15:30-16:15
一学年	M	数学α（北川）		英会話Ⅰ（鎌田）	国語Ⅰ（勢田）	機械工作実習Ⅰ（和田・谷口）			
一学年	E	英語Ⅰ（神澤）		保体Ⅰ（森・中西）		数学α（北川）			
一学年	S	数学α（長瀬）		英語Ⅰ（神澤）		電気回（望月）			
一学年	I	国語Ⅰ（勢田）		英語Ⅰ（守屋）		保体Ⅰ（中西・森）			
一学年	C	化学演習Ⅰ（大植）		化学（三木）		保体Ⅰ（森・中西）			
二学年	M	代幾Ⅰ（庄田）		メカトロ（野々垣）		物理（堀内）		機工法（小島）	
二学年	E	国語（武田）		代幾Ⅰ（庄田）		交理演（桐島）	電磁演（[illegible]）	交理Ⅰ（中村）	
二学年	S	英語（鎌田）		電制実験（西田・矢野）		材加工（島岡）			
二学年	I	ディジ回（松尾）		国語（武田）		情報実験（山口智・松尾・松村）			
二学年	C	歴史（大矢）		無機（石丸）		英語（片山）			
三学年	M	エネ基礎（小柴）		材力（岩井）		機械製図（野々垣）			
三学年	E	国語（鍵本）		微積Ⅱ（荒金）		英語（高橋）		電磁Ⅱ（成田）	
三学年	S	電工（阪部・矢野）		応物（宮本）		電制実験（中田・早川・山本）			
三学年	I	プロⅡ（小山）		微積Ⅱ（安田）		電磁（栗本）			
三学年	C	基化（梅原）		保体（中西・森）		微積Ⅱ（市原）		無機（石丸）	
四学年	M	工外（坂本）		新素材（岩井・谷口）		材力（岩井）		流体工（坂本）	
四学年	E	応物（宮本）		人文（鍵本）		電気実験（京兼・藤井・土井・藤田・大谷）			
四学年	S	電磁気（飯田・山本）		応数β（福嶌）		流体力（福田）			
四学年	I	制御（近藤）		計アーキ（本間）		人文（鍵本）			
四学年	C	拡単（河越）		工外（宮田）		［選］機単（新居田） ［選］生機能（南浦）		構造解（片倉）	
五学年	M	制御（小柴・酒井）		［選］エネエ（松本）		熱工学（矢尾）		［選］経済学（大谷和）	
五学年	E	電気実験（全教員）				［選］経済学（大谷和）			
五学年	S	ロボティ（早川）		現代制（栗本）		［選］経済学（大谷和）		応力演（島岡）	
五学年	I	計ネット（本間）		数解（浅井）		［選］パターン（安室）		［選］経済学（大谷和）	
五学年	C	物科概（宮田英）		［選］プロ製図（中谷） ［選］細胞（河村）		［選］経済学（大谷和）		化工演（河越）	

火

学年	学科	1 9:00-9:45	2 9:50-10:35	3 10:40-11:25	4 11:30-12:15	5 13:00-13:45	6 13:50-14:35	7 14:40-15:25	8 15:30-16:15
一学年	M	英語Ⅰ（守屋）		音楽（荒巻）		数学β（名倉）		化学Ⅰ（土岐）	
一学年	E	国語Ⅰ（勢田）	情処理（桐島）	数学β（名倉）		英会話Ⅰ（守屋）	化学Ⅰ（土岐）		
一学年	S	物理Ⅰ（堀内）		国語Ⅰ（勢田）	化学Ⅰ（北村）	音楽（荒巻）		英会話Ⅰ（守屋）	
一学年	I	英会話Ⅰ（高橋）	国語Ⅰ（勢田）	物理Ⅰ（堀内）		地理（角）			
一学年	C	基礎製図（中谷・西野）		英語Ⅰ（守屋）		地理（大矢）		国語Ⅰ（八木）	英会話Ⅰ（高橋）
二学年	M	英語（片山）		保体（竹村・森）		基材（岩井・谷口）	機械工作実習（小島）		
二学年	E	英語（神澤）		保体（森・竹村）		微積Ⅰ（長瀬）			
二学年	S	化学（北村）		微積Ⅰ（市原）		保体（竹村・森）			
二学年	I	微積Ⅰ（市原）		英語（片山）		保体（森・竹村）		国語（中西潔）	
二学年	C	分析（三木）		微積Ⅰ（荒金）		物理（榊原）	国語（八木）		
三学年	M	微積Ⅱ（安田）		政経（三浦）		歴史（吉井）		情処理（平）	
三学年	E	歴史（吉井）		電子（藤田）		交理演（桐島）	電気実験（井村・桐島・大谷・石飛）		
三学年	S	微積Ⅱ（荒金）		歴史（吉井）		国語（中西潔）		計測工（押田）	
三学年	I	国語（鍵本）		政経（西村）		グラフ（多喜）			
三学年	C	有機（宇田）		国語（鍵本）		政経（西村）		英会話（リンク）	
四学年	M		機械工学実験（菅井・矢尾・坂本・平・廣・酒井・谷口）			電子工（中川）		独語（北原）	英会話（リンク）
四学年	E	電子回（大谷）		保体（松井）		英会話（リンク）	独語（北原）	電材（京兼）	
四学年	S		電制実験（阪部・今田・押田・福田・島岡）			独語（北原）	英会話（リンク）	材力（島岡）	
四学年	I	応物（榊原）		英会話（リンク）	独語（北原）	計言語（小山）		回理Ⅱ（近藤）	
四学年	C	英会話（リンク）	独語（北原）	［選］機能有（宇田） ［選］基生化（直江）		保体（松井）			
五学年	M	［選］工数（小柴）		哲学（木村）		生産（平）		保体（中西）	
五学年	E	哲学（木村）		［選］電力応（井村） ［選］信号（桐島）		エネ変（藤井）		保体（森）	
五学年	S	応シス設（富田）		信号処理（西田）		工外（福田）	電制実験（早川・西田・槇・矢野・山本）		
五学年	I	工外（全教員）	情報実験（全教員）			信号（松尾）		集回（世古・山口賢）	
五学年	C	機器分（大植）		環境（瓦家）		［選］化学応用工学実験（泉・梅原・大植・中谷・片倉・石丸・嶋田・西野） ［選］生物化学工学実験（河越・三木・直江・宇田・伊月）			

水

学年	学科	1 9:00-9:45	2 9:50-10:35	3 10:40-11:25	4 11:30-12:15	5 13:00-13:45	6 13:50-14:35	7 14:40-15:25	8 15:30-16:15
一学年	M	化学Ⅰ（土岐）		地理（角）		数学α（北川）			
一学年	E	電気製図（富田）		化学Ⅰ（土岐）		地理（角）			
一学年	S	地理（角）		国語Ⅰ（勢田）		電制実験（押田・島岡・山本）			
一学年	I	数学β（長瀬）		基礎電（近藤）		化学Ⅰ（北村）			
一学年	C	国語Ⅰ（勢田）		数学α（名倉）		化学（三木）			
二学年	M	情処理（廣）		微積Ⅰ（長瀬）		歴史（大矢）			
二学年	E	コンピュータ（桐島）		物理（榊原）		微積Ⅰ（長瀬）			
二学年	S	物理（宮本）	基礎製図（中田）			電気回（栗本）		歴史（大矢）	
二学年	I	歴史（大矢）		論数（多喜）		物理（榊原）			
二学年	C	有機（宇田）		微積Ⅰ（荒金）		物質化学工学実験（大植・嶋田・宇田）			
三学年	M	機工法（和田）		保体（中西・松井）		設計製作（平・廣）			
三学年	E	政経（三浦）		計測（宮田）		プログラ（土井）			
三学年	S	電磁気（飯田・山本）		政経（三浦）		プログラ（槇）			
三学年	I	論回（世古）		保体（松井・中西）		英語（高橋）			
三学年	C	生化（直江）		分析（三木）		物化（泉）			
四学年	M	応数β（斉藤）		設計工（野々垣）		熱工学（矢尾）		英語（金澤）	
四学年	E	応数β（山本亮）		電機設（富田）		通信（成田）			
四学年	S	工数（西田）		電子回（小西）		応物（宮本）		熱力学（中田）	
四学年	I	電回（浅井）		応数β（山本亮）		情報工学実験（上田・近藤・世古・多喜・浅井）			
四学年	C	応物（榊原）		応数β（斉藤）		物質化学工学実験（河越・直江・西野）			
五学年	M	流工（加納）		［選］電制工（栗本）		［選］法学（大井）		設工演（菅原）	
五学年	E	制御（宮田）		［選］法学（大井）		電力系（野尻）		法設（上垣）	
五学年	S	情報伝（槇）		保体（森）		［選］法学（大井）		制御（阪部）	
五学年	I	システム（岸）		［選］法学（大井）		保体（中西）		哲学（木村）	
五学年	C	［選］高分子（稲木） ［選］分子（河越・伊月）		［選］法学（大井）		哲学（木村）		保体（中西）	

木

学年	学科	1 9:00-9:45	2 9:50-10:35	3 10:40-11:25	4 11:30-12:15	5 13:00-13:45	6 13:50-14:35	7 14:40-15:25	8 15:30-16:15
一学年	M	国語Ⅰ（勢田）		物理Ⅰ（堀内）		保体（森・中西）		特活（廣）	
一学年	E	英語Ⅰ（神澤）		国語Ⅰ（勢田）		美術（森本）		特活（北川）	
一学年	S	数学α（長瀬）		化学Ⅰ（北村）		保体（中西・森）		特活（長瀬）	
一学年	I	数学α（名倉）		美術（森本）		英語Ⅰ（守屋）		特活（守屋）	
一学年	C	美術（森本）		数学β（池永）		物理Ⅰ（堀内）		特活（三木）	
二学年	M	国語（武田）		機械製図（扇田）		微積Ⅰ（長瀬）		特活（堀内）	
二学年	E	歴史（大矢）		英語（神澤）		化学（北村）		特活（桐島）	
二学年	S	代幾Ⅰ（北川）		国語（武田）		物理（宮本）		特活（押田）	
二学年	I	化学（北村）		英語（片山）		代幾Ⅰ（北川）		特活（本間）	
二学年	C	英語（片山）		保体（森・松井）		物理（榊原）		特活（大矢）	
三学年	M	国語（鍵本）		英語（高橋）		代幾Ⅱ（池永）		特活（宮本）	
三学年	E	微積Ⅱ（荒金）		保体（中西・森）		応物（堀内健）		特活（成田）	
三学年	S	英語（高橋）		保体（松井・中西）		微積Ⅱ（荒金）		特活（西田）	
三学年	I	微積Ⅱ（安田）		応物（堀内健）		歴史（比佐）		特活（多喜）	
三学年	C	微積Ⅱ（市原）		歴史（比佐）		英語（高橋）		特活（森）	
四学年	M	応物（宮本）		人文（鍵本）		保体（松井）			
四学年	E	応数α（福嶌）		英語（金澤）		独語（桐川）			
四学年	S	人文（木村）		独語（桐川）		応数α（市原）			
四学年	I	独語（桐川）		応数α（安田）		英語（金澤）			
四学年	C	英語（金澤）		人文（木村）		応数α（福嶌）			
五学年	M	卒研							
五学年	E	卒研							
五学年	S	卒研							
五学年	I	卒研							
五学年	C	卒研							

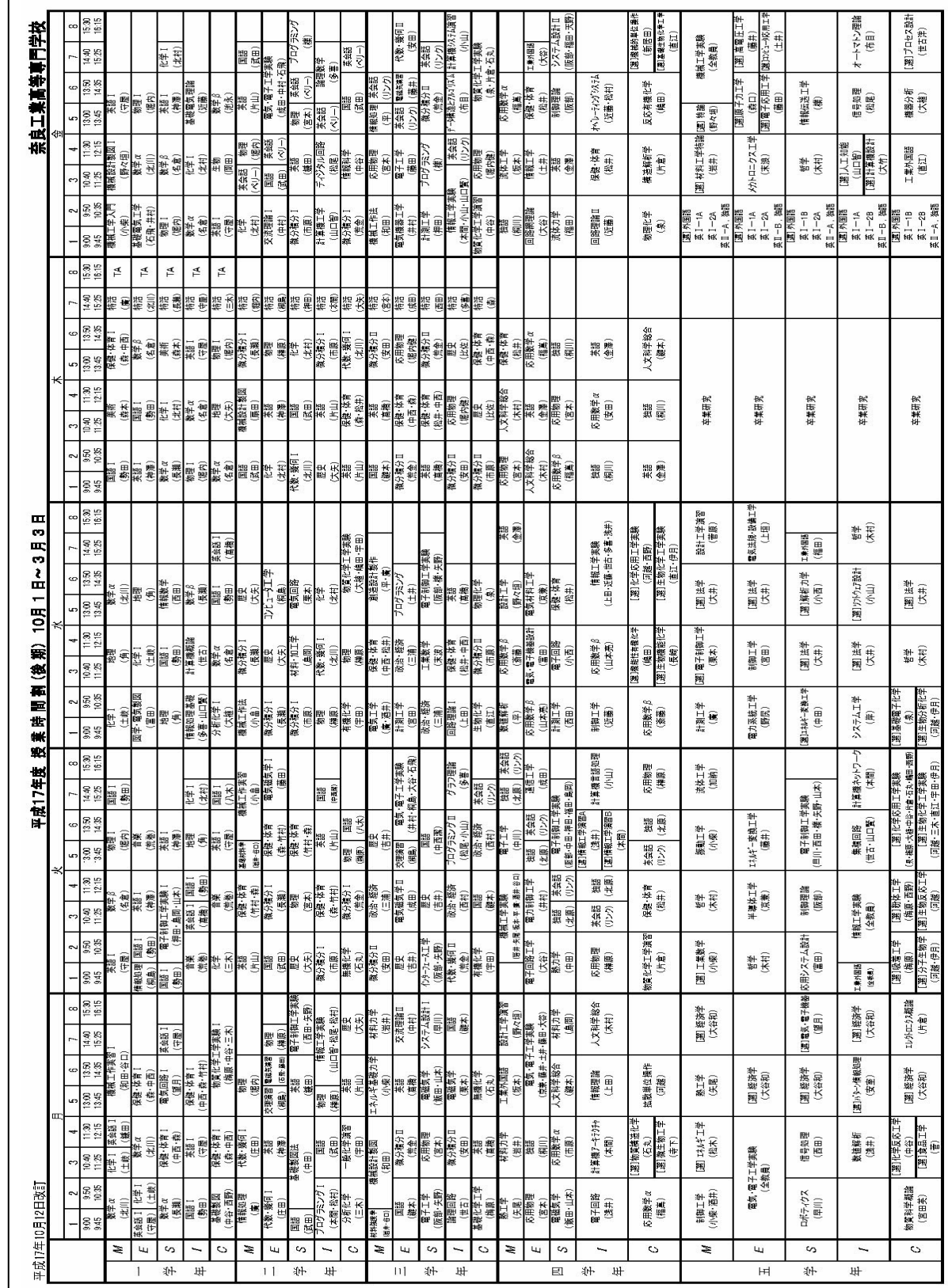
金

学年	学科	1 9:00-9:45	2 9:50-10:35	3 10:40-11:25	4 11:30-12:15	5 13:00-13:45	6 13:50-14:35	7 14:40-15:25	8 15:30-16:15
一学年	M	機械製図Ⅰ（野々垣）		機入門（小柴）		英語Ⅰ（守屋）			
一学年	E	基電工（石飛・井村）		数学α（北川）		物理Ⅰ（堀内）			
一学年	S	数学β（名倉）		英語Ⅰ（神澤）		電制概（早川）			
一学年	I	計概論（世古）		数学α（名倉）		情基礎（多喜・山口賢）		化学Ⅰ（北村）	
一学年	C	英語Ⅰ（守屋）		生物（岡田）		数学α（名倉）			
二学年	M	化学（北村）		英会話（ペリー）	物理（堀内）	英語（片山）		国語（武田）	
二学年	E	物理（榊原）	国語（武田）	電磁Ⅰ（藤田）		英会話（ペリー）	電気実験（成田・中村・石飛）		
二学年	S	微積Ⅰ（市原）		英語（鎌田）		国語（武田）	英会話（ペリー）	プログラ（槇）	
二学年	I	計工学（山口智）		物理（榊原）	英会話（ペリー）	微積Ⅰ（市原）		プロⅠ（本間・松村）	
二学年	C	代幾Ⅰ（北川）		国語（武田）		情報（中谷）		英会話（ペリー）	
三学年	M	電気工（廣・酒井）		微積Ⅱ（安田）		材強（岩井・谷口）	英会話（リンク）	応物（宮本）	
三学年	E	電機器（井村）		交理Ⅱ（中村）		英会話（リンク）	電磁演（藤井）		
三学年	S	シス設Ⅰ（早川）		インター（阪部・矢野）		代幾Ⅱ（安田）		英会話（リンク）	
三学年	I	情報実験（本間・小山・山口賢）			英会話（リンク）	データ（布目）		回理Ⅰ（上田）	
三学年	C	代幾Ⅱ（安田）		応物（堀内健）		物質化学工学実験（泉・片倉・石丸）			
四学年	M	独語（桐川）		設工演（平）		応数α（福嶌）			
四学年	E	回理（大谷）		情工学（土井）		電力制（井村）		工外（大谷）	
四学年	S	制御（阪部）		英語（金澤）		保体（松井）		シス設Ⅱ（阪部・福田・天野）	
四学年	I	情理（上田）		保体（松井）		オペシス（近藤・松村）			
四学年	C	物化（泉）		［選］物質構造（石丸） ［選］微生物（寺下）		反応有（嶋田）		独語（桐川）	
五学年	M	［選］外国語 英Ⅰ－1A 英Ⅰ－2A 英Ⅱ－A，独語		［選］材工特（岩井）		［選］工学特（野々垣）	機械工学実験（小島・矢尾・和田・野々垣・小柴・坂本・平・廣・酒井・谷口）		
五学年	E	［選］外国語 英Ⅰ－1A 英Ⅰ－2A 英Ⅱ－B，独語		メカトロ（末浪）		半導体（藤田）		［選］高電圧（藤井） ［選］コン応用（土井）	
五学年	S	［選］外国語 英Ⅰ－1B 英Ⅰ－2A 英Ⅱ－A，独語		哲学（木村）		［選］数値解（福田）		システム（押田）	
五学年	I	［選］外国語 英Ⅰ－1A 英Ⅰ－2B 英Ⅱ－B，独語		［選］人口知（山口智） ［選］計設計（大竹）		［選］ソフ設（小山）		オートマ（布目）	
五学年	C	［選］外国語 英Ⅰ－1B 英Ⅰ－2B 英Ⅱ－A，独語		［選］プロ設計（世古洋）		［選］反応（梅原）		プロ制御（中谷）	

（注）第5学年選択科目の外国語担当者：英語Ⅰ－1（A）神澤（5E教室），英語Ⅰ－1（B）片山（選択教室5），英語Ⅰ－2（A）鎌田（LL教室），英語Ⅰ－2（B）金澤（情報処理演習室），
英語Ⅱ（A）リンク（5M教室），英語Ⅱ（B）ペリー（LR教室），独語　北原（マルチメディア演習室）

（出典　平成１７年度授業時間割（前期））

資料３－１－①－９　平成１７年度授業時間割（後期）



（出典　平成１７年度授業時間割（後期））

資料３－１－①－１０　教員別授業時間配当表（平成１７年度前期分）

一般教科　　教員別授業時間配当表（平成１７年度前期分）　　NO. 1

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
勝田　勝郎	国語Ⅰ 1I			国語Ⅰ 1M					国語Ⅰ 1E	国語Ⅰ 1I	国語Ⅰ 1S		日文概 専2				国語Ⅰ 1C		国語Ⅰ 1S						国語Ⅰ 1M	国語Ⅰ 1E														
武田　光彌	国語 2E		国語 2I										現代 専1												国語 2M	国語 2S							国語 2E		国語 2C		国語 2S		国語 2M	
舘本　有輝	国語 3E		人文 4E		人文 4I				国語 3I		国語 3C														国語 3M		人文 4M													
（非）中西　潔											日本語 留学生		国語 3S		国語 2I																									
（非）八木　浩美														国語 2C	国語Ⅰ 1C																									
木村　倫幸									哲学 5E		哲学 5M		現代 専1								哲学 5C		哲学 5I		人文 4S		人文 4C							哲学 5S						
大矢　良哲	歴史 2C												地理 1C				歴史 2I				歴史 2M		歴史 2S		歴史 2E				特活 2C											
（非）大谷　和					経済学 5ESC		経済学 5MI																																	
（非）西村　高宏											政経 3I		政経 3C																											
（非）三浦　隆宏											政経 3M						政経 3E		政経 3S																					
（非）太井　哲郎																			法学 5EIC		法学 5MS																			
（非）吉井　武史									歴史 3E		歴史 3S		歴史 3M																											
（非）辻隆　篤																											歴史 3C		歴史 3I											
（非）角　真明													地理 1I				地理 1S		地理 1M		地理 1E																			
北川　誠之助	数学α 1M				数学α 1E																数学α 1M				代数Ⅰ 2S				代数Ⅰ 2I	特活 1E		代数Ⅰ 2C		数学α 1E					
宍倉　康一			情報Ⅱ 3E		基数 専1				情報Ⅱ 3S		情報Ⅰ 2C								情報Ⅰ 2C						情報Ⅱ 3E				情報Ⅱ 3S											
市原　亮					情報Ⅱ 3C				情報Ⅰ 2I		情報Ⅰ 2S														情報Ⅱ 3C				応数α 4S				情報Ⅰ 2S			情報Ⅰ 2I				
安田　智之			情報Ⅱ 3I						情報Ⅱ 3M																情報Ⅱ 3I		応数α 4I						代数Ⅱ 3C		情報Ⅱ 3M		代数Ⅱ 3S			
長瀬　潤	数学α 1S												情報Ⅰ 2E				数学β 1I		情報Ⅰ 2M		情報Ⅰ 2E				数学α 1S				情報Ⅰ 2M	特活 1S									
名倉　誠											数学β 1E		数学β 1M						数学α 1C						数学α 1I								数学β 1S		数学α 1I		数学α 1C			
福真　克彦			応数β 4S																						応数α 4E				応数α 4C								応数α 4M			
（非）池永　朝吾																											数学β 1C		代数Ⅱ 3M											
（非）目田　悠代	代数Ⅰ 2M		代数Ⅰ 2E																																					
（非）斉藤　雄夫																	応数β 4M		応数β 4C																					
（非）山本　浩介																	応数β 4E		応数β 4I																					

一般教科　　教員別授業時間配当表（平成１７年度前期分）　　NO. 2

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
宮本　止文雄	応物 4E		応物 3S														物理 2S				応物 4S				応物 4M				物理 2M		特活 3M								応物 3M	
堀内　泰男					物理 2M				物理Ⅰ 1I		物理Ⅰ 1I																物理Ⅰ 1M		物理Ⅰ 1C		特活 2M		科学 専1			物理 2M		物理Ⅰ 1E			
神原　和彦									応物 4I				物理 2C				応物 4C		物理 2E		物理 2I								物理 2C				物理 2E		物理 2I				統計 専2	
（非）堀内　健																											応物 3I		応物 3E						応物 3C					
北村　誠									化学 2S			化学Ⅰ 1S									化学Ⅰ 1I				化学 2I		化学Ⅰ 1S		化学 2E				化学 2M					化学Ⅰ 1I		
（非）土居　浩														化学Ⅰ 1E	化学Ⅰ 1M		化学Ⅰ 1M		化学Ⅰ 1E		基化 専1																			
（非）岡田　恒栄																																			生物 1C						
中西　淑巳			保体 3C	保体Ⅰ 1E	保体Ⅰ 1I	1C									保体 5M				保体 3M	3I	保体 5I		保体 5C			保体 3E	3S	保体Ⅰ 1S	1M										
松井　良明											保体 4E		保体 4C						保体 3I	3M							保体 3S	2C	保体 4M						保体 4I		保体 4S			
森　保幡			保体Ⅰ 1E	保体 3C	保体Ⅰ 1C	1I					保体 2E	2M	保体 2I	2S	保体 5E				保体 5S								保体 2C	3E	保体Ⅰ 1M	1S	特活 3C										
（非）竹村　匡弘											保体 2M	2E	保体 2S	2I																										
（非）森本　兼司																									美術 1C		美術 1I		美術 1E											
（非）宮巻　暁代											音楽 1M		音楽 1S																											
守屋　雅博			英語Ⅰ 1I						英語Ⅰ 1M		英語Ⅰ 1C		英会話Ⅰ 1E		英会話Ⅰ 1S														特活 1I				英語Ⅰ 1C			英語Ⅰ 1M			
片山　悦男					英語 2C				英語 2M		英語 2I														英語 2C		英語 2I						英Ⅰ－1B 5SC			英語 2M			
神澤　和明	英語Ⅰ 1E		英語Ⅰ 1S						英語 2E														英語 2I		英語Ⅰ 1E		英語 2E						英Ⅰ－1A 5ME		英語Ⅰ 1S					
倉澤　直志											英表現Ⅰ 専1												英語 4M		英語 4C		英語 4E		英語 4I				英Ⅰ－2B 5IC		英語 4S					
高橋　美帆					英語 3E				英会話Ⅰ 1I							英会話Ⅰ 1C	英表現 専2				英語 3I				英語 3S		英語 3M		英語 3C											
（非）畑田　道枝			英語 2S	英会話Ⅰ 1M																													英Ⅰ－2A 5MES		英語 2S					
（非）リンク									英会話 4C		英会話 4I		英会話 4E	英会話 4S	英会話 3C	英会話 4M																	英Ⅱ－A 5MSC		英会話 3I	英会話 3E	英会話 3M	英会話 3S		
（非）ベリー																																	英Ⅱ－B 5EI	英会話 2M	英会話 2I	英会話 2E	英会話 2S	英会話 2C		
相田　修																	物語 専1								物語 4I				物語 4S		物語 4E			物語 4M					物語 4C	
（非）北原　博										物語 4C			物語 4I		物語 4S	物語 4E	物語 4M																	物語 5年						

（出典　学生課教務係作成）

資料３－１－①－１０　教員別授業時間配当表（平成１７年度後期分）

一般教科　　教員別授業時間配当表（平成１７年度後期分）　　NO. 1

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
勢田　勝昇	国語Ⅰ 1I								国語Ⅰ 1S	国語Ⅰ 1E		国語Ⅰ 1I			国語Ⅰ 1M				国語Ⅰ 1S		国語Ⅰ 1C					国語Ⅰ 1M		国語Ⅰ 1E												
武田　光彦	国語 2S		国語 2I						国語 2E																国語 2M		国語 2S							国語 2E			国語 2C		国語 2M	
脇本　有理	国語 3E				人文科学総合 4S		国語 3I				国語 3C														国語 3M				人文科学総合 4C											
（非）中西　潔											日本語 留学生		国語 3S		国語 2I								日本語補講 留学生														国語補講	
（非）八木　広美													国語 2C	国語Ⅰ 1C																										
木村　倫幸							人文科学総合 4I		哲学 5E		哲学 5M								哲学 5C				哲学 5I		人文科学総合 4E	人文科学総合 4M								哲学 5S						
大矢　良哲					人間学概論 準2		歴史 2C		歴史 2S										歴史 2E		歴史 2M				歴史 2I		地理 1C			特活 2C										
（非）大谷　和					経済学 5ESC		経済学 5M I																																	
（非）西村　高宏											政治・経済 3 I		政治・経済 3C																										
（非）三浦　隆宏											政治・経済 3M						政治・経済 3S		政治・経済 3E																				
（非）大井　哲郎																			法学 5S I		法学 5MEC																		
（非）吉井　潤史									歴史 3E		歴史 3S		歴史 3M																										
（非）比嘉　薫																											歴史 3C		歴史 3 I										
（非）角　克明													地理 1I				地理 1S		地理 1M		地理 1E																		
北川　誠之助	数学α 1M		数学α 1E																代数・幾何Ⅰ 2I		数学α 1M				代数・幾何Ⅰ 2S				代数・幾何Ⅰ 2C		特活 1E				数学α 1E				
宮金　憲一			微分積分Ⅱ 3E						代数・幾何Ⅱ 3 I		微分積分Ⅰ 2C														微分積分Ⅱ 3E				微分積分Ⅱ 3S				微分積分Ⅰ 2C			微分積分Ⅱ 3S			
市原　亮			応用数学α 4S						微分積分Ⅰ 2 I								微分積分Ⅰ 2S		微分積分Ⅱ 3C						微分積分Ⅱ 3C				微分積分Ⅰ 2 I				微分積分Ⅰ 2S						
安田　智之			微分積分Ⅱ 3 I						微分積分Ⅱ 3M																微分積分Ⅱ 3 I		応用数学α 4 I		微分積分Ⅱ 3M					幅形数理 準1				代数・幾何Ⅱ 3E	
長瀬　潤	数学α 1S										微分積分Ⅰ 2E						微分積分Ⅰ 2E		微分積分Ⅰ 2M		数学β 1 I				数学α 1S				微分積分Ⅰ 2M		特活 1S								
名倉　誠											数学β 1M								数学α 1C						数学α 1C		数学α 1 I		数学β 1E				数学α 1 I		数学β 1S				
福真　克彦	応用数学α 4C																								応用数学β 4S				応用数学α 4E						応用数学α 4M				
（非）池永　新吾																																					数学β 1C			
（非）庄田　倫代	代数・幾何Ⅰ 2E		代数・幾何Ⅰ 2M																				数学補講																	
（非）斎藤　敏夫																	応用数学β 4C		応用数学β 4M																				
（非）山本　亮介																	応用数学β 4E		応用数学β 4 I																				

一般教科　　教員別授業時間配当表（平成１７年度後期分）　　NO. 2

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
宮本　止支雄	応用物理 4E		応用物理 3S						物理学特論 準1			物理 2S														応用物理 4M		応用物理 4S				特活 3M				応用物理 3M		物理 2S			
堀内　泰男						物理 2M								物理Ⅰ 1M											物理Ⅰ 1 I					物理Ⅰ 1C	特活 2M		物理Ⅰ 1S		物理Ⅰ 2M		物理Ⅰ 1E			
神原　和彦					物理 2 I			物理 2E		応用物理 4 I				物理 2C		応用物理 4C		物理 2 I		物理 2C										物理 2E										
（非）堀内　健																											応用物理 3 I		応用物理 3E						応用物理 3C					
北村　誠															化学Ⅰ 1 I						化学 2 I				化学 2E		化学Ⅰ 1S		化学 2S				化学 2M		化学Ⅰ 1 I			化学Ⅰ 1S	
（非）土坂　源		化学Ⅰ 1E	化学Ⅰ 1M														化学Ⅰ 1M		化学Ⅰ 1E																				
（非）岡田　佳栄																																			生物 1C						
中西　茂巳			保健・体育Ⅰ 1S	1C	保健・体育Ⅰ 1 I	1E							スポトレ 準1						保健・体育 3M	3 I							保健・体育 3E	3S	保体 3C	保体Ⅰ 1M								
松井　良明											保健・体育 4C								保健・体育 3 I	3M	保健・体育 4S						保健・体育 3S	2C	保健・体育 4M						保健・体育 4 I		保健・体育 4E			
森　弘樹			保健・体育Ⅰ 1C	1S	保健・体育Ⅰ 1E	1 I					保健・体育 2 I	2M	保健・体育 2E	2S													保健・体育 2C	3E	保体Ⅰ 1M	保体 3C	特活 3C								
（非）竹村　匡弥					保健・体育補講 1 I						保健・体育 2M	2 I	保健・体育 2S	2E																									
（非）森本　康司																											美術 1M		美術 1S											
（非）芳巻　悟代									音楽 1 I		音楽 1C		音楽 1E																										
寺屋　雅博	英会話Ⅰ 1E		英語Ⅰ 1 I				英会話Ⅰ 1S		英語Ⅰ 1M				英語Ⅰ 1C																英語Ⅰ 1 I		特活 1 I		英語Ⅰ 1C			英語Ⅰ 1M				
角山　悦男					英語 2C				英語 2M				英語 2 I												英語 2C		英語 2 I						英Ⅰ－1B 5SC			英語 2M			
神澤　和明			英語 2E								英語Ⅰ 1E		英語Ⅰ 1S												英語Ⅰ 1E		英語 2E						英Ⅰ－1A 5ME I			英語Ⅰ 1S			
金澤　直志																					英語表現読解 準1		英語 4M		英語 4C		英語 4E		英語 4 I				英Ⅰ－2B 5 I C		英語 4S				
高橋　美帆			英語 3C		英語 3E						英会話Ⅰ 1 I						英語表現読解 準2				英語 3 I		英会話Ⅰ 1C		英語 3S		英語 3M												
（非）猫田　温祥				英会話Ⅰ 1M		英語 2S		英語補講																									英Ⅰ－2A 5MES		英語 2S				
（非）リンク											英会話 4 I	英会話 4S	英会話 4C	英会話 4E	英会話 3C	英会話 4M																			英Ⅱ－A 5MSC			英会話 3 I	英会話 3E	英会話 3M	英会話 3S
（非）ベリー																																						英Ⅱ－B 5E I	英会話 2M	英会話 2E	英会話 2 I	英会話 2S	英会話 2C	
根川　修			物語 4E																						物語 4 I		物語 4C		物語 4S						物語 4M					
（非）北原　博											物語 4S	物語 4 I	物語 4E	物語 4C	物語 4M																					物語 5年					

（出典　学生課教務係作成）

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専門科目担当教員及び非常勤講師の教員数を示す（資料３－１－②－１）。専任の教員数は，教授２４名，助教授１７名，講師６名，助手９名，合計５６名である。また，非常勤講師の場合，他の専門科目学科の教科も講義している場合もあるが，延べ３３名である。専門科目担当教員の担当科目は，学校概要（資料３－１－①－４，資料３－１－②－２～５）等で広く公開されている。専門科目担当教員の専門分野等については，本校ホームページ（資料３－１－②－６），奈良高専自己点検・評価報告書（資料３－１－②－７）等で公開されており，専門科目担当教員をまとめて（資料３－１－②－８～１２）に示している。

授業の実態は，平成１７年度授業時間割（資料３－１－①－９）に示している。

（分析結果とその根拠理由）

学科の教員数が高等専門学校設置基準に定められた教員数３６名（助手を除く）に対し，本校では４７名の教員（助手を除く）が配置されている。９名の専任助手が，演習，実験・実習の補助として教授・助教授の職務を助けている。

専門科目を担当する専任の教授及び助教授の数４１名は，一般科目を担当する専任教員数２５名と専門科目を担当する専任教員数４７名（助手を除く）の合計７２名の（２分の１）を下回ってはいない。従って，専門科目担当教員の教員数及び授業担当者としての適性は確保されていることから，教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

資料３－１－②－１　平成１７年度における専門科目担当教員数（専門基礎科目担当教員３名は除く）

	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計
教員数(専任)	11	10	11	11	13	56
教授	5	4	5	5	5	24
助教授	3	3	4	2	5	17
講師	1	2	0	2	1	6
助手	2	1	2	2	2	9
教員数(非常勤)	5	6	6	5	11	33
教員数						89

（出典　学科主任作成資料（資料３－１－②－８～１２（後出））等から集計）

資料３－１－②－２　専門科目（電気工学）担当教員

教員及び担当科目 Academic Staff and Subject in Their Charge

職　名 Title	氏　名 Name	担当科目　【専攻科】 Subjects【Faculty of Advanced Engineering】	備　考 Note
教　授 Professor	成田紘一 NARITA,Hirokazu	電気磁気学Ⅱ Electromagnetism Ⅱ 通信工学 Communication Engineering 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【情報伝送】 Information Transmission	ネットワーク管理室長 Director of the Network Administration Office 3E 学級担任 3E Homeroom Teacher
教　授 Professor	井村榮仁 IMURA,Shigeji	電気機器工学 Electrical Machinery Apparatus Engineering 電力制御工学 Electrical Power Control Engineering 電力応用工学 Electric Power Applications 基礎電気工学 Introduction for Electrical Engineering 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【パワーエレクトロニクス】 Power Electronics	5E 学級担任 5E Homeroom Teacher 学生相談室員 Counselor
教授（工博） Professor Dr.Eng.	京兼　純 KYOKANE,Jun	電気材料工学 Electrical and Electronic Materials 半導体工学 Semiconductor Electronics 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【電子物性】 Electronic Material Science	副校長 Vice-president 教務主事 Dean of Educational Affairs
教授（工博） Professor Dr.Eng.	藤井治久 FUJII,Haruhisa	電気磁気学演習 Exercises in Electromagnetics エネルギー変換工学 Energy Conversion Engineering 高電圧工学 High-Voltage Engineering 学外実習 Internship 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【光電子・エネルギー工学】 Electronic Energy Conversion	電気工学科主任 Chief of the Department of Electrical Engineering
助教授 Associate Professor	中村善一 NAKAMURA,Yoshikazu	交流理論Ⅰ・Ⅱ Circuits and Circuit Analysis Ⅰ・Ⅱ 電気・電子工学実験 Experiments Electrical and Electronic Engineering 【画像工学】 Image Engineering 【電子情報工学セミナーⅠ・Ⅱ】 Seminar of Electronics and Information Engineering Ⅰ・Ⅱ	電気工学科副主任 Sub-Chief of the Department of Electrical Engineering
助教授 Associate Professor	土井滋貴 DOI,Shigeki	プログラミング Programming コンピュータ応用工学 Applied Computer 情報工学 Information Engineering 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【電子情報工学特別実験Ⅰ】 Advanced Experiments of Electronics and Information Engineering Ⅰ	学生主事補 Vice-Dean of Student Affairs
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	藤田直幸 FUJITA,Naoyuki	電子工学 Electronic Engineering 半導体工学 Semiconducor Electronics 電子応用工学 Application of Electronics 電気磁気学Ⅰ Electromagnetism Ⅰ 電気磁気学演習 Exercises in Electromagnetics 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【電子情報工学特別実験Ⅰ】 Advanced Experiments of Electronics and Information Engineering Ⅰ	
講師（工博） Associate Professor Dr.Eng.	桐島俊之 KIRISHIMA,Toshiyuki	交流理論演習 Exercises on Circuits and Circuits Analysis 情報処理 Information Processing コンピュータ工学 Computer Engineering 信号処理 Signal Processing 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering	2E 学級担任 2E Homeroom Teacher
講師（工博） Assistant Professor Dr.Eng.	大谷真弘 OTANI,Masahiro	回路網理論 Network Theory 電子回路工学 Electronic Circuit Engineering 工業外国語 Technological English 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【電子情報工学特別実験Ⅰ】 Advanced Experiments of Electronics and Information Engineering Ⅰ	
助　手 Research Associate	石飛　学 ISHITOBI,Manabu	基礎電気工学 Introduction for Electrical Engineering 電気磁気学演習 Exercises in Electromagnetics 電気・電子工学実験 Experiments in Electrical and Electronic Engineering 【電子情報工学特別実験Ⅰ】 Advanced Experiments of Electronics and Information Engineering Ⅰ	

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－②－３　専門科目（電子制御工学）担当教員

教員及び担当科目 Academic Staff and Subject in Their Charge

職名 Title	氏名 Name	担当科目【専攻科】 Subjects【Faculty of Advanced Engineering】	備考 Note
教授（工博） Professor Dr.Eng.	阪部俊也 SAKABE,Toshiya	制御理論 Control Theory システム設計Ⅱ Design and Production for Control Engineering Ⅱ 電子工学 Electronics インターフェース工学 Interface Engineering 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 【実用技術英語】 Practical English for Advanced Mechanical Engineering	
教授（工博） Professor Dr.Eng.	中田敏夫 NAKATA,Toshio	熱力学 Thermodynamics 基礎製図法 Fundamentals of Drawing for Control Engineering 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering エネルギー変換工学 Energy Conversion Engineering	電子制御工学科主任 Chief of the Department of Control Engineering 5S 学級担任 5S Homeroom Teacher
教授（工博） Professor Dr.Eng.	福田和廣 FUKUDA,Kazuhiro	流体力学 Hydrodynamics 数値解析 Numerical Analysis システム設計Ⅱ Design and Production for Control Engineering Ⅱ 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 工業外国語 Tecnological English 【機械制御工学概論】 Mechanical and Control Engineering 【特別講義】 Engineering Topics	専攻科主任 Chief of the Faculty of Advanced Engineering
教授（工博） Professor Dr.Eng.	押田至啓 OSHIDA,Yoshihiro	計測工学 Engineering of Instrumentation システム工学 Systems Engineering 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 【レーザ応用計測工学】 Instrumentation with Lasers	電子制御工学科副主任 Sub-Chief of the Department of Control Engineering 2S 学級担任 2S Homeroom Teacher
教授（工博） Professor Dr.Eng.	島岡三義 SHIMAOKA,Mitsuyoshi	材料力学 Strength of Materials 材料・加工学 Materials and Materials Processing 応用力学演習 Exercise in Applied Dynamics 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 【輸送現象論】 Theory of Transport Phenomena	学生相談室員 Counselor
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	早川恭弘 HAYAKAWA,Yasuhiro	電子制御概論 Introduction to Control Engineering ロボティクス Robotics システム統計Ⅰ Design and Production for Control Engineering I 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 【油空圧制御工学】 Hydraulic and Pneumatic Control Engineering 【ディジタル制御】 Digital Control	産学交流室副室長 Sub-Director of the Interchange between Industry and the Academic
助教授 Associate Professor	西田茂生 NISHIDA,Shigeki	情報数学 Logical Mathematics 工業数学 Advanced Engineering Mathematics 計測工学 Engineering of Instrumentation 信号処理 Signal Transaction Engineering 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 学外実習 Internship 【トライボロジー】 Tribology	3S 学級担任 3S Homeroom Teacher
助教授 Associate Professor	櫟弘明 ICHII,Hiroaki	プログラミング Computer Programming 情報伝送工学 Engineering of Information Transmission 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering 【ヒューマンインターフェース】 Human Interface	寮務主事補 Vice-Dean of Dormitory Affairs
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	飯田賢一 IIDA,Kenichi	電磁気学 Electromagnetism 【ディジタル制御】 Digital Control 文部科学省「海外先進教育研究実践支援プログラム」取組担当者として、ニュージーランド・オークランド大学へ派遣 （期間:H17.3.28~H18.3.27）	
助手 Research Associate	矢野順彦 YANO,Yorihiko	電子工学 Electronics インターフェース工学 Interface Engineering 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering	
助手 Research Associate	山本和男 YAMAMOTO,Kazuo	電磁気学 Electromagnetism 電子制御工学実験 Experiments in Control Engineering	

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－②－４　専門科目（情報工学）担当教員

教員及び担当科目 Academic Staff and Subject in Their Charge

職名 Title	氏名 TName	担当科目　【専攻科】 Subjects [Faculty of Advanced Engineering]	備考 Note
教授（工博） Professor Dr.Eng.	上田勝彦 UEDA,Katsuhiko	回路理論Ⅰ Circuit TheoryI 情報理論 Information Theory 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering 学外実習 Internship 【パターン認識論】Theory of Pattern Recognition 【電子情報工学特別実験Ⅰ-Ⅱ】Advanced Experiments of Electronic and Information Engineering Ⅰ-Ⅱ	5I 学級担任 5I Homeroom Teacher
教授（工博） Professor Dr.Eng.	近藤勝也 KONDO,Katsuya	基礎電気理論 Basic Electrical Theory 回路理論Ⅱ Circuit Theory II 制御工学 Automatic Control Engineering オペレーティングシステム Operating System 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering	情報工学科主任 Chief of Department of Information Engineering
教授 Professor	世古忠 SEKO,Tadashi	論理回路 Logic Circuits 計算機概論 Introduction to Computer 集積回路 Integrated Circuits 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineeri 学外実習 Internship 【論理設計】 Advanced Logic Design 【電子情報工学特別実験Ⅱ】Advanced Experiments of Electronic and Information Engineering Ⅱ	情報工学科副主任 Sub-Chief of Department of Information Engineering
教授（工博） Professor Dr.Eng.	多喜正城 TAKI,Masakuni	情報処理基礎 Basic Information Processing 論理数学 Logical Mathematics グラフ理論 Graph Theory 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering 【離散数学】 Discrete Mathematics	3I 学級担任 3I Homeroom Teacher 学生相談室員 Counselor
教授（理博） Professor Dr.Sci.	浅井文男 ASAI,Fumio	電子回路 Electronic Circuits 数値解析 Numerical Analysis 情報工学演習A Information Engineering Exercises A 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering 【情報解析】 Advanced Numerical Methods	
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	山口智浩 YAMAGUCHI,Tomohiro	計算機工学 Computer Engineering 人工知能 Artificial Intelligence 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering 【システム制御】 System Control 【知能工学】 Intelligence Engineering	教務主事補 Vice-Dean of Educational Affairs
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	松尾賢一 MATSUO,Ken-ichi	プログラミングⅡ Computer ProgrammingII ディジタル回路 Digital Circuits 信号処理 Signal Processing 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering 【情報システム】 Information Systems	マルチメディア担当副センター長 Sub-Director of the Multhi-media Committiee
講師 Assistant Professor	本間啓道 HONMA,Yoshimichi	プログラミングⅠ Computer Programming I 計算機ネットワーク Computer Network 計算機アーキテクチャ Computer Architecture 情報工学演習B Information Engineering Exercises B 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering	2I 学級担任 2I Homeroom Teacher
講師（工博） Associate Professor Dr.Eng.	小山雅史 KOYAMA,Masafumi	プログラミングⅡ Computer Programming II 計算機システム演習 Computer Systems 計算機言語処理 Programming Language ソフトウェア設計 Software Design 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering	
助手（工博） Research Associate Dr.Eng.	山口賢一 YAMAGUCHI,Ken-ichi	情報処理基礎 Basic Information Processing 集積回路 Integrated Circuits 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering 学外実習 Internship	ネットワーク管理室副室長 Sub-Director of the Network Administration Office
助手（工博） Research Associate Dr.Eng.	松村寿枝 MATSUMURA,Toshie	オペレーティングシステム Operating System プログラミングⅠ Computer Programming I 工業外国語 English for Computer Engineering 情報工学実験 Experiments in Information Engineering	

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－②－５　専門科目（物質化学工学）担当教員

教員及び担当科目 Academic Staff and Subject in Their Charge

職　名 Title	氏　名 Name	担当科目　【専攻科】 Subjects【Faculty of Advanced Engineering】	備　考 Note
教授（工博） Professor Dr.Eng.	泉　　生一郎 IZUMI,Ikuichiro	物理化学 Physical Chemistry 基礎電子化学 Fundamental Electrochemistry 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 【電子応用化学】 Electroapplied Chemistry	5C 学級担任 5C Homeroom Teacher 学生相談室員 Counselor
教授（工博） Professor Dr.Eng.	梅　原　　忠 UMEHARA,Tadashi	吸着工学 Adsorption Engineering 反応工学 Chemical Reaction Engineering 化学応用工学実験 Experiments in Chemical Engineering 基礎化学工学 Fundamental Chemical Engineering 粉体工学 Powder Technology 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 【物質移動論】 Mass Transfer 【触媒反応工学】 Catalytic Reaction Engineering	4C 学級担任 4C Homeroom Teacher
教授（工博） Professor Dr.Eng.	河　越　幹　男 KAWAGOE,Mikio	拡散単位操作 Diffusional Unit Operations 化学応用工学実験 Experiments in Chemical Engineering Course 物質化学工学演習 Exercises in Chemical Engineering 生物反応工学 Biochemical Reaction Engineering 生物分析化学 Analytical Biochemistry 分子生物学 Molecular Biology 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 学外実習 Internship 【化学工学特別実験Ⅰ・Ⅱ】 Advanced Experiments of Chemical Engineering Ⅰ・Ⅱ 【反応装置工学】 Advanced Chemical Reaction Engineering 【応用生物反応工学】Advanced Biochemical Reaction Engineering	物質化学工学科主任 Chief of the Department of Chemical Engineering
教授（工博） Professor Dr.Eng.	大　槻　正　敏 OUE,Masatoshi	一般化学演習 Exercises in Fundamental Chemistry 分析化学 Analytical Chemistry 機器分析 Instrumental Analysis 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 【物質分析工学】 Substances Analytical Engineering 【生物無機化学】 Bioinorganic Chemistry	
教授（工博） Professor Dr.Eng.	嶋　田　豊　司 SHIMADA,Toyoshi	反応有機化学 Mechanism in Organic Chemistry 機能性有機化学 Functional Organic Chemistry 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 【現代有機化学論】 Current Organic Chemistry	寮務主事補 Vice-Dean of Dormitory Affairs
助教授 Associate Professor	中　谷　武　志 NAKAYA,Takeshi	プロセス製図 Computer Aided Design 化学応用工学実験 Experiments in Chemical Engineering 情報科学 Information Science プロセス制御 Process Control System 基礎製図 Fundamental Drawing 化学反応工学 Chemical Reaction Engineering 物質化学工学演習 Exercises in Chemical Engineering 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering	
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	片　倉　勝　己 KATAKURA,Katsumi	物質化学工学演習 Exercises in Chemical Engineering 構造解析学 Structural Analysis 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering エレクトロニクス概論 Introduction to Electronics 【エネルギ工学】 Energy Engineering 【実用化学英語】 Practical English for Chemistry	教務主事補 Vice-Dean of Educational Affairs
助教授（農博） Associate Professor Dr.Agri.	三　木　功次郎 MIKI,Kojiro	分析化学 Analytical Chemistry 化学 Chemistry 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 生物化学工学実験 Experiments in Biochemical Engineering	1C 学級担任 1C Homeroom Teacher
助教授（工博） Associate Professor Dr.Eng.	直　江　一　光 NAOE,Kazumitsu	生物化学 Biological Chemistry 基礎生物化学工学 Fundamental Biochemical Engineering 工業外国語 Technical Communication in Foreign Languages 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 生物化学工学実験 Experiments in Biochemical Engineering 【生物化学工学】 Biochemical Engineering	物質化学工学科副主任 Sub-Chief of the Department of Chemical Engineering
助教授 Associate Professor	石　丸　裕　士 ISHIMARU,Hirohito	無機化学 Inorganic Chemistry 物質構造化学 Chemical Structure of Materials 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering	
講　師 Assistant Professor	宇　田　亮　子 UDA,Ryoko	有機化学 Organic Chemistry 一般化学演習 Exercises in Fundamental Chemistry 機能性有機化学 Functional Organic Chemistry 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering	
助　手 Research Associate	伊　月　亜有子 ITSUKI,Ayuko	生物分析化学 Analytical Biochemistry 分子生物学 Molecular Biology 物質化学工学実験 Exercises in Chemical Engineering 生物化学工学実験 Experiments in Biochemical Engineering	
助　手 Research Associate	西　野　　悟 NISHINO,Satoru	基礎製図 Fundamental Drawing 粉体工学 Powder Technology 物質化学工学実験 Experiments in Chemical Engineering 化学応用工学実験 Experiments in Chemical Engineering Course	

（出典　平成１７年度学校概要）

資料３－１－②－６　専門科目担当教員の専門分野等（機械工学科所属教員の一例）

（出典　奈良高専ホームページ）

資料３－１－②－７　専門科目担当教員の専門分野等（自己点検・評価報告書）

早川　恭弘　　電子制御工学科・助教授　博士（工学）

【学位論文題目】　力センシング機能を有する空気圧ベローズアクチュエータの開発とその応用

【専門分野】　ロボット工学，空気圧工学

【所属学協会】　日本ロボット学会，日本機械学会，日本フルードパワーシステム学会，
計測自動制御学会，システム制御情報学会，
IEEE（Robotics and Automation Society, Medicine and Biology Society）

【学協会における理事・主査・幹事および委員など】

・日本フルードパワーシステム学会　企画委員，論文校閲委員（H12 年度～H16 年度）
・計測自動制御学会　論文校閲委員　（H12 年度～H16 年度）
・日本機械学会　論文校閲委員　（H16 年度）

【著書・研究論文等の発表件数（H12～16 年度）】

著書	学術論文（査読付）	解説等	国内学会口頭発表	国際会議 proceedings	研究紀要	技術等相談（平成 16 年度）
0	6	10	42	14	0	6

【シンポジウム・講習会・講座等での講演件数（H12～16 年度）】

日本フルードパワーシステム学会	12
日本機械学会	3
計測自動制御学会	8
日本ロボット学会	6
バイオメカニズム学会	3

【平成 12～16 年度の論文等】（原則として，著書，学術論文等とする）

・Practical Design of Adaptive Model-based Sliding Mode Control of Pneumatic Actuators，日本油空圧学会論文集，第 31 巻，第 4 号，2000，p．107.
・ベーン型空気圧モータのモデリングとスライディングモード制御，日本機械学会論文集（C 編），第 66 巻，第 652 号，2000，p．3939.
・“Study on a Rehabilitation Machine by Using Pneumatic Actuators”，*Proceedings of the Developments in Fluid Power Control of Machinery and Manipulators，2nd International Scientific Forum*，2000.
・“Improvement of Vane-Type Pneumatic Motors and Trial of Hybrid Pneumatic/ Electric Motors”，*Proceedings of Japan-USA Symposium on Flexible Automation*，2000.
・“A Sliding Mode Pressure Observer for Control of Pneumatic Cylinder Actuators”，*Proceedings of Japan-USA Symposium on Flexible Automation*，2000.
・“Development of an Active Orthosis for Knee Motion by Using Pneumatic Actuators”，*Proceedings of the International Conference on Machine Automation*，2000.
・“Control of Hybrid Pneumatic /Electric Motors”，Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems，2000.
・“Analysis of Standing up Motion by Welfare Transfer Machine using Pneumatic Actuators”，*Proceedings of the Fifth　International Conference on Fluid Power Transmission and Control*，2001.
・“Basic Study to Develop an Active Supporter with Human Compatibility”，*Proceedings of Biomechanics and Biomedical Engineering*，2001.
・ハイブリッド型空気圧・電気駆動モータの設計と制御，日本機械学会論文集（C 編），第 68 巻，第 665 号，2002，p．117.
・Pressure Observer-Controller Design for Pneumatic Cylinder Actuator，IEEE/ASME Transactions on

Mechatronics, Vol.7, No.4, 2002, p. 490.

・"Development of a Silicon Outer Fence Mold Actuator with Human Compatibility", *Proceedings of the Fifth JFPS International Symposium on Fluid Power*, 2002, p. 321.

・"Study on an Active Supporter Using Pneumatic Foaming Rubber Actuator Coated with Silicon Rubber", *Proceedings of the 2nd European Medical and Biological Engineering Conference*, 2002, p. 1342.

・"Control Performance of a Pneumatic Silicon Outer Fence Mold Actuator", Proceedings of SICE Annual Conference, 2003.

・"Study on a New Mechanism of a Silicon Outer Fence Mold Actuator", Proceedings of 7th International Symposium on Fluid Control, Measurement and Visualization, 2003.

・"Basic Characteristics of a Silicon Outer Fence Mold Actuator with Human Compatibility", Proceedings of 1st International Conference on Computational Method in Fluid Power Technology, 2003.

・空気圧シリコン外殻型発泡ゴムアクチュエータの開発，日本機械学会論文集（C 編），第 70 巻，第 690 号，2004，p. 433.

・"Development of an Autonomous Transfer Machine Using Pneumatic Actuators", JSME International Journal, Series C, Vol.47, No.2, 2004, P.602

・"Study on Basic Characteristics of Pneumatic Sponge Core Soft Rubber Actuator", Proceedings of IFPE 2005 Technical Conference, 2005

・"Development of a Hybrid Element by using Sponge Core Soft Rubber Actuator", Proceedings of the 2005 IEEE International Conference on Robotics and Automation, 2005, P. 540

【平成 12～16 年度の共同研究，受託研究，協同研究】

・共同研究，（株）日電鉄工所，自動カラー自在化塗装用ロボットに関する研究調査，H13.10～H14.3.

・共同研究， SRI 研究開発株式会社（住友ゴム工業（株）），福祉用具へのゴムアクチュエータの応用に関する研究，H15.11～H17.10

【平成 12～16 年度の特許あるいは特許出願】

・10-322205，H10.11.12，過負荷保護装置，ニッタ株式会社，早川恭弘.

・PCT/JP99/00198，1999.1.21(国際出願)，グラインダ加圧装置，ニッタ株式会社，早川恭弘.

・特願 2004-311730，人体緩衝体，ダンロップ株式会社，早川恭弘

（出典　自己点検・評価報告書（平成１７年１０月発行））

資料３－１－②－８　専門科目（機械工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　機械工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－８　専門科目（機械工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　機械工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－８　専門科目（機械工学）担当教員（非常勤講師）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　機械工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－９　専門科目（電気工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　電気工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－９　専門科目（電気工学）担当教員（非常勤講師）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　電気工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１０　専門科目（電子制御工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　電子制御工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１０　専門科目（電子制御工学）担当教員（非常勤講師）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　電子制御工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１１　専門科目（情報工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　情報工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１１　専門科目（情報工学）担当教員（非常勤講師）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　情報工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１２　専門科目（物質化学工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　物質化学工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１２　専門科目（物質化学工学）担当教員

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　物質化学工学科主任作成（平成１７年度））

資料３－１－②－１２　専門科目（物質化学工学）担当教員（非常勤講師）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　物質化学工学科主任作成（平成１７年度））

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校では，専攻科の授業科目担当教員は，大学評価・学位授与機構による教員審査で適格の判定を得た教員により教育に当たっている。

専攻科授業科目学年配当表（資料３－１－③－１）から，専攻科特別研究，専攻科特別実験を除いた専攻科課程の授業担当教員数は，専任51名，非常勤１０名である（資料３－１－③－２）。専攻科特別研究は，博士の学位を有する教授２０名が担当しており，企業等での経験者７名を配置している。内１名は，技術士の資格も有している。

専攻科の授業科目担当教員の特性（資料３－1－①－７，資料３－1－②－８～１２）及びJABEE受審自己点検書（引用・裏付資料編）（資料３－１－③－３）の添付資料に記載された「教員個人データ」（資料３－１－③－４）から，専攻科教育の目的を達成するために適した教員が配置されていることが分かる。さらに，学校教育法（第７０条の６）２項に，「・・・，その研究を指導することを目的とし，・・・」とあり，専攻科課程の教員資格は，準学士課程のそれに比べて研究実績等の面で厳しくなっている。そこで，教員１名が１年間で３．６８件の研究発表（資料３－１－③－５）をする等，活発な研究活動を通じ，専攻科特別研究の指導を行っている。

授業の実態として，平成１７年度前期及び後期の授業時間割表（資料３－１－③－６）を示す。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の授業科目担当教員は，教員の専門分野，博士の学位取得者，研究論文の発表状況等から判断して専攻科教育の目的を達成するために適した教員が配置されている。

資料３－１－③－１　専攻科授業科目学年配当表

授業科目学年配当表　（平成17年度）

機械制御工学専攻　　平成１７年度以降入学生

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本
		日本古代技術史	2			2		大矢
	選択必修	英語表現法（Ⅰ）	2	2	2			金澤
		英語表現法（Ⅱ）	2			2	2	高橋美
	選択	ドイツ語	2	2	2			桐川
		比較現代文化論	2	2				木村，武田
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西
		計	14	6	6	6	2	
専門基礎	必修	科学と数理	2	2				堀内，長瀬
		物理学特論	2		2			宮本，堀内，榊原
		統計力学	2			2		榊原，堀内，宮本
		コミュニケーション英語	2			2		稲田
		技術者倫理	2		2			稲田
	選択	基礎数理	2	2				荒金，安田，市原
		解析数理	2		2			安田，市原，荒金
		情報ネットワーク	2			2		成田
		基礎化学	2	2				土岐
		生物基礎	2		2			津田
		技術英語	2	2				高橋晴
		特別講義	2				2	福田
		学外実習	2					
		計	26	8	8	6	2	
専門	必修	特別研究	14	8	8	8	4	岩井，小畠，矢尾，和田，野々垣，阪部，福田，押田，島岡，中田
		機械制御工学特別実験Ⅰ	4	6	6			岩井，中田
		機械制御工学特別実験Ⅱ	4			6	6	岩井，中田
		小計	22	14	14	14	10	
	選択	連続体力学	2	2				小柴，坂本
		精密加工学	2	2				和田
		ディジタル制御	2	2				早川，飯田
		計算機力学	2		2			矢尾
		輸送現象論	2				2	島岡
		塑性加工学	2		2			関口
		実用技術英語（機械制御工学系）	2		2			阪部，坂本
		新材料特論	2			2		岩井
		アクティブ制御	2			2		加納
		油空圧制御工学	2	2				早川
		レーザ応用計測工学	2			2		押田
		機械制御工学概論	2			2		平，福田
		トライボロジー	2			2		野々垣，西田
		生産加工学	2				2	小畠
		ヒューマンインターフェイス	2				2	櫟
		小計	30	8	6	10	6	
		専門合計	52	22	20	24	16	
合計			92	36	34	36	20	

－5－

授業科目学年配当表　（平成17年度）

電子情報工学専攻　　平成１７年度以降入学生

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本
		日本古代技術史	2			2		大矢
	選択必修	英語表現法（Ⅰ）	2	2	2			金澤
		英語表現法（Ⅱ）	2			2	2	高橋美
	選択	ドイツ語	2	2	2			桐川
		比較現代文化論	2	2				木村，武田
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西
		計	14	6	6	6	2	
専門基礎	必修	科学と数理	2	2				堀内，長瀬
		物理学特論	2		2			宮本，堀内，榊原
		統計力学	2			2		榊原，堀内，宮本
		コミュニケーション英語	2			2		稲田
		技術者倫理	2		2			稲田
	選択	基礎数理	2	2				荒金，安田，市原
		解析数理	2		2			安田，市原，荒金
		情報ネットワーク	2			2		成田
		基礎化学	2	2				土岐
		生物基礎	2		2			津田
		技術英語	2	2				高橋晴
		特別講義	2				2	福田
		学外実習	2					
		計	26	8	8	6	2	
専門	必修	特別研究	14	8	8	8	4	京兼，藤井，上田，近藤，多喜，浅井
		電子情報工学特別実験Ⅰ	4	6	6			藤井，近藤
		電子情報工学特別実験Ⅱ	4			6	6	藤井，近藤
		電子情報工学セミナーⅠ	1		2			中村，世古
		電子情報工学セミナーⅡ	1				2	中村，世古
		小計	24	14	16	14	12	
	選択	論理設計	2	2				世古
		情報解析	2	2				浅井
		電子物性	2	2				京兼
		パワーエレクトロニクス	2		2			井村
		離散数学	2		2			多喜
		情報システム	2	2				松尾
		実用技術英語（電子情報工学系）	2		2			高橋
		情報伝送	2				2	成田
		知能工学	2			2		山口智
		光電子・エネルギー工学	2			2		藤井
		電子デバイス工学	2			2		藤田
		画像工学	2			2		中村
		システム制御	2				2	山口智
		パターン認識論	2				2	上田
		小計	28	8	6	8	6	
		専門合計	52	22	22	22	18	
合計			92	36	36	34	22	

－6－

（出典　平成１７年度専攻科シラバス）

資料３－１－③－１　専攻科授業科目学年配当表

授業科目学年配当表　（平成17年度）

化学工学専攻　　平成１７年度以降入学生

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本
		日本古代技術史	2			2		大矢
	選択必修	英語表現法（Ⅰ）	2	2	2			金澤
		英語表現法（Ⅱ）	2			2	2	高橋美
	選択	ドイツ語	2	2	2			桐川
		比較現代文化論	2	2				木村，武田
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西
		計	14	6	6	6	2	
専門基礎	必修	科学と数理	2	2				堀内,長瀬
		物理学特論	2		2			宮本，堀内，榊原
		統計力学	2			2		榊原,堀内，宮本
		コミュニケーション英語	2			2		稲田
		技術者倫理	2		2			稲田
	選択	基礎数理	2	2				荒金，安田，市原
		解析数理	2		2			安田，市原，荒金
		情報ネットワーク	2			2		成田
		基礎化学	2	2				土岐
		生物基礎	2		2			津田
		技術英語	2	2				高橋晴
		特別講義	2				2	福田
		学外実習	2					
		計	26	8	8	6	2	
専門	必修	特別研究	14	4	8	8	8	泉,梅原,河越,大槻
		化学工学特別実験Ⅰ	4	6	6			河越
		化学工学特別実験Ⅱ	4			6	6	河越
		反応装置工学	2	2				河越
		生物化学工学	2			2		直江
		小計	26	12	14	16	14	
	選択	高分子材料学	2		2			井口
		現代有機化学論	2	2				嶋田
		細胞工学	2	2				津田
		有機合成化学	2		2			嶋田
		物質分析工学	2		2			大槻
		実用化学英語	2	2				片倉
		エネルギー工学	2			2		片倉
		電子応用化学	2			2		泉
		物質移動論	2			2		梅原
		有機化学反応論	2			2		嶋田
		生物無機化学	2				2	大槻
		触媒反応工学	2				2	梅原
		応用生物反応工学	2				2	河越
		小計	26	6	6	8	6	
		専門合計	52	18	20	24	20	
合計			92	32	34	36	24	

－7－

（出典　平成１７年度専攻科シラバス）

資料３－１－③－２　専攻科課程の授業科目担当教員数

区分	教養	専門基礎	専　門			合計
			機械制御工学専攻	電子情報工学専攻	化学工学専攻	
専任教員数	8	9	16	12	6	51
特別研究担当教員数			10 (3)	6 (4) 〔1〕	4	20 (7) 〔1〕
非常勤講師数	0	4	2	2	2	10
非常勤講師担当授業科目		○コミュニケーション英語 ○技術者倫理 ○基礎化学 ○生物基礎 ○技術英語	○塑性加工学 ○アクティブ制御	○実用技術英語 ○パターン認識論	○高分子材料学 ○細胞工学	

（　）：企業等経験者，〔　〕：技術士（企業経験者）

（出典　平成１７年度専攻科シラバス（授業科目学年配当表）等から集計）

資料３－１－③－３　自己点検書（引用・裏付資料編）

奈良工業高等専門学校
〒639-1080　奈良県大和郡山市矢田町 22 番地
電話　0743-55-6000
FAX　0743-55-6019
E-mail　shomu@limu.nara-k.ac.jp

自 己 点 検 書

（引用・裏付資料編）

（2002 年 12 月 10 日 基準・試行委員会改訂）

（2003 年 3 月 10 日 基準・試行委員会一部修正）

（2003 年 12 月 12 日 基準委員会一部修正）

（2004 年 12 月 16 日 基準委員会一部修正）

2005 年度版

提出日　2005 年 7 月 29 日

奈良工業高等専門学校
「システム創成工学」教育プログラム
（工学（融合複合・新領域））

６．２ 継続的改善

引用・裏付資料番号

6.2-1　JABEE 基準と対応組織の関係 …… 2-6-75
6.2-2　奈良高専中期計画及び奈良高専平成 16 年度計画 …… 2-6-76
6.2-3　運営委員会議事録（平成 15 年 7 月 3 日） …… 2-6-86
6.2-4　専攻科学生便覧 …… 2-6-87
6.2-5　専攻科シラバス …… 2-6-89
6.2-6　平成 17 年度 シラバス ―授業内容と学習の指針― …… 2-6-90
6.2-7　学生生活のしおり 平成 17 年度 …… 2-6-92
6.2-8　平成 17 年度 学生募集要項・入学案内 …… 2-6-94
6.2-9　平成 18 年度 専攻科学生募集要項 …… 2-6-95
6.2-10 JABEE プログラムガイダンスの案内 …… 2-6-96
6.2-11 平成 17 年度「システム創成工学」教育プログラム 履修の手引き …… 2-6-103
6.2-12 運営会議議事録(2004 年 12 月 9 日) …… 2-6-115
6.2-13 平成 17 年度 シラバス ―授業内容と学習の指針― …… 2-6-133
6.2-14 オフィス・アワー一覧表 …… 2-6-139
6.2-15 ＴＡ実施資料 …… 2-6-141
6.2-16 達成度自己点検シートの例 …… 2-6-145
6.2-17 ＦＤ実施記録 …… 2-6-147
6.2-18 教員顕彰内規 …… 2-6-151
6.2-19 言語教育ワーキング・グループ報告書 …… 2-6-152
6.2-20 数学教育ワーキング・グループ議事録 …… 2-6-155
6.2-21 ＬＬ教室開館時間延長の通知 …… 2-6-167
6.2-22 安全衛生委員会議事録 …… 2-6-168
6.2-23 「なんでも相談室」開室の通知 …… 2-6-171
6.2-24 JABEE 統括会議議事録（2005 年 4 月 15 日） …… 2-6-172

7．分野別要件 …… 2-7-1

添付資料

・教員個人データ …… 3-1

目　次

プログラム情報 …… 1-1
(1) 高等教育機関名
(2) プログラム名
(3) 学位名
(4) 連絡先
(5)プログラム関係数値データ

自己点検結果

1．基準１：学習・教育目標の設定と公開

引用・裏付資料番号
表２　学習・教育目標と基準１の(1)の(a)～(h)との対応 …… 2-1-1
表３　各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準 …… 2-1-3
1-1　第６回 JABEE 委員会議事要録 …… 2-1-5
1-2　学生生活のしおり 平成 16 年度 …… 2-1-9
1-3　平成 16 年度 シラバス―授業内容と学習の指針― …… 2-1-12
1-4　平成 16 年度 専攻科学生便覧 …… 2-1-17
1-5　平成 16 年度 専攻科シラバス …… 2-1-21
1-6　平成 16 年度 学校概要 …… 2-1-25
1-7　ウェブページ「JABEE への取り組み」 …… 2-1-28
1-8　平成 17 年度 学生募集要項 入学案内 …… 2-1-34
1-9　平成 17 年度 専攻科学生募集要項 …… 2-1-36
1-10　「FD の実施状況について」 …… 2-1-40
1-11　第 15 回 JABEE 小委員会議事要録 …… 2-1-46
1-12　「JABEE 説明会の開催について」 …… 2-1-50
1-13　教職員ネームプレート裏面 …… 2-1-51
1-14　第５回 JABEE 委員会議事要録 …… 2-1-52
1-15　平成 17 年度 「システム創成工学」教育プログラム 履修の手引き …… 2-1-57
1-16　学習・教育目標ダイジェスト版ポスター …… 2-1-71
1-17　平成 15 年度 将来計画検討委員会名簿 …… 2-1-72
1-18　第３回将来計画検討委員会議事要録 …… 2-1-73
1-19　JABEE 対応室議事要録 …… 2-1-78
1-20　第１回「システム創成工学」教育プログラム統括会議議事要録 …… 2-1-84
1-21　奈良工業高等専門学校外部評価実施要項 …… 2-1-86
1-22　平成 16 年度 奈良高専外部評価委員会出席者名簿 …… 2-1-87
1-23　平成 15 年度 外部評価報告書 …… 2-1-88
1-24　平成 16 年度 外部評価報告書 …… 2-1-96
1-25　第７回 JABEE 委員会議事要録 …… 2-1-98
1-26　アンケート集計結果 …… 2-1-100

添付資料

教員個人データ

（出典　自己点検書（引用・裏付資料編））

資料３－１－③－４　教員個人データの一例

添付資料
教　員　個　人　データ

1. 氏名(年齢)：　[redacted]（●歳）
2. 所属・職名：　機械工学科 ・ 教授
3. 最高学位(取得年)：　工学博士（1986年）
4. 勤務形態 ：　常勤

5. 現在の担当教育科目
(1)当該プログラムの担当授業科目

授業科目名	学年	学期	単位数	担当教員数 本人を含む
機械工学実験	本科５年	通期	3	１１
卒業研究	本科５年	通期	6	１１
精密加工学	１年	前期	2	1
機械制御工学特別実験Ⅰ	１年	通期	4	２２
機械制御工学特別実験Ⅱ	２年	通期	4	２２
特別研究	１，２年	通期	１４	２２

(2)当該プログラム以外の担当授業科目

授業科目名	学年	学期	単位数	担当教員数 本人を含む
設計製図Ⅰ	他大学 学部３年	前期	2	2
設計製図Ⅱ	他大学 学部３年	後期	2	2
機械工作実習Ⅰ	本科１年	通期	3	2
機械工作法	本科３年	通期	2	1
機械設計製図	本科３年	通期	3	2

6. 授業担当者としての適性
科目名1:機械工学実験，機械制御工学特別実験Ⅰ・Ⅱ
・機械工学実験は本校着任以来 24 年担当している．機械制御工学特別実験Ⅰ・Ⅱは専攻科創設以来担当している。
・当該科目の指導書「機械工学実験指導書」(奈良工業高等専門学校　機械工学科)のうち、機械工学関係を共著した。
上記のように，本科目の担当者として適切であると言える．

科目名2:卒業研究
・当該科目を、講師昇格以来 19 年担当している．
・当該科目に関連する講演研究発表を，日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、

228.
などがある．
・当該科目に関連する「機械工作法」(コロナ社出版)という著書がある．
・当該科目に関連する特許を 2 件出願(出願中)している．
・日本機械学会関西支部商議員を務めた。また、精密工学会の査読協力委員、日本設計工学会関西支部商議員を務めており，当該分野に関する幅広い知識を有している．
上記のように，本科目の担当者として適切であると言える．

7. これまでの教育改善への取り組み，教育に関する研鑽，教育関係の学会活動など
・「精密加工学」の授業では，2次元切削モデルの作成などの工夫を行ってきた．
・「機械工学実験」では，2 次元切削実験用の装置を作製した．
・「総合実習への取組み」(奈良工業高等専門学校　研究紀要　第 19 号(昭和 58 年度、共著)に関する教育研究結果を発表した．さらに，「総合実習を実施して」(奈良工業高等専門学校　研究紀要　第 22 号(昭和 61 年度、共著)に関する教育研究結果も発表した．
・学内の教務委員，教務主事補として，カリキュラムの立案，学外実習の単位認定などの教育改善を行った．

8. 職業経験年数:

業　種	経験年数
企業	年
公共団体	年
研究機関	年
他大学等の教育機関	年
現在の高等専門学校	２５年
合計	２５年

9. 実務経験(実務経験のある場合のみ記入):

業　種	主な職務内容	経験年数

10. 技術者資格の有無と有の場合にはその種類と取得年(西暦)：無

11. 活動状況
教　育：　６０％
研　究：　２０％
その他：　２０％

12. その他，アピールしたい特記事項など
・上記６の記載の学会以外に，日本工学教育協会、関西工学教育協会などに所属している．

粉体粉末冶金協会などで行っており，過去5年間に研究論文数 13 編(和文(国内)誌 9 編、欧文(国際会議)4 編である。最近5年間の主な研究論文は、
(1)焼入れ焼結鋼の被削性，粉体および粉末冶金，50-7，2003，p. 529.
(2)アルミニウム合金の被削性，粉体および粉末冶金，51-4，2004，p. 199.
(3)焼結鍛造材切削における工具摩耗，粉体および粉末冶金，51-5，2004，330.
(4)(Ti,W)N 膜コーテッド超硬合金の工具摩耗，粉体および粉末冶金，52-4，
などがある．
・当該科目に関連する「機械工作法」(コロナ社出版)という著書がある．
・当該科目に関連する特許を 2 件出願（出願中）している．
・日本機械学会関西支部商議員を務めた。また、精密工学会の査読協力委員、日本設計工学会関西支部商議員も務めており，当該分野に関する幅広い知識を有している．
上記のように，本科目の担当者として適切であると言える．

科目名3:精密加工学
・当該科目を、本校に専攻科が設置されて以来 10 年担当している．
・当該科目に関連する講演研究発表を，日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、粉体粉末冶金協会などで行っており，過去5年間に研究論文数 13 編(和文(国内)誌 9 編、欧文(国際会議)4 編である。最近5年間の主な研究論文は、
(1)焼入れ焼結鋼の被削性，粉体および粉末冶金，50-7，2003，p. 529.
(2)(Ti,B)N 膜コーテッド超硬合金の工具摩耗，粉体および粉末冶金，50-9，2003，p. 674.
(3)"Machinability of Aluminum Alloys"，*Proceedings of International Conference on Precision Engineering (ICoPE2003/2004)*，2004，p. 191.
(4)アルミニウム合金の被削性，粉体および粉末冶金，51-4，2004，p. 199.
(5)(Ti,W)N 膜コーテッド超硬合金の工具摩耗，粉体および粉末冶金，52-4，2005，228.
(6)インコネル 718 切削における超硬合金の工具摩耗，粉体および粉末冶金，52-6，2005(採択済み，印刷中)．
などがある．
・当該科目に関連する「機械工作法」(コロナ社出版)という著書がある．
上記のように，本科目の担当者として適切であると言える．

科目名4:特別研究
・当該科目を、教授昇格以来 5 年担当している．また，それ以前は，関連する「卒業研究(本科)」という科目を 19 年担当した．
・当該科目に関連する講演研究発表を，日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、粉体粉末冶金協会などで行っており，過去5年間に研究論文数 13 編(和文(国内)誌 9 編、欧文(国際会議)4 編である。最近5年間の主な研究論文は、
(1)(Ti,B)N 膜コーテッド超硬合金の工具摩耗，粉体および粉末冶金，50-9，2003，p. 674.
(2)"Machinability of Aluminum Alloys"，*Proceedings of International Conference on Precision Engineering (ICoPE2003/2004)*，2004，p. 191.
(3)(Ti,W)N 膜コーテッド超硬合金の工具摩耗，粉体および粉末冶金，52-4，2005，

（出典　自己点検書（引用・裏付資料編）「添付資料」）

資料３－１－③－５　教員の研究に対する評価

（B）国内学会と国際会議(Proceeding 付)

平成 12 年４月～17 年３月までの５年間における国内学会と国際会議(Proceeding 付)での口頭発表の総数を学科別にグラフで示す。前回は，国内学会での口頭発表の総数は 777 件，教員１人当たり 9.6 件，１年間当たり 155.4 件/年，1.92 件/(人・年)であった。また，国際会議(Proceeding 付)での口頭発表の総数は 175 件，教員１人当たり 2.2 件，１年間当たり 35.0 件/年，0.43 件/(人・年)であった。今回は，国内学会での口頭発表の総数は 877 件，教員１人当たり 10.8 件，１年間当たり 175.4 件/年，2.17 件/(人・年)である。また，国際会議(Proceeding 付)での口頭発表の総数は 202 件，教員１人当たり 2.5 件，１年間当たり 40.4 件/年，0.50 件/(人・年)である。いずれも前回に比べて大きく増加している。

（C）解説等と研究紀要

平成 12 年４月～17 年３月までの５年間における解説等と研究紀要の総数を学科別にグラフで示す。今回の解説等の総数は 146 編，教員１人当たり 1.8 編，１年間当たり 29.2 編/年，0.36 編/(人・年)である。また，研究紀要の総数は 145 編，教員１人当たり 1.8 編，１年間当たり 29 編/年，0.36 編/(人・年)である。

（D）技術相談(１年間)とその他の講演

平成 16 年度の技術相談と平成 12 年４月～17 年３月までの５年間におけるその他の講演(シンポジウム・講習会・講座等)の総数を学科別にグラフで示す。今回の技術相談(１年間)の総数は 280 件，教員１人当たり 3.5 件である。また，その他の講演の総数は 530 件，教員１人当たり 6.5 件，１年間当たり 106 件/年，1.31 件/(人・年)である。

（E）共同研究と特許(出願を含む)

平成 12 年４月～17 年３月までの５年間における共同研究(受託研究，協同研究を含む)と特許(出願を含む)の総数を学科別にグラフで示す。今回の共同研究の総数は 110 件，教員１人当たり 1.4 件，１年間当たり 22 件/年，0.27 件/(人・年)である。また，特許(出願を含む)の総数は 26 件，教員１人当たり 0.3 件，１年間当たり 5.2 件/年，0.06 件/(人・年)である。

平成 12 年４月～17 年３月までの５年間における著書，学術論文(査読付)，解説等，国内学会，国際会議(Proceeding 付)での口頭発表の総数を合算すると 1492 件(研究紀要，技術相談は除く)となり，教員１人が５年間で発表した件数は 18.4 件/人，教員１人が１年間で発表した件数は 3.68 件/(年・人)となる。前回は発表総数が 1346 件，教員１人が５年間で発表した件数は 16.6 件/人，教員１人が１年間に発表した件数は約 3.32 件／(年・人)であったので，前回以上に活発な研究活動が継続して行われたことがわかる。これ以外に，技術相談，雑誌投稿論文，研究紀要，学協会での講習会等の講師，ハンドブックなどへの技術資料の提供などを加えると，教員１人が１年間に発表する件数はかなりの数になる。このことからも，活発な研究活動が日常的に行われていることがわかる。

（出典　自己点検・評価報告書（平成１７年１０月発行））

資料３－１－③－６　平成１７年度専攻科授業時間割表

平成１７年度 専攻科 前期 授業時間割表

奈良工業高等専門学校

学年	専攻	月 1	月 2	月 3	月 4	火 1	火 2	火 3	火 4	水 1	水 2	水 3	水 4	木 1	木 2	木 3	木 4	金 1	金 2	金 3	金 4
本科		1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15
専攻科		1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10
1年	機械制御	精密加工学（和田）専南視聴覚	連続体力学（[illegible]）専２講義	基礎数理（荒金）北棟３選択５	特別研究	ディジタル制御（[illegible]）北棟３選択５	英語表現法Ⅰ（金澤）ＬＬ教室	比較現代文化論（[illegible]）北棟３選択４	特別研究	ドイツ語（棚川）マルチ室		基礎化学（土肥）専南視聴覚	技術英語（高橋）専南視聴覚	特別実験Ⅰ				科学と数理（堀内）専南視聴覚	高空圧制御工学（早川）専２講義	特別研究	
1年	電子情報	情報解析（滝井）専南２講義	情報システム（松尾）北棟３選択３	基礎数理（荒金）北棟３選択５	特別研究		英語表現法Ⅰ（金澤）ＬＬ教室	比較現代文化論（[illegible]）北棟３選択４	特別研究	ドイツ語（棚川）マルチ室	電子物性（京兼）専南２講義	基礎化学（土肥）専南視聴覚	技術英語（高橋）専南視聴覚	特別実験Ⅰ				科学と数理（堀内）専南視聴覚	特別研究		論理設計（佐古）専南２講義
1年	化学		反応装置工学（河越）専南１講義	基礎数理（荒金）北棟３選択５	特別研究	実用化学英語（片倉）専南１講義	英語表現法Ⅰ（金澤）ＬＬ教室	比較現代文化論（[illegible]）北棟３選択４	特別研究	ドイツ語（棚川）マルチ室	物質分析工学（大植）専南１講義	基礎化学（土肥）専南視聴覚	技術英語（高橋）専南視聴覚	特別実験Ⅰ				科学と数理（堀内）専南視聴覚	現代有機化学論（嶋田）専南１講義		
2年	機械制御		コミュニケーション演習（福田）専南視聴覚	特別研究		トライボロジー（[illegible]）北棟３選択４		日本文学概説（数田）専南視聴覚	アクティブ制御（加納）専２講義	英語表現法（高橋）ＬＬ教室	情報ネットワーク（成田）専南視聴覚	特別研究		特別実験Ⅱ				機械制御工学概論（平・福田）専２講義	レーザ応用計測工学（芦田）専３会議	新材料特論（岩井）専２講義	統計力学（梯原）マルチ室
2年	電子情報	知能工学（山口智）専２講義	コミュニケーション演習（福田）専南視聴覚	特別研究		光電子・エネルギー工学（藤井）専南２講義	画像工学（中村）専南視聴覚	日本文学概説（数田）専南視聴覚		英語表現法（高橋）ＬＬ教室	情報ネットワーク（成田）専南視聴覚	特別研究		特別実験Ⅱ							統計力学（梯原）マルチ室
2年	化学	エネルギー工学（片倉）専南１講義	コミュニケーション演習（福田）専南視聴覚	特別研究		有機化学反応論（嶋田）専南視聴覚	電子応用化学（泉）専南１講義	日本文学概説（数田）専南視聴覚		英語表現法（高橋）ＬＬ教室	情報ネットワーク（成田）専南視聴覚	特別研究		特別実験Ⅱ				物質移動論（梯原）専南１講義	生物化学工学（直江）ゼミ室３		統計力学（梯原）マルチ室

注
専２講義……専攻科・電子制御工学科棟２階　講義室　20
専３会議……専攻科・電子制御工学科棟３階　会議室　10
マルチ室……マルチメディア室　48
合同教室……本館東　合同教室　60
専南視聴覚……専攻科南棟2階視聴覚室　60
専南１講義……専攻科南棟1階　講義室　10
専南２講義……専攻科南棟2階　講義室　16
北棟２選択３……本館北棟２階選択教室３　45
北棟３選択４……本館北棟３階選択教室４　45
北棟３選択５……本館北棟３階選択教室５　45
本館３学習……本館３階学習指導室　18
本館２ＬＲ……本館２階　ＬＲ教室　42
電算室……総合情報センター　48
ゼミ室３……本館北棟３階　18
ＬＬ教室……図書館棟１階　48

学生数	機械制御	電子情報	化学	計
1年	20	15	5	40
2年	13	11	7	31
計	33	26	12	71

※（ ）は休学で内数

平成17年3月11日　作成
平成17年4月11日　修正

平成１７年度 後期 授業時間割表

奈良工業高等専門学校 専攻科

学年	専攻	月 1	月 2	月 3	月 4	火 1	火 2	火 3	火 4	水 1	水 2	水 3	水 4	木 1	木 2	木 3	木 4	金 1	金 2	金 3	金 4
本科		1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15	1 9:00-9:45 / 2 9:50-10:35	3 10:40-11:25 / 4 11:30-12:15	5 13:00-13:45 / 6 13:50-14:35	7 14:40-15:25 / 8 15:30-16:15
専攻科		1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10	1 9:00-10:30	2 10:40-12:10	3 13:00-14:30	4 14:40-16:10
1年	機械制御		技術者倫理（福田）専南視聴覚	特別研究		物理学特論（宮本）北棟３選択４	生物基礎（市）北棟３選択４	スポーツ・トレーニング特論（中西）北棟３選択４	計算機力学（矢尾）専２講義	ドイツ語（棚川）マルチ室	塑性加工学（関口）専南視聴覚	英語表現法（Ⅰ）（金澤）マルチ室		特別実験Ⅰ				実用技術実験（[illegible]）専３会議	解析数理（安田）北棟３選択３	特別研究	
1年	電子情報		技術者倫理（福田）専南視聴覚	パワーエレクトロニクス（井村）専南視聴覚	特別研究	物理学特論（宮本）北棟３選択４	生物基礎（市）北棟３選択４	スポーツ・トレーニング特論（中西）北棟３選択４	電子情報工学セミナーⅠ（中村・[illegible]）専南視聴覚	ドイツ語（棚川）マルチ室	特別研究	英語表現法（Ⅰ）（金澤）マルチ室	実用技術英語（高橋）専南視聴覚	特別実験Ⅰ				離散数学（多喜）専南２講義	解析数理（安田）北棟３選択３	特別研究	
1年	化学	高分子材料学（井口）専南１講義	技術者倫理（福田）専南視聴覚	細胞工学（菅）専南１講義	特別研究	物理学特論（宮本）北棟３選択４	生物基礎（市）北棟３選択４	スポーツ・トレーニング特論（中西）北棟３選択４	特別研究	ドイツ語（棚川）マルチ室		英語表現法（Ⅰ）（金澤）マルチ室		特別実験Ⅰ				有機合成化学（嶋田）専南視聴覚	解析数理（安田）北棟３選択３	特別研究	
2年	機械制御			人間学概論（大矢）北棟３選択５	特別講義（福田）専南視聴覚					英語表現法（高橋）ＬＬ教室	ヒューマンインターフェイス（[illegible]）専２講義	生産加工学（小畠）専２講義	輸送現象論（島岡）北棟３選択４	特別実験Ⅱ						特別研究	
2年	電子情報	適応信号処理論（寺西）専南視聴覚	システム制御（山口智）専南２講義	人間学概論（大矢）北棟３選択５	特別講義（福田）専南視聴覚			パターン認識論（上田）専南視聴覚	電子情報工学セミナーⅡ（中村・[illegible]）専南視聴覚	英語表現法（高橋）ＬＬ教室				特別実験Ⅱ					情報伝送（成田）専南視聴覚	特別研究	
2年	化学		応用生物反応工学（河越）専南１講義	人間学概論（大矢）北棟３選択５	特別講義（福田）専南視聴覚			特別研究		英語表現法（高橋）ＬＬ教室				特別実験Ⅱ				触媒反応工学（梯原）専南１講義	生物無機化学（大植）専南１講義	特別研究	

注
専２講義……専攻科・電子制御工学科棟２F講義室　20
専３会議……専攻科・電子制御工学科棟３F会議室　10
マルチ室……マルチメディア室　48
合同教室……本館東　合同教室　60
専南視聴覚……専攻科南棟2階視聴覚室　60
専南１講義……専攻科南棟1階　講義室　10
専南２講義……専攻科南棟2階　講義室　16
北棟２選択３……本館北棟２階選択教室３　30
北棟３選択４……本館北棟３階選択教室４　48
北棟３選択５……本館北棟３階選択教室５　48
本館３学習……本館３階学習指導室　18
本館２ＬＲ……本館２階　ＬＲ教室　42
電算室……総合情報センター　48
ゼミ室３……本館北棟３階　18
ＬＬ教室……図書館棟１階　48

学生数	機械制御	電子情報	化学	計
1年	20	15	5	40
2年	13	11	7	31
計	33	26	12	71

※（ ）は休学で内数

平成17年8月24日　作成
2005/8/　修正

（出典　専攻科委員会）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

平成１７年度の性別構成は，教員８１名中５名が女性教員である（資料３－１－④－１）。平成１３年度から１７年度の年齢構成の推移（資料３－１－④－２）から，平成１３年度では５５歳前後の教員が多く，３０歳前後の教員が少なかった。教員の年齢構成の均等を図るために，定年退職者の後任に当たっては，３０歳前の若手教員（資料３－１－④－３，資料３－２－①－１１）を採用してきたため，平成１７年度では，全体年齢層を通じて年齢構成の均等は保たれている。

企業での経験者は，過去５年間を通じて２０名程度であるが，教授に限っては平成１３年度の５名から７名に増加している（資料３－１－④－４）。専任教員８１名中６８名の者が修士以上の学位を有しており，その内４９名が博士の学位を有している（資料３－１－④－５）。

本校中期計画中，優れた教員の確保という項目の中で，「高度な資格保有者の割合が専門科目（理系一般教科を含む）担当教員全体の７０％以上となること」としている。そこで，平成１６年１０月に，「優れた教員の確保に関する検討事項」について，長期的な対応が検討されている（資料３－１－④－６）。高度な資格保有者の割合は，平成１７年４月現在７８．９％と高い（資料３－１－④－７）。また，「修士以上の学位取得者，民間企業等での経験者の割合が，理系以外の一般教科担当教員の８０％以上になるようにすること」としているが，この割合も，平成１７年４月現在９２．８％と高い（資料３－１－④－７）。国立高等専門学校機構中期計画及び本校中期計画中，優れた教員の確保という項目の中で，「多様な経験を持つもの及び１年以上の海外渡航研究歴を有する者が教授，助教授全体の６０％以上となること」としているが，この割合は，平成１７年４月現在５３．２％である（資料３－１－④－７）。しかし，平成１７年度には助教授１名が海外渡航研究歴を経験し，現在助教授１名が海外渡航研究中である。さらに，平成１８年４月には，他高専からの転入（助教授）があり，この３名を加えると５８％になる。これらの支援策として，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修（資料３－１－④－８），独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員制度（資料３－１－④－９），平成１７年度「国立高等専門学校機構在外研究員」（資料３－１－④－１０）への応募，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第４２条に基づく研究研修（資料３－１－④－１１）が有効に作用している。

平成１５年度から，教員の活動をより活発化するために，国立高等専門学校機構教員顕彰への推薦（資料３－１－④－１２）及び本校の教員顕彰制度（資料３－１－④－１３）に基づく表彰を実施し，教員活動の活発化を図っている（資料３－１－④－１４）。

（分析結果とその根拠理由）

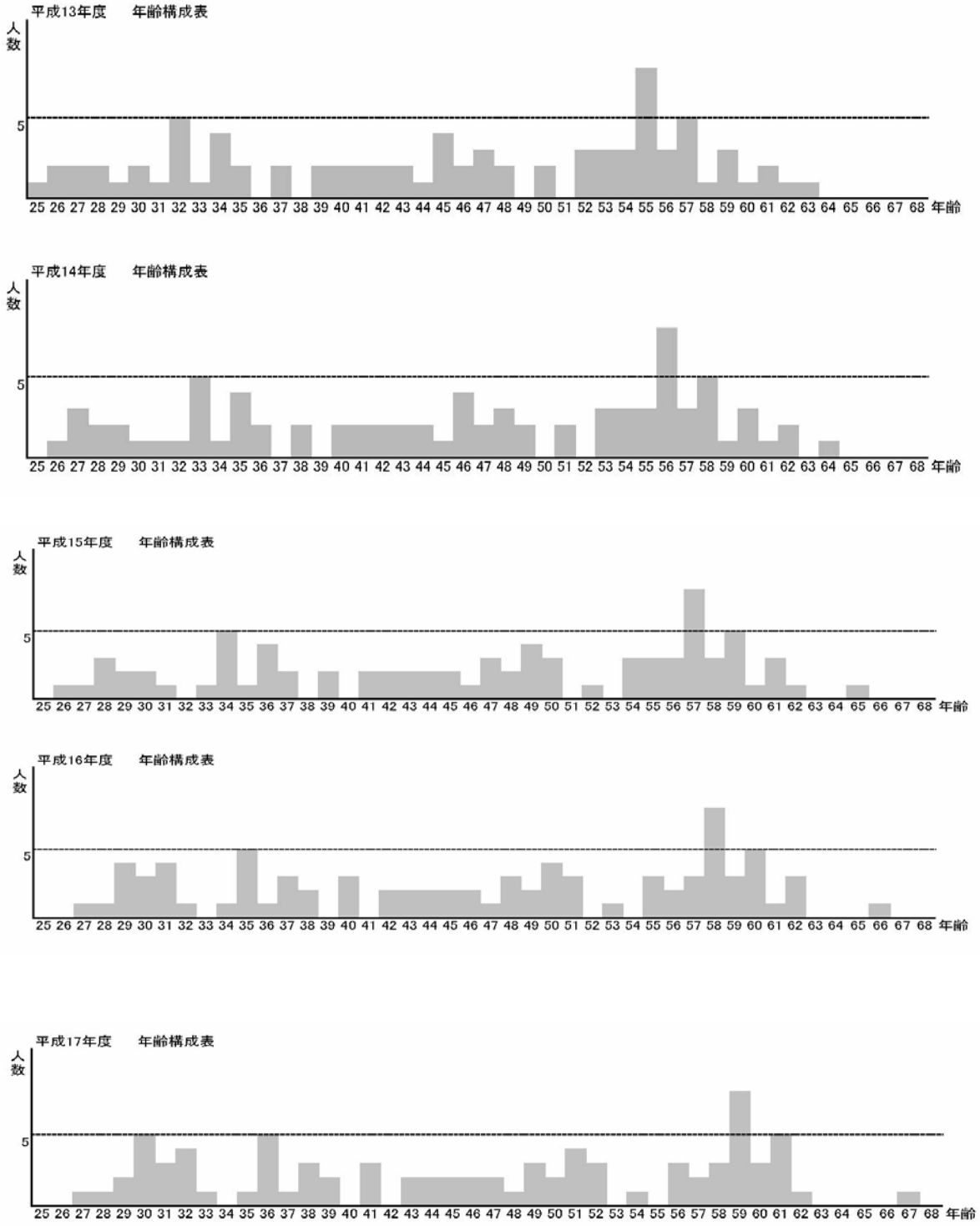
学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮，教員顕彰制度等）が講じられている。

資料３－１－④－１　平成１７年度における専任教員の性別構成

	一般教科	専門基礎	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計
教員数	22	3	11	10	11	11	13	81
男性教員数	20	3	11	10	11	10	11	76
女性教員数	2	0	0	0	0	1	2	5

（出典　庶務課人事係作成　経歴及び学位取得状況一覧（資料３－１－④－５）から集計）

資料３－１－④－２　平成１３年度から１７年度（５年間）の年齢構成の推移



（出典　庶務課人事係作成）

資料３－１－④－３　教員公募案内文

奈高専人第 710 号
平成１８年　1月 23日

関係機関の長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長
一　岡　芳　樹
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび本校では下記の要領で教員を公募することになりました。
つきましては、貴機関関係者へのご周知方よろしくお願い申し上げます。

記

１．職名・人員　助手 １ 名
２．所属学科　電子制御工学科
３．専門分野　電気・電子工学、電子デバイス関連分野
４．担当科目　（予定）電子工学、電磁気学、工学実験
５．応募資格　次の（１）～（３）すべてを満たす方
(1) 平成１８年４月１日現在満３０歳以下の方
(2) 博士の学位を有するか、着任までに取得が見込まれる方
(3) 高等専門学校の本科及び専攻科の教育・研究・学生指導（課外活動を含む）・校務に熱心に取り組む意欲のある方
６．採用予定日　採用決定後できるだけ早い時期
７．提出書類　(1) 履歴書（市販履歴書に自筆で記入し、写真を貼付）
(2) 教育・研究業績リスト（学術・教育論文、著書、学会口頭発表、企業経験者においては業務経歴等、その他受賞歴等の追記も可。(A4 版用紙使用、書式は自由）
(3) 主要著書・論文の別刷５編以内（各１部、コピー可、それぞれについてA4用紙１枚の概要（500 字程度・書式は自由）を添付のこと）
(4) 着任後の高等専門学校における教育・研究に対する抱負
（A４版用紙１枚、1,500 字程度、書式は自由）
(5) 推薦状（自薦の場合は応募者本人の所見を伺える方の氏名・連絡先等を明記のこと）（A４版用紙使用、書式は自由）
※　提出書類は特に申し出がない限り原則として返却いたしません。
８．応募締切　平成１８年５月１５日（月）　必着
９．選考方法　第１次選考　書類審査
（５月下旬頃までに合否を応募者に直接連絡します。）
第２次選考　第１次選考合格者を対象に面接審査
（５月下旬～６月上旬を予定）
※　面接に伴う旅費、宿泊費等は応募者の負担とします。
10．問い合わせ先　奈良工業高等専門学校
電子制御工学科　教授　島　岡　三　義
Tel:0743-55-6121, E-mail:shimaoka@ctrl.nara-k.ac.jp
11．書類提出先　〒639-1080　奈良県大和郡山市矢田町２２番地
奈良工業高等専門学校庶務課人事係　Tel:0743-55-6014
（封筒に「電子制御工学科教員応募書類在中」と朱書きの上、配達記録で郵送願います。）

（出典　庶務課人事係）

資料３－１－④－４　教育経歴，実務経験を持つ者の任用状況の推移（平成１３年度から１７年度）

教育経歴、実務経験を持つ者の任用状況

区分		現員	本校のみ	奈良高専以外の経験						在外研究	備考
職名	年度			計(延人)	%	内訳					
						他高専	大学	高等学校	企業		
校長	H13~H17	1		1	100		1				
教授	H13	35	21	15	42.857	2	3	5	5		
	H14	34	21	14	41.176	2	2	5	5		
	H15	34	21	14	41.176	2	1	5	6		
	H16	35	21	19	54.286	3	3	6	7		
	H17	36	20	20	55.556	2	3	8	7		
助教授	H13	28	11	21	75	2	6	3	10		
	H14	30	11	21	70	2	6	3	10		
	H15	32	14	22	68.75	2	6	4	10		
	H16	29	14	17	58.621	2	3	3	9	1	
	H17	26	15	13	50	2	1	1	9	1	
講師	H13	10	7	5	50		1	2	2		
	H14	8	6	4	50		1	2	1		
	H15	4	3	2	50			1	1		
	H16	8	6	2	25			1	1		
	H17	10	7	3	30		1	1	1		
助手	H13	9	6	3	33.333				3		
	H14	9	6	3	33.333				3		
	H15	9	7	2	22.222				2		
	H16	9	5	4	44.444		1		3		
	H17	9	6	3	33.333				3		
合計	H13	82	45	44	53.659	4	10	10	20	0	
	H14	81	44	42	51.852	4	9	10	19	0	
	H15	79	45	40	50.633	4	7	10	19	0	
	H16	81	46	42	51.852	5	7	10	20	1	
	H17	81	48	39	48.148	4	5	10	20	1	

（出典　庶務課人事係作成）

資料３－１－④－５　経歴及び学位取得状況一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係作成（平成１７年度））

資料３－１－④－５　経歴及び学位取得状況一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係作成（平成１７年度））

資料３－１－④－５　経歴及び学位取得状況一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係作成（平成１７年度））

資料３－１－④－５　経歴及び学位取得状況一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係作成（平成１７年度））

資料３－１－④－６　優れた教員の確保に関する検討事項

〔非開示につき省略〕

資料３－１－④－６　優れた教員の確保に関する検討事項

H16. 10. 7人事係作成

教員の経歴の多様性等に基づく検討資料

（人）

H16. 10. 1現在

	採用された高専以外に勤務経験もしくは1年以上の海外研究歴	
	あり	なし
教　授	19(9)	16(9)
助教授	15(1)	14(1)
講　師	2	6
助　手	4	5
合　計	x 40(10)	y 41(10)

採用された高専以外に勤務経験有か1年以上の海外研究歴有の者の内訳							
採用された高専以外の高専	大　学	高校以下，専修・各種教員	官公庁	民間企業	自営業	海外研究歴	合計
3(1)	2(2)	6	0	6(3)	0	5(4)	22(10)
2	3(1)	4	0	9	0	1	19(1)
0	0	1	0	1	0	0	2
0	1	0	0	3	0	0	4
a 5(1)	b 6(3)	c 11	d 0	e 19(3)	f 0	g 6(4)	47(11)

x+y=16.10.1現員

a+b+c+d+e+f+g≧x（例えば「採用された高専以外の高専」と「民間企業」の両方に勤務経験があればそれぞれにカウントする。）

（現状分析）　平成16年10月1日現在の本校における採用された高専以外に勤務経験もしくは1年以上の海外研究歴がある教授、助教授の割合　＝34／（34＋30）＊100＝53．1%（目標60%）

（今後の検討課題）
・平成20年度中までに、定年予定者20名の補充を高い割合で勤務経験者で補充する必要がある。

・例えば上記20名中、15名を勤務経験有の者で補充する。
39／（39＋25）＊100＝60．9%（目標60%）

・例えば、平成20年度中までに、定年予定者20名の後任補充に関して勤務経験無の者でしか対応できない場合は最終的に
24／（24＋40）＊100＝37．5%（目標60%　△23．5%）となる。

＊これを目標達成に導くため、例えば、支援プログラム申請により、各年度1人づつ教員を1年間長期海外派遣したとすると、
5年間で5名の海外研究歴該当者となり、定年予定者20名のうち10名で目標の60%達成となる。

（注）1．平成21年3月31日までに定年退職が予定されている者は、内数として（　）に記入。
2．大学院終了後直ちに採用された者や、大学の非常勤講師等として勤務し、常勤の職を有しなかった者は、「採用された高専以外に勤務経験なし」に分類。
3．海外研究歴1年以上の解釈は、研究期間が月計算により12月をクリアしている者を該当者としてカウントした。

（出典　人事委員会議事要録（平成１６年１０月））

資料３－１－④－６　優れた教員の確保に関する検討事項

教員の学位等の取得状況に基づく検討資料

H16. 10. 1現在

①専門科目　（人）

区　分	博士	修士	学士	技術士	一級海技士
教　授	20(10)	2(2)	1	1(1)	－
助教授	13	8(2)	1	－	－
講　師	2	2	0	－	－
助　手	4	3	0	－	－

②理系の一般科目　（人）

区　分	博士	修士	学士	技術士	一級海技士
教　授	0	4(4)	2(1)	－	－
助教授	2	1	0	－	－
講　師	1	0	0	－	－
助　手	1	0		－	－
①+②	43(10)	20(8)	4(1)	1(1)	

（現状分析）
平成16年10月1日現在の①及び②より専門科目（理系の一般科目を含む。）における博士及び高度な資格を有する者の割合は、67人中43人で64．2%（目標70%）（技術士所有者は博士学位所有者のため1名でカウントした。）

（今後の方針）
現行の教員選考基準に沿った選考の継続

（最終予測）　平成20年度までに定年退職者を選考基準どおり学位を有する者で雇用すると、67人中52人の所有となり、割合では77．6%の予定。

③理系以外の一般科目　（人）

区　分	博士	修士	学士
教　授	1	2	3(1)
助教授	1	3	2
講　師	1	1	0
助　手	0	0	0
合　計	3	6	5(1)

学士5人中4人が公立学校教員民間歴を有する。

（現状分析）
平成16年10月1日現在の③より、理系以外の担当教員における修士以上学位を有する者及び学士でも民間等の経歴を有する者の割合は、14人中13人で92．9%（目標80%）

（今後の方針）
定年予定者の後任補充については、現行の教員選考基準に基づく選考を行い、博士学位所有者を補充する。
また、昇任を伴う場合には、博士学位取得をも促す。

（最終予測）
現状の割合の確保。

（注）
①～③共通
・常勤者についてのみの調査
・平成21年3月31日までに定年退職が予定されている者は内数として（　）に記入。
・博士は課程博士及び論文博士の両方を含む。

（出典　人事委員会議事要録（平成１６年１０月））

資料３－１－④－７　学位取得等の状況

○「高度な資格保有者の割合」

専門教科教員（理系の担当教員，専門基礎担当教員を含む）

	教授	助教授	講師	助手	合計
博士の学位もしくは技術士	20	13	7	5	45
割合（45/57（57名中11名は理系の一般教科担当教員））					78.9%

＊　中期計画の達成目標：専門科目（理系一般教科を含む）担当教員全体の７０％以上
（平成１６年１０月現在では６４．２％）

○「修士以上の学位取得者，民間企業等での経験者の割合」

理系以外の一般教科担当教員（理系の担当教員，専門基礎担当教員を含まず）

	教授	助教授	講師	合計
修士以上の学位取得者	3	5	1	9
民間企業等での経験者	6	1	1	8
合　計	7(2)	5(1)	1(1)	13
割合（13/14）				92.8%

＊　中期計画の達成目標：理系以外の一般教科担当教員全体の８０％以上
（平成１６年１０月現在では９２．８％）

○「多様な経験を持つもの，及び１年以上の海外渡航研究歴を有する者の割合」

	教授	助教授	合計
民間企業等での経験者や 1 年以上の海外渡航研究歴を有する教員	20	13	33
割合（33/62）			53.2%

＊　中期計画の達成目標：教授，助教授全体の６０％以上
（平成１６年１０月現在では５３．１％）

（出典　庶務課人事係作成資料（資料３－１－④－４，５）から集計）

資料３－１－④－８　独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則

独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第２８号
平成１６年４月１日

（目的）
第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（以下「教職員就業規則」という。）第４２条第１項，第２項及び第４項並びに独立行政法人国立高等専門学校機構船員就業規則（以下「船員就業規則」という。）第４６条第１項，第２項及び第４項の規定に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の教職員の研修に関し，必要な事項を定めることを目的とする。

（研修の目的）
第２条　研修は，教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識，技能等を修得させ，その他その遂行に必要な教職員の能力，資質等を向上させることを目的とする。

（理事長の責務）
第３条　理事長は，研修計画を立て，実施するに当たっては，研修の効果を高めるために教職員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮しなければならない。
２　理事長は，必要と認められるときは，機構外の研修機関，学校その他の機関に委託して研修を行うことができる。

（執務を通じての研修）
第４条　理事長は，執務を離れての研修を命ずる場合のほか，教職員の監督者をして，教職員に対し，日常の執務を通じて必要な研修を行わせるものとする。
２　理事長は，前項に規定する執務を通じての研修が適切に行われることを確保するため，教職員の監督者に対し，指導その他の措置を講ずるものとする。

（執務を離れての研修）
第５条　理事長は，必要と認めるときは，教職員に日常の執務を離れて専ら研修を受けることを命ずることができる。
２　前項の規定に基づく研修の課業時間（講義，演習，自習等の課業のための時間をいう。以下同じ。）は，次に掲げるところに従い定めるものとする。。
一　研修の効果的実施，研修の目的・内容等のため特に必要があると認められる場合，講師又は施設確保のためやむを得ないと認められる場合等を除き，労働時間内に置くものとし，かつ，１日につき８時間以内とする。
二　教職員が１日の執務の全部を離れて研修を受ける場合における当該研修の課業時間は，１週間につき，当該研修を受ける教職員の１週間の労働時間を超えず，かつ，その４分の３を下らないものとすること。ただし，研修の目的，内容等に照らしてこの

- 1 -

２～３ページは，省略

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の研修に関する規則）

資料３－１－④－９　独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員制度実施要項

独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員制度実施要項

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定
平成１６年４月１日

（目的）
第１条　この制度は，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の教員に対し，勤務場所をはなれてその専攻する学問分野の研究に専念させ，教授研究能力を向上させることを目的とする。

（定義）
第２条　内地研究員とは，前条の目的により機構から派遣される教員をいう。（以下「内地研究員」という。）

（資格）
第３条　内地研究員になることのできる者は，教授，助教授，講師（常時勤務の者に限る。）及び助手とする。ただし，教授については，教育研究上特に必要がある場合に限るものとする。

（研究期間）
第４条　内地研究員の研究期間は，６か月以上１０か月以内とする。ただし，特別の事情がある場合にはこの期間を延長し，または短縮することができる。

（研究方法）
第５条　内地研究員は，国立大学法人（特別の事情がある場合は，国立大学法人以外の大学，研究所，その他の研究機関とすることができるものとし，以下「受け入れ機関」という。）において指導教授等の指導のもとに，当該受け入れ機関の施設，設備を利用して研究に従事するものとする。

（受け入れ機関との交渉）
第６条　内地研究員の所属する学校（以下「派遣学校」という。）の校長は，受け入れ機関の長に対し，あらかじめ内地研究員受け入れ依頼書（別紙様式１）により内地研究員の受け入れを依頼し，その承諾を得なければならない。

（決定）
第７条　派遣学校の校長は，内地研究員を決定し，その旨を受け入れ機関の長に通知する。

（旅費）
第８条　内地研究員に支給する旅費については，機構旅費取扱規則及び機構日額旅費支給規則の定めるところによる。

（研究費）
第９条　派遣学校は，内地研究員の研究費として，次に掲げる額を受け入れ機関に対して支払うものとする。

教　授	月額	２８，０００円
助教授	月額	１５，０００円
講　師	月額	１１，０００円
助　手	月額	７，０００円

２ページは，省略

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員制度実施要項）

資料３－１－④－１０　平成１７年度「国立高等専門学校機構在外研究員」募集要項

平成17年度「国立高等専門学校機構在外研究員」募集要領

平成１７年８月１２日
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

1．目　的

「国立高等専門学校機構在外研究員」は、国立高等専門学校の教職員を海外の教育研究機関等に派遣し、先進的な研究や優れた教育実践に参画させることなどにより、教育研究能力の向上を図り、もって各国立高等専門学校の教育研究を充実させることを目的とする。

2．概　要

（1）申請者
校長

（2）応募人数
１人以内

（3）派遣期間
原則１年以内、２ヵ年度にまたがる場合も可

（4）選定予定人数等
①選定予定人数
おおむね３０人程度

②支援内容
申請額の２分の１以内を限度として支援

（5）選定方法等
機構本部の選定委員会で選定

3．申請方法

（1）書式
別紙「平成１７年度『国立高等専門学校機構在外研究員』申請書記入要領」に基づき、申請書（様式1）を作成し、校長から理事長あてに提出するとともに、電子メールにて電子ファイルを送信。

（2）締切
郵送又は持参のいずれかの方法により１部を９月１２日（月）までに提出（当日必着）。

- 1 -

２ページ目，省略

（出典　平成１７年度「国立高等専門学校機構在外研究員」募集要項）

資料３－１－④－１１　独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第４２条に基づく研究研修

事　務　連　絡
平成１８年４月１３日

教　員　各　位

校　　長

平成１８年度研究研修について

このことについて、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第４２条に基づき、平成１８年度の研究研修を希望される場合には、下記により「研究研修願」に必要事項を記入のうえ、４月２１日（金）までに、庶務課人事係へ提出願います。

なお、平成１８年度より教員が博士号取得のため、大学等の研究機関で研究論文指導等を受ける場合、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第３４条第１項第七号に基づき承認をとることで、職務専念義務が免除されることとなりました。この場合は、研究研修とは別の取り扱いとなりますので、該当される場合は、庶務課人事係までご連絡下さい。

記

提出書類　「研究研修願」

留意事項　①　授業・学生指導等の校務を優先することを前提とし、必ず事前に所属の学科主任に了解を得、「研究・研修願」に承認印を受けること。

②　兼業の許可又は承認手続き済みの者は、授業時間割編成上、兼業従事日と併せて週１日以内とすること。

③　研究研修の内容等に変更が生じた場合は、その都度、速やかに届け出ること。

（出典　平成１８年度研究研修について）

資料３－１－④－１２　平成１７年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項

平成１７年度国立高等専門学校教員顕彰実施要項

平成１７年１０月１１日
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

１．顕彰要項

（１）趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが，一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。高等専門学校教員個々に対する業績評価は，これらを総合して行われるべきものであるが，現状においては，ともすれば専門の研究業績のみが重視され，学生教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。このような観点から，管理運営やＦＤ活動を含み，学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに，顕彰を通じて高専における教育の充実・向上を目指すものである。

（２）顕彰基準

国立高等専門学校における教育活動，学生生活指導，地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者とする。

（３）賞の名称

国立高等専門学校教育業績賞とし，以下の賞を設ける。

文部科学大臣賞	１名
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞	若干名
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞	若干名

（４）候補者の推薦

下記２の候補者推薦要領により，各国立高等専門学校校長が行う。

（５）顕彰対象者の決定

上記によって推薦された候補者の中から，下記３の顕彰対象者選考要領に基づいて選考委員会が顕彰教員を選考・決定し、文部科学省へ表彰の依頼をする。

（６）顕彰の時期

平成１８年３月開催予定の校長会議の席上で行う。

２．候補者推薦要領

（１）推薦基準

①別に定める教員による自己評価（第１部），教員による相互評価（第２部），学生による教員の評価（第３部）の総合評価に基づき候補者の選考を行う。

②教員による自己評価（第１部）の点数集計を行う際に，一般教科担当教員で卒業研究，留学生を担当しない場合は，「Ａ．５卒業論文指導の状況等」及び「Ａ．６留学生の指導等」を自己採点しないので合計点（満点）が変わることとなり，不利になるため，この場合の取扱いを次のようにする。

※　専門学科教員のＡ．５（満点 11 点），Ａ．６（満点６点），合計（満点 17 点）の自己採点結果の平均点（例えば，Ａ．５（７点），Ａ．６（２点），合計（９点））を一般教科担当教員全員の共通の点数とする。なお，合計点（満点 170 点）は，変更しないこととする。

1

２ページ目，省略

（出典　平成１７年度国立高等専門学校機構教員顕彰実施要項）

資料３－１－④－１３　奈良工業高等専門学校教員顕彰内規

奈良工業高等専門学校教員顕彰内規

平成１６年　１月１３日制定
主事会議了承事項

（趣　旨）
第１条　国立高等専門学校協会（以下「国専協」という。）主催の教員顕彰候補者に、奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）から推薦された者に対する表彰について、必要な事項を定める。

（被表彰者）
第２条　本校教員顕彰による表彰者は、国専協主催の教員顕彰候補者として本校から推薦された者を対象とする。
ただし、当該年度において、推薦者が国立高等専門学校教育業績賞のいずれかの賞を受賞した場合は表彰しないものとする。

（表彰状の授与）
第３条　表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。
２　前項の表彰状に併せて記念品を贈呈することができる。

（雑　則）
第４条　この内規に定めるものの他、表彰の実施等に関して必要な事項は、別に定めることができる。

附　則
この内規は、平成１６年１月１３日から施行し、平成１５年１２月１５日から適用する。

（出典　奈良工業高等専門学校教員顕彰内規）

資料３－１－④－１４　奈良工業高等専門学校教員顕彰推薦者・受賞者一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　奈良工業高等専門学校教員顕彰推薦者・受賞者一覧）

観点３－２－①：　教員の採用や昇格等に関する規定等が明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の採用（非常勤講師の新規採用を含む）及び昇任その他人事に関し，人事委員会（資料３－２－①－1）が置かれ，教員の採用，昇任等，教員の選考に関しては，奈良工業高等専門学校教員選考基準（資料３－２－①－２）が定められている。教員の採用に関しては，学科主任が校長の了承を得てから庶務課長に手続きを依頼し（資料３－２－①－３），公募文書（資料３－２－①－４）を高専・大学他に配布する（資料３－２－①－５）と共に，本校ホームページ（資料３－２－①－６），ネット（資料３－２－①－７）等で広く公開している。毎回多くの応募があり（資料３－２－①－８），採用にあたっては，応募書類，教員選考個人調書（資料３－２－①－９）により，人事委員会の答申（資料３－２－①－１０）を受け，校長が決定し，採用（資料３－２－①－１１）している。

教員の昇任に関しても，教員選考個人調書により教育・研究上の能力等を考慮・評価し，人事委員会の答申（資料３－２－①－１０）を受け，校長が決定（資料３－２－①－１２）している。さらに，「昇任に係る特記事項」（資料３－２－①－１３）を各科の主任から本人へ指示するようになっている。

非常勤講師の新規採用に関しては，履歴書，非常勤講師選考個人調書（資料３－２－①－１４）によって，教育研究上の能力等を考慮・評価し，人事委員会（資料３－２－①－１５）の答申を受けて，校長が決定（資料３－２－①－１６）している。

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用（非常勤講師の新規採用を含む）及び昇任その他人事に関しは，校長が必要に応じて諮問する事項を審議するため人事委員会が置かれ，教育・研究上の能力等を考慮・評価し，人事委員会の答申を受け，校長が決定している。

従って，教員の採用や昇格等に関する規定等が明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされている。

資料３－２－①－1　奈良工業高等専門学校人事委員会規程

奈良工業高等専門学校人事委員会規程

（趣旨）

第１条　奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の採用（非常勤講師の新規採用を含む。）及び昇任その他人事に関し、校長が必要に応じ諮問する事項を審議するため人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、任期は１年とする。ただし、再任を妨げない。

一　教務主事

二　教授の中から校長が選任した各学科及び一般教科の代表各１名

２　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

３　委員会は、委員長が召集し、その議長となる。

４　委員会は、委員の４分の３以上の出席をもって成立し、出席委員の３分の２以上をもって結論を出すものとする。

５　委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

６　校長は、委員会に出席し、意見を述べることができる。

７　委員長は、委員会の結論について、速やかに校長に報告しなければならない。

（事務）

第３条　委員会の事務は、庶務課において処理する。

（その他）

第４条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会において別に定める。

附　則

１　この規程は、平成１６年１１月１１日から施行する。

２　奈良工業高等専門学校人事委員会規則（平成１４年１月１日制定）は廃止する。

（出典　奈良工業高等専門学校人事委員会規程）

資料３－２－①－２　奈良工業高等専門学校教員選考基準

奈良工業高等専門学校教員選考基準

平成１４年　５月　１６日
人 事 委 員 会 確 認 事 項

１．奈良工業高等専門学校人事委員会規則第１条の規程により、校長から諮問された事項について、人事委員会では次により審議をするものとする。

２．採用候補者は、原則として博士の学位を有する者とし、その選考は応募書類により審議するものとするが、委員会が特に必要と認めた時は面接を行うことがある。ただし、一般教科の教員及び各学科の助手については、適任者が得られない場合に限り修士の学位を有する者を候補者とすることができる。

３．内部からの昇任候補者は、申請書類により審議するものとする。

４．採用、昇任等、教員の選考に際しては、高等専門学校設置基準（昭和３６年文部省令第２３号）及び国立高等専門学校教員選考方針（昭和３７年３月３０日文部大臣裁定）に定めるもののほか、教育（学生指導も含む。以下同じ）、研究、学校運営及び社会貢献、並びに人物の総合評価により行う。

なお、研究については、次の各号を基準とする。ただし、教育、学校運営、社会貢献等で特に優れていると認められる者については、別途考慮するものとする。

（１）　教　授　　過去５年以内に３編以上の著書・論文等を有する者
（２）　助教授　　過去５年以内に３編以上の著書・論文等を有する者
（３）　講　師　　過去５年以内に２編以上の著書・論文等を有する者
（４）　助　手　　過去５年以内に１編以上の著書・論文等を有する者

（　論文等とは、原則として査読を経たものをいい、学位論文は含まないものとし、特許等を有する者は、論文等に加えることができる。　）

（出典　奈良工業高等専門学校教員選考基準）

資料３－２－①－３　**教員公募の依頼**

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－４　教員公募の案内文書

奈高専人第 710 号
平成１８年　1月 23 日

関係機関の長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長
一　岡　芳　樹
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび本校では下記の要領で教員を公募することになりました。
つきましては、貴機関関係者へのご周知方よろしくお願い申し上げます。

記

１．職名・人員　助手 １ 名
２．所属学科　電子制御工学科
３．専門分野　電気・電子工学、電子デバイス関連分野
４．担当科目　（予定）電子工学、電磁気学、工学実験
５．応募資格　次の（１）～（３）すべてを満たす方
(1) 平成１８年４月１日現在満３０歳以下の方
(2) 博士の学位を有するか、着任までに取得が見込まれる方
(3) 高等専門学校の本科及び専攻科の教育・研究・学生指導（課外活動を含む）・校務に熱心に取り組む意欲のある方
６．採用予定日　採用決定後できるだけ早い時期
７．提出書類　(1) 履歴書（市販履歴書に自筆で記入し、写真を貼付）
(2) 教育・研究業績リスト（学術・教育論文、著書、学会口頭発表、企業経験者においては業務経歴等、その他受賞歴等の追記も可。(A4 版用紙使用、書式は自由)
(3) 主要著書・論文の別刷５編以内（各１部、コピー可、それぞれについて A4 用紙１枚の概要（500 字程度・書式は自由）を添付のこと）
(4) 着任後の高等専門学校における教育・研究に対する抱負
（A４版用紙１枚、1,500 字程度、書式は自由）
(5) 推薦状（自薦の場合は応募者本人の所見を伺える方の氏名・連絡先等を明記のこと）（A４版用紙使用、書式は自由）
※　提出書類は特に申し出がない限り原則として返却いたしません。
８．応募締切　平成１８年５月１５日（月）　必着
９．選考方法　第１次選考　書類審査
（５月下旬頃までに合否を応募者に直接連絡します。）
第２次選考　第１次選考合格者を対象に面接審査
（５月下旬～６月上旬を予定）
※　面接に伴う旅費、宿泊費等は応募者の負担とします。
10．問い合わせ先　奈良工業高等専門学校
電子制御工学科　教授　島　岡　三　義
Tel:0743-55-6121, E-mail:shimaoka@ctrl.nara-k.ac.jp
11．書類提出先　〒639-1080　奈良県大和郡山市矢田町２２番地
奈良工業高等専門学校庶務課人事係　Tel:0743-55-6014
（封筒に「電子制御工学科教員応募書類在中」と朱書きの上、配達記録で郵送願います。）

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－５　教員公募の案内文章送付先（一例）

大学送付先リスト

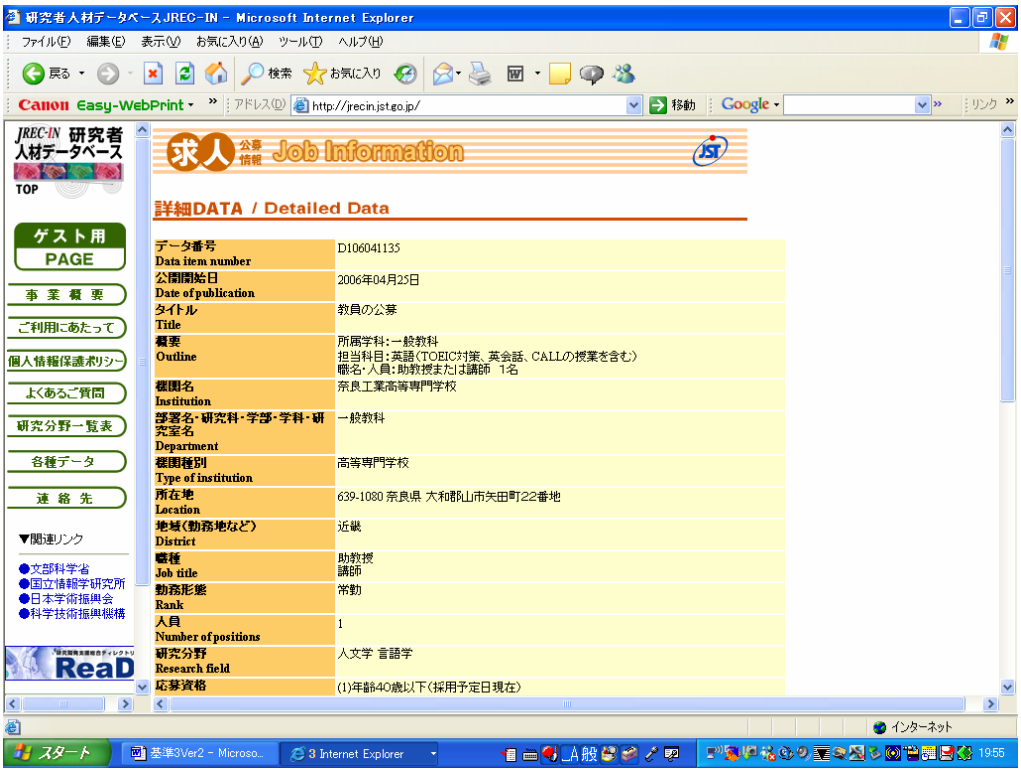
出力	区分1	区分2	学校名	宛名2	郵便番号	都道府県	住所
1	国立	大学	北海道大学	大学院工学研究科長	060-0808	北海道	札幌市北区北8条西5
1	国立	大学	室蘭工業大学	大学院工学研究科長	050-8585	北海道	室蘭市水元町27－1
1	国立	大学	北見工業大学	大学院工学研究科長	090-8507	北海道	北見市公園町165
1	国立	大学	弘前大学	大学院理工学研究科長	036-8561	青森県	弘前市文京町3
1	国立	大学	岩手大学	大学院工学研究科長	020-8551	岩手県	盛岡市上田4－3－5
1	国立	大学	東北大学	大学院工学研究科長	980-8579	宮城県	仙台市青葉区荒巻字青葉
1	国立	大学	秋田大学	大学院工学資源学研究科長	010-8502	秋田県	秋田市手形学園町1－1
1	国立	大学	山形大学	大学院理工学研究科長	992-8510	山形県	米沢市城南4－3－16
1	国立	大学	福島大学	理工学群長	960-1296	福島県	福島市金谷川1
1	国立	大学	茨城大学	大学院理工学研究科長	316-8511	茨城県	日立市中成沢町4－12－1
1	国立	大学	筑波大学	大学院システム情報工学研究科	305-0006	茨城県	つくば市天王台1－1－1
1	国立	大学	宇都宮大学	大学院工学研究科長	321-8585	群馬県	宇都宮市陽東7－1－2
1	国立	大学	群馬大学	大学院工学研究科長	376-8515	群馬県	桐生市天神町1－5－1
1	国立	大学	埼玉大学	大学院理工学研究科長	338-8570	埼玉県	さいたま市桜区下大久保255
1	国立	大学	千葉大学	大学院自然科学研究科長	263-8522	千葉県	千葉市稲毛区弥生町1－33
1	国立	大学	東京大学	大学院工学系研究科長	113-8655	東京都	文京区本郷7－3－1
1	国立	大学	東京農工大学	大学院工学教育部長	184-0012	東京都	小金井市中町2－24－16
1	国立	大学	東京工業大学	大学院理工学研究科長	152-8552	東京都	目黒区大岡山2－12－3
1	国立	大学	電気通信大学	大学院電気通信学研究科長	182-8585	東京都	調布市調布ヶ丘1－5－1
1	国立	大学	横浜国立大学	大学院工学研究部長	240-8501	神奈川県	横浜市保土ヶ谷区常盤台79－1
1	国立	大学	新潟大学	大学院自然科学研究科長	950-2181	新潟県	新潟市五十嵐2の町8050
1	国立	大学	長岡技術科学大学	大学院工学研究科長	940-2188	新潟県	長岡市上富岡町1603－1
1	国立	大学	富山大学	大学院理工学研究科長	930-8555	富山県	富山市五福3190
1	国立	大学	金沢大学	大学院自然科学研究科長	920-8667	石川県	金沢市小立野2－40－20
1	国立	大学	福井大学	大学院工学研究科長	910-8507	福井県	福井市文京3－9－1
1	国立	大学	山梨大学	大学院医工学総合教育部	400-8511	山梨県	甲府市武田4－3－11
1	国立	大学	信州大学	大学院工学系研究科長	380-8553	長野県	長野市大字若里4－17－1
1	国立	大学	岐阜大学	大学院工学研究科長	501-1193	岐阜県	岐阜市柳戸1－1
1	国立	大学	静岡大学	大学院理工学研究科長	432-8561	静岡県	浜松市城北3－5－1
1	国立	大学	名古屋大学	大学院工学研究科長	464-8603	愛知県	名古屋市千種区不老町
1	国立	大学	名古屋工業大学	大学院工学研究科長	466-8555	愛知県	名古屋市昭和区御器所町
1	国立	大学	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科長	441-8580	愛知県	豊橋市天伯町字雲雀ケ丘1－1
1	国立	大学	三重大学	大学院工学研究科長	514-8507	三重県	津市栗真町屋町1577
1	国立	大学	京都大学	大学院工学研究科長	606-8501	京都府	京都市左京区吉田本町
1	国立	大学	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科長	606-8585	京都府	京都市左京区松ヶ崎御所海道町
1	国立	大学	大阪大学	大学院工学研究科長	565-0871	大阪府	吹田市山田丘2－1
1	国立	大学	大阪大学	大学院基礎工学研究科長	560-8531	大阪府	豊中市待兼山町1－3
1	国立	大学	大阪大学	大学院情報科学研究科長	565-0871	大阪府	吹田市山田丘1－5
1	国立	大学	神戸大学	大学院自然科学研究科長	657-8501	兵庫県	神戸市灘区六甲台町1－1
1	国立	大学	和歌山大学	大学院システム工学研究科長	640-8441	和歌山県	和歌山市栄谷930
1	国立	大学	鳥取大学	大学院工学研究科長	680-8552	鳥取県	鳥取市湖山町南4－101
1	国立	大学	島根大学	大学院総合理工学研究科長	690-8504	島根県	松江市西川津町1060
1	国立	大学	岡山大学	大学院自然科学研究科長	700-8530	岡山県	岡山市津島中3－1－1
1	国立	大学	広島大学	大学院工学研究科長	739-8527	広島県	東広島市鏡山1－4－1
1	国立	大学	山口大学	大学院理工学研究科長	755-8611	山口県	宇部市常盤台2－16－1
1	国立	大学	徳島大学	大学院工学研究科長	770-8506	徳島県	徳島市南常三島町2－1
1	国立	大学	香川大学	大学院工学研究科長	761-0396	香川県	高松市林町2217－20
1	国立	大学	愛媛大学	大学院理工学研究科長	790-8577	愛媛県	松山市文京町3
1	国立	大学	九州大学	大学院工学府長	812-8581	福岡県	福岡市東区箱崎6－10－1
1	国立	大学	九州工業大学	大学院工学研究科長	804-8550	福岡県	北九州市戸畑区仙水町1－1
1	国立	大学	佐賀大学	大学院工学系研究科長	849-8502	佐賀県	佐賀市本庄町1
1	国立	大学	長崎大学	大学院生産科学研究科長	852-8521	長崎県	長崎市文教町1－14
1	国立	大学	熊本大学	大学院自然科学研究科長	860-8555	熊本県	熊本市黒髪2－39－1
1	国立	大学	大分大学	大学院工学研究科長	870-1192	大分県	大分市大字旦野原700
1	国立	大学	宮崎大学	大学院工学研究科長	889-2192	宮崎県	宮崎市学園木花台西1－1
1	国立	大学	鹿児島大学	大学院理工学研究科長	890-8580	鹿児島県	鹿児島市郡元1－21－24
1	国立	大学	琉球大学	大学院理工学研究科長	903-0213	沖縄県	中頭郡西原町字千原1
1	国立	大学	北陸先端科学技術大学院大学	学長	923-1292	石川県	能美市旭台1－1
1	国立	大学	奈良先端科学技術大学院大学	学長	630-0192	奈良県	生駒市高山町8916－5
1	公立	大学	秋田県立大学	大学院システム科学技術研究科	015-0055	秋田県	由利本荘市土谷字海老ノ口84－4
1	公立	大学	前橋工科大学	学長	371-0816	群馬県	前橋市上佐鳥町460－1
1	公立	大学	首都大学東京	大学院工学研究科長	192-0397	東京都	八王子市南大沢1－1
1	公立	大学	富山県立大学	大学院工学研究科長	939-0398	富山県	射水群小杉町黒河5180
1	公立	大学	滋賀県立大学	大学院工学研究科長	522-8533	滋賀県	彦根市八坂町2500
1	公立	大学	大阪市立大学	大学院工学研究科長	558-8585	大阪府	大阪市住吉区杉本3－3－138
1	公立	大学	大阪府立大学	大学院工学研究科長	599-8531	大阪府	堺市学園町1－1
1	公立	大学	兵庫県立大学	大学院工学研究科長	671-2201	兵庫県	姫路市書写2167

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－６　奈良高専ホームページによる教員公募案内

（出典　奈良高専ホームページによる教員公募案内）

資料３－２－①－７　ネットによる教員公募案内



（出典　ネットによる教員公募案内）

資料３－２－①－８　教員公募における応募状況（一例）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－９　教員選考個人調書（記入例）

（第２号様式）

〈記入上の注意・記入例〉

教員選考個人調書

（表面）

採用・昇任の別	採 用	※	（平成　年　月　日作成

①ふりがな 氏　名	なら　たろう　男・女 奈 良 太 郎 （昭和40年2月　4　日生　３７歳）	現住所	大和郡山市矢田町

② 採用又は昇任後の職名	② 助　手　（機械工学科）	④発令希望年月日	平成14年10月1　日
③ 現　職	③ （　工学科）		

⑤ 担当授業科目	採用・昇任後担当科目		⑥ 最終学歴	（記入例）昭和○○年○○月○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程修了（指導教官○○○○教授）
	現在担当科目		⑦ 学位・称号	（記入例）修士（○○学）（平成○年○月○日○○大学）
⑧ 教歴及び職歴の概要	（記入例）（古い順に記入） 昭和○年○月○日～昭和○年○月○日　○○高校教諭専任（○年○月） 昭和○年○月○日～昭和○年○月○日（株）○○製作所研究員（○年○月） 昭和○年○月○日～平成○年○月○日　○○工業高等学校○○学科助手（○年○月）		⑨ 資格免許状	
			⑩ 教歴及び職歴の年数	教歴○年○月（○.○） 職歴○年○月（○.○） 計　○年○月（○.○）

⑪ 高等専門学校における主事、主事補歴	（記入例）（主事、主事補のみ記入） 昭和○年○月○日～昭和○年○月○日　○○主事補（○年○月）
⑫ 高等専門学校における専攻科主任、図書館長、総合情報センター長	（記入例）（専攻科主任、図書館長、総合情報センター長、学科主任のみ記入） 昭和○年○月○日～昭和○年○月○日　○○学科主任（○年○月）

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－９　教員選考個人調書（記入例）

、学科主任歴	
⑬ 上記以外の高等専門 学校における学生指導 歴等	（記入例）（古い順に記入） 昭和○年○月○日～昭和○年○月○日　○○クラブ顧問（○年○月） 昭和○年○月○日～平成○年○月○日　学級担任（○年○月） 平成○年○月○日～平成○年○月○日　○○委員会委員（○年○月）

（２－１）

（裏面）

⑭ 研究歴等	在外研究員歴	（記入例）昭和○年○月○日～平成○年○月○日　在外研究員　○○大学（……について）
	内地研修歴	（記入例）昭和○年○月○日～平成○年○月○日　内地研究員　○○大学（……について）
	科研費、その他外部資金分	（記入例）平成○年度　科学研究費一般研究（A）（……について）
	賞罰	（記入例）平成○年度　○○学会技術奨励賞
⑮ 教育・研究上の業績 （企業の各部門における実践を含む）		
⑯ その他特記すべき事項		

（２－２）

（記入上の注意）

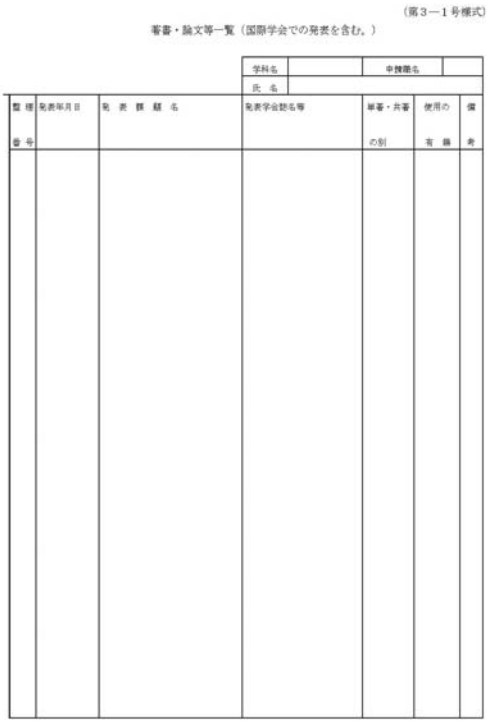
1　総括的事項

(1)　昇任は、当該高等専門学校の同一学科において上位の職に任用する場合をいう。前記以外は採用として扱う。

従って、昇任を伴わない国立高等専門学校間又は当該高等専門学校の学科間の異動は、

（出典　庶務課人事係保管資料）

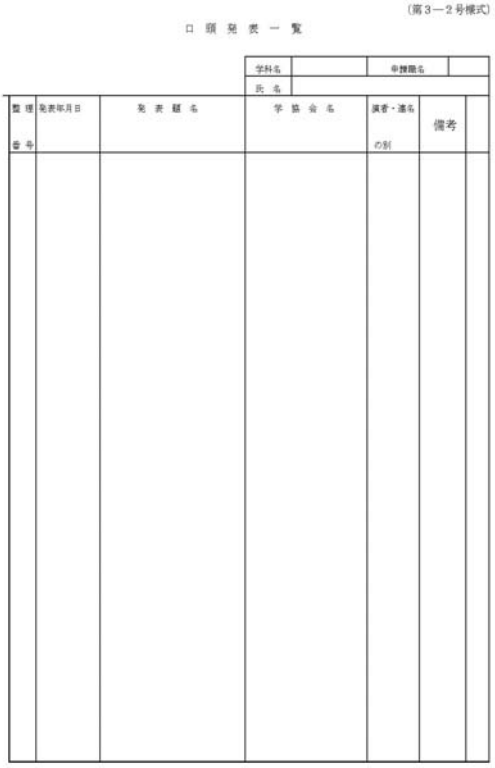
資料３－２－①－９　教員選考個人調書



（第３－１号様式）

著書・論文等一覧（国際学会での発表を含む。）

			学科名		申請職名		
			氏　名				
整理番号	発表年月日	発表題名	発表学会誌名等		単著・共著の別	使用の有無	備考



（第３－２号様式）

口頭発表一覧

			学科名		申請職名	
			氏　名			
整理番号	発表年月日	発表題名	学協会名	講者・連名の別	備考	

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－１０　人事委員会

〔非開示につき省略〕

（出典　人事委員会議事録（平成１７年１２月））

資料３－２－①－１０　人事委員会

〔非開示につき省略〕

（出典　人事委員会議事録（平成１７年１２月））

資料３－２－①－１１　採用実績表

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係作成）

資料３－２－①－１２　昇任実績表

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係作成）

資料３－２－①－１３　教員の選考について

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－１４　非常勤講師選考個人調書

写真貼付欄

非常勤講師選考個人調書

（平成　　年　　月　　日　作成）

ふりがな 氏　名	男・女 （昭和　　年　　月　　日生　　歳）	現住所	〒　　－ （℡　　）
現　職　名 （勤務等職名がない場合　は記入不要です。）		最終学歴	年　月　修了 （指導教官　　）
採用後 担当授業科目名		学位・称号	博士（　　） （　年　月　日　大学）
		資格免許状 （教員免許等）	
教歴及び職歴の概要	年　月　日 年　月　日 年　月　日 年　月　日 年　月　日 年　月　日 年　月　日 年　月　日 教　歴　　年　月　　職　歴　　年　月		
賞　罰　事　項			

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－１４　非常勤講師選考個人調書

教育、研究活動歴、 学会活動歴、 社会貢献活動歴等 について	

代表的な著書・論文、口頭発表等一覧（国際学会での発表を含む。）

（平成１２年４月１日以降）

整理番号	著書・論文には○を付す。	発表年月	発表課題	発表学会誌、発表協会名等	単著・共著 単独・連名の別

以上のとおり相違ありません。

平成　　年　　月　　日

本人署名捺印＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

印

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－１４　非常勤講師選考個人調書

選　考　説　明　書
平成　　年　　月　　日 学科主任　　印

記　入　上　の　注　意（候補者用）

・写真はモノクロ、カラーどちらでも可です。

・年齢は平成１７年４月１日における年齢を記入願います。

・現職名は、現在、大学、短期大学、高等専門学校及び高等学校等に勤務している者については、職名及び、所属学部学科（一般科目にあっては担当授業科目名）を、企業等に勤務している者については、会社名、所属部課係名又は試験所名、現職名を記入願います。

・最終学歴欄は以下のように記入願います。
ア　大学等名及び卒業（修了）年月日を記入願います。
イ　大学院修了の場合は指導教官名を記入願います。ただし、学部卒業以下の場合は不要です。
ウ　大学院研究科中退の場合は、最終学歴（大学名）及び大学院在学期間等を記入願います。

・学位・称号欄については、学位又は称号を有する者について記入願います。博士又は修士の学位を有する者については、取得年月日及び取得大学等を（　）書き願います。

・資格免許状欄について、教員免許を持っている者は必ず記入願い、授業担当科目に関連あるものについて記入願います。

・教職及び職歴の概要欄について、教職及び職歴の古い順に記入するとともに、専任（常勤）、兼任（非常勤）の別を明記願います。なお教歴、職歴毎に年数も記入願います。

・教育、研究活動歴等欄については、教歴及び職歴等を通じて活動してきた内容等について、必ず記入願います。

・著書・論文等一覧、口頭発表一覧欄については、平成１２年４月１日以降の代表的なものを、発表年月日の古い順に整理番号を付して記入願います。

・本人署名捺印欄については、必ず自筆で記入頂き、押印願います。（シャチハタは不可です。）

（出典　庶務課人事係保管資料）

資料３－２－①－１５　人事委員会議事録

〔非開示につき省略〕

（出典　人事委員会議事録（平成１８年３月））

資料３－２－①－１６　非常勤講師の発令

〔非開示につき省略〕

（出典　平成１７年度非常勤講師の発令の原議書）

観点３－２－②：　教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制として，点検・評価委員会担当の学生による授業アンケート，教職員による公開授業（資料３－２－②－1）（平成１６年度からFD委員会で担当（資料３－２－②－２））がある。その他，国立高等専門学校機構による教員顕彰（資料３－１－④－１２），奈良工業高等専門学校教員顕彰（資料３－１－④－１３）がある。

授業アンケートについては，平成６年度から毎年実施されており（資料３－２－②－３，４），授業アンケート結果は，冊子にまとめられ，すべての教科において公開されている（資料３－２－②－５，６）。

公開授業については，平成１５年度から毎年実施されており（資料３－２－②－1），平成１７年度奈良高専公開授業実施の案内（資料３－２－②－７）に示すように公開授業実施要領が定められ，参観授業に対するコメントが記入された報告書（資料３－２－②－８）が，参観者から授業担当者に配布されることにより，授業改善に生かされている。また，公開授業終了後，点検・評価委員会（資料３－２－②－９）及びFDで公開授業の内容が報告（資料３－２－②－１０）されている。

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制として，平成６年度から毎年実施されている学生による授業アンケート，教職員による公開授業及び教員顕彰の体制が整備され，評価が実施されている。**また，その結果把握された事項に対して適切な取り組みがなされている。**

資料３－２－②－１　授業アンケート，公開授業実施について

〔非開示につき省略〕

（出典　第４回点検・評価委員会議事要録（平成１５年９月））

資料３－２－②－２　授業アンケート，公開授業実施について

〔非開示につき省略〕

（出典　第１回 FD 委員会議事要録（平成１６年４月））

資料３－２－②－３　平成１６年度授業アンケート報告書（あとがき）

あとがき

平成６年度から毎年実施されてきた授業アンケートも今回で１１回目となった。前年度同様、科目を授業形態に応じて３種類の系に分類した上で、５設問群２０問を基本的な枠組みとし、問題を指摘された項目については、その質問内容を改め、実施した。

例年どおり、アンケート調査は、点検・評価委員会のもとで計画されたが、実施にあたっては、平成１６年度教務委員会に付託された。特に、各学科の教務委員には甚大なご協力を頂いた。ここに記して、謝意を表します。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただいた全教員に感謝申し上げます。さらに、本調査の実施にあたり、ご協力いただいた事務部の方々にもあらためてお礼を申し上げます。（教務委員会）

平成１６年度　教務委員会委員

一般教科	松井良明、金澤直志
機械工学科	坂本雅彦
電気工学科	藤井治久
電子制御工学科	西田茂生
情報工学科	浅井文男、山口智浩
物質化学工学科	片倉勝己

（出典　平成１６年度授業アンケート）

資料３－２－②－４　平成１７年度授業アンケート依頼文

平成１７年１０月２７日

教員・非常勤講師各位

FD 委員会委員長

平成１７年度授業アンケート実施にあたってのお願い

１．調査目的

授業担当教員の授業内容・方法の改善のための参考資料に資するとともに，自己点検評価活動の一環として本校の授業改善に対する組織的な取り組みを広くアピールすることを目的とします。

２．実施方法

（１）調査対象科目は，インターンシップを除く全科目とします。

（２）実施期間：［前期科目］**平成１７年１０月３１日（月）～１１月１７日（木）**
［後期及び通年科目］**平成１７年１２月１４日（水）～平成１８年１月１６日（月）**

（３）授業の開始直後または終了直前の１０～１５分をこの調査にあててください。

（４）実施に先だって，科目ごとの調査結果がクラスに公開されることをはっきりお伝えいただき，この調査の趣旨を学生によく説明してください。

（５）調査用紙は，アンケート用紙（設問，自由記述）とマークシート回答用紙の２種類あります。アンケート用紙は，一般的な講義系科目，実技系科目，実験・実習系科目の３系統に分かれています。系統別に設問の内容が異なっていますので，間違いのないようご注意ください。

（６）回答は，はっきりとていねいにマークするよう，学生を指導してください。

（７）専用の封筒に封入しておりますので，調査回収の際にはそれをご利用ください。また，その封筒にある**「科目コード」**を学生に示し，その科目コードを間違いなく記入するよう学生にご指示ください。

（８）**「C群 10 番と 11 番」**に関して，必ず調査用紙に**「丸」**を記入するよう学生にご指示ください。

（９）調査終了後，マークシート回答用紙は，科目ごと，クラスごとにまとめて，封筒に入れ，統合学科事務室の学科ごとの箱に入れてください。選択科目で学生が複数の学科編成の場合，受講クラス単位で一括して扱い，いずれか一つの学科の箱に返却してください。

(10) 授業アンケート用紙（自由記述を含む）は，授業担当教員で保管してください。

(11) 未使用の用紙は，回答済み用紙とは別にして，**「未使用用紙専用の回収箱」**にお返しください。

以下，省略

（出典　平成１７年度授業アンケート実施にあたってのお願い）

資料３－２－②－５　平成１６年度授業アンケート報告書（表紙）

平成１６年度
授業アンケート報告書

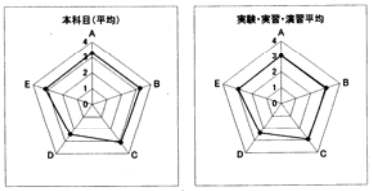
平成17年3月

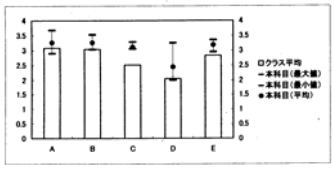
奈良工業高等専門学校

（出典　平成１６年度授業アンケート）

資料３－２－②－６　平成１６年度授業アンケート報告書（一例）

学科	学年	科目	必修・選択	単位数
機械工学科	1	機械工作実習	必修	3





担当教官による分析と課題
A群では，クラス平均より高い評価を受けており，授業の様子として教官側の熱心さは学生に伝わっているように思われる．B群でも，クラス平均より高い評価を受けており，授業の準備や教材の適切さについてもかなりの評価を得ている．また，C群の評価についても，クラス平均より高い評価を受けており，シラバス通り授業が進行され，適切であると学生は評価している．D群も，クラス平均より高い評価を受けており，特に申し分ない．しかし，D群の平均値はクラス平均より高いものの，設問13の評価は低く，予習をする学生が少ないことがわかる．また，設問16の評価も低く，シラバスを活用していない学生が多いことが分かる．しかし，設問15の評価は高く，授業に積極的に取組んでいる様子が分かる．機械工作実習の場合，授業時間中に理解することを心掛けてきたが，今後も，安全作業などに関する予習，復習を積極的に行うための工夫が必要であると考える．

- 20 -

（出典　平成１６年度授業アンケート）

資料３－２－②－７　平成１７年度奈良高専公開授業実施の案内

平成 17 年 10 月 6 日

教職員・非常勤講師各位

FD 委員会委員長

平成 17 年度奈良高専公開授業実施にあたってのお願い

下記の実施要領にしたがい平成 17 年度奈良高専公開授業を実施することになりました。
つきましては、次の点にご留意下さい。

(1) 公開授業実施期間は、**10 月 24 日(月)から 10 月 28 日(金)まで**です。この期間の全ての授業（非常勤講師担当教科及び専攻科教科を含む）を対象としますが、教員（常勤）においては複数の授業を参観してください。

(2) 授業参観にあたっては、当該授業の遂行に迷惑にならないよう教室等からの出入りを静かに行ってください。特に、実技教科・実験・実習・卒研・特別研究などを授業参観される場合、授業参観者は授業の妨害にならないよう、また自らの安全確保に十分ご配慮下さい。

(3) 学校としての FD 資料になりますので、授業参観者は別紙「平成 17 年度奈良高専公開授業参観報告」を必ずご提出下さい。なお、報告書の様式は、必要部数を各自でコピーしてご使用下さい。

(4) 学級担任の先生は、10 月 20 日（木）までに、学生に対して下記要領に基づき公開授業実施の趣旨をご説明下さい。
専攻科については専攻科委員会から学生への周知をお願いします。

(5) その他、不明な点がありましたら下記のＦＤ委員会委員にお尋ね下さい。
校長、３主事、専攻科主任、一般教科：荒金憲一（委員長補佐）、機械工学科：岩井保善、電気工学科：藤井治久、電子制御工学科：中田敏夫、情報工学科：近藤勝也、物質化学工学科：河越幹男、情報メディア教育センター長、事務部長

※公開授業時間割、授業場所等は後期授業時間割が確定しだい配布させていただきます。

平成１７年度奈良高専公開授業実施要領

１．目　的

奈良高専（以下、「本校」という。）の授業を公開することにより、本校教員（非常勤講師を含む。）の教育方法の改善に資することを目的とする。

２．実施形態

公開授業は、下記の実施形態により実施する。

（１） 授業参観者は本校教職員（非常勤講師を含む。）とする。

（２） 公開授業の期間は指定された１週間とし、その週の全ての授業（実技教科・実験・実習・卒研・専攻科授業を含める。）を対象とする。

３．実施方法

公開授業の実施は、下記の方法によるものとする。

（１）本校 FD 委員会は公開授業の計画を策定し、本校教職員（非常勤講師を含む。）に通知する。

（２）授業参観者は別紙様式で授業に対するコメントを記入し、庶務課専門員宛に FD 資料として提出する（授業担当教員へは庶務課専門員から写しを配布する。）。

（３） 授業担当者は、参観者からのコメントを参考にして、授業改善を図るとともに、参観者からの助言要請に応える。

４．所管

公開授業に関する所管は FD 委員会とする。

（出典　運営会議資料（平成１７年１０月））

資料３－２－②－７　平成１７年度奈良高専公開授業実施の案内

平成１７年度奈良高専公開授業参観報告

参観者氏名		所属	

※　非常勤講師の方は、所属欄にその旨記入して下さい。

授　業　日	平成 17 年　　月　　日（　　曜日）　第　　時限		
教　科　名		クラス	
担当教員名		参観時間	約　　分

※　教科名や担当教員名が不明のときは、空欄にしておいて下さい。

（良かった点・参考になった点・改善すればよい点・感想など）
（教えて欲しい点など）

※　記入しにくい点は、直接授業担当者に伝えるか質問するなどしていただいても結構です。

※　本報告書は授業公開の最終日から２週間以内に提出して下さい。

（出典　運営会議資料（平成１７年１０月））

資料３－２－②－８　公開授業参観報告書

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課庶務係保管）

資料３－２－②－９　公開授業の終了について

〔非開示につき省略〕

（出典　第７回点検・評価委員会議事要録（平成１５年１２月））

資料３－２－②－１０　**公開授業のまとめについて**

〔非開示につき省略〕

（出典　第７回 FD 要録（平成１５年１２月））

観点３－３－①：　学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

奈良工業高等専門学校事務組織規程（資料３－３－①－1）に事務組織及び所掌事務の分掌が定められ，事務職員，技術職員による教育支援体制としては，庶務課図書係，学生課教務係・学生係・寮務係・総合技術室等があり，更に，総合技術室は，第一，二，三，四技術班から編成されている（資料３－１－①－１）。学生課には，事務職員１５名（非常勤職員５名を含む），技術職員１７名（非常勤職員３名を含む），合計３２名（非常勤職員８名を含む）が配置されている。図書係には６名（非常勤職員３名を含む）の事務職員が配置され，その内，１名は常勤の司書であり，図書係の３名は交替で平日の夜間や休日の学習支援を行っている。非常勤職員については，学生課に５名の事務職員が配置され，教務係に１名，寮務係に４名（用務員１，寮母１名，寮父２名）が配置されている（資料３－３－①－２）。

技術職員の内，総合技術室には１５名の技術職員（３名の非常勤職員を含む）が配置されており，専門性の高い教育を支援するために各学科等の居室にいる（資料３－３－①－２）。総合技術室の組織等については，奈良工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する要項に明記されており（資料３－３－①－３），それぞれの班について共通業務以外に，専門的な業務（資料３－３－①－４）を担当することとなっており，職の設置，選考基準等については，工業高等専門学校における技術専門官及び技術専門職員に関する規程（資料３－３－①－５）が設けられている。総合技術室では，授業への支援（資料３－３－①－６）以外に，第一，二班が所属する機械工学科実習工場では，卒業研究，専攻科特別研究（資料３－３－①－７），教員の研究活動（資料３－３－①－８），学校行事（資料３－３－①－９）等への幅広い教育支援を行っている（資料３－３－①－１０）。

技術職員は，教育・研究支援を効果的に展開するために，研修会（資料３－３－①－１１）への参加，科学研究費補助金への申請（資料３－３－①－１２），資格取得（資料３－３－①－１３），学会等での研究発表（資料３－３－①－１４）を行っている。

情報メディア教育センターでは，教育活動への支援体制として，新入生に対するセンター利用の講習会（資料３－３－①－１５），図書館利用の講習会（資料３－３－①－１６），情報検索及び電子ジャーナルについての説明会（資料３－３－①－１７）を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育課程を展開するために必要な事務組織が整備され，事務職員，技術職員等が適切に配置され，教育活動を支援するための研修制度等も設けられている。さらに，技術職員については，科学研究費補助金への申請，資格取得，学会発表等の活動を通じ自らの資質向上に努めている。

資料３－３—①—１　事務組織規程

○奈良工業高等専門学校事務組織規程

昭和 42 年 4 月 1 日制定

第 1 章　総則

第 1 条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則(独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 4 号)並びに奈良工業高等専門学校学則に基づき，奈良工業高等専門学校の事務組織及び所掌事務の分掌を定めることを目的とする。

第 2 章　事務組織

第 2 条　奈良工業高等専門学校の事務部に庶務課，会計課及び学生課を置き，その事務を分掌させるためそれぞれ次の係・室を置く。

庶務課　庶務係
　　人事係
　　図書係
会計課　総務係
　　用度係
　　出納係
　　施設係
学生課　教務係
　　学生係
　　寮務係
　　総合技術室

第 3 条　事務部に部長を，課に課長を，係に係長を置く。

2　事務の運営に必要があるときは，課に課長補佐又は専門員・専門職員を，係に主任を置くことができる。

3　前項に定めるもののほか，学生課の総合技術室に技術専門官及び技術専門職員を置くことができる。

4　技術専門官及び技術専門職員は，技術職員をもって充てる。

5　技術職員に関し必要な事項は，別に定める。

第 4 条　事務部長は，事務部の事務を総括し，課長は，課の事務を処理する。

2　課長補佐は，課長を補佐する。

3　専門員及び専門職員は上司の命を受け，課の事務に関する専門的事項を処理する。

4　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

5　主任は，係長を補佐する。

6　係員は，係の事務に従事する。ただし，上司の命があるときは，その指示された事務に従事しなければならない。

第 3 章　事務分掌

第 5 条　庶務課の専門員・専門職員及び各係は，次の事務をつかさどる。

専門員

(1)　将来計画，自己評価に係る企画・連絡調整に関すること。
(2)　組織，機構のあり方に係る企画・立案に関すること。
(3)　地域協力に係る企画・調査に関すること。
(4)　情報公開に係る専門的事項に関すること。
(5)　調査統計及び諸報告に関すること。
(6)　広報に関すること。
(7)　沿革史その他諸記録の編さん及び保存に関すること。
(8)　その他企画調査に係る事務に関すること。

専門職員(情報処理担当)

(1)　各課事務の電算化に係る専門的事項に関すること。
(2)　要員養成のための研修の企画・立案に係る専門的事項に関すること。
(3)　事務用電子計算機室の運用及び管理に係る専門的事項に関すること。
(4)　事務用電子計算機の更新等に係る専門的事項に関すること。
(5)　事務用電子計算機の運用及び管理に関すること。
(6)　その他情報処理に係る事務のうち，重要な企画，連絡調整に係る専門的事項に関すること。

庶務係

(1)　学校の事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2)　機密に関すること。
(3)　渉外並びに秘書事務に関すること。
(4)　儀式，会議その他諸行事に関すること。
(5)　公印の管守(会計機関及び学生課で使用する公印を除く。)に関すること。
(6)　学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。
(7)　公文書類の発送，接受及び整理保存に関すること。
(8)　情報公開に関すること。
(9)　知的財産権（発明及び特許権等）に関すること。
(10)　内地研究員及び在外研究員に関すること。
(11)　職員の福利厚生に関すること。
(12)　学校要覧等刊行物に関すること。
(13)　電話交換に関すること。
(14)　校内の警備に関すること。
(15)　学外団体等との連絡に関すること。
(16)　産学官連携及び研究協力に関すること。
(17)　奨学寄付金の受入に関すること。
(18)　公開講座に関すること。
(19)　法人登記に関すること。
(20)　専攻科審査に関すること。
(21)　公用車に関すること。

(22)　外国人受託研修員の受入に関すること。
(23)　その他他係に属しない事項に関すること。
人事係
(1)　教職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
(2)　教職員の定員等の管理に関すること。
(3)　教職員の給与及び諸手当に関すること。
(4)　教職員の人事記録の作成及び保管に関すること。
(5)　教職員の勤務成績に関すること。
(6)　教職員の研修に関すること。
(7)　教職員の安全衛生及び災害補償に関すること。
(8)　共済組合(長期給付に限る。)及び退職手当に関すること。
(9)　教職員の栄典，表彰及び賞罰に関すること。
(10)　機構に関すること。
(11)　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
(12)　教職員の旅行命令等に関すること。
(13)　教職員の団体に関すること。
(14)　教職員に関する諸証明に関すること。
(15)　その他人事に関すること。
図書係
(1)　図書等資料の調達等契約，整備及び管理に関すること。
(2)　図書等資料の閲覧及び貸出等に関すること。
(3)　研究紀要の編集及び交換に関すること。
(4)　その他図書に関すること。
第６条　会計課の各係は，次の事務をつかさどる。
総務係
(1)　会計事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2)　予算の編成，配分及び管理に関すること。
(3)　収入及び支出に関する書類の監査に関すること。
(4)　会計の諸規則に関すること。
(5)　会計機関の使用する公印の監守に関すること。
(6)　自己収入，運営費交付金，外部資金及び預り金の確認に関すること。
(7)　職員宿舎の入居及び退去に関すること。
(8)　科学研究費の申請に関すること。
(9)　旅費の計算及び支出関連業務に関すること。
(10)　共済組合(長期給付を除く。)に関すること。
(11)　財務会計システムの総括に関すること。
(12)　その他会計課の他係に属しない事項に関すること。
用度係
(1)　物品の管理及び計画に関すること。

(2)　物品の調達及び役務に関すること。
(3)　物件費及び諸謝金等の支出関連書類の作成に関すること。
(4)　物品の出納及び保管に関すること。
(5)　毒物及び劇物等の安全管理に関すること。
(6)　寄附物品の受入れに関すること。
(7)　政府調達に関すること。
(8)　不用物品の処分及び売払に関すること。
(9)　清掃業務等労務作業に関すること。

出納係
(1)　債権の管理に関すること。
(2)　収入，支出の決算及び計算証明に関すること。
(3)　現金，預金，貯金及びその他有価証券に関すること。
(4)　寄付金，受託研究費，共同研究費及び科学研究費等の経理に関すること。
(5)　自己収入，運営費交付金，外部資金及び預り金の残高等確認に関すること。
(6)　諸給与の支出に関する書類の作成に関すること。
(7)　給与等の支払及び所得税等の徴収に関すること。
(8)　共済組合資金の出納に関すること。

施設係
(1)　施設整備の長期計画に関すること。
(2)　施設実態調査に関すること。
(3)　施設・設備の点検及び評価に関すること。
(4)　施設マネジメントに関すること。
(5)　施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る契約に関すること。
(6)　施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る支出関連書類の作成に関すること。
(7)　施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る契約の監督に関すること。
(8)　電気，ガス，水道，電話及び冷暖房施設等の維持管理に関すること。
(9)　不動産に関すること。
(10)　不動産登記に関すること。

第７条　学生課の専門員（専門職員）及び各係は，次の事務をつかさどる。

専門員(専門職員)
(1)　教育改善に関すること。
(2)　学生募集及び入学者の選抜に係る専門的事項に関すること。
(3)　専攻科学生の修学指導に係る専門的事項に関すること。
(4)　外国人留学生に係る専門的事項に関すること。
(5)　その他学務に係る事務のうち，重要な企画・調査及び連絡調整に関すること。

教務係
(1)　学生の募集及び入学者の選抜に関すること。

(2)　教育課程の編成，授業及び試験に関すること。
(3)　学生の学籍に関すること。
(4)　学生の指導要録その他学生の諸記録の整理保管に関すること。
(5)　教科書及び補助教材に関すること。
(6)　進級及び卒業の認定に関すること。
(7)　学生の身分，成績，卒業等の証明に関すること。
(8)　学生の表彰及び懲戒に関すること。
(9)　学生の校外実習及び見学等に関すること。
(10) 外国人留学生に関すること。
(11) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(12) 卒業証書及び修了証書等の交付に関すること。
(13) その他学生課の他係に属しない事項に関すること。

学生係

(1)　学生の課外教育活動に関すること。
(2)　学生の団体に関すること。
(3)　学生の集会，印刷物，掲示等に関すること。
(4)　学生の保健衛生及び保健施設の管理運営に関すること。
(5)　奨学生に関すること。
(6)　授業料の免除等に関すること。
(7)　学生旅客運賃割引証，通学証明書及び諸証明に関すること。
(8)　学生の就職及びアルバイトに関すること。
(9)　学生相談に関すること。
(10) その他学生の厚生補導に関すること。

寮務係

(1)　学寮の管理運営に関すること。
(2)　寮生の保健衛生並びに栄養管理に関すること。
(3)　寮生の団体，集会等に関すること。
(4)　寄宿料の免除等に関すること。
(5)　学寮における教官の宿日直に関すること。
(6)　その他寮務に関すること。

附　則

この規程は，昭和 42 年 4 月 1 日から施行する。

(略)

附　則(平成 16 年 4 月 1 日)

この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－２　平成１７年度における学生課，庶務課図書係の配置状況

○学生課事務職員の配置状況

学生課長	1	
専門職員	1	
教務係	4	1
学生係	3	
寮務係	1	4
合計	10	5
	常勤	非常勤

○図書係の配置状況

事務職員	2	3
司　書	1	
合計	3	3
	常勤	非常勤

○学生課技術職員の配置状況

学生係（看護師）	1	
寮務係（栄養士）	1	
第一技術班	3	
第二技術班	5	
第三技術班	2	3
第四技術班	2	
合計	14	3
	常勤	非常勤

＊　総合技術室は，第一，二，三，四技術班から編成

総合技術室　技術職員１５名の居室場所	
機械工学科実習工場	５名
機械工学科	１名
電気工学科	１名
電子制御工学科	１名
情報工学科	１名
物質化学工学科	２名（１名の非常勤職員を含む）
マルチメディア演習室	１名
LL教室	１名
一般教科	２名（全て非常勤職員）

（出典　職員録等から作成）

資料３－３－①－３　奈良工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する要項

３．２　教育研究支援のための技官等の配置状況

本校における教育研究支援のための技官等の配置状況は，次の要項に示すとおりである。

奈良工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する要項

（目　的）
第１この要項は，奈良工業高等専門学校における教室系技術職員（以下「技術職員」という。）の技術に関する専門的業務等を組織的かつ効率的に行うとともに，その職務遂行に必要な能力，資質等の向上を図り，すぐれた人材を確保するため，技術職員の組織等に関し必要な事項を定めることを目的とする。
（総合技術室）
第２　学生課に総合技術室を置く。
２　総合技術室においては，技術職員の各勤務部署との緊密な連携のもとに教育研究活動の支援を円滑に推進するものとする。
３　総合技術室に次の4班を置く。
第一技術班
第二技術班
第三技術班
第四技術班
４　各班の業務は，別表のとおりとする。
（総合技術室長等）
第３　総合技術室に，次の各号に掲げる職員を置き技術職員をもって充てる。
(1) 総合技術室長
(2) 技術班長
(3) 技術班員
２　総合技術室長は，上司の命を受け，各技術班の業務を統括するとともに技術班長及び技術班員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。
３　技術班長は，上司の命を受け，技術班の業務を整理するとともに技術班員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。
４　技術班員は，技術業務を行う。
（雑　則）
第4　この要項に定めるもののほか，技術職員の組織等に関し必要な事項は，別に定める。

附　則
この要項は，平成10年4月1日から施行する。

（出典　自己点検・評価報告書（２００３年１０月発行））

資料３－３－①－４　技術職員の業務内容

（別表）

班　名	各難業務内容	共通業務内容
第一技術班 （加工技術）	加工技術に関する業務	・学生の実験・実習及び演習の技術的指導業務 ・卒業研究に関する学生の技術的指導業務 ・学生の教育教材製作に関する業務 ・新技術に関する技術的業務 ・実験室及び実習室等の設備・備品の維持管理 ・教官の研究（共同研究を含む）に関する技術業務 ・地域・民間との研究（共同研究を含む）に関する技術業務 ・その他技術に関する業務
第二技術班 （設計製作技術）	研究実験装置の設計製作技術に関する業務	
第三技術班 （計測分析技術）	計測分析技術に関する業務	
第四技術班 （情報技術）	情報技術に関する業務	

（出典　自己点検・評価報告書（２００３年１０月発行））

資料３－３－①－５　奈良工業高等専門学校における技術専門官及び技術専門職員に関する規程

奈良工業高等専門学校における技術専門官及び技術専門職員に関する規程

（平成10年4月1日制定）

（職の設置）
第1条 奈良工業高等専門学校に，国立大学，国立短期大学及び国立高等専門学校の技術専門官及び技術専門職員に関する訓令（平成9年文部省訓令第33号）の定めるところにより，技術専門官及び技術専門職員を置くことができる。
（技術専門官）
第2条 技術専門官は，極めて高度の専門的な技術を有し，その技術に基づき，教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに，技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。
（技術専門職員）
第3条 技術専門職員は，高度の専門的な技術を有し，その技術に基づき，教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに，技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。
（選考基準）
第4条 技術専門官は，次の各号の一に該当する者のうちから選考するものとする。
（1） 職務に関連する技術系の国家資格試験（大卒程度以上）に合格した者
（2） 特許取得等の独創的な技術開発を行った者
（3） 学会賞等を受賞した者
（4） 科学研究費補助金等の公募採択型の各種助成金を受けた者
（5） 修士以上の学位を有する者
（6） 学会等において職務に関連する論文発表等を行った者
（7） 職務に関連する著作を発表した者
（8） 技術職員研修会等において講師の経験を有する者
2 技術専門職員は，次の各号の一に該当する者のうちから選考するものとする。
（1） 前条各号に規定する技術専門官への昇任資格を有する者
（2） 職務に関連する技術系の国家資格試験に合格した者(前号に該当する者を除く.)
（3） 技術発表会等において職務に関連する技術発表等を行った者
（4） 技術職員研修会等の研修を修了した者
（選考手続）
第5条 技術専門官及び技術専門職員の選考は，校長が行う。
2 校長は選考にあたり，関係学科主任等の意見を聴くことができる。
（雑則）
第6条 この規程の実施に関し必要な事項は，別に定める。

附 則
この規程は，平成10年4月1日から施行する。

（出典　規程集）

資料３－３－①－６　総合技術室技術職員の授業への支援体制（非常勤職員を含む）

総合技術室　授業分担表　平成17年度前期　2006/4/21

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	学内連絡先
	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
市瀬　辰己		4M 実験　2M実習	3M設計	卒　研	5M実験	6071/3257/6036
第1技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
柏井　廣志	1M実習	2M実習	3M設計	卒　研	4S設	3257/6036/6071
池内　由卓	1M実習	2M実習	3M設計	〃　〃	4S設	6036/3257/6071
尾崎　充紀	1M実習	2M実習	3M設計	〃　〃	4S設	3257/6036/6071
第2技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
中川　哲男	1M実習	2M実習	3M設計	卒　研	4S設	3257/6036/6071
山本　善啓						
笹山　智仁	1M実習	2M実習	3M設計	卒　研	4S設	6036/3257/6071
道下　貴広	2S 実 3S実験	4S実験　5S実験	1S実験	〃　〃	4S設	3473/
第3技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
大西　康幸		5 C 実験	2 C 実験	卒　研	3 C 実験	6151/3565/3567
西野　貴之	5I計ネ　2I 実験	5I 実験　5I信号	4 I 実験	〃　〃	3I 実験	3521/3533/
廣安　勝志	10:30～17:15	10:30～17:15	10:30～17:15	10:30～17:15	10:30～17:15	6151/
旗生恵理子	9:30～16:15	9:30～16:15	9:30～16:15	9:30～16:15	9:30～16:15	6062
片倉　泰子	8:30～15:00	8:30～15:00	8:30～14:00	8:30～15:00	8:30～16:15	6043
第4技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
中裏　良一	2 S　1M　3 E	1I　専 1　1E　1S　1C	専 2　3 I　4 M	3 S　3 M　3 C	5選択　2 C	LL/6173/6171
二宮　由成	3 I　5 C	5 C　5 S　3M	2 M　3 S	2 M　2 S	5選択　4 S　2 C　2 S	教育電算/6171/3330
	2 E　2 I	4C　4I　4S　4E　4M	専 1　3 E	4 C　4 E　4 I	5選択　5 C　5 S　専 2	マルチメディア/3330

総合技術室　授業分担表　平成17年度後期　2006/4/21

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	学内連絡先
	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
市瀬　辰己		4M実験　2M実習	3M製作	卒　研	5M実験	6071/6036/3257
第1技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
柏井　廣志	1M実習	2M実習	3M製作	卒　研	4S設	6036/3257/6071
池内　由卓	1M実習	2M実習	3M製作	〃　〃	4S設	6036/3257/6071
尾崎　充紀	1M実習	2M実習	3M製作	〃　〃	4S設	6036/3257/6071
第2技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
中川　哲男	1M実習	2M実習	3M製作	卒　研	4S設	6036/3257/6071
山本　善啓	5 E 実験　4E 実 験	3E実験		〃　〃	2E実験	3410
笹山　智仁	1M実習	2M実習	3M製作		4S設	6036/3257/6071
道下　貴広	2S 実	1S 実験　5S 実験	3S実験	〃　〃	4S設	3473/
第3技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
大西　康幸	1C 実 験		2 C 実験	卒　研	3 C 実験	6151/3565/3567
西野　貴之	2I 実験	5I 実験　3Iプロ　5I計ネ	1I情基　4 I 実験	〃　〃	3I 実験　5I信号	3521/3533/
廣安　勝志	10:30～17:15	10:30～17:15	10:30～17:15	10:30～17:15	10:30～17:15	6151/
旗生恵理子	9:30～16:15	9:30～16:15	9:30～16:15	9:30～16:15	9:30～16:15	6062
片倉　泰子	8:30～15:00	8:30～15:00	8:30～14:00	8:30～15:00	8:30～16:15	6043
第4技術班	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	
中裏　良一	1E　1M　2S英語　1S	1I	専2　3I英語　1C	3S英語　3M英語	5IC　4S英語　2C国語	LL/6173/6171
二宮　由成	2M情　2I国語	2E国語　3Iプロ　4M数解	3Eプロ	2M国語　2S国語	3Sプロ　3M　2Sプロ	教育電算/6171/3330
	2S　3C英語　3E英語	4C演習　4S　4I　4E　4C　4M	専1　専1　4M英語	4C英語　4E英語　4I英語	5独語　2C情　5C分	マルチメディア/3330/6171

（出典　平成１７年度総合技術室技術職員授業時間割表）

資料３－３－①－７　専攻科課程特別研究における支援

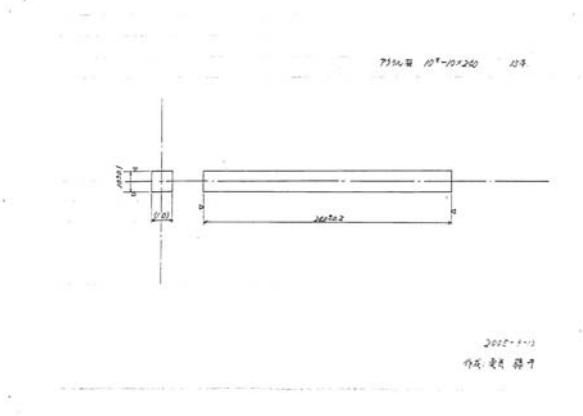
〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　実習工場保管資料）

資料３－３－①－８　製作依頼書（教員研究活動）

平成17年度 製作依頼書　　実習工場

所属学科・氏名	電気工学科　藤井 治久	
実験・研究テーマ （実験内容）	真空中の放電に関する研究 （真空中で電子ビームを照射し帯電による放電を実験する）	
加工品名	アクリル樹脂板	
依頼加工日	平成 17 年 2 月 11 日 金 曜日	
数量	18本	
加工機械・加工時間	フライス盤、ボール盤、コンタ	30 h
材料・材質	アクリル	
加工者氏名	〃	
加工図面 別紙のとおり		



（出典　実習工場保管資料）

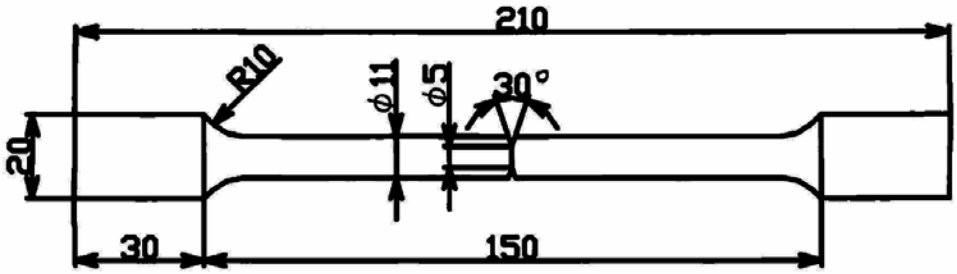
資料３－３－①－９　製作依頼書（入試説明会）

平成17年度 製作依頼書

実習工場

所属学科・氏名	機械工学科　助手　谷口幸典	
実験・研究テーマ（実験内容）	入試説明会 学科紹介における引張試験実演	
加工品名	引張試験片	
依頼加工日	平成 17 年 9 月 16 日 金 曜日	
数量	24 (本)	
加工機械・加工時間	CNC 旋盤	10 時間
材料・材質	丸鋼	S35C
加工者氏名	平川	

加工図面



（出典　実習工場保管資料）

資料３－３－①－１０　実習工場使用状況調べ（平成１５～１７年度）

平成15・16・17年度　実習工場における設備の活用状況

1．機械工学科における月別の利用件数

年／月	15年度	16年度	17年度
4 月	5	3	5
5 月	16	10	6
6 月	13	9	14
7 月	13	33	9
8 月	12	32	28
9 月	5	14	12
10 月	15	26	8
11 月	13	19	16
12 月	24	25	24
1 月	31	22	9
2 月	5	—	3
3 月	3	6	5
総・利用件数	155	199	139

2．機械工学科における月別の工作機械の稼働時間

年／月	15年度	16年度	17年度
4 月	19 時間 55 分	5 時間 10 分	10 時間 55 分
5 月	48 時間 16 分	29 時間 27 分	16 時間 10 分
6 月	16 時間 13 分	29 時間 57 分	33 時間 35 分
7 月	20 時間 58 分	92 時間 02 分	17 時間 10 分
8 月	14 時間 51 分	92 時間 01 分	76 時間 56 分
9 月	14 時間 38 分	33 時間 15 分	23 時間 44 分
10 月	27 時間 53 分	49 時間 30 分	15 時間 58 分
11 月	28 時間 40 分	53 時間 30 分	33 時間 47 分
12 月	42 時間 08 分	62 時間 36 分	74 時間 05 分
1 月	64 時間 39 分	54 時間 57 分	35 時間 17 分
2 月	7 時間 17 分	—	7 時間 10 分
3 月	5 時間 23 分	17 時間 26 分	17 時間 40 分
総・稼働時間	310 時間 51分	519 時間 51分	362 時間 27 分

3．機械工学科における年間の工作機械の利用件数と利用率

年／機械名	15年度	利用%	16年度	利用%	17年度	利用%
汎用旋盤（L）	50	19	84	24	48	18
CNC 旋盤（CNC）	—	—	—	—	—	—
フライス盤（M）	43	16	76	22	60	23
MCフライス盤（MC）	3	1	8	2	4	2
放電加工機（ED）	1	0.4	—	—	5	2
ボール盤（DM）	77	29	85	24	77	30
立型帯ノコ盤（BM）	37	14	38	11	30	12
平面研削盤（SG）	24	9	—	—	1	0
金切ノコ盤（SM）	23	9	45	13	25	10
シャーリング（CM）	3	1	2	0.6	3	1
グラインダー（G）	1	0.4	—	—	4	2
アーク・ガス溶接（W）	—	—	10	3	3	1
利用件数（合計）・（%）	262	98.8	348	99.6	260	101

4．電気・電子制御・物質化学工学科における月別の利用件数

年・学科／月	15・E	16・E	17・E	15・S	16・S	17・S	15・C	16・C	17・C
4 月	—	—	—	1	1	—	—	—	—
5 月	—	—	—	—	8	—	—	—	—
6 月	—	—	—	1	4	—	—	—	—
7 月	—	—	—	4	8	—	—	—	—
8 月	—	—	—	5	13	4	—	—	—
9 月	—	—	—	—	1	—	—	—	—
10 月	—	—	—	—	2	2	—	—	—
11 月	1	—	2	2	12	5	—	—	—
12 月	—	—	—	1	17	13	—	—	—
1 月	—	—	—	1	11	11	—	—	—
2 月	—	—	—	2	1	1	—	—	—
3 月	—	—	—	1	—	—	—	—	—
総件数	1	—	2	18	78	36	—	—	—

5．電気・電子制御・物質化学工学科における月別の工作機械の稼動時間

年・学科／月	15・E	16・E	17・E	15・S	16・S	17・S	15・C	16・C	17・C
4 月	—	—	—	0:10	3:20	—	—	—	—
5 月	—	—	—	—	24:50	—	—	—	—
6 月	—	—	—	1:30	17:46	—	—	—	—
7 月	—	—	—	16:19	29:33	—	—	—	—
8 月	—	—	—	11:45	35:40	11:35	—	—	—
9 月	—	—	—	—	1:18	—	—	—	—
10 月	—	—	—	—	11:45	7:00	—	—	—
11 月	0:20	—	2:42	3:40	28:03	16:29	—	—	—
12 月	—	—	—	—	36:14	50:09	—	—	—
1 月	—	—	—	1:15	10:55	25:28	—	—	—
2 月	—	—	—	2:00	0:30	1:30	—	—	—
3 月	—	—	—	1:50	—	—	—	—	—
総時間	0:20	—	2:42	38:29	199:54	112:11	—	—	—

6．電気・電子制御・物質化学工学科における年間の工作機械・利用件数

年・学科／機械名	15E	16E	17E	15S	16S	17S	15C	16C	17C
汎用旋盤（L）	—	—		4	39	11	—	—	—
CNC 旋盤（CNC）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
フライス盤（M）	—	—	1	9	17	23	—	—	—
MCフライス盤（MC）	1	—		1	1		—	—	—
放電加工機（ED）	—	—		—	1		—	—	—
ボール盤（DM）	—	—	1	7	45	26	—	—	—
立型帯ノコ盤（BM）	—	—	1	7	24	18	—	—	—
平面研削盤（SG	—	—		—	—		—	—	—
金切ノコ盤（SM）	—	—		—	9		—	—	—
シャーリング（CM）	—	—	1	3	3	2	—	—	—
グラインダー（G）	—	—		—	—		—	—	—
アーク・ガス溶接（W）	—	—		—	—		—	—	—

（出典　実習工場作成資料）

資料３－３－①－１０　実習工場使用状況調べ（平成１５～１７年度）

7. 電気・機械・電子制御・物質化学工学科における年間の利用件数

学科＼年	15年度	16年度	17年度
M	155	199	139
E	1	—	2
S	18	78	36
C	—	—	—

8. 電気・機械・電子制御・物質化学工学科における年間の稼動時間

学科＼年	15年度	16年度	17年度
M	310 時間 52 分	519 時間 53 分	362 時間 27 分
E	20 分	—	2 時間 42 分
S	40 時間 34 分	199 時間 54 分	112 時間 11 分
C	—	—	—

9. 専攻科生における月別の利用件数

月＼年	15年度	16年度	17年度
4 月	3	4	8
5 月	6	7	5
6 月	9	7	10
7 月	7	7	11
8 月	1	5	12
9 月	2	5	3
10 月	5	1	9
11 月	6	3	5
12 月	11	3	21
1 月	—	3	5
2 月	2	1	7
3 月	—	2	6
年間利用件数	52	48	102

10. 専攻科生における年間の工作機械の利用件数と利用率

機械名＼年	15年度	利用(%)	16年度	利用(%)	17年度	利用(%)
汎用旋盤(L)	26	28	20	27	18	12
CNC 旋盤(CNC)	—	—	—	—	6	4
フライス盤(M)	19	20	15	20	35	24
MCフライス盤(MC)	—	—	—	—	2	1
放電加工機(ED)	3	3	—	—	—	—
ボール盤(DM)	20	22	17	23	52	35
立型帯ノコ盤(BM)	13	14	8	11	21	14
平面研削盤(SG)	—	—	—	—	—	—
金切ノコ盤(SM)	10	11	13	17	6	4
シャーリング(CM)	1	1	2	3	7	5
グラインダー(G)	1	1	—	—	1	1
アーク・ガス溶接(W)	—	—	—	—	—	—
利用機械(合計)・(%)	93	100	75	101	148	100

11. 専攻科生における月別の工作機械の稼動時間

月＼年	15年度	16年度	17年度
4 月	7 時間 20 分	7 時間 28 分	28 時間 18 分
5 月	14 時間 25 分	20 時間 52 分	13 時間 05 分
6 月	22 時間 18 分	14 時間 31 分	24 時間 33 分
7 月	11 時間 00 分	32 時間 32 分	32 時間 20 分
8 月	20 分	11 時間 13 分	23 時間 45 分
9 月	7 時間 10 分	12 時間 30 分	3 時間 40 分
10 月	13 時間 47 分	1 時間 25 分	21 時間 54 分
11 月	9 時間 10 分	3 時間 53 分	13 時間 55 分
12 月	20 時間 05 分	5 時間 00 分	61 時間 05 分
1 月	—	6 時間 50 分	17 時間 18 分
2 月	9 時間 53 分	2 時間 30 分	11 時間 53 分
3 月	—	55 分	26 時間 25 分
総時間	115 時間28 分	119 時間 39 分	278 時間 11 分

クラブ・同好会・行事等の利用状況

12. クラブ・同好会・行事等の月別の利用件数

月＼年	17年度	18 年度	19 年度
4 月	—		
5 月	—		
6 月	—		
7 月	9		
8 月	9		
9 月	—		
10 月	4		
11 月	—		
12 月	2		
1 月	6		
2 月	1		
3 月	1		
年間利用件数	32		

13. クラブ・同好会・行事等における年間の工作機械の利用件数と利用率

機械名＼年	17年度	利用(%)	18年度	利用(%)	19年度	利用(%)
汎用旋盤(L)	8	10				
CNC 旋盤(CNC)	—	—				
フライス盤(M)	14	18				
MCフライス盤(MC)	—	—				
放電加工機(ED)	—	—				
ボール盤(DM)	30	38				
立型帯ノコ盤(BM)	23	29				
平面研削盤(SG)	—	—				
金切ノコ盤(SM)	1	1				
シャーリング(CM)	4	5				
グラインダー(G)	—	—				
アーク・ガス溶接(W)	—	—				
利用機械(合計)・(%)	80	101				

（出典　実習工場作成資料）

資料３－３－①－１０　実習工場使用状況調べ（平成１５～１７年度）

14．クラブ・同好会・行事等における月別の工作機械の稼動時間

年／月	17年度	18年度	19年度
4月	—		
5月	—		
6月	—		
7月	19時間42分		
8月	34時間46分		
9月	—		
10月	6時間05分		
11月	—		
12月	7時間00分		
1月	9時間49分		
2月	1時間00分		
3月	0時間35分		
総時間	78時間57分		

ロボコンチームの利用状況

15．各チームにおける月別の利用件数

年・チーム／月	16年度・Aチーム	16年度・Bチーム	17年度・Aチーム	17年度・Bチーム
7月	7	9	5	9
8月	20	21	23	23
9月	8	5	23	8
10月	—	—	12	15
11月	—	—	—	—
3月	—	—	—	—
総件数	35	35	63	55

16．各チームにおける工作機械の稼動時間

年・チーム／月	16年度・Aチーム	16年度・Bチーム	17年度・Aチーム	17年度・Bチーム
7月	35時間52分	38時間32分	24時間56分	30時間41分
8月	102時間25分	101時間17分	103時間12分	108時間32分
9月	20時間58分	13時間47分	25時間32分	22時間36分
10月	—	—	34時間33分	2時間05分
11月	—	—	—	—
3月	—	—	—	—
総時間	159時間15分	153時間36分	188時間13分	163時間54分

17．各チームにおける各工作機械の利用件数と利用率

年・チーム／機械名	16年A	利用(%)	16年B	利用(%)	17年A	利用(%)	17年B	利用(%)
汎用旋盤(L)	34	25	30	23	52	23	41	20
CNC旋盤(CNC)	—	—	—	—	—	—	—	—
フライス盤(M)	35	25	32	25	55	24	45	22
MCフライス盤(MC)	—	—	—	—	10	4	15	7
ボール盤(DM)	35	25	33	25	56	24	52	26
立型帯ノコ盤(BM)	33	24	33	25	56	24	47	23
金切ノコ盤(SM)	1	1	—	—	—	—	—	—
グラインダー(G)	—	—	—	—	—	—	—	—
シャーリング(CM)	—	—	—	—	—	—	—	—
木工機械	—	—	2	2	—	—	2	1
利用機械(合計)・(%)	138	100	130	100	229	99	202	99

（出典　実習工場作成資料）

資料３－３－①－１１　技術職員の研修

平成１７年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（情報系）実施要項

1　目　　的

西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(以下「特別研修会」という。）は，高等専門学校（以下「高専」という。）の技術職員（高専の学科，教室，教育研究センター，実習工場及び練習船等における教育・研究の技術支援等に従事する職員をいう。以下同じ。）に対して，その職務の遂行に必要な高度で専門的な知識を修得させ，技術職員の資質の向上を図ることを目的とする。

2　主　　催

独立行政法人国立高等専門学校機構

3　担 当 校

阿南工業高等専門学校

4　期　　間

平成１７年８月２４日（水）～平成１７年８月２６日（金）

5　会　　場

豊橋技術科学大学マルチメディアセンター

愛知県豊橋市天伯町字雲雀ケ丘１－１　TEL 0532-47-0111（代表）

6　受講対象の専門分野

「情報系」の専門分野に関する研修を行う。

7　参加校及び参加人員

（1）参加校は，西日本地域の次の３６高専とする。

米子工業，松江工業，津山工業，広島商船，呉工業，徳山工業，宇部工業，大島商船，岐阜工業，沼津工業，豊田工業，鳥羽商船，鈴鹿工業，舞鶴工業，明石工業，奈良工業，和歌山工業，久留米工業，有明工業，北九州工業，佐世保工業，熊本電波工業，八代工業，大分工業，都城工業，鹿児島工業，沖縄工業，高松工業，詫間電波工業，新居浜工業，弓削商船，高知工業，大阪府立工業，神戸市立工業，近畿大学工業，阿南工業

（2）参加できる人数は，各高専１名とする。

（出典　技術職員の研修会実施要項）

資料３－３－①－１１　技術職員の研修

８　受講資格

特別研修会の受講資格は，情報系の技術職員で次の各号の一に該当する者とする。

（１）科学研究費補助金又はこれに類する各種の研究助成金等の交付申請を行った者

（２）学会誌，研究紀要，公表された研究成果報告書及びその他の出版物に研究論文・技術報告の発表を行った者

（３）前各号に準ずる者で，所属校の校長が特に推薦する者

（４）その他，理事長が特に参加を認めた者

９　研修会内容

（１）特別研修会は，講義，技術課題等の発表及び討議により構成し，別紙日程表のとおりとする。

（２）各講義は技術的側面などからの講義とする。

（３）各自の技術課題等の発表（ 研究発表を含む。）時間は１５分とし，討議時間１０分を加えた２５分を持ち時間とする。
なお，発表に関するレジメ等は，別紙により事前に提出する。

１０　経費の負担

（１）受講者に係る参加経費（交通費，滞在費及びその他）については，受講者の所属する高専の負担とする。

（２）会費等として５，０００円（情報交換会費，写真代等）を受付時に徴収することとする。

１１　修了証書の授与

特別研修会修了者については，独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が発行する修了証書を授与するとともに，研修会修了者のうち独立行政法人国立高等専門学校機構の職員については，その旨人事記録に記載する。

１２　その他

（１）今回の特別研修会については，ＳＣＳ配信は行わないこととする。

（２）特別研修会参加者は，原則として担当校が用意する宿泊所（ホテル）に宿泊することとする。

（出典　技術職員の研修会実施要項）

資料３－３－①－１２　技術職員の科学研究費補助金申請，採択状況

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　会計課作成資料）

資料３－３－①－１３　資格取得状況

資格取得・技能講習受講状況

（平成１７年度現在）

取 得 資 格	人 数（名）
工学士	6
衛生工学衛生管理者	1
溶接士免許	1
鋳造技能士　２級	1
第２種電気工事士	1
工事担任者アナログ２種	1
機械工技能測定（雇用促進事業団）	1
ガス溶接技能講習修了証	3
アーク溶接等の業務に係る特別教育修了証	1
フォークリフト技能講習修了証	1
小型移動式クレーン運転技能講習修了証	1
玉掛け（１ｔ未満）特別教育修了証	1
自由研削砥石取替・試運転特別教育	2
第４級アマチュア無線技士	1
ラジオ音響３級	1
CCNA (Cisco Certified Network Associate) CSCO10828037	1
高等学校教諭免許（工業）	3

（出典　総合技術室作成資料）

資料３－３－①－１４　学会等で研究発表状況

総合技術室　平成１７年度　活動状況（その1）

【学術論文等】　　７件

◎　教員(*1)との連名（２件）

1. 衝撃強さとＡＥ発生の相関について（第２報）
   奈良高専研究紀要，41,(2006),1-4.
   市瀬辰己，岩井保善*1，谷口幸典*1，尾崎充紀
2. パソコン演習室の維持管理
   国立高専機構主催教育教員研究集会報告集,(2005),.
   本間啓道*1，西野貴之，世古忠*1

◎　教員(*1)と専攻科生(*2)との連名（５件）

1. 化学的水素生成システムに関する基礎研究
   電気化学協会 技術・教育研究論文誌 11, 2, 83-87.
   大西 康幸，上村 恭平*，前川 敏靖*，泉 生一郎*1
2. 二液分離型光化学ダイオードによる水素生成
   JOURNAL OF ECOTECHNOLOGY RESEARCH 10, 4, 206-207.
   大西 康幸，松本 雅至*2，坂 朋子*2，泉 生一郎*1
3. 二酸化炭素の電位パルス電解還元
   JOURNAL OF ECOTECHNOLOGY RESEARCH 10, 4, 210-211.
   坂 朋子*2，大西 康幸，上村 恭平*，泉 生一郎*1
4. グラファイト層間化合物の電極触媒及び光触媒への応用
   奈良高専研究紀要 41, 99-102(2006).
   泉 生一郎*1, 大西 康幸, 松本 雅至*2，安永 夕香子*，黒田 久美子*，岩下 哲雄*
5. サッカーロボットにおけるシュートシステムの研究
   奈良高専研究紀要，41,(2006),41-46.
   道下貴広，坂　圭司*2，土居優太*2，横山和明*2，阪部俊也*1

（出典　総合技術室作成資料）

資料３－３－①－１４　学会等で研究発表状況

総合技術室　平成１７年度　活動状況（その2）

【学会講演等】　　９件

◎　技術職員のみ（１件）

1. ロボットコンテスト学内プロジェクトと技術支援
   平成１７年度鳥取大学実験・実習技術研究会(2006)
   尾崎充紀，市瀬辰己

◎　教員(*1)との連名（２件）

1. 奈良高専情報工学科における情報基礎教育の取り組み
   情報処理教育研究集会,(2005).
   松尾賢一*1，山口賢一*1，本間啓道*1，西野貴之
2. 奈良高専におけるネットワークの外注化
   第２５回高等専門学校情報処理教育研究発表会,(2005)
   山口賢一*1，榊原和彦*1，中裏良一，二宮由成

◎　教員(*1)と専攻科生(*2)との連名（６件）

1. Hydrogen Production by Product-Separable Photochemical Diode.
   Y.Ohnishi, M.Matsumoto*2, T.Saka*2, I.Izumi. *1.
   11th Asian Symposium on Ecotechnology.
2. Pulsed Electroreduction of Carbon Dioxide.
   T.Saka*2, Y.Ohnishi, K.Uemura*. I.Izumi*1..
   11th Asian Symposium on Ecotechnology.
3. 液層析出法による光触媒薄膜の形成
   多賀谷 脩平*2，大西 康幸，泉 生一郎*1
   第3 回光触媒研究会.
4. 黒鉛層間化合物を電極触媒とした二酸化炭素のカソード還元
   松本 雅至*2，大西 康幸，安永 夕香子*，泉 生一郎*1.
5. 液層析出法による光触媒薄膜の形成
   国際光触媒展2005(2005 9 14 ~ 9 16)
   泉 生一郎*1，大西 康幸，松本 雅至*2，日浅 丈夫*，塩田 博明*
6. 二酸化炭素のカソード還元に対するグラファイト層間化合物の電極触媒作用
   日本化学会 第86 春季年会(2006)
   松本 雅至*2，安永 夕香子*，大西 康幸，泉 生一郎*1，岩下 哲雄*

（ただし，*は学外の共同研究者）

（出典　総合技術室作成資料）

資料３－３－①－１５　総合情報センター演習室利用講習会

第24回 高専情報処理教育研究発表会

奈良高専における
1年生対象演習室利用講習会について

川辺 涼子　榊原 和彦x　成田 紘一y　松尾 賢一z　二宮 由成

奈良工業高等専門学校 総合情報センター
x奈良工業高等専門学校 一般教科
y奈良工業高等専門学校 電気工学科
z奈良工業高等専門学校 情報工学科

概要　奈良工業高等専門学校総合情報センターでは、平成12年度より1年生を対象とした演習室利用講習会を実施している。その経緯及び内容を紹介する。また、この講習会を実施したことによりどのような効果が得られたかについて述べる。そして、この講習会において実施している中学校及び自宅におけるコンピュータの利用状況を調査したアンケートの調査結果を紹介し考察を述べる。

1　はじめに

本校では総合情報センター主催の1年生対象演習室利用講習会を平成12年度より実施している。

また、その講習会においてコンピュータ利用アンケート調査を平成13年度より実施している。

ここでは、この演習室利用講習会を実施したことによりどのような効果が得られたかを不正行為の発生状況から見て述べる。また、アンケート調査で得られた4年度分の調査結果を紹介し考察を述べる。

2　演習室利用講習会

2.1　講習会の経緯

本校総合情報センターでは、演習室を開放し学生が自由に利用できる開放時間を設けている。そのため、開放時間に利用する学生に対しては総合情報センター関係教員が利用上の注意等の説明を行なっている。平成10年度以前は総合情報演習室システムは知名度の低いオペレーティング・システム(以下「OS」)であったこともあり開放時間に利用する学生は少数であったため、それらの説明は講習会という形態は取らず必要に応じ行なっていた。そして、平成11年2月の演習室システム更新に伴い知名度の高いOSに更新されることとなったことで開放時間に利用する学生が急増すると予想されたため、平成11年5月全学生を対象に講習会という形態で説明を行なうこととなった。その内容はシステムの説明及び端末の利用方法中心であった。平成11年度は予想通り開放時間に利用する学生は急増した。また、それに伴い不正行為も増加した。そのことから、平成12年度より講習会の内容は、インターネット等の情報ネットワーク(以下「ネットワーク」)利用に関する知識及びネットワーク利用のエチケット(以下「ネチケット」)が中心となった。

現在、総合情報センターにはネットワークに接続された学生用端末を48台備えた演習室は3室ある。その演習室は平成11年度以前は1室のみであったが、平成12年度2室となり、平成15年度3室となった。また、3室とも演習室は電子メールによる通信を含むネットワーク利用に制限を設けていないため、開放時間にはネットワークを自由に利用できる状況である。そして、ここ数年は開放時間一日における利用学生の延べ数は3室合計約50名という状況が続いている。

次に、平成11年度以降総合情報センターが把握している不正行為の発生状況を紹介する。その発生状況の5年間で6件という発生件数の点から見て、講習会の実施による効果であると考えられる。

（出典　第２４回高専情報処理教育研究発表会）

資料３－３－①－１６　新入生の情報メディア教育センターオリエンテーション

平成 18 年 4 月 3 日

１学年担任教員　各位

情報メディア教育センター長　木村　倫幸
副センター長　武田　充啓
副センター長　松尾　賢一

新入生の情報メディア教育センターオリエンテーションについて

標記について、下記の日程で新入生（１年生）対象の図書館・総合情報センターのオリエンテーションを、一度“実施いたします”。
各クラスのオリエンテーション当日、担任先生の図書館と総合情報センターに引率のご協力をお願いいたします。

日　程	場　所	１４時４０分	１５時４０分
４月１８日（火）	図書館（大視聴覚）	M（機械）	I（情報）
	総合情報センター（情報処理演習室）	S（電子制御）	E（電気）
４月２１日（金）	図書館（大視聴覚）	……	C（物質化学）
	総合情報センター	……	……
４月２５日（火）	図書館（大視聴覚）	S（電子制御）	E（電気）
	総合情報センター（情報処理演習室）	M（機械）	I（情報）
４月２８日（金）	図書館	……	……
	総合情報センター（LL 教室）	……	C（物質化学）

この件について、ご不明な点などありましたら、
総合情報センター　中裏（内線６１７３）までお手数をおかけしますが連絡お願いいたします。

（出典　新入生の情報メディア教育センターオリエンテーション案内文）

資料３－３－①－１７　情報検索等説明会

wada

送信者：　<shimizum@jimu.nara-k.ac.jp>
宛先：　<teachers@center.nara-k.ac.jp>
Cc:　<higashi@jimu.nara-k.ac.jp>; <matano@jimu.nara-k.ac.jp
送信日時：　2005年5月11日 13:54
件名：　情報検索説明会(jyouhou kensaku setsumeikai)

図書館の清水美代です。

専攻科生・卒研生を対象に、今年度も情報検索及び電子ジャーナルについての説明会を研究室単位で実施する予定でおります。

希望される研究室がおありでしたら、日時、人数をあらかじめ私までご連絡下さいますようお願い致します。
（図書館閲覧室で行うため、事前にパソコン等を確保しなければなりません）

今年度は7つのデータベース（全分野・科学・物理・化学・数学など）を用意してあります。
先生方はもちろんのこと、学生にも存分に利用してもらえたらと願っております。

▲.....
図書館　清水美代
mail:shimizum@jimu.nara-k.ac.jp
tel: 6015

（出典　情報検索等説明会案内文）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 高度な資格保有者の割合が，専門科目（理系の一般科目を含む）担当教員全体の７９％と高い割合である。
- 修士以上の学位取得者，民間企業等での経験者の割合が，理系以外の一般科目担当教員全体の９２．８％で高い割合である。
- 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制として，学生による授業アンケートが，平成６年度から毎年実施されている。さらに，教職員による公開授業が平成１５年度から毎年実施されている。
- 本校の教育課程を展開するために必要な事務組織が整備され，事務職員，技術職員等が適切に配備され，教育活動を支援するための研修制度等も設けられている。さらに，技術職員については，科学研究費補助金への申請，資格取得，学会発表等の活動を通じ自らの資質向上に努めている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準３の自己評価の概要

準学士課程においては，専門性が要求される英会話，音楽，美術等については非常勤講師に依存しているが，一般科目の多くを専門分野の専任教員が担当すると共に，教員免許を持つ者，高等学校等での教職歴を持つ者が一般科目担当教員に配置されている。専門科目担当教員においても，教員数及び授業担当者としての適性は確保され，適切に配置されている。さらに，専攻科の授業科目担当教員においても，専攻科特別研究に企業等経験者を多く配置すると共に，学位取得者，研究論文の発表状況等から，専攻科教育の目的を達成するために高い質を持つ教員が配置されている。

本校中期計画中，「優れた教員の確保に関する検討事項」について，長期的な対応が検討され，高度な資格保有者の割合が，専門科目（理系の一般科目を含む）担当教員全体の７９％である。また，修士以上の学位取得者，民間企業等での経験者の割合が，理系以外の一般科目担当教員の９２．８％である。さらに，国立高等専門学校機構教員顕彰への推薦及び本校の教員顕彰制度を設け，教員活動の一層の活発化を図っている。

教員の採用，昇任等，教員の人事に関しては，人事委員会が置かれ，奈良工業高等専門学校教員選考基準が定められている。教員の採用に関しては，公募文書を高専・大学等に配布するとともに，本校ホームページ，ウェブ等広範囲に公募を行っている。採用にあたっては，応募書類，教員選考個人調書により，人事委員会の答申を受け，校長が決定し，採用している。教員の昇任に関しても，教員選考個人調書により教育・研究上の能力等を考慮・評価し，人事委員会の答申を受け，校長が決定している。非常勤講師の新規採用に関しては，履歴書，非常勤講師選考個人調書によって，教育上の能力等を考慮・評価し，人事委員会の答申を受けて，校長が決定している。

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制として，学生による授業アンケート，教職員による公開授業が整備され，適切に評価が行われている。

事務職員，技術職員による教育支援体制としては，庶務課図書係，学生課教務係・学生係・寮務係・総合技術室等の事務組織が整備され，幅広い教育支援を行っている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像や入学者選抜（例えば，準学士課程入学者選抜，編入学生選抜，留学生選抜，専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針等が記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，アドミッション・ポリシーを定めている（資料４－１－①－１）。

専攻科のアドミッション・ポリシーは（資料４－１－①－２）のとおり定められている。

アドミッション・ポリシーは本校のホームページ上に公開している（資料４－１－①－３）。本校学生に対しては全校集会やホームルーム等で説明している（資料４－１－①－４）。本校教職員に対してはＦＤを通して啓蒙している（資料１－２－①－１）。さらに，広く受験生に知らせるため，中学校訪問（資料４－１－①－５），体験入学（資料４－１－①－６），学校＆入試説明会（資料４－１－①－７），中学校進路指導教諭及び学習塾先生を対象とした入試説明会（資料４―１―①－８）等の機会をとらえてアドミッション・ポリシーと教育方針等を説明している。アドミッション・ポリシーの学生及び教職員への周知は本年度実施したアンケート結果によると，これらの内容を熟知している学生は１３～２０％であり，その存在を知っている学生も含めると４５～６３％である。また，常勤職員（教員を除く）のアンケート結果をみると，内容まで熟知している割合は４６～６８％，存在を認識している割合も含めると９５％以上となっている。

資料4－1－①－1　平成18年度学生募集要項(9頁　抜粋)

6. 奈良工業高等専門学校の教育目標とアドミッション･ポリシー（学生受入れ方針）

本校の教育理念は，「創造の意欲」，「幅広い視野」，「自律と友愛」の三つの標語で表しています。「創造の意欲」は，技術者としての未知の新しい課題に積極的に取り組み，それを実現できる能力を育成することであり，「幅広い視野」は，単に自己の専門分野の知識のみならず幅広い知識に基づいて物事を多面的に考察し，判断できる能力を育成すること，そして「自律と友愛」は，自己を冷静に見つめ，他人を理解しようとする姿勢を身に付けさせるということです。

平成16年４月からの独立行政法人化に伴って，上記教育理念をベースに据えつつ「国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」を，新しい時代に向けた本校の教育目標としました。また，本科４・５年と専攻科では，「新しいシステムを設計，開発できる技術者の育成」を目標に掲げ，平成17年度からの「システム創成工学」教育プログラム（JABEE 認定対象※）の確立を目指しています。

高等専門学校は，高等学校や大学の教育課程とは異なり，中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行うので，本校にとり優れた教育効果を挙げるためには，自ずから理工系・技術系分野に興味と適性を有し，学習意欲の旺盛な入学者を選抜することが不可欠です。

本校に入学してほしいと考えるアドミッション・ポリシー（学生受入れ方針）は，次のとおりです。

⑴　技術者としての夢を持ち，情熱を持って自ら勉学に取り組める人
⑵　創造力を生かし新しい技術にチャレンジしたい人
⑶　技術を通して世界に羽ばたきたい人
⑷　技術的好奇心があり，それを実践により確かめたい人

（出典　平成18年度学生募集要項）

資料4－1－①－2　平成19年度専攻科学生募集要項(9頁　抜粋)

入　学　案　内

1．設　置

平成４年４月１日

2．目　的

本専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工学の高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導することを目的としています。

また，アドミッション・ポリシーとして本科５年と専攻科２年の７年間を通して，豊かな人間性を備えたチャレンジ精神旺盛な技術者の育成を目指しています。また，本科４，５年と専攻科１，２年の４年間については，新しいシステムを設計，開発出来る技術者の育成を目標として，すべての学科，専攻共通で「システム創成工学」教育プログラム（日本技術者教育認定機構：JABEEの認定対象）の確立を目指しています。

技術開発や研究開発により豊かな人間社会の発展に貢献したいと考えている人の入学を心から歓迎します。

本専攻科では，次のような方に入学してほしいと考えています。

（１）豊かな人間性を有する技術者になりたい人

（２）自らの専門分野を生かし，さらに応用する力を育みたい人

（３）技術を通して国際社会に貢献したい人

（４）創造性を高め，新しいシステムをつくり出したい人

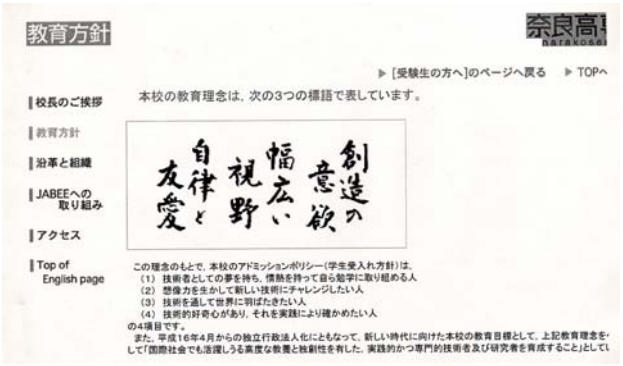
（出典　平成19年度専攻科学生募集要項）

アドミッション・ポリシーを広く社会に公表するために，本校ではアドミッション・ポリシーと教育方針等を掲載した資料を配布している。その配布先，配布数の一覧表（資料４－１－①－９），並びに学校&入試説明会と体験入学の参加者数をまとめた一覧表を示す（資料４－１－①－１０）。学校&入試説明会で 506～613 名，体験入学で 302～373 名の参加者があった。その他，随時に訪問してくる保護者や中学生，さらに，求人企業に対しても本校の教育方針，アドミッション・ポリシーを説明している。

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーが明文化されており，適切な手段で公開され，社会に対しても公表されている。

資料4－1－①－3　奈良高専ホームページ



（出典　奈良高専ホームページ）

資料4－1－①－4　学生集会

（出典　教務係作成資料）

資料4－1－①－5　中学校訪問実施要項

中学校訪問実施要領
（平成１７年７月２１日）

中学校訪問実施要領

１．　中学校訪問事前打合せ

７月２１日（木）定例教員会議終了後（於　大会議室）
教職員への配布資料
①　中学校訪問事前打合せ資料一式　（実施要領、参考資料）
②　中学校別在籍者名簿（配布物と併せて添付）
　　注）この資料は中学校には配付しないでください

２．　中学校訪問

８月８日（月）～９月３０日（金）の間でお願いします。入試説明会（奈良県北部・南部、大阪府、京都府の４地域の中学校教諭対象の説明会を、１０月４日～１０月１２日に開催予定）への出欠の返信をいただく必要上、なるべく早い時期の訪問をお願いします。
面談日の事前連絡については、訪問される教員におまかせします。

３．　面談相手

進路指導担当の先生に面談を申し込んでください。実際には、校長、教頭、進路指導担当・学年主任、あるいは３学年担任などとなります。

４．　説明

<学校紹介と入試関係の説明>

中学校への配布資料に基づいて適宜説明を加えてください。なお、説明にあたっては、①の中学校訪問事前打合せ資料を事前にお読みいただき、事項を必要に応じて取捨選択し、追補するなどでご利用ください。また、昨年度ご要望があった主要駅からの通学所用時間を表にまとめましたので、併せてご活用ください。

返答に困る質問がありましたら、学校に帰ってから相談のうえ回答する旨返答してください。

<中学校への依頼事項>

※ **中学校進路指導担当者対象入試説明会への出席依頼とその回答書の返信を依頼**してください。

１０月　４日（火）奈良県北部中学対象（於　本校）
１０月　７日（金）京都府・滋賀県中学対象（於　京都府ＪＡ会館）
１０月１１日（火）大阪府中学対象（於　ホテルアウィーナ大阪）
１０月１２日（水）奈良県南部中学対象（於　奈良県社会福祉総合センター）

（出典　教務係保存資料）

資料4－1－①－6　体験入学実施計画

平成１７年度体験入学実施計画

１．　実施時期

○　７月２８日（木）～７月２９日（金）の二日間にわたり実施する。
○　各専門学科が二日間にわたり実施し、午前と午後の入れ替え制とする。

２．　実施内容

９時～９時３０分：体験入学受付（図書館玄関前）
９時３５分～９時５０分：挨拶・学校紹介（図書館２階大視聴覚室）
〔体験入学〕
○　内容は各専門学科の実施計画による。引率者の見学についても各専門学科で配慮する。
１０時００分～１１時５０分：１回目体験学習（各専門学科）
１１時５０分～１３時２０分：昼食・休憩・クラブ活動の公開（見学）
１３時３０分～１５時２０分：２回目体験学習（各専門学科）

〔誘導、その他〕
○　一般教科が担当。各専門学科への誘導を行うとともに、体験入学の様子を見学し、次年度に向けての改善のコメントを与える。

〔クラブ活動の公開〕
○　学生委員会が担当。
当日活動できるクラブ・同好会について、１２時～１３時の１時間のクラブ活動の公開（見学）を実施する。クラブ・同好会の PR を兼ねて、文化系・体育系を問わず実施する。ただし、見学に危険のないよう十分注意する。

３．　受付

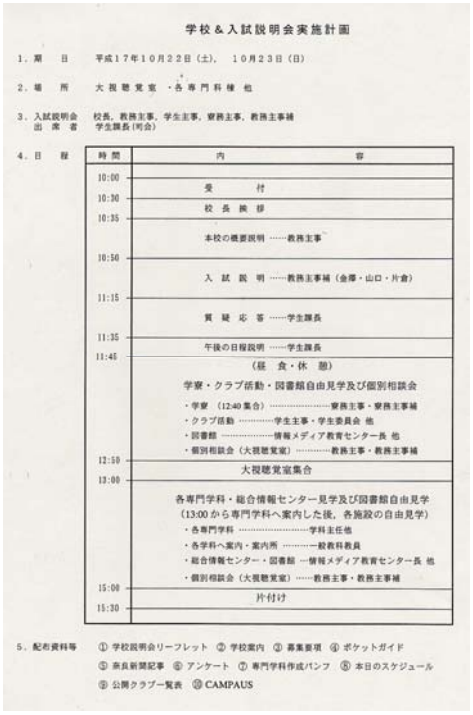
○　申し込みは第３希望学科までとし、出来る限り第２希望以内の学科に割り振る努力をする。なお、希望日が偏った場合は別の日になることを事前了解いただく。受講は一人２学科（一日）とする。
○　申し込み受付は教務係で担当する。

４．　その他

○　体験入学実施期間は生協食堂の営業をお願いする。

（出典　教務係保存資料）

資料４－１－①－７　学校＆入試説明会実施計画



学校＆入試説明会実施計画

1．期　日　平成17年10月22日（土），10月23日（日）

2．場　所　大視聴覚室・各専門科棟他

3．入試説明会出席者　校長，教務主事，学生主事，寮務主事，教務主事補
学生課長（司会）

4．日　程

時間	内容
10:00	受付
10:30	校長挨拶
10:35	本校の概要説明 ……教務主事
10:50	入試説明 ……教務主事補（金澤・山口・片倉）
11:15	質疑応答 ……学生課長
11:35	午後の日程説明 ……学生課長
11:45	（昼食・休憩）
	学寮・クラブ活動・図書館自由見学及び個別相談会
	・学寮（12:40集合）……寮務主事・寮務主事補
	・クラブ活動 ……学生主事・学生委員会他
	・図書館 ……情報メディア教育センター長他
	・個別相談会（大視聴覚室）……教務主事・教務主事補
12:50	大視聴覚室集合
13:00	各専門学科・総合情報センター見学及び図書館自由見学
	（13:00から専門学科へ案内した後，各施設の自由見学）
	・各専門学科 ……学科主任他
	・各学科へ案内・案内所 ……一般教科教員
	・総合情報センター・図書館 …情報メディア教育センター長他
	・個別相談会（大視聴覚室）……教務主事・教務主事補
15:00	片付け
15:30	

5．配布資料等　①学校説明会リーフレット　②学校案内　③募集要項　④ポケットガイド
⑤奈良新聞記事　⑥アンケート　⑦専門学科作成パンフ　⑧本日のスケジュール
⑨公開クラブ一覧表　⑩CAMPAUS

（出典　教務係保存資料）

資料４－１－①－８中学校＆塾教師対象説明会実施計画

平成１８年度　中学校進路指導担当教諭対象入試説明会実施計画

1．日時・場所・対象地域及び出席者等

時間	内容	期日	10月4日(火)	10月7日(金)	10月11日(火)	10月12日(水)
		場所	本校 大視聴覚室	京都JA会館	ホテルアウィーナ大阪	奈良県社会福祉総合センター
		対象地域	奈良県北部	京都府 滋賀県	大阪府	奈良県南部 三重県
14:00	受付					
(15:00)	（学科紹介ビデオ上映）					
14:30	挨拶		校長			校長
(15:50)						
14:35	制度・目的説明		京兼	矢尾	桐川	京兼
(15:35)						
14:50	学生生活説明		矢尾			
(15:50)						
15:00	学寮生活説明		桐川			
(16:00)						
15:10	入試説明		片倉	金澤	片倉	山口
(16:10)						
15:40	質疑応答					
(16:40)						
16:00			課長，教務係全員	課長，塚原	塚原，浅田	塚原，前田
(17:00)						

（　）時間は京都府・滋賀県及び大阪府に適用

2．司　会　学生課長・教務主事補

3．配布資料等　募集要項・学校案内・学校概要・ポケットガイド・平成１７年度入試問題・学校説明会チラシ
奈良新聞記事・卒業生就職状況調　以上各１
（希望者のみ配付）ポスター

平成１８年度　学習塾先生対象入試説明会実施計画

1．期　日　平成１７年１０月１４日（金）
2．場　所　本校　大会議室
3．出席者　教務主事，教務主事補（片倉）
4．内容・日程　中学校進路指導担当教諭対象入試説明会に準じる。　開始時刻　１０時００分
5．配付資料等　中学校進路指導担当教諭対象入試説明会に準じる。

（出典　教務係保存資料）

資料４－１－①－９　アドミッション・ポリシーと教育方針を開示・公表するための刊行物等

行物等の種類	配布先	配布部数	配布方法
学生募集要項 （準学士課程）	中学校，保護者， 受験生等	936	学校説明会，入試説明会，中学校訪問 郵送等
学校概要	中学校，保護者， 受験生，企業等	908	
ポケットガイド	中学校等	30,140	
学生募集要項 （専攻科）	在校生，他高専， 企業等	213	進路指導ガイダンス，学校説明会 公開講座
専攻科案内	中学校，保護者， 受験生，企業等	1,200	進路指導ガイダンス，学校説明会 公開講座
ホームページ	一般	156,748	Web

（出典：募集要項等送付先一覧，中学校郵送資料一覧表，中学校訪問配付資料一覧表）

（出典　教務係保存資料，学生課保存資料）

資料4－1－①－10　学校＆入試説明会と体験入学の参加者数

	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度
学校＆入試説明会（中学生・保護者対象）	613	600	537	506	527
学校＆入試説明会（中学校教諭対象）	87	103	109	104	98
体験入学	323	373	335	302	331

（出典:教務係保存資料）

観点４－２－①:　アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では次の要領で入学者選抜（準学士課程入試，準学士課程４年次編入，専攻科入試，留学生の受入）を行っている。

準学士課程入学者選抜試験は，推薦による特別選抜（以下，推薦選抜）と学力検査による選抜（以下，学力選抜）の２種類がある（資料４－２－①－１）。

推薦枠は各学科とも定員の約２５％にあたる１０名程度としている（資料４－２－①－１）。学力入試による合格者は定員と推薦入試合格者の差としている。ただし，入学辞退者の発生による入学者の確定が遅くなることを避けるため，各学科とも２名を余分に合格させており，合格者数は４２名である。入学辞退があっても，定員４０名を下回らない限り，補欠合格は行わない。平成１４年度～１８年度の５年間の補欠合格者数は，平成１６年度の１名だけである。

資料4－2－①－1　準学士課程入学者選抜方法（平成18年度学生募集要項抜粋）

平成18年度学生募集要項

Ⅰ　募　集　人　員

学　科	募集人員	備　考
機械工学科	40名	各学科とも，募集人員の25%程度は推薦による特別選抜とします。
電気工学科	40名	
電子制御工学科	40名	
情報工学科	40名	
物質化学工学科	40名	

Ⅱ　選　抜　方　法

入学者の選抜は，「**推薦による特別選抜**」と，「**学力検査による選抜**」の二つの方法で行います。

（出典　平成18年度学生募集要項）

資料４－２－①－２　編入学募集要項（抜粋）

平成18年度　編入学志願者募集要項

奈良工業高等専門学校

大和郡山市矢田町22番地（〒639－1080）

電話　（0743）５５－６０３３

１．編入学を募集する学科，募集人員，編入学年次

学　　科	募集人員	編入学年次
機械工学科	若干名	４年次
電気工学科		
電子制御工学科		
情報工学科		
物質化学工学科		

（注）物質化学工学科では，第４学年よりコース制を実施していますので，編入学後は化学応用工学コース又は生物化学工学コースのいずれかを選択していただきます。

２．出　願　資　格

⑴　工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成18年３月卒業見込の者

⑵　**電子制御工学科，物質化学工学科**を志望する者については，高等学校の**普通科又は理数科**を卒業した者及び平成18年３月卒業見込の者も出願することができる。

（出典　平成18年度編入学志願者募集要項）

４年次への編入学は入学者の多様性を確保するために，高校からの４年次への編入学を受け入れている。アドミッション・ポリシーは準学士課程入学の場合のそれを準用している。従来から工業高校からの編入学を受け入れてきたが，平成１８年度入試からは普通高校にも門戸を開き，電子制御工学科と物質化学工学科で編入学試験を実施した（資料４－２－①－２）。

留学生の受入は教育の国際化と文化の多様性に対応するため，文部科学省あるいは独立行政法人国立高等専門学校機構本部（以下，機構本部）から受け入れの打診があった場合，留学生規程に則って積極的に受入れを図ってきた（資料４－２－①－３）。

専攻科の入試には，⑴推薦による選抜（以下，推薦選抜），⑵学力による選抜（以下，学力選抜），⑶社会人選抜の３つの選抜方法があり，学力選抜と社会人選抜では，多様な入学生を確保するため，Ａ日程（７月に選抜試験）とＢ日程（１０月に選抜試験）の２回に分けて，選抜試験を実施している（資料４－２－①－４）。

面接はアドミッション・ポリシーに基づいて志願者の勉学意欲や本校への熱意・適性を知るため，全ての選抜で取入れている。準学士課程の推薦入試では，本校への志望動機，勉学意欲，将来への希望を探るための面接を行っている。学力選抜においても，入学意志を再確認するため，合格者全員に対して面接を実施している（資料４－２－①－５）。専攻科の選抜では，全ての選抜において受験者全員に対する面接を実施している（資料４－２－①－６）。

４年次への編入試験においても受験者全員に対して面接する。

以上のように本校ではアドミッション・ポリシーや教育方針等を基準にして評価し，合否判定資料としている。

留学生の受入においても，入学希望学科の学科主任が独立行政法人・日本学生支援機構・東京日本語教育センターに出向き，面談を行っている。

準学士課程の入試平均倍率（過去１０年間）は平成１７年度を除いて２倍を保っている（資料４－２－①－７）。

過去５年間の編入学志願者数は（資料４－２－①－８）のように，毎年１５名以上の志願者がある。

過去５年間の留学生受入状況は（資料４－２－①－９）のとおりであり，例年１名以上の留学生を受け入れている。

専攻科志願者数と入学者数は過去５年間（資料４－２－①－１０）となっており。Ａ日程とＢ日程の志願者合計数は定員の 2.35～3.25 倍（平均 2.8 倍）で，全志願者数を合格者数で除した実質倍率は 1.2～1.6 倍である。ほとんどは本校出身者であるが，他高専出身者も毎年若干名いる。

準学士課程の入試問題は国立高等専門学校機構で作成し全国共通である。

資料４－２－①－３　留学生規程（抜粋）

○奈良工業高等専門学校留学生規程

（昭和62年１月29日制定）

（趣旨）

第１条　この規程は、奈良工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第35条の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）の取扱いに関する必要な事項を定めるものとする。

（入学）

第２条　留学生は、学則第33条の規定に基づき、選考のうえ相当学年に入学させるものとする。

（教育課程）

第３条　留学生の第３学年までにおける教育課程は、専門科目の履修を容易にするため、日本語その他基礎学力を養うことを目的として特別に編成するものとする。

２　第４学年及び第５学年の教育課程は、原則として学則第12条に規定する授業科目により編成するものとする。

３　第３学年までの特別な教育課程の編成及び第４学年並びに第５学年において特別な教育課程を編成する場合は、第５条に定める留学生委員会で検討ののち、校長が決定するものとする。

４　前項による特別な教育課程の履修をもつて、通常の教育課程の履修に代えるものとする。

（授業料等）

第４条　留学生のうち、国費留学生については、学則第16条第２項、第26条及び第27条に規定する入学料、検定料及び授業料を徴収しないものとする。

（留学生委員会）

第５条　留学生の受入れ及びその他必要な事項を審議するため、留学生委員会を置くものとする。

２　留学生委員会に関する必要な事項は、別に定める。

（留学生指導教官）

第６条　留学生に対する学習及び生活の指導を行うため、留学生指導教官（以下

〔奈良工専四〕　二三〇一

2201

資料4－2－①－4　専攻科入試日程（平成19年度専攻科募集要項　抜粋）

専攻科学生募集要項

区　　分	選　抜　方　法　・　日　程		
	推　薦（学校長・企業等）	A日程（学力・社会人選抜）	B日程（学力・社会人選抜）
受付期間	平成18年6月5日(月) ～6月9日(金)	平成18年6月26日(月) ～6月30日(金)	平成18年10月2日(月) ～10月5日(木)
選抜期日	平成18年6月14日(水)	平成18年7月4日(火)	平成18年10月10日(火)
合格発表	平成18年6月16日(金)	平成18年7月7日(金)	平成18年10月13日(金)
確約期日	平成18年7月21日(金)	平成18年7月21日(金)	平成18年10月20日(金)

（出典　平成19年度専攻科学生募集要項）

資料4－2－①－5　合格者面接実施計画

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　教務係保存資料）

資料４－２－①－６　専攻科面接　平成19年度専攻科学生募集要項（抜粋）

３．選抜方法

入学者の選抜は，成績証明書，志願理由書，業績報告書，学力試験及び面接の結果を総合して行います。ただし，英語については当日の筆記試験50％，TOEIC スコア50％で評価します。

※　面接時に TOEIC の「公式認定証」または「個人成績表」の原本（コピーでなく本証）を提示してください。（確認のうえ返却します。）

学力検査科目，面接の日時及び検査場

	月　日	時　間	科目等	検査場
A日程	7月 4日（火）	9:20～10:20 13:00～15:00	英　語 ※専門科目	奈良工業高等専門学校
B日程	10月10日（火）	15:10～17:00	面　接	

※　専門科目（専門の基礎について30分程度の口述試験を行ないます。）

（出典　平成19年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－７　平成9年～18年の準学士課程入学者選抜状況（志願者の倍率）

年度	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	平均倍率
9	2.0	1.7	1.7	3.3	2.1	2.1
10	2.4	1.5	3.1	2.8	1.9	2.3
11	2.3	1.7	2.7	3.4	2.0	2.4
12	2.1	1.7	2.3	2.8	2.6	2.3
13	2.5	2.2	2.3	3.1	1.9	2.4
14	2.5	1.4	2.4	2.3	2.1	2.1
15	1.8	1.9	1.9	2.3	2.6	2.1
16	1.7	1.4	2.2	2.5	1.7	1.9
17	1.8	1.3	1.6	1.4	1.7	1.6
18	1.7	1.6	1.9	2.2	1.6	1.8

（出典　学科別志願者数概況，教務係保存資料）

資料4－2－①－8　過去5年間の4年次編入学志願者数と合格者数

年度	項　目	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計
１４	志願者数	2	2	1	2	1	8
	合格者数	0	2	1	2	0	5
１５	志願者数	6	4	2	6	1	19
	合格者数	3	2	1	1	0	7
１６	志願者数	9	2	2	2	1	16
	合格者数	3	1	1	2	0	7
１７	志願者数	5	3	2	4	2	16
	合格者数	2	1	0	1	1	5
１８	志願者数	5	4	2	4	1	16
	合格者数	3	2	0	2	0	7

（出典　教務係保存資料）

表4－2－①－9　過去5年間の留学生受入数

平成年度	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合　計
１４	0	0	0	1	1	2
１５	1	0	0	0	0	1
１６	0	1	2	0	0	3
１７	2	0	1	1	1	5
１８	0	0	1	0	1	2

（出典　留学生委員会保存資料）

資料4－2－①－10　平成14年～平成18年の本校専攻科志願者数

平成年度	機械制御	電子情報	化学工学	合計数	合格者数	名目倍率	実質倍率*)
１４	２４	１６	１４	５４	４５	２．７０	１．２０
１５	２９	１９	１３	６１	３９	３．０５	１．５６
１６	２１	１７	９	４７	３５	２．３５	１．３４
１７	２８	２８	９	６５	４１	３．２５	１．５９
１８	２６	２０	１０	５６	４１	２．８０	１．３７

＊)実質倍率＝(合計数)／(合格者数)　　（出典　教務係保存資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程入学選抜においては推薦選抜と学力選抜を採用し，専攻科入学選抜においては推薦選抜と学力選抜に加え，社会人選抜を実施しており，アドミッション・ポリシーに沿った選抜システムが存在する。さらに，工業高校，普通高校からの編入制度，留学生の受入等多様な選抜制度も整備されている。また，全ての選抜において面接が適切に実施されている。

過去５年間の入試状況を見ると，準学士課程で 1.6～2.1 倍，専攻科で 2.4～3.3 倍の平均競争率を維持しており，アドミッション・ポリシーに沿った適切な入学者選抜が行われている。工業高校からの編入学も，ほぼ適正数の入学者を受け入れている。平成１８年度からは普通高校からの編入学を始めた。留学生は，毎年受け入れており，学生の国際認識の向上に寄与している。

観点４－２－②：　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者選抜の改善は，学校運営事項の一環であるので，入試改善については企画会議（資料４－２－②－１）及び運営会議（資料４－２－②－２）にて検討することになっている。また，入試の事務処理は入試事務室で掌握している（資料４－２－②－３）。

学生の受入状況を検証して，問題点を洗い出すと共に毎年の入試状況を企画会議と運営委員会で解析し，入学者選抜の改善を図っている。（資料４－２－②－４）。過去５年間の準学士課程入試における合格者の最高点, 最低点, 平均点を示した（資料４－２－②－５）。入学生の学力水準は過去５年間, ほぼ一定である。

資料4－2－②－1　奈良高専企画会議規程

奈良工業高等専門学校企画会議規程

（平成１７年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に企画会議（以下「会議」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 会議は，次の各号に掲げる事項を企画・立案する。
（１）　本校の運営に関する基本方策に関すること。
（２）　本校の教育，研究の基本方策に関すること。
（３）　予算等財務に関する基本方策に関すること。
（４）　施設，設備の整備等に関する基本方策に関すること。
（５）　その他本校の管理，運営に関する重要事項。
（組織）
第３条 会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事
（３）　学生主事
（４）　寮務主事
（５）　専攻科主任
（６）　事務部長
（７）　庶務課長，会計課長及び学生課長
（議長）
第４条 会議に議長を置き，校長をもって充てる。
２ 議長は，会議を招集し，その議長となる。
（会議の開催）
第５条 会議は，原則として毎月１回開催するものとし，必要ある時は臨時に開催することが出来る。
（委員以外の者の出席）
第６条 会議が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。
（事務）
第７条 会議に関する事務は，庶務課で行う。

附　則
この規程は，平成１７年４月１日から施行する。

（出典　庶務課保存資料）

資料４－２－②－２　奈良高専運営会議規程

奈良工業高等専門学校運営会議規程

（平成１７年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議（以下「会議」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 会議は，企画会議，委員会等から提案された事項を審議する。
（組織）
第３条 会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事
（３）　学生主事
（４）　寮務主事
（５）　専攻科主任
（６）　一般教科及び専門各学科主任
（７）　情報メディア教育センター長
（８）　事務部長
（会議の招集等）
第４条 会議は，校長が招集し，その議長となる。
（会議の開催）
第５条 会議は，原則として毎月１回開催するものとし，必要ある時は臨時に開催することができる。
（委員以外の者の出席）
第６条 会議が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第７条 会議は，特定の事項について調査検討するため，会議内に専門委員会を設置することができる。
２　専門委員会に関して必要な事項は，別に定める。
（事務）
第８条　会議に関する事務は，庶務課で行う。

附　則
１　この規程は，平成１７年４月１日から施行する。
２　奈良工業高等専門学校運営委員会規程（昭和５７年４月１日制定）は，廃止する。

（出典　庶務課保存資料）

資料４－２－②－３　奈良高専入学試験事務室組織規程

奈良工業高等専門学校入学試験事務室組織規程

（昭和４３年１２月１日制定）

第１条 奈良工業高等専門学校の入学試験に関する事務を処理するため臨時に入学試験事務室を置く。
２　入学試験事務室を置く期間は，毎年１２月１日から翌年４月１５日までとする。
第２条 前条の事務を処理するため次の職員を置く。
入学試験事務室長
学力検査担当主査
身体検査等担当主査
係員
第３条 入学試験事務室長は，運営会議の決定に基づき，入学試験に関する事務を処理する。
第４条 入学試験事務室は，奈良工業高等専門学校事務組織規程第７条の規定にかかわらず，次の事務をつか
さどる。
（１）　入学願書の交付・受付に関すること。
（２）　学力検査問題の受領・保管に関すること。
（３）　学力検査場に関すること。
（４）　学力検査の実施に関すること。
（５）　入学志願者の健康診断に関すること。
（６）　合格判定資料の作成に関すること。
（７）　合格者の発表に関すること。
（８）　合格者の面接に関すること。
（９）　その他入学試験に関すること。

（出典　庶務課保存資料）

資料４－２－②－４　運営会議議事録（平成17年3月22日　抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課保存資料）

資料4－2－②－5　平成14年～平成18年の準学士課程入試成績(合格者)

平成年度	項　目	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科
１４	最高点	427	422	440	428	396
	最低点	340	330	351	351	339
	平均点	368.8	357.0	380.6	386.3	365.5
１５	最高点	422	456	451	452	427
	最低点	342	353	352	362	362
	平均点	367.9	372.6	386.9	395.7	390.8
１６	最高点	436	436	452	443	410
	最低点	331	338	371	376	340
	平均点	360.6	364.6	401.4	406.2	368.1
１７	最高点	393	446	428	436	476
	最低点	319	316	328	313	340
	平均点	342.8	341	361.3	358.9	372.3
１８	最高点	416	415	444	435	431
	最低点	349	355	365	366	357
	平均点	372.5	372.4	394.4	390.2	374.2

（出典　教務係保存資料）

本校ではアドミッション・ポリシーを満たしているかどうかを検証するために，入学後に英語，数学，国語について共通試験を実施しており（資料４－２－②－６），その結果を資料（４－２－②－７）に示した。

編入学試験においては，平成１９年度の入試で，電子制御工学科と物質化学工学科に加えて電気工学科も普通高校から編入学を受け入れる（資料４－２―②―８）。

また，普通高校からの意見を採り入れて，編入試験の時期を工業高校と普通高校で別々に実施し，工業高校は従来通り６月，普通高校は１１月に実施することとした（資料４－２―②―８）。

（分析結果とその根拠理由）

学生の受入状況を検証し，入学者選抜の改善を図るために企画会議と運営会議が存在し，その機能を果たしている。また，学生の受入状況を検証し，入学者選抜の改善を図る様々な取組が実施されている。

資料４－２－②－６　学年共通試験の趣旨及び成績の取り扱い

平成１８年２月２７日

平成１８年度第１・２学年学級担任　各　位

教　務　主　事

年度当初に実施予定の「学年共通試験」の趣旨及び成績の取り扱いについて

第１・２学年対象の「学年共通試験」について，この共通試験には以下の目的があります。

① 家庭学習を充実させ，その定着をはかる。
入試，または学年末試験終了後（２月終わり，または３月初め）から新学期が始まる４月初めの間は，授業がなく，家庭学習がおろそかになりがちである。この期間の家庭学習を充実させ，その定着をはかる。

② 学力の把握・・・学年全体の成績を共通の尺度でとらえる。
学年を複数の教員で担当している場合，定期試験では学年全体の比較がしにくい。個々の学生の学力を把握するだけでなく，全体的な到達度の設定を見直すための参考とする。

③ 成績不振者の学習指導の目安とする。
成績が一定の目標のラインに達しなかった学生には，補習への参加を義務づけるなど，学習指導をするものとする。また，２年生対象のテストでは，科目によっては，成績が一定の目標ラインに達した場合には，前年度の不可（A）の解消に向けて結果を考慮する。

「学年共通試験」は，上の目的を実現するため，学生がテストに向けての学習がしやすいように，あらかじめ課題を与え，その中から出題範囲を決めて行うこととし，確実に準備をさせたいと思います。（新２年生に対しては１年次の授業最終日までに授業中に各教科から連絡いたしました。新入生に対しては「入学予定者オリエンテーション」時に連絡いたします。）なお，学生に学習意欲を持たせるためにも，結果を当該学年の成績に組み込むこととしています。また，「学年共通試験」は，本校の中学校新学習指導要領対応策［学力の把握，意欲を活かす，家庭学習の定着化］の一環でもあります。

上記の趣旨をご確認いただきますようお願いいたします。新２年生に対しては，すでに出題範囲や課題について各教科から連絡されていますが，担任の先生からも重ねて学生への趣旨説明，試験準備の指示をお願いいたします。

なお，成績の取り扱いについては裏面をご覧下さい。

（出典　教務係保存資料）

資料4－2－②－7　平成14年～平成18年の準学士課程入学生の共通試験成績（平均点）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　一般教科保存資料）

資料　４－２－②－８

平成19年度　編入学志願者募集要項

奈良工業高等専門学校
大和郡山市矢田町22番地（〒639－1080）
電話　（0743）５５－６０３３

１．編入学を募集する学科，募集人員，編入学年次

学　　科	募集人員	編入学年次
機械工学科	若干名	４年次
電気工学科		
電子制御工学科		
情報工学科		
物質化学工学科		

（注）物質化学工学科では，第４学年よりコース制を実施していますので，編入学後は化学応用工学コース又は生物化学工学コースのいずれかを選択していただきます。

２．出　願　資　格

(1)　工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成19年３月卒業見込の者

(2)　**電気工学科，電子制御工学科**及び**物質化学工学科**を志望する者については，高等学校の**普通科又は理数科系**を卒業した者及び平成１９年３月卒業見込の者も出願することができます。

３．志　望　学　科

前項に該当する者の志望学科は次のとおりとします。

志望学科	出身校における所属科
機械工学科	機械系の学科
電気工学科	電気・電子系の学科，普通科又は理数科系
電子制御工学科	機械・電子・制御系の学科，普通科又は理数科系
情報工学科	電子・情報系の学科
物質化学工学科	化学系の学科，普通科又は理数科系

４．願　書　受　付

(1)　工業高等学校又は高等学校の工業に関する学科を卒業した者及び平成19年３月卒業見込の者

受付期間	**平成１８年６月５日（月）から６月９日（金）まで** **［郵送の場合も６月９日必着のこと］**
受付時間	**午前９時から午後４時30分まで**
受付場所	大和郡山市矢田町22 奈良工業高等専門学校　学生課教務係

(2)　**電気工学科，電子制御工学科**及び**物質化学工学科**を志望する者で，高等学校の**普通科**又は**理数科系**を卒業した者及び平成19年３月卒業見込の者

受付期間	**平成18年11月13日（月）から11月17日（金）まで** **［郵送の場合も11月17日必着のこと］**
受付時間	**午前９時から午後４時30分まで**
受付場所	大和郡山市矢田町22 奈良工業高等専門学校　学生課教務係

（出典　平成19年度編入学志願者募集要項）

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，または大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適性化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の入学定員は各学科とも４０名で，全学科合計の定員は２００名である（資料４－２－①－１：平成１８年度学生募集要項）。また，専攻科の入学定員は，機械制御工学専攻８名，電子情報工学専攻８名，化学工学専攻４名である（資料４－３－①－１）。

（資料４－３－①－２）に過去５年間の準学士課程の定員，志願者数，受験者数，入学者数をまとめて示している。合格者数は，各学科とも定員４０名の５％増の４２名を合格としている。従って，合格者総数は４２名×５学科＝２１０名であり，入学定員に対して適正な入学者となっている。

専攻科における過去５年間の志願者数，受験者数，入学者数を（資料４－３－①－３）にまとめて示した。専攻科全体としては，定員のほぼ２倍（４０名）の入学者を受入れている。これまで，学士取得率はほぼ１００％であり，修了者のほぼ全員が就職あるいは大学院進学をしている。また，専攻科課程においては教員及び研究指導に対して教員，施設，設備等に何ら支障がないことから考えて，適正な入学者と考えられる。

資料4－3－①－1:平成19年度専攻科学生募集人数

Ⅰ．募集人員

専攻別の募集人員は，次のとおりです。

専　攻	募集人員
機械制御工学専攻	8 名
電子情報工学専攻	8 名
化学工学専攻	4 名
計	20 名

（出典　平成19年度専攻科学生募集要項　抜粋）

資料4－3－①－2　過去5年間の準学士課程の志願者数，受験者数，入学者数

年度	学 科 名	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合　計
	定　　員	４０	４０	４０	４０	４０	２００
１４	志願者数	９９	５５	９６	９０	８４	４２４
	受検者数	９６	５４	９０	８８	８４	４１２
	入学者数	４２	４２	４２	４１	４１	２０８
１５	志願者数	７１	７６	７６	９３	１０４	４２０
	受検者数	６８	７２	７５	８９	１０２	４０６
	入学者数	４１	４２	４２	４２	４１	２０８
１６	志願者数	６９	５６	８７	９８	６９	３７９
	受検者数	６６	５６	８５	９６	６６	３６９
	入学者数	４１	４２	４１	４２	４０	２０６
１７	志願者数	７２	５３	６３	５４	６９	３１１
	受検者数	７２	５２	６２	５１	６７	３０４
	入学者数	４２	４２	４２	４２	４２	２１０
１８	志願者数	６６	６３	７５	８７	６４	３５５
	受検者数	６６	６３	７４	８６	６１	３５０
	入学者数	４０	４１	４２	４２	４１	２０６

（出典　教務係保存資料）

平成１７年度の準学士課程入試では志願者数が減少した。この対策については企画会議，運営会議，教務委員会で議論し，中学校訪問，学校説明会の実施方法等に改善を加えた（資料４－３―①―４）。また，平成１８年度入試においては推薦人数を変更した（資料４－３―①―５）。また，普通高校からの編入実施も決定した（資料４－３―①―６）。さらに，平成１９年度編入試験では工業高校と普通高校を分けて実施することとした（資料４－３－①－７）。

専攻科課程の場合（資料４－３－①－３）に示したように，例年，入学者数は定員の２倍となっており，教育研究指導にはほとんど支障がない。このように専攻科課程への入学希望が多いため，予算面と教員数の確保の点から，現状の入学者数に相応した定員を設定することが望ましい。そのため，本校では平成１８年度の概算要求項目に専攻科定員増を挙げている（資料４－３―①―８）

（分析結果とその根拠理由）

入学者は，準学士課程及び専攻科とも定員を少し上回り，適正である。しかし，今後この適正な状況を維持するために本校では，中学生人口の減少に対処する方策を講じている。

資料4－3－①－3　過去5年間の専攻科の定員，志願者数，合格者数，入学者数

平成年度	専 攻 名	機械制御工学専攻	電子情報工学専攻	化学工学専攻	合　計
	定　　員	8	8	4	２０
１４	志願者数	２４	１６	１４	５４
	合格者数	１７	１５	１３	４５
	入学者数	１５	１４	１１	４０
１５	志願者数	２９	１９	１３	６１
	合格者数	１６	１３	１０	３９
	入学者数	１５	１２	8	３５
１６	志願者数	２１	１７	9	４７
	合格者数	１５	１３	7	３５
	入学者数	１４	１１	7	３２
１７	志願者数	２８	２８	9	６５
	合格者数	１９	１６	6	４１
	入学者数	１９	１５	5	３９
１８	志願者数	２６	２０	１０	５６
	合格者数	１７	１６	8	４１
	入学者数	１６	１６	7	３９

（出典　専攻科委員会保存資料，平成18年度専攻科学生募集要項）

資料４－３－①－４　運営会議議事要録（抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務係保存資料）

資料４－３―①―５　運営会議議事要録（抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務係保存資料）

資料４－３－①－６　運営会議議事要録（抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務係保存資料）

資料４－３－①－７　運営会議議事要録（抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務係保存資料）

資料４－３－①－８　運営会議議事要録（抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務係保存資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・推薦による選抜，学力試験による選抜，工業高校（一部の学科では普通高校）からの編入学，さらに専攻科の場合には社会人選抜をも実施しており，多様な入学者選抜を行っている。

・留学生を積極的に受け入れ，学生の国際感覚と文化の多様性に対する理解を深めている。

・中学校訪問，体験入学，学校（入試）説明会を実施して，本校の教育方針を広く社会に公開し，アドミッション・ポリシーに適合した入学者の獲得に努力している。

・入学直後に共通試験を実施し，アドミッション・ポリシーに適合した入学者が確保できたかどうかを検証している。

・専攻科の入学者選抜においてはＡ日程（７月）とＢ日程（１０月）を設定し，多様な資質を持った学生を確保している。

・専攻科入試においては，社会人に配慮した選抜を行っている。

（改善を要する点）
該当事項なし

（３） 基準４の自己評価の概要

本校の目的にそった学生像や入学者選抜の基本方針を定めたアドミッション・ポリシーが明確に定められ，印刷物（学校概要，学校案内，入学者募集要項）やホームページで広く社会に公開されている。また，準学士課程の入学者選抜においては推薦選抜と学力選抜を実施し，本校の教育方針に沿った学生を確保している。さらに，入学直後に共通試験を実施して，本校の教育方針に沿った学生が確保できているかどうかの検証を行うと同時に，入学生の学力の経年変化を追跡している。また，工業高校からの編入学を受け入れ，多様な経歴をもつ学生の確保に努力している。さらに，近年の社会情勢を鑑み，普通高校からの編入学の受入も始めた。専攻科課程の学生受入では，推薦選抜，学力選抜（Ａ日程・Ｂ日程），社会人選抜等多様な選抜を実施している。

以上のように，本校の学生受入は適切に行われていると考える。中学生人口が減少する中で，準学士課程入試では２倍近い平均倍率を維持し，また，専攻科課程入学者も定員の２倍程度になっていることが，この証左である。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば，一般科目及び専門科目のバランス，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程の体系性が確保されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程における学習・教育目標は，教育理念と指針（資料５－ １－ ①－ １）に基づいて，（１）から（４）の４つの項目に分けられている（資料５－ １－ ①－ ２）。

一般科目においては，学習・教育目標（１）と（３）を達成するため，人文系科目や語学，芸術，体育の科目を低学年だけでなく，高学年においても適切に配置している（資料５－ １－ ①－ ３）。また，学習・教育目標（２）の達成のために，数学や物理，化学を低学年に重点的に配置して基礎的学力の育成を図るとともに，高学年での専門科目との体系性を確保している（資料５－ １－ ①－ ３）。

専門科目においては，学習・教育目標（２）の達成のため，低学年から専門科目を配置して専門的領域への関心を高めるとともに，高学年への進級に伴い，専門科目の時間数を増やしてゆく教育課程となっている（資料５－ １－ ①－ ３）。また，学習・教育目標（４）の達成のために，低学年より演習科目を配置して高専教育の独自性を示し，高学年では，卒業研究や問題解決型学習（PBL）の授業科目も配置している（資料５－ １－ ①－ ３）。

全体としては，低学年では一般科目が，また，高学年では専門科目の比率が高くなるいわゆる“くさび形”の教育課程となっている。第４学年以降では，選択科目を配当しており，電気工学科と物質化学工学科では学科内でのコース選択を実施している（資料５－ １－ ①－ ４）。

授業内容が教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成する為に適切なものになっていることは，シラバスに記載された週毎の講義項目・内容（資料５－ １－ ①－ ５）で確認することができ，教育課程の体系性の確保については，授業科目（カリキュラム）系統図（資料５－ １－ ①－ ６）に沿って授業のレベルが段階的に引き上げられていることで確認できる。

（分析結果とその根拠理由）

各学科とも，学習・教育目標に照らして，低学年では基礎となる多くの一般科目を配置し，学年の進行とともに多くの専門科目と選択科目を配置している。また，授業科目系統図に沿って，授業内容のレベルを段階的に引き上げている。

以上のことから，本校の準学士課程では教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程の体系性が確保されている。また，授業の内容が教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料５－１－①－１

奈良高専の教育理念と指針

「創造の意欲」，「幅広い視野」，「自律と友愛」の３つの理念のもと，国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていく。

（出典　学校概要）

資料５－１－①－２

本科の学習・教育目標

（１）社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる，豊かな人間性を備えた技術者の育成
（２）幅広い工学的知識を基礎に，実践能力を備えた技術者の育成
（３）コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
（４）自主的・継続的に学習し，課題解決能力を備えた技術者の育成

（出典　学校概要）

資料５－１－①－３　教育目標別科目系統図

本科目標	1年	2年	3年	4年	5年	補足	授業形態別単位数		
							講義	演習	実験
（1）	保健・体育Ⅰ	保健・体育Ⅱ	保健・体育Ⅲ	保健体育(4年)	保健体育(5年)		21	11	0
	美術			人文科学総合					
	音楽			独語	独語				
	地理	歴史Ⅰ	歴史Ⅱ		哲学				
			政治・経済		経済学				
（2）	数学α	微分積分Ⅰ	微分積分Ⅱ	応用数学α		自然科学	38	0	0
	数学β	代数・幾何Ⅰ	代数・幾何Ⅱ	応用数学β					
	物理Ⅰ	物理Ⅱ	応用物理	応用物理					
	化学Ⅰ	化学Ⅱ							
	化学								
	生物								
	機械工学入門	基礎材料学	材料強度学	数値解析	計測工学	M	49	9	12
	機械設計製図Ⅰ	メカトロニクス	情報処理Ⅱ	新素材論	制御工学				
	機械工作実習Ⅰ	機械工作法Ⅰ	応用物理Ⅰ	材料力学	生産システム工学				
		情報処理Ⅰ	機械工作法Ⅱ	電子工学	流体工学(5年)				
		機械設計製図Ⅱ	材料力学Ⅰ	工業外国語	熱工学(5年)				
		機械工作実習Ⅱ	エネルギー基礎力学	流体工学(4年)	振動工学				
			電気工学	熱工学(4年)	設計工学演習(5年)				
			機械設計製図Ⅲ	機械工学実験(4年)	工業数学				
					エネルギー工学				
					材料工学特論				
					電子制御工学				
					機械工学実験(5年)				
	情報処理	交流理論Ⅰ	応用物理Ⅰ	情報工学	半導体工学	E	58	2	14
	図学・電気製図	電気磁気学Ⅰ	交流理論Ⅱ	電気電子機器設計	制御工学				
	基礎電気工学	コンピュータ工学	電気磁気学Ⅱ	電気材料工学	電力系統工学				
		電気・電子工学実験Ⅰ	計測工学	回路網理論	メカトロニクス工学				
			電子工学	電子回路工学	電気法規設備工学				
			プログラミング	電力制御工学	エネルギー変換工学				
			電気機器工学	工業外国語	高電圧工学				
			電気・電子工学実験Ⅱ	通信工学	原子力工学				
				電気電子工学実験(4年)	電力応用工学				
					コンピュータ応用工学				
					信号処理				
					電子応用工学				
					電気電子工学実験(5年)				
	計算機概論	プログラミングⅠ	応用物理Ⅰ	情報理論	信号処理	I	63	0	13
	基礎電気理論	ディジタル回路	プログラミングⅡ	計算機アーキテクチャ	集積回路				
	情報処理基礎	計算機工学	論理回路	計算機言語処理	数値解析				
		論理数学	回路理論Ⅰ	電子回路	工業外国語				
		情報工学実験Ⅰ	電磁気学	制御工学	システム工学				
			グラフ理論	回路理論Ⅱ	計算機ネットワーク				
			データ構造とアルゴリズム	オペレーティングシステム	オートマトン理論				
			情報工学実験Ⅱ	情報工学実験(4年)	人工知能				
					パターン情報処理				
					ソフトウェア設計				
					計算機設計				
					情報工学実験(5年)				
	電子制御概論	プログラミングⅠ	工業数学Ⅰ	材料力学	信号処理	S	55	5	14
	情報数学	電気回路Ⅱ	応用物理Ⅰ	電磁気学	システム工学				
	電気回路Ⅰ	材料・加工学	プログラミングⅡ	電子回路	応用システム設計				
	電子制御工学実験Ⅰ	電子制御工学実験Ⅱ	電磁気学Ⅰ	制御理論(4年)	情報伝送工学				
		基礎製図法	電子工学	計測工学	制御理論(5年)				
			計測工学Ⅰ	工業数学	工業外国語				
			インターフェイス工学	熱力学	ロボティクス				
			システム設計Ⅰ	流体力学	現代制御理論				
			電子制御工学実験Ⅲ	電子制御工学実験(4年)	応用力学演習				
					解析力学				
					数値解析				
					エネルギー変換工学				
					電気・電子機器				
					電子制御工学実験(5年)				
	分析化学Ⅰ	無機化学Ⅰ	分析化学Ⅲ	物理化学	プロセス設計	C	66	3	24
	基礎製図	有機化学Ⅰ	応用物理Ⅰ	物質化学工学演習(4年)	物質科学概論				
	物質化学工学実験Ⅰ	分析化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	工業外国語(4年)	環境工学				
		情報科学	有機化学Ⅱ	反応有機化学	エレクトロニクス概論				
		物質化学工学実験Ⅱ	物理化学Ⅰ	構造解析学	プロセス制御				
			基礎化学工学	拡散単位操作	工業外国語(5年)				
			生物化学	物質構造化学	反応工学				
			物質化学工学実験Ⅲ	機械的単位操作	機器分析				
				機能性有機化学	吸着工学				
				基礎生物化学工学	粉体工学				
				生物機能化学	プロセス製図				
				微生物工学	機能性高分子化学				
				物質化学工学実験	基礎電子化学				
				化学応用工学実験(4年)	化学反応工学				
				生物化学工学実験(4年)	生物分析化学				
					食品工学				
					分子生物学				
					細胞生理学				
					生物反応工学				
					生物化学工学実験(5年)				
					化学応用工学実験(5年)				
（3）	国語Ⅰ	国語Ⅱ	国語Ⅲ				29	0	0
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語	英語Ⅰ				
	英会話Ⅰ	英会話Ⅱ	英会話Ⅲ	実用英語Ⅱ	英語Ⅱ				
			実用英語Ⅰ		実用英語Ⅲ				
（4）	一般化学演習Ⅰ	交流理論演習Ⅰ	交流理論演習Ⅱ	設計工学演習(4年)	物質化学工学演習(5年)		1	15	9
		電気磁気学演習Ⅰ	創造設計製作	システム設計Ⅱ					
		一般化学演習Ⅱ	電気磁気学演習Ⅱ	情報工学演習A, B					
			計算機システム演習						
			物質化学工学演習Ⅰ						
				学外実習	機械工学特論				
					卒業研究				

（出典　学生課教務係作成資料）

資料５－１－①－４

教　育　課　程　表

専門科目　（電気工学科）［平成１７年度以降入学者に適用］

区分	授業科目		単位数	学年別配当					備　考
				１年	２年	３年	４年	５年	
必修科目	応用数学α		2				2		
	応用数学β		2				2		
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ		2				2		
	図学・電気製図		2	2					
	基礎電気工学		2	2					
	情報処理		1	1					
	交流理論Ⅰ		2		2				
	交流理論Ⅱ		2			2			
	交流理論演習Ⅰ		1		1				
	交流理論演習Ⅱ		1			1			
	電気磁気学Ⅰ		2		2				
	電気磁気学Ⅱ		2			2			
	電気磁気学演習Ⅰ		1		1				
	電気磁気学演習Ⅱ		1			1			
	コンピュータ工学		2		2				
	計測工学		2			2			
	電子工学		2			2			
	プログラミング		2			2			
	電気機器工学		2			2			
	工業外国語		1				1		
	回路網理論		2				2		
	情報工学		2				2		
	通信工学		2				2		
	電気材料工学		2				2		
	電力制御工学		2				2		
	電気・電子機器設計		2				2		
	電子回路工学		2				2		
	半導体工学		2					2	
	制御工学		2					2	
	メカトロニクス工学		2					2	
	電気法規・設備工学		2					2	
	電力系統工学		2					2	
	ｴﾈﾙｷﾞｰ変換工学		2					2	
	電気・電子工学実験Ⅰ		3		3				
	電気・電子工学実験Ⅱ		3			3			
	電気・電子工学実験Ⅲ		4				4		
	電気・電子工学実験Ⅳ		4					4	
	卒業研究		6					6	
選択科目	学外実習		1				1		
	電力系	高電圧工学	2					2	選択科目は，電力系と電子系のいずれかを履修
		原子力工学	1					1	
		電力応用工学	1					1	
	電子系	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学	2					2	
		信号処理	1					1	
		電子応用工学	1					1	
専門科目開設単位計			91	5	11	19	26	30	

修得単位		81	25	23	16	10	7	
	一般科目	86	5	11	19	25	26	
	専門科目	167	30	34	35	35	33	
	計							

－ 48 －

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－①－４

教　育　課　程　表

専門科目　（物質化学工学科）［平成１７年度以降入学者に適用］

区分		授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備　考
必修科目		応用数学α	2				2		
		応用数学β	2				2		
		応用物理Ⅰ	2			2			
		応用物理Ⅱ	2				2		
		無機化学Ⅰ	2		2				
		無機化学Ⅱ	2			2			
		有機化学Ⅰ	2		2				
		有機化学Ⅱ	2			2			
		分析化学Ⅰ	1	1					
		分析化学Ⅱ	2		2				
		分析化学Ⅲ	1			1			
		一般化学演習Ⅰ	1	1					
		一般化学演習Ⅱ	1		1				
		物理化学Ⅰ	2			2			
		物理化学Ⅱ	2				2		
		構造解析学	2				2		
		機器分析	2					2	
		物質化学工学演習Ⅰ	1			1			
		物質化学工学演習Ⅱ	1				1		
		物質化学工学演習Ⅲ	1					1	
		基礎化学工学	2			2			
		拡散単位操作	2				2		
		基礎製図	2	2					
		生物化学	2			2			
		情報科学	2		2				
		エレクトロニクス概論	1					1	
		工業外国語Ⅰ	1				1		
		工業外国語Ⅱ	1					1	
		物質科学概論	2					2	
		反応有機化学	2				2		
		環境工学	1					1	
		プロセス制御	1					1	
		反応工学	1					1	
		プロセス設計	2					2	
		物質化学工学実験Ⅰ	2	2					
		物質化学工学実験Ⅱ	4		4				
		物質化学工学実験Ⅲ	4			4			
		物質化学工学実験Ⅳ	2				2		
		卒業研究	6					6	
選択科目	共通	学外実習	1				1		
	化学応用工学コース	物質構造化学	2				2		選択科目は，化学応用工学コースと生物化学工学コースのいずれかを選択し，共通を含む１９単位中，工学実験６単位を含む１３単位以上を選択すること。
		吸着工学	1					1	
		粉体工学	1					1	
		機械的単位操作	2				2		
		機能性有機化学	2				2		
		プロセス製図	1					1	
		機能性高分子化学	1					1	
		基礎電子化学	1					1	
		化学反応工学	1					1	
		化学応用工学実験Ⅰ	2				2		
		化学応用工学実験Ⅱ	4					4	
	生物化学工学コース	基礎生物化学工学	2				2		
		生物分析化学	1					1	
		食品工学	1					1	
		生物機能化学	2				2		
		微生物工学	2				2		
		分子生物学	2					2	
		細胞生理学	1					1	
		生物反応工学	1					1	
		生物化学工学実験Ⅰ	2				2		
		生物化学工学実験Ⅱ	4					4	
専門科目開設単位計			110	6	13	18	35	38	

修得単位	一般科目	81	27	21	16	10	7	
	専門科目	86	6	13	18	24	25	
	計	167	33	34	34	34	32	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－①－５　週毎の講義項目・内容の例

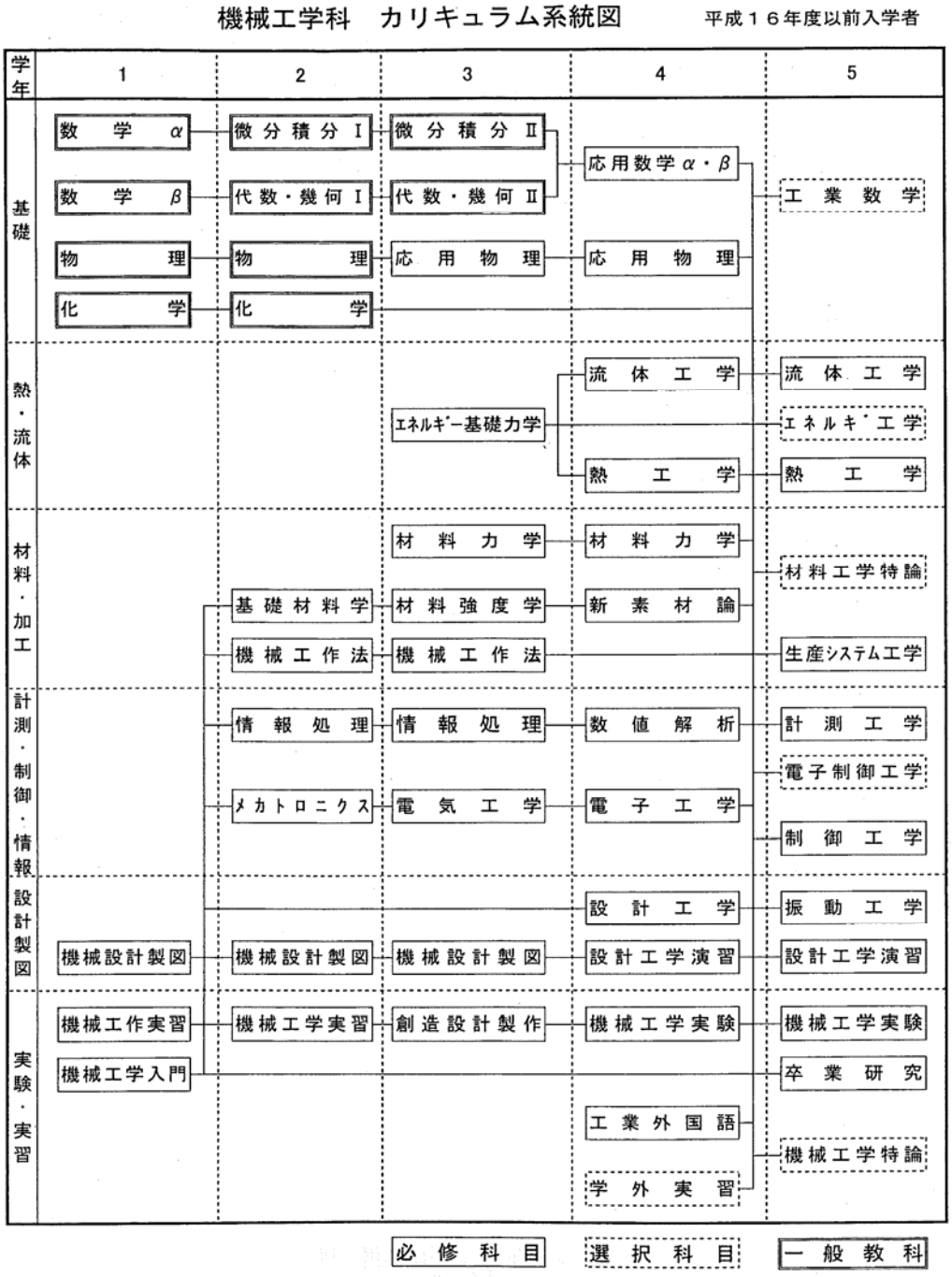
別紙 2-2
講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	自動制御とは（総論）	自動制御技術の歴史を概観し、制御とは何かを明らかにする。	
第２週	自動制御の種類と用語	自動制御が行われている例と用語について説明する。	
第３週	フィードバック制御の考え方	制御の基本的な考え方であるフィードバックに付いて解説する。	
第４週	システムのモデル化	制御で必要となる動的システム記述について具体例をもとに解説する。	
第５週	非線形要素の線形化の仕方	線形化手法として、微小変動法による解説を行う	
第６週	ラプラス変換	ラプラス変換の定義と意味について解説し、演習を通じて応用力を養わせる。	
第７週	ラプラス変換の性質と伝達関数	ラプラス変換の演算公式の説明をし、伝達関数を求める応用力を付けさせる。	
第８週	ラプラス逆変換	ラプラス逆変換の定義と意味について解説し、時間関数との関係を理解させる。	
第９週	ラプラス逆変換の応用	ラプラス逆変換の演習を通じて応用力を養わせる。	
第１０週	伝達関数の考え方	システム方程式のラプラス変換から伝達関数の概念を理解し、システム解析に応用させる。	
第１１週	制御要素の伝達関数	制御の基本要素（比例、微分、積分、一次遅れ）の伝達関数を理解させる。	
第１２週	制御要素の伝達関数	制御の基本要素（２次遅れ、むだ時間、疑似微分）の伝達関数を理解させる。	
第１３週	ブロック線図の表し方	ブロック線図によるシステムの記述法を理解させる。	
第１４週	ブロック線図の性質	ブロック線図の基本的性質を理解し、信号の流れを把握する力を養わせる。	
第１５週	ブロック線図の等価変換	ブロック線図の等価変換を理解し、複雑な線図を簡単化し総合伝達関数を求める能力を付けさせる。	
前期期末試験			
第１６週	過渡応答について	伝達関数を用いての応答を求める利点を理解し、簡単な要素のステップ応答を求める能力を付けさせる。	
第１７週	応答の種類	インパルス応答、ランプ応答に付いて理解し、簡単な要素の応答が求める能力を付けさせる。	
第１８週	一次遅れ要素の応答	一次遅れ要素のステップ応答の特性パラメータ（時定数、ゲイン定数）理解し、求める能力を養わせる。	
第１９週	微分、積分要素の各種応答	微分、積分要素のステップ応答、インパルス応答、ランプ応答が求める能力を付けさせる。	
第２０週	二次遅れ要素の応答	二次遅れ要素のステップ応答を求める能力を付けさせる。	
第２１週	二次遅れ要素の応答	二次遅れ要素のパラメータの意味を理解し、応用出来る能力を養わせる。	
第２２週	各種応答の整理	制御の基本要素の各種応答を整理し、特徴、パラメータを把握し、応用力を養わせる。	
第２３週	二次遅れ要素のステップ応答と過渡応答の特性値	過渡応答の特性値（行き過ぎ時間、行過ぎ量、整定時間、振幅減衰比）を理解させる。	
第２４週	制御基本要素のベクトル軌跡	周波数伝達関数より、ベクトル軌跡の求め方を理解し、演習を通じて応用力を養わせる。	
第２５週	制御基本要素のボード線図	周波数伝達関数から、ボード線図の求め方を理解し、特性が理解出来る能力を養わせる。	
第２６週	ボード線図上での合成	直列システムの周波数特性のボード線図上での求め方を理解し応用できる能力を養わせる。	
第２７週	ニコルス線図の原理	開回路伝達関数とフィードバック回路伝達関数の関係を理解し、ニコルス線図の使い方を解説する。	
第２８週	ニコルス線図の使い方	開回路伝達関数の周波数特性からフィードバック伝達関数の周波数特性を求める演習を通じ、関係を理解させる。	
第２９週	ニコルス線図を用いた特性改善法	ニコルス線図を用いて特性改善を行う演習を通じ、応用力を養わせる。	
第３０週	まとめ		
学年末試験			

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－①－６　カリキュラム系統図の例



（出典　平成 18 年度シラバス）

観点５－１－②：　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校の中期目標には，その前文（資料５－１－②－１）において，地元企業の期待に応えるだけでなく，国際社会で活躍しうる学生を育てていくことの必要性を謳っており，特に準学士課程においては低学年における英語教育や数学教育を重視している。そこで，社会からの要請や学生のニーズに対応した本校の取組として以下の例を挙げる。

・インターンシップによる単位認定

準学士課程においては，４年次においてインターンシップ（学外実習）を取入れ，実習先での修了証明書，業務日誌，報告書，学内での報告の発表に基づいて単位を認定しており（資料５－１－②－２），約７０％の学生が多くの企業に参加している（資料５－１－②－３）。

・ 資格試験による単位認定

３年次以降の英語において，「実用英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」を設け，英語検定や TOEICテストの結果に基づいて単位を認定している（資料５－１－②－４）。

・ 補充教育

１年次の数学において，毎週木曜日の８限に補充教育を実施し（資料５－１－②－５），専攻科生にはティーチング・アシスタント（TA）を依頼している（資料５－１－②－６）。

・ 低学年における共通テスト

低学年における自学自習の定着を促進するため，新１，２年生に対して，４月に学年共通試験を行っている（資料５－１－②－７）。

・ 語学演習システム

語学教育の充実のため，LL教室のパソコンを使って英語の自学自習をすることができる語学演習システム（ALC Network Academy）を導入し，昼休みと放課後に開放している（資料５－１－②－８）。現在３年目ではあるが，多くの学生に利用されている（資料５－１－②－９）。

・ オフィスアワー

各教員が学生からの質問や相談等に確実に対応できる曜日と時間帯，場所を設け，その一覧表を全学生に配布している（資料５－１－②－１０）。

・ 大阪大学との協定

本校と大阪大学工学部・大学院工学研究科は，教育及び学術研究上の協力関係を推進するため，平成 16 年 9 月 3 日，教育研究交流に関する包括的な協定を締結した（資料５－１－②－１１）。単位互換やインターンシップ等について具体的に協議を進めることにしている。

（分析結果とその根拠理由）

インターンシップや資格試験による単位認定，補充教育，共通テストの実施等，社会からの要請や学生の多様なニーズに対応した教育課程の編成に取組んでおり，実績も上がっていることから，教育課程の編成に適切な配慮がなされている。

資料５－１－②－１　奈良高専中期目標前文（抜粋）

（前文）

本校は，奈良県唯一の工科系高等教育機関として，奈良県はもとより近隣の府県からも大きな期待を寄せられてきた。激しく移り変わる社会の中，今後も引き続き，その期待に応えるためには，地元企業のみならず，国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていくことが肝要であると考える。

本校は，平成4年に全国の高専に先駆けて専攻科が設置され，本年で12年目を迎えたが，この間，本科で学んだ教育との関連を重視しつつ，より高度な教育・研究を行ってきた。今後は，専攻科生の定員増も視野に入れ，本科との一層の関係強化を図りながら，JABEE（日本技術者教育認定機構）認定や特別研究の充実を目指し，その成果を学会発表や特許出願等を通して社会に積極的に発信していくことや，近隣の大学等とも連携し，大学院への進学率の向上にも力を入れていきたい。 一方，本科の方では，国際社会で通用する人材を養成するためにも，特に低学年教育を重視し，英語等の言語教育，理科教育及び数学教育の拡充と徹底を図りたいと考えている。

（出典　奈良高専中期目標）

資料５－１－②－２

4M141　　2006 シラバス

学　外　実　習 (Practice in enterprise)	４年・夏季・１単位・選択 機械工学科・担当　小畠　耕二
〔学習・教育目標との対応〕 D-2(80%), A-2(20%)	〔JABEE 基準との対応〕 d-2d, b

〔講義の目的〕
企業などでの実習または研修的な就業体験を通じて、
(1)　技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶ。
(2)　自らが職業意識を高める機会とする。
(3)　自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知り、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とする。

〔講義の概要〕
原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。なお，実現の可否は別にして，各自でテーマを用意して実習に望む態度も重要である．

〔履修上の留意点〕
実習先で発行される学外実習修了証明書，実習中に担当者に提出する業務日誌，実習修了後に学内提出する成果報告書，および成果報告会すべてを満足することを履修条件とする．
実習中は安全に留意すること．　実習者は保険に加入することを義務づける．

〔到達目標〕
技術者としての心構えや社会人として何が必要かを説明できること。自らが職業意識をどのように高めたかを説明できること。自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知る機会とすること。さらに、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とすること。

〔評価方法〕
実習先での学外実習修了証明書および業務日誌(50%)、学外実習報告書(25%)、および学内での報告会での発表(25%)の４点によって評価する。

〔教　科　書〕
なし
〔補助教材・参考書〕
平成１３年度，平成１４年度，平成１５年度，平成１６年度学外実習報告書

〔関連科目〕
実習中の体験の詳細を記録にとり、これまで学んできた専門教科との関連を調べる。実習先の技術者と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の基礎などについて話合いをすること。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－②－２

2006 シラバス　　4M141

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週			
第２週			
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第 20 週			
第 21 週			
第 22 週			
第 23 週			
第 24 週			
第 25 週			
第 26 週			
第 27 週			
第 28 週			
第 29 週			
第 30 週			

１．実施時期　夏季休業期間中
２．実施期間　５日間以上にわたり、合計３０時間以上従事
３．実習の内容　設計、生産技術、生産管理、品質管理、実験および実験助手、機能・性能・材料試験、販売、サービスなどの分野
４．学外実習先　学科が認めた実習先（民間企業、研究期間、行政機関）
５．スケジュール
５月　学外実習ガイダンス
・概要説明
・実習先企業の紹介と実習内容の説明
・安全教育
・希望調査と割り振り
６月　事前研修会
・学外実習の心構えなどの事前学習
・講演会出席（外部講師）
７月～８月　実習
・実習先でのオリエンテーション
・実習
・日誌および報告書の作成
９月　学外実習のまとめ
・成果報告書の提出
・学外実習の成果報告会

＊４：完全に理解した（達成），３：ほぼ理解した（達成），２：やや理解できた（達成），１：ほとんど理解できなかった（達成），０：まったく理解できなかった（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－②－３

平成17年度　学外実習の実施状況

1. 学外実習ガイダンス

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実施回数	2	2	1	1	1	7
実施日	6/3, 6/28	5/20, 5/26	5/16	6/13	5/20	
参加教員数（複数回は平均）	1	1	1	1	1	5
参加学生数（複数回は平均）	37	48	41	30	45	201
受入れ依頼状送付先企業数	23	22	69	19	28	161
受入れ依頼状回答企業数	23	20	69	17	28	157
実習受入れ可能企業数（追加依頼分を含む）	21	16	49	31	43	160
実習受入れ可能人数	25	24	56	33	44	182
実習希望学生数（最終）	29	30	28	27	37	151

２．学外実習事前研修

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実施日	7/6	7/15	7/6	7/19	7/7	
参加教員数	1	1	2	1	3	8
参加学生数	37	27	28	26	37	155
実習予定人数	28	27	28	26	37	146
実習先企業数	21	23	22	20	28	114

3. 学外実習報告会

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実施日	2/9	10/12	10/5	10/12	10/31	
参加教員数	4	2	8	7	10	31
発表学生数（本科４年）	28	26	26	26	32	138
発表学生数（専攻科）	0	0	0	0	7	7
参加学生数　（発表者を含む）	70	78	77	77	79	381
（４年）（発表者を含む）	28	44	37	36	32	177
（３年）	42	34	40	41	40	197
（専攻科等）	0	0	0	0	7	7

4. 学外実習

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実習先企業数	21	23	22	20	28	114
今年度実習人数　（４年）	28	27	26	26	35	142
今年度実習対象学生（前年度履修者・休学者を除く）	37	42	42	36	42	199
今年度学外実習参加率（４年）％	75.7	64.3	61.9	72.2	83.3	71.4
単位認定者数	27	27	27	26	37	144
学科別学生数　（４年）	37	45	43	36	46	207
学外実習参加率（４年）％	73.0	60.0	62.8	72.2	80.4	69.6

（出典　平成17年度学外実習報告書）

資料５－１－②－４

3MESIC042　　2006 シラバス

実用英語Ⅰ（Practical English Ⅰ）	３～５年・通年・１単位・選択 ５学科共通・担当　金澤　直志
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕
〔講座の目的〕 従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、それへの取り組みや積極的な受験を促すこと、また英語学習への意欲を高め、主体的、創造的な学習態度を養うとともに、個々の英語能力を一層伸ばすことを目的としている。	
〔講座の概要〕 技能審査に係る単位認定は、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成５年３月の学校教育法施行規則の改正によって制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して多様で弾力的な教育課程を編成することが求められている。それを受け、本講座では英語技能検定試験（実用英検）などの学校外での学修を単位認定することが目的であり、とくに英検及び TOEIC 受験に対する自主的な学習方法や受験方法について講義する。	
〔履修上の留意点〕 「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。	
〔到達目標〕 ・ 英語検定試験準２級合格以上 ・ TOEIC スコア 400 点以上	
〔評価方法〕 学修の基準となる上記「到達目標」を達成した者には「認」の評価を与え、本講座の単位を取得したことを認定する。ただし、TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもち、上記のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことで単位取得の認定を行う。	
〔教　科　書〕 特に指定はない。 〔補助教材・参考書〕 ALC NetAcademy「初中級コース」「PowerWords」	
〔関連科目〕 英語・英会話（３年）	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－②－４

4MESIC043　　2006 シラバス

実用英語Ⅱ（Practical English Ⅱ）	４～５年・通年・１単位・選択 ５学科共通・担当　金澤　直志
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕

〔講座の目的〕
従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、それへの取り組みや積極的な受験を促すこと、また英語学習への意欲を高め、主体的、創造的な学習態度を養うとともに、個々の英語能力を一層伸ばすことを目的としている。

〔講座の概要〕
技能審査に係る単位認定は、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成５年３月の学校教育法施行規則の改正によって制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して多様で弾力的な教育課程を編成することが求められている。それを受け、本講座では英語技能検定試験（実用英検）などの学校外での学修を単位認定することが目的であり、とくに英検及び TOEIC 受験に対する自主的な学習方法や受験方法について講義する。

〔履修上の留意点〕
「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。

〔到達目標〕
・ 英語検定試験 2 級合格以上
・ TOEIC スコア 500 点以上

〔評価方法〕
学修の基準となる上記「到達目標」を達成した者には「認」の評価を与え、本講座の単位を取得したことを認定する。ただし、TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもち、上記のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことで単位取得の認定を行う。

〔教　科　書〕
特に指定はない。

〔補助教材・参考書〕
ALC NetAcademy「初中級コース」「PowerWords」

〔関連科目〕
英語・英会話（４年）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－１－②－４

5MESIC044　　2006 シラバス

実用英語Ⅲ（Practical English Ⅲ）	５年・通年・１単位・選択 ５学科共通・担当　金澤　直志
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕

〔講座の目的〕
従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、それへの取り組みや積極的な受験を促すこと、また英語学習への意欲を高め、主体的、創造的な学習態度を養うとともに、個々の英語能力を一層伸ばすことを目的としている。

〔講座の概要〕
技能審査に係る単位認定は、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成５年３月の学校教育法施行規則の改正によって制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して多様で弾力的な教育課程を編成することが求められている。それを受け、本講座では英語技能検定試験（実用英検）などの学校外での学修を単位認定することが目的であり、とくに英検及び TOEIC 受験に対する自主的な学習方法や受験方法について講義する。

〔履修上の留意点〕
「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていない TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。

〔到達目標〕
・ 英語検定試験準１級合格以上
・ TOEIC スコア 600 点以上

〔評価方法〕
学修の基準となる上記「到達目標」を達成した者には「認」の評価を与え、本講座の単位を取得したことを認定する。ただし、TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもち、上記のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことで単位取得の認定を行う。

〔教　科　書〕
特に指定はない。

〔補助教材・参考書〕
ALC NetAcademy「初中級コース」「PowerWords」

〔関連科目〕
英語 I-1・英語 I-2・英語 II　（５年）

（出典　平成18年度シラバス）

資料５－１－②－４

実用英語単位認定者数一覧

学年	学　科	実用英語Ⅰ	実用英語Ⅱ	実用英語Ⅲ	計
３年	機械工学科	1			1
	電気工学科	1			1
	電子制御工学科	3			3
	情報工学科	3			3
	物質化学工学科	2			2
	小計	10			10
４年	機械工学科	11	4		15
	電気工学科	9	3		12
	電子制御工学科	4	3		7
	情報工学科	6	2		8
	物質化学工学科	5			5
	小　計	35	12		47
５年	機械工学科				0
	電気工学科				0
	電子制御工学科				0
	情報工学科				0
	物質化学工学科				0
	小　計				0
合　計		45	12	0	57

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－５

平成１７年６月２９日

第１学年学級担任　各　位

教　務　主　事

平成１７年度 TA による数学の補習の開始について

本年度も専攻科生による TA（ティーチングアシスタント）を下記の予定で６月３０日より開始いたします。共通テストや前期中間の成績をみて数学α・βの担当のものから参加するように指導していますが、学級担任からも学生の選抜や教室への誘導などの御指導のほどよろしくお願いいたします。昨年・一昨年の反省より、常勤・非常勤の教員について指導が TA の時間帯と重ならないように徹底してゆきたいと思いますので、当日指導や補習等で学生を呼ぶ場合はこの時間帯を避けるようにしていただき、また HR 教室においてこのような状況を確認された場合は、教務係まで連絡をお願いします。

記

１．　毎週　　木曜日　第８限
２．　内容　　数学α・数学βの問題集の部分
３．　場所　　本館北棟　　選択教室４

以上

なお、今後の話し合いおよび行事・時間割等によって変更が生じる場合もございますので、よろしくお願いいたします。

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－６

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－７

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－７

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－８

LL教室の開放について

学生諸君へ

メディア教育委員会

ＴＯＥＩＣ対策の自習用として、次の要領でＬＬ教室の開放を行いますので利用して下さい。

1. 期　　間　　6月14日（月）から7月16日（金）
2. 曜　　日　　月・水・金
3. 利用時間　　昼休み＆放課後5時まで
4. 対 象 者　　3年生以上

（出典　情報メディア教育センター保存資料）

資料５－１－②－８

平成18年4月28日

平成18年度LL教室時間外開放（17時00分～20時00分）日程表

総合情報センター

実施月	5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月/合計10ヶ月	実施日数	152日

時間外開放日カレンダー

4月	月	火	水	木	金	計

10月	月	火	水	木	金	計
	2	3	4	5	6	
		10	11	12	13	
	16	17	18	19	20	
	23	24	25	26	27	
	30	31				

21日

5月	月	火	水	木	金	計
	8	9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	
	29	30	31			

18日

11月	月	火	水	木	金	計
			1			
	6		8			
	13	14	15	16	17	
	20	21	22		24	
	27	28	29	30		

16日

6月	月	火	水	木	金	計
				1	2	
	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	

22日

12月	月	火	水	木	金	計
					1	
	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	
	18	19	20	21	22	

16日

7月	月	火	水	木	金	計
	3	4	5	6	7	
	10	11	12	13	14	
		18	19	20		

13日

1月	月	火	水	木	金	計
		9	10	11	12	
	15	16	17	18	19	
	22	23	24	25	26	
	29	30	31			

17日

8月	月	火	水	木	金	計

2月	月	火	水	木	金	計
				1	2	
	5	6	7	8	9	
		13	14	15	16	
			28			

12日

9月	月	火	水	木	金	計
					1	
	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	
		19	20			
				28	29	

15日

3月	月	火	水	木	金	計
				1	2	

2日

時間外開放日内訳表

5月	8日(月)・9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・15日(月)・16日(火)・17日(水)・18日(木)・19日(金)・22日(月)・23日(火)・24日(水)・25日(木)・26(金)・29日(月)・30日(火)・31日(水)	18日
6月	1日(木)・2日(金)・5日(月)・6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金)・12日(月)・13日(火)・14日(水)・15日(木)・16日(金)・19日(月)・20日(火)・21日(水)・22日(木)・23日(金)・26日(月)・27日(火)・28日(水)・29日(木)・30日(金)	22日
7月	3日(月)・4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)・10日(月)・11日(火)・12日(水)・13日(木)・14日(金)・18日(火)・19日(水)・20日(木)	13日
9月	1日(金)・4日(月)・5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)・11日(月)・12日(火)・13日(水)・14日(木)・15日(金)・19日(火)・20日(水)・28日(木)・29日(金)	15日
10月	2日(月)・3日(火)・4日(水)・5日(木)・6日(金)・10日(火)・11日(水)・12日(木)・13日(金)・16日(月)・17日(火)・18日(水)・19日(木)・20日(金)・23日(月)・24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)・30日(月)・31日(火)	21日
11月	1日(水)・6日(月)・8日(水)・13日(月)・14日(火)・15日(水)・16日(木)・17日(金)・20日(月)・21日(火)・22日(水)・24日(金)・27日(月)・28日(火)・29日(水)・30日(木)	16日
12月	1日(金)・4日(月)・5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)・11日(月)・12日(火)・13日(水)・14日(木)・15日(金)・18日(月)・19日(火)・20日(水)・21日(木)・22日(金)	16日
1月	9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・15日(月)・16日(火)・17日(水)・18日(木)・19日(金)・22日(月)・23日(火)・24日(水)・25日(木)・26日(金)・29日(月)・30日(火)・31日(水)	17日
2月	1日(木)・2日(金)・5日(月)・6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金)・13日(火)・14日(水)・15日(木)・16日(金)・28日(水)	12日
3月	1日(木)・2日(金)	2日

（出典　情報メディア教育センター保存資料）

資料５－１－②－９　ALC Network Academy 利用実績表

18.4.20

平成17年度アルクシステム利用実績表(17.4.1～18.3.31)

項　　目	利用人数	受講回数	受講教材数	根拠データ(エクセル)
アルクシステム登録人数	1,061			アルク登録名簿
リスニング力強化コース(初級・中級)	258	6,180	3,828	アルクリスニング力強化コース(初級・中級)
リスニング強化コース	22	505	422	アルクリスニング強化コース
リーディング力強化コース(初級・中級)	262	5,545	3,832	アルクリーディング力強化コース(初級・中級)
リーディング力強化コース	26	568	472	アルクリーディング力強化コース
TOEIC(R)テスト演習コース(初級・中級)	259	4,225	1,863	アルクTOEIC(R)テスト演習コース(初級・中級)
TOEIC(R)テストパート演習(初級・中級)	191	1,993	1,122	アルクTOEIC(R)テストパート演習(初級・中級)
TOEIC(R)テスト演習コース	21	137	71	アルクTOEIC(R)テスト演習コース
PowerWords語彙学習コース	339	29,270	64,190	アルクPowerWords語彙学習コース
PowerWordsレベル判定テスト	172	209		アルクPowerWordsレベル判定テスト
レベル診断テスト	48	107	14	アルクレベル診断テスト
中間テスト・修了テスト(初級・中級)	189	751	327	アルク中間テスト・修了テスト(初級・中級)
合　　計	1,787	49,490	76,141	

（出典　情報メディア教育センター保存資料）

資料５－１－②－１０

平成１７年度（前期）　オフィスアワー一覧表

多くの教員が入口部分にオフィスアワーを掲示していますので，①教科内容の質問，②学生生活の相談などに積極的に利用して下さい。
教員研究室等の配置については，『学生生活のしおり』に掲載の配置図を参照して下さい。

実施日：4月11日～9月30日　　【17.4.12 改訂版】

学科	教員名	日時	場所
一般教科	勢田 勝郭	月曜 15:00～17:00	勢田研究室
	武田 充啓	月曜 15:00～17:00	武田研究室
	鍵本 有理	月曜 14:40～16:40	鍵本研究室
	木村 倫幸	月曜 16:30～18:30	カウンセリングルーム（凌雲館2F）
	大矢 良哲	月曜 15:30～17:00	大矢研究室
	北川 誠之助	月曜 15:00～17:00	北川研究室
	荒金 憲一	月曜 15:00～17:00	荒金研究室
	市原 亮	火曜 15:15～17:15	市原研究室
	安田 智之	金曜 15:00～17:00	安田研究室または学習指導室（本館3F）
	長瀬 潤	水曜 15:30～17:30	長瀬研究室
	名倉 誠	金曜 15:00～17:00	名倉研究室
	福嶌 克彦	火曜 14:35～16:35	福嶌研究室
	宮本 止戈雄	水曜 14:40～17:00	応用物理実験室（機械工学科棟2F）または宮本研究室
	堀内 泰男	金曜 15:00～17:00	物理実験室（本館2F）
	榊原 和彦	火曜 15:30～17:30	榊原研究室
	北村 誠	金曜 15:30～17:30	化学実験室（本館3F）
	中西 茂巳	火曜 16:00～18:00 水曜 16:00～18:00	第1体育館 教員控室または武道場
	松井 良明	火曜 15:00～17:00	第1体育館　教員控室
	森 弘暢	月曜 15:00～17:00	第1体育館　教員控室
	守屋 雅博	月曜 14:40～16:40	守屋研究室
	片山 悦男	月曜 15:00～17:00	片山研究室
	神澤 和明	火曜 14:40～16:40	神澤研究室
	金澤 直志	金曜 15:00～17:00	金澤研究室
	高橋 美帆	水曜 15:00～17:00	高橋研究室
	桐川 修	水曜 15:00～17:00	桐川研究室
機械	岩井 保善	金曜 15:00～17:00	岩井研究室
	小畠 耕二	火曜 16:00～18:00	小畠研究室
	矢尾 匡永	金曜 16:00～18:00	カウンセリングルーム（凌雲館2F）
	和田 任弘	金曜 15:00～17:00	和田研究室または工作実験室
	野々垣 稔	水曜 16:00～18:00	野々垣研究室
	小柴 孝	月曜 16:00～18:00	小柴研究室
	坂本 雅彦	月曜 16:30～17:30 金曜 16:30～17:30	坂本研究室
	平 俊男	火曜 16:00～17:00 水曜 16:00～17:00	平研究室
	廣 和樹	火曜 15:00～17:00 金曜 15:00～17:00	廣研究室
	酒井 史敏	月曜 16:30～18:30	酒井研究室
	谷口 幸典	火曜 15:00～17:00	谷口研究室
電気	井村 榮仁	月曜 16:00～18:00	井村研究室
	成田 紘一	水曜 14:40～16:15	成田研究室
	京兼 純	水曜 15:00～17:00 金曜 15:00～17:00	京兼研究室
	藤井 治久	火曜 16:00～18:00	藤井研究室
	中村 善一	火曜 15:00～18:00	中村研究室
	土井 滋貴	月曜 16:20～18:30	土井研究室
	藤田 直幸	月曜 16:30～18:30	藤田研究室
	桐島 俊之	月曜 16:00～17:00 水曜 16:00～17:00 木曜 16:00～17:00	桐島研究室
	大谷 真弘	水曜 15:00～17:00 金曜 15:30～17:00	大谷研究室
	石飛 学	月曜 15:00～17:00	電力応用工学実験室（電気工学科棟2F）または石飛研究室

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－１０

平成１７年度（前期）　オフィスアワー一覧表

学科	教　員　名	日　時	場　所
電子制御	阪部　俊也	火曜　15:00～17:00	阪部研究室
	中田　敏夫	火曜　15:00～17:00	中田研究室
	押田　至啓	水曜　15:30～17:30	押田研究室
	福田　和廣	金曜　16:30～18:30	福田研究室
	島岡　三義	月曜　16:30～17:30	島岡研究室
		火曜　16:30～17:30	
		水曜　16:30～17:30	
	早川　恭弘	月曜　16:00～18:00	早川研究室
	西田　茂生	水曜　16:00～18:00	西田研究室またはﾒｶﾄﾛ材料実験室（電子制御工学科棟3F）
	樑　　弘明	火曜　16:30～17:30	樑研究室
		水曜　15:00～16:00	
	矢野　順彦	火曜　16:20～18:20	矢野研究室
	山本　和男	月曜　15:30～16:30	山本研究室
		水曜　15:30～16:30	
情報	上田　勝彦	火曜　15:00～17:00	上田研究室
	近藤　勝也	月曜　16:30～18:30	近藤研究室
	世古　忠	火曜　15:00～17:00	世古研究室
	多喜　正城	火曜　16:30～18:00	多喜研究室
		木曜　16:30～18:00	
	浅井　文男	火曜　15:00～17:00	浅井研究室
	山口　智浩	金曜　14:40～17:00	情報ネットワーク実験室（専攻科棟2F）
	松尾　賢一	火曜　16:00～18:00	松尾研究室
	本間　啓道	月曜　15:00～17:00	本間研究室または情報処理演習室（情報工学科棟1F）
	小山　雅史	月曜　16:30～18:30	情報処理演習室（情報工学科棟1F）
	山口　賢一	火曜　16:20～17:20	山口（賢）研究室または情報伝送実験室（情報工学科棟2F）
		金曜　16:20～17:20	
	松村　寿枝	火曜　15:00～17:00	松村研究室
物質化学	泉　　生一郎	水曜　15:00～18:00	泉研究室
	梅原　忠	月曜　15:00～17:00	梅原研究室
	河越　幹男	月曜　16:30～18:30	河越研究室
	大植　正敏	月曜　15:00～18:00	基礎化学実験室（物質化学工学科棟1F）
	中谷　武志	水曜　14:40～16:00	中谷研究室
	三木　功次郎	水曜　15:00～17:00	三木研究室
	片倉　勝己	月曜　16:30～18:30	片倉研究室
	直江　一光	火曜　16:00～18:00	直江研究室
	石丸　裕士	金曜　16:30～18:30	石丸研究室
	嶋田　豊司	月曜　15:00～17:00	嶋田研究室
	宇田　亮子	火曜　16:30～18:30	宇田研究室
	伊月　亜有子	水曜　16:00～18:00	伊月研究室
	西野　悟	月曜　15:00～17:00	西野研究室

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－１－②－１１

大阪大学との教育研究交流に関する協定

奈良高専 narakosen

▶ TOPへ戻る

本校と大阪大学工学部・大学院工学研究科は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するため、平成１６年９月３日大阪大学において教育研究交流に関する包括的な協定を締結した。

これに基づき、教育分野では奈良高専生と阪大生がそれぞれの学校の授業を受講できる相互履修と、それぞれの授業を受講した場合に各校の単位として認める単位互換のほか、奈良高専生が大阪大学の研究に参加するインターンシップ、奈良高専本科卒業生の大阪大学工学部３年生への推薦による編入学、奈良高専専攻科修了生の大阪大学大学院工学研究科博士前期課程への推薦による入学の制度化について具体的に協議を進めることにしている。研究面では共同研究等の実施とこれに伴う研究者交流や相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換を実施することにしている。

協定書にサインする一岡芳樹・本校校長（左）と豊田政男・大阪大学工学部長

このページは奈良工業高等専門学校庶務課が管理しています。
奈良工業高等専門学校庶務課　e-mail：shomu@jimu.nara-k.ac.jp

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/handaikyoutei/index.html

（出典　奈良高専ホームページ）

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用，基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

学習・教育目標（１）における科目の授業形態別単位数は講義（人文系科目，語学）が６５％，演習（体育，芸術）が３５％を占めている（資料５－２－①－１）が，例えば，講義科目の地理においては，地図利用の演習形式の授業や地域の理解を深めるために地域の地形や旧街道を実体験させるフィールド型授業を取入れている（資料５－２－①－２）。また，ドイツ語においては情報機器を活用した授業を取入れている等教材や学習指導方法の工夫をしている（資料５－２－①－３）。

学習・教育目標（２）における科目の授業形態別単位数は講義が７７％，演習が５％，実験・実習が１８％を占めており（資料５－２－①－１），全ての学科において実験・実習を取入れることで，工学の知識を身をもって修得していく力を育てている。また，物理や化学においても積極的に実験を取入れており（資料５－２－①－４），情報理論や機器分析，数値解析においては情報機器を活用した授業を行っている（資料５－２－①－３）。

学習・教育目標（３）における科目の授業形態別単位数は講義が１００％を占めている（資料５－２－①－１）が，英会話では，国際的に活躍出来る技術者を育てるため，ネイティブによる対話型授業を取入れており（資料５－２－①－５），英語のみならず，国語においても情報機器を活用した授業も実施している（資料５－２－①－６）。

学習・教育目標（４）における科目の授業形態別単位数は講義が４％，演習が６０％，実験・実習が３６％を占めており（資料５－２－①－１），第５学年における卒業研究（資料５－２－①－７）はもちろんのこと，PBLの授業が取入れられた第５学年の設計工学演習や第４学年のシステム設計Ⅱ，情報工学演習Bでは（資料５－２－①－８），学生が自主的・継続的に学習し，課題解決の能力を育成できる体制となっている。

（分析結果とその根拠理由）

学習・教育目標（１）から（３）における科目では講義を中心としつつ，フィールド型授業や実験，対話型授業，情報機器を活用した授業等，学習指導方法の工夫がなされている。また，学習・教育目標（４）における科目においては演習や実験を中心とし，課題解決能力の育成のため，PBLの授業が取入れられている。

以上のように，教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料５－２－①－１　教育目標別科目系統図

本科目標	1年	2年	3年	4年	5年	補足	授業形態別単位数		
							講義	演習	実験
（1）	保健・体育Ⅰ	保健・体育Ⅱ	保健・体育Ⅲ	保健体育(4年)	保健体育(5年)		21	11	0
	美術			人文科学総合					
	音楽			独語	独語				
	地理	歴史Ⅰ	歴史Ⅱ		哲学				
			政治・経済		経済学				
（2）	数学α	微分積分Ⅰ	微分積分Ⅱ	応用数学α		自然科学	38	0	0
	数学β	代数・幾何Ⅰ	代数・幾何Ⅱ	応用数学β					
	物理Ⅰ	物理Ⅱ	応用物理	応用物理					
	化学Ⅰ	化学Ⅱ							
	化学								
	生物								
	機械工学入門	基礎材料学	材料強度学	数値解析	計測工学	M	49	9	12
	機械設計製図Ⅰ	メカトロニクス	情報処理Ⅱ	新素材論	制御工学				
	機械工作実習Ⅰ	機械工作法Ⅰ	応用物理Ⅰ	材料力学	生産システム工学				
		情報処理Ⅰ	機械工作法Ⅱ	電子工学	流体工学(5年)				
		機械設計製図Ⅱ	材料力学Ⅰ	工業外国語	熱工学(5年)				
		機械工作実習Ⅱ	ユネルギ基礎力学	流体工学(4年)	振動工学				
			電気工学	熱工学(4年)	設計工学演習(5年)				
			機械設計製図Ⅲ	機械工学実験(4年)	工業数学				
					エネルギ工学				
					材料工学特論				
					電子制御工学				
					機械工学実験(5年)				
	情報処理	交流理論Ⅰ	応用物理Ⅰ	情報工学	半導体工学	E	58	2	14
	図学・電気製図	電気磁気学Ⅰ	交流理論Ⅱ	電気電子機器設計	制御工学				
	基礎電気工学	コンピュータ工学	電気磁気学Ⅱ	電気材料工学	電力系統工学				
		電気・電子工学実験Ⅰ	計測工学	回路網理論	メカトロニクス工学				
			電子工学	電子回路工学	電気法規設備工学				
			プログラミング	電力制御工学	エネルギー変換工学				
			電気機器工学	工業外国語	高電圧工学				
			電気・電子工学実験Ⅱ	通信工学	原子力工学				
				電気電子工学実験(4年)	電力応用工学				
					コンピュータ応用工学				
					信号処理				
					電子応用工学				
					電気電子工学実験(5年)				
	計算機概論	プログラミングⅠ	応用物理Ⅰ	情報理論	信号処理	I	63	0	13
	基礎電気理論	ディジタル回路	プログラミングⅡ	計算機アーキテクチャ	集積回路				
	情報処理基礎	計算機工学	論理回路	計算機言語処理	数値解析				
		論理数学	回路理論Ⅰ	電子回路	工業外国語				
		情報工学実験Ⅰ	電磁気学	制御工学	システム工学				
			グラフ理論	回路理論Ⅱ	計算機ネットワーク				
			データ構造とアルゴリズム	オペレーティングシステム	オートマトン理論				
			情報工学実験Ⅱ	情報工学実験(4年)	人工知能				
					パターン情報処理				
					ソフトウェア設計				
					計算機設計				
					情報工学実験(5年)				
	電子制御概論	プログラミングⅠ	工業数学Ⅰ	材料力学	信号処理	S	55	5	14
	情報数学	電気回路Ⅱ	応用物理Ⅰ	電磁気学	システム工学				
	電気回路Ⅰ	材料・加工学	プログラミングⅡ	電子回路	応用システム設計				
	電子制御工学実験Ⅰ	電子制御工学実験Ⅱ	電磁気学Ⅰ	制御理論(4年)	情報伝送工学				
		基礎製図法	電子工学	計測工学	制御理論(5年)				
			計測工学Ⅰ	工業数学	工業外国語				
			インターフェイス工学	熱力学	ロボティクス				
			システム設計Ⅰ	流体力学	現代制御理論				
			電子制御工学実験Ⅲ	電子制御工学実験(4年)	応用力学演習				
					解析力学				
					数値解析				
					エネルギー変換工学				
					電気・電子機器				
					電子制御工学実験(5年)				
	分析化学Ⅰ	無機化学Ⅰ	分析化学Ⅲ	物理化学	プロセス設計	C	66	3	24
	基礎製図	有機化学Ⅰ	応用物理Ⅰ	物質化学工学演習(4年)	物質科学概論				
	物質化学工学実験Ⅰ	分析化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	工業外国語(4年)	環境工学				
		情報科学	有機化学Ⅱ	反応有機化学	エレクトロニクス概論				
		物質化学工学実験Ⅱ	物理化学Ⅰ	構造解析学	プロセス制御				
			基礎化学工学	拡散単位操作	工業外国語(5年)				
			生物化学	物質構造化学	反応工学				
			物質化学工学実験Ⅲ	機械的単位操作	機器分析				
				機能性有機化学	吸着工学				
				基礎生物化学工学	粉体工学				
				生物機能化学	プロセス製図				
				微生物工学	機能性高分子化学				
				物質化学工学実験	基礎電子化学				
				化学応用工学実験(4年)	化学反応工学				
				生物化学工学実験(4年)	生物分析化学				
					食品工学				
					分子生物学				
					細胞生理学				
					生物反応工学				
					生物化学工学実験(5年)				
					化学応用工学実験(5年)				
（3）	国語Ⅰ	国語Ⅱ	国語Ⅲ				29	0	0
	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語	英語Ⅰ				
	英会話Ⅰ	英会話Ⅱ	英会話Ⅲ	実用英語Ⅱ	英語Ⅱ				
			実用英語Ⅰ		実用英語Ⅲ				
（4）	一般化学演習Ⅰ	交流理論演習Ⅰ	交流理論演習Ⅱ	設計工学演習(4年)	物質化学工学演習(5年)		1	15	9
		電気磁気学演習Ⅰ	創造設計製作	システム設計Ⅱ					
		一般化学演習Ⅱ	電気磁気学演習Ⅱ	情報工学演習A, B					
			計算機システム演習						
			物質化学工学演習Ⅰ						
				学外実習	機械工学特論				
					卒業研究				

（出典　学生課教務係作成資料）

資料５－２－①－２

1SI008　　2006 シラバス

地　理　（Geography）	１年次通年　　・２単位・必修 電子制御、情報工学科 ・担当　藤居　岳人、大矢　良哲
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕

〔講義の目的〕

歴史では時代の流れ、縦に系統的に理解するのに対し、地理では空間的なものの見方を養う。地理の授業は、学生諸君が自分で地球上の課題を追求していくことを通して、地理的なものの考え方ができるように、社会に出て役立つ地理的技能や知識を身につけることを目的としている。

〔講義の概要〕

地理の学習でまず身につけたいのは地図の活用である。地図を使いこなすための知識・技能を学び、地形・気候など自然環境についての知識を深め、さらに世界の国々（主にアジア）の人々が、どのような生活をし、どのような課題を抱えているかについても考えてみる。

〔履修上の留意点〕

必ずしも教科書通りに講義を進めるわけではないが、教科書をこえた内容で効果的な学習ができるようにする。そのため各自が、常に講義内容の把握・理解に心がけ、積極的に参加する姿勢が大切である。下記の講義内容に教科書の関係部分を示しているので、参看しておくこと。地図帳は毎回持参すること。また、地形図・配布資料の実習では色鉛筆（またはボールペン）を使用することがある。

〔到達目標〕

地理の基礎を理解し、地理的な思考方法を身につける。

〔評価方法〕

以下の３つの項目で成績評価を行う。

定期試験　80%…前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験の成績

レポート　10%…課題を提出させ、定期試験と同等に評価する。

受講態度　5%、出席状況 5%

◎　課題は提出期限や条件を厳守した方が有利に評価される。

〔教科書〕

①「新詳地理Ｂ」最新版、帝国書院。　②「新詳高等地図」最新版、帝国書院。

〔補助教材〕

①1:25,000 地形図「大和郡山」国土地理院発行。

②配布プリント教材。

③ビデオ教材。

◎　地形図はできるだけ折り曲げないで、最初の講義に持参すること（折り方を学習します）

〔関連科目・学習指針〕

本教科は歴史（２年・３年）・政治経済（３年）等の科目に関連する。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－２

2006 シラバス　　1SI008

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	世界像の変遷	時代と共に変化する様々な世界観と、それらを表現する地図の歴史を理解する。	
第２週	地図の歴史（日本）	日本の地図の歴史を概観し、「伊能図」を具体事例に地図の読み方を理解する。	
第３週	地図の基本	地図の見方を理解する。	
第４週	地形図の読図１	地図記号・等高線・土地利用について。　教科書Ｐ28～35	
第５週	地形図の読図２ 奈良、地域の調べ方	新旧の地形図を比較する。　Ｐ134～139	
第６週	地形図の読図３	大和郡山の地形図を読む	
第７週	地形図の読図４ 大和郡山（臨地研究）	学校周辺の野外巡検を行う。	
第８週	内的営力による地形	世界の大地形の起伏のしくみを考える。　Ｐ14～20	
第９週	地震と災害	日本の地体構造や地形、自然災害について理解する。　Ｐ18.60.65	
第１０週	近畿の活断層	近畿の主な活断層について理解する。	
第１１週	外的営力による地形	外的営力と地形の関係について考察する。　Ｐ21～27	
第１２週	気候と気候要素	気候についての基礎的知識を理解する。　Ｐ36～45	
第１３週	世界の気候区分１	世界の気候区や土壌帯、植生の特色について理解する。　Ｐ46～57	
第１４週	世界の気候区分２	同上。	
第１５週	植生と土壌	同上。　Ｐ58～59	
第１６週	世界の農業	世界の農業地域を区分・分類し、自然的・社会的条件との関係を考察する。　Ｐ66～77	
第１７週	日本の農業、世界と日本の水産業	日本の農業の特色を世界の農業との比較を通して考える。水産業の現状も理解する。　Ｐ78～81	
第１８週	エネルギー・鉱産資源の問題	世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産・消費について、その特色と問題点を理解する。　Ｐ82～89	
第１９週	工業の発達と変化	工業の特色・立地等について考察する。　Ｐ90～93	
第２０週	世界の工業地域	世界各地の工業生産の様子を見る。　Ｐ94～99	
第２１週	現代世界の国家群・交通網	国家の三要素やさまざまな形態について理解し、世界の交通網の発達について考える。　Ｐ210～219	
第２２週	朝鮮半島	韓国の自然や民族・文化について、日本との比較を通して、特色を理解する。　Ｐ144～151	
第２３週	朝鮮半島	韓国の経済発展に伴う産業の変化、人々の生活の変化について考える。	
第２４週	中国	中国の人々の生活や政治・経済について、その特色を考える。Ｐ224～231	
第２５週	中国	中国における生活の変化、今後の課題について考える。	
第２６週	東南アジア	東南アジアの民族や文化、農業について、その特色を理解する。　Ｐ194～205	
第２７週	東南アジア	ASEAN諸国の経済発展と課題について考える。	
第２８週	西アジア・中央アジア	国境を越えて広がる自然環境、イスラム教を通した民族の交流や文化について考える。　Ｐ174～181	
第２９週	西アジア・中央アジア	石油中心の経済の問題点について考える。	
第３０週	まとめ		

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－２

１年生　地理　臨地研究　計画書

担当：一般教科　藤居岳人

目的：地形図の読図を実体験することを通して、各自が地形図上の様々な情報（等高線、地図記号等）を具体的に認識できるようにする。
講義で触れた新旧の地形図の比較に関して、旧街道が現在も使用されている様子を各自で確認する。

◎　実施計画

日時：５月 22 日（月）　１Ｓ　3,4 限　　１Ｉ　5,6 限

コース：奈良高専　→　富雄川沿い県道　→　城町旧道（推定活断層位置確認）　→
変電所前　→　外川町旧道　→　奈良高専

携帯するもの：25000 分の１地形図「大和郡山」、貴重品、（必要ならば）帽子

注意事項
・当日は教室に待機しておく。出欠をとった後、臨地研究に出発する。高専に戻った後、再度教室に集合し、出欠をとって全員を確認後、終了する予定。
・学外に出るが、講義の一環であるので、教員の指示にしたがい、勝手な行動をとらないこと。
・特に、車道を横断する箇所が二箇所ある。車道横断時は、万一の事故がないよう、必ず教員の指示にしたがうこと。
・外川町の旧道は狭く、民家が多いので、あまり騒ぎすぎないこと。
・複数箇所で教員が各自に現在位置を確認する。野外巡検中、自分の持っている地形図で現在位置を常に確認しておくこと。
・複数箇所で、講義時に触れた等高線の見方、旧道の歴史、活断層について解説する。人数が多いので、その際は数グループに分けて解説する。
・臨地研究時は、教室を空けるので、貴重品は必ず携帯するか、鍵つきロッカーに各自で保管すること。
・雨天時は通常の講義を行ない、臨地研究は５月 29 日（月）の同時間に延期する。
・その他、質問事項があれば、藤居まで。

以上

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－２－①－３

平成 17 年度 授業での利用状況（前期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
情報処理演習室	プロⅡ(3I) プロ製図(5C)	機器分析(5C) 信号処理(5S) 情報理論(3M)	情報理論(2M) プログラミ(3S)	国語(2S) 国語(2M)	英語Ⅰ-2B(5IC) 英語(4S) 情報(2C) プログラミ(2S)
マルチメディア演習室	国語(2E) 国語(2I)	ドイツ語 (4学年全クラス)	ドイツ語(専１) プログラミ(3E)	英語(4E) 英語(4I) 英語(4C)	ドイツ語(全５) プロ設計(5C) 数値解(5S) 統計(専２)
ＬＬ教室	英語(2S) 英語(3E) 英会話(1M)	英会話Ⅰ(1E) 英会話Ⅰ(1S) 英会話Ⅰ(1I) 英会話Ⅰ(1C) 英語表現Ⅰ(専１)	英語表現Ⅰ(専２) 英語(3I) 英語(4M)	英語(3S) 英語(3M) 英語(3C)	英語Ⅰ-2A(5MES) 国語(2C)

平成 17 年度 授業での利用状況（後期）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
情報処理演習室	情報処理(2M) 国語(2I)	国語(2E) プログラミ(3I)	数値解(5S) プログラミ(3E)	国語(2M) 国語(2S)	プログラミ(2S) プログラミ(3S) 情報処理(3M)
マルチメディア演習室	国語(2S) 英語(3C)	物化工演(4C) ドイツ語 (4学年全クラス)	ドイツ語(専１) 英語表現Ⅰ(専１) 英語(4M)	英語(4E) 英語(4I) 英語(4C)	ドイツ語(全５) 情報科学(2C) 機器分析(5C)
ＬＬ教室	英会話Ⅰ(1E) 英会話(1M) 英語(3E) 英会話Ⅰ(1S)	英会話Ⅰ(1I)	英語表現（専２) 英語(3I) 英会話Ⅰ(1I)	英語(3M) 英語(3S)	英語Ⅰ-2B(5IC) 英語(4S) 国語(2C)

（出典　学生課教務係作成資料）

資料５－２－①－４

2MES016

2006 シラバス

物理 II(Physics 2)	2 年・通年・3 単位・必修 機械、電気、電子制御工学科 担当　榊原和彦

〔講義の目的〕
近年急激に進歩した技術は、個人の能力を飛躍的に増大してくれました。最新の技術は我々の生活の隅々に入り込む一方で、あらゆる装置のブラックボックス化を招いています。このような世界では個人の無知やミス、悪意と言ったもので社会に対して重大な悪影響を与える事も可能です。このような時代・世界において、特に技術者が責任ある行動や決断を行うためには、背景にある科学的原理を理解する事によって、自分自身の理解力、洞察力を高める他に方法はありません。
2年次の物理はあらゆる専門科目の基礎であると同時に、科学の基本的方法を学ぶことを目的としています。具体的には
(1)自然を数式を使って理解する(数理的理解)こと。
(2)物理学的理解が自然界のいろいろな現象を統一的に説明すること(普遍性)を理解すること。
です。そのためには、科学の理解とは、単なる問題の解答を見つける能力と異なる事を認識し、創発的思考や、自ら間違いを訂正する能力を訓練してもらいたいと思います。

〔講義の概要〕
2 年次の物理は 1 年生で習った力学分野の剛体、流体と、熱、波動、電磁気、原子といった、より身近な現象から、最先端に近い分野までの広範囲な現象を扱います。

〔履修上の留意点〕
物理は専門科目の入り口に当たるので、「理解する」ということがどういうことかを理解できないと困ります．したがって授業中にこちらから質問を投げかけますので、答えられるように授業の内容を「理解」していくことが重要です。授業中には、学生の発言に関し配点を与える場合もあります。また、数式を理解するために実験が設定されます。これらのレポートをきちんと提出してください。講義時間は限られていますので、復習の意味も含め、問題集は授業の進度に合わせ自分で解いて行ってください。
授業内容は予定であり、学生の理解度を考慮して授業で扱わない事もあります。

〔到達目標〕
前期中間:剛体の釣り合いの問題、圧力の問題が理解でき，問題を解けること。
前期期末:熱力学第一法則、第二法則を理解し，問題を解けること。
後期中間:波動の基本事項、音波、ドップラー効果を理解し，問題を解けること。
後期期末:光波、光の干渉、静電界、コンデンサを理解し、問題が解けること。
どの段階でも最低、教科書の問、例題、問題集 A 問題は解けること。

〔評価方法〕
基本的に定期試験(約 70%)と実験レポート、小テスト、授業中の演習(約 30%;減点方式)で決定され、成績不振の場合は、授業中の発言・回答、レポートなど考慮する場合があります。

〔教科書〕
高専の物理(第5版) 森北出版、高専の物理問題集(第3版) 森北出版
〔補助教材・参考書〕
新訂物理図解 第一学習社、その他配布プリント

〔関連科目・学習指針〕
中学校および1年次の物理分野と数学の最低限の知識は仮定します。しかしながら数学的取扱いに関しては可能な限り復習を含めて授業をすすめる予定です。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－４

2MESI018　　2006 シラバス

化　学　II　(Chemistry II)	２年・通年・２単位・必修 機械，電気，電子制御，情報工学科・ 担当　北村　誠
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕

〔講義の目的〕
私たちの身の回りの物質がどのように構成されているかを理解すること、さらに、物質の性質や物質の変化にかかわる自然現象を化学的に考えて、解釈することを目的とする。

〔講義の概要〕
物質を構成している元素の基本的な性質を周期表から学ぶことで、無機化合物ができるしくみや性質を系統的に理解する。有機化合物を系統的に学ぶことで、その特性や用途を理解し、材料工学分野で利用される高分子化合物へとつなげていく。

〔履修上の留意点〕
化学はともすると暗記科目のように見られているが、すこしの暗記はあるが、基礎事項をしっかり理解できれば系統的に理解できる科目です。復習をしっかりすることが大切です。そのために小テストを度々行う。

〔到達目標〕
前期中間試験： 1)非金属の性質の理解、2)非金属の反応性の理解、3)周期表の理解、4)アルカリ金属の理解、5)アルカリ土類金属の理解
前期末試験： 1)遷移金属の理解、2)金属の分離法、3)アルカンの理解、4)アルケン・アルキンの理解、
後期中間試験： 1)分子構造決定法、2)官能基の性質、3)アルカンの反応性、4)アルケン・アルキンの反応性、5)アルコールの性質、6)カルボニル化合物の性質
学年末試験： 1)芳香族化合物の性質の理解、2)カルボン酸およびその誘導体の性質、3)フェノール類　4)高分子化学の理解

〔評価方法〕
定期試験成績（７０％）に小テスト点、課題および実験レポート点（３０％）を含めて総合評価する。定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアーする事で単位認定の原則とする。

〔教科書〕
「新編　高専の化学」，森北出版，春山志郎　監修
〔補助教材・参考書〕
「参考書名：最新図説化学」，第一学習社，佐野博敏・花房昭静　監修，
「参考書名：セミナー化学Ⅰ+Ⅱ」，第一学習社，第一学習社編集，「補助教材：配布プリント」

〔関連科目・学習指針〕
１年で習う化学と併せて５単位が高専で習う化学のすべてである。しかし、工学で学ぶ者にとって化学は、数学や物理などとともに重要な基礎科目であり、卒業研究をするときや、就職後に必ず必要となる科目である。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－５

2MESIC031　　2006 シラバス

英会話Ⅱ（English ConversationⅡ）	２年・通年・１単位・必修 ・担当：Crawford, Jeff
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕
〔講義の目的〕 The aim of this course is to give students and opportunity to develop the skills and confidence with English conversation by reviewing and oral practice of previously acquired English, as well as learning natural communicative English expression.	
〔講義の概要 This course is designed to allow students to use previously acquired language in a variety of active and challenging speaking and listening activities. Classes will have sub-themes such as pronunciation and listening strategies.	
〔履修上の留意点〕 Participation, cooperation and a willingness to communicate in English are essential requirements for success in this course. Class activities will vary greatly but are designed with your English acquisition in mind.	
〔到達目標〕 Students will gain a strong foundation in asking W5+H questions, students will have familiarized themselves with many of the micro skills for dealing in a communicative English environment including but not limited to exchanging opinions, disagreeing, asking and responding to inquiries about frequency, qualification and quantification.	
〔評価方法〕 There will be 7 class projects, presentations and short tests 35%. There will be several pop quizzes 15% total. Home/In class assignments 25%. 25% of grade will be based on attitude, attentiveness, note-taking and willingness to communicate in English.	
〔教　科　書〕 No text is required. Printed material will be distributed frequently. Students should have a method to store distributed material. Note taking will be necessary so note books and pen or pencil are required.	
〔関連科目〕 英語	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－６

3MESIC003　　2006 シラバス

国　語　（ Japanese ）	３年・通年・２単位・必修 ５学科共通　　担当者名　武田　充啓
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕

〔講義の目的〕
日本語の能力を総合的に高める。他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育んでいく。

〔講義の概要〕
高等学校第３学年に相当する国語の力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読み、多様な考えに触れる。自分が感じたり、考えたりしたことを口頭や文章によって表現する機会、他のクラスメイトの意見や考えに触れ、検討や議論を通して自分の考えを深める機会をもつ。電子メールやウェブページの利用などコンピュータを使った授業も行う。

〔履修上の留意点〕
授業前に教科書の下読み、知らない言葉の下調べは必ず行うこと。ときどきプリントを使った授業をし、プリントを提出させる。授業中はなるべく発問を多くするつもりなので、積極的な発言や質問ができるよう準備しておくこと。また、作文や創作の時間を有効に使えるように、日頃から問題意識を持って自分や自分の身の回りの世界に目を向けておくこと。２週間に１回、漢字テストをする。

〔到達目標〕
前期中間試験: 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 論理的な文章の構成がつかめる。

前期末試験: 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 小説の主題がつかめる。

後期中間試験: 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 文章の論理展開がつかめる。

学年末試験: 1) 基本的な漢字や語句の知識を身につける。2) 小説を主体的に読解できる。

〔評価方法〕
定期試験成績（６０％）を基本とし、これに漢字テスト（１０％）、課題＆ノート提出（１５％）、授業態度（自発的な発表や積極的な取り組み姿勢など、１５％）を加えて総合的に評価を行う。

〔教科書〕
教科書名：「現代文２」（大修館書店）
〔補助教材・参考書〕
「国語便覧」（数研出版），「高校漢字必携」（第一学習社），「配布プリント」（自作補助教材）

〔関連科目・学習指針〕
すべての科目に関連するが、とりわけ語学、人文科学、社会科学、芸術系の科目など。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－７

5S142　　2006 シラバス

卒業研究（Research for Graduation Thesis）	５年・通年・６単位・必修 電子制御工学科・担当（全教員）
〔学習・教育目標との対応〕 D－２（７０%），C－１（２０%），D－１（１０%）	〔JABEE 基準との対応〕 g，ｆ，ｄ－２ａ，ｅ，ｈ
〔講義の目的〕 卒業研究はテーマの決定を始め、文献の収集調査、研究計画の立案、実施方法の検討、実験装置の製作、実験、測定結果や計算データの収集と解析、そしてまとめの発表と論文の作成など自分で決めて行うことが要求される。そこで、高専５年間の総合学習としての卒業研究を通して、実務上の問題点を理解するとともに、論理的な記述能力を身につけ、その過程で生じる問題点に対して様々な方向から検討し解決できる能力を養うことを目的とする。	
〔講義の概要〕 指導教員の指導、助言のもとに研究テーマを定め、研究計画を立案し、現象の解明を実験的理論的に行う。成果については、卒業論文にまとめるとともに、中間発表会と学年末の卒業研究発表会において発表し、教員、学生との討論を行う。	
〔履修上の留意点〕 卒業研究は指導教員からの指導、助言はあるが、学生自らが独創的に計画、実行するものである。「教えられる」他の授業とは異なり、自ら「学ぶ」「研究する」教科であることを自覚して積極的に取り組む必要がある。ただし、指導教員、関連教員との討議は綿密に行うこと。また、限られた条件で十分能力を発揮するためにも、決められた期限、締切等は厳守すること。	
〔到達目標〕 自ら研究課題を見つけ、研究計画を立案し、実施し、論文としてまとめるとともに発表会（公開）で報告することにより、エンジニア、研究者としての基礎素養を身につける。	
〔評価方法〕 卒業研究に対する取り組み（３０%）、卒業論文の内容（４０%）、卒業研究発表会での発表、討議内容（３０%）などを総合的に評価する。	
〔教　科　書〕 特になし 〔補助教材・参考書〕 研究に関する各種参考文献	
〔関連科目〕 全ての専門科目、一般科目	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－８

5M133　　2006 シラバス

設計工学演習 (Advanced Machine Design and Drawing)	５年・通年・2 学修単位・必修 機械工学科・担当　菅原　繁夫
〔学習・教育目標との対応〕 D－1（100 %）	〔JABEE 基準との対応〕 (d -2a)，(d-2c)

〔講義の目的〕
第４学年までに学んだ機械設計製図、設計工学演習の延長線上に位置づけし、鉄道車両用台車部品を事例に要素設計を演習し、併せて会社における設計業務の範囲と内容を理解する。更にチームを編成し自ら開発･改善課題を設定し、情報の収集、解析手法を調査してアイデアを具現化(図面化)する。このプロセスから課題解決方法を学習する。最後に成果発表･検討会を実施する。

〔講義の概要〕
前期は会社での設計業務、設計プロセス、疲れ強さ設計、材料強度、各種要素設計について学び、具体的事例として鉄道車両用台車部品をとりあげる。
後期はチームを編成し、チーム毎に開発･改善設計課題を設定し、課題解決に向けて、日程計画・仕様検討・構想図・強度検討・計画図・部品図･組立図･取扱説明書まで、自ら計画し、情報を収集し、解析手法を調査の上解決方法を考え、遂行し、成果を纏め上げる。最後に、成果発表会を実施する。

〔履修上の留意点〕
設計工学は総合学科であり、多くの学科の学習成果を駆使して課題解決するので、必要により関係学科に立ち返り、学習し理解する。

〔到達目標〕
前期中間試験：1)会社における設計業務の範囲･内容･遂行方法の理解　2)設計に必要な知識･標準
前期末試験　：1)疲労強度設計法の理解、2)疲労限度、疲労寿命計算、3)要素設計演習事例
後期中間試験：1)仕様･構想図･計画図
学年末試験　：1)部品図･組立図･取扱説明書他関連設計書、成果発表

〔評価方法〕
定期試験(40%)、提出課題および小テスト(50%)、取組姿勢(10%)を総合して評価する。

〔教　科　書〕
講師作成の資料による。

〔関連科目〕
基礎数学、材料力学、振動工学、材料、機構、JIS 設計他

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－８

4S134　　2006 シラバス

システム設計Ⅱ (Design and Production for Control Engineering)	4 年・通年・2 学修単位・必修 電子制御工学科 担当　阪部俊也、福田和廣、天野裕司
〔学習・教育目標との対応〕 D-1 (80 %)、D-2 (20%)	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2c), (e) , (h)

〔講義の目的〕
電子制御工学科における総合科目として位置付け、小型自立型ロボットの開発、設計、製作をグループで取り組み、協調性、創造性、問題解決能力を養い、成果発表をすることを目的とする。

〔講義の概要〕
自立型小型ロボットの製作に必要なプログラムの基礎の学習、部品加工に必要な工作機械の実習、ならびにインターフェイス回路作成の学習後、ロボットの機構、動作のアイディアを練り、設計、製作組み立てを行い、試運転での問題点を解決し、学科内ロボットコンテストを行う。

〔履修上の留意点〕
グループでロボット製作を行うことから、グループとしての連係を密にし、各人の役割、知恵の結集が重要であり、自ら積極的に提案、討議、実行する事が大切である。

〔到達目標〕
アイディアに富んだ、素晴らしいロボットを完成させる事が目標であるが、このためには、各種の問題を解決する必要がある。問題解決のための手法を学び、グループの結束力を高めることを目標とする。

〔評価方法〕
システム設計の教科に如何に積極的に取り組んだかが重要であるが、基本的には下記の評価基準で評価する
前期末定期試験（２０%）、工作機械実習レポート（１０%）、製作したロボット点（２０%）、製作点（３０%）、製作発表（１０%）、グループ内相互評価点（１０%）などを総合して評価する。

〔教　科　書〕
特に無し、必用に応じてプリントを配付する。

〔補助教材・参考書〕
各種カタログならびに取り扱い説明書

〔関連科目〕
専門教科のすべてが関係する。さらには、まだ授業を受けていない内容も必用となるが、チャレンジ精神を大いに発揮して、素晴らしいマシンの完成を望む。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－①－８

4I139　　2006 シラバス

情報工学演習Ｂ (Exercises in Information Engineering B)	４年・後期・１学習単位・選択 情報工学科・担当　本間　啓道
〔学習・教育目標との対応〕 Ｄ－１（１００%）	〔JABEE 基準との対応〕 （ｄ－２ａ）、（ｄ－２ｃ）
〔講義の目的〕 OS のインストール作業、計算機の管理作業等を通して、ユーザーではなく管理者としての計算機の使い方を体得する。	
〔講義の概要〕 実際に各種管理作業を行う。計算機ハードウェアの組み立て、ＯＳのインストール、アプリケーションのインストール等、計算機が目的通りに動作するようセットアップし、その後の維持管理を行う。	
〔履修上の留意点〕 実際に計算機を使って作業を行うが、それぞれの作業が前回までの作業が終わっていることを前提に行われるので、極力休まないこと。休んだ場合は次回までの間に作業を終了させておくこと。	
〔到達目標〕 与えられた計算機を目的の用途に応じてセットアップできること。日常の管理業務をこなせること。	
〔評価方法〕 テスト（８０%）、課題や授業中の発表等（２０%）	
〔教　科　書〕 なし 〔補助教材・参考書〕 各種コンピュータ雑誌、Ｗｅｂページ	
〔関連科目〕 ３年次計算機システム演習、５年次卒業研究	

（出典　平成 18 年度シラバス）

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）

・シラバスの作成

教務委員会と専攻科委員会によるシラバス作成の基本方針とテンプレート（資料５－２－②－１）に従って，講義の目的，到達目標，評価方法，各週の講義内容等が記載されたシラバスを作成している（資料５－２－②－２）。また，各週の講義項目・内容の欄には自己評価欄を設けて，学生に講義内容の理解度を確認させている（資料５－２－②－２）。さらには，５年間の授業科目系統図を記載している（資料５－２－②－３）。

・ シラバスの活用

シラバスは年度始めに全学生に配付され，本校ホームページで公開（資料５－２－②－４）されており，学生がシラバスを活用しやすい環境を整えている。また，授業アンケートにおいては，授業内容とシラバスの整合性やシラバスの活用に関する項目を設けている（資料５－２－②－５）。アンケートの集計結果とそれに対する各教員のコメントを学生及び教員に公表している（資料５－２－②－６）。 また，全体の集計結果を授業アンケート報告書に記載しており，その結果から授業内容がシラバスに沿っていることが分かる（資料５－２－②－７）。

（分析結果とその根拠理由）

本校のシラバスは講義の内容や評価方法等を記載するだけにとどまらず，学生による自己評価欄や授業科目系統図等も掲載し，教育課程の編成の趣旨に沿って適切に作成されている。また，本校ホームページでのシラバスの公開等，学生がシラバスを活用しやすい環境を整えるとともに，授業アンケートの結果とコメントを公表することで，シラバスの活用状況を確認できる体制も整っている。

資料５－２－②－１　シラバス作成の基本方針

平成１７年１月７日

教員・非常勤講師　　各位

教 務 主 事
専 攻 科 主 任

H.17 年度シラバス原稿作成の基本方針について

１．教育改善に対する教務委員会・専攻科委員会の基本的理念

1）教育改善のシステム化

“JABEE の理念に従い，（継続的な）教育改善を行う（システムを立ち上げる）“という長期的目標にそって行動する．

2）長期的な改善と効率化のために短期的には手間をかける

個別の案件（JABEE 審査や認証評価，情報公開等）について場当たり的に対応するのではなく，長期的な教育改善による質と作業効率の向上を目指す．そのため短期的には立ち上げ・抜本的な変更への手間をかける．

２．教育改善に対するシラバス作成の基本方針

シラバス作成における教育改善の第１歩は，教育の内容・実態を外から見えるようにすることである．短期的には，これまで授業の中で，担当教員の裁量で行われ，第三者から見えにくかった教育内容・方針のうち公開可能な内容をシラバスという全学的な共通形式で対外的に明示する．長期的には，全学的な教育内容およびシステムの改善・効率化を目指す．

1）本科・専攻科の全学的なシラバス改善

JABEE 小委員会からの要望は 4,5 年以上の改善であるが，先行高専の実施状況を調査した結果，教務委員会・専攻科委員会としては２年後の認証評価への対応を考慮して，全学的なシラバス改善を行う．

2）対外的な情報公開の流れへの対応のための PDF 化・Web 公開

シラバスは受講学生への情報提供が主要な目的であるが，学内外へのシラバス公開を目的として，シラバスの電子化と Web 公開を 2005 年度中*4（JABEE 対応は前半）に行う．

3）シラバス原稿作成要領に沿った記述内容（形式）の質の保証

受講前の学生（Web 公開後は保護者や学外者）に対して教育の概要が把握できるように，各項目は具体的に明示する．JABEE 受審の先行高専のシラバス*2*3 を Web 経由で参照頂き，シラバス原稿作成要領と矛盾しない範囲で参考になる点は取り入れて頂いて結構です．

３．補足

*2 明石高専（2003 年度認定），　*3 長野高専（H.17 年度受審）

*4 シラバスの電子化・Web 公開の作業計画（予定）

2005 年 2 月　　H.17 年度シラバスの PDF 化提出

2005 年度中の作業予定

H.16 年度シラバスの PDF 化提出

H.16,17 年度シラバス（PDF 版）の Web 公開

H.16,17 年度シラバス原稿の電子ファイル提出（word 形式，またはテキストファイル形式を予定）

H.16,17 年度シラバス（テキスト版）の Web 公開　　以　上

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－２－②－１　シラバスのテンプレート

科目名（英文名）　　約２cm （ゴシック１２ポイント）	（ゴシック１２ポイント） ○年次通年・○単位・必修 担当者名
〔学習・教育目標との対応〕 ○　１年生から３年生までは空欄で良い	〔JABEE 基準との対応〕
〔講義の目的〕 ○　Ａ４・縦方向・横書き ○　本文文字は明朝体（細明朝・MS 明朝等を含む） ○　文字の大きさ　８～１０．５ポイント ○　上下左右余白　２０mm	
〔講義の概要〕	
〔履修上の留意点〕 ○　学生がこの科目を履修するにあたって留意すべき点を具体的に記入してください	
〔到達目標〕 ○　定期試験ごとの達成目標 ○　学生は，何がわかり，何ができなければならないのか，その目安を具体的に記入して下さい	
〔評価方法〕 ○　記入例を参考にして，具体的に詳しく記入してください	
〔教　科　書〕 〔補助教材・参考書〕	
〔関連科目〕	

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－２－②－１　シラバスのテンプレート

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週			
第２週			
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
前期期末試験			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第２０週			
第２１週			
第２２週			
第２３週			
第２４週			
第２５週			
第２６週			
第２７週			
第２８週			
第２９週			
第３０週			
学年末試験			

＊４：完全に理解した（達成），３：ほぼ理解した（達成），２：やや理解できた（達成），１：ほとんど理解できなかった（達成），０：まったく理解できなかった（達成）．

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－２－②－２　シラバスの例

別紙 2-1

制御理論　（ Control Theory ）	４年次通年・２単位・必須 担当者名　〇〇　〇〇
〔学習・教育目標との対応〕 D－1（ 90 % ），B－2（ 10 % ）	〔JABEE 基準との対応〕 (d -2a)，　(d-2b)

〔講義の目的〕
制御工学は現在の科学技術において、不可欠な学問であり、システムとしての考え方を修得する事を目標とする。４年次では、自動制御の基礎である、フィードバック制御を理解し、要素の特性を表す伝達関数を使いこなす事を目的とする。

〔講義の概要〕
制御で用いられる基礎概念の理解、数式化として時間関数をラプラス変換する事で演算子領域ｓの関数として、種々の要素が伝達関数として表され、これを用いる事で、制御理論が上手く整理され、フィードバック制御も容易に整理される。

〔履修上の留意点〕
数学的な取り扱いが多いが、ある種道具として捕らえ、何を求めているかを常に念頭に置き、復習する事が大切である。授業中に理解する努力をし、積極的に質問や発言ができるようにする事。ノートを上手にまとめる事が理解につながる。

〔到達目標〕
前期中間試験: 1)自動制御の基本的記述用語の理解、2)フィードバックの考え方の理解、3)非線形要素の線形化の仕方、4)ラプラス変換の基本演算能力、5)要素の伝達関数記述
前期末試験: 1)ブロック線図によるシステム記述、2)基本要素の過渡応答の伝達関数による解析、応答特性の理解、3)応答の基準値の理解
後期中間試験: 1)周波数伝達関数の理解と利用、2)基本要素の周波数特性の解析能力、3)周波数特性の表示法(ベクトル軌跡、ボード線図)の記述と利用法
学年末試験: 1)開回路特性とフィードバック回路特性の理解、2)ニコルス線図の原理の理解、3)ニコルス線図を用いて特性改善能力

〔評価方法〕
定期試験成績（８０％）に演習レポート点（１５％）、授業態度点（ノート作成等）を含めて総合評価する。定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアーする事で単位認定の原則とする。

〔教科書〕
「教科書名：〇〇〇〇」，出版社〇〇〇〇〇，著者〇〇〇〇
〔補助教材・参考書〕
「参考書名：〇〇〇〇」，出版社〇〇〇〇〇，著者〇〇〇〇，「補助教材：配布プリント」

〔関連科目・学習指針〕
応用数学。計測工学との関連が深く、
数学的な取り扱いが多いが実際の系を考えながら、勉学してほしい。

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－２－②－２　シラバスの例

別紙 2-2

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	自動制御とは（総論）	自動制御技術の歴史を概観し、制御とは何かを明らかにする。	
第２週	自動制御の種類と用語	自動制御が行われている例と用語について説明する。	
第３週	フィードバック制御の考え方	制御の基本的な考え方であるフィードバックに付いて解説する。	
第４週	システムのモデル化	制御で必要となる動的システム記述について具体例をもとに解説する。	
第５週	非線形要素の線形化の仕方	線形化手法として、微小変動法による解説を行う	
第６週	ラプラス変換	ラプラス変換の定義と意味について解説し、演習を通じて応用力を養わせる。	
第７週	ラプラス変換の性質と伝達関数	ラプラス変換の演算公式の説明をし、伝達関数を求める応用力を付けさせる。	
第８週	ラプラス逆変換	ラプラス逆変換の定義と意味について解説し、時間関数との関係を理解させる。	
第９週	ラプラス逆変換の応用	ラプラス逆変換の演習を通じて応用力を養わせる。	
第１０週	伝達関数の考え方	システム方程式のラプラス変換から伝達関数の概念を理解し、システム解析に応用させる。	
第１１週	制御要素の伝達関数	制御の基本要素（比例、微分、積分、一次遅れ）の伝達関数を理解させる。	
第１２週	制御要素の伝達関数	制御の基本要素（２次遅れ、むだ時間、疑似微分）の伝達関数を理解させる。	
第１３週	ブロック線図の表し方	ブロック線図によるシステムの記述法を理解させる。	
第１４週	ブロック線図の性質	ブロック線図の基本的性質を理解し、信号の流れを把握する力を養わせる。	
第１５週	ブロック線図の等価変換	ブロック線図の等価変換を理解し、複雑な線図を簡単化し総合伝達関数を求める能力を付けさせる。	
前期期末試験			
第１６週	過渡応答について	伝達関数を用いての応答を求める利点を理解し、簡単な要素のステップ応答を求める能力を付けさせる。	
第１７週	応答の種類	インパルス応答、ランプ応答に付いて理解し、簡単な要素の応答が求める能力を付けさせる。	
第１８週	一次遅れ要素の応答	一次遅れ要素のステップ応答の特性パラメータ（時定数、ゲイン定数）理解し、求める能力を養わせる。	
第１９週	微分、積分要素の各種応答	微分、積分要素のステップ応答、インパルス応答、ランプ応答が求める能力を付けさせる。	
第２０週	二次遅れ要素の応答	二次遅れ要素のステップ応答を求める能力を付けさせる。	
第２１週	二次遅れ要素の応答	二次遅れ要素のパラメータの意味を理解し、応用出来る能力を養わせる。	
第２２週	各種応答の整理	制御の基本要素の各種応答を整理し、特徴、パラメータを把握し、応用力を養わせる。	
第２３週	二次遅れ要素のステップ応答と過渡応答の特性値	過渡応答の特性値（行き過ぎ時間、行過ぎ量、整定時間、振幅減衰比）を理解させる。	
第２４週	制御基本要素のベクトル軌跡	周波数伝達関数より、ベクトル軌跡の求め方を理解し、演習を通じて応用力を養わせる。	
第２５週	制御基本要素のボード線図	周波数伝達関数から、ボード線図の求め方を理解し、特性が理解出来る能力を養わせる。	
第２６週	ボード線図上での合成	直列システムの周波数特性のボード線図上での求め方を理解し応用できる能力を養わせる。	
第２７週	ニコルス線図の原理	開回路伝達関数とフィードバック回路伝達関数の関係を理解し、ニコルス線図の使い方を解説する。	
第２８週	ニコルス線図の使い方	開回路伝達関数の周波数特性からフィードバック伝達関数の周波数特性を求める演習を通じ、関係を理解させる。	
第２９週	ニコルス線図を用いた特性改善法	ニコルス線図を用いて特性改善を行う演習を通じ、応用力を養わせる。	
第３０週	まとめ		
学年末試験			

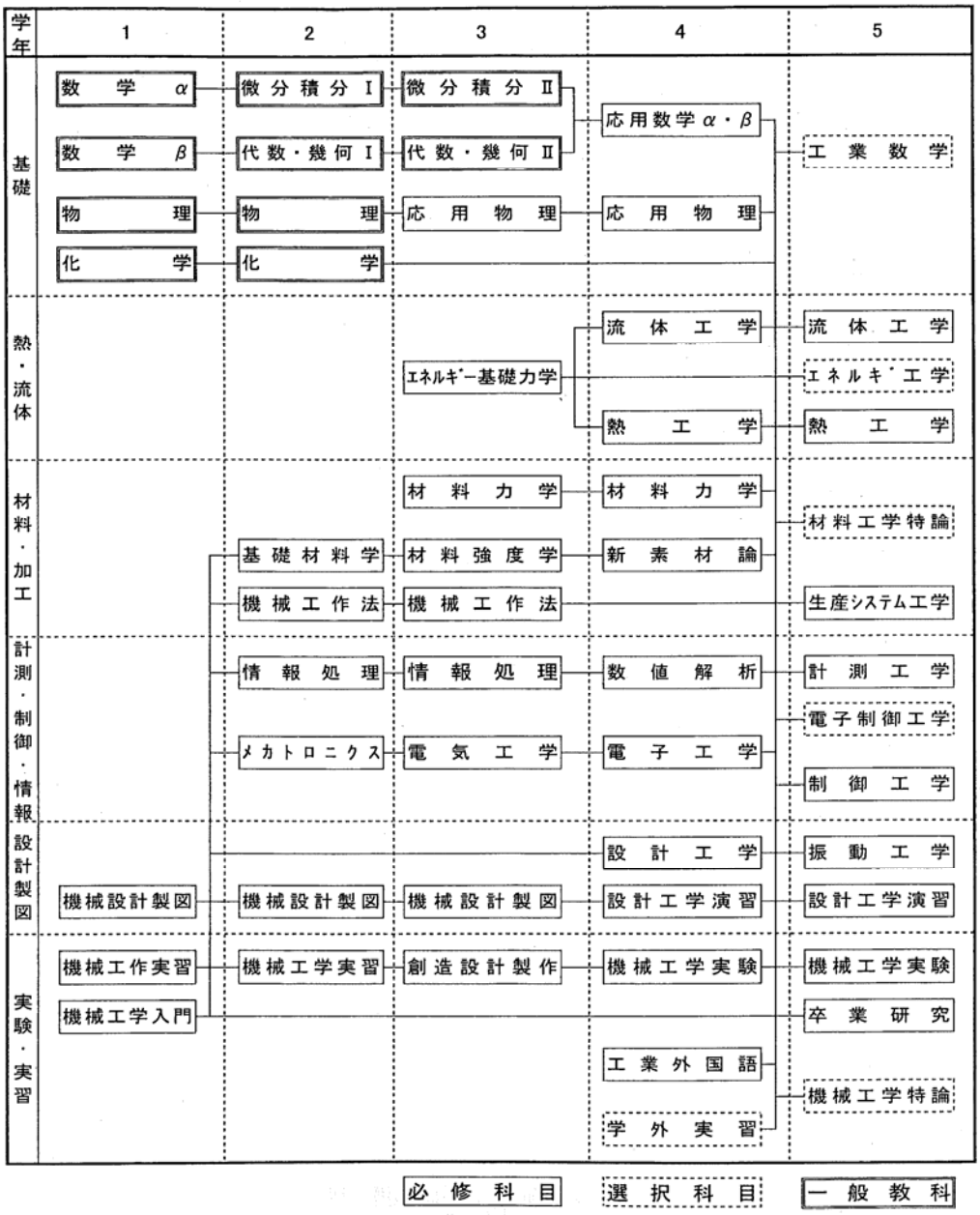
＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－２－②－３

機械工学科　カリキュラム系統図

平成１６年度以前入学者

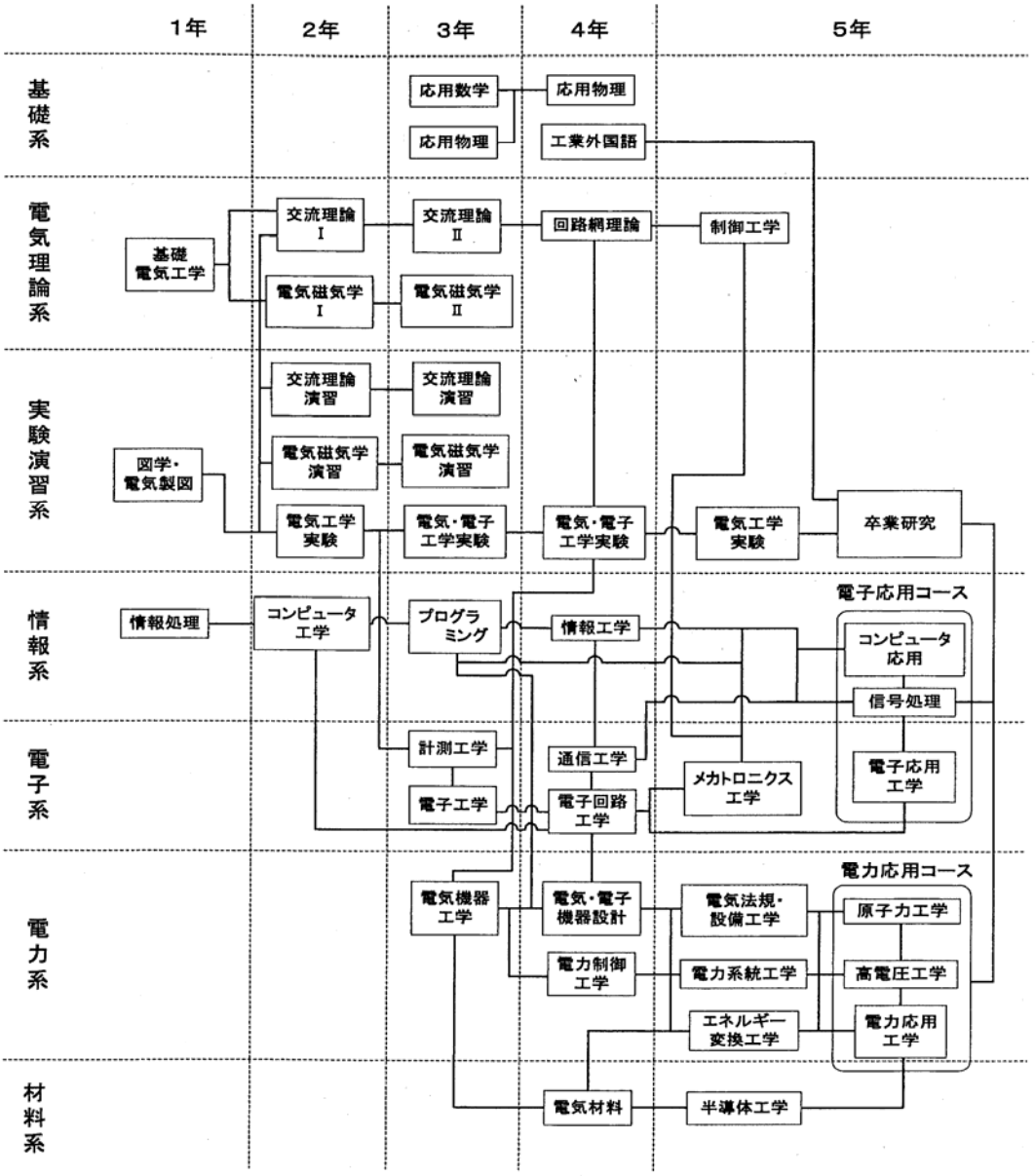


（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－②－３

電気工学科　授業科目系統図

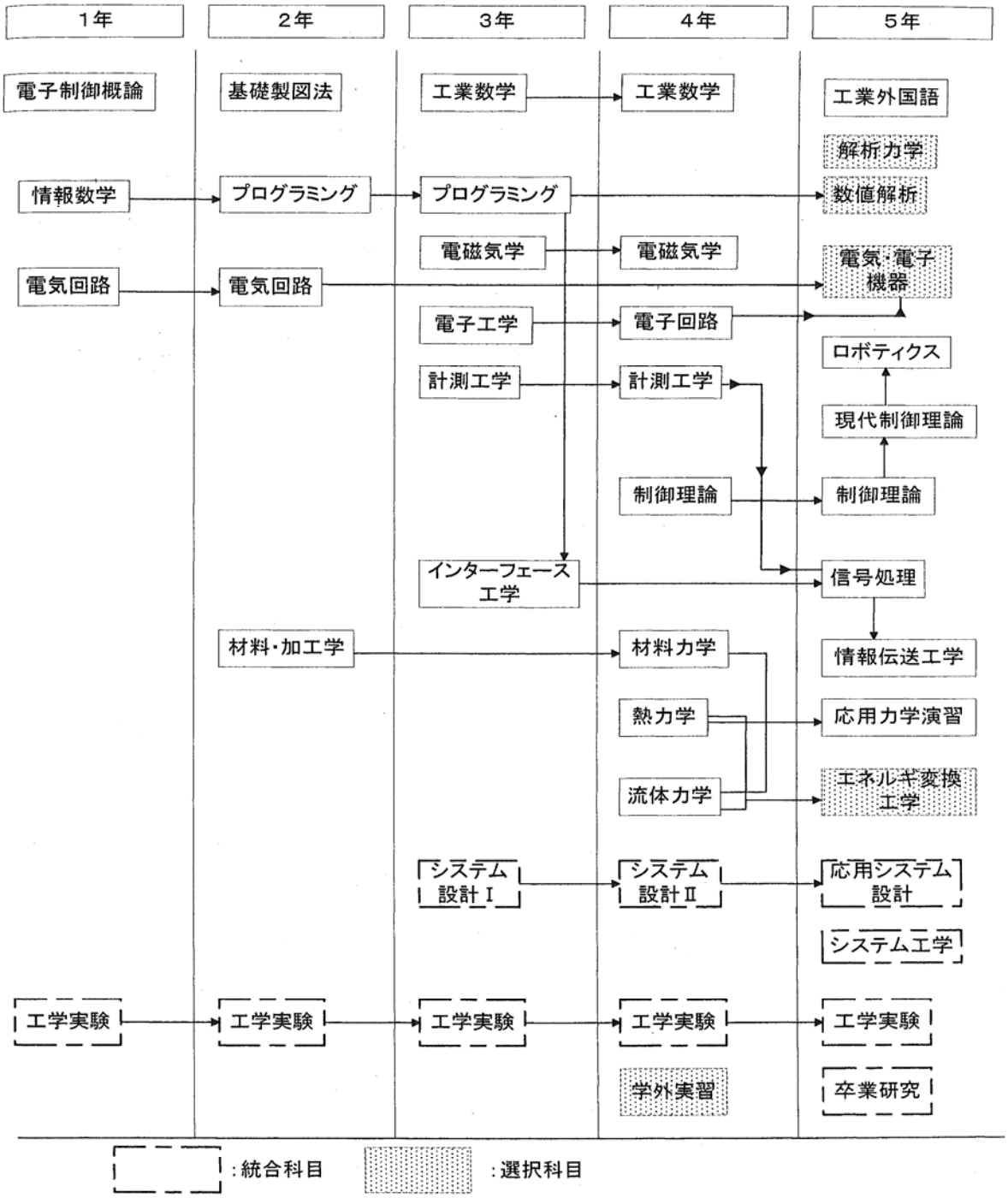
（２００４年度以前入学者）



（出典　平成 18 年度シラバス）

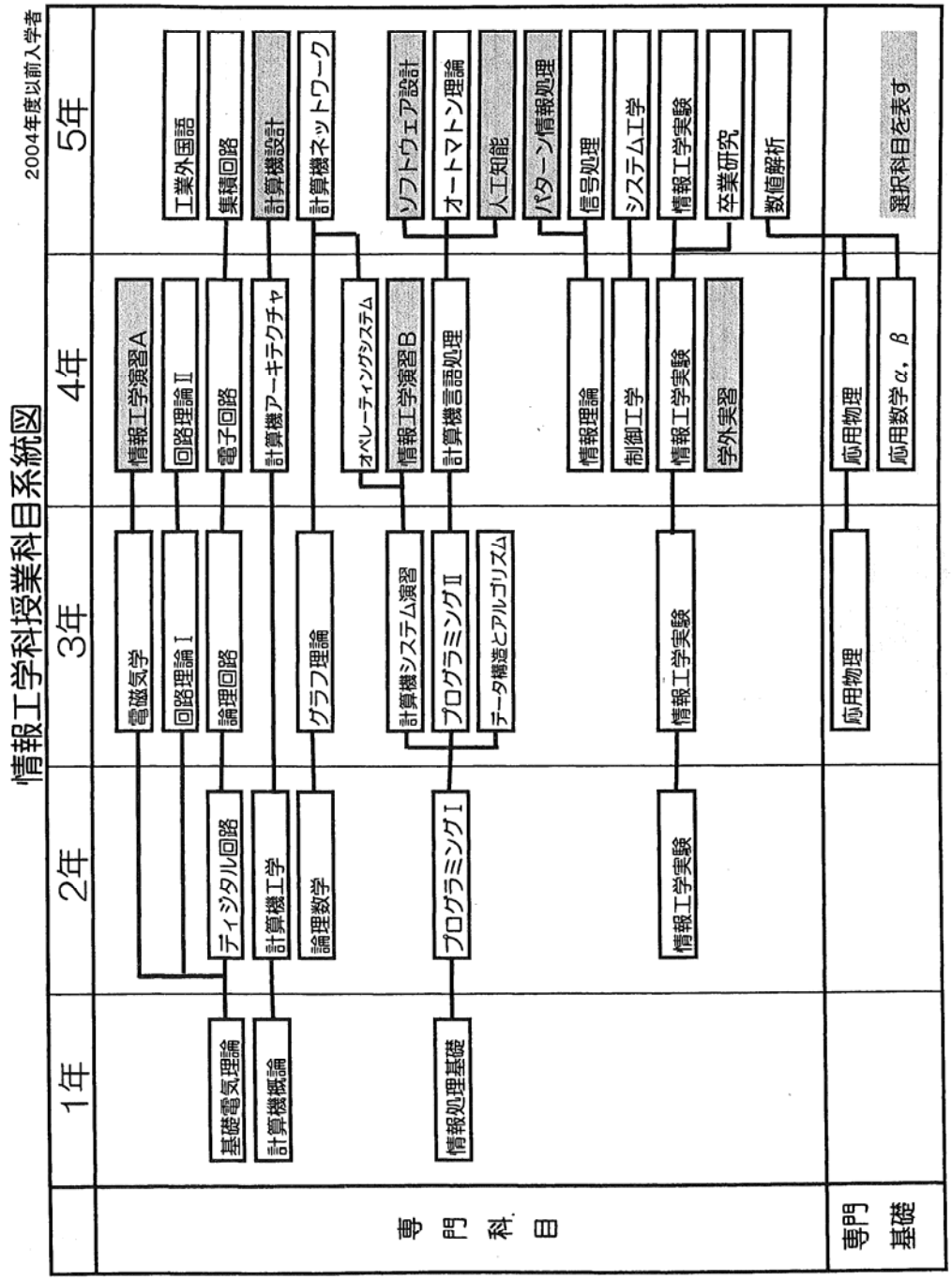
資料５－２－②－３

電子制御工学科　授業科目系統図（平成16年度以前入学者）



（出典　平成 18 年度シラバス）

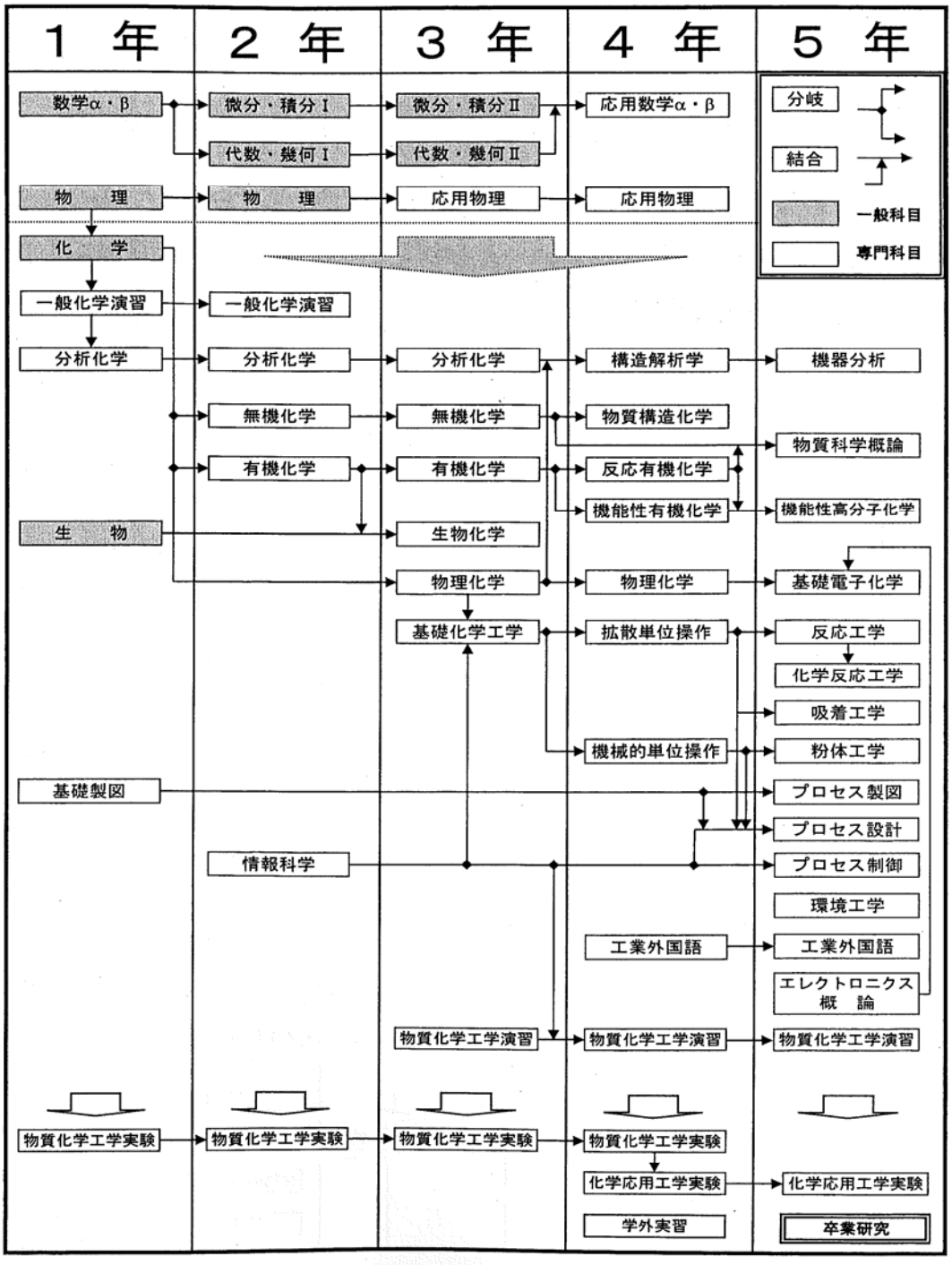
資料５－２－②－３



（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－②－３

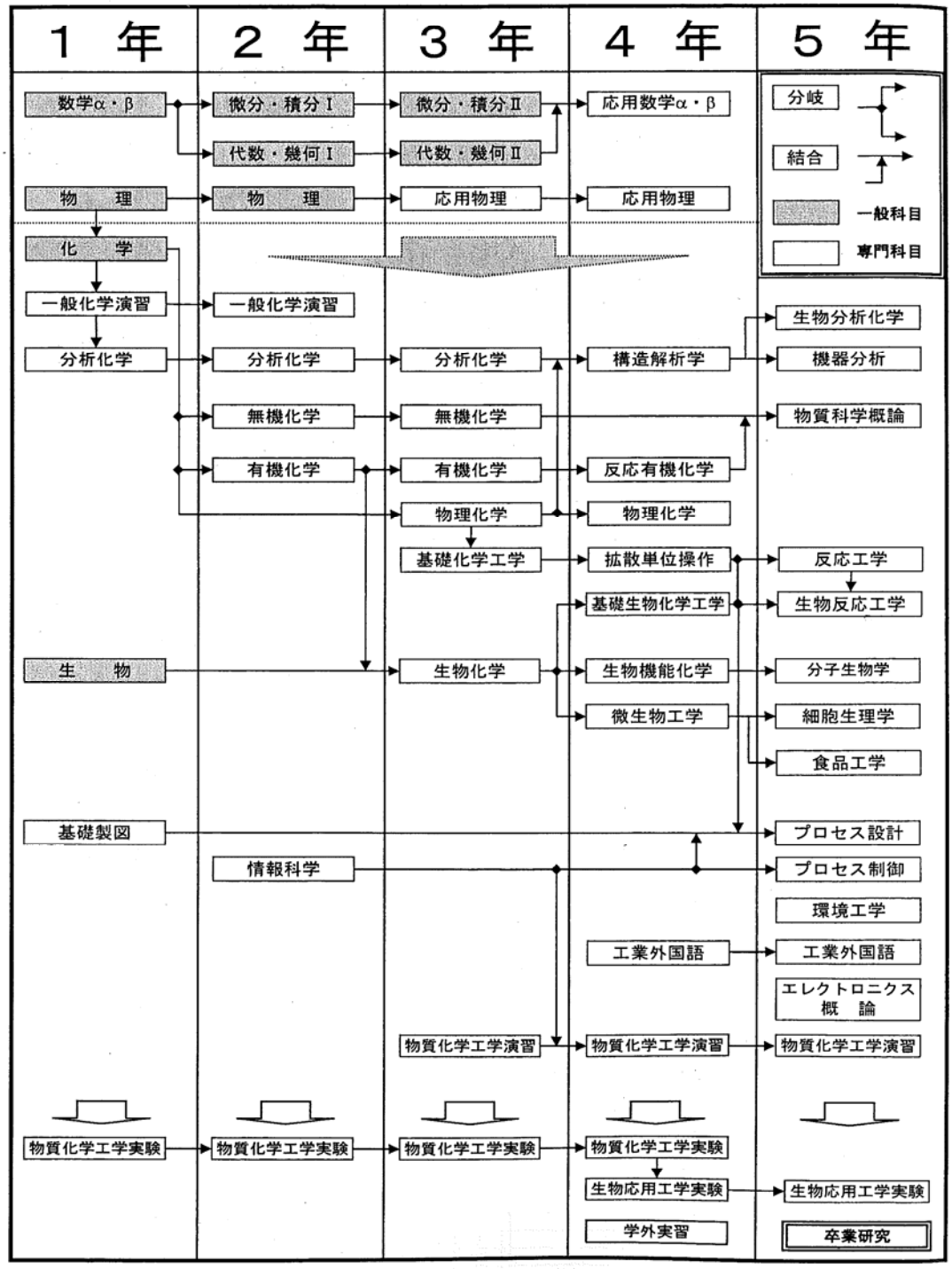
物質化学工学科（化学応用工学コース）授業科目系統図（２００４年度以前入学生）



（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－②－３

物質化学工学科（生物応用工学コース）授業科目系統図（２００４年度以前入学生）



（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－②－４

奈良高専　カリキュラム・シラバス

カリキュラム・シラバス

奈良高専 narakosen

▶ [受験生の方へ]のページへ戻る

本科

機械工学科	一般教科	[平成１３～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成９～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
電気工学科	一般教科	[平成１３～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成１１～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
電子制御工学科	一般教科	[平成１３～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成１０～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
情報工学科	一般教科	[平成１３～１６年度入学者に適用]
		[平成１７年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成１０～１６年度入学者に適用]

専攻科

機械制御工学専攻	[平成１７年度入学者に適用]
	[平成１８年度以降入学者に適用]
電子情報工学専攻	[平成１７年度入学者に適用]
	[平成１８年度以降入学者に適用]
化学工学専攻	[平成１７年度入学者に適用]
	[平成１８年度以降入学者に適用]

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/curriculum/curriculum2006

（出典　奈良高専ホームページ）

資料５－２－②－５

授業アンケート用紙（設問及び自由記述）

平成17年度授業アンケート（講義用）

私たち教員は、教育内容の向上を図り、学生の皆さんと共により良い授業を実現していきたいと考えています。その資料とするため、皆さんの率直な意見を聞きたいと思いますので、以下の設問に対する現時点での評価を真面目に回答して下さい。

［設問］

A群．授業の様子について

1．先生は授業を熱心に行った
2．先生の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかった
3．板書（教材提示機器によるものを含む）は見やすかった
4．授業中、先生に質問しやすかった

B群．授業の準備や工夫について

5．先生の授業に対する準備は十分であった
6．先生の説明はわかりやすかった
7．適切な教材（教科書・プリント・指導書・実験器具・用具など）が用いられた
8．授業の理解を深めるような演習・宿題は十分あった

C群．授業の組み立てや評価について　【※（　）内の該当する語句に○を付けて下さい。】

9．授業はシラバスの内容に沿って行われた
10．授業のレベルや進み具合は適切であった　**※レベル：（ 高・適切・低 ）　進み具合：（ 速・適切・遅 ）**
11．試験の内容は適切であった　**※内　容：（ 難・適切・易 ）**
12．成績の評価方法は妥当だと思う

D群．あなたの取り組みについて

13．授業の予習をした
14．授業の復習をした
15．教科書以外の本や参考書などを活用した（または、授業に積極的に取り組んだ）
16．シラバスを活用した

E群．授業全般について

17．授業の内容に興味を持った
18．授業の内容を十分理解できた
19．授業の目的や意義を十分理解できた
20．総合的に良い授業と評価できる

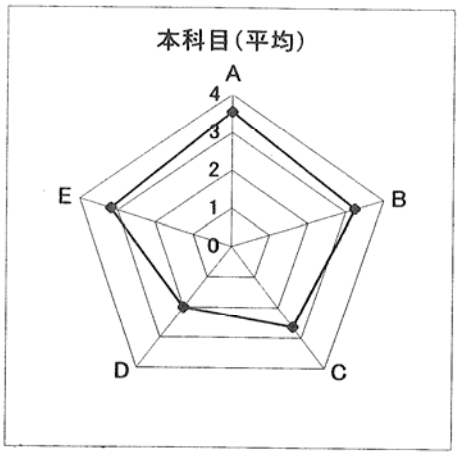
［自由記述］

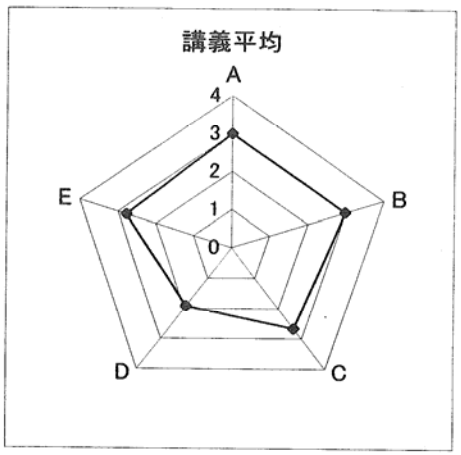
この授業をよくするために参考になる意見があれば書いて下さい。

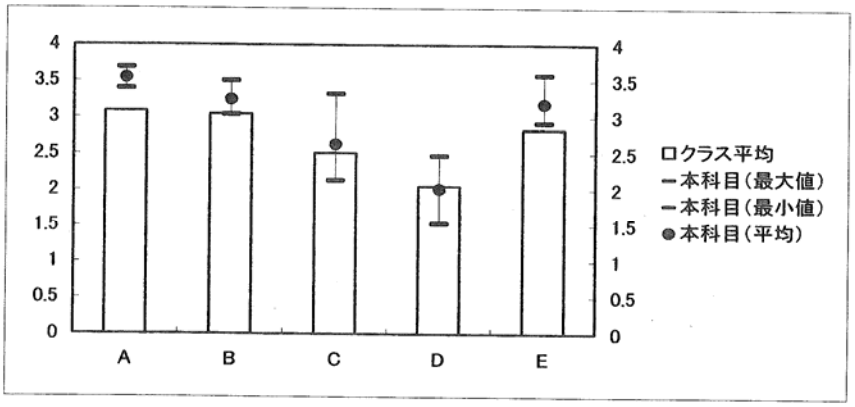
（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－2－②－６　授業アンケート集計結果とコメントの例

学科	学年	科目	必修・選択	単位数
機械工学科	1	数学α	必修	4





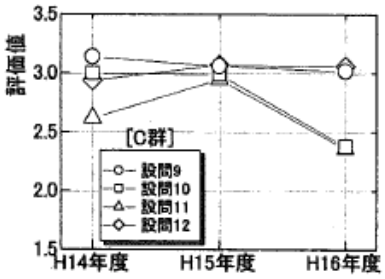


担当教員による分析と課題

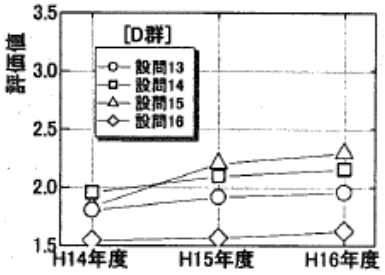
A群では、最大値と最小値の差が小さく、平均値よりも高い評価を受けていることから、多くの学生が集中して授業に取り組んでいるように思われます。また、出来るだけ多くの演習時間をもうけたことから、授業中に質問しやすいとの評価を受けたと思われます。C群においては、設問10と11の回答方法が徹底できていなかったため、グラフの値を鵜呑みにすることはできませんが、アンケート用紙の授業のレベル・進み具合・内容への回答では、大半の学生が適切と答えていながらも、評価に少なからず、ばらつきがみられました。このことは、D群における評価のばらつきと関係があると思われますので、学生が少しでも予習や復習に取り組める授業作りも必要なのではないかと思っています。

（出典　平成 16 年度授業アンケート報告書）

資料５－２－②－７　授業アンケート全体の集計結果に対する報告（抜粋）



C群は、「授業の組み立てや評価について」尋ねる設問群である。設問９は、「シラバスに沿っているか」を尋ねる。昨年度３.０６の評価に対して今年度は３.０１（－０.０５）と、昨年に引き続き評価を下げ続けている。高い評価を維持しているとはいえ、気をつけたい項目である。設問１０と１１は、「レベルや進度」「試験の内容（または成績評価の対象となるレポートや課題の設定）」について聞く設問では、前述したように無回答者が多く、結果として大きく評価値を下げた。ただし、無回答者を除く設問１０と１１の評価値は、講義系で２.９７と２.９４、実技系で３.１８と３.１２であり、実態としては前年度とほぼ同じ評価と言えよう。設問１２は、成績評価の妥当性について聞いている。昨年度３.０７に対して３.０６（－０.０１）と、微減ながらほぼ同等の高い値を得ている。



D群は、「学生自身の取り組み」を尋ねる設問群だが、設問１３、１４、１５は各系で質問内容が異なる項目であるが、予習や復習、および授業で得た知識・経験を、その後、生かすことができたかどうかを尋ねている項目である。設問１３の昨年度の評価の１.９２に対して、今年度は１.９６（＋０.０４）に、設問１４は昨年度２.１０から今年度２.１６（＋０.０６）に、それぞれアップしている点は（設問の見直しの効果を含めても）評価できるだろう。設問１５は、「教科書以外の本や参考書の活用」および「授業への積極的参加」を聞く設問であるが、昨年度２.２１に対して今年度２.３０（＋０.０９）とアップしている。設問１６はシラバスの活用について聞く設問である。昨年度１.５７に対して今年度１.６３（＋０．０６）とアップしているものの、依然低い値を維持しており、気にかかる点である。

（出典　平成16年度授業アンケート報告書）

資料５－２－②－７　授業アンケート全体の集計結果

全体平均(評価値分布一覧表)

設問	評価 5		4		3		2		1		無回答		平均
1	0	(0.0%)	7519	(48.5%)	6248	(40.3%)	1266	(8.2%)	440	(2.8%)	30	(0.2%)	3.34
2	0	(0.0%)	6230	(40.2%)	5757	(37.1%)	2520	(16.3%)	967	(6.2%)	29	(0.2%)	3.11
3	0	(0.0%)	4271	(27.5%)	5884	(38.0%)	3596	(23.2%)	1652	(10.7%)	100	(0.6%)	2.81
4	0	(0.0%)	4143	(26.7%)	6128	(39.5%)	3694	(23.8%)	1500	(9.7%)	38	(0.2%)	2.83
5	0	(0.0%)	5751	(37.1%)	7262	(46.8%)	1896	(12.2%)	536	(3.5%)	58	(0.4%)	3.17
6	0	(0.0%)	4359	(28.1%)	6629	(42.8%)	3295	(21.3%)	1188	(7.7%)	32	(0.2%)	2.91
7	0	(0.0%)	5242	(33.8%)	7088	(45.7%)	2352	(15.2%)	771	(5.0%)	50	(0.3%)	3.08
8	0	(0.0%)	4480	(28.9%)	6322	(40.8%)	3322	(21.4%)	1317	(8.5%)	62	(0.4%)	2.89
9	0	(0.0%)	4804	(31.0%)	7641	(49.3%)	1932	(12.5%)	739	(4.8%)	387	(2.5%)	3.02
10	0	(0.0%)	3485	(22.5%)	6008	(38.8%)	2094	(13.5%)	748	(4.8%)	3168	(20.4%)	2.38
11	0	(0.0%)	3690	(23.8%)	5572	(35.9%)	2069	(13.3%)	908	(5.9%)	3264	(21.1%)	2.36
12	0	(0.0%)	5146	(33.2%)	7377	(47.6%)	1978	(12.8%)	780	(5.0%)	222	(1.4%)	3.06
13	0	(0.0%)	1578	(10.2%)	2864	(18.5%)	4478	(28.9%)	6519	(42.0%)	64	(0.4%)	1.96
14	0	(0.0%)	1816	(11.7%)	3921	(25.3%)	4700	(30.3%)	5018	(32.4%)	48	(0.3%)	2.16
15	0	(0.0%)	2714	(17.5%)	4311	(27.8%)	3412	(22.0%)	5013	(32.3%)	53	(0.3%)	2.30
16	1	(0.0%)	1066	(6.9%)	1900	(12.3%)	2863	(18.5%)	9611	(62.0%)	62	(0.4%)	1.63
17	1	(0.0%)	3806	(24.6%)	6318	(40.8%)	3696	(23.8%)	1630	(10.5%)	52	(0.3%)	2.79
18	1	(0.0%)	2954	(19.1%)	6959	(44.9%)	4099	(26.4%)	1451	(9.4%)	39	(0.3%)	2.73
19	1	(0.0%)	3346	(21.6%)	6939	(44.8%)	3776	(24.4%)	1394	(9.0%)	47	(0.3%)	2.78
20	1	(0.0%)	4590	(29.6%)	7377	(47.6%)	2578	(16.6%)	914	(5.9%)	43	(0.3%)	3.00

（出典　平成16年度授業アンケート報告書）

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法（PBL等）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

・ 創造性を育む教育方法

準学士課程においては，卒業研究（資料５－２－③－１）を中心とした実験，演習科目が自主的かつ継続的に行われており，問題解決型によるデザイン能力と創造性を育む教育が実施されている。また，機械工学科では５年次の「設計工学演習」（資料５－２－③－２）において，チームごとに学生達が自ら開発・改善課題の設定，解決方法の探究，成果発表を行うPBLを取入れている。電子制御工学科では４年次の「システム設計Ⅱ」（資料５－２－③－３）において，創造性や問題解決能力を養うために，学科内ロボットコンテストを目標にして，グループごとにロボットの開発，設計，製作を行っている。情報工学科では４年次の「情報工学演習B」（資料５－２－③－４）において，問題解決能力を体得するため，学生が自らサーバーを設定し，管理者としてサーバーの監視と維持管理を行っている。

・インターンシップ（学外実習）

準学士課程においては，４年次の全ての学科においてインターンシップ（学外実習）を取入れている（資料５－２－③－５）。参加希望者と受入企業の調整のため，各科で学外実習ガイダンスと受入企業決定後には学外実習事前研修（資料５－２－③－６）を行い，学外の講師を招いて学外実習特別講演会（資料５－２－③－７）も行っている。平成１７年度の実習先の企業は１１４社，学生の参加数は１４２名である（資料５－２－③－８）。学外実習後には報告書（資料５－２－③－９）を提出させ，報告会（資料５－２－③－１０）も実施している。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程における創造性を育む教育方法は卒業研究にとどまらず，さまざまな科目でPBLの教育方法を取入れる工夫がなされている。また，インターンシップでは，学生にとって有意義な体験となるよう，入念な事前・事後指導が行われており，約７０％の学生が参加している。

以上のことから，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が行われている。

資料５－２－③－１

5M140　　2006 シラバス

卒業研究 (Graduation Thesis)	５年・通年・６単位・必修 機械工学科・担当　機械工学科全教員
〔学習・教育目標との対応〕 D - 2(70%), C - 1(15%), D－1(15%)	〔JABEE 基準との対応〕 (g),(f),(d-2a),(h)

〔講義の目的〕
機械工学科の課程で習得した工学知識を基に，各自が研究課題に取り組み，自主・継続的に問題解決するためのデザイン能力を養うことを目的とする．また，制約条件下での課題克服に向けて，その最適手法を探求する能力を身につける．

〔講義の概要〕
年度当初に，学生数名に対する指導教員が決められる．その後，各教員の指導のもとで，各々の研究テーマに取り組む．年度半ばに中間発表会を実施し，その後の研究に活かす．年度末に卒業論文を書き上げ，卒研発表会を実施し，研究成果を公表する．研究テーマは，各教員により異なるが，当初は，昨年度などに行われた研究に対する理解，論文の輪読，解析力向上のための講義，装置の製作などが挙げられる．

〔履修上の留意点〕
課題に対して，自主・継続的に問題解決を図ろうとすることが大切である．必要であれば異なる技術分野でも学習する能力が求められる．工学実験のときと同様に，卒研ノートなどを用意して，方法などはメモしておくとともに，本質的な内容を理解することも大切である．なお，毎回，取り組んだ活動状況を記録し，指導教員に報告，確認を受けることになる．

〔到達目標〕
年末：自主・継続的に研究が取り組まれ，適切な方法を用いて結果整理ができ考察が与えられること．充実した内容の論文が作成できること．優れたコミュニケーション能力が養成されること．

〔評価方法〕
研究への取り組み(35%),研究論文(40%)，発表のプレゼンテーション(25%)を総合して評価する．
指導教員が評価を行うが，論文，プレゼンテーションに関しては他の教員の確認を受ける．

〔教科書〕
なし

〔補助教材・参考書〕
なし

〔関連科目・学習指針〕
テーマにより異なるが，全履修科目に及ぶ．専門科目以外に論文読解のための英語力，論理的文章を作成する国語力，物理，数学．

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

2006 シラバス　　5M140

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	ガイダンスおよび研究紹介	安全指導，研究室配属	
第２週	個別・グループ研究 各指導教員の下で実施する．	卒業研究に関連するテーマ 機械材料・材料力学に関する研究 生産加工・開発に関する研究 熱流体工学に関する研究 切削・研削加工学に関する研究 トライボロジー・設計工学に関する研究 高分子流体工学に関する研究 流体工学に関する研究 設計システムに関する研究 摩擦・計測物理に関する研究 制御工学に関する研究 材料学・粉末冶金に関する研究	
第３週	同上	同上	
第４週	同上	同上	
第５週	同上	同上	
第６週	同上	同上	
第７週	同上	同上	
第８週	同上	同上	
第９週	同上	同上	
第１０週	同上	同上	
第１１週	同上	同上	
第１２週	同上	同上	
第１３週	同上	同上	
第１４週	同上	同上	
第１５週	研究レポートの書き方指導	卒業研究中間発表用パワーポイント作成	
第１６週	卒業研究中間発表会	中間発表を行う．	
第１７週	個別・グループ研究 各指導教員の下で実施する．	研究テーマは前期と同じ．	
第１８週	同上	同上	
第１９週	同上	同上	
第２０週	同上	同上	
第２１週	同上	同上	
第２２週	同上	同上	
第２３週	同上	同上	
第２４週	同上	同上	
第２５週	同上	同上	
第２６週	同上	同上	
第２７週	同上	同上「	
第２８週	論文提出	論文，前刷りを提出．発表会用パワーポイントの作成，発表練習を行う．	
第２９週	卒業研究発表会	発表会と試問を行う．	
第３０週	最終論文提出	論文に質疑応答欄を追加し最終論文として提出する．	

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

5E139　　2006 シラバス

卒 業 研 究 (Graduation Thesis)	５年次通年・６単位・必修 電気工学科・担当　全専任教員
〔学習・教育目標との対応〕 D-2 (60%), C-1 (20%), D-1 (20%)	〔JABEE 基準との対応〕 **(g)**, (f), (d-2a), (h), (e)

〔講義の目的〕
主体的な研究活動を通じ、技術者として不可欠な創造する意欲、幅広い視野、自律的行動、さらに友愛の精神を涵養することを目的とする。また安全と環境に配慮しつつ、ものづくり等の実践を通じて、電気工学科における５年間の学習成果をより確かなものとすると同時に、豊かな人間性と感性を合わせ持つエンジニアとして活動できる礎とする。

〔講義の概要〕
「好きこそものの上手なれ」という言葉がある。自分を知り、自分に適した研究テーマを選択してこそ自分の力を存分に発揮できる。５年間を通じ自分が最も修得したい技術分野と関連のある研究領域を、年度当初の研究室（研究テーマ）説明会の後、選択する。卒業研究と工学実験の最大の違いは、目標までの道程を各自で考え、試行錯誤を繰り返し模索してもらうことにこそある。暗中模索を通じてこそ、それまでに培った工学的知識・問題解決能力が試され、それを克服して初めて実践の重要性と技術者としての自信が付くこととなる。このことを学んでもらいたい。

〔履修上の留意点〕
研究テーマは自分自身で選択し、最後まで追究することが重要である。目標に向かって歩むのは自分であるということを強く自覚すると同時に、指導教官からの適切なアドバイス等により自分を成長させていただきたい。指導教官は学生諸君の持つ独創性に多いに期待している。

〔到達目標〕
○研究テーマを自分の意志で選択できる。
○研究テーマの背景・意義を理解できる。
○計画的に作業を進めることができる。
○指導教官との意思疎通ができる。
○研究論文執筆の基礎を修得する。
○プレゼンテーション技能の基礎を修得する。

〔評価方法〕
(1) 研究への取り組み (40%)、(2) 研究論文 (30%)、(3) 発表会でのプレゼンテーション (25%)、(4) 審問会での質疑応答等 (5%)を総合して評価する。
(1) については研究の準備・作業状況、日々の取り組む姿勢等を総合的に評価する。
(2) については論文内容、文章構成、図表や式の表現、提出期限の遵守等について総合評価する。
(3) については発表準備、発表内容、質疑応答の的確さ等に基づき総合評価する。
(4) については質疑応答等の的確さ等に基づき総合評価する。

〔教　科　書〕
各研究テーマに関連するもの全てが対象となる。
〔補助教材・参考書〕
各研究テーマに関連するもの全てが対象となる。

〔関連科目〕
電気工学科カリキュラムにおける全専門科目および化学・生物系、機械系科目。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

2006 シラバス　　5E139

講義項目・内容

週　数	講　義　項　目	講　　義　　内　　容	自己評価＊
第１週	研究ガイダンス	安全指導・全教員研究テーマ概要説明。	
第２週	研究室配属	研究室配属および研究テーマの確定。	
第３週	学修・研究活動	指導教員の下での学修・研究活動。	
第４週	研究テーマ	電界中の金属粒子浮上に機構に関する研究。	
第５週	研究テーマ	電子ビーム照射による宇宙太陽電池の放電現象の研究。	
第６週	研究テーマ	静電気によるプラスチックの選別技術の研究。	
第７週	研究テーマ	誘導電動機速度の VVVF 制御。	
第８週	研究テーマ	アクティブフィルターの試作実験。	
第９週	研究テーマ	無停電電源装置（UPS）の開発研究。	
第１０週	研究テーマ	IH 用電源システムの高周波化に関する研究。	
第１１週	研究テーマ	サーフェスモーターの試作研究。	
第１２週	研究テーマ	漢字要素の摘出に関する研究。	
第１３週	研究テーマ	無線 LAN 用移動アンテナの開発に関する研究。	
第１４週	研究テーマ	漢字文字のデータベース化に関する実験。	
第１５週	研究テーマ	三次元入力指示インターフェースに関する実験。	
第１６週	研究テーマ	介護支援のための無線 LAN によるロボット制御。	
第１７週	研究テーマ	動的筆跡の可視化手法の検討。	
第１８週	研究テーマ	文字の端点形状に着目したオフライン署名照合。	
第１９週	研究テーマ	手の平面像からの掌紋の抽出。	
第 20 週	研究テーマ	ゲル電解質を用いた色素増感太陽電池の試作研究。	
第 21 週	研究テーマ	高イオン導電性ゲル電解質を用いた Li 二次電池の開発研究。	
第 22 週	研究テーマ	電気泳動堆積法による磁性超微粒子の薄膜化。	
第 23 週	研究テーマ	金属－酸化物同時電析法によるグラニュラ薄膜の析出機構の解明。	
第 24 週	研究テーマ	金属－酸化物同時電析法による金属－有機物グラニュラ薄膜の作成。	
第 25 週	研究テーマ	運動視差の基づく奥行き距離推定回路の設計に関する研究。	
第 26 週	研究テーマ	電気魚に基づく水中探索ロボットの考案と構築。	
第 27 週	研究テーマ	PUE ソフトアクチュエータの低電圧駆動化に関する研究。	
第 28 週	卒業研究論文作成	発表会用パワーポイント作成、発表練習、卒業論文提出。	
第 29 週	卒業研究発表会	（４年生を同席）。	
第 30 週	諮　問　会	質疑応答等	

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

5S142　　2006 シラバス

卒業研究（Research for Graduation Thesis）	５年・通年・６単位・必修 電子制御工学科・担当（全教員）
〔学習・教育目標との対応〕 D－２（７０%），C－１（２０%），D－１（１０%）	〔JABEE 基準との対応〕 g，f，d－2a，e，h

〔講義の目的〕

卒業研究はテーマの決定を始め、文献の収集調査、研究計画の立案、実施方法の検討、実験装置の製作、実験、測定結果や計算データの収集と解析、そしてまとめの発表と論文の作成など自分で決めて行うことが要求される。そこで、高専５年間の総合学習としての卒業研究を通して、実務上の問題点を理解するとともに、論理的な記述能力を身につけ、その過程で生じる問題点に対して様々な方向から検討し解決できる能力を養うことを目的とする。

〔講義の概要〕

指導教員の指導、助言のもとに研究テーマを定め、研究計画を立案し、現象の解明を実験的理論的に行う。成果については、卒業論文にまとめるとともに、中間発表会と学年末の卒業研究発表会において発表し、教員、学生との討論を行う。

〔履修上の留意点〕

卒業研究は指導教員からの指導、助言はあるが、学生自らが独創的に計画、実行するものである。「教えられる」他の授業とは異なり、自ら「学ぶ」「研究する」教科であることを自覚して積極的に取り組む必要がある。ただし、指導教員、関連教員との討議は綿密に行うこと。また、限られた条件で十分能力を発揮するためにも、決められた期限、締切等は厳守すること。

〔到達目標〕

自ら研究課題を見つけ、研究計画を立案し、実施し、論文としてまとめるとともに発表会（公開）で報告することにより、エンジニア、研究者としての基礎素養を身につける。

〔評価方法〕

卒業研究に対する取り組み（３０%）、卒業論文の内容（４０%）、卒業研究発表会での発表、討議内容（３０%）などを総合的に評価する。

〔教　科　書〕

特になし

〔補助教材・参考書〕

研究に関する各種参考文献

〔関連科目〕

全ての専門科目、一般科目

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

2006 シラバス　　5S142

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	ガイダンス、　研究紹介	安全実験指導および研究室配属	
第２週		研究テーマ名 １．阪部研究室　レーザ応用工学に関する研究 ２．中田研究室　熱工学に関する研究 ３．福田研究室　流体工学に関する研究 ４．押田研究室　光応用計測に関する研究 ５．島岡研究室　材料工学に関する研究 ６．早川研究室　新型アクチュエータに関する研究 ７．飯田研究室　制御工学に関する研究 ８．櫻　研究室　ロボット工学に関する研究 ９．西田研究室　計測工学に関する研究 １０．矢野研究室　ロボット工学に関する研究	
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週	卒業研究中間発表会	研究の中間発表および質疑応答	
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第２０週			
第２１週			
第２２週			
第２３週			
第２４週			
第２５週			
第２６週			
第２７週			
第２８週	卒業研究論文提出	卒業論文、発表会前刷りの完成と提出	
第２９週		発表会用パワーポイント作成、発表練習	
第３０週	卒業研究発表会	研究発表および質疑応答	

＊４：完全に理解した。（達成）　３：ほぼ理解した。（達成）　２：やや理解できた。（達成）　１：ほとんど理解できなかった。（達成）　０：まったく理解できなかった。（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

5I137　　2006 シラバス

卒業研究（Thesis Research）	５年・通年・６単位・必修 情報工学科・担当　常勤教員全員
〔学習・教育目標との対応〕 D－2 (70%)，C－1・D－1 (30%)	〔JABEE 基準との対応〕 g，f，d－2 a，e，h

〔講義の目的〕
指導担当教員の研究室に配属し，与えられた研究テーマについて調査・研究活動に取り組むことで，情報工学関連分野において研究や実務を遂行するために必要な実践的な技術や能力を習得する．

〔講義の概要〕
・プロセス計測データの信号処理に関する研究（近藤）
プロセスで計測されるデータを用い，離散フーリエ変換を中心にした信号処理に関する実験を行う．データは製造プロセスだけでなく，音響装置から得られる信号も対象にする．
・計算機援用 LSI 設計技術に関する研究（世古）
計算機援用 LSI 設計技術の開発を行う．論理回路の消費電力の評価と低電力化に関する実験，論理検証手法の開発，低電力信号処理回路の開発，ハードウエア記述言語と FPGA を活用した LSI の開発，等を実施する．
・知識工学に関する研究（多賀）
理論系：グラフ理論，実験系：ＧＩＳ(地理情報システム)の研究
・衛星リモートセンシングと無線データ通信技術に関する研究（浅井）
1) 地球観測衛星 NOAA と Feng Yun-1D の画像データを教育利用するための Web 公開システムの開発を行う．
2) 無線データ通信技術教育のためのワンチップマイコン搭載ワイヤレスデータ通信ユニットの開発を行う．
・知と複雑系：開かれた世界で知的に振舞うエージェント実現の研究（山口智浩）
1) 強化学習，学習エージェント
2) RoboCup：サッカーエージェント同士の協調
3) ＨＡＩ：Human Agent 間のインタラクション，コミュニケーションを円滑にする研究
・情景画像中の文字情報の抽出および認識に関する研究（松尾）
パタン認識，画像処理，知識データベース，統計処理などの研究分野としてる．情景画像における重畳文字の分離，文字情報以外の領域除去，文字情報の抽出と認識をテーマを研究している．
・ネットワークに関する研究(本間)
1) L3 スイッチエミュレータを使った VLAN の構築に関する研究
2) ネットワーク技術者育成支援に関する研究
・情報検索技術の研究（小山）
現在存在する検索エンジン等は AND や OR などの単純な論理演算に基づいたものが大半である．ここでは，人間の記憶モデルに近い検索を可能とする手法について研究し，柔軟な検索と，検索効率の向上を目指す．
・VLSI,SoC のテスト容易化設計に関する研究（山口賢一）
VLSI,SoC など大規模集積回路の欠陥を容易に検出することのできる設計アルゴリズムを提案し，実験等によりその有効性を評価する．
・音声分析・話者認識に関する研究(松村)
音声分析及び話者認識に関する研究を行う．実験には，ニューラルネットワーク，HMM（Hidden Markov Model）を用いる．

〔履修上の留意点〕
主体的かつ積極的に研究テーマに取り組み，研究報告書は必ず指定された期日までに提出する．

〔到達目標〕
研究の目的を理解し，研究結果の考察ができ，研究内容を過不足なく報告書にまとめられる．

〔評価方法〕
卒業研究報告書の内容(80%)と卒業研究発表会のプレゼンテーション(20%)で成績を評価する．

〔教科書〕　なし
〔補助教材・参考書〕　各研究テーマごとに指導教員から参考図書や参考資料が配布される．

〔関連科目・学習指針〕
工業外国語，情報工学実験

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

2006 シラバス　　5I137

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	受講ガイダンス	指導教員が研究室単位で研究テーマを解説し，安全な研究遂行に必要な留意事項を説明する	
第2週	調査・研究	研究室単位で各研究テーマに取り組む	
第3週	同上	同上	
第4週	同上	同上	
第5週	同上	同上	
第6週	同上	同上	
第7週	同上	同上	
第8週	同上	同上	
第9週	同上	同上	
第10週	同上	同上	
第11週	同上	同上	
第12週	同上	同上	
第13週	同上	同上	
第14週	同上	同上	
第15週	卒業研究中間発表会	調査・研究の進行状況を報告し，質疑応答を行う	
第16週	調査・研究	研究室単位で各研究テーマに取り組む	
第17週	同上	同上	
第18週	同上	同上	
第19週	同上	同上	
第20週	同上	同上	
第21週	同上	同上	
第22週	同上	同上	
第23週	同上	同上	
第24週	同上	同上	
第25週	同上	同上	
第26週	同上	同上	
第27週	同上	同上	
第28週	同上	同上	
第29週	同上	同上	
第30週	卒業研究発表会	調査・研究の成果を報告し，質疑応答を行う	

*4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。

（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

2006 シラバス

卒業研究 (Research for Graduation Thesis)	５年次通年・６単位・必修 担当者名　河越幹男
〔学習・教育目標との対応〕 D-2（80%），C-1（20%）	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2a)，(e)，(f)，(g)，(h)
〔講義の目的〕 ある研究テーマに沿って研究を進め，研究の手法を体得する。必要となる情報を得るための文献調査，実験装置の製作，実験計画，結果の整理法を学ぶ。卒業論文を作成して論文の書き方を会得する。さらに，発表会を行い，プレゼンテーションのための技術と能力を修得する。	
〔講義の概要〕 各指導教官に分属し，指導教官のもとで決められたテーマの研究を行う。実験・研究を通してその分野の最先端の研究に触れる。	
〔履修上の留意点〕 自主的に学習し，自ら創造する意欲を持つこと。	
〔到達目標〕 ・正確な実験を行い，信頼できるデータを取ること。 ・実験結果を正しく解析する。 ・データをまとめ，卒業論文を作成する。 ・発表会を行い，プレゼンテーション能力を修得する。	
〔評価方法〕 研究態度（40%），論文内容（40%），発表態度（20%）で評価する。	
〔教　科　書〕 研究テーマに関連した文献。 〔補助教材・参考書〕	
〔関連科目〕 テーマに関連した専門科目	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－１

2006 シラバス

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	卒業研究のスケジュール		
第２週	・ 前年度の卒業研究発表会の聴講		
第３週	・ 研究室への配属		
第４週	・ テーマ設定		
第５週	・ 研究計画の立案		
第６週	・ 卒業研究の実施（実験装置の製作，測定）		
第７週	・ 実験結果の整理		
第８週	・ 中間発表用の要旨作成		
第９週	・ 中間発表		
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
中間発表会			
第１６週	卒業研究のスケジュール		
第１７週	・ 卒業研究の継続		
第１８週	・ 実験結果の整理		
第１９週	・ 卒業研究発表会の要旨作成		
第２０週	・ 卒業論文の作成		
第２１週	・ 卒業研究発表会（プレゼンテーション）		
第２２週			
第２３週			
第２４週			
第２５週			
第２６週			
第２７週			
第２８週			
第２９週			
第３０週			
卒研発表会			

＊4：完全に理解した。（達成）　3：ほぼ理解した。（達成）　2：やや理解できた。（達成）　1：殆ど理解できなかった。（達成）　0：全く理解できなかった。（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－２

5M133　　2006 シラバス

設計工学演習 (Advanced Machine Design and Drawing)	５年・通年・２学修単位・必修 機械工学科・担当　菅原　繁夫
〔学習・教育目標との対応〕 D－1（ 100 % ）	〔JABEE 基準との対応〕 (d -2a)，(d-2c)

〔講義の目的〕
第４学年までに学んだ機械設計製図、設計工学演習の延長線上に位置づけし、鉄道車両用台車部品を事例に要素設計を演習し、併せて会社における設計業務の範囲と内容を理解する。更にチームを編成し自ら開発･改善課題を設定し、情報の収集、解析手法を調査してアイデアを具現化(図面化)する。このプロセスから課題解決方法を学習する。最後に成果発表･検討会を実施する。

〔講義の概要〕
前期は会社での設計業務、設計プロセス、疲れ強さ設計、材料強度、各種要素設計について学び、具体的事例として鉄道車両用台車部品をとりあげる。
後期はチームを編成し、チーム毎に開発･改善設計課題を設定し、課題解決に向けて、日程計画・仕様検討・構想図・強度検討・計画図・部品図･組立図･取扱説明書まで、自ら計画し、情報を収集し、解析手法を調査の上解決方法を考え、遂行し、成果を纏め上げる。最後に、成果発表会を実施する。

〔履修上の留意点〕
設計工学は総合学科であり、多くの学科の学習成果を駆使して課題解決するので、必要により関係学科に立ち返り、学習し理解する。

〔到達目標〕
前期中間試験：1)会社における設計業務の範囲･内容･遂行方法の理解　2)設計に必要な知識･標準
前期末試験　：1)疲労強度設計法の理解、2)疲労限度、疲労寿命計算、3)要素設計演習事例
後期中間試験：1)仕様･構想図･計画図
学年末試験　：1)部品図･組立図･取扱説明書他関連設計書、成果発表

〔評価方法〕
定期試験(40%)、提出課題および小テスト(50%)、取組姿勢(10%)を総合して評価する。

〔教　科　書〕
講師作成の資料による。

〔関連科目〕
基礎数学、材料力学、振動工学、材料、機構、JIS 設計他

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－２

2006 シラバス　　5M133

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	会社における設計	会社における設計業務の範囲･内容・組織・ユーザーとメーカの関係等について理解する	
第２週	会社における設計	設計工程・検図・標準(規格)・安全に関する法規等を学習する。	
第３週	疲労強度	疲労強度について学び、機械装置･部品の疲労強度評価法を理解する。	
第４週	疲労限度設計	最も多く用いられる強度設計法を学習し演習により理解を深める。	
第５週	疲労寿命設計	事故原因解析、き裂発生品の残存寿命推定等応用事例を学習する。	
第６週	伝達要素設計演習	①鉄道車両用車軸の疲労限度設計法を通じて疲労限度設計方法を学習する。	
第７週	伝達要素設計演習	②歯車の設計法と適用事例を学習する。	
第８週	締結要素設計演習	①溶接設計法として台車枠の設計事例を、②圧入設計法として輪軸設計事例を学習する。	
第９週	締結要素設計演習	③変動荷重が作用するねじ締結設計法を学習し、使用中のトラブル事例で理解を深める。	
第１０週	緩衝要素設計演習	鉄道車両部品の事例を通じて①コイルばねの設計法、②空気ばねの設計法を学ぶ。	
第１１週	案内要素設計演習	広く使用されているころがり軸受の設計法を、さらに、設計と使用実績、検査法について学習する。	
第１２週	多機能要素設計演習	多くの機能をもつ部品の事例として車輪を取り上げ、設計手法、機能と関連技術(熱疲労・接触疲労・騒音など)の広がりを学習する。	
第１３週	振動設計演習	鉄道車両の運動(乗り心地・だ行動・脱線・転覆)をとりあげ、振動設計事例について学習する。	
第１４週	開発設計	新幹線の高速化、新しい鉄道の開発事例を通じて、会社における開発体制、設計の役割・開発推進手法を学習する。	
第１５週	メンテナンス･安全設計	メンテナンス事例から設計条件と使用条件の対比、製品寿命の実態・決定方法を学習し、事故事例から安全設計の重要性を学習する。	
	前期末試験		
第１６週	自由課題設定	２名１グループのチーム編成と演習課題を設定する。	
第１７週	設計計画	課題解決の実施計画、日程計画を作成する。	
第１８週	仕様検討	開発設計課題の主要仕様(開発の目玉)を設定する。	
第１９週	構想図	複数のアイデアを出し合う。	
第２０週	構想図	アイデアの深度化を図る。	
第２１週	構想図	開発の目玉に最も合致したアイデアを構想図に纏め上げる。	
第２２週	計画図	構想図から具体的な設計諸元を決定する。	
第２３週	計画図･強度検討	強度計算を実施し、具体的に寸法･材料他詳細を決定する。	
第２４週	計画図･強度検討	関連の技術検討を全て実施し完了する。	
第２５週	部品図	JIS 設計法に従い、計画図より部品図に展開する。	
第２６週	部品図	JIS 設計法に従い、計画図より部品図に展開する。検図も併行して実施する。	
第２７週	組立図	部品図より組立図を作成する。	
第２８週	組立図	部品図より組立図を作成する。	
第２９週	取扱説明書	ユーザを対象とした取扱説明書を作成する。	
第３０週	成果発表会	チーム毎に開発設計結果を発表し、意見交換する。	
	学年末試験		

＊４：完全に理解した。３：ほぼ理解した。２：やや理解できた。１：ほとんど理解できなかった。０：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－３

4S134　　2006 シラバス

システム設計Ⅱ (Design and Production for Control Engineering)	4年・通年・2学修単位・必修 電子制御工学科 担当　阪部俊也、福田和廣、天野裕司
〔学習・教育目標との対応〕 D-1（80 %）、D-2（20%）	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2c)，(e)，(h)
〔講義の目的〕 電子制御工学科における総合科目として位置付け、小型自立型ロボットの開発、設計、製作をグループで取り組み、協調性、創造性、問題解決能力を養い、成果発表をすることを目的とする。	
〔講義の概要〕 自立型小型ロボットの製作に必要なプログラムの基礎の学習、部品加工に必要な工作機械の実習、ならびにインターフェイス回路作成の学習後、ロボットの機構、動作のアイディアを練り、設計、製作組み立てを行い、試運転での問題点を解決し、学科内ロボットコンテストを行う。	
〔履修上の留意点〕 グループでロボット製作を行うことから、グループとしての連係を密にし、各人の役割、知恵の結集が重要であり、自ら積極的に提案、討議、実行する事が大切である。	
〔到達目標〕 アイディアに富んだ、素晴らしいロボットを完成させる事が目標であるが、このためには、各種の問題を解決する必要がある。問題解決のための手法を学び、グループの結束力を高めることを目標とする。	
〔評価方法〕 システム設計の教科に如何に積極的に取り組んだかが重要であるが、基本的には下記の評価基準で評価する 前期末定期試験（２０%）、工作機械実習レポート（１０%）、製作したロボット点（２０%）、製作点（３０%）、製作発表（１０%）、グループ内相互評価点（１０%）などを総合して評価する。	
〔教　科　書〕 特に無し、必用に応じてプリントを配付する。 〔補助教材・参考書〕 各種カタログならびに取り扱い説明書	
〔関連科目〕 専門教科のすべてが関係する。さらには、まだ授業を受けていない内容も必用となるが、チャレンジ精神を大いに発揮して、素晴らしいマシンの完成を望む。	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－３

2006 シラバス　　4S124

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	自立型ロボットの概要	本講義の意義ならびに目的に付いて説明する。	
第２週	過去のロボットの概観	先輩達が製作してロボットをビデオにより紹介する。	
第３週	白線追尾プログラム	相撲ロボットの白線追尾プログラムを理解させる。	
第４週	プログラムの作成法	相撲ロボットの白線追尾プログラムの作成法を理解させる。	
第５週	機械工作実習（１）	５班に分かれて、工作実習を行う。（１）旋盤の実習	
第６週	機械工作実習（２）	（２）フライス盤の実習	
第７週	機械工作実習（３）	（３）手仕上げ（ボール盤、タップ立て等の実習）	
第８週	機械工作実習（４）	（４）各種機械（シャーリング、コンター、溶接の実習）	
第９週	プログラム作成実習（５）	（５）白線追尾プログラム実習	
第１０週	コンテストテーマ提案	今年度のロボットコンテストのアイディアを全員に発表させる。	
第１１週	コンテストテーマ討議、決定	提案された中から２－３テーマを選定し、全員で討議後決定する。	
第１２週	各班でのロボットアイディア	決定されたテーマに対して、各班でのロボットの構想を練る。	
第１３週	各班でのロボットの決定	各班で討議の後、製作するロボットを決定する。	
第１４週	各班でのロボットの詳細検討	各班のロボットアイディアについて教員からのコメントを提示する。	
第１５週	ロボットの設計、仕様書	ロボットの概略図、仕様書を作成する。必要物品を発注する。	
	前期期末試験		
第１６週	ロボット製作、部品加工	製作部品の部品図の作成、部品加工を行う。	
第１７週	ロボットの製作、部品加工	組立図の作成、部品加工を行う。	
第１８週	ロボット製作、回路	部品加工、センサーの選定を行う。	
第１９週	ロボット製作	部品加工、インターフェース回路設計を行う。	
第２０週	中間発表会	ロボットの動作や製作過程等の発表を行う。	
第２１週	ロボット製作	ロボットプログラムの作成、部品加工、電子回路製作を行う。	
第２２週	ロボット製作	ロボットプログラムの作成、部品加工、電子回路製作を行う。	
第２３週	ロボット製作	ロボットプログラムの作成、部品加工、電子回路製作を行う。	
第２４週	ロボットの組み立て	ロボットの組み立てをする。	
第２５週	ロボットの組み立て	ロボットの組み立てをする。競技場の製作	
第２６週	ロボットの調整	ロボットの動作調整を行う。競技場の製作	
第２７週	テストラン	テストランを行う。	
第２８週	ロボットコンテスト	ロボットコンテストを開催する。	
第２９週	製作発表会	一人 OHP１枚を用いて、各班の製作の発表会を行う。	
第３０週	データ整理	各班でのデータ整理をし、ファイルに綴じる。	

＊　４：完全に理解した（達成）、３：ほぼ理解した（達成）、２：やや理解できた（達成）、１：ほとんど理解できなかった（達成）、０：まったく理解できなかった（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－４

4I139　　2006 シラバス

情報工学演習Ｂ (Exercises in Information Engineering B)	４年・後期・１学習単位・選択 情報工学科・担当　本間　啓道
〔学習・教育目標との対応〕 Ｄ－１（１００％）	〔JABEE 基準との対応〕 （ｄ－２ａ）、**（ｄ－２ｃ）**
〔講義の目的〕 OS のインストール作業、計算機の管理作業等を通して、ユーザーではなく管理者としての計算機の使い方を体得する。	
〔講義の概要〕 実際に各種管理作業を行う。計算機ハードウェアの組み立て、ＯＳのインストール、アプリケーションのインストール等、計算機が目的通りに動作するようセットアップし、その後の維持管理を行う。	
〔履修上の留意点〕 実際に計算機を使って作業を行うが、それぞれの作業が前回までの作業が終わっていることを前提に行われるので、極力休まないこと。休んだ場合は次回までの間に作業を終了させておくこと。	
〔到達目標〕 与えられた計算機を目的の用途に応じてセットアップできること。日常の管理業務をこなせること。	
〔評価方法〕 テスト（８０％）、課題や授業中の発表等（２０％）	
〔教　科　書〕 なし 〔補助教材・参考書〕 各種コンピュータ雑誌、Ｗｅｂページ	
〔関連科目〕 ３年次計算機システム演習、５年次卒業研究	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－４

2006 シラバス　　4I139

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	パソコンの中身	パソコンの構成要素について	
第２週	ＯＳのインストール	パソコンにＯＳをインストールし、初期設定を行う	
第３週	同上	同上	
第４週	同上	同上	
第５週	同上	同上	
第６週	クライアントPCの設定	パソコンをクライアントPCとして使う設定を行う	
第７週	同上	同上	
第８週	同上	同上	
第９週	サーバPCの設定	パソコンを各種サーバとして使うための設定を行う	
第１０週	同上	同上	
第１１週	同上	同上	
第１２週	同上	同上	
第１３週	管理業務	日常的なメンテナンスや監視方法に関して	
第１４週	同上	同上	
第１５週	同上	同上	
試験			

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

4M141　　2006 シラバス

学　外　実　習 (Practice in enterprise)	４年・夏季・１単位・選択 機械工学科・担当　小畠　耕二
〔学習・教育目標との対応〕 D-2(80%), A-2(20%)	〔JABEE 基準との対応〕 d-2d, b

〔講義の目的〕
企業などでの実習または研修的な就業体験を通じて、
(1)　技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶ。
(2)　自らが職業意識を高める機会とする。
(3)　自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知り、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とする。

〔講義の概要〕
原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。なお，実現の可否は別にして，各自でテーマを用意して実習に望む態度も重要である.

〔履修上の留意点〕
実習先で発行される学外実習修了証明書，実習中に担当者に提出する業務日誌，実習修了後に学内提出する成果報告書，および成果報告会すべてを満足することを履修条件とする.
実習中は安全に留意すること.　実習者は保険に加入することを義務づける.

〔到達目標〕
技術者としての心構えや社会人として何が必要かを説明できること。自らが職業意識をどのように高めたかを説明できること。自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知る機会とすること。さらに、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とすること。

〔評価方法〕
実習先での学外実習修了証明書および業務日誌(50%)、学外実習報告書(25%)、および学内での報告会での発表(25%)の４点によって評価する。

〔教　科　書〕
なし
〔補助教材・参考書〕
平成１３年度，平成１４年度，平成１５年度，平成１６年度学外実習報告書

〔関連科目〕
実習中の体験の詳細を記録にとり、これまで学んできた専門教科との関連を調べる。実習先の技術者と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の基礎などについて話合いをすること。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

2006 シラバス　　4M141

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週			
第２週			
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第 20 週			
第 21 週			
第 22 週			
第 23 週			
第 24 週			
第 25 週			
第 26 週			
第 27 週			
第 28 週			
第 29 週			
第 30 週			

１．実施時期　夏季休業期間中
２．実施期間　５日間以上にわたり、合計３０時間以上従事
３．実習の内容　設計、生産技術、生産管理、品質管理、実験および実験助手、機能・性能・材料試験、販売、サービスなどの分野
４．学外実習先　学科が認めた実習先（民間企業、研究期間、行政機関）
５．スケジュール
５月　学外実習ガイダンス
・概要説明
・実習先企業の紹介と実習内容の説明
・安全教育
・希望調査と割り振り
６月　事前研修会
・学外実習の心構えなどの事前学習
・講演会出席（外部講師）
７月～８月　実習
・実習先でのオリエンテーション
・実習
・日誌および報告書の作成
９月　学外実習のまとめ
・成果報告書の提出
・学外実習の成果報告会

＊４：完全に理解した。３：ほぼ理解した。２：やや理解できた。１：ほとんど理解できなかった。０：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

4E140　　2006 シラバス

学外実習　(Internship)	４年次夏季・１単位・選択 電気工学科・担当（主任）藤井 治久
〔学習・教育目標との対応〕 D-2 (80%), A-2 (20%)	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2d), (b)
〔講義の目的〕 企業などでの実習を通じて、技術者の心構えや社会人としてのあるべき姿を学び、また、これまでに学習してきた専門知識がどのように応用されているのかを知り、今後の学習に役立てるとともに、自主性、創造性、協調性を学ぶ。	
〔講義の概要〕 1. 実施時期：夏季休業期間中 2. 実施期間：5 日間以上にわたり、合計 30 時間以上従事 3. 実習の内容：設計、生産技術、生産管理、品質管理、実験および実験助手、機能・性能・材料試験、販売、サービスなどの分野 4. 学外実習先：学科が認めた実習先（民間企業、研究・試験機関、行政機関）	
〔履修上の留意点〕 実習先の就業規則（含、守秘義務）に従い、作業服等の確認を行なう。交通手段としては電車・バス・自転車を利用し、災害傷害保険に加入するとともに、実習に関する報酬は受け取らないこと。	
〔到達目標〕 企業等において直接的に学校で学んだ知識と技能を活用し、実際の生産活動を体験することで将来必要とされる技術者の心構え、社会人として活躍できる足掛かりとなることを目標としている。	
〔評価方法〕 実習報告書（90%）および報告会（10%）を総合して評価する。	
〔教　科　書〕、〔補助教材・参考書〕 実習先での就業規則、指導書、マニュアル等。	
〔関連科目〕 実習中に必要とした専門知識とこれまで学んできた知識との関連を把握する。また、積極的に生産現場において技術者と交流することにより、得られた知識を今後の学習に生かす。	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

2006 シラバス　　4E140

講義項目・内容

月	スケジュール	実習　内　容	自己評価＊
5月	ガイダンス	学外実習ガイダンス ・概要説明 ・実習先企業の紹介と実習内容の説明 ・希望調査と割り振り	
6月	研　修　会	事前研修会 ・学外実習の心構えなどの学習 ・講演（外部講師）	
7月ー8月	実　習	実　習 ・実習先でのオリエンテーション ・実習 ・業務日誌および報告書の作成	
9月	ま と め	学外実習のまとめ ・学外実習の成果報告会。	

＊4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

4S143　　2006 シラバス

学外実習　(internship)	4年・夏季・１単位・選択 電子制御工学科　　担当者名　西田茂生
〔学習・教育目標との対応〕 D-2(80%),A-2(20%)	〔JABEE 基準との対応〕 d-2d,b

〔講義の目的〕
企業などでの実習を通じて，技術者の心構えや社会人としてのあるべき姿を学ぶ．また，これまでに学習してきた専門知識がどのように応用されているのかを知り，今後の学習に役立てるとともに，自主性，創造性，協調性を学ぶ．「単位取得」ましてや「アルバイト」が目的ではないことをよく理解する．

〔講義の概要〕
原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。なお，実現の可否は別にして，各自でテーマを用意して実習に望む態度も重要である．

〔履修上の留意点〕
実習先で発行される学外実習修了証明書，実習中に担当者に提出する業務日誌，実習修了後に学内提出する成果報告書，および成果報告会すべてを満足することで履修条件とする．
実習中はくれぐれも安全に留意すること．
実習者は保険に加入することを義務づける．
学外実習を通して必ずしも一つではない解をもつ問題に取り組むことを体験し，自主的に取り組む姿勢を学ぶこと．

〔到達目標〕
実習中に必要とした専門知識とこれまでに学んできた知識との関連を把握する．また，実習先の技術者と積極的に交流し，それによって得た知識・作法を今後の学習に生かして欲しい．

〔評価方法〕
実習先で発行される学外実習修了証明書と業務日誌（50%），実習成果報告書(25%)，学内における学外実習成果報告会での発表（25%）とするが，すべてを行うことが単位認定の条件であり、実習態度などに問題なく、成果報告も十分である場合に電子制御工学科全教員で協議して「単位認定」する。

〔教　科　書〕
なし
〔補助教材・参考書〕
平成１３年度，平成１４年度，平成１５年度，平成１６年度，平成１７年度学外実習報告書
ガイダンス資料，学外実習事前指導資料などのプリント

〔関連科目〕
電子制御工学科専門各科目。それ以外に一般社会常識も必要であるから、これらについては日頃から学習しておく必要がある。

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

2006 シラバス　　4S143

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	1．実施時期	夏季休業期間中	
第２週	2．実施期間	５日間以上にわたり、合計３０時間以上従事	
第３週	3．実習の内容	設計、生産技術、生産管理、品質管理、実験および実験助手、機能・性能・材料試験、販売、サービスなどの分野	
第４週	4．学外実習先	学科が認めた実習先（民間企業、研究機関、行政機関）	
第５週	5．スケジュール	５月　学外実習ガイダンス ・ 概要説明 ・ 実習先企業の紹介と実習内容の説明 ・ 安全教育 ・ 希望調査と割り振り	
第６週		６月　事前研修会 ・ 学外実習の心構えなどの事前学習 ・ 講演会出席（外部講師）	
第７週		７月～８月　実習 ・ 実習先でのオリエンテーション ・ 実習 ・ 日誌および報告書の作成	
第８週		９月　学外実習のまとめ ・ 成果報告書の提出 ・ 学外実習の成果報告会	
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第２０週			
第２１週			
第２２週			
第２３週			
第２４週			
第２５週			
第２６週			
第２７週			
第２８週			
第２９週			
第３０週			

＊4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

4I140　　2006 シラバス

学外実習（Internship）	4年・通年・1単位・選択 情報工学科・担当　近藤勝也，松村寿枝
〔学習・教育目標との対応〕 D-2(70%), A-2(30%)	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2d), (b)
〔講義の目的〕 企業などにおける実体験を通じて，実践的な技術を学ぶとともに，技術者として必要な適応能力を養う． また今後の学生生活における学習の意義および位置付けを明確化し，将来の進路決定の一助とする．	
〔講義の概要〕 学生の希望と受け入れ企業の状況を勘案して，実習先を決定する． 夏季休業期間中に５日・30 時間以上，実習先企業担当者の指導のもと，実習を行う． 実習中に担当教員が実習先企業を訪問し，実習の状況を視察する． 実習終了後，速やかに実習修了証明書，実習業務日誌，実習報告書，単位認定申請書(学科主任宛)を提出	
〔履修上の留意点〕 学外実習の意義と目的を十分理解した上で，参加すること． 実習中は，実習先企業担当者の指示に従って行動するとともに，安全対策には十分注意すること．	
〔到達目標〕 社会人・職業人として必要な考え方・態度を，実体験を通じて理解する． 職場グループの中で，十分なコミュニケーションのとり方を学ぶ． 就業の大切さを実感できる．	
〔評価方法〕 本人からの単位認定申請書（学科主任宛）と実習修了証明書の提出を受けて，実習先企業における指導者の評価，実習報告書および実習報告会での発表状況を総合して評価する．	
〔教　科　書〕 使用しない．事前の説明会において必要な資料等を配布する． 〔補助教材・参考書〕 17 年度以前の実習報告書．	
〔関連科目〕 今まで学んだ全ての科目が関連する．また実体験をとおして今後学習する科目の位置付けを理解することが出来る．	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

2006 シラバス　　4 I140

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週			
第２週			
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第 20 週			
第 21 週			
第 22 週			
第 23 週			
第 24 週			
第 25 週			
第 26 週			
第 27 週			
第 28 週			
第 29 週			
第 30 週			

1. 実習時期　夏季休業期間中
2. 実習期間　5 日間以上にわたり，合計 30 時間以上従事
3. 実習の内容　設計，生産技術，生産管理，品質管理，実験および実験助手，機能・性能試験，販売，サービスなどの分野
4. 学外実習先　学科が認めた実習先(民間企業，研究機関，行政機関)
5. スケジュール　5 月　学外実習ガイダンス
   - 概要説明
   - 実習先企業の紹介と実習内容の説明
   - 安全教育

   6 月　事前研修会
   - 希望調査と割り振り
   - 学外実習の心構えなどの事前学習
   - 講演会出席(外部講師)

   7～8 月　実習
   - 実習先でのオリエンテーション
   - 実習に従事
   - 日誌および報告書の作成

   9～10 月　学外実習のまとめ
   - 成果報告書の提出
   - 学外実習の成果報告会

＊4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった．
(達成)　(達成)　(達成)　(達成)　(達成)

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

4C140　　2006 シラバス

学外実習（Internship）	４年・夏季・１単位・選択 ４Ｃ・担当（泉　生一郎、伊月亜有子、梅原　忠）
〔学習・教育目標との対応〕 D-2（80%）、A-2（20%）	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2d)、(b)
〔講義の目的〕 学生が企業等での就業体験を通して自分自身を見つめ直し、企業や社会の実際を知ることにより、学習意欲・自律性・創造性などを向上させ、職業選択の際の意識作りに役立たせる。	
〔講義の概要〕 ・ 受け入れ可能企業と学生の希望により、実習先を決定する。 ・ 夏季休業期間中に５日間・30 時間以上、実習先担当者の指導のもとで実習を行う。 ・ 実習期間中に本校教員が実習先を訪問し、実習状況を視察する。 ・ 実習を終えた後、速やかに学外実習修了証明書、業務日誌、学外実習報告書を提出する。	
〔履修上の留意点〕 ・ 学外実習の意義と目的を十分に理解して、実習に臨むこと。 ・ 実習期間中は実習先の指示に従い、安全には十分気を配って実習を行うこと。 ・ 服装や言葉づかいなど、実習におけるマナーを守ること。	
〔到達目標〕 ・ 将来に向けた職業意識の形成を図る。 ・ 実践現場における就業体験により自己能力の開発を促す。 ・ 就業体験を通して技術者としての心構えを身につける。	
〔評価方法〕 実習先での学外実習修了証明書及び業務日誌（50%）、学外実習報告書（25%）、及び学外実習報告会（25%）を総合して評価する。	
〔教　科　書〕 事前のガイダンス資料を参考にする。 〔補助教材・参考書〕 昨年度までの学外実習報告書（冊子体）。	
〔関連科目・学習指針〕 一般科目、専門科目を問わず、これまでに学んだ全ての科目が関連する。事業所（企業等）と学校の連携による創造的技術者の育成に役立つ科目なので、積極的かつ真面目に取り組めば、大きな成果が得られる筈である。	

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－５

2006 シラバス　　4C140

講義項目・内容

項目番号	項　目	内　　容	自己評価＊
1	学外実習ガイダンス	資料配付「インターンシップ（学外実習）ガイダンス資料」	
	5月	1．インターンシップとその教育的意義	
		2．インターンシップ実施の前提	
		3．実施時期：夏季休業期間中	
		実施期間：連続 5 日間（30 時間）以上	
		実習内容：研究補助・品質管理・材料試験・設計・生産技術・生産管理など	
		4．就業条件及び報酬	
		5．守秘義務	
		6．賠償責任	
		7．単位認定・成績評価	
		8．今後のスケジュール	
2	実習先決定	1．順次回答をいただいた受け入れ可能実習先を提示	
	6月	2．インターンシップ（学外実習）申込書（写真貼付）を提出	
		3．実習先希望調査　→　調整	
		4．誓約書提出	
3	インターンシップ保険	・学生課でインターンシップ保険加入手続き	
	加入手続き　　7月		
4	学外実習事前指導講習	1．全学科対象で実施	
	会（特別講演）　7月	2．物質化学工学科としての事前指導も実施	
5	学外実習　　7～8月	1．事業所でのオリエンテーション	
		2．実習	
		3．業務日誌を付けて毎日事業所の担当者に提出	
		4．学外実習報告書の作成	
6	報告書等の提出　9月	1．学外実習修了証明書	
		2．業務日誌	
		3．学外実習報告書	
7	学外実習報告会	1．物質化学工学科教職員、３Ｃ及び４Ｃ学級担任が出席し、	
	10月	評価	
		2．３Ｃ，４Ｃ学生と専攻科生が出席	
学年末評価			

＊4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料５－２－③－６　学外実習ガイダンス・事前研修報告書

平成１７年度　機械工学科　学外実習ガイダンス・事前研修報告書

報告責任者（小畠　耕二）

１．学外実習ガイダンス

第１回目
実施日時：　2005年　6月3日（金）（１０:４０～１１：２５）
実施場所：４ＭＣＲ　　，講師名（所属）：小畠耕二（機械工学科）
参加学生数：　計　３７　名（本科　４　年　３７　名中３７名）
参加教員数：　　１　　名
ガイダンスの概４要：
　　４Ｍ学生全員を対象に学外実習の意義や今後の予定について説明

第２回目
実施日時：　2005年　6月２８日（火）（９:００～９：５０）
実施場所：４ＭＣＲ　　，講師名（所属）：小畠耕二（機械工学科）
参加学生数：　計　３７　名（本科　４　年　３７　名中３７名）
参加教員数：　　１　　名
ガイダンスの概要：
　　４Ｍ学生全員を対象に学外実習先決定のルールについて説明

受入れ依頼状送付先企業数：　２３社，　受入れ依頼状回答企業数：２３　社，
実習受入れ可能企業数：　２１　社，　実習受入れ可能人数：　２５　名，実習希望学生数：　２９　名
来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：
学科間および学科内：　特になし

２．学外実習事前研修
実施日時：　2005年　7月6日（水）（１３：００～１３：４５）
実施場所：４ＭＣＲ　　講師名（所属）：小畠耕二（機械工学科
参加学生数：　計３７名（本科　4年　３７　名中　３７　　名）
参加教員数：　　１　　名
実習先企業数：　２１　　社，　実習予定人数：　２８　名
事前研修の概要：
　　４Ｍ学生全員を対象に学外実習での注意すべき事柄について説明
来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：
学科間および学科内：　特になし

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

資料５－２－③－７　学外実習特別講演会報告書

1.6　学外実習特別講演会報告書　　報告責任者（教務主事補　山口 智浩）

1. 実施概要

実施日時：　2005 年　7 月　7 日（木）（ 14:40 ～ 16:10 ），実施場所：　大視聴覚室

講師名（所属）：榊野 隆弘様（オムロン（株）エレクトロニクスコンポーネンツビジネスカンパニー，光通信デバイス事業推進部 生産課 課長）

参加学生数：　計１８３名（本科４年　207 名中 148 名，専攻科１年　30 名，２年　5 名）

参加教員数：　　１３名（教務主事，インターンシップ担当教員，４年担任）

学科・専攻別参加学生数（参加数/学生数）		（参加数/単位未修得者数/学生数）		
本科４年		専攻科	１年	２年
4M　機械工学科	36/37	機械制御専攻	12/12/20	1/1/13
4E　電気工学科	25/45	電子情報専攻	13/11/15	1/1/11
4S　電子制御工学科	28/43	化学工学専攻	5/ 5/5	3/4/7
4I　情報工学科	25/36			
4C　物質化学工学科	34/46			
本科　　計	148/207　(71.5%)	専攻科　計	30/28/40	5/6/31

2. 特別講演会の概要

14:27-14:45 進行打ち合わせ（司会），資料配布（教務），出欠確認・着席指示（各科担当教員）

14:45-14:47 京兼教務主事より事前指導の意義説明，講演者の紹介

14:47-14:52 スケジュール説明，配布資料確認（プレゼンレジュメ，実習報告書６枚），司会（山口智）

14:52-15:50 講演　　“インターンシップ”

15:50-16:10 質疑応答（司会山口智）　　参加学生から質問８件

講演概要：　“高専出身技術者としての歩みとインターンシップの意義“

１．講演者のプロフィール

２．講演者の主な職務（技術ロードマップ，光ナノ集積化，光通信デバイス）

３．会社での仕事と学校との違い（高専人としての誇りを持とう，私の学外実習体験）

４．インターンシップの意義（高等教育の変化，高専の存在価値，勉学と仕事との大きな違い）

５．ビジネスマナー（仕事の基本動作，仕事とは，権限と責任，７つの意義，仕事のサイクル）

質問概要：

Q.1 情熱を失った時はどう立ち直るか？(4M) -> 自分の思いを人に伝える力．相手の気持ちを聞く力．

Q.2 企業が求める人材・専門が，所属学科以外でも OK か？(4C) -> はいってから吸収すれば OK.

Q.3 先輩は高専を出てすぐ就職されたのか？(4C) -> Yes. 当時は上に進路がなくて 98%が就職だった．

Q.4　JABEE 認定はいらないという声を教員から聞いた．企業では？ 京大・阪大と比べてどうか？(S1C) -> 世界のグローバル企業と競うのが相手．だから国際的に通用する技術教育の尺度が必要．

Q.5 機械科卒で電気メーカー入社は，専攻が違うのでは？(4M) -> 将来電気が重要になると思った．

Q.他 いやな上司がいた時にどう回避します？(4M)，オムロンからは実習受入れがないがなぜ？(S1MS)

3. 来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）

良かった点：着席指示は，第３回打合せ時に座席位置指示を済ませ，各科担当教員に着席指導頂き，スムーズに行なえた．また４年の担任に参加頂いた．講演は，本校 OB で高専出身の技術者の立場で話して頂いた．参加学生は，身近に感じた上に，各自の将来を意識しながら聞いていることが質問から伺える．

改善点：４章は学生の関心の中心．もう少し詳しくしては？　冒頭の２章の技術の話は，学生にはやや難しかったので，学生の関心を意識した“つかみ”（例えば４章）を最初に見せては？　　以上

5

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

資料５－２－③－８

平成１７年度　機械工学科　学外実習実績　　担当者（小畠）					
No.	実習先企業名	実習人数（人）	実習期間	実習日数（日）	備　考
1	奥村組	3	7/25-29	5	
2	三和ダイヤ工販	2	7/21-27	5	
3	住金関西工業	1	7/25-29	5	
4	ＭＳＴコーポレーション	1	7/21-29	5	
5	ヒラノテクシード	1	7/25-29	5	
6	寺田ポンプ	2	7/25-29 8/1-5	5 5	
7	東レエンジニアリング	1	8/8-12	5	
8	ＧＭＢ	1	8/22-26	5	
9	奈良精工	1	8/1-5	5	
10	旭化成	1	8/1-5	5	
11	タカトリ	1	8/1-5	5	
12	日設産業機器	2	7/25-29	5	
13	モリタ製作所	1	8/17-26	8	
14	三和澱粉工業	2	7/21-30	8	
15	ダイジェット工業	1	8/1-5	5	
16	三菱重工業神戸造船所	1	7/25-8/5	10	
17	出光興産愛知製油所	1	8/15-24	8	
18	神鋼テクノ	1	8/1-5	5	
19	ハウス食品	1	8/1-5	5	
20	日研工作所	1	7/25-29	5	
21	光洋サーモシステム	1	8/22-26	5	
22	山城多賀郵便局	1	8/1-12	10	

10

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

資料５－２－③－８

平成 17 年度 電気工学科 学外実習実績　　担当者（ 大谷 ）					
No.	実習先企業名	実習人数（人）	実習期間	実習日数（日）	備考
1	株式会社 INAX 上野事業所	1	7/25～8/5	10	
2	ＧＭＢ株式会社	2	8/22～26	5	
3	ＮＨＫ大阪放送局	1	8/1～5	5	
4	アンドール株式会社	1	8/22～26	5	
5	株式会社 カネカ 滋賀工場	1	8/15～26	10	
6	サントリー株式会社	2	8/8～12	5	
7	株式会社 ティ・アイ・ディ	1	7/25～29	5	
8	株式会社 データ・テクノ	1	8/8～12	5	
9	ニチゾウ電子制御株式会社	2	7/25～29, 8/22～26	5	
10	パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社	1	7/22～8/4	11	
11	株式会社 ヒラノテクシード	1	7/25～29	5	
12	リコーテクノシステムズ	1	8/1～9	7	
13	株式会社 奥村組	2	7/25~29	5	
14	株式会社 下西製作所	1	8/1～5	5	
15	花王株式会社	1	7/25～8/5	10	
16	寺崎電気産業株式会社	1	8/18～31	10	
17	出光興産株式会社 愛知製油所	1	8/15～24	8	
18	松尾捺染株式会社	1	8/1～5	5	
19	大阪ガス株式会社	1	7/25~8/5	10	
20	中外製薬株式会社	1	8/1～5	5	
21	中部電力株式会社	1	8/8～12	5	
22	東レエンジニアリング株式会社	1	8/1～5	5	
23	株式会社 放送映画製作所	1	7/29～8/6	7	

（出典　平成17年度学外実習報告書）

資料５－２－③－８

平成１７年度　　学外実習企業リスト

電子制御工学科　担当者（　西田茂生　）

企業名	実習期間	実習生
白光（株）	8/22-8/26	足立
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸﾃﾞﾊﾞｲｽ（株）	7/22-8/4	能勢・松本・松村　（E渡辺）
（株）エム・アイ・ティ	8/9-11,18,19,22-26	末永
（株）フジキン	7/25-7/29	森井
神鋼テクノ（株）	8/1-8/5	西山　（M　樫木）
東レエンジニアリング	8/1-8/5	山内　（M霜中　E山本）
（株）斑鳩	8/22-8/26	江川　（I石田　C鳥畠）
ムラテックCCS（株）	7/25-7/30	鳥巣
三菱ﾋﾞﾙﾃｸﾉｻｰﾋﾞｽ（株）	7/26-8/5	坂口
住友ベークライト（株）	8/22-8/26	小和田・高見
日本電気ｼｽﾃﾑ建設ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ（株）	8/22-8/26	福本
ﾄﾖﾀｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｼｽﾃﾑ（株）	7/25-8/5	疋田　（I小森）
（株）奥村組		井上・浦谷・福田　（E杉森，諏訪　M大沢，鳥田，西川）
松尾捺染（株）	7/26,8/1-8/5	上山　（E後藤　C朝日）
東邦化成（株）	8/8-8/12	藤本準　（C松本　MS岩崎）
（株）酉島製作所	8/1-8/12	吉田
（株）中部電力	8/8-8/12	佐藤　（E久保田）
（株）共栄ダイカスト	8/8-8/12	瀧口
（株）放送映画製作所	7/25-8/5	齋賀
NHK	8/1-8/6	齋藤
寺田ポンプ（株）	7/25-7/29	中山
光洋サーモシステム（株）	8/22-8/26	平瀬

（出典　平成17年度学外実習報告書）

資料５－２－③－８

平成１７年度学外実習一覧表　　（情報担当分）

番号	実習企業名	実習期間	学生名
1	岡村印刷工業（株）	8月22日～26日	衛藤　聖
2	デンソーテクノ（株）	8月22日～26日	久保　智子
		8月22日～26日	佐野　梢
3	アースインターシステムズ	8月1日～12日	黒岩　潤平
		8月1日～12日	沼口　直紀
		8月1日～12日	坂本（専1E）
4	（株）コボプラン	8月1日～5日	小副川　絵美子
		8月1日～5日	福井　梨恵
		8月1日～12日	細見裕記（専）
5	誉田商事（株）	7月25日～29日	斉藤　晃
		7月25日～29日	土本　良樹
6	（株）ウェーブ	8月22日～26日	繁本　詩
7	出光興産・愛知製油所	8月15日~24日	篠田　康起
		8月15日~24日	三木　規秀（M）
		8月15日~24日	新川裕也（E）
8	ニチゾウ電子制御（株）	7月25日～29日	高土　和行
		8月22日～26日	藤田　樹
		7月25日～29日	円子　武
		7月25日～29日	荒平薫（E）
		8月22日～26日	白波瀬真人(E)
9	キャノン販売（株）	8月22日～26日	辻　俊介
10	（株）ティ・アイ・ディ	7月25日～29日	星野　正彰
		7月25日～29日	松井（E）
11	アイコム（株）	7月25日～29日	松本　悠希
12	（株）斑鳩	8月22日～26日	石田　真
13	（株）呉竹	7月25日～29日	猪岡　永典
14	アンドール（株）	8月22日～26日	角　裕輝
15	（株）放送映画制作所	7月25日～8月5日	川合　達也
16	(株)ﾄﾖﾀｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｼｽﾃﾑ	7月25日～8月5日	小森　彬弘
17	コスモ石油（株）	8月1日～5日	中島　美佳
18	光洋サーモシステム（株）	8月22日～26日	中西　亮介
19	NHK大阪放送局	8月8日～12日	百地　康博
20	（株）DNPデータテクノ関西	8月1日～8月5日	山本　優美

（出典　平成17年度学外実習報告書）

資料５－２－③－８

インターンシップ履修生一覧（物質化学工学科4年）

	氏　名（女子）	事　業　所　名	実　習　期　間
36	堀口　尭弘	旭化成（株）	8/22～8/26
26	鳥畠　賢二	（株）斑鳩	8/22（月）～ 8/26（金）
31	西田　恵一	（株）INAX　上野事業所	7/25（月）～8/5（金）
39	三浦　裕嗣	大阪印刷インキ製造（株）大山田工場	7/21（木）～7/27（金）
19	*瀧澤　優子*	大阪ガス（株）北東部事業所	7/25（月）～8/5（金）
43	村上　翔吾	花王（株）和歌山工場	7/25（月）～ 8/5（金）
18	*高瀬　徳子*	香椎化学工業（株）	8/1（月）～8/5（金）
34	*藤原　真梨*		
22	田部　智之	共栄社化学（株）	7/25（月）～7/29（金）
25	*利山　真美*		
41	三ツ林　尚哉		
10	越田　高史	（株）呉竹	7/25（月）～7/29（金）
12	琴原　優輝		
44	森井　健太		
15	*島崎茉莉子*	京阪セロハン（株）京都工場	8/22（月）～8/26（金）
17	染井　文也	コスモ石油（株）堺製油所	8/1（月）～8/5（金）
4	*一瀬　加奈*	佐藤薬品工業（株）	8/22（月）～ 8/26（金）
6	大西　諒	塩野義製薬（株）製造本部摂津工場	8/1（月）～ 8/5（金）
29	仲村　和也	資生堂大阪工場	7/25（月）～8/5（金）
11	*小玉　瑞穂*	資生堂ホネケーキ工業（株）	7/25（月）～7/29（金）
13	佐藤　雄哉		
33	平山　健太郎		
45	*山内　彩*		
42	*南垣　友希*	第一工業製薬（株）	8/1（月）～8/12（金）
32	長谷川　健	ダイキン工業（株）淀川製作所	8/1（月）～ 8/12（金）
14	芝口　廣司	太平化学産業（株）奈良工場	8/1（月）～8/5（金）
7	*奥田　知生*	田村薬品工業（株）	8/18（月）～8/24（金）
21	田中　皓之	（株）寺田ポンプ	7/25（月）～7/29（金）
38	松本　佑一	東邦化成（株）	8/8（月）～ 8/12（金）
9	木庭　雄一	東洋精密工業（株）	8/1（月）～8/5（金）
23	谷　政幸		
27	中川　浩気	（株）日本触媒	7/25（月）～8/5（金）
16	杉江　治城	ファイザー（株）	7/25（月）～8/5（金）
40	*道下　友美*	（株）フィールドテック	7/25（月）～ 8/12（金）
5	井手　浩一	（株）堀場製作所	8/1（月）～8/12（金）
1	朝日　隆太	松尾捺染（株）	8/1（月）～8/5（金）
28	*中野　志保*	松下ホームアプライアンス社　電化住設研究所	7/25（月）～7/29（金）

（出典　平成17年度学外実習報告書）

資料５－２－③－９

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

資料５－２－③－９

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

資料５－２－③－１０

平成１７年度　機械工学科　学外実習報告書

報告責任者（小畠　耕二）

１．学外実習報告会

実施日時：　2006年　2　月　9　日（木）（１４　:４０　～１６：００　）

実施場所：大講義室　　，　参加教員数：　４　名

発表学生数：　計　２８　名（本科４年　３７名中２８名）

参加学生数：　計　４２　名（本科３年　４６名中４２名）

報告会の概要：　実習先リストを全員に配布し発表会を実施した。発表時間は一人当たり３～５分とした。３年生から質問もあった。

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：

学科間および学科内：　特になし

２．学外実習

実施期間：　2005年７月２５日（月）～　８　月２６日（金）

実習先企業数：　２２　社，　　実習人数：計　２８　名（本科　２８名）

実施概要：

企業別の実習人数，実習日数等の一覧表を別紙に記す．

＜学外実習実施一覧表（学科・専攻科名，企業名，実習人数，実習日数，備考＞

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：

学科間および学科内：　特になし

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

観点５－３－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

・規定の策定

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定は，規程集及び申合せ事項に記載されている(資料５－３-①-１)。 また，この規定の概要は全教員に配布されている学生指導必携（資料５－３-①-２）にも記載されている。

・学生への周知

規定内容の学生への周知は，新年度毎に全学生に配付される「学生生活のしおり」への記載(資料５－３-①-３)を基本として，教科担当や担任による説明，年に２回配付される学期末の成績通知票への記載（資料５－３-①-４）を行うことで徹底を図っている。また，新入学生に対しては新入生オリエンテーションにおいて，教務委員会からの説明も行っている(資料５－３-①-５)。

・ 評価及び認定の実施

成績評価はシラバスの評価方法に従って実施されており，評価内容の詳細及び学生の試験答案の例等を教科ごとにファイルを作って閲覧可能にしている（訪問時に閲覧可）。追・再試験が必要な場合も，申合せ事項及び学生指導必携（資料５－３-①-６）の実施・評価方法に基づいて実施している。また，試験答案返却時に学生に対する説明を行い，規定内容の周知とより厳正な成績評価を行っている。

進級及び卒業の認定は，年度末の教務委員会及び運営会議を経て教職員会議にて審議され(資料５－３-①-７)，その結果に基づいて校長が認定を行っている。会議では審議資料として，全学生の認定資料（訪問時に閲覧可）を配付し，厳格な認定を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

規定については，規程集への記載のみならず全教員に配付される学生指導必携にも記載されており，組織として策定されている。規定内容は学生生活のしおりと成績表にも記載され，学生への周知徹底が図られている。成績評価に関しては，その詳細を記した科目ファイルを作成することで厳格性を保っており，進級・卒業認定では，教務委員会，運営会議，教職員会議において全学生の認定資料が配付され，全教員のもとで厳格に審議されている。

資料５－３－①－１

○奈良工業高等専門学校学業成績評価，進級及び卒業の認定に関する規則

（昭和４６年４月１日制　定）
最近改正　平成18年４月１日

（趣旨）

第１条　奈良工業高等専門学校における試験，学業成績の評価，進級及び卒業の認定等については，この規則の定めるところによる。

（試験）

第２条　定期試験は，学期末に実施する。

２　必要のある科目については，中間試験を実施する。

３　前２項のほか，校長が必要と認めたときは，追試験を実施することができる。

第３条　平素の学業成績で評価し得る科目については，試験の全部又はその一部を実施しないことができる。

（追試験）

第４条　定期試験又は中間試験に欠席した場合，学生は追試験受験願を提出し，校長がやむを得ないと認めたときは，受験することができる。

２　追試験を実施する場合，教務主事は当該科目の担当教員及び学級担任と協議のうえ校長の承認を受けて試験日等を定めるものとする。

３　追試験は，原則として当該学期内に行うものとする。

（試験の成績の評価）

第５条　試験の成績は，その試験の結果に基づき100点法により評価する。

（学業成績の評価及び評定）

第６条　学年成績は，その年度における試験の成績及び平常点（平素の成績及び出席の状況等）を総合して，100点法により評価し，次の区分により優・良・可・不可で評定する。

優	100～80
良	79～65
可	64～60
不　可	59～ 0

２　不可の評定については，次の区分によりＡとＢに分けて取扱う。

不　可	59～40（Ａ）
	39～ 0（Ｂ）

３　卒業研究は，優・良・可・不可で評定する。

４　学年成績を指導要録に記載するときは評点で行う。ただし，部外に通知する必要があるときは優・良・可・不可などの評定によることができる。

（故意に試験に欠席した場合等の成績）

第７条　故意に試験に欠席したと認められた者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の試験の成績は，零点とする。

（不正行為をした場合の成績）

第８条　定期試験を受験中不正行為を行つた者は，その時間以降の受験を停止させ，当該試験の全科目の成績を零点とする。

（不合格の科目）

第９条　学業成績の評定が不可の科目又は欠課時数が年間授業時数の３分の１を超える科目は原則として不合格とする。

（進級又は卒業の認定）

第１０条　進級又は卒業を認定しようとするときは，教務委員会委員長は認定資料を運営会議に提出しなければならない。

２　運営会議は，前項の認定資料により報告を受け，校長は，これに基づき教職員会議の議を経て認定の可否を決定するものとする。

３　前項により認定する場合，次の各号の一に該当する者は，原則として進級又は卒業を認めない。

(1)不合格の科目がある者

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－１

(2)学年成績の総平均点が60点未満の者
(3)欠席日数が年間授業日数の３分の１を超える者
(4)特別教育活動の履習状況が著しく悪い者

4　前項第１号に該当する者で，不合格科目の全てが第６条第２項に規定する不可（A）であり，その累積が５科目10単位以内である場合は進級を認めることができる。

（再試験）

第１１条　前条第４項の規定により，進級を認められた者の不可（A）の科目及び第５学年にあつては５科目以内かつ10単位以下の不可（A）の科目について再試験を行うことができる。

2　再試験は，第１学年から第４学年までは原則として次年度に，第５学年にあつては当該学年末までに行うものとする。

（留年）

第１２条　進級を認定されない者は，原学年にとどまり，その学年の全授業科目を再履修して評価を受けなければならない。

2　２年連続して原学年にとどまる者は，学則第56条第２号に該当するものとして退学させる。ただし，休学した者はこの限りでない。

（雑則）

第１３条　この規則の実施に必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は，昭和46年４月１日から実施する。

附　則（昭和52年４月１日）

1　この規則は，昭和52年４月１日から施行する。

2　昭和52年３月31日に在学する者については，なお従前の例による。

附　則（昭和56年12月24日）

この規則は，昭和56年12月24日から施行し，昭和56年４月１日から適用する。

附　則（昭和57年４月１日）

この規則は，昭和57年４月１日から施行する。

附　則（昭和59年４月１日）

この規則は，昭和59年４月１日から施行する。

附　則（昭和60年４月１日）

この規則は，昭和60年４月１日から施行する。

附　則（平成４年４月１日）

この規則は，平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成12年４月１日）

1　この規則は，平成12年４月１日から施行する。

2　平成12年度の第２学年以上については，なお従前の例による。

附　則（平成16年12月１日）

この規則は，平成16年12月１日から施行し，平成16年4月1日から適用する。

附　則（平成17年４月１日）

この規則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則（平成18年４月１日）

この規則は，平成18年４月１日から施行する。

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－１

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－１

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－１

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－２

〔非開示につき省略〕

（出典　学生指導必携）

資料５－３－①－２

〔非開示につき省略〕

（出典　学生指導必携）

資料５－３－①－２

〔非開示につき省略〕

（出典　学生指導必携）

資料５－３－①－３

(3)　学業成績評価，進級及び卒業について

学業成績は学期末試験，中間試験，及び平常の学習態度に基づいて評価されます。

成績は優（100～80），良（79～65），可（64～60），不可（59～０）で評定されます。不可は不合格であり，当該科目の単位は認定されません。不可には不可Ａ（59～40）と不可Ｂ（39～０）があります。

進級及び卒業の認定は上記の評定に基づいて行われます。学年成績の総平均点が60点未満，または累積の不可の科目が５科目10単位を超えると進級，卒業が認定されません。特に不可Ｂが１科目でもあると留年となります。さらに，欠課，欠席等が規定の時間（日）数を超える場合にも進級，卒業が認定されません。（学業成績評価，進級及び卒業の認定に関する規則を参照）

（出典　平成 18 年度学生生活のしおり）

資料５－３－①－３

学業成績評価，進級及び卒業の認定に関する規則

（趣旨）

第１条　奈良工業高等専門学校における試験，学業成績の評価，進級及び卒業の認定等については，この規則の定めるところによる。

（試験）

第２条　定期試験は，学期末に実施する。

２　必要のある科目については，中間試験を実施する。

３　前２項のほか，校長が必要と認めたとき，追試験を実施することができる。

第３条　平素の学業成績で評価し得る科目については，試験の全部又はその一部を実施しないことができる。

（追試験）

第４条　定期試験又は中間試験に欠席した場合，学生は追試験受験願を提出し，校長がやむを得ないと認めたときは，受験することができる。

２　追試験を実施する場合，教務主事は当該科目の担当教員及び学級担任と協議のうえ校長の承認を受けて試験日等を定めるものとする。

３　追試験は，原則として当該学期内に行うものとする。

（試験の成績の評価）

第５条　試験の成績は，その試験の結果に基づき100点法により評価する。

（学年成績の評価及び評定）

第６条　学年成績は，その年度における試験の成績及び平常点（平素の成績及び出席の状況等）を総合して，100点法により評価し，次の区分により優・良・可・不可で評定する。

優	100～80
良	79～65
可	64～60
不　可	59～0

２　不可の評定については，次の区分によりＡとＢに分けて取扱う。

不　可	59～40（Ａ）
	39～0（Ｂ）

３　卒業研究は，優・良・可・不可で評定する。

４　学年成績を指導要録に記載するときは評点で行う。ただし，部外に通知

（出典　平成18年度学生生活のしおり）

資料５－３－①－３

する必要があるときは優・良・可・不可などの評定によることができる。

（故意に試験に欠席した場合等の成績）

第７条　故意に試験に欠席したと認められた者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の試験の成績は，零点とする。

（不正行為をした場合の成績）

第８条　定期試験の受験中不正行為を行った者は，その時間以降の受験を停止させ，当該試験の全科目の成績を零点とする。

（不合格の科目）

第９条　学年成績の評定が不可の科目又は欠席時数が年間授業時数（１単位当り30時間）の３分の１を超える科目は原則として不合格とする。

（進級又は卒業の認定）

第10条　進級又は卒業を認定しようとするときは，教務委員会委員長は認定資料を運営会議に提出しなければならない。

２　運営会議は，前項の認定資料により報告を受け，校長は，これに基づき教職員会議の議を経て認定の可否を決定するものとする。

３　前項により認定する場合，次の各号の一に該当する者は，原則として進級又は卒業を認めない。

⑴　不合格の科目がある者

⑵　学年成績の総平均点が60点未満の者

⑶　欠席日数が年間授業日数の３分の１を超える者

⑷　特別教育活動の履習状況が著しく悪い者

４　前項第１号に該当する者で，不合格科目の全てが第６条第２項に規定する不可（Ａ）であり，その累積が５科目10単位以内である場合は進級を認めることができる。

（再試験）

第11条　前条第４項の規定により，進級を認められた者の不可（Ａ）の科目及び第５学年にあっては５科目以内かつ10単位以下の不可（Ａ）の科目について再試験を行うことができる。

２　再試験は，第１学年から第４学年までは原則として次年度に，第５学年にあっては当該学年末までに行うものとする。

（留年）

第12条　進級を認定されない者は，原学年にとどまり，その学年の全授業科目を再履修して評価を受けなければならない。

（出典　平成 18 年度学生生活のしおり）

資料５－３－①－３

2　2年連続して原学年にとどまる者は，学則第56条第2号に該当するものとして退学させる。ただし，休学した者はこの限りではない。

（雑則）

第13条　この規則の実施に必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は，昭和46年4月1日から施行する。

附　則（最終改正）

1　この規則は，平成12年4月1日から施行する。

2　平成12年度の第2学年以上については，なお従前の例による。

（出典　平成18年度学生生活のしおり）

資料５－３－①－４　成績通知票

〒

殿

評　価　基　準
(標語への換算基準)
優：１００～８０　良：７９～６５　可：６４～６０　不可
不可（B）：３９～０
(進級・卒業が出来ないとき)
1　学年末成績において不可（B）の科目がある場合
2　学年末成績の総平均点が６０点未満の場合
3　欠課時数・欠席日数が年間授業時数・日数の１／３を超える場合
4　不可（A）の累積が５科目又は１０単位をこえる場合
(その他)
不可（A）の科目は進級できるが，次年度に再試験をうけなければならない

奈良工業高等専門学校成績通知票

平成　　年度　　学年末

工学科　　年　　番

科　目　名	単位数	評点	欠課時数	年間時数

科　目　名	単位数	評点	欠課時数	年間時数

平均点	欠席日数	年間授業日数

通信欄

学級担任氏名　　印

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－５

平成１７年度　新入生校外オリエンテーション　日程表

期　日　　平成17年４月14日(木)　～　４月15日(金)
場　所　　信貴山　玉蔵院　(〒636-0923　奈良県生駒郡平群町信貴山)　Tel.0745-72-2881
学　生　　５学科　Ｍ科４２名、Ｅ科４３名、Ｓ科４２名、Ｉ科４２名、Ｃ科４３名
引　率　　学生主事(1), 学生主事補(3),教務主事補(1), 学生委員会委員(5), 学生係(3), １学年学級担任(5)

４月１４日（木）

8:45	登校
9:00 ～ 9:50	学年共通試験　国語
10:00 ～ 10:50	学年共通試験　英語
11:00 ～ 11:50	学年共通試験　数学 試験終了後ショートホームルーム
12:10 ～ 12:50	昼食・休憩・更衣
13:00 13:10	バス乗車・点呼確認 バス出発
14:20 ～	入所式　富貴閣１階 102 ～ 104 号室
14:40 ～ 15:20	講演会（玉蔵院院主）
15:30 ～ 17:30	境内散策 戒壇めぐりは 16:00 まで　帰館後点呼
18:00 ～ 19:50	入浴・夕食
20:00 ～ 20:30	自由研修 ホームルーム開始まで各自部屋で研修
20:30 ～ 22:00	ホームルーム 機械工学科　客殿１階大広間 電気工学科　富貴閣２階　203・204室 電子制御工学科　富貴閣１階　102～104室 情報工学科　新客殿２階大広間 物質化学工学科　富貴閣２階　201・202室 終了後 就寝準備
22:30	就寝・消灯　(23:00)

M・E・S 男子	I・C男子・女子
18:00 ～ 18:50　夕食 富貴閣 303・304 号室	18:00 ～ 18:50　入浴
19:00 ～ 19:50　入浴	19:00 ～ 19:50　夕食 富貴閣 301・302 号室

	大浴場	中浴場
18:00 ～ 18:50	I・C 男子	女子学生
19:00 ～ 19:50	M・E・S 男子	

４月１５日（金）

6:30	起床　寝具整理・宿泊室清掃
7:00 ～	朝食　富貴閣３階 301 ～ 304 号室 食後持参した水筒にお茶をもらう
8:00	自由研修　散歩・戒壇めぐりも可
8:45 ～	玉蔵院研修室集合 各自荷物を持参して集合 Ｅ・Ｉ・Ｃ　富貴閣　１階 102 ～ 104 号室 Ｍ・Ｓ　新客殿２階大広間 学生委員会関係研修（厚生・補導） 教務委員会関係研修

	Ｍ・Ｓ	Ｅ・Ｉ・Ｃ
8:45 ～	学生委員会関係研修	教務委員会関係研修
9:45 ～	教務委員会関係研修	学生委員会関係研修

（休憩を含む）

11:45 ～	退所式　富貴閣 1 階 102 ～ 104 号室
11:45 12:15 ～	バス乗車　出欠確認・出発 帰校後　ショートホームルーム
13:30	解散（クラス別）

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－３－①－６

〔非開示につき省略〕

（出典　学生指導必携）

資料５－３－①－６

〔非開示につき省略〕

（出典　学生指導必携）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料より抜粋）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料より抜粋）

資料５－３－①－７

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料より抜粋）

観点５－４－①：　教育課程の編成において，特別活動の実施等人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

１ー３年次において，毎週1時間の特別教育活動を組み込んでいる（資料５－４－①－１）。１年間につき３０単位時間実施しており，３年間で９０単位時間を確保している。また，特別教育活動の履修を進級条件に入れている（資料５－４－①－２）。特別教育活動の主な内容は，学生指導必携資料（５－４－①－３）を参考にしたロングホームルーム活動と，講演会等の学年合同による特別教育活動が挙げられる。ロングホームルームに関しては，年度末に担任より実施報告書が提出される（資料５－４－①－４）。合同特別活動においては，各種委員会の主導で，学内外の講師による人権教育等の講演会や文化鑑賞会等多様な内容のものを実施している（資料５－４－①－５）。

（分析結果とその根拠理由）

３年間で特別活動を９０単位時間実施しており，その内容もロングホームルームにとどまらず，学年合同での講演会や文化鑑賞会等多様なものとなっており，教育課程の編成において多面的に人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

資料５－４－①－１

３－２－１　特別教育活動の目的

特別教育活動では，学生が自主的に目的意識をもって勉学に励み，クラブ活動や学校行事に積極的に参加し，学則をよく理解し遵守する習慣を身につけ，５年間の学生生活が意義あるように指導することが目的です。

これらの目的を達成するために，１～３年生については，カリキュラム上，毎週１時間の特別教育活動が規定されており，学年当り３０単位時間が定められ，この３年間で９０単位時間を設けています。

（出典　学生指導必携）

資料５－４－①－１

		木							
		1	2	3	4	5	6	7	8
		9:00 9:45	9:50 10:35	10:40 11:25	11:30 12:15	13:00 13:45	13:50 14:35	14:40 15:25	15:30 16:15
一学年	M	国語Ⅰ （勢田）		美術 （森本）		保健・体育Ⅰ （森・中西）		特活 （廣）	TA
	E	英語Ⅰ （神澤）		国語Ⅰ （勢田）		数学β （名倉）		特活 （北川）	TA
	S	数学α （長瀬）		化学Ⅰ （北村）		美術 （森本）		特活 （長瀬）	TA
	I	物理Ⅰ （堀内）		数学α （名倉）		英語Ⅰ （守屋）		特活 （守屋）	TA
	C	数学α （名倉）		地理 （大矢）		物理Ⅰ （堀内）		特活 （三木）	TA
二学年	M	国語 （武田）		機械設計製図 （扇田）		微分積分Ⅰ （長瀬）		特活 （堀内）	
	E	化学 （北村）		英語 （神澤）		物理 （榊原）		特活 （桐島）	
	S	代数・幾何Ⅰ （北川）		国語 （武田）		化学 （北村）		特活 （押田）	
	I	歴史 （大矢）		英語 （片山）		微分積分Ⅰ （市原）		特活 （本間）	
	C	英語 （片山）		保健・体育 （森・松井）		代数・幾何Ⅰ （北川）		特活 （大矢）	
三学年	M	国語 （鍵本）		英語 （高橋）		微分積分Ⅱ （安田）		特活 （宮本）	
	E	微分積分Ⅱ （荒金）		保健・体育 （中西・森）		応用物理 （堀内健）		特活 （成田）	
	S	英語 （高橋）		保健・体育 （松井・中西）		微分積分Ⅱ （荒金）		特活 （西田）	
	I	微分積分Ⅱ （安田）		応用物理 （堀内健）		歴史 （比佐）		特活 （多喜）	
	C	微分積分Ⅱ （市原）		歴史 （比佐）		保健・体育 （中西・森）		特活 （森）	

（出典　時間割より抜粋）

資料５－４－①－２

３－２－２　特別教育活動の成績評価

成績評価は行ないませんが，出欠の報告は義務付けられています。学級担任は出欠を必ず出席簿及び教務手帳に記入し，前期末，学年末には報告して下さい。

履修状況が著しく悪い場合，進級が認定されない場合がありますのでご注意下さい。

（出典　学生指導必携）

資料５－４－①－３

３－２－３　実施計画

特別教育活動は，原則として学級担任が計画的に指導して頂くことになっています。

なお，本校では，年間実施計画の指針として次のような事項が示されています。年間計画立案の参考資料として活用下さい。

(1) 特活で取り上げる主な内容例

学級各委員の選出

会議の進め方，記録の仕方

交通安全教育，飲酒・喫煙の防止

クラブ活動参加の意義

３年生は人権作文

読書の習慣化

学校五日制における土曜，日曜の過ごし方

長期休業中の過ごし方

高専祭，スポーツ大会等学生会活動への積極参加

人権擁護の問題

（出典　学生指導必携）

資料５－４－①－３

(2) 具体的な実施計画の例

〔4～5 月〕

自己紹介（１年生）

１年生は校外オリエンテーションの事前指導

１，２年生に共通テストの説明

各種委員の選出

年間努力目標の設定と会議の進め方指導

教室の清掃の徹底 ‥‥ 原則として木曜日（特活実施日）が清掃徹底日

交通安全教育

春季ハイキングの反省会

成績評価，試験制度等の説明と前期中間試験の受験心構えの指導

〔6～7 月〕

飲酒・喫煙の防止指導

春季スポーツ大会の出場選手の決定

アルバイトの勉学への悪影響について

夏季体業中の過ごし方について

読書感想文コンクールへの積極参加の指導

〔9～10 月〕

夏季休業中の反省

高専祭参加内容の討議と意見集約

前期末試験の取り組みについて

秋季スポーツ大会出場選手の決定

〔11～12 月〕

高専祭の反省

秋季社会工場見学の事前指導と反省会

人権擁護の重要性について

後期中間試験の取り組みについて

飲酒・喫煙と冬季休業中の諸注意

〔1～3 月〕

新年を迎えての年間目標

成績不振学生への最終指導と学年末試験の取り組みについて

春季ハイキング計画

（出典　学生指導必携）

資料５－４－①－４

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－①－４

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－①－４

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－①－５　教務委員会主催の合同特別活動一覧

日　時：平成１７年６月２３日（木）１４時４０分～１６時１０分
場　所：大視聴覚室
対　象：第２学年学生及び第３学年留学生
演　題：講談「荒大名の茶の湯（「太閤記」より）」
　　落語「七度狐（東の旅より）」
　　体験コーナー「鳴り物」に挑戦～寄席太鼓を打ってみよう～
講　師：講談　旭堂　南左衛門　　落語　桂　九雀

日　時：平成１７年７月７日（木）１４時４０分～１６時１０分
場　所：大視聴覚室
対　象：第４学年・専攻科インターンシップ履修学生
演　題：「インターンシップ講演」
講　師：オムロン（株）ＥＣＢカンパニー　光通信デバイス事業推進部　生産課課長
　　榊野　隆弘　氏

日　時：平成１７年９月１日（木）１４時５０分から１６時２０分
場　所：大視聴覚室
対　象：第３学年学生
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：第一部　「道化師のギャロップ」他全７曲
　　第二部　「走れマリンバ」他全６曲
講　師：関西マリンバ協会副会長　松本　真理子

日　時：平成１７年１０月７日（金）１４時４０分から１６時１５分
場　所：大視聴覚室
対　象：電気工学科　第３・４・５学年学生
演　題：「磁気光学空間光変調器とホログラム記録」
講　師：豊橋技術科学大学　電気・電子工学系　教授　井上　光輝

日　時：平成１７年１０月２０日（木）１３時００分から１４時３０分
場　所：大視聴覚室
対　象：情報工学科　第４・５学年学生
演　題：「マイプロセッサを設計しよう」
講　師：大阪大学大学院　情報科学研究科　情報システム工学専攻
　　集積システム設計学講座　教授　今井　正治

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－①－５　教務委員会主催の合同特別活動一覧

日　時：平成１７年１１月２４日（木）１４時４０分から１６時１０分
場　所：大会議室
対　象：電気工学科　第５学年学生
演　題：「高電圧技術の最新動向」
講　師：名古屋大学　エコトピア科学研究所　エネルギー科学研究部門
　　教授　大久保　仁

日　時：平成１７年１２月１日（木）１４時４０分から１６時１５分
場　所：大講義室
対　象：機械工学科　第４・５学年学生
演　題：「南極越冬隊参加報告」
講　師：本校　技術職員　笹山　智仁

日　時：平成１７年１２月１日（木）１４時４５分から１６時４５分
場　所：大視聴覚室
対　象：物質化学工学科　第４・５学年学生
演　題：「ユビキタスネットワーク・環境社会を支える先端電池」
講　師：松下電池工業株式会社　技術開発センター所長　生駒　宗久

日　時：平成１８年１月３１日（火）１５時００分から１６時３０分
場　所：大視聴覚室
対　象：電子制御工学科　第４・５学年学生
演　題：「リアルタイムセンシングをベースとしたロボットシステム」
講　師：奈良先端科学技術大学院大学　情報科学研究科　助手　上田　悦子

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－①－５　学生委員会主催の合同特別活動一覧

平成17年度特別講演会実施状況

期　日	対象学年	講　演　者　職	氏名	演　　題
5．26	2	郡山警察署交通課長	壁打　雅樹	交通安全について
6．16	2	奈良県教育委員会指導係長	板垣　史郎	インターネットと人権
6．30	1	ネットワーク管理室長　電気工学科教授	成田　紘一	ネチケットと人権
10．20	4	本校名誉教授	井口　高之	世界の障がい者福祉とわたしが出会った障がい者たち
11．17	1	一般教科教授	木村　倫幸	ジェンダーとは？
12．15	5・専	HIVと人権・情報センター副理事長	池上　正仁	AIDSを通して人権と共生を考える
1．12	1	大和郡山市医師会会長	中島　孝之	君はこれでもたばこを吸うか？
1．19	2	物質化学工学科教授	梅原　　忠	リサイクルと環境問題
1．26	4	奈良県食品・生活」相談センター　消費生活相談員	谷口　直子	ネットでトラブルに巻き込まれないために

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年５月９日

学　生　諸　君

学　生　主　事

特別講演会の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので、対象の学生は必ず出席すること。
特別講演会は平常授業と同じに扱われます。**欠席すると欠課時数に加算されます**ので注意すること。

記

日　時　　平成１７年５月２６日（木）１４：４０～　１時間程度

場　所　　本校大視聴覚室

対　象　　第２学年学生

演　題　　「交通安全について」

講　師　　郡山警察署交通課長
　　壁　打　雅　樹　　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年６月３日

第２学年学生諸君

人権教育推進委員会委員長

人権合同特別教育活動の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので対象の学生は必ず出席すること。

特別講演会は平常授業と同じに扱われます。欠席すると欠課時数に加算されるので注意をすること。

記

日　時　：　平成１７年６月１６日（木）１４：４０～

場　所　：　大視聴覚室

演　題　：　「　インターネットと人権　」

講　師　：　奈良県教育委員会事務局人権教育課

指導係長　　板　垣　史　郎　　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年６月２２日

第１学年学生諸君

人権教育推進委員会委員長

人権合同特別教育活動の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので対象の学生は必ず出席すること。

記

日　時　：　平成１７年６月３０日（木）１４：４０～

場　所　：　大視聴覚室

演　題　：　「　ネチケットと人権　」

講　師　：　ネットワーク管理室長

電気工学科　教授　成 田 紘 一　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年１０月１２日

第４学年 学級担任　各 位

人権教育推進委員会委員長

第４学年人権教育特別講演会の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので、貴学級の学生に出席するようご指導方いただくと共に、当日の出欠点呼につきましても併せてよろしくお願いいたします。（出欠用紙は当日会場にてお渡しいたします）

記

日　時：　平成１７年１０月２０日（木）　１４：４０～

場　所：　本校　大視聴覚教室

演　題：　「世界の障がい者福祉とわたしの出会った障がい者たち」

講　師：　本校名誉教授　井 口　高 行 氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年１１月９日

第１学年学生諸君

人権教育推進委員会委員長

人権合同特別教育活動の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので対象の学生は必ず出席すること。

記

日　時　：　平成１７年１１月１７日（木）１４：４０～

場　所　：　大視聴覚室

演　題　：　「　ジェンダーとは？　」

講　師　：　一般教科　教授　　木　村　倫　幸　　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年１２月１９日

学　生　諸　君

学　生　主　事

特別講演会の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので対象の学生は必ず出席しなさい。

特別講演会は平常授業と同じに扱われます。欠席すると欠課時数に加算されますので、注意してください。

記

日　時：　平成１８年１月１２日（木）
　　１４：４０～１５：４０

場　所：　本校大視聴覚室

対　象：　第１学年学生

演　題：　「君はこれでもたばこを吸うか？」

講　師：　大和郡山市医師会長
　　中　島　孝　之　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１８年１月１１日

第２学年学生諸君

人権教育推進委員会委員長

人権合同特別教育活動の実施について

このことについて、下記のとおり実施しますので

対象の学生は必ず出席すること。

記

日　時　：　平成１８年１月１９日（木）１４：４０～

場　所　：　大視聴覚室

演　題　：　「　リサイクルと環境問題　」

講　師　：　物質化学工学科　教授　梅　原　　忠　　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１８年１月１８日

第４学年学生諸君

学　生　主　事

消費者教育講演会の実施について

下記のとおり特別講演会を実施します。対象の学生は必ず出席すること。
特別講演会は平常授業と同様に扱われます。欠席すると欠課時数に加算されますので注意すること。

記

日　時　　平成１８年１月２６日（木）　１４：４０～１６：００

場　所　　大視聴覚教室

対　象　　第４学年学生

演　題　　「　ネットでトラブルに巻き込まれないために　」

講　師　　奈良県食品・生活相談センター
消費生活相談員　谷　口　　直　子　　氏

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年１０月４日

第３学年学生諸君

人権教育推進委員会委員長

人権合同特別教育活動の実施について

下記のとおり人権教育映画会を実施します。

対象の学生は必ず出席すること。

記

日　時：　平成１７年１０月１３日（木）　１４時４０分～

場　所：　本校　大視聴覚教室

題　目：　ビデオ「　メール　」

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－①－５

平成１７年６月２日

学　生　諸　君

学　生　主　事

第3学年対象卒業生と語る会の実施について

このことについて，下記のとおり実施するので対象の学生は必ず出席すること。

記

日　時　　６月２３日（木）　１４：４０～

3M　場　所　3M教室
講　師　芳本　祐典（平成15年度機械工学科卒）
シャープ㈱ ドキュメントシステム事業部

3E　場　所　電気工学科棟　情報工学実験室
講　師　川久保　靖　（平成12年度電子情報工学専攻修了）
カネカ㈱　滋賀工場　PI製造グループ（品質保証）

3S　場　所　3S教室
講　師　馬島　了（平成14年度電子制御工学科卒業）
独立行政法人国立印刷局　彦根工場

3I　場　所　選択教室4
講　師　渡辺　俊規（平成15年度電子情報工学専攻修了）
KONDA＆Co.Ltd.役員　京都大学大学院工学研究科

3C　場　所　3C教室
講　師　能戸　徳子（平成14年度物質化学工学科卒）
マルホ㈱　彦根工場　品質管理グループ

（出典　学生課学生係保存資料）

観点５－４－②：　教育の目的に照らして，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

・生活指導

生活指導については，学生主事と主事補（資料５－ ４－ ②－ １）を中心として，学生の安全面や健康面に留意した様々な取組を行っている（資料５－ ４－ ②－ ２）。クラス担任を始めとする個々の教員による生活指導には，学生指導必携（資料５－ ４－ ②－ ３）に指針が示されている。

・課外活動

課外活動では，現在１９の運動部と９の文化部，１３の同好会が活動している（資料５－ ４－ ②－ ４）。全ての教員がいずれかのクラブの顧問になっており（資料５－ ４－ ②－ ５），対外試合や遠征の引率等，教員が一体となって課外活動をサポートしている。また，学生には年度ごとに顧問教員の承諾書と年間計画表，活動状況報告書等（資料５－ ４－ ②－ ６）を提出させることで，部長を中心とした自主的な活動を促しており，特に活発な活動を行っているクラブでは，高専大会においても成果を上げている（資料５－ ４－ ②－ ７）。

学生会では執行部を中心にして，学生総会や各種委員会の開催を行っている（資料５－ ４－ ②－ ８）。また，執行部と学生主事，主事補による毎月の会議では，学生からの要望，意見を聞いている（資料５－４－②－９）。

・ 学校行事

本校では，春秋のスポーツ大会やクリーンキャンペーンを始め，高専祭や社会工場見学，ハイキング，修学旅行等，人間の素養の涵養に配慮した年間行事を数多く実施して学生の視野の拡大を図っている（資料５－４－②－１０）。

・ 学生表彰

学生として表彰に値する事柄があれば，優秀賞，皆勤賞，特別賞を授与している。優秀賞は在学5年間において，学業成績が優秀で，人物が優れている学生に与えられ，特別賞は課外活動や学生会，寮生会等において優れた業績を挙げた学生に与えられる（資料５－４－②－１１）。

（分析結果とその根拠理由）

本校教育の目的の一つに，豊かな人間性を備えた技術者の育成が挙げられているが，生活指導では，学生の安全面や健康面から，人間の素養の基礎となる部分への配慮がなされている。課外活動においては，教職員のサポートにより，学生の主体性や協調性を育むための配慮がなされている。また，学校行事では多くの年間行事が計画・実施されている。以上のことから，教育の目的に照らして，生活指導面や課外活動等において，人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

資料５－４－②－１

組織図　Organization Chart

役 職 員　Executives

校　長　　一岡　芳樹
President　ICHIOKA Yoshiki

副校長（教務主事） Vice-President (Dean of Educational Affairs)	京兼　純 KYOKANE Jun	教務主事補 Vice-Dean	金澤　直志 KANAZAWA Naoshi	山口　智浩 YAMAGUCHI Tomohiro	片倉　勝己 KATAKURA Katsumi
学生主事 Dean of Student Affairs	矢尾　匡永 YAO Masanori	学生主事補 Vice-Dean	鍵本　有理 KAGIMOTO Yuri	坂本　雅彦 SAKAMOTO Masahiko	土井　滋貴 DOI Shigeki
寮務主事 Dean of Dormitory Affairs	桐川　修 KIRIKAWA Osamu	寮務主事補 Vice-Dean	北村　誠 KITAMURA Makoto	櫟　弘明 ICHII Hiroaki	嶋田　豊司 SHIMADA Toyoshi

（出典　平成 17 年度学校概要）

資料５－４－②－２

2005年度学生委員会関係役割分担			
	業　　務　　内　　容	委員	担当主事補
1	学生委員会案件作成等		坂本
2	授業料免除・日本学生支援機構奨学生推薦		土井
3	学生生活指導全般（喫煙、飲食、服装問題、交通安全指導等） 校内外指導、自転車・単車点検（5月） 単車通学許可（5・10月委員会）、免許取得同意書交付（7・12・2月各委員会） 学生生活環境の改善・ゴミ指導	全員	土井
4	懲戒処分・違反学生の指導		土井
5	学生表彰関係（事前調査会を含む） （9，2月委員会　事前調査会主査は学生主事補）（2004年度は教務主事補）		鍵本
6	学生生活のためのセミナー 交通安全教室　　2年　5／26（木）　　卒業生と語る会　3年　6／23（木） 交通安全講習会　　10／　6（木）　　保健衛生教室　1年　1／12（木）	全員	鍵本
7	人権教育推進委員会　（2005年度幹事長は学生主事補）		鍵本
8	広報小委員会		鍵本
9	「学生生活のしおり」改訂（12－2月）		鍵本
10	厚生補導教職員研修会　（2005年度は教務委員会主管）	全員	矢尾
11	生協理事会オブザーバー		鍵本
12	留学生指導部会		坂本
13	学生の定期健康診断（視力、内科、歯科、眼科、聴力、他）	全員	鍵本
14	新入生校外オリエンテーション　4／14・15（木・金）	全員	坂本
15	学生会関係　学生会執行部との打ち合わせ　（約月1回のペース） キャプテン会議、クラブ紹介、4／11　（月）　午後 リーダース研修会　　春：学生会委員会　4／28　（木） 秋：クラブ関係　　12／17　（土） 総会　春：5／24　（火）、　秋：9／8　（木） 役員会・評議会 広報委員会、体育委員会、図書委員会、生活委員会		鍵本
16	スポーツ大会（春季）　5／24　（火）、　スポーツ大会（秋季）　10／18　（火）	全員	坂本
17	クラブ活動全般及びクラブ顧問会議　5月 近畿地区高専体育大会・全国高専体育大会		土井
18	高専祭　　準　備　11／4（金）午後、　一般公開　11／5・6（土・日）、 片づけ 11／7（月）	全員	土井
19	教務関係行事との連携 ・全校集会　　4／7（木）第1体育館、　9／1（木）放送、　1／10（火）放送 ・全校清掃・入試関係　（入試説明会・入学試験前　他） ・専攻科関係 ・ロボコン全国大会応援団	全員	坂本
20	大和郡山市青少年センター指導委員会、青少年健全育成協議会		土井

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－２

学生主事	学生課長	専 門 員	学生係長	学 生 係

専攻科主任

（専攻科学生の場合）

担当学生主事補 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

報告年月日　平成　　年　　月　　日

学 級 担 任 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（記名押印又は署名）

各 種 違 反 等 報 告 書

所　　属	工学専攻 工 学 科　　年		
氏　　名			
日　　時	平成　　年　　月　　日　（午前・午後）　　時　　分		
違反事項（該当するものに○）	交通違反　　喫煙　　その他（　　）		
違反場所			
違反に関係した交通手段 （交通関係の違反・事故の場合に記入）	□徒歩　□自転車　□原付　□普自二（小型）□普自二（限定なし）□大自二 □普通自動車　□その他 排気量：＿＿＿＿＿cc　登録番号（ﾅﾝﾊﾞｰ）：＿＿＿＿＿＿ 車種：＿＿＿＿＿＿＿＿　車両の所有者：＿＿＿＿＿＿		
概　　要 （書ききれない場合は別紙を添付のこと）			
取得済の免許 （交通関係の違反で、免許の必要な車両に乗っていた場合に記入する）	免許取得日		同意書取得の有無
	□原　　付　　年　月　日		□無　□有：　年　月
	□普通自動二輪(小型)　年　月　日		□無　□有：　年　月
	□普通自動二輪(限定なし)　年　月　日		□無　□有：　年　月
	□大型自動二輪　年　月　日		
	□普　　通　年　月　日		

（以下は記入不要）

学生委員会処置（学生委員会日時　　年　　月　　日）　記載者＿＿＿＿＿＿
違反内容
学生委員会審議結果
過去の処分歴

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－２

教務主事	寮務主事	専攻科主任	学科主任

（授業中発生の場合）（寮内発生の場合）（専攻科学生の場合）（授業中の場合）

学生主事	学生課長	専 門 員	学生係長	学 生 係

担当学生主事補 ＿＿＿＿＿＿＿＿

報告年月日　平成　　年　　月　　日

担任・顧問等 ＿＿＿＿＿＿＿＿

（記名押印又は署名）

事 故 発 生 報 告 書

所　　属	工学専攻 工 学 科　　年		氏　名		
日　　時	平成　　年　　月　　日（　）（午前・午後）　　時　　分				
事故の種類 （該当するものに○）	交通事故　その他の外傷事故（自損事故）　物損事故　傷害事件　その他				
事故発生場所 （該当するものに○）	校舎内　校舎外　学　寮　学校外　具体的に（　　）				
事故発生 状　　況					
関係した学生の氏名・クラス					
傷 病 の 程　　度 （外傷がない場合は記入しない）	傷 病 名				
	受傷箇所				
	受傷程度				
（該当するものに○）	外傷なし	軽　症 全治 30 日以内と考えられるもので入院・手術の必要がないと考えられるもの。	重　症 ① ・入院・手術が必要な場合 ・全治 30 日以上と考えられるもの	重　症 ② 全治３ヶ月以上と考えられるもの。	重　体 死亡の危険があるもの
受診医療機関					
措　置 状　況	保護者への連絡 連絡者　　連絡先 現在の学校の対応状況				
備　考					

提出がすんでいるものに○をうってください　日本スポーツ振興センター災害共済給付申請・学生生協共済給付申請（加入者のみ）・ 違反報告書（違反がある場合）

※　病院で治療を受けた学生の事故について、学生本人が本報告書を提出してください。なお、本人が提出できない状況の場合は代理となるものが提出してください。 学校管理外であっても、学習に支障をきたす事故の場合は本報告書を提出してください。

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－３　学生指導必携もくじ

第 1 章　学 生 生 活

１－１　学生証（身分証明書）の交付 …… 41
１－２　通学定期乗車券購入用身分証明書の交付 …… 41
１－３　授業料，後援会費，学生会費の納入 …… 41
１－４　奨学金制度，授業料減免および授業料徴収猶予 …… 41
　１－４－１　奨学金制度 …… 41
　１－４－２　授業料免除 …… 41
　１－４－３　授業料徴収猶予 …… 42
１－５　学生旅客運賃割引証（学割）の交付 …… 42
１－６　健康診断 …… 42
１－７　日本スポーツ振興センター …… 42
１－８　傷害保険の加入 …… 43
１－９　運転免許取得 …… 43
１－１０　自動車・単車・自転車による通学の手続き …… 43
１－１１　学生の飲酒・喫煙 …… 44
１－１２　服装 …… 44
１－１３　特別日課，夏季・冬季休業中の指導 …… 44

第 2 章　学 級 生 活 指 導

２－１　人権教育 …… 46
２－２　学校だより「CAMPUS」への投稿 …… 46
２－３　新入生オリエンテーション …… 46
２－４　学生相談室の利用 …… 46
２－５　セクシャル・ハラスメント相談室の利用 …… 46
２－６　違反，事故，事件 …… 46
２－７　事故等の緊急措置について …… 46
２－８　校内・外の指導 …… 47
２－９　被補導学生の引取り …… 47
２－１０　保健室の利用 …… 47
２－１１　欠席について …… 47
２－１２　家庭訪問について …… 47

（出典　学生指導必携）

資料５－４－②－４　クラブ・同好会一覧

体育部 Sport Clubs

・陸上競技	Track and Field
・硬式野球	Baseball
・ソフトテニス	Softball Tennis
・バレーボール	Volleyball
・バスケットボール	Basketball
・卓球	Table Tennis
・ラグビー	Rugby Football
・サッカー	Soccer
・剣道	Japanese Fencing
・弓道	Japanese Archery
・アーチェリー	Archery
・ハンドボール	Handball
・柔道	Judo
・水泳	Swimming
・バドミントン	Badminton
・少林寺拳法	Kempo
・空手道	Karate
・テニス	Tennis
・合気道	Aikido

文化部 Cultural Clubs

・吹奏楽	Brass Band
・情報処理研究会	Information Processing
・将棋	Japanese Chess
・放送	Broadcasting
・美術	Fine Arts
・茶道	Chado (Tea Ceremony)
・アコースティックギター	Acoustic Guitar
・機械研究会	Machinery
・からくり	Mechanism

同好会 Circles

・化学	Chemistry
・SF研究会	Science Fiction
・電気技術研究会	Electricity
・TRPG	Table Talk Role Playing Game
・寮アスレチック	Athletics
・社交ダンス	Social Dance
・お笑い	Comedy
・陶遊会	Ceramics Art
・パフォーマンス	Performance
・料理研究会	Cooking
・ベンチャービジネス研究会	Venture Business Laboratory
・クラシック	Classical Music
・現代視覚文化研究会	Modern Visual Culture

（出典　平成 17 年度学校概要）

資料５－４－②－５

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－６

平成　　年　　月　　日

学　生　主　事　殿

第　　学年　　工学科　　番

クラブ・同好会名＿＿＿＿＿＿＿＿　部長＿＿＿＿＿＿＿＿

顧　問　教　員　に　つ　い　て

下記の通り顧問教員を引き受けて下さいましたので報告します。

記

平成　　年度　＿＿＿＿＿＿＿＿顧問を承諾しました。
（クラブ・同好会名）

教員氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（署名または記名押印）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※　代表（ 連絡担当者 ）には氏名の前に○をつけて下さい。

４月　　日（　）までに学生係へ提出すること

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－６

平成　　年度 年間計画表

顧問教員 _____　　クラブ名_____

（署名または記名押印）

部長　第　　学年　　工学科　　番　氏名 _____

月	内　　容	備　　考
４		
５		
６		
７		
８		
９		
１０		
１１		
１２		
１		
２		
３		

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－６

平成　　年度 クラブ活動状況報告書

顧問教員 _____　　クラブ名_____

(署名または記名押印)

部長 第　学年　　工学科　　番 氏名_____　　部 員 数_____

１．活動状況

月	主　な　活　動　状　況
4	
5	
6	
7	
8	
9	
１０	
１１	
１２	
1	
2	
3	

２．主な試合・大会・競技会等の結果

年・月・日	名　　称	結　　果

３．１年間を振り返っての感想等

……

……

……

……

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－７

平成17年度　大会等成績一覧

＜体育系＞

大会名	月・日	種目	成績	選手名
第42回近畿地区高等専門学校体育大会	5.21～22	硬式野球	1回戦敗退	
	7.16～17	ハンドボール	3位	
	7.16～17	剣道　団体	2位	
		女子個人	2位	石橋葵(1C)
	7.18	陸上競技　男子100m	3位	浅井皓平(2S)
		男子200m	3位	諏訪尊信(4E)
		男子400m	1位	楠本高康(2I)
		男子4×100mリレー	3位	杉森茂宏(4E)　浅井皓平(2S) 楠本高康(2I)　諏訪尊信(4E)
		男子やり投	1位	諏訪勝重(4E)
	7.17～18	バレーボール　男子	予選リーグ敗退	
		女子	予選リーグ敗退	
	7.23～24	バスケットボール　男子	3位	
		女子	3位	
	7.12～13	ソフトテニス　女子個人　ダブルス	3位	小型川絵美子(4I)前谷晴香(4C)
	7.16～17	柔道　90kg以下級	3位	西山晋平(3M)
	7.16～18	サッカー	1回戦敗退	
	7.16	水泳　男子400mメドレーリレー	2位	松宮祐紀(3E)　白波瀬真人(4E) 新保貴義(2I)　銭谷紳(3E)
		男子400mフリーリレー	3位	銭谷紳(3E)　向井優太(3I) 新保貴義(2I)　松宮祐紀(3E)
		男子800mフリーリレー	3位	山口雄輔(1M)　大下将宗(1M) 吉村拓司(1S)　小林由和(2M)
		男子100m背泳ぎ	3位	堀健太郎(3S)
		男子200m背泳ぎ	1位	松宮祐紀(3E)
		男子200mバタフライ	2位	新保貴義(2I)
		男子200m個人メドレー	1位	松宮祐紀(3E)
		女子50mバタフライ	3位	松川香澄(2I)
		女子100m自由形	3位	松川香澄(2I)
	7.14～15	バドミントン　団体	予選リーグ敗退	
		個人戦　女子ダブルス	2位	大西智美(3C)　岡崎愛実(3C)
		個人戦　女子シングルス	3位	大西智美(3C)
	7.14～15	テニス　団体	1位	
		個人戦　男子シングルス	1位	辻悠生(3I)
			2位	大矢光彦(4M)
		個人戦　女子ダブルス	3位	寺岡温子(2C)服部沙緒里(2I)
	7.23～24	卓球　団体	1位	
		男子シングルス	1位	森田能次(2C)
		男子ダブルス	2位	巽規行(4C)斎藤好平(3E)
第87回全国高等学校野球選手権奈良大会	7.18	硬式野球　1回戦　対高円　11-4		
	7.22	2回戦　対北大和・奈良北6－7		
第15回大和郡山市テニス協会夏期大会	7.17	テニス　男子Bの部　ダブルス	準優勝	中野慎也(3I)・青山陽(2E)
第14回西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会	8.7	アーチェリー　新人戦　男子	3位	高村智也(1E)
第38回近畿・東海・北陸・信越地区高等専門学校弓道大会	7.28～29	弓道　女子団体の部	1位	吉満祥子(3C)　吉本咲香(3C) 高田亜友美(3C)
第40回全国高等専門学校体育大会	8.3～5	テニス　団体	1回戦敗退	
		個人戦　男子シングルス	1回戦敗退	大矢光彦(4M)
		個人戦　男子シングルス	1回戦敗退	辻悠生(3I)
	8.6	水泳　男子200m個人メドレー	2位	松宮祐紀(3E)
		男子400mメドレーリレー	8位	松宮祐紀(3E)　白波瀬真人(4E) 新保貴義(2I)　銭谷紳(3E)
	8.13～14	バドミントン　個人戦　女子ダブルス	1回戦敗退	大西智美(3C)岡崎愛実(3C)
	8.7	剣道　女子個人戦	1回戦敗退	石橋葵(1C)
	8.6～7	卓球　団体	予選敗退	
		個人戦　男子シングルス	1回戦敗退	森田能次(2C)
		個人戦　男子ダブルス	1回戦敗退	巽規行(4C)　斎藤好平(3E)
	8. 9～10	陸上競技　男子100m	予選敗退	浅井皓平(2S)
		男子200m	6位	諏訪尊信(4E)
		男子400m	6位	楠本高康(2I)
		男子やり投	1位	諏訪勝重(4E)
第27回全国高等専門学校通信弓道大会	7.28～29	弓道　女子団体戦	3位	吉満祥子(3C)　吉本咲香(3C) 高田亜友美(3C)

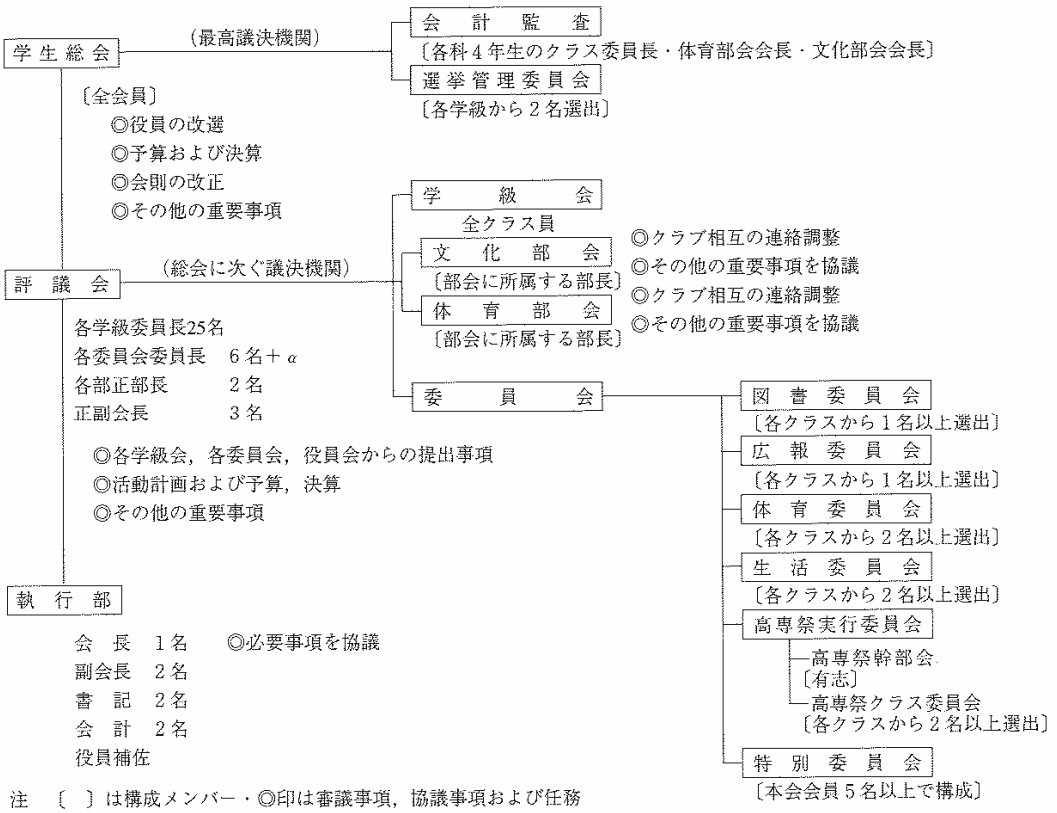
＜文化系＞

大会名	月・日	種目	成績	選手名
第47回奈良県吹奏楽コンクール	8.8	吹奏楽　大学の部	銀賞	
第12回全国高等専門学校将棋大会	8.22～24	将棋　団体戦	3位	
		個人戦	準優勝	木村雅仁(5S)

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－８

学　生　会　組　織　図



注　〔　〕は構成メンバー・◎印は審議事項，協議事項および任務

（出典　平成 18 年度学生生活のしおり）

資料５－４－②－９　会議議事録の例

[20050419（御前会議）.txt]

会議議事録（御前会議）2005年4月19日（火曜日）
時間　：16:30～16:44、17:00～17:
参加者：鍵本先生・坂本先生・矢尾先生（17:39～）
　　島崎・網・林・中出・福重（17:00～17:34）

1，キャプテン会議について
　４月２１日（木曜日）
　内容：体育・文化部会長の決定

2，リーダース研修会について
　４月２８日（木曜日）
　内容：各委員長・副委員長の決定
　　今年度の予定について
　　体育委員会ではスポーツ大会について

3，評議会について
　４月２８日（木曜日）１６：１５～
　内容：学生会予算の昨年度決算及び、今年度予算の承認
　　会計監査の説明、及び総会時の会計監査の代表者決定

4，春季スポーツ大会について
　５月２４日（火曜日）
　競技については５月１２日の体育委員会で決定
　金魚すくい・オリエンテーリングを開催予定
　献血車は学生課の方で手配
　各先生方にパンフレットを早めに配布
　閉会式は体育館で行い、終了後引き続いて学生会総会

5，学生会総会について
　５月２４日（火曜日）スポーツ大会終了後
　内容：予算・決算について

6，女子の制服について
　第一回会議：４月２７日（水曜日）予定
　スポーツ大会後・前期中間テストごろにも会議
　７月には決定

7，交流会について
　主幹：大阪府立高専
　日付：３月２８～３０日
　場所：パークホテル臨海
　参加：福重・網・林
　・過去の交流会の議事録をデータ化する企画
　　→奈良が主体となってやっていくことになった。
　・交流会規約については平成９年改訂分が見つかったためこれを使用

　今年度夏（次回）の交流会は舞鶴が主幹。
　今年度春（２００６年３月）の交流会が奈良主幹。

8，新入生歓迎会について
　４月１６日（土曜日）
　・ほぼ滞りなく終了
　・新入生８８人が参加

9，クリーンキャンペーンについて
　５月１２日（木曜日）予定

- 1 -

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－１０

平成 18 年 5 月 16 日

教官各位

学生会会長　島崎茉莉子

平成 18 年度春季スポーツ大会について（実施要項）

下記のスケジュールで行いますので、学生の指導・誘導等のご協力をよろしくお願いいたします。

記

実施月日：平成 18 年 5 月 23 日（火）

各競技の時間・場所：

○集合・開会

点呼：8：50　グラウンド（雨天時：クラスルーム）

開会式：9：00　グラウンド（雨天時：クラスルーム・放送にて実施）

○各競技の時間・場所

バスケットボール

場所　第一体育館

時間　9：30-14：16（昼休み：11：38-13：00）

バレーボール

場所　第二体育館

時間　9：30-12：55

百人一首

場所　武道場

時間　9：30-11：55

サッカー

場所　グラウンド

時間　9：30-13：12

女子競技（バスケットボール）

場所　第二体育館

時間　14：00-15：16

金魚すくい

場所　ピロティー

時間　9：30-14：00

サッカー王者決定戦

場所　グラウンド

時間　13：25-15：20

○閉会

点呼：15：30　グラウンド（雨天時：第一体育館）

閉会式：15：40　グラウンド（雨天時：第一体育館）

大会終了予定時刻：16：10

※尚、詳細につきましては、別添えのパンフレットをご覧ください。

以上

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－１０　スポーツ大会プログラム

通常リーグ

試合	時間			A コート	B コート	試合	時間			A コート	B コート
1	9:30	-	9:37	2 年 - ①		11	11:30	-	11:37	1 年 - ⑤	3 年 - ⑤
2	9:40	-	9:47	2 年 - ②		12	11:40	-	11:47	1 年 - 決勝	3 年 - 決勝
3	9:50	-	9:57	2 年 - ③		13	11:50	-	11:57	4 年 - ①	4 年 - ②
4	10:00	-	10:07	2 年 - ④		14	12:00	-	12:07	4 年 - ③	4 年 - ⑤
5	10:10	-	10:17	2 年 - ⑤		15	12:15	-	12:22	4 年 - ④	4 年 - 決勝
6	10:20	-	10:27	2 年 - 決勝		16	12:25	-	12:32	5 年 - ①	5 年 - ②
7	10:50	-	10:57	1 年 - ①	3 年 - ①	17	12:35	-	12:42	5 年 - ③	
8	11:00	-	11:07	1 年 - ②	3 年 - ②	18	12:45	-	12:52	5 年 - ④	
9	11:10	-	11:17	1 年 - ③	3 年 - ③	19	12:55	-	13:02	5 年 - ⑤	
10	11:20	-	11:27	1 年 - ④	3 年 - ④	20	13:05	-	13:12	5 年 - ⑥	5 年 - 決勝

王者決定戦

試合	時間			
1	13:25	-	13:40	①
2	13:45	-	14:00	②
3	14:05	-	14:20	③
4	14:25	-	14:40	④
5	14:45	-	15:00	⑤
6	15:05	-	15:20	決勝

・金魚すくい
場　所：ピロティー
時　間：Free 9:30~12:00　&　13:00~14:00
　　大会 11:00~　&　13:30~　(各 5 分前集合)

・個人種目
当日，各クラスに掲示する問題用紙をご覧下さい．

・献血
ピロティーで行っています．16 歳以上の人は奮ってご参加下さい．

以上で各競技の説明を終わります．

学生会執行部

平成 18 年度春季スポーツ大会・プログラム（先生用）

Date: 2006/5/23 (Tue.)

○ プログラム
8:50　点呼 (晴れ：グラウンド・雨：放送)
9:00　開会式 (晴れ：グラウンド・雨：放送)
9:30　競技開始(種目・場所・時間は下の表と各競技の詳細をお読みください)
13:12　サッカー通常リーグ終了
13:25　王者決定戦開始
15:30　点呼 (晴れ：グラウンド・雨：第一体育館)
15:40　閉会式 (晴れ：グラウンド・雨：第一体育館)

競技場所と競技内容の掲載場所

場所	グラウンド			第一体育館		第二体育館		武道場
天気	晴れ		雨	晴れ	雨	晴れ	雨	関係なし
午前競技	サッカー(p.3)		なし	バスケ(p.1)	バスケ(p.1)	バレー(p.2)	バレー(p.2)	百人一首(p.3)
午後競技	サッカー(p.3) 王者決定戦(p.3)		なし			女子バスケ(p.2)	女子バスケ(p.2)	

※　各体育館　A コートは校舎側　B コートは奥側
※　競技の後の括弧の中の数字は競技内容の詳細を掲載場所しているページを示します．
※　詳細なトーナメントについては別紙をご参照ください．

○ 表彰について
スポーツ大会の対戦形式は学年別クラス対抗を基本とし，それぞれの競技の順位を点数に換算した上で最も点数の高かったクラスを学年別に 1,2 位を表彰します．また，女子バスケットボールの 1,2 位の学年，王者決定戦の 1,2 位のクラスを表彰します．順位は決勝の勝者，決勝の敗者，⑤の勝者，⑤の敗者，④の敗者の順です．

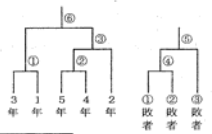
○ 各競技の詳細説明
・バスケットボール
場　所：第一体育館
種　別：学年別クラス対抗
人　数：5 人
時　間：5 分×2 試合(halftime1 分・1 対戦間の時間 2 分)
　　各試合開始時間は以下の表の通り
ルール：バスケットボールの標準競技ルールに基づく
得　点：1 位 100 点　2 位 80 点　3 位 60 点　4 位 40 点
　　5 位 20 点　6 位 5 点

試合	時間			A コート	B コート	試合	時間			A コート	B コート
1	9:30	-	9:41	4 年 - ①	1 年 - ①	10	11:27	-	11:38	5 年 - ③	2 年 - ④
2	9:43	-	9:54	4 年 - ②	1 年 - ②	昼休み	11:38	-	13:00		
3	9:56	-	10:07	4 年 - ③	1 年 - ③	11	13:00	-	13:11	5 年 - ④	2 年 - ⑤
4	10:09	-	10:20	4 年 - ④	1 年 - ④	12	13:13	-	13:24	5 年 - ⑤	2 年 - 決勝
5	10:22	-	10:33	4 年 - ⑤	1 年 - ⑤	13	13:26	-	13:37	5 年 - ⑥	5 年 - 決勝
6	10:35	-	10:46	4 年 - 決勝	1 年 - 決勝	14	13:39	-	13:50	3 年 - ①	3 年 - ②
7	10:48	-	10:59		2 年 - ①	15	13:52	-	14:03	3 年 - ③	3 年 - ④
8	11:01	-	11:12	5 年 - ①	2 年 - ②	16	14:05	-	14:16	3 年 - ⑤	3 年 - 決勝
9	11:14	-	11:25	5 年 - ②	2 年 - ③						

・バレーボール
場　所：第二体育館
種　別：学年別クラス対抗
人　数：7 人
時　間：10 分(1 対戦間の時間 3 分)
　　各試合開始時間は以下の表の通り
ルール：バレーボールの標準競技ルールに基づく
得　点：1 位 100 点　2 位 80 点　3 位 60 点　4 位 40 点
　　5 位 20 点　6 位 5 点

試合	時間			A コート	B コート	試合	時間			A コート	B コート
1	9:30	-	9:40	3 年 - ①	5 年 - ①	9	11:14	-	11:24	4 年 - ④	4 年 - ⑤
2	9:43	-	9:53	3 年 - ②	5 年 - ②	10	11:27	-	11:37		4 年 - 決勝
3	9:56	-	10:06	3 年 - ③	5 年 - ③	11	11:40	-	11:50	1 年 - ①	1 年 - ②
4	10:09	-	10:19	3 年 - ④	5 年 - ④	12	11:53	-	12:03	1 年 - ③	1 年 - ④
5	10:22	-	10:32	3 年 - ⑤	5 年 - ⑤	13	12:06	-	12:16	1 年 - ⑤	2 年 - ①
6	10:35	-	10:45	3 年 - 決勝	5 年 - ⑥	14	12:19	-	12:29	1 年 - 決勝	2 年 - ②
7	10:48	-	10:58	4 年 - ①	5 年 - 決勝	15	12:32	-	12:42	2 年 - ③	2 年 - ④
8	11:01	-	11:11	4 年 - ②	4 年 - ③	16	12:45	-	12:55	2 年 - ⑤	2 年 - 決勝

・バスケットボール(女子のみ)
場　所：第二体育館
種　別：学年対抗
人　数：5 人
時　間：5 分×2 試合(halftime1 分・1 対戦間の時間 2 分)
　　各試合開始時間は以下の通り
ルール：バスケットボールの標準競技ルールに基づく
表　彰：一位，二位



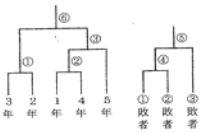
試合	時間			
1	14:00	-	14:11	①
2	14:13	-	14:24	②
3	14:26	-	14:37	③
4	14:39	-	14:50	④
5	14:52	-	15:03	⑤
6	15:05	-	15:16	決勝

・百人一首
場　所：武道場
種　別：学年別クラス対抗
人　数：2 人
時　間：20 分(1 対戦間の時間 5 分)
　　各試合開始時間は以下の表の通り
得　点：1 位 100 点　2 位 80 点　3 位 60 点　4 位 40 点
　　5 位 20 点　6 位 5 点

試合	時間			A コート	B コート	C コート	D コート	E コート	F コート
1	9:30	-	9:50	1 年 - ①	2 年 - ①	3 年 - ①	4 年 - ①	5 年 - ①	5 年 - ②
2	9:55	-	10:15	1 年 - ②	2 年 - ②	3 年 - ②	4 年 - ②	5 年 - ③	
3	10:20	-	10:40	1 年 - ③	2 年 - ③	3 年 - ③	4 年 - ③	5 年 - ④	
4	10:45	-	11:05	1 年 - ④	2 年 - ④	3 年 - ④	4 年 - ④	5 年 - ⑤	
5	11:10	-	11:30	1 年 - ⑤	2 年 - ⑤	3 年 - ⑤	4 年 - ⑤	5 年 - ⑥	
6	11:35	-	11:55	1 年 - 決勝	2 年 - 決勝	3 年 - 決勝	4 年 - 決勝	5 年 - 決勝	

・サッカー (晴天時のみ)
場　所：グラウンド
種　別：学年別クラス対抗及び各学年の 1 位同士での王者決定戦
人　数：通常 7 人　王者 11 人
時　間：通常リーグ 7 分(1 対戦間の時間 3 分：半コート)
　　王者決定戦 7 分×2 試合(halftime1 分・1 対戦間の時間 5 分：全コート)
　　各試合開始時間は次ページの表の通り
ルール：王者決定戦の標準競技ルールに基づく
　　同点の場合，フットサルコートでの PK を行う
　　(但しオフサイドはなしとする)
得　点：通常リーグ 1 位 100 点　2 位 80 点　3 位 60 点　4 位 40 点
　　5 位 20 点　6 位 5 点
表　彰：王者決定戦 一位

王者決定戦



（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－10

1月26日（木）　15：40から

クリーンキャンペーン

を開催します。

もうすぐ推薦入試、

受験生達を迎えることになります。

しかし最近、ゴミがよく

落ちていると思いませんか？

あなたの力と時間を少しだけ貸してください。

参加して頂ける方は、

15：35に図書館横駐車場に集合してください。

ふるってご参加ください。

（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－10　高専祭プログラム

5日（土）の催し物

10：00	ファンファーレ＋開会式
10：30	バザーコンテスト
12：15	アウトライブ　干しがえる Best Beam Boys
13：30	のど自慢 筋肉自慢 ジェスチャークイズ
15：00	アウトライブ　fanny skash
17：00	中夜祭　イントロクイズ クイズ“その道の人ら” 抽選会

6日（日）の催し物

10：00	開場
10：15	アウトライブ　シックスセブンス heijoh tennenkinenbutsu
11：45	仮装大会 ＊人間テーブル
13：45	一発芸大会 ＊人間テーブル
15：15	アウトライブ　Ganalu.C monkey pool
17：00	後夜祭　HOTHOT 大打ち上げ花火

☆入試相談コーナー☆

11月6日（日）11：00～15：00、図書館1階の第一会議室にて入試相談コーナーを設けました。どなたでも気軽にお越しください。

奈良交通バス時刻表【奈良高専前⇒近鉄郡山駅・土日祝】

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
7	7	13	13	7	13	13	11	11	11
13	13	28	28	13	28	28	17	26	17
28	28	43	43	28	43	43	26	41	41
43	43	55	55	43	55	58	41	56	
55	55			55			56		

太字＝土曜のみ運行

その他のイベント

☆ スタンプラリー　（両日とも）
同じTシャツを着た人にスタンプをもらい豪華商品をGETしよう！！

☆ 茶道部　紅葉茶会　（1日目　10時～14時）
場所　凌雲館　2F　和室

☆ 吹奏楽部　お祭りコンサート　（2日目14時～15時）
場所　大視聴覚室

☆ 恋人探しアンケート　（両日とも）
簡単な質問に答えて、来場者の中からあなたにぴったりの相手を探します　場所　校舎3F情報処理研究会

funny skash

今年の高専祭でアウトライブを盛り上げてくれるのは、大阪を中心に活動するスカパンクバンドfunny skashだ！！
このバンドは美しいホーンセクションと共に流れるメロディーで人気増大中、多くのV.Aに参加しています。

高専祭の最後のしめくくり大花火大会
後夜祭終了後、運動場で秋の夜空に花火を打ち上げます

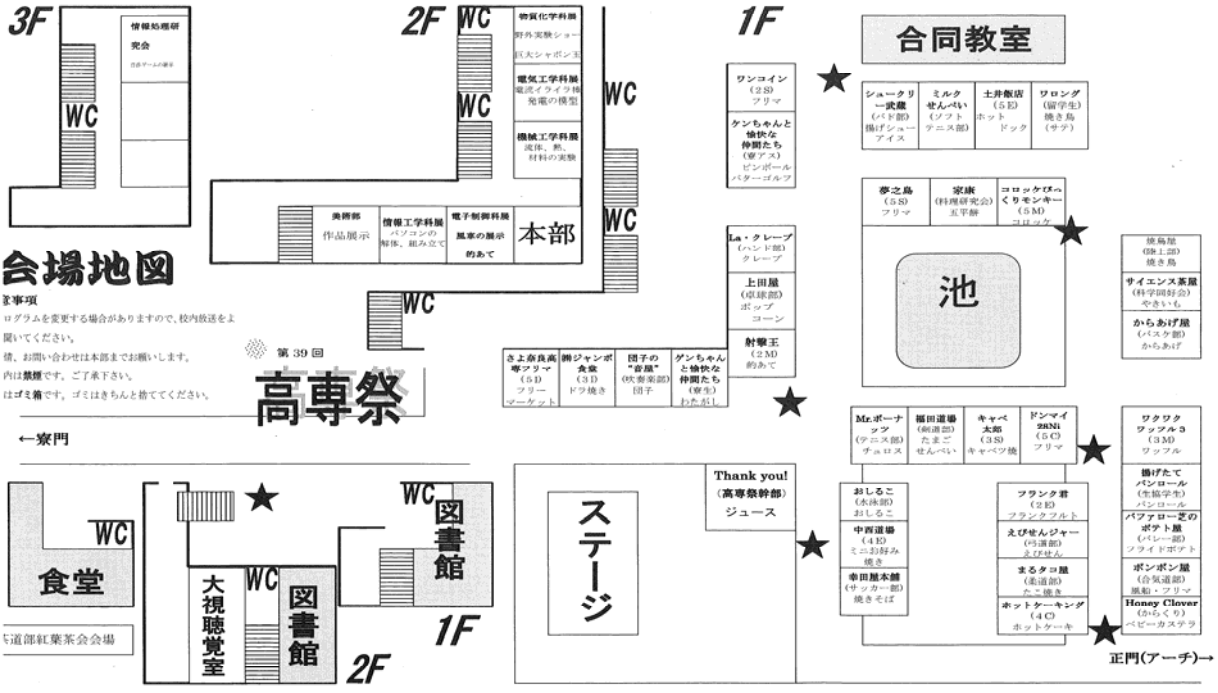
協賛
株式会社　春日
脇坂火薬株式会社
他にも多くの企業の方に協力していただきありがとうございました。

第39回 高専祭

11/5(土)・6(日)
午前10時より開催

メインテーマ
☆Thank You☆

奈良工業高等専門学校



（出典　学生課学生係保存資料）

資料５－４－②－１０

平成17年度 春季ハイキング実施行程表

学年	クラス	行先	集合時間	（集合場所）　コース　（解散場所）	解散予定時刻	引率予定教員			
						担任			
2	M	若草山方面	9:30	（近鉄奈良駅）⇒滝坂の道⇒首切地蔵⇒うぐいすの滝⇒若草山山頂⇒（近鉄奈良駅）	15:00	堀内	北村	酒井	
	E	柳生街道方面	9:30	（JR加茂駅）⇒岩船寺⇒わらい仏⇒浄瑠璃寺⇒大門石仏⇒加茂青年山の家⇒（JR加茂駅）	15:00	桐島	神澤	石飛	
	S	矢田丘陵	9:00	（近鉄郡山駅）⇒東明寺⇒子どもの森⇒矢田山⇒国見台展望台⇒松尾山⇒松尾寺⇒（JR大和小泉駅）	15:30	押田	武田		
	I	若草山方面	9:30	（近鉄奈良駅）⇒滝坂の道⇒首切地蔵⇒うぐいすの滝⇒若草山山頂⇒（近鉄奈良駅）	15:00	本間	浅井	榊原	
	C	飛鳥方面	9:40	（近鉄飛鳥駅）⇒高松塚壁画館⇒石舞台⇒飛鳥寺⇒水落遺跡⇒（水落遺跡）	15:30	大矢	大植	中谷	嶋田
3	M	飛鳥方面	9:30	（近鉄飛鳥駅）⇒高松塚古墳⇒亀石⇒橘寺⇒石舞台⇒板蓋宮跡⇒飛鳥寺⇒甘樫丘⇒（近鉄橿原神宮前駅）	15:30	宮本	平	松井	
	E	飛鳥方面	9:30	（近鉄飛鳥駅）⇒高松塚古墳⇒亀石⇒橘寺⇒石舞台⇒酒船石⇒飛鳥寺⇒甘樫丘⇒（近鉄橿原神宮前駅）	15:30	成田	片山	大谷	
	S	飛鳥方面	10:00	（近鉄橿原神宮前駅）⇒甘樫丘⇒飛鳥寺⇒石舞台⇒高松塚古墳⇒（近鉄飛鳥駅）	15:30	西田	阪部	荒金	
	I	飛鳥方面	10:00	（近鉄飛鳥駅）⇒飛鳥寺⇒石舞台⇒高松塚古墳⇒（近鉄飛鳥駅）	15:30	多喜	高橋	松尾	
	C	飛鳥方面	9:30	（近鉄飛鳥駅）⇒高松塚古墳⇒亀石⇒橘寺⇒石舞台⇒万葉ミュージアム⇒飛鳥寺⇒飛鳥坐神社⇒甘樫丘⇒（近鉄橿原神宮前駅）	16:00	森	石丸	宇田	
4	M	矢田丘陵	9:00	（奈良高専）⇒県立民俗博物館⇒子どもの森⇒矢田寺⇒松尾寺⇒（奈良高専）	15:00	小柴	木村	谷口	
	E	西大寺・平城宮跡	9:30	（近鉄西大寺駅）⇒西大寺⇒称徳天皇陵⇒平城宮跡⇒朱雀門⇒（近鉄新大宮駅）	15:00	中西	中村		
	S	平城宮跡	9:30	（近鉄西大寺駅）⇒薬師寺⇒平城宮跡⇒法華寺⇒（近鉄新大宮駅）	15:30	市原	早川	金澤	
	I	山の辺の道	9:30	（近鉄桜井駅）⇒大神神社⇒景行天皇陵⇒崇神天皇陵⇒黒塚古墳⇒石上神社⇒（石上神社）	15:30	安田	小山		
	C	山の辺の道	9:46	（近鉄桜井駅）⇒大神神社⇒景行天皇陵⇒崇神天皇陵⇒天理市ﾄﾚｲﾙｾﾝﾀｰ⇒石上神社⇒（近鉄天理駅）	15:30	梅原	片倉	直江	伊月

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－②－１０

平成17年度　秋季社会工場見学行程表

平成17年11月11日

期日	クラス	行程	引率教員 責任者（担任）	引率教員 会計担当者	引率教員	備考
１１月１１日（金）	１Ｍ	学校＝＝＝＝⇒大阪市立科学館（昼食）＝＝＝＝⇒大阪ガス・ガス科学館＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:30　13:00　14:00　16:00　17:30	廣	名倉	鍵本	
	１Ｅ	学校＝＝＝＝⇒天ヶ瀬ダム・天ヶ瀬森林公園（昼食）＝＝＝＝⇒滋賀県立琵琶湖博物館＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　13:00　14:20　15:20　17:10	北川	石飛	北村	
	１Ｓ	学校＝＝＝＝⇒大阪ガス・ガス科学館（昼食）＝＝＝＝⇒関西国際空港＝＝＝＝⇒学校 8:40　10:30　13:30　14:00　16:00　17:30	長瀬	神澤	島岡	
	１Ｉ	学校＝＝＝＝⇒パナソニックセンター大阪＝＝＝＝⇒海遊館（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:30　11:30　12:30　15:00　16:30	守屋	~~山口智~~	木村	
	１Ｃ	学校＝＝＝＝⇒積水化成品工業㈱天理工場（昼食）＝＝＝＝⇒不二製油㈱阪南事業所＝＝＝＝⇒学校 8:50　9:30　12:30　14:00　16:30　18:00	三木	西野	石丸	
	２Ｍ	学校＝＝＝＝⇒住友金属工業㈱製鋼所（昼食）＝＝＝＝⇒大阪市立科学館＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:15　13:00　13:45　15:30　16:30	堀内	坂本		
	２Ｅ	学校＝＝＝＝⇒大和ﾊｳｽ工業㈱総合技術研究所＝＝⇒高山ｻｲｴﾝｽﾌﾟﾗｻﾞ（昼食）＝＝⇒三洋電機㈱大東事業所＝＝⇒学校 8:20　9:20　11:10　11:30　12:30　13:30　15:10　16:10	桐島	~~榊原~~	藤井	
	２Ｓ	学校＝＝＝＝⇒久居榊原風力発電施設・青山高原（昼食）＝＝＝＝⇒㈱森精機製作所 伊賀事業所＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　12:30　13:30　15:30　17:00	押田	早川	中田	
	２Ｉ	学校＝＝＝＝⇒シャープ㈱歴史・技術ホール＝＝＝＝⇒関西国際空港（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:00　9:30　10:30　12:00　15:00　16:30	本間	浅井	上田	
	２Ｃ	学校＝＝＝＝⇒㈱資生堂 大阪工場＝＝＝＝⇒ATCｴｲｼﾞﾚｽｾﾝﾀｰ（昼食）＝＝＝＝⇒ATCｸﾞﾘｰﾝｴｺﾌﾟﾗｻﾞ＝＝＝＝⇒学校 8:40　10:00　12:00　13:00　14:30　14:30　16:00　17:30	大矢	武田	大植	
	３Ｍ	学校＝＝＝＝⇒神戸海洋博物館（昼食）＝＝＝＝⇒三菱重工業㈱神戸造船所＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　13:00　13:30　15:30　17:30	宮本	酒井	松井	
	３Ｅ	学校＝＝＝＝⇒滋賀県立琵琶湖博物館（昼食）＝＝＝＝⇒㈱カネカ 滋賀工場＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　12:30　13:00　15:00　17:00	成田	大谷	片山	
	３Ｓ	学校＝＝＝＝⇒神戸海洋博物館（昼食）＝＝＝＝⇒新明和工業㈱航空機事業部＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:30　12:30　13:00　15:00　17:00	西田	矢野	荒金	
	３Ｉ	学校＝＝＝＝⇒奈良先端科学技術大学院大学＝＝＝＝⇒海遊館（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:00　9:45　11:45　12:45　15:30　17:00	多喜	髙橋	近藤	
	３Ｃ	学校＝＝＝＝⇒和歌山城（昼食）＝＝＝＝⇒花王㈱和歌山工場＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　13:00　13:30　15:30　17:30	森	宇田	中谷	

平成17年度　秋季社会工場見学行程表

期日	クラス	行程	引率教員 責任者（担任）	引率教員 会計担当者	備考
１１月１０日（木）・１１日（金）	４Ｍ	１０日　学校＝＝＝⇒ユニチカ㈱宇治工場＝＝＝⇒石山寺（昼食）＝＝＝⇒島津メクテム㈱＝＝＝⇒「国民宿舎 金剛輪寺荘」（泊） 8:30　10:00　12:00　12:30　13:30　14:00　16:00　17:30 １１日　「国民宿舎 金剛輪寺荘」＝＝＝⇒キリンビール（株）滋賀工場＝＝＝⇒滋賀県文芸の郷（昼食）＝＝＝⇒学校 8:20　9:00　10:00　11:00　13:30　16:00	小柴	谷口	
	４Ｅ	１０日　学校＝＝＝＝⇒㈱ＩＮＡＸ青山工場＝＝＝＝⇒伊賀上野城（昼食）＝＝＝＝⇒「あいち健康ﾌﾟﾗｻﾞ」（泊） 8:30　10:30　12:00　12:30　13:30　16:30 １１日　「あいち健康プラザ」＝＝＝＝⇒出光興産(株)愛知製油所＝＝＝＝⇒ナガシマスパーランド（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:00　9:30　11:30　12:30　15:00　17:30	中西	中村	
	４Ｓ	１０日　学校＝＝＝⇒モザイク広場（昼食）＝＝＝⇒三菱重工業㈱神戸造船所＝＝＝⇒「ﾎﾃﾙｻﾝﾙｰﾄ ｿﾌﾟﾗ神戸」（泊） 9:00　11:00　12:30　13:00　16:00　17:00 １１日　「ﾎﾃﾙｻﾝﾙｰﾄ ｿﾌﾟﾗ神戸」＝＝＝＝⇒㈱酉島製作所（昼食）＝＝＝＝⇒国立国会図書館 関西館＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:00　13:30　15:00　17:00　18:00	市原	山本	
	４Ｉ	１０日　学校＝＝＝⇒龍野西SA（昼食）＝＝＝⇒（財）高輝度光科学研究センター＝＝＝⇒「姫路市宿泊型児童館 星の子館」（泊） 9:30　12:00　13:00　13:30　15:00　16:30 １１日　「姫路市宿泊型児童館 星の子館」＝＝＝＝⇒三菱重工業㈱高砂製作所（昼食）＝＝＝＝⇒人と防災未来センター＝＝＝＝⇒学校 8:30　9:30　12:30　13:50　15:50　18:00	安田	山口賢	
	４Ｃ	１０日　学校＝＝＝＝⇒旭化成工業㈱守山支社（昼食）＝＝＝＝⇒彦根城＝＝＝＝⇒「休暇村 近江八幡」（泊） 8:30　10:30　13:00　14:00　16:00　17:00 １１日　「休暇村 近江八幡」＝＝＝＝⇒東レ㈱滋賀事業所（昼食）＝＝＝＝⇒サントリー㈱京都ビール工場＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:00　12:30　14:00　16:00　17:30	梅原	嶋田	

【宿泊先】

機械工学科第４学年（４Ｍ）	「国民宿舎 金剛輪寺荘」	滋賀県愛知郡秦荘町松尾寺968	TEL 0749-37-3521
電気工学科第４学年（４Ｅ）	「愛知健康ﾌﾟﾗｻﾞ健康宿泊館」	愛知県知多郡東浦町森岡源吾山1-1	TEL 0562-82-0235
電子制御工学科第４学年（４Ｓ）	「ﾎﾃﾙｻﾝﾙｰﾄ ｿﾌﾟﾗ神戸」	神戸市中央区磯辺通1-1-22	TEL 078-222-7500
情報工学科第４学年（４Ｉ）	「姫路市宿泊型児童館 星の子館」	姫路市青山1470-24	TEL 0792-67-3050
物質化学工学科第４学年（４Ｃ）	「休暇村 近江八幡」	近江八幡市沖島町宮ヶ浜	TEL 0748-32-3138

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－②－１０　修学旅行旅程表

ご旅程表

奈良工業高等専門学校　電気工学科　様

ご旅行先　　ご旅行期間　平成１７年１１月　９日(水) ～ 平成１７年１１月１１日(金)

北海道　方面　２泊　３日（旅館・ホテル ２泊、船・車中 ０泊）　参加人員　４１名様（生徒３９名様、教職員　２名様）

日次	月日(曜)	行程	食事	宿泊地
1	11／9 (水)	ＪＡＬ２５４１便 関西空港 12:20 ─┼─ 函館空港 13:55 14:30 ═══ ○五稜郭公園（歴史見学） 15:00 ═══ 15:40 （昼食：機内にて空弁） 五稜郭 星型の要塞として知られ、市民の憩いの場になっています。ここは、北方防備の目的で蘭学者武田斐三郎（あやさぶろう）の設計により造られた、日本初のフランス築城方式の要塞。土類が星型をしているため五稜郭とよばれています。 ラーメンテーマパーク 6月3日オープン 「函館湯の川温泉らーめんブギ」 道南地域の有力ラーメン店 5店舗を終結させた 道南ラーメンのテーマパーク ═══ 赤レンガ倉庫群や元町周辺（自由散策） 16:00 ═══ ○函館山（夜景） 17:50 18:00 ═══ 湯の川温泉（泊） 18:30 19:00頃	朝：－ 昼：○ 夕：○	【 湯の川温泉 】 花びしホテル TEL:0138-57-0131
2	11／10 (木)	ホテル 8:00 ═══ 大沼公園（車窓） 12:00 ═══ ニセコ（昼食） 13:00 ═══ 小樽市内自由散策 15:00 …… 小樽運河夜景見学 17:30 ═══ 札　幌（泊） 18:30頃 ※函館朝市立寄り可能です。 ※16:00頃から薄暗くなります。 ◆ニセコ◆ ※バーベキューが似合います。（海鮮丼も可能です）羊蹄山の山麓に広がるニセコの景観をお楽しみ下さい。 ≪自由行動≫ 小樽運河・小樽オルゴール堂・北一ガラス・金融資料館（旧日銀小樽支店）・流氷凍れ館　など ※夜はすすきの散策なで夜食ラーメンなど ≪夕食≫ ホテル …… キリンビール園 19:30 21:00 …… すすきの …… ホテル ※生ラムジンギスカンと四大カニ食べ放題（毛がに、ズワイがに、タラバがに、花咲がに）	朝：○ 昼：○ 夕：○	【 札　幌 】 アートホテルズ札幌 TEL:011-512-3456
3	11／11 (金)	お　宿 …… 札幌市内自由行動 …… 札幌テレビ塔 15:00 ═══ 新千歳空港 16:00 17:30 ─┼─ 伊丹空港 19:25 ＪＡＬ２０１２便 ※札幌テレビ塔下集合 ≪自由行動≫ 北海道大学キャンパス・北海道庁旧本庁舎・札幌時計台・札幌テレビ塔・大倉山シャンツャ（札幌ｳｨﾝﾀｰｽﾎﾟｰﾂﾐｭｰｼﾞｱﾑ）大倉山ジャンプ台リスト・北海道神宮裏参道・札幌場外市場　など 新千歳空港 空港３階には北海道ラーメン道場があり、６店舗のラーメン屋さんが味を競っております。	朝：○ 昼：○ 夕：－	<写真はイメージとなります>

●記入例／ＪＲ═══ 航空──┼─ 船～～～ 徒歩…… バス═══ ケーブル～～～ ロープウエイ～～～ モノレール═══ リフト┈┈　◎：入場観光　○：下車観光　△：車窓による観光

●お願い／このご旅程は運輸機関のダイヤ改正及び各地の道路状況により多少時間が変更になる場合がございますのでお手数でも現地で出発時間をご確認下さい。

(126)

（出典　学生課教務係保存資料）

資料５－４－②－１１

学生として表彰に値する事柄があれば，これを表彰します。（学則第55条を参照）定期的に行う表彰として，優秀賞，皆勤賞，特別賞があります。

＜優秀賞＞

優秀賞は，在学５年間において，学業成績が優秀で，人物が優れている学生に与えられます。表彰は卒業式に行われます。

＜皆勤賞＞

皆勤賞は，在学期間中，欠席，欠課がなかった学生に与えられます。ただし，同一科目における遅刻，早退は３回で欠課１時間とみなされます。表彰は卒業式に行われます。

＜特別賞＞

特別賞は，課外活動，学生会，寮生会その他において優れた業績を挙げた者に与えられ，次の４つの場合があります。

㋑　在学期間中，全国高専大会に３回以上出場した場合または課外活動，学生会，寮生会等において特別な功績があった場合
表彰は卒業式に行われます。

㋺　全国大会またはこれに準ずる大会において，優勝または準優勝をした場合

㋩　㋺に準ずる催し物において，それらと同等と認められる成績を挙げた場合

㋥　学校内外において特別な善行，及び学生の模範として推奨するに値する行為があった場合

（出典　平成 18 年度学生生活のしおり）

〈専攻科課程〉

観点５－５－①:　準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の「教育課程」（資料５－５－①－１）は，「専攻科学生便覧」に記載されている。また，専攻科課程の学習・教育目標（資料５－５－①－２）には「本校では，本科４年生から専攻科２年生までの４年間については，新しいシステムを設計，構築，開発，研究が出来る技術者の育成を目的としている」と示されている。ここで言う「新しいシステム」とは，「新しい技術を創生して行くシステム」のことである。

その目的を達成するため，本校専攻科の学習・教育目標は，準学士課程における学習・教育目標（資料５－１－①－２）４項目を踏襲し，同じく４項目の学習・目標（資料５－５－①－２）を掲げている。これに伴い，学問的な専門細目分野におけるバランスを保ちつつ，準学士課程からの継続性･一貫性（資料５－５－①－３～８）が，この学習・教育目標に沿って定められ，連携している。シラバスにも，科目ごとに「関連科目」（資料５－５－②－５～７）が示され，準学士課程や専攻科課程で割当てられた科目との相互関係が示されている。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科での教育課程は専門細目分野のバランスを保ちつつ，準学士課程からの継続性･一貫性（資料５－５－①－３～８）が十分に配慮されたものとなっている。これは，専攻科教育課程において各科目シラバス（資料５－５－②－５～７）に「学習・教育目標との対応」及び「関連科目」が記載されて，継続性・一貫性が見られる。また，準学士課程学習・教育目標から専攻科課程学習・教育目標へと，発展的，具体的に踏襲されている。

これらのことから，本校専攻科課程は準学士課程の教育との連携を考慮した適切な教育課程となっている。

資料５－５－①－１　専攻科教育課程

(3) 教育課程

教育課程は単位制を基本とし，各科目の講義は原則として各学期毎に完結するため，２年間の教育期間は15週間を単位とする４学期に分割されています。各専攻の授業科目学年配当表を巻末に掲げました。

なお，この教育課程に関連して第14項の諸規則掲載の学則を参照して下さい。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，p. 7）

資料５－５－①－２　専攻科学習・教育目標

(2) 専攻科の教育目標

育成しようとする技術者像

近年の技術は特定の分野だけでは作り出すことは出来ず，幅広い知識をもとにシステムとして考えなければならない。新しいシステム（ハード，ソフトとも）を創成して行く為には，幅広い工学基礎能力をベースとし，それぞれの得意とする専門技術を生かし，異なる分野の技術を融合，複合させることが重要となる。

本校では，本科４年生から専攻科２年までの４年間については，このような新しいシステムを設計，構築，開発，研究が出来る技術者の育成を目的として，全専攻共通で「システム創成工学」教育プログラム（日本技術者教育認定機構：JABEEの認定対象）を設定しています。

奈良高専「システム創成工学」教育プログラムの学習・教育目標

システム創成工学教育プログラムでは，以下の知識・能力が習得できるようにプログラム計画・設定している。

（A）豊かな人間性　(Humanity)

(A-1)　・近隣に存在する古都奈良の豊富な歴史的文化遺産を通して伝統と文化の重要性を理解し，伝承された技術を通して技術の発展の重要さを理解できる。

・芸術・文化などの学習を通じ，他者・他国の立場に立って，その価値観の違いを認めることができる。

(A-2)　・人類の発展に係わる，社会問題や環境問題を地球的な視野で捉えることができる。

・科学技術が自然や人間に及ぼす影響・効果を考慮でき，技術者として社会的責任を理解することができる。

（B）工学の基礎知識　　(Foundation)

(B-1)　・数学（微・積分、線形代数、確率統計、数値解析）と自然科学（物理、化学、生物）の知識や思考力により，工学的諸問題の解決に適用することができる。

(B-2)　・基礎工学（設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術）の知識を専門工学に応用することができる。

・情報関連機器を駆使し，必要な情報の検索・収集やデータ解析をすることができる。

（C）コミュニケーション能力　　(Communication)

(C-1)　・日本語による，論理的な記述力を身につけ，技術論文を書くとともに内容について発表・討論することができる。

(C-2)　・英語で書かれた文献を読解し，情報収集できる。

・英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。

・英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。

（D）新規システムを創成する意欲と能力　(Challenge and Creation)

(D-1)　・機械工学，電気工学，電子制御工学、情報工学、物質化学工学（化学工学，生物工学を含む）のいずれかの専門分野に精通し、その分野の技術的動向を把握することができる。

・異なる技術分野（融合・複合）を積極的に学習し、新たなシステムの創成に取り組む意欲と能力を養う。

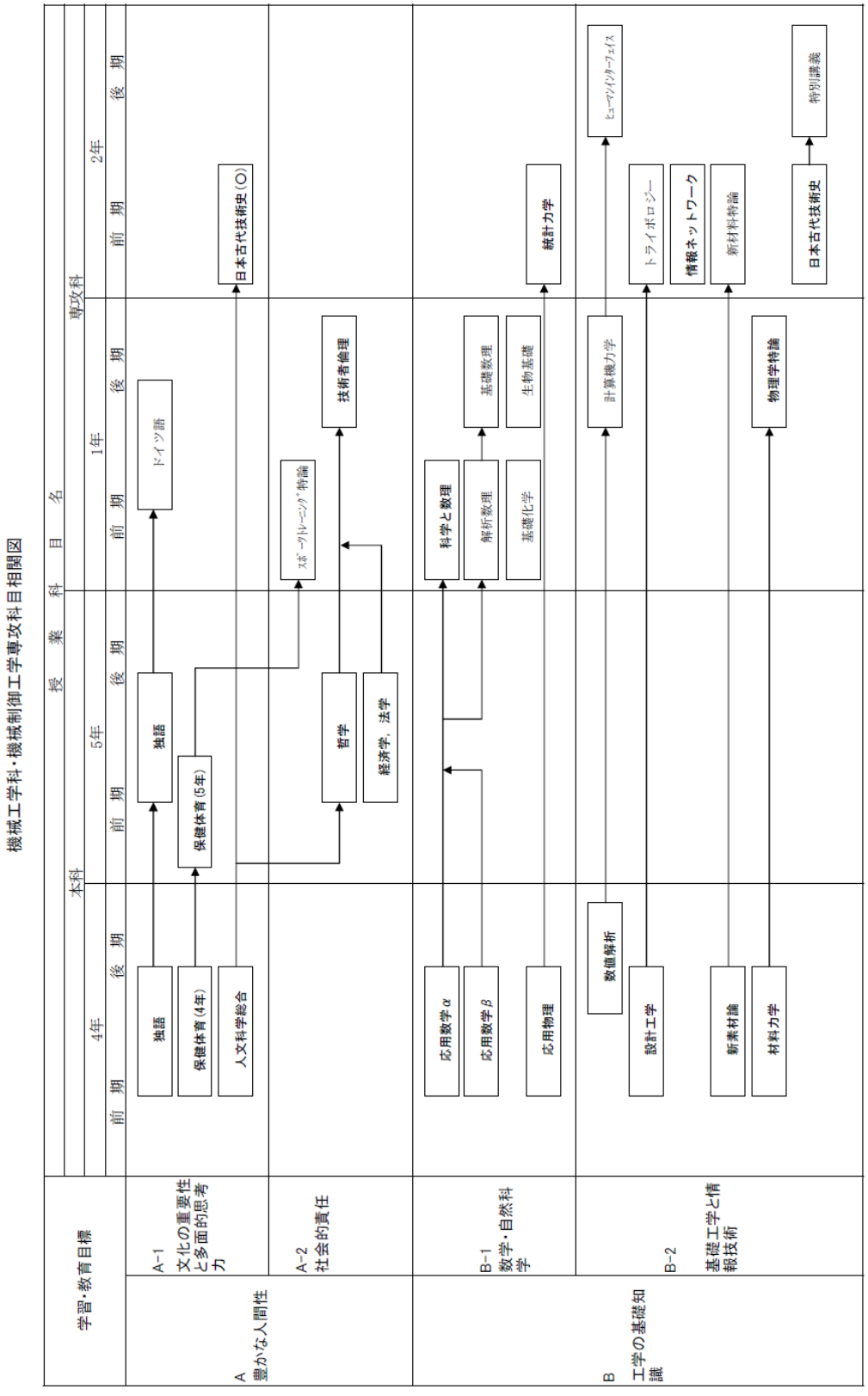
(D-2)　・与えられた課題について、自分で問題を研究し，自主的・継続的に問題解決するためのデザイン能力を身につけることができる。

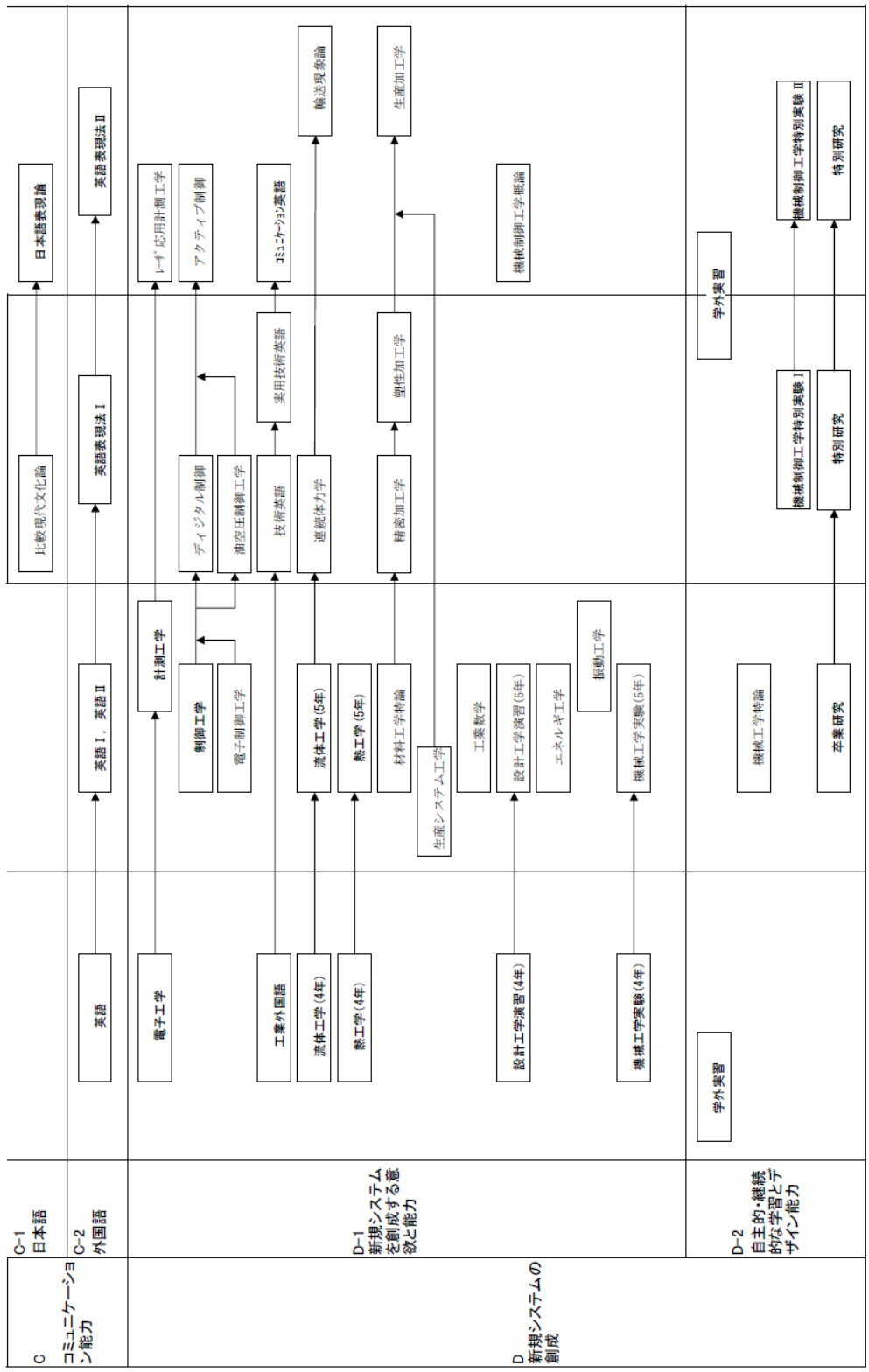
・チームワークにより、定められた条件のもとで、課題を完成させることができる。

・システムの安全性、品質保証、環境負荷、経済性など実務上の問題を理解することができる。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，　pp. ６－７）

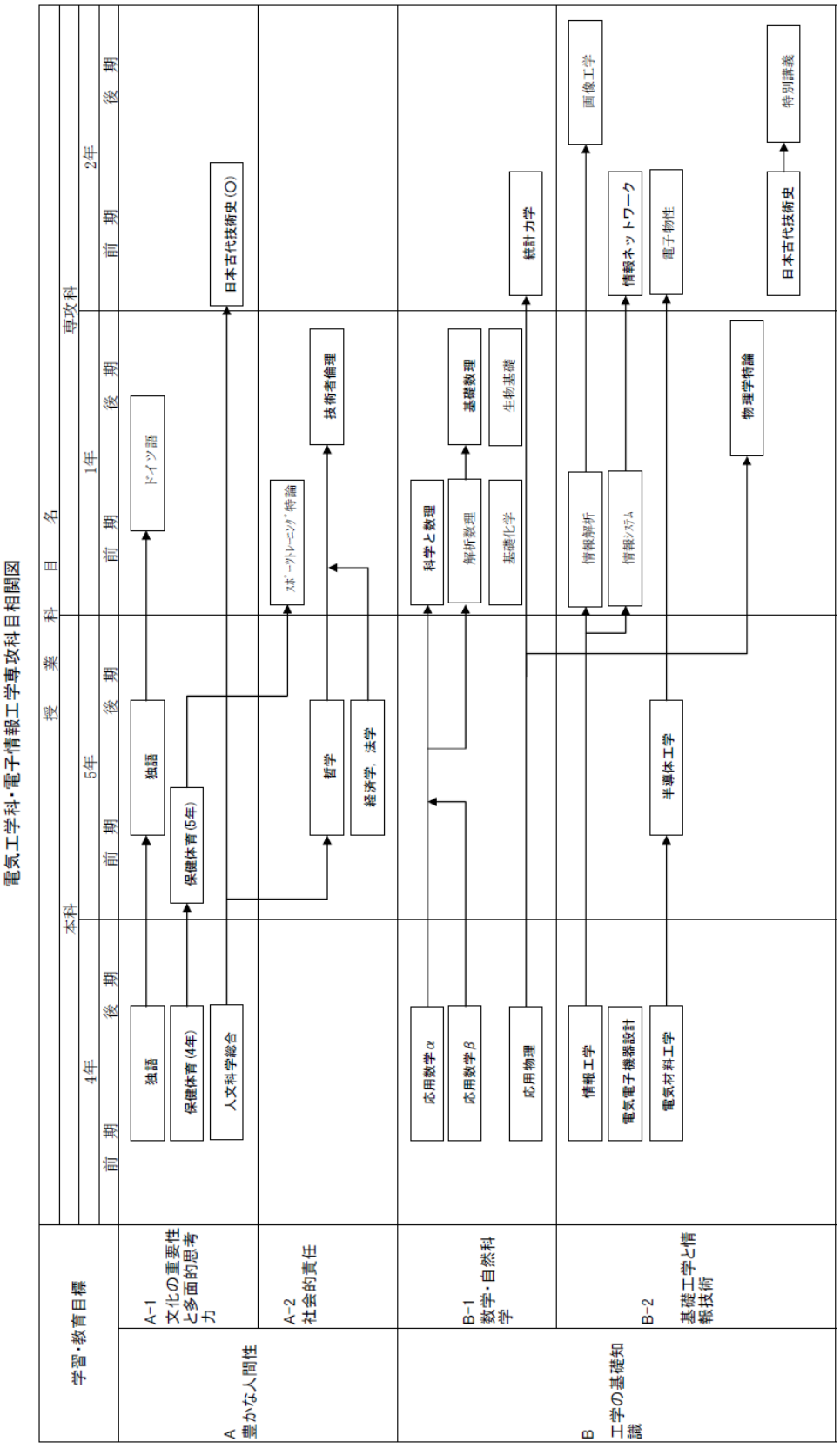
資料５－５－①－３　機械制御工学専攻プログラム継続性・一貫性（機械工学科）

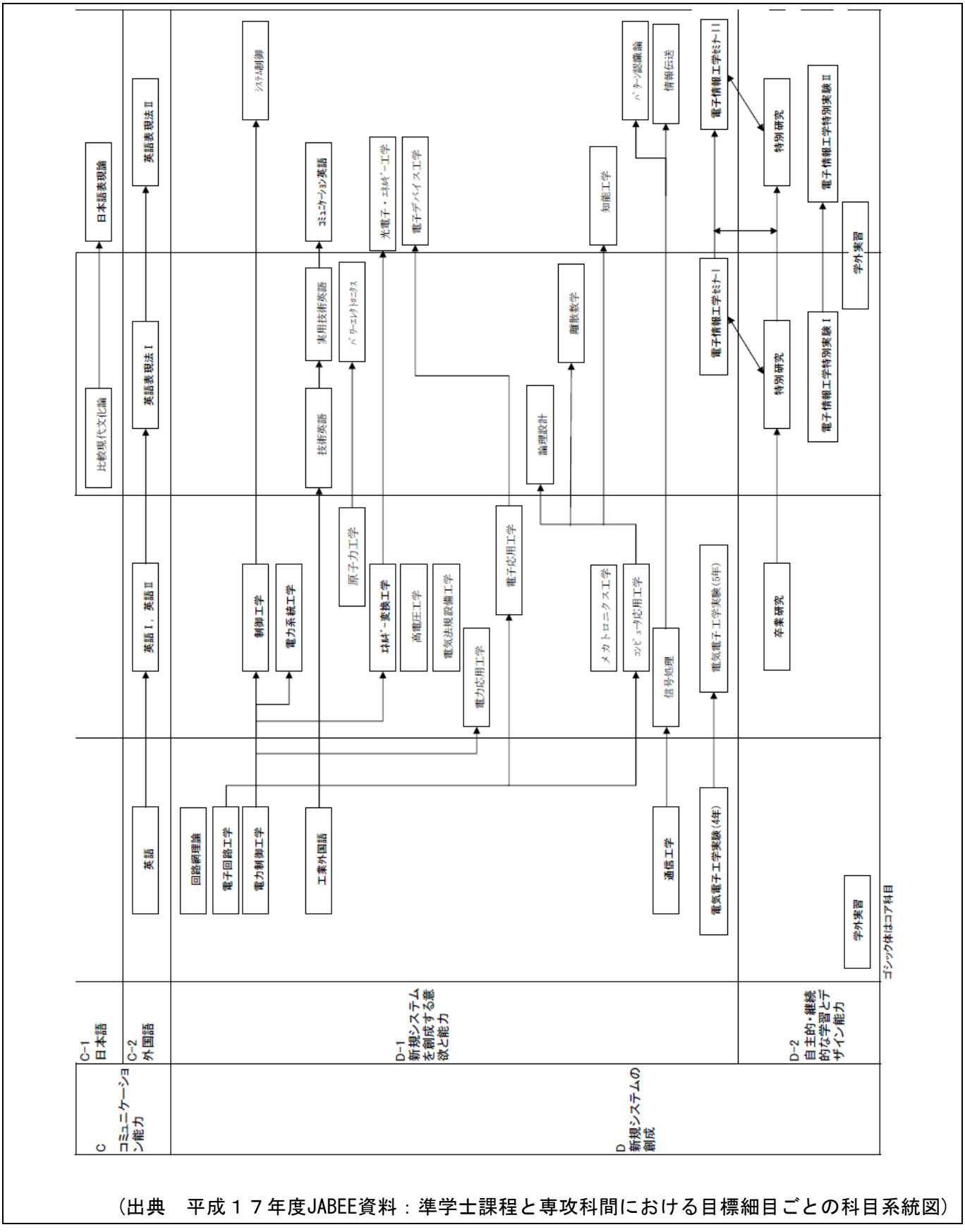




（出典　平成１７年度JABEE資料：準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図）

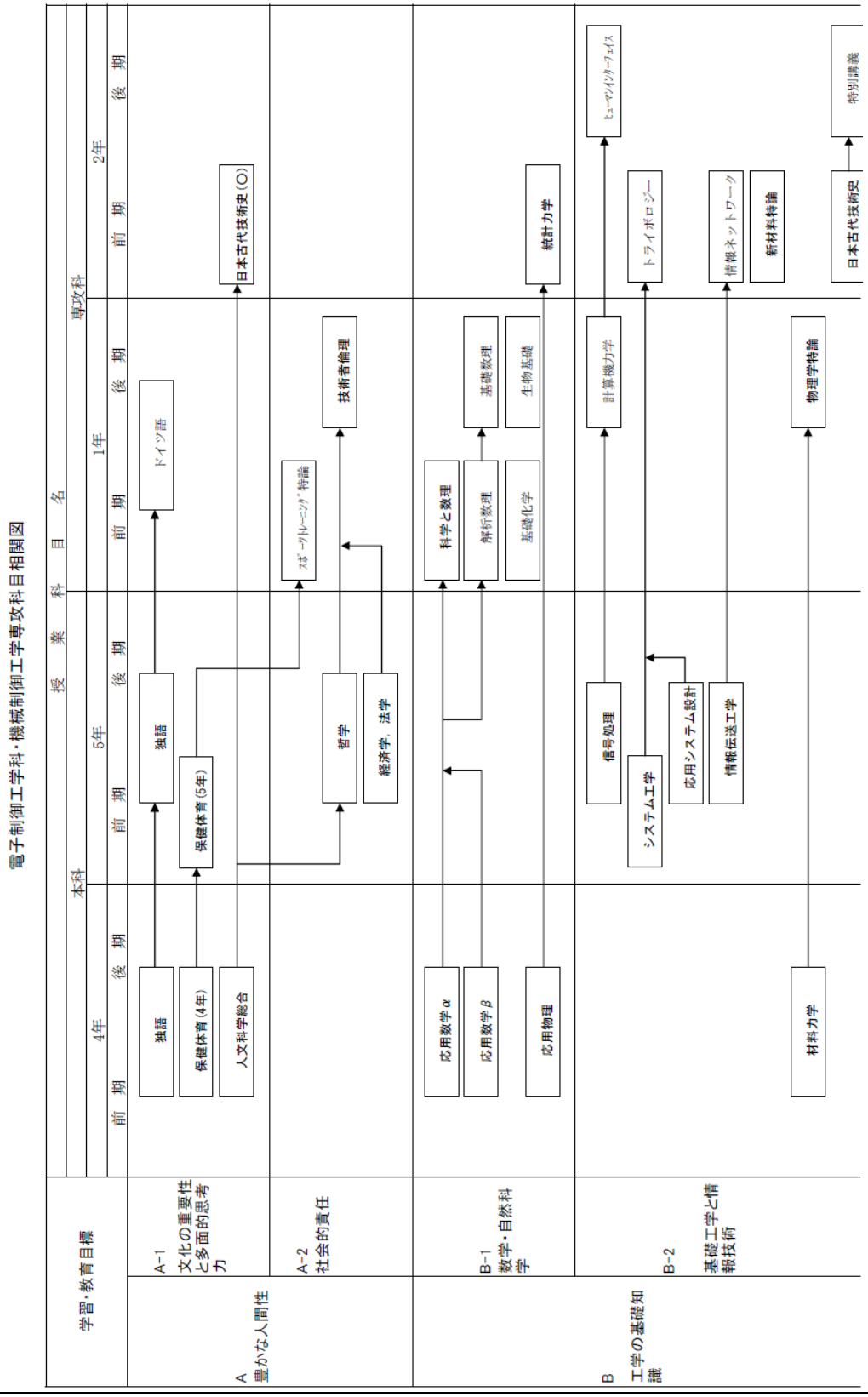
資料５－５－①－４　電子情報工学専攻プログラム継続性・一貫性（電気工学科）

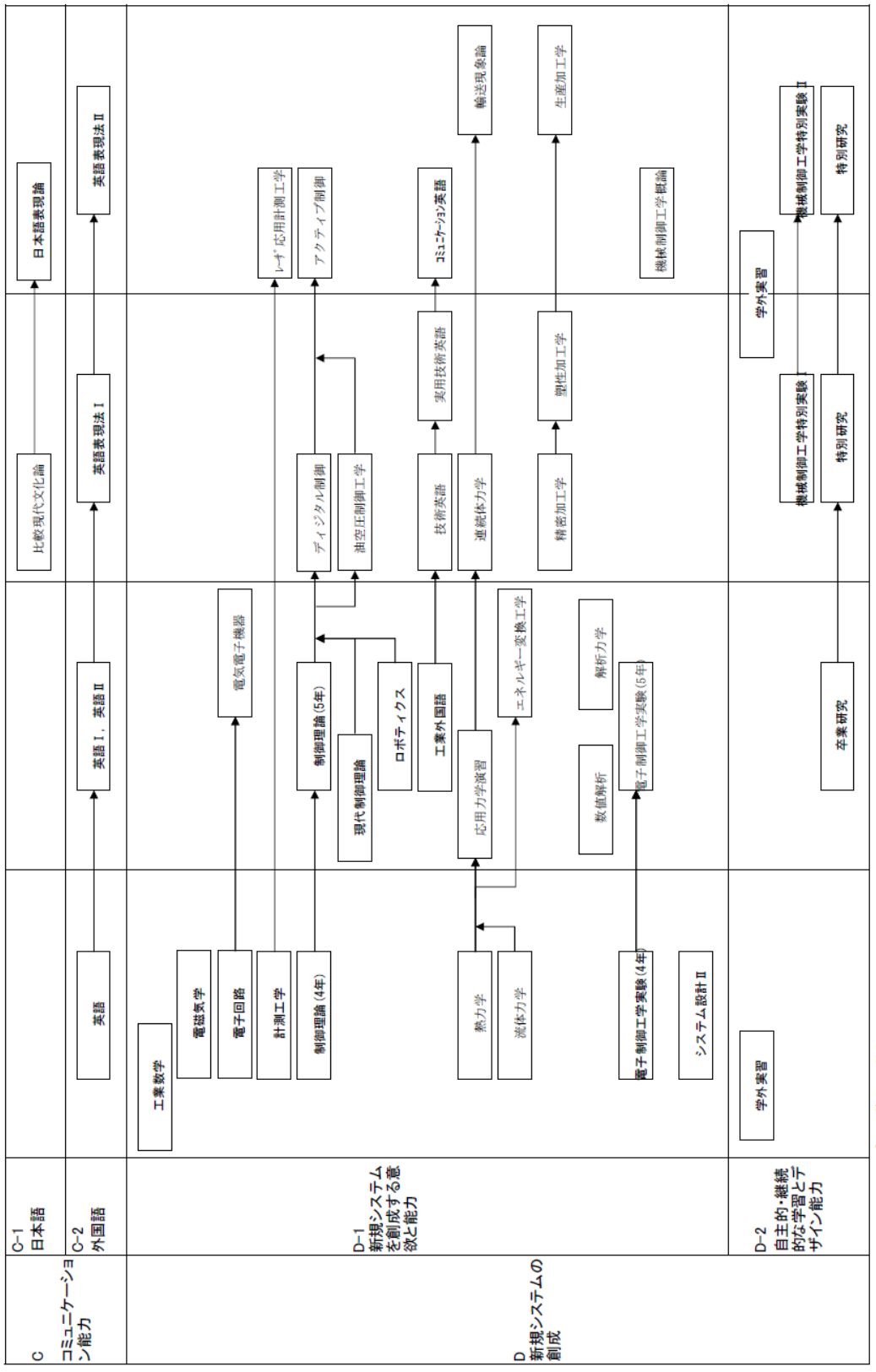




（出典　平成１７年度JABEE資料：準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図）

資料５－５－①－５　機械制御工学専攻プログラム継続性・一貫性（電子制御工学科）

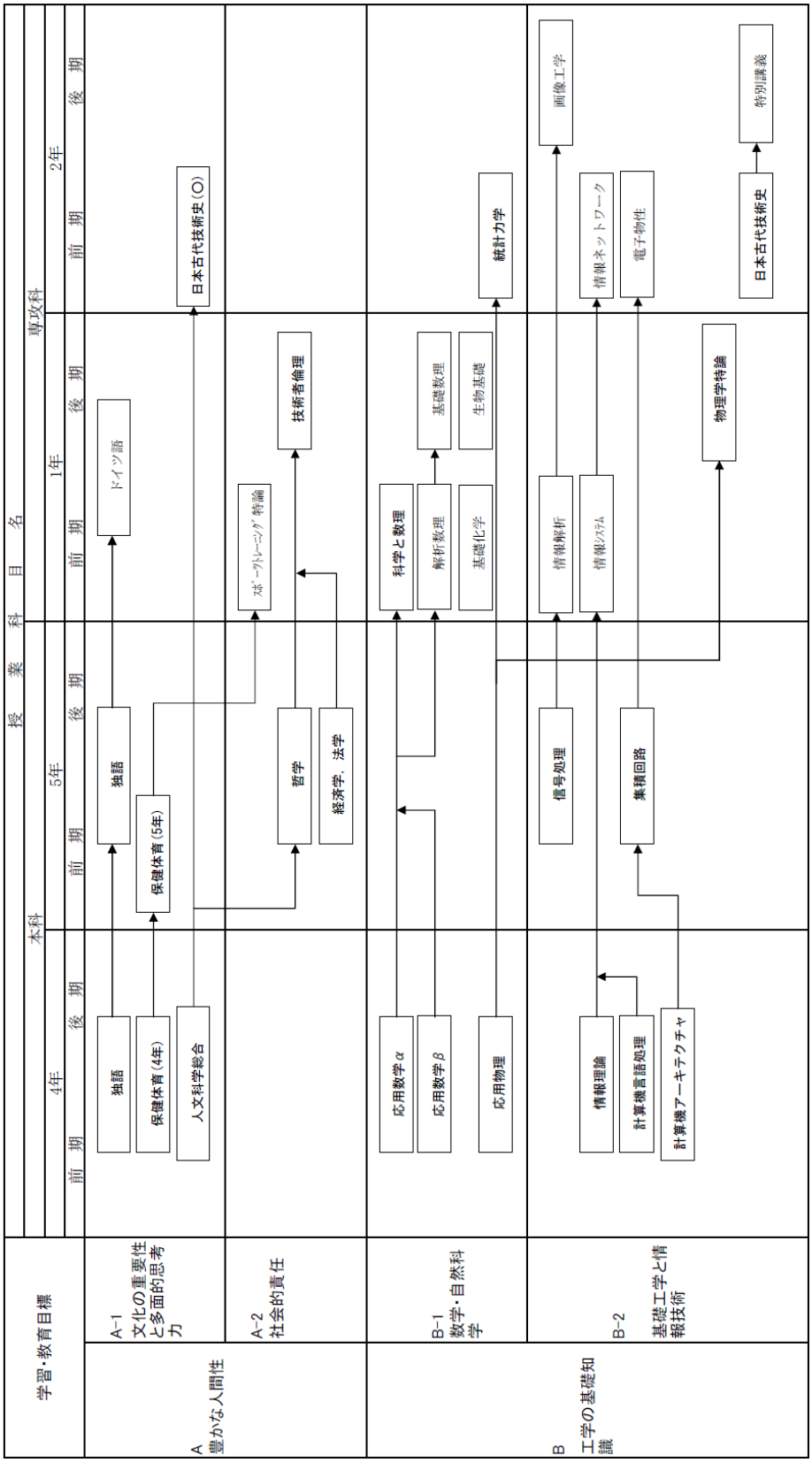


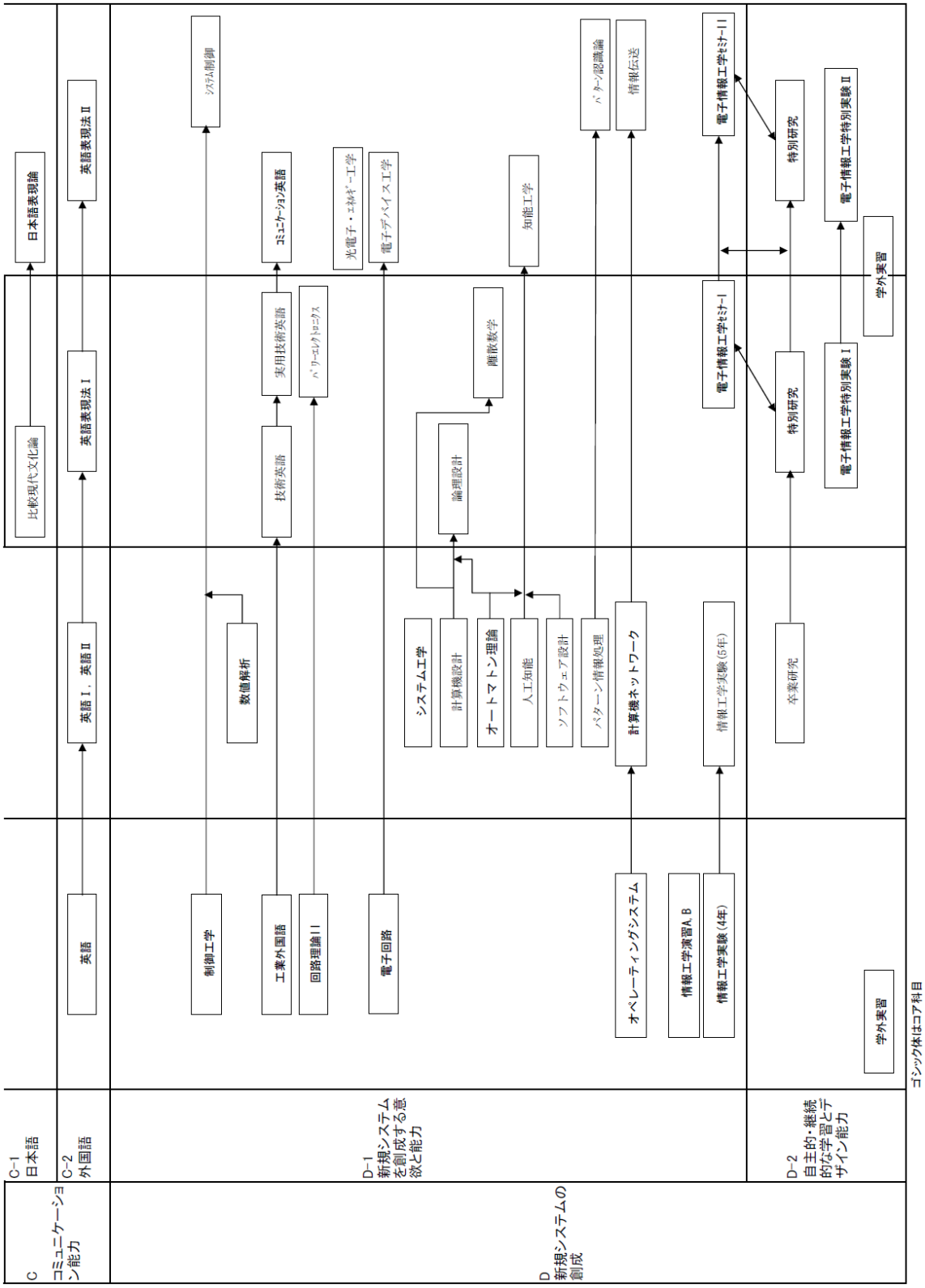


（出典　平成１７年度JABEE資料：準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図）

資料５－５－①－６　電子情報工学専攻プログラム継続性・一貫性(情報工学科)

情報工学科・電子情報工学専攻科目相関図

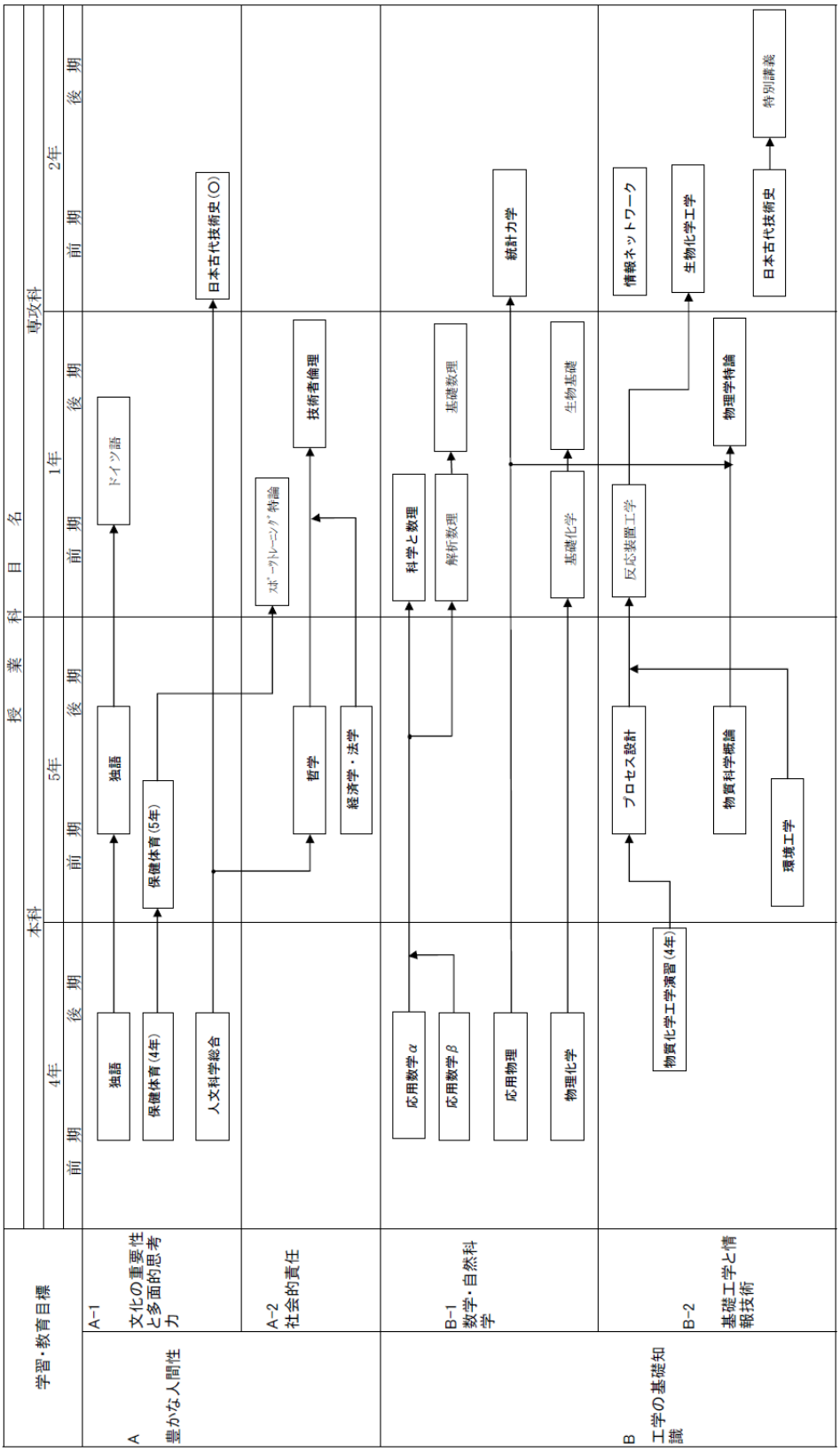


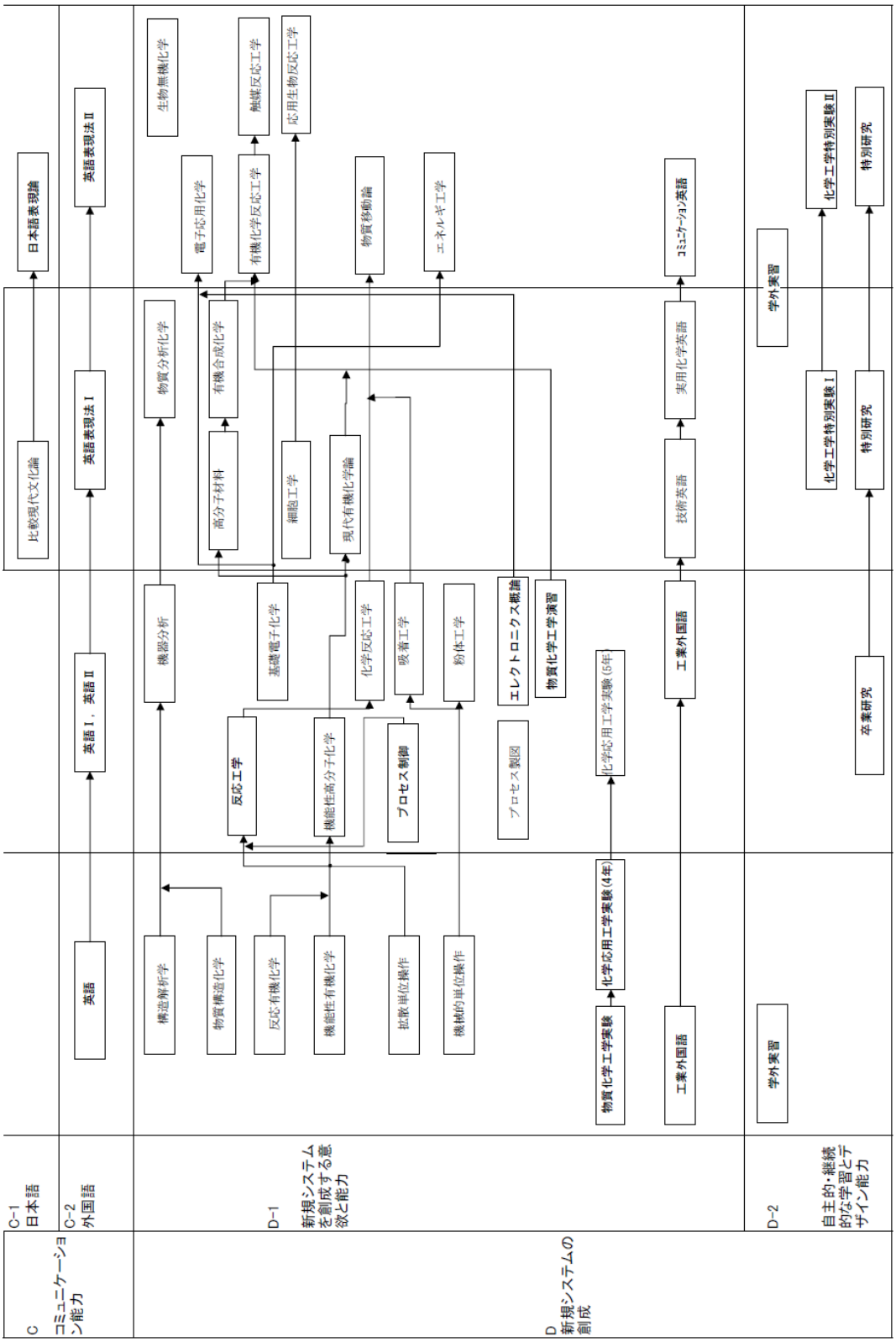


（出典　平成１７年度JABEE資料：準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図）

資料５－５－①－７　化学工学専攻プログラム継続性・一貫性(物質化学工学科：化学応用)

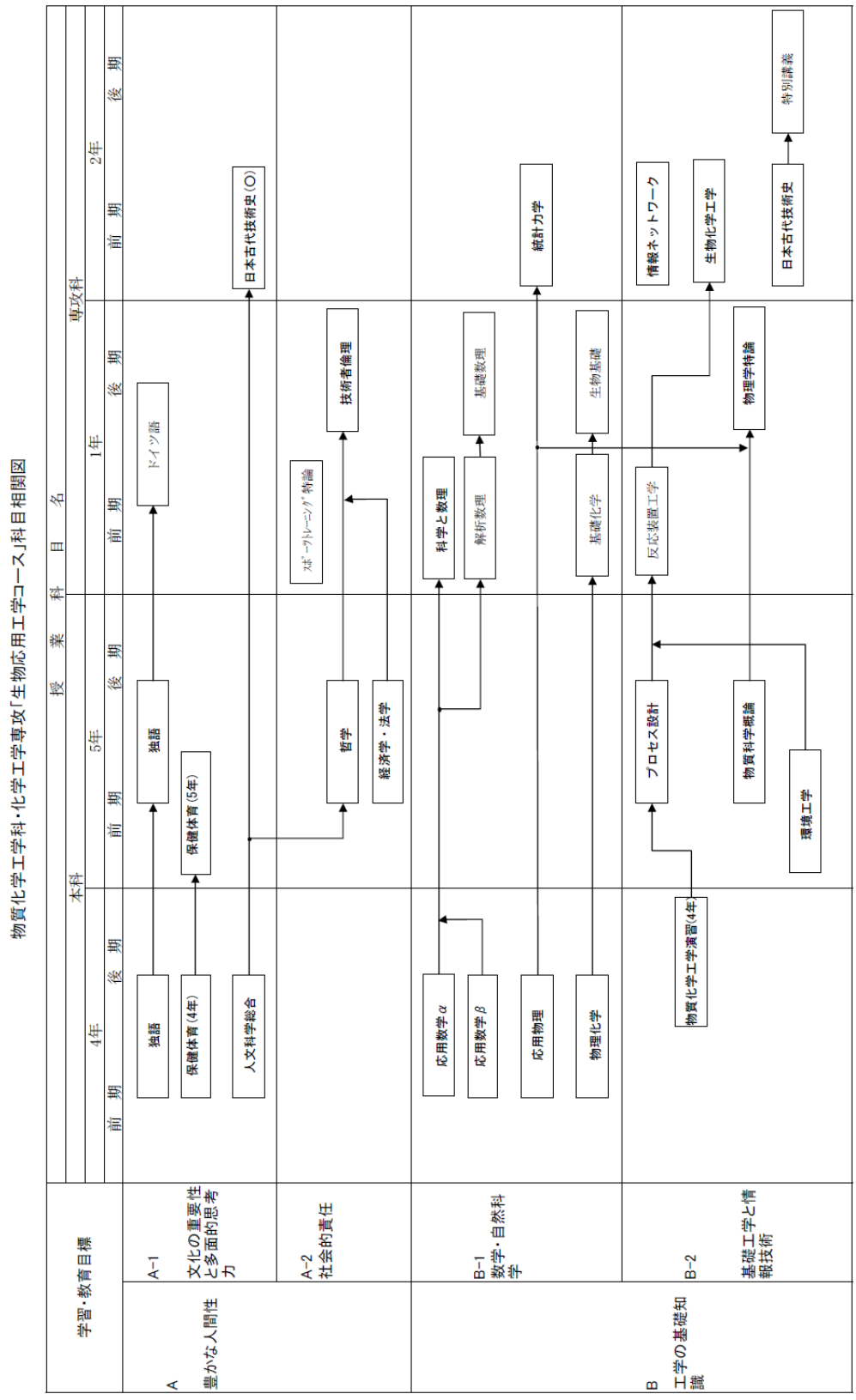
物質化学工学科・化学工学専攻「化学応用工学コース」科目相関図

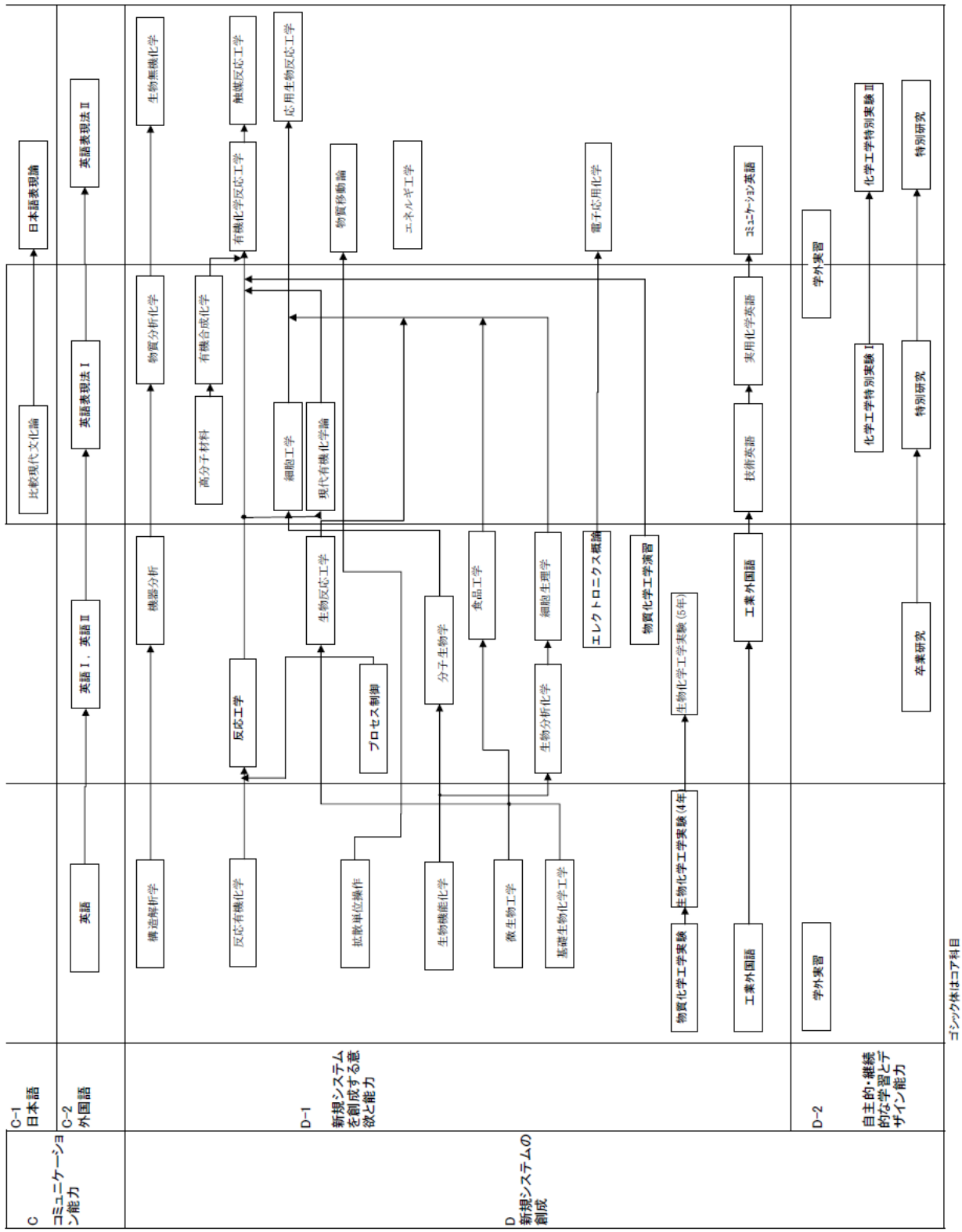




（出典　平成１７年度JABEE資料：準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図）

資料５－５－①－８　化学工学専攻プログラム継続性・一貫性(物質化学工学科：生物応用)





（出典　平成１７年度JABEE資料：準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図）

観点５－５－②:　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置(例えば，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる)され，教育課程の体系性が確保されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

・学校の学習･教育目標に沿った体系性

専攻科課程における４項目の学習･教育目標(資料５－５－①－２)は，準学士課程の学習･教育目標(資料５－１－①－２)を引き継いでいる。例えば，準学士課程学習･教育目標には「（２）幅広い工学的知識を基礎に，実践能力を備えた技術者の育成」とあるが，これは専攻科課程学習･教育目標「（B）工学の基礎知識」へと引き継がれている。専攻科では選択科目も多く，教育目標の各項目を達成するために必要に応じて必修科目･選択必修科目を設定している。この学習・教育目標に沿って，各科目の配置は，「準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図」(資料５－５－①－３～８)としてまとめられている。この図から，各項目間のバランスと，準学士課程からの発展性が考慮されている。

・専攻の専門に照らした体系性

準学士課程の学科に対応した専門性をより高度に発展させ,また他の工学分野にも視野を広めるように,教育課程が編成されている。本校専攻科課程学習･教育目標の下，その体系性は「準学士課程と専攻科間における目標細目ごとの科目系統図」(資料５－５－①－３～８)としてまとめられている。専門分野別に，学習･教育目標に沿って，より発展的な科目が配置されている。

・授業内容の適切性

専攻科では準学士課程の関連科目を基礎としつつ，学士に相応しいレベルと内容が求められる。各科目の担当教員及び授業内容の適切性は大学評価･学位授与機構により審査･認定されている。各専攻における授業科目は，その主旨に沿って適切に学年に配当されている（資料５－５－②－１～３)。また，シラバスには，各科目の「学習・教育目標との対応」，「JABEE基準との対応」，「講義の目的」，「履修上の留意点」，「到達目標」，「評価方法」，「教科書及び参考文献」，「関連科目」，「講義項目・内容」，「自己評価」が記載されている(資料５－５－②－５～７)。シラバスの記載内容は専攻科委員会でチェックされる。

このように専攻科教育課程は，修了生全員が学士の学位を取得すべく編成されている。平成５年度第１回修了生から平成１７年度第１３回修了生までの計３８８名のうち,学士号取得者は３８７名(９９．７%)である(資料５－５－②－８)。修了生のほぼ全ての学生が学位を取得しており，学士号未取得の１名は平成１８年３月の修了生で，現在再申請をしており平成１８年９月には学位を取得出来る見込みである。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程は，学習･教育目標を達成しつつ全修了生の学士号取得を目指して編成されている。各専攻の専門性をより高度に発展させつつ，他の工学分野にも視野を広げることが出来るよう，学習･教育目標別及び専門細目分野別に，科目系統図がまとめられ，準学士課程から専攻科課程へと，教育課程の体系性が示されている(資料５－５－①－３～８)。授業内容の適切性は，シラバスへの明示とその実行により確保

され，大学評価･学位授与機構により認定されている。

以上のことから，教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程の体系性が確保されている，また，授業の内容が教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料５－５－②－１　機械制御工学専攻授業科目学年配当表

授業科目学年配当表　（平成18年度入学生）

機械制御工学専攻

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員	履修条件
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本	教養 専門基礎 合計２０単位以上修得すること
	選択必修 1科目以上	ドイツ文化論Ⅰ	2	2				桐川	
		ドイツ文化論Ⅱ	2		2			桐川	
		日本古代技術史	2		2			大矢	
	選択必修 1科目以上	英語表現法Ⅰ	2	2	2			片山	
		英語表現法Ⅱ	2			2	2	金澤	
	選択	比較現代文化論	2	2				木村，武田	
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西	
	計		16	6	8	4	2		
専門基礎	必修	技術者倫理	2		2			藤居	
		物理学特論	2		2			宮本，榊原，堀内	
		社会技術特論	2				2	福田	
	選択必修 2科目以上	科学と数理	2	2				長瀬，堀内	
		統計力学	2			2		宮本，榊原，堀内	
		基礎数理	2	2				荒金，市原，安田	
		解析数理	2		2			市原，安田，荒金	
	選択	情報ネットワーク	2			2		成田	
		コミュニケーション英語	2			2		福智	
		学外実習	2						
	選択必修 1科目以上	電子情報技術基礎	2	2				上田	
		生物化学技術基礎	2	2				市	
	計		24	8	6	6	2		
専門	必修	特別研究	16	8	8	8	8	岩井，小島，矢尾，和田，野々垣，阪部，福田，押田，島岡，中田	専門 合計４２単位以上修得すること
		システムデザイン演習	2	4				阪部，小柴，藤田，山口賢，中谷	
		機械制御工学特別実験Ⅰ	2		6			野々垣，押田	
		機械制御工学特別実験Ⅱ	2			6		野々垣，押田	
	小計		22	12	14	14	8		
	選択	連続体力学	2	2				小柴，坂本	
		精密加工学	2	2				和田	
		ディジタル制御	2	2				飯田	
		計算機力学	2		2			矢尾	
		輸送現象論	2				2	島岡	
		塑性加工学	2		2			関口	
		実用技術英語（機械制御工学系）	2		2			飯田，坂本	
		新材料特論	2			2		岩井	
		アクティブ制御	2			2		加納	
		油空圧制御工学	2	2				早川	
		レーザ応用計測工学	2			2		押田	
		機械制御工学概論	2			2		平，福田	
		トライボロジー	2			2		野々垣，西田	
		生産加工学	2				2	小畠	
		ヒューマンインターフェイス	2				2	櫻	
	小計		30	8	6	10	6		
	専門合計		52	20	20	24	14		
合計			92	34	34	34	18		

授業科目学年配当表　（平成１７年度入学生）

機械制御工学専攻

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本
		日本古代技術史	2			2		大矢
	選択必修	英語表現法（Ⅰ）	2	2	2			金澤
		英語表現法（Ⅱ）	2			2	2	金澤
	選択	ドイツ語	2	2	2			桐川
		比較現代文化論	2	2				木村，武田
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西
	計		14	6	6	6	2	
専門基礎	必修	科学と数理	2	2				長瀬，堀内
		物理学特論	2		2			宮本，堀内，榊原
		統計力学	2			2		榊原，堀内，宮本
		コミュニケーション英語	2			2		福習
		技術者倫理	2		2			稲田
	選択	基礎数理	2	2				荒金，市原，安田，
		解析数理	2		2			市原，荒金，安田，
		情報ネットワーク	2			2		成田
		基礎化学	2	2				土岐
		生物基礎	2		2			津田
		技術英語	2	2				高橋晴
		特別講義	2				2	福田
		学外実習	2					
	計		26	8	8	6	2	
専門	必修	特別研究	14	8	8	8	4	岩井，小畠，矢尾，和田，野々垣，阪部，福田，押田，島岡，中田
		機械制御工学特別実験Ⅰ	4	6	6			野々垣，押田
		機械制御工学特別実験Ⅱ	4			6	6	野々垣，押田
	小計		22	14	14	14	10	
	選択	連続体力学	2	2				小柴，坂本
		精密加工学	2	2				和田
		ディジタル制御	2	2				早川，飯田
		計算機力学	2		2			矢尾
		輸送現象論	2				2	島岡
		塑性加工学	2		2			関口
		実用技術英語（機械制御工学系）	2		2			阪部，坂本
		新材料特論	2			2		岩井
		アクティブ制御	2			2		加納
		油空圧制御工学	2	2				早川
		レーザ応用計測工学	2			2		押田
		機械制御工学概論	2			2		平，福田
		トライボロジー	2			2		野々垣，西田
		生産加工学	2				2	小畠
		ヒューマンインターフェイス	2				2	樑
	小計		30	8	6	10	6	
	専門合計		52	22	20	24	16	
合計			92	36	34	36	20	

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. ５－６）

資料５－５－②－２　電子情報工学専攻授業科目学年配当表

授業科目学年配当表　（平成18年度入学生）

電子情報工学専攻

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員	履修条件
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本	教養 専門基礎 合計２０単位以上修得すること
	選択必修 1科目以上	ドイツ文化論Ⅰ	2	2				桐川	
		ドイツ文化論Ⅱ	2		2			桐川	
		日本古代技術史	2		2			大矢	
	選択必修 1科目以上	英語表現法Ⅰ	2	2	2			片山	
		英語表現法Ⅱ	2			2	2	金澤	
	選択	比較現代文化論	2	2				木村，武田	
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西	
	計		16	6	8	4	2		
専門基礎	必修	技術者倫理	2		2			藤居	
		物理学特論	2		2			宮本，榊原，堀内	
		社会技術特論	2				2	福田	
	選択必修 2科目以上	科学と数理	2	2				長瀬，堀内	
		統計力学	2			2		宮本，榊原，堀内	
		基礎数理	2	2				荒金，市原，安田	
		解析数理	2		2			市原，安田，荒金	
	選択	情報ネットワーク	2			2		成田	
		コミュニケーション英語	2			2		福智	
		学外実習	2						
	選択必修 1科目以上	機械制御技術基礎	2	2				和田，中田	
		生物化学技術基礎	2	2				市	
	計		24	8	6	6	2		
専門	必修	特別研究	16	8	8	8	8	京兼，藤井，上田，近藤，多喜，浅井	専門 合計４２単位以上修得すること
		システムデザイン演習	2	4				阪部，小柴，藤田，山口賢，中谷	
		電子情報工学特別実験	2			6		藤井，近藤	
		電子情報工学セミナーⅠ	2	2	2			中村，世古，藤田	
		電子情報工学セミナーⅡ	2			2	2	中村，世古	
		小計	24	14	10	16	10		
	選択	論理設計	2	2				世古	
		情報解析	2	2				浅井	
		電子物性	2	2				京兼	
		パワーエレクトロニクス	2		2			井村	
		離散数学	2		2			多喜	
		情報システム	2	2				松尾	
		実用技術英語（電子情報工学系）	2		2			高橋	
		情報伝送	2				2	成田	
		知能工学	2			2		山口智	
		光電子・エネルギー工学	2			2		藤井	
		電子デバイス工学	2			2		藤田	
		画像工学	2			2		中村	
		システム制御	2				2	山口智	
		パターン認識論	2				2	上田	
		小計	28	8	6	8	6		
			52	22	16	24	16		
合計			92	36	30	34	20		

授業科目学年配当表　（平成１７年度入学生）

電子情報工学専攻

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数				担当教員
				1年		2年		
				前期	後期	前期	後期	
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本
		日本古代技術史	2			2		大矢
	選択必修	英語表現法（Ⅰ）	2	2	2			金澤
		英語表現法（Ⅱ）	2			2	2	金澤
	選択	ドイツ語	2	2	2			桐川
		比較現代文化論	2	2				木村，武田
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西
	計		14	6	6	6	2	
専門基礎	必修	科学と数理	2	2				長瀬，堀内
		物理学特論	2		2			宮本，堀内，榊原
		統計力学	2			2		榊原，堀内，宮本
		コミュニケーション英語	2			2		福智
		技術者倫理	2		2			稲田
	選択	基礎数理	2	2				荒金，市原，安田，
		解析数理	2		2			市原，荒金，安田，
		情報ネットワーク	2			2		成田
		基礎化学	2	2				土岐
		生物基礎	2		2			津田
		技術英語	2	2				高橋晴
		特別講義	2				2	福田
		学外実習	2					
	計		26	8	8	6	2	
専門	必修	特別研究	14	8	8	8	4	京兼，藤井，近藤，多喜，浅井
		電子情報工学特別実験Ⅰ	4	6	6			土井，藤田，大谷，石飛
		電子情報工学特別実験Ⅱ	4			6	6	近藤，世古，浅井，小山
		電子情報工学セミナーⅠ	1		2			中村，世古
		電子情報工学セミナーⅡ	1				2	世古，藤田
	小計		24	14	16	14	12	
	選択	論理設計	2	2				世古
		情報解析	2	2				浅井
		電子物性	2	2				京兼
		パワーエレクトロニクス	2		2			井村
		離散数学	2		2			多喜
		情報システム	2	2				松尾
		実用技術英語（電子情報工学系）	2		2			高橋
		情報伝送	2				2	成田
		知能工学	2			2		山口智
		光電子・エネルギー工学	2			2		藤井
		電子デバイス工学	2			2		藤田
		画像工学	2			2		中村
		システム制御	2				2	山口智
		パターン認識論	2				2	上田
	小計		28	8	6	8	6	
専門合計			52	22	22	22	18	
合計			92	36	36	34	22	

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. ７－８）

資料５－５－②－３　化学工学専攻授業科目学年配当表

授業科目学年配当表　（平成18年度入学生）

化学工学専攻

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員	履修条件
教養	必修	日本語表現論	2			2		鑓本	教養 専門基礎 合計２０単位以上修得すること
	選択必修 1科目以上	ドイツ文化論Ⅰ	2	2				桐川	
		ドイツ文化論Ⅱ	2		2			桐川	
		日本古代技術史	2		2			大矢	
	選択必修 1科目以上	英語表現法Ⅰ	2	2	2			片山	
		英語表現法Ⅱ	2			2	2	金澤	
	選択	比較現代文化論	2	2				木村，武田	
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西	
	計		16	6	8	4	2		
専門基礎	必修	技術者倫理	2		2			藤居	
		物理学特論	2		2			宮本，榊原，堀内	
		社会技術特論	2				2	福田	
	選択必修 2科目以上	科学と数理	2	2				長瀬，堀内	
		統計力学	2			2		宮本，榊原，堀内	
		基礎数理	2	2				荒金，市原，安田	
		解析数理	2		2			市原，安田，荒金	
	選択	情報ネットワーク	2			2		成田	
		コミュニケーション英語	2			2		福智	
		学外実習	2						
	選択必修 1科目以上	機械制御技術基礎	2	2				和田，中田	
		電子情報技術基礎	2	2				上田	
	計		24	8	6	6	2		
専門	必修	特別研究	14	4	8	8	8	泉，梅原，河越，大植	専門 合計４２単位以上修得すること
		システムデザイン演習	2	4				阪部，小柴，藤田，山口賢，中谷	
		化学工学特別実験Ⅰ	4	6	6			河越	
		化学工学特別実験Ⅱ	2			6		河越	
		小計	22	14	14	14	8		
	選択	高分子材料学	2	2				井口	
		反応装置工学	2	2				河越	
		生物化学工学	2			2		直江	
		現代有機化学論	2	2				嶋田	
		細胞工学	2	2				苔	
		有機合成化学	2		2			嶋田	
		物質分析工学	2		2			大植	
		実用化学英語	2		2			片倉	
		エネルギー工学	2			2		片倉	
		電子応用化学	2			2		泉	
		物質移動論	2			2		梅原	
		有機化学反応論	2			2		嶋田	
		生物無機化学	2				2	大植	
		触媒反応工学	2				2	梅原	
		応用生物反応工学	2				2	河越	
		小計	30	8	6	10	6		
	専門合計		52	22	20	24	14		
合計			92	36	34	34	18		

授業科目学年配当表　（平成１７年度入学生）

化学工学専攻

区分		科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	担当教員
教養	必修	日本語表現論	2			2		鍵本
		日本古代技術史	2			2		大矢
	選択必修	英語表現法（Ⅰ）	2	2	2			金澤
		英語表現法（Ⅱ）	2			2	2	金澤
	選択	ドイツ語	2	2	2			桐川
		比較現代文化論	2	2				木村，武田
		スポーツ・トレーニング特論	2		2			中西
	計		14	6	6	6	2	
専門基礎	必修	科学と数理	2	2				長瀬，堀内
		物理学特論	2		2			宮本，堀内，榊原
		統計力学	2			2		榊原，堀内，宮本
		コミュニケーション英語	2			2		福智
		技術者倫理	2		2			稲田
	選択	基礎数理	2	2				荒金，市原，安田，
		解析数理	2		2			市原，荒金，安田，
		情報ネットワーク	2			2		成田
		基礎化学	2	2				土岐
		生物基礎	2		2			市
		技術英語	2	2				高橋晴
		特別講義	2				2	福田
		学外実習	2					
	計		26	8	8	6	2	
専門	必修	特別研究	14	4	8	8	8	泉，梅原，河越，大植
		化学工学特別実験Ⅰ	4	6	6			河越
		化学工学特別実験Ⅱ	4			6	6	河越
		反応装置工学	2	2				河越
		生物化学工学	2			2		柴谷
	小計		26	12	14	16	14	
	選択	高分子材料学	2		2			井口
		現代有機化学論	2	2				嶋田
		細胞工学	2		2			菅
		有機合成化学	2		2			嶋田
		物質分析工学	2	2				大植
		実用化学英語	2	2				片倉
		エネルギ工学	2			2		片倉
		電子応用化学	2			2		泉
		物質移動論	2			2		梅原
		有機化学反応論	2			2		嶋田
		生物無機化学	2				2	大植
		触媒反応工学	2				2	梅原
		応用生物反応工学	2				2	河越
	小計		26	6	6	8	6	
専門合計			52	18	20	24	20	
合計			92	32	34	36	24	

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，p.５６）

資料５－５－②－４　平成１８年度専攻科シラバス目次

目　　次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
システム創成工学教育プログラムの学習・教育目標・・・・・・・ 2
日本技術者教育認定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
工学（融合複合・新領域）関連分野・・・・・・・・・・・・・・ 3
学習・教育目標とシラバス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
大阪大学工学部との教育研究交流協定・・・・・・・・・・・・・ 4

授業科目学年配当表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

教養科目　１年生（平成１８年度入学）
ドイツ文化論Ⅰ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
ドイツ文化論Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
日本古代技術史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
英語表現法Ⅰ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
比較現代文化論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
スポーツ・トレーニング特論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

教養科目　２年生（平成１７年度入学）
日本語表現論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
日本古代技術史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
英語表現法（Ⅱ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

専門基礎　１年生（平成１８年度入学）
技術者倫理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
物理学特論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
科学と数理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
基礎数理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
解析数理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
機械制御技術基礎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
電子情報技術基礎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
生物化学技術基礎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
学外実習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

専門基礎　２年生（平成１７年度入学）
統計力学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
コミュニケーション英語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
情報ネットワーク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
特別講義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
学外実習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

機械制御工学専攻　１年生（平成１８年度入学）

特　別　研　究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
システムデザイン演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
機械制御工学特別実験Ⅰ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
連　続　体　力　学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
精　密　加　工　学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
ディジタル制御 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
計　算　機　力　学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
塑　性　加　工　学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
実用技術英語（機械制御工学系） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
油空圧制御工学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

機械制御工学専攻　２年生（平成１７年度入学）

特　別　研　究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
機械制御工学特別実験Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
輸　送　現　象　論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
新　材　料　特　論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
アクティブ制御 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
レーザ応用計測工学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
機械制御工学概論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
トライボロジー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
生　産　加　工　学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
ヒューマンインターフェイス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106

電子情報工学専攻　１年生（平成１８年度入学）

特　別　研　究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
システムデザイン演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
電子情報工学セミナーⅠ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
論　理　設　計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
情　報　解　析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
電　子　物　性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
パワーエレクトロニクス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
離　散　数　学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
情報システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
実用技術英語（電子情報工学系） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，目次）

資料５－５－②－５　一般教科「コミュニケーション英語」シラバス

コミュニケーション英語 (ENGLISH IN COMMUNICATION)	２年前期・２単位・選択 ３専攻共通 担当者　福智　佳代子
〔学習・教育目標との対応〕 C-2,　D-1	〔JABEE 基準との対応〕 f ，d-2a

〔講義の目的〕
日本技術者教育機構(JABEE)の国際的に通用する教育プログラムのなかで、英語によるコミュニケーション能力は必須条件であると規定されている。本講義では、論理的文章の読解力及び表現能力を養い、英語でプレゼンテーションやディスカッションを行うための基礎のコミュニケーションスキルの習得を目指す。

〔講義の概要〕
1．Listening, Speaking のトレーニング
2．速読・精読を含めた技術系英文の Reading
3．わかりやすい技術英語 Writing 指導
4．パワーポイントによるプレゼンテーション
5．マッピングの手法でメモを取り、ディスカッションを行う

〔履修上の留意点〕
自己の研究概要の説明する英文を作成
パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。

〔到達目標〕
1．英文で書かれた技術系論文の理解ができる。
2．英文で論理的文章の作成ができる。
3．英語でプレゼンテーション・スキルを使いプレゼンテーション及びディスカッションができる。
　ことを目指す。

〔評価方法〕
成績評価は、英文の研究概要作成（Writing）(30%)、プレゼンテーション及びプレゼンテーション・スキル(Listening and Responding, Speaking) 、(30%)
筆記試験(Reading)(30%)、授業態度評価(10%)により行う。

〔教　科　書〕
テキスト：プリント配布
〔補助教材・参考書〕
「50 の構文でわかる技術英語の書き方―英文テクニカルライティング」
「Front-runners in the 21st Century:12 Outstanding Company 挑戦する企業―ものづくりへの情熱とビジネス成功の秘訣」Brenda Hayashi/岡田圭子他著　松柏社

〔関連科目〕
技術英語、英語表現

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	英語論文作成の基礎	論文構成、マッピング、パラグラフ・ライティング紹介 課題１．自己紹介の英文作成 課題２．研究概要紹介英文の作成	
第２週	課題１　発表練習	プレゼンテーション定型表現練習 プレゼンテーション　自己紹介英文による「自己 PR」	
第３週	課題１　発表 速読訓練	速読訓練 簡単なプレゼンテーション・スキルを使った英文内容紹介	
第４週	技術系英文精読	英文精読・読解 技術英語語彙紹介	
第５週	技術系英文速読訓練	マッピングによる内容・要約・紹介・ディスカッション	
第６週	技術論文作成の基礎	プレゼンテーション定型表現を取り入れた英文作成の基礎 提案、意見、論拠、説明、報告、結論等の表現練習	
第７週	テクニカルライティング	技術英語構文を利用した英文作成 メインポイントの整理法、リーズニング 反対、言い換え、追加等の表現練習	
第８週	テクニカルライティング	パワーポイントによるプレゼンテーションの準備・アウトラインの組み立て方 課題2　研究概要紹介英文作成　提出	
第９週	テクニカルライティング	課題２研究概要紹介英文返還　パワーポイント制作 プレゼンテーション練習	
第１０週	プレゼンテーション	課題２研究概要紹介英文　プレゼンテーション ディスカッション	
第１１週	プレゼンテーション	課題２研究概要紹介英文　プレゼンテーション ディスカッション	
第１２週	プレゼンテーション	課題２研究概要紹介英文　プレゼンテーション ディスカッション	
第１３週	プレゼンテーション	課題２研究概要紹介英文　プレゼンテーション ディスカッション	
第１４週	プレゼンテーション	課題２研究概要紹介英文　プレゼンテーション ディスカッション	
第１５週	プレゼンテーション	課題２研究概要紹介英文　プレゼンテーション ディスカッション	
試験			

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. ５６－５７）

資料５－５－②－６　機械制御工学「精密加工学」シラバス

精密加工学（Precision Machining）	１年・前期・２単位・必修 機械制御工学専攻・担当　和田　任弘
〔学習・教育目標との対応〕 D-1（100%）	〔JABEE 基準との対応〕 (d -2a)、(d-2b)

〔講義の目的〕

精密加工法には、種々の方法がある。先ず、製造技術の基本である機械加工（特に切削加工）によって高精度部品を製作するノウハウについて講義する。さらに、工作物の材質や形状の制約などで、切削加工のみで高精度部品を製作できないような場合も多くある。この場合、機械的エネルギー以外のエネルギー、たとえば電気・熱的エネルギーによって材料除去が行われる。このような特殊加工についても講義する。

以上のことから、本講義の学習目標は、精密加工に必要な基礎理論を理解し、工作物に対する最適の合理的精密加工法の選択能力を習得し、設計のために必要な知識を養うことにある。さらに、切削実験、実地見学などを通じて、実際の適用例を実践的に経験することによって、理解を助ける。

〔講義の概要〕

切削加工、研削加工、精密加工および特殊加工について講義する。

〔履修上の留意点〕

ノート講義であるが、理解を助けるために切削実験による実践的な講義や生産現場の実地見学も実施するので、積極的に受講し、最新の製造技術に触れることにより、技術者としての視野を広げて欲しい。

〔到達目標〕

学習目標は、精密加工に必要な基礎理論を理解し、工作物に対する最適の合理的精密加工法の選択能力を習得し、設計のために必要な知識を養うことにある。このため、精密加工に必要な製造技術を理解し、実際の精密加工部品の設計、製造にも応用できること。

定期試験: 1)２次元切削の状態を作図、各部の名称、2)構成刃先、3)２次元切削における切りくずの変形状態、せん断ひずみ、せん断角、切削比、すくい面に直角な力、平行な力、すくい面と切りくずの摩擦係数、摩擦角、せん断面上における垂直力、せん断力、切削に消費される単位時間当たりの仕事と動力、切削によって発生する熱量の計算、4)工具材料、切削時間と工具摩耗のグラフの作成、工具寿命時間の判定、V-T 線図の書き方、Taylor の寿命方程式、定数ｎ、Ｃの求め方が理解できること。5)理論仕上げ面粗さを計算によって求めることができる。6)平面研削とフライス削りの相違、砥石の３要素と５因子、自生作用、砥石の研削状態、７)加工エネルギーによる除去加工の分類、8)精密加工と特殊加工

〔評価方法〕

定期試験成績（６０%）に演習レポート点（１５%）、授業態度（主として、ノート作成能力１５%）、実地見学におけるレポート（１０%）を含めて総合評価する。なお、単位認定には、定期試験６０%以上の評点を有し、かつ、２/３以上の出席を必要とする。

〔教　科　書〕

ノート講義

〔補助教材・参考書〕

「機械系教科書シリーズ３　機械工作法」，出版社コロナ社，著者平井・和田・塚本共著
「最新　機械製作」，出版社養賢堂，著者機製作法研究会編，助教材：配布プリント、ビデオ」

〔関連科目〕

機械工作法など

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	切削理論（プリント）	複雑な切削機構を理解するために、２次元切削モデルを製作し、各部の名称を理解するとともに、２次元切削の状態を作図する。	
第２週	切削機構、切りくず、構成刃先（ビデオ）、	切削機構、連続切りくずと不連続切りくず、構成刃先の消滅方法、功罪について説明する。	
第３週	切削抵抗Ⅰ（プリント）	２次元切削における切りくずの変形状態の説明後、せん断ひずみ、せん断角、切削比を計算する。（電卓、グラフ用紙持参）	
第４週	切削抵抗Ⅱ、切削温度	すくい面に直角な力Ｎ、平行な力Ｆ、すくい面と切りくずの摩擦係数μ（ミュー）、摩擦角β、せん断面上における垂直力Ｆｎ、せん断力Ｆｓ、切削に消費される単位時間当たりの仕事と動力、切削によって発生する熱量Ｑは、どうなるかを求める。	
第５週	工具材料（プリント、一部実地見学）	炭素工具鋼、高速度鋼、超硬合金、サーメット、セラミックス、立方晶窒化ほう素、ダイヤモンド、コーテッド工具について説明する。（各種工具材料のサンプル）	
第６週	工具の損傷、工具寿命	すくい面摩耗、逃げ面摩耗、境界摩耗、チッピング、欠損、破損。工具の摩耗状態の観察を行い、工具摩耗の形態を説明する。	
第７週	工具寿命（プリント）	切削時間と工具摩耗のグラフの作成、工具寿命時間の判定、V-T 線図（両対数グラフ）の書き方、Taylor の寿命方程式、定数ｎ、Ｃの求め方など。（電卓、グラフ用紙持参）	
第８週	理論粗さⅠ（プリント）	被削材の表面粗さの測定を行う。さらに、送り方向と切削方向の仕上げ面粗さの違い、理論仕上げ面粗さの求め方について説明する。	
第９週	理論粗さⅡ（作図）	作図ならびに理論計算から、最大高さを求める方法について説明する。（A3 グラフ用紙２枚と、製図用具持参）	
第１０週	研削加工、研削理論	砥石車について、砥石の３要素と５因子、平面研削とフライス削りの相違（被削材の硬さの３倍以上、切れ刃の丸み、工具の再研削など）。（砥石車のサンプル）	
第１１週	砥石の研削状態	自生作用、砥石の研削状態	
第１２週	精密加工および特殊加工Ⅰ	概要（1）除去エネルギーの種類（2）加工法の一例	
第１３週	精密加工および特殊加工Ⅱ（一部、実地見学）	ホーニング、超仕上げについて、加工の方法、特徴（長所、短所）、どの様な部品の加工に使用されているかについて説明する。ラッピング	
第１４週	精密加工および特殊加工Ⅲ（一部、実地見学）	超音波加工、	
第１５週	精密加工および特殊加工Ⅳ（一部、実地見学）	放電加工、電解研磨、電解加工、電解研削	
期末試験			

＊４：完全に理解した、３：ほぼ理解した、２：やや理解できた、１：ほとんど理解できなかった、０：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. ７４－７５）

資料５－５－②－７　化学工学専攻「現代有機化学論」シラバス

現代有機化学論 (Current Organic Chemistry)	１年・前期・２単位・選択 化学工学専攻・担当　嶋田　豊司
〔学習・教育目標との対応〕 D-1 (100%)	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2a), (d-2c)
〔講義の目的〕 有機化学の進歩は，めざましく古典的な反応に比べ，収率および選択性の優れた新規反応が多く報告されてきている。有機化学の基礎の上に，最新の報告も取り入れ，高選択的有機合成反応について理解を深める。科学技術が自然や人間に及ぼす影響・効果を考慮でき，技術者としての社会的責任を理解することができる。	
〔講義の概要〕 反応の選択性について，基礎から応用まで詳しく解説するとともに，最新の報告例も示して，如何に選択性の議論が重要であるかを理解させる。	
〔履修上の留意点〕 アメリカ化学会，サイエンスダイレクトなどから，論文を実際にダウンロードして，教科書の内容の詳細まで各自でしらべておく。	
〔到達目標〕 有機化学反応の起こるしくみを考え，反応の選択性について予想出来るようにする。	
〔評価方法〕 試験（６０%），授業中の取り組み（４０%）で総合評価する。	
〔教　科　書〕 Stereoselectivity in Organic Synthesis (Garry Procter, OXFORD SCIENCE PUBLICATIONS) 〔補助教材・参考書〕配布プリント	
〔関連科目〕 有機化学反応論，有機合成化学	

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	有機化学の基礎反応１	Classification of organic reactions	
第２週	有機化学の基礎反応２	Organic name reactions	
第３週	立体選択的反応のしくみ１	Diastereoselective reactions and Enantioselective reactions	
第４週	立体選択的反応のしくみ２	Stereospecific and stereoselective reactions	
第５週	分子軌道法を用いる選択性の起こるしくみ	Diels-Alder reactions and Claisen/Cope rearrangements	
第６週	有機化学演習（１）	Problems 1	
第７週	カルボニル化合物への付加反応のしくみ１	Additions to chiral carbonyl compounds	
第８週	カルボニル化合物への付加反応のしくみ２	Additions to prochiral carbonyl compounds	
第９週	エノラートの反応における選択性	Reactions of chiral enolates and chiralauxiliaries	
第１０週	アルドール反応における選択性	Stereochemmical aspects of aldol reactions	
第１１週	有機化学演習（２）	Problems 2	
第１２週	還元反応における選択性	Reduction of C–C double bonds and carbonyl groups	
第１３週	酸化反応における選択性	Epoxidation and dihydroxylation	
第１４週	転位反応における選択性	Sigmatropic rearrangements	
第１５週	有機化学演習（３）	Problems 3	
試験			

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. １６４－１６５）

資料５－５－②－８　専攻科修了・学士取得状況

専攻科 修了・学士取得状況

	平成５年度～平成１６年度修了生		平成１７年度修了生		合　計	
	修了者	学位取得者	修了者	学位取得者	修了者	学位取得者
機械制御工学専攻	139	139	13	12	152	151
電子情報工学専攻	136	136	11	11	147	147
化　学　工学専攻	82	82	7	7	89	89
合　計	357	357	31	30	388	387

（出典　専攻科作成資料）

観点５－５－③:　学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

・大阪大学工学部との教育研究交流協定を締結（資料５－５－③－１）

平成16年９月，本校と大阪大学工学部・大学院工学研究科は，教育及び学術研究上の協力関係を推進するため，教育研究交流に関する包括的な協定を締結した。これに基づき，教育分野では本校学生と阪大生が各学校の授業を受講できる相互履修と，各々の授業を受講した 場合に各校の単位として認める単位互換のほか，本校学生が大阪大学の研究に参加するインターンシップを実施している。また，本科卒業生の大阪大学工学部３年生への推薦による編入学は，具体的に協議を進めることにしている。

・他の教育施設等における授業科目の履修（資料５－５－③－２～４）

他高専専攻科及び他教育施設開設の授業科目が履修可能である。

・大学院前期課程への特別推薦入試が実施された

専攻科修了生の大阪大学大学院工学研究科博士前期課程への推薦による入学が平成17年度より行われている。

また，長岡技術科学大学大学院，豊橋技術科学大学大学院，北陸先端科学技術大学院大学，奈良先端科学技術大学院等への特別推薦入試が実施されている（資料５－５－③－５）。

・３専攻共通必修専門科目「システムデザイン演習」を開設（資料５－６－①－５）

平成18年度履修者から，３専攻共通で開設された専門科目「システムデザイン演習」が必修となった。これにより， PBLを通して高度なシステムを構築できるように配慮している。

・インターンシップとして「学外実習」を実施（資料５－５－③－６～１２）

学外実習は，夏期休暇等を利用し，10日間（合計80時間）以上の実習を行っている。

・補充教育（資料５－５－③－１３～１４）

補充教育としては，平成17年度に「冬季TOEIC集中講座」（９日間），「春季TOEIC集中講座」（３日

間)が実施された。

さらに，平成18年度には「夏季TOEIC集中講座」(４日間)を行う予定である。

(分析結果とその根拠理由)

本校では学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応して，他大学との相互履修制度，他専攻科目の履修，インターンシップの単位認定等，教育課程改善の取組がされている。また，他大学での履修の便宜等にも配慮している。

このことから，専攻科課程では教育課程の編成等において，適切な配慮がなされている。

資料５－５－③－１　大阪大学工学部との教育研究交流協定

大阪大学工学部との教育研究交流協定

本校は大阪大学工学部と教育研究交流に関する協定を締結しています。その一環として，５年次の学生と専攻科の学生は特別聴講学生として大阪大学工学部の授業科目を履修することができます。

実施要領（抜粋）を下に掲げておきますので，参考にしてください。

大阪大学工学部と奈良工業高等専門学校との間における相互履修に関する実施要領（抜粋）

大阪大学工学部と奈良工業高等専門学校は，それぞれの所属学生が相互に履修することを認めるため，次のとおり実施するものとする。

1　受入れ学生の身分は，特別聴講学生とする。
2　特別聴講学生として入学できる者は，奈良工業高等専門学校にあっては５年次の学科学生及び専攻科学生とする。
3　履修できる授業科目の単位数は，奈良工業高等専門学校の学生にあっては１学期10単位を上限とする。
4　履修を希望する学生は，高等専門学校指導教員の承認を得たうえ，特別聴講学生願書，成績証明書を所定の期日までに高等専門学校に提出しなければならない。

5～7（略）

8　大学において取得した単位は，高等専門学校の定めるところにより，高等専門学校の単位として認めることができる。
9　特別聴講学生の検定料，入学料及び授業料は，相互に不徴収とする。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，p. ８）

資料５－５－③－２　専攻科準用規定

（準用規定）

第３９条　専攻科学生については，第３条から第６条，第14条，第22条第１項，第23条から第27条，第40条から第43条，第46条から第49条，第56条，第57条の規定を準用する。この場合において，第14条第２項中「30単位」とあるのは「16単位」と，第57条第２号中「第22条」とあるのは「第36条」と読み替えるものとする。

（出典　平成１８年専攻科学生便覧「奈良工業高等専門学校学則：第３９条」，p.５０）

資料５－５－③－３　高等専門学校以外の教育施設等における学修等

（高等専門学校以外の教育施設等における学修等）

第１４条　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が行う大学における学修その他文部大臣が別に定める学修を，本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

２　前項により認定することができる単位数は，前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

（出典　平成１８年専攻科学生便覧「奈良工業高等専門学校学則：第１４条」，p.４７）

資料５－５－③－４　他の教育施設等における授業科目の履修

他の教育施設で修得した授業科目の単位の認定に関する内規

（目的）

第１条　この内規は，奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科の学生が他の高等専門学校専攻科並びに，大学その他文部科学大臣が別に定める学修（以下「他大学等」という。）で，修得した授業科目の単位の認定について必要な事項を定める。

（申請）

第２条　学生は，他大学等において修得した授業科目の単位を，本校において修得した単位として認定を希望する場合は，申請書（別紙様式１）に次の各号に掲げる書類を添えて，校長に申請するものとする。

(1) 修得した授業科目・単位の証明書

(2) 修得した授業科目の講義要目等

(3) その他校長が必要と認める書類

（認定等）

第３条　前条により申請があつた場合の認定に関する審議は，学生の所属する専攻で先議し，専攻科委員会の議を経て校長が決定する。

２　本校専攻科において認定できる単位数は１６単位（教養科目は８単位以内）を限度とする。

（認定科目の評価及び評定）

第４条　単位を認定された他大学等において修得した授業科目の評定は，「認定」の評定とする。

２　成績原簿への登記並びに部外への諸証明は，「認」の表記とする。

附　則

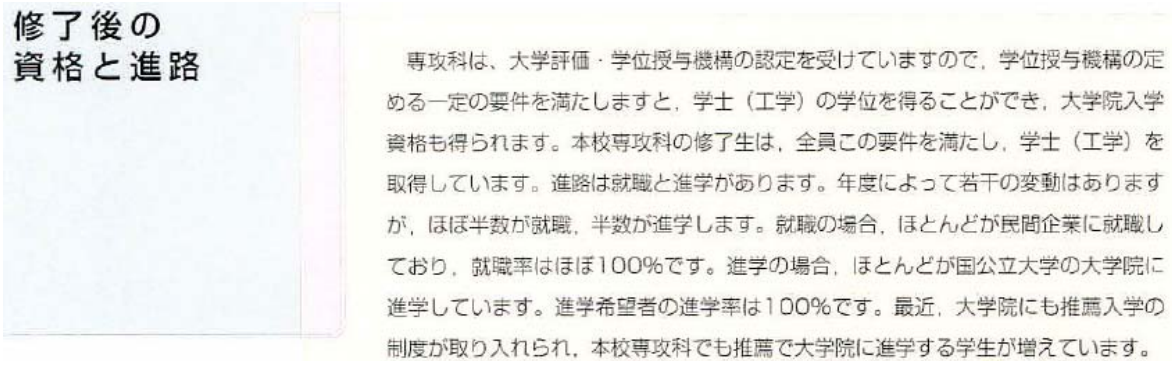
この内規は，平成５年１２月１６日から施行する。

この内規は，平成１４年４月１日から施行する。

申請書様式　略

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，　p. ５８）

資料５－５－③－５　専攻科修了後の資格と進路



修了後の資格と進路

専攻科は、大学評価・学位授与機構の認定を受けていますので，学位授与機構の定める一定の要件を満たしますと，学士（工学）の学位を得ることができ，大学院入学資格も得られます。本校専攻科の修了生は，全員この要件を満たし，学士（工学）を取得しています。進路は就職と進学があります。年度によって若干の変動はありますが，ほぼ半数が就職，半数が進学します。就職の場合，ほとんどが民間企業に就職しており，就職率はほぼ100%です。進学の場合，ほとんどが国公立大学の大学院に進学しています。進学希望者の進学率は100%です。最近，大学院にも推薦入学の制度が取り入れられ，本校専攻科でも推薦で大学院に進学する学生が増えています。

（出典　独立行政法人国立奈良工業高等専門学校専攻科２００６，　p. ２）

資料５－５－③－６　専攻科「学外実習」実施要項

奈良工業高等専門学校専攻科学外実習実施要項

（趣旨）
第１条　この要項は，奈良工業高等専門学校学則第３７条別表第４に掲げる「学外実習」に関し必要な事項を定める。

（目的）
第２条　学外実習は，企業・大学その他公的機関等において，実習体験することにより，実践的技術感覚を体得させるとともに，学生の学習意欲の向上および専攻科修了後の進路に対する職業意識の形成等を目的とする。

（対象学生）
第３条　第１学年および第２学年とする。

（実習機関）
第４条　この要項の実習先は，奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）が認めた企業の生産研究部門及び大学その他公的機関等（以下「実習機関」という。）とする。

（実習の期間・時間）
第５条　実習機関における実習は，１０日間以上にわたり合計８０時間以上実施するものとする。

（実習のテーマ等）
第６条　学外実習のテーマおよび内容については，本校と実習機関が協議して定める。

（学外実習実施責任者及び学外実習指導教員）
第７条　学外実習実施責任者（以下「実施責任者」という。）は専攻科主任をもって充て，学外実習指導教員（以下「指導教員」という。）は当該学生の所属する専攻の特別研究指導教員をもって充てる。

（実施責任者の業務）
第８条　実施責任者は，次に掲げる業務に当たるものとする。
（１）　実習生の災害防止及び災害補償に関し，本校と実習機関との連絡調整
（２）　実習生の実習機関の申込受付及び受入依頼
（３）　実習生の実習機関への配属
（４）　実習内容，テーマ等に関する指導，助言

（指導教員の業務）
第９条　指導教員は，実施責任者と協議の上，次の業務に当たるものとする。
（１）　実習中の安全，就業心得等の事前指導
（２）　実習中に発生した事故又は異常事態の処理及び報告
（３）　実習機関との連絡調整及び実習生の状況把握

（学外実習機関責任者）
第１０条　学外実習機関は，実習責任者を定め，実習の指導及び実習終了後，その評価を行うものとする。（別記様式１）

（実習申し込み）
第１１条　実習を希望する学生は次の書類を指導教員を経て実施責任者に提出するものとし，実施責任者は実習機関へ実習申し込み手続きを行う。
（１）　実習申込書（本校所定（別記様式２）又は実習機関の指定する書類）
（２）　誓約書（本校所定（別記様式３）又は実習機関の指定する書類）
（３）　傷害保険等の加入を証明する書類
（４）　その他実習機関が必要とする書類

（実習報告）
第１２条　実習生は，実習終了後直ちに，次の書類を指導教員を経て実施責任者に提出するものとする。
（１）　専攻科学外実習証明書（別記様式１）
（２）　専攻科学外実習報告書（別記様式４）
（３）　学外実習日誌　　（別記様式５）

（評価）
第１３条　実習の評価は，前条に定める書類および実習報告会に基づき，学生の所属する専攻において先議のうえ，専攻科委員会の議を経て実施責任者が総合的に判断して行うものとする。
評価は，前・後期末に優・良・可･不可で評定する。

（実習経費）
第１４条　実習に関する経費は，原則として実習生の負担とするものとする。

（保険等の加入）
第１５条　実習生は，必ず傷害保険，賠償責任保険に加入するものとする。

（雑則）
第１６条　この要項に定めるもののほか，学外実習に関し必要な事項は，専攻科委員会において審議決定する。

（事務）
第１７条　学外実習の事務は，学生課で行う。

附　則
この要項は，平成１６年４月１日から施行する。
附　則（平成１７年２月１０日）
この要項は，平成１７年２月１０日から施行し，平成１６年４月１日から適用する。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，　pp. ６５－６６）

資料５－５－③－７　専攻科学外実習証明書

平成　　年　　月　　日

専攻科学外実習証明書

奈良工業高等専門学校長　殿

事業所名

責任者名　　印

下記のとおり当所において実習を終了したことを証明します。

<table>
<tr><td>学校学年</td><td colspan="4">奈良工業高等専門学校　専攻科　　工学専攻　第　　学年</td></tr>
<tr><td>氏　　名</td><td></td><td rowspan="2">期間</td><td colspan="2">平成　　年　　月　　日～　　月　　日</td></tr>
<tr><td>実　　習
事 業 場</td><td></td><td colspan="2">総日数　　日
総時間　　時間</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">実習所見</td><td>評　価</td><td colspan="3">□優れている　□良　好　□普　通　□やや劣る　□劣　る</td></tr>
<tr><td>実習態度についての総合所見</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>出欠状況</td><td>出　席
日</td><td>欠　席
日</td><td>遅　刻
回</td><td>早　退
回</td></tr>
<tr><td>その他特記事項</td><td colspan="4">今後本人を指導するうえでの参考事項等</td></tr>
</table>

※　厳封のうえ実習生に交付してください。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，　p. ６７）

資料５－５－③－８　専攻科学外実習申込書

平成　　年　　月　　日

専攻科学外実習申込書

奈良工業高等専門学校
専攻科主任　　殿

専攻科　　工学専攻　第　　学年

氏名　　印

下記のとおり学外実習を申し込みます。

実習機関名	
実習場所	
実習期間	平成　年　月　日（　）～平成　年　月　日（　）　日間　時間
実習テーマ	
実習内容	

指導教員氏名　　印

（出典　平成１８年専攻科学生便覧，　p. ６８）

資料５－５－③－９　学外実習における誓約書

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

奈良工業高等専門学校 専攻科
専攻　第　　学年

氏名　　印

誓　　約　　書

私は，貴社の作業規則ならびに指導者の指示に従い，常に安全作業を心がけ，実習の中で知り得た秘密を守ることを誓約いたします。

（出典　平成１８年専攻科学生便覧，　p.６９）

資料５－５－③－１０　専攻科学外実習報告書

平成　　年　　月　　日

専攻科学外実習報告書

奈良工業高等専門学校
専攻科主任　　殿

専攻科　　工学専攻　第　　学年

氏名　　印

下記のとおり実習を終了しましたので報告します。

実習機関名	
実習場所	
実習期間	平成　年　月　日（　）～平成　年　月　日（　）　日間　時間
実習テーマ	
実習内容	

専攻科主任	指導教員	評価

（出典　平成１８年専攻科学生便覧，　p. ７０）

資料５－５－③－１１　専攻科学外実習日誌

専攻科学外実習日誌

様式 5

専攻科　　工学専攻　第　　学年

氏名　　印

実習機関名			
月日（曜日）	時間	実習内容	実習場所
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		
月　日(　)	時　分 ～ 時　分		

専攻代表教員　　印　　指導教員　　印

（出典　平成１８年専攻科学生便覧，　p. ７１）

資料５－５－③－１２　シラバス「学外実習」

学外実習（Practice in enterprise）	１，２年・２単位・選択 ３専攻共通
〔学習・教育目標との対応〕 D-2(80%)，A-2(20%)	〔JABEE 基準との対応〕 (d-2d),(b)

〔講義の目的〕
企業・大学その他の公的機関等において、実習体験をすることにより、実践的技術感覚を体得するとともに、学習意欲の向上および専攻科修了後の進路に対する職業意識の形成等を目的とする。

〔講義の概要〕
学外実習のテーマおよび内容については、本校と実習機関が協議して定める。ただし、実習先の企業等で用意されたテーマおよび内容を実務体験することもある。

〔履修上の留意点〕
実習先で発行される専攻科学外実習証明書と実習学生が作成する専攻科学外実習報告書および専攻科学外実習日誌の提出、さらに校内で行う実習報告会での発表をもって履修条件とする。
実習中は安全に留意すること。実習者は保険に加入することを義務づける.

〔到達目標〕
技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶこと。さらに自らが職業意識をどのように高めたかを説明できること。社会人としての自主性、創造性および柔軟性の大切さを知ること。
さらに、学生として残された学生時代になすべきことを再考する機会とすること。

〔評価方法〕
専攻科学外実習証明書、専攻科学外実習報告書、専攻科学外実習日誌および実習報告会に基づき、学生の所属する専攻において先議のうえ、専攻科委員会の議を経て専攻科主任が総合的に判断して行う。
則として、実習先での専攻科学外実習証明書、専攻科学外実習報告書、および専攻科学外実習日誌（75%）、実習報告会（25%）の４点によって評価する。

〔教　科　書〕
なし
〔補助教材・参考書〕
平成１３年度、平成１４年度、平成１５年度、平成１６年、平成１７年度学外実習報告書

〔関連科目〕
実習中の体験の詳細を記録にとり、これまで学んできた専門教科との関連を調べる。実習先の技術者と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の基礎などについて話合いをすること。

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週			
第２週			
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第２０週			
第２１週			
第２２週			
第２３週			
第２４週			
第２５週			
第２６週			
第２７週			
第２８週			
第２９週			
第３０週			

１．実施期間　　１０日間以上にわたり合計８０時間以上従事

２．学外実習先　　本校が認めた企業の生産研究部門及び大学その他公的機関

３．スケジュール

学外実習ガイダンス
- 概要説明
- 実習先企業の紹介と実習内容の説明
- 安全教育
- 希望調査と割り振り

事前研修会
- 学外実習の心構えなどの事前学習
- 講演会出席（外部講師）

実習
- 実習先でのオリエンテーション
- 実習
- 専攻科学外実習報告書、専攻科学外実習日誌の作成

学外実習のまとめ
- 実習報告会

＊４：完全に理解した（達成），３：ほぼ理解した（達成），２：やや理解できた（達成），１：ほとんど理解できなかった（達成），０：まったく理解できなかった（達成）

（出典　平成１８年専攻科シラバス，　pp. ５０－５１）

資料５－５－③－１３　冬季TOEIC集中講座出欠表（補充教育）

平成17年度冬季TOEIC集中講座
補講出席状況

11月16日	11月30日	12月7日	12月14日	12月21日
14名	15名	11名	14名	6名
12月26日	12月27日	1月5日	1月6日	
7名	8名	5名	6名	

（出典　英語科作成資料）

資料５－５－③－１４　春季TOEIC集中講座出欠表（補充教育）

平成17年度春季TOEIC集中講座
補講出席状況

2月28日	3月1日	3月2日
2名	5名	3名

（出典　英語科作成資料）

観点５－６－①:　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば，教材の工夫，少人数授業，対話･討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

・教育の目的に沿った講義，演習，実験，実習等の授業形態とその配分の適切性

授業科目は学習・教育目標に沿って適切に配分され，また，専攻科シラバスには「学習・教育目標の対応」が記されており，全ての科目が本校専攻科の教育目標に対応したものである。

また，その配分は（資料５－６－①－１）にあるように，講義科目は全体平均４７．７％，演習科目は全体平均３３．８％，実験・実習科目は全体平均１８．５％となり適切となっている。

・教育内容に応じた適切な学習指導の工夫

学習指導方法としては，計算課題演習･討論･プレゼンテーション等，演習･実習系の要素が取入れられており，工夫を凝らした授業が担当教員ごとに展開されている。

(a) 教材の工夫

学習・教育目標を達成するための学習指導方法・教材の工夫として，「コミュニケーション英語」(専門共通科目，　２年生，　２単位，必修)を例示する。この科目では，文章･図表･口頭による表現を実践的に学び，英語でのコミュニケーション能力を身につける。また，学生の専門課題テーマを利用しながらパワーポイントによる発表･討論を行い，英語というコミュニケーションツールを通して，工学関連分野に

視野が広まるよう工夫されている。

(b) 少人数授業

少人数制により教員からの決め細やかな指導を通して，目標設定から達成まで一貫して遂行出来る研究開発能力を持つ技術者を育成している。各専攻科における「特別研究」（資料５－６－①－２～４）を例示する。

(c) 対話・討論型授業

「システムデザイン演習」（資料５－６－①－５）では，自ら主体的に課題に取組み，成果そのものの評価のみならず，取組の課程での対話・討論についても評価する。

(d) フィールド型授業

「日本古代技術史」（資料５－６－①－６）では，座学と臨地講義の２つの形態を組み合わせて授業が行われる。特に臨地講義においては，実際に現場に立って，古代からの伝統的な心と技のすばらしさを体感し，その重要性を理解した上で，最先端の技術に応用出来るものを修得することができる。

(e) 情報機器の活用

「情報システム」（資料５－６－①－７）では，補助教材にホームページを利用する等，マルチメディアを活用した授業が行われている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科課程では，学習･教育目標に応じて，講義，演習，実験，実習等の授業形態が適切である。

また，各教科において，学生が技術者として自主的にテーマを選定し調査研究発表を行い，対話・討論する授業，パワーポイント等のソフトや情報機器を効率よく利用し，相手に英語で自分の意思を伝える授業，座学と臨地講義を組み合わせ現場で体感できる授業等，担当教員ごとに教育内容に応じた適切な学習指導方法の工夫が十分に行われている。

資料５－６－①－１　３専攻科における授業形態別時間数とその配分

	機械制御工学専攻		電子情報工学専攻		化学工学専攻	
	時間	%	時間	%	時間	%
講義科目	64	50.00	62	47.69	60	45.45
演習科目	40	31.25	44	33.85	48	36.36
実験･実習科目	24	18.75	24	18.46	24	18.18
合計	128	100.00	130	100.00	132	100.00

（出典　専攻科作成資料）

資料５－６－①－２　機械制御工学「特別研究」シラバス

特別研究 (Research Projects)	１年・通年・１６単位・必修 ２年・通年・１４単位・必修 機械制御工学専攻・担当　特別研究担当教員
〔学習・教育目標との対応〕 C－１（２０%）・D－２（６０%）・D－１（２０%）	〔JABEE 基準との対応〕 (d－２a)，(e)，(f)，(g)，(h)

〔講義の目的〕

専攻科教育の主なねらいである，目標設定から達成まで一貫して遂行できる研究開発能力を持つ技術者の育成を目標に，本科で実施した卒業研究の経験を基礎に，より高度な個別研究を２年間にわたって行う．このためには，自主的な研究への取り組みが特に肝要となり，研究テーマの設定にあたっては学生の工学的興味をできる限り尊重し，教員から提示されテーマのほかに企業との共同研究をはじめ委託研究や実用化を含めた幅広い分野から選定することができる．

〔講義の概要〕

研究成果は２回(中間，最終)の発表会を実施し，最終的に論文としてまとめさせる．また，この過程を通じて論文作成やプレゼンテーションの技術を実践指導するとともに，学会発表についても支援する．

〔履修上の留意点〕

特別研究の意義を十分認識し，研究計画に基づいて自主的かつ積極的に進めること．また，研究テーマに関連した国内外の文献調査を積極的に行うとともに，常に進捗状況を指導教員に報告し，十分な討論を行うこと．

〔到達目標〕

自ら研究計画を立案・実施し，研究成果を論文にまとめて発表会(公開)において報告する．

〔評価方法〕

成績評価は(1)研究に対する取り組み(30%)，(2)研究論文(40%)，(3)研究発表(30%)の総合評価により行う．

(1) については研究への準備，実施状況を総合的に評価する．
(2) については論文内容，文章構成，図表や式の表現等について総合評価する．
(3) については発表準備，発表内容，質疑応答の的確性等について総合評価する．

〔教　科　書〕

特になし

〔補助教材・参考書〕

研究テーマに関連した各種参考書および国内外の文献

〔関連科目〕

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	ガイダンス，研究紹介	安全実験指導，研究室配属	
第２週			
第３週			
第４週			
第５週			
第６週			
第７週			
第８週			
第９週			
第１０週			
第１１週			
第１２週			
第１３週			
第１４週			
第１５週			
第１６週			
第１７週			
第１８週			
第１９週			
第２０週			
第２１週			
第２２週			
第２３週			
第２４週			
第２５週			
第２６週			
第２７週			
第２８週			
第２９週			
第３０週			

機械工学系研究室

材料力学研究室：	高強度鋼の遅れ破壊，き裂進展挙動， アコースティックエミッション(AE)
生産加工学研究室：	局部加熱を利用したダイレスフォーミング， 古代製鉄法「たたら吹き」，各種機器の開発
熱流体工学研究室：	伝熱促進，信号処理，乱流
切削・研削加工学研究室：	難削材の高能率切削，高能率研削法の開発， コーテッド被膜の開発
トライボロジー研究室：	滑り軸受の焼付き機構，混合潤滑油理論
高分子流体工学研究室：	複雑流体の流れ挙動，高分子流体の物性測定
流体工学研究室：	管内壁面植毛による流動抵抗低減に関する研究， 取水ロスクリーン塵埃浮流装置に関する研究， 人力ヘリコプタの開発 燃焼による圧力波を用いた船舶用推進装置に関する研究，
設計システム研究室：	構造物の概念設計支援， 多足ロボット歩行パターンの進化的獲得
応用物性研究室：	金属のガス放出率と関連した物性値の測定， アルミニウム合金の摩擦および切削特性
メカトロニクス研究室：	状態および入力の制約を考慮したモーションコントロール， サーボモータの動特性の解析
材料学研究室：	金属粉末成形時の摩擦特性，DLC 被膜の剥離挙動

電子制御工学系研究室

レーザー計測研究室：	赤色光を使わずに白色光源を造り出す方法についての研究， 植物の成長を光により制御する方法の研究， YAG レーザーを用いたレーザクリーニングの研究　など
メカトロ第一研究室：	滴状凝縮，伝熱特性
メカトロ第二研究室：	流体抵抗低減のための流れ制御デバイスの開発， 物体まわりの流れの可視化及び数値計算
光応用計測研究室：	スペックルシアリング干渉法，位相シフト干渉法，画像解析
伝熱・材料組織研究室：	回転液中紡糸法による非鉄系合金細線の製作とその凝固組織観察 回転液中噴出法による合金粉末の製作とその形状制御・凝固組織観察
ロボット工学研究室：	福祉介護機器の開発，パワーアシスト装置の開発， 非接触ロボットハンドの開発
計測工学研究室：	光応用計測，X線応用計測，音声解析
ロボット制御研究室：	非線形特性を持つ対象物の運動解析と制御計画
制御工学研究室：	歩行型・車輪型移動ロボットに関する研究， ロボットに関する制御応用， サーボモータに関するインテリジェント制御
制御機器研究室：	超音波モータと磁気粘性流体を用いたアクチュエータの研究 超音波モータの筋電制御に関する研究 コンクリート建造物解体ロボットに関する研究

特別研究発表会：2007 年 2 月 1 日(木)

＊4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった．
(達成)　(達成)　(達成)　(達成)　(達成)

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. ６６－６７）

資料５－６－①－３　電子情報工学専攻「特別研究」シラバス

特別研究 (Research Projects)	１，２年・通年・１４単位・必修 電子情報工学専攻・担当（特別研究担当教員）
〔学習・教育目標との対応〕 D-2（70%）C-1（15%）D-1（15%）	〔JABEE 基準との対応〕 g, f, d-2a, e, h

〔講義の目的〕
専攻科教育の主なねらいである、目標設定から達成まで一貫して遂行できる研究開発能力を持つ技術者の育成を目標に、学科で実施した卒業研究の経験を基礎に、より高度な個別研究を 2 年間にわたって行う。このためには、自主的な研究への取り組みが特に肝要となり、研究テーマの設定にあたっては学生の工学的興味をできる限り尊重し、教員から提示されテーマのほかに企業との共同研究をはじめ委託研究や実用化を含めた幅広い分野から選定する。

〔講義の概要〕
研究成果は 2 回(中間、最終)の発表会を実施し、最終的に論文としてまとめさせる。また、この過程を通じて論文作成やプレゼンテーションの技術を実践指導するとともに、学会発表についても支援する。

〔履修上の留意点〕
特別研究の意義を十分認識し、研究計画に基づいて自主的、積極的に進めること。また、研究テーマに関連した国内外の文献調査を積極的に行うとともに、常に進捗状況を指導教員に報告し、十分な討論を行うこと。

〔到達目標〕
自ら研究計画を立案、実施し、研究成果を論文にまとめて発表会(公開)において報告する。

〔評価方法〕
成績評価は(1)研究に対する取り組み(30%)、(2)研究論文(40%) (3) 研究発表(30%)の総合評価により行う。
(1) については研究への準備、実施状況を総合的に評価する。
(2) については論文内容、文章構成、図表や式の表現等について総合評価する。
(3) については発表準備、発表内容、質疑応答の的確性等について総合評価する。

〔教　科　書〕
特になし

〔補助教材・参考書〕
研究テーマに関連した各種参考書および国内外の文献

〔関連科目〕
専攻科１年次の電子情報工学特別実験，システムデザイン演習．
本科の卒業研究．

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第２週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第３週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第４週	進捗状況確認	進捗状況を確認し，プロトタイプの作成を計画する．	
第５週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第６週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第７週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第８週	プロトタイプの評価，問題点の再検討		
第９週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第１０週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第１１週	実験結果まとめ	秋の学外発表，学位授与レポート用に実験結果をまとめる	
第１２週	実験結果まとめ	秋の学外発表，学位授与レポート用に実験結果をまとめる	
第１３週	実験結果まとめ	秋の学外発表，学位授与レポート用に実験結果をまとめる	
第１４週	レポート指導	秋の学外発表，学位授与レポートの書き方指導	
第１５週	レポート指導	秋の学外発表，学位授与レポートの書き方指導	
学位授与機構レポートの提出			
第１６週	進捗状況確認	特別研究論文用の研究内容を煮詰める．	
第１７週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第１８週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第１９週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第２０週	進捗状況確認	進捗状況を確認し，完成品の作成を計画する．	
第２１週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第２２週	実験，プログラミング	実験・プログラムの作成を行う．	
第２３週	完成品による実験，問題点の再検討		
第２４週	実験結果まとめ	実験結果のまとめと考察	
第２５週	実験結果まとめ	実験結果のまとめと考察	
第２６週	卒業研究論文作成	特別研究論文の執筆	
第２７週	卒業研究論文作成	特別研究論文の執筆	
第２８週	卒業研究論文作成	プレゼン資料作成、発表練習	
第２９週	卒業研究発表会	研究発表会で成果報告	
第３０週	論文修正	論文を修正して査読教員から了解を取る．	

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. １３２－１３３）

資料５－６－①－４　化学工学専攻「特別研究」シラバス

特別研究 (Research Projects)	専攻科１、２年通年・１４単位・必修 担当者名　特別研究担当教員
〔学習・教育目標との対応〕 D-2（７０%），C-1（２０%），D-1（１０%）	〔JABEE 基準との対応〕 d-2a，e，h
〔研究の目的〕 目標設定から達成まで一貫して遂行できる研究開発能力を育成する。さらに、研究成果を論文にまとめ、情報発信できるプレゼンテーション能力を養成する。	
〔講義の概要〕 研究テーマを設定し、２年間にわたり研究を行う。成果を論文にまとめ、２回の発表会（中間、最終）でプレゼンテーションを行う。また、優れた成果が出た場合には学会にて発表する。これらを通して、論文作成能力とプレゼンテーション能力、資料作成能力を育成し、コンピュータ利用技術を養成する。	
〔履修上の留意点〕 与えられた条件下で研究目的を達成するための研究計画を立てる。国内外の関連した文献を調査し、研究の位置づけを行う。結果の解析，整理においては、自ら考えてオリジナリティーを出すよう努力する。データ解析，図表作成，参考資料の検索においては積極的にコンピューターを利用し，その技術を習得すること。	
〔到達目標〕 データ解析法，結果の整理法，表現・発表能力、論文作成能力を修得すること。成果を公開の場で発表すること。可能ならば、学会発表すること。 中間発表：　研究計画を立案し、実験装置を作成し、実験方法を確立する。 最終報告：　研究成果を論文にまとめる。発表用資料作成技術を習得し、公開の場で研究発表できる能力を習得する。	
〔評価方法〕 研究計画，研究態度，論文，及び発表能力を審査し，その達成度で評価する。研究計画・態度（30%），修了論文（４０%），発表および試問（３０%）。	
〔教　科　書〕 関連文献 〔補助教材・参考書〕 化学工学便覧，化学便覧，理化学辞典	
〔関連科目〕 専門科目、専攻科目	

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
専攻科１年			
第１週	ガイダンス	研究の遂行方法、文献調査法	
第２週	研究室配属	指導教員の決定	
第３週～第２８週	各指導教官によるテーマ設定、研究指導	指導教官から関連文献の検索法、外国語の文献読解、実験について指導を受ける。	
第２９週	中間発表会	１年間の研究成果を発表する。	
第３０週	総合討論	発表会での質疑に基づいて研究計画を再検討する。	
専攻科２年			
第１週～第３週	研究方針の検討	専攻科１年の成果まとめ，研究の遂行方法、文献調査法	
第４週～第２８週	各指導教官による研究指導	指導教官から学会発表，実験について指導を受ける。	
第２５週	研究発表	研究発表の指導	
２６週～３０週	専攻科修了論文のまとめ	研究論文の執筆指導	

＊４：完全に理解した，　３：ほぼ理解した，　２：やや理解できた，　１：殆ど理解できなかった，　０：全く理解できなかった。

（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. １５４－１５５）

資料５－６－①－５　３専攻共通「システムデザイン演習」シラバス

システムデザイン演習 (Engineering Design Project)	1年・前期・2単位・必修 3専攻共通・担当 小柴　孝，藤田　直幸， 阪部　俊也，山口　賢一，中谷　武志
〔学習・教育目標との対応〕 D-2(75%), C-1(15%), D-1(10%)	〔JABEE 基準との対応〕 e, h, f, d-2a, g

〔講義の目的〕

これまでの講義や実験で培った基礎知識を生かして、工学的な問題を解決することができるデザイン能力を育成する。ここでいうデザイン能力とは、構想力、問題設定力、種々の学問や技術を総合し応用する能力、創造力、制約条件下で解を見出す能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、継続的に計画を実施する能力などのことを言う。また、自主的、継続的に学習する能力を身に付ける。さらに、最終成果を発表することにより、日本語による表現能力を育成することを目的とする。

〔講義の概要〕

本演習は、PBL (Problem Based Learning) 形式で進められる。すなわち、グループ毎に設定された問題について、解決する手段を自らが見つけていく。これらを通じて、「企画・構想」、「解析」、「設計」、「成果発信」というデザインのステップを学ぶ。

〔履修上の留意点〕

デザイン能力の育成に重点を置いているので、自ら主体的に課題に取り組む必要がある。成果物そのものの評価のみならず、取り組みの課程についても評価する。また、グループ力を評価するため、相互に協力して演習を進める必要がある。

〔到達目標〕

1．PBL により、基本構想、問題分析、計画立案、課題解決、発表という一連の流れを体験し、課題を解決するために必要なデザイン手法を理解する。
2．与えられた予算と期限内にグループにより問題を解決することを通じて、制限下で計画的に仕事を進める方法について理解する。
3．PBL によって主体的、継続的に学習する習慣を身に付ける。
4．討議や発表を行うことで、効果的なプレゼンテーションの方法を理解する。

〔評価方法〕

学習過程、成果物を総合して評価を行う。学習過程については、毎週の学習の履歴などによる教員の評価、自身による自己評価、学生による相互評価などによって行う。成果物に対しても教員の評価、学生の相互評価などを総合して評価する。

これらの評価は、到達目標１～４に以下のように対応している。
達成目標１(50%)：学習履歴、自己評価、学生による相互評価、成果物の評価
達成目標２(25%)：学習履歴、自己評価、学生による相互評価、成果物の評価
達成目標３(10%)：学習履歴、自己評価
達成目標４(15%)：プレゼンテーションに対する評価

〔教　科　書〕
特になし
〔補助教材・参考書〕
特になし

〔関連科目〕すべての科目で学んだことを発揮して課題に取り組んで欲しい。
身に付けた、デザイン能力を特別研究などに対して発揮して欲しい。

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	ガイダンス	スケジュール、講義の目的、評価方法、課題の提示、安全上の注意について説明する。	
第２週	グループ分け・企画	課題を解決する手段、仕様を決めるためのシーズニーズの探索などを行う。 また、グループ内のコミュニケーション方法決める。	
第３週	企画	引き続き、基本構想をまとめる。	
第４週	デザインレビュー（１）	企画や基本構想をショートプレゼンテーション、相互評価。	
第５週	解析・設計・作製（１）	部品調達、予備実験、解析、設計、作製などを行う。 各班毎に、自らが計画を行い、実施する。 毎週の進捗状況を学習記録によって指導教員に報告し、ディスカッションを行う。	
第６週	解析・設計・作製（２）		
第７週	解析・設計・作製（３）		
第８週	デザインレビュー（２）	途中経過を報告し、設計段階の問題点を抽出する。	
第９週	解析・設計・作製（４）	デザインレビュー（１）の結果を踏まえて、引き続き制作を行う。	
第１０週	解析・設計・作製（５）		
第１１週	解析・設計・作製（５）		
第１２週	解析・設計・作製（７）		
第１３週	成果発表（１）	成果の発表会を行う。	
第１４週	成果発表（２）	成果の発表会を行う。	
第１５週	まとめ	デザイン能力について学んだことを発表する。	

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp.６８－６９）

資料５－６－①－６　一般教科「日本古代技術史」シラバス

日本古代技術史 (History of Japanese Ancient Arts)	１年前期・２単位・選択必修 ３専攻共通 担当　大矢　良哲
〔学習・教育目標との対応〕 Ａ－１（70％），Ｂ－２（30％）	〔JABEE 基準との対応〕 （a），（d－1）

〔講義の目的〕

近年、考古学や歴史学が中心になって行っていた研究に理工学的な測定や解析が加えられ、新しい発見や研究の成果が明らかにされ、文化財学という新しい研究領域が生み出されようとしている。理工学の最先端を学ぶ人たちが、大昔の遺跡の遺物や歴史的建造物、さらに美術工芸品などを研究対象として、文化財を解析する時代になってきた。

本講座では、本校の恵まれた立地条件を生かし、「世界遺産」に登録された文化遺産を現地に訪ね、実物を前にしてその構造や技法の見方、アジア史における位置づけを丁寧に解説する。世界に誇るべきわが国の先人たちの心と技の素晴らしさを、学生諸君が自らの体験の中で感得し、その重要性を理解できるような環境を創るところに本講座の特色がある。自国の技術・文化の学習を通じて、他民族や他国の文化についても理解を深めることができるようにする。

〔履修上の留意点〕

授業は教室での座学と臨地講義の２つの形態で実施する。このうち臨地講義は全日または半日の時間を要するため、授業日を振り替えて行うことがある。

臨地講義の際の拝観料（入館料、毎回約 1000 円）、交通費等は各自負担。

〔到達目標〕

日本の文化がアジアとの交流で生み出されたことを理解し、各時代の文化の特徴を把握する。工学の立場から身近にある人類の世界遺産について理解を深める。

〔評価方法〕

評価は授業の参加度（60 点）、および受講態度（15 点）、課題レポート（25 点）等を総合して行い、定期試験は行わない。

授業時間の３分の２以上の出席がない場合、成績評価の対象にならない。

〔教科書〕

プリント資料を配布する。

〔参考文献〕

『奈良・京都の古寺めぐり』『奈良の寺々―古建築の見かた』（いずれも岩波ジュニア新書）などがあるので、現地見学に活用して下さい。

講義項目・内容

講義数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１講	ガイダンス	講義の総論と講義のすすめ方を説明する。	
第２講	天文と計時	キトラ古墳・水落遺跡の科学知識について解説する。	
第３講 第４講 第５講	世界遺産　法隆寺の技術	【臨地講義】（西院伽藍・大宝蔵院・東院伽藍） ～大陸文化を越えて～ 五重塔や金堂・夢殿など、数々の古代建築の構造・機能・美の秘密を詳解。拝観できる仏像や美術工芸品についても取りあげ、法隆寺の大切さを認識してもらう。	
第６講	鋳造	飛鳥寺・東大寺大仏の鋳造技術について解説する。	
第７講 第８講 第９講	世界遺産　東大寺の技術	【臨地講義】（南大門・大仏殿・三月堂・転害門） ～天平のテクノ・ルネサンス～ 大仏殿の建築、三月堂の仏像群、大仏蓮弁の仏世界図などを中心に、天平の建築・彫刻・絵画の技法を講義。また、鎌倉復興期における新建築様式(大仏様)、仁王像・石獅子の技法も解説する。	
第10講 第11講	世界遺産　唐招提寺の技術	【臨地講義】（金堂・講堂・御影堂） ～鑑真の日本文化に与えた影響～ 奈良時代の日本文化を考えるとき、人は鑑真の大きさに今さらのように驚くであろう。教学のことは勿論、芸術などの一般文化も、鑑真が来たことで大きな進歩・変革を遂げた。和上の偉大な業績とその生涯を紹介する。	
第12講 第13講 第14講	世界遺産　平等院の技術	【臨地講義】（宇治上神社・平等院鳳翔館・鳳凰堂） ～浄土世界の空間構成と日本的木彫技法の完成～ 日本の建築美を代表する平等院鳳凰堂は、極楽浄土を描いた曼荼羅の中の仏殿を具現化したものと伝えられる。宇治の歴史的景観のなかで、鳳凰堂の細部意匠、本尊の寄木技法、壁画の彩色顔料、作庭法を講義し、その建築空間の面白さを味わう。	
第15講	まとめ	奈良と長安を繋いだ橋―遣唐使節団の役割について考える。	

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった。
（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp. １６－１７）

資料５－６－①－７　電子情報工学「情報システム」シラバス

情報システム　（Information Systems）	１年・前期・２単位・選択 電子情報工学専攻・担当　松尾　賢一
〔学習・教育目標との対応〕 B－2（80％），D－1（20％）	〔JABEE 基準との対応〕 (d－1)，(d－2a)

〔講義の目的〕

情報技術は，様々な形によって，人間社会の基盤形成に貢献している．このような技術は，人間の情報活動を支援することを目的として発展してきた経緯がある．また，今日では，新しい情報システムが次々とデザインされ，暗黙的に経験的知識が加わることによって，さらなるデザインが生み出されている．しかしながら，現在の情報化社会は，このような新しいデザインを受け入れるための熟成した社会ではなく，いわば，社会的な基盤が整わないまま技術だけが優先されている社会状況であるといえる．そこで，この情報技術と情報社会を共に学ぶ上で，前半では，多角的に情報と情報システムを捉えて講義する．そして，後半では，情報システムの仕組みがどのように開発されているかについて講義する．これによって，人間にとって，社会にとってより良い情報システムについての理解と，情報システム自体を多角的に分析できる能力を身につける．

〔講義の概要〕

1. 情報システムの概念についての理解
2. 人間と情報システムとの関わりについての理解
3. 情報に基づく行動についての理解
4. 人間の感覚による情報収集活動について理解
5. 世の中の情報システムの役割についての理解
6.

〔履修上の留意点〕

システムを構築するためには，何が大切であるかを考える能力を習得する．

〔到達目標〕

（課題Ⅰ）
ある問題に対して，その問題を解決するための道筋や方法を考える力を身につける．
（課題Ⅱ）
情報システムと人間との関わりを見抜く力を備える．
（課題Ⅲ）
情報システムによって，生じる問題点とその原因を分析できる能力を身につける．
（課題Ⅳ）
情報システムを構築して，成果の向上を実現することができたかをソフトウエア的見地および情報システムの役割の面から説明できる能力を身につける．

〔評価方法〕

成績は，レポート，課題，小論文等の形式による評価（70％）
発表，質疑応答，そして，授業の取り組み姿勢全般（30％）で評価する．

〔教　科　書〕

「教科書名：基礎　情報システム論」，出版社：共立出版，著者：神沼靖子，内木哲也

〔補助教材・参考書〕

ホームページ参照（http://www.info.nara-k.ac.jp/~matsuo/JYUGYO/INFO_SYSTEM/info_system.html）

〔関連科目〕

関連科目としては，情報解析，知能工学，パターン認識論，画像工学，情報伝送，があげられる．

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	情報システムとは	一般的に情報システムとは何かを理解させる.	
第２週	人間の情報活動	人間が日常行っている情報活動について理解させる.	
第３週	情報概論	情報の価値について理解させる.	
第４週	情報行動と情報量	情報に基づく人間の意志の決定プロセスについて理解させる.	
第５週	人間の情報行動	人間が情報行動をする目的する理由について理解させる.	
第６週	感覚と知覚	人間の基本的感覚による情報収集について理解させる.	
第７週	情報メディアと情報システム	情報メディアと情報システムの関係について理解させる.	
第８週	高度情報社会の特性	情報メディアと真の情報との乖離について理解させる.	
第９週	組織の成り立ち	組織の成立と情報システムとの関連について理解させる.	
第１０週	組織構造	組織構造の違いにより，情報システムの役割が変化することを理解させる.	
第１１週	権限とコントロール	組織の権限が情報システムに及ぼす影響を理解させる.	
第１２週	情報システムデザイン	優れた情報システムを構築するための条件について理解させる.	
第１３週	情報技術による情報システム	コンピュータを用いた情報システムによる世の中の変化について理解させる.	
第１４週	情報行動の強化	情報化社会において，個人の情報行動をいかに堅固にしていくのかを理解させる.	
第１５週	ソフトウエア的見地からみた情報システム	ソフトウエア工学の側面から情報システムの見方について理解させる.	

＊４：完全に理解した（達成），３：ほぼ理解した（達成），２：やや理解できた（達成），１：ほとんど理解できなかった（達成），０：まったく理解できなかった（達成）

（出典　平成１８年度専攻科シラバス，pp.１２６－１２７）

観点５－６－②:　創造性を育む教育方法(PBL等)の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

創造性を育む教育方法を取入れた科目としては，「システムデザイン演習」や「特別研究」等が開設されている。また，インターンシップも十分に活用されている。

「システムデザイン演習」は，PBL形式で進められ，これまでに培ってきた基礎知識を生かして，工学的な問題を解決するデザイン能力を育成する。この授業を通して，自主的，継続的に学習する能力を養い，最終成果を発表することで，日本語による表現能力も育成する。評価方法としては，学習過程，成果物を総合して評価を行う。学習過程については，毎週の学習の履歴等による教員の評価，自身による自己評価，学生による総合評価等によって行う。成果物に対しても教員の評価，学生の総合評価等を総合して評価する。

「特別研究」の研究テーマの設定に当たっては，学生自身の工学的興味を尊重し，教員から提示されたテーマや企業との共同研究を始め，委託研究や実用化を含めた幅広い分野から選定している(資料５－６－②－１)。さらに，その独創的な研究により学協会での発表を経て，表彰されている学生は，これまで37名となっている(資料５－６－②－２～３)。

「学外実習」では，長期休業期間を利用し１０日間(計８０時間)以上実施している。各専攻では，事前説明会(資料５－６－②－４～６)を実施し，期間中に学生は専攻科学外実習報告書(資料５－５－③－１０)と専攻科学外実習日誌(資料５－５－③－１１)をつけ，教員はそれらを元に学生の取組状況を観察すると共に，受入担当者と意見交換することで，その後の学生の指導に役立てている。「学外実習」を通して，現場での問題発見から解決に至るプロセスを学んでいることが確認出来る。

(分析結果とその根拠理由)

本校専攻科では，PBL形式の科目として１年次に必修２単位の「システムデザイン演習」を開設している。この科目では問題提起から解決・発表に至る一連の過程を経て，学生は創造性を育むことができる。

「特別研究」では，幅広い分野から自分のテーマを選定し，テーマに沿った目標設定を行い，それを達成する研究開発能力を育成することができる。

選択２単位の「学外実習」を設定しており，学生たちは，現場で有意義な経験をしてきている。

以上のことから，本校の専攻科課程では，創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が十分に行われている。

資料５－６－②－１　平成１７年度専攻科特別研究概要集

平成17年度

専攻科特別研究概要集

平成１８年３月

独立行政法人 国立高等専門学校機構

奈良工業高等専門学校専攻科

目　　次

機械制御工学専攻

鬱血防止マットに関する基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 植田　尚良　1

回転成形によるアルミ合金管の偏心ビード加工に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・ 梅田　昌紀　3

太陽電池の光電変換効率向上に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 江副　睦也　5

小型回流水槽の設計と試作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 勝井　祐貴　7

垂直軸風車における翼角度制御と風車内部の流れに関する研究・・・・・・・・・・・・・・ 栗本　直彰　9

数値流体解析を用いた低コスト小型水平軸風力発電システムの開発・・・・・・・・・・・・ 後藤　守　11

(Ti,W,Si)Nコーテッド超硬工具の切削特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 塱本　直志　13

魚類における進行波運動推進の推力特性に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 濱添　亮　15

アルミニウム合金の表面改質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 原本　淳史　17

身体保護装具に関する基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 廣田　彰吾　19

突起接触モデルに関する研究－弾塑性接触領域におけるトランケーションの影響－・・・・・ 福井　淳一　21

回転水中紡糸法によって製作されたAg－Pb合金細線の形態と凝固組織・・・・・・・・・・ 松村　礼央　23

薄肉ステンレス鋼管のゴムバルジ加工に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 安田　和貴　25

電子情報工学専攻

低面積オーバヘッドを実現する組込み自己テスト容易化設計の実用化・・・・・・・・・・・ 青山　瑠美　27

パルス電析法によるCo-Pt薄膜磁石の作製・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 甘崎晋次郎　29

blogを用いた意見集約に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 荒田　裕介　31

筆跡鑑定支援システムの開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 粟津　優作　33

PUEソフトアクチュエータの低電圧駆動化に向けた分子構造制御の研究・・・・・・・・・・ 石田　守　35

２次元平面上での動的情報を用いた署名照合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 井本　哲平　37

ＩＨ用電源システムの高周波化に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 中島　啓介　39

ユーザの動的な情報を利用した抄録作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 橋本　和希　41

形状特徴を用いた重ね書き文字の分離抽出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堀　元　43

奈良県のデジタル遺跡地図データベース作成に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・ 細見　裕記　45

リモートからのOS指定ブートシステムの開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉村　裕也　47

化学工学専攻

CTAB逆ミセル系におけるリパーゼの反応挙動とその立体構造に関する研究・・・・・・・・・ 竹内　千尋　49

春日山天然林における有機物の供給量および組成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 田中　大資　51

新規マカロニ状活性炭によるVOCの回収・除去・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堀内　康司　53

マラカイトグリーン誘導体を化学結合した高分子化合物の分子設計と
非水溶液中における膜電位応答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松井　敏洋　55

天然林土壌における形態別リン酸量及びホスファターゼ活性・・・・・・・・・・・・・・・ 矢戸田　俊　57

長鎖アルキル基を持つマラカイトグリーンによるベシクル形成の光制御・・・・・・・・・・ 山下　大介　59

モノチアクラウンエーテルを化学修飾したシリコーンゴム膜－銀イオン選択性電極・・・・・ 椀田　尚宏　61

資　料

１．学会発表受賞者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

２．機械制御工学専攻学生の研究発表一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

３．電子情報工学専攻学生の研究発表一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

４．化学工学専攻学生の研究発表一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77

（出典　平成１７年度専攻科特別研究概要集，　表紙，目次）

資料５－６－②－２　「特別研究」における学会発表受賞者一覧

学会発表受賞者一覧

平成５年度

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『導電性ＬＢ膜に関する基礎研究』　藤田大作（電子情報工学専攻１期生）

平成６年度

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『太陽電池の高効率化に関する研究』上田泰弘（電子情報工学専攻２期生）

○日本塑性学会学生奨励賞：『エクストロールフォーミングに関する研究』大矢一幸（機械制御工学専攻２期生）

平成７年度

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『1/f ゆらぎ照明における安らぎ効果の実験的検討』
大塚智仁（電子情報工学専攻３期生）

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『重み値可変機能を有するνMOS 回路』小林　淳（電子情報工学専攻４期生）

○電気学会論文発表賞：『アモルファス太陽電池モジュールの温度効果についての実験的検討』
山崎章史（電子情報工学専攻４期生）

平成８年度

○日本塑性加工学会学生奨励賞：『微細穴加工に関する研究』松下幸平（機械制御工学専攻４期生）

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『イオンアシスト蒸着法を用いた有機薄膜太陽電池に関する研究』
青柳倫太郎（電子情報工学専攻５期生）

○電気化学会技術・教育研究懇談会奨励賞：『二液分離型p-n 接合光化学ダイオードによる水分解』
深町純子（化学工学専攻４期生）

平成９年度

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『フッ素系Li イオンゲルの電気的特性』
李京浩（電子情報工学専攻６期生）

○日本化学会年会ポスター賞：『カルボキシル基を有するオリゴメリックなフルオロシランカップリング剤の表面特性と抗エイズウイルス活性』河井義和（化学工学専攻６期生）．

平成 10 年度

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『フラーレン導入ＰＵＥの高電界現象とアクチュエータへの応用』
祐源秀行（電子情報工学専攻６期生）

○電気関係学会関西支部連合大会奨励賞：『漏れ電流を補償した多値メモリの一構成法』
山口賢一（電子情報工学専攻６期生）

○電子情報通信学会関西支部学生会支部長賞（功労賞…学会活動）：山口賢一（電子情報工学専攻６期生）

○電気化学会技術・教育研究懇談会奨励賞：『金属塩化物黒鉛層間化合物の光電気化学的挙動』
浜田洋司（化学工学専攻６期生）

平成１１年度

○日本化学会近畿支部第１回工業高等専門学校生研究発表会支部長賞受賞：『抗ガン活性なセグメントを有する含フッ素オリゴマー類の合成とDNA との相互作用』池野宏司（化学工学専攻８期生）

平成１２年度

○材料技術研究協会・２０００材料技術研究協会討論会ポスター賞『抗ガン活性なセグメントを有する新しい含フッ素オリゴマー類の合成とＤＮＡとの相互作用』池野宏司（化学工学専攻８期生）

○人工知能学会・第１４回全国大会優秀論文賞『RAE-PIA:報酬獲得効率を最大化する政策の強化学習』
石村健二（電子情報工学専攻８期生）

○電子情報通信学会関西支部支部長賞（奨励賞）『銀行小切手画像からの文字と印影の分離抽出』
森本大樹（電子情報工学専攻８期生）

平成１３年度

○材料技術研究協会・２００１ 材料技術研究協会討論会ポスター賞『フルオロアルキル基含有 N-(1,1-ジメチル-3-オキソブチル)アクリルアミドオリゴマーによるチトクロームc およびα-キモトリプシンの有機溶媒への可溶化』

（出典　平成１７年度専攻科特別研究概要集，　pp. ６３－６４）

資料５－６－②－３　最近の学会発表受賞者一覧

■最近の学会発表受賞者一覧

平成14年度

●電気関係学会関西支部連合大会奨励賞「省自由度四脚ロボットの歩行パターンの進化的獲得」中田佳孝（機械制御工学専攻10期生）

●電気関係学会関西支部連合大会奨励賞「フラレノール添加(PUE) のアクチュエータ機能と圧電効果(III)」中間勇二（電子情報工学専攻10期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第8回研究発表講演会　支部長賞「情景画像からの道路標識検出手法の考察」横地裕次（電子情報工学専攻10期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第8回研究発表講演会　功労賞「情景画像中の特定領域に対する認識処理の応用に関する考察」不殿健治（電子情報工学専攻10期生）

●材料技術研究協会·2002年度　材料技術研究協会学生論文賞「アンモニウムセグメントを有するフルオロアルキル基含有N-(1,1-ジメチル-3-オキソブチル)アクリルアミドオリゴマーおよびメチルセルロース誘導体の合成と応用―表面抗菌活性材料および含フッ素高分子ゲルへの展開―」村井田佳（化学工学専攻10期生）

●材料技術研究協会·2002　材料技術研究協会討論会ポスター賞「フルオロアルキル基含有オリゴマー類によるフラーレンの水への可溶化」飯塚淳一（化学工学専攻11期生）

平成15年度

●平成15年電気関係学会関西支部連合大会支部長賞「文字の配置特徴と形状特徴を用いた文字領域候補検出についての考察」浦西友樹（電子情報工学専攻11期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第9回学生会研究発表講演会支部長賞·功労賞「形状特徴を用いた非文字領域除去処理による文字列領域抽出の高精度化」浦西友樹（電子情報工学専攻11期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第9回学生会研究発表講演会支部長賞·奨励賞「銀行小切手からの記入文字の分離抽出」前川裕俊（電子情報学専攻11期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会 第9回学生会研究発表講演会部長賞·奨励賞「自由手書き文書からの筆跡抽出に関する研究」竹本和正（電子情報学専攻12期生）

●化学工学会·化学工学会関西支部支部長賞「レーザー透過法を用いた気泡径、気泡上昇速度、気液界面積の同時測定」木原澄人（化学工学専攻11期生）

●2003材料技術研究協会討論会ポスター賞·ゴールド賞「フルオロアルキル基含有オリゴマー類によるカーボンナノチューブの水および有機溶媒への可溶化」飯塚淳一（化学工学専攻11期生）

●2003材料技術研究協会討論会ポスター賞·ゴールド賞「2003材料フルオロアルキル基含有N-(1,1-ジメチル-3-オキソブチル)アクリルアミドオリゴマーが形成する分子集合体とフルオレセインとの相互作用」藤沢明子（化学工学専攻11期生）

平成16年度

●電気学会優秀論文発表賞「宇宙用太陽電池の電子線照射による放電現象」宮本英明（電子情報学専攻12期生）

●第7回化学工学会学生発表会（西日本地区）優秀賞「気泡塔で培養したアガリクス菌糸による有効成分の生産に及ぼす操作条件の影響」山神啓輔（化学工学専攻12期生）

（出典　独立行政法人国立奈良工業高等専門学校専攻科２００６，　p.１４）

資料５－６－②－４　平成１７年度電子情報工学専攻学外実習ガイダンス・事前研修報告書

２．２　平成１７年度　電子情報工学専攻　学外実習ガイダンス・事前研修報告書

２．２．１　電気工学科系　学外実習報告書　　報告責任者（　大谷　真弘　）

１ 学外実習報告会
実施日時：　2005 年 12 月 22 日（木）（ 15 ： 00 ～ 16 ： 30 ）
実施場所：電気工学科棒 2 階情報処理実習室，　参加教員数：　4 名
発表学生数：　計　9 名（専攻科 1 年 8 名該当者中 8 名，2 年 1 名該当者中 1 名）
参加学生数：　計 12 名（専攻科 1 年 8 名中 8 名，2 年 4 名中 1 名，専攻科進学予定 4 名中 3 名）
＊該当者：学外実習の単位未修得者
報告会の概要：
　発表時間：8 分，質疑応答：2 分を目安として PowerPoint によるプレゼンテーション形式で行った．また，発表予稿として学外実習報告書（A4 2 枚）を提出させた．なお，本科 5 年生の専攻科進学予定者も積極的に質問を行っていたため，学外実習への意識を高める良い機会になったと感じられた．

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：
専攻間：
　特になし

専攻内/学科内：
　報告会の開催時期が遅くなってしまったことが反省点である．年度当初からある程度計画をたてておくべきであったと思います．また，教員への参加を働きかける必要があるように感じます．

２．２．２　情報工学科系　学外実習報告書　　報告責任者（　小山　専攻科委員　）

１．情報工学科内ガイダンス
実施日時：　2005 年　6 月　13　日（月）（15:00　～　15：30　）
実施場所：　41 教室　，講師名（所属）：　上田教授（情報）
参加学生数：　計　2 名（　専攻科　1 年　5 名中　0 名，2 年　2 名中 2 名）
参加教員数：　2 名
ガイダンスの概要：
　研修にあたっての心構え，学外実習報告書の作成についてなど

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：
専攻間：
特になし

専攻内/学科内：
　本年度は本科のインターンシップ担当との連携がうまく取れなかったため，4 年生と合同の事前指導に参加しない者が出たり，報告書のフォーマットが未決定で，結果として報告書のレベルが低い物になったりした．

２．学外実習報告会
実施日時：　2006 年　12　月　8　日（木）（　14:55　～　15：55　）
実施場所：　専攻科南棟視聴覚室　，　参加教員数：　8 名
発表学生数：　計　7　名（　専攻科 1 年　5　名該当者中　5　名，2 年　2 名該当者中 2 名）
参加学生数：　計　8　名（　専攻科 1 年　7　名中　5　名，2 年　7 名中　3　名）
＊該当者：学外実習の単位未修得者
報告会の概要：
　発表時間 7 分，質疑応答 3 分，合計 10 分
　パワーポイントによる発表
　発表前刷り 2 枚

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：
専攻間：
特になし

専攻内/学科内：
　報告会の日程は，可能なら 4 年生と合同で行っていただきたい．4 年生と同じ研修先の場合もあり，別の日に行うと案内状の送付の都合もある．無理な場合は，前期末の予備日が候補になるか．

（出典　平成１７年度学外実習報告書「専攻科」，　p. １７１）

資料５－６－②－５　平成１７年度機械制御工学専攻学外実習ガイダンス・事前研修報告書

平成１７年度　専攻科学外実習ガイダンス・事前研修報告書

報告責任者（　和田　専攻科委員　）

１．専攻科委員会としての事前指導

●4月11日　2年生対象のガイダンス（14：40～）
機械制御工学専攻―12名実施済み/13名中，
電子情報工学専攻―10名実施済み/11名中，
化学工学専攻―3名実施済み/7名中，
合計25名実施済み/31名中
＊実施済み：本科4年，あるいは専攻科1年での単位修得者

●4月11日　1年生対象のガイダンス（15：40～）
機械制御工学専攻―8名実施済み/20名中，
電子情報工学専攻―1名実施済み/15名中，
化学工学専攻―0名実施済み/5名中，
合計12名実施済み/40名中
＊実施済み：本科4年での単位修得者

●6月30日　14：40～　専攻科学外実習事前指導
出席者　：27名出席/34名該当者（欠席専攻科1EI―1名，1C―1名，2EI―1名，2C―4名）
実施内容：ビデオ等（5Sを成功させる　製造業の根づくり）
＊該当者：学外実習の単位未修得者

●7月7日　本科との合同講演会
出席者　：33名出席/34名該当者（欠席専攻科2C―1名）
＊該当者：学外実習の単位未修得者

●10月18日
学外実習実施状況調べ
30名実施出席/34名該当者（未実施　1MS―1名，2MS―1名，2C―2名）
＊該当者：学外実習の単位未修得者

●2月2日　14：40～
学外実習ガイダンス（1年生対象）

２．各専攻の状況

２．１　平成１７年度　機械制御工学専攻　学外実習報告書

報告責任者（　和田　専攻科委員　）

１．学外実習報告会

1.1　実施日時：　2005年　10月　20　日（木）（　10:00　～　12:00　）
実施場所：　専攻科情報処理室　，　参加教員数：　18　名
発表学生数：　計　10　名　（　専攻科1年　12　名該当者中　10　名，2年　1名該当者中0名）
参加学生数：　計　32　名　（　専攻科1年　20　名中　18　名，2年　15名中　14　名）
＊該当者：学外実習の単位未修得者
報告会の概要：
　発表時間5分，質疑応答2分，合計7分
　パワーポイントによる発表
　発表前刷り2枚

1.2　実施日時：　2006年　1月　19　日（木）（　10:50　～　11:15　）
実施場所：　専攻科情報処理室　，　参加教員数：　17　名
発表学生数：　計　2　名（　専攻科1年2　名該当者中　1　名，2年　1名該当者中1名）
参加学生数：　計　25　名（　専攻科　1年20　名中　10　名，2年　15名中　15　名）
＊該当者：学外実習の単位未修得者
報告会の概要：
　発表時間5分，質疑応答2分，合計7分
　パワーポイントによる発表
　発表前刷り2枚

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：
専攻間：
特になし

（出典　平成１７年度学外実習(インターンシップ)報告書，　p.１７２）

資料５－６－②－６　平成１７年度化学工学専攻学外実習ガイダンス・事前研修報告書

２．３　平成１７年度　化学工学専攻　学外実習ガイダンス・事前研修報告書

報告責任者（　伊月　専攻科委員　）

１．化学工学専攻ガイダンスおよび事前研修

実施日時：　2005 年 7 月 7 日（木）（14:40～16：10）

実施場所：　大視聴覚室

講師名（所属）：　廣安勝志氏（技術補佐員）

参加学生数：　計 44 名（本科 4 年 46 名中 37 名，専攻科 1 年 5 名中 5 名，2 年 7 名中 2 名）

参加教員数：　3 名

ガイダンスの概要：　研修にあたっての心構え，学外実習報告書の作成についてなど

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：

専攻間：　特になし

専攻内：　時間的な都合がつくようなら，前年度に経験した学生数人からアドバイスを受けるのが良さそうだ．

２．外実習報告会

実施日時：　2005 年 10 月 31 日（月）（14：40～16：50）

実施場所：　本館北棟三階　大会議室

参加教員数：　10 名

発表学生数：　計 39 名（本科 4 年 46 名中 32 名，専攻科 1 年 5 名中 5 名，2 年 7 名中 2 名）

参加学生数：　計 79 名（本科 3 年 40 名中 40 名，本科 4 年 46 名中 32 名，専攻科 1 年 5 名中 5 名，2 年 7 名中 2 名）

＊該当者：学外実習の単位未修得者

報告会の概要：　プログラムにもとづいて報告し，発表時間 5 分（質疑応答含む）以内とした．なお，出席していただいた教員には評価を 5 段階で記入していただき，最終評価の参考資料に供することにした．

来年度への申し送り事項（良かった点，問題点，改善点など）：

専攻間：　特になし

専攻内：　発表人数が増えたので，放課後設定の報告会は実施不可能な状況である．卒研発表会と同様に授業割愛で日時を決めざるを得ない時期にきたと思われる．従って，月間行事予定の中に記載するのがよい．

（出典　平成１７年度学外実習（インターンシップ）報告書，　p. １７３）

観点５－６－③:　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等内容が適切に整備され，活用されているか。

(観点に係る状況)

・シラバスの作成

各授業科目の「達成目標」と「学習･教育目標」との対応が明記されたシラバスが作成されている(資料５－５－②－５～７)。

・シラバスの活用と確認

教員には，シラバス記載の評価方法や各週の授業内容について学生に説明し，それを実行することが求められている。シラバスは本校ホームページにも公開され，学生は選択科目の決定，自学自習，授業計画や評価方法の確認等々のため充分に活用されている。また，教員相互が他科目の状況･情報を知ることにも役立っている。

学生は，シラバスのスケジュールどおりに授業が行われ，その内容について理解したかどうかを，授業ごとに毎回，シラバス内の「自己評価」欄に５段階（４：完全に理解した～０：まったく理解できなかった）で書き込むことになっている。授業最終日には，学生たちの自己評価を担当教員が回収し，次年度，さらに良い授業へと発展させるために，その結果を授業に反映することができる。

学生による専攻科授業アンケート(資料５－６－③－１～２)では，シラバスどおりに授業が行われたかを問う設問が設けられている。また，学生の自主的な取組姿勢や授業に対する積極的な態度に対する項目も設けられている。学生による授業評価(資料５－６－③－３～４)は概ね良好である。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科で行われる全ての科目に関して，学習･教育目標に沿った詳細なシラバスが作成され，活用されている。各科目では，毎週，学生自身が週ごとの項目を理解したかどうか，自己評価を行い，シラバス内に記載する。授業最終日には，学生自身が行った「自己評価」を回収し，次年度以降の参考にしている。

さらに授業アンケートを行い，シラバスどおりに行われたかどうか，そのアンケート結果から授業担当者は次年度の授業にその結果を反映することができる。

以上のことから，教育課程の編成の趣旨に沿って，詳細なシラバスが作成され，準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等内容が適切に整備され，十分に活用されている。

質料５－６－③－１　平成１７年度専攻科授業アンケート

平成１７年度　通年・後期　科目
専攻科授業アンケート（その１）

学年＿＿＿＿　　科目名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Ａから Ｐまでの各設問について、４～１の評点で該当するところに○印を記入してください。
［４：あてはまる　３：ややあてはまる　２：あまりあてはまらない　１：あてはまらない］

		4	3	2	1
（講義について）					
A	講義内容はシラバスと一致していた。				
B	教材（教科書、プリント等）は適切であった。				
C	教員のプレゼンテーション（板書、OHP,プロジェクター等）は適切であった。				
D	演習や課題は適切であった。				
（教員の講義の準備や進め方について）					
E	教員の講義に対する準備は十分であった。				
F	教員は熱心に講義を行った。				
G	教員の説明はわかりやすかった。				
H	講義の進み具合は適切であった。				
（自分自身の取り組について）					
I	シラバスを参考にした。				
J	講義に関係する参考書や文献等を活用した。				
K	講義中に質問や意見を述べた。				
L	総合的に講義には積極的に取り組んだ。				
（講義全般について）					
M	講義がおこなわれた部屋は広さ、設備、環境など適切であった。				
N	講義の内容には興味を持つことができ、レベルは適切であった。				
O	講義内容は将来役に立つと思う。				
P	総合的によい講義と評価できる。				

奈良工業高等専門学校専攻科
授業アンケート（その２：自由記述）
（この授業に対する要望、感想などを自由に書いてください）

学年＿＿＿＿　　科目名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

（出典　専攻科作成資料）

質料５－６－③－２　平成１７年度専攻科授業アンケート(特別実験)

奈良工業高等専門学校専攻科
平成１７年度　授業アンケート（その１）

学年＿＿＿＿　　科目名（ 特別実験 ）

Ａから Ｐまでの各設問について、４～１の評点で該当するところに○印を記入してください。

［４：あてはまる　３：ややあてはまる　２：あまりあてはまらない　１：あてはまらない］

		4	3	2	1
（講義について）					
A	講義内容はシラバスと一致していた。				
B	教材（教科書、プリント等）は適切であった。				
C	教員のプレゼンテーション（板書、OHP,プロジェクター等）は適切であった。				
D	演習や課題は適切であった。				
（教員の講義の準備や進め方について）					
E	教員の講義に対する準備は十分であった。				
F	教員は熱心に講義を行った。				
G	教員の説明はわかりやすかった。				
H	講義の進み具合は適切であった。				
（自分自身の取り組について）					
I	シラバスを参考にした。				
J	講義に関係する参考書や文献等を活用した。				
K	講義中に質問や意見を述べた。				
L	総合的に講義には積極的に取り組んだ。				
（講義全般について）					
M	講義がおこなわれた部屋は広さ、設備、環境など適切であった。				
N	講義の内容には興味を持つことができ、レベルは適切であった。				
O	講義内容は将来役に立つと思う。				
P	総合的によい講義と評価できる。				

奈良工業高等専門学校専攻科
授業アンケート（その２：自由記述）
（この授業に対する要望、感想などを自由に書いてください）

学年＿＿＿＿　　科目名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

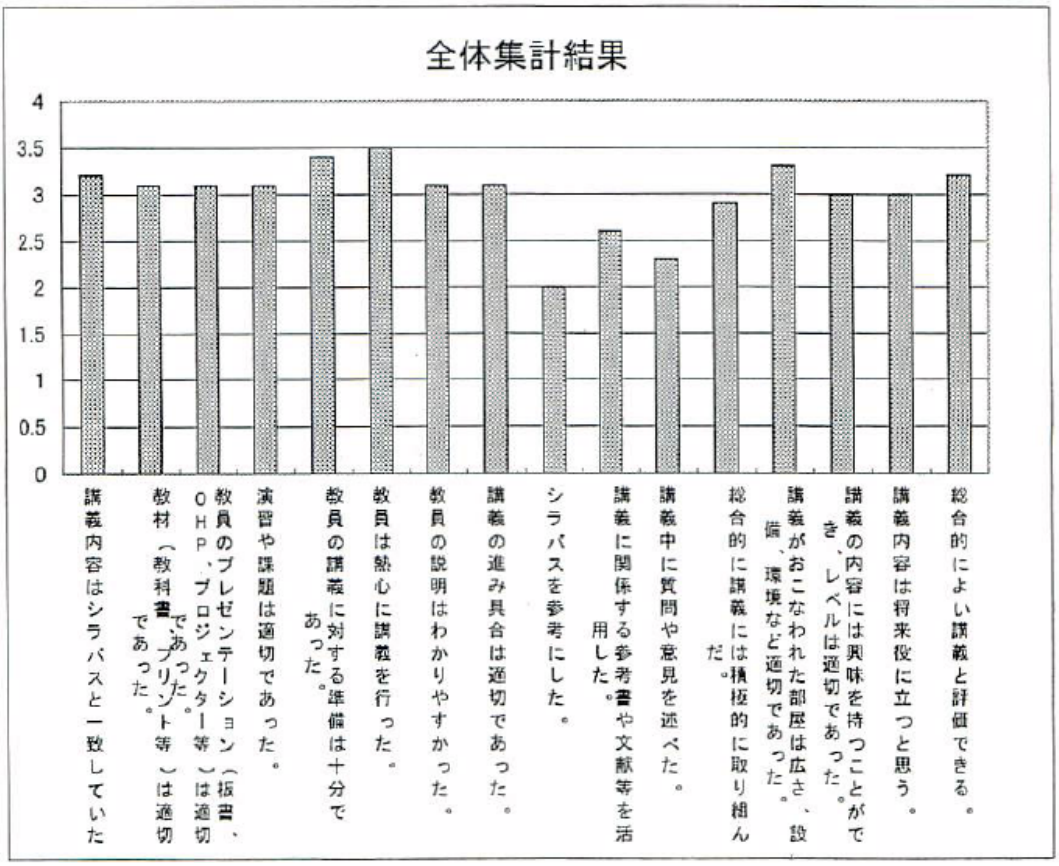
（出典　専攻科作成資料）

質料５－６－③－３　専攻科平成１７年度前期授業アンケート集計結果

平成１７年度前期終了科目のアンケート結果について

全体集計結果

		合計人数	合計点	平均点
A	講義内容はシラバスと一致していた	301	978	3.2
B	教材(教科書、プリント等)は適切であった。	301	942	3.1
C	教員のプレゼンテーション(板書、OHP、プロジェクター等)は適切であっ	301	924	3.1
D	演習や課題は適切であった。	301	936	3.1
E	教員の講義に対する準備は十分であった。	301	1,010	3.4
F	教員は熱心に講義を行った。	301	1,044	3.5
G	教員の説明はわかりやすかった。	301	944	3.1
H	講義の進み具合は適切であった。	301	948	3.1
I	シラバスを参考にした。	301	601	2
J	講義に関係する参考書や文献等を活用した。	300	780	2.6
K	講義中に質問や意見を述べた。	301	701	2.3
L	総合的に講義には積極的に取り組んだ。	301	868	2.9
M	講義がおこなわれた部屋は広さ、設備、環境など適切であった。	300	1,002	3.3
N	講義の内容には興味を持つことができ、レベルは適切であった。	299	900	3
O	講義内容は将来役に立つと思う。	299	894	3
P	総合的によい講義と評価できる。	299	951	3.2

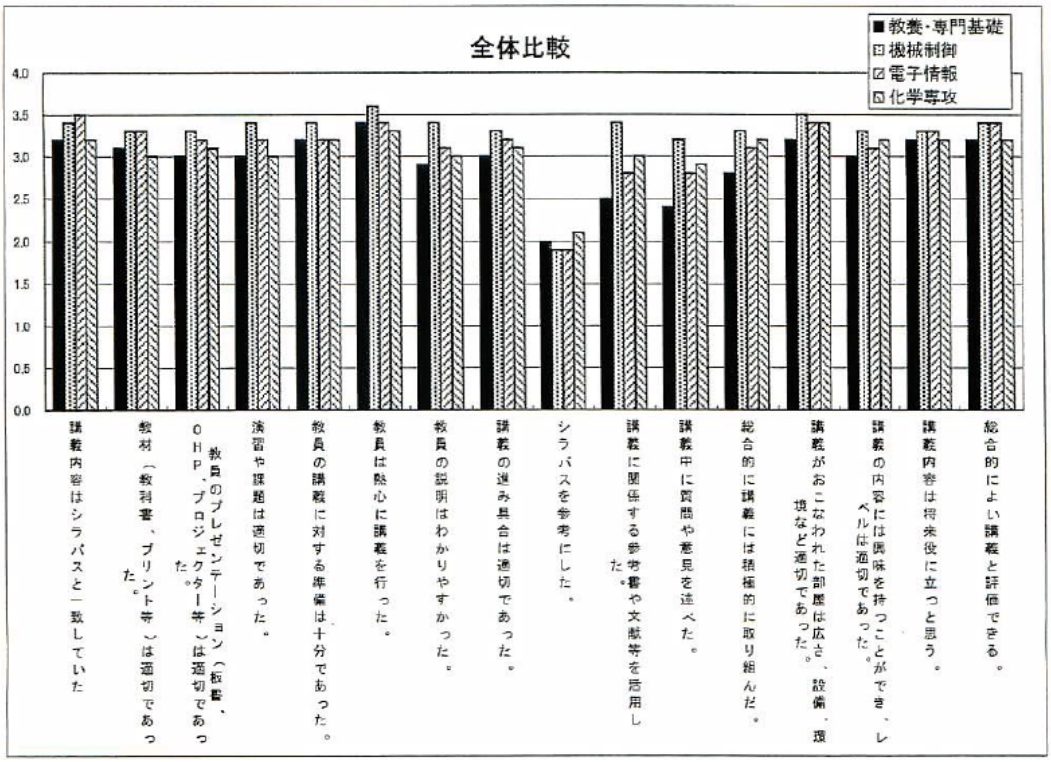


（出典　専攻科作成資料）

質料５－６－③－４　専攻科平成１７年度後期・通年授業アンケート集計結果

平成17年度　専攻科アンケート 後期･通年科目　平均点比較表

	項目	教養･専門基礎	機械制御	電子情報	化学専攻
A	講義内容はシラバスと一致していた	3.2	3.4	3.5	3.2
B	教材(教科書、プリント等)は適切であった。	3.1	3.3	3.3	3.0
C	教員のプレゼンテーション(板書、OHP、プロジェクター等)は適切であった。	3.0	3.3	3.2	3.1
D	演習や課題は適切であった。	3.0	3.4	3.2	3.0
E	教員の講義に対する準備は十分であった。	3.2	3.4	3.2	3.2
F	教員は熱心に講義を行った。	3.4	3.6	3.4	3.3
G	教員の説明はわかりやすかった。	2.9	3.4	3.1	3.0
H	講義の進み具合は適切であった。	3.0	3.3	3.2	3.1
I	シラバスを参考にした。	2.0	1.9	1.9	2.1
J	講義に関係する参考書や文献等を活用した。	2.5	3.4	2.8	3.0
K	講義中に質問や意見を述べた。	2.4	3.2	2.8	2.9
L	総合的に講義には積極的に取り組んだ。	2.8	3.3	3.1	3.2
M	講義がおこなわれた部屋は広さ、設備、環境など適切であった。	3.2	3.5	3.4	3.4
N	講義の内容には興味を持つことができ、レベルは適切であった。	3.0	3.3	3.1	3.2
O	講義内容は将来役に立つと思う。	3.2	3.3	3.3	3.2
P	総合的によい講義と評価できる。	3.2	3.4	3.4	3.2



（出典　専攻科作成資料）

観点５－７－①:　専攻科で修学するにふさわしい研究指導(例えば，技術職員等の教育的機能の活用，複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導等が考えられる。)が行われているか。

(観点に係る状況)

各専攻科における「特別研究」は必修科目であり，２年間で合計１４単位を課している。学生は指導教員から，研究内容だけでなく，専門分野の一般的基礎学力，論文作成，成果発表を通しての文章や図表の表現方法，研究の取組姿勢等について，一対一できめ細かい指導を受ける。指導教員と研究テーマの決定は，シラバスの「講義項目・内容」第１週にあるように，１年次４月当初の各研究室への配属及びガイダンスが行われる。特に他高専からの入学生には，研究テーマや研究室の指導方針等について，各指導教員から説明がなされる。本校出身学生では準学士課程の卒業研究を継続してより深い研究を志向する者が多い。指導教員は，博士の学位を有する教授が専門的知識と研究経験を活かして学生の指導に当たっている。また，学年末には各専攻において，研究成果が公表され，外部からの参加者もあり，広く公開されている。さらに，国内外の学協会で発表し高い評価を受けている専攻科課程学生も多い。

１年生の学年末には中間発表を課し，「研究計画の立案」「実験装置の作成」「実験方法の確立」に関して，その「達成度」について評価する(資料５－７－①－４～５)。修了時には専攻毎に専攻科特別研究審査発表会(資料５－７－①－１～３)が行われ，「研究計画」「研究態度」「論文」「発表能力」について，「評価シート」(資料５－７－①－５)を用いて評価する。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科特別研究では，学生は指導教員から，２年間にわたり，一対一のきめ細かい指導を受ける。シラバス記載の「評価方法」に従って，研究成果の公表が義務づけられ，中間発表会及び特別研究発表会では，複数教員により審査･評価され，論文についても担当教員により審査･評価されている。

以上のことから，本校の専攻科課程では，専攻科で修学するにふさわしい適切な研究指導が十分に行われている。

資料５－７－①－１　機械制御工学専攻　平成１７年度特別研究発表会プログラム

機械制御工学専攻　平成１７年度特別研究発表会プログラム

開催時間：１３：００－１５：２５
開催場所：大講義室，専攻科南棟視聴覚室（発表時間１０分，質疑応答５分）

13:00-13:10　専攻代表挨拶，諸注意・連絡［大講義室］　各会場へ移動

セッションⅠ（機械工学系：専攻科南棟視聴覚室）

13:10-13:25　回転成形によるアルミ合金管の偏心ビード加工に関する研究
梅田昌紀（小畠研究室）

13:25-13:40　薄肉ステンレス鋼管のゴムバルジ加工に関する研究　安田和貴（小畠研究室）

13:40-13:55　小型回流水槽の設計と試作　勝井祐貴（矢尾研究室）

13:55-14:10　＜休憩＞

14:10-14:25　(Ti,W,Si)Nコーテッド超硬工具の切削特性　鹿本直志（和田研究室）

14:25-14:40　アルミニウム合金の表面改質　原本淳史（和田研究室）

14:40-14:55　突起接触モデルに関する研究 ―弾塑性遷移領域におけるトランケーションの影響―
福井淳一（野々垣研究室）

15:10-15:25　講評（専攻代表，参加者）（大講義室）

セッションⅡ（電子制御工学系：大講義室）

13:10-13:25　鬱血防止マットに関する基礎研究　植田尚良（早川研究室）

13:25-13:40　太陽電池の光電変換効率向上に関する研究　江副陸也（押田研究室）

13:40-13:55　垂直軸風車における翼角度制御と風車内部の流れに関する研究
栗本直彰（福田研究室）

13:55-14:10　数値流体解析を用いた低コスト小型水平軸風力発電システムの開発
後藤　守（中田・山本研究室）

14:10-14:25　＜休憩＞

14:25-14:40　魚類における進行波運動推進の推力特性に関する研究　濱添 亮（福田研究室）

14:40-14:55　転倒保護装具に関する基礎研究　廣田彰吾（早川研究室）

14:55-15:10　回転水中紡糸法によって製作されたAg－Pb合金細線の形態と凝固組織
松村礼央（島岡研究室）

15:10-15:25　講評（専攻代表，参加者）（大講義室）

（出典　専攻科作成資料）

資料５－７－①－２　電子情報工学専攻　平成１７年度特別研究発表会プログラム

電子情報工学専攻　平成17年度特別研究発表会プログラム

開催時間:13:00－16:25
開催場所:大会議室

13:00－13:10　電子情報工学専攻代表　挨拶(近藤教授)
13:10－13:15　諸注意・連絡

電子情報工学専攻　2年生特別研究発表(13:15―16:15)　(発表時間12分質疑3分)

(司会:世古教授　進行:小山講師)
13:15－13:30　“低面積オーバヘッドを実現する組込み自己テスト容易化設計の実用化”
発表者　青山　瑠美　(世古・山口賢研究室)
13:30－13:45　“blogを用いた意見集約に関する研究”
発表者　荒田　裕介　(小山研究室)
13:45－14:00　“筆跡鑑定支援システムの開発”
発表者　栗津　優作　(上田研究室)
14:00－14:15　“ユーザの動的な情報を利用した抄録作成”
発表者　橋本　和希　(小山研究室)
14:15－14:30　“複数特徴整合を用いた重ね書き文字の分離抽出”
発表者　堀　元　(松尾研究室)
14:30－14:45　“奈良県のデジタル遺跡地図データベース作成に関する研究”
発表者　細見　裕記　(多喜研究室)
14:45－15:00　＜休　憩＞
(司会:中村助教授　進行:大谷講師)
15:00－15:15　“リモートからのOS指定ブートシステムの開発”
発表者　吉村　裕也　(本間研究室)
15:15－15:30　“パルス電析法によるCo-Pt薄膜磁石の作製”
発表者　甘崎晋次郎　(藤田研究室)
15:30－15:45　“PUEソフトアクチュエータの低電圧駆動化に向けた分子構造制御の研究”
発表者　石田　守　(京兼研究室)
15:45－16:00　“2次元空間上での動的情報を用いた署名照合”
発表者　井本　哲平　(中村研究室)
16:00－16:15　“IH用電源システムの高周波化に関する研究”
発表者　中島　啓介　(井村・石飛研究室)

16:15－16:25　講評(専攻代表，学外参加者)　＜終了＞

(出典　専攻科作成資料)

資料５－７－①－３　化学工学専攻　平成１７年度特別研究発表会プログラム

化学工学専攻　平成１７年度特別研究発表会プログラム

開催時間：１３：００－１４：５５
開催場所：本館北棟１階　物質化学工学科視聴覚・製図室

13:00-13:05　化学工学専攻代表挨拶，諸注意・連絡，

２年生特別研究発表会（発表時間１５分）

13:05-13:20　“マラカイトグリーン誘導体を化学結合した高分子化合物の分子設計と非水溶液中における膜電位応答”　発表者　松井　敏洋　（宇田研究室）

13:20-13:35　“長鎖アルキル基を持つマラカイトグリーンによるベシクル形成の光制御”　発表者　山下　大介　（宇田研究室）

13:35-13:50　“液膜型－銀イオン選択性電極の開発　ニュートラルキャリア化学修飾シリコーンゴム膜の作成とその特性”　発表者　椀田　尚宏　（大植研究室）

13:50-14:05　“CTAB逆ミセル系におけるリパーゼの反応挙動とその立体構造に関する研究”　発表者　竹内　千尋　（直江研究室）

14:05-14:20　“春日山天然林における有機物の供給量及び組成”　発表者　田中　大資　（伊月研究室）

14:20-14:35　“天然林土壌における形態別リン酸量及びホスファターゼ活性”　発表者　矢戸田　俊　（伊月研究室）

14:35-14:50　“新規マカロニ状活性炭の試作と評価”　発表者　堀内　康司　（梅原研究室）

14:50-14:55　講評（専攻代表，参加者）＜終　了＞

（出典　専攻科作成資料）

資料５－７－①－４　特別研究評価シート記入要領

〔非開示につき省略〕

（出典　専攻科作成資料）

資料５－７－①－５　特別研究評価シート

工学専攻　特別研究評価シート

研究テーマ	
学生氏名	
指導教員	
論文審査教員名	

総学習時間:＿＿＿＿＿＿　（総学習時間は、活動記録の累積時間数を記入してください。）
専門分野:　　・
関連科目名:　　、　　、　　、　　、
（特別研究を遂行するにあたり、関連する科目名（5 つ以内）を記入してください。）

評価　（評価表内の各項目は、◎、○、△、×印を判定欄に記入してください。）

項　目	内　　容	判定
取り組み	①研究テーマについて自ら、計画／立案し、積極的に取り組んだ。	
	②研究テーマに関連する情報収集（文献調査を含む）は、行われた。	
	③実験装置、測定機器の原理を理解して操作していた。	
	④討論の場において自らの意見を述べることができる。	
論文	⑤論文構成は、適切である。	
	⑥論文内容は、明快な文章／表現で記述されている。	
	⑦研究目的は、具体的に記述されている。	
	⑧結果の整理／解析には、適切な手法／方法が用いられている。	
	⑨結果に対する考察は、結論を導くものとなっている。	
発表	⑩発表準備（OHP、スライド等）は、十分になされている。	
	⑪発表内容は、聞き取りやすく、わかりやすいものである。	
	⑫質疑応答は、適切に行われた。	

総合評価:　優　・　良　・　可　・　不可　（総合評価は、該当する評価に○印をつけてください。）

特記事項:

備考:　（備考には、学会発表（予定を含む）や共同研究など研究成果を示す内容を記入してください。）

（出典　専攻科作成資料）

観点５－８－①:　成績評価･単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

・規定の策定

単位認定，修了認定については，専攻科学生便覧「奈良工業高等専門学校学則第３８条」(資料５－８－①－１)に記載されている。

「成績の評価及び評定」に関しては，平成１８年度専攻科学生便覧「専攻科の履修に関する規定第６条・第７条」(資料５－８－①－２)に明記されている。各科目においては，シラバスにある「評価方法」に従い，試験の成績及び平素の成績を総合して評価される。

・学生への周知

成績評価，単位認定，修了認定については学生に周知するために，専攻科学生便覧（資料５－８－①－１)に掲載し，説明会を毎年実施している。新入学生に対しては入学オリエンテーション(資料５－８－①－３)において，専攻科主任より説明を行っている。

・規程の運用

単位･修了の認定は，専攻科委員会（資料６－１－①－６）で先議され，その後，運営会議（資料５－３－①－７）を経て，教職員会議（資料５－３－①－７）において審議したうえで校長が決定する。これにより，各科目における評価の厳格性が確保されている。各科目において科目ファイルが義務付けられていて，資料室にて保管される。教職員は資料室において資料を閲覧することができる。これによりシラバス記載の評価基準と方法に従って評価されているかどうか，教員相互により点検が出来る。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科学生便覧には，「専攻科の履修に関する規定」が掲載され，「専攻科新入生入学オリエンテーション」等により，学生への周知が徹底されている。単位及び修了の認定は，専攻科委員会，運営委員会，教職員会議で審議し，校長が決定する。成績評価の厳格性は，教員相互に点検可能なように成績の根拠資料を「科目ファイル」に綴じ，資料室にて閲覧可能にすることで確保されている。

以上のことから，成績評価･単位認定規程や修了規程が組織として策定され，学生に十分に周知されている。また，これらの規程に従って，成績評価，単位認定，修了認定が十分適切に実施されている。

資料５－８－①－１　修了認定について

（修了）

第３８条　学生は，専攻科に２年以上在学し所定の授業科目を履修し，62単位以上を修得するものとする。

２　校長は，前項により所定の科目を修得した者に対し修了を認定し，修了証書を授与する。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧，　p.５０）

資料５－８－①－２　成績の評価及び評定について

（成績の評価及び評定）

第6条　授業科目の成績は，試験の成績及び平常点を総合して，100点法により評価し，次の区分により評定する。

優	100～80
良	79～65
可	64～60
不　可	59～ 0

2　特別研究は，優・良・可・不可で評定する。

3　授業科目の成績原簿への登記は評点で行う。ただし，部外への証明書の交付は，優・良・可・不可の表記とする。

（不合格の科目）

第7条　授業科目の評定が不可の科目は，不合格とする。

（出典　平成１８年度専攻科学生便覧「専攻科の履修に関する規程」，　p.６０）

資料５－８－①－３　平成18年度専攻科新入生入学オリエンテーション案内

平成１８年度専攻科学年当初行事

月　日	行　事　等	会　場　等	対　象　者	備　考
４月７日(金)	入　学　式 （午前１０時～） 終了後　集合写真撮影	第１体育館	新入学者	受　付 9時30分~
	専攻科オリエンテーション （午前１１時～）	専攻科南棟視聴覚室	新入学者	
	専攻別ガイダンス （午前11時40分～）	機械制御　専攻科棟2階講義室 電子情報　専攻科南棟視聴覚室 化学　専攻科南棟1階講義室	新入学者	
	TOEIC IP テスト （午後２時集合）	大視聴覚室	新入学者 新２年生	
４月10日(月)	前期授業開始		新入学者 在学生	
	履修等ガイダンス （午後４時２０分～）	専攻科南棟 視聴覚室	新２年生	
４月11日(火)	履修等ガイダンス （午後１時００分～）	専攻科南棟 視聴覚室	新入学者	

（出典　専攻科作成資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

・ 他大学との相互履修を実施し，他学科･他専攻及び外国の教育機関での修得科目を単位認定している。

・ 英語力強化のため，TOEICの受験を３年～５年及び専攻科全学生に奨励･支援している。

・ 準学士課程では，オフィスアワーや補講，ティーチングアシスタントを利用した補充教育を行っている。

・ 専攻科課程では，PBL形式の科目として「システムデザイン演習」を開設し，グループ作業を通じて創造性が育まれるよう，学生に自主的に取組ませている。

・ シラバスは，FD委員会・教務委員会・専攻科委員会のチェックを受け，ホームページで学内外に公表されている。

・ シラバス内に「自己評価」欄を設け，学生に講義内容と理解度を確認させ，授業最終日には学生達の自己評価を回収し，次年度の授業改善に役立てている。

・ シラバスに関する評価の入った授業アンケート結果は，教室で冊子として開示されている。

・ 成績評価は，教務委員会・専攻科委員会・運営会議・教職員会議で審議され，厳格に行われている。また，成績評価の根拠として，教員相互で点検可能な各科目の「科目ファイル」も利用されている。

(改善を要する点)

･該当なし。

（３）基準５の自己評価の概要

(準学士課程)

教育課程は，学習・教育目標に基づいて体系的に編成されており，インターンシップの活用や TOEIC 試験の結果による単位認定等が取入れられ，社会の要請や学生のニーズに対する配慮がなされている。各授業においては，フィールド型授業，ネイティブによる対話型授業，PBL 型授業等，教育課程を展開するにふさわしい授業形態が整備されている。また，授業内容はシラバスに記載され，授業アンケートを用いてシラバスの活用状況を確認できる体制が整備されている。

成績評価は規程に基づいて行われ，各教科の評価内容の詳細や試験答案の科目ファイル（専攻科課程でも作成）を作成し閲覧可能にすることで厳格性を保っている。進級・卒業に関しては，教務委員会，運営会議，教職員会議において審議され，校長が決定し認定されている。

特別活動は 90 単位時間が確保されており，ロングホームルームを始め，講演会や文化鑑賞会等多様な取組が行われている。生活指導については，学生委員会を中心として，学生の安全面や健康面に配慮した取組を行っており，課外活動においては全教員が顧問になることで，学生の自主的な活動をサポートしている。また，スポーツ大会や高専祭，社会工場見学等多様な学校行事を実施している。この様に，本校では人間の素養の涵養に関する取組が適切に行われている。

(専攻科課程)

教育課程は，準学士課程からの継続性･一貫性が配慮され，学習･教育目標別及び専門分野別に授業科目系統図が整備され，体系性が明示されている。学習･教育目標に応じて，講義科目と演習科目がバランス

よく配置されている。マルチメディア教材を用いる等，学生の興味を引くような教授法によりプレゼンテーションや双方向の質疑討論，意見発表等，少人数であることを活かした授業が多く行われている。また，学生の多様なニーズや社会の動向等に配慮し教育課程を改善していくシステムが機能している。

PBL形式の科目として，「システムデザイン演習」が開設され，問題解決する手段を自らが見つけていく学習プログラムが設定されている。またインターンシップも適切に実施されている。

シラバスは学習・教育目標に沿って作成され，活用されている。

シラバス内に「自己評価」欄を設け，学生に講義内容と理解度を確認させ，授業最終日には学生達の自己評価を回収し，次年度の授業改善に役立てている。

特別研究は指導教員から２年間にわたり，一対一のきめ細かい研究指導を受け，研究成果を公表することが義務づけられており，学協会から表彰される学生も多い。

成績評価・単位認定・修了認定については，準学士の課程と同様に審議される。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程において卒業時における達成状況の把握は，学業成績評価，進級及び卒業の認定に関する規則（資料６－１－①－１）に基づき，以下の手順で実施している。(1)各科目の学習目標や成績評価基準はシラバスに明記され，成績はそれに基づいて評価される。(2)教務委員会で成績評価基準に基づいて卒業に必要な単位の習得状況を把握する（資料６－１－①－２）。(３)運営会議，教職員会議の審議を経て卒業認定される（資料６－１－①－３）（資料６－１－①－４）。

専攻科課程では専攻科の履修に関する規程（資料６－１－①－５）により準学士課程と同様に専攻科委員会，運営会議，教職員会議を経て修了認定される（資料６－１－①－６）（前出資料６－１－①－３，４）。

（分析結果とその根拠理由）

卒業時及び修了時におけるこれらの達成状況については，準学士課程では「教務委員会」で，専攻科課程では「専攻科委員会」において，適切に把握・評価されている。

以上のことから，卒業（修了）時の達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

資料６－１－①－1

奈良工業高等専門学校学業成績評価，進級及び卒業の認定に関する規則（抜粋）

（昭和４６年４月１日制定）

（趣旨）

第1条 奈良工業高等専門学校における試験，学業成績の評価，進級及び卒業の認定等については，この規則の定めるところによる。

（試験）

第2条 定期試験は，学期末に実施する。

2 必要のある科目については，中間試験を実施する。

3 前2項のほか，校長が必要と認めたときは，追試験を実施することができる。

第3条 平素の学業成績で評価し得る科目については，試験の全部又はその一部を実施しないことができる。

（追試験）

第4条 定期試験又は中間試験に欠席した場合，学生は追試験受験願を提出し，校長がやむを得ないと認めたときは，受験することができる。

2 追試験を実施する場合，教務主事は当該科目の担当教員及び学級担任と協議のうえ校長の承認を受けて試験日等を定めるものとする。

3 追試験は，原則として当該学期内に行うものとする。

（試験の成績の評価）

第5条 試験の成績は，その試験の結果に基づき100点法により評価する。

（学年成績の評価及び評定）

第6条 学年成績は，その年度における試験の成績及び平常点（平素の成績及び出席の状況等）を総合して，100点法により評価し，次の区分により優・良・可・不可で評定する。

優　100～80
良　 79～65
可　 64～60
不 可　59～0

2 不可の評定については，次の区分によりAとBに分けて取扱う。

59～40（A）
不 可
39～0（B）

3 卒業研究は，優・良・可・不可で評定する。

4 学年成績を指導要録に記載するときは評点で行う。ただし，部外に通知する必要があるときは優・良・可・不可などの評定によることができる。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料６－１－①－２

〔非開示につき省略〕

（出典　臨時教務委員会議事要録）

資料６－１－①－３

〔非開示につき省略〕

（出典　臨時運営会議議事要録）

資料６－１－①－４

〔非開示につき省略〕

（出典　教職員会議議事要録）

資料６－１－①－５

専攻科の履修に関する規程(抜粋)

（平成４年４月１日制定）

（趣　旨）

第１条　奈良工業高等専門学校(以下「本校」という。)専攻科における履修，試験，学業成績の評価及び修了の認定等については，この規程の定めるところによる。

（履　修）

第２条　専攻科授業科目の履修は学則別表第４および別表第５によるものとする。

ただし，平成１７年度以降の本校からの入学生については，出身学科により別表に定める単位を履修しなければならない。なお，本校以外の高専等出身者については，専攻科委員会が指定する科目を履修するものとする。

２　必要に応じて他専攻の授業科目を履修することができる。

３　履修にあたっては，各学期の始めの指定時期までに履修届を提出しなければならない。

（試験）

第３条　授業科目の成績評価は，授業科目終了期の定期試験により行う。

２　定期試験は，原則として筆記試験とする。ただし，成績評価が筆記試験により難い場合は，口述試験等他の方法に代えることができる。

３　筆記試験は，学科の期末及び学年末試験期間に合わせて実施する。

ただし，特別な試験時間割表は作成せず，教科担当教員が試験期間内の講義時間に実施する。

第４条　定期試験受験に際し不正行為を行った者は，その学期の定期試験の全科目を不合格とする。

（追試験）

第５条　病気その他やむを得ない事由により定期試験を受験できなかった学生に対しては，願い出により追試験を実施することができる。

（成績の評価及び評定）

第６条　授業科目の成績は，試験の成績及び平常点を総合して，100　点法により評価し，次の区分により評定する。

優　100　～80

良　79　～65

可　64　～60

不　可　59　～　0

２　特別研究は，優・良・可・不可で評定する。

３　授業科目の成績原簿への登記は評点で行う。ただし，部外への証明書の交付は，優・良・可・不可の表記とする。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料６－１－①－６

〔非開示につき省略〕

（出典　専攻科委員会議事要録）

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作等の内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程学生の進級状況を（資料６－１－②－１）に示す。各学年の進級率は３学年（90%）をを除き94%以上と高い。本校では技術士第一次試験合格者（資料６－１－②－２）及び機械設計技術者試験の合格者もいる（資料７－１－④－２）。

卒業研究の一部は学会発表を行い，これまでに学会発表賞を受賞している。（資料６－１－②－３）に情報工学科５年生の学会発表リストを示す。

専攻科修了生の学士取得率は高く，100%となっている（資料６－１－②－４）。また，専攻科生の研究成果の発表実績と最近の学会発表受賞者一覧を（資料６－１－②－５）に示す。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程学生の卒業研究は学会発表を行い，これまでに学会発表賞を受賞している。また，専攻科学生は学協会で研究成果の発表も多数行われており，多くの賞を受賞している。これらは準学士課程学生の卒業研究，専攻科課程学生の特別研究の内容・水準が高いことを示している。

以上のことから各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，単位取得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究等の内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－②－１

進級・卒業状況一覧表（平成17年度）

学年	学 科	年度当初学生数	進級者数（卒業者数）	進級率（卒業率）	留年者数	休学による留年者	退学者	死亡による除籍
1年	機械工学科	43	41	95.3	1		1	
	電気工学科	43	39	90.7	3		1	
	電子制御工学科	42	42	100.0				
	情報工学科	42	42	100.0				
	物質化学工学科	43	42	97.7	1			
	小　計	213	206	96.7	5	0	2	0
2年	機械工学科	39	36	92.3	2		1	
	電気工学科	46	41	89.1	3		2	
	電子制御工学科	42	42	100.0				
	情報工学科	42	39	92.9	1	1	1	
	物質化学工学科	38	35	92.1	2		1	
	小　計	207	193	93.2	8	1	5	0
3年	機械工学科	46	45	97.8			1	
	電気工学科	36	35	97.2	1			
	電子制御工学科	41	40	97.6		1		
	情報工学科	47	33	70.2	7	4	3	
	物質化学工学科	40	36	90.0	1		3	
	小　計	210	189	90.0	9	5	7	0
4年	機械工学科	37	37	100.0				
	電気工学科	45	44	97.8			1	
	電子制御工学科	43	42	97.7	1			
	情報工学科	36	32	88.9	4			
	物質化学工学科	46	40	87.0	3	1	2	
	小　計	207	195	94.2	8	1	3	0
1～4年	機械工学科	165	159	96.4	3	0	3	0
	電気工学科	170	159	93.5	7	0	4	0
	電子制御工学科	168	166	98.8	1	1	0	0
	情報工学科	167	146	87.4	12	5	4	0
	物質化学工学科	167	153	91.6	7	1	6	0
	合　計	837	783	93.5	30	7	17	0
5年	機械工学科	48	48	100.0				
	電気工学科	39	39	100.0				
	電子制御工学科	40	40	100.0				
	情報工学科	37	37	100.0				
	物質化学工学科	29	27	93.1			2	
	合　計	193	191	99.0	0	0	2	0
総　計		1030	974	94.6	30	7	19	0

（出典　教務係作成資料）

資料６－１－②－２　技術士第一次試験合格証

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　JABEE 自己点検書）

資料６－１－②－３

'情報工学科 ５年生学会発表記録　－平成16年度～１７年度－

	－平成１６年度	賞
(1)	杉本真崇，近藤勝也，”TSPを用いたサーボモータの周波数応答測定”，電気学会関西支部平成１６年度高専卒業研究発表会，講演番号６（講演論文集p11），2005.3.11講演.	
(2)	古川修平，　世古忠，"優先順位付き置換法を用いたＬＵＴ型ＦＰＧＡの最適化",第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.17,2005-3講演.	
(3)	市川まどか，　世古忠，"ＳＰＦＤを用いたＬＵＴ型ＦＰＧＡの消費電力削減法の検討"，第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.18,2005-3講演.	
(4)	木浦幹雄，　世古忠，"ＡＥＳ暗号回路におけるSubBytes部の低消費電力化"，第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.23,2005-3講演.	◎
(5)	熊谷篤志，　世古忠，"冗長２進乗算回路の低消費電力化の検討"，第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.??,2005-3講演.	
(6)	西口侑太，多喜正城，”ＡｒｃＧＩＳを用いた奈良県の地理情報システムの開発，及びそのシステムのＷＥＢ公開”，教育システム情報学会，第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会，2005.3.5.講演.	
(7)	坂本一仁，多喜正城，”発表題目：「ＧＩＳを用いた地震が奈良県の歴史的遺産に及ぼす影響に関する研究”，教育システム情報学会，第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会，2005.3.5.講演.	
(8)	エディソン，多喜正城，”奈良高専の地理情報システムのデータベースに関する研究”，教育システム情報学会，第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会，2005.3.5.講演.	
(9)	東田真由香，多喜正城，”歴史的風土特別保存地区帳票のインターフェース開発に関する研究”，教育システム情報学会，第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会，2005.3.5.講演.	
(10)	上田克幸，松尾賢一，”情景画像中のテクスチャ領域除去に関する研究”，電子情報通信学会関西支部学生会 第10回学生会研究発表講演会，D1-4，2005.3.8講演.	◎
(11)	大倉伸広，松尾賢一，”形状特徴を用いた非文字領域除去処理による文字列領域抽出の高精度化Ⅱ”，電子情報通信学会関西支部学生会 第10回学生会研究発表講演会，D1-5，2005.3.8講演.	
(12)	山口和之，松尾賢一，”重ね書きされた文字情報の分離抽出Ⅲ”，電子情報通信学会関西支部学生会 第10回学生会研究発表講演会，D1-2，2005.3.8講演.	
(13)	佐々木章人，山口賢一，”一般ビット幅に対する制御信号線を利用したテスト容易化設計法に関する研究”，第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.27，2005.3.8講演.	
(14)	吉田宣司，山口賢一，”テスト容易化設計支援システムの構築に関する研究-設計アルゴリズムの自動適用システムの構築-”，第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.19，2005.3.8講演.	
(15)	松村暢也，山口賢一，”テスト容易化設計支援システムの構築に関する研究-BIST評価システムの自動化-”，第１０回電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.20，2005.3.8講演.	

	－平成１７年度－	賞
(1)	奥村哲也，近藤勝也，”TSP法を用いた周波数応答測定のシミュレーション”電気学会関西支部平成17年度高専卒業研究発表会，講演番号９（講演論文集p.17），2006.3.10講演.	
(2)	小崎勇輝，　世古忠，"ファンアウト数に着目したLUT型FPGAの最適化",電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.18,2006-3講演.	
(3)	中川知砂，　世古忠，"BDDを用いたAES暗号回路におけるSubBytes部の低消費電力化"，電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.19,2006-3講演.	
(4)	酒井亮太、世古忠，"冗長２進乗算回路の構成法による低消費電力化の検討",電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.20,2006-3講演.	
(5)	宮崎珠季，　世古忠，"静的ハフマン符号用可変長符号デコーダの低消費電力設計"，電子情報通信学会関西支部学生会講演論文集p.21,2006-3講演.	
(6)	中久保佳幸，松尾賢一”，非文字領域除去処理による文字列領域抽出処理の改良”，電子情報通信学会関西支部学生会 第11回学生会研究発表講演会，D2-2，2006.3.10講演	

H18.6.5作成(近藤)　　◎印：　電子情報通信学会関西支部長賞　奨励賞受賞.　↑

（出典　情報工学科作成資料）

資料６－１－②－４

専攻科 休学・留年・退学・卒業・学士取得状況

区　分		機械制御工学専攻	電子情報工学専攻	化　学　工学専攻	合　　計
平成12年度生	入学者	18	11	10	39
	休学者	2			2
	留年者	1			1
	退学者		1		1
	卒業者	15	10	10	35
	学士取得	15	10	10	35
平成13年度生	入学者	11	15	5	31
	休学者				
	留年者				
	退学者				
	卒業者	11	15	5	31
	学士取得	11	15	5	31
平成14年度生	入学者	15	14	11	40
	休学者			1	1
	留年者				
	退学者	1		1	2
	卒業者	14	14	9	37
	学士取得	14	14	9	37
平成15年度生	入学者	15	12	8	35
	休学者				
	留年者				
	退学者		1		1
	卒業者	15	11	8	34
	学士取得	15	11	8	34
平成16年度生	入学者	14	11	7	32
	休学者				
	留年者	1			1
	退学者				
	卒業者	13	11	7	31
	学士取得	12	11	7	30

（出典　専攻科作成資料）

資料６－１－②－５

■最近3年間の研究成果の発表実績

発表先	年度	機械制御工学専攻	電子情報工学専攻	化学工学専攻	合計
学術雑誌論文	平成15年度	2	4	7	13
	平成16年度	0	2	5	7
	平成17年度	0	0	2	2
国際会議口頭発表	平成15年度	2	1	6	9
	平成16年度	4	8	6	18
	平成17年度	3	4	6	13
国内口頭発表	平成15年度	26	35	12	73
	平成16年度	21	31	36	88
	平成17年度	10	47	17	74
その他 (研究紀要,解説等)	平成15年度	1	0	0	1
	平成16年度	0	0	0	0
	平成17年度	3	2	0	5

■最近の学会発表受賞者一覧

平成14年度

●電気関係学会関西支部連合大会奨励賞『省自由度四脚ロボットの歩行パターンの進化的獲得』中田佳孝（機械制御工学専攻10期生）

●電気関係学会関西支部連合大会奨励賞『フラレノール添加(PUE) のアクチュエータ機能と圧電効果(III)』中間勇二（電子情報工学専攻10期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第8回研究発表講演会　支部長賞『情景画像からの道路標識検出手法の考察』横地裕次（電子情報工学専攻10期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第8回研究発表講演会　功労賞『情景画像中の特定領域に対する認識処理の応用に関する考察』不殿健治（電子情報工学専攻10期生）

●材料技術研究協会·2002年度　材料技術研究協会学生論文賞『アンモニウムセグメントを有するフルオロアルキル基含有N-(1,1-ジメチル-3-オキソブチル)アクリルアミドオリゴマーおよびメチルセルロース誘導体の合成と応用―表面抗菌活性材料および含フッ素高分子ゲルへの展開―』村井由佳（化学工学専攻10期生）

●材料技術研究協会·2002　材料技術研究協会討論会ポスター賞『フルオロアルキル基含有オリゴマー類によるフラーレンの水への可溶化』飯塚淳一（化学工学専攻11期生）

平成15年度

●平成15年電気関係学会関西支部連合大会支部長賞『文字の配置特徴と形状特徴を用いた文字領域候補検出についての考察』浦西友樹（電子情報工学専攻11期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第9回学生会研究発表講演会支部長賞·功労賞『形状特徴を用いた非文字領域除去処理による文字列領域抽出の高精度化』浦西友樹（電子情報工学専攻11期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会　第9回学生会研究発表講演会支部長賞·奨励賞『銀行小切手からの記入文字の分離抽出』前川裕俊（電子情報学専攻11期生）

●電子情報通信学会関西支部学生会 第9回学生会研究発表講演会部長賞·奨励賞『自由手書き文書からの筆跡抽出に関する研究』竹本和正（電子情報学専攻12期生）

●化学工学会·化学工学会関西支部支部長賞『レーザー透過法を用いた気泡径、気泡上昇速度、気液界面積の同時測定』木原澄人（化学工学専攻11期生）

●2003材料技術研究協会討論会ポスター賞·ゴールド賞『フルオロアルキル基含有オリゴマー類によるカーボンナノチューブの水および有機溶媒への可溶化』飯塚淳一（化学工学専攻11期生）

●2003材料技術研究協会討論会ポスター賞·ゴールド賞『2003材料フルオロアルキル基含有N-(1,1-ジメチル-3-オキソブチル)アクリルアミドオリゴマーが形成する分子集合体とフルオレセインとの相互作用』藤沢明子（化学工学専攻11期生）

平成16年度

●電気学会優秀論文発表賞『宇宙用太陽電池の電子線照射による放電現象』宮本英明（電子情報学専攻12期生）

●第7回化学工学会学生発表会（西日本地区）優秀賞『気泡塔で培養したアガリクス菌糸による有効成分の生産に及ぼす操作条件の影響』山神啓輔（化学工学専攻12期生）

⑭

（出典　奈良高専専攻科パンフレット）

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程卒業生の進路状況を資料（６－１－③－１）に示す。就職率（就職者数／就職希望者数）及び進学率（進学者数／進学希望者数）は100％を維持している。卒業生の就職先業種別リスト及び編入学先リストを（資料６－１－③－２）に示す。各々の学科の関連分野の企業に多数就職している。

専攻科修了生の進路状況を資料（６－１－③－３）に示し，修了生の就職率及び進学率ともに100％である。

（分析結果とその根拠理由）

卒業生及び修了生の進路先は就職，進学ともに各学科，専攻科の関連分野が中心である。就職率，進学率においても100％の高い水準を示しており，就職先や進学先で本校の教育成果や効果が認められている証である。

以上のことから，教育の目的において意図している養成しようとする人材像について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－③－１

進路状況 Situation of Graduate

進路状況及び求人 After Graduation and Job offer

年度 Year	学科 Department	卒業者数 Number of Graduates	就職者数 Number of Employments	内訳 Detail		求人 Job Offered		進学 Entrants into Univ.
				民間企業 Private Enterprise	官公庁 Government and Municipal offices	企業数 Enterprises	求人数 Situation	その他 Others
S43～H15年度 1968～2003	機械工学科 Mechanical Eng.	2,264	1,787	1,727	60	20,576	21,325	477
	電気工学科 Electrical Eng.	1,383	1,090	1,017	73		19,765	293
	電子制御工学科 Control Eng.	357	171	164	7		2,381	186
	情報工学科 Information Eng.	531	284	282	2		3,574	247
	化学工学科 物質化学工学科 Chemical Eng.	1,086	736	698	38		7,223	350
H16年度 2004	機械工学科 Mechanical Eng.	38	12	11	1	541	400	26
	電気工学科 Electrical Eng.	37	20	19	1		386	17
	電子制御工学科 Control Eng.	43	15	14	1		294	28
	情報工学科 Information Eng.	41	17	17			292	24
	物質化学工学科 Chemical Eng.	31	9	9			257	22
計 Total		5,811	4,141	3,958	183	21,117	55,897	1,670

（出典　平成17年度学校概要）

資料６－１－③－２

大学編入学状況 Entrance into University

大学 University		年度 Year	S43~H14年度 1968~2002	H15年度 2003	H16年度 2004	合計 Total
国立 National	長岡技術科学大学	Nagaoka Univ. of Technology	133 (85)	2	2 (1)	137 (86)
	豊橋技術科学大学	Toyohashi Univ.of Technology	160 (103)	11(7)	13 (5)	184 (115)
	北海道大学	Hokkaido Univ.	4			4
	室蘭工業大学	Muroran Institute of Technology	1 (1)			1 (1)
	帯広畜産大学	Obihiro Univ. of Agriculture and Veterinary Medicine	1			1
	北見工業大学	Kitami Institute of Technology	2			2
	東北大学	Tohoku Univ.	6 (1)		1	7 (1)
	秋田大学	Akita Univ.	7 (1)			7 (1)
	福島大学	Fukushima Univ.	1			1
	埼玉大学	Saitama Univ.	1			1
	千葉大学	Chiba Univ.	7 (3)		2	9 (3)
	筑波大学	Tsukuba Univ.	3			3
	東京農工大学	Tokyo Univ. of Agriculture and Technology	56 (30)			56 (30)
	電気通信大学	The Univ. of Electro-Communications	15 (10)			15 (10)
	東京工業大学	The Tokyo Institute of Technology	13 (3)	2 (1)	1	16 (4)
	東京大学	Univ. of Tokyo	2	1		3
	図書館情報大学	Univ. of Library and Information science	3			3
	山梨大学	Yamanashi Univ.	3 (2)			3 (2)
	茨城大学	Ibaraki Univ.	2			2
	群馬大学	Gunma Univ.	1			1
	静岡大学	Shizuoka Univ.	2			2
	信州大学	Shinshu Univ.	2 (1)			2 (1)
	新潟大学	Niigata Univ.	7 (3)			7 (3)
	富山大学	Toyama Univ.	3			3
	金沢大学	Kanazawa Univ.	46 (1)	2 (1)	3 (1)	51 (3)
	福井大学	Fukui Univ.	7 (2)			7 (2)
	岐阜大学	Gifu Univ.	6	1 (1)		7 (1)
	名古屋大学	Nagoya Univ.	4	1		5
	名古屋工業大学	Nagoya Institute of Technology	12			12
	三重大学	Mie Univ.	29 (2)	2	2	33 (2)
	滋賀大学	Shiga Univ.	1			1
	京都大学	Kyoto Univ.	12	1		13
	京都工芸繊維大学	Kyoto Institute of Technology	21	2	4	27
	京都教育大学	Kyoto Univ. of Education	2			2
	大阪大学	Osaka Univ.	59	11	12	82
	大阪外国語大学	Osaka Univ.of Foreign Studies	1			1
	神戸大学	Kobe Univ.	38	4	3	45
	神戸商船大学	Kobe Univ.of Mercantile Marine	2			2
	奈良女子大学	Nara Women's Univ.	12			12
	和歌山大学	Wakayama Univ.	7 (4)	2	2 (1)	11 (5)
	鳥取大学	Tottori Univ.	2			2
	岡山大学	Okayama Univ.	58 (16)	2	2	62 (16)
	広島大学	Hiroshima Univ.	27		1	28
	山口大学	Yamaguchi Univ.	13 (2)			13 (2)
	徳島大学	Tokushima Univ.	28 (18)	1	2 (2)	31 (20)
	香川大学	Kagawa Univ.	2			2
	愛媛大学	Ehime Univ.	9	2		11
	九州大学	Kyusyu Univ.	1	1	1	3
	九州工業大学	Kyusyu Institute of Technology	24 (34)		1 (1)	25 (35)
	佐賀大学	Saga Univ.	9 (1)			9 (1)
	長崎大学	Nagasaki Univ.	1 (1)		1	2 (1)
	熊本大学	Kumamoto Univ.	1		1	2
	鹿児島大学	Kagoshima Univ.	4 (1)			4 (1)
	小　計	Subtotal	883 (325)	48(10)	54(11)	985 (346)
公立 Public	大阪府立大学	Univ.of Osaka Prefecture	38 (10)	4	1	43 (10)
	大阪市立大学	Osaka City Univ.	3	2	2	7
	都立科学技術大学	Tokyo Metropolitan Institute of Technology	2			2
	滋賀県立大学	Univ. of Shiga Prefecture		1	1	2
	姫路工業大学	Himeji Institute of Technology	4		1	5
	広島市立大学	Hiroshima City Univ.	5			5
	小　計	Subtotal	52 (10)	7	5	64 (10)
	私立大学	Private Univ.	34 (15)	4 (3)	7 (3)	45 (21)
	その他の大学	The Other Univ.	1			1
	小　計	Subtotal	35 (15)	4 (3)	7 (3)	46 (21)
	合　計	Total	970 (350)	59 (13)	66(14)	1095 (377)

(　　)は推薦入学で内数　(　　) entrance of recommendation

（出典　平成17年度学校概要）

資料６－１－③－２

業　種　別

区分	43～16年度					17年度				
	機械	電気	制御	情報	化学	機械	電気	制御	情報	化学
建設	119	93	6	11	15	0	1	0	0	0
食料品	27	21	3	1	23	3	2	0	1	2
繊維	58	6	5	1	53	2	1	0	0	2
パルプ・紙	27	6	3	0	26	0	0	0	0	0
化学	145	61	12	4	343	1	3	0	1	8
ゴム	46	9	0	0	10	1	0	0	0	0
ガラス・土石	36	10	1	3	12	1	0	0	0	0
鉄鋼	46	9	2	3	4	0	0	0	0	0
非鉄金属	17	15	0	2	4	0	0	0	0	0
金属	48	4	1	3	10	0	0	1	0	0
機械	329	44	28	8	44	4	3	4	0	0
電気機器	289	358	40	68	59	2	3	2	3	1
輸送用機械	203	48	2	3	7	4	1	3	0	0
精密機器	81	41	9	2	14	2	1	0	1	1
その他製造	62	24	8	6	27	0	0	0	0	0
商業	59	28	4	3	22	0	0	0	0	0
運輸	25	37	5	12	0	0	2	0	1	0
通信	8	53	11	46	2	0	1	0	2	0
電気・ガス	20	71	6	13	4	2	2	0	0	0
官公庁	61	74	7	2	38	1	0	0	0	1
サービス	64	75	30	93	24	0	1	3	3	0
コンサルタント	7	6	1	0	2	0	0	0	0	0
情報関連業	0	10	0	17	0	0	0	0	1	0
その他	22	7	1	0	2	0	0	1	0	0
計	1,799	1,110	185	301	745	23	21	14	13	15

（出典　学生課資料）

資料６－１－③－３

専攻科修了者の進路（奈良高専）

年度	専攻名	進路 就職	人	進学	人	その他	人
平成15年度	機械制御工学	㈱川崎造船	1	大阪大学大学院	1	職場復帰	1
		シャープ ㈱	1	早稲田大学大学院	2	奈良高専研究生	1
		住友デザインエンジ㈱	1	立命館大学大学院	1	その他	1
		㈱フジキン	1	岡山県立大学大学院	1		
		キトー鉄鋼㈱	1	奈良先端科学技術大学院大学	1		
		計	5	計	6	計	3
	電子情報工学	シャープﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱ㈱	1	奈良先端科学技術大学院大学	6		
		オムロンソフトウェア㈱	1	京都大学大学院	1		
		デンソーテクノ㈱	1	早稲田大学大学院	1		
				大阪市立大学大学院	1		
				九州工業大学大学院	1		
				大阪大学大学院	1		
		計	3	計	11	計	0
	化学工学	アイテック㈱	1	大阪市立大学大学院	1	弘前大学研究生	1
		藤沢ビジネスサービス㈱	1	京都工芸繊維大学大学院	3		
		カツラギ工業㈱	1	北陸先端科学技術大学院大学	1		
		計	3	計	5	計	1
	合　計		11		22		4
平成16年度	機械制御工学	アンドールシステムズ㈱	1	大阪大学大学院	2		
		㈱ＩＮＡＸ	1	京都工芸繊維大学大学院	1		
		シャープ㈱	1	九州工業大学大学院	1		
		デンソーテクノ㈱	1	同志社大学大学院	1		
		㈱西島製作所	1	東京工業大学大学院	1		
		㈱放送映画製作所	1	奈良先端科学技術大学院大学	1		
		公務員	1	早稲田大学大学院	1		
		計	7	計	8	計	0
	電子情報工学	ＮＯＫ ㈱	1	大阪大学大学院	1		
		シャープ㈱	2	奈良先端科学技術大学院大学	2		
		デンソーテクノ㈱	1	北陸先端科学技術大学院大学	1		
		㈱トヨタテクノサービス	1				
		㈱フューチャーインフィニティ	1				
		松下システムテクノ㈱	1				
		計	7	計	4	計	0
	化学工学	カツラギ工業㈱	1	大阪市立大学大学院	1		
		㈱ティエスティ	1	京都工芸繊維大学大学院	1		
				神戸大学大学院	1		
				筑波大学大学院	1		
				東京工業大学大学院	1		
				奈良先端科学技術大学院大学	1		
				福井大学大学院	1		
		計	2	計	7	計	0
	合　計		16		19		0
平成17年度	機械制御工学	大阪精工（株）	1	大阪大学大学院	3		
		（株）ヤマトエスロン	1	九州工業大学大学院	1		
		シャープ（株）	1	京都工芸繊維大学大学院	1		
		大阪ガス（株）	1	奈良先端科学技術大学院大学	1		
		住友ゴム工業（株）	1	広島大学大学院	1		
				立命館大学大学院	1		
		計	5	計	8	計	0
	電子情報工学	松下システムテクノ（株）	1	奈良先端科学技術大学院大学	5		
		（株）ＮＥＣシステム建設	1	大阪大学大学院	1		
		アタカ工業（株）	1	大阪市立大学大学院	1		
		デンソーテクノ（株）	1				
		計	4	計	7	計	0
	化学工学	（株）カネカ	1	大阪市立大学大学院	2		
		第一工業製薬（株）	1	京都工芸繊維大学大学院	2		
		岡村製油（株）	1				
		計	3	計	4	計	0
	合　計		12		19		0

（出典　専攻科作成資料）

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

学生による卒業時（修了時）の学習達成度評価として，最近5年間の卒業生（修了生）に対してアンケート調査を行った。調査結果（抜粋）を（資料６－１－④－１）に示す。また，平成１６年度から「学習目標達成度自己評価シート」を用いて，定期試験ごとに達成度を評価している。また，シラバスにも自己評価欄を設け，学生自身に評価を行わせている。

（分析結果とその根拠理由）

卒業時における学生による達成度評価では，問５における４段階の基準で全回答の平均が「エ．教養に関する基礎学力」，「ク．表現力」に関して評点が低いものの，それ以外では2.5以上の達成度となっている。また，「問16　入社時，あるいは大学等入学時における実力」，「問17　企業における仕事ぶり，あるいは大学等での学習能力」に関しても「十分」と「おおむね十分」で約半数を占めており，「普通」まで含めると85%程度の卒業生（修了生）が目標を達成していると判断している。このことから，学生が行う学習達成度評価等から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－④－1　アンケート調査結果

【問5】 奈良高専在学時に身に付けた学力、資質・能力は、十分に身に付いていますか？

	4:十分身に付いている	3:やや身に付いている	2:すこし身に付いている	1:身に付いていない	評点
ア. 思考能力	43	110	34	6	2.95
イ. 創造力	29	99	52	13	2.68
ウ. 実践力	56	89	37	10	2.94
エ. 教養に関する基礎学力	22	77	76	17	2.45
オ. 専門に関する基礎学力	51	85	49	5	2.93
カ. 自ら学習する能力	47	82	52	11	2.8
キ. 目的意識	46	82	54	10	2.8
ク. 表現力	23	71	82	15	2.46
ケ. 倫理観	33	81	61	17	2.59

【問16】 入社時、あるいは大学等入学時において、奈良高専卒業生（修了生）の実力は、十分身に付いていますか？

回答	十分	おおむね十分	普通	やや不十分	わからない
回答数	23	70	63	20	10
割合	12.4%	37.5%	33.9%	10.8%	5.4%

【問17】 奈良高専卒業生（修了生）の仕事ぶり、あるいは大学・大学院在籍中の学習能力は、十分ですか？

回答	十分	おおむね十分	普通	やや不十分	わからない
回答数	31	79	60	11	10
割合	16.2%	41.4%	31.4%	5.8%	5.2%

（出典　運営会議作成資料）

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取り組みとしては，就職先の企業に対するアンケート調査（資料６－１－⑤－１）や求人のために来校される企業の方に直接話を聞く等を実施している。また，運営諮問会（外部評価）を実施し，本校卒業（修了）生に関する意見を聞いている（資料11－２－①－１）。

（分析結果とその根拠理由）

就職先の企業に対するアンケート結果では，各項目に関して高い評価結果となった。その中で「ク.表現力」だけが平均値よりやや高いとなっている。また，「問１６　入社時の学生の能力」，「問17仕事ぶり」に関しては「満足」と「おおむね満足」あわせて90％近い割合であり，卒業（修了）生の学力や資質・能力は企業から高く評価されている。このことから本校は進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する等の取組を実施しており，また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

資料６－１－⑤－1　アンケート調査結果

【問5】 奈良高専卒業生(修了生)が在学時に身に付けた学力、資質・能力が、貴社の業務を遂行する上で、十分に身に付いていますか？

	4:十分身に付いている	3:やや身に付いている	2:すこし身に付いている	1:身に付いていない	評点
ア. 思考能力	13	25	2	1	3.22
イ. 創造力	5	27	8	1	2.88
ウ. 実践力	14	22	4	1	3.2
エ. 教養に関する基礎学力	9	27	4	1	3.07
オ. 専門に関する基礎学力	17	18	6	0	3.27
カ. 自ら学習する能力	19	20	1	1	3.39
キ. 目的意識	15	23	2	1	3.27
ク. 表現力	2	25	13	1	2.68
ケ. 倫理観	14	22	4	1	3.2

【問16】 貴社入社時の奈良高専卒業生(修了生)に、満足してますか？

回答	満足	おおむね満足	普通	やや不満	わからない
回答数	17	18	3	1	0
割合	43.6%	46.1%	7.7%	2.6%	0.0%

【問17】 奈良高専卒業生(修了生)の仕事ぶりに、満足していますか？

回答	満足	おおむね満足	普通	やや不満	わからない
回答数	13	20	4	1	0
割合	34.2%	52.6%	10.5%	2.6%	0.0%

（出典　運営会議作成資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・ 卒業時，修了時における学力等レベル・教育目標の達成度の評価システムが確立しており，学生が希望どおりの進路先に進んでいる。

・ 準学士課程卒業生及び専攻科課程の修了生は就職率，進学率ともに100％である。

・ 準学士課程及び専攻科課程において，日頃の学習成果や研究成果の学会等への発表が積極的に行われており，学協会等から表彰を受けた学生が多い。

・ 学科卒業生，専攻科修了生及び進路先企業から，卒業生や修了生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する等の取組が実施され，高い評価を得ている。

（改善を要する点）

・ 該当なし

（３）基準６の自己評価の概要

本校では進級・卒業（修了）基準が明確に設定され，教育目的に応じた学力や資質・能力及び養成する人材像を学生が身につけたかどうかを把握・評価するための取組が適切に行われている。

単位取得率及び進級率が極めて高いこと，卒業（修了）生の就職率が100％及び進学率が100％の高い水準を維持していること，授業科目の内容や卒業研究・専攻科特別研究の水準から判断して，学校が意図する教育の成果や効果が上がっている。

卒業後の進路については進学の割合がやや多い状況であり，学生が希望する大学，企業等へ進学・就職している。専攻科課程では，大学評価・学位授与機構による学士の学位の授与実績及び各工学分野の学協会等の発表において高い評価・表彰される等を得ていること，さらに平成１７年度から本校の教育プログラムがJABEE認定を受けていること等から判断して，高い水準の教育・研究レベルが維持されている。

卒業生及び修了生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組としては，卒業生及び進路先の関係者に対して種々のアンケート調査を実施しており，企業の人事担当者等から学生の資質や能力についての貴重な意見が寄せられている。卒業生及び修了生は，基礎学力や専門知識，実務（実践的）能力，技術者としての将来性等について多くの企業から高い評価を受けており，このことからも教育の成果が十分に認められる。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

教育理念・方針等は，学校概要（資料７－１－①－１，２），シラバス（資料７－１－①－３，４），学校ホームページや学科ウェブ（資料７－１－①－５，６）等で明示しており，学習を進める上での指針となっている。

準学士課程入学・編入学者の学習を進める上でのガイダンスとして，入学前のオリエンテーション（資料７－１－①－７），入学後のホームルーム（資料７－１－①－８），新入生校内・外オリエンテーション（資料７－１－①－９，１０），情報メディア教育センターオリエンテーション（資料７－１－①－１１）等を実施している。第２～５学年には，年度当初の全校集会で必要な事柄等を説明している（資料７－１－①－１２）。専攻科課程入学者には，入学前後にオリエンテーションを実施している（資料７－１－①－１３）。

準学士課程全クラスで担任制を導入し（資料７－１－①－１４），学生指導必携，身上調書，保護者との懇談会（資料７－１－①－１５，１６，１７）等によってきめの細かい指導をしている。第１～２学年対象に，学年共通試験を実施し（資料７－１－①－１８），家庭学習等の促進を促している（資料７－１－①－１９）。推薦入学者については，前期末及び学年末成績を分析し（資料７－１－①－２０），学力把握の一助としている。第１～３学年には，特別教育活動の時間を利用し，学習の動機付けをしている（資料７－１－①－２１）。第４学年には，本校の教育目標及びJABEE基準に対応した科目履修が行えるようガイダンスを実施している（資料７－１－①－２２）。成績不振学生指導・クラス運営等を支援するため，学級担任・教科担当教員連絡会（資料７－１－①－２３），担任会（資料７－１－①－２４），担任と学科との懇談会（資料７－１－①－２５）等を実施している。専攻科学生の日常的指導は特別研究指導教員があたり（資料７－１－①－２６），懇談会（資料７－１－①－２７）等も実施している。他に，第１学年学生対象のティーチング・アシスタント（ＴＡ）制度（資料７－１－①－２８）や全教員が週に２時間以上対応するオフィスアワー制度（資料７－１－①－２９）等を整備し，これらの改善のためのアンケートも実施している（資料７－１－①－３０，３１）。

また全学生を対象に，学習活動等の優秀者を表彰する各賞を設け，学生の意欲を引き出している（資料７－１－①－３２）。

（分析結果とその根拠理由）

入学前後及び年度当初に学習を進める上での各種ガイダンスやオリエンテーション等が適切に実施されている。一方，学年共通試験，特別活動を利用した学習動機付け，担任を中心とする各種連絡会や懇談会，オフィスアワー，ＴＡ制度等，自主的学習を進める上での相談・助言体制が整備され，機能している。

資料７－１－①－１　学科概要

機械工学科

Mechanical Engineering

機械工学科では、各産業分野における設計開発、生産技術、品質管理などの幅広い分野に対応できる技術者の養成を目標としている。このため、機械工学の基礎的科目に加えて、電子・電気工学の知識を修得させるとともに、情報処理系科目については4年間にわたって講義および演習を行なっている。また、コンピュータ援用技術を導入した設計教育を行うほか、生産にかかわる技術教育を実施している。

さらには、設計・製図から製作に至るプロセスを体験させるなどして、開発能力および創造能力を培わせるとともに、機械技術者としての洗練されたセンスが身につくよう教育内容を充実させている。

The aim of Department of Mechanical Engineering is to educate students to be mechanical engineers adaptable to rapid progress of the industrial technique, who have synthetic judegment, ability to plan, rich creative talent and leadership, which are based on fundamental knowledge and technique of mechanical design, manufacture and control.

For this purpose, after learning the general subjects, e.g. mathematics, physics, chemistry, language study etc., the students are created in fundamental mechanical scholarship, which can be applied to various fields of mechanical engineering, through lectures and practices like the experiments and workshop practice.

（出典　平成17年度学校概要）

資料７－１－①－２　専攻科概要

専攻科案内 Faculty of Advanced Engineering

機械制御工学専攻 Advanced Mechanical Engineering Course

機械制御工学専攻では、(1)機械工学の各分野に詳しく、なかでも機械本体の構造を中心とする設計、開発能力に優れた機械技術者、(2)機械工学の知識を基礎とし、その上に電子、情報等の知識を加えて、システムとして全体をまとめる能力をもった機械技術者、さらには、(3)自動化の進展やコンピュータによる制御技術の発達に対応できる、総合的処理能力をもったメカトロニクス技術者の育成等を目標としている。

教員の研究分野は幅広く、材料開発やメカトロニクス開発での研究も活発である。専攻科学生の特別研究では、機械工学の分野のみならず、電気・電子工学、金属工学、情報処理工学、制御工学、ロボット工学などを含めて幅広い分野から研究テーマを選択することができる。

The course offers subject matters relevant to today's technology in mechanical and control engineering fields. There are three goals in the course. One is training students to design, develop and construct machinery with their knowledge of mechanical engineering. Another is teaching skills necessary to carry out control systems with the help of their knowledge of electronics and information engineering, as well as that of mechanical engineering. The last one is the education of engineers who are able to control structures according to the developments of automatic machineries and control systems aided by computers. The course is involved in a great variety of research works, reflecting the subjects and interests of the staffs, such as engineering materials, automation, robotics, control technology and so on. Students are required to make a thesis work related to the following fields; mechanical engineering, electrical and electronic engineering, metallography, information processing, control and robotics.

（出典　平成17年度学校概要）

資料7－1－①－3　本校の教育目標

本校の教育目標

高等専門学校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的としており，本校は，奈良県唯一の工科系高等教育機関として，奈良県はもとより近隣の府県からも大きな期待を寄せられてきた。

１９８３年には学校の教育理念として「創造の意欲」「幅広い視野」「自律と友愛」を定めた。本校では，激しく移り変わる社会の中，今後も引き続き，その期待に応えるためには，地元企業のみならず，国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていくことを目標としている。

本校は，平成４年に全国の高専に先駆けて専攻科が設置され，本年で１５年目を迎えたが，この間，本科で学んだ教育との関連を重視しつつ，より高度な教育・研究を行ってきた。今後は，専攻科生の定員増も視野に入れ，本科との一層の関係強化を図りながら，JABEE（日本技術者教育認定機構）認定や特別研究の充実を目指し，その成果を学会発表や特許出願等を通して社会に積極的に発信していくことや，近隣の大学等とも連携し，大学院への進学率の向上にも力を入れていきたい。一方，本科の方では，国際社会で通用する人材を養成するためにも，特に低学年教育を重視し，英語等の言語教育，理科教育及び数学教育の拡充と徹底を図りたいと考えている。

【育成しようとする技術者像】

近年の技術は，特定の技術分野だけでは造り出す事は出来ず，幅広い知識をもとに，システムとして考えなければならない。新しいシステム（ハード，ソフトとも）を創成していくためには，幅広い工学基礎能力をベースとし，それぞれが得意とする専門技術を生かし，異なる分野の技術を融合・複合させることが重要となっている。本校では，高専１～３年生までの工学基礎知識ならびに実験等で鍛えた技術をもとに，高専４・５年，専攻科１・２年の４年間で，このような新しいシステムを設計，構築，開発，研究ができる技術者の育成を目標として，全学科，全専攻共通で「システム創成工学」教育プログラム（日本技術者教育認定機構：ＪＡＢＥＥの認定対象）を設定しています。

（出典　平成17年度シラバス（準学士課程））

資料7－1－①－4「システム創成工学」教育プログラムの学習・教育目標

「システム創成工学」教育プログラムの学習・教育目標

システム創成工学教育プログラムでは，以下の知識・能力が習得できるようにプログラム計画・設定しています。

(A) 豊かな人間性，(Humanity)

(A-1)・近隣に存在する古都奈良の豊富な歴史的文化遺産を通して伝統文化の重要性を理解し伝承された技術を通して技術の発展の重要さを理解できる。
・芸術・文化などの学習を通じ、他者・他国の立場に立って，その価値観の違いを認めることができる。

(A-2)・人類の発展に係わる，社会問題や環境問題を地球的な視野で捉えることができる。
・科学技術が自然や人間に及ぼす影響・効果を考慮でき、技術者としての社会的責任を理解することができる。

(B) 工学の基礎知識，(Foundation)

(B-1)・数学(微積分，線形代数，確率統計，数値解析)と自然科学(物理，化学，生物）の知識や思考力により，工学的諸問題の解決に適用することができる。

(B-2)・基礎工学(設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術)の知識を専門工学に応用することができる。
・情報関連機器を駆使し，必要な情報の検索・収集やデータ解析をすることができる。

(C) コミュニケーション能力，(Communication)

(C-1)・日本語による，論理的な記述力を身につけ，技術論文を書くとともに内容について発表・討論することができる。

(C-2)・英語で書かれた文献を読解し，情報収集できる.
・英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。
・英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。

(D) 新規システムを創成する意欲と能力，(Challenging and Creation)

(D-1)・機械工学，電気工学，電子制御工学，信報工学，物質化学工学(化学工学，生物工学を含む)のいずれかの専門分野に精通し，その分野の技術的動向を把握することができる。
・異なる技術分野（融合・複合）を積極的に学習し，新たなシステムの創成に取り組む意欲と能力を養う。

(D-2)・与えられた課題について，自分で問題を探究し，自主的・継続的に問題解決するためのデザイン能力を身につけることができる。
・チームワークにより，定められた条件のもとで，課題を完成させることができる。
・システムの安全性，品質保証，環境負荷，経済性など実務上の問題を理解することができる。

（出典　平成17年度シラバス（専攻科課程））

資料７－１－①－５　教育方針

奈良高専

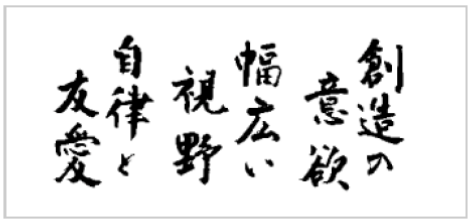
教育方針

奈良高専 narakosen

▶ [受験生の方へ]のページへ戻る　▶ TOPへ戻る

校長挨拶
教育方針
沿革と組織
JABEEへの取り組み
アクセス
Top of English page

本校の教育理念は，次の3つの標語で表しています。



本校の教育理念は，「創造の意欲」，「幅広い視野」，「自律と友愛」の三つの標語で表しています。「創造の意欲」は，技術者としての未知の新しい課題に積極的に取り組み，それを実現できる能力を育成することであり，「幅広い視野」は，単に自己の専門分野の知識のみならず幅広い知識に基づいて物事を多面的に考察し，判断できる能力を育成すること，そして「自律と友愛」は，自己を冷静に見つめ，他人を理解しようとする姿勢を身に付けさせるということです。こうした理念のもとで本校はアドミッションポリシー（学生受入れ方針）として，次の４項目を掲げています。

（1） 技術者としての夢を持ち，情熱を持って自ら勉学に取り組める人
（2） 想像力を生かして新しい技術にチャレンジしたい人
（3） 技術を通して世界に羽ばたきたい人
（4） 技術的好奇心があり，それを実践により確かめたい人

平成16年4月から独立行政法人化にともなって，本校では新しい時代に向けたの指針として，上記教育理念をベースにして「国際社会でも活躍しうる豊かな人間性と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」としています。また，これに基づいて本校は準学士課程（本科）の学習・教育目標を次のとおりとしています。

（1） 社会（伝統・文化・環境等）の発展に貢献できる，豊かな人間性を備えた技術者の育成
（2） 幅広い工学的知識を基礎に，実践能力を備えた技術者の育成
（3） コミュニケーション能力を備えた国際的に活躍できる技術者の育成
（4） 自主的・継続的に学習し，課題解決能力を備えた技術者の育成

五年間の一貫教育を行っています。

高専は高校と短大を合わせただけの学校ではなく，4年制の工学系大学とならぶ独自の教育制度による学校です。
5年間を通して一般科目と専門科目が無理なく組み合わされ、一貫した教育が行なわれています。

実験や実習を重視しています。

高専では、単に理論ばかりでなく，実践的な技術の修得をめざしています。
実験や実習は充実した施設を利用して、個人教育に近い徹底した指導が行なわれています。

心身の充実に力点をおいた教育を行っています。

恵まれた施設によるクラブ活動や、学寮での協同生活を通して、健全な身体と豊かな人間性の確立をはかっています。

奈良高専専攻科でさらに高度な科学技術が学べます。

本校では，卒業後さらに勉学を続けたい人のために専攻科を設置しています。
専攻科では，高専5年間の学習の上にさらに最先端の研究開発能力を身につけます。

大学編入学への途も開かれています。

高専は高校と短大を合わせただけの学校ではなく，4年制の工学系大学とならぶ独自の教育制度による学校です。
5年間を通して一般科目と専門科目が無理なく組み合わされ、一貫した教育が行なわれています。

国際的に通用する技術者育成を目指しています。

日本技術者教育認定機構（JABEE）は，国際的に通用する技術者教育の認定制度です。本校では，4年生から 専攻科2年生までの教育プログラムを「システム創成工学教育プログラム」として整備し，JABEEによる認定を準備中です。
詳しくは、こちらのページをご参照ください。

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/gaiyou/kyouiku.html　　2006/05/26

（出典　奈良高専ホームページ）

資料７－１－①－６　学科概要

abstract　　1/1 ページ

電子制御工学科について

電子制御工学科では，工業技術分野における急速な自動化の進展および**コンピュータ**による制御技術の発展に対応できる総合的な処理能力を持った実践的な**メカトロニクス**技術者の育成を目標としている。このため**メカトロニクス**の分野では不可欠な**機械工学**，**電気電子工学**，**情報処理**，**制御工学**，**ロボット工学**などの基礎知識を習得させた上に，これらを総合的に取り扱えるように指導する。また，実験，実習，演習を通じて各分野および相互間の有機的つながりを実践的に教育することにより総合的な技術力を養う。

The aim of the Department of Control Engineering is to educate students to be practical mechanical-electronical engineers adaptable to rapid progress of automation and computerized control systems in the wide field of industrial technology. For this purpose, students are given several classes on basic technology, mechanics, electricity, electronics, information processing, control engineering, robotics and other essential subjects to mechatronics, and are cultivated their faculties necessary to transact synthetically this technology. Their synthetic abilities are also cultivated by practical learning the relation and the organic connection among the technical fields through the experiments, workshops and practice.

電子制御工学科・専攻科棟

平成15年度卒業旅行　宮古島

システム設計Ⅱ

卒業研究発表会

＜＜戻る

http://www.ctrl.nara-k.ac.jp/abs.html　　2006/04/20

（出典　電子制御工学科ウェブ）

資料７－１－①－７　入学予定者オリエンテーション

新入生用:

目　　次

	ページ
今後の日程	1
入学予定者オリエンテーションまでに提出していただく書類	2
入学予定者オリエンテーション当日（3月23日（水））提出していただく書類	3
入学予定者オリエンテーション当日のスケジュール（機械・電気・電子制御入学予定者）	4
入学予定者オリエンテーション当日のスケジュール（情報・物質化学入学予定者）	5
物品販売案内図	6
オリエンテーション及び諸手続等の場所	6
教科書，教材等の価格明細書	7
入学料及び授業料の免除等について	8
日本学生支援機構等奨学金について	9
健康調査票等の提出物について	10
日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入について	11
入学料及び授業料等諸費用の納入について	12
学生寮（学寮）について（ご案内）	20

提出していただく書類は別冊になっています。

（出典　入学予定者オリエンテーション資料）

資料7－1－①－7　入学予定者オリエンテーション

編入生用：

目　　次

	ページ
今後の日程 ……	1
提出書類一覧 ……	2
入学予定者オリエンテーション当日のスケジュール ……	3
オリエンテーション及び書類提出等の場所 ……	4
入学料及び授業料の免除等について ……	5
日本学生支援機構等奨学金について ……	6
健康調査票等の提出物について ……	7
日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入について ……	8
入学料及び授業料等諸費用の納入について ……	9

提出していただく書類は別冊になっています。

（出典　入学予定者オリエンテーション資料）

資料7－1－①－8　学級担任によるホームルーム

４月７日（金）入学式当日の行事予定

9:30 ～ 10:00	新入生・編入学生・保護者　集合	
10:00 ～ 10:40	入　学　式	（於：第１体育館）
10:40 ～ 11:40	（学　生）	写真撮影
		学級担任とのホームルーム　（於：各クラスルーム）
	（保護者）	教務・学生関係連絡　（於：第１体育館）
11:40 ～ 12:00	（学　生）	授業日までの日程説明及び事務連絡（於：第１体育館）
	（保護者）	学級担任との懇談会　（於：各クラスルーム）
13:30 ～	新入寮生　入寮式	（於：学寮食堂）

（備考）　新入寮生及びその付添いの保護者は，昼食をご準備願います。
なお，学生食堂も営業しております。

（出典　臨時教職員会議資料（平成 18 年 4 月 5 日））

資料7－1－①－9　新入生校内オリエンテーション

平成１７年度新入生校内オリエンテーションの日程

４月１１日（月）

９：００～１０：３５	ホームルーム（教務委員会管轄）…学級担任 **於　各クラスルーム**
１０：４０～１２：１５	学科別学科紹介（教務委員会管轄） 各学科・校内見学等（ゴミ集積場見学も含む）…学級担任・学科主任 **於　各クラスルーム** 学級担任は学科別紹介の司会をお願いします。 学科主任は学科別の紹介をお願いします。 なお，学科主任が出席できないときは，代理の方の出席をお願いします。
１２：１５～１３：００	昼食
１３：００～１５：３０	クラブ紹介（学生委員会管轄）…学生会 **於　大視聴覚室** 学級担任は大視聴覚室までご先導いただき，出欠確認をお願いします。

（出典　臨時教職員会議資料（平成 18 年 4 月 5 日））

資料7－1－①－10　新入生校外オリエンテーション

平成17年度　新入生校外オリエンテーション

平成１７年４月１４日（木）～１５日（金）

信貴山　玉　蔵　院

〒636-0923　奈良県生駒郡平群町信貴山　Tel.　0745-72-2881

【目　　的】

校外オリエンテーションは寝食を共にし、クラスメートや学級担任の先生との交流を通じて、自然に親睦を深め合い、入学時の不安感を一掃して５年間の高専生活の基礎となる仲間づくりを主たる目的としています。

① 研修を通じて友達を作り、お互いの親睦をはかる

研修を通じてお互いをよく知り、認めあい、喜びや悲しみを分かち合い、悩みを聞き、相談し合える間柄にある、新しい仲間づくりを心がけて下さい。

② 奈良高専の学生としての自覚と誇りを持つ

奈良高専は「創造の意欲」、「幅広い視野」、「自律と友愛」を教育目標に掲げています。奈良高専生は「学生」と呼ばれます。（普通の高校生は「生徒」大学生は「学生」）「学生」とは、何事も自分の意志で、自分の責任において実践できる人のことです。晴れて奈良高専の学生となった皆さんは、「学生」と呼ばれることに誇りを持ち、学生としての自覚を持ってオリエンテーションを実践して下さい。

③ 集団生活を通して協力の精神をつちかう

集団で何か目的を達成しようとするときに交わされている約束事を、忠実に誠意を持って履行しましょう。校外オリエンテーションは互いに協力しあって活動します。

準　備・注　意　事　項

【服　　装】

○ 履物は履き慣れたスニーカーやトレッキングシューズとすること。
○ 活動はトレーニングウェアとします。（学力試験後学校で着替えてから、翌日解散するまで着用）
○ 名札は必ず着用すること。

【持　ち　物】

○ １日目の昼食（学校食堂は両日とも営業予定）
○ 学生生活のしおり（必携）
○ 名札
○ トレーニングウェア・運動しやすい靴・靴下・日除けの帽子
　（寒い場合も考えてスウェットシャツ等を余分に１枚用意する）
○ 水筒（２日目は朝食時にお茶を支給）
○ 雨具（レインコート・折りたたみ傘等）
○ 洗面用具（入浴用タオル・汗拭き用タオル等も）
○ 各種着替え（肌着・就寝用服）
○ 健康保険証またはその写し
○ 学生証
○ ホームルーム等で必要なもの（筆記用具・メモ帳・その他）
○ 必要であれば常備薬

【注　意　事　項】

<全体>

○ 健康状態を最良にしておくこと。当日病気などでやむを得ず欠席する場合は、午前9時までに学校へ連絡すること。
　（奈良高専　学生課　0743－55－6034）
○ 缶、ペットボトル、紙等のゴミは各自、分別ごとにわけて処分すること。
○ 各人の持ち物の管理は原則自己管理とします。所持品を確認し名前を記入しておくこと。
○ 現金は必要最小限に留める。（活動中の飲食厳禁・おやつは持参禁止）
○ 荷物はリュックやバッグに一つにまとめること。
○ MDプレーヤー等の娯楽電子機器は持参しないようにすること。
○ 所持品はいつも整理整頓しておき、貴重品は引率の先生に預けるようにして下さい。（入所時など）
○ 事故や病気の時はすぐに引率教官に連絡すること。
○ 活動中は玉蔵院の方々や引率の先生の指示に従って行動して下さい。
○ 活動場所から勝手に離れず、また、一人では行動しないこと。
○ 時間厳守・・・特に、集合、食事時間、入浴時間、消灯・就寝時間、起床時間を厳守して下さい。
○ 施設・設備や周囲の自然等大切にすること。
○ 大変貴重な文化遺産が豊富です。長い年月をかけて引き継がれてきた文化財を大切にするとともに、じっくり鑑賞して下さい。

<1日目>

○ 宿泊棟内は上履き不要です。裸足にならず、靴下を着用すること。
○ 雨天でも雷鳴が出ない限り、境内散策は行います。雨天時の準備は必ずすること。
○ 宿泊室に入室したら、非常口と避難路を確認しておくこと。
○ 入浴後のドライヤーは各自の部屋ですること。

<2日目>

○ 起床後、寝具は敷き布団・掛け布団等種類別にたたんで、整理・整頓し最初と同じ状態にして下さい。
○ 宿泊室や利用した場所は起床後清掃します。

ここでは３つのことを特に意識して実践しましょう。

1. 挨拶を交わしましょう
　これから日没までは　『こんにちは』
　日　没　後　『こんばんは』
　起　床　後　『おはようございます』

2. 感謝の気持ちを表しましょう
　食　事　前　『いただきます』
　食　事　後　『ごちそうさまでした』

3. 時間を守りましょう
　次の活動開始時刻の5分前から準備を始めましょう。
　『一人の遅刻でみんなが迷惑』

（出典　新入生校外オリエンテーションのしおり）

資料7－1－①－10　新入生校外オリエンテーション

新入生校外オリエンテーションアンケート　自由記述用紙
(感想などを自由に書いてください)

学生委員会資料（2005.5.9）

平成１６年度　新入生郊外オリエンテーション総括

1．新入生郊外オリエンテーションの"しおり"（学生配布分）について：
- 地図が見にくい．
- 配置がわかりにくい．
- 記入ミスなどあった．
- 入所式時における"しおり"携行の徹底要．
- "しおり"に氏名欄をつけた方がよい．

2．境内散策について：
- ホームルームの菓子類を減らし､指導ポイントでの配布菓子の量と種類を増やす方がよい．
- クイズ形式など担任に先生には工夫を頂いたが、学生には非常に好評であった．

3．その他：
- 日程等、学生にとってはよい内容であった．
- 入退所式で学生の挨拶を考えてはどうか．
- 健康保険証"コピー"持参することの徹底要．
- 学生服を教室に残すことの説明を"しおり"に入れる．

4．アンケート(自由記述形式)内容について：
- 当初不安もあったが、(多くの) 仲間作りができ楽しかった．
- 友達と話すきっかけとなった。
- 景色（特に、空鉢堂）がよかった．
- お風呂の時間が短かった．
- 境内散策時の菓子を多くしてほしい．
- 全体的に良かったが、十分な視睦を図れたとはいえない．

以上

（出典　学生委員会作成資料）

資料７－１－①－１１　情報メディア教育センターオリエンテーション

平成 18 年４月３日

１学年担任教員　各位

情報メディア教育センター長　木村　倫幸
副センター長　武田　充啓
副センター長　松尾　賢一

新入生の情報メディア教育センターオリエンテーションについて

標記について、下記の日程で新入生（１年生）対象の図書館・総合情報センターのオリエンテーションを、一度“実施いたします”。
各クラスのオリエンテーション当日、担任先生の図書館と総合情報センターに引率のご協力をお願いいたします。

日　程	場　所	１４時４０分	１５時４０分
４月１８日（火）	図書館（大視聴覚）	M（機械）	I（情報）
	総合情報センター（情報処理演習室）	S（電子制御）	E（電気）
４月２１日（金）	図書館（大視聴覚）	……	C（物質化学）
	総合情報センター	……	……
４月２５日（火）	図書館（大視聴覚）	S（電子制御）	E（電気）
	総合情報センター（情報処理演習室）	M（機械）	I（情報）
４月２８日（金）	図書館	……	……
	総合情報センター（LL 教室）	……	C（物質化学）

この件について、ご不明な点などありましたら、
総合情報センター　中裏（内線６１７３）までお手数をおかけしますが連絡お願いいたします。

（出典　情報メディア教育センター運営委員会資料（平成 18 年４月４日））

資料7－1－①－12　年度当初の全校集会

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　臨時教職員会議資料（平成 18 年 4 月 5 日）・教務主事補作成資料）

資料7－1－①－13　専攻科入学式前後オリエンテーション

入学予定者オリエンテーション:

3月23日(水)入学予定者オリエンテーション当日のスケジュール及び諸手続

10:00～10:40　入学料等諸費用の納入手続き(於:福利施設1階学生食堂)

11:00～　入学予定者オリエンテーション(於:専攻科南棟2F視聴覚室)

13:30～　学生寮(該当者のみ)

平成１７年度専攻科学年当初行事

月　日	行　事　等	会　場　等	対　象　者	備　考
4月8日(金)	入　学　式 (午前１０時～) 終了後　集合写真撮影	第１体育館	新入学者	受　付 9時30分~
〃	専攻科オリエンテーション (午前１１時～)	専攻科南棟視聴覚室	新入学者	
〃	専攻別ガイダンス (午前11時40分～)	機械制御　専攻科棟2階講義室 電子情報　専攻科南棟視聴覚室 化学　専攻科南棟1階講義室	新入学者	
4月11日(月)	前期授業開始		新入学者 在学生	履修届 4月19日(火) 提出期限

教科書等の購入については，授業担当教官もしくは掲示（専攻科掲示板）により入学後連絡します。

専攻科オリエンテーション・ガイダンス(学習・教育目標等の説明等):

(出典　専攻科ガイダンス資料)

資料7－1－①－14　学級担任一覧

2.学級担任（○は学年毎の学級担任まとめ役）

	[M]	[E]	[S]	[I]	[C]
（第１学年）	健　本	大　谷	飯　田	小　山	神　澤
（第２学年）	廣	北　川	長　瀬	守　屋	三　木
（第３学年）	小　柴	市　原	中　西	片　山	中　谷
（第４学年）	宮　本	成　田	西　田	近　藤	森
（第５学年）	岩　井	井　村	中　田	世　古	嶋　田

（出典　平成18年度　役付職員，学級担任及び諸会議･各種委員会構成員一覧資料）

資料7－1－①－15　学級担任の役割

第 3 章　学 級 担 任

3－1　学級担任の年間計画 …… 26
3－2　特別教育活動の指導
3－2－1　特別教育活動の目的 …… 29
3－2－2　特別教育活動の成績評価 …… 29
3－2－3　実施計画 …… 29
3－3　学生指導及び学級運営
3－3－1　学生指導 …… 31
3－3－2　学級日誌 …… 31
3－3－3　教室備え付け備品，物品の不足・破損 …… 32
3－3－4　学級費 …… 32
3－3－5　身上調書 …… 32
3－3－6　慶弔 …… 32

－ ii －

3－3－7　保護者懇談会 …… 32
3－3－8　その他 …… 33
3－4　教室・その他の清掃
3－4－1　教室の清掃 …… 33
3－4－2　屋内共通部分の清掃 …… 34

（出典　学生指導必携）

資料7－1－①－16　身上調書

（出典　身上調書）

資料7－1－①－17　保護者との懇談会

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課教務係保存資料）

資料7－1－①－18「学年共通試験」の趣旨及び成績の取扱について

平成１６年３月２日

来年度第１・２学年学級担任各位

教　務　主　事

来年度当初に実施予定の「学年共通試験」の趣旨及び成績の取り扱いについて

今年度より始まった第１・２学年対象の「学年共通試験」ですが、これには以下の目的があります。

①家庭学習を充実させ、その定着をはかる。
　入試、または学年末試験終了後（２月終わり、または３月初め）から新学期が始まる４月初めの間は、授業がなく、家庭学習がおろそかになりがちである。この期間の家庭学習を充実させ、その定着をはかる。

②学力の把握－－学年全体の成績を共通の尺度でとらえる。
　学年を複数の教官で担当している場合、定期試験では学年全体の比較がしにくい。個々の学生の学力を把握するだけでなく、全体的な到達度の設定を見直すための参考とする。

③成績不振者の学習指導の目安とする。
　成績が一定の目標のラインに達しなかった学生には、補習への参加を義務づけるなど、学習指導をするものとする。また、２年生対象のテストでは、科目によっては、成績が一定の目標ラインに達した場合には、前年度の不可Ａの解消に向けて結果を考慮する。

「学年共通試験」は、上の目的を実現するため、学生がテストに向けての学習がしやすいように、あらかじめ課題を与え、その中から出題範囲を決めて行うこととし、確実に準備をさせたいと思います。（連絡については、新２年生に対しては１年次の学年末試験最終日までに各教科から授業中に、新入生に対しては教務主事補から入学予定者オリエンテーション時に行います。）また、学生に学習意欲をもたせるためにも、結果を当該学年の成績に組み込むこととしています。　また、「学年共通試験」は、本校の中学校新学習指導要領対応策［学力の把握、意欲を活かす、家庭学習の定着化］の一環でもあります。

上記の趣旨をご確認いただきますようお願いいたします。新２年生に対しては、すでに出題範囲や課題について各教科から連絡されていますが、担任の先生からも重ねて学生への趣旨説明、試験準備の指示をお願いいたします。

なお、成績の取り扱いについては裏面をご覧下さい。

- 1 -

（出典　教務主事作成資料）

資料7－1－①－19　学年共通試験結果の分析

（3）低学年での学年共通テスト：学生の自学自習の定着を進めるために始めたもので，本年は４月 14 日（木）校外オリエンテーション日の午前中，第１学年（国語，英語，数学）と第２学年（英語，数学，物理）を対象に学年共通テストを実施した。事前に課題を与え，春期休業中においても継続的に学習させる意図で行ったものであり，本共通テストの結果と総括は７月 21 日（木）の月例 FD において各担当者から報告をいただいた。

共通試験（２年生：数学）

1．成績について

昨年度は春休みの課題をこなしていない学生が多く見受けられたため、今年度は課題を提出させた。しかし、５０点未満の学生の多くが課題を十分にこなせておらず、未提出の者や答えだけを写した者もいた。その一方で、広い出題範囲にもかかわらず半数以上の学生が７０点を超えており、課題への取り組み方が成績に大きく反映されたようである。

出題内容	配点	平均点	標準偏差
分母の有理化	5	4.83	1.43
指数の計算	5	3.96	1.98
対数の計算	6	2.83	2.86
三角関数の計算	6×2	9.73	2.13
三角関数の計算（倍角）	6	3.29	2.89
個数の数え上げ（余事象）	6	4.71	2.36
部分分数への分解	6	4.15	2.72
内分点の座標	6	3.01	2.71
２次方程式	6	4.44	2.49
３次方程式	6	4.71	2.3
無理方程式	6	3.18	2.22
連立２次不等式	6	3.22	2.51
円の中心と半径	6	3.57	2.79
円と直線で囲まれる領域の図示	6	3.10	2.33
放物線の平行移動	6	4.01	2.66
放物線と直線の共有点（判別式）	6	2.17	2.34
（合計）	100	64.47	23.55

総得点の分布

得点	100-90	89-80	79-70	69-60	59-50	49-40	39-30	29-20	19-0
人数	32	33	42	26	17	27	9	11	10

2．共通試験の目的の達成度と反省点

家庭での学習に関しては、今年度は課題を提出させたため、多くの学生が取り組んだようである。全体的な傾向としては、上の表からもわかるように、対数の計算方法や判別式の使い方を理解できていない学生が多いことが把握できた。また、５０点未満の学生には再テストを行い、その結果を今後の指導の目安とすることができた。

3．今後の改善点

今年度は課題を十分にこなした学生が多く、更には、昨年度よりも比較的易しい問題が多かったため、平均点が 20 点も上がった。問題の出題範囲を広くしたため、学生が苦手とする問題を洗い出すには良いテストであったと思われるが、もう少し難易度の高い問題を混ぜるのもよいのではないかと思われる。

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－①－20　推薦入学者の前期末成績

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　教職員会議資料）

資料7－1－①－20　推薦入学者の学年末成績

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　教職員会議資料）

資料7－1－①－21　特別教育活動を利用した学習の動機付け

加や，機械工学科１年生に特活の時間を利用して，平成 17 年１月 20 日から２月３日まで３回に渡って機械工学科の教員紹介を行うことによって動機付けを試み，教育目標に掲げる技術者の育成を強化した。さらに，次のような具体的取組を行った。

(1)　第２学年を対象とした進路説明

機械工学科２学年の学生を対象とし，平成１４年度卒業者の進路状況についての説明会を，特別教育活動（特活）の時間を利用し行った。

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料7－1－①－22　選択科目履修説明会及び就職･進学ガイダンスの実施について

平成１７年１１月１５日

第４学年学生諸君

教　務　主　事
学　生　主　事

選択科目履修説明会及び就職・進学ガイダンスの実施について

第５学年で履修する選択科目の説明会及び就職･進学ガイダンスを下記のとおり行うので，必ず出席すること。

記

１．　日時　平成１７年１１月２４日（木）　１４：４０～
２．　場所　大視聴覚室
３．　内容　(1) 選択科目履修説明（一般教科）
４．　　(2) 就職・進学ガイダンス

以上

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－①－23　学級担任･教科担当教員連絡会

（１３）学級担任・教科担当教員連絡会：本年もまた成績不振学生への指導をできるかぎり早い時期に実施するため，後期中間試験終了後冬期休業までの期間に標記連絡会を開催するようにしている。これによって後期中間試験とその成績集計が早まるため，冬季休業中に学生の学習を促す効果となっている。

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料7－1－①－24　担任会

第1回3年担任会メモ

日時：平成１６年6月１７日（木）１５：２０～１６：１０
場所：応接室
主席者：小柴、中西、市原、安田、梅原

話し合い事項
1．諸行事関係について
・卒業生と語る会、特別講演会、秋季社会・工場見学等について

卒業生と語る会は、進路選択のための企画であり、講師の人選は大学院生、企業に就職した者のいずれかであるが、３年生の学生に与える影響はかなり大きい。２名可能であれば、両者の話を聞く機会を与える方がよいのではないか。また、人選の際担任会の要望も聞いて欲しい。

秋季社会・工場見学で招聘する卒業生との懇談は、進路指導の一環であり上記卒業生と語る会と同じ目的である。学生委員会、教務委員会相互の調整で、進路指導の在り方を含めて検討願いたい。４年生での１泊は、必要であるかも含めてお願いしたい。

特別講演会について、今年度は「知的財産権について」の講演であるが、３年生に最適の講演であるか考える余地があるように思える。

以上のような諸行事は、特活の時間帯に実施される場合が多く、特に４月当初の割愛は困る。

2．　クラス運営について
保護者懇談会の持ち方について、３年生各クラスの情報交換を行った。
特に３年生で進路変更する者が多いこと等、指導方法について今後も話し合いを持つこととなった。

以上

（出典　3年担任会資料）

資料7－1－①－25　学級担任と機械工学科との懇談会

(2)　学級担任と機械工学科との懇談会
平成 16 年度は，機械工学科第 2 学年（2M），第 3 学年（3M），第 5 学年（5M）の学級担

（出典　2005年10月自己点検･評価報告）

資料7－1－①－26　特別研究指導教員一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　専攻科委員会作成資料）

資料7－1－①－27　専攻科生との懇談会

平成１７年６月１０日　掲示

専攻科生　諸君

専攻科主任

専攻科との懇談会について

下記により懇談会を開催しますので、全員参加してください。

記

日時　６月１７日（金）１６：３０～

場所　大視聴覚室

（出典　自己点検書(引用･裏付資料編)）

資料7－1－①－28　TA実施計画

2002 年度ティーチングアシスタント（TA）実施計画(案)

○ 実施時期：　6 月 19 日(水)より　　毎週水曜日　7 限目

○ 対象：一年生

○ 対象科目：数学α，β

○ 実施場所：本館北棟３F（選択３，５，ゼミ３）

○ TA 担当教官：池永，荒金，○市原，番原（○：代表者）

○ TA 学生：各科 2 名(専攻科生)　合計 10 名
・専攻科主任に人選依頼（6 月 14 日(金)まで）
・1 年と 2 年生のペアが望ましい．

○ その他：TA 学生に対する連絡は，TA 担当教官より電子メールにて行う．

今後の予定：
・委嘱状交付　6 月 18 日(火)　13：30　応接室集合
・TA 担当教官と TA 学生の打ち合わせ　6 月 18 日(火)　14：00　第 1 会議室

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－①－29　オフィスアワー一覧表

平成１８年度（前期）　オフィスアワー一覧表

多くの教員が入口部分にオフィスアワーを掲示していますので，①教科内容の質問，②学生生活の相談などに積極的に利用して下さい。
教員研究室等の配置については，『学生生活のしおり』に掲載の配置図を参照して下さい。

実施日：4月10日～9月30日

学科	教員名	日時	場所
一般教科	勢田 勝郭	火曜 15:00～17:00	勢田研究室
	武田 充啓	火曜 15:00～17:00	武田研究室
	鍵本 有理	火曜 15:30～17:30	鍵本研究室
	木村 倫幸	月曜 16:00～18:00	木村研究室
	大矢 良哲	水曜 15:00～17:00	大矢研究室
	藤居 岳人	月曜 15:00～17:00	藤居研究室
	北川 誠之助	金曜 15:00～17:00	北川研究室
	荒金 憲一	月曜 15:00～17:00	荒金研究室
	市原 亮	火曜 15:00～17:00	市原研究室
	安田 智之	金曜 15:00～17:00	安田研究室または学習指導室（本館3F）
	長瀬 潤	金曜 15:00～17:00	長瀬研究室
	名倉 誠	水曜 15:00～17:00	名倉研究室または学習指導室（本館3F）
	福嶌 克彦	火曜 14:40～16:30	福嶌研究室
	宮本 止戈雄	月曜 14:40～17:00	応用物理実験室（機械工学科棟2F）または宮本研究室
	堀内 泰男	金曜 15:00～17:30	物理実験室（本館2F）
	榊原 和彦	火曜 15:30～17:30	榊原研究室
	北村 誠	火曜 14:40～16:40	化学実験室（本館3F）
	中西 茂巳	水曜 16:00～18:00	武道場または第1体育館 教員控室
	松井 良明	火曜 16:30～18:30	第1体育館 教員控室
	森 弘暢	月曜 15:00～17:00	第1体育館 教員控室
	守屋 雅博	月曜 14:40～16:40	守屋研究室
	片山 悦男	金曜 15:00～17:00	片山研究室
	神澤 和明	月曜 15:00～17:00	神澤研究室
	金澤 直志	金曜 15:00～17:00	金澤研究室
	桐川 修	水曜 15:00～17:00	桐川研究室
機械	岩井 保善	火曜 16:30～18:00	岩井研究室
	小畠 耕二	火曜 16:30～18:30	小畠研究室
	矢尾 匡永	金曜 16:00～18:00	カウンセリングルーム（凌雲館2F）
	和田 任弘	金曜 15:00～17:00	和田研究室または機械工作実験室（機械工学科棟1F）
	野々垣 稔	月曜 15:00～17:00	野々垣研究室
	小柴 孝	月曜 16:30～18:00	小柴研究室
	坂本 雅彦	金曜 15:30～17:30	坂本研究室
	平 俊男	火曜 15:00～17:00	平研究室
	廣 和樹	月曜 15:00～17:00	廣研究室
		金曜 16:00～17:00	
	酒井 史敏	金曜 16:30～18:30	酒井研究室
	谷口 幸典	火曜 15:00～17:00	谷口研究室
電気	井村 榮仁	月曜 16:30～18:00	井村研究室
	成田 紘一	月曜 14:40～16:40	成田研究室
	京兼 純	水曜 15:00～17:00	京兼研究室
		金曜 15:00～17:00	
	藤井 治久	火曜 16:00～18:00	藤井研究室
	中村 善一	火曜 16:30～18:30	中村研究室
	土井 滋貴	水曜 14:40～17:00	土井研究室
	藤田 直幸	月曜 16:00～18:00	藤田研究室
	桐島 俊之	金曜 15:00～17:00	桐島研究室
	大谷 真弘	火曜 15:00～18:00	大谷研究室
		金曜 15:00～17:00	
	石飛 学	月曜 15:40～17:00	石飛研究室
		火曜 16:15～17:00	
	竹村 憲太郎	金曜 15:30～17:30	竹村研究室

（出典　学生課教務係作成資料・研究室ドア）

資料７－１－①－３０　ティーチングアシスタントアンケート調査と結果

2001 年度ティーチングアシスタント（TA）アンケート結果

○対象クラス：　1M，1S，　1C

○利用状況

6 日以上	21 名
3～5 日	14 名
1～2 日	18 名
0 日	25 名

○アンケート内容およびその回答

	質問	回答
1	利用した感想	・「良かった」，「普通」，「良くなかった」の設問の対し，ほとんどの学生が「良かった」と回答.
2	改善点	・時間設定(木曜日の 8 時限)は，参加しづらい ・教室が狭い ・TA 学生の態度が悪いことがある. ・TA 学生数が参加学生数に対し少ないことがある. ・雰囲気（質問しにくい） ・他の教科も実施してほしい
3	2 年生でも TA があれば参加しますか？	・「はい」，「いいえ」の設問に対し，ほとんどの学生が「はい」と回答
4	後輩にも勧めたいですか？	・「はい」，「いいえ」の設問に対し，ほとんどの学生が「はい」と回答

＊全く利用しない学生に対し，その理由？

・時間の都合がつかない（クラブ，レポート，宿題など).

・自分で勉強したい，数学は良くわかっている.

・数学以外の科目を希望する.

・利用するほどでもない(行くのが面倒).

○TA 学生，TA 担当教官へのアンケート（TA 制度に対する提案，改善点のみ)

・TA 学生の担当期間は，2 年間とするほうがよいのでは？

(2 年目の TA は，1 年目の TA に助言)

・学習目標の設定

・全クラス同一時間帯より，木曜日以外のほうが良いのでは？(会議等と重なる)

・TA 学生の指導.

・1 年生の出席率向上を図る.

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－①－31　オフィスアワー利用度実態調査

オフィス・アワー利用度実態調査

クラス(人数)	3M(40)	%	3E(44)	%	3S(44)	%	3I(39)	%	3C(47)	%	Total (214)	%
有効回答数	38	95	40	90.909	42	95.455	32	82.051	36	76.596	188	87.9

オフィス・アワーの利用頻度

週に1回程度		0	2	5	1	2.381		0		0	3	1.4
月に1回程度		0	7	17.5	1	2.381	1	2.5641	5	13.889	14	6.5
テストごと（年４回程度）	1	2.6316	7	17.5	5	11.905	9	23.077	16	44.444	38	17.8
年1? 2回	7	18.421	6	15	12	28.571	6	15.385	9	25	40	18.7
利用したことが無い	30	78.947	18	45	23	54.762	16	41.026	6	16.667	93	43.5
利用者計	8	21.053	22	55	19	45.238	16	50	30	83.333	95	50.5

オフィス・アワー利用のきっかけ

クラス(クラス別利用者数)	3M(8)	%	3E(22)	%	3S(19)	%	3I(16)	%	3C(30)	%	Total (95)	%
担任・教科担当の勧め		0	3	13.636	1	5.2632		0		0	4	4.2
自主的（成績不振による危機感）	3	37.5	11	50	12	63.158	9	56.25	21	70	56	58.9
友人に誘われて	2	25	4	18.182	4	21.053	2	12.5	5	16.667	17	17.9
先輩の勧め		0		0		0		0		0	0	0.0
その他	3	37.5	4	18.182	2	10.526	5	31.25	4	13.333	18	18.9
教科について質問	2	25	3	13.636	1	5.2632	4	25	3	10	13	13.7
相談		0	1	4.5455		0	1	6.25		0	2	2.1
授業中に尋ねにくい		0		0	1	5.2632		0		0	1	1.1
覚えていない	1	12.5		0		0		0	1	3.3333	2	2.1

教科に関して(複数回答を含む)

クラス(件数)	3M(10)	3E(35)	3S(21)	3I(27)	3C(56)	Total (149)	%
一般教科	7	20	15	18	26	86	57.7
英語		4	1			5	3.4
数学	3	14	13	12	16	58	38.9
物理	3	2	1	5	10	21	14.1
化学	1					1	0.7
国語				1		1	0.7
専門	3	15	6	9	30	63	42.3
材力M	1					1	0.7
交理E		6				6	4.0
電磁気E		3				3	2.0
機構E		3				3	2.0
計工E		1				1	0.7
電磁S			4			4	2.7
電気S			1			1	0.7
回路S			1			1	0.7
プログラミングI				1		1	0.7
計概I				1		1	0.7
論回I				3		3	2.0
回理I				1		1	0.7
物化C					7	7	4.7
無機C					11	11	7.4
有機C					8	8	5.4
化学C					1	1	0.7
実験		1		1	1	3	2.0
覚えていない	2	1		2	2	7	4.7

オフィス・アワーを利用した学生の理解度

クラス(クラス別利用者数)	3M(8)	3E(22)	3S(19)	3I(16)	3C(30)	Total (95)	%
よく理解できた	3	11	8	6	15	43	45.3
少し理解できた	5	8	9	8	14	44	46.3
変わらない		3	2	2	1	8	8.4
満足度	100.0%	86.4%	89.5%	87.5%	96.7%	91.6%	

（出典　教務委員会作成資料）

資料７－１－①－32　学生表彰規程

準学士課程:

別表（第２条、第３条、第４条関係）

表彰の種類		表彰の基準	表彰の期日	推薦者
（第１号）（学業成績）優秀賞		在学５年間において，学業成績が優秀で人物も優れている者のうち，各学科２名以内とする	卒業式	各専門学科科内会議
（第２号）皆勤賞		在学期間中，欠席及び欠課がなかった者	卒業式	教務委員会
（第３号）特別賞	イ	在学期間中，全国高専大会に３回以上出場した者並びに課外活動・学生会・寮生会等において特別な功績があった者	卒業式	各種委員会 各専門学科科内会議 顧問教官
	ロ	全国大会又はこれに準ずる大会において，優勝又は準優勝した個人又は団体	随時	
	ハ	ロに準ずる催し物において，それらと同等と認められる成績を挙げた者		
	ニ	学校内外において特別な善行があった者及び学生の模範として推奨に値する者		

専攻科課程:

研究特別賞（仮称）について

［主旨］　専攻科の二年間において、特に顕著な研究活動があり、人物に秀れたものを修了式で表彰する。

［推薦］　専攻代表は、各専攻において下記の推薦基準のうち、いずれか一つに該当する学生がある場合は、原則として１名を選出し、その事由を添付のうえ専攻科委員会に推薦する。

（１）　査読論文（筆頭著者）１編以上
（２）　学会口頭発表（本人発表）２回以上
（３）　特許（取得または申請中）１件以上
（４）　その他、特に優れた研究成果が認められるもの

［選考］　各専攻から推薦があった場合は専攻科委員会（２月定例）で審議し、運営委員会において決定する。

［表彰］　賞状および副賞（記念品）

［実施］　平成１５年度修了式より

（出典　学生指導必携（平成 16 年 4 月）・専攻科委員会作成資料）

観点７－１－②：　自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

学生の自主的学習に供されている施設は，空調設備を完備した教室等（資料７－１－②－１），情報メディア教育センター（情報処理及びマルチメディア演習室・LL教室）（資料７－１－②－２，３，４），図書館（資料７－１－②－５，６，７），実習工場（資料７－１－②－８，９，１０，１１），学科演習室（資料７－１－②－１２）等である。また，学修単位導入に伴う自学自習室として教室等をあてている（資料７－１－②－１３）。

情報メディア教育センターには，英語学習システム（ALC Network Academy）が導入され（資料７－１－②－１４），授業以外に，昼休みと放課後を開放し，特に，LL教室は，午後８時まで延長開放し自学自習を促進している（資料７－１－②－１５）。情報機器やネットワーク上における個人プライバシーを保護するため，情報セキュリティポリシーを策定・遵守している（資料７－１－②―１６）。

図書館の開館時間は，通常は午後８時まで，土曜日は午後４時３０分まで延長している（資料７－１－②―１７）。館内には，シラバスや特許・知的所有権関係のコーナー（資料７－１－②―１８）等を配している。さらに，各種データベースが利用出来るよう館内にパソコン端末が設置されている（資料７－１－②―１９，２０，２１）。利用を促進するため多読表彰（資料７－１－②―２２），読書感想文コンクール（資料７－１－②―２３），ブックハンティング（資料７－１－②―２４）等を実施し，広報誌（資料７－１－②―２５）を発行している。

厚生施設及びコミュニケーションペースとしては，福利施設（凌雲館）と課外教育共用施設，体育更衣室（資料７－１－②―２６），アメニティ（資料７－１－②―２７），コミュニティスペース（資料７－１－②―２８），学生寮談話室（資料７－１－②―２９）等が整備されている。学生委員会が校内を定期的に巡回・指導している（資料７－１－②―３０）。

施設・設備を時間外に利用する際には，申請により許可している（資料７－１－②―３１）。

（分析結果とその根拠理由）

教室，情報メディア教育センター，図書館，実習工場，学科演習室等が自主的学習環境として整備され，効果的に利用されている。特に，図書館及びLL教室では開放時間を延長し，利用を促進している。厚生施設及びコミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境も整備され，効果的に利用されている。

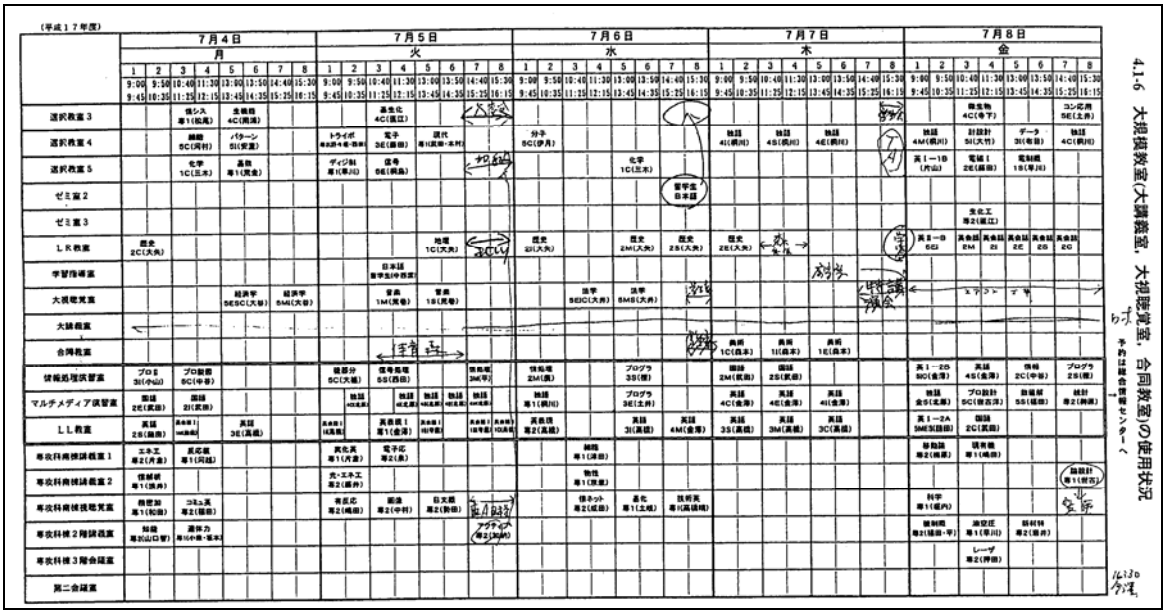
資料7－1－②－1　教室等

教室:

1．６　教室等

快適な学習環境を保証するため，校舎改修に合わせ高学年から空調設備の導入を進めてきたが，本年で１年生のクラスが終了し，専攻科教室と一部実験室を除き全て空調が整備されることとなった。また本年度は，講義棟１階部分の教室・廊下・天井の改修が進められ，老朽化した机と椅子の入れ替え，ブラインドの取り替えを行なった。E-learning を視野に入れたインターネット，視聴覚機器や教材を使う授業が増えてきているので，引き続き本年も，それらが可能となるよう教室の整備を図っている。なお，機械工学科棟の改修とそれに伴うテクノセンターについては，引き続き予算要求中である。

大規模教室:



（出典　2005年10月自己点検・評価報告書・学生課教務係作成資料）

資料7－1－②－2　情報メディア教育センター規程及び概要

新（改定後）
第１条から第３条は現行通り （センター長） 第４条　センターにセンター長を置く。 ２　センター長は，専任教員の中から校長が任命し，任期は２年とする。ただし，１期に限り再任を妨げない。 （第３項は削除） ３　補欠のセンター長の任期は，前任者の残任期間とする。 第５条から第１３条は現行通り。 附　則 この規程は，平成　　年　　月　　日から施行する。

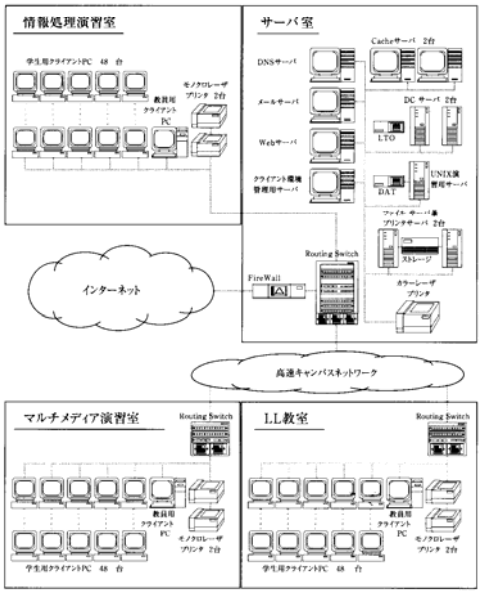
総合情報センター Integrated Media Center

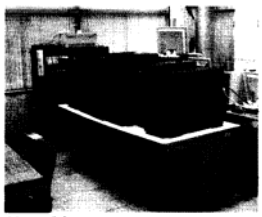
情報処理はあらゆる工学においても基本的な道具として活用され、今日必要不可欠な研究環境の一部として位置付けられています。本校では、総合情報センターがコンピュータ、ネットワーク及びマルチメディアシステムの基盤をサービスしています。総合情報センター内の施設としては、情報処理演習室、特殊端末室、管理室、資料室、マルチメディア演習室、LL教室、大視聴覚室、サーバ室があります。

Information systems have benefited various aspects of our life. Integrated Media Center provides our students opportunities to become better handlers of these systems. At the same time, the center gives academic and educational supports relating to computers, computer networks, and multimedia systems.

Integrated Media Center constitutes of the following: Seminar Room, Administration Room, Computer Library, Multimedia Room, Language Laboratory, Audiovisual Room, and Computer Server Room.

総合情報センターコンピュータシステム構成図





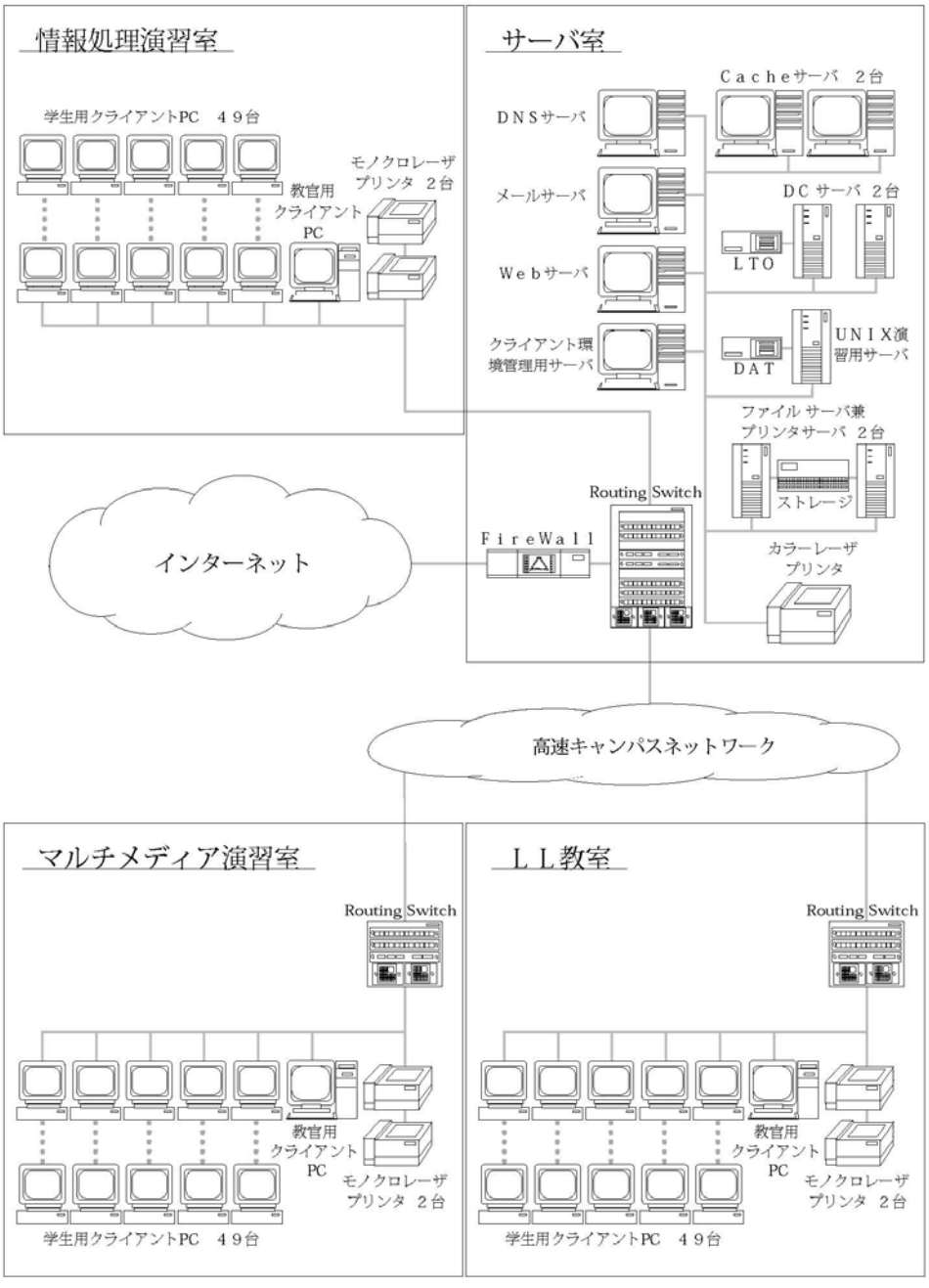
サーバ室 Computer Server Room

演習室 Seminar Room

（出典　奈良高専規程集・平成17年度学校概要）

資料７－１－②－３　情報メディア教育センターシステム構成

総合情報センターコンピュータシステム構成図



（出典　情報メディア教育センターウェブ）

資料７－１－②－４　情報メディア教育センター演習室利用実績

演習室の自由開放について

各演習室は，昼休みや放課後などの授業のない時間に自由に利用できる開放時間を設けています。

- 各演習室の開放時間

情報処理演習室（総合情報センター棟）
平日　9：00～17：00までの授業がない時間

マルチメディア演習室（本館北棟２階）
平日　14：30～17：00までの授業がない時間

ＬＬ教室（図書館棟１階）
月・水・金　14：30～17：00までの授業がない時間

ただし，学校行事日およびシステムメンテナンス日は開放できません。その他，管理の都合により開放できない場合もあります。その場合は，各演習室の入り口付近の掲示で事前にお知らせします。

18.3.9

総合情報センター演習室利用実績表

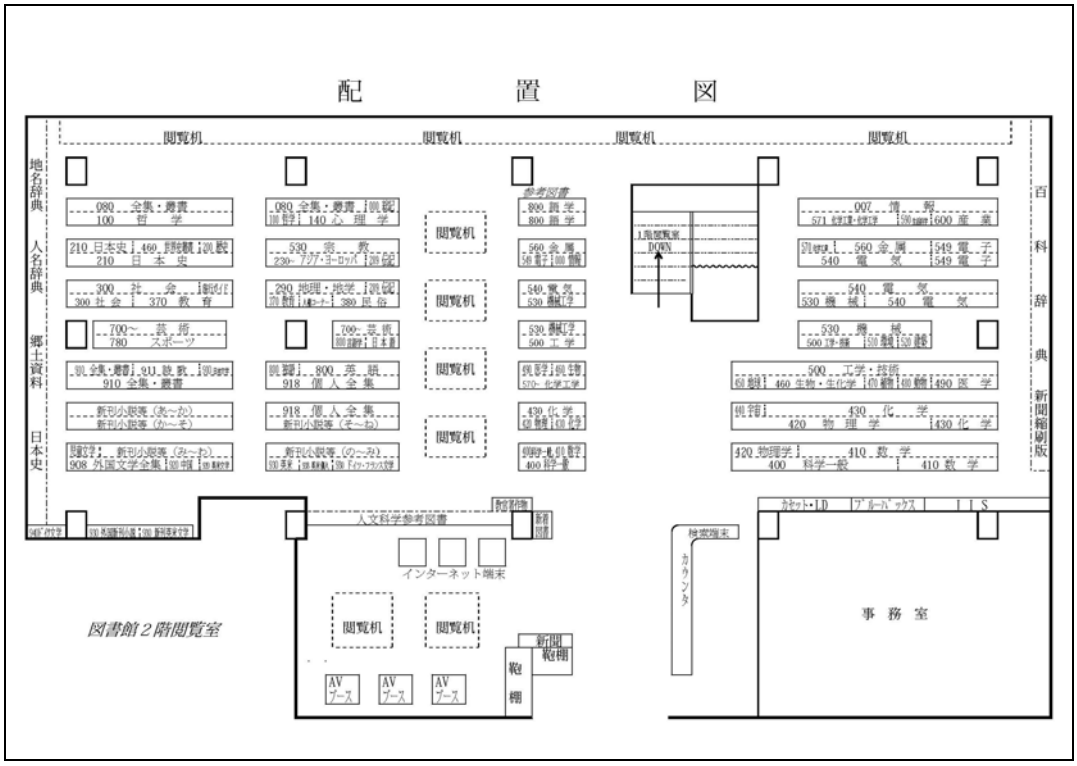
情報処理演習室		
	月日	利用数
1	2006/1/12	61
2	2006/1/13	286
3	2006/1/14	10
4	2006/1/16	157
5	2006/1/17	108
6	2006/1/18	183
7	2006/1/19	104
8	2006/1/20	176
9	2006/1/23	155
10	2006/1/24	141
11	2006/1/25	186
12	2006/1/26	89
13	2006/1/27	228
14	2006/1/30	147
15	2006/1/31	143
16	2006/2/1	197
17	2006/2/2	109
18	2006/2/3	116
19	2006/2/6	165
20	2006/2/7	133
21	2006/2/8	178
22	2006/2/9	94
23	2006/2/10	45
24	2006/2/13	161
25	2006/2/14	175
26	2006/2/15	135
27	2006/2/16	108
28	2006/2/17	169
29	2006/2/22	51
30	2006/2/23	26
31	2006/2/24	68
32	2006/2/27	43
33	2006/2/28	85
34	2006/3/1	73
35	2006/3/2	90
36	2006/3/3	104
総計		4,499

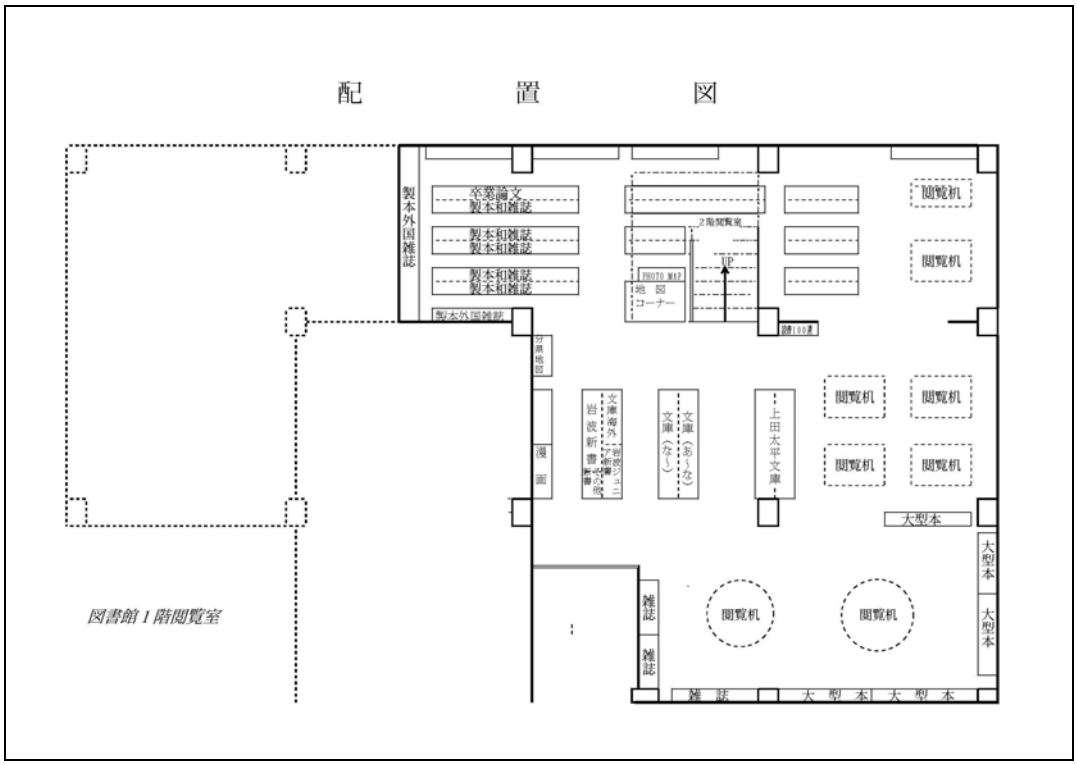
マルチメディア演習室			
	月日	利用数	放課後開放
1	2006/1/12	59	
2	2006/1/13	53	
3	2006/1/16	46	
4	2006/1/17	241	
5	2006/1/18	95	
6	2006/1/19	118	
7	2006/1/20	22	
8	2006/1/23	42	
9	2006/1/24	201	
10	2006/1/25	70	
11	2006/1/26	121	
12	2006/1/27	31	
13	2006/1/30	44	
14	2006/1/31	190	
15	2006/2/1	80	
16	2006/2/2	123	
17	2006/2/3	117	
18	2006/2/6	46	
19	2006/2/7	189	
20	2006/2/8	88	
21	2006/2/9	130	3
22	2006/2/10	17	11
23	2006/2/13	56	8
24	2006/2/14	247	
25	2006/2/15	106	
26	2006/2/16	63	3
27	2006/2/17	66	14
28	2006/2/22	2	
29	2006/2/23	7	
30	2006/2/24	7	
31	2006/2/27	3	
32	2006/2/28	6	
33	2006/3/1	11	
34	2006/3/2	8	
総計		2,705	39

LL教室			
	月日	利用数	時間外開放
1	2006/1/12	41	15
2	2006/1/13	110	
3	2006/1/16	102	
4	2006/1/17	68	24
5	2006/1/18	54	
6	2006/1/19	149	30
7	2006/1/20	91	
8	2006/1/23	108	
9	2006/1/24	125	34
10	2006/1/25	64	
11	2006/1/26	159	17
12	2006/1/27	66	
13	2006/1/30	87	
14	2006/1/31	100	23
15	2006/2/1	78	
16	2006/2/2	178	30
17	2006/2/3	55	
18	2006/2/6	73	
19	2006/2/7	116	26
20	2006/2/8	70	
21	2006/2/9	143	15
22	2006/2/10	43	
23	2006/2/13	74	
24	2006/2/14	111	14
25	2006/2/15	40	
26	2006/2/16	181	20
27	2006/2/17	77	
28	2006/2/22	11	
29	2006/2/23	19	
30	2006/2/24	34	
31	2006/2/27	29	
32	2006/2/28	36	
33	2006/3/1	9	
34	2006/3/2	39	
35	2006/3/3	32	
総計		2,773	248

（出典　自己点検書（引用・裏付資料編））

資料７－１－②－５　図書館配置図





（出典　図書館利用の手引）

資料７－１－②－６　図書館の概要

図書館 Library

図書館は、学生の自主的学習・教養と教員の教育・研究のための共同利用施設です。館内には、落ち着いた快適な閲覧室が設けられ、開架式で下の表で示したような豊富な蔵書を自由に利用することができます。また、視聴覚資料の整備充実にも努力しています。土曜日も開館しています。

開館時間　　平　日　8:30～20:00
　　土曜日　9:00～16:30
　　（日、祝、年末、年始は閉館）

Housing nearly 90 thousand volumes including an extensive collection of pamphlets, journals, serials, newspapers, microform titles, and nonprint materials, the library is for student and faculty research. Many volumes of these collections are found in open stacks (See Table). Besides the latest in technological facilities and services, the library contains 83 individual study carrels that provide privacy and quiet for each student. Audio-visual collections (in the area of movie or music) are also available for student and faculty use. Students may check out up to six books at one time for a two-week period. Photocopies of journal articles may be obtained for free, while others may be obtained for only the cost of the photocopying.

All of the library services allow to students and faculties from Monday to Saturday, except for Sunday, National Holiday, and New Year Holidays (Dec.28 to Jan.4)
Opening hours are as follows:
Monday to Friday 8:30 ～ 20:00
Saturday　　9:00 ～ 16:30

分類 Classification	総記 General Works 0	哲学 Philosophy 1	歴史 History 2	社会科学 Social Science 3	自然科学 Natural Science 4	工学 Engineering 5	産業 Industry 6	芸術体育 Art & Gymnastics 7	語学 Language 8	文学 Literature 9	合計 Total
和漢書 Japanese Books	9,952	3,271	6,840	4,103	15,816	18,865	429	5,009	3,903	14,366	82,554
洋書 Foreign Books	450	300	204	164	2,357	1,479	1	337	1,171	1,429	7,829
合計 Total	10,402	3,571	7,044	4,267	18,173	20,344	430	5,346	5,074	15,795	90,446

平成17年4月1日の蔵書数。雑誌（購入タイトル数）は和雑誌（136冊）・洋雑誌（27冊）である。
The number of volumes was investigated in April 1,2005. Library also contains 136 Japanese magazines and 27 foreign magazines.

平成17年4月1日の蔵書数。雑誌（購入タイトル数）は和雑誌（136冊）・洋雑誌（27冊）である。
The number of volumes was investigated in April 1,2005. Library also contains 136 Japanese magazines and 27 foreign magazines

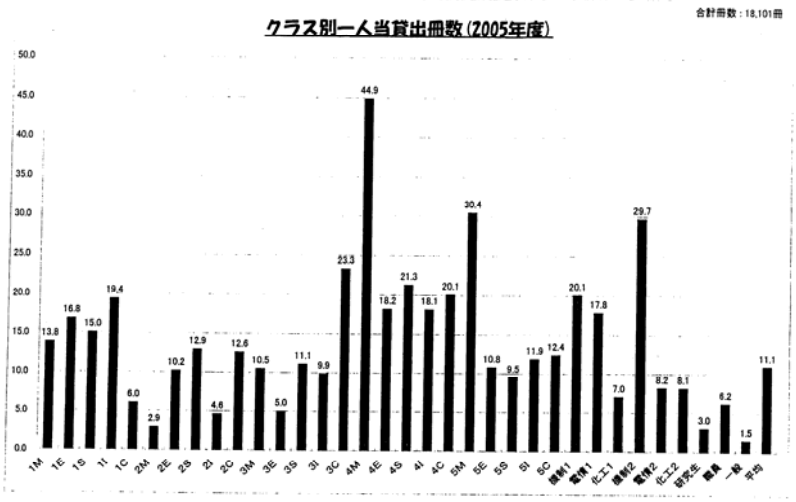
1階閲覧室
Reading Room

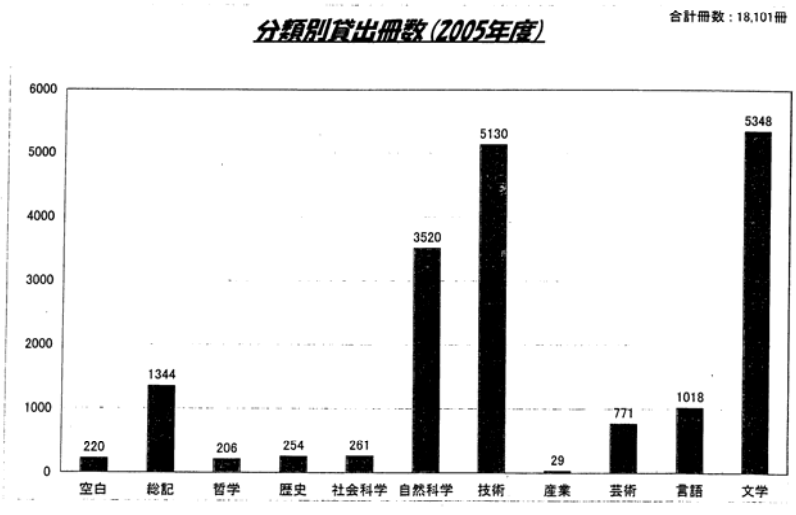
（出典　平成17年度学校概要）

資料7－1－②－7　図書館利用実績

平成16年度入館者数					開館日数					備考
月	時間内	時間外	土曜日	計	平日	土曜日	休館	閉館	計	
4	4928	974	236	6138	19	3	6	2	30	新年度準備
5	5636	1667	530	7833	18	4	9	0	31	
6	6319	2096	765	9180	22	4	4	0	30	
7	5381	1220	176	6777	21	3	7	0	31	
8	2987			2987	15	0	9	7	31	蔵書点検
9	6033	1764	1173	8970	20	4	6	0	30	
10	3886	1125	274	5285	20	5	6	0	31	
11	4763	1152	227	6142	20	3	7	0	30	
12	5392	1347	694	7433	18	3	9	1	31	大掃除
1	4904	1614	350	6868	19	3	9	0	31	
2	5213	1752	428	7393	19	3	6	0	28	
3	3146	330	162	3638	22	2	7	0	31	
計	58588	15041	5015	78644	233	37	85	10	365	

資料3

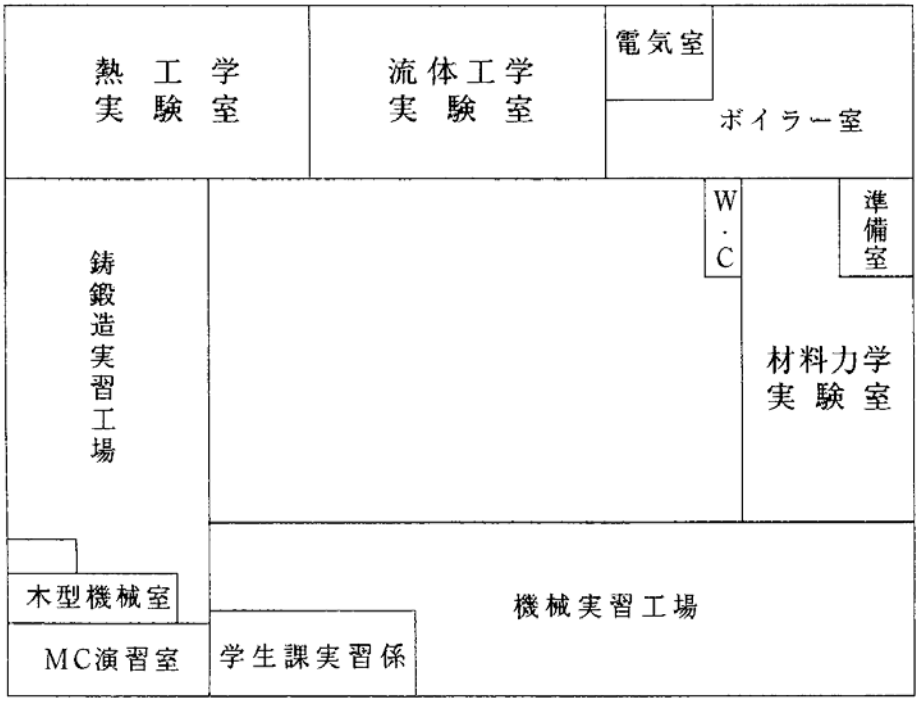




（出典　情報メディア教育センター運営委員会（平成 18 年 4 月 4 日））

資料７－１－②－８　実習工場

機械工学科実習工場



（出典　平成17年度学生生活のしおり）

資料７－１－②－９　実習工場保有器材一覧

工作機械:

極超短波発振機	機械実習工場	機械工学科主任	ｶﾈﾂﾛ ﾌｼﾞﾃﾞﾝｼﾞFHS-15	教育研究支援 11B0010006/昭和54年1月26日/使用換/機械工学科
電動かくはん機	機械実習工場	機械工学科主任	SM-2	教育研究支援 11B0310007/昭和52年3月30日/購入/機械工学科主
電子計算機	機械実習工場	機械工学科主任	NCﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾍﾝｼｭｳｷ	教育研究支援 11B0330711/平成2年3月30日/購入/機械工学科主
研削盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾐﾂﾋﾞｼ TG-255T-1	教育研究支援 11C0020001/昭和40年2月16日/購入/機械工学科主
研削盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｼｷﾔｾｲｷ GP-24-60A	教育研究支援 11C0020004/昭和41年10月20日/購入/機械工学科
研削盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾆｯｺｳ NFG-515H	教育研究支援 11C0020006/昭和50年12月24日/購入/機械工学科
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ML-620	教育研究支援 11C0030001/昭和40年3月23日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾜｼﾉｾｲｷ LRS-50A	教育研究支援 11C0030004/昭和40年3月22日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾜｼﾉｾｲｷ LRS-50A	教育研究支援 11C0030005/昭和40年3月22日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾓﾘｾｲｷ ML-620	教育研究支援 11C0030010/昭和41年3月17日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾓﾘｾｲｷ ML-620	教育研究支援 11C0030011/昭和41年3月17日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾓﾘｾｲｷ MS-850	教育研究支援 11C0030018/昭和47年10月17日/使用換/機械工学
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾓﾘｾｲｷ MS-650	教育研究支援 11C0030019/昭和47年10月17日/使用換/機械工学
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾓﾘｾｲｷ MS-850	教育研究支援 11C0030023/昭和49年3月20日/供用換/機械工学科
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾜｼﾉ LR-55A	教育研究支援 11C0030027/平成1年3月30日/使用換/機械工学科

旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾀｷｻﾞﾜ TSL-360CNC	教育研究支援 11C0030029/平成2年3月30日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾀﾞｲﾄｳｾｲｷ H200B	教育研究支援 11C0050005/昭和49年1月28日/使用換/機械工学科
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｱﾏﾀﾞ H-250SA	教育研究支援 11C0050016/昭和50年8月20日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾌﾞﾗｻﾞｰ ｽｲﾁｮｸﾀﾞｼｹﾞｰｼﾞ	教育研究支援 11C0050022003/平成10年3月27日/購入/機械工学
ボール盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾄｳｱｷｶｲ 800	教育研究支援 11C0080009/昭和55年1月16日/使用換/機械工学科
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｼｮｳﾜｷﾝｸﾞ1 1/2M	教育研究支援 11C0090001/昭和40年3月17日/購入/機械工学科主
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｼｮｳﾜｷﾝｸﾞ1 1/2	教育研究支援 11C0090002/昭和40年3月17日/購入/機械工学科主
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｴﾝｼｭｳｾｲｻｸｼｮ1 1/2UF	教育研究支援 11C0090003/昭和41年11月30日/使用換/機械工学
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｴﾝｼｭｳｾｲｻｸｼｮ VF	教育研究支援 11C0090004/昭和46年9月27日/使用換/機械工学科
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	KHN 1 1/2	教育研究支援 11C0090005/昭和50年11月15日/購入/機械工学科
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾔﾏｻﾞｷﾃｯｺｳ V-7.5	教育研究支援 11C0090006/昭和56年3月27日/使用換/機械工学科
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｴﾝｼｭｳｾｲｻｸｼｮ VA	教育研究支援 11C0090007/昭和57年10月27日/使用換/機械工学
ホブ盤	機械実習工場	機械工学科主任	ｶﾜｲﾃｯｺｳｼｮ KH-350	教育研究支援 11C0110001/昭和41年3月15日/購入/機械工学科主
エアーハンマー	機械実習工場	機械工学科主任	ｵｵﾀﾆｷｶｲ	教育研究支援 11C0150001/昭和42年3月28日/使用換/機械工学科
シェルマシン	機械実習工場	機械工学科主任	CSV-33	教育研究支援 11C0190001/昭和45年3月30日/使用換/機械工学科
三次元測定器	機械実習工場	機械工学科主任	ﾄｳｷｮｳｾｲﾐﾂ XYZAX GC	教育研究支援 11L1040001/平成10年12月25日/寄附受/機械工学科
旋盤	機械機械工作実験室	機械工学科主任	ｼｮｳｳﾝｺｳｻｸｼｮ ST5X1000	教育・研究用 11C0030028/平成2年2月23日/購入/機械工学科主
旋盤	機械実習工場	機械工学科主任	ﾌﾞﾗｻﾞｰ HS3600	教育研究支援 11C0050022001/平成10年3月27日/購入/機械工学
フライス盤	機械実習工場	機械工学科主任	NCﾌﾗｲｽ	教育研究支援 11C0090008/平成5年11月9日/購入/機械工学科主

鋼材倉庫:

実習工場　鋼材倉庫　内容一覧

鋼材	丸棒	4mm	定尺10本
		6mm	定尺10本
		8mm	定尺10本
		10mm	定尺10本
		12mm	定尺10本
		15mm	定尺10本
		16mm	定尺10本
		20mm	定尺10本
		25mm	定尺10本
		30mm	定尺10本
		35mm	定尺10本
		40mm	定尺3本
		50mm	2m
	角材	20×20mm	定尺2本
	平鋼	6×32mm	定尺10本
	鉄板	1mm	1m×2m3枚
		2mm	1m×2m3枚
		3mm	1m×2m3枚
		10mm	1m×1m
	パイプ	直径30mm	定尺10本
		直径90mm	定尺1本
鋳鉄	丸棒	80mm	3本
アルミ	丸棒	20mm	2m×2本
		30mm	2m×2本
		60mm	1m
		100mm	1m
	角材	60×60mm	定尺2本
	板	5mm	300×1000
		10mm	300×1000
		20mm	300×1000
		30mm	300×1000
プラスチック	塩ビ板	10mm	1m×2m3枚
	塩ビパイプ	直径30mm	定尺1本
		直径80mm	定尺1本
	アクリル板	5mm	1m×2m3枚
		10mm	1m×2m3枚

（出典　実習工場作成資料）

資料7－1－②－10　実習工場利用実績

平成14・15・16年度　実習工場における設備の活用状況

1. 機械工学科における月別の利用件数

年／月	14年度	15年度	16年度
4月	1	5	3
5月	3	16	10
6月	7	13	9
7月	34	13	33
8月	39	12	32
9月	20	5	14
10月	33	15	26
11月	33	13	19
12月	22	24	25
1月	31	31	22
2月	2	5	0
3月	15	3	6
総・利用件数	240	155	199

2. 機械工学科における月別の工作機械の稼働時間

年／月	14年度	15年度	16年度
4月	1時間00分	19時間55分	5時間10分
5月	19時間26分	48時間16分	29時間27分
6月	21時間14分	16時間13分	29時間57分
7月	136時間12分	20時間58分	92時間02分
8月	143時間45分	14時間51分	92時間01分
9月	40時間52分	14時間38分	33時間15分
10月	58時間34分	27時間53分	49時間30分
11月	88時間45分	28時間40分	53時間30分
12月	23時間22分	42時間08分	62時間36分
1月	72時間31分	64時間39分	54時間57分
2月	2時間45分	7時間17分	0
3月	71時間35分	5時間23分	17時間26分
総・稼働時間	680時間01分	310時間52分	519時間53分

3. 電気・電子制御・物質化学工学科における月別の利用件数

年・学科／月	14・E	15・E	16・E	14・S	15・S	16・S	14・C	15・C	16・C
4月	0	0	0	0	1	1	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	8	0	0	0
6月	0	0	0	0	1	4	0	0	0
7月	0	0	0	0	4	8	0	0	0
8月	0	0	0	3	5	13	0	0	0
9月	0	0	0	2	0	1	0	0	0
10月	0	0	0	13	0	2	0	0	0
11月	1	1	0	2	2	12	0	0	0
12月	0	0	0	4	1	17	0	0	0
1月	0	0	0	5	1	11	0	0	0
2月	0	0	0	2	2	1	0	0	0
3月	0	0	0	0	1	0	0	0	0
総件数	1	1	0	31	18	78	0	0	0

（出典　実習工場作成資料）

資料7－1－②－11　実習工場安全作業の手引

安全作業の手引

奈良工業高等専門学校　実習工場

実習の心構え

1．行動・態度
(1) 指導者の指示に従い、勝手な行動をとらない。
(2) 自他の安全を第一に考えて行動し、真剣な態度で臨む。
(3) グループ活動においては共同作業者に対する配慮を怠らない。
(4) 積極的・意欲的に取組み、考えながら作業を進める。
(5) 作業場を離れるときは、指導者の許可を得る。

2．服装
(1) 必ず作業服を着用し、ボタンは全てはめる。
(2) ズボンには必ずベルトをはめ、きちんと締める。
(3) 安全靴を正しく履き、作業帽を着用する。（指示のあるときはヘルメット着用）
(4) 機械に巻き込まれる危険性がある作業では手袋を絶対に着用しない。
(5) タオルを体につけない。（首・腰など）
(6) 保護眼鏡をする。
(7) 指示のあるときは防塵マスクを着用する。

安全作業について

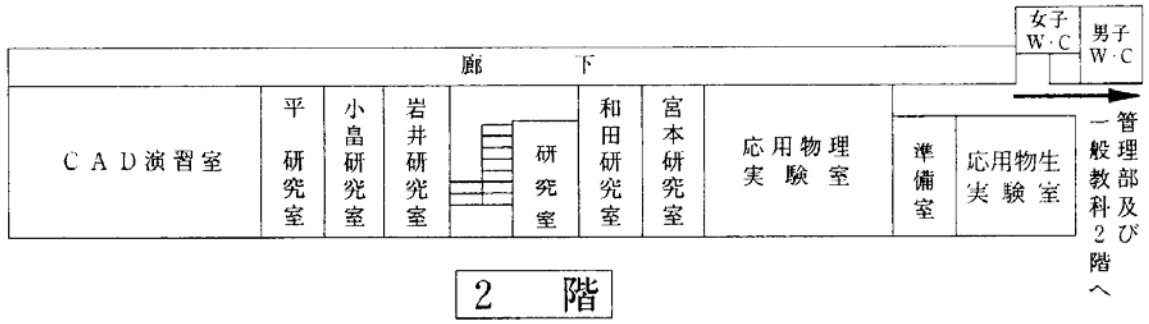
1．作業前
(1) 機械・装置の操作は、指導者の指示に従って操作する。
(2) 使用の前後には必ず機械・工具・安全具を点検して、異常の有無を確かめる。
(3) 機械・装置に必要であれば潤滑油を与える。
(4) 機械・装置・作業場・通路まわりは常に整理整頓しておく。

2．作業中
(1) 共同作業や近くに人がいるときは安全を確かめ、必ず合図・確認をしてから作業を開始させる。
(2) 作業中、異常や事故が発生したときは速やかに作業を中止し指導者へ報告する。
(3) 切屑は手で直接さわらない。手ぼうき、ブラシなどを使用する。
(4) 作業中は作業場から離れない。
(5) ボケットに手をいれない。
(6) 停電の時は、通電したとき危険なので必ずスイッチを切ること。

3．作業後
(1) 作業終了後は、きれいに掃除する。
(2) 付属品や測定器はきれいに拭き所定の位置に戻す。
(3) 油のついたウエスは、所定の位置に置く。

（出典　実習工場作成資料）

資料７－１－②－１２　CAD演習室（機械工学科内）



（出典　平成17年度学生生活のしおり・機械工学科 CAD 演習室）

資料７－１－②－１３　学修単位導入に際しての自学自習について

2006年4月6日

教　職　員　各　位

校　長

学修単位導入に際しての自学自習について

学修単位（試行）の導入に際して、学生には自学自習を行うことが求められています。教務主事より、全校集会で趣旨などについて説明します。また、シラバスにも説明を載せておりますが、教科担当の先生方からも学生への周知をお願いいたします。あわせて、４，５年生の担任の先生方からは、各学年について、以下のご連絡をお願いいたします。

なお、自学自習の実態については、年度末などにアンケート調査などを行う予定です。

（１）５年生

時間割の空き時間等には、卒研場所などでの自学自習を促してください。

（２）４年生

木曜日の午後は全学科とも授業がありませんので、この時間に学内で自学自習を行う場合について、以下の点をご連絡願います。

１）各クラスの教室は、自学自習をするための場所とします。授業が行われている３年生などの邪魔にならないように勉強して下さい。この時間に教室でゲームをしたり、漫画を読むことなどは禁止します。

２）ＬＬ教室、マルチメディア室、情報処理演習室は、自学自習のために開放します。

以上

自学・自習の支援について，木曜日午後の教室開放について検討した結果，開放 する部屋等を一覧表にして配付し，委員がローテーションで巡回することとした。主事補，一般，機械の順にあたることとした。

（出典　教職員配布資料（2006年4月6日））

資料7－1－②－14　英語学習システム

（1）※　“ALC Network Academy”の導入：コミュニケーション能力や国際的センスを養う言語教育充実，さらにはJABEE教育目標の一つであるTOEIC-IPテスト400点達成のため，株式会社アルク（語学教育出版社）の語学演習システムを平成16年度に導入した。学生たちは，昼休みや放課後に積極的にこのシステムを利用して自学自習に励むようになっている。学生たちのこのような語学学習の姿勢は，英語教員の授業外での献身的な指導助言によって支えられている。

本年は当該取組みが評価され機構本部の学生指導の充実事項に選定され「学生の英語能力向上に関する取組」に対して予算化された。現在，本領域の拡充化に向けて教務主事補を中心にして検討をしている。

１．７．２　総合情報センター

学生の語学力向上のために，2004年4月よりアルク教育社のe－Learning英語学習システム，ALC NetAcademyの初級・中級コースとPowerWordコースの2コースを総合情報センターに導入し，現在，LL教室，情報処理演習室，マルチメディア演習室で利用できる環境が整っている。これらは授業での利用とともに，情報処理演習室では授業時間外に，LL教室では週3日（月・水・金）の昼休みと放課後に開放されていて，学生の自学自習に活用されている。

また2005年4月にはALC NetAcademyのスタンダードコースを追加して，TOEICのスコアアップに貢献できるようになった。

（出典　自己点検書（引用・裏付資料編）・2005年10月自己点検・評価報告書）

資料7－1－②－14　英語学習システム

ALC NetAcademyについて

総合情報センター　　中裏　良一

総合情報センターには皆様もご存知のように、情報処理演習室・マルチメディア演習室・LL教室の3演習室があります。

平成16年度4月より（株）アルク教育社のe-Learning英語学習システム、ALC NetAcademyの初級・中級コースとPowerWordsコースの2コースを総合情報センターに導入しました。導入当初は、LL教室のみでの利用でした。

平成16年5月17日～28日までの間（4日間）、昼休みと放課後にLL教室を利用した学生数を調査しました。その結果202名の利用があり、とくに3年生が114名と半数以上でした。このように利用者が多いのは平成16年4月9日に3年生と4・5年生の希望者を対象に行われたTOEIC IPテストの影響によると思われます。

昨年度の夏休中に情報処理演習室・マルチメディア演習室もALC NetAcademyを使用出来るように設定しました。それにより後期の授業に3演習室を利用できる環境になりました。また情報処理演習室では授業時間以外、LL教室でも週3日（月・水・金）昼休みと放課後開放していますので、学生の自学自習に活用できます。

平成17年4月にALC NetAcademyのスタンダードコースを追加してTOEICのスコアアップに貢献出来るようになりました。

現在は3演習室しか使用できませんが、将来は全学でALC NetAcademyを使える環境にする予定です。今後、このシステムを利用して学生および教職員に英語のコミュニケーション能力の向上に役立ててもらいたいと思っています。

最後に平成16年度後期の学年・学科別でALC NetAcademy教材（ユニット）に接続して自学自習した回数を記載します。

	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科
1学年					
2学年	50	848	470	932	118
3学年	5,510	5,867	5,864	5,119	6,314
4学年	2,422	1,940	1,775	1,837	1,246
5学年	621	928	204	491	11
専攻科1・2年	1,271				

教材（ユニット）：初級・中級コース、PowerWordsコース

期間：平成16年10月1日～平成17年3月31日。

回数：教材ごとの接続回数であり、ログオン回数ではありません。

(1学年はアカウントとパスワードが発行されていませんので資料はありません。)

（出典　2005年10月自己点検書･自己点検･評価報告書）

資料7－1－②－15　LL教室時間外開放日程表

平成18年4月28日

平成18年度LL教室時間外開放（17時00分～20時00分）日程表

総合情報センター

実施月	5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月/合計10ヶ月	実施日数	152日

時間外開放日カレンダー

4月

月	火	水	木	金	計

5月

月	火	水	木	金	計
8	9	10	11	12	
15	16	17	18	19	18日
22	23	24	25	26	
29	30	31			

6月

月	火	水	木	金	計
			1	2	
5	6	7	8	9	
12	13	14	15	16	22日
19	20	21	22	23	
26	27	28	29	30	

7月

月	火	水	木	金	計
3	4	5	6	7	
10	11	12	13	14	13日
	18	19	20		

8月

月	火	水	木	金	計

9月

月	火	水	木	金	計
				1	
4	5	6	7	8	
11	12	13	14	15	15日
	19	20			
			28	29	

10月

月	火	水	木	金	計
2	3	4	5	6	
	10	11	12	13	
16	17	18	19	20	21日
23	24	25	26	27	
30	31				

11月

月	火	水	木	金	計
		1			
6		8			
13	14	15	16	17	16日
20	21	22		24	
27	28	29	30		

12月

月	火	水	木	金	計
				1	
4	5	6	7	8	
11	12	13	14	15	16日
18	19	20	21	22	

1月

月	火	水	木	金	計
	9	10	11	12	
15	16	17	18	19	17日
22	23	24	25	26	
29	30	31			

2月

月	火	水	木	金	計
			1	2	
5	6	7	8	9	
	13	14	15	16	12日
		28			

3月

月	火	水	木	金	計
			1	2	
					2日

時間外開放日内訳表

5月	8日(月)・9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・15日(月)・16日(火)・17日(水)・18日(木)・19日(金)・22日(月)・23日(火)・24日(水)・25日(木)・26(金)・29日(月)・30日(火)・31日(水)	18日
6月	1日(木)・2日(金)・5日(月)・6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金)・12日(月)・13日(火)・14日(水)・15日(木)・16日(金)・19日(月)・20日(火)・21日(水)・22日(木)・23日(金)・26日(月)・27日(火)・28日(水)・29日(木)・30日(金)	22日
7月	3日(月)・4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)・10日(月)・11日(火)・12日(水)・13日(木)・14日(金)・18日(火)・19日(水)・20日(木)	13日
9月	1日(金)・4日(月)・5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)・11日(月)・12日(火)・13日(水)・14日(木)・15日(金)・19日(火)・20日(水)・28日(木)・29日(金)	15日
10月	2日(月)・3日(火)・4日(水)・5日(木)・6日(金)・10日(火)・11日(水)・12日(木)・13日(金)・16日(月)・17日(火)・18日(水)・19日(木)・20日(金)・23日(月)・24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)・30日(月)・31日(火)	21日
11月	1日(水)・6日(月)・8日(水)・13日(月)・14日(火)・15日(水)・16日(木)・17日(金)・20日(月)・21日(火)・22日(水)・24日(金)・27日(月)・28日(火)・29日(水)・30日(木)	16日
12月	1日(金)・4日(月)・5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)・11日(月)・12日(火)・13日(水)・14日(木)・15日(金)・18日(月)・19日(火)・20日(水)・21日(木)・22日(金)	16日
1月	9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・15日(月)・16日(火)・17日(水)・18日(木)・19日(金)・22日(月)・23日(火)・24日(水)・25日(木)・26日(金)・29日(月)・30日(火)・31日(水)	17日
2月	1日(木)・2日(金)・5日(月)・6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金)・13日(火)・14日(水)・15日(木)・16日(金)・28日(水)	12日
3月	1日(木)・2日(金)	2日

（出典　情報メディア教育センター作成資料）

資料7－1－②－16　奈良高専情報セキュリティポリシー

平成１５年１０月３０日

奈良工業高等専門学校情報セキュリティポリシー（改正案）

Ⅰ．情報セキュリティポリシーの基本理念

教育・研究はもちろんのこと現代社会において生活する上で情報機器や情報ネットワークは欠かせないものとなってきている。しかしながら、学内では学校の運営上重要な情報や、学生に関する個人情報など機密性の高い情報が各種情報機器やネットワーク上で扱われている。したがって、これらの情報及び、情報を取り扱う情報システムを、様々な脅威から守ることは、健全な学校運営を行う上や個人プライバシーを保護する上からも必要である。

このため、本校の情報資産を保護するために、「情報セキュリティポリシー」を策定するものである。したがって、本校の情報資産を利用する者は、情報セキュリティの重要性を認識し、この「情報セキュリティポリシー」を遵守しなければならない。

Ⅱ．情報の定義

このポリシーで取り扱う情報とは、本校所有の情報機器内の情報資産（プログラムとデータ）を指す。

Ⅲ．情報セキュリティ対策

本校の情報資産を保護するために、以下の情報セキュリティ対策を講じる。

１．物理的対策

情報資産を有する情報システムを設置する施設などを保護するための物理的な対策を講じる

２．人的対策

情報セキュリティに関する権限や責任を明確にし、全教職員にセキュリティポリシーの内容を周知させるための教育や啓蒙などを行う。

３．技術的対策

情報資産を保護するために、アクセス制御、ネットワーク管理など技術的な対策を講じる。また、緊急事態が発生した場合の対応策など、危機管理対策を講じる。

Ⅳ．責任者

１．本校の情報セキュリティ最高責任者を学校長とする。
２．本校のネットワークシステム最高管理責任者を総合情報センター長とする。
３．学科等にセキュリティ管理者と総合情報センター運営委員会規定の定めによるネットワーク管理員を置く。
４．学科等のセキュリティ管理者は各科主任及び各課長等とする。
５．学科等はこの情報セキュリティポリシーにしたがって情報セキュリティ対策を講ずるものとする。
６．ネットワークの管理を行うために上記ネットワーク管理員によって構成されるネットワーク管理員会議を設置する。
７．ネットワーク管理員会議は総合情報センター長が主催し議長となる。

Ⅴ．本校ネットワークへの接続等

（出典　情報メディア教育センター作成資料）

資料7－1－②－17　図書館利用案内

平　成　17　年　度

図書館利用の手引

（新入生オリエンテーション用）

図書館の概要と案内……1p
館内配置図……3p
蔵書の分類について……5p
パソコンによる蔵書検索の仕方……7p
より高度な情報提供サービス……9p
奈良高専読書案内１００選……10p
（平成６年度に選定されたもの）
奈良高専映像１００選……12P
（平成４年度に選定されたもの）

奈良工業高等専門学校図書館

図書館の概要と案内

新入生の皆さん、入学おめでとう。

皆さんは、これから５年間（専攻科に進学すれば７年間）の学生生活を本校で送ることになります。その間、この図書館の蔵書を有効に利用できるか否かによって、学業成績はもちろん、人間形成の面でもまた大きな影響を受けることになるでしょう。その意味で、この図書館は、諸君にとって大変重要な“出会い”の場所になるはずです。早く図書館に慣れて、どんどん利用するようにしてください。係員の人たちは親切に教えてくれますから、分からないことはどんなことでも尋ねなさい。以下、図書館の利用方法について、簡単に説明します。

図書館の概要

現在の図書館棟が建てられて新しく開館したのは、昭和５０年（1975年）の９月です。その後、平成１３年８月に改修されて１階部分も図書館として使用されようになりました。図書館棟全体の面積は約1,600㎡あり、図書室は612㎡です。また閲覧座席は100席です。

現在の蔵書数は約90,000冊で、そのうち約28,000冊は教員研究室にあり、あとの62,000冊ほどがこの図書館にあります。全開架方式ですが、一部の本は別の書庫に置かれていて直接見られません。雑誌については、館内の約80点ほどが自由に閲覧できます。

また、ビデオテープやレーザーディスク、CD-ROM・DVDも利用できるようになっています。

開館時間

開館時間は次のとおりです。夜間も利用できます。授業のない土曜日も開館しています。

平　日　午前８：３０～午後８：００
土曜日　午前９：００～午後４：３０

ただし、春・夏・冬の休業期間中は次のようになります。

平　日　午前８：３０～午後５：００（土曜日は休館）

休館日は、次のとおりです。

日曜日・祝日
年末年始（１２月２８日～１月４日）
その他、整理・清掃等のため臨時休館することがありますが、その際には掲示します。

（出典　図書館利用の手引き）

資料7－1－②－18　シラバス・特許・技術者倫理・工業英語コーナー

（出典　図書館内）

資料７－１－②－１９　コンソーシアム加入状況

図書館や研究室から利用できるデータベース

図書館のホームページから利用できるデータベースをご紹介します。
URL　http://library.nara-k.ac.jp/index.htm　（学内からのみ利用可能）

黒文字：二次資料　青文字：電子ジャーナル　　2005年10月

件	データベース名	対象分野	内　　容
1	KANON（カノン） （Swets Information Service 社）	全分野	16,000タイトル以上の外国学術情報雑誌を収録しており、論文の検索、目次・抄録の閲覧ができる。
2	JDream （科学技術振興機構）	科学（医学を含む）技術全般	科学技術、医学に関する学術論文や解説的記事などの文献情報を幅広く日本語で検索できる2次データベース
3	GeNii （NII学術コンテンツ・ポータル） （一部電子ジャーナル）	学協会論文を中心に国内論文全般	広範囲の分野の文献情報・学術情報を日本語で提供。抄録はついていない。一部電子ジャーナルで提供
4	Science Direct（SD） （電子ジャーナル）	全分野	エルゼビアが提供する世界最大の電子ジャーナルサービスであり、本校では約1,000タイトルのフルテキストが利用できる。
5	American Chemical Society （ACS）（電子ジャーナル）	化　学	米国化学会が発行するコアジャーナル24誌とともに今年度は計32タイトルを、2001年以降のカレント版を含めてフルテキストでみることが可。
6	American Physical Society （APS）　American Institute of Physics（AIP） （電子ジャーナル）	物　理	APS/AIPが発行する雑誌のうち13誌のフルテキスト利用が可。バックファイルにもアクセスできます。
7	MathSciNet	数学・統計等	米国数学会（AMS）が提供している世界の数学文献の書誌・書評のデータベース（1940年からの雑誌・書籍・会議録の論文）
8	Progress of Theoretical Physics（PTP）（電子ジャーナル）	理論物理	理論物理分野のオリジナルな投稿論文を審査を経て掲載。1977年から最新号までのフルテキストが利用できる。
9	J-STAGE（電子ジャーナル） （科学技術振興機構）	学協会論文（国内）	GeNiiと共通した部分が多い。ジャーナル・予稿集や要旨集・報告書・JST報告書・NII学会発表DBを中心に全文を提供している。

奈良高専図書館

（出典　図書館ウェブ）

資料7－1－②－20　図書館内に整備されたパソコン端末

（出典　図書館内）

資料7－1－②－21　文献複写依頼・検索機能等を持つ図書館HP

（出典　図書館ウェブ）

資料７－１－②－２２　多読表彰

新任教官から一言

ぶらりぶらぶら図書館へ

一般教科　長瀬　潤

先日、15年ぶりにインフルエンザにかかり、39度を超える熱の苦しさと、関節の痛みを久しぶりに味わいました。ぐたぐたに汗をかいては、水分補給をして、また汗をかいては…起き上がるのもつらいのに、寝間着を何度も着替えるので大変でした。もう、二度とかかりたくない思いですが、小、中学生の頃は、そんなインフルエンザに何度もかかっていました。今、思うとよく耐えられたものだと、その頃の自分に少し感心します。しかし、高校時代はインフルエンザとは全く無縁でした。ひどい風邪もほとんどなく、健康的な生活を送っていました。毎年、時期が来ると、文化祭だ運動会だと行事にいそしんで、あちらこちらの部室を渡り歩き、勉強は好きな科目はとことんやるけど、苦手な科目はほどほどで。今、思い出すと、好きな所で、好きなように高校生活を送っていたので、試験以外に大きなストレスが無く、ひどい風邪をひくことも無かったのかも知れません。

学生のみなさんは、今、大きなストレスを感じることがありますか。学校内で、自分の好きな場所はありますか。僕は、試験が終わると、友達の部室や教室をのぞいたり、職員室（研究室）訪問したり、図書館でこもってみたりするのが好きでした。何箇所も楽しめる場所があると、そのときの気分に合う場所が見つかるもので、高校時代の大半をぶらりぶらぶらと渡り歩いて過ごしていたように思います。そんな中でも、特にお世話になったのが図書館でした。本を読むのはあまり得意ではないのですが、わからないことをインターネットで検索できる時代ではなかったので、調べものがあるときは図書館へ行くのです。そして、調べものが終わると、あちらの棚へ、こちらの棚へとぶらぶらして、魅力的な背表紙を見つけては、中身をちらりと拝見して時間をつぶしていました。前書きしか読んでないのに、夢中になって下校時間まで残っていることもたびたびありました。頭にはたいして何も残っていなかったりするのですが、満足感と新たな知的好奇心を十分に得られる場所だったことは、今でもはっきりと覚えています。

本を読むのがが苦手な人でも図書館は楽しめるし、勉強が苦手な人でも研究室訪問は楽しめます。クラブに入っていない人でも友達のクラブの様子を見に行くことは楽しいです。学生時代だからできる一つの過ごし方だと思います。学生のみなさん、学校の中に、自分が楽しめる、好きになれる場所を探して、ぶらりぶらぶら渡り歩いてみるのはいかがでしょうか。

多読表彰について

４月から１２月までの貸出冊数の統計結果に基づき、本年度の多読表彰は１位・４M、２位・１S、３位・機械制御専攻２年 、４位・５M、５位・化学専攻２年が受賞することになりました。各クラス代表は１月８日（木）校長室にて表彰状、並びに副賞の希望図書購入権を授与されました。因みに第１位の４Mは１人当たり平均35.5冊です。年間ゼロという人も含めての平均35.5冊という貸出冊数はすごいですね。まもなく希望図書が、新刊書棚に並ぶことと思います。お楽しみに。

- 4 -

（出典　2004 年 2 月図書館だより）

資料7－1－②－23　読書感想文コンクール

平成15年度

読書感想文コンクールを終えて

図書館委員会

図書館委員会主催・第28回読書感想文コンクールの結果を発表します。応募総数は385編。その中から、図書館委員会と国語科、計11名による投票・審査の結果、次の最優秀作１編と優秀作９編が入選となりました。以下に、その氏名を記し、その栄誉をたたえたいと思います。

最優秀賞

情報工学科３年	田中　健太郎	『ラフカディオ・ハーン　日本のこころを描く』を読んで

優秀賞

機械工学科４年	森口　遼太	『約束された場所で』の感想
機械工学科２年	仲井　智彦	『変身』を読んで
電気工学科２年	諏訪　勝重	『門』を読んで
情報工学科２年	久保　智子	『海と毒薬』を読んで
情報工学科２年	福井　梨恵	『自殺って言えなかった。』を読んで
物質化学工学科２年	越田　高史	『ラフカジオ・ヘルン』について
機械工学科１年	小早川　弘志	『二重らせん』を読んで
機械工学科１年	藤江　勇太	『大地の子』感想文
物質化学工学科１年	吉本　咲香	『ひつじが丘』を読んで

また、惜しくも入選には至りませんでしたが、審査の過程で高い評価を受けて佳作とされたものは、以下の諸君の作品です。これらの諸君にも賞賛の辞を呈したいと思います。

３Ｅ　神社　生朗	３Ｉ　高田　篤史	３Ｃ　丸田　寛子	２Ｍ　仲野　正人
２Ｍ　安村　将臣	２Ｅ　武田　晃一	２Ｅ　福島　悠吾	２Ｓ　上山　大輔
２Ｓ　佐藤　　峻	２Ｉ　衛藤　　聖	２Ｉ　原田　和幸	２Ｉ　水野　勇貴
２Ｃ　奥田　知生	２Ｃ　長谷川　健	２Ｃ　古川亜希奈	２Ｃ　松本　佑一
１Ｍ　川西　真史	１Ｅ　上谷　佑介	１Ｅ　堀　　威士	１Ｓ　辻井ありさ
１Ｓ　西窪　義博	１Ｓ　松井　秀樹	１Ｉ　奥村　哲郎	１Ｉ　河合　　誠
１Ｉ　前川　　将	１Ｃ　吉満　祥子	１Ｃ　安田菜都希	１Ｃ　渡邊　祥平

その他にも、力作が多くありました。応募した諸君には、この場を借りて感謝の意を表します。

以下、恒例にしたがい、入選作について、審査に携わった者の一人としてコメントを付します。

まず、最優秀作となった田中健太郎君の作品、ポイント制で、11名の教官から19ポイントという圧倒的な支持を得ました。選んだ本、その内容への理解度、それに対する感想、簡潔で明快な文章と、そのまとまり具合、全てについて最優秀作として選ばれるのに不足のない出来ばえだと思います。田中君は昨年度も「英霊の声～奈良県戦没者遺稿集」の感想文で入選していますが、恐らく田中君の内面には「日本」という一貫したテーマがあるのでしょう。それへの真摯なアプローチが、このような立派な感想文に結実したのだと思います。今、あらためて昨年度の入選作と読み比べていますが、や

- 5 -

（出典　2004 年 2 月図書館だより）

資料７－１－②－２４　ブックハンティング

有意義な時を過ごせて満足

２Ｉ　八木賢大

あまり勉強が好きなほうではない自分が参考書などをじっくり吟味することが少ないためいい機会だと思って、先日、ブック・ハンティングに参加させて頂きました。参考書は種類も数も豊富にあり、どの参考書が一番効率よく情報を手に入れられるかを見比べるため、一緒に参加してもらったクラスメイトと一冊一冊手にとって話し合いながら選びました。ぜんぜん苦痛なものではなく、そうこうしているうちに気が付けばものすごく時間がたっていたのにはびっくりしました。購入する本は参考文献ばかりではなく、趣味の分野の本も入れることができるのでさらに満足することができました。身近にある本を手に取ることによって有意義な時間を過ごせ、いい経験になるので僕みたいな勉強嫌いな人もそうでない人も本に触れ合う時間を少しでも増やしていって、今まで以上に本に興味を持ってほしいと思いました。

図書館のいいところ

２Ｅ　久保田拓也

図書館には、バラエティにとんだ本から、専門書に至るまで色々な本があり、非常に利用価値が高いと思います。実際に他校よりも本の冊数が圧倒的に多いし、一般の方たちも利用できるのもいいところだと思います。

さらに最近の映画から昔の映画まで、結構いろいろな数がそろっているＡＶ機器のコーナーも、かなり魅力があると思います。僕もここでゴッド・ファーザーの映画を見ました。

さらに、ブック・ハンティングという学生に好きな本を買わせるイベントも、幅広い分野の本と最新の本が手に入るのでなかなか熱いと思います。これからもどんどん図書館を活用して欲しいと思います。

図書館の利用について

２Ｅ　山本裕一

僕はよく図書館を利用します。どんな時に利用するかといえば、試験前やレポートを書く時にも確かに利用しますが、どちらかと言うと休み時間の合間や、授業の休講などで時間が少し空いた時の方がよく利用しています。

奈良高専の図書館には専門的な参考書が多くありますが、意外にも漫画やファンタジー小説が結構あります。僕は通学時間が長いこともあり、この時間を利用して多くの小説等を読むことが出来ました。読みたい本を読み終えた後も、次ぎに読む何か面白い本を探して、空き時間を利用してたびたび図書館に通っています。

それから、奈良高専の図書館では、夏と秋の年2回に、ブック・ハンティングといって、図書委員と有志の人数名で本の買い出しに行くことが出来ます。その際に買う本は主に図書館のリクエストBOXにリクエストされた本ですが、買い出しのお金の余った分は、自分たちで図書館に置く本を決められますので、興味のある人は参加してみてはいかがでしょうか。

ブックハンティングの感想

２Ｉ　衛藤　聖

ブックハンティングに参加させて頂くのは今回で二回目でした。図書委員として、クラスの希望に添えられるよう、一般書や専門書、参考書を限られた予算内でバランス良く選ばなければと、使命に燃えての出発だったのですが、なかなか思うようには進みません。目当ての本が全然見つからないので、店員さんに一緒に探してもらったり、在庫を調べて頂いたりと、随分とお世話になってしまいました。結局、クラスから出た希望の本を全部見つけることはできなかったうえ、特に専門書はさっぱり空振りに終わってしまったのですが、一般書の方は長い時間をかけて吟味して選び、ちょっぴり自分の希望も取り入れてみたりして、なかなかに充実したハンティングでした。今回手に入らなかった専門書も、また改めて要望を聞いて貰えるとのことなので、一安心です。ブックハンティングは、もちろん完全にとはいきませんが、個人の希望が図書館に反映される、

（出典　2003 年 11 月図書館だより）

資料７－１－②－２５　図書館広報誌「図書館だより」

図書館だより

Library　News　No.62

Nara National College of Technology

2005年2月　奈良工業高等専門学校図書館発行

わたし、いま、恋をしている。
ベゴニアの花言葉は、「片思い」。
なぜって、葉の形が、みぎひだり非対称だから。
片思いだって、恋だ。
なぜって、はじめから両思いなんてこと、あるわけないもの。
だから、
わたし、いま、恋をしている。

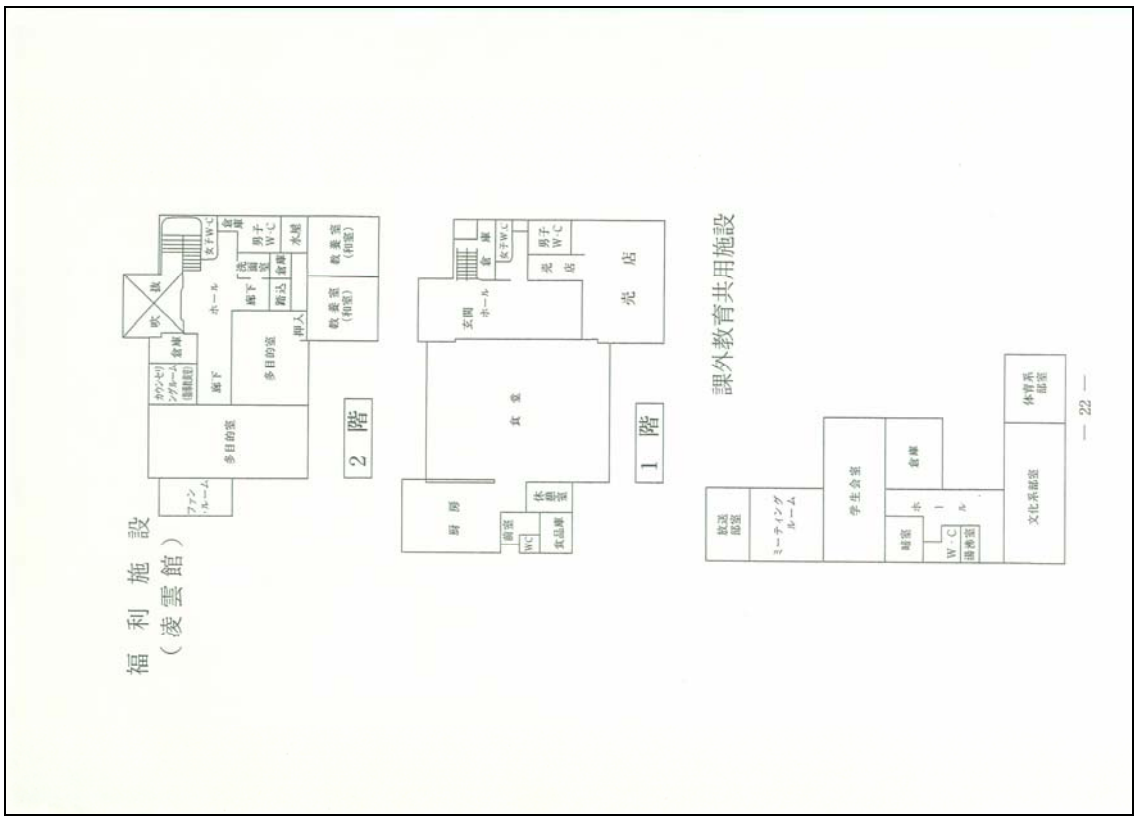
絵　5I　市川まどか　さん
文　しみずたかお

目　次

巻頭言「わたしの読書法」……2
読書感想文コンクールを終えて……3
入賞作品紹介……5
退職教員からのメッセージ……14
総合情報センターより……16
学生会図書委員会
「マイベストセレクション」……18
巻末よみもの
「ぎりぎりの英会話学習法」……20

（出典　2005年2月図書館だより）

資料7－1－②－26　厚生施設と課外教育共用施設，体育更衣室



課外教育共有施設

放送 ミーティング ルーム				
学生会室				
暗室 トイレ				
からくり 吹奏楽	SF研 TRPG	水泳	卓球	少林寺拳法	バドミントン

運動場クラブ室

ソフトテニス	硬式テニス	バスケットボール	ハンドボール	バレーボール	アーチェリー	ラグビー	硬式野球	陸上	サッカー	空き

グラウンド側

テニスコート側

資料７－１－②－２７　学科内アメニティスペース

電気工学科:

情報工学科:

（出典　電気工学科・情報工学科内）

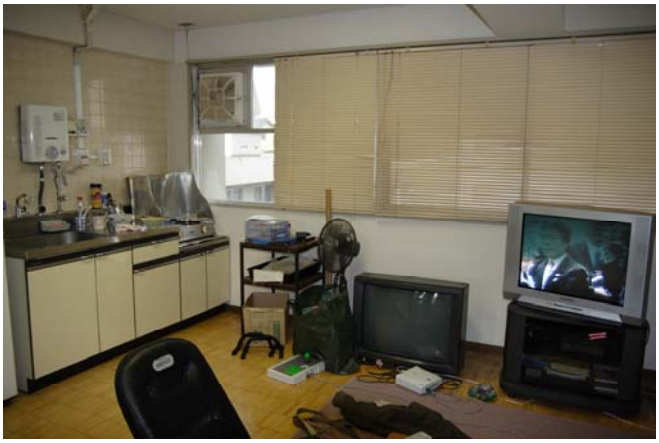
資料７－１－②－２８　キャンパス内コミュニティーペース

図書館入口ピロティ:

キャンパス内:

（出典　学内キャンパス）

資料７－１－②－２９　談話室



（出典　学生寮内）

資料7－1－②－30　学生委員会による校内指導

平成１８年１月学生委員会案件

平成 18 年 1 月 6 日（金）

１．学生の交通事故・違反について（資料）（土井）

特になし．信号無視

２．校内外指導について（資料）（土井）

３．学生生活のためのセミナーについて（資料）（鍵本）
1 年生保健衛生教室（1/12 (木) 14 時 40 分～）
4 年生消費者教育特別講演会（1/26 (木) 14 時 40 分～）

３．喫煙学生指導

日時：1/24（火）12:30～12:55

指導分担：本館、	図書館、	凌雲館、
（屋上階段）	（1F トイレ、外階段）	（フェンス通り抜け）
本館北棟、講義棟、第 2 体育館、高専山付近		坂本，山本
外川町ミニ体育館		西野，名倉
千日町		土井，山口

◎開始時間に学生課に集合してください。学外を担当される場合には、奈良高専の腕章をお持ちください。

◎喫煙等の行為を発見した場合は、現場で厳重に注意を与え、煙草・ライター等を取り上げ、クラス・名前を確認の上、学生係までご連絡下さい。

◎学生には、自分で学生係まで報告に行くようご指導下さい。

（出典　学生委員会資料（平成18年1月 6 日））

資料7－1－②－31　時間外施設･設備使用願い

準学士課程:

事務部長	学生課長	専門員	専門職員	教務係長	係員

時間外の施設設備使用許可願

平成　年　月　日

奈良工業高等専門学校長　殿

指導教官　工学科

氏名　㊞

下記のとおり卒研のため使用したいので許可願います。

記

1. 使用施設・設備の名称
2. 使用者数　工学科　年　組の者　名
3. 使用日時　平成　年　月　日　時から　時まで

（備考）　※使用学生の氏名

時間外の施設・設備使用者

宿直者殿

学生課長

下記のとおり卒研のため使用しますので連絡します。

記

1. 使用施設・設備の名称
2. 使用者数　工学科　年　組の者　名
3. 使用日時　平成　年　月　日　時から　時まで
4. 担当教官　氏名

（備考）　※使用学生の氏名

専攻科課程:

事務部長	学生課長	専門職員	教務係長	係員

時間外の施設設備使用許可願

平成　年　月　日

奈良工業高等専門学校長　殿

指導教官　工学科

氏名

下記のとおり専攻科特別研究のため使用したいので許可願います。

記

1．使用施設・設備の名称
2．使用者数　工学専攻　年次　名
3．使用日時　平成　年　月　日　時　分～　時　分

（備考）　※使用学生氏名

時間外の施設・設備使用者

庶務課長殿

学生課

下記のとおり専攻科特別研究のため使用しますので連絡します。

記

1．使用施設・設備の名称
2．使用者数　工学専攻　年次　名
3．使用日時　平成　年　月　日　時　分～　時　分
4．担当教官　氏名

（備考）　※使用学生氏名

（出典　学生課学生係保存資料）

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズ（例えば，資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

学生生活上のありとあらゆる要望・相談に関係機関と連携を図りながら迅速かつ的確に対応すべく，平成１６年度より，なんでも相談室を開設し，学生ニーズの把握に努めている（資料７－１－③－１）。相談室を直接訪ねることが困難な学生に対応すべく，なんでも相談室ぷちアンケートを実施し，回答を掲示している（７－１－③－２，３）。

全学生を対象に実施する授業アンケート（資料７－１－③－４）や学生自身による学習目標達成度点検シートの自由記述（資料７－１－③－５）で授業に対する学生ニーズを把握している。授業アンケート結果は，担当教員が分析と課題を整理した上で，学生にフィードバックしている（資料７－１－③－６）。専攻科学生には，連絡・要望等を懇談会（資料７－１－③－７）で汲み上げている。図書館内外に意見・目安箱を設置し，学生ニーズ把握に努めている（資料７－１－③－８，９）。

５年生対象のボランティア活動（資料７－１－③－１０），奈良高専卒業にあたっての満足度（資料７－１－③－１１，１２），３年生対象のマリンバ・歌舞伎鑑賞会に関する調査（資料７－１－③－１３，１４）等を実施している。平成１８年度から学習支援に関するアンケートを実施し，学生ニーズの明確な把握に努めている（資料７－１－③－１５）。

（分析結果とその根拠理由）

なんでも相談室によるぷちアンケート，授業アンケートや学生自身による学習目標達成度点検シートの自由記述，図書館の意見・目安箱の設置，各種アンケートや懇談会等の定期的な実施により学習支援に関する学生ニーズが適切に把握されている。

資料7－1－③－1　なんでも相談室

なんでも相談室

中学とは雰囲気の異なる高専の講義になじめない。新しいクラスメートとの人間関係がうまく作れない。自分にとっては深刻な悩みなのに友人や保護者には理解してもらえない。自分の将来が見えずに不安だ。誰かに相談したいのだけれども相談する相手がいない。など，いろいろな悩みを抱いている学生がたくさんいると思います。奈良高専では、このような学生の悩みの相談窓口として「なんでも相談室」を設置することにしました。

「なんでも相談室」の相談員は、悩みが原因で健康を害したり、才能がありながら学業を断念することになった学生を今までに見てきて、「もっと早くに相談してくれたら…」と悔やんできた人たちの集まりです。学生の身になって悩み事を聞き、解決策を一緒になって考えていきます。

どんな些細なことでもかまいません。躊躇することなく、「なんでも相談室」に相談してください。「なんでも相談室」は、さまざまな悩みを抱えた学生を支援します。

また、直接相談室を訪問するのが難しい学生は、「なんでも相談室」プチアンケート（６月中旬より学生玄関に設置しました）から始めて頂いてもいいかもしれません.

学生主事　矢尾匡永

相談の内容

修学に対する相談と支援：学業全般の質問・相談に対応し、適切な助言を与えます。各学科主任・教務主事などの協力の下、履修等に対して適切な指導を行います。進路や将来の目標についての相談にのります。奨学金など経済的支援のための情報を提供します。

生活面での悩みに関する相談と支援：学校になじめない、学業とアルバイトの両立に悩んでいるなどの理由で学業が進まない場合に対応して、適切な助言を与えます。

ハラスメントに関する相談：セクシャルハラスメントに関する相談だけでなく、セクシャルハラスメント防止のため、ジェンダー問題も含めた啓発活動も行います。

メンタルヘルスケアに関連する相談：様々な悩みの相談に乗り、必要に応じて、本人にとってもっとも望ましい対応を考えます。

相談の仕方

直接「なんでも相談室」を訪問してください。

相談室の場所

凌雲館２階　カウンセリングルーム

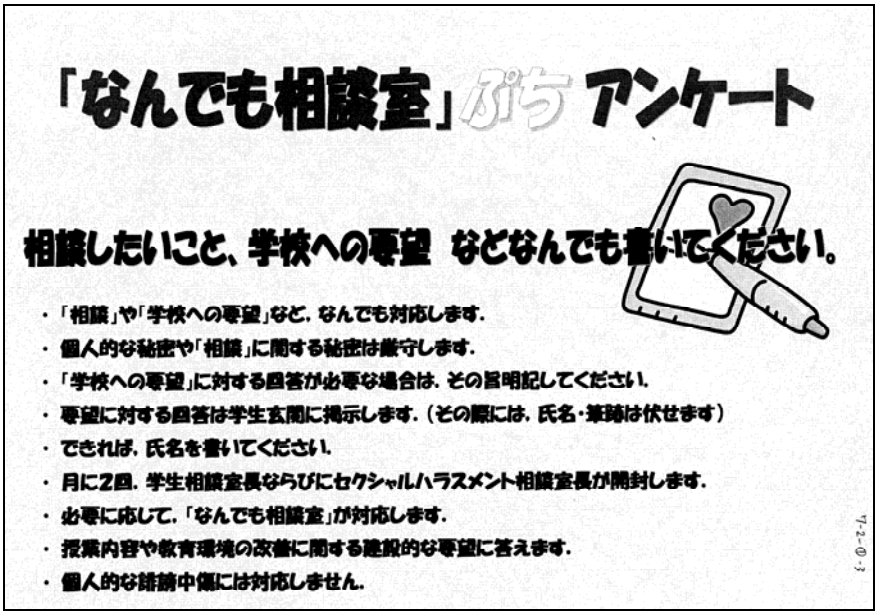
開設日

氏名	所属	主な担当	相談曜日時間
矢尾　匡永	機械学科 学生主事	学校への問題提起など何でも、進路（休・退学など）の相談 奨学金・就職など、厚生関係の相談	金曜日 16:00～18:00
木村　倫幸	一般教科 セクシュアルハラスメント相談室長	進路（休・退学など）の相談 ハラスメントに関する相談	月曜日 16:30～18:30
福嶌　克彦	一般教科 学生相談室長	メンタルヘルスケア関係の相談	火曜日 14:35～16:35
塚崎　悦子	学生相談室	臨床心理士 メンタルヘルスケア関係の相談	木曜日 (予約制)

（出典　なんでも相談室リーフレット）

資料７－１－③－２　なんでも相談室ぷちアンケート

学生昇降口の掲示された案内：



学生昇降口に設置されたアンケート回収箱：

（出典　なんでも相談室掲示）

資料７－１－③－３　アンケート回答例

なんでも相談室　プチアンケート回答 No.5　05.10.20

要望

機械科棟はナゼ新しくならないのですか。9/25

回答　回答者　会計課長

・奈良高専は、平成 16 年 4 月 1 日付をもって「独立行政法人 国立高等専門学校機構 奈良工業高等専門学校」として、新しく生まれ変わりました。
・また、全国には本校と同様の高等専門学校が、55校存在し、それらを統括するために「独立行政法人 国立高等専門学校機構」(以下「機構」という。)が新たに組織され、更に、機構を含んだ日本のすべての教育研究機関を統括するために「文部科学省」が組織されています。

・奈良高専において、ほぼ毎年経常的に使用する予算(お金)は、文部科学省 → 機構 → 奈良高専 へと自動的に配分されます(流れてきます)。ところが、質問にある「機械工学科棟の改修工事費予算」(概算要求レベル予算)については、各校で個別に要求金額(約4億円)、必要理由等を明記した予算要求書に、関連書類・図面等を添えて 奈良高専 → 機構 → 文部科学省 へ要求し、それぞれの組織で要求内容が認められて初めて、予算が配分されるシステムになっています。

・数年前から、本校では「機械工学科棟の改修工事」については、本校内で協議のうえ緊急順位1位で要求しているところです。更に今年度は、自主的に実施した耐震診断結果資料や、地震発生確率資料等を補足説明資料として添えることにより、予算化が1年でも早く実現するように、強くアピールしたところです。
・しかしながら、近年の不景気・税収不足により政府予算そのものが緊縮化されている状況にあるため、政府から文部科学省や機構へ配分される予算総額が大幅削減されていること、また、全国55高専のみならず、全国国立大学法人等には、地震が頻発する危険な地域に存在し、かつ、本校機械工学科棟よりも老朽化し、耐震診断結果に基づく危険度が高い学校が、まだ数多く存在していること、等々の諸事情から、「本校機械工学科棟の改修工事」の予算化の順番が遅れています。

・今後も引き続き、本校の教育研究の発展のために、知恵を絞り、あらゆる手段を講じて、少しでも多額の予算が獲得できるように努力して行きたいと考えています。

（出典　なんでも相談室ぷちアンケート回答）

資料7－1－③－4　授業アンケート

授業アンケート用紙（設問及び自由記述）

平成17年度授業アンケート（講義用）

私たち教員は、教育内容の向上を図り、学生の皆さんと共により良い授業を実現していきたいと考えています。その資料とするため、皆さんの率直な意見を聞きたいと思いますので、以下の設問に対する現時点での評価を真面目に回答して下さい。

[設問]

A群．授業の様子について

1．先生は授業を熱心に行った
2．先生の声や言葉は明瞭で聞き取りやすかった
3．板書（教材提示機器によるものを含む）は見やすかった
4．授業中、先生に質問しやすかった

B群．授業の準備や工夫について

5．先生の授業に対する準備は十分であった
6．先生の説明はわかりやすかった
7．適切な教材（教科書・プリント・指導書・実験器具・用具など）が用いられた
8．授業の理解を深めるような演習・宿題は十分あった

C群．授業の組み立てや評価について　【※（　）内の該当する語句に○を付けて下さい。】

9．授業はシラバスの内容に沿って行われた
10．授業のレベルや進み具合は適切であった　※レベル：（高・(適切)・低）　進み具合：（速・(適切)・遅）
11．試験の内容は適切であった　※内　容：（(難)・適切・易）
12．成績の評価方法は妥当だと思う

D群．あなたの取り組みについて

13．授業の予習をした
14．授業の復習をした
15．教科書以外の本や参考書などを活用した（または、授業に積極的に取り組んだ）
16．シラバスを活用した

E群．授業全般について

17．授業の内容に興味を持った
18．授業の内容を十分理解できた
19．授業の目的や意義を十分理解できた
20．総合的に良い授業と評価できる

[自由記述]

この授業をよくするために参考になる意見があれば書いて下さい。

応用問題なども授業中に解いてほしい。

（出典　平成17年度授業アンケート資料）

資料７－１－③－５　学生自身による学習目標の達成度点検シート

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生自身による学習目標の達成度点検シート（平成１７年度・４Ｍ流体工学））

資料7－1－③－6　担当教員による分析と課題例

担当教官による分析と課題

A群では，全体平均より高い評価を受けている．「板書（教材提示機器によるものを含む）は見やすかった」，「授業中，先生に質問しやすかった」の項目の平均は，それぞれ3.33と3.09であり，昨年度より改善できたと考えられるが，演習を取り入れた授業進行や板書の使い方に一層の工夫が必要である．B群でも，全体平均より高い評価を受けているが，4名程度の学生が「あてはまらない」と回答しており，これら学生に対しより適切な指導が必要と思われる．C群では，全体平均よりやや高い程度の評価を受けている．唯一「試験の内容は適切であった」の項目が2.93と低い評価を受けており，やや難しい内容と感じているようである．次年度は，授業中などで試験内容について感想を述べられるような時間を取り，試験内容がより適切となるよう反映させていきたい．D群も，全体平均よりやや高い程度の評価を受けてはいる．が，全体平均自体も総じて低いためであり，宿題などを提供することにより，本教科に対する動機付けを工夫して行い，積極的な自学自習ができる雰囲気作りを構築していきたい．E群については、D群で高い評価を得ることで、相乗的に向上すると思われる。

（出典　平成 16 年度授業アンケート報告書）

資料7－1－③－7　専攻科生との懇談会

専攻科生との懇談会メモ

日時　平成１７年６月１７日(金)１６：３０～１７：５０
場所　大視聴覚室
出席者　一岡校長，福田専攻科主任，和田副主任，大谷，矢野，小山，伊月
　　学生（別紙６６名）　　馬場学生課長，米田専門員

内　容

[1] 学校から次の事項について連絡をした。

１．図書館から６月２３日（木）情報検索に関する講習会を行う。

２．TOEIC IP テストについて
　９月３日（土）に本校で行うので６月２７日（月）までに生協に申し込む。
　先着１００名とする。

３．学位授与申請に関する説明会について
　７月７日（木）１３時から専攻科南棟視聴覚室で行う。２年生は全員出席すること。

４．専攻科生の夏季休業中の残寮について
　専攻科主任が確認したところ，本科生と同様に専攻科生の残寮は認めないとのことであった。

５．専攻科生の学外研修について
　１１月１０日(木)～１１月１１日(金)に実施する学外研修の計画について，主任が学友会役員と相談し研修先を決めることとした。

[2] 学生から次の事項について要望・意見があった。
（※は教職員からの回答）

１．専攻科生用の自転車（単車）置場について
　職員用と混合しているので，専攻科生専用の自転車(単車)置場を確保してほしい。
　研究室の近くに分散できないか。
　なぜ毎年駐車場を変更しなければならないのか。
　自転車用の工作物があるので余計に狭くなっている。
　※担当委員会に伝える。

２．英語（アルク）のネットでの学習について
　各研究室でも使用できないか。ＬＬ教室・マルチ室の時間延長をしてほしい。
　※現在はＬＬ教室・マルチ室のみを考えている。各研究室で使用できるようにするには予算的に無理である。２０時まで時間延長を検討している。

３．専攻科生への連絡について
　掲示板への掲示方法を工夫してほしい。メールが届かない。
　※掲示のしかたを工夫する。
　学生へのメールを送るのに障害があってうまく送られていないようである。

（出典　自己点検書（引用・裏付資料編））

資料７－１－③－８　図書館内外に設置された意見箱

意見箱:

目安箱:

意見箱:

（出典　図書館）

資料7－1－③－9　目安箱への回答

本との出会い

４Ｓ　齊木惇高

本を読み出したきっかけは、高専に編入してくる前の高校の図書館でふと手を出した本からだったと思います。レポートの資料を探しに図書館を訪れたとき新刊図書のコーナーにタイトルは忘れましたが図解雑学シリーズの宇宙物理系の本がおいてあり借りたことからだったと思います。今まで自主的に図書館に入ることなどなかったのですがこの本をきっかけに毎昼休み図書館に通い出し、図解雑学シリーズはほぼ読破しました。

その後も高等な知識が得たいと思い、分野を問わず生物、数学、哲学など読書の幅を広げていきました。高専に入学してまず図書館の大きさに驚きました。また、本の内容も高等なものが多く今も常に数冊本を借りて読んでいます。

本は自分の知らない、授業では決してみることのできない世界を見せてくれます。特に科学が好きで様々な科学系の本を読んできましたが、その半分は授業とは関係の無い教科書に載っていない内容です。それでもなぜ本を読むかというと、純粋に興味がありおもしろいからです。また本を読んで、将来自分が何をしたいかを見つけることができました。本が嫌い、または何らかの形で半ば強制的にしか本を読んだことがないという方も高専の図書館にはたくさんの本がある為、自分にあった本を見つけることが出来るかもしれません。一度図書館を訪れて棚の間を歩いてみてはどうでしょうか。

どんな意見があるかな？
目安箱回答についての中間レポート

図書館に目安箱が置いてあるのに気づいていますか。これは、少しでも利用しやすい図書館にしていこうと今年の夏、学生図書委員会で設置したものです。

どんな意見でも結構ですので、気軽に意見を書いて下さい。できるところは、どんどん改善していきたいと思っています。

学生レベルで解決できないものもたくさんありますので、先生にもお願いして解決の方法を見つけたいと思っています。いままでのところ、以下のような意見が出ています。僕なりに回答してみました。

意見①図書館の閉館時間はちゃんと守ってほしい

→開館時間は平常、20時までです。20時まで閲覧できるのではなく20時までに退出してください。閉館予告を20時までに言いにいきますが、20時までに退出すればいいです。
勤務時間の限界まで開館してあるのでご協力のほうお願いします。

意見②新潮社文庫の百選を並べてほしい

→他社の本と組み合わせると、ほぼすべての百選がカバーできています。回答欄（図書館入口）に挿んであるので見てみてください。

意見③図書館の新しく入ったPCを検索などの目的以外で長時間占領している人がいる。

→前々から問題になっているので何らかの対応を検討中です。

意見④図書館の検索のデフォルトをもう少し使いやすく設定してほしい。

→設定を変えました。使いやすくなったでしょうか。

意見⑤本、楽譜を追加してほしい。

→購入希望図書欄に書いていただくか、ブックハンティングのときに言ってください。

意見⑥かばんを置くところを広くしてほしい。

→広くするにはどこかの場所を充当する必要があります。しかし、よいスペースがあればよいのですが、適当な場所がなく何かが不便になるので現在未解決です。

意見⑦図書がたくさんあっていい。

→ありがとうございます。

意見⑧騒がしいので注意してほしい

→僕もそう思います。時々勉強する気にならないほど騒々しいときがありますもんね。（僕も気を付けなければ・・・・）ある程度の会話は仕方がないですが、節度を保ってほしいですね。

（学生図書委員長　小林）

（出典　図書館だより）

資料７－１－③－１０　ボランティア活動に関する調査と結果

ボランティア活動に関する調査結果

（平成 17 年 1 月 11 日実施）

平成 17 年 1 月 31 日

有効回答数　5 年生 160 名(M:21 名、E:33 名、S:43 名、I:34 名、C:29 名)

1．ボランティア活動に興味をもったことはありますか。

	M	E	S	I	C	Total	%
はい	9 名	13 名	25 名	21 名	17 名	85 名	53.13
いいえ	12 名	20 名	18 名	13 名	12 名	75 名	46.88

2．これまでに、ボランティア活動を行ったことがありますか。

	M	E	S	I	C	Total	%
はい	4 名	9 名	17 名	14 名	6 名	50 名	31.25
いいえ	17 名	24 名	26 名	20 名	23 名	110 名	68.75

3．２で行ったことがあると答えた人にお聞きします。

（1）これまでに行ったボランティア活動の内容について教えてください。

有効回答数 46 名 59 件

(M:4 名 6 件、E:8 名 11 件、S:15 名 19 件、I:13 名 17 件、C:6 名 6 件)

活動内容	件数	活動内容	件数
地域清掃	27	海外ボランティア小学校建設	1
給食センター清掃	1	植林	1
老人ホーム清掃	1	献血キャンペーン	1
奈良県文化振興会親と子の劇場	1	研究の紹介	1
老人ホーム訪問	5	英語、サッカーを小学生に教える	2
外国人ホストファミリー	1	一人暮らしの老人に花を配る	1
身体障害者介護	1	駅座布団設置	1
養護施設訪問	1	子ども会手伝い	1
募金活動	9	少年のための科学祭	1
合計	59	保母さん助手	1

（出典　ボランティア活動に関するアンケート）

資料7－1－③－11　奈良高専卒業にあたっての「満足度」に関する調査

平成 18 年 2 月 9 日

奈良高専卒業にあたっての「満足度」に関する調査

教務主事

以下の質問に該当するものを黒く塗りつぶしてください。

1. クラス

・5M ○　　・5E ○　　・5S ○　　・5I ○　　・5C ○

2. 次の項目の中で「満足している」、「どちらでもない」、「満足していない」ものに分け、○、△、□を塗りつぶしてください。

○＝満足している　　△＝どちらでもない　　□＝満足していない

○	△	□	一般教育(理数系)	○	△	□	一般教育(語学系)	○	△	□	一般教育(社会系)
○	△	□	一般教育(体育系)	○	△	□	専門教育	○	△	□	実験実習
○	△	□	卒業研究	○	△	□	社会工場見学	○	△	□	卒業旅行
○	△	□	クラブ活動	○	△	□	生協の充実	○	△	□	自由な校風
○	△	□	実験・研究施設が充実している	○	△	□	各種施設が充実している	○	△	□	交通指導
○	△	□	特別活動(人権教育)	○	△	□	特別活動(各種講演会)	○	△	□	卒業生と語る会
○	△	□	就職(希望する企業に入れた)	○	△	□	進学(専攻科に入れた)	○	△	□	進学(希望する大学に入れた)
その他	満足					不満足					

3. 奈良高専での 5 年間の学生生活に満足していますか。

○	満足している	○	どちらでもない	○	満足していない
その他					

ご協力、有り難うございました

（出典　奈良高専卒業にあたっての「満足度」に関するアンケート）

資料7－1－③－12　奈良高専卒業にあたっての「満足度」に関する調査結果

質問番号	5M			5E			5S			5I			5C			満足している	どちらでもない	満足していない	有効回答数
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3				
一般教育(理数系)	21	20	4	14	21	4	19	18	3	12	17	6	13	9	5	79	85	22	186
一般教育(体育系)	18	14	13	18	12	9	18	12	10	14	13	8	13	4	10	81	55	50	186
卒業研究	13	19	12	17	13	9	15	22	2	4	20	11	13	9	5	62	83	39	184
クラブ活動	19	16	8	13	17	9	14	18	8	11	16	7	11	12	4	68	79	36	183
実験・研究施設が充実している	10	17	17	15	15	8	15	16	8	11	16	8	11	12	4	62	76	45	183
特別活動(人権教育)	8	28	9	9	17	12	5	22	13	3	19	13	6	16	4	31	102	51	184
就職(希望する企業に入れた)	17	9	7	14	14	3	13	7	2	9	16	2	10	9	2	63	55	16	134
一般教育(語学系)	7	22	16	6	15	18	3	20	17	5	14	16	5	8	14	26	79	81	186
専門教育	18	23	3	7	25	7	15	20	3	7	21	7	8	15	4	55	104	24	183
社会工場見学	25	17	3	22	12	5	25	13	1	15	14	6	9	16	1	96	72	16	184
生協の充実	25	14	3	22	10	5	19	15	6	20	12	2	13	10	3	99	61	19	179
各種施設が充実している	7	28	9	6	19	13	8	20	12	5	20	10	4	14	8	30	101	52	183
特別活動(各種講演会)	13	24	7	10	22	7	1	24	15	4	21	10	5	16	6	33	107	45	185
進学(専攻科に入れた)	8	13	7	5	15	2	7	10	4	5	18	6	4	5	3	29	61	22	112
一般教育(社会系)	16	21	7	8	18	13	7	25	8	3	16	15	8	13	6	42	93	49	184
実験実習	23	16	5	8	20	10	17	18	4	10	18	7	14	11	2	72	83	28	183
卒業旅行	30	11	3	24	11	4	32	6	2	20	11	4	11	6	10	117	45	23	185
自由な校風	21	13	9	25	10	3	22	14	2	15	17	2	14	7	5	97	61	21	179
交通指導	7	18	19	6	14	19	2	19	19	4	16	15	6	15	6	25	82	78	185
卒業生と語る会	6	25	13	13	18	8	9	22	7	6	20	9	4	16	7	38	101	44	183
進学(希望する大学に入れた)	12	13	8	8	13	4	7	12	5	7	17	9	5	5	2	39	60	28	127
5年間の学生生活に満足しています	24	12	7	20	13	6	27	11	2	13	10	12	9	14	4	93	60	31	184

（出典　奈良高専卒業にあたっての「満足度」に関するアンケート）

資料7－1－③－13　マリンバ演奏会に関する調査と結果

「マリンバ演奏会」に関する調査結果

（平成 16 年 12 月 14~16 日実施）

平成 17 年 1 月 31 日

有効回答数　3 年生 202 名(M:39 名、E:43 名、S:41 名、I:36 名、C:43 名)

1. 学校での「マリンバ演奏会」以前に、学校以外でクラシック音楽などの音楽会に出席する機会がありましたか。

	M	E	S	I	C	Total	%
あった	12 名	17 名	17 名	13 名	33 名	92 名	45.54
なかった	27 名	26 名	24 名	23 名	10 名	110 名	54.46
Total	39 名	43 名	41 名	36 名	43 名	202 名	100.00

2. 現在も、上記のような音楽会に出席する機会は多いですか。

	M	E	S	I	C	Total	%
月 1 回以上	0 名	2 名	0 名	1 名	0 名	3 名	1.49
半年に 1 回以上	3 名	3 名	6 名	4 名	7 名	23 名	11.39
年 1 回以上	1 名	6 名	10 名	5 名	6 名	28 名	13.86
無い	35 名	32 名	25 名	26 名	30 名	148 名	73.27
Total	39 名	43 名	41 名	36 名	43 名	202 名	100.00

3. 「マリンバ演奏会」に参加してみて、良かったですか。

	M	E	S	I	C	Total	%
良かった	15 名	29 名	26 名	21 名	33 名	124 名	61.39
どちらともいえない	21 名	13 名	10 名	15 名	9 名	68 名	33.66
良くなかった	3 名	1 名	5 名	0 名	1 名	10 名	4.95
Total	39 名	43 名	41 名	36 名	43 名	202 名	100.00

4. 「マリンバ演奏会」以外に、どのような音楽会に興味がありますか、記入してください。

（上位 3 位を抽出）有効回答数　62 名 66 件(M:11 名、E:9 名、S:13 名、I:14 名、C:15 名)

	M	E	S	I	C	Total	%
オーケストラ	4 件	6 件	7 件	3 件	9 件	29 件	20.00
ピアノ	1 件	6 件	4 件	4 件	4 件	19 件	13.10
ロック	5 件	1 件	1 件	5 件	2 件	14 件	9.66
Total	15 件	5 件	13 件	19 件	14 件	66 件	

（出典　マリンバと歌舞伎に関するアンケート）

資料7－1－③－14　歌舞伎鑑賞会に関する調査と結果

歌舞伎鑑賞会に関する調査結果

（平成 16 年 12 月 10 日実施）

平成 17 年 1 月 31 日

有効回答数　2 年生 196 名(M:40 名、E:38 名、S:39 名、I:41 名、C:38 名)

1. 学校での「歌舞伎鑑賞会」以前に、学校以外でこのような古典芸能に触れる機会がありましたか。

	M	E	S	I	C	Total	%
あった	6 名	9 名	10 名	17 名	11 名	53 名	27.04
なかった	34 名	29 名	29 名	24 名	27 名	143 名	72.96
Total	40 名	38 名	39 名	41 名	38 名	196 名	100.00

2. 現在も、古典芸能に触れる機会は多いですか。

	M	E	S	I	C	Total	%
月 1 回以上	2 名	1 名	1 名	1 名	0 名	5 名	2.55
半年に 1 回以上	0 名	0 名	1 名	1 名	2 名	4 名	2.04
年 1 回以上	1 名	2 名	4 名	3 名	2 名	12 名	6.12
無い	37 名	35 名	33 名	36 名	34 名	175 名	89.29
Total	40 名	38 名	39 名	41 名	38 名	196 名	100.00

3. 「歌舞伎鑑賞会」に参加してみて、良かったですか。

	M	E	S	I	C	Total	%
良かった	18 名	10 名	14 名	22 名	14 名	78 名	39.80
どちらともいえない	18 名	20 名	22 名	18 名	16 名	94 名	47.96
良くなかった	4 名	8 名	3 名	1 名	8 名	24 名	12.24
Total	40 名	38 名	39 名	41 名	38 名	196 名	100.00

4. 「歌舞伎鑑賞会」以外に、どのような古典芸能に興味がありますか、記入してください。

（上位 3 位を抽出）有効回答数　70 名(M:17 名、E:5 名、S:14 名、I:19 名、C:15 名)

	M	E	S	I	C	Total	%
狂言	3 名	4 名	3 名	7 名	7 名	24 名	26.09
落語	7 名	0 名	6 名	7 名	2 名	22 名	23.91
能	5 名	1 名	4 名	5 名	5 名	20 名	21.74
Total	15 名	5 名	13 名	19 名	14 名	66 名	70 名中

（出典　マリンバと歌舞伎に関するアンケート）

資料7－1－③－15　学習支援に関するアンケート調査と結果

2006. 4

本科　学生諸君

本アンケートは、本科において、教育の成果や効果が上がっているかを把握するための基礎データとなるものです。
下記のアンケートのご協力ください。
記号で回答するアンケート結果は、下の回答欄に、記号を書き込んでください。

【　問 0　】あなたの学年、学科について。
学年（ 1、 2、 3、 (4) 5 ）　　学科（ (M) E、 S、 I、 C ）

● 基準1　本校の目的、基準4　学生の受入れ

本校の教育理念、アドミッション・ポリシー、学習・教育目標についてお聞きします

【　問 1　】あなたは、本校の教育理念と目標を知っていますか。
ア．知っている。　イ．具体的な内容は忘れたが、知っている。　(ウ．)知らない。

【　問 2　】あなたは、本科のアドミッション・ポリシーを知っていますか。
ア．知っている。　イ．具体的な内容は忘れたが、知っている。　(ウ．)知らない。

【　問 3　】あなたは、本科の学習・教育目標を知っていますか。
ア．知っている。　イ．具体的な内容は忘れたが、知っている。　(ウ．)知らない。

● 基準7　学生支援

【　問 4　】学生生活の満足度についてお聞きします。
(1) 学生生活に満足していますか。（２年生以上の学生）
ア．している。　イ．どちらとも言えない。　(ウ．)していない。
(2) 資格取得や検定試験受講、外国留学等に興味を持っていますか。
(ア．)持っている。　イ．どちらとも言えない。　ウ．持っていない。
(3) あなたが学習を進める上で、学校に対して望む具体的な支援活動があれば、下記の欄に記入して下さい。

資格などの情報（どうやって取るか、など…）を
もっと多くして欲しいです。

回答欄

問0		問 1	問 2	問 3	問 4	
学 年	学 科				(1)	(2)
4	M	ウ	ウ	ウ	ウ	ア

ご協力有難うございました。

平成18年度本科生対象（1～5年生）　H18.4.28

問0		1年						2年						3年						4年						5年						学生合計	
		M	E	S	I	C	合計	M	E	S	I	C	合計	M	E	S	I	C	合計	M	E	S	I	C	合計	M	E	S	I	C	合計	合計	割合(%)
問1	ア	9	7	14	5	5	40	0	6	5	5	0	16	0	2	1	4	0	7	0	16	16	25	2	59	0	1	28	2	1	32	154	19.4
	イ	23	31	27	27	34	142	0	9	15	19	0	43	0	9	16	18	10	53	0	9	13	7	15	44	0	15	11	11	25	62	344	43.4
	ウ	7	5	0	10	3	25	0	25	22	19	0	66	0	30	25	23	26	104	0	10	11	6	23	50	0	18	3	19	9	49	294	37.1
	合計	39	43	41	42	42	207	0	40	42	43	0	125	0	41	42	45	36	164	0	35	40	38	40	153	0	34	42	32	35	143	792	100.0
問2	ア	3	5	12	1	0	21	0	2	1	3	0	6	0	2	1	4	0	7	0	17	15	21	2	55	0	0	16	0	1	17	106	13.4
	イ	23	23	30	27	37	140	0	5	9	6	0	20	0	1	3	5	3	12	0	5	12	7	4	28	0	8	23	5	14	50	250	31.5
	ウ	13	15	0	14	5	47	0	33	32	34	0	99	0	38	38	36	33	145	0	13	13	10	34	70	0	26	3	27	20	76	437	55.1
	合計	39	43	42	42	42	208	0	40	42	43	0	125	0	41	42	45	36	164	0	35	40	38	40	153	0	34	42	32	35	143	793	100.0
問3	ア	3	4	10	2	2	21	0	2	2	5	0	9	0	2	1	4	1	8	0	17	16	24	1	58	0	4	19	2	1	26	122	15.4
	イ	24	26	32	25	34	141	0	13	16	22	0	51	0	10	15	12	8	45	0	7	13	7	11	38	0	8	21	11	24	64	339	42.7
	ウ	12	13	0	15	6	46	0	25	24	16	0	65	0	29	26	29	27	111	0	11	11	7	28	57	0	22	2	19	10	53	332	41.9
	合計	39	43	42	42	42	208	0	40	42	43	0	125	0	41	42	45	36	164	0	35	40	38	40	153	0	34	42	32	35	143	793	100.0
問4(1)	ア	0	0	0	0	0	0	0	10	17	18	0	45	0	12	19	14	7	52	0	22	8	11	8	49	0	12	18	13	21	64	210	36.0
	イ	0	0	0	0	0	0	0	22	18	17	0	57	0	16	13	20	15	64	0	9	18	14	25	66	0	13	17	16	11	57	244	41.8
	ウ	0	0	0	0	0	0	0	8	7	8	0	23	0	13	10	11	14	48	0	4	14	13	7	38	0	9	7	3	2	21	130	22.3
	合計	0	0	0	0	0	0	0	40	42	43	0	125	0	41	42	45	36	164	0	35	40	38	40	153	0	34	42	32	34	142	584	100.0
問4(2)	ア	18	23	3	20	25	89	0	16	23	25	0	64	0	18	19	14	15	66	0	28	20	22	23	93	0	25	28	25	19	97	409	54.3
	イ	14	17	4	17	13	65	0	10	12	12	0	34	0	9	16	20	13	58	0	6	13	7	10	36	0	1	8	6	8	23	216	28.7
	ウ	5	2	1	3	3	14	0	14	7	6	0	27	0	14	7	11	8	40	0	1	7	9	7	24	0	8	6	1	8	23	128	17.0
	合計	37	42	8	40	41	168	0	40	42	43	0	125	0	41	42	45	36	164	0	35	40	38	40	153	0	34	42	32	35	143	753	100.0
	ア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	23	0	0	0	0	36	36	0	0	0	0	43	43	102	18.4
	イ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	49	0	0	0	0	65	65	0	0	0	0	82	82	196	35.4
	ウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	108	108	0	0	0	0	99	99	0	0	0	0	49	49	256	46.2
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180	180	0	0	0	0	200	200	0	0	0	0	174	174	554	100.0

（出典　学習支援に関するアンケート）

観点７－１－④：　資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

資格及び検定試験に関する支援体制としては，各学科・教科において受験を奨励し（資料７－１－④－１），取りまとめ等を行っている（資料７－１－④－２）。英語力の向上を図るため外部の資格試験による単位認定科目を設けており，学生の意欲を喚起している（資料７－１－④－３，４，５）。

2004年度より重点教育目標の一つとして英語によるコミュニケーション基礎能力の養成を掲げ，準学士課程の第３～５学年及び専攻科課程の学生を対象にTOEIC IPテストを年数回実施している（資料７－１－④－６）。これらの結果を分析し（資料７－１－④－７），補講の実施等学習支援に反映している（資料７－１－④－８，９）。この他にも多くの資格・検定試験が本校を会場に実施され，学生の受験に伴う負担を軽減している（資料７－１－④－１０）。

外国留学に関する支援体制としては，平成２年に留学規程を制定し（資料７－１－④－１１），留学に関する細則（資料７－１－④－１２）や海外留学に伴う休学についての申し合わせ（資料７－１－④－１３）を設け，留学先で取得した単位認定や年度途中からの留学でも帰国後継続して履修ができるよう配慮している。平成１７年度は，５名の学生が留学した（資料７－１－④－１４）。

（分析結果とその根拠理由）

資格試験や検定試験受講が各学科・教科において奨励されており，一部教科で単位を認定している。ＴＯＥＩＣ－ＩＰテストの学習支援体制が整備され，機能している。毎年数名の学生が留学しており，外国留学のための支援体制が整備され，機能している。

資料7－1－④－1　資格取得の奨励

○　資格取得

機械工学科では，実践的かつ創造的な機械技術者を育成する支援策として，工業英検３級，さらに機械設計技術者３級の取得を奨励し，受験指導を行っている。いずれの資格試験も毎年，多くの学生が興味を示し受験している。

(3)　カリキュラム以外の取組み

カリキュラム以外の取組みとして，

○　第４学年および第５学年の学生に対して，機械設計技術者試験３級の受験を奨励した。

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料7－1－④－2　受験の取りまとめ等

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　自己点検書（引用･裏付資料編）･4M工業外国語担当教員作成資料）

資料7－1－④－3「実用英語」Ⅰ～Ⅲについての理由書

「実用英語」Ⅰ～Ⅲの開設についての理由書

従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、学生のそれへの取り組み及び積極的な受験を促すために、選択科目として「実用英語」Ⅰ～Ⅲを新設することとする。

奈良高専では、平成16年度4月から、3年生以上の「英語」の授業（一部5年生語学選択授業はのぞく）において、英語検定試験やTOEICなどの外部の技能審査の受験を念頭においた授業が実施されているが、これらへの学生の取り組みや合格に係る学修に対する単位認定は行っていなかった。平成16年度より校内でTOEIC IPテストの受験が行われるようになったのに伴い、上記の英語に関する技能審査の受験をいっそう促すことを目的として、一般科目の中に「実用英語」Ⅰ～Ⅲを開設するものである。

配当学年	科目名	単位数	学修の基準
第３学年	実用英語Ⅰ	1	英語検定試験準２級合格以上
第４学年	実用英語Ⅱ	1	英語検定試験２級合格以上
第５学年	実用英語Ⅲ	1	英語検定試験準１級合格以上

なお、「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEICについては、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。

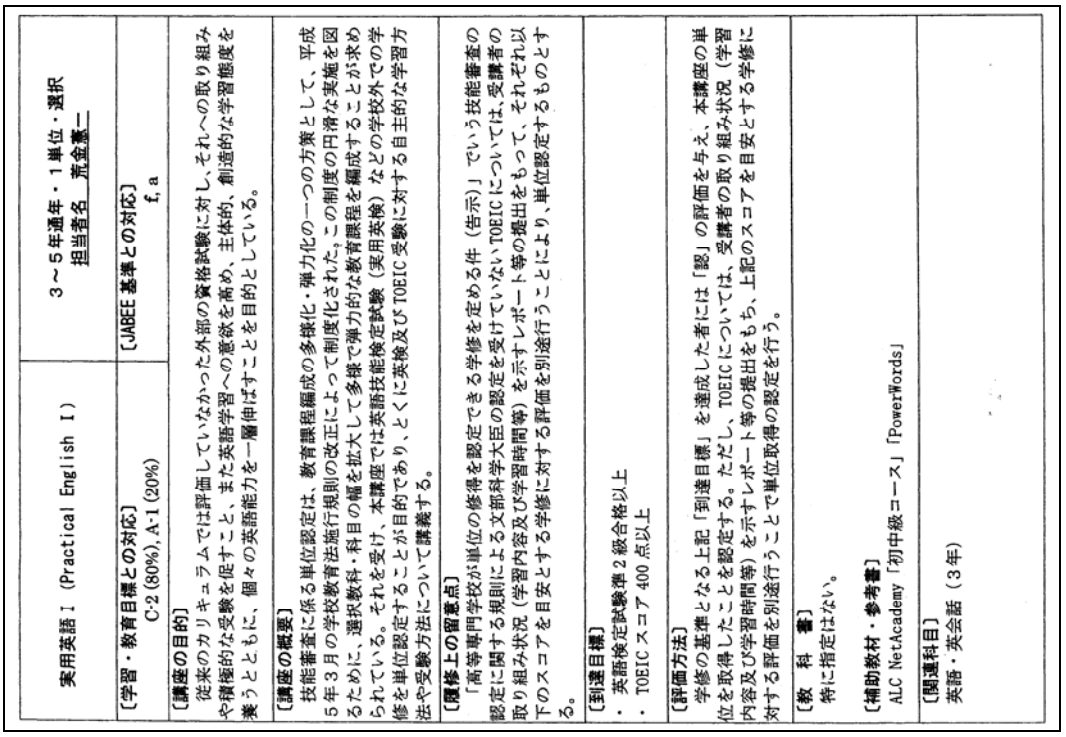
配当学年	科目名	単位数	学修の基準
第３学年	実用英語Ⅰ	1	TOEICスコア400点以上
第４学年	実用英語Ⅱ	1	TOEICスコア500点以上
第５学年	実用英語Ⅲ	1	TOEICスコア600点以上

以上

（出典　教務委員会作成資料）

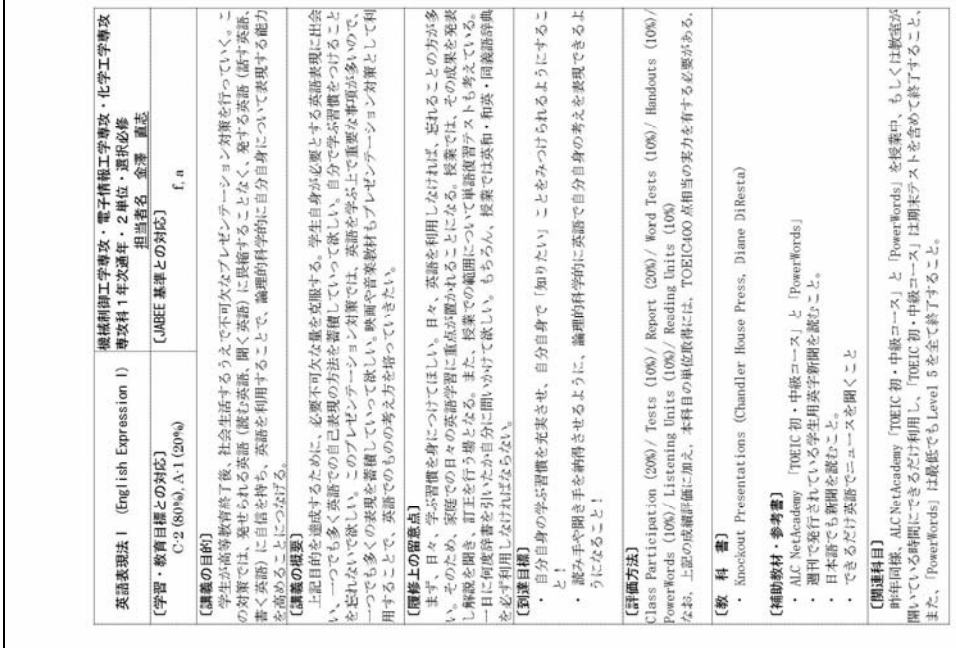
資料7－1－④－4　シラバス

実用用語Ⅰ：



実用英語Ⅰ（Practical English Ⅰ）	3～5年通年・1単位・選択 担当者名　高金素一
〔学習・教育目標との対応〕 C-2 (80%), A-1 (20%)	〔JABEE 基準との対応〕 f, a
〔講座の目的〕 従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、それへの取り組みや積極的な受験を促すこと、また英語学習への意欲を高め、主体的、創造的な学習態度を養うとともに、個々の英語能力を一層伸ばすことを目的としている。	
〔講座の概要〕 技能審査に係る単位認定は、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正によって制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して多様で弾力的な教育課程を編成することが求められている。それを受け、本講座では英語技能検定試験（実用英検）などの学校外での学修を単位認定することが目的であり、とくに英検及びTOEIC受験に対する自主的な学習方法や受験方法について講義する。	
〔履修上の留意点〕 「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEICについては、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。 ・英語検定試験準2級合格以上 ・TOEICスコア400点以上	
〔評価方法〕 学修の基準となる上記「到達目標」を達成した者には「認」の評価を与え、本講座の単位を取得したことを認定する。ただし、TOEICについては、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもち、上記のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことで単位取得の認定を行う。	
〔教　科　書〕 特に指定はない。 〔補助教材・参考書〕 ALC NetAcademy「初中級コース」「PowerWords」	
〔関連科目〕 英語・英会話（3年）	

英語表現法Ⅰ：



英語表現法Ⅰ（English Expression Ⅰ）	機械制御工学専攻・電子情報工学専攻・化学工学専攻 専攻科1年次通年・2単位・選択必修 担当者名　金澤　直志
〔学習・教育目標との対応〕 C-2 (80%), A-1 (20%)	〔JABEE 基準との対応〕 f, a
〔講義の目的〕 学生が高等教育終了後、社会生活するうえで不可欠なプレゼンテーション対策を行っていく。この対策では、発せられる英語（聞く英語）に反応することなく、発する英語（話す英語、書く英語）に自信を持ち、英語を利用することで、論理的科学的に自分自身について表現する能力を高めることにつながる。	
〔講義の概要〕 上記目的を達成するために、必要不可欠な壁を克服する。学生自身が必要とする英語表現に出会い、一つでも多く英語での自己表現の方法を習慣していって欲しい、自分で学ぶ習慣をつけることを忘れないで欲しい。このプレゼンテーション対策では、英語を学ぶ上で重要な事項が多いので、一つでも多くの表現を習慣していって欲しい。映画や音楽教材もプレゼンテーション対策として利用することで、英語でのものの考え方を培っていきたい。	
〔履修上の留意点〕 まず、日々、学ぶ習慣を身につけてほしい。日々、英語を利用しなければ、忘れることの方が多い。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。授業では、その成果を発表し解説を聞き、訂正を行う場となる。また、授業での範囲について単語復習テストも考えている。一日に何度辞書を引いたか自分に問いかけて欲しい。もちろん、授業では英和・和英・同義語辞典を必ず利用しなければならない。 ・自分自身の学ぶ習慣を充実させ、自分自身で「知りたい」ことをみつけられるようにすること！ ・就労手や開き手を納得させるように、論理的科学的に英語で自分自身の考えを表現できる人になること！	
〔評価方法〕 Class Participation (20%) / Tests (10%) / Report (20%) / Word Tests (10%) / Handouts (10%) / PowerWords (10%) / Listening Units (10%) / Reading Units (10%) なお、上記の成績評価に加え、本科目の単位取得には、TOEIC400点相当の実力を有する必要がある。	
〔教　科　書〕 ・Knockout Presentations (Chandler House Press, Diane DiResta) 〔補助教材・参考書〕 ・ALC NetAcademy「TOEIC初・中級コース」と「PowerWords」 ・週刊で発行されている学生用英字新聞を読むこと。 ・日本語でも新聞を読むこと。 ・できるだけ英語でニュースを聞くこと	
〔関連科目〕 前年同様、ALC NetAcademy「TOEIC初・中級コース」と「PowerWords」を授業中、もしくは教室外開いている時間にできるだけ利用し、「TOEIC初・中級コース」は期末テストを含めて終了すること。 また、「PowerWords」は最低でもLevel 5を全て終了すること。	

（出典　平成17年度シラバス）

資料７－１－④－５　単位認定実績

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　平成17年度進級認定資料）

資料７－１－④－６「TOEIC IP-test」受験

（２）※　学生の TOEIC-IP 受験：英語科教員と担任の協力のもと本年は，4 月 8 日（金）入学式の午後に昨年と同様，本校を会場にして TOEIC-IP 試験を実施した。受験者は 3 学年 204 名，4 学年 204 名，5 学年 77 名，専攻科学生 21 名の合計 506 名（留学生 8 名）で，内 217 名が再受験者であった。総受験者数は昨年に比べ 200 名ほど増加し成績も向上しており，最高は 915 点で最低は 85 点であった。再受験者の内 82%（178 名）は平均 53 点ほど成績がアップし，TOEIC-IP 試験を始めて僅か１年しか経過していないが着実に成果があらわれている。

９月には本年第２回目の TOEIC-IP 試験を実施する予定である。

TOEIC受験者数

（教務委員会まとめ，2005/07/25）

	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	合計	備考
2004/4/7実施	0	211	68	57	2	0	338	4年以上は希望者
2005/1/16実施	1	3	106	4	0	0	114	希望者のみ
2005/4/8実施	0	204	204	77	5	16	506	5年以上は希望者

（出典　2005年10月自己点検・評価報告書・自己点検書（引用・裏付資料編））

資料7－1－④－7　TOEIC IP テスト実施結果

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－④－8　TOEIC対策の支援体制

TOEIC 対策の支援体制

2005 11/15

1．運営会議委員レベルでの合意事項（2005 11/14 19:30）

TOEIC のプログラム達成基準を満たさない学生への支援体制

1）TOEIC 補講クラスを作る（英語科を中心に運営）

基準を満たさない専攻科２年生は，全員受講させる．

2）受講指導は，専攻科委員会，各学科主任，指導教員を中心にして行う．

2．教務主事，JABEE 受審対応委員，英語科教員での協議結果（2005 11/14 20:55）

2.1 今年度の専攻科２年生への対応

1）TOEIC 補講クラスの実施体制

専攻科２年生の基準未達成者は，受講を必須として強く指導する．

1-1）平日の補講（授業期間中）

英語表現法 II（専攻科２年，選択科目，水１限）で，次回から TOEIC 対策の授業を徹底して行う．

英語表現法 II を未受講の対象学生は，補講として受講させる．

11/15（火）対象学生を登録し，11/16（水）レベルチェックテスト実施

1-2）冬休みの集中補講（常勤英語教員で実施）４回．（2005 12/26，12/27，2006 1/5，1/6）

2）受検機会の確保（２月までに学内２回実施＋公開テスト 1～2 回）

2-1）TOEIC IP テスト（学内実施 2006 年 1/14，2/11）計２回実施

専攻科２年生の基準未達成者は必須

2-2）TOEIC 公開テストの受検への指導

専攻科２年生の基準未達成者に対し，強く指導する．

2-3）英検準２級を受検させる（１回，2006 年 １次 1/29，２次 2/26）

3）TOEIC 未受験者への受検指導

英検準２級以上のみ取得の学生に対して指導する．

2.2 来年度からの支援体制

1）TOEIC 受検機会の確保（学内で IP テスト年３回実施＋公開テスト年 10 回）

1-1）４月に全員受検（本科 3，4，5 年，専攻科 1，2 年は全員受検）

1-2）夏休み前後（専攻科２年の基準未達成者は必須＋希望者）

1-3）冬休み前後（専攻科２年の基準未達成者は必須＋希望者）

2）TOEIC 補講クラス

専攻科２年の基準未達成者を必須対象とする

2-1）夏休みに集中補講（非常勤講師で実施を検討）

2-2）基準未達成学生へのカウンセリング体制（個々の該当学生への対応）

3）TOEIC 受検に関する経済的支援

受検料（本科：卒業旅行積立金から，専攻科は積立金の額を 4000 円/年，増額）

2.3 TOEIC の専攻科入試への導入（2005 年 11 月 9 日企画会議で了承，配布資料）

2005 年 11 月 17 日　運営会議にて提案予定　　以上

（出典　運営会議資料（2005年11月14日））

資料７－１－④－９　TOEIC補講出欠

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料７－１－④－１０　施設開放状況

施設開放状況一覧

年度	日付	使用目的	選択教室3	選択教室4	選択教室5	教室(1E)	大規模実習室	大講義室	本館LR	本館語学室	情報処理演習室	大会議室	多目的室	第1体育館	第2体育館	弓道場	弓射場	プール(更衣室共)	陸上競技場	インフィールド	テニスコート	アーチェリー場
H12年度	H12. 5. 14	第50回大和郡山市民体育大会										300		300	300	300	300				300	300
	H12. 5. 28	工業英検試験					40															
	H12. 9. 3	第31回大和郡山市民陸上競技大会																	200			
	H12. 11. 19	工業英検試験					40															
	H13. 3. 27	IT講習事業									48											
	H13. 3. 29	高齢者のためのIT一日講座									28											
小計							80				76	300		300	300	300	300		200		300	300
H13年度	H13. 4. 29	大和郡山市テニス教室																			40	
	H13. 5. 13	第51回大和郡山市民体育大会							300	300			300	300	300	300	300				300	300
	H13. 5. 27	工業英検試験		50																		
	H13. 5. 27	ｻｯｶｰ審判員講習会	70		70																	
	H13. 7. 24	IT講習事業									49											
	H13. 7. 25	IT講習事業									49											
	H13. 6. 17	家庭婦人バレーボール北部ブロック春季大会												150	150							
	H13. 7. 15	大和郡山市民体育大会水泳の部																200				
	H13. 8. 28	IT講習事業									48											
	H13. 8. 29	IT講習事業									48											
	H13. 9. 2	第32回大和郡山市民陸上競技大会																	200			
	H13. 11. 18	工業英検試験	50																			
	H13. 11. 25	学童まつり												250								
	H13. 12. 25	IT講習事業									30											
	H13. 12. 26	IT講習事業									30											
小計			120	50	70				300	300	254		300	700	450	300	300	200	200		340	300
H14年度	H14. 5. 5	ｻｯｶｰ審判員講習会		40																		
	H14. 5. 12	第52回大和郡山市民体育大会																			200	200
	H14. 5. 26	工業英検試験	20																			
	H14. 6. 16	ｻｯｶｰ審判員講習会					80															
	H14. 7. 21	大和郡山市民体育大会水泳の部																40				
	H14. 8. 18	奈良県職員テニス選手権大会																			50	
	H14. 8. 19	奈良県職員テニス選手権大会																			50	
	H14. 9. 1	第33回大和郡山市民陸上競技大会																	200			
	H14. 11. 17	工業英検試験				40																
	H15. 2. 2	ｻｯｶｰ審判員講習会					80					80										
	H15. 2. 16	ｻｯｶｰ審判員講習会										80										
小計			20	40		40	160					80						40	200		300	200
H15年度	H15. 4. 20	ｻｯｶｰ審判員講習会		40																		
	H15. 5. 11	第53回大和郡山市民体育大会												300	300						300	300
	H15. 5. 18	第53回大和郡山市民体育大会雨天延期分																			150	
	H15. 5. 18	ｻｯｶｰ審判員講習会										40										
	H15. 6. 8	家庭婦人バレーボール北部ブロック春季大会												200	200							
	H15. 7. 27	大和郡山市民体育大会水泳の部																200				
	H15. 9. 7	第34回大和郡山市民陸上競技大会																	200			
小計				40								40		500	500			200	200		450	300
H16年度	H16. 5. 9	第54回大和郡山市民体育大会												300	300						300	300
	H16. 5. 16	第54回大和郡山市民体育大会雨天延期分																			150	
	H16. 5. 30	ｻｯｶｰ審判員講習会					50															
	H16. 5. 30	工業英検							20													
	H16. 9. 5	第35回大和郡山市民陸上競技大会																	200			
	H16. 11. 3	大和郡山市ソフトテニス大会総合大会																			100	
	H16. 11. 14	工業英検							30													
	H17. 2. 27	ソフトテニス練習																			20	
	H17. 3. 6	ソフトテニス練習																			20	
小計							50		50					300	300				200		590	300
年平均			28.00	26.00	14.00	8.00	58.00		70.00	60.00	66.00	84.00	60.00	360.00	310.00	120.00	120.00	88.00	200.00		396.00	280.00
合計			140	130	70	40	290		350	300	330	420	300	1800	1550	600	600	440	1000		1980	1400

資料４３

－ 214 －

（出典　自己点検書（引用・裏付資料編））

資料７－１－④－１１　奈良高専留学規程

○奈良工業高等専門学校留学規程

平成2年4月1日
制定

(目的)
第1条　この規程は，奈良工業高等専門学校学則(昭和39年4月1日制定)第5章第27条の規定に基づき，本校学生の外国の教育機関への留学(以下「留学」という。)に関する必要な事項を定める。
(許可条件)
第2条　留学は，次の各号の全てに該当する場合に許可する。
(1)　留学先が，体系的な教育課程を有する高等学校又は大学であること。
(2)　前号に規定する高等学校又は大学に在籍することが許可されていること。
(3)　当該学生の留学前の生活及び学習態度が良好で，留学の目的，理由等が教育上有益であると認められること。
(4)　留学先で履修する科目が，留学期間中における本校の履修科目とその内容において相当とみなすことができ，復学後の修学に支障がないと認められること。
(申請及び許可)
第3条　留学を希望する学生は，原則として，出国3か月前までに留学願(別紙様式1)に，次の各号に掲げる書類を添付して校長に願い出なければならない。
(1)　留学先教育機関の在籍又は留学の許可を証明する書類(写)
(2)　留学先教育機関の規模，沿革，教育方針，教育課程等が記載された書類
(3)　その他校長が必要と認める書類
2　前号の願い出があつたとき，校長は，教務委員会の議に付し，前条各号の許可条件を満たしているものについて，これを許可するものとする。
3　前項により留学を許可した場合で，出国前に前条の許可条件を欠くような事態が生じたときは，留学許可を取り消すことがある。
(留学期間)
第4条　留学の期間は10か月以上1年以内とする。ただし，特別の理由があると認められた場合には，留学期間の短縮及び1年以内の延長を認めることがある。
2　留学期間は通算2年を超えることはできない。
3　留学期間を短縮又は延長しようとするときは，留学期間変更願(別紙様式2)を校長に提出し，その許可を受けなければならない。
(留学の終了及び復学)
第5条　留学が終了し復学するときは，すみやかに復学願(別紙様式3)に，次に掲げる書類を添えて校長に提出し，その許可を受けなければならない。
(1)　留学先の教育機関が発行した成績証明書，又はそれに代わる書類
(2)　本人の留学報告書
(単位の認定)
第6条　留学中の履修に係る単位は，一括して30単位を認定することができる。この場合，個々の科目についての評価は行わない。
2　留学期間が短縮された場合において，当該留学期間が10か月に満たなくなったときは，前項に規定された単位の認定は行わない。
(卒業に要する修得単位数)
第7条　卒業に要する修得単位数を計算する場合，留学中の履修に係わって認定された30単位を算入し所定の単位を修得しているときは，卒業を認めることができる。
第8条　この規程の実施に関し必要な事項は，別に定める。
附　則
この規程は，平成2年4月1日から施行する。
附　則(平成4年4月1日)
この規程は，平成4年4月1日から施行する。
附　則(平成10年12月17日)
この規程は，平成11年4月1日から施行する。

（出典　奈良高専規程集）

資料7－1－④－12　留学に関する細則

奈良工業高等専門学校留学に関する細則

（平成５年１０月２８日制定）

第１条　奈良工業高等専門学校留学規定（以下「規程」という。）第８条の規定に関する取り扱いについては，この細則の定めるところによる。

第２条　規程は，第１学年から第４学年までに在籍する学生に適用する。

２　留学許可を願い出る場合は，必ず学級担任を通じて申し出るものとする。

第３条　規程第３条に定める書類が提出された場合，当該学生（以下「学生」という。）が所属する学科主任（以下「当該主任」という。）は，学生が留学によって修得し得る教科内容並びに帰国後の学力等を考慮して，一般教科主任と協議のうえ，留学申請について審査するものとする。

２　留学を許可する場合，学生の出席状況が良好で，不可Ａを保持していないことを条件とする。

第４条　規程第３条に定める書類が期日までに整えられないために留学願いが提出できないときは，休学願いを提出し，出国後速やかに必要書類を添付のうえ留学願いを提出しなければならない。

２　留学が認められた場合は，休学願いを留学願いに切り替える。

第５条　規程第６条に定める単位の認定は，原則として留学当初の在学年の単位として行う。

第６条　規程第６条に定める単位の認定は，学生の留学先での履修状況等を判断し，良好と判断された場合は３０単位を限度として一括して認定する。

２　留学先での単位認定がなされ進級した場合，その学年のクラスの席次は空白とし，順位から除外する。

第７条　学籍簿には留学先，留学期間及び認定単位数のみを記載する。

第８条　許可された留学期間は，出席扱いとする。

第９条　当該主任は，学生の帰国後の学力等を考慮して，一般教科主任と協議のうえ未修得単位を１０単位，５教科以内で指定する。なお，これらの教科は不可Ａ扱いとするが，成績評価については，追試験と同じ扱いとする。

また，当該主任は指定した科目以外に必要な教科の学習を指示し，自学自習により技術者としての素養を身につけさせるよう指導し，教科担当者は学生の願い出により，試験等で科目の単位を認定出来るものとする。

第10条　不可Ａ扱いされた教科については，教科担当者が夏季休業中等に補講を実施し，不可Ａ試験において単位修得させるものとする。

第11条　留学許可，認定単位及び留学期間に関する審議は，学生の所属する学科で先議し，その上申に基づいて教務委員会の審議を経て校長が決定する。

付　則

１　この細則は，平成５年１０月２８日から施行し，平成５年４月１日から適用する。

２　奈良工業高等専門学校留学取扱要項（平成２年４月１日施行）は，廃止する。

（出典　奈良高専規程集）

資料7－1－④－13　海外留学に伴う休学についての申し合わせ

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－④－14　留学者一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課教務係作成資料）

観点７－１－⑤：　特別な学習支援を必要な者（例えば，留学生，編入学生，社会人学生，障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には，学習支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

留学生の指導は，留学生委員会及び留学生指導部があたり（資料７－１－⑤－１），各々の留学生にチューター１名を配している（資料７－１－⑤－２）。修学を支援するため，日本語や専門教科に関する特別カリキュラムを組んでいる（資料７－１－⑤－３，４）。日本の文化や産業等の見学を目的にした研修旅行や相互理解を深めるための懇談会等を実施している（資料７－１－⑤－５，６）。

編入学生には，入学前・後に指導を実施している（資料７－１－⑤－７，８，９）。

高機能自閉症（アスペルガー症候群）に該当する学生が在籍している（資料７－１－⑤－１０）。障害のある学生には，学習支援プロジェクトを組み（資料７－１－⑤－１１），各種の学習支援対策を講じるとともに（資料７－１－⑤－１２，１３，１４），障害の理解を深めるべく教職員研修を実施している（資料７－１－⑤－１５，１６，１７）。過去，障害のある学生が在籍したが，同様の学習支援対策を講じ，卒業している（資料７－１－⑤－１８）。校内バリアフリー化を鋭意進めている（資料７－１－⑤－１９）。

（分析結果とその根拠理由）

留学生には，指導教員及びチューターを配し，特別カリキュラムにより学習支援している。編入学生には，入学前・後に学習支援をしている。障害のある学生には，適切な学習支援対策が講じられ機能している。

資料7－1－⑤－1　留学生委員会及び留学生指導部

留学生委員会	運営会議委員，委員長補佐(教務主事)，（学生課長，学生課専門員）
留学生指導部	教務主事，教務主事補（金澤），学生主事補（山口賢），寮務主事補（　），学級担任（中西，中谷，宮本，西田，近藤，森，井村，中田），指導教員（岩井，井村，中田，西田，阪部，早川，多喜，梅原，河越），国語代表（勢田），数学代表（市原），英語代表（神澤），（学生課長，学生課専門員）

（出典　教職員会議資料(平成18年4月5日)）

資料7－1－⑤－2　外国人留学生台帳

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　教職員会議資料(平成 18 年 4 月 5 日)）

資料７−１−⑤−３　留学生特別カリキュラム

平成１８年度　前期　留学生時間割　クラス　3S　留学生名　レザ'

		月	火	水	木	金
1	科目	電子工学	電気回路(国語)	計測工学	英語	代数・幾何II
	担当	望月	飯田	押田	片山	市原
2	科目	〃	電気回路(国語)	〃	〃	〃
	担当	〃	飯田			
3	科目	電磁気学	日本語(政治経済)	インターフェイス工学	微分・積分II	応用物理
	担当	山本	中西	阪部・矢野	荒金	堀内健
4	科目	電磁気学	日本語(政治経済)	〃	〃	〃
	担当	山本	中西			
5	科目	電子制御工学実験	微分・積分II	プログラミング(歴史)	保健・体育	システム設計工
	担当	中川・早川・石川	荒金	櫟	森・中西	早川
6	科目	〃	〃	〃(歴史)	〃	〃
	担当					
7	科目	〃		プログラミング	特論	英会話
	担当			櫟	中西	ブラック
8	科目			〃		
	担当					

平成１８年度　前期　留学生時間割　クラス　4M　留学生名　マセセ テオン

		月	火	水	木	金
1	科目	新素材論		設計工学	応物	電子工学
	担当	岩井・谷口		野々垣	宮本	広
2	科目	〃	工学実験	〃	〃	〃
	担当	〃		〃	〃	〃
3	科目	材力	〃	応数β	論文作成法(人文科学総合)	流工
	担当	岩井		山本	和田	坂本
4	科目	〃	〃	〃	〃(人文科学総合)	〃
	担当	〃		〃	〃	〃
5	科目	熱工学	独語	保・体		応数α
	担当	矢尾	北原	松井		福嶋
6	科目	〃	英会話	〃		〃
	担当	〃	パートウィスル	〃		〃
7	科目		設工演	英語		独語
	担当		野々垣	金澤		桐川
8	科目		〃	〃		〃
	担当		〃	〃		〃

（出典　留学生指導教員作成）

資料７－１－⑤－４　日本語補講

〔非開示につき省略〕

（出典　学生課教務係作成資料）

資料７－１－⑤－５　留学生研修旅行

平成１７年度留学生社会工場等見学旅行計画書

１．目　　的

留学生教育の一環として，日本の文化・産業等の現状を実地に見学することにより国際社会における日本を理解させるために例年実施している。

本年度は，下記のとおり機械工学科が担当して実施する。

２．期　　日　　平成１８年２月１１日（土）～１２日(日)（１泊２日）

３．見学場所

①名古屋工業大学（名古屋市昭和区御器所町、最寄り駅：JR中央本線・鶴舞駅）

②トヨタ会館（最寄り駅：名鉄豊田線・豊田市駅バス・トヨタ本社前）

③名古屋城（〒 460-0031 名古屋市中区本丸１番１号　最寄り駅：地下鉄鶴舞線・浅間町駅）

④アサヒビール名古屋工場（〒463-0089　愛知県名古屋市守山区西川原町318最寄り駅：JR中央本線・新守山駅）

４．宿泊場所

名古屋金谷ホテル（〒 460-0005　名古屋市中区東桜 2-23-22

（℡. 052-931-5811）最寄り駅：地下鉄東山線・栄駅）

５．行　　程

平成 18 年２月 11 日（土）

近鉄郡山駅－名古屋工業大学（10：30 ～ 12：30）－トヨタ会館（15：00 ～ 16：00）―宿舎

平成 18 年２月 12 日（日）

宿舎―名古屋城（9：00 ～ 12：00）―アサヒビール名古屋工場（13：00 ～ 14：30）―近鉄郡山駅

６．参加人員　　１０名　（引率者１名，留学生９名）

＜引 率 者＞　機械工学科教授　和 田 任 弘

＜留 学 生＞	タダオ	（機械工学科	５年	ブラジル）
	リット	（電気工学科	４年	ラオス）
	ロベルト	（電子制御工学科	４年	インドネシア）
	アマド	（電子制御工学科	４年	マレイシア）
	マセセ	（機械工学科	３年	ケニア）
	チォン	（機械工学科	３年	マレイシア）
	シ　ハン	（電子制御工学科	３年	マレイシア）
	チョカ	（機械工学科	３年	モンゴル）
	フッキー	（機械工学科	３年	マレイシア）

７．費　　用

引率者	運営交付金　留学生経費	３２,２７０円		
	交通費	１３,９７０円		
	宿泊費	１３,１００円		
	日　当	５,２００円	2,600 円×２	
留学生	運営交付金　留学生経費	２２５,０９０円		
	交通費	１１６,１９０円	12,910 円×９人	
	宿泊費	７８,３００円	8,700 円×９人	
	日　当	３０,６００円	1,700 円×２×９人	

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

○引率者　交通費

２／１１　近鉄郡山－（670 円）－－京都－（(特) 2,920 円　(乗) 2,520 円）－－名古屋－－－－鶴舞

鶴舞－（760 円）－－豊田市駅－（名鉄バス）－－トヨタ本社前－－－豊田市駅－（790 円）－－栄駅

２／１２　栄駅－（地下鉄 200 円）－－浅間町駅－（地下鉄 420 円）－－ JR 新守山駅－（(特) 2,920 円　(乗) 2,720 円）－－名古屋－－－

－京都－（670 円）－－近鉄郡山　　交通費１３,９７０円

○留学生　交通費

２／１１　近鉄郡山－（670 円）－－京都－（(特) 2,920 円　(学) 2,010 円）－－名古屋－－－－ JR 鶴舞－

－鶴舞－（地下鉄 760 円）－－豊田市駅－（名鉄バス 290 円）－－トヨタ本社前－（名鉄バス 290 円）－－豊田市駅－（地下鉄 790 円）－－栄駅

２／１２　栄駅－（地下鉄 200 円）－－浅間町駅－（地下鉄 420 円）－－ JR 新守山駅－（(特) 2,920 円　(乗) 2,170 円）－－名古屋－－－

－京都－（670 円）－－近鉄郡山　　交通費１２,９１０円

（出典　留学生社会工場見学引率教員作成資料）

資料7－1－⑤－6　留学生との懇談会

平成１５年度留学生との懇談会

１．目　的　　外国人留学生と指導教官，教職員，チューター等と会食することにより相互理解を深め，親睦交流を行う。

２．期　日　　平成１６年2月１３日（金）　１７時３０分～１９時

３．場　所　　凌雲館　食　堂　　（立食形式）

４．参加者　　外国人留学生・チューター　　別紙　９名
ＪＩＣＡ研修生　　別紙　１名
教　職　員　　別紙２９名

５．次　第
（１）開会の辞
（２）一岡校長あいさつ
（３）留学生・チューター紹介
（４）乾　杯
食　事
（５）日本語講師　中西先生のお話
（６）留学生スピーチ（自己紹介・進路・思いで・抱負等）
・チューターの感想等
（７）泉教務主事あいさつ
（８）閉会の辞

６．経　費
校費（留学生経費）　１２０,０００円

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課教務係作成資料）

資料7－1－⑤－7　編入学生への学習支援(学校)

関係学科主任　殿

教　務　主　事

平成１７年度第４学年編入学予定者に対する
事前指導について（依頼）

標記のことについて，本校入学に際しての事前指導のため当該生徒を下記のとおり来校するように決定しました。受け入れ学科におかれましてはご指導方よろしくお願いいたします。

なお，一般教科及び受け入れ学科におかれましては事前勉強させた方が良いとされる教科書・課題等がありましたら，当日併せてご指導願います。

また，別添使用教科書（非検定本）「平成１４年度（１年生）～平成１６年度（３年生)」一覧は当日，当該生徒に配付いたします。

おって，当日，ご指導いただいた課題等をまとめたものがあれば１部学生課教務係へ提出いただきますようお願いいたします。

記

１．事前指導日

平成１６年８月２日（月）１３：３０から

・一般教科　　１３：３０～１４：３０

・各専門学科　　１４：３０～

２．実施場所

・一般教科　　第２会議室

・専門学科　　各専門学科棟

（出典　機械工学科作成資料）

資料7－1－⑤－8　編入学生への学習支援(機械工学科)

○　編入学生への学習支援

平成 14 年度から，工業高校からの第 4 学年への編入者に対しては，本校への入学確約書が提出された 7 月下旬から，入学前より月 1 回全 8 回程度の補講（数学，材料力学，工業力学の 3 教科で，3 名の教員で対応）を行うことで，編入学後の学業をスムーズに進められるようにした。平成 16 年度も，平成 15，16 年度編入学生と，平成 17 年度入学予定者２名との懇談会を，平成 16 年 8 月 2 日，８月 27 日～平成 17 年 1 月 23 日まで，合計 7 回行った。

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料７－１－⑤－９　編入学生への学習支援（情報工学科）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　情報工学科作成資料）

資料7－1－⑤－10　障害のある学生への支援

（５）障害を持つ学生への支援：平成１７年度の入学生に高機能自閉症（アスペルガー症候群）に該当する学生がいる。本校では平成１６年１月に文部科学省から出された「高機能自閉症等の児童生徒への教育支援体制のためのガイドライン」や平成１７年４月１日に施行された「発達障害者支援法」に基づき，当該学生が快適な学生生活を送れるように，学校として支援体制をとっている。

本年度の具体的な支援策としては，機構本部に加配教員（非常勤講師）およびカウンセラーの配置，研修会等の経費を要求した。本経費は，平成１７年度の特別教育研究経費として認められたので，教務主事，学級担任，カウンセラーを中心にした支援組織を立ち上げ，非常勤講師等による学習支援活動を後期から実施していく。

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料7－1－⑤－11　学習支援プロジェクト

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　障害学生修学支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑤－12「障害を持つ学生への支援」申請書

【申請書（共通）】

事業名　　障害を持つ学生、教員への支援

学 校 名　奈良工業高等専門学校
担当者名
電　　話

事　　項	障害を持つ学生への支援
実施する組織体	教務委員会および学生委員会
目　　的	本校には平成１７年度新入生の中に，特別な配慮を必要とする学生が２名いる。本事業は，こうした学生に対して学習環境を確保し，快適な学生生活を支援することを目的とする。
概　　要	特別な配慮を必要とする学生の内，１人は高機能自閉症（アスペルガー症候群），もう１人は先天性四肢障害（左手第２～第５指欠損）である。アスペルガー症候群と認定されている学生は，中学まで加配教員が配置されきめ細かい指導が成されてきた。入学時に本校では，特段の配慮を要しないという方針であったが，授業等が開始されて少なからず問題が生じているため，特に集中力の持続しない国語，英語の補講を非常勤講師により週２時間程度，専門のカウンセラー（非常勤）に週１回来校いただき適切なアドバイスを受けたり，勉強会を実施したい。 先天性四肢障害の学生は，アーチェリー部に入部し張り切って活動しているが，通常の用具は使用不可能なため，今回，身障者用の用具を購入し快適な課外活動を送る一助としたい。
期待される成果	アスペルガー症候群の学生にとっては，きめ細かな指導を受けることにより，学習困難を改善でき，当該学生の持てる力を高めることができる。先天性四肢障害の学生にとっては，他の学生と同レベルでスポーツを楽しむことができるとともに，良好な学生間の交流を期待できる。
実 施 時 期	平成１７年６月から平成１８年２月まで

（出典　障害学生修学支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑤－13 補習実施日一覧

○ 英語 補講（7限1時間） 体育 授業補助（2時間）
△ 数学（2時間）
☆ 国語（2時間）

平成17年度　年間行事予定表　　　奈良工業高等専門学校

〔後期〕

日	曜	10月	日	曜	11月	日	曜	12月	日	曜	1月	日	曜	2月	日	曜	3月
1	土		1	火		1	木		1	日	｜元日	△1	水		1	水	↓ ↓
2	日		△2	水		☆2	金		2	月	冬	2	木		2	木	↑補講期間
○3	月	後期授業開始	3	木	文化の日	3	土		3	火	季	☆3	金	↑ 第５学年学年末試験（１０日まで）	3	金	↓補講期間　閉寮
4	火		4	金	午前　授業 午後　高専祭準備	4	日	ロボコン全国大会	4	水	休 ↑全国高専体育大会	4	土	｜	4	土	
△5	水		5	土	↑高専祭	○5	月		5	木	業 ｜（ラグビー4・5・7・9日）	5	日	｜	5	日	
6	木	交通安全講習会 前期末成績提出期限	6	日	↓高専祭	6	火		6	金	｜ ｜	○6	月	｜ ↑専２学年末試験	6	月	１～４学年・非常勤 学年末成績提出期限
☆7	金	専１前期末成績提出期限 学位授与申請期限	7	月	高専祭後片づけ	7	水	↑後期中間試験（１３日まで）	7	土	↓ ｜	7	火	｜ ｜　（１０日まで）	7	火	１～４学年・常勤 学年末成績提出期限
8	土		8	火		8	木	｜	8	日	｜	△8	水	｜ ｜	8	水	
9	日		△9	水	↑ 第５学年卒業旅行（１１日まで）	9	金	｜	9	月	↓成人の日　閉寮	9	木	｜ ｜	9	木	
10	月	体育の日	10	木	｜ ↑専攻科学外研修 秋季社会工場見学	10	土		10	火	全校集会（短縮授業）	☆10	金	↓ ↓	10	金	
11	火	平成18年度専攻科入学試験（B日程）	11	金	↓ ↓第４学年１泊２日 第１～３学年日帰り	11	日		△11	水		11	土	建国記念の日	11	土	
△12	水	専攻科後期履修届提出期限	12	土		12	月	｜	12	木	保健衛生教室（１年）	12	日		12	日	
13	木	人権教育映画会（３年）	13	日		13	火	↓	☆13	金		○13	月		13	月	
☆14	金	平成18年度専攻科入学試験（B日程）　合格発表	○14	月		△14	水		14	土		14	火	専攻科特別研究発表会	14	火	
15	土		15	火		15	木	人権特別講演会（５年・専攻科）	15	日		△15	水	第５学年・専２ 学年末成績提出期限	15	水	
16	日		△16	水		☆16	金		○16	月		16	木		16	木	
○17	月		17	木	人権合同特活（１年）	17	土	リーダース研修会	17	火		17	金	入学試験準備（短縮授業） １・２年午後授業カット	17	金	平成17年度卒業式・修了式
18	火	スポーツ大会	☆18	金		18	日	学位授与機構小論文試験	△18	水		18	土		18	土	
△19	水		19	土	↑近畿地区高専体育大会	○19	月		19	木	人権合同特活（２年）	19	日	平成１８年度入学試験	19	日	
20	木	人権特別講演会（４年） 学寮避難消火訓練	20	日	｜（ラグビー19・20・22日）	20	火		20	金		20	月	特別日課	20	月	↑
☆21	金		○21	月	｜	△21	水	後期中間成績提出期限	21	土		21	火	特別日課	21	火	｜春分の日
22	土	↑学校＆入試説明会	22	火	↓	22	木	閉寮	22	日		22	水	↑ 入試合格発表 １～４学年学年末試験	22	水	学
23	日	↓	23	水	勤労感謝の日	23	金	天皇誕生日	23	月		23	木	｜ ↑専１学年末試験	23	木	年 平成１８年度入学予定者オリエンテーション
○24	月		24	木		24	土		24	火		24	金	｜ ｜　（３月１日まで）	24	金	末
25	火		☆25	金		25	日	↑	△25	水		25	土	｜ ｜	25	土	休
△26	水		26	土	学寮スポーツ大会	26	月	｜	26	木		26	日	｜ ｜	26	日	業
27	木		27	日		27	火	冬	☆27	金		27	月	｜ ｜	27	月	｜
☆28	金		○28	月		28	水	季	28	土		28	火	｜ ｜	28	火	｜
29	土		29	火		29	木	休	29	日	平成１８年度 特別選抜入学試験				29	水	｜
30	日	ロボコン近畿地区大会（本校）	△30	水		30	金	業	○30	月					30	木	｜
○31	月					31	土	｜	31	火					31	金	↓

（出典　障害学生修学支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑤－14 補習担当非常勤講師並びにカウンセラー謝金

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　障害学生修学支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑤－15　教職員研修会

〔非開示につき省略〕

（出典　FD資料（2005年４月21日））

資料7－1－⑤－16　教職員研修会

〔非開示につき省略〕

（出典　FD資料（2006年１月26日））

資料7－1－⑤－17　教職員研修会

〔非開示につき省略〕

（出典　FD資料（2005年10月27日））

資料7－1－⑤－18　過去に本校に在籍した障害のある学生への学習支援

車イス学生の復学及び修学計画

奈良工業高等専門学校

Ⅰ　復学希望学生

機械工学科　５年

Ⅱ　身体状況

胸髄損傷、体幹・両下肢機能障害のため
車イスでの修学を必要とする。

Ⅲ　履修単位及び卒業に必要な単位数

１．５年での履修単位数

一般科目	７単位	（開設７科目１３単位中２科目は必修、２科目は選択し履修）
専門科目	２５単位	（開設１７科目２９単位中９科目２１単位は必修、４科目４単位は選択し履修）

２．卒業に必要な単位数

（１）既修得単位数

一般科目	７１単位（ドイツ語３単位未修得）
専門科目	６１単位
計	１３２単位

（２）今後修得すべき単位数

一般科目（５年履修のもの）	７単位
一般科目（４年以前の未修得単位）	３単位（４年次のドイツ語）
専門科目	２５単位
計	３５単位

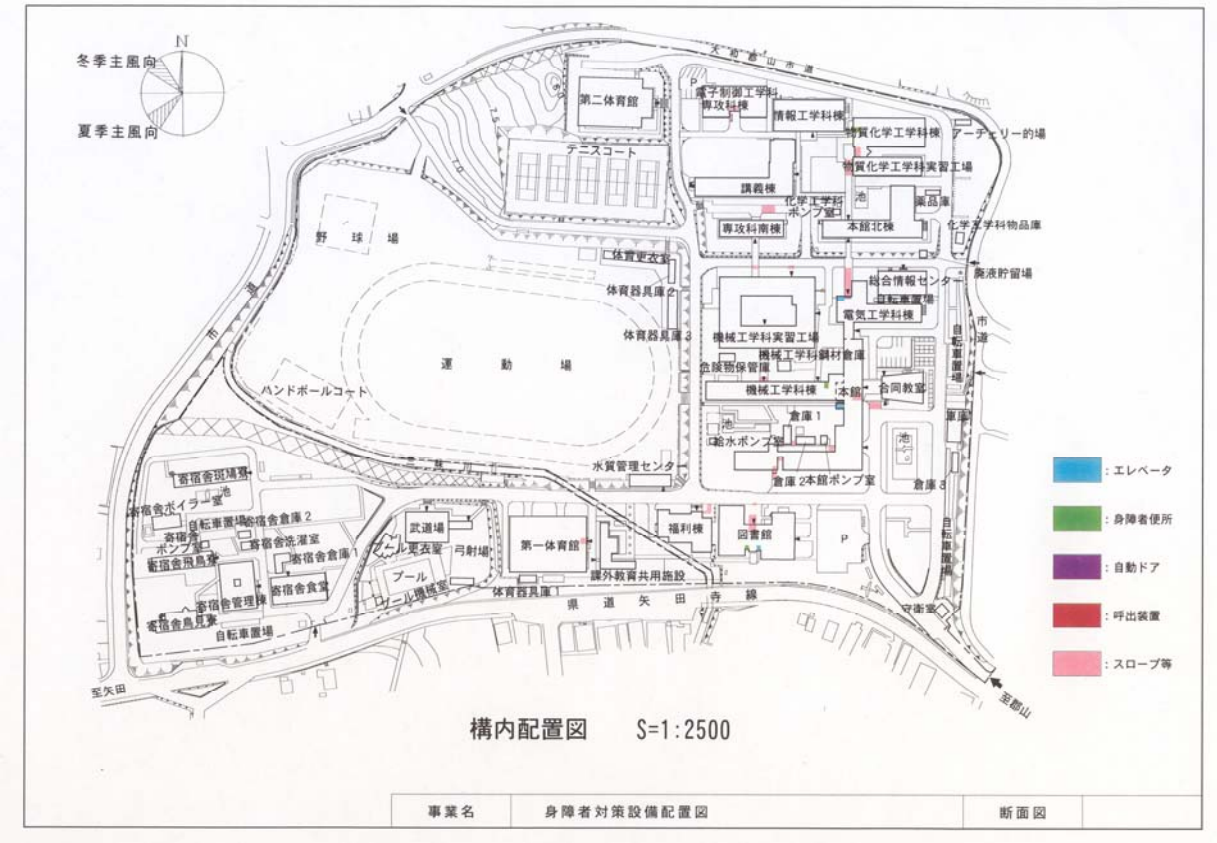
注）卒業に必要な単位数の合計

一般科目	８１単位
専門科目	８６単位
計	１６７単位

なお、本人の現在までの単位修得状況は別紙１のとおり。

（出典　障害学生修学支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑤－19　身障者支援設備



（出典　学生課施設係保存資料）

観点７－１－⑥：　学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生会活動は，学生会執行部（役員会）を中心に，学生会規約にもとづき運営されている（資料７－１－⑥－１，２）。学生会主催行事は，学生委員会が運営を支援し（資料７－１－⑥－３），クラス当該委員が補佐している（資料７－１－⑥－４）。

現在活動中のクラブ総数は，２８クラブ（体育部１９クラブ，文化部９クラブ），８同好会ある。各クラブには，顧問教員が付けられ（資料７－１－⑥－５），年度当初開催されるクラブ顧問会議で諸課題が検討される（資料７－１－⑥－６）。活動の実施日程や状況（資料７－１－⑥－７，８），部室の鍵（資料７－１－⑥－９）等は学生課で管理している。また，学生の要望を調査・把握している（資料７－１－⑥－１０）。必要に応じて外部コーチを招聘している（資料７－１－⑥－１１）。活動経費は，学生会費や後援会費等で賄っている（資料７－１－⑥－１２）。他の課外活動として，アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストでは，支援プロジェクトを発足させ（資料７－１－⑥－１３），活動を支援している（資料７－１－⑥－１４，１５）。プログラミングコンテストに対しても同様の支援をしている（資料７－１－⑥－１６）。高専祭・クラブ活動等での備品製作（資料７－１－⑥－１７），平成８年に設立された生活協同組合に係る生協学生委員会活動（資料７－１－⑥－１８），卒業旅行の計画・実施（資料７－１－⑥－１９）等を支援している。課外活動に特別な功績があった者を表彰し，学生の意欲を喚起している（資料７－１－⑥－２０）。

課外活動を含む学生の健康管理を，計画実施（資料７－１－⑥－２１）し，適宜，注意喚起している（資料７－１－⑥－２２）。自動体外式除細動器（ＡＥＤ）を平成１６年度に導入し（資料７－１－⑥－２３，２４），使用法講習会を実施している（資料７－１－⑥－２５）。学生の安全を確保するため，安全対策についての申し合わせ（資料７－１－⑥－２６）に基づいて，緊急時の対応をマニュアル化している（資料７－１－⑥－２７，２８，２９）。

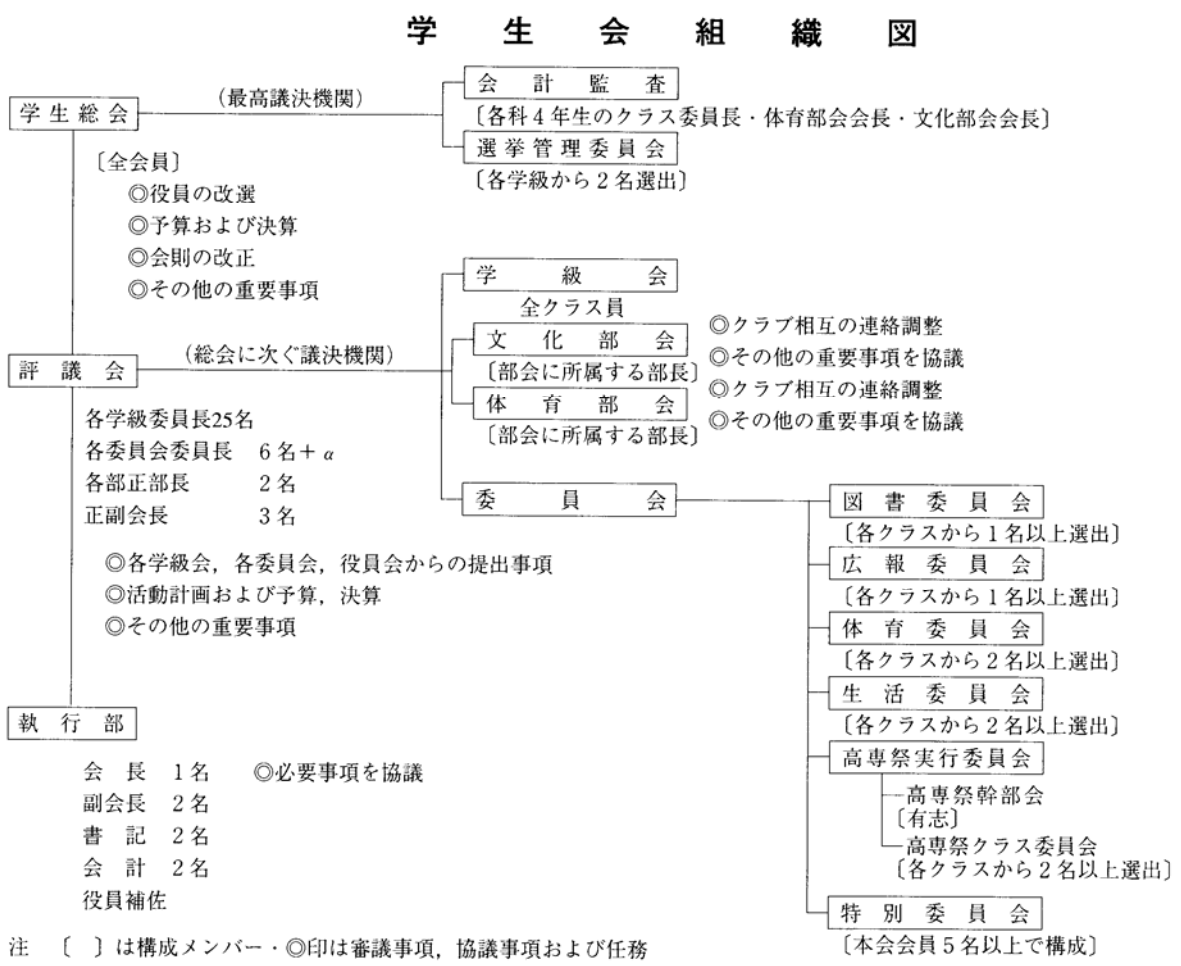
不審者の学内への侵入監視等の対策のため，防犯ビデオカメラを設置し（資料７－１－⑥－３０），地域青少年センター等と連携・協力している。（資料７－１－⑥－３１）。

（分析結果とその根拠理由）

学生会・クラブ等の課外活動には，学生委員会・クラブ顧問・学生課教職員による人的支援体制と学生会費や後援会費等による財政的支援体制が適切に整備され，機能している。他の課外活動についても同様の支援が実施されている。学生の安全を確保するため，安全対策についての申し合わせに基づいて緊急時の対応をマニュアル化している。

以上のことから，学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能している。

資料7－1－⑥－1　学生会組織図



（出典　2005年 10 月自己点検･評価報告書）

資料７－１－⑥－２　学生会規約

学 生 会 規 約

第１章　総　　則

（名称）

第１条　本会は，奈良工業高等専門学校学生会（以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第２条　本会は，学校の指導のもとに学生の自発的な活動をとおして，その人間形成を助長し，高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

（活動）

第３条　本会は，前条の目的を達成するための次の諸活動を行う。

⑴　会員の文化的教養を向上させる活動
⑵　会員の技術，技能を向上させる活動
⑶　会員の健康を保持増進させる保健体育的活動
⑷　会員の福利や厚生を促進する活動
⑸　校風校紀を向上させ振興する活動
⑹　会員相互の親睦融和を図る活動
⑺　学校の行事への協力や積極的参加を図る活動
⑻　その他本会の目的達成に必要な諸活動

２　学生会活動を行うにあたっては，法令及び奈良工業高等専門学校学則，奈良工業高等専門学校学生準則その他学校の定める諸規則に違反することなく，また学園の秩序を乱すようなことがあってはならない。

（組織）

第４条　本会は，奈良工業高等専門学校学生の全員をもって組織し，また学生は入学と同時に本会の構成員となるものとする。

２　本会は，部会，委員会及び学級を主体組織として構成させ，部会にクラブが所属する。

３　学校で認められた本会会員による団体を準構成団体とすることができる。

４　本会には，顧問として指導教員が置かれる。指導教員は，校長の命により学生主事の総括のもとに，本会の各単位組織及び機関・部会及びクラブの活動の指導にあたるものとする。

（計画，予算決算，規約の制定，変更，その他すべての議決事項の届け出と承認）

（出典　平成１８年度学生生活のしおり）

資料7－1－⑥－3　学生会活動への学生委員会による支援

2005年度学生委員会関係役割分担			
	業　務　内　容	委員	担当主事補
1	学生委員会案件作成等		坂本
2	授業料免除・日本学生支援機構奨学生推薦		土井
3	学生生活指導全般（喫煙、飲食、服装問題、交通安全指導等） 校内外指導、自転車・単車点検（5月） 単車通学許可（5・10月委員会）、免許取得同意書交付（7・12・2月各委員会） 学生生活環境の改善・ゴミ指導	全員	土井
4	懲戒処分・違反学生の指導		土井
5	学生表彰関係（事前調査会を含む） （9，2月委員会　事前調査会主査は学生主事補）（2004年度は教務主事補）		鍵本
6	学生生活のためのセミナー 交通安全教室　2年　5／26（木）　卒業生と語る会　3年　6／23（木） 交通安全講習会　10／　6（木）　保健衛生教室　1年　1／12（木）	全員	鍵本
7	人権教育推進委員会（2005年度幹事長は学生主事補）		鍵本
8	広報小委員会		鍵本
9	「学生生活のしおり」改訂（12－2月）		鍵本
10	厚生補導教職員研修会（2005年度は教務委員会主管）	~~全員~~	矢尾
11	生協理事会オブザーバー		鍵本
12	留学生指導部会		坂本
13	学生の定期健康診断（視力、内科、歯科、眼科、聴力、他）	全員	鍵本
14	新入生校外オリエンテーション　4／14・15（木・金）	全員	坂本
15	学生会関係　学生会執行部との打ち合わせ（約月1回のペース） キャプテン会議、クラブ紹介、4／11（月）午後 リーダース研修会　春：学生会委員会　4／28（木） 秋：クラブ関係　12／17（土） 総会　春：5／24（火）、秋：9／8（木） 役員会・評議会 広報委員会、体育委員会、図書委員会、生活委員会．広報HP作成		鍵本
16	スポーツ大会（春季）5／24（火）、スポーツ大会（秋季）10／18（火）	全員	坂本
17	クラブ活動全般及びクラブ顧問会議　5月 近畿地区高専体育大会・全国高専体育大会		土井
18	高専祭　準　備　11／4（金）午後、一般公開　11／5・6（土・日）、 片づけ　11／7（月）	全員	土井
19	教務関係行事との連携 ・全校集会　4／7（木）第1体育館、9／1（木）放送、1／10（火）放送 ・全校清掃・入試関係（入試説明会・入学試験前　他） ・専攻科関係 ・ロボコン全国大会応援団	全員	坂本
20	大和郡山市青少年センター指導委員会、青少年健全育成協議会		土井

（出典　学生委員会作成資料）

資料７－１－⑥－４　学生会活動へのクラス委員の協力

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　リーダース研修会資料）

資料７－１－⑥－５　クラブ総数と顧問一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

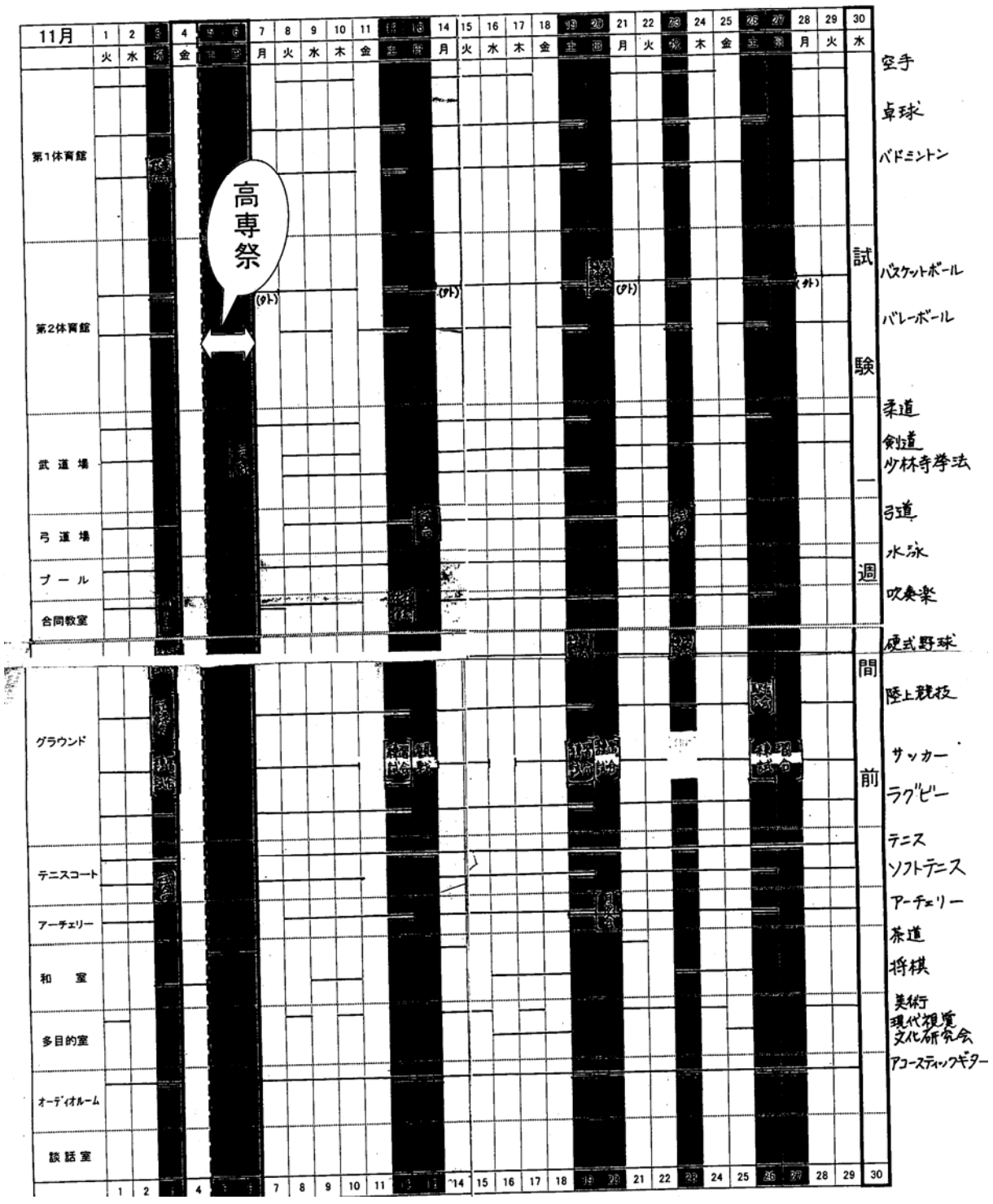
（出典　クラブ顧問会議資料（平成１８年５月３０日））

資料７－１－⑥－６　クラブ顧問会議

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　クラブ顧問会議資料（平成１７年５月 26 日））

資料７－１－⑥－７　クラブ活動等実施日程



（出典　学生課学生係作成資料）

資料７－１－⑥－８　クラブ活動状況報告書

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係保存資料）

資料7－1－⑥－9　部室の鍵貸出簿

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係保存資料）

資料7－1－⑥－10　クラブ活動に必要な設備・備品についての要望書

平成１７年度　クラブ活動に必要な設備・備品についての要望書

平成　年　月　日

クラブ・同好会名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

顧 問 氏 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．工 事 関 係

要求順位	事　　項	工事場所	要 求 事 由	新規・継続の別

2．備 品 関 係

要求順位	品　　名	規　　格	数量	要求理由及び概算額

※　要望事項があれば，６月３日（金）までに学生係へ提出して下さい。

（出典　クラブ顧問会議資料（平成17年5月26日））

資料7－1－⑥－11　招聘コーチ一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係作成資料）

資料7－1－⑥－12　活動経費

平成17年度決算

決算	
収入	¥15,296,099
支出	¥9,071,956
残金	¥6,224,143

収入

項目	予算	収入	備考
学生会費	¥7,581,000	¥7,512,600	
前年度繰越金	¥7,829,699	¥7,783,499	
利息収入等	¥0	¥0	
合計	¥15,410,699	¥15,296,099	

支出

項目	予算	支出	備考
総務部	¥10,078,925	¥5,222,552	
体育部	¥3,670,451	¥2,560,169	
文化部	¥1,661,323	¥1,289,235	
合計	¥15,410,699	¥9,071,956	

総務部

項目	予算	支出	備考
事務費	¥250,000	¥250,000	
企画費	¥300,000	¥295,270	
体育委員会予算	¥250,000	¥228,669	
図書委員会予算	¥250,000	¥32,670	
生活委員会予算	¥30,000	¥10,287	
広報委員会予算	¥30,000	¥0	
クラブ交流会援助金	¥1,000,000	¥725,414	
同好会助成金	¥63,000	¥10,500	
ロボコン助成金	¥100,000	¥100,000	
コピー費	¥50,000	¥13,055	
アルバム助成金	¥250,000	¥250,000	
高専祭助成金	¥2,300,000	¥2,300,000	
重点配分金	¥1,279,275	¥1,006,687	
予備費	¥3,926,650	¥0	
合計	¥10,078,925	¥5,222,552	

体育部

項目	予算	支出	残金
アーチェリー部	¥210,162	¥182,320	¥27,842
合気道部	¥68,005	¥0	¥68,005
空手部	¥207,967	¥11,920	¥196,047
弓道部	¥213,015	¥90,855	¥122,160
剣道部	¥166,400	¥133,364	¥33,036
硬式テニス部	¥105,000	¥105,000	¥0
硬式野球部	¥273,446	¥267,810	¥5,636
サッカー部	¥261,115	¥208,773	¥52,342
柔道部	¥154,400	¥90,090	¥64,310
少林寺拳法部	¥333,235	¥95,250	¥237,985
水泳部	¥205,961	¥84,081	¥121,880
ソフトテニス部	¥116,458	¥71,434	¥45,024
卓球部	¥114,709	¥114,573	¥136
バスケットボール部	¥116,714	¥111,428	¥5,286
バドミントン部	¥229,605	¥229,540	¥65
バレーボール部	¥308,567	¥223,969	¥84,598
ハンドボール部	¥175,202	¥129,279	¥45,923
ラクビー部	¥236,170	¥236,170	¥0
陸上競技部	¥174,320	¥174,313	¥7
合計	¥3,670,451	¥2,560,169	¥1,110,282

文化部

項目	予算	支出	残金
アコースティックギター部	¥76,500	¥38,115	¥38,385
からくり	¥133,526	¥133,526	¥0
機械研究会	¥75,196	¥63,781	¥11,415
茶道部	¥184,800	¥96,500	¥88,300
将棋部	¥107,978	¥104,438	¥3,540
情報処理研究会	¥153,041	¥132,958	¥20,083
吹楽楽部	¥530,285	¥530,281	¥4
美術部	¥68,010	¥0	¥68,010
放送部	¥331,987	¥189,636	¥142,351
合計	¥1,661,323	¥1,289,235	¥372,088

（出典　学生会作成資料）

資料7－1－⑥－12　活動経費

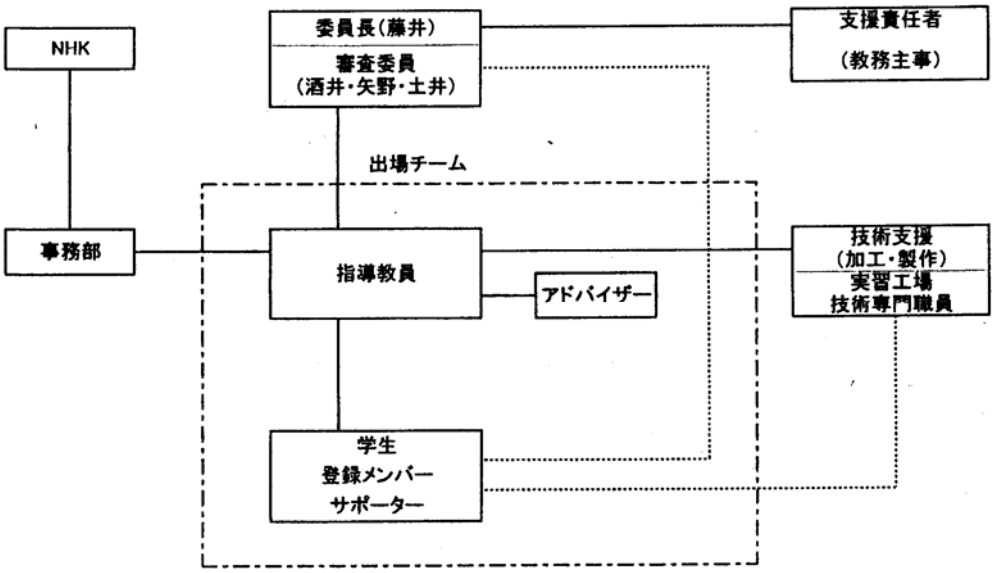
〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係作成資料）

資料7－1－⑥－13　ロボコン支援プロジェクト

平成16年5月27日
教 官 会 議資料

2004　ロボコン支援プロジェクト



アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト**2004**　　日程

４月２６日（月）	高等専門学校協会連合会から競技課題・規定の通知
４月２７日（火）	学生への競技課題・規定の配布
５月１１日（火）	第１回学内説明会　１６：３０～　大会議室
６月１４日（月）	１３時　学内アイデア提出〆切
６月１５日（火）	プレゼンテーション１６：３０～　大会議室
６月１６日（水）	学内選考結果発表（２プラン）
	（実行委員会提出用　応募書類、図面等の作成）
６月２４日（木）	全国高専ロボットコンテスト実行委員会〆切（必着）
１０月１７日（日）	近畿地区大会（東大阪市・近畿大学記念館）
１１月２８日（日）	全国大会（両国国技館）

（出典　教官会議資料(平成16年5月27日)）

資料７－１－⑥－１４　ロボコン実習工場使用講習会

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　ロボコン支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑥－15　ロボコン実習工場使用一覧

平成16年度　ロボコンAチーム　実習工場使用一覧　7/22～9/30

チーム名	教官名	月　日	開始時間	休憩時間	終了時間	稼動時間	使 用 機 械
ロボコンAチーム	米田	7/22	9:00	1:00	15:25	5:25	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	7/23	9:10	1:00	15:20	5:10	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	7/26	9:15	1:00	15:30	5:15	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	7/27	9:00	1:00	15:30	5:30	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	7/28	9:05	1:00	15:10	5:05	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	7/29	10:00	1:00	15:15	4:15	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	矢野	7/30	9:08	1:00	15:20	5:12	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
	7月稼働時間					35:52	
ロボコンAチーム	藤井	8/2	9:00	1:00	15:25	5:25	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/3	9:10	1:00	15:25	5:15	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ・のこ盤
ロボコンAチーム	藤井	8/4	9:05	1:00	15:15	5:10	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	土井	8/5	9:15	1:00	15:16	5:01	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/6	9:15	1:00	15:16	5:01	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/9	9:10	1:00	15:20	5:10	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/10	9:10	1:00	15:10	5:00	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/11	9:05	1:00	15:15	5:10	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/12	9:07	1:00	15:18	5:11	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/13	9:10	1:00	15:25	5:15	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/16	10:00	1:00	15:20	4:20	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	酒井	8/17	9:56	1:00	15:20	4:24	旋盤・フライス盤・ボール盤
ロボコンAチーム	藤井	8/18	9:10	1:00	15:28	5:18	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/19	9:10	1:00	15:20	5:10	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/20	9:20	1:00	15:30	5:10	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/23	9:05	1:00	15:28	5:23	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	8/24	9:05	1:00	15:20	5:15	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/25	9:07	1:00	15:35	5:28	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/26	9:07	1:00	15:26	5:19	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	米田	8/27	9:20	1:00	15:20	5:00	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
	8月稼働時間					102:25	
ロボコンAチーム	米田	9/2	14:53	0:00	16:48	1:55	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	9/3	14:56	0:00	17:15	2:19	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	9/8	15:45	0:00	17:15	1:30	フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	9/9	15:49	0:00	17:18	1:29	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	飯田	9/10	15:00	0:00	17:15	2:15	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	9/28	15:00	0:00	17:05	2:05	フライス盤
ロボコンAチーム	藤井	9/29	9:30	1:00	14:50	4:20	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
ロボコンAチーム	藤井	9/30	9:02	1:00	15:07	5:05	旋盤・フライス盤・ボール盤・コンタ
	9月稼働時間					20:58	

ロボットコンテスト2004（競技名　マーズラッシュ）
近畿地区大会　平成16年10月17日（日）　近畿大学記念館

（出典　ロボコン支援プロジェクト作成資料）

資料7－1－⑥－16　プログラミングコンテストへの応募について

学生諸君

情報メディア教育センター長

全国高等専門学校第１７回プログラミングコンテストへの応募について

下記のとおり、標記コンテストの参加者を募ります。
コンテストに応募する前に学内審査を行います。学内募集期間および学内審査について下記に記しています。なお、募集要項の写しが必要な場合は総合情報センター事務室まで、お問い合わせください。

記

全国高等専門学校第１７回プログラミングコンテスト

テーマ　　「広がる思い水平線を越えて」
主　催　　高等専門学校連合会
主管校　　茨城工業高等専門学校

・　応募資格
全国の国公私立高等専門学校に応募の時点で在籍する学生。 ただし、競技部門への専攻科学生の応募はできません。

・　募集部門
課題部門　２チーム以内　１チームの人数　２～５名
自由部門　２チーム以内　１チームの人数　２～５名
競技部門　１チーム　　１チームの人数　２～３名
１チームにつき１作品（同一学生が複数のチームに所属不可）

・　応募期間
平成１８年５月２４日（水）～　５月３１日（水）必着　http://www.procon.gr.jp/　にて応募要領

・　予選（書類審査）
期　　日　　平成１８年７月１日（土）
結果発表　　７月３日（月）まで http://www.procon.gr.jp/ にて公表予定、および学校宛に郵送にて通知。

・　本選
期　　日　　平成１８年１０月７日（土）～　１０月８日（日）
会　　場　　茨城工業高等専門学校（茨城県ひたちなか市）

・　学内応募方法
応募する部門に必要な内容を「PDF ファイル作成ガイド」を参照して、PDF ファイルの内容をフロッピィー1 枚作成（コピー）し期間内に総合情報センター事務室へ提出。

・　学内応募期間
平成１８年４月２７日（月）～　５月１７日（水）

・　学内審査
平成１８年５月１８日（木）

・　学内審査結果
平成１８年５月１９日（金）～　５月２６日（金）の間、総合情報センター玄関へ掲示にて結果発表。

（出典　情報メディア教育センター運営委員会資料（平成18年4月27日））

資料7－1－⑥－17　クラブ･同好会･行事等の実習工場使用一覧

平成17年度　クラブ・同好会・行事等の実習工場使用一覧　H17/4/1～H18/3/31

氏　名（研究室）	月　日	開始時間	休憩時間	終了時間	稼動時間	使　用　機　械
体験入学の準備(機械)	7/14	14:50	0:00	16:30	1:40	コンタ・ボール盤・シャーリング
体験入学の準備(機械)	7/15	14:10	0:00	16:30	2:20	コンタ・ボール盤
体験入学の準備(機械)	7/19	15:45	0:00	16:30	0:45	コンタ・ボール盤・シャーリング
体験入学の準備(機械)	7/20	16:00	0:00	17:00	1:00	コンタ・ボール盤・シャーリング
体験入学の準備(機械)	7/21	13:40	0:00	16:02	2:22	ボール盤
体験入学の準備(機械)	7/25	9:40	1:00	14:00	3:20	ボール盤
体験入学の準備(機械)	7/26	9:15	1:00	17:00	6:45	コンタ・ボール盤
科展の準備（電子制御)	7/27	14:30	0:00	15:30	1:00	コンタ・ボール盤
体験入学の準備(機械)	7/27	14:30	0:00	15:00	0:30	ボール盤
	7月稼働時間				19:42	
科展の準備（電子制御)	8/1	11:00	1:00	15:26	3:26	コンタ・ボール盤
科展の準備（電子制御)	8/10	13:40	0:00	13:45	0:05	コンタ・ボール盤
科展の準備（電子制御)	8/15	9:30	1:00	14:15	3:45	コンタ・ボール盤
科展の準備（電子制御)	8/18	9:20	1:00	15:30	5:10	コンタ・ボール盤・フライス盤
科展の準備（電子制御)	8/19	9:15	1:00	14:45	4:30	コンタ・ボール盤・フライス盤
科展の準備（電子制御)	8/22	9:15	1:00	15:00	4:45	コンタ・ボール盤・フライス盤
科展の準備（電子制御)	8/26	10:00	1:00	15:15	4:15	コンタ・ボール盤・フライス盤・旋盤
科展の準備（電子制御)	8/29	9:45	1:00	15:40	4:55	コンタ・ボール盤・フライス盤・旋盤
科展の準備（電子制御)	8/30	10:05	1:00	15:00	3:55	コンタ・ボール盤・フライス盤・旋盤
	8月稼働時間				34:46	
科展の準備（電子制御)	10/19	15:40	0:00	17:20	1:40	コンタ・ボール盤・フライス盤
科展の準備（電子制御)	10/21	16:20	0:00	17:25	1:05	ボール盤
科展の準備（電子制御)	10/22	9:00	0:00	10:40	1:40	コンタ・ボール盤・フライス盤
科展の準備（電子制御)	10/26	15:30	0:00	17:10	1:40	コンタ・ボール盤・フライス盤
	10月稼働時間				6:05	
4Sシステム設計Ⅱ	12/27	9:30	1:00	15:00	4:30	コンタ・ボール盤・フライス盤・旋盤
4Sシステム設計Ⅱ	12/28	9:30	0:00	12:00	2:30	コンタ・ボール盤・フライス盤・旋盤
	12月稼働時間				7:00	
4Sシステム設計Ⅱ	1/5	10:30	1:00	15:00	3:30	コンタ・ボール盤・フライス盤
4Sシステム設計Ⅱ	1/18	15:35	0:00	17:10	1:35	コンタ・ボール盤・フライス盤・旋盤
4Sシステム設計Ⅱ	1/19	14:50	0:00	17:00	2:10	ボール盤・フライス盤・旋盤
4Sシステム設計Ⅱ	1/25	15:45	0:00	17:04	1:19	ボール盤・旋盤
4Sシステム設計Ⅱ	1/26	16:45	0:00	17:00	0:15	コンタ・ボール盤
実験準備（一般教科)	1/30	10:30	0:00	11:30	1:00	ボール盤
	1月稼働時間				9:49	
					0:00	
4Sシステム設計Ⅱ	2/2	15:20	0:00	16:20	1:00	シャーリング・ボール盤
	2月稼働時間				1:00	
野球部のフェンス	3/14	10:20	0:00	10:55	0:35	のこ盤
	3月稼働時間				0:35	
	年間稼働時間				78:57	

（出典　実習工場作成資料）

資料7－1－⑥－18　生協案内パンフレット

奈良高専合格者・保護者のみなさまへ
生協・共済へのおさそい

奈良工業高等専門学校生活協同組合
理事長　　木村　倫幸（一般教科教授）

合格おめでとうございます。

４月からは高等教育機関である高専で、学生としての学園生活が始まります。受験勉強から開放され、新しい環境に対して夢や不安をお持ちのことと思います。

本校では、キャンパスでの福利厚生面の充実を図るため、１９９６年春に生活協同組合が設立されました。

安価で栄養バランスに配慮した食事を提供する食堂部、割引価格で文具・教材・自転車・教科書等を販売する購買・書籍部を運営しています。

生協は、これらのキャンパスライフを充実させ、快適に学習・研究が行えるお手伝いをすることだけでなく、クラブ活動や通学途中のケガや病気になった時、また他人に迷惑をかけてしまったときに備えて共済・保険の事業も行っています。

高専生活を安心して過ごすために

高専生になると、今までとは生活の環境が変わって行動範囲が広がり、ちょっとした油断からケガをしたり、体調を崩して病気になる人が多くなります。また不注意で他人に迷惑をかけてしまうことも、これまで以上に心配です。

そうした思いがけないアクシデントに備えて、生協が提案している「学生総合共済」と「学生賠償責任保険」は、実習中やクラブ活動での事故、通学中の事故など、高専生活の２４時間をバックアップする心強い制度です。

毎年多くの学生諸君が、給付を受けています。

また４年生でのインターンシップ（学外実習）時には万が一の場合に備えて、「賠償責任保険」に加入するよう、学校からもすすめられています。

ぜひ奈良高専生協および学生総合共済・学生賠償責任保険に加入いただき、安心で充実した高専生活を送り、勉学に励んでいただくよう願う次第です。

奈良高専生協とは？

学生・教職員一人ひとりが、お金（出資金）を出しあい運営している組織（生活協同組合）です。現在、学生と教職員等１４名が理事に選任されています。

購買・書籍部と食堂を運営し、組合員である学生・教職員の学内生活と勉学研究に必要な商品やサービスの提供を行っています。

１９９６年に全国の高専で初めて設立された生活協同組合です。

奈良高専の学生・教職員のほぼ全員が生協の組合員です。

（出典　生協案内パンフレット）

資料7－1－⑥－19　卒業旅行に対する支援

平成１６年４月２０日

卒業旅行担当教員各位

野垣，幅(平)

卒業旅行の計画について

つきましては、標記計画にあたり、下記の事項に十分配慮いただきますよう、お願いいたします。

（１）　実施期間：平成１６年１１月１０日（水）～１１月１２日（金）　文化的見学先も考慮

（２）　費用の上限は６５，０００円です。この範囲で、できる限り食事などを含んだ内容でご計画をお願いします。学生の追加負担ができるだけ無いようにお願いします。

（３）　集合・解散の時間は、遠方からの学生を考慮して、学生の負担にならない範囲で、決してむりのないよう計画ください。前泊や車中泊は禁止しています。また、解散時間は、なるべく夕方までに、遅くとも２０：００までに解散するようにお願いします。(常識的な範囲)

（４）　学校行事としての団体行動となりますので、飲酒・喫煙のないように指導願いします。

（５）　レンタカーの使用は禁止しています。

（６）　旅行先の候補をいくつか決めて、５月７日（金）までに教務係に旅行計画書を提出してください。

（７）　卒業旅行の教育的意義を持たせるため、工場見学または文化施設の見学を１カ所入れるようにしてください。

（８）　その他、詳細は学生指導必携(p. 22-23)をご参照ください。

今後のスケジュール

第１回　５月中旬　各旅行業者に対し、各クラスの旅行希望先の説明（時間・場所は後日連絡します）　一応 5/14(金)

第２回　６月上旬　各旅行業者から各クラスに旅行計画（行程など）の具体的提案

その後、提案内容をご検討いただき、第３回までに旅行業者（１社）を決定しておいてください。

第３回　７月中　決定した旅行業者との計画打ち合わせ

第４回　９月中旬　卒業旅行直前の最終打ち合わせ。部屋割りなどを確認する。「卒業旅行のしおり」を作成する。

以上

旅行費　(独法化に伴い旅行法)

（出典　教務委員会作成資料）

資料7－1－⑥－20 学生表彰

平成１７年１２月　　日

教　員　各　位

学　生　主　事

学生表彰規程特別賞該当者 推薦について（依頼）

学生表彰規程 第２条第１項第３号 特別賞に該当する学生及び団体がありましたら、表彰手続きをとりたいと思いますので、推薦方お願い致します。

推薦に際しては、所定の推薦書（１人又は団体につき１様式、学生係および統合学科事務室にあります）にご記入ください。

推薦書 提出先　：学生係
推薦書 提出期限 ：平成１８年１月２７日（金）厳守

特別賞の表彰の基準は以下の通りです。

特別賞（イ）
「在学期間中、全国高専大会に３回以上出場した者並びに課外活動・学生会・寮生会等において特別な功績があった者」

特別賞（ロ）
「全国大会又はこれに準ずる大会において、優勝又は準優勝した個人又は団体」

特別賞（ハ）
「ロに準ずる催し物において、それらと同等と認められる成績を挙げた者」

特別賞（ニ）
「学校内外において特別な善行があった者及び学生の模範として推奨に値する者」

以 上

（出典 教員向配布資料）

資料７－１－⑥－21　学校保健安全計画

平成18年度学校保健安全計画

奈良工業高等専門学校

月	行事	学生保健行事	健康管理	環境衛生	担当	安全管理	担当	教職員
4月	入学式 新入生校外オリエンテーション 春季ハイキング 学生定期健康診断 校内リーダース研修会	**新入生健康調査・新入生心臓検診調査** **学生定期健康診断** ・身体計測（身長・体重・座高） ・専門医（内科・眼科・歯科）診察 ・結核検診・視聴覚検査・尿検査 定期健康診断は学校保健法第6条に基づき6月30日までに終了	・学生相談室の周知	**目標：校内の清掃整備に努め、清潔な環境づくりを図る。** ・大掃除 ・分別収集の周知徹底 ・ゴミ処理状況の点検 （毎木曜のゴミ集積場所での分別収集指導）	学級担任・保健室・学生委員会 学生生協	**目標：校内の安全管理に努め、事故のない環境づくりを図る。** ・体育施設（体育館・グラウンド等）、課外教育施設等の安全点検 ・校舎内（教室・研究室・実験室等）の安全点検 ・校舎外（外階段・屋上・渡り廊下等）の安全点検 **「安全対策についての申し合わせ」の徹底**	学生委員会・学生係・体育教官・課外教官 全員 全員	6/29　**教職員定期健康診断** ・身体計測（身長・体重・座高・血圧） ・内科診察・尿検査 ・胃検診（３５歳・４０歳以上対象） ・心臓検診（３５歳・４０歳以上対象） ・放射線業務従事者定期検診 ・特定有害物質取扱い従事者定期検診
5月	学寮スポーツ大会 スポーツ大会 交通安全講習会 前期中間試験	**結果通知** ・健康診断の結果、異常のある者に対する治療指示勧告指導ならびに健康相談 ・臨時健康調査 部活動参加、試合出場等に係わる体育部員の健康調査	・伝染病、熱中症予防の周知 ・合宿・対外試合時の事故防止の周知	・梅雨時の衛生点検 ・水質検査（水道水） ・水質検査（プール）	学生係・施設係 施設係・学生係 施設係・学生係	・学生事故連絡ルート及び事故発生報告書の作成の確認 ・日本スポーツ振興センター共済給付制度の周知	全員	**結果通知** ・健康診断終了後直ちに全員に結果通知異常のある者に対する２次検診指示、治療 指示勧告指導ならびに健康相談
6月	19年度編入学試験	**健康相談** **救急法講習会（熱中症を中心に）**	・食中毒予防の周知 ・熱中症予防の周知	・6/9　大掃除　前期中間試験最終日 ・7/7　学寮　草刈 ・7/15　学寮　大掃除	学級担任・教務委員会・学生委員会 寮務委員会・寮務係	・5/19　学寮避難訓練	寮務委員会	・職員定期健康診断 ・教職員結核検診
7月	寮祭 近畿高専体育大会 夏期休業	**運動部員夏期合宿及び高専体育大会参加者健康診断** （健康診断結果及び本人からの申し出による） 健康診断の結果、疾病異常のある学生に治療の勧告	・光化学スモッグに対する注意・警告 ・健康生活の指導 （規則正しい食事、睡眠時間等）					
8月	全国高専体育大会	**健康相談**						
9月	学生会総会 前期末試験	**検診・検査で異常のあった学生の追跡調査** **健康相談**	・健康生活回復のための周知 ・運動時における受傷防止の周知	・教室の採光、照度、温度検査 ・9/28　大掃除　前期末試験最終日	保健室・施設係 学級担任・教務委員会・学生委員会	・体育施設（体育館・グラウンド等）・課外教育施設等の安全点検	学生係・体育教官・課外教官	
10月	交通安全講習会 スポーツ大会 入試説明会	**高専祭前健康調査** ・飲食物に係わる学生の検便等検査及び健康調査 ・模擬店調理従事者対象「食品衛生安全に関する講演」	・食生活改善の周知	・学生食堂の衛生管理調査 ・高専祭終了後の校内の清掃・整備	学生生協・学生係 学生委員会	・校舎内（教室・研究室・実験室等）の安全点検 ・校舎外（外階段・屋上・渡り廊下等）の安全点検	全員 全員	
11月	高専祭・入試説明会 卒業旅行 保健衛生教室 秋季工場見学	**高専祭安全衛生状況調査** **健康相談** **リーダース研修会時のテーピング講座**		・教室の暖房点検（温度・湿度・換気状況） ・11/15　学寮　落ち葉拾い	教務係 寮務委員会・寮務係	・10/20　学寮　避難消火訓練	寮務委員会	
12月	後期中間試験 学寮スポーツ大会 リーダース研修会		・流行性感冒罹患防止の周知 ・ＳＡＲＳ・鳥インフルエンザ感染防止の周知	・12/8　大掃除　後期中間試験最終日 ・12/22　学寮　大掃除	学級担任・教務委員会・学生委員会 寮務委員会・寮務係			
1月	推薦入試 入学試験	**健康相談** **保健衛生教室**「喫煙の害について」講演		・机・椅子の調査 ・入試前クリーンキャンペーン	教務係 学生会			・ＶＤＴ検診 （ＶＤＴ業務に携わる者）
2月	学年末試験 卒業式	**臨時健康診断**（就職・部活動等必要に応じて） **救急法講習会（救急救命法を中心に）**		・2/16　大掃除　入試前大掃除	学級担任・教務委員会・学生委員会			
3月				・2/28　大掃除　年度末 ・3/3　学寮　大掃除	学級担任・教務委員会・学生委員会 寮務委員会・寮務係			

（出典　学生課学生係作成資料）

資料７－１－⑥－２２ 課外活動中の注意喚起

送信者　""Keiko　Kassai"" <kassai@jimu.nara-k.ac.jp>
宛先　<minna@center.nara-k.ac.jp>
件名　　光化学スモッグ注意報の発令について
日時　　2004 年 7 月 23 日 15　58

平成 16 年 7 月 23 日

教職員各位

学生主事

光化学スモッグ注意報の発令について
標記の件について，光化学スモッグ注意報が奈良県北部に本日 15　10 発令されましたのでお知らせします。
教職員の皆様におかれましてはご自身の注意をしていただくとともに，学生諸君の指導方よろしくお願いいたします。（本年これまで発令されていたのは予報です）
注意報ではできるだけ屋外での運動は避け屋内に入る目に刺激や痛みを感じたらうがいをするのど，鼻に刺激や痛みを感じたらうがいをする等の注意が必要です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

葛 西 敬 子　　(かっさいけいこ)
奈良高専 保健室
e-mail　　kassai@jimu.nara-k.ac.jp
tel　　0743-55-6034
fax　　0743-55-6039

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（出典 課外活動中の学生への注意喚起メール）

資料7－1－⑥－23　自動対外式除細動器(AED)導入

AED 自動体外式除細動器の導入について

平成１７年１０月２６日開催の安全衛生委員会において、本校教職員の緊急時の対応として心肺停止状態になった者に応急措置ができる AED の設置について、早期の導入を目指す提案がなされた。

これを受け平成１７年１１月９日開催の企画会議において導入が了承された。

１．提案の背景

本校でも定期健康診断において、心臓に何らかの問題のある職員が在職していることが確認され、また、既往症がなくても転倒等による外的ショックにより心肺停止状態となる可能性があり、不測の事態に対応する必要がある。

２．心室細動（心肺停止）と救命率

心臓突然死の主な原因に心室細動があり、心室細動発生から１分毎に救命率が７％～１０％低下すると言われ、早期対応が重要となる。救急車の到着を待っていると措置が遅れる可能性がある。

３．普及状況

これまで AED を使用できるのは、医師・救命救急士の医療従事者に限定されていたが、平成 16 年７月に一般市民でも使用が可能となる医師法の改正が行われた。

AED の普及率は日本ではまだ低く、全国で 2 万台程度で主に駅、空港等公共スペースで設置が進んでいる。近畿４高専では、明石高専において、２台設置されている。

（参考）他設置高専　－　高知、阿南、鈴鹿、弓削商船、大阪府立等

４．AED の配置等について

AED の設置台数は本校の規模を考えると 3 台程度が適当と考えるが、予算の関係上当初１台とし今後検討することとしたい。またＡＥＤは保健室の備品とし、導入後のメンテナンスを含めてお願いする。

なお、導入にあたり AED の使用説明会を開催する。

（出典　教職員向配布資料）

資料7－1－⑥－24　AED 導入の掲示（学生向）

（出典　学生課学生係作成資料）

資料7－1－⑥－25　AED使用法講習会案内

Subject: CPR & AED kousyukai no kaisai ni tsuite
From: hirai@jimu.nara-k.ac.jp
Date: Tue, 07 Feb 2006 14:45:56 +0900
To: minna@center.nara-k.ac.jp

衛生管理者　平　井　でございます。

教　職　員　各　位

明日は、すでにご案内いたしましたとおり

心肺蘇生法およびAED（自動体外式除細動器）使用法講習会

を下記のとおり開催いたしますので、皆様お誘い合わせの上、

ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

１．日時　　平成１８年２月８日（水）　１５時３０分～

２．会場　　大会議室

３．講師　　セコム株式会社（有資格者）

（出典　AED使用法講習会の案内メール）

資料7－1－⑥－26　安全対策についての申し合わせ

安全対策についての申し合わせ

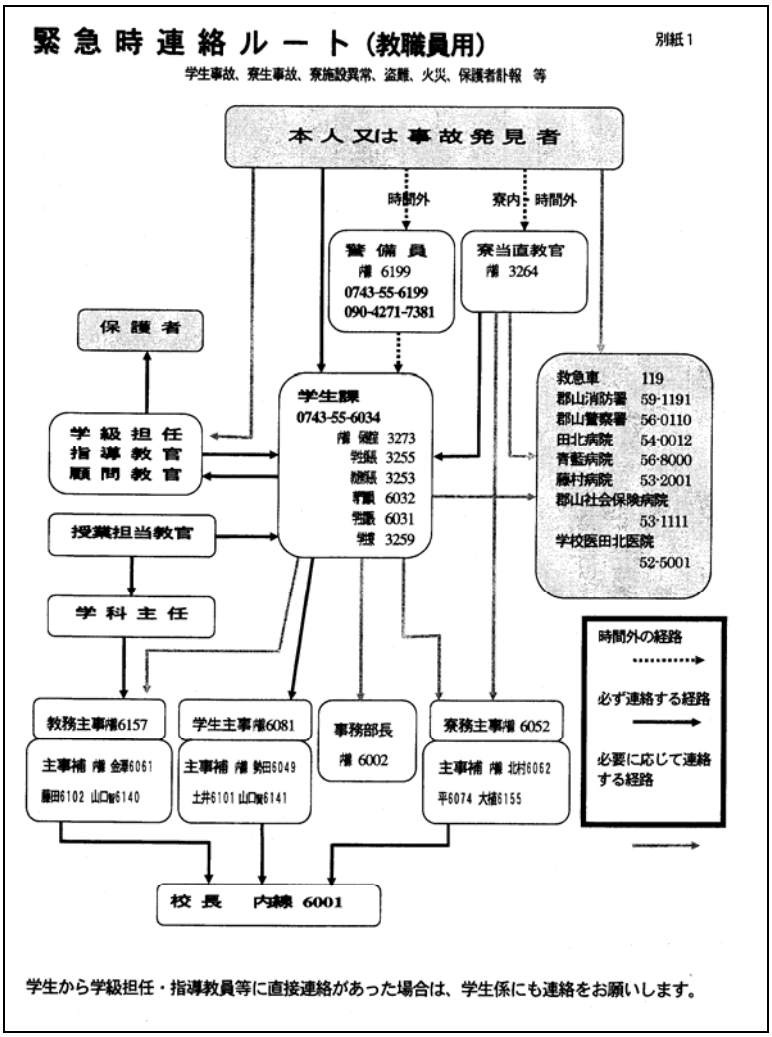
（平成１１年６月１日）

学生の安全を確保するため、学生事故等緊急措置要領を補完するものとして、当分の間以下の申し合わせに基づき対応するものとする。

1　学生に事故が発生した場合の学内関係者及び保護者への連絡は、別紙１『学生事故等連絡ルート』に基づき速やかに行うこととする。
2　上記の連絡ルートは、学生の事故以外に寮施設異常、盗難、火災、保護者の訃報等の非常時の連絡ルートとして準用する。
3　今後の事故防止対策の検討、日本スポーツ振興センターへの医療費請求のための資料及び修学への影響を把握するため、下記の学生事故について、別紙２の事故発生報告書作成担当者は、速やかに、別紙３『事故発生報告書』で報告するものとする。
（１）病院で治療を受けた学校管理下の事故
（２）学校管理外であっても学習に支障をきたす事故の場合
~~4　上記にかかわらず、学生の交通事故の場合は従来どおり『学生の交通事故違反報告書』で報告するものとする。~~
5　当該学生事故が、学内での重大事故（入院又は治療のため１週間以上の欠席など）の場合、関係部署（当該クラブ、学科等）においては、事故原因及び今後の事故防止対策の検討を行い、速やかに実施するとともに、別紙４『経過報告書』で報告するものとする。
6　上記の処置で対応できない特に重大な事故の場合は、緊急措置対策委員会の下に調査チームを編成するなどの必要な処置を講ずる。
7　提出された経過報告書は、関係部署での供覧とともに、今後の事故防止対策上特に参考となる事例については教官会議に報告する。
8　今後、学生事故防止及び救急対策として、下記について積極的に取り組むこととする。
（１）救急体制の整備（事故への対応マニュアル等）
（２）救急法講習会
（３）学内施設等の安全点検
（４）実験、課外教育等の安全指導の指針の作成
（５）防災訓練
（６）交通安全指導
（７）学生、保護者等への広報
9　学生事故緊急措置要領２で定める別図及び４は当分の間使用しないものとする。

（出典　安全対策についての申し合わせ）

資料7－1－⑥－27　緊急時連絡ルート(教職員向)



学生から学級担任・指導教員等に直接連絡があった場合は、学生係にも連絡をお願いします。

緊急時連絡先電話番号簿　　学校代表番号　0743－55－6000

氏　名	電話番号	氏　名	内線番号	自宅電話番号
消防・救急	119	守衛所	6199	0743-55-6199 090-4271-7381
大和郡山消防署	59-1191	学生係長(阪井)	3255	0743-52-2284
郡山警察署	56-0110	教務係長(前田)	3253	07443-2-4763
田北病院(内・外・脳外・整外)	54-0112	寮務係	3259	
青藍病院(内・外・脳外・整外・皮)	56-8000	保健室(葛西)	3273	090-8202-3887
藤村病院	53-2001	学生主事(機械・矢尾)	6081	090-9883-3157
郡山社会保険病院(全科)	53-1111	教務主事(電気・京兼)	6093	090-3920-2231
森外科整形外科医院	53-7887	寮務主事(一般・桐川)	6052	090-7889-4059
奈良市休日歯科応急診療所 (日祝 9:30～15:30)	0742-34-3144	専攻科主任(電制・福田)	6120	090-3863-5786
		事務部長(東)	6002	072-689-9898
田北医院(内科学校医)	52-5001	学生課長(馬場)	6031	075-391-9860
松本眼科(眼科学校医)	57-7100	専門員(米田)	6037	0745-66-2108
大江歯科(学校歯科医)	52-2149	会計課長(畑)	6021	0795-75-1866
三都タクシー	52-4144	庶務課長(三野)	6011	090-6675-6225
近鉄タクシー	52-7246	校長(冷水)	6001	090-7763-2530
奈良交通郡山営業所	58-3130			
関西電力(奈良支店)	0742-36-1201			
大阪ガス(奈良支店)	0742-44-1111			
大和郡山市水道局	0743-53-3661			

（出典　安全対策についての申し合わせ）

資料7－1－⑥－28　事故等が発生した場合の学校への連絡について(学生向)

平成１８年４月３日

学 生 諸 君

校　　長

事故等が発生した場合の学校への連絡について

このことについて、下記のとおりとなっていますので、該当する場合は速やかに連絡してください。

記

連絡する事柄

１．学校内（学校行事、クラブ等での外出中を含む）で怪我をした場合
　又はこれを発見した場合

２．家庭等で授業に影響するような怪我をした場合
　又はこれを発見した場合

３．交通事故･交通違反をした場合
　又はこれを発見した場合

４．盗難・火災・学生寮内の施設異常等を発見した場合

５．保護者の訃報など学校へ連絡する必要がある場合

連絡方法

１．別紙の連絡ルートに従い、学生課（警備員経由を含む）又は寮当直教員（寮内事故の場合）に連絡する。

２．近くに教職員がいる場合はその教職員に連絡する（連絡を受けた教職員が必要な連絡をします）。

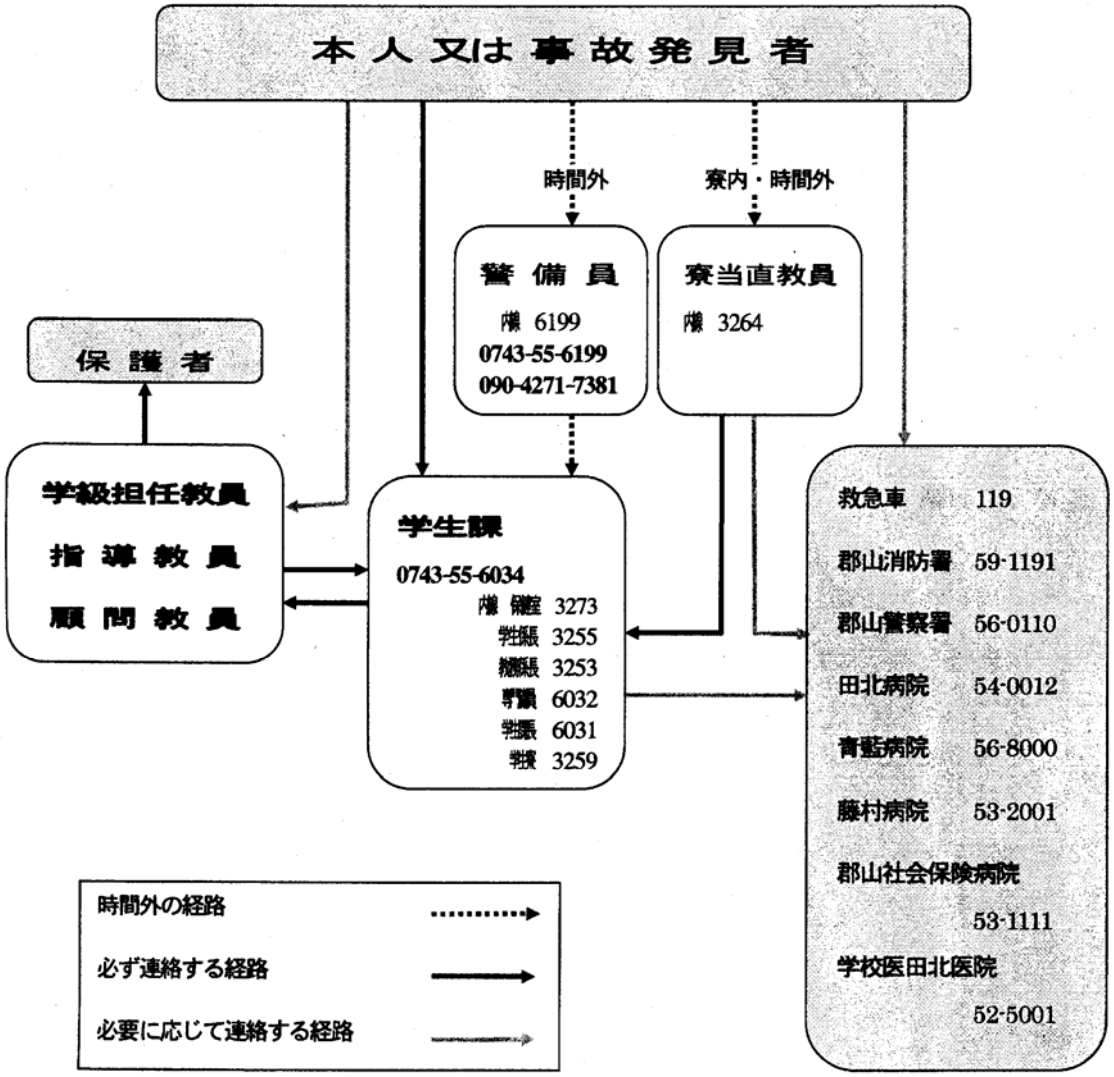
（出典　学生向配布資料）

資料7－1－⑥－29　緊急時連絡ルート(学生用)

緊急時連絡ルート　(学生用)

別紙2

学生事故、寮生事故、寮施設異常、盗難、火災、保護者訃報　等



(出典　学生向配布資料)

資料7－1－⑥－30　防犯ビデオカメラ運用内規

○防犯ビデオカメラ運用内規（案）

平成　　年　　月　　日制定

（利用目的）

第１条　ビデオカメラの設置，運用は，校内への不審者の侵入監視，盗難防止等学生に対する安全性の向上を目的とする。

（記録画像の閲覧）

第２条　日常的な状況確認のための画像閲覧は学生主事の指示のもと，学生委員会が行うものとし，その記録画像の管理及び運用に関する事務は学生係において処理する。

２　本校教職員の閲覧は，学生主事が必要と認めた場合に限り許可をする。

（録画）

第３条　一定期間の取り流しとし，一定期間を超えて画像は保存しないこととする。ただし，重要かつ緊急な事件等が発生し，関係教職員と学生委員会で協議し，必要と認められた場合は録画方法を変更することができる。

（第三者へのデータ提供）

第４条　画像データの公開はしない。ただし，重要かつ緊急な事件等が発生し，第三者から画像データの提供が求められた場合は，関係教職員と学生委員会で協議し，運営会議に諮ったうえで，(法令に基づく場合等やむを得ないと認められる場合には)提供可能とする。

（遵守事項）

第５条　関係者は，ビデオカメラ運用により知り得た秘密はこれを他に漏らしてはならない。

附　則

この内規は平成　　年　　月　　日から施行する。

（出典　奈良高専規程集）

資料7－1－⑥－31　変質者･不審者等連絡票

変質者・不審者等連絡票

（青少年センター用）

記載者　　（　　高）　連絡年月日　年　月　日（　）

被害者・発見者・状況について（差し支えのない範囲でご記入ください。）

氏　名	（　年 男・女）	保護者名	
住　所	町　番　号	ＴＥＬ	（　）
発生年月日	年　月　日（　）	時　間	午前・午後　時　分頃
発生場所 付近の目印	町　番　号		
被害の概要			

加害者について（わかる範囲でご記入ください。）

性別	男・女	年齢等	（　）才くらい・（　）風
体型	身長（　）ｃｍくらい	細い・普通・小太り・太い・その他（　）	
衣服等	上	スーツ・トレーナー・カッター・ブラウス・作業服 スポーツウェアその他（　）	色
	下	スラックス・ジーパン・スポーツウェア スカート・その他（　）	色
	靴	革靴・運動靴・スニーカー・スリッパ・サンダル ブーツ・その他（　）	色
	帽子	有・無	色　型
	眼鏡	有・無	縁の色（　）・縁無し・サングラス・その他（　）
頭髪	型	ﾊﾟｰﾏ・ｽﾎﾟｰﾂ刈・丸刈・長髪・ｾﾝﾀｰ分け・七三分け・その他（　）	色
髭	有・無	口髭・あご髭・両方	
乗り物等	手段	普通乗用車・軽乗用車・大型乗用車・軽トラック・トラック ミニバイク・単車・自転車・徒歩・その他（　）	
	社名	トヨタ・ニッサン・ホンダ・マツダ・三菱・スズキ・ダイハツ スバル・イスズ・ヤマハ・カワサキ・その他外車等（　）	
	ﾀｲﾌﾟ	セダン・クーペ・ハッチバック・ワンボックス・ミニバン ステーションワゴン・ＲＶ４ＷＤ・その他（　）	
	車名	ナンバー	色
その他加害者について気づいたこと			

通報先　郡山警察署　５６－０１１０　＊生活安全課または各交番等へ

青少年センター　５３－１１５１（内４８７）　FAX 52-3211（この用紙の送付先）

（出典　学生課学生係保存資料）

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の状況に応じて迅速かつ効果的な指導がとれる体制を構築している（資料７－２－①－１）。学級担任は，学生指導必携に基づいて学生の日常的な指導にあたっている（資料７－２－①－２）。学生委員会は，学生委員会規程に基づいた指導を行っている（資料７－２－①－３）。学生生活や経済面に係わる事項等は，学生生活のしおりに掲載している（資料７－２－①－４）。環境保全・美化に対する意識向上のため，年４回の校内清掃を実施している（資料７－２－①－５）。健康維持・向上のため，保健室に看護師１名が常勤で対応し（資料７－２－①－６，７），各種健康測定器具が利用できるよう整備している（資料７－２－①－８）。

学生相談室，セクシャル・ハラスメント相談室に加え，平成１６年度からオフィスアワーを利用したなんでも相談室を開設している。学生相談室では（資料７－２－①－９），学生等へのリーフレット配布（資料７－２－①－１０），グループワーク（資料７－２－①－１１），電子メール相談（資料７－２－①－１２）等を実施している。カウンセリングの理解を深めるため，カウンセラーと教職員との懇談会を実施している（資料７－２－①－１３）。活動実績をもとに改善を図っている（資料７－２－①－１４）。セクシャル・ハラスメント相談室では（資料７－２－①－１５），投書箱設置（資料７－２－①－１６），リーフレット配布（資料７－２－①－１７），意識向上のための研修会を実施している（資料７－２－①－１８）。学生アンケートを実施し，結果を掲示している（資料７－２－①－１９）。なんでも相談室は，学生の相談・要望に応じて関係機関と連携・対応している（資料７－２－①－２０）。利用を促すためアンケートを実施し（資料７－２－①－２１），回答を掲示している（資料７－２－①－２２）。各相談室室長は，情報交換をしている（資料７－２－①－２３）。教務委員会が休・退学を定期的に調査し，学生指導の一助としている（資料７－２－①－２４）。

保護者・ＯＢとの協力体制が不可欠であることから，キャンパス（資料７－２－①－２５）や同窓会誌である新芽（資料７－２－①－２６）等の広報誌を発行・配布している。

経済面の支援体制として，入学料及び授業料免除等については，入学前オリエンテーション（資料７－２－①－２７）や掲示の他，担任等を通じて（資料７－２－①－２８）周知徹底し，学生委員会で厳正に審議している（資料７－２－①－２９）。奨学生の募集は，担任等を通じて周知徹底し（資料７－２－①－３０），学生委員会で決定し（資料７－２－①－３１），返還説明会を実施している（資料７－２－①－３２）。

各種共済保険等の案内は，入学前オリエンテーションや生活協同組合にて資料を配布・周知している（資料７－２－①－３３，３４）。

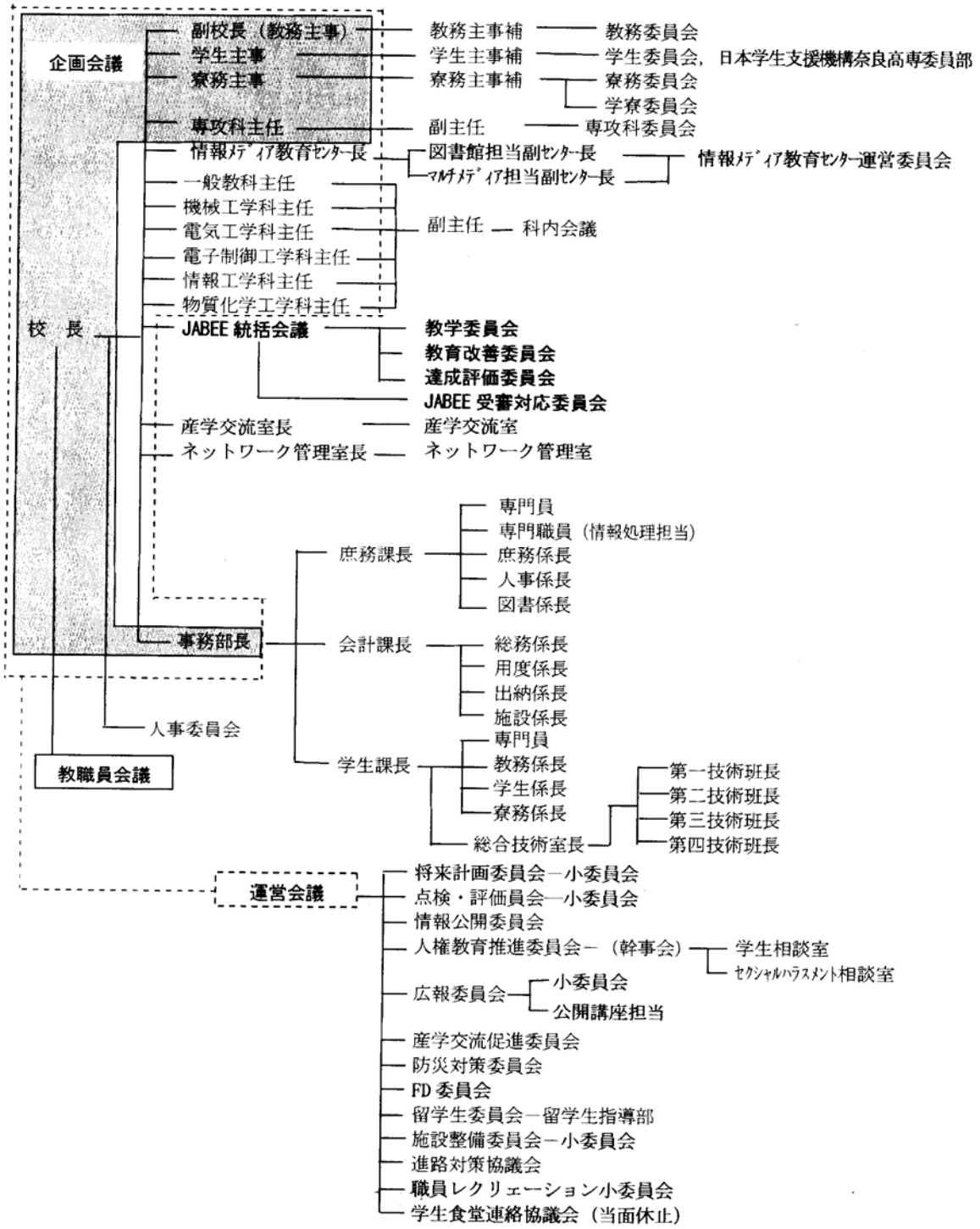
（分析結果とその根拠理由）

学生生活に係る指導等を学生指導必携でマニュアル化しており，学級担任や特別研究指導教員を中心に，学生委員会，学生相談室，セクシャル・ハラスメント相談室，なんでも相談室が互いに連携して迅速かつ的確に対応できる指導体制を構築し，機能している。経済面での支援もオリエンテーションや担任等を通じて学生への周知徹底がなされている。

資料７－２－①－１　指導・相談・助言体制

平成 17 年度　運営組織図　（変更点については，太字で標記）

＊運営諮問会



（出典　2005年10月自己点検・評価報告書）

資料7－2－①－2 学級担任の役割

第３章　学級担任

３－１　学級担任の年間計画 …… ２５
３－２　特別教育活動の指導
３－２－１　特別教育活動の目的 …… ２８
３－２－２　特別教育活動の成績評価 …… ２８
３－２－３　実施計画 …… ２８
３－３　学生指導及び学級運営
３－３－１　学生指導 …… ３０
３－３－２　学級日誌 …… ３０
３－３－３　教室備え付け備品，物品の不足・破損 …… ３１
３－３－４　学級費 …… ３１
３－３－５　身上調書 …… ３１
３－３－６　慶弔 …… ３１
３－３－７　保護者懇談会 …… ３２

学生関係（厚生補導関係）

第１章　学生生活

１－１　学生証（身分証明書）の交付 …… ３９
１－２　通学定期乗車券購入用身分証明書の交付 …… ３９
１－３　授業料，後援会費，学生会費の納入 …… ３９
１－４　奨学金制度および授業料減免 …… ３９
１－４－１　奨学金制度 …… ３９
１－４－２　授業料免除 …… ３９

（出典　学生指導必携）

資料７－２－①－３ 学生委員会規程

○奈良工業高等専門学校学生委員会規程

（昭和42年12月21日制定）

最近改正　平成12年４月１日

（設置）

第１条　奈良工業高等専門学校に学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，校長の命により学生の厚生補導に関する重要事項等を審議する。

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

(1)　学生主事

(2)　学生主事補

(3)　専任教官のうち，校長が任命した者

（委員の任期）

第４条　委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。

２　補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き，学生主事をもつて充てる。

（議長）

第６条　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。

（幹事）

第８条　委員会の事務を処理するため幹事を置き，学生課長をもつて充てる。

附　則

この規程は，昭和42年12月21日から施行し，昭和42年４月１日から適用する。

附　則（昭和50年５月１日）

この規程は，昭和50年５月１日から施行する。

附　則（昭和57年４月１日）

この規程は，昭和57年４月１日から施行する。

附　則（平成12年４月１日）

この規程は，平成12年４月１日から施行する。

D〔奈良工専八〕二六二

（出典　奈良高専規程集）

資料７－２－①－４　学生生活や経済面に係わる諸事項

７．学校生活に関すること

⑴　学校行事について　…… 61
⑵　保健衛生について　…… 61
＜保健室＞　…… 61
＜健康診断＞　…… 61
＜健康相談＞　…… 62
＜災害共済給付制度＞　…… 62
⑶　学生相談室について　…… 63
⑷　セクシュアル・ハラスメントの相談室について　…… 64
⑸　生活上の諸注意について　…… 65
＜学生証について＞　…… 66
＜学内施設（教室・共同利用施設等）の利用にあたって＞　…… 66
＜学生への連絡＞　…… 66
＜携帯電話（ＰＨＳ等を含む）の使用＞　…… 66
＜学生の集会、掲示等＞　…… 66
＜服　装＞　…… 67
＜飲酒と喫煙＞　…… 67
＜所持品の管理＞　…… 68
＜アルバイト＞　…… 68
＜学寮への立ち入り＞　…… 68
＜女子更衣室の利用について＞　…… 68
＜ゴミの分別について＞　…… 68

８．経済援助に関すること

⑴　経済援助について　…… 69
⑵　日本学生支援機構奨学金について　…… 69

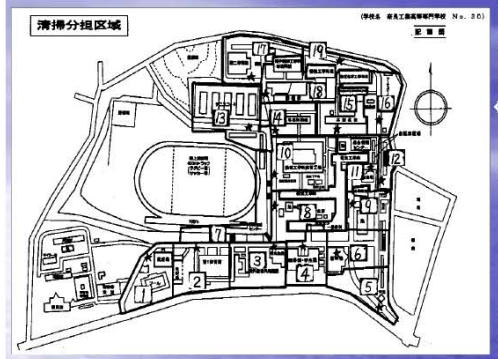
（出典　平成18年度学生生活のしおり）

資料７－２－①－５　校内清掃
学生向けの掲示：

平成17年度　校内清掃活動報告

〈2月17日(金)実施結果〉

＜校内清掃区域＞



- 現在，教室や廊下，そして窓からの**ポイ捨てゴミ**が目立っています．
- 技術者を目指す学生として，これは誠に**恥ずべき行為**です．
- 学内の**環境保全・衛生活動**への積極的な協力をお願いします．

1～４年次の学生に協力してもらい校内清掃区域のゴミを分担して拾い集めました．

●新たな清掃区域でたくさんのゴミが収集されました．
●グラウンドと講義棟周辺・駐輪場内で紙屑や菓子袋等のゴミが目立ちます．

１人1人の心がけ
環境美化とマナー向上！！

＜ゴ　ミ　集　計＞

学年	ゴミ／区域(クラス)	生ゴミ	紙屑	菓子袋	空き缶	空き瓶	ペットボトル	ガラス	乾電池	雑誌	タバコ吸殻	その他 プラスチック類	その他 ビニール袋類	その他 管，金属類	その他 自転車部品	その他 その他	合計
1	M(2)		15	5	3		2	6			2	5	6			2	46
	E(3)		10	8			3						14				35
	S(4)		17		2		1				8					1	29
	I(共通)		2	1	2											3	8
	C(5)	3	9	1	2	1					1			1		3	21
2	M(6)		47	22							3		4	3			79
	E(8)		2										7	1		1	11
	S(9)	5	6	6	2		1						10	2			32
	I(11)		4	18		2		5						6		20	55
	C(12)		47	9	2		1					1		8		1	69
3	M(10)		12	20	1						2		2				37
	E(1)		57		3	1		1				40				4	106
	S(7)		5	36	1		1				2					10	55
	I(13)		13	15	12	1	19					3				4	67
	C(16)	2	13		5		3	10			83			3		1	120
4	M(14)	11	22	2	1	1	1				1	3		2		7	51
	E(15)	2	21	12	2								4			8	49
	S(17)		19	5	1						4		34				63
	I(18)	8	17	21	3									1		4	54
	C(19)		3	3	1						6						13
	合計	31	341	184	43	6	32	22	0	0	112	52	81	27	0	69	1000

（出典　学生委員会会議資料（平成18年3月2日））

資料７－２－①－５　校内清掃

総括:

2. 実施総括

	実施結果について	今後の課題等について
前期中間試験終了後 6月10日(金)実施	・紙屑と菓子類のゴミ屑が圧倒的に多く，次いでプラスチック，ビニール袋，吸殻であった. ・自転車置き場内には多様なゴミ（雨天時は特にビニール袋）があること，各区域毎に固有ゴミが落ちている傾向にあること. ・学生の清掃活動に対する取り組みは概ね熱心であった.	・今回清掃できなかった区域があるなど，学生には清掃場所を具体的に明示する方がよい. ・来年度実施に向けて実施要領に雨対策，学生集合場所の指示，終了時刻の明示が必要 ・カバン持参で集合している学生への対応 ・寮生の食事に対する配慮必要.
前期末試験終了後 9月28日(水)実施	・ゴミの総量：455【前期中間時：785】⇒約58%減少．特に，菓子類やタバコ吸殻が半数以下に減　但し，紙屑やビニル袋は横ばい. ・清掃区域6～8における自転車置き場内のゴミが前回と同様に多かった.	・掃区域9をはずし，1～8の清掃区域に集中した方がよいと思われる．⇒校舎周辺と自転車置き場内のゴミが多いため. ・高学年（3年次・4年次）を対象に実施検討要．⇒講義棟周辺？ ・自己紹介など実施方法の工夫要.
後期中間試験終了後 12月13日(火)実施	・ゴミの総量：【前期中間：785】⇒【前期末：455】(約42%減) ⇒【後期中間：373】(約18%減)．：ゴミ総数は確実に減少している. ・自転車置き場内のゴミ（特に，ゴミ屑と菓子袋類）が前回と同様多い. ・学生の取り組みは概ね熱心であり，定着しつつあるように思われる.	・3～4年次の学生を含めた全学的な清掃活動～への取り組み検討．：教務委員会と相談要. ・凌雲館（生協）内での実施結果の掲示. ・活動総括
入試前全校清掃 2月17日(金)実施	・低学年（1～2年次）及び4年次で熱心に作業に取り組んだ旨の報告が多くあったが，効率的に作業していないとの意見が3年次で見られた. ・これまで実施した清掃エリアにおけるゴミ総量：【472】(前期末試験時とほぼ同数.) ＜ 新たに実施した清掃エリアにおけるゴミ総量：【520】 ⇒指導の効果 ・これまでの清掃エリア：紙屑や菓子袋が多かった．(特に，1と自転車置き場) ⇒継続した指導要 ・新たな清掃エリア：紙屑や菓子袋,吸殻やボール等が多かった．：(特に，グラウンド及び講義棟周辺,第2体育館及びアーチェリー場). ⇒今後とも実施の必要有	・年間を通した清掃計画の検討要. ・5年生と専攻科生を含め全学的な取り組みへの展開. ・一層の時間短縮を図り，全校清掃の回数が多い方が効果的？

以上

（出典　学生委員会会議資料（平成18年3月2日））

資料７－２－①－６　保健室概要

⑵　保健衛生について

＜保健室＞

健康管理のための保健室を設け，救急医薬品・器具等を常備するとともに看護師が常勤しています。学校内で発生した疾病，傷害等に対し応急処置を行うことができますので，身体に異常を生じた場合，または負傷した場合にはすみやかに申し出て手当てを受けてください。また，疾病，傷害等の程度によっては，学校医の診察を受けられるよう手配します。

＜健康診断＞

学校保健法に基づいて毎年４月～５月，定期健康診断を実施しています。この診断は，健康管理と学校生活を円滑に送るためのもので，学生はこの診断を必ず受けなければなりません。

＜健康相談＞

学生諸君の健康上の不安や保健衛生の相談に応じるために，学校医に診断を依頼しています。相談を希望する人は事前に保健室まで申し出てください。

（出典　平成18年度学生生活のしおり）

資料７－２－①－７　保健室利用実績

平成16年度　保健室利用学生数

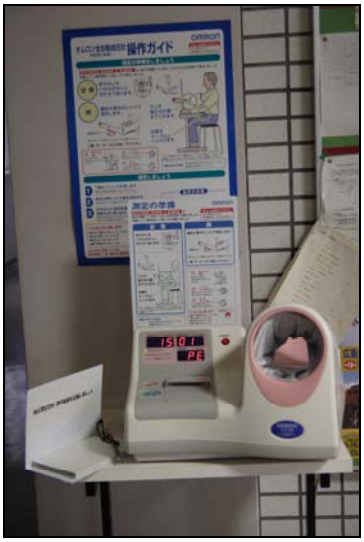
月	保健室来室学生数				
	怪我等	体調不良等	相談	総数	平常授業日数
4	１５	１５	１６	46	１４（春季休業）
5	３４	３０	３８	102	２０
6	２３	２３	３１	77	１５（前期中間試験）
7	１６	３３	４２	91	１１（夏季休業）
8	2	1	0	3	０（夏季休業）
9	9	１９	３７	65	１７（前期末試験）
10	１９	３２	３４	85	１８（前期末試験）
11	8	１１	１９	38	１８
12	１６	１８	２９	63	１１（後期中間試験、冬季休業）
1	１６	２６	２２	64	１７（冬季休業）
2	7	１０	１９	36	７（学年末試験）
3	0	0	8	8	０（学年末試験・春季休業）
合計	165	218	295	678	

保健室利用状況

区　　分	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
怪我等で利用	190	168	105	159	212	165
病気等で利用	279	329	174	216	256	218
健康相談等で利用	354	295	182	165	193	295
合　　計	639	705	823	792	661	678

（出典　学生課学生係作成資料）

資料７－２－①－８　保健室内外に整備された健康測定器具



血圧計（学生昇降口）

体重・身長・座高計

視力検査等

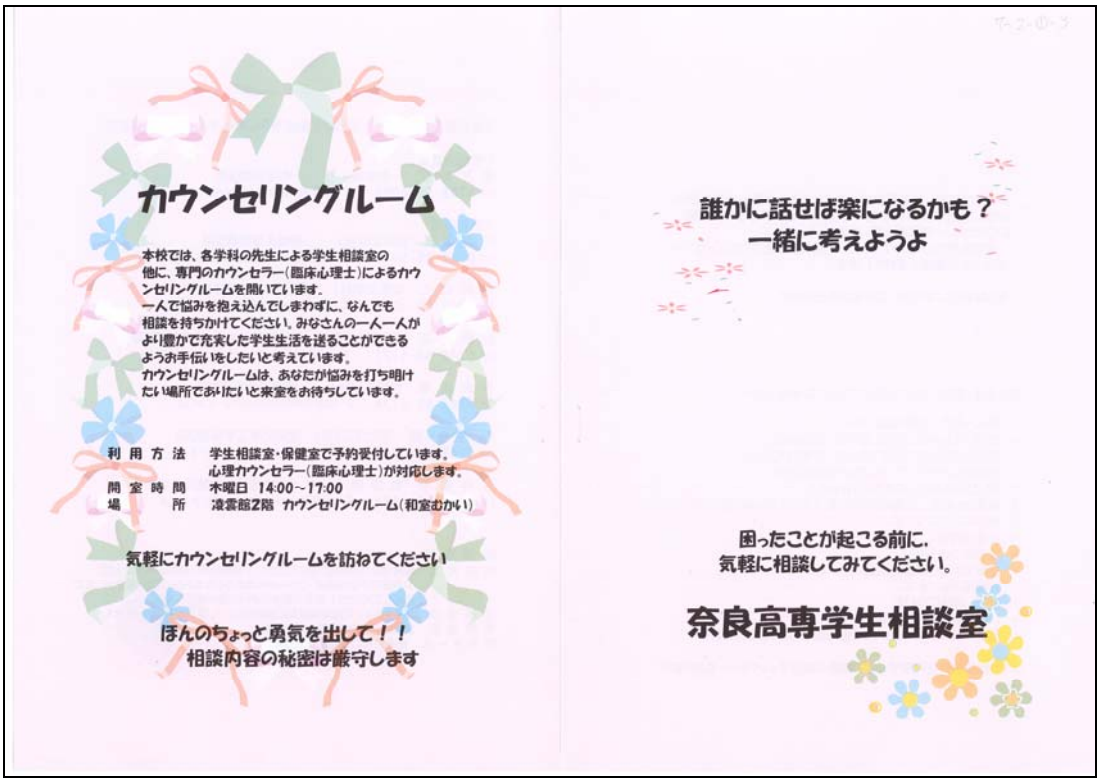
（出典　保健室）

資料７－２－①－９　学生相談室規程

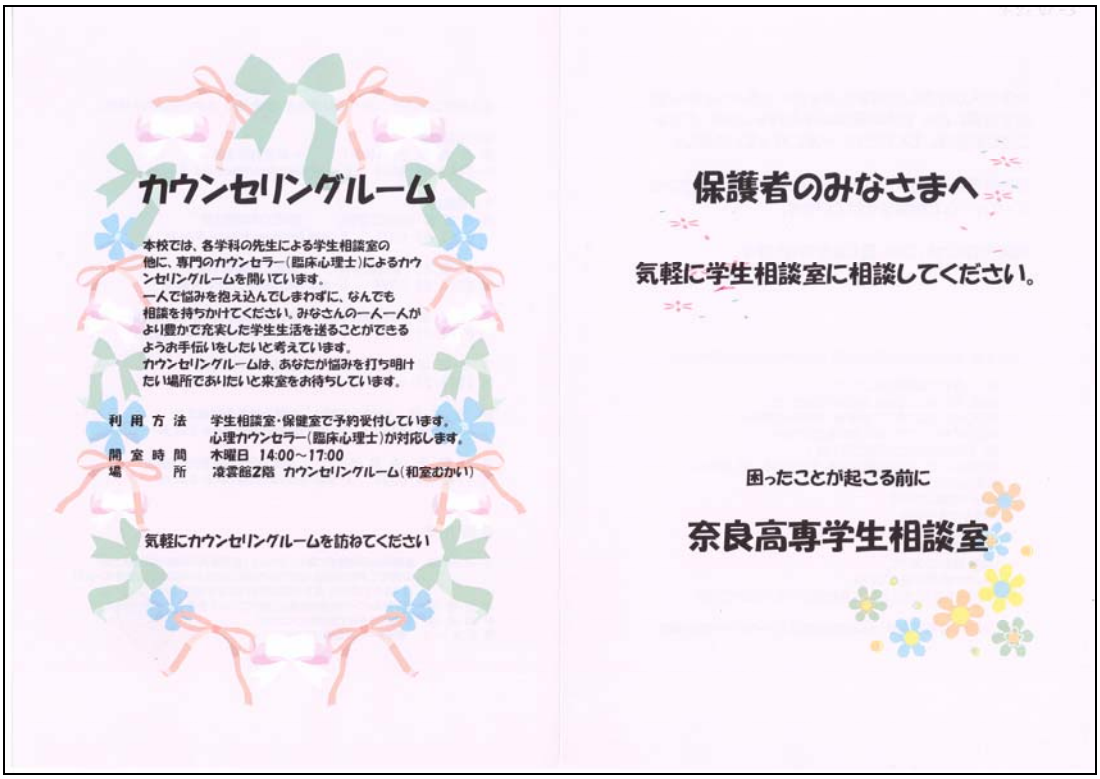
新（改定後）
○奈良工業高等専門学校学生相談室規程 （設置） 第１条　奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。 （目的） 第２条　相談室は，学生生活の中で生じる諸問題の相談について，学生自身がその問題の解決に至るよう適切な助言及び援助を行うことを目的とする。 （職員） 第３条　相談室に次の各号に掲げる職員（以下「相談室員」という。）を置く。 (1)　相談室長 (2)　相談員　若干名 (3)　心理カウンセラー 2　相談室長（以下，「室長」という。）及び相談員は，本校教職員のうちから校長が任命する。その任期は１年とし，再任を妨げない。 （第３項は削除） 3　第１項の教職員に，欠員が生じた場合の後任の任期は，前任者の残任期間とする。 4　心理カウンセラーは，臨床心理に関する専門的知識，経験を有する者に校長が委嘱する。 第４条から第９条は現行とおり。 附　則 この規程は，平成　　年　　月　　日から施行する。

（出典　奈良高専規程集）

資料７－２－①－１０　学生相談室リーフレット



学生用



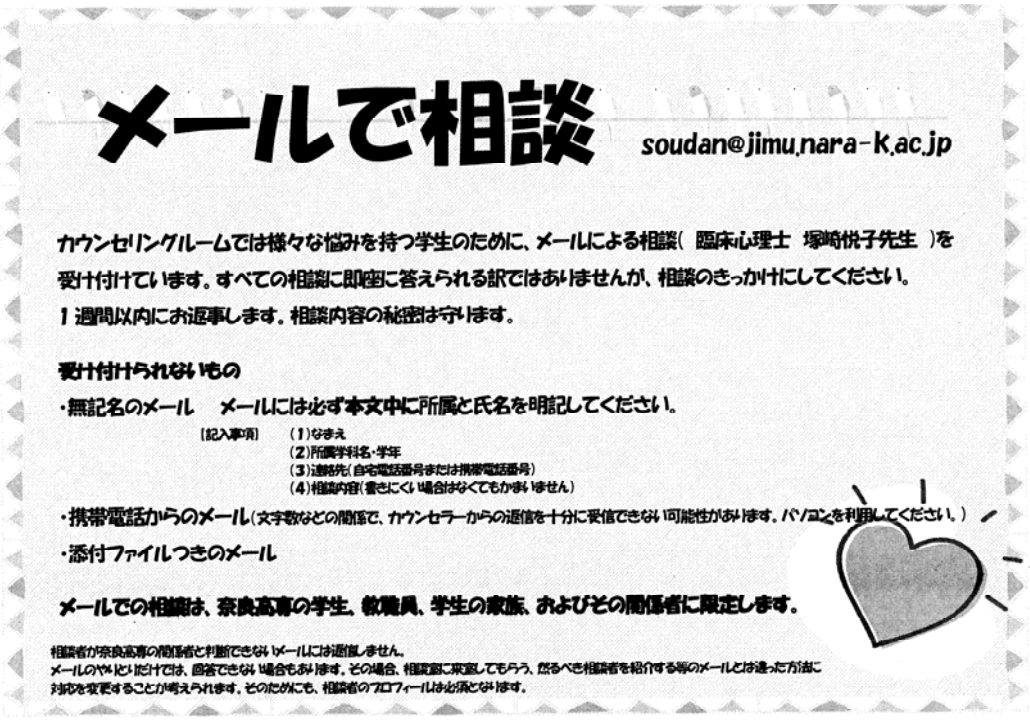
保護者用

（出典　学生相談室リーフレット）

資料７－２－①－１１　グループワーク

（出典　学生相談室作成資料）

資料７－２－①－１２　電子メールによる相談



（出典　学生相談室作成資料）

資料７－２－①－１３　カウンセラーと教職員との懇談会

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　カウンセラーとの談話会開催案内メール）

資料７－２－①－１４　学生相談室活動報告

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　奈良高専校報（平成１８年４月））

資料７－２－①－１５　セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規程

平成１６年９月９日
運営委員会資料

奈良工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程（修正案）

（趣旨）
第１条　奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則（以下「機構規則」という。）に定めるもののほか、この規程に定めるところによる。

（目的）
第２条　この規程は、本校の教職員・学生等及び本校の関係者による本校内外でのセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下「セクシュアル・ハラスメントの防止等」という。）に関し、必要な事項を定めることにより、本校内にセクシュアル・ハラスメントのない健全な環境を作ることを目的とする。

（定義）
第３条　この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。
（１）　セクシュアル・ハラスメント　本校教職員が他の教職員、学生等及び関係者を不快にさせる性的な言動並びに学生等及び関係者が教職員を不快にさせる性的な言動
（２）　セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除　セクシュアル・ハラスメントが行われることを未然に防ぐとともに、セクシュアル・ハラスメントが現に行われている場合にその行為を制止し、及びその状態を解消すること。
（３）　セクシュアル・ハラスメントに起因する問題　セクシュアル・ハラスメントのため、教職員の就労上又は学生等の修学上の環境が害されること及びセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因して教職員が就労上又は学生等が修学上の不利益を受けること。
（４）　教職員　本校に勤務する常勤及び非常勤の教員及び職員をいう。
（５）　学生等　学生、科目等履修生、研究生等本校において修学する者をいう。
（６）　関係者　学生等の保護者及び業者など本校と関係のある者をいう。

（校長の責務）
第４条　校長は、独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が有する権限の一部委任に関する規則に基づき、機構規則第４条に定める理事長の責務を行うとともに、同規則第７条各項に定める研修等に係る必要な措置を講じなければならない。

（監督者の責務）
第５条　機構規則第６条に定める教職員を監督する地位にある者（以下「監督者」という。）は、同条各号に規定する事項に注意して、セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除に努めるものとし、セクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合には、迅速かつ適切に対処しなければならない。

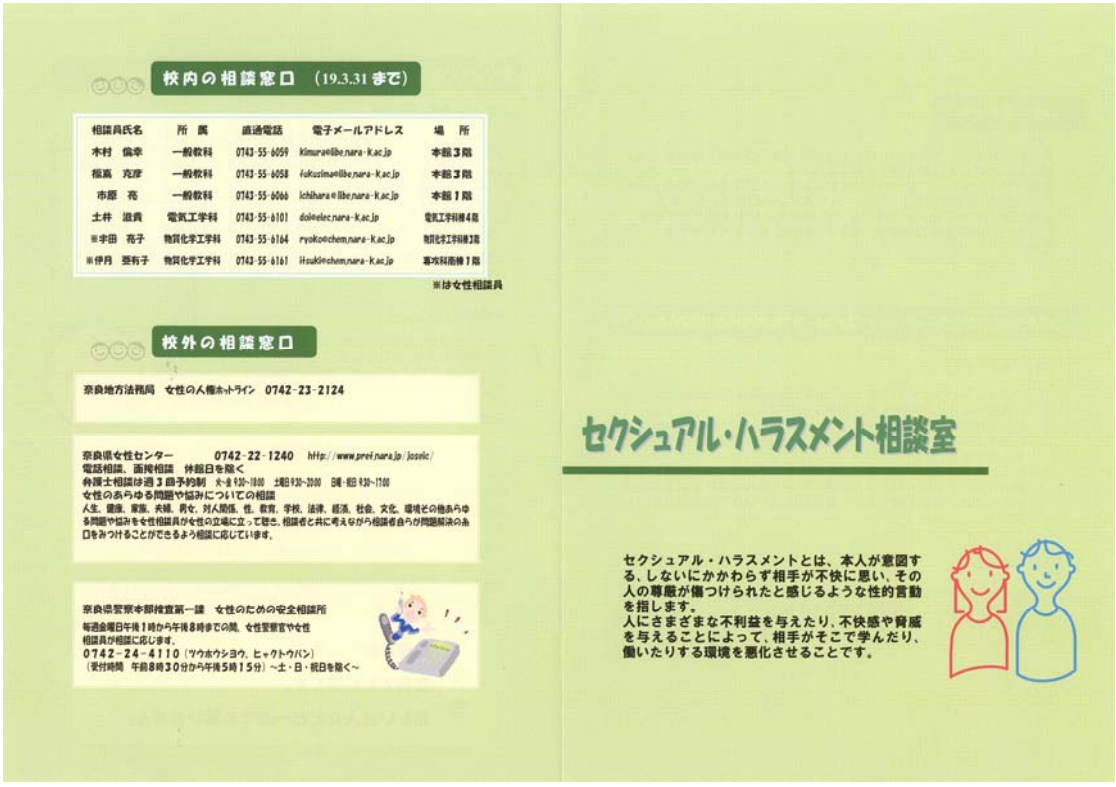
（教職員の責務）
第６条　教職員は、この規程及び機構規則に従って、セクシュアル・ハラスメントをしないようその発言や行動に十分注意しなければならない。

（出典　運営委員会資料（平成16年9月9日））

資料７－２－①－１６ 「セクシャル・ハラスメント相談室」と「なんでも相談室ぷちアンケート」投書箱

（出典　セクシャル・ハラスメント相談室）

資料７－２－①－１７　セクシャル・ハラスメント相談室リーフレット



（出典　セクシャル・ハラスメント相談室リーフレット）

資料7－2－①－18　セクシャル・ハラスメントについて（FD）

ＦＤ及び教職員会議メモ
18.2.21(火)臨時運営会議(13:30)終了後～

Ｆ　Ｄ　　テーマ：「セクシュアルハラスメント」について
報告者：木村セクシュアルハラスメント相談室長

教職員会議
（協議事項）
１．平成１７年度卒業認定について（資料）

２．平成１７年度専攻科修了認定について(資料)

３．学業成績評価・進級及び卒業認定に関する規則の一部改正について(資料)

４．その他

（報告事項）
１．各種委員会関係

２．人権教育推進委員会関係

３．TOEIC400点相当の実力を有すると認められない者の英語表現法Ⅰ，Ⅱの成績評価に関する申し合わせについて(資料)

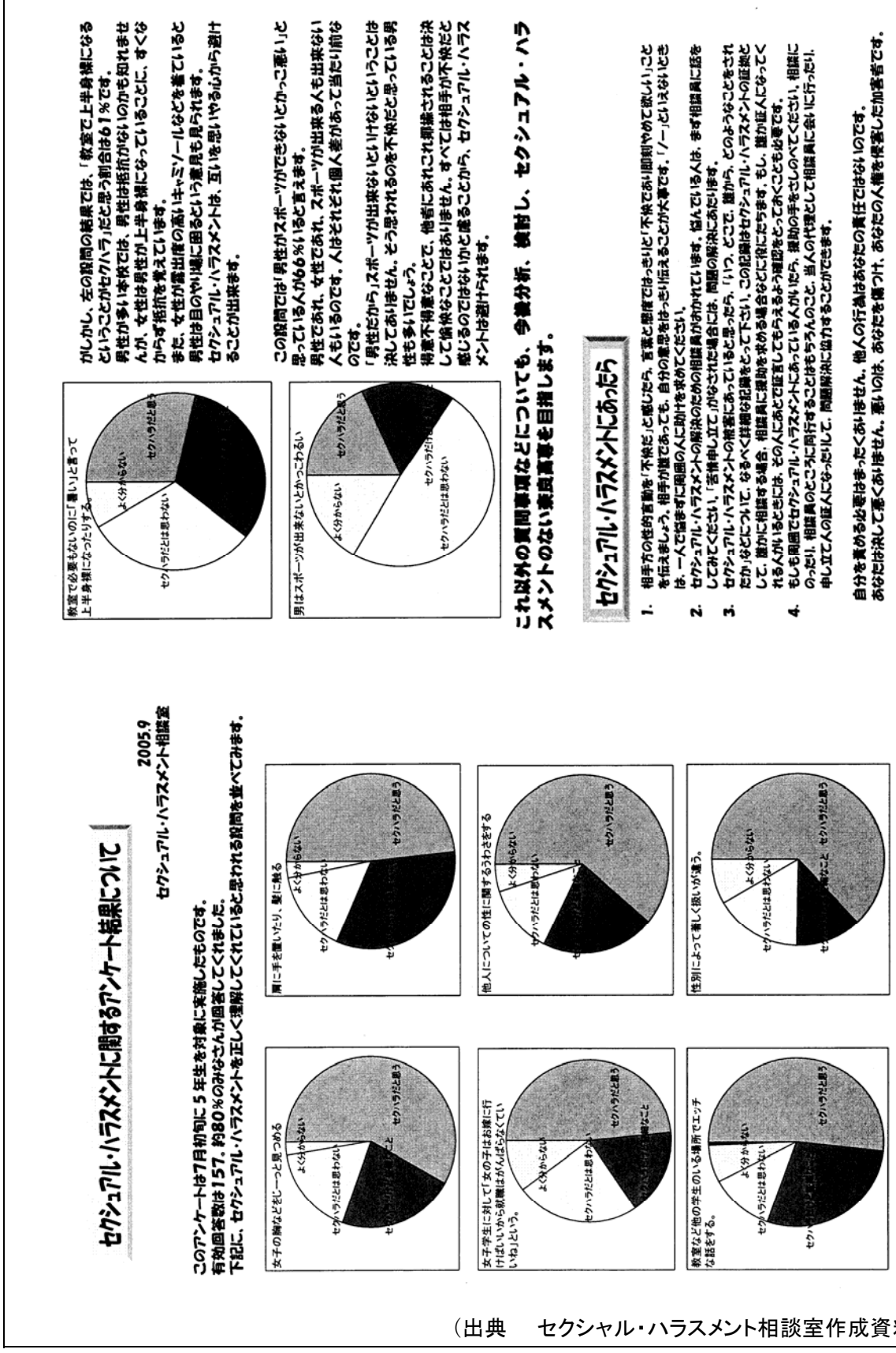
４．平成１８年３月行事予定について(資料)

５．その他
1)　環境委員会規程の制定について

2)その他

（出典　FD資料（平成18年2月 21 日））

資料７－２－①－19　セクシャル・ハラスメントに関するアンケート結果について



（出典　セクシャル・ハラスメント相談室作成資料）

資料７－２－①－２０「なんでも相談室」

なんでも相談室

中学とは雰囲気の異なる高専の講義になじめない。新しいクラスメートとの人間関係がうまく作れない。自分にとっては深刻な悩みなのに友人や保護者には理解してもらえない。自分の将来が見えずに不安だ。誰かに相談したいのだけれども相談する相手がいない。など，いろいろな悩みを抱いている学生がたくさんいると思います。奈良高専では、このような学生の悩みの相談窓口として「なんでも相談室」を設置することにしました。

「なんでも相談室」の相談員は、悩みが原因で健康を害したり、才能がありながら学業を断念することになった学生を今までに見てきて、「もっと早くに相談してくれたら…」と悔やんできた人たちの集まりです。学生の身になって悩み事を聞き、解決策を一緒になって考えていきます。

どんな些細なことでもかまいません。躊躇することなく、「なんでも相談室」に相談してください。「なんでも相談室」は、さまざまな悩みを抱えた学生を支援します。

また、直接相談室を訪問するのが難しい学生は、「なんでも相談室」プチアンケート（６月中旬より学生玄関に設置しました）から始めて頂いてもいいかもしれません.

学生主事　矢尾匡永

相談の内容

修学に対する相談と支援：学業全般の質問・相談に対応し、適切な助言を与えます。各学科主任・教務主事などの協力の下、履修等に対して適切な指導を行います。進路や将来の目標についての相談にのります。奨学金など経済的支援のための情報を提供します。

生活面での悩みに関する相談と支援：学校になじめない、学業とアルバイトの両立に悩んでいるなどの理由で学業が進まない場合に対応して、適切な助言を与えます。

ハラスメントに関する相談：セクシャルハラスメントに関する相談だけでなく、セクシャルハラスメント防止のため、ジェンダー問題も含めた啓発活動も行います。

メンタルヘルスケアに関連する相談：様々な悩みの相談に乗り、必要に応じて、本人にとってもっとも望ましい対応を考えます。

相談の仕方

直接「なんでも相談室」を訪問してください。

相談室の場所

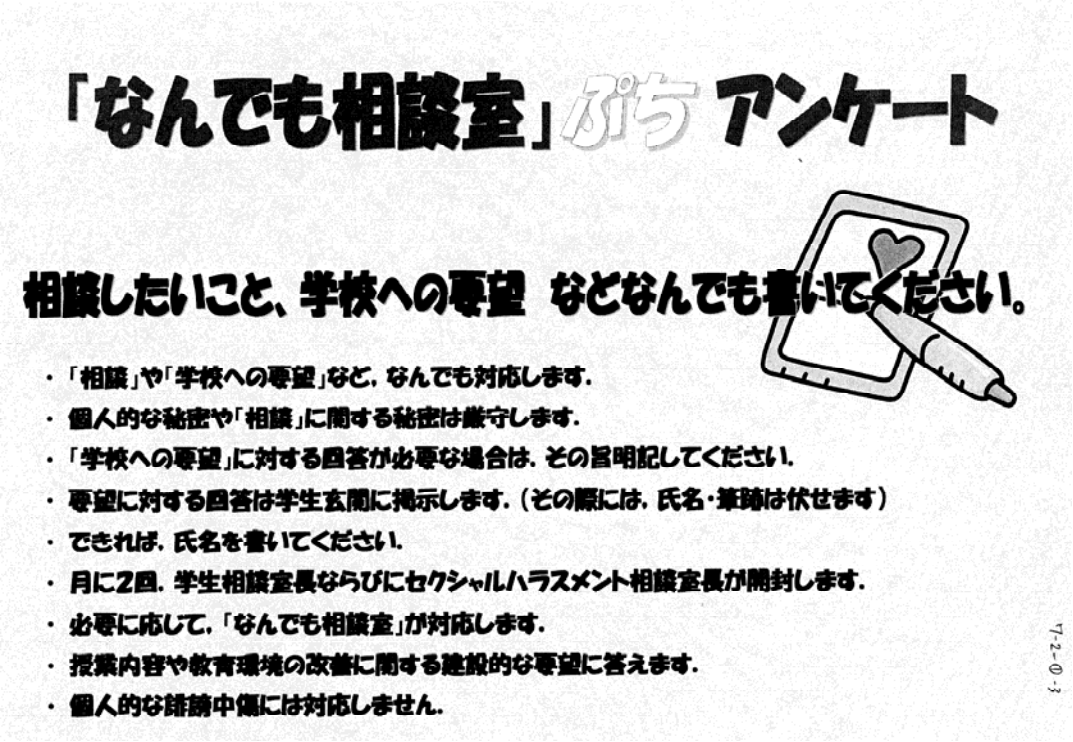
凌雲館２階　カウンセリングルーム

開設日

氏名	所属	主な担当	相談曜日時間
矢尾　匡永	機械学科 学生主事	学校への問題提起など何でも、進路（休・退学など）の相談 奨学金・就職など、厚生関係の相談	金曜日 16:00～18:00
木村　倫幸	一般教科 セクシュアルハラスメント相談室長	進路（休・退学など）の相談 ハラスメントに関する相談	月曜日 16:30～18:30
福嶌　克彦	一般教科 学生相談室長	メンタルヘルスケア関係の相談	火曜日 14:35～16:35
塚崎　悦子	学生相談室	臨床心理士 メンタルヘルスケア関係の相談	木曜日 (予約制)

（出典　なんでも相談室作成資料）

資料７－２－①－２１ 「なんでも相談室」ぷちアンケート



（出典　なんでも相談室作成資料）

資料７－２－①－２２　アンケート結果と掲示例

（出典　なんでも相談室作成資料）

資料7－2－①－23　各室長懇談会メモ

平成 16 年 12 月 17 日
運営委員会資料

第１回学生主事・学生相談室長・セクシャルハラスメント相談室長懇談会メモ

●今後，学生委員会を学生支援委員会に模様替えすることについて検討することに合意し，定期的（当面，学期毎）に開催し，意見交換・情報交換することとした．

●今後，学生相談室およびセクシャルハラスメント相談室が，カウンセラーの来られる木曜日以外の授業日の「なんでも相談室」開室について検討してゆく．開室の際には，学生委員会も協力する．
　また，将来の機械工学科改修に合わせて，保健室の近くに，相談室を移転するよう要望してゆくことになった．

●学生相談室室員は相談に応じるが，本格的カウンセリングは行わないことを確認した．

●低学年の様子を見ていると，今後学校が荒れるのではとの危惧がある．
　採るべき対策として考えられるのは以下の通り，
　１）放課後等の教員の巡回，声掛け
　２）オープンな空間でのオフィスアワー（高知工科大等の例がある）
　３）教職員全員のネームプレートの着用（不審者対策の意味もある）

●FD にメンタルヘルス関連のテーマも必要．FD を全教員に課すことも必要．そのために出欠公表の検討を提案する．

●学生相談室関連の研修出張について．現在，以下の研修出張が後援会の援助により，実施されている．
　１）近畿地区の研修会年２回　最大４名
　２）近畿地区の宿泊研修年１回　１名
　３）学生相談学会研修会　１名
　４）メンタルヘルス協議会　１名
　５）近畿地区高専学生相談室連絡協議会　２～３名
　　（次年度幹事校の場合には相談員全員出席）
このうち，１）については，担任，学生主事補等の出席も可能にして，教員研修の頻度を上げる必要がある．また，非常勤カウンセラーに高専の実情を認識していただくために，研修出張を認めるよう要望してゆくことになった．

以上

（出典　運営委員会資料（平成16年12月17日））

資料７－２－①－24　休･退学調査結果

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　教務委員会作成資料）

資料７－２－①－25　キャンパス

（出典　2005Spring キャンパス）

資料７－２－①－26　新芽

高専
新芽
新芽　第27号
奈良工業高等専門学校
同窓会
〒639-1080
大和郡山市矢田町22
TEL.0743（55）6000
FAX.0743（55）6019

開発・設計者は現場を知ろう

同窓会会長　小林　満男

日本の経済、産業が再生に向かって苦しんでいる中、同窓会会員の皆様は、各分野で元気にご活躍の事と思います。

私は第一期生ですが、卒業して35年が立ち、電気工学科の高橋先生が本年3月を持って退官されるに至り、月日の流れを感じている昨今であります。先生に対しては、長年に渡り我々をご指導いただき、この紙面を借り厚くお礼を申し上げます。

さて、時代は進み、それと共に技術も進化、発展してまいりました。今日では、コンピュータの処理速度向上やメモリ容量の増大により、シミュレーション技術やCADが発達し、多くの現象をコンピュータにより解析、予測出来ると共に設計が出来るようになりました。そして、技術者は、机の上でコンピュータを利用して、様々な商品の開発や設計を、現在行なっております。私は、電気業界の者であり、他の業界は良くわかりませんが同様であると思います。

昔であれば、回路を図面に書き、部品を集め、それを回路図に従って組み立て、動作を検証し製品を作り上げてきました。また、それらを製品として作り上げる過程でも現場へ出かけ、設計上の問題点や生産しにくい点を自ら見つけ解決してきました。

最近、設計者は、その設計する規模、内容が膨大な物となっており、設計スピードや効率も求められ、時間的余裕が無い状態にあると感じられます。現場に出かける事もなく、設計した製品がどの様な工程を経て造られているのかわからない状況で設計されている物を、時々、物造りを請け負っている現場にいると見受けられます。現場で物造りをしている中で、問題が発生し設計者に問い合わせると、その製品がどのような装置や工程を経て造られているか理解をしていない技術者が最近は多くなりました。

特に、電気業界の分野は、部品技術の進化スピードが速く、それにともなう生産工法も変化しており、それらを理解していない設計者を見受けます。例えば、電子機器の基幹であるプリント基板の実装技術は日進月歩の状態です。電子機器を動かす為には、プリント基板に部品を実装する必要があります。回路設計やその回路通り部品を配置、接続するパターンを設計するには、CADを利用すれば、簡単に基板は造れます。しかし実際に部品を実装する際の造り易さは、まだまだCADだけでは困難です。

同じ物を造る場合でも、その生産工程をよく理解しているか、理解していないかで生産工程の効率に大きく影響します。生産に時間がかかったり、不良品が出易かったりします。

また、その工程で使用される装置、機器類の性能を知

2003年度 奈良工業高等専門学校 同窓会総会のおしらせ

2003年度同窓会総会・特別講演会ならびにパーティを左記の通り開催いたしますので、何とぞ多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

開催日　平成15年11月2日（日）
会　場　奈良工業高等専門学校
総　会　時間：午前10時30分より
　　大会議室（本館北棟3F）
特別講演会
　時　間：総会終了後（午前11時を予定）
　会　場：大会議室（本館北棟3F）
　演　題：「マネージメント改革への取組み」
　講演者：秦　良昌 氏（76A）
　　（国土交通省関東地方整備局
　　営繕部官庁施設管理官）

講演終了後、選択教室5（本館北館3F）でパーティを行います（会費は無料です）。
パーティには料理・飲み物等を十分用意いたしております。また、先生方も参加されますので、是非楽しいひとときをお過ごし下さい。

※なお、当日は駐車場がございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。

（出典　第27号新芽（平成15年10月5日））

資料７－２－①－２７　入学料及び授業料の免除について

入学料及び授業料の免除等について

入学料及び授業料については，下記のとおり免除，徴収猶予の制度があります。
平成１８年度入学料及び前期分授業料免除等の申請をしようとする方は，キリトリ線以降の**「入学料及び授業料免除・猶予申請用紙請求書」(別冊)**を**３月９日(木)まで**に，本校学生課学生係に郵送(ファクシミリも可)するか，持参してください。折り返し申請用紙を送付します。なお，申請用紙が届かない場合は，学生課学生係へご連絡ください。

注意：入学料免除・入学料徴収猶予を申請する方は，入学料納入期間（H18.3.3～H18.3.23）に入学料を納入しないよう，くれぐれも注意して下さい。

記

１．入学料免除対象要件
入学料免除の対象者は次のいずれかに該当し，納付が著しく困難である人です。
(1) 入学前１年以内において，本校に入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という）が死亡した場合。
(2) 入学前１年以内において，本校に入学する者，もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合。
(3) 前各号に準ずる場合であって，校長が相当と認める事由がある場合。

２．入学料徴収猶予対象要件
入学料徴収猶予の対象者は次のいずれかに該当する人です。
(1) 入学する者が入学料を経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる場合。
(2) 入学前１年以内において，学資負担者が死亡し，又は，入学する者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け納付期限までに納付が困難であると認められる場合。
(3) その他やむを得ない事情があると認められる場合。

３．授業料免除，徴収猶予対象要件
授業料免除の対象者は次のいずれかに該当する人です。
(1) 経済的理由により，授業料の納付が困難であり，かつ学業優秀と認められる者。
(2) 前各号に準ずる場合であって，校長が相当と認める事由がある場合。

４．免除の額
納付すべき入学料又は授業料の全額もしくは半額。

５．その他
(1) 免除又は，徴収猶予の申請書を取り寄せた方で申請を辞退する場合は、３月１５日（水）までにご連絡願います。
(2) 審査の結果，免除若しくは徴収猶予を許可されなかった場合及び半額免除になった場合は，所定の期日までに入学料及び授業料を納付しなければなりません。
(3) 納付された入学料，授業料は返還できません。
後期分授業料免除申請は９月上旬に受付を行います。授業料を年（前・後期分一括）納付された場合は，後期分の授業料免除は受けられませんので，ご注意ください。
(4) 申請用紙請求期日以降入学手続日までに入学料及び授業料の納付が困難な状況が発生した場合は，学生課学生係までご相談ください。

（出典　入学前オリエンテーション資料）

資料7－2－①－28　授業料免除について

平成１７年７月　　日

学　生　諸　君

学　生　主　事

平成１７年度後期分授業料免除について

授業料免除を希望する学生は、学生課学生係から関係書類を受領し、９月６日（火）までに学生係へ提出すること。

なお、提出期限後に家庭事情の変化等で授業料納付が困難になった場合は学級担任に相談すること。

記

１．授業料免除の対象者

（１）　経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者

（２）　６ヶ月以内において、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という）が死亡した場合

（３）　６ヶ月以内において学生、若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

（４）　前号に準ずる場合であって、校長が適当と認める事由がある場合

２．免除の額

納付すべき授業料の全額又は半額

３．授業料免除の申請を受理された者については、免除の許可又は不許可が決定されるまでの間は授業料の徴収は猶予するが、免除を許可されなかった者及び半額免除になった者は、所定の期日までに授業料を納付しなければならない。

なお、授業料免除の面接を凌雲館（学生食堂）２階で以下の通り行うので申請者は必ず出席すること。以下の時間に出席できない者は事前に学生係まで申し出ること。無断欠席者は申請を受理しません。

１～２年生・専攻科生・・・９月１４日（水）　　１５：４５～１７：３０

３～５年生・・・・・・・・９月１５日（木）　　１５：４５～１７：３０

（出典　学生向配布資料）

資料7－2－①－29　入学料･授業料免除者数

資料１６

入学料免除者数

年　　度	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成12年度	8	0	0	8
13年度	4	0	0	4
14年度	9	1	0	8
15年度	10	3	0	7
16年度	15	4	0	11

資料１７

授業料免除者数

年　度	学　年	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成12年	1　年	28	20	2	6
	2　年	41	27	4	10
	3　年	18	15	2	1
	4　年	13	8	1	4
	5　年	24	14	6	4
	専攻科	17	8	5	4
	計	141	92	20	29
平成13年	1　年	20	15	2	3
	2　年	22	10	2	10
	3　年	36	21	10	5
	4　年	31	22	4	5
	5　年	14	8	5	1
	専攻科	11	4	4	3
	計	134	80	27	27
平成14年	1　年	41	32	5	4
	2　年	24	13	3	8
	3　年	21	17	0	4
	4　年	41	28	7	6
	5　年	25	21	3	1
	専攻科	5	3	0	2
	計	157	114	18	25
平成15年	1　年	46	27	11	8
	2　年	44	22	9	13
	3　年	22	20	0	2
	4　年	29	19	4	6
	5　年	39	24	6	9
	専攻科	5	3	0	2
	計	185	115	30	40
平成16年	1　年	33	25	1	7
	2　年	48	20	10	18
	3　年	37	23	6	8
	4　年	26	17	6	3
	5　年	30	17	7	6
	専攻科	14	12	2	0
	計	188	114	32	42

（出典　自己点検書（引用･裏付資料））

資料７－２－①－３０　奨学金の募集について掲示

学 生 諸 君

学 生 主 事

奨学生の募集について

このことについて、下記奨学生を募集しますので希望者は学生課学生係で申請書類を受け取り、締切日までに提出すること。今後学校に案内が来たものは、その都度掲示します。

平成17年4月　日現在

名　　称	金　　額		締切日	主な申し込み資格
日本学生支援機構（第一種）	￥21,000～¥47,000	月額(学年により違う)	5月2日	経済的理由により著しく修学が困難かつ学業成績優秀な者（1年生中心）
日本学生支援機構（第二種）	3万～10万	月額(希望により)	5月2日	（4・5年生）
朝鮮奨学会	¥10,000	月額(給付)	4月21日	在日韓国人・朝鮮人学生
大阪府育英会	￥155,800～¥211,600	年額（1～2年）	5月7日	大阪府民
	￥17,000～¥18,000	月額（3～5年）		
奈良県高等学校奨学金	￥18,000～￥30,000	月額	5月7日	奈良県民かつ地方公共団体、その他公共的団体から学資の貸与、又は給付を受けていない者
東大阪市	¥8,000	月額（1～3年）	5月13日	東大阪市に在住の者
	¥14,000	月額（4，5年）		
中西奨学会	¥13,000	月額(給付)	5月13日	第2学年
あしなが	¥25,000	月額	5月13日	病気遺児・災害遺児
関育英会	¥20,000	月額	6月10日	第2学年
交通遺児等奨学金	¥150,000	年額(給付)	6月17日	交通遺児
	¥400,000	年額(一部給付)		

は、4／7現在に来ているもの

（出典　学生委員会作成資料）

資料７－２－①－３１　日本支援機構奨学生推薦者数

※委員会終了後回収いたします。

平成17年度日本学生支援機構奨学金推薦順位（本科）

平成17年度日本学生支援機構奨学金推薦順位(本科)

クラス	氏　名	学業評点	収入評点	特殊事情	総合評点	推薦順位	
		17.2	39		56.2	1	
		17.94	34		51.94	2	
		14.6	35		49.6	3	
		16.2	31		47.2	4	
		14.32	26	3	43.32	5	
		17.89	25		42.89	6	
		17.5	22		39.5	7	
		14	21	3	38	8	
		15.12	21		36.12	9	
		16.2	10		26.2	10	
		16.67	6	3	25.67	11	
		18	0	3	21	12	↑推薦可
		13.16	37	4	54.16	成績不可	↓推薦不可

平成17年度日本学生支援機構第二種「有利子」奨学金推薦順位（本科）

クラス	氏　名	学業評点	収入評点	特殊事情	総合評点	推薦順位	
		17.8	24		41.8	1	→第二種のみ希望
		16.6	15	3	34.6	2	→第二種のみ希望　↑推薦可

（出典　学生委員会作成資料）

資料7－2－①－32　日本支援機構奨学金返還説明会

日本学生支援機構奨学金返還説明会（実施計画）

説明会詳細

日　時　平成１７年１２月１４日（水）１６:２０～１７：００
場　所　本館２階　ＬＲ教室
対　象　本科生第５学年・専攻科２年奨学生（計３５名）
出席者　学生主事補（土井教員）
司　会　学生係宮下
内　容　１６：２０　受付・資料配付
　　１６：３０　ビデオ上映（約２０分）
　　１６：５０　借用証書の提出について説明
　　１７：００　終了

・説明会欠席者が万が一いた場合は、呼び出しの上、図書館で個々にビデオ学習させ、学生主事（主事補）にカウンセリングを受けさせる。
・再視聴を希望する者に対しても、ビデオを貸し出す。

（参考）
学生係への借用証書提出期限
平成１８年１月１２日（木）

・ 不備があれば修正、場合によっては再度作成させる必要がある。
・ 連帯保証人の署名・捺印が必要なため時間がかかる。
・ 学年末試験（２／３～１０日）終了後は学生と連絡がとりにくい。

日本学生支援機構への提出期限
平成１８年３月１日（水）必着

（出典　学生委員会作成資料）

資料７－２－①－33　日本スポーツ振興センター災害共済給付制度案内

日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入について

奈良工業高等専門学校

ご入学おめでとうございます。

奈良工業高等専門学校では在学する学生の不慮の災害に備えて、独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下センターといいます。）と災害共済給付契約を結んでいます。

センターの災害共済給付は、学校の管理下において学生が災害に遭った場合、その治療費や見舞金の給付を保護者の皆様に対して行う制度で、加入に際しては、あらかじめ保護者の皆様の同意の下に、学生の名簿を提出することになっています。加入は任意となっていますが、本校では漏れなく加入に同意されることを希望します。

加入に同意くださる方は別冊の同意書にご記入の上、提出してください。

給付の内容等は、独立行政法人日本スポーツ振興センター法（以下センター法といいます。）またはこれに基づく法令（政令、省令、通達等）に定められています。改正があった場合は、改正後の規定によりますが、平成１７年４月１日現在、その主な内容は下記のとおりです。

記

１　給付の種類と給付される場合

学校の管理下で発生した事故による負傷、給食による中毒その他の疾病（ガス中毒、溺水、日射病、漆等による皮膚炎など法令の定めのあるもの）の**医療費**、これらの負傷または疾病が治った後に障害が残ったときの**障害見舞金**及び負傷又は疾病に直接起因する死亡に対する**死亡見舞金**が給付されます。

なお、学校管理下とは、次の場合をいいます。

①　授業中（特別活動中を含む。）
②　学校の教育計画に基づく課外指導中
③　休憩時間中及び学校の定めた特定時間中
④　通常の経路及び方法による通学（登下校）中
⑤　寄宿舎にあるとき

２　給付金額　〔災害共済給付の給付基準は、センター法施行令第５条によります。〕

①　医　療　費

医療保険並の療養に要する費用の 4/10（そのうち 1/10 の分は、療養に伴って要する費用として加算される分）が支給されます。

初診から治ゆまでの医療費総額（医療保険でいう 10 割分）が 5,000 円以上（したがって医療保険でいう被扶養者（家族）で、例えば病院に外来受診した場合、その３割分の 1,500 円以上を負担したもの）の場合が給付の対象となります。

ただし、高額療養費の対象となる場合は、自己負担額（所得区分により限度額が定められています。）に「療養に要する費用月額」の 1/10 を加算した額が給付されます。

②　障害見舞金　　障害の程度に応じて、3,770 万円（１級）から 82 万円（14 級）が給付されます。
（通学中の場合は、1,885 万円から 41 万円）

③　死亡見舞金　　2,800 万円が給付されます。
（運動などの行為と関連しない突然死及び通学中の場合は、1,400 万円）

３　給付基準

①　同一の災害の負傷又は疾病についての医療費の支給は、初診から最長７年間行われます。
②　災害共済給付を受ける権利は、その給付事由が生じた日から２年間行われないときは、時効によって消滅します。
③　損害賠償を受けたときや他の法令の規定による給付等を受けたときは、その受けた価額の限度において、給付を行わない場合があります。
④　高等学校の生徒及び高等専門学校の学生が、故意又は自己の重大な過失により、負傷し、疾病にかかり、又は死亡したときは、当該医療費、障害又は死亡に係る災害共済給付の一部若しくは全部を行わない場合があります。

４　共済掛金（年額）

保護者等負担額　1,520 円　　（国立高等専門学校機構負担額　平成 17 年度　360 円）

これは、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度の概要を記載したものです。

（出典　入学前オリエンテーション資料）

資料７－２－①－34　共済保険の案内

（出典　奈良高専生協作成資料）

観点７－２－②：　特別な支援が必要な者（例えば，留学生，障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には，生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

留学生は学生寮に全員入寮し（資料７－２－②－１），文化・慣習等の違いが配慮された環境が整備されている（資料７－２－②－２）。留学生には，寮務担当を含む教職員（資料７－２－②－３），チューター（資料７－２－②－４），担任や非常勤の日本語担当教員（資料７－２－②－５）等が連携をとりながら多面的に支援している。英語併記による情報発信や連絡が，学校概要やホームページ（資料７－２－②－６），寮務係（資料７－２－②－７）で実施されている。国際交流に関する情報は留学生に周知され，派遣協力等がなされている（資料７－２－②－８）。

障害のある学生へのバリアフリー化をはじめとした生活面への支援が，適切に行われている（資料７－２－②－９，１０，１１）。

（分析結果とその根拠理由）

留学生の生活面での支援は，学寮での施設・備品等の整備をはじめチューターや指導教員等を配し，多面的に支援している。障害のある学生には，学内施設のバリアフリー化等の支援を進めており，生活面での支援が適切に行われている。

資料７－２－②－１　留学生規程及び受入留学生一覧

○奈良工業高等専門学校留学生規程

（昭和62年１月29日制定）

（趣旨）

第１条　この規程は、奈良工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第35条の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）の取扱いに関する必要な事項を定めるものとする。

留学生受入状況一覧

学科	機械工学科				電気工学科				電子制御工学科				情報工学科				（物質）化学工学科				合計		
年度	国費		政府派遣		国費		政府派遣		国費		政府派遣		国費		政府派遣		国費		政府派遣		国費	政府派遣	計
59																						2	2
60	3年																				1	4	5
61	4年																3				1	4	5
62	5年				3												4				3	3	6
63					4												5				2	3	5
元					5																1	5	6
2																						4	4
3					3	3	3										3				3	2	5
4					4	4	4										4				4	1	5
5					5	5	5						3				5				5	1	6
6	3												4								2	1	3
7	4				3				3				5								4	2	6
8	5				4				4				3				3				5	2	7
9					5				5				4				4				4	3	7
10					3								5				5				3	3	6
11					4								3								2	4	6
12	3				5								4								3	4	7
13	4				3								5								3	3	6
14	5				4								3				3				4	1	5
15	3				5								4				4				4	0	4
16	4				3				3				5				5				5	1	6
17	5 3				4				4				3								5	4	9

（出典　2005年10月自己点検・評価報告書）

資料７－２－②－２　談話室内整備状況

補食設備：

パソコン・TV等：

浴室とシャワー室：

（出典　学生寮談話室（留学生用））

資料７－２－②－３　留学生委員会規程及び留学生指導部の設置に関する内規，構成員一覧

○奈良工業高等専門学校留学生委員会規程

（昭和62年１月29日制定）

（設置）

第１条　この規程は、奈良工業高等専門学校留学生規程第５条の規定により設置する留学生委員会（以下「委員会」という。）に関する必要な事項を定める。

○留学生指導部の設置に関する内規

（昭和62年１月29日制定）

（設置）

第１条　この内規は，奈良工業高等専門学校留学生委員会規程第７条の規定により設置する留学生指導部（以下「指導部」という。）に関する必要な事項を定める。

（組織）

第２条　指導部は，次の各号に掲げる者をもつて組織する。

(1)　教務主事

(2)　教務主事補，学生主事補及び寮務主事補の各１名

(3)　留学生在籍の学級担任

(4)　留学生指導教官

(5)　国語科，数学科及び英語科の代表教官各１名

留学生委員会	運営会議委員，委員長補佐（教務主事），（学生課長，学生課専門員）
留学生指導部	教務主事，教務主事補（金澤），学生主事補（山口賢），寮務主事補（　），学級担任（中西，中谷，宮本，西田，近藤，森，井村，中田），指導教員（岩井，井村，中田，西田，阪部，早川，多喜，梅原，河越），国語代表（勢田），数学代表（市原），英語代表（神澤），（学生課長，学生課専門員）

（出典　奈良高専規程集・臨時教職員会議資料（平成18年4月5日））

資料７－２－②－４　学生相談員の配置

○奈良工業高等専門学校留学生相談員制度実施要項

（昭和59年９月27日制定）

最近改正　平成10年12月17日

（目的）

第１　この要項は，外国人留学生（以下「留学生」という。）に対し，日本人学生による個別の指導を行い，学習の向上及び環境への適応に資することを目的とする。

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　奈良高専規程集・臨時教職員会議資料（平成１８年４月５日））

資料7－2－②－5　日本語担当教員の配置

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係作成資料）

資料７－２－②－６　学校概要・学校ホームページの英文による情報発信

昭和30年代におけるわが国産業界のめざましい発展に伴い、科学技術者の需要に即応するため、工業に関する技術者を養成することを目的として、昭和37年度から新たな学校制度として、高等専門学校が発足し、昭和39年4月1日、奈良工業高等専門学校が創立された。

高等専門学校は、中学校卒業程度を入学資格とする5年制の高等教育機関であり、深く専門の学芸を教授して、豊かな教養と職業に必要な能力を育成することを目的としている。

科学技術の高度化に伴い、高等専門学校卒業後、進学を希望する者のために、平成3年4月学校教育法の一部改正（平成3年7月施行）によって、高等専門学校に新しく高等専門学校教育のアイデンティティを保持しながら、精深な程度において、特別な事項を教授し、その研究を指導することを目的とする専攻科が設置できることになり、平成4年4月1日本校に学位授与機構が認定する2年制の専攻科が設置された。

国の施策により、平成16年4月1日から独立行政法人国立高等専門学校機構奈良工業高等専門学校となった。

The progress of Japanese post-war industry was so drastic that the demand for technological experts highly educated has been increasing. Now in Japan, we have three higher educational institutions; universities, junior colleges and colleges of technology. The colleges of technology, which were established in 1962, accept junior high school graduates so that they may enjoy more time to progress their professional research.

We educate those students for five years to be researching or designing engineers who will contribute to the development of industrial technologies.

In order to achieve our aims, we have our own unique academic programs which are made up by combining those both for senior high schools and universities. Besides our unique academic programs, we have a lot of educational facilities, such as the library, the student center, the computer center, technological workshops, and various facilities for after-school activities in sports, cultures and technology.

With scientific technologies becoming highly advanced, a part of the school education law was revised in April, 1991, and has been in force since July, 1991. Consequently, besides maintaining advanced points of the education system of colleges of technology, new two-year faculty of advanced engineering has been authorized by the National Institution for Academic Degrees. In April, 1992 ,the faculty of advanced engineering has been available to graduates who wish to supplement or update their knowledge and research skills to more precise and deeper extent in specialized areas.

Nara National College of Technology has been one of "The Institute of National Colleges of Technology, Japan" by national measures since April 1, 2004.

３．１　留学生の受入れ等

昭和 61 年度に２名の留学生が卒業して以来，平成 16 年度までに合計 37 名の留学生が本校を卒業している（下表参照）。留学生にとって国籍は異なっても仲間が多く，できれば同一学科に留学生が在籍しておれば，日本人学生のチューターとは異なる意味で，留学生の立場としての悩みや困難の解決に大いに役立つものと考えられる。

平成 17 年度には，新たに５名の留学生（ケニア：１名，モンゴル：１名，マレーシア：３名）を受け入れた関係で合計９名に増え，現在全ての専門学科に留学生が在籍する状況になっている。今後さらに受入れを推進する予定であり，本校のホームページには英文での学校概要紹介も掲載しているが，なお一層留学生受入れに関する情報の発信が必要と考えている。また，本校の受入れ方針と組織の見直しを含めた明文化を行うことにしている。

留学生の受入れとは別に，これまで国際協力機構（JICA）が計画実施している技術開発プロジェクトに参画し，本校はインドネシアとタイに長期・短期専門家を派遣するとともに，当該プロジェクトのカウンターパートを外国人受託研修員として受入れ技術研修を実施している。 平成 15 年からは JICA・トルコ工業教育支援プロジェクト（自動制御技術教育改善計画）から外国人受託研修員として毎年１名を電気工学科と電子制御工学科に受入れ，主にロボテックス・信号処理・ネットワーク等の研修を行っている。平成 17 年度は 10 月から２名の研修生を電子制御工学科に受入れる予定である。このように奈良高専では開発途上国の技術教育支援を積極的に進めている。

（出典　平成17年度学校概要・2005年10月自己点検・評価報告資料）

資料7－2－②－7　寮務係から留学生への連絡

平成１８年４月２１日

留学生のみなさんへ

寮務係

学校で事務処理のため必要としますので、みなさんの持っている健康保険証のコピーを事務室に提出してください。（なお、コピーは事務室で行いますので、健康保険証を持ってきてください。）

Because I need it for transacting business at school, please submit a copy of the health insurance card which all of you have to an office. (In addition, a copy please bring a health insurance card because I perform it in an office.)

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－②－８　国際交流に関する情報の連絡

留学生国際交流活動一覧

学校名　奈良工業高等専門学校

行事名	主催	期日	参加留学生者	備考
学習支援活動	大和郡山市教育委員会	平成16年10月～12月	6	別紙資料
外国人留学生スピーチ大会	奈良地域留学生交流推進会議	平成17年11月24日	9	
外国人留学生との交流会	大和郡山市ライオンズ倶楽部	平成17年12月18日	9	別紙資料
学習支援活動	大和郡山市立郡山西小学校	平成18年3月2日	5	別紙資料

平成16年度　大和郡山市内小学校　総合学習支援　留学生派遣一覧　　奈良工業高等専門学校

月	日	曜	スダルト	エディソン	タダオ	リット	ロベルト	アマド
10	5	火	池運小学校(スダルト) 13:50～14:35 5年生1クラス母国紹介・簡単な英語					
	12	火	池運小学校(スダルト) 13:50～14:35 5年生1クラス 簡単な英語等					
	13	水	郡山南小学校13:30～15:00 6名 6年生3クラス母国紹介 授業参観		郡山南小学校13:30～15:00 6名 6年生3クラス母国紹介 授業参観	郡山南小学校13:30～15:00 6名 6年生3クラス母国紹介 授業参観	郡山南小学校13:30～15:00 6名 6年生3クラス母国紹介 授業参観	郡山南小学校13:30～15:00 6名 6年生3クラス母国紹介 授業参観
	19	火	池運小学校(エディソン) 11:30～12:15 5年生1クラス 母国紹介・簡単な英語 昭和小学校13:40～14:25 (スダルト・エディソン・タダオ)2年生3クラス母国紹介 授業参観	昭和小学校13:40～14:25 (スダルト・エディソン・タダオ)2年生3クラス母国紹介 授業参観				
	26	火	池運小学校(エディソン) 11:30～12:15 5年生1クラス 簡単な英語等					

月	日	曜	スダルト	エディソン	タダオ	リット	ロベルト	アマド
11	4	木	郡山南小学校9:30～13:00 (スダルト・エディソン) 5年生3クラス母国紹介	郡山南小学校9:30～13:00 (スダルト・エディソン) 5年生3クラス母国紹介				
	8	月	池運小学校13:45～15:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	池運小学校13:45～15:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	池運小学校13:45～15:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	池運小学校13:45～15:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	池運小学校13:45～15:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	池運小学校13:45～15:30 6名 6年生1クラス母国紹介等
	9	火		池運小学校(エディソン) 11:30～12:15 5年生1クラス 簡単な英語				
	16	火	池運小学校(スダルト) 13:50～14:35 5年生1クラス 簡単な英語					
	24	水	郡山南小学校アメリカンフルプライト支援 11:30～15:40 (スダルト・エディソン)					
	25	木	池運小学校13:50～15:25 (スダルト・エディソン)5年生1クラス 簡単な英語・あそび					

月	日	曜	スダルト	エディソン	タダオ	リット	ロベルト	アマド
12	10	金	13:45～14:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	13:45～14:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	13:45～14:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	13:45～14:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	13:45～14:30 6名 6年生1クラス母国紹介等	13:45～14:30 6名 6年生1クラス母国紹介等

（出典　学生課教務係作成資料）

資料7－2－②－9　障害のある学生への支援

（５）障害を持つ学生への支援：平成１７年度の入学生に高機能自閉症（アスペルガー症候群）に該当する学生がいる。本校では平成１６年１月に文部科学省から出された「高機能自閉症等の児童生徒への教育支援体制のためのガイドライン」や平成１７年４月１日に施行された「発達障害者支援法」に基づき，当該学生が快適な学生生活を送れるように，学校として支援体制をとっている。

本年度の具体的な支援策としては，機構本部に加配教員（非常勤講師）およびカウンセラーの配置，研修会等の経費を要求した。本経費は，平成１７年度の特別教育研究経費として認められたので，教務主事，学級担任，カウンセラーを中心にした支援組織を立ち上げ，非常勤講師等による学習支援活動を後期から実施していく。

（2）A君に対して

①連絡メモ

A君が宿題、提出物、テスト範囲等をきちっと記録できていないことが分かったので、クラス委員長、クラス副委員長に頼み、毎日の授業の連絡を「連絡メモ」という形式で提出させている。それを基に、保護者へ連絡をして、記録しているかどうかを確認してもらっている。(4/26 から現在まで)

②注意事項が書かれた紙片を机上に貼り付ける。

保護者の提案で、A君は決められたことを守ろうとするので決まり事を紙片に書いて貼り付けることにした。(5/30 から現在まで)

(5/30～9/13)

・先生の話を聞く。
・板書する。
・静かにする。
・不必要なものは出さない。

(9/14 から)

・先生の話を聞く。
・授業の教科書を出し、開く。
・板書する。
・授業に集中する。
・静かにする。
・授業中の発言は３回まで。

もしも紙片に書かれたことが守られていないときはそばまで行って紙片を指差すか、机をトントンとたたいて注意を促す。

③発言回数を３回までとする。

授業中、A君の発言が続き、教科担当教員とA君のマンツーマンのような形式の授業になることが度々あったために、他の学生から不満や苦情が噴出した。（５月末から６月初め）保護者の提案を基に、クラス委員長、クラス副委員長と相談をして回数を決定した。試行の後、教科担当教員にお願いした。(6/14 から現在まで)

（3）保護者に対して

A君に関する学校での出来事はできるだけ連絡するようにしている。A君の言動に対する対応について保護者から積極的にアドバイスをお願いしている。お互いのメールアドレスを交換して、４月当初からほとんど毎日連絡を取り合っている。

（4）クラスの他の学生に対して

クラスの学生にはA君について２度説明している。問題が生じたときに、徐々に説明していくようにしている。

①校内オリエンテーションの特活時に、A君のことについて簡単に説明をした。(4/11)
・障害がある。
・注意力が散漫になるので、ボーとしているときには声をかけてほしい。
・コミュニケーションに難点があるので、理解できないときはゆっくり丁寧に話してあげてほしい。

②学生から不満や苦情が出ていることが分かったので、発言回数を決めた時に、再度学生に説明をした。(6/16)
・中学校での授業の様子について。
・発言の多さは授業を妨害しようとしているのではない。悪気がなく、純粋な心を持っている。
・発言回数を一回の授業で３回までとする。
・できるだけ話しかけ、注意すべきことは注意してほしい。
・いじめや差別につながらないようにしてほしい。

（出典　2005年10月自己点検・評価報告書・FD資料）

資料7－2－②－10　障害のある学生への支援

Ｖ　特別措置に伴う施設、設備の整備

１．合同教室の改修

前記の特別措置のため以下の理由により、合同教室を改修し５Ｍクラスルームとしたい。

（１）現在の５Ｍクラスルームは３階であり移動が困難であること。

（２）選択科目は最大５０人程度のクラスとなる可能性があり、これを収容できる教室であること。

（３）特別措置のパソコン、プリンタ、製図板、車イス用机、授業用のビデオ装置、ＯＨＰ用スクリーンの設置が必要であること。

（４）身障者用トイレ、駐車スペース、実験室、保健室の近くの教室である必要があること。

２．実験室等スロープの設置

別紙のとおり

３．図書館へのエレベータ設置

４．保健室設備の充実

別紙のとおり

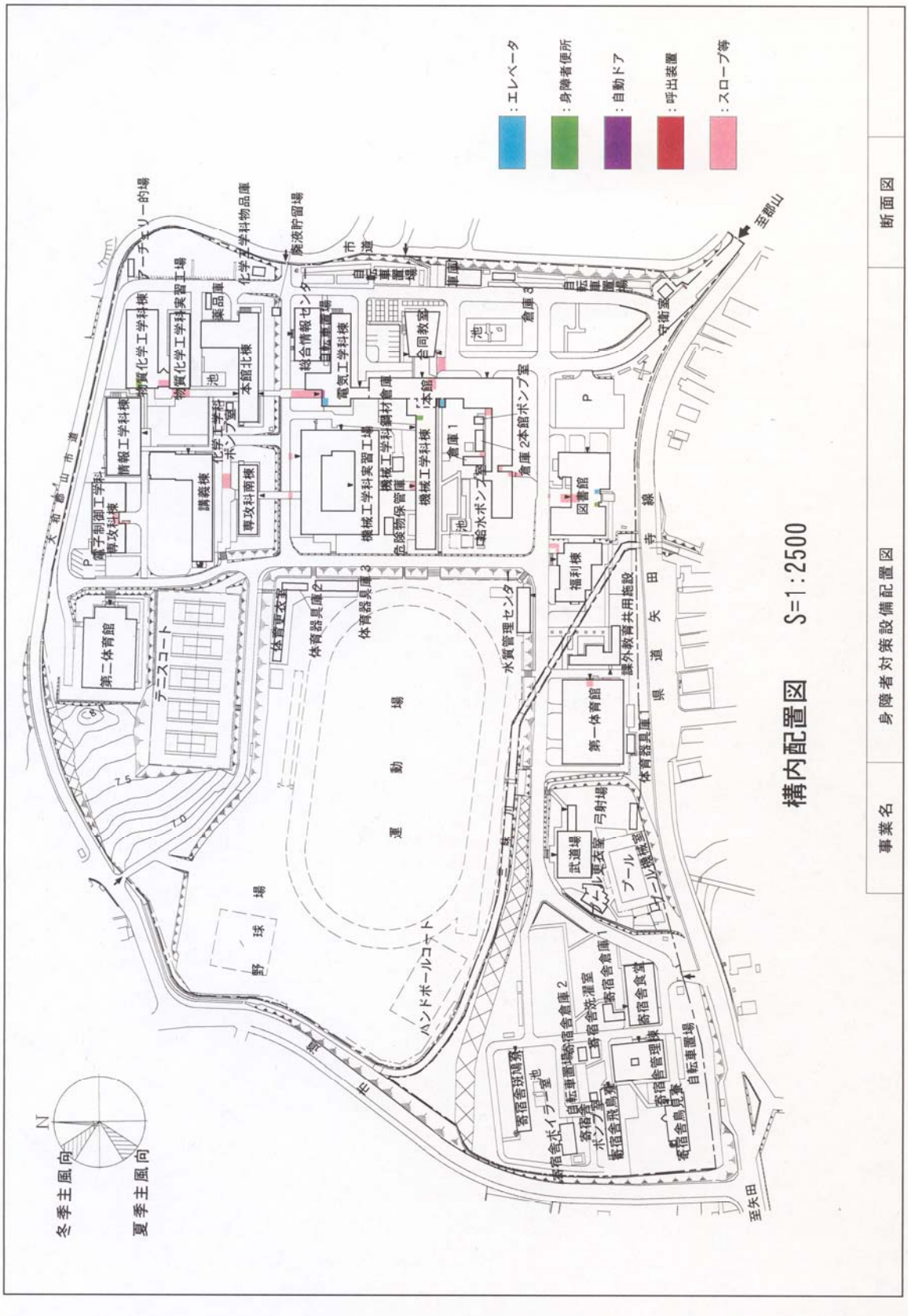
５．特別貸出物品

パソコン装置　　一式（ソフトウェアを含む）

製図板

（出典　障害学生修学支援プロジェクト作成資料）

資料７－２－②－１１　身障者対策設備配置図



（出典　会計課施設係作成資料）

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

学寮（男子のみ）は（資料７－２－③－１，２），定員１４１名に対し在寮生は，平成１８年４月１日現在１２１名である（資料７－２－③－３）。過去５年間の平均充足率は，約８５％である（資料７－２－③－４）。プライバシー保護の観点から，１年生の一部を除き，原則，個室である（資料７－２－③－５）。空調等を完備した談話室（資料７－２－③－６）や６台のパソコン端末を設置した平屋棟集会室等があり（資料７－２－③－７），寮生の自主的学習を支援している。

寮生会（資料７－２－③－８）から選出された学寮委員会（資料７－２－③－９）が，寮生活のしおり（資料７－２－③－１０）等に従い，学寮生活の向上と充実を図っている。学寮委員会は毎月1回開催され，学寮の改善に向けた協議をしている（資料７－２－③－１１）。２０時から２２時までを学習時間に充てる等，日課表等に従い，寮生は，自主的に規則正しい生活を過ごしている（資料７－２－③－１２，１３，１４）。なお，定期試験前１週間及び試験期間中等は，学習を支援すべく消灯時間延長等を，適宜，実施している（資料７－２－③－１５）。

寮務委員会を中心に（資料７－２－③－１６），寮務係関係職員等による人的支援体制を敷いている（資料７－２－③－１７）。宿日直教員は（資料７－２－③－１８，１９），宿日直日誌や検食報告書（資料７－２－③－２０）への記載をはじめ，点呼確認のための巡視方法に基づき（資料７－２－③－２１），各棟各階の談話室を寮長あるいは副寮長とともに回り，リーダーから点呼報告書を受け取り（資料７－２－③－２２），チェックリストにより不在者を確認している（資料７－２－③－２３）。点呼厳正化のため，不在であった寮生には，点呼不在票を居室に掲示し，帰寮報告書の提出を義務付けている（資料７－２－③－２４）。寮生の欠席等の情報は，寮務係を経由し，担任等へ報告されている（資料７－２－③－２５）。寮生の安全確保のため，事故・災害等の緊急時対応をマニュアル化している（資料７－２－③－２６）。学寮の改善を図るべく寮務委員会等の活動を年度毎に総括している（資料７－２－③－２７）。

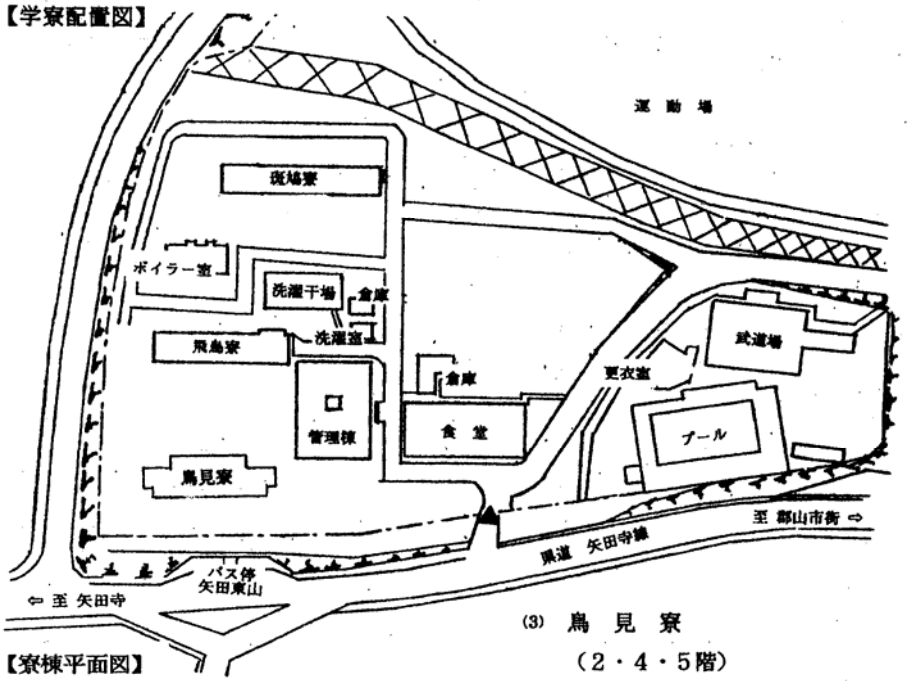
保護者を含む関係者への情報発信手段として，本校ホームページ（資料７－２－③－２８）や各種広報誌を発行している（資料７－２－③－２９，３０）。

（分析結果とその根拠理由）

学寮が規則正しい生活や自主的学習の場として機能するよう適切な施設・人的支援体制が整っており，有効に機能している。寮務委員会による学寮委員会への指導の連携体制が構築されており，両者の定期的な会合により学寮全般にわたる改善が実施されている。

資料７－２－③－１　学寮配置図

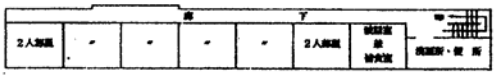
３．【学寮配置図】



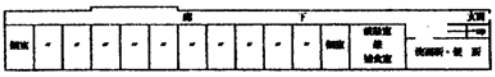
４．【寮棟平面図】

(1) 斑　鳩　寮

（２・３階）

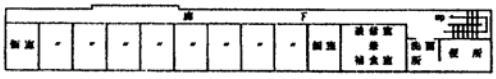


（１　階）

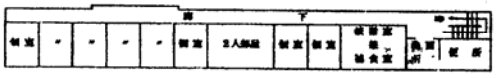


(2) 飛　鳥　寮

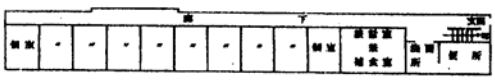
（３・４階）



（２　階）

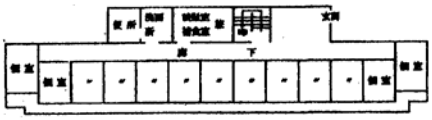


（１　階）

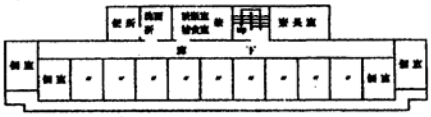


(3) 鳥　見　寮

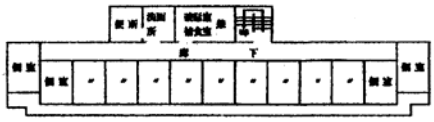
（２・４・５階）



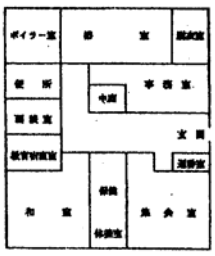
（３　階）



（１　階）



(4) 管　理　棟



（出典　入学前オリエンテーション資料）

資料７－２－③－２　学寮規則

○奈良工業高等専門学校学寮規則

（昭和39年４月１日制定）

最近改正　平成９年４月１日

（趣旨）

第１条　奈良工業高等専門学校学則第62条第２項の規定に基づき，学寮の運営その他必要な事項を定める。

（目的）

第２条　学寮は，学生の修学に便宜を供与し，かつ，その人間形成を助長して教育目的の達成に資することを目的とする。

（学寮生活の基本）

第３条　学寮に入寮する学生（以下寮生という。）は，この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規定を守り，相互に敬愛啓発して自己及び共同の生活の向上充実に努めなければならない。

（所管）

第４条　学寮の管理運営に関する事項は，校長の命を受けて，寮務主事が処理する。

（寮務委員会）

第５条　学寮の管理運営に関する事項を審議するため，寮務委員会を置く。

２　寮務委員会の組織及び運営に必要な事項は，別に定める。

（入寮及び退寮）

第６条　自宅からの通学が困難な者は，選考のうえ学寮に入寮させることができる。ただし，特別な事情のある場合には，自宅からの通学が可能な者を入寮させることができる。

２　入寮の時期は，学年の始めを原則とする。

３　入寮を希望する者は，寮務主事を経て校長に願い出て，その許可を受けなければならない。退寮しようとするときも同様である。

４　疾病その他の事由により共同生活に適さないと認めた者は，入寮を許可しない。

D〔奈良工専七〕二〇〇一

（出典　奈良高専規程集）

資料7－2－③－3　在寮生数推移調べ

寮生数推移調べ（平成12年度～平成17年度前期）

年度	学年	4月	10月	年度	学年	4月	10月	年度	学年	4月	10月
平成12年度	1年	29	25	平成14年度	1年	21	17	平成16年度	1年	22	19
	2年	20	20		2年	21	21		2年	24	23
	3年	22 (2)	23 (2)		3年	25 (2)	24 (2)		3年	19 (3)	18 (3)
	4年	25 (3)	25 (3)		4年	22 (1)	22 (1)		4年	28 (1)	27 (1)
	5年	22 (2)	22 (2)		5年	23 (2)	23 (2)		5年	25 (2)	25 (2)
	留学生	(7)	(7)		留学生	(5)	(5)		留学生	(6)	(6)
	専攻科	11	10		専攻科	4	4		専攻科	6	6
	計	129 (7)	125 (7)		計	116 (5)	111 (5)		計	124 (6)	118 (6)
平成13年度	1年	22	21	平成15年度	1年	25	25	平成17年度	1年	22	
	2年	25	25		2年	17	17		2年	19	
	3年	20 (1)	20 (1)		3年	22 (1)	22 (1)		3年	26 (5)	
	4年	25 (2)	24 (2)		4年	25 (2)	25 (2)		4年	22 (3)	
	5年	23 (3)	23 (3)		5年	22 (1)	22 (1)		5年	27 (1)	
	留学生	(6)	(6)		留学生	(4)	(4)		留学生	(9)	
	専攻科	6	4		専攻科	10	10		専攻科	2	
	計	121 (6)	117 (6)		計	121 (4)	121 (4)		計	118 (9)	

（ ）は留学生で内数

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料7－2－③－4　定員充足率

寮生数推移調（平成12年度～平成17年度）

年度	学年	4月	10月	定員充足率（前期）	定員充足率（後期）
平成12年度	1年	29	25	91.49%	88.65%
	2年	20	20		
	3年	22 (2)	23 (2)		
	4年	25 (3)	25 (3)		
	5年	22 (2)	22 (2)		
	専攻科	11	10		
	計	129 (7)	125 (7)		
平成13年度	1年	22	21	85.82%	82.98%
	2年	25	25		
	3年	20 (1)	20 (1)		
	4年	25 (2)	24 (2)		
	5年	23 (3)	23 (3)		
	専攻科	6	4		
	計	121 (6)	117 (6)		
平成14年度	1年	21	17	82.27%	78.72%
	2年	21	21		
	3年	25 (2)	24 (2)		
	4年	22 (1)	22 (1)		
	5年	23 (2)	23 (2)		
	専攻科	4	4		
	計	116 (5)	111 (5)		
平成15年度	1年	25	25	85.82%	85.82%
	2年	17	17		
	3年	22 (1)	22 (1)		
	4年	25 (2)	25 (2)		
	5年	22 (1)	22 (1)		
	専攻科	10	10		
	計	121 (4)	121 (4)		
平成16年度	1年	22	19	87.94%	83.69%
	2年	24	23		
	3年	19 (3)	18 (3)		
	4年	28 (1)	27 (1)		
	5年	25 (2)	25 (2)		
	専攻科	6	6		
	計	124 (6)	118 (6)		
平成17年度	1年	22	22	83.69%	82.98%
	2年	19	19		
	3年	26 (5)	26 (5)		
	4年	22 (3)	22 (3)		
	5年	27 (1)	26 (1)		
	専攻科	2	2		
	計	118 (9)	117 (9)		

（ ）は留学生で内数

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－５　学寮の個室化

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－６　学寮内談話室

談話室の使用について

談話室は，各階に一部屋設けられているその階の寮生の共有スペースです．

- 談話室の使用時間は，２５：００までです．
- 最後に談話室を出る人は，エアコンを切ること．
- １，２年生のゲームは禁止です．
- １，２年生の消灯後のやむを得ない勉学においては，リーダーの許可がある場合に限り，使用が可能です．

談話室にて，炊飯及び油の使用（留学生は除く）などの不適切な使用が発覚したときは，その階の談話室は１週間の使用停止となります．

（出典　学生寮談話室・寮生活のしおり（平成１８年度３月改訂））

資料7－2－③－7　集会室内のパソコン端末

学寮パソコン利用規則（抜粋）

パソコン委員会が別途以下のように定めている.

下記のような行為が発覚もしくは本委員会が不当であると判断した場合は，アカウントを剥奪し，寮務委員会および学寮委員会で話合い相応の罰則を課す．また，一度アカウントを剥奪されたものに対しては二度とアカウントを発行しません.

集会室利用にあたって

・利用時間は集会室の開いている午前７時から 23 時 30 分までの間とする。
・利用終了時は電源を切らずにログアウトする。
・周囲の迷惑にならないよう静かに利用する。
・同時に２台以上のパソコンを利用しない。
・アカウントを他人に貸与しない。
・原則として利用は１人１時間までとし、他に利用者がいない場合、またはレポート作成時は延長を認める。
・動作に異常が発生した場合、速やかにパソコン委員に報告する。
・無断でソフトをインストールしない。
・各マシンのシステム全体の設定を変更しない（ただし、個人設定は除く）。

ネットワーク利用に当たって

・ネチケットを侵す行為はしてはならない。

その他

・利用者側から苦情が出た場合はパソコン委員にメール等で通知する。
・データ消失等の個人被害について本委員会は一切責任を持たない。
・プリンタを使用する場合は各自で印刷用紙を用意する。
・飛鳥寮１回談話室のパソコンは留学生専用とする。

（出典　学生寮平屋棟・寮生活のしおり（平成18年度3月改訂））

資料7－2－③－8　寮生会

会則:

寮生会会則

第１章　総　　則

第１条　本会は，奈良工業高等専門学校寮生会(以下「本会」という．)と称する．

第２条　本会は，奈良工業高等専門学校の教育方針にのっとり，寮生の共同生活を自律的に運営しその活動を円滑に行うことを目的とする．

第３条　本会は，奈良工業高等専門学校の全寮生をもって組織する．

第２章　機　　関

第４条　本会は，第２条の目的を達成するため次の機関を置く．

(1)寮生総会

(2)代表委員会

(3)執行委員会

(4)階(フロア)会

第３章　役　　員

第５条　本会は，次の役員をおく．

(1)会長(寮長)	１名
(2)副会長(副寮長)	２名
(3)代表委員(指導寮生)	12名程度
(4)執行委員	７名
(5)会計	２名
(6)書記	２名
(7)会計監査	２名

第６条　役員の任務は，次のとおりとする．

(1)会長は，本会を代表し，会務を行うとともに議決執行の最高の責任を持ち，執行委員長を兼ねる．またいずれの会合にも出席発言できる．

(2)副会長は，会務を補佐し，会長の支障のあるときはその任務を代行し，副執行委員長を兼ねる．

(3)代表委員は，各階を代表し，その総意を寮生会に反映するものとする．

(4)執行委員は，寮生会の諸活動について企画立案し，これを寮生総会又は代表委員会に提出し，議決された事項を執行する．

(5)会計は，寮生会の会計を所掌する．

(6)書記は，すべての会議に出席し，記録する．

(7)会計監査は，寮生会の会計の状況を監査する．他の役員を兼務することができない．

第７条　寮生会の役員の選出方法は，次のとおりとする．

(1)会長(寮長)及び副会長(副寮長)は，全寮生の投票によって選出される．この場合の選挙は各棟各階より１名ずつ選出して構成される選挙管理委員会によって管理されなければならない．

(2)代表委員(指導寮生)は，各階ごとに互選される．

(3)執行委員，会計，書記及び会計監査は，会長が選考して代表委員会の承認を得なければならない．

第８条　役員の任期は次のとおりとする．ただし，再任を妨げない．

(1)会長(寮長)，副会長(副寮長)，会計，書記及び会計監査の任期は10月１日から翌年９月30日までの１か年とする．

(2)代表委員(指導寮生)及び執行委員の任期は４月１日から翌年３月31日までの１か年とする．ただし，最高学年の委員の任期の終期は２月28日までとする．

第４章　寮生総会

第９条　寮生総会は，本会の最高議決機関であり，４月，10月に１回ずつ開く．ただし，会員の３分の１又は代表委員会の要求のある場合には議長が臨時にこれを招集することがある．

第10条　寮生総会は，次の事項について審議する．

(1)会則の変更

(2)予算，決算の承認

(3)正副会長の不信任の決定

(4)その他の重要事項

第11条　寮生総会の招集及び議題の告示は，５日前に行わなければならない．ただし，緊急を要する場合の日限についてはこの限

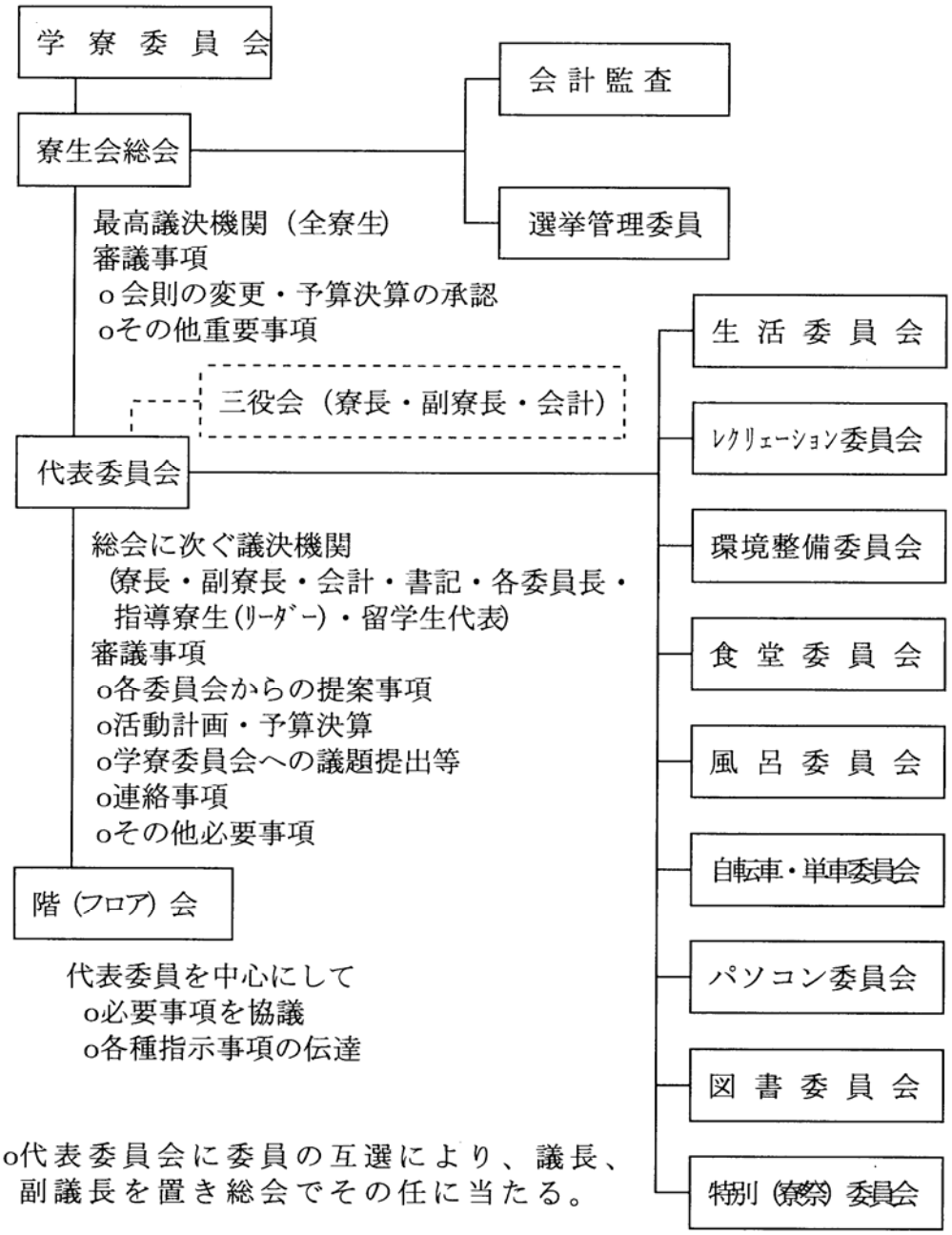
（出典　寮生活のしおり(平成18年度3月改訂)）

資料7－2－③－8　寮生会

組織:

資料２４

寮　生　会　の　組　織



－ 170 －

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料７－２－③－８　寮生会

役員名簿:

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－９　学寮委員会規程

学寮委員会規程　　1/1 ページ

奈良工業高等専門学校学寮委員会規程

（昭和４４年１１月２７日制定）

（設置）
第１条 学寮生活の向上と充実を図るため，奈良工業高等専門学校に学寮委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（協議事項）
第２条 委員会は，次の各号に掲げる事項を協議する。
（１）　学寮の施設及び設備の改善に関すること。
（２）　その他委員会が必要と認めた事項に関すること。
（組織）
第３条 委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　寮務委員会委員
（２）　学寮に入寮している学生のうち，寮生会が選出し，校長が任命した者　７名
（委員の任期）
第４条 前条第２号に掲げる委員の任期は，毎年１０月１日から翌年９月３０日までとする。ただし，再任を妨げない。
２　補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員会の開催）
第５条 委員会は，毎月１回開催することを原則とする。ただし，委員の３分の１以上の要求があるときは臨時に開くことができる。
（委員長）
第６条 委員会に委員長を置き，寮務主事をもって充てる。
（議長）
第７条 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
（議決）
第８条 委員会の議決は，委員の合意をもって成立する。
２　委員会において議決された事項は，寮務委員会を経て，教職員会議の了承を得なければならない。
（委員以外の者の出席）
第９条 委員会が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。
（事務）
第１０条 委員会に関する事務は，学生課で行う。

附　則
この規程は，昭和４４年１１月２７日から施行する。
附　則（昭和４５年４月１日）
この規程は，昭和４５年４月１日から施行する。
附　則（昭和５７年４月１日）
この規程は，昭和５７年４月１日から施行する。
附　則（昭和６２年４月１日）
この規程は，昭和６２年４月１日から施行する。
附　則（平成９年４月１日）
この規程は，平成９年４月１日から施行する。
附　則（平成１４年４月１日）
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。
附　則（平成１７年４月１日）
この規程は，平成１７年４月１日から施行する。

file://C:¥Documents and Settings¥坂本雅彦¥デスクトップ¥学寮委員会規程.htm　　2006/05/27

（出典　奈良高専規程集）

資料7－2－③－10　寮生活のしおり

寮生活のしおり～保存版～

奈良工業高等専門学校　寮務委員会

（平成１５年７月改訂）

〒 639-1058
大和郡山市矢田町 22・奈良高専学生寮
TEL 0743-55-6000(代)　内線 3259・6035
0743-55-6035(寮務係直通)

目　次

指導指針 1
生活指針 1
生活目標 1
寮の配置 1
日課表 2
年中行事 2
日常の寮生活について 2
あいさつについて 4
居室点検 4
居室における家具配置 6
談話室の使用について 7
学寮パソコン利用規則（抜粋） 7
届け出が必要な事項 8
口頭で連絡する必要がある事項 9
外泊・外出について 9
電気製品・楽器の持ち込み 9
自転車・二輪車の持ち込みおよび自動車の一時持ち込み 9
学寮における処分 11
禁止している事項 11
閉寮 11
リーダー（旧指導寮生）の役割 11
緊急時の連絡 12
防災の手引き 13
電話 16
タクシー 16
病院 17
その他 17
学寮における経費負担区分 17
各種届出の様式 18
学寮規則 28
学寮細則 29
学寮委員会規程 30
寮生会会則 31

（出典　寮生活のしおり～保存版～（平成15年7月改訂））

資料7－2－③－11　委員会議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　寮務委員会議事要録（平成18年4月6日）・学寮委員会議事要録（平成18年4月18日））

資料7－2－③－12　学習時間と日課表

4．学習時間について

- 20時から22時までの間は，原則として学習時間とする．
- 共同生活であることを自覚し，騒音や大きな音量で音楽等を聞かないこと．
- 20 時までは学校の図書館が利用できるので，積極的に利用すること．（土曜日は 16 時 30分までとなっている．）

学　寮　の　日　課　表

寮生は、基本的に以下の日課表に従って自主的に規則正しい生活をしなければならない。

時　　間	内　　容
7:00	起床
7:00 ～ 7:25	清掃
7:50	朝食を知らせる放送
7:50 ～ 8:30	朝食時間
8:30	登校を促す放送
8:30 ～ 8:35	食堂の片づけ
9:00	寮棟の施錠
12:15 ～ 13:00	昼食時間
17:00 ～ 19:00	夕食時間
19:00 ～ 21:30	入浴時間
20:00 ～ 22:00	学習時間
22:00	門限、寮長・副寮長への点呼報告、宿直教員による巡視
23:30	１，２年生の消灯時間
翌　1:00	全寮棟の消灯時間

（出典　寮生活のしおり（平成 18 年3月改訂））

資料７－２－③－１３　寮生による寮内衛生･環境管理について

寮生による寮内衛生・環境管理について（報告）

平成１８年４月２１日
寮　　務　　係

寮生による、寮内衛生・環境管理については、指導指針「寮生活における自己管理の徹底」に基づき、学生が自主的にルールを策定して、実施している。

１．寮内清掃・ゴミ当番

掃除については、各棟（斑鳩寮、鳥見寮、飛鳥寮）の階毎に任命されたリーダーが、それぞれの階の清掃・ゴミ当番を決めて行っている。（１週間担当し「週番」と呼んでいる。）掃除をする箇所は①廊下②談話室の２カ所である。ガスの元栓についても週番がチェックする。なお、過去においては、新入寮生（１年生・編入生）に各棟の掃除を役割付けて行っていたこともあり、寮生の構成によって、その都度ルールを策定している。

２．自転車の管理

寮生で構成される寮生会の執行委員で、環境整備委員が毎年度当初～５月上旬にかけて、自転車を使用する寮生に対して「自転車学寮持込届」を提出させて台数管理を行っている。（事務手続は寮務係で行う）届出に対してシールを貼付して判別している。

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料7－2－③－14　学寮の年間行事

学寮の年間行事　（H１６年度）

月	諸　行　事
４　月	開寮，入寮式，新入寮生歓迎会，避難訓練，指導寮生の任命
５　月	連休による閉・開寮，寮生会集会，春季スポーツ大会（夕食会），
６　月	草刈り，１年生との懇談会，他高専の訪問
７　月	１年生保護者との懇談会，寮祭（矢田祭），大掃除，夏季休業による閉寮
９　月	夏季休業後の開寮，寮生会役員（寮長，副寮長）の改選，１，２年生居室の部屋替え
１０　月	防火・避難訓練，寮生会総会
１１　月	秋季スポーツ大会（夕食会）
１２　月	落ち葉拾い，留学生と語る会，大掃除，寮通信の発行，冬季休業による閉寮
１　月	冬季休業後の開寮
２　月	５年テーブルマナー講習会，送別会
３　月	大掃除，全学年居室の部屋替え，学年末・春季休業による閉寮，寮通信の発行

（出典　2005年10月自己点検･評価報告書）

資料７－２－③－１５　消灯時間延長

定期試験１週間前と試験期間中:

別表

起　床	7：00
清　掃	7：00～7：25
朝　食	7：50～8：30
登　校	8：40
昼　食	12：15～13：00
夕　食	17：00～19：00
入　浴	19：00～21：30
門　限	22：00
点呼報告	22：00 寮長又は副寮長が宿直教官に報告する。
消　灯	１年生　23：30
	２年生以上　翌１：00

備考

◎　消灯時刻は，定期試験の１週間前から試験最終日までは自由とする。

◎　冬季は一部変更することがある。

D〔奈良工専七〕　二〇五七

2057

（出典　奈良高専規程集）

資料７－２－③－１５　消灯時間延長

進路に係わる勉強:

平成１４年５月９日

宿直教官　各位

寮　務　主　事

飛鳥寮の自主消灯について

５年生から進学・就職の勉強のため，飛鳥寮の消灯時間を延長してほしいとの要望があり，寮務委員会で審議の結果，次の条件のもとに，自主消灯として試行することを許可しました。

「期間」
５月９日から７月１９日（閉寮日）までの間

「内容」
飛鳥寮（５年生・専攻科生・留学生）居室照明の消灯（タイマーにより午前１：００に消灯）を寮生の自主消灯とする。

「条件」
１）５年生の遅刻・欠課の増加の歯止めとして，朝食・登校を誘い合う。
２）留学生・専攻科生に対しても，指導寮生が責任を持って対応する。
３）最後に就寝する者が点検簿により，徘徊者・消灯忘れのチェックをする。
４）チェックを怠った時点で許可を取り消す。

（出典　寮務委員会作成資料）

資料７－２－③－１６　寮務委員会規程

○奈良工業高等専門学校寮務委員会規程

（昭和50年４月１日制定）

最近改正　平成９年４月１日

（趣旨）

第１条　奈良工業高等専門学校学寮規則第５条の規定による寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項は，この規則の定めるところによる。

（審議事項）

第２条　委員会は，校長の命により，学寮の管理運営並びに寮生の厚生補導に関する事項を審議する。

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

⑴　寮務主事

⑵　寮務主事補

⑶　専任教官のうち，校長が任命した者

（委員の任期）

第４条　委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。

２　補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き，寮務主事をもつて充てる。

（議長）

第６条　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。

（幹事）

第８条　委員会の事務を処理するため幹事を置き，学生課長をもつて充てる。

附　則

この規程は，昭和50年４月１日から施行する。

附　則（昭和57年４月１日）

この規程は，昭和57年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

この規則は，平成９年４月１日から施行する。

（出典　奈良高専規程集）

資料７－２－③－１７　人的支援体制

From: <miyoshi@jimu.nara-k.ac.jp>

To: "wada" <wada@mech.nara-k.ac.jp>

Sent: Tuesday, May 02, 2006 10:03 AM

Subject: 認証評価の件

おはようございます。寮の身吉でございます。お問い合わせのありましたことにつきまして，以下のとおり報告しますので，よろしくお願い申し上げます。

臨時用務員　　１名（学寮の環境整備が職務）

（勤務時間）

通常（月～金）　　８：３０～１５：００

閉寮期間　　８：３０～１５：００

（職務内容）

①寮周辺の整備

②寮の環境整備

③寮生会行事等の補助

④市のゴミ収集の対応

寮母　１名（学寮における母親として寮生に対する指導助言や「心のケ ア」，学寮の環境整備が職務）

（勤務時間）

通常（月～金）１５：００～２１：３０

閉寮期間　　９：３０～１６：００

（職務内容）

①寮生の健康管理及び保健衛生に関する指導・助言

②寮生に対する生活指導・助言

③寮周辺の整備

④郵便物・宅配便等の収受，鍵・電話・来訪者の対応

寮父　１名（ただし，雇用は２名で交代して勤務している。管理者が無人となる土・日・祝日における職務）

（勤務時間）

土曜・日曜・祝日（閉寮期間を除く）　８：００～１８：００

（職務内容）

①宿直教員との引継及び寮内巡視

②電話・来訪者の対応，郵便物・宅配便等の収受

③風呂ボイラーの管理他，学寮の管理

④その他緊急時の対応

もし他に不明な点がありましたら遠慮なくお申し付け下さい。

（出典　学生課寮務係からのメール）

資料７－２－③－１８　学寮指導要領要綱

○奈良工業高等専門学校学寮指導要領要綱

（昭和49年１月１日制定）

最近改正　平成９年４月１日

１　指導方針

宿日直教官は，寮務主事の指揮監督の下に，学寮における学生（以下「寮生」という。）の教育及び生活の指導及び助言に当たり，寮生の学園生活への適応を促進するとともに，規律ある共同生活を行わせることにより，寮生の協調精神の養成及び資質の向上を図り，将来にわたつての人格形成に資するための素養を養うよう努力するものとする。

２　指導要領

宿日直教官は，次の要領により寮生の指導に当たるものとする。

(1)　学寮内の秩序維持

巡回等

(2)　学習指導

ア　自学自習に対する指導助言

イ　読書指導

(3)　生活指導

ア　日課表による集団生活に対する指導助言

イ　礼儀作法の指導

(4)　討論会，読書会等の実施

(5)　健康管理

(6)　外泊者，外出者及び面会者の把握

(7)　事故発生の処理

(8)　学寮内の整理整とん

D〔奈良工専七〕二〇

（出典　奈良高専規程集）

資料７－２－③－１９　宿直教員業務の流れ

宿直教員業務の流れ

平成18年4月1日
寮務主事

時　間	教　　員	学　　生
夜間 17:15	勤務開始(17:15～翌8:30)(事務室にて引継)	夕食時間（１７：００～１９：００）
～19:30	夕食と検食報告 ※土曜日の宿直者は、夕食と朝食の検食をお願いします。 （夕食時間 17:00～19:20、土曜日18:00～19:00） ※日曜日の夕食はありません。	入浴時間（１９：００～２１：３０）
20:00 ～22:00		学習時間　（２０：００～２２：００）
22:00	浴室玄関の鍵および寮小門の錠の受け渡し（１年生が担当） １年生週番に寮小門の錠を渡す	門限、寮長・副寮長への点呼報告（２２：００）
	土日祝日のみボイラーの消火報告（風呂当番）の確認 (風呂当番がボイラーの鍵を取りに来て消火を確認した後鍵を返しに来ます。 来ない時は宿直室掲示板に貼っている風呂当番を呼び出してください。 問題があれば委員長　４１寺脇温晃君（学寮個人電話番号　５５１２）を呼び出して対処してください。平日は寮母が確認します。)	
	寮内巡視【学寮における点呼確認のための巡視方法参照　問題があれば注意し、宿直日誌にご記入ください。】 各階の談話室、廊下の巡視で騒音など不審の有無を点検 点呼時不在者の確認 (前もっての願出者についてはファイル（赤色）に記入してあります) 寮門付近の駐車、不審者の有無、寮小門の施錠を確認	
就寝時 (23:30以降)	平屋棟集会室、トイレの窓の施錠を確認 玄関の施錠	１・２年生の消灯時間（２３：３０） 全寮棟の消灯（翌１：００))
朝　7:00	平屋棟玄関の解錠 浴室の玄関の鍵および寮小門の錠の受け渡し（１年生が担当）	
7:50 ～8:30	朝食と検食報告／宿直日誌の整理　寮門付近の巡視（不法駐車、不審者）	朝食（７：５０～８：３０）
8:30	登校を促す放送（自動：登校、戸締まり、忘れ物の注意喚起）	登校（８：３０）
昼　12:00 ～13:00	昼食と検食報告（報告書は事務室） （土・日・祝の検食はありません。）	昼食（１２：００～１３：００）

鍵は、鍵箱に[風呂ボイラー室、浴室玄関、寮門（大・小）]、キャビネットに[和室、　面談室、コピー用紙ロッカー、休養室薬品庫]を置いてます。

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－20　宿日直日誌及び検食報告書

検印	寮務主事	[redacted]	学生課長		寮務係長	[redacted]
4 月 10 日 月 曜日			天候 雨		種別	☑宿直 □日直 □半日直・宿直
宿直者氏名	[redacted]					

点呼報告	報告時間	22 時 25 分
	在寮生数	121名中 119 名 K （別紙点呼報告書のとおり）
	報告者	[redacted]
巡視	巡視時間	21 時 00 分 ～ 21 時 30 分 [redacted]
		22 時 00 分 ～ 22 時 25 分
		時 分 ～ 時 分
	巡視状況	×島見4階廊下にゴミ袋目立つ。寮長が注意する。 ×新入生(1年生)の指導が始まる。(島見1階廊下) ×先輩寮生(2年生)の1年寮生への指導が行なわれている。
その他		新入寮生歓迎夕食会 (18:00～19:30) 留学生、転入生、編入生、新入生
傷病者及び状況等		なし
風呂ボイラー消火確認・風呂施錠等	消火確認	時 分
	施錠	22 時 00 分
	担当者名	
	異常の有無等	

検食報告書(A)

報告者	[redacted]		
検食日	4月12日(水)	4月13日(木)	
食事時期	夕食	朝食	昼食
献立表との差異	献立表と 同じ 異なる	献立表と 同じ 異なる	献立表と 同じ 異なる
米飯 炊き方	硬い 普通 柔らかい	硬い 普通 柔らかい	硬い 普通 柔らかい
米飯 味	良い 普通 悪い	良い 普通 悪い	良い 普通 悪い
パン 量	多い 適当 少ない	多い 適当 少ない	多い 適当 少ない
パン 味	良い 普通 悪い	良い 普通 悪い	良い 普通 悪い
副食 量	多い 適当 少ない	多い 適当 少ない	多い 適当 少ない
副食 味付け	濃い 辛い 良い 薄い	濃い 辛い 良い 薄い	濃い 辛い 良い 薄い
全体のボリューム	多い 適当 少ない	多い 適当 少ない	多い 適当 少ない
全体の組合せ	良い 普通 悪い	良い 普通 悪い	良い 普通 悪い
その他	気付いた点、意見、改善点等について記入してください。		
業務係担当者記載（委託業者への連絡事項を含む）	メニュー変更（ササミ天ぷら→からあげ、ひじき） 青菜ごはんと白米ともに、炊きかげん問題なし 生野菜も鮮度、問題なし。からあげは野菜と共に。 昼食として十分バランスとれていると思う。		

（出典　学生課寮務係保存資料）

資料７－２－③－２１　点呼確認のための巡視方法

学寮における点呼確認のための巡視方法

１．２２時[redacted]に寮長あるいは副寮長等が、「これから点呼報告を受け取りに回る」旨の放送を入れる。

２．各棟各階のリーダーは、この放送の後にその階の寮生の点呼を行い、報告書に書き込み各階談話室にて待機する。不在の場合にはその部屋のドアに「点呼時不在票」（別紙１）を貼っておく。　（12人－該当階の点呼をとる）　3階 4階 5階 12

３．寮長あるいは副寮長等は、放送をおこなった後に宿直教員に連絡する。

４．寮長あるいは副寮長等は、宿直教員とともに各棟各階の談話室を回り、リーダーから点呼報告書を受け取る。宿直教員はこの時に巡視をおこなう。　①飛鳥 ②鳩 ③鳥見
（点呼は学生が行う）

５．寮長あるいは副寮長等は、すべての階の点呼報告書を受け取った後、最終チェックリスト（別紙２）に記入し、宿直教員に提出する。

６．宿直教員は、この最終チェックリストにより不在者を確認する。

７．宿直教員は、宿直室にて点呼時に不在であった者から帰寮報告を受ける。（２３時３０分まで）

外泊者は125万い.

実施期日：４月２２日(木)より
※すでに試行実施中

以 上

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－２２　点呼報告書（寮生記載）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－２３　チェックリスト（寮長あるいは副寮長記載）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料７－２－③－２４　点呼時不在票･帰寮報告書

別紙１
（A５･黄紙）

点呼時不在票

平成　　年　　月　　日（　　）

あなたは，点呼時不在になっています．居室にもどり次第，帰寮報告書を宿直教官まで提出しなさい．ただし２３時３０分以降になった場合は，翌朝寮事務室へ提出しなさい．

寮務主事

帰寮報告書

平成　　年　　月　　日（　　）

下記の通り帰寮しましたので報告致します．

帰寮時間	時　　分
氏名	
斑鳩　・　飛鳥　・　鳥見	
階　　号室　A・B	

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料7－2－③－25　学生の欠席情報連絡

日常の寮生活について

1．貴重品の管理について
- 必要以上の高価な物品は寮内に持ち込んではいけない．また，高額な現金などは銀行や郵便局に預け，なるべく持ち歩かないようにすること．（校門の前に、郵便局のATMがあります）
- 当座の小遣いなどは，貴重品ロッカーに保管するか，常に肌身に付けておくこと．

2．病気・事故等の処置について
- 病気または事故等にあった場合や体調がすぐれない場合は，必ず事務室か宿直教員室あるいは寮父か寮母に連絡すること．
- 授業を欠席するときは，8:30～9:00までの間に必ず事務室に連絡すること．本人ができない時は，同室寮生か友人に依頼して連絡をとること．また，後日に欠席・欠課連絡届を提出すること．
- 試験中の無断欠席は追試験が受けられないので注意すること．

3．点呼の厳正について
- 団体生活の基本は，正確な点呼にあるので門限を厳正に守ること．
- 点呼係は正確な点呼報告を宿直教官に手渡すこと．
- 点呼で不明の寮生がいる場合は，居場所を明確にする努力をし，そのまま放置しておかないこと．

（出典　寮生活のしおり（平成18年3月改訂））

資料7－2－③－25 学生の欠席情報連絡

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典 学生課寮務係保存資料）

資料7－2－③－26　事故･災害時等の緊急時対応

緊急時の連絡

- 閉寮期間を除き，夜間は宿直教員が管理棟にいるので，事故等が発生した場合には，速やかに宿直教員に連絡すること.
- 土曜・日曜・祝日の昼間は，教員に代わって寮父が８：００から１７：３０まで在寮している.
- 緊急な事態が生じたときは，平日，休日に関係なく，事務室又は宿直室まで連絡して指示を受ける事。

防災の手引き

火災，地震，その他の災害等は，突然発生します．普段から，以下の内容を読んで理解しておき，安全かつ迅速に避難等の対応が出来るようにしておいてください．また，教職員および寮長・副寮長・リーダー長は，寮生への指示，関係部署への連絡等の対応を行います.

非常時における寮生への指示

◎１７：１５から翌朝８：３０まで：宿直教員が行う.

◎８：３０から１７：１５まで：事務職員が行う．なお，教員が事務室に在室する場合には，協力して行う.

避難する場所

◎食堂北側の空き地（明和寮跡地⇒P.1 寮の配置参照）

寮長・副寮長・リーダー長（以下，寮生代表とする）の役割

◎寮生代表は，教職員を補助するものとする.

◎万が一，教職員が不在の場合には，寮生代表が協力して寮生に指示を行う.

１）　火災発生

火災を発見した場合

① 火災を発見した寮生は，すぐに非常ボタンを押し，付近の寮生に避難を指示するとともに，発見者も同時に避難すること.

非常ベルが鳴った場合

① 避難

直ちに全寮生が避難する．避難には原則として『屋外の非常階段』を使用する．最初の避難場所は，『食堂北側の空き地』とする.

- 避難は落ち着いて，安全に行う．火傷やケガを防ぐため，服を着用すること.
- 煙がひどい場合には，濡れタオルを口に当てて避難する.
- 部屋の窓，ドアは閉めておく.
- 指導寮生は，自分の階の寮生が避難したかを確認する.
- 屋内の階段は煙の通路となり，危険な場合が多いので，原則として屋外の非常階段を使用

（出典　寮生活のしおり（平成18年3月改訂））

資料7－2－③－26　事故･災害等の緊急時対応

する．なお，火災・煙の状況に応じて，安全な階段を判断すること．

- 屋内階段にある防火扉は，自動的に閉まります．やむを得ず，屋内階段を使用する場合には，防火扉にある小さな出入り口を手で開閉すること．

② 火災の状況確認

警報ベルがなると同時に，宿直教員あるいは教職員から放送で「火災発生場所を確認します．寮長，副寮長は，平屋棟に集合しなさい」との呼び出しがあるので，寮長・副寮長は，直ちに，宿直教員室に向かうこと．放送後に宿直教員が火災発生の事実を確認しにいくので，副寮長の一人は，宿直室で火災発生場所を確認後に，宿直教員の後を追うこと．もう一人は，そのまま宿直教員室で待機する．寮長は，平屋棟もしくは斑鳩棟に設置してある点呼報告書を持参のうえ，『食堂北側の空き地』にて，各リーダーからの点呼をまとめる．寮長，副寮長がリーダーを兼ねている階の点呼は，週番が代理で行うこと．宿直教員が火災の発生を確認し，初期消火が可能であるかの判断と消火活動を行うので，その間に，副寮長は，平屋棟に戻って火災発生の事実を放送で寮棟内に連絡する．

③ 避難の放送

副寮長は，週番室の放送設備より，非常放送で『火災発生』および『避難』を連絡する．

【週番室での非常放送の仕方】（放送設備の右側に，説明書があります．）

1) 《非常ボタン》および《一斉ボタン》を押す．非常ボタンは赤丸のボタンです．
（全寮棟に非常サイレンが流れる）
2) マイクの《スイッチ》を押して，『火災発生』および『避難』の放送を行う．
（放送中，非常サイレンは停止する）
3) 《復旧ボタン》を押すと，放送設備の非常状態が解除される．

※平屋棟で火災が発生したとき教職員は，平屋棟内の集会室，保健室，和室，トイレ，風呂に寮生がいないかの確認後に避難を行う．また，放送設備が使用できない状態のときは，各寮棟の寮生代表に火災の発生を口頭で伝える．

④ 消防署への連絡

避難した寮生は，近くの公衆電話あるいは携帯電話を使用して，消防署（１１９番）に『矢田の奈良高専の寮が火事』と連絡する．また，夜間は，守衛室に自動で通報されるので，宿直室受信盤の電話を用いて，守衛さんと連絡を取ることが可能である．

⑤ 消火活動

- 消火活動は，原則として教職員の判断で，必ず複数名で行う．
- 自分の身長以上の大きな炎，激しい煙がある場合，危険を感じた場合には，速やかに避難する．
- 消火には原則として消火器を用いる．
- 教職員が不在の場合には，避難を優先する．

⑥ 点呼

避難場所に集合し，寮生代表は速やかに点呼を取る．

- 点呼用紙は，宿直室の非常用のファイルボックス内および各寮棟の出入り口に備えています．

（出典　寮生活のしおり（平成18年3月改訂））

資料7－2－③－26　事故・災害時等の緊急時対応

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課寮務係作成資料）

資料7－2－③－27　寮務委員会総括

11月２６日	（土）	学寮スポーツ大会（サッカー）および夕食会
12月　１日	（木）	寮務委員会、学寮委員会
２１日	（水）	大掃除
２２日	（木）	閉寮
１月　６日	（金）	寮務委員会
９日	（月・祝）	開寮
１０日	（火）	寮生集会
１７日	（火）	学寮委員会
１９日	（木）	留学生と語る会
２月　２日	（木）	寮務委員会、学寮委員会
１６日	（木）	５年生送別夕食会
２１日	（火）	５年生テーブルマナー講習会（ホテル日航奈良）
３月　１日	（水）	部屋替え
２日	（木）	寮務委員会、大掃除
３日	（金）	閉寮

☆今年度の反省と来年度へ向けての検討事項

１．上級生の１年生への指導について

・「あいさつ」等の指導で行き過ぎがないように引き続き注意する必要がある。

・今年度は１年生との懇談が１回限りであったが、定期的に１年生の意見を聞く機会を設ける必要があるかも知れない。

・とくに１年生の学習時間（２０：００～２２：００）を保証し、この時間帯にはできるだけ集会等の行事を行わないように上級生に徹底させたい。

２．寮食堂について

食堂運営業者がＣＳフードサービス（元 雪印フード）になり２年が経過した。当初一部寮生から味付けに関して不満が出ていたが、今年度はそれも改善されおおむね寮生の評判は良い。検食にあたっている教職員からも上々の評価をもらっているため、来年度も引き続きＣＳフードサービスが運営にあたることになっている。

３．点呼について

新しい点呼方法を始めて２年が経過した。ようやく寮生および宿直教員の間で定着してきたものと考えられる。引き続き寮生会役員とも相談しながらより適切な点呼方法を確立していかなければならない。またごく少数の特定の者では

2

（出典 寮務委員会作成資料）

資料７－２－③－２８　学寮ウェブページ

学寮

奈良高専 narakosen

▶ TOPへ戻る

1. 学寮トップページ
2. 学寮生活の指針
3. 学寮の日課
4. 寮生会
5. 食堂
6. スタッフ
7. 経費の負担
8. 居室
9. 年間行事

奈良高専では、自宅からの通学困難な者及び希望者のため、学寮（現在は男子学生のみ）を設けています。学寮は、本校の敷地内にあり、平成8年に全面改修を終え、快適な居住空間が確保されています。
学寮は、アパートや下宿ではなく、団体生活を通して人間形成に役立てる課外教育施設であり、集団生活をすることで、社会人として大切な自律・協調・友愛の精神を養うことを目標としています。

鳥見寮（平成8年3月新築）

斑鳩寮（平成6年3月改修）

飛鳥寮（平成6年1月改修）

（出典　奈良高専ホームページ）

資料7－2－③－29　寮通信

寮　通　信

寒さが一段と厳しくなってきました．寮生が風邪にならないように祈る毎日が続いています．気力も体力も常に充実している寮生活を過ごしてもらうために，今何が大切なのかを考えながらこの寮通信をまとめています．来年もよい学寮になるように，教職員が一丸となって努力をして行きたいと考えております．

寮祭についての感想

ブラジルからの留学生であるタダオ君が，今年４月から機械工学科３年生に編入してきました．そのタダオ君から寮祭についての感想をいただきましたので御紹介します．

今回の寮祭は初めてだったので以前のことと比べることが出来ません．このイベントに参加出来て良かったと思います．私のグループはいろいろな準備をする担当だったので，それはとてもいい経験になったと思います．他のグループを覗いてみると，日本人は働き者だとよく分かりました．失敗がないように皆一生懸命頑張ります．その時に日本人は細かいことでも「真剣に取り組んでいるなあ」と感じました．この祭りはみんなとの交流が目的だったので上手く出来たと思います．１年生の人達は一番大変だと思います．彼らはとてもおとなしく恥ずかしがり屋だったので，この祭りの終わる頃には彼らが大変身を遂げたと思います．彼らはいろんなプレゼンテーションをしたのでとても楽しそうです．来年も是非この寮祭に参加したいと思います．みなさまに感謝して．

２００３年７月９日

タダオ

盗難の調査について

残念ながら今年も盗難の被害が出ました．６月までに数件あり６月中旬緊急の寮生集会を開催して被害者から被害金額，被害にあった状況を寮生全員に説明をさせて注意を促しました．しかし，鳥見寮では，１０月以降も数件の被害を聞きましたので鳥見寮の各階リーダーに各寮生の聞き取り調査を依頼しました．調べが遅れて今更言っても仕方がないと言うあきらめの雰囲気があったこと，後期の中間試験が迫ったことなどで不完全なものとなりましたが報告します．なお６月以降斑鳩寮，飛鳥寮での盗難は聞いていません．１階で２名（２年生，４年生），金額は３万円程度と２万円です．いずれも机の引き出しからです．もう１件時期は５月と以前のものですが少し悪質なので特に記録します．４階で４年生金額は５０００円．引き出しの筆箱の下に隠してあったのに取られた．取られた状況は，風呂，談話室，夕食など長時間不在の時ではなく３０分長くて１時間です．取られ方も財布から全額でなく一部を抜き出して取られた方の気がつきぬくいようにしています．調査（１１月の２週目）以降は被害が出てないようです．

盗難被害の防止に対して，寮生側の提案としては貴重品ロッカーの充実．その他監視カメラ等の設置ですが費用など今後の検討課題となっています．とりあえずは基本に返って不在にする時は部屋の施錠を徹底するしか方法がありません各御家庭でも注意をお願いします．

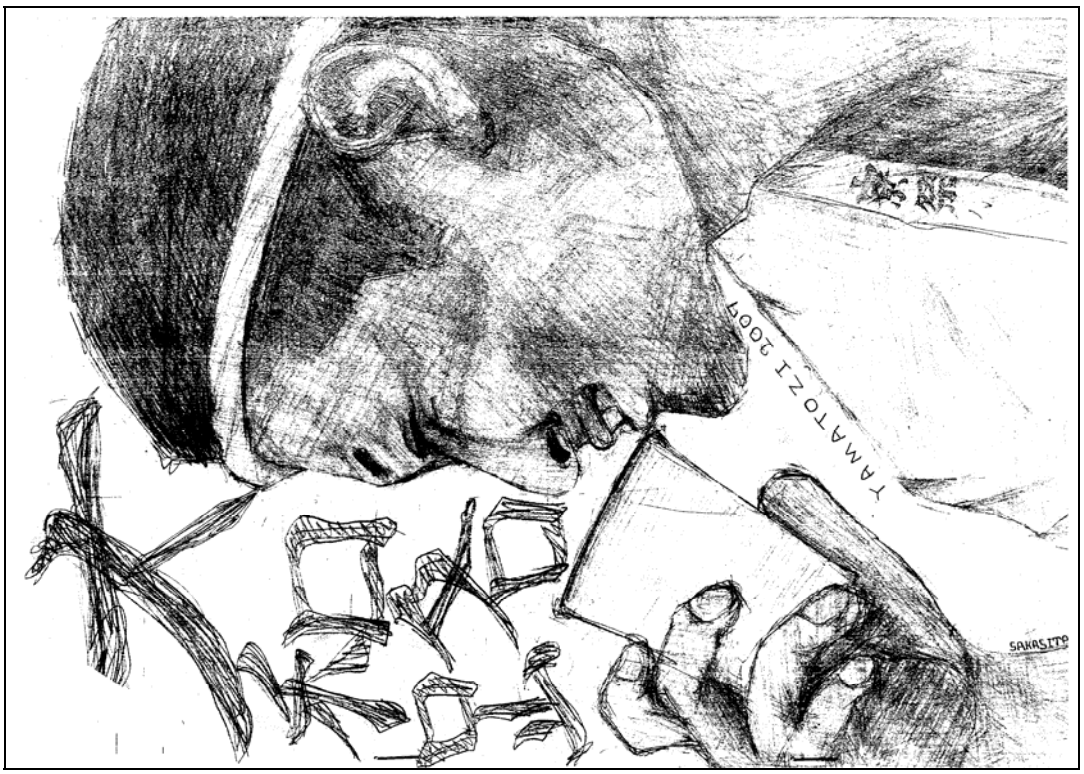
落ち葉拾い

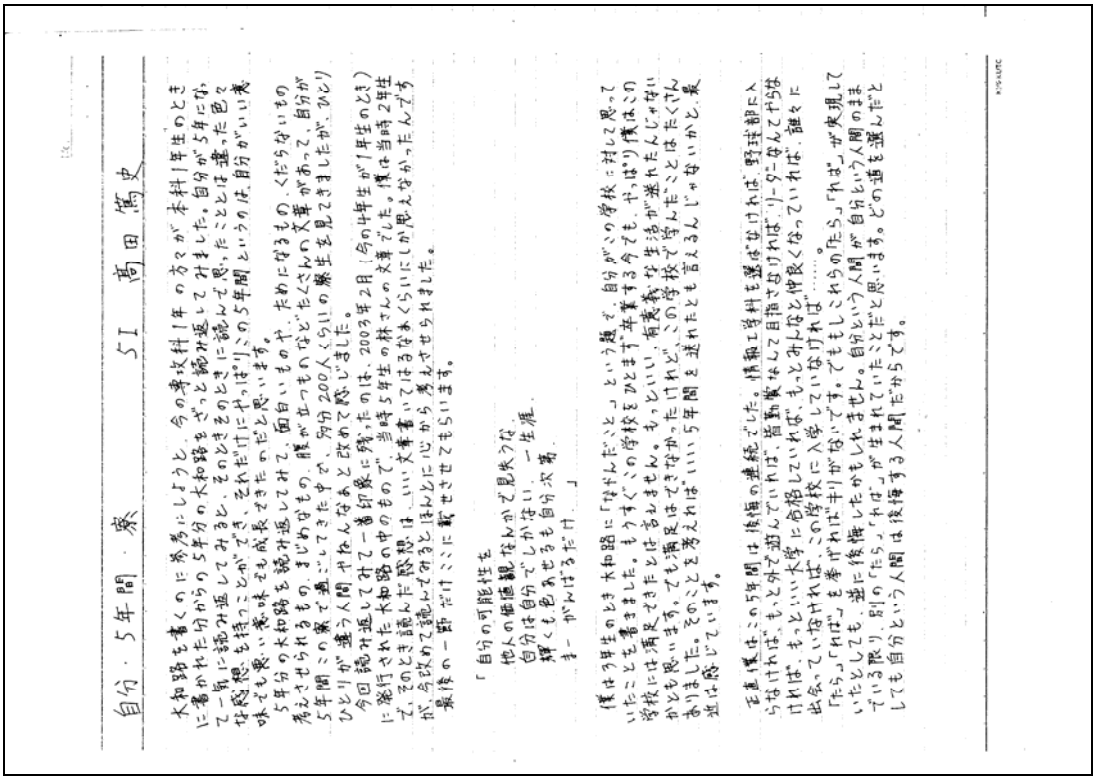
恒例の落ち葉拾いが，１１月１３日（木）１５：３０から田中環境委員長の指導の下行われました．

当日は，４，５年が１泊研修，修学旅行のため不在で少し寂しかったですが，１年生，２年生の諸君が頑張ってくれました．名前は落ち葉拾いでも実際は，用務員さんが事

（出典　２００４年寮通信）

資料7－2－③－30　大和路





自分・5年間・察　　5I　高田篤史

大和路を書くのに参考にしようと、今の専攻科1年の方々が本科1年生のときに書かれた分からの5年分の大和路をざっと読み返してみました。自分が5年になって一気に読み返してみると、そのときそのときに読んで思ったことは違った色々な感想を持つことができ、それだけにやっぱりこの5年間というのは自分がいい意味でも悪い意味でも成長できたのだと思います。

5年分の大和路を読み返してみて、面白いものや、ためになるもの、くだらないもの考えさせられるもの、まじめなもの、腹が立つものなどたくさんの文章があって、自分が5年間この家で過ごしてきたやで、分分200人くらいの察生を見てきましたが、ひとりひとりが違う人間やねんなあと改めて感じました。

今回読み返してみて一番印象に残ったのは、2003年2月（今の4年生が1年生のとき）に発行された大和路の中のもので、当時5年生の林さんの文章でした。僕は当時2年生で、そのとき読んだ感想は、いい文章書いてはるなあくらいにしか思えなかったんですが、今改めて読んでみるとほんとに心から考えさせられました。

最後の一節だけここに載せさせてもらいます。

「自分の可能性を
他人の価値観なんかで見失うな
自分は自分でしかない、一生涯
輝くも色あせるも自分次第
まー がんばるだけ　」

僕は3年生のとき大和路に「なかんだこと」という題で、自分がこの学校に対して思っていたことを書きました。もうすぐこの学校をひとまず卒業する今でも、やっぱり僕はこの学校には満足できたとは言えません。もっといい、有意義な生活が送れたんじゃないかとも思います。でも満足はできなかったけれど、この学校で学んだことはたくさんありました。そのことを考えればいい5年間を送れたとも言えるんじゃないかと最近は感じています。

正直僕はこの5年間は後悔の連続でした。情報工学科を選ばなければ、野球部に入らなければ、もっと外で遊んでいれば、皆勤賞なんて目指さなければ、リーダーなんてやらなければ、もっといい大学に合格していれば、もっと みんなと仲良くなっていれば、誰々に出会っていなければ、この学校に入学していなければ……。

「たら」「れば」を挙げればキリがないです。でももしこれらの「たら」「れば」が実現していたとしても、逆に後悔したかもしれません。自分という人間が自分という人間のままでいる限り、別の「たら」「れば」が生まれていたことだと思います。どの道を選んだとしても自分という人間は後悔する人間だからです。

（出典　2006年大和路）

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学校の進路指導に対する体制として，進路対策協議会が設けられており（資料７－２－④－１），準学士課程第４学年（就職・進学ガイダンス資料の冊子を発行・配布）及び専攻科課程第１学年を対象に，ガイダンスを実施している（資料７－２－④－２）。進学は，取扱い要領（資料７－２－④－３）に基づき指導が行われている。学校が受理した就職求人票（資料７－２－④－４）と大学（院）募集要項（資料７－２－④－５）は，受験報告書と併せて学生課で整理・管理され，学生の閲覧を容易にしている（資料７－２－④－６）。就職・進学実績は，卒業生就職状況調（資料７－２－④－７）や学校概要・ホームページ（資料７－２－④－８）等で公開している。求人依頼に対応するため，学科選出の進路指導担当教員一覧表を統合学科事務室に掲示している（資料７－２－④－９）。就職開拓のため，企業訪問をしている（資料７－２－④－１０）。就職・進学に関する研修として，第１～３学年対象の秋季社会工場見学（資料７－２－④－１１）を実施し，４年生には，合宿研修として卒業生との懇談会を実施している（資料７－２－④－１２）。卒業生が第３学年学生と懇談する場として，卒業生と語る会（資料７－２－④－１３）がある。専攻科学生対象の学外研修や特別講演会（資料７－２－④－１４）等を開催し，進路支援している。

学科毎の進路に関する取組として，当該学科の進路指導担当教員を中心に，第４・５学年の保護者対象の進路説明・懇談会（資料７－２－④－１５，１６，１７，１８，１９），学生対象の各種ガイダンス（資料７－２－④－２０，２１）を実施している。学科が受理した求人票と大学(院)募集要項等は学科毎に進路指導室で整理・管理し，学生の閲覧を容易にしている（資料７－２－④－２２）。進路に係わる受験は受験願の提出により（資料７－２－④－２３），公欠等の処理がなされる。第４学年・専攻科学生対象に学外実習（専攻科生は大学研究室での実習含）も実施されている（資料７－２－④－２４，２５）。学外実習の実施に先立ち，受け入れ先企業の開拓，希望学生の調整及び決定，講演会や講習会，派遣調整・視察等が行なわれている（資料７－２－④－２６，２７）。他高専・大学等と教育研究交流協定等を締結し，学外実習や進路等を支援している（資料７－２－④－２８，２９，３０）。

（分析結果とその根拠理由）

就職・進学ガイダンス資料の冊子を発行・配布する等進路に係る各種ガイダンス，講演会，懇談会，研修会，進路情報の公開等が整備され，機能している。当該学科の進路指導担当教員と卒業研究指導教員が連携し，きめの細かい進路指導体制が構築されている。平成17年度の学外実習参加率は約７０％に達しており（資料７－２－④－３１），就職希望学生に対する就職率は１００％である（資料７－２－④－３２）。

資料７－２－④－１　進路対策協議会規程

○奈良工業高等専門学校進路対策協議会規程

平成 14 年 4 月 1 日

（設置）

第１条　奈良工業高等専門学校に進路対策協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（任務）

第２条　協議会は，学生の進路対策についての基本的方針を協議し，各科間の連絡調整を図る。

（組織）

第３条　協議会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　教務主事

(2)　学生主事

(3)　専攻科主任

(4)　一般教科及び各専門学科主任

(5)　学生課長

（委員長）

第４条　協議会に委員長を置き，前条第１号及び第２号の委員のうちから校長が指名した者をもって充てる。

（議長）

第５条　委員長は，協議会を召集し，その議長となる。

（進路対策室）

第６条　進路指導の円滑な運営を図るため進路対策室を置く。

2　進路対策室に関する必要な事項は，別に定める。

（事務）

第７条　協議会に関する事務は，学生課で行う。

附　則

1　この規程は，平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

2　奈良工業高等専門学校進路対策協議会要項（平成２年４月１日制定）は，廃止する。

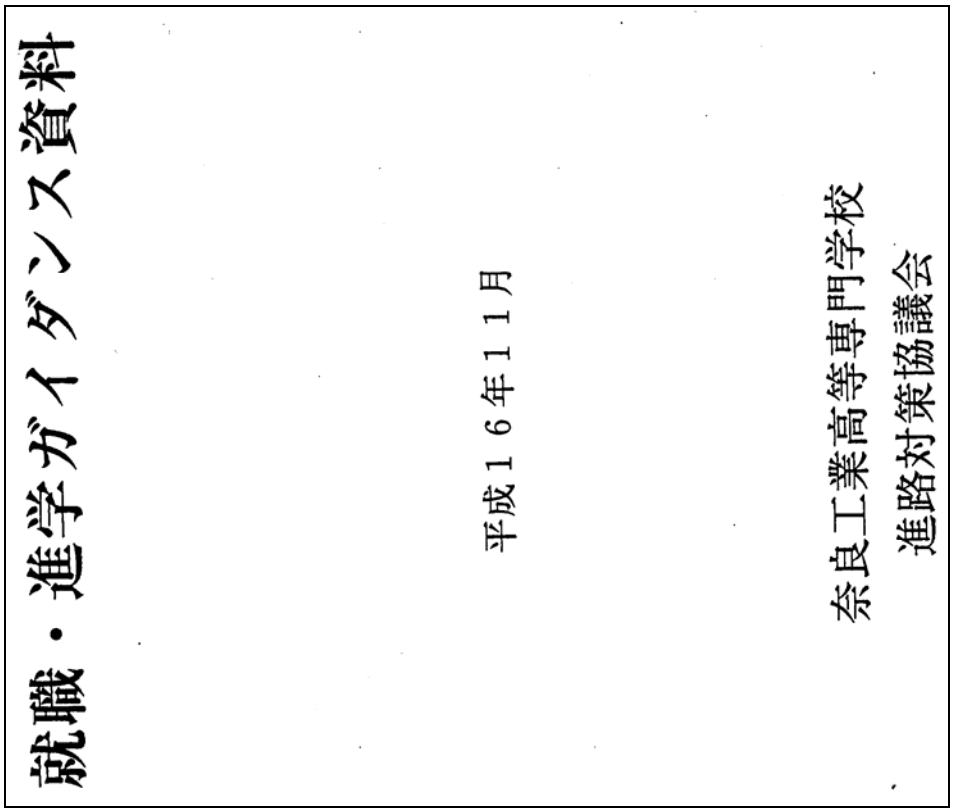
（出典　奈良高専規程集）

資料７－２－④－２　就職・進学ガイダンス資料

準学士課程第４学年対象：

(1)　第４学年を対象とした進路指導

平成 16 年度は，平成 16 年 11 月 25 日に進路対策協議会主催，11 月 26 日に OB を招き企業での心構えについて進路指導を行った。また，12 月 2 日には就職のための指導を行った。平成 17 年 3 月 3 日にも，進路ガイダンスを行った。

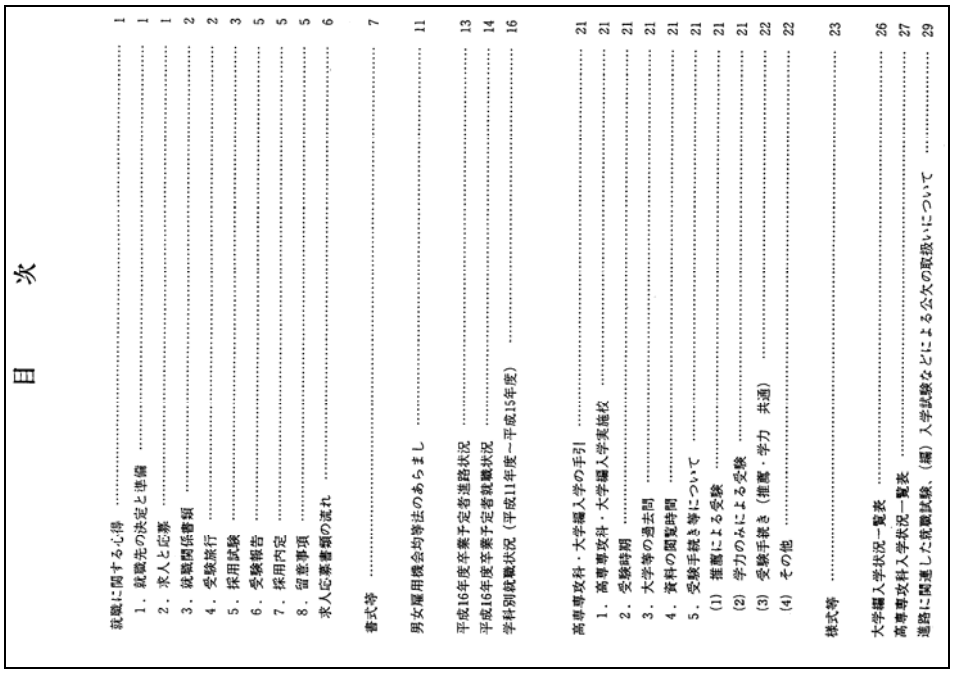


就職・進学ガイダンス資料

平成１６年１１月

奈良工業高等専門学校

進路対策協議会



目　次

就職に関する心得 …… 1
1．就職先の決定と準備 …… 1
2．求人と応募 …… 1
3．就職関係書類 …… 2
4．受験旅行 …… 2
5．採用試験 …… 3
6．受験報告 …… 5
7．採用内定 …… 5
8．留意事項 …… 5
求人応募書類の流れ …… 6
書式等 …… 7
男女雇用機会均等法のあらまし …… 11
平成16年度卒業予定者進路状況 …… 13
平成16年度卒業予定者就職状況 …… 14
学科別就職状況（平成11年度～平成15年度） …… 16
高専専攻科・大学編入学の手引 …… 21
1．高専専攻科・大学編入学実施校 …… 21
2．受験時期 …… 21
3．大学等の過去問 …… 21
4．資料の閲覧時間 …… 21
5．受験手続き等について …… 21
(1) 推薦による受験 …… 21
(2) 学力のみによる受験 …… 21
(3) 受験手続き（推薦・学力　共通） …… 22
(4) その他 …… 22
様式等 …… 23
大学編入学状況一覧表 …… 26
高専専攻科入学状況一覧表 …… 27
進路に関連した就職試験、（編）入学試験などによる公欠の取扱いについて …… 29

（出典　2005年10月自己評価・点検報告書・ 就職・進学ガイダンス資料（平成16年11月））

資料７－２－④－２　就職・進学ガイダンス資料

専攻科課程第１学年対象：

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　専攻科進路ガイダンス資料（平成１６年１１月４日））

資料７－２－④－３　専攻科入学・大学編入学試験に関する取扱要領

〔非開示につき省略〕

（出典　教職員会議（平成12年11月28日））

資料７－２－④－４　求人票一覧

現在学生課に来ている求人の一覧です。
（求人票は就職用HPより、資料は学生課前にて閲覧できます）

通し	会社名	業種	全科	機械	電気	電制	情報	化学	機制	電情	化専	備考
154	株式会社小田原エンジニアリング	機械		1	1	1			1	1		
155	株式会社アルバック	その他製造	1									
156	野村マイクロ・サイエンス株式会社	機械		1	1	1		1	1	1	1	
157	新日本理化株式会社	化学						1			1	
158	東レエンジニアリング株式会社	総合エンジニアリング		1	1	1			1	1		
159	株式会社西原環境テクノロジー	建設	1									
160	JFEスチール株式会社西日本製鉄所	鉄鋼		1	1	1	1					
161	株式会社巴製作所	金属		1				1			1	
162	株式会社INAX	ガラス・土石		1	1	1	1	1				
163	第一工業製薬株式会社	化学	1									
164	コベルコシステム株式会社	情報関連業	1									
165	株式会社デポウ	情報関連業		1		1	1		1	1		
166	国際通信企画株式会社	情報関連業			1	1	1		1	1		
167	三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社	情報関連業		1	1	1	1					
168	聖翔株式会社	総合エンジニアリング	1									
169	株式会社イーガー	情報関連業	1									
170	株式会社モリック	機械		1	1	1						
171	森永製菓株式会社	食料品		1	1	1						
172	NSKニードルベアリング株式会社	輸送用機器	1									
173	株式会社マイスターエンジニアリング	サービス		1	1	1	1		1	1		
174	山崎製パン株式会社	食料品		1	1							
175	吉田機電株式会社	電気機器	1									
176	サカタインクス株式会社	その他製造						1			1	
177	株式会社寺内製作所	精密機器	1									
178	第一精工株式会社	精密機器	1									
179	アンドール株式会社	情報関連業	1									
180	東洋保全工業株式会社	機械		1					1			
181	万里設備株式会社	建設	1									
182	神鋼テクノ株式会社	鉄鋼		1	1	1	1					
183	マルホ株式会社	その他製造		1	1			1	1			
184	株式会社ショーエイ	電気機器			1	1						
185	日新システムズ	情報関連業		1	1	1	1		1	1		
186	東邦化成株式会社	化学	1									
187	株式会社インタフェース	その他製造								1		
188	IDECパワーデバイス株式会社	電気機器			1	1	1					
189	株式会社シーアールイー	その他製造		1	1	1						
190	株式会社ヒューマン・ブレインズ	情報関連業					1					
191	ジャパンレイクアンドキャナル株式会社	精密機器	1									
192	株式会社アジル・ラボ	情報関連業					1					
193	長浜キャノン株式会社	精密機器		1	1	1		1				
194	日本モレックス株式会社	情報関連業	1									
195	キトー鉄鋼株式会社	鉄鋼		1								
196	NECテレネットワークス株式会社	情報関連業		1	1	1						
197	太陽パーツ株式会社	機械		1								
198	伊藤忠テクノサイエンス株式会社	情報関連業	1									
199	高畑精工株式会社	精密機器	1									
200	塩野義製薬株式会社	化学	1									
201	日弘ビックス株式会社	その他製造	1									
202	株式会社日本触媒	化学		1								
203	三菱電機システムサービス株式会社	電気機器			1	1	1					
204	出光興産株式会社	化学	1									

（出典　学生課学生係作成資料）

資料７－２－④－５　大学(院)からの募集要項一覧

平成１３年度　大学編入学等募集要項一覧

整理番号	大学名	学部	推薦・学力	出願期間	必着・消印有効	試験日	合格発表	募集人員	備考
1	関西大学	総合情報学部	推薦	６月１２日 ～ ６月１９日	消印	７月 ９日	７月１３日	５０名	2年次編入 推薦入数１名
2	三重大学	工学部	推薦	６月 １日 ～ ６月 ６日	必着	６月１２日	６月１６日	学科により相違	推薦選抜実施は機械工学科・電気電子工学科
			学力	６月１９日 ～ ６月２７日	必着	７月 ５日	７月１４日	学科により相違	
		生物資源学部	学力	６月 ５日 ～ ６月 ９日	必着	７月 ３日	７月１４日	１０名	
		人文学部	学力	１０月１６日 ～ １０月２３日		１１月１５・１６日		１５名	
3	高松工業高等専門学校	専攻科	推薦	５月１５日 ～ ５月１７日	必着	５月２０日	５月２３日	専攻により相違	
			学力前期	５月１８日 ～ ５月２４日	必着	５月２７日	５月３１日		
			学力後期	１１月２０日 ～ １１月２４日	必着	１２月 ５日	１２月１１日		
4	静岡大学	情報学部	推薦	５月２９日 ～ ６月 ２日	必着	６月２０日	６月２８日	若干名	出願資格は情報工学関連学科の卒業(見込)者
			学力	５月２９日 ～ ６月 ２日	必着	６月２０日	６月２８日	若干名	
5	山梨大学	工学部	※推薦	６月 ５日 ～ ６月 ９日	消印（８日）	６月１９日	６月２２日	５名	推薦選抜実施は機械システム工学科(口述試験)
			学力	６月 ５日 ～ ６月 ９日	消印（８日）	６月１９日	６月２２日	各学科５名	
6	香川大学	工学部	推薦	６月 ２日 ～ ６月 ９日	必着	６月１７日	６月２３日	２０名	
		教育学部	学力	９月 １日 ～ ９月１１日	必着	１０月１４日	１０月１９日	若干名	
		法学部	※推薦	９月 １日 ～ ９月１１日	必着	１０月１４日	１０月１９日	１０名	推薦人数２名 (小論文有り)
			学力	９月 １日 ～ ９月１１日	必着	１０月１４日	１０月１９日		
		経済学部	※推薦	９月 １日 ～ ９月１１日	必着	１０月１４日	１０月１９日	学科により相違	推薦人数２名 (小論文有り)
			学力	９月 １日 ～ ９月１１日	必着	１０月１４日	１０月１９日		
		農学部	学力	６月 １日 ～ ６月１２日	必着	７月 ６日	７月１４日	各学科若干名	
7	石川工業高等専門学校	専攻科	推薦	５月１８日 ～ ５月２４日	必着	５月３１日	６月 ５日	専攻により相違	
			学力	６月１２日 ～ ６月１６日	必着	６月２５日	６月２８日		
8	岐阜大学	工学部	推薦	６月 １日 ～ ６月 ６日	必着	６月１７日	６月２３日	３０名	
			学力	６月２８日 ～ ７月 ３日	必着	７月１１日	７月２１日		
9	大阪府立大学	総合科学部	学力	６月１２日 ～ ６月１６日	必着	７月 ８日	７月２１日	各学科若干名	

（出典　学生課教務係作成資料）

資料７－２－④－６　求人票・募集要項の管理

求人票及び受験報告書の検索が可能なパソコン：

募集要項及び受験報告書が置かれた書棚：

（出典　学生課設備）

資料７－２－④－７　卒業生就職状況調

卒 業 生 就 職 状 況 調

奈良工業高等専門学校
15・3・31

企　業　数

年度	学科	卒業者数	求人数		就職者			進学その他
			会社数	求人数	企業	官公庁	計	
43	機械	2,042		19,655	1,624	57	1,681	361
	電気	1,150		17,887	884	71	955	195
〜	制御	137	18,094	771	73	4	77	60
9	情報	302		2,177	171	1	172	130
	化学	871		6,251	614	36	650	221
	機械	39		345	16	0	16	23
	電気	36		378	18	1	19	17
10	制御	38	470	294	12	0	12	26
	情報	44		260	24	0	24	20
	化学	35		163	15	0	15	20
	機械	41		206	20	1	21	20
	電気	41		225	24	1	25	16
11	制御	38	320	196	16	0	16	22
	情報	36		176	18	0	18	18
	化学	34		100	17	1	18	16
	機械	38		227	22	0	22	16
	電気	37		246	21	0	21	16
12	制御	34	364	221	19	1	20	14
	情報	39		180	12	0	12	27
	化学	38		124	18	0	18	20
	機械	31		299	15	0	15	16
	電気	37		307	20	0	20	17
13	制御	34	421	274	15	1	16	18
	情報	36		216	17	0	17	19
	化学	36		143	11	0	11	25
	機械	39		311	15	1	16	23
	電気	40		334	25	0	25	15
14	制御	38	447	308	13	1	14	24
	情報	33		269	17	1	18	15
	化学	36		212	9	1	10	26

－1－

（出典　卒業生就職状況調資料（平成15年3月31日））

資料７－２－④－８　進路状況

進路状況 Situation of Graduate

進路状況及び求人 After Graduation and Job offer

年度 Year	学科 Department	卒業者数 Number of Graduates	就職者数 Number of Employments	内訳 Detail		求人 Job Offered		進学 Entrants into Univ. その他 Others
				民間企業 Private Enterprise	官公庁 Government and Municipal offices	企業数 Enterprises	求人数 Situation	
S43～H15年度 1968～2003	機械工学科 Mechanical Eng.	2,264	1,787	1,727	60	20,576	21,325	477
	電気工学科 Electrical Eng.	1,383	1,090	1,017	73		19,765	293
	電子制御工学科 Control Eng.	357	171	164	7		2,381	186
	情報工学科 Information Eng.	531	284	282	2		3,574	247
	化学工学科 物質化学工学科 Chemical Eng.	1,086	736	698	38		7,223	350
H16年度 2004	機械工学科 Mechanical Eng.	38	12	11	1	541	400	26
	電気工学科 Electrical Eng.	37	20	19	1		386	17
	電子制御工学科 Control Eng.	43	15	14	1		294	28
	情報工学科 Information Eng.	41	17	17			292	24
	物質化学工学科 Chemical Eng.	31	9	9			257	22
計 Total		5,811	4,141	3,958	183	21,117	55,897	1,670

産業別就職先 Job Classification

区分 Classification ＼ 年度・学科 Year・Department	S43～H15年度 1968～2003					H16年度 2004				
	M	E	S	I	C	M	E	S	I	C
建設 Construction Industry	119	93	6	11	15					
食料品 Food Production	27	20	3	1	23		1			
繊維 Textile Industry	57	6	5	1	52	1				1
パルプ・紙・印刷・出版 Pulp, Paper, Printing, Publication	27	6	3		26					
化学 Chemical Eng	145	60	12	4	335		1			8
ゴム Rubber Production	46	9			10					
ガラス・土石 Glass	36	9		2	12		1	1	1	
鉄鋼 Steel Industry	46	9	2	3	4					
非鉄金属 Non-ferrous Metals	17	15		2	4					
金属 Metals	48	4	1	2	10				1	
機械 Machinery	322	43	27	8	44	7	1	1		
電気機器 Electric Appliances	289	351	34	64	59		7	6	4	
輸送用機器 Transport Equipment	201	48	2	3	7	2				
精密機器 Precision Machinery	81	40	9	2	14		1			
その他の製造 Other Manufacturing Industry	62	24	7	5	27			1	1	
商業 Commercial Industry	59	28	4	3	22					
運輸・通信 Transportation, Communication	33	87	14	57	2		3	2	1	
電気・ガス Electricity, Gas Words	19	68	6	13	4	1	3			
官公庁 Government and Municipal Offices	60	73	7	2	38	1	1	1		
サービス・その他 Service Industry, Others	93	97	29	101	28		1	3	9	
計 Total	1,787	1,090	171	284	736	12	20	15	17	9

M:機械工学科　E:電気工学科　S:電子制御工学科　I:情報工学科　C:物質化学工学科
M:Mechanical Eng.　E:Electrical Eng.　S:Control Eng.　I:Information Eng.　C:Chemical Eng.

（出典　平成 17 年度学校概要）

資料７－２－④－９　学科就職担当求人対応割り当て

電話0743－55－

平成17年度　学科主任・就職担当教官		
学科	主任	就職担当(代表)
機械工学科	岩井6076	和田(6078)
電気工学科	藤井	藤井(6091)内
電子制御工学科	中田6113	押田(6112)
情報工学科	近藤6137	世古(6138)
物質化学工学科	河越	河越(6162)

専攻科主任　福田(6120)		
専攻科就職担当		fax
機械制御専攻	和田(6078)	6089
	押田(6112)	6129
電子情報専攻	井村(6094)	6109
	世古(6138)	6149
化学専攻	河越(6162)	6169

機械		電気
小柴6082		井村6094
酒井6072		中村6096
		大谷6099

電制	情報	物質」化学
月　中田6113	多喜6134	泉6157
火押田・中田　中田	浅井6133	梅原6153
水押田　中田		直江6163
木　中田・押田		
金　押田		
山本6117		

当番表

	月	火	水	木	金
午前	和田	小柴	和田	小柴	和田
	(酒井)	岩井・広・平	岩井・広・平	(全員)	(酒井)
午後	酒井	小柴	和田	酒井	酒井
	(小柴)	(酒井)	岩井・広・平	(全員)	(和田)

(火)午前出来たらさける
(水)和田先生のみ

（出典　学生課統合学科事務室作成資料）

資料７－２－④－１０　就職開拓のための企業訪問

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　電子制御工学科作成資料）

資料7－2－④－11　秋季社会工場見学　実施要領･行程表（1年～3年次）

秋 季 社 会 工 場 見 学 実 施 要 領

1．目　　的

秋季社会工場見学は，一般課程で修得した知識や，専門課程で修得した知識・技能の裏づけをはかるとともに，実社会の生きた知識を身につけ，将来広い視野に立つ有為な技術者となるための基礎的素養の育成を目的としています。

2．日　　程

１～３学年は，１１月１１日（金）に実施し、第４学年は１１月１０日（木）～１１月１１日（金）の１泊２日の合宿研修とします。

3．計画と実施

（１）立案計画

① 第１・２学年は各学年の学級担任連絡会で，第３・４学年は各専門学科，引率責任者を含め実施見学先等の計画，見学先との下交渉も含めてお願いします。

② 第４学年については，合宿場所と合宿研修における招聘卒業生の人選（宿泊地近くの卒業生を招聘し，学生との懇談会を実施することになっていますので実社会で経験のある卒業生の中から各専門学科２名）及び研修課題についても各専門学科で計画をお願いします。

③ 長距離のバス利用は，できるだけ避けて下さい。
また，帰校時刻は１８時までに到着できるようご計画下さい。

（２）見学依頼状について

① 校長名による正式な依頼状の送付は９月中旬から下旬となりますのでその旨，見学先等へもお伝え下さい。

（計画担当者におかれましては，必ず見学先の内諾を得ておいて下さい。）

（出典　学生課教務係作成資料）

資料7－2－④－11　秋季社会工場見学　実施要領･行程表（1年～3年次）

（別紙１－１）

平成１６年度　秋季社会工場見学　行程表（案）

期日	クラス	行程	引率教官			備考
			責任者（担任）	会計担当者		
11月12日（金）	1M	学校＝＝＝＝⇒海遊館（昼食）＝＝＝＝⇒大阪ガス・ガス科学館＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:30　13:00　14:00　15:30　17:00	堀内	坂本	木村	
	1E	学校＝＝＝＝⇒私のしごと館＝＝＝＝⇒大阪科学技術館（昼食）＝＝＝＝⇒海遊館＝＝＝＝⇒学校 8:30　9:30　10:30　12:00　14:00　14:40　16:10　17:30	桐島	長瀬	宮田	大谷
	1S	学校＝＝＝＝⇒新明和工業㈱航空機事業部（昼食）＝＝＝＝⇒明石海峡大橋＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:00　12:00　14:00　15:30　17:30	押田	矢野	早川	
	1I	学校＝＝＝＝⇒松下電器技術館＝＝＝＝⇒海遊館（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:30　11:00　12:00　13:00　15:30　17:00	本間	武田	浅井	
	1C	学校＝＝＝＝⇒大阪ガス・ガス科学館＝＝＝＝⇒なにわの海の時空館（昼食）＝＝＝＝⇒学校 8:45　10:00　12:00　12:40　15:50　17:15	大矢	大槻	池永	
	2M	学校＝＝＝＝⇒全日空整備㈱＝＝＝＝⇒大阪国際空港（昼食）＝＝＝＝⇒海遊館＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:00　11:50　12:00　13:00　13:40　15:30　17:00	岩井	酒井	小畠	
	2E	学校＝＝＝＝⇒㈱島津製作所　三条工場＝＝＝＝⇒東映太秦映画村（昼食）＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:30　12:00　12:30　15:00　17:00	片山	北村	京兼	藤田
	2S	学校＝＝＝＝⇒光洋精工㈱国分工場＝＝＝＝⇒関西国際空港（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:10　10:00　11:00　12:30　15:00　16:30	荒金	横	鍵本	
	2I	学校＝＝＝＝⇒雪印乳業㈱関西チーズ工場＝＝＝＝⇒昆陽池公園（昼食）＝＝＝＝⇒明石海峡大橋＝＝＝＝⇒学校 8:30　10:30　11:40　11:50　12:30　14:00　15:30　17:30	高橋	松尾	山口智	
	2C	学校＝＝＝＝⇒㈱資生堂大阪工場＝＝＝＝⇒ＡＴＣ（昼食）＝＝＝＝⇒大阪市環境事業局舞洲工場＝＝＝＝⇒学校 8:40　10:30　12:00　12:30　14:30　15:00　16:30　18:00	石丸	三木	北川	
	3M	学校＝＝＝＝⇒㈱中山製鋼所＝＝＝＝⇒舞洲緑地（昼食）＝＝＝＝⇒大阪ガス・ガス科学館＝＝＝＝⇒学校 8:40　10:30　12:00　12:30　13:00　14:00　15:30　17:00	小柴	森	宮本	
	3E	学校＝＝＝＝⇒和歌山マリーナシティー（昼食）＝＝＝＝⇒関西電力㈱紀北変換所＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　12:30　13:30　15:30　17:30	中西	石飛	成田	中村
	3S	学校＝＝＝＝⇒三洋アソシエイトサポート㈱湖田工場（昼食）＝＝＝＝⇒㈱東レリサーチセンター＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:00　12:45　13:00　15:00　16:30	市原	飯田	島岡	
	3I	学校＝＝＝＝⇒琵琶湖博物館（昼食）＝＝＝＝⇒立命館大学情報理工学部＝＝＝＝⇒学校 9:00　11:00　12:30　13:00　16:00　18:00	安田	並木	近藤	
	3C	学校＝＝＝＝⇒ダイキン工業㈱淀川製作所（昼食）＝＝＝＝⇒大阪市立科学館＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:30　13:00　13:40　15:15　16:35	梅原	嶋田	片倉	

（出典　学生課教務係作成資料）

資料７－２－④－１２　秋季社会工場見学　行程表（4年次）・招聘卒業生一覧

平成１６年度　秋季社会工場見学　行程表（案）

（別紙１－２）

	クラス	行程	引率教官 責任者（担任）	引率教官 会計担当者		備考
１１月１１日（木）・１１月１２日（金）	４Ｍ	１１日　学校＝＝＝＝⇒㈱ＩＮＡＸ上野緑工場＝＝＝＝⇒旭化成工業㈱鈴鹿工場（昼食）＝＝＝＝⇒「錦浦館」（泊） 9:00　10:30　11:30　12:50　15:30　17:30 １２日　「錦浦館」＝＝＝⇒ダイジェット工業（株）三重事業所（昼食）＝＝＝⇒上野城＝＝＝⇒学校 8:30　10:30　13:00　14:00　15:00　16:30	勢田	廣		
	４Ｅ	１１日　学校＝＝＝＝⇒湾岸長島PA（昼食）＝＝＝＝⇒中部電力(株)へきなん たんトピア＝＝＝＝⇒「あいち健康プラザ」（泊） 9:00　11:30　13:00　14:00　16:00　16:30 １２日　「あいち健康プラザ」＝＝＝＝⇒出光興産(株)愛知製油所＝＝＝＝⇒ナガシマスパーランド（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:00　9:30　11:30　12:30　15:00　17:30	土井	井村		
	４Ｓ	１１日　学校＝＝＝⇒湾岸長島ＰＡ（昼食）＝＝＝⇒㈱ＩＮＡＸ榎戸工場＝＝＝⇒「三河ハイツ」（泊） 9:00　11:30　13:00　14:00　16:00　17:30 １２日　「三河ハイツ」＝＝＝＝⇒㈱デンソー西尾工場＝＝＝＝⇒ＳＡ（昼食）＝＝＝＝⇒伊賀上野城＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:00　11:30　12:20　13:00　15:00　16:00　17:30	中田	福田		
	４Ｉ	１１日　学校＝＝＝⇒㈱森精機製作所伊賀事業所（昼食）＝＝＝⇒シャープ㈱三重亀山生産本部＝＝＝⇒「ウェルサンピア伊勢」（泊） 9:00　10:30　13:00　14:00　15:30　17:00 １２日　「ウェルサンピア伊勢」＝＝＝＝⇒斎宮歴史博物館＝＝＝＝⇒おかげ横丁（昼食）＝＝＝＝⇒学校 9:00　9:30　11:30　12:00　14:00　17:00	世古	小山		
	４Ｃ	１１日　学校＝＝＝＝⇒姫路城（昼食）＝＝＝＝⇒ハリマ化成㈱加古川事業所＝＝＝＝⇒「国民宿舎 赤とんぼ荘」（泊） 9:00　11:30　13:00　14:00　16:00　17:00 １２日　「国民宿舎 赤とんぼ荘」＝＝＝＝⇒㈱日本触媒 姫路事業所（昼食）＝＝＝＝⇒神戸ポートタワー＝＝＝＝⇒学校 9:00　10:00　13:00　14:15　15:30　17:30	神澤	直江		

【宿泊先】

機械工学科第４学年（４Ｍ）	「錦浦館」	三重県鳥羽市鳥羽１－１０－３８	ＴＥＬ ０５９９－２５－２００１
電気工学科第４学年（４Ｅ）	あいち健康プラザ「健康宿泊館」	愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山１－１	ＴＥＬ ０５６２－８２－０２３５
電子制御工学科第４学年（４Ｓ）	三河ハイツ　天の丸	愛知県額田郡幸田町大字荻字遠望峰１０	ＴＥＬ ０５６４－６２－１７５１
情報工学科第４学年（４Ｉ）	「ウェルサンピア伊勢」	三重県伊勢市佐八町字池の上１１６５－１	ＴＥＬ ０５９６－３９－１２００
物質化学工学科第４学年（４Ｃ）	国民宿舎「赤とんぼ荘」	兵庫県龍野市龍野町日山４６３－２	ＴＥＬ ０７９１－６２－１２６６

平成17年度 第4学年 秋季社会工場見学・合宿研修 招聘卒業生一覧

17. 11. 2

招聘学科名	氏名	卒業年月（卒業学科・専攻科）	勤務先等	所属長依頼状宛名	依頼状送付先	謝金	旅費
機械工学科	山下 昌宏	平成14年3月（機械工学科）	(株)ヤマシナ 技術課	株式会社ヤマシナ 総務部長 植田 実 技術開発部長 堀内 美喜雄	〒607－8155 京都市山科区東野狐藪野16 (株)ヤマシナ 総務部		
	河村 慎介	平成17年3月（機械工学科）	同志社大学 商学部 3年生		〒610－0352 京田辺市花住坂2－9－1		
電気工学科	守田 繁治	平成16年3月（電気工学科）	出光興産(株) 愛知製油所 製油2課	出光興産株式会社 愛知製油所長 川嶋 一元	〒478－8555 愛知県知多市南浜町11 出光興産(株)愛知製油所 人事課 後藤 政幸	1人当り 6,000円 (3,000円×2時間) 本校諸謝金支給基準による（指導・助言・実技実習等謝金）	講師等旅費 (勤務先から合宿所までの交通費・日当・宿泊費)
	高井 大	平成16年3月（電気工学科）	豊橋技術科学大学 工学部 電気・電子工学系 長尾研究室 4年生	豊橋科学技術大学 工学部 電気・電子工学系 系長 太田 昭男 教授	〒441－8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1－1 豊橋技術科学大学工学部 電気・電子工学系 系長 太田 昭男 教授		
電子制御工学科	小野真意人	平成14年3月（電子制御工学科）	松下電器産業(株) 松下ホームアプライアンス社 ホームユーティリティ事業部 製造グループ 工場技術チーム	松下電器産業(株)松下ﾎｰﾑｱﾌﾟﾗｲｱﾝｽ社 ﾎｰﾑﾕｰﾃｨﾘﾃｨ事業部 製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ 工場技術ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ 田中 淳裕	〒561－0823 豊中市神州町1番2号 松下電器産業(株)松下ﾎｰﾑｱﾌﾟﾗｲｱﾝｽ社 ﾎｰﾑﾕｰﾃｨﾘﾃｨ事業部 製造ｸﾞﾙｰﾌﾟ 工場技術ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ 田中 淳裕		
	松谷 勲	平成14年3月（電子制御工学科）	大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程2年次	大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授 伊東 一良	〒565－0871 吹田市山田丘2-1 GSEｺﾓﾝ ｲｰｽﾄ10F U1E-1005 大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻 教授 伊東 一良		
情報工学科	中道 上	平成11年3月（電子情報工学専攻）	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 ソフトウェア工学講座 松本研究室 学術振興会 特別研究員	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 ソフトウェア工学講座 教授 松本 健一	〒630－0101 生駒市高山町8916－5 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 ソフトウェア工学講座 教授 松本 健一	※謝金辞退 情報工学科 中道 上	※日帰り 機械工学科 山下昌宏, 河村慎介 電気工学科 守田繁治 物質化学工学科 今西康之, 荒木美帆
	明石 浩幸	平成9年3月（情報工学科）	シャープ ビジネスコンピュータ ソフトウェア(株) ソフト評価統轄部 第2評価センター	シャープ ビジネスコンピュータ ソフトウェア(株) ソフト評価統轄部第2評価センター 副参事 辻中 真	〒639－1017 大和郡山市藤原町2－18 平井ビル シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株) ソフト評価統轄部第2評価センター 主任 井口 義知		
物質化学工学科	今西 康之	平成11年3月（化学工学科）	東レ(株) フィルム研究所	東レ株式会社 フィルム研究所長 恒川 哲也	〒520－8558 大津市園山1－1－1 東レ株式会社 フィルム研究所長 恒川 哲也		
	荒木 美帆	平成14年3月（物質化学工学科）	東レ(株) 機能材料研究所 医療システム研究室	東レ株式会社 機能材料研究所長 谷口 孝	〒520－0842 大津市園山3－2－1 東レ株式会社 機能材料研究所長 谷口 孝		

（出典　学生課教務係作成資料）

資料7－2－④－13　卒業生と語る会

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　学生課学生係作成資料）

資料７－２－④－１４　専攻科　学外研修・特別講演会

平成１６年１０月

専攻科学生の学外研修について

１．目　　的：専攻科学生への教育の一環として、学外において文化財・施設・産業等を実地に見学することにより、将来社会人としての基礎知識を得る機会とする。また、団体行動により学生相互の親睦を深めることにより、学園生活をより充実させ、快適なものとする一助とする。

２．見学日時：平成１６年１１月１１日（木）～１２日（金）　　１泊２日

３．見学人数：合計
　　専攻科学生　１年生：２８名　　２年生：３０名　　計　５８名
　　引率　　教員：３名（　阪部、宇田、守屋　）　専門員（米田）：１名

４．見学場所：１１月１１日（木）　UCC コーヒー博物館、Kaneka（鐘淵化学）高砂工業所
　　１１月１２日（金）　姫路城、アサヒビール西宮工場
　宿泊場所：ゆのごう館　岡山県英田郡美作町湯郷９０６－１　℡０８６８－７２－１１２６

５．行程：（借り上げバス２台）

　１１月１１日（木）
　学校―――UCC コーヒー博物館―― （昼食） ―――Kaneka（鐘淵化学）高砂工業所―――
　８：３０　１０：３０～１１：３０　　１４：００～１６：００

　――ゆのごう館
　　１８：００

　１１月１２日（金）
　宿舎――――姫路城　――― （昼食） ――――アサヒビール西宮工場――――学校
　９：３０　１１：００～１２：４０　　１４：３０　～　　１５：３０　　１７：３０

専攻科特別講演会

回	日　　時	講　　師	演　　題
8	平成 12 年 11 月 22 日(水) 13:00～15:00	シャープ㈱ 生産技術開発本部長 奥 田　　徹　氏	ＩＴ時代におけるモノづくりの革新
9	平成 13 年 10 月 26 日(金) 14:40～16:10	関西テック㈱ 専務取締役 岡　　毅　氏	原子力発電について
10	平成 14 年 10 月 24 日(木) 13:00～15:00	西岡特許事務所 弁理士 西 岡 伸 泰　氏	特許事務所から見た特許意識の問題
11	平成 15 年 11 月 28 日(金) 13:00～15:00	(株)ｸﾎﾞﾀ水環境ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ　技術第一部課長 植 松　　淳　氏	生ごみからエネルギー回収
12	平成 16 年 11 月 26 日(金) 13:00～15:00	八尾市中小企業ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ 所長 川 上　和 祐　氏	やりがいがあるよ！ 日本の中小企業―来たれ学生諸君

（出典　2005年 10 月自己点検・評価報告書）

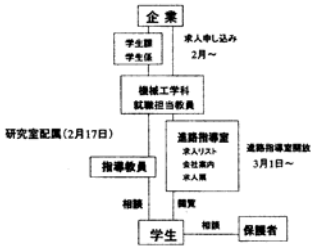
資料７－２－④－１５　保護者懇談会（機械工学科）

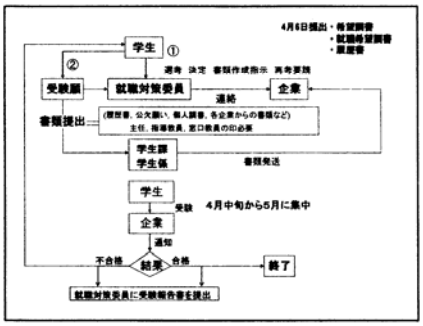
機械工学科
平成18年度 第5学年 保護者会

就職・進学について

平成18年3月23日(木)10時00分から
会場：大会議室
9:40～ 受付
10:00～ 主任挨拶
進路説明等

就職活動の流れ





就職活動に対する指導

- 全体ガイダンス(2月3日実施)
- ルール説明(１社1名を原則とする.
  リクルートナビなど登録禁止：会社指定を除く)
- 資料公開(進路指導室の開放：3月1日)
- 求人リスト作成・掲示(求人票, パンフレットなどの閲覧)
  (求人リスト：受付番号, 会社名, 締切日, 面談者など)
  (求人票：勤務地, 職務内容, 試験内容, 給与額, その他)
- 提出書類準備(2月28日に連絡, フロー図など資料配布)
  学生側(写真, 履歴書の下書き)
  学校側(推薦書, 個人調書, 健康診断書, 成績証明書, 卒業見込み証明書など, 受験先が決定後準備)

1

（出典　機械工学科作成資料）

資料７－２－④－１６　保護者懇談会（電気工学科）

保護者懇談会資料　　平成 17 年 4 月 11 日

独立行政法人　国立高等専門学校機構

奈良工業高等専門学校　電気工学科

平成 17 年度　進路ガイダンス資料

主任教授　　藤井　治久

1. 卒業後の進路について

高専卒業後の進路は次の 2 つです。

(1) 就職：学校斡旋による就職、（個人による就職）

(2) 進学：高専専攻科への進学、大学への編入

就職か進学かの進路選択は、学生本人の能力と意欲ならびに保護者の意向等を勘案して慎重に決定して下さい。

いずれの場合でも全学生にできる限り平等に機会が与えられるよう、また学校の対外的信用が損なわれないように、以下のようなルールで斡旋および指導を行っています。

● 就職と進学の掛け持ち受験は認めていません。

ただし、進学を断念した時点での就職への変更は可能ですが、就職予定者の就職希望先企業への割り込みは認めていません。

したがって、進学が駄目なら就職するという安易な気持ちでは通用しませんので、進学するなら浪人覚悟で挑戦して下さい。

● 就職の斡旋（推薦）は、原則 1 社 1 名とします。

内定等の連絡があった時には必ず当該企業に就職することとしています。また、不合格となった場合には、すでに内定者が決まっている企業以外を斡旋（推薦）します。

● 推薦による専攻科進学と編入について

専攻科および編入希望先大学から合否の結果が出るまでは、次の推薦は行いません。また合格した場合には、次の推薦は行いません。

● 希望先割当の優先順位は、成績上位の者から行います。

就職に関しては、4 年次の席次上位の者から、進学に関しては 1 － 4 年次の成績を勘案して行ないます。

【電気工学科の進路指導教員】

主　　任：　教授　藤井　治久

5 年担任：　教授　井村　榮仁

就職対策委員：助教授　中村　善一

1

（出典　電気工学科作成資料）

資料7－2－④－17　保護者懇談会（電子制御工学科）

就職・進学に対する心構え

電子制御工学科

（１）就職か進学かをできるだけ早く決める。

まず、自己の能力、適正を十分見つめた上で決定すること。しかしながら、客観的に自己を知ることはかなり困難な場合が多い。このことから、両親、友人、あるいは、教官の見解も参考にして、家族とも十分な話し合い進路を決定する必要がある。

（２）就職について

電子制御工学科は産業界の先端技術化を反映して創設された学科であることから、企業のニーズは大きいと思われるが、バブル崩壊から現在までの景気を考えると本年度の就職についてもかなり厳しいことが予想される。

しかし、企業は人材が是非ほしいのである。君達がこの人材足りうるかをもう一度自己を見つめ直すことが肝心である。

就職試験は、面接試験と学力試験があり、昨今の情勢では、両方を課す企業が多い。高専卒業生の採用にあたっては、人物、身体、学業成績、採用試験成績などで判断される。この中で、人物の評価のウェイトがかなりあり、これは面接試験で評価される。面接試験での態度、言葉使い、自己の考えの表現力などは、幾ら練習をしてもその人間が持っている器量はでてしまうものであり、面接官はそれを見抜くプロである。このことから日頃の生活態度をきちんとし、礼儀、作法に注意するとともに新聞の社説、文学書などを読むことを心がけ、学力を付けておくことが大切である。

学力試験のポイント

企業が行う筆記試験には、常識問題、専門試験、適性試験、作文がある。

常識試験：英語（英文和訳、英作文）、数学（計算、文章問題）、国語（漢字読み書き）などで高等学校程度の実力が試される。市販の常識問題に目を通しておくこと。

専門試験：学科の基礎的問題（材料力学、流体力学、熱力学、電気、電子工学）、英語（英文和訳、英作文）、数学（微分、積分）、物理などが多い。

適性試験：運転免許試験における適性検査に類似

作文　　：テーマが与えられ千字程度　例えば「入社して自分のできること」

（出典　電子制御工学科作成資料）

資料7－2－④－18　保護者懇談会(情報工学科)

平成17年度 情報工学科

第５学年保護者懇談会説明資料

【日時】平成１７年４月７日(木)
【場所】情報工学科棟１階　５Ｉ教室
【プログラム】
・午後１時半～２時　受付
・午後２時～３時　全体説明（学科主任・副主任）
・午後３時～４時　指導教官との懇談（各研究室）

【資料目次】

	ページ
Ⅰ．まえがき ・・・・・・・・・・	1
Ⅱ．就職 ・・・・・・・・・・	2
Ⅲ．進学 ・・・・・・・・・・	4
Ⅳ．綴じこみ資料	
・情報工学科卒業生就職先一覧 ・・・・・・・・・	5
・情報工学科卒業生進学先一覧 ・・・・・・・・・	7
・高専専攻科入学・大学編入学試験に関する取り扱い要領 ・・・	8

【別冊資料】
・平成１７年度求人リスト（学科直接分のみ）
・卒業生就職状況調
・(卒業研究)研究室配属一覧

国 立 奈 良 工 業 高 等 専 門 学 校

情 報 工 学 科

（出典　情報工学科作成資料）

資料７－２－④－１９　保護者懇談会（物質化学工学科）

平成１７年度

物質化学工学科
第４学年保護者懇談会

日時：平成１７年１１月２２日(火)
午後１時３０分～
場所：物質化学工学科視聴覚製図室
（本館北棟１階）

（出典　物質化学工学科作成資料）

資料7－2－④－20　機械工学科(5年生)

(2)　第5学年を対象とした進路指導

第4学年の平成16年3月3日進路ガイダンスを実施したが，新5年生になったので，平成16年4月8日にあらためて進路について取組み方を指導した。平成16年度は，平成16年3月3日から進路指導室の開放し，求人情報を，全学生に見やすいように整理して公開し，自由に学生がそれを閲覧できるようにした。4月8日に，就職または進学の希望について個々の学生の考えを聞き，必要に応じ適切なアドバイスを行った。

(3)　保護者対象の進路説明会

従来から開催しているが，第5学年学生の保護者に対しては，平成16年4月2日に，学科主任と進路指導担当者で保護者懇談会も開催し，学校側の指導状況の説明と

面接における質問予想

（1）　簡単に自己紹介をして下さい。
（2）　高専入学の動機は？
（3）　奈良高専を紹介して下さい。
（4）　課外活動は何をしてきましたか？
（5）　学生活動の取組みは？
（6）　どのような授業に興味がありましたか？
（7）　得意な科目、不得意な科目は？
（8）　卒業研究について説明して下さい。
（9）　これだけは人に負けないという事があれば紹介して下さい。
（10）　学生生活で得た最も大きなものは何ですか？

（11）　あなたの生活信条は？
（12）　あなたの性格の長所・短所は？
（13）　あなたの趣味は？
（14）　最近の出来事（事件など）で印象に残るものは何？

（15）　当社を選択した理由は何ですか（志望動機）
（16）　当社に対する印象は？
（17）　当社について知っていることを紹介して下さい。
（18）　当社でどのような仕事がしたいか？

面接のこころ構え

- 挨拶のしかたと礼儀
- 言葉づかい（ハキハキ明瞭、話癖に注意、）
- 服　装

◎　個人面談　…　1次面接、2次面接（重役面接）
◎　グループ面談　…　グループ面接、グループ・ディスカッション

（出典　自己点検･評価報告書2005年10月･機械工学科作成資料）

資料7－2－④－21　情報工学科（4年生）

平成１７年度 情報工学科　　平成１７年１２月１５日

第４学年進路ガイダンス資料

奈良高専　情報工学科

Ⅰ．まえがき

１．全般

最近の新聞報道等でも分かるように，新卒業生に関する求人・求職活動の早期化が進行しており，残念ながら５年生になってから就職・進学を検討するのでは遅すぎるようになってきた．そこで，これらの動きに対して学生が不利にならないように，４年生の終わり頃から学科別のガイダンスを行っている．（次項の進路指導予定表を参照）

進路の検討に当たって始めにやるべき重要なことは，就職か進学かを早く決めることである．そのためには就職と進学の意味をよく考えてみることを勧める．就職とは給料をもらって仕事をしながら（技術者としての）自分を高めていくことであり，進学とは授業料を払ってさらに技術や知識を身に付けて自分を高めていくことであると考えればよい．いずれの道においても，過去の卒業生は社会に出て大いに活躍しておられる．その結果として（奈良）高専の学生は高く評価されている．今後の評価を決めるのは今からの卒業生である（という気持ちで進路を考えればよい）．

以下には就職と進学に分けて説明するが，学校推薦による受験がほとんどである就職についての説明が多くなっている．

２．平成１７年度進路指導実績

平成１６年１１，１２月　４年生保護者懇談会，４学年進路ガイダンス
３月始め　　ＮＨＫ放送局見学会
３月１０日（木）［卒研配属決定］第１回進路希望調査用紙，個人票配布，保護者懇談会案内
３月２８日（月）　就職希望者に対する求人会社ガイダンス
４月　７日（木）［新年度初日］　保護者懇談会，第１回進路調査用紙回収，
　　第２回（最終）進路希望調用紙配布
〃　１２日（火）　第２回進路調査用紙回収
〃　１５日（金）　進路ガイダンス（面接指導）および就職推薦先調整
〃　１９日（火）　推薦先決定，以後求人企業への応募事務開始
＊ その他：　春休み中も，特に就職希望者に対して指導を行っている．

３．受験報告

就職・進学とも受験者は全員，推薦の有無に関わらず受験報告書を提出する．

過去の先輩の受験報告書はファイルされて，学生が進路指導室等で閲覧できる．この受験報告書が進路先を決める上で，有力な資料になっているので，今年も最大限に活用して下さい．

また，過去の先輩がしてきたように，後輩のために受験生は必ず受験報告書を残すこと．そのためには，受験終了後の記憶が鮮明な間に報告書を作成すると，質の良い内容になり，まとめる時間も少なくてすむ．受験が終わったら，学科に用意されている受験報告書用紙に記入して提出して下さい．

－ 1 －

（出典 情報工学科作成資料）

資料７－２－④－２２　学科が受理した求人票等の整理・公開状況

（出典　機械工学所有資料）

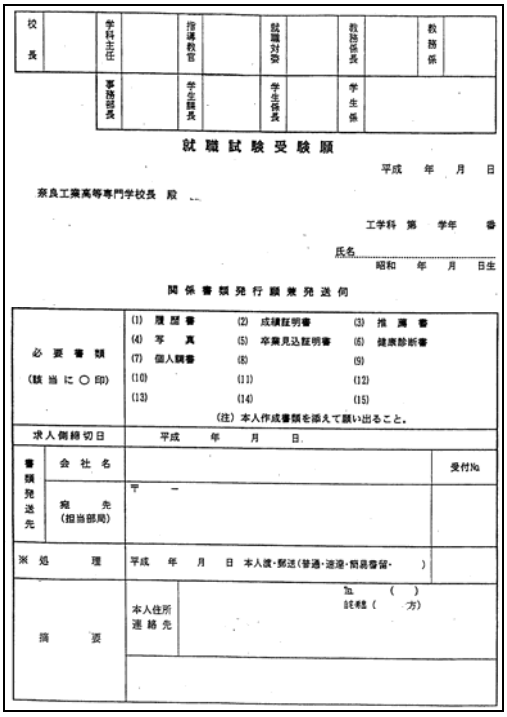
資料７－２－④－２２　学科が受理した求人票等の整理・公開状況

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　機械工学科作成資料）

資料7－2－④－23　編入学･大学院･就職受験願

準学士課程:



就職試験受験願

平成　年　月　日

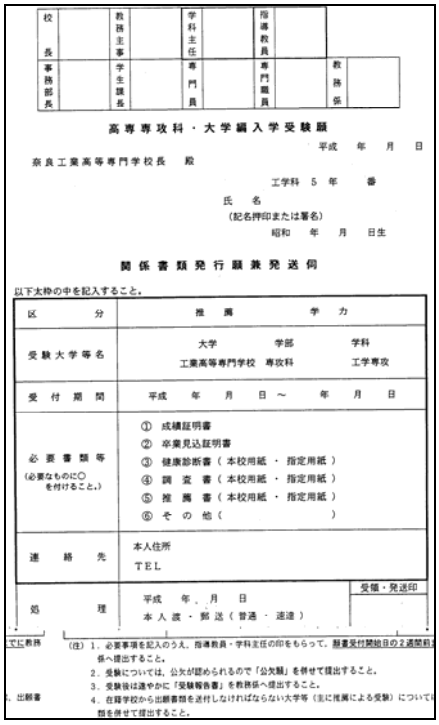
奈良工業高等専門学校長　殿

工学科　第　学年　番

氏名
昭和　年　月　日生

関係書類発行願兼発送伺

必要書類（該当に○印）	(1) 履歴書 (2) 成績証明書 (3) 推薦書 (4) 写真 (5) 卒業見込証明書 (6) 健康診断書 (7) 個人調書 (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15)
	（注）本人作成書類を添えて願い出ること。
求人側締切日	平成　年　月　日
書類発送先 会社名	受付No
書類発送先 宛先（担当部局）	〒
※処理	平成　年　月　日　本人渡・郵送（普通・速達・簡易書留・　）
摘要 本人住所 連絡先	TEL（　）　方



高専専攻科・大学編入学受験願

平成　年　月　日

奈良工業高等専門学校長　殿

工学科 5 年　番

氏名
（記名押印または署名）
昭和　年　月　日生

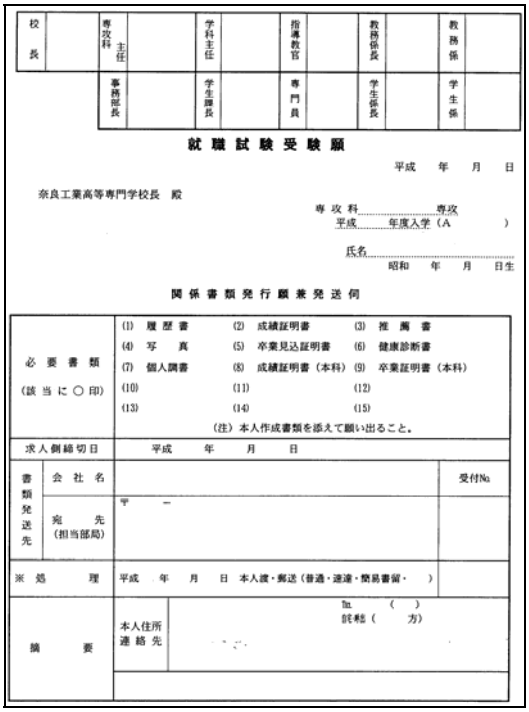
関係書類発行願兼発送伺

以下太枠の中を記入すること。

区分	推薦　学力
受験大学等名	大学　学部　学科 工業高等専門学校　専攻科　工学専攻
受付期間	平成　年　月　日～　年　月　日
必要書類等（必要なものに○を付けること。）	① 成績証明書 ② 卒業見込証明書 ③ 健康診断書（本校用紙・指定用紙） ④ 調査書（本校用紙・指定用紙） ⑤ 推薦書（本校用紙・指定用紙） ⑥ その他（　）
連絡先	本人住所 TEL
処理	平成　年　月　日 本人渡・郵送（普通・速達）　受領・発送印

（注）1．必要事項を記入のうえ、指導教員・学科主任の印をもらって、願書受付開始日の2週間前までに教務係へ提出すること。
2．受験については、公欠が認められるので「公欠願」を併せて提出すること。
3．受験後は速やかに「受験報告書」を教務係へ提出すること。
4．在籍学校から出願書類を送付しなければならない大学等（主に推薦による受験）については、出願書類を併せて提出すること。

専攻科課程:



就職試験受験願

平成　年　月　日

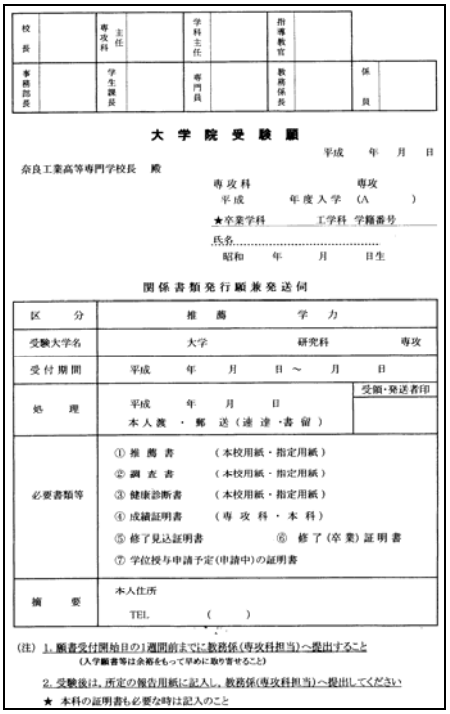
奈良工業高等専門学校長　殿

専攻科　専攻
平成　年度入学（A　）

氏名
昭和　年　月　日生

関係書類発行願兼発送伺

必要書類（該当に○印）	(1) 履歴書 (2) 成績証明書 (3) 推薦書 (4) 写真 (5) 卒業見込証明書 (6) 健康診断書 (7) 個人調書 (8) 成績証明書（本科） (9) 卒業証明書（本科） (10) (11) (12) (13) (14) (15)
	（注）本人作成書類を添えて願い出ること。
求人側締切日	平成　年　月　日
書類発送先 会社名	受付No
書類発送先 宛先（担当部局）	〒
※処理	平成　年　月　日　本人渡・郵送（普通・速達・簡易書留・　）
摘要 本人住所 連絡先	TEL（　）　方



大学院受験願

平成　年　月　日

奈良工業高等専門学校長　殿

専攻科　専攻
平成　年度入学（A　）
★卒業学科　工学科　学籍番号

氏名
昭和　年　月　日生

関係書類発行願兼発送伺

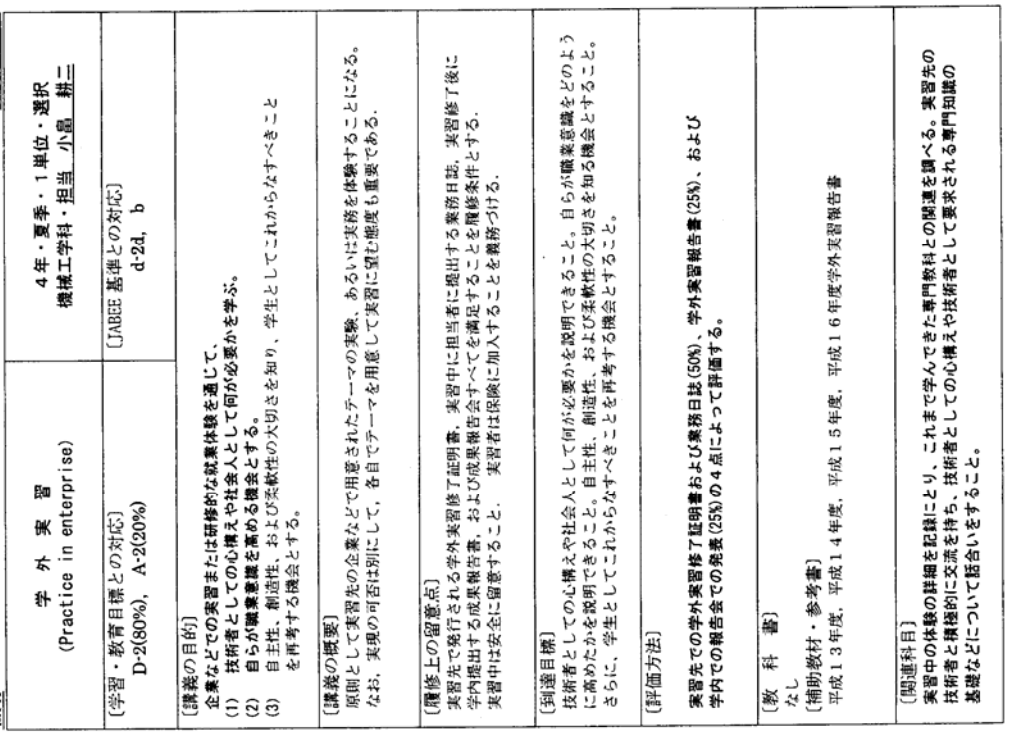
区分	推薦　学力
受験大学名	大学　研究科　専攻
受付期間	平成　年　月　日～　月　日
処理	平成　年　月　日 本人渡・郵送（速達・書留）　受領・発送者印
必要書類等	① 推薦書　（本校用紙・指定用紙） ② 調査書　（本校用紙・指定用紙） ③ 健康診断書　（本校用紙・指定用紙） ④ 成績証明書　（専攻科・本科） ⑤ 修了見込証明書　⑥ 修了（卒業）証明書 ⑦ 学位授与申請予定（申請中）の証明書
摘要	本人住所 TEL　（　）

（注）1．願書受付開始日の1週間前までに教務係（専攻科担当）へ提出すること
（入学願書等は余裕をもって早めに取り寄せること）
2．受験後は、所定の報告用紙に記入し、教務係（専攻科担当）へ提出してください
★ 本科の証明書も必要な時は記入のこと

（出典　学生課教務係保存資料）

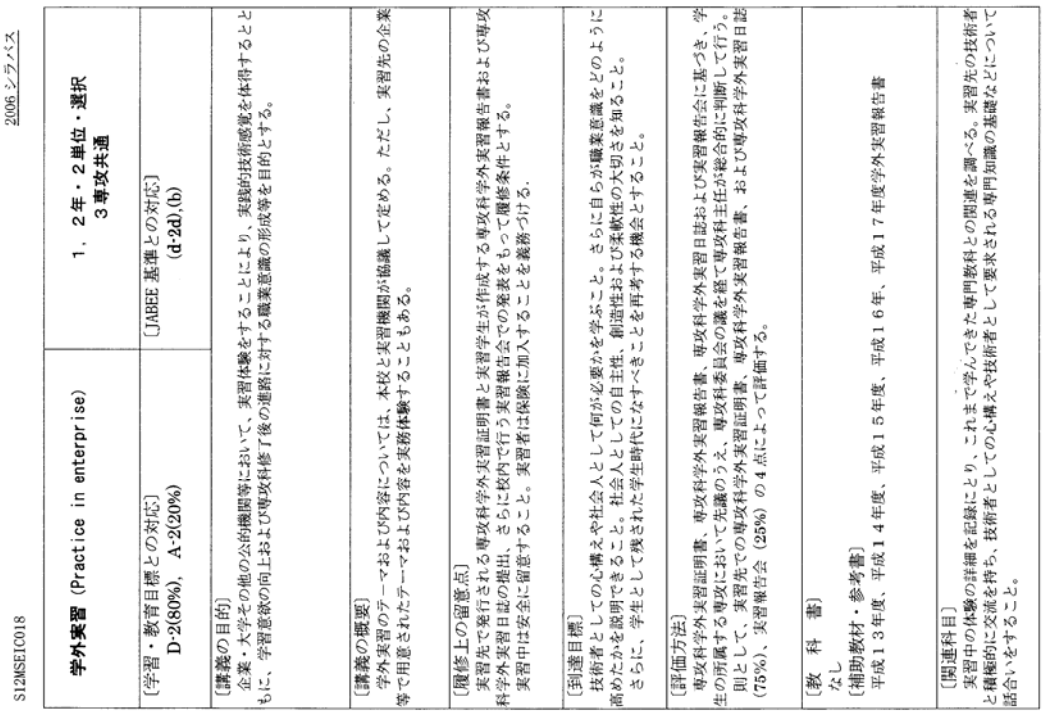
資料7－2－④－24　学外実習

準学士課程:



4MI41		2006 シラバス
学　外　実　習 (Practice in enterprise)		4年・夏季・1単位・選択 機械工学科・担当　小畠　耕二
[学習・教育目標との対応] D-2(80%), A-2(20%)		[JABEE 基準との対応] d-2d, b
[講義の目的] 企業などでの実習または研修的な就業体験を通じて、 (1) 技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶ。 (2) 自らが職業意識を高める機会とする。 (3) 自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知り、学生としてこれからなすべきこと を再考する機会とする。		
[講義の概要] 原則として実習先の企業などで用意されたテーマの実験、あるいは実務を体験することになる。 なお、実現の可否は別にして、各自でテーマを用意して実習に望む態度も重要である。		
[履修上の留意点] 実習先で発行される学外実習修了証明書、実習中に担当者に提出する業務日誌、実習修了後に 学内提出する成果報告書、および成果報告会すべてを満足することを履修条件とする。 実習中は安全に留意すること。　実習者は保険に加入することを義務づける。		
[到達目標] 技術者としての心構えや社会人として何が必要かを説明できること。自らが職業意識をどのよう に高めたかを説明できること。自主性、創造性、および柔軟性の大切さを知る機会とすること。 さらに、学生としてこれからなすべきことを再考する機会とすること。		
[評価方法] 実習先での学外実習修了証明書および業務日誌(50%)、学外実習報告書(25%)、および 学内での報告会での発表(25%)の4点によって評価する。		
[教　科　書] なし [補助教材・参考書] 平成13年度，平成14年度，平成15年度，平成16年度学外実習報告書		
[関連科目] 実習中の体験の詳細を記録により、これまで学んできた専門教科との関連を調べる。実習先の 技術者と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の 基礎などについて話合いをすること。		

専攻科課程:

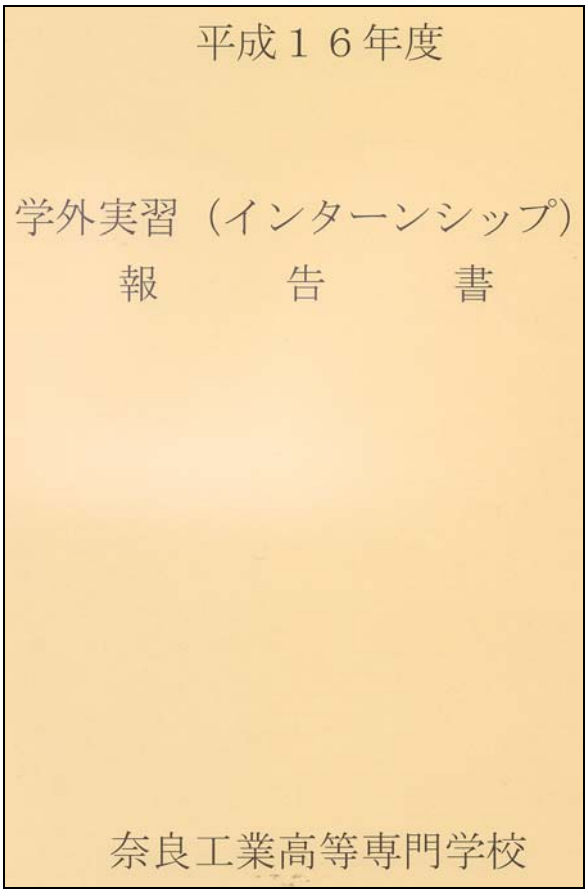


S12MSEIC0018	2006 シラバス
学外実習 (Practice in enterprise)	1，2年・2単位・選択 3専攻共通
[学習・教育目標との対応] D-2(80%), A-2(20%)	[JABEE 基準との対応] (d-2d),(b)
[講義の目的] 企業・大学その他の公的機関等において、実習体験をすることにより、実践的技術感覚を体得するとと もに、学習意欲の向上および専攻科修了後の進路に対する職業意識の形成等を目的とする。	
[講義の概要] 学外実習のテーマおよび内容については、本校と実習機関が協議して定める。ただし、実習先の企業 等で用意されたテーマおよび内容を実務体験することもある。	
[履修上の留意点] 実習先で発行される専攻科学外実習証明書と実習学生が作成する専攻科学外実習報告書および専攻 科学外実習日誌の提出、さらに校内で行う実習報告会での発表をもって履修条件とする。 実習中は安全に留意すること。実習者は保険に加入することを義務づける.	
[到達目標] 技術者としての心構えや社会人として何が必要かを学ぶこと。さらに自らが職業意識をどのように 高めたかを説明できること。社会人としての自主性、創造性および柔軟性の大切さを知ること。 さらに、学生として残された学生時代になすべきことを再考する機会とすること。	
[評価方法] 専攻科学外実習証明書、専攻科学外実習報告書、専攻科学外実習日誌および実習報告会に基づき、学 生の所属する専攻において先議のうえ、専攻科委員会の議を経て専攻科主任が総合的に判断して行う。 則として、実習先での専攻科学外実習証明書、専攻科学外実習報告書、および専攻科学外実習日誌 (75%)、実習報告会（25%）の4点によって評価する。	
[教　科　書] なし [補助教材・参考書] 平成13年度、平成14年度、平成15年度、平成16年、平成17年度学外実習報告書	
[関連科目] 実習中の体験の詳細を記録により、これまで学んできた専門教科との関連を調べる。実習先の技術者 と積極的に交流を持ち、技術者としての心構えや技術者として要求される専門知識の基礎などについて 話合いをすること。	

（出典　平成18年度シラバス）

資料7－2－④－25　学外実習

準学士課程:


平成１６年度

学外実習（インターンシップ）
報　　告　　書

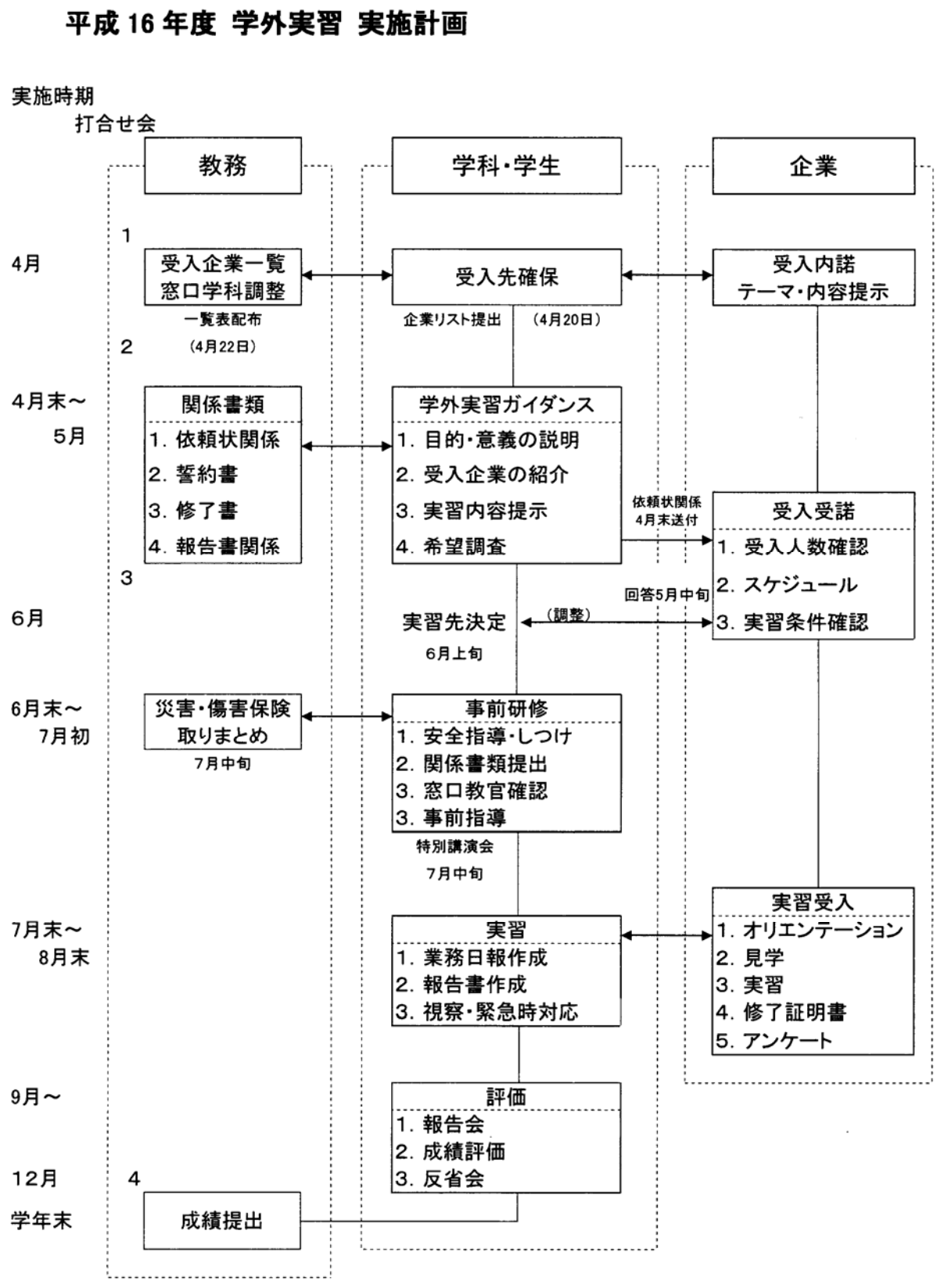
奈良工業高等専門学校

専攻科課程:

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　平成 16 年度学外実習報告書・自己点検書（引用・裏付資料編））

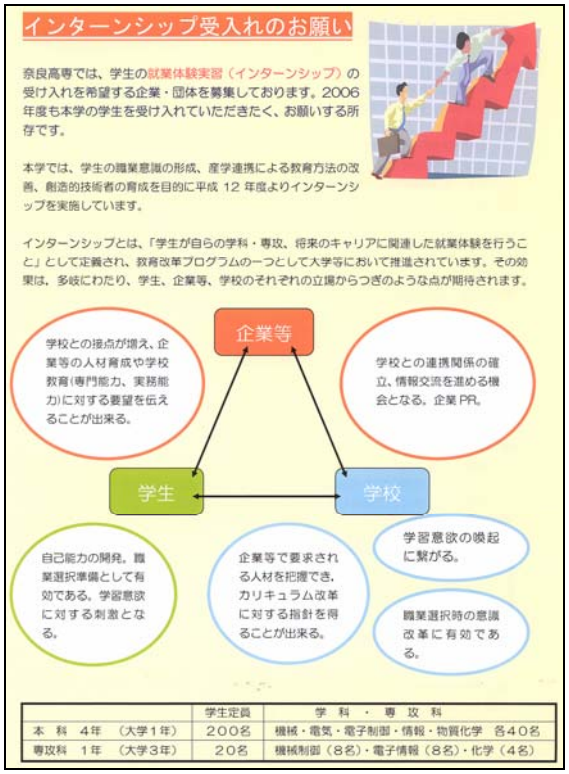
資料７－２－④－26　学外実習実施の流れ



（出典　平成16年度学外実習報告書）

資料７－２－④－27　学外実習実施の取り組み

受入れ先企業開拓のためのリーフレット：



インターンシップ受入れのお願い

奈良高専では、学生の就業体験実習（インターンシップ）の受け入れを希望する企業・団体を募集しております。2006年度も本学の学生を受け入れていただきたく、お願いする所存です。

本学では、学生の職業意識の形成、産学連携による教育方法の改善、創造的技術者の育成を目的に平成 12 年度よりインターンシップを実施しています。

インターンシップとは、「学生が自らの学科・専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として定義され、教育改革プログラムの一つとして大学等において推進されています。その効果は、多岐にわたり、学生、企業等、学校のそれぞれの立場からつぎのような点が期待されます。

企業等

学校との接点が増え、企業等の人材育成や学校教育（専門能力、実務能力）に対する要望を伝えることが出来る。

学校との連携関係の確立、情報交流を進める機会となる。企業 PR。

学生

学校

自己能力の開発。職業選択準備として有効である。学習意欲に対する刺激となる。

企業等で要求される人材を把握でき、カリキュラム改革に対する指針を得ることが出来る。

学習意欲の喚起に繋がる。

職業選択時の意識改革に有効である。

	学生定員	学　科　・　専　攻　科
本　科　4年　（大学1年）	200名	機械・電気・電子制御・情報・物質化学　各40名
専攻科　1年　（大学3年）	20名	機械制御（8名）・電子情報（8名）・化学（4名）

特別講演会：

平成１７年　７月　１日

第 ４ 学 年 ・ 専 攻 科
インターンシップ履修学生諸君

教　務　主　事

特 別 講 演 会 の 実 施 に つ い て

このことについて，下記のとおり実施しますので，インターンシップ履修学生は、必ず出席すること。

記

日　　時　　平成１７年 ７月　７日（木）
１４：４０～１６：１０

場　　所　　大 視 聴 覚 室

講　　師　　榊　野　　隆　弘
（オムロン株式会社　光通信デバイス事業推進部　生産課　課長）

演　　題　　「　インターンシップ講演　」

教員によるインターンシップ視察先一覧：

平成17年度　インターンシップ視察先一覧

学科	教員氏名	日　程	視察打合せ先①	視察打合せ先②	視察打合せ先③	視察打合せ先④	①住所	②住所	③住所	④住所
M	和田任弘	6月17日	奈良市生涯学習財団				奈良市上三条町23－4			
S	西田茂生	7月26日	松尾捺染(株)				東大阪市森河内東1-9-8			
S	西田茂生	7月30日	ムラッタC．C．S．(株)				犬山市橋爪中島2			
S	西田茂生	7月27日	(株)アシキン				柏原市円明町1000-45			
S	西田茂生	8月4日	(株)トヨタコミュニケーションシステム				豊田市喜多町1-140			
C	泉生一郎	7月22日	寺田ポンプ				大和高田市東雲町3-17			
C	泉生一郎	7月25日	資生堂ホネケーキ工業(株)				茨木市三島丘1-5-13			
C	泉生一郎	7月27日	大阪紐釘インキ製造(株)				伊賀市坂村字赤坂3051			
C	泉生一郎	7月29日	共栄社化学(株)				奈良市西九条町5-2-5			
C	泉生一郎	8月4日	東洋精密工業(株)				橿原市新堂町376-1			
C	泉生一郎	8月5日	香椎化学工業(株)				大阪市城東区成育2-14-24			
C	泉生一郎	8月24日	田村薬品工業(株)				御所市西寺田50			
M	坂本雅彦	7月27日	寺田ポンプ				大和高田市東雲町3-17			
C	大槌正敏	7月27日	(株)INAX				伊賀市三田1030			
M	谷口泰典	7月26日	MSTコーポレーション				生駒市北田原町1738			
C	河越幹男	7月26日	岡村製油(株)				柏原市河原町4-5			
M	酒井史敏	7月27日	住金関西工業(株)				大阪市此花区島屋5-1-109			
I	上田勝彦	7月27日	ニチゾウ電子制御(株)	(株)ティ・アイ・ディ	アイコム(株)		大阪市此花区西九条5-3-28	大阪市中央区久太郎町2-5-28	大阪市平野区加美南1-1-32	
S	禰弘明	8月5日	東レエンジニアリング				大津市園山1-1-1			
S	島岡三義	8月1日	パナソニックエレクトロニックデバイス				門真市門真1006			
S	西田茂生	8月3日	松尾捺染(株)				東大阪市森河内東1-9-8			
S	西田茂生	8月10日	(株)エム・アイ・テイ				大阪市城東区永田3-14-22			
S	西田茂生	8月24日 ～ 25日	キャノン販売(株)	日本電気システム建設エンジニアリング	旭化成(株)	デンソーテクノ(株)	東京都港区港南2-16-6	東京都品川区東品川1-39-9	川崎市川崎区夜光1-3-1	大府市中央町2-188
S	山本和男	8月26日	(株)旭鳴				生駒郡斑鳩町阿波293			
M	和田任弘	7月28日	日研工作所				大東市南新田1-5-1			
S	押田至啓	8月3日	神鋼テクノ(株)				高砂市荒井町新浜			
C	片倉勝己	7月27日	大阪ガス(株)				大阪市中央区平野町4			
E	大谷真弘	7月28日	(株)トラノテクシード				北葛城郡河合町川合101-1			
M	谷口泰典	8月3日	奈良精工(株)				桜井市小夫3681			
C	伊月亜有子	7月27日	(株)昇竹				奈良市京終町7-576			
E	大谷真弘	8月3日	放送映画製作所	NHK大阪放送局			大阪市北区曾根崎新地1-3-23	大阪市中央区大手前4-1-20		
C	河越幹男	8月3日	ファイザー(株)				知多郡武豊町5-2			
E	藤田直幸	8月2日	メテック北村				京都市南区上鳥羽藁田町1			
C	梅原忠	8月10日	ダイキン工業(株)				摂津市西一津屋1-1			
C	嶋田豊司	8月3日	太平化学産業				生駒郡斑鳩町高安1-1			
C	直江一光	7月26日	松下ホームアプライアンス社				大和郡山市筒井町800			
C	直江一光	8月2日	資生堂				大阪市東淀川区小松2-17-45			
M	平俊男	7月26日	三和ダイヤ工販(株)				大和郡山市今国府97-4			
E	大谷真弘	8月4日	下西製作所				東大阪市若江東町6-8-26			
I	上田勝彦	8月10日	アースインテリシステムズ(株)	(株)コボプラン			大阪市淀川区宮原3-4-30	大阪市中央区久太郎町1-9-26		
E	大谷真弘	8月5日 ～ 6日	ルネサステクノロジ				高崎市西横手町111			
M	岩井保善	8月10日	(株)タカトリ				橿原市新堂町313-1			
M	坂本雅彦	8月22日	(株)モリタ製作所				京都市伏見区東浜南町680			
S	押田至啓	8月10日	東邦化成(株)				大和郡山市今国府6-2			
S	阪部俊也	8月10日	森島製作所	共栄ダイカストK．K．			高槻市富田町1-1-8	東大阪市柏田西3-9-10		
E	大谷真弘	8月11日	中部電力(株)				名古屋市東区東新町1			
E	大谷真弘	8月12日	(株)データ・テクノ	サントリー(株)			京都市下京区西七条東御前田町48	長岡京市調子3-1-1		
E	大谷真弘	8月19日	GMB(株)				磯城郡川西町吐田150-3			
E	大谷真弘	8月24日	出光興産(株)				知多市南浜町11			
E	大谷真弘	8月29日	寺崎電気産業(株)				大阪市阿倍野区阪南町7-2-10			
I	世古忠	8月23日	岡村印刷(株)	(株)ウェーブ			高市郡高取町車木215	東大阪市森河内東2-14-6		
C	三木功次郎	8月10日	第一工業製薬(株)	(株)堀場製作所			京都市下京区七条東久保町55	京都市南区吉祥院宮の東町2		
E	大谷真弘	8月25日	カネカ道賀工場				大津市比叡辻2-1-1			
S	中田敏夫	8月26日	(株)白光				堺市浜寺石津東1-1-23			
C	片倉勝己	8月24日	佐藤薬品工業(株)				橿原市観音寺町			
C	石丸裕士	8月3日	(株)フィールドテック				東大阪市菱江			
C	宇田亮子	8月24日	京阪セロファン				京都市伏見区久我西出町5-15			
S	福田和廣	8月25日	住友ベークライト				尼崎市塚口町2-3-47			

（出典　リーフレット・掲示資料・教務係所有資料）

資料7－2－④－28　教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と奈良工業高等専門学校との間
における教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と奈良工業高等専門学校は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意するものである。

第１条　大阪大学工学部・大学院工学研究科と奈良工業高等専門学校は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、次により交流を行うものとする。
１．講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生、研究者の交流
２．両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
３．上記１以外の学生、研究者の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度両者で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　本協定は、両者の代表者による署名完了の日に効力が生じるものとし、５年間有効とする。なお、両者は６ヶ月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期限内に廃止されない場合は、本協定の有効期限満了日の６ヶ月前までに両者により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　この協定書に定めるもののほか、必要事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　この協定の定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、両者が協議のうえ処理するものとする。

上記協定の証として、協定書を２通作成し、両者がそれぞれ１通保有するものとする。

平成16年9月3日

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校
校長

一岡芳樹

一岡　芳樹

平成16年9月3日

国立大学法人大阪大学
工学部長
大学院工学研究科長

豊田政男

豊田　政男

（出典　大阪大学工学部･大学院研究科と奈良工業高等専門学校との間における教育研究交流に関する協定書）

資料7－2－④－29　推薦入学に関する覚書

早稲田大学大学院情報生産システム研究科と
国立奈良工業高等専門学校の推薦入学に関する覚書

早稲田大学大学院情報生産システム研究科（以下　甲と称する）と国立奈良工業高等専門学校（以下　乙と称する）双方は、乙が推薦する優秀な学生に対して、甲での修学の機会を提供する事に関し、下記の内容に合意する。

1．主旨及び目的

甲は乙との友好的な協力関係のもとに、情報生産システム分野の有為な研究者及び技術者を育成する為、乙が推薦する優秀な学生を協力的に受け入れるものとする。

2．早稲田大学大学院情報生産システム研究科受入学生数

甲の学生受入れ数は、原則として毎年
機械制御工学専攻科　1名
電子情報工学専攻科　1名
合　計　2名
以内とする。

3．早稲田大学大学院情報生産システム研究科の学生選考方法

甲は、乙の責任において推薦された学業成績が優れた学生に対して、推薦入学の為の面接を行い、修士課程での学習が可能と認められた学生を相互信頼の精神を持って受け入れる。

4．本覚書の執行

4.1　本覚書の有効期間は6年間とする。なお、有効期間満了時必要に応じて、甲乙双方協議により、本覚書を更新する事が出来る。
また有効期間中、甲乙双方の合意により随時覚書の内容を変更する事が出来る。
なお、破棄する場合は、3ヶ月前迄に文書にて相手側に通知するものとする。

4.2　甲乙双方は、本覚書を遵守するものとする。なお、本覚書に含まれない事項については、甲乙双方の協議により随時決定する。

4.3　本覚書は各2通作成し、それぞれ1通づつ保管するものとする。

4.4　本覚書は、双方の代表者が本覚書に署名を行った日より効力を持つものとする。

2003年　4月　1日
早稲田大学　大学院
情報生産システム研究科
研究科委員長　秋月　影雄

国立奈良工業高等専門学校
学校長　一岡　芳樹

2004年10月

奈良工業高等専門学校
校長殿

立命館大学理工学部・理工学研究科
学部長・研究科長　高倉　秀行

2006年度からの立命館大学への推薦編入学および大学院推薦入学について

拝啓　秋冷の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2004年6月にご案内いたしましたとおり、2006年度から立命館大学理工学部（理工学研究科）への推薦編入学（大学院推薦入学）を従来の協定方式から指定校推薦方式へ変更させていただきます。つきましては推薦可能人数および学部編入学受入学科（大学院受入専攻）について下記のとおりとさせていただきますので、ご確認ください。編入学推薦可能人数につきましては、編入学定員を設定していない関係もあり、人数減になっている学校もあるかと思いますがご了承ください。もし受入学科等につきまして変更の必要等がございましたら、恐れいりますが11月19日（金）までにご連絡ください。

敬具

記

1．学部推薦編入学
①推薦可能人数　最大3名（各学科1名以内）
②受入学科
別紙「高等専門学校設置学科と編入学受入学科との対応表」で対応関係にある本学理工学部の学科に推薦することができます。（対応関係がない学科には推薦できません）従来の協定でも各高等専門学校の設置学科に合わせて大学での受入学科を決めておりましたが、対応関係を協定書上明確にしていなかったため、事実上関連の浅い学科からの出願が可能になっておりましたので、今回明確にいたしました。
年度により受入を行わない学科がありますので、詳細は入試要項でご確認ください。
（建築都市デザイン学科では当面、推薦編入学を実施いたしません。）
2．大学院推薦入学
①推薦可能人数　最大2名
②受入可能専攻
現在、大学院改革の議論中であり、専攻名は確定しておりませんが、すべての専攻での推薦が可能になる予定です。ただし、従来どおり出願前に担当教員と大学院での研究に関する事前打ち合わせを行い、受入可能かどうかの確認が必要です。

（出典　早稲田大学大学院情報生産システム研究科と国立奈良工業高等専門学校の推薦に入学に関する覚書・2006年度からの立命館大学への推薦編入学および大学院入学について）

資料７－２－④－30　推薦入学に関する協定書

北陸先端科学技術大学院大学と奈良工業高等専門学校との
推薦入学に関する協定書

北陸先端科学技術大学院大学と奈良工業高等専門学校は、奈良工業高等専門学校が推薦する優秀な学生に対して北陸先端科学技術大学院大学での勉学の機会を提供することに関し、次のとおり協定を締結する。

１．主旨及び目的
北陸先端科学技術大学院大学は、奈良工業高等専門学校との友好的な協力関係のもとに、有為な研究者及び技術者を育成するため、奈良工業高等専門学校が人物及び学力ともに優秀と認め推薦する学生を、相互信頼の精神を持って受け入れる。

２．受入学生数
北陸先端科学技術大学院大学の受入学生数は、原則として毎年、奈良工業高等専門学校の専攻科修了者　若干名とする。ただし、出願時点での奈良工業高等専門学校の専攻科在学生に限る。

３．協定の執行
（１）本協定の有効期限は、調印の日から６年間とする。ただし、北陸先端科学技術大学院大学又は奈良工業高等専門学校のいずれかより有効期間満了の３ヶ月前までに書面によって中止の申し出がない場合は、１年間延長するものとし、以後同様とする。なお、有効期間中、北陸先端科学技術大学院大学及び奈良工業高等専門学校の双方合意により、本協定の内容を変更することができる。
（２）北陸先端科学技術大学院大学及び奈良工業高等専門学校は、本協定書を誠実に遵守しなければならない。
（３）この協定書に定めるもののほか、必要な事項は北陸先端科学技術大学院大学及び奈良工業高等専門学校と双方協議の上、別に定めるものとする。
（４）本協定は、北陸先端科学技術大学院大学の平成１９年４月入学者から実施する。

本協定書は２通作成し、北陸先端科学技術大学院大学及び奈良工業高等専門学校でそれぞれ１通ずつ保管するものとする。

平成１８年3月10日

北陸先端科学技術大学院大学長　潮田資勝
奈良工業高等専門学校長　一岡芳樹

奈良先端科学技術大学院大学と奈良工業高等専門学校との推薦入学に関する協定書

奈良先端科学技術大学院大学（以下、「甲」という。）と奈良工業高等専門学校（以下、「乙」という。）は、乙が推薦する優秀な学生に対して甲での勉学の機会を提供することに関し、次のとおり協定を締結する。

１．主旨及び目的
甲は、乙との友好的な協力関係のもとに、有為な研究者及び技術者を育成するため、乙が人物及び学力ともに優秀と認め推薦する学生を、相互信頼の精神を持って受け入れる。

２．受入学生数
甲の受入学生数は、原則として毎年、乙の専攻科修了者若干名とする。ただし、出願時点での乙の専攻科在学生に限る。

３．協定の執行
（１）　本協定の有効期限は、調印の日から５年間とする。ただし、甲又は乙のいずれかにより有効期限満了の６ヶ月前までに書面による中止の申し出がない場合は、１年間延長するものとし、以後同様とする。なお、有効期間中、甲及び乙の双方合意により、本協定の内容を変更することができる。
（２）　甲及び乙は、本協定書を誠実に遵守しなければならない。
（３）　この協定書に定めるもののほか、具体的な事項は、甲の研究科と乙とが双方協議の上、必要に応じて別に定めるものとする。
（４）　本協定は、甲の平成 19 年４月入学者から実施する。

本協定書は２通作成し、甲及び乙でそれぞれ１通ずつ保管するものとする。

平成 18 年１月 18 日

甲　奈良先端科学技術大学院大学長　安田國雄
乙　奈良工業高等専門学校長　一岡芳樹

（出典　奈良先端科学技術大学院大学と奈良工業高等専門学校との推薦入学に関する協定書・北陸先端科学技術大学院大学と奈良工業高等専門学校との推薦入学に関する協定書）

資料７－２－④－31　学外実習参加率

1.4　今年度の総括と反省

1月17日に開催した第4回インターンシップ打合せ会において，各学科別に作成した学外実習実施報告書をもとに今年度の総括と反省を行った．

まず学外実習実施実績数の向上では，中期計画での学外実習参加率 50%超の達成目標に対し，本年度は本科の学外実習参加率が 70%程になった．昨年度から基礎データ（学外実習希望学生数，受け入れ可能人数，実施学生数等）の集計を行い，また，本打合せ会を通して学科間で実施・指導形態の情報共有を行い，受け入れ先開拓，学内の支援体制などを整備した結果と考えられる．今後も参加率の増減に一喜一憂することなく，支援体制を維持していくことが重要である．次に産学交流室（庶務課担当）との情報共有の成果について，11月に八尾市商工会議所主催のものづくり支援会議に山口が出席し，八尾市中小企業の学外実習への対応は現状はまだであり，今後受け入れを検討するとの状況報告を行った．八尾市の中小企業の紹介冊子２種を入手し，来年度４月配布を予定している．

第３に，専攻科の指導体制の整備と，専攻科・本科間の調整について議論し，まず本科に準じた支援体制を実施して専攻別の実施報告を取りまとめ，専攻科の学外実習報告書作成を行うことにした．そして専攻科実習先の確保，実習先決定方法，本科との協力について各学科の状況を意見交換した結果，専攻，学科ごとに協力・調整の有無などが異なり，本科，専攻科間での支援体制の協力・調整が望ましいことがわかった．

第４に，来年度への申し送り事項として，昨年度に引き続きシラバス原稿作成での学外実習シラバスの評価方法の欄の統一案および学外実習の科目別ファイルの整備項目を確認し，JABEE 審査に合わせ，学外実習の科目別ファイルを２年分整備することを確認した．

1.5　来年度に向けた改善の取り組み

第４回インターンシップ打合せ会以降，来年度に向けた改善の取り組みについて述べる．まず，専攻科の来年度の体制，実施状況報告などについて議論し，以下の取り組みを行うことになった．

1) 学科内で，本科担当教員，専攻科委員との間で協力する．

2) 来年度のインターンシップ打合せ会の専攻科委員の出席人数については，専攻科委員会で検討する（検討の結果，これまで通り専攻科副主任１名が打合せ会に出席し，専攻科の取りまとめを行う．

3) 専攻科での実施状況報告について，各専攻（学科）専攻科委員から報告する．

次に，学外実習シラバス原稿の改善について検討し，科目担当者の欄を，学生への利便を考慮して実質担当者を入れることになった．具体的には，以下の形式で合意した．

1) 本科・・・科目担当者：実質担当者を入れる．（担当者のみ，または学科主任等と担当者との連名）

2) 専攻科・・科目担当者：実質担当者（各科専攻科委員，など）　を検討する．

第３に学外実習実施報告書での過年度実習済み学生の扱いについて議論し，学外実習参加率を正確に算出するため，実習人数は当該年度の人数を，以下の２点で区別することにした．

・今年度対象学生数＝４年生のクラス人数 － 休学者数 － 前年度履修者数（実習済み学生数）

・単位認定者数 ＝ 当該年度の実習人数 ＋ 前年度履修者数（実習済み学生数）

記述形式を以下に示す．

今年度実習対象学生	名（前年度履修者・休学者を除く）
単位認定予定者数	名（前年度履修者を含む）

平成17年度　学外実習の実施状況

1．学外実習ガイダンス

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実施回数	2	2	1	1	1	7
実施日	6/3, 6/28	5/20, 5/26	5/16	6/13	5/20	
参加教員数（複数回は平均）	1	1	1	1	1	5
参加学生数（複数回は平均）	37	48	41	30	45	201
受入れ依頼状送付先企業数	23	22	69	19	28	161
受入れ依頼状回答企業数	23	20	69	17	28	157
実習受入れ可能企業数（追加依頼分を含む）	21	16	49	31	43	160
実習受入れ可能人数	25	24	56	33	44	182
実習希望学生数（最終）	29	30	28	27	37	151

2．学外実習事前研修

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実施日	7/6	7/15	7/6	7/19	7/7	
参加教員数	1	1	2	1	3	8
参加学生数	37	27	28	26	37	155
実習予定人数	28	27	28	26	37	146
実習先企業数	21	23	22	20	28	114

3．学外実習報告会

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実施日	2/9	10/12	10/5	10/12	10/31	
参加教員数	4	2	8	7	10	31
発表学生数（本科４年）	28	26	26	26	32	138
発表学生数（専攻科）	0	0	0	0	7	7
参加学生数　（発表者を含む）	70	78	77	77	79	381
（４年）（発表者を含む）	28	44	37	36	32	177
（３年）	42	34	40	41	40	197
（専攻科等）	0	0	0	0	7	7

4．学外実習

学科名　（工学科）	機械	電気	電子制御	情報	物質化学	合計
実習先企業数	21	23	22	20	28	114
今年度実習人数　（４年）	28	27	26	26	35	142
今年度実習対象学生（前年度履修者・休学者を除く）	37	42	42	36	42	199
今年度学外実習参加率（４年）％	75.7	64.3	61.9	72.2	83.3	71.4
単位認定者数	27	27	27	26	37	144
学科別学生数　（４年）	37	45	43	36	46	207
学外実習参加率（４年）％	73.0	60.0	62.8	72.2	80.4	69.6

（出典　平成 17 年度学外実習報告書）

資料７－２－④－３２　就職希望学生に対する就職率

進路状況及び求人 After Graduation and Job offer

年度 Year	学科 Department	卒業者数 Number of Graduates	就職者数 Number of Employments	内訳 Detail		求人 Job Offered		進学 Entrants into Univ. その他 Others
				民間企業 Private Enterprise	官公庁 Government and Municipal offices	企業数 Enterprises	求人数 Situation	
S43～H15年度 1968～2003	機械工学科 Mechanical Eng.	2,264	1,787	1,727	60	20,576	21,325	477
	電気工学科 Electrical Eng.	1,383	1,090	1,017	73		19,765	293
	電子制御工学科 Control Eng.	357	171	164	7		2,381	186
	情報工学科 Information Eng.	531	284	282	2		3,574	247
	化学工学科 物質化学工学科 Chemical Eng.	1,086	736	698	38		7,223	350
H16年度 2004	機械工学科 Mechanical Eng.	38	12	11	1	541	400	26
	電気工学科 Electrical Eng.	37	20	19	1		386	17
	電子制御工学科 Control Eng.	43	15	14	1		294	28
	情報工学科 Information Eng.	41	17	17			292	24
	物質化学工学科 Chemical Eng.	31	9	9			257	22
計 Total		5,811	4,141	3,958	183	21,117	55,897	1,670

産業別就職先 Job Classification

区分 Classification ＼ 年度・学科 Year・Department	S43～H15年度 1968～2003					H16年度 2004				
	M	E	S	I	C	M	E	S	I	C
建設 Construction Industry	119	93	6	11	15					
食料品 Food Production	27	20	3	1	23		1			
繊維 Textile Industry	57	6	5	1	52	1				1
パルプ・紙・印刷・出版 Pulp, Paper, Printing, Publication	27	6	3		26					
化学 Chemical Eng	145	60	12	4	335		1			8
ゴム Rubber Production	46	9			10					
ガラス・土石 Glass	36	9		2	12		1	1	1	
鉄鋼 Steel Industry	46	9	2	3	4					
非鉄金属 Non-ferrous Metals	17	15		2	4					
金属 Metals	48	4	1	2	10				1	
機械 Machinery	322	43	27	8	44	7	1	1		
電気機器 Electric Appliances	289	351	34	64	59		7	6	4	
輸送用機器 Transport Equipment	201	48	2	3	7	2				
精密機器 Precision Machinery	81	40	9	2	14		1			
その他の製造 Other Manufacturing Industry	62	24	7	5	27			1	1	
商業 Commercial Industry	59	28	4	3	22					
運輸・通信 Transportation, Communication	33	87	14	57	2		3	2	1	
電気・ガス Electricity, Gas Words	19	68	6	13	4	1	3			
官公庁 Government and Municipal Offices	60	73	7	2	38	1	1	1		
サービス・その他 Service Industry, Others	93	97	29	101	28		1	3	9	
計 Total	1,787	1,090	171	284	736	12	20	15	17	9

M:機械工学科　E:電気工学科　S:電子制御工学科　I:情報工学科　C:物質化学工学科
M:Mechanical Eng.　E:Electrical Eng.　S:Control Eng.　I:Information Eng.　C:Chemical Eng.

（出典　平成 17 年度学校概要）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 自主的学習を進める上での支援体制として，学年共通試験，特別活動を利用した学習の動機付け，担任を中心とする各種連絡会や懇談会，オフィスアワー，ＴＡ制度，ＴＯＥＩＣ－ＩＰ受験支援等が整備され，機能している。
- 教室，情報メディア教育センター，図書館，実習工場，学科演習室等が自主的学習環境として整備され，効果的に利用されている。特に，図書館及びLL教室では開放時間を延長し，利用を促進している。
- 学習支援に関する学生ニーズは，なんでも相談室ぷちアンケート，授業アンケートや学生自身による学習目標達成度点検シートの自由記述，図書館の意見・目安箱の設置，各種アンケートや懇談会等の定期的な実施により適切に把握されている。
- 学生生活に係る指導等を学生指導必携でマニュアル化しており，学級担任や特別研究指導教員を中心に，学生委員会，学生相談室，セクシャル・ハラスメント相談室，なんでも相談室が互いに連携して迅速かつ的確に対応できる指導体制が構築され，機能している。
- 課外活動を含む学生生活上の学生の安全を確保するため，緊急時の対応をマニュアル化している。
- 留学生及び障害のある学生には，適切な学習支援対策が講じられ，機能している。特に障害のある学生に対しては学内施設のバリアフリー化等も進められている。
- 学寮が規則正しい生活や自主的学習の場として機能するよう適切な施設・人的支援体制が整っている。
- 就職・進学ガイダンス資料の冊子を発行・配布している。学外実習参加率は約７０％に達しており，就職希望者に対する就職率は１００％である。

（改善を要する点）

- 該当なし

（３）基準７の自己評価の概要

入学前後及び年度当初に学習を進める上での各種ガイダンスやオリエンテーション等が適切に実施されている。一方，学年共通試験，特別教育活動を利用した学習の動機付け，担任を中心とする各種連絡会や懇談会，オフィスアワー，ＴＡ制度，ＴＯＥＩＣ－ＩＰ受験支援等，自主的学習を進める上での相談・助言体制が整備され，機能している。

教室，情報メディア教育センター，図書館，実習工場，学科演習室等が自主的学習環境として整備され，効果的に利用されている。特に，図書館及びLL教室では開放時間を延長し，利用を促進している。

なんでも相談室によるぷちアンケート，授業アンケートや学生自身による学習目標達成度点検シートの自由記述，図書館の意見・目安箱の設置，各種アンケートや懇談会等の定期的な実施により学習支援に関する学生ニーズが適切に把握されている。

留学生には，指導教員及びチューターを配し，特別カリキュラムにより学習支援している。編入学生には，入学前・後に学習支援をしている。障害のある学生には，適切な学習支援対策が講じられ，機能している。生活面では，学寮施設・備品等の整備，学内施設のバリアフリー化を進めてお

り，支援が適切に行われている。

学生会・クラブ等の課外活動には，学生委員会・クラブ顧問・学生課教職員による人的支援体制と学生会費や後援会費等による財政的支援体制が適切に整備され，機能している。他の課外活動についても同様の支援が実施されている。課外活動を含む学生生活上の学生の安全を確保するため，緊急時の対応をマニュアル化している。

学生生活に係る指導等を学生指導必携でマニュアル化しており，学級担任や特別研究指導教員を中心に，学生委員会，学生相談室，セクシャル・ハラスメント相談室，なんでも相談室が互いに連携して迅速かつ的確に対応できる指導体制を構築し，機能している。

学寮が規則正しい生活や自主的学習の場として機能するよう適切な施設・人的支援体制が整っており，有効に機能している。寮務委員会による学寮委員会への指導の連携体制が構築されており，両者の定期的な会合により学寮全般にわたる改善が実施されている。

就職・進学ガイダンス資料を発行・配布する等進路に係わる各種ガイダンス，講演会，懇談会，研修会，進路情報の公開等が整備され，機能している。学外実習参加率は約７０％に達しており，就職希望学生に対する就職率は１００％である。

基準８　施設・設備

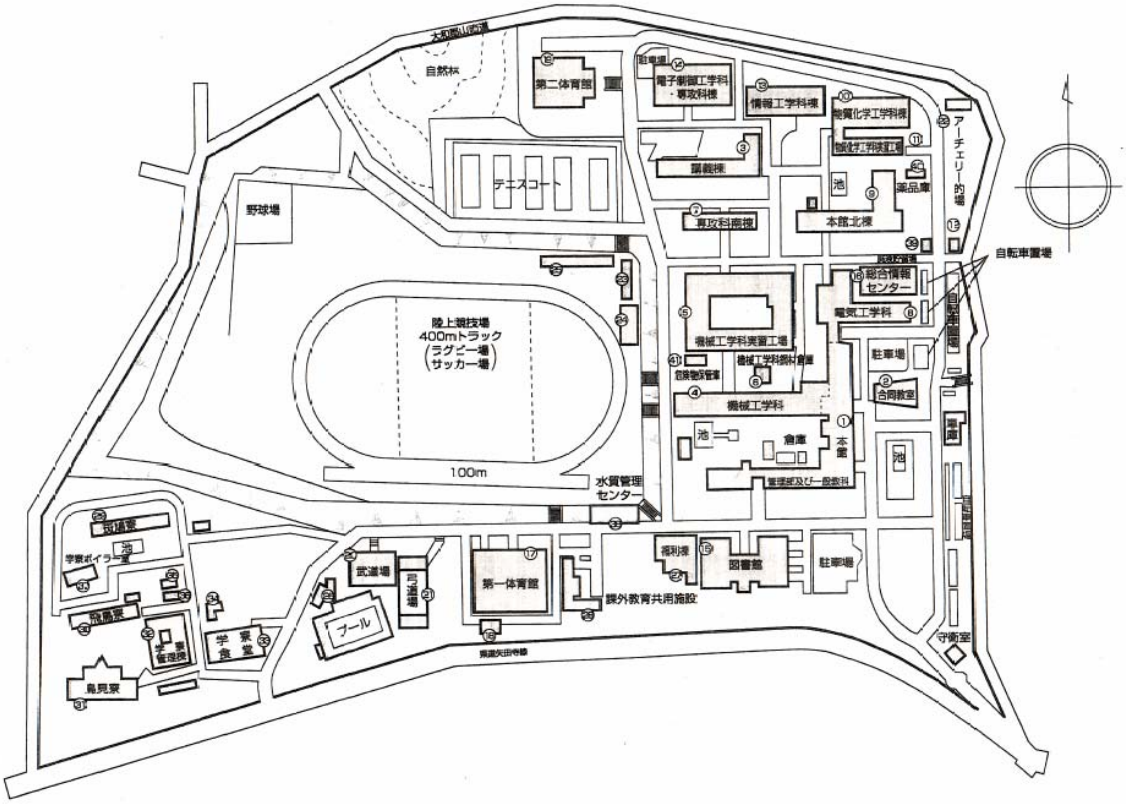
（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば，校地，運動場，体育館，教室，研究室，実験・実習室，演習室，情報処理学習のための施設，語学学習のための施設，図書館等，実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の校地面積(職員宿舎敷地を除く)は 105,983 ㎡，校舎延面積(職員宿舎を除く)は 28,297 ㎡であり，設置基準に定められている基準値(24,802 ㎡)を満足している（資料８－１－①－１，２）。設置基準に定められている運動場，体育館，校舎（教室，研究室，実験・実習室，演習室），総合情報センター，図書館，実習工場，プール等が設置され，授業や課外活動に有効に活用されている。なお，体育館，陸上競技場，プール等について，休日等の本校授業等に支障の無い日には，大和郡山市や地域住民に対して開放している（資料８－１－①－３）。

資料８－１－①－１　施設配置図



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率
105,983㎡	14,352㎡	28,297㎡	13.5%	26.7%

（出典　平成１７年度学校概要）

資料８－１－①－２　必要面積・保有面積比較（基準面積表調査単位名称により算定した場合）

［H17.5.1 現在］　（単位：㎡）

調査単位番号	調査単位名称	基準面積	加算面積	保有面積	不足整備面積	備　考
		a	b	c	d=c-a-b	
7010	工業高専校舎	16,700	885	17,140	△ 445	
7110	高専管理部	318	1,352	1,479	△ 191	
7120	高専一般管理施設	0	0	191	191	
7210	高専図書館	1,600	0	1,542	△ 58	
7310	高専屋内運動場	2,100	317	2,396	△ 21	
7320	高専屋内運動場附属施設	0	0	317	317	
7410	高専福利厚生施設	1,546	0	1,092	△ 454	
7510	高専寄宿舎	2,538	0	3,313	775	
7610	高専電算機施設	0	0	303	303	
7810	高専渡り廊下	0	0	60	60	
7910	高専設備室	0	524	464	△ 60	
計		24,802	3,078	28,297	417	

（出典　会計課施設係作成資料）

資料８－１－①－３　地域社会に対して施設開放している事例

第５５回市民体育大会要項

日時＝平成１７年5月8日（日）、<屋外競技は雨天の場合１５日（日）に延期>
総合開会式＝総合公園施設多目的運動場　8時００分集合（雨天中止）
※総合開会式へは、7時３０分三の丸会館前発車の臨時バスをご利用ください。
対象＝市内在住・在勤・在学者
申込＝4月１８日（月）までにスポーツ健康課（内線７４１）へ

（抜粋）

種　目	場　所	要　項
アーチェリー	奈良高専 アーチェリー場	一般の部・学生の部・オープンの部・初心者の部・小学生の部 ５０M・３０Mの的　3射ずつ１２回　合計７２射
弓　道	やまと郡山城ホール 弓 道 場	一般の部（１９歳以上）・青年の部（１９歳未満） 予選：各自一手2回、2中以上が通過 決勝：射詰め競射、優勝決定以外の順位は遠近法による。
ソフトテニス	奈良高専テニスコート	一般男子（４５歳未満・４５歳以上・６０歳以上） 一般女子（一般 ・ ママさんの部 ）
	郡山東中学校庭球場	中学生男子（団体戦・個人戦）
	郡山南中学校庭球場	中学生女子（団体戦・個人戦）
バドミントン	総合公園多目的体育館	一般男女（S・W・混合W）の部
	郡山中学校体育館	中学生　2年生・3年生の部（S・W）

（出典　大和郡山市広報）

近年の校舎改修は，平成１２年度において物質化学工学科棟新築，平成１３年度において本館改修，平成１４年度において電気工学科棟増築改修が行われており，教育施設の狭隘解消・改善を図っている。快適な学習環境を保証するため，クラスルーム（一般教室）について，梅雨期・夏期・冬期における教育環境の改善を目的として，平成１４年度から学年進行（年次計画）により，空調機を順次設置しており，平成１７年度の１年生クラスルーム（一般教室）への設置をもって，全学年の教育環境改善が完了した。

図書館の整備状況は資料（８－１－①－４）のとおりである。平成１３年度に図書館の改修，平成１６年度に図書館大視聴覚室の改修が行われた。図書館は本校の教職員や学生だけでなく，一般市民にも広く開放している。なお，学内・一般市民に対する図書貸出合計の平成１７年度実績は１８，１０１冊である（資料８－１－①－５，６，７）。

資料８－１－①－４　図書館の整備状況

昭和５０年新築　鉄筋コンクリート造２階建　１，６２８㎡

主な部屋	閲覧室	６３２　㎡
	ＬＬ教室	１０５　㎡
	ＬＬ準備室	７１　㎡
	大視聴覚室	３５１　㎡
	書庫他	７１　㎡
閲覧席数		９５　席
検索端末		９　台
ＶＴＲ・ＬＤ・ＤＶＤ席数		各３　席
開館時間	平日	８：３０～２０：００
	土曜日	９：００～１６：３０

（出典　会計課施設係作成資料）

資料８－１－①－５　図書館一般利用要項

H16.04.01　改正

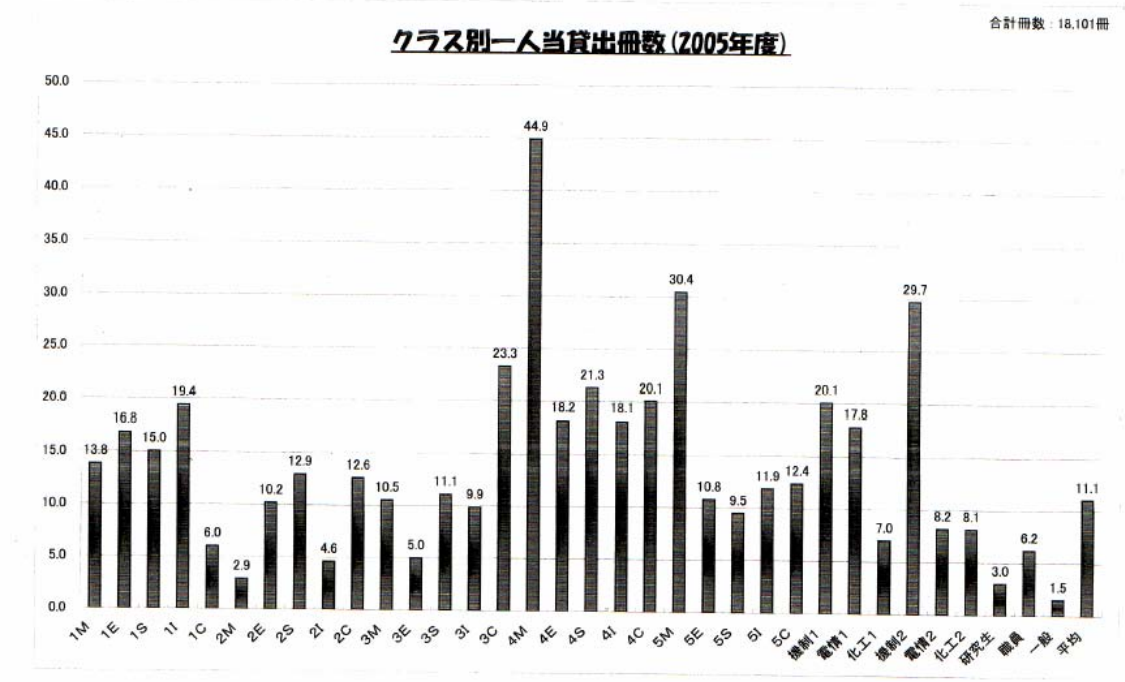
奈良工業高等専門学校図書館一般利用要項

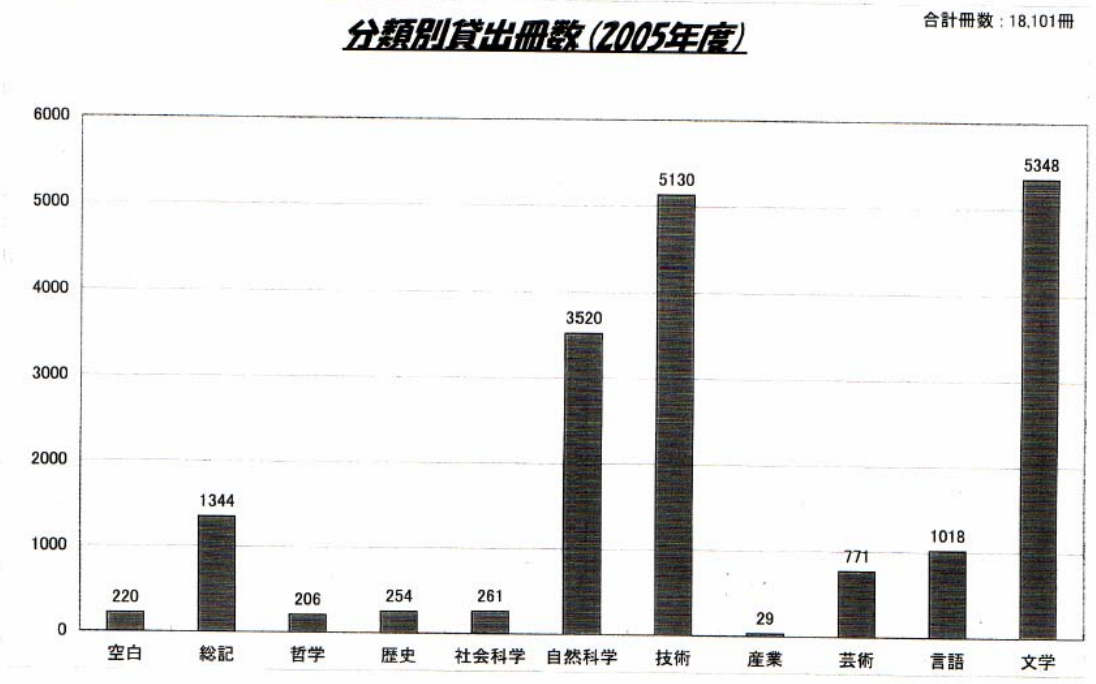
（趣旨）
第１　この要項は，奈良工業高等専門学校図書閲覧規程第１１条に基づき，奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）の図書館が所蔵する図書館資料（以下「図書等」という。）の利用を申し出た一般の利用者（以下「一般利用者」という。）の利用に供するため，必要な事項を定めるものとする。
（利用申込）
第２　一般利用者が閲覧利用しようとするときは，「図書館利用申込書（様式第１号）」に住所，氏名を記入のうえ提出しなければならない。
２　中学生以上の一般利用者が図書等の貸出を受けようとする場合は，身元を証明する書類を提示のうえ，「図書館利用申込書」に必要事項を記入のうえ提出し，「図書館利用証（様式第２号）」の交付を受けなければならない。
３　一般利用者は「図書館利用申込書」の記載事項に変更が生じた場合は，速やかに届け出るものとする。
（利用の範囲）
第３　一般利用者は，本校の教育や研究に支障のない範囲で，原則として図書館備え付けの図書等を利用することができる。
（利用時間）
第４　一般利用者が，図書館を利用することができる時間は，図書館の開館時間内とする。
２　情報メディア教育センター長は，必要と認めるときは，臨時に開館時間を変更することができる。
３　本校の学校行事，定期試験中等，情報メディア教育センター長が必要と認めた日は利用できない。
（貸出手続き）
第５　一般利用者は，図書等の貸出しを受けるときは，「図書館利用証」を係員に提出し，貸出し手続きを受けなければならない。
（閲覧）
第６　開架図書は自由に閲覧することができる。ただし，書架の配列順序を乱してはならない。
２　図書館内においては，常に秩序を保ち，他人の迷惑になる行為をしてはならない。
（貸出し）
第７　貸出しできる図書等の冊数は３冊以内，期間は14日以内とし，期間内に返却しなければならない。
（遵守事項）
第８　一般利用者は，この要項に定めるもののほか，係員の指示する事項を遵守しなければならない。
（弁償義務）
第９　一般利用者は，図書等を紛失，破損若しくは汚損したとき，又は施設・設備若しくは備品等に損害を与えたときは，弁償しなければならない。
（利用中止等）
第10　情報メディア教育センター長は，この要項に違反した一般利用者に対して，直ちに利用を中止させ又は退館を命ずることができる。
（雑則）
第11　その他利用に関する細部については，奈良工業高等専門学校図書館一般利用の手引きに掲載する。

附　則
この要項は，平成８年４月８日から施行する。
附　則
この要項は，平成１３年４月１日から施行する。
附　則
この要項は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校図書館一般利用要項）

資料８－１－①－６　図書館の利用実績（平成１７年度）





（出典　庶務課図書係作成資料）

資料８－１－①－７　平成１７年度　図書館利用者実績　（出典　庶務課図書係作成資料）				
利用者区分		貸出回数	利用者数	一人当
		回	人	回／人
１学年	機械工学科	595	43	13.8
	電気工学科	723	43	16.8
	電子制御工学科	632	42	15.0
	情報工学科	814	42	19.4
	物質化学工学科	258	43	6.0
２学年	機械工学科	113	39	2.9
	電気工学科	469	46	10.2
	電子制御工学科	543	42	12.9
	情報工学科	193	42	4.6
	物質化学工学科	479	38	12.6
３学年	機械工学科	483	46	10.5
	電気工学科	179	36	5.0
	電子制御工学科	455	41	11.1
	情報工学科	464	47	9.9
	物質化学工学科	931	40	23.3
４学年	機械工学科	1,660	37	44.9
	電気工学科	818	45	18.2
	電子制御工学科	915	43	21.3
	情報工学科	653	36	18.1
	物質化学工学科	923	46	20.1
５学年	機械工学科	1,461	48	30.4
	電気工学科	421	39	10.8
	電子制御工学科	380	40	9.5
	情報工学科	439	37	11.9
	物質化学工学科	359	29	12.4
専攻科１学年	機械制御工学１年	401	20	20.1
	電子情報工学１年	267	15	17.8
	化学工学１年	35	5	7.0
専攻科２学年	機械制御工学２年	386	13	29.7
	電子情報工学２年	90	11	8.2
	化学工学２年	57	7	8.1
その他	研究生・聴講生	6	2	3.0
	職員	932	151	6.2
	一般	567	384	1.5
合計		18,101	1,638	11.1

総合情報センターの整備状況は，資料（８－１－①－８，９）のとおりである。本校の共同利用施設として，教育研究活動に有効に使用されている（資料８－１－①－１０）。

特に，平成１６年度から学生の語学力向上に向けた e-Learning 英語学習教材の導入を行い，情報処理演習室，マルチメディア演習室，ＬＬ教室での利用を図っている。またこれらの演習室等を放課後に開放して，学生の自学自習に活用している（資料８－１－①－１１）。

資料８－１－①－８　総合情報センターの整備状況

昭和５０年新築　鉄筋コンクリート造平屋建		３０３㎡
主な部屋	電子計算機室	３１　㎡
	特殊端末室	４６　㎡
	情報処理演習室	１２１　㎡
	管理室	２０　㎡
端末機室	学生卓	４８　台
	教師卓	１　台
入力装置	ＶＴＲ・パソコン・オーバーヘッドカメラ・ワイヤレスマイク	
出力装置	天吊プロジェクター・モニターディスプレイ・プリンター・天吊スピーカ	
開館時間	平日	９：００～１７：００

（出典　会計課施設係作成資料）

資料８－１－①－９　マルチメディア演習室，ＬＬ教室の整備状況

○マルチメディア演習室　１３３㎡

ＬＬ装置	学生卓	48　席
	教師卓	1　席
入力装置	ＶＴＲ・パソコン・オーバーヘッドカメラ・ワイヤレスマイク	
出力装置	天吊プロジェクター・モニターディスプレイ・プリンター・天吊スピーカ	
開館時間	平日９：００～１７：００	

○ＬＬ教室　１０５㎡

ＬＬ装置	学生卓	48　席
	教師卓	1　席
入力装置	ＶＴＲ・ＬＤ・ＤＶＤ・パソコン・オーバーヘッドカメラ・壁掛スピーカ	
出力装置	天吊モニターＴＶ・モニターディスプレイ・プリンター・壁掛スピーカ	
開館時間	平日	９：００～１７：００
	火・木曜日	９：００～２０：００

（出典　会計課施設係作成資料）

資料８－１－①－１０　情報処理演習室等の使用一覧

授業における選択教室・情報メディア演習室等使用一覧

（平成１７年度 前期）

月	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３			情シス 専1(松尾)		生機能 4C(南浦)			
選択教室４			細胞 5C(河村)		パターン 5I(安室)			
選択教室５			化学 1C(三木)		基数 専1(新金)			
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室	歴史 2C(大矢)							
学習指導室								
大視聴覚室					経済学 5ESC(大谷)		経済学 5MI(大谷)	
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	プロE 3I(小山)		プロ設図 5C(中谷)					
マルチメディア演習室	国語 2E(武田)		国語 2I(武田)					
ＬＬ教室	英語 2S(鎌田)		英会話I 1M(高橋)		英語 3E(高橋)			
専攻科南棟講義室１	エネ工 専2(片倉)		反応装 専1(河越)					
専攻科南棟講義室２	情解析 専1(浅井)							
専攻科南棟視聴覚室	精密加 専1(和田)		コミュ英 専2(福田)					
専攻科棟２階講義室	知能 専2(山口智)		連体力 専1(小畑・福本)					
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

火	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３			基生化 4C(直江)					
選択教室４	トライボ 専2(田中・[illegible])		電子 3E(藤田)		現代 専1(武田・木村)			
選択教室５	ディジ制 専1(平川)		信号 5E(桐島)					
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室					地理 1C(大矢)			
学習指導室			日本語 留学生(中西宏)					
大視聴覚室			音楽 1M(荒巻)		音楽 1S(荒巻)			
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	微積分 5C(大槻)		信号処理 5S(西田)				情処理 3M(平)	
マルチメディア演習室		独語 4I(北原)		独語 4E(北原)	独語 4S(北原)	独語 4C(北原)	独語 4M(北原)	
ＬＬ教室	英会話I 1I(高橋)		英表現I 専1(金澤)		英会話I 1C(中園)		英会話I 1S(中園)	英会話I 1C(高橋)
専攻科南棟講義室１	実化反 専1(片倉)		電子応 専2(泉)					
専攻科南棟講義室２	光・エネ工 専2(藤井)							
専攻科南棟視聴覚室	有反応 専2(嶋田)		画像 専2(中村)		日文献 専2(鍋田)			
専攻科棟２階講義室							アクティブ 専2(加納)	
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

水	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３								
選択教室４	分子 5C(伊月)							
選択教室５					化学 1C(三木)			
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室	歴史 2I(大矢)				歴史 2M(大矢)		歴史 2S(大矢)	
学習指導室								
大視聴覚室			法学 5EIC(大井)		法学 5MS(大井)			
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	情処理 2M(廣)				プログラ 3S(梶)			
マルチメディア演習室	独語 専1(桐川)				プログラ 3E(土井)			
ＬＬ教室	英表現 専2(高橋)				英語 3I(高橋)		英語 4M(金澤)	
専攻科南棟講義室１			細胞 専1(津田)					
専攻科南棟講義室２			物性 専1(京兼)					
専攻科南棟視聴覚室			情ネット 専2(成田)		基化 専1(土橋)		技術英 専1(高橋晴)	
専攻科棟２階講義室								
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

木	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３								
選択教室４	独語 4I(桐川)		独語 4S(桐川)		独語 4E(桐川)			
選択教室５								
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室	歴史 2E(大矢)							
学習指導室								
大視聴覚室								
大講義室								
合同教室	美術 1C(森本)		美術 1I(森本)		美術 1E(森本)			
情報処理演習室	国語 2M(武田)		国語 2S(武田)					
マルチメディア演習室	英語 4C(金澤)		英語 4E(金澤)		英語 4I(金澤)			
ＬＬ教室	英語 3S(高橋)		英語 3M(高橋)		英語 3C(高橋)			
専攻科南棟講義室１								
専攻科南棟講義室２								
専攻科南棟視聴覚室								
専攻科棟２階講義室								
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

金	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３			微生物 4C(寺下)				コン応用 5E(土井)	
選択教室４	独語 4M(桐川)		計設計 5I(大竹)		データ 3I(市田)		独語 4C(桐川)	
選択教室５	英I－1B (片山)		電磁I 2E(藤田)		電制御 1S(早川)			
ゼミ室２								
ゼミ室３			生化工 専2(直江)					
ＬＲ教室	英II－B 5EI		英会話 2M	英会話 2I	英会話 2E	英会話 2S	英会話 2C	
学習指導室								
大視聴覚室								
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	英I－2B 5IC(金澤)		英語 4S(金澤)		情報 2C(中谷)		プログラ 2S(梶)	
マルチメディア演習室	独語 全5(北原)		プロ設計 5C(世古洋)		数値解 5S(福田)		統計 専2(榊原)	
ＬＬ教室	英I－2A 5MES(鎌田)		国語 2C(武田)					
専攻科南棟講義室１	移動論 専2(藤原)		現有機 専1(嶋田)					
専攻科南棟講義室２							論設計 専1(世古)	
専攻科南棟視聴覚室	科学 専1(堀内)							
専攻科棟２階講義室	機制御 専2(稲田・平)		油空圧 専1(早川)		新材料 専2(岩井)			
専攻科棟３階会議室			レーザ 専2(押田)					
第二会議室								

土	日

授業における選択教室・情報メディア演習室等使用一覧

（平成17年度 後期）

平成17年10月19日改訂

月	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３			微生物工学 4C(寺下)					
選択教室４			独語 4E(桐川)		パターン情報処理 5I(安室)			
選択教室５			食品工学 5C(菅)		人間学総論 専2(大矢)			
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室							歴史 2C(大矢)	
学習指導室							鎌田	
大視聴覚室					経済学 5ESC(大谷)		経済学 5MI(大谷)	
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	情報処理 2M(廣)		国語 2I(武田)					
マルチメディア演習室	国語 2E(武田)		英語 3C(高橋)					
ＬＬ教室	英会話I 1E(中園)			英会話I 1M(高橋)	英語 3E(高橋)		英会話I 1S(中園)	
専攻科南棟講義室１	高分子材料学 専1(井口)		応用生物反応工学 専2(河越)		細胞工学 専1(菅)			
専攻科南棟講義室２			システム制御 専2(山口智)					
専攻科南棟視聴覚室	適応信号処理論 専2(寺西)		技術者倫理 専1(福田)		パワーエレクトロニクス 専1(井村)		特別講義 専2(福田)	
専攻科棟２階講義室								
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

火	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３								
選択教室４	物理学特論 専1(宮本)		生物基礎 専1(市)		スポーツトレーニング特論 専1(中西)			
選択教室５	分子生物学 5C(伊月)		生物反応工学 5C(河越)					
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室	歴史 2S(大矢)							
学習指導室			日本語 留学生(中西宏)					
大視聴覚室	音楽 1I(荒巻)		音楽 1C(荒巻)		音楽 1E(荒巻)			
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	国語 2E(武田)				プログラミングII 3I(松尾・小山)			
マルチメディア演習室	物質化学工学演習 4C(片倉)		独語 [illegible](北原)	独語 [illegible](北原)	独語 [illegible](北原)	独語 [illegible](北原)	独語 [illegible](北原)	
ＬＬ教室			英会話I [illegible]					
専攻科南棟講義室１								
専攻科南棟講義室２								
専攻科南棟視聴覚室					パターン認識論 専2(上田)		電子情報工学セミナーI・II 専1・2(中村・世古)	
専攻科棟２階講義室							計算力学 専1(矢尾)	
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

水	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３								
選択教室４			材料・加工学 2S(島岡)				輸送現象論 専2(島岡)	
選択教室５	生物分析化学 5C(伊月)		機能性有機化学 4C(嶋田)					
ゼミ室２							中西宏	
ゼミ室３								
ＬＲ教室			歴史 2E(大矢)		歴史 2M(大矢)			
学習指導室							池永	
大視聴覚室			法学 5SI(大井)		法学 5MEC(大井)			
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室	数値解析 4M(平)				プログラミング 2S(土井)			
マルチメディア演習室	ドイツ語 専1(桐川)				英語表現法(1) 専1(金澤)		英語 4M(金澤)	
ＬＬ教室	英語表現法 専2(高橋)				英語 3I(高橋)		英会話I 1C(高橋)	
専攻科南棟講義室１								
専攻科南棟講義室２								
専攻科南棟視聴覚室			塑性加工学 専1(関口)				実用技術英語 専1(高橋晴)	
専攻科棟２階講義室			ヒューマンインターフェイス 専2(鰯)		生産加工学 専2(小島)			
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

木	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３								
選択教室４	独語 4I(桐川)		独語 4C(桐川)		独語 4S(桐川)			TA
選択教室５								TA
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室	歴史 2I(大矢)		地理 1S(大矢)					
学習指導室								
大視聴覚室								
大講義室								
合同教室			美術 1M(森本)		美術 1S(森本)			
情報処理演習室	国語 2M(武田)		国語 2S(武田)					
マルチメディア演習室	英語 4C(金澤)		英語 4E(金澤)		英語 4I(金澤)			
ＬＬ教室	英語 3S(高橋)		英語 3M(高橋)					
専攻科南棟講義室１								
専攻科南棟講義室２								
専攻科南棟視聴覚室								
専攻科棟２階講義室								
専攻科棟３階会議室								
第二会議室								

金	1 9:00 9:45	2 9:50 10:35	3 10:40 11:25	4 11:30 12:15	5 13:00 13:45	6 13:50 14:35	7 14:40 15:25	8 15:30 16:15
選択教室３	英I－2A 5MES(鎌田)		解析数理 専1(安田)		原子力工学 5E(倉口)		高電圧工学 5E(藤井)	
選択教室４	独語 4M(桐川)		計算機設計 5I(大竹)		データ構造とアルゴリズム 3I(市田)		機械力学特論 4C(新居田)	
選択教室５	英I－1B 5SC(片山)		電子工学 3E(藤田)				応用生物化学工学 4C(直江)	
ゼミ室２								
ゼミ室３								
ＬＲ教室	英II－B 5EI(ペリー)		英会話 (ペリー)	英会話 (ペリー)	英会話 (ペリー)	英会話 (ペリー)	英会話 (ペリー)	
学習指導室							中西宏	
大視聴覚室								
大講義室								
合同教室								
情報処理演習室			プログラミング 3S(梶)	情報処理 3M(平)			プログラミング 2S(梶)	
マルチメディア演習室	独語 全5(北原)		情報科学 2C(中谷)		機器分析 5C(大槻)			
ＬＬ教室	英I－2B 5IC(金澤)		英語 4S(金澤)		国語 2C(武田)			
専攻科南棟講義室１	触媒反応工学 専2(梅原)		生体機能化学 専2(大槻)					
専攻科南棟講義室２	離散数学 専1(多田)							
専攻科南棟視聴覚室	有機合成化学 専1(嶋田)		情報伝送 専2(成田)					
専攻科棟２階講義室								
専攻科棟３階会議室	実用技術英語 専1(松本・飯田)							
第二会議室								

（注）第5学年選択科目の外国語担当者：英語Ｉ－１(A)神澤(5E教室)，英語Ｉ－１(B)片山(選択教室5)，英語Ｉ－２(A)鎌田(選択教室3)，英語Ｉ－２(B)金澤(LL教室)，
英語Ⅱ(A)リンク(5M教室)，英語Ⅱ(B)ペリー(LR教室)，独語　北原(マルチメディア演習室)

（出典　学生課教務係作成資料）

資料８－１－①－１１　英語学習教材の活用

ALC NetAcademyについて

総合情報センター　　中裏　良一

総合情報センターには皆様もご存知のように、情報処理演習室・マルチメディア演習室・LL教室の3演習室があります。

平成16年度4月より（株）アルク教育社のe-Learning英語学習システム、ALC NetAcademyの初級・中級コースとPowerWordsコースの2コースを総合情報センターに導入しました。導入当初は、LL教室のみでの利用でした。

平成16年5月17日～28日までの間（4日間）、昼休みと放課後にLL教室を利用した学生数を調査しました。その結果202名の利用があり、とくに3年生が114名と半数以上でした。このように利用者が多いのは平成16年4月9日に3年生と4・5年生の希望者を対象に行われたTOEIC IPテストの影響によると思われます。

昨年度の夏休中に情報処理演習室・マルチメディア演習室もALC NetAcademyを使用出来るように設定しました。それにより後期の授業に3演習室を利用できる環境になりました。また情報処理演習室では授業時間以外、LL教室でも週3日（月・水・金）昼休みと放課後開放していますので、学生の自学自習に活用できます。

平成17年4月にALC NetAcademyのスタンダードコースを追加してTOEICのスコアアップに貢献出来るようになりました。

現在は3演習室しか使用できませんが、将来は全学でALC NetAcademyを使える環境にする予定です。今後、このシステムを利用して学生および教職員に英語のコミュニケーション能力の向上に役立ててもらいたいと思っています。

最後に平成16年度後期の学年・学科別でALC NetAcademy教材（ユニット）に接続して自学自習した回数を記載します。

	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科
1学年					
2学年	50	848	470	932	118
3学年	5,510	5,867	5,864	5,119	6,314
4学年	2,422	1,940	1,775	1,837	1,246
5学年	621	928	204	491	11
専攻科1・2年	1,271				

教材（ユニット）：初級・中級コース、PowerWordsコース

期間：平成16年10月1日～平成17年3月31日。

回数：教材ごとの接続回数であり、ログオン回数ではありません。

（1学年はアカウントとパスワードが発行されていませんので資料はありません。）

（出典　ＣＡＭＰＵＳ第９１号平成１７年７月14日発行）

実習工場の整備状況は資料（８－１－①－１２）のとおりである。実習工場は，平成１６年度の独立行政法人化を機に機械工学科の所属を離れ学内共同利用機関として，主に実習・実験・研究等で使用されている。授業等による定期的な利用以外に，大和郡山市連携事業に係る教材製作，学科からの製作依頼，技術相談・協力要請の受託や「ロボットコンテスト」，「エコラン」等における「ものづくり」として有効に活用されている（資料８－１－①－１３）。

資料８－１－①－１２　実習工場の整備状況

昭和４１年新築	鉄筋コンクリート平屋建　４２５㎡	
昭和４２年増築	鉄筋コンクリート平屋建　９１２㎡	
主な部屋	機械実習工場	３７７　㎡
	鋳鍛造実習工場	２２５　㎡
	ＭＣ演習室	４４　㎡
	熱工学実験室	１５０　㎡
	流体工学実験室	１５０　㎡
	材料力学実験室	１３１　㎡
	木型機械室他	１００　㎡
実習時間	平日　９：００～１７：００	

（出典　会計課施設係作成資料）

資料８－１－①－１３　実習工場の稼働状況

区分 学科名等	年間利用件数	年間稼働時間	１件あたりの平均稼働時間
機械工学科	１３９	３６２時間２７分	２時間３６分
電気工学科	２	２時間４２分	１時間２１分
電子制御工学科	３６	１１２時間１１分	３時間０７分
専攻科	１０２	２７８時間１１分	２時間４４分
クラブ・同好会・行事等	３２	７８時間５７分	２時間２８分
ロボコンＡチーム	６３	１８８時間１３分	３時間００分
ロボコンＢチーム	５５	１６３時間５４分	３時間００分

（出典　実習工場作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の施設設備（校舎・図書館・総合情報センター・実習工場）は，「高等専門学校設置基準」を十分に満たしており，本校の編成した教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，有効に活用されている。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の情報ネットワークの基幹になっているのが，総合情報センターである。本校の情報セキュリティにかかる管理を一元的に行っており，情報セキュリティポリシーに則り，ウィルスやソフトウェアのセキュリティホールへの対策は適宜行っており，情報資産の保護を図っている（資料８－１－②－１）。当センターを構成する主な施設として，①情報処理演習室，②マルチメディア演習室，③ＬＬ教室の３演習室が存在する。学生のパソコン習熟度をアンケート形式で調査しており（資料８－１－②－２），それを基に，パソコンの仕様については，導入時に教員に対してアンケートを実施したうえで，ニーズに対応した仕様のものを調達している。セキュリティ管理については，セキュリティを確保するため，学内基幹ネットワークとは切り離された環境になっている。メールやホームページを使用することによって，学内ネットワークを経由し，外部との通信を可能にしている。学内基幹ネットワークには，専門５学科，一般教科，専攻科，事務部等のネットワークがつながっており，教職員，学生が利用できるようになっている。またＳＩＮＥＴを経由して外部と接続しており，ＳＩＮＥＴとの接続点にファイアウォールを設置することで，通信が許されないＩＰアドレスや特定のポートからの通信の遮断を行っている。このようにして総合情報センターでネットワークのセキュリティを管理し，快適な情報ネットワークの提供を行っている（資料８－１－②－３）。

学生のパソコンの利用状況については，総合情報センター内設置のパソコンの利用状況及び自宅での保有状況・利用状況をアンケート調査しており，その結果をフィードバックして総合情報センターの役割や位置づけを明確にすることによって，情報基礎教育やメディアリテラシー教育を推進する教育環境の整備を行っている（資料８－１－②－４）。

資料８－１－②－１　奈良工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

平成１５年１０月３０日

奈良工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

Ⅰ．情報セキュリティポリシーの基本理念

教育・研究はもちろんのこと現代社会において生活する上で情報機器や情報ネットワークは欠かせないものとなってきている。しかしながら，学内では学校の運営上重要な情報や，学生に関する個人情報など機密性の高い情報が各種情報機器やネットワーク上で扱われている。したがって，これらの情報及び，情報を取り扱う情報システムを，様々な脅威から守ることは，健全な学校運営を行う上や個人プライバシーを保護する上からも必要である。

このため，本校の情報資産を保護するために，「情報セキュリティポリシー」を策定するものである。したがって，本校の情報資産を利用する者は，情報セキュリティの重要性を認識し，この「情報セキュリティポリシー」を遵守しなければならない。

Ⅱ．情報の定義

このポリシーで取り扱う情報とは，本校所有の情報機器内の情報資産（プログラムとデータ）を指す。

Ⅲ．情報セキュリティ対策

本校の情報資産を保護するために，以下の情報セキュリティ対策を講じる。

１．物理的対策

情報資産を有する情報システムを設置する施設などを保護するための物理的な対策を講じる

２．人的対策

情報セキュリティに関する権限や責任を明確にし，全教職員にセキュリティポリシーの内容を周知させるための教育や啓蒙などを行う。

３．技術的対策

情報資産を保護するために，アクセス制御，ネットワーク管理など技術的な対策を講じる。また，緊急事態が発生した場合の対応策など，危機管理対策を講じる。

Ⅳ．責任者

１．本校の情報セキュリティ最高責任者を学校長とする。
２．本校のネットワークシステム最高管理責任者を総合情報センター長とする。
３．学科等にセキュリティ管理者と総合情報センター運営委員会規定の定めによるネットワーク管理員を置く。
４．学科等のセキュリティ管理者は各科主任及び各課長等とする。
５．学科等はこの情報セキュリティポリシーにしたがって情報セキュリティ対策を講ずるものとする。
６．ネットワークの管理を行うために上記ネットワーク管理員によって構成されるネットワーク管理員会議を設置する。
７．ネットワーク管理員会議は総合情報センター長が主催し議長となる。

Ⅴ．本校ネットワークへの接続

１．セキュリティ管理者とネットワーク管理員を置いた学科等のみ本校のネットワークに接続できるものとする。
２．学外からプロバイダーを経由せずして本校のネットワークへ有線及び無線で直接接続することを禁止する。
３．対外接続は総合情報センターで行うことを原則とする。
４．対外接続で使用するプロトコル（規約）は TCP/IP とする。
５．対外接続プロトコル TCP/IP での開放ポートはネットワーク管理員会議で決定する。
６．電子メールの学外への転送処理は盗聴防止とコンピュータウイルスの蔓延を防ぐため，原則として本校内のメールサーバでは行わないものとする。

（出典　総合情報センター保存資料）

Ⅵ. 危機管理対策

１．自然災害，機器障害，悪意のある行為などにより本校のセキュリティに多大なる影響があると思われる場合，情報セキュリティ最高責任者はその対抗処理をとるものとする。

２．ネットワークシステムにより本校のセキュリティに多大なる影響があると思われる場合，情報セキュリティ最高責任者の指示によらずしてネットワークシステム最高管理責任者が対抗処理をとるものとする。

Ⅶ. コンピュータウイルス発見時の処理

１．コンピュータウイルス発見者は，直ちに，ネットワークシステム最高責任者（総合情報センター）へ連絡するものとする。

２．ネットワークシステム最高責任者は，本校内でコンピュータウイルスが発見されたので注意する旨，本校ネットワーク利用者に連絡するものとする。

３．ネットワークシステム最高責任者は，コンピュータウイルスが蔓延しないようネットワークの切断等を含む適切な処理を行うものとする。

Ⅷ. 個人情報の開示

「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」及び「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」（「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」）に基づき個人情報の開示を求められた場合は，運営委員会でその可否を決めるものとする。

Ⅸ. 付　録

１．本校の情報セキュリティポリシーは少なくとも年１回は見直すものとする。

２．上記見直しは運営委員会で行うこととする。

［学科等とは以下のことをいう］

- 専門各学科及び一般教科並びに専攻科
- 庶務課，会計課，学生課
- 学生寮
- 図書館
- 総合情報センター

（出典　総合情報センター保存資料）

資料８－１－②－２　学生対象のパソコンアンケート

第24回 高専情報処理教育研究発表会

表 1: 年度別調査結果集計

対象数・回答数及び回答率

	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
対象数(1年生総数)	207 人	210 人	211 人	209 人
回　答　数	195 人	184 人	205 人	185 人
回　答　率	94.2 %	87.6 %	97.2 %	88.5 %

設問1．あなたの出身中学がある都道府県をお教えください。

	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
奈良県	149 人	115 人	142 人	136 人
大阪府	18 人	33 人	36 人	27 人
京都府	18 人	26 人	19 人	15 人
滋賀県	7 人	4 人	5 人	4 人
三重県	1 人	4 人	2 人	1 人
和歌山県	0 人	0 人	1 人	1 人
兵庫県	0 人	1 人	0 人	0 人
その他	0 人	愛知県 1 人	愛媛県 1 人	中国上海 1 人

設問2．中学校ではコンピュータを使ってどのような演習をやっていましたか。(複数回答可)

	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
タイピング（キーボードの練習）	94 人	104 人	106 人	120 人
ワープロ（文書処理）	105 人	94 人	92 人	101 人
お絵描き（ペイント）	14 人	99 人	93 人	97 人
表計算	63 人	61 人	71 人	79 人
電子メール	7 人	26 人	32 人	35 人
ホームページ閲覧	48 人	73 人	95 人	107 人
ホームページ作成	16 人	21 人	30 人	34 人
プログラミング	32 人	26 人	15 人	17 人
プレゼンテーション	0 人	0 人	3 人	7 人

設問3．プログラミングをやっていた人にお聞きします。使っていた言語は何ですか。(複数回答可)

	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
C 言語	2 人	2 人	0 人	2 人
BASIC	10 人	11 人	8 人	9 人
LOGO	3 人	3 人	4 人	1 人
わからない	17 人	10 人	3 人	7 人

設問4．中学校でのコンピュータを使った授業時間数は週何時間ありましたか。

	平成１３年度
1年時にはなかった	
1年時に週2時間未満	平成１３年度
1年時に週2時間	この設問は調
1年時に週3時間以上	査していない
2年時にはなかった	
2年時に週2時間未満	
2年時に週2時間	
2年時に週3時間以上	
3年時にはなかった	
3年時に週2時間未満	
3年時に週2時間	
3年時に週3時間以上	

	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
1年時にはなかった	154 人	131 人	108 人
1年時に週2時間未満	24 人	66 人	54 人
1年時に週2時間	6 人	8 人	12 人
1年時に週3時間以上	0 人	0 人	1 人
2年時にはなかった	121 人	103 人	60 人
2年時に週2時間未満	47 人	82 人	91 人
2年時に週2時間	15 人	18 人	20 人
2年時に週3時間以上	1 人	2 人	4 人
3年時にはなかった	36 人	35 人	34 人
3年時に週2時間未満	109 人	128 人	114 人
3年時に週2時間	35 人	38 人	22 人
3年時に週3時間以上	4 人	4 人	5 人

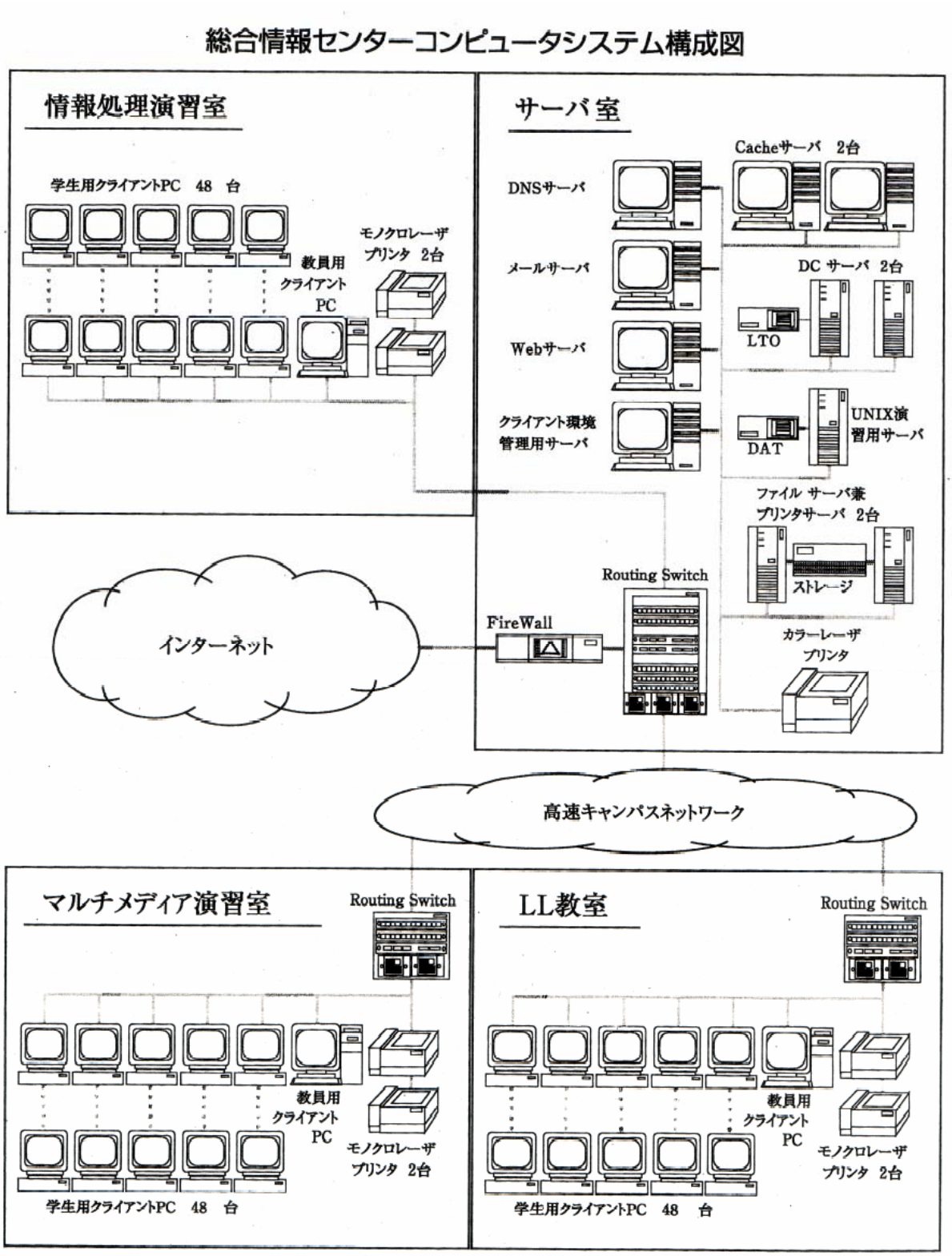
設問5．中学校でコンピュータを使っていた人にお聞きします。コンピュータ全般における習得度の自己評価をお教えください。

	平成１３年度
かなり高い	
やや高い	平成１３年度
普通	この設問は調
やや低い	査していない
かなり低い	

	平成１４年度	平成１５年度	平成１６年度
かなり高い	2 人	5 人	4 人
やや高い	9 人	14 人	17 人
普通	50 人	68 人	69 人
やや低い	35 人	33 人	38 人
かなり低い	57 人	63 人	43 人

（出典　総合情報センター保存資料）

資料８－１－②－３　総合情報センターコンピュータシステム構成図



（出典　平成１７年度学校概要）

資料８－１－②－４　パソコン利用状況調査報告

学生のパソコン利用状況調査報告

松尾　賢一[1]　　木村　倫幸[2]　　武田　充啓[2]
1)奈良工業高等専門学校　情報工学科
2)奈良工業高等専門学校　一般教科

概要　奈良工業高等専門学校情報メディア教育センター運営委員会では，家庭内でのパソコンの所有率の高さを，センターのパソコンの利用状況と自宅でのパソコン所有状況に関するアンケートによって確認する．これによって，「総合情報センターの関連施設に備えているパソコンを，学生達の学習に対して将来的に利用させていくのか」，「今後はセンターとして学生のパソコンを用いた自学自習に対して，どのような役割を果たしていくのか」等の将来的な総合情報センターの役割や位置づけを明確にするための参考資料として活用したいと考えている．本論文は，このアンケートの調査結果を報告するとともに，アンケート集計結果から今後のセンターのあり方を検討する．

1　はじめに

本校の総合情報センター（以後センターとする）は，その施設として，教育用電子計算機室，マルチメディア演習室，LL教室の3つの演習室を有する[1]．このセンターの3つの演習室は，情報メディア教育センター運営委員会によって，管理・運営がなされている．この情報メディア教育センター運営委員会は，従来からのセンターの管理・運営に加え，メディア教育の役割が付加された委員会である．したがって，単にセンター施設の管理・運営だけでなく，本校の情報基礎教育やメディアリテラシ教育を推進していく役割も果たすことが求められている．

現在，情報メディア教育センター運営委員会が管理・運営している演習室の各々には，ネットワーク接続されたパソコンが1クラスの学生数＋α程度の台数のパソコンが備えられており，情報教育ならびに語学教育のための施設として使用されている．また，昼休みや放課後の時間は，学生に対して自学自習を推進させるために，TOEICのスコア向上のための e-Learningシステムや，各パソコンにインストールされているアプリケーションソフトを自由に使用させている．従来のように，各家庭にパソコンが普及していない頃では，学生にとって各演習室のパソコンの使用頻度，ならびに，授業以外でのパソコンの使用に対する必要性も高かった．ところが，家庭におけるパソコンの普及率の高まりと，ネットワークや情報メディアの発達により，大容量のデータ転送やメディアによるデータの持ち運びが可能となり，授業終了後や下校時間以降は，家庭内のパソコンによってデータ処理や授業の課題を行なう学生が増加しつつあり，少なからず授業以外の演習室の必要性が低下している．しかしながら，このような学生の増加は，教員が感覚的に捉えているにすぎず，定量的に把握されていないのが現状である．これに対して，センターの運営に対する効率化や有効利用，センター経費の節減，そして，センター技官の定員削減が求められる中で，学生のパソコンの利用状況を定量的に把握して，以後のセンター運営の戦略として生かしていくことは，非常に重要な取り組みの一つであるといえる．

本論文は，委員会主導で本校全学生に対して，パソコン利用実態アンケート調査を実施し，学生のパソコン利用状況を定量的に明らかにした結果について報告すると共に，アンケート集計結果から今後のセンター運営のあり方について検討する．

2　パソコン利用実態アンケート調査

2．1　アンケート調査方法

アンケート調査および集計は，各学科の情報メディア教育センター運営委員によって行なわれた．アンケートは，平成17年6月27日(月)から7月1日(金)の期間で実施された．調査対象の学生は，機械，電気，電子制御，情報，物質化学工学科の各学科の1年生から5年生，および，専攻科の機械制御，電子情報，化学の各専攻の1，2年生である．過去にもパソコンのアンケート調査は，センター技官によって，新1年生対象にネットワーク接続されたパソコンの利用講習会時にアンケートを実施[2]してきた．しかしながら，かなり詳細なアンケート内容であったため，本アンケートでは，全学生が対象であり，かつ，学生の回答のしやすさと集計の容易さを考慮して，新たな質問内容と回答方法に工夫を加えて実施した．

2．2　アンケート内容について

学生のパソコン利用実態調査アンケート内容を，以下に示す．

自宅と情報総合センターのパソコンに関する質問をします．該当する番号(①，②，・・・)を回答欄に書いてください．

1　センターのパソコンを授業時間以外に利用している頻度と時間を記入してください

I．1ヶ月あたりの利用回数を答えてください【設問①】
① 15回以上　②10回～14回　③5回～9回　④4回～1回　⑤0回

II．上記の質問で⑤以外を選んだ学生(月に1回以上センターのパソコンを使用する学生)は，1回あたりの平均的な利用時間を答えてください．また，主な使用理由(その他のときは，その内容を記述してください)についても答えてください．

利用時間【設問②】
① 2時間以上　②1時間以上2時間未満　③30分以上1時間未満　④30分以下

使用理由(複数回答可能)【設問③】
①　授業に関する使用(宿題や課題に対する調べ物やレポート作成等)
②　授業関連以外の情報検索(WWW等)
③　ネットコミュニケーション(メールやチャット等)
④　情報発信(自分のHP作成等)
⑤　その他(　　)

2　自宅でパソコンを所有していますか？【設問④】
①はい　　②　いいえ
①と答えた学生のみ以下の自宅パソコンに関する質問にお答えください

3　自分が所有しているパソコンですか？【設問⑤】
①はい　　②　いいえ

4　1日あたりの平均的な利用時間は？【設問⑥】
①3時間以上　②2時間以上3時間未満　③1時間以上2時間未満　④30分以上1時間未満　⑤30分以下

5　授業(卒研も含む)に関することに自宅のパソコンを使用していますか？【設問⑦】
①はい　　②　いいえ

2．3　アンケート結果について

ここでは，アンケート結果を棒グラフで報告すると共に，そのグラフから利用実態の傾向を分析する．

2．3．1　センターのパソコン利用実態結果

まず，センターのパソコンの利用頻度として，センターを利用している学生を対象としたアンケート結果【設問①～③】について述べる．専攻科の結果については，紙面の都合上割愛する．設問①から③の各学科の回答番号の累計割合をグラフにした結果を，図1から図3に示す．

まず，図1を見ると，高学年になるにつれて1ヶ月あたりの利用回数が低下していることがわかる．次に，図2の利用者の利用時間については，30分から2時間未満の学生が多いという結果が得られた．また，図3の結果から，主な使用理由については，授業に関する使用，および，授業以外での情報検索であるという結果が得られた．

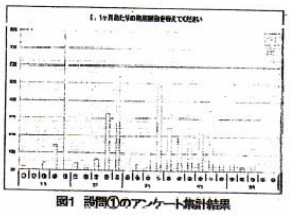


図1　設問①のアンケート集計結果

2．3．2　自宅パソコンの利用実態結果

自宅におけるパソコン利用状況に関する設問④から⑦までのアンケート結果を図4から図7に示す．図4を見ると，自宅でのパソコン所有率は，どの学年においても90％を超える結果であった．学科単位で見ても，所有率の差はほぼ見られなかった．すなわち，所属学科とパソコン所有率には，とくに関連性が見られなかった．これは，パソコンがすでに生活ツール(情報収集ツール)の一つとして使用されており，従来のコマンドベースのパソコンと比べて，特に専門的な知識や技術を必要としなくても，容易にパソコンが使いやすい GUI 環境となってきたことに加え，高性能パソコンといえども，購入しやすい価格帯になったことも，所有率の高さを支えている理由の一つといえる．

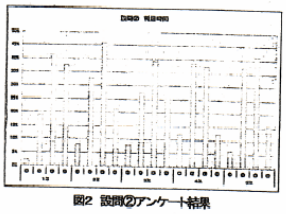


図2　設問②アンケート結果

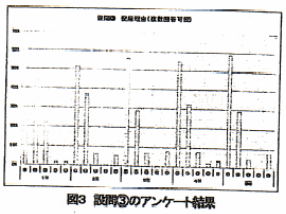


図3　設問③のアンケート結果

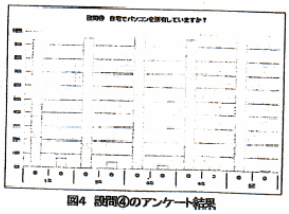


図4　設問④のアンケート結果

次に，パソコンが自分の所有物であるか否かの設問については，図5に示すように高学年ほど自分所有のパソコンである率が高くなっているのがわかる．この傾向は，どの学科においても同様であった．また，利用時間についての結果を図6に示す．この結果からは，1年と5年では，3時間以上の使用時間が少ないのに対して，2年から4年においては，3時間以上の使用時間の学生が多いことがわかる．

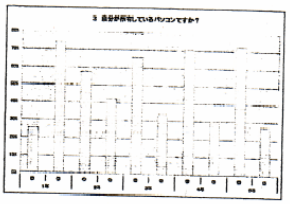


図5　設問⑤のアンケート結果

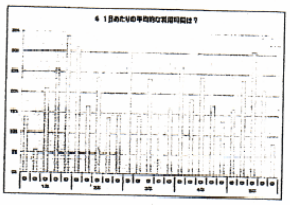


図6　設問⑥のアンケート結果

1年生では，まず高専での生活（クラブ活動，予習や復習，宿題）に時間が割かれていることや，パソコンの所有率の低さが利用時間の少なさとして表れていると考えられる．また，5年生については，研究室配属があるために，自宅でなく研究室での利用時間が多くなるために，自宅パソコンの利用時間が減少したと考えられる．さらに，図7を見ると2年生以上において，授業に対するパソコンがかなり活用されているのがわかる．

図6の使用時間の両者から言えることは，2年以上から専門科目が増え始め，報告書や課題の作成によるパソコンの使用頻度が増え，それに比例して使用時間が増加していると考えられる．

図7　設問⑦のアンケート結果

2．4　アンケート結果に対する考察

センターの利用実態においては，授業に関する使用が特に多かった．プログラミング課題が主である情報工学科においては，プログラミング環境を自宅で構築していることが多く，他学科と比べセンターの利用率が低い．

情報工学科以外の学科では，センターのパソコンにインストールされているソフトウエアに依存した授業課題では，どうしてもセンターのパソコンでないと取り組むことができないために，授業に関する利用率が高い結果になったと考えられる．

また，自宅のパソコンの利用状況においては，各学科間での差というものは，見られなかった．これは，パソコンがツールとしてのみ使用され，学科が違えども使用目的がほぼ授業に関することで使用されているために，このような結果となったと考えられる．しかしながら，図8に示すように，使用環境でなく使用時間の面から見ると，学科間の特徴が顕著に見られた．主に，電気，電子制御，情報の3学科は，どの学年においても，機械，物質化学と比較すると，パソコンの使用時間に2倍程度の開きが見られた．

つまり，各学科間において，学生がパソコンを所有する環境においては，大きな違いは見られないが，使用時間の長さにおいては，学科の違いが顕著に現れることがわかった．この時間の長さは，パソコンに対する興味の度合い，スキル，知識量，得られる情報量等で，学生間格差が生じていると考えられる．

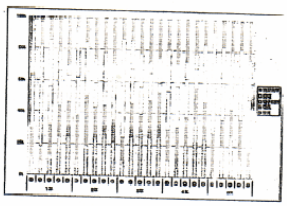


図8　各学科の自宅のパソコン利用時間割合

3．おわりに

「情報工学科だからパソコンをよく理解している．」，「化学だからパソコンは不要である．」という時代は，既に薄わったといえるアンケート結果であった．すでに，パソコンは，生活の一部として欠かせない情報収集ツールであるとともに，学生にとっては，授業に対して欠かせない道具ともなっている．

つまり，このような状況に対して，センターとしての役割としては，学科を問わないパソコンの有効利用や活用方法を柱とした全学科共通の情報教育を実現させる必要性を感じた．さらに，このアンケートを通じて，センターのパソコンに依存した教育体制を見直し，e-Learning を活用した授業へのシフト，自宅と本校の両場所で同じ環境を有するパソコンが活用できる教育環境作りを，今後検討すべきであると実感した．

謝辞

本アンケート調査にご協力いただきました情報メディア教育センター運営委員の教員の方々に深く感謝いたします．

参考文献

1) 奈良高専：平成１７年度学校概要（2005.4）
2) 川辺ら："奈良高専における１年生対象演習室利用講習会について"，第２４回高専情報処理教育研究発表会　講演論文集，(2004.8)

（出典　総合情報センター保存資料）

（分析結果とその根拠理由）

総合情報センターは，本校のセキュリティポリシーに基づき，情報資産保護のための処置及び基幹ネットワークの管理を一元的に行っている。学生が利用する３つの演習室についてはネットワークを本校基幹ネットワークと切り離して管理することにより，学生にとっての利便性を考慮しつつ，ネットワーク管理上の安全性を高めている。また，クライアントＰＣについても学生が学習に使用する上で，ハード面，ソフト面いずれもニーズに応えうる性能を持ち，快適な教育環境の整備を図っている。アンケート等により情報基礎教育・メディアリテラシー教育を行う上で学生にとって何が必要であるかを情報収集し，それを的確にフィードバックするよう努力を重ねており，ハード面・ソフト面・人的支援面いずれも基準を満たすものである。

以上のように，教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館の蔵書数とその内訳を示す（資料７－１－②－６）。図書，視聴覚資料（資料８－２－①－１）を含め「日本十進分類法」の分類を基本として蔵書配列しているので，館内配置図で所在場所の発見は容易である。また蔵書検索用パソコンで検索することも可能である。

蔵書は毎年約２，０００冊程度が追加されるが，その一部については本校の選書方針に従い，情報メディア教育センター運営委員会にて推薦・選書されている（資料８－２－①－２）。図書の推薦・選書の過程で，ホームページから教職員・学生・一般利用者の要望を汲み取り，ニーズに合致した図書の購入が図られている（資料８－２－①－３）。本校で保有していない文献については，文献複写サービスを行っており，他大学・国立国会図書館・科学技術振興機構・ＢＬＤＳＣ（英国図書館文献配布センター）等に複写を依頼することで対応している（資料８－２－①－４）。このように教育研究活動に必要な書籍を，限られた予算の中，効率的に収集し，蔵書の検索も容易であるので，図書館の整備状況としては適切なものとなっている。

資料８－２－①－１　視聴覚資料数（平成１７年度末現在）

媒体種別	所有数
ビデオテープ	162
DVD	256
レーザーディスク	200
カセットテープ	18
CD	32
計	668

（出典　庶務課図書係作成資料）

資料８－２－①－２　選書方針

選　書　方　針

（１）情報メディア教育センター運営委員会（以下、「情報メディア委員会」という。）および図書係は、購入図書の推薦および選書にあたる。

（２）情報メディア委員の図書推薦枠を 100,000 円とする。

（３）教職員の希望・推薦図書は、情報メディア委員会で選書する。

但し、急を要する場合はセンター長または図書館担当副センター長の決裁で購入することができる。（情報メディア委員会の事後承認を得ること。）

（４）学生希望図書の推薦は、学生会図書委員会が行い、情報メディア委員会で選書する。

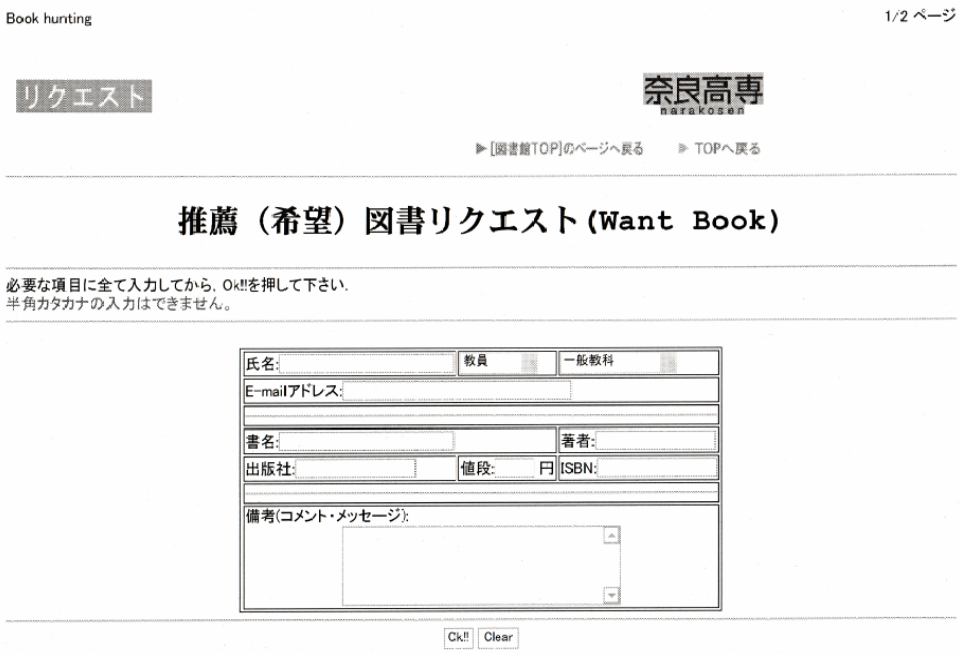
（５）一般利用者の希望図書は、情報メディア委員会で選書する。

（６）選書担当委員は、各月２５日までに提出された推薦図書を取り纏め、原案を作成し、委員会に提案する。

但し、急を要する場合はセンター長または図書館担当副センター長の決裁で購入することができる。（情報メディア委員会の事後承認を得ること。）

（出典　庶務課図書係保存資料）

資料８－２－①－３　図書リクエスト応募様式



Book hunting　1/2 ページ

リクエスト　奈良高専 narakosen

▶[図書館TOP]のページへ戻る　▶ TOPへ戻る

推薦（希望）図書リクエスト(Want Book)

必要な項目に全て入力してから，Ok!!を押して下さい．
半角カタカナの入力はできません。

氏名:　教員　一般教科
E-mailアドレス:
書名:　著者:
出版社:　値段:　円　ISBN:
備考(コメント・メッセージ):

Ok!!　Clear

（出典　奈良高専ホームページより）

資料８－２－①－４　文献複写依頼

リクエスト　奈良高専 narakosen

▶[図書館TOP]のページへ戻る　▶ TOPへ戻る

文献複写依頼(Inter-Library Loan)

- 各項目を入力してから依頼ボタンをクリックしてください。
- 学生の校費での申込は担当教員の承諾を受けてから依頼してください。
- 巻(号)は、号数を( )で囲んでください。例：117(3)
- ページは、ページ番号のみか、ページ範囲を入力してください。例：51-56
- 半角カタカナの入力はできません。

依頼　項目クリア　図書館メニューへ

文献複写申込書

下記のとおり申し込みます。

- 著作権に関する一切の責任は申込者が負います。

氏名　一般教科　職名(学年): 教員
指導教員:　E-mail:　内線:
支払区分: ◉校費 ○私費　郵送方法: ◉普通 ○速達 ○FAX　JICST申込: ○要 ◉不要
誌名(書名):
巻(号)　年　ページ
著者:
論題:
備考:
ISBN/ISSN:

依頼　項目クリア

（出典　奈良高専ホームページより）

（分析結果とその根拠理由）

図書館に納入される図書・学術雑誌・視聴覚資料は学生・教職員が真に必要とするものを中心に収集しており，あるいは文献複写サービスを利用することによって教育研究上必要な資料の収集が行われている。また一般利用者のニーズも組み入れたうえで選書しており，限られた財源の中で最大限の効果を上げられるよう，情報メディア教育センター運営委員会を中心に図書館の機能を有効に引き出す努力をしている。

以上のように，図書，学術雑誌，視聴覚資料及び教育研究上必要な資料については，系統的に整備され，有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・教育環境の改善のため，全クラスルーム（一般教室）に空調機を設置している。
・情報ネットワークが整備され適切にセキュリティ管理がなされている。
・体育施設や図書館について一般開放も行っており，地域に密着した活動が実現できている。
・教育研究施設の稼働率が高い。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準８の自己評価の概要

本校の校地面積について，校舎延面積(職員宿舎を除く)は 28,297 ㎡であり，設置基準に定められている基準値(24,802 ㎡)を満足している。設置基準に定められている運動場，体育館，校舎（教室，研究室，実験・実習室，演習室），総合情報センター，図書館，実習工場，プール等が設置され，授業や課外活動に有効に活用されている。また自宅からの通学困難な学生及び希望する学生のため，学寮を設けている。体育館，陸上競技場，プール等について，休日等の本校授業等に支障の無い日には，大和郡山市や地域住民に対して開放している。

さらに本校では，クラスルーム(一般教室)について，梅雨期・夏期・冬期における教育環境の改善を目的として，平成１４年度から学年進行(年次計画)により，空調機を順次設置しており，平成１７年度の１年生クラスルームへの設置をもって，全学年の教育環境改善が完了したところである。

教育インフラとしては「高等専門学校設置基準」を十分に満たしていること，校舎，図書館，総合情報センター，実習工場，学寮の施設・設備の稼働状況から，本校の編成した教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され有効に活用されている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育活動の実態を示すデータや資料の収集は企画会議（資料９－１－①－１），運営会議（資料９－１－①－２，３）を中心として行われている。各教科の状況を把握するため，全ての授業の科目ファイル（資料９－１－①－４）を作成し，各教科の教育状況，学生の習熟度等のデータを収集，蓄積している。また，学生に対する授業アンケートをＦＤ委員会の主導で実施しており，学生からの評価等を収集している（資料９－１－①－５）。

これら収集，蓄積した資料及び学外有識者からなる運営諮問会からの提言は，点検・評価委員会（資料９－１－①－６），将来計画委員会（資料９－１－①－７）をはじめ教務委員会，専攻科委員会等の各種委員会及び一般教科，各専門学科において教育の質の向上と改善のために，審議，検討されている（資料９－１－①－８）。

（分析結果とその根拠理由）

企画会議，運営会議，ＦＤ委員会を中心として，科目ファイル，授業アンケート等の教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集，蓄積されている。また，点検・評価委員会をはじめとする各種委員会及び各学科において，これを検討，審議する体制が整っている。

以上のことから，教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されている。

資料９－１－①－１　企画会議規程

奈良工業高等専門学校企画会議規程　（抜粋）

（設置）

第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に企画会議（以下「会議」という。）を置く。

（審議事項）

第２条 会議は，次の各号に掲げる事項を企画・立案する。

（１）　本校の運営に関する基本方策に関すること。

（２）　本校の教育，研究の基本方策に関すること。

（３）　予算等財務に関する基本方策に関すること。

（４）　施設，設備の整備等に関する基本方策に関すること。

（５）　その他本校の管理，運営に関する重要事項。

（会議の開催）

第５条 会議は，原則として毎月１回開催するものとし，必要ある時は臨時に開催することが出来る。

（出典　奈良工業高等専門学校企画会議規程）

資料９－１－①－２　運営会議規程

奈良工業高等専門学校運営会議規程

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議（以下「会議」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 会議は，企画会議，委員会等から提案された事項を審議する。
（組織）
第３条 会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事
（３）　学生主事
（４）　寮務主事
（５）　専攻科主任
（６）　一般教科及び専門各学科主任
（７）　情報メディア教育センター長
（８）　事務部長
第４条 会議は，校長が招集し，その議長となる。
（会議の開催）
第５条 会議は，原則として毎月１回開催するものとし，必要ある時は臨時に開催することができる。
（委員以外の者の出席）
第６条 会議が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第７条 会議は，特定の事項について調査検討するため，会議内に専門委員会を設置することができる。
２　専門委員会に関して必要な事項は，別に定める。
（事務）
第８条　会議に関する事務は，庶務課で行う。

（出典　奈良工業高等専門学校運営会議規程）

資料９－１－①－３　運営会議議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　運営会議議事要録）

資料９－１－①－４　科目ファイル授業点検シート

平成１７年度　授業点検シート

担当者＿＿＿＿＿＿＿＿

点検者＿＿＿＿＿＿＿＿

Ｎｏ.	点検項目	担当者	点検者
１	シラバス		
２	学生アンケート結果		
３	公開授業		
４	試験，レポート返却率		
５	成績一覧表		
６	講義ノート，配布資料など		
７	試験問題（前期中間，前期期末，後期中間，学年末）		
８	模範解答（前期中間，前期期末，後期中間，学年末）		
９	試験答案（合否分）（前期中間，前期期末，後期中間，学年末）		
１０	課題，演習		
１１	課題，演習の提出レポート（合否分）		
１２	補充・補講授業の記録，参考資料		
１３	不可Ａ学生の解消結果（再評価結果）		
１４			

本シートには，授業担当者名の記載と表中の担当者欄には，整備していただいたものに○印を付けてください。

（出典　科目ファイル　授業点検シート）

資料９－１－①－５　ＦＤ委員会議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　ＦＤ委員会議事要録）

資料９－１－①－６　点検・評価規程

奈良工業高等専門学校点検・評価規程

（趣旨）

第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）が，本校の教育水準の向上を図り，本校の目的及び社会的使命を達成するため，教有研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価については，この規程の定めるところによる。

（委員会）

第２条 本校に，前条の趣旨に即し，点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の委員は，奈良工業高等専門学校運営会議の委員をもって充てる。

３　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

４　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

５　委員会に委員長補佐２名を置き，校長が指名した委員をもって充てる。

６　委員長に事故があるときは，委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（任務）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる事項を処理する。

（１）　点検及び評価の基本方針並びに実施基準の策定に関すること。

（２）　点検及び評価の実施に関すること。

（３）　点検及び評価に関する報告書の作成及び公表に関すること。

（点検・評価事項）

第４条 点検及び評価を行う事項は，次の各号に掲げるとおりとする。

（１）　本校の教育理念及び目標に関すること。

（２）　教育活動に関すること。

（３）　研究活動に関すること。

（４）　施設・設備に関すること。

（５）　国際交流に関すること。

（６）　生涯学習に関すること。

（７）　社会との連携に関すること。

（８）　学校運営に関すること。

（９）　自己評価体制に関すること。

（10）　委員会が特に必要と認めた事項

２　前項各号に係る具体的な点検・評価項目は，委員会が別に定める。

（点検・評価の実施）

第５条 委員会は，点検・評価項目により，一定期間毎に点検及び評価を行うものとする。

（報告書の作成及び公表）

第６条 委員会は，とりまとめた点検及び評価の結果を，報告書等として公表するものとする。

（点検・評価結果の対応）

第７条 校長は，委員会が行った点検及び評価の結果に基づき，改善が必要と認められるものについては，運営会議又は関係する委員会にその改善策の検討を付託するものとする。

（小委員会）

第８条 委員会の下に，小委員会を置く。

２　小委員会は，点検・評価の具体的な項目について検討し，その内容を委員会に報告するとともに，提出された点検・評価について報告書への纏めを行うものとする。

３　小委員会に委員長を置き，委員会の委員長補佐をもって充てる。

４　小委員会の委員は，選任教員の中から校長が指名する。

５　小委員会の委員の任期は１年とし，再任は妨げない。

（専門部会）

第９条 委員会に，点検及び評価に関し専門的な事項を調査検討及び実施させるため，専門部会を置くことができる。

２　専門部会に関して必要な事項は，その都度委員会において審議する。

（事務）

第１０条 委員会に関する事務は，庶務課で行う。

（雑則）

第１１条 この規程に定めるもののほか，点検及び評価に関し必要な事項は，委員会の議を経て校長が別に定める。

（出典　奈良工業高等専門学校点検・評価規程）

資料９－１－①－７　将来計画委員会規程

奈良工業高等専門学校将来計画委員会規程

（設置）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の今後の在り方や中期計画・中期目標等に関する事項を審議するため，将来計画委員会(以下「委員会」という。)を置く。

（目的）

第２条　委員会は，機構が定めた中期計画・中期目標に沿った本校の中期計画・中期目標の設定や，本校の将来の在り方を審議し，その結果を教職員・学生等に正しく認識させることを目的とする。

（審議事項）

第３条　委員会は，次の事項について審議する。

(1)　本校の今後の在り方に関すること。

(2)　本校の中期計画に関すること。

(3)　本校の中期目標に関すること。

（組織）

第４条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　校長

(2)　教務主事，学生主事及び寮務主事

(3)　専攻科主任

(4)　一般教科及び専門各学科主任

(5)　情報メディア教育センター長

(6)　事務部長

(7)　庶務課長，会計課長及び学生課長

（委員長及び委員長補佐）

第５条　委員会に委員長及び委員長補佐を置く。

２　委員長は，校長をもって充てる。

３　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

４　委員長補佐は，委員の中から校長が指名する。

５　委員長補佐は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，その職務を代行する。

（小委員会）

第６条　委員会の下に，小委員会を置く。

２　小委員会は，本校の中期計画・中期目標に組み入れる具体的事項について検討し，その内容を委員会に報告する。

３　小委員会に委員長を置き。委員会委員長補佐をもって充てる。

４　小委員会の委員は，専任教員の中から校長が任命する。

５　小委員会の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。

（専門部会）

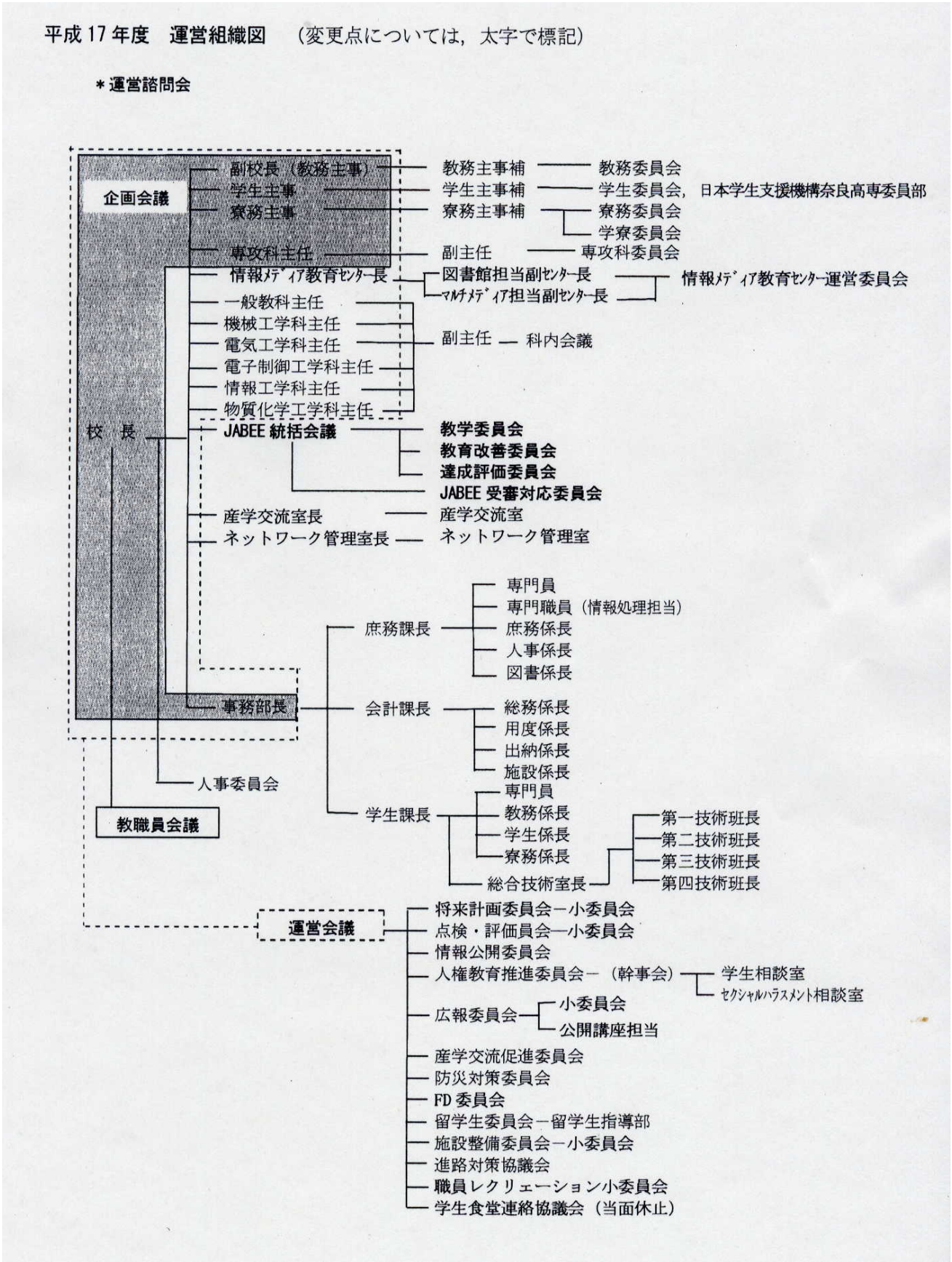
第７条　委員会は，特別の事項について調査・検討するため，専門部会を設置することが出来る。

（事務）

第８条　委員会に関する事務は，庶務課で行う。

（出典　奈良工業高等専門学校将来計画委員会規程）

資料９－１－①－８　運営組織図



（出典　平成１７年度自己点検・評価報告書）

観点９－１－②：　学生の意見の聴取（例えば，授業評価，満足度評価，学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生の意見を聴取する方法としては，平成６年度より毎年授業アンケートを年１度行うと共に，授業アンケート報告書を発行している（資料９－１－②－１，２）。平成１７年度からは，前期集中科目と後期集中，通年科目に対するアンケートを年２回行うことにより全科目に対するアンケートを行った（資料９－１－②－３）。また，専攻科課程に関しては前後期の全科目に対しアンケートを行って（資料９－１－②－４），まとめを発行している（資料９－１－②－５）。アンケート結果は学生へ年度内を目標としてフィードバックされ（資料９－１－②－６），改善点等を提示すると共に，報告書に担当教員による分析と課題を記述している（資料９－１－②－７，８）。これらの改善点等は次年度のシラバスに反映され，本校ホームページに公開されている（資料９－１－②－９）。平成１７年度より，シラバスの講義項目・内容欄に自己評価欄を設け（資料９－１－②－１０），学生自身による理解・達成度評価を記入させると共に，これを適宜調査している。また，準学士課程学生及び専攻科生に対し，定期試験ごとに学生自身による学習目標の達成度点検シートを提出させている（資料９－１－②－１１）。

各教員が行っているオフィスアワー（資料９－１－②－１２）を通じて学生の意見を聴取するのに加え，平成１６年度からは「何でも相談室」（資料９－１－②－１３）として，プチアンケート回収箱を設置している。さらに専攻科生の意見を聴取するため，「専攻科学生との懇談会」を毎年６月に実施している（資料９－１－②－１４）。

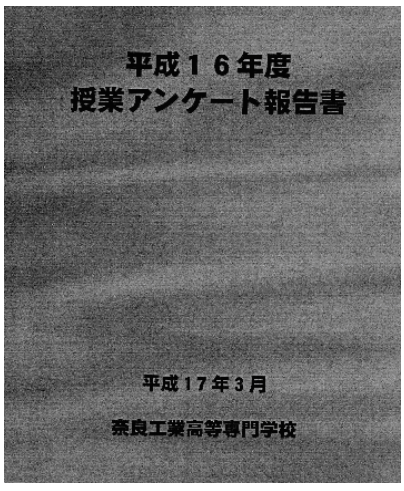
以上の結果を学生への支援体制等に反映している（資料９－１－②－１５）。

（分析結果とその根拠理由）

授業アンケートや学生自身による自己評価を行うことにより学生の意見の聴取を行い，その結果を報告書として公表すると共に，次年度のシラバスに反映させている。また，オフィスアワーやプチアンケート，懇談会を通じて広く学生の意見を聴取し，改善に努めている。

以上のことから，学生の意見の聴取が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

資料９－１－②－１　授業アンケート報告書



（出典　平成１６年度授業アンケート報告書）

資料９－１－②－２　授業アンケート報告書

第１章　調査目的・方法

１．１　調査目的

学生からの客観的な評価に基づく授業アンケートは、教育改善等、教員の教育に対する資質・技術の向上を図る上でその根幹をなす極めて有効な手段である。本校では、教育研究の効率化が指摘されるかなり以前から、学生にとって理解しやすく興味のもてる授業の実現をめざして、本来的な教育改善活動を続けてきており、相応の成果を上げてきた。また、最近行われた学習指導要領の改訂に伴う「選択科目」や「総合的な学習の時間」の創設、授業時間数・学習内容の削減、それらによって生じる入学生の学習レベルの多様化など、私たちをとりまく激しい環境の変化に対しても、適切に対応するため、鋭意努力を続けているところである。私たちは、本校の教育研究の内容を吟味し、充実したものへと改善していくには、その教育や研究をなるべく多様な視点から評価することが必要であり、教員側からの自己点検だけでなく、学習主体である学生の側からの評価を把握することもまた重要であると考える。

この調査は、上に述べた立場から、授業内容や授業方法、および学生自身の授業への取り組みなど、授業にかかわる様々な側面について、学生から率直な意見を聴取し、それらを授業改善のための参考に資することを目的とするものである。併せて、その結果を学生に公表することにより、授業改善への参加意識を高めること、また本校における教育の実態の一端を広く校外の方々にもご理解していただき、今後の授業改善についてのご意見、ご指摘をいただくことも目的としている。

１．２　調査方法

本校では、全学的な学生による授業アンケート調査を、平成６年度以来、毎年実施しており、今回で１１回目を迎える。アンケートの調査方法および内容などが、これまで全般にわたり十分に精査されていることを踏まえ、本年度の調査は、前年度実施した調査方法をほぼ踏襲した。ただし、調査結果を年度内に学生にフィードバックできるよう、アンケート調査実施期を前年の時期に比べおよそ１ヶ月早め、今年度は平成１６年１０月４日（月）から１０月１５日（金）の２週間とし、以後の日程についても調整した。アンケートは前年度の調査と同様、講義科目系（以下、講義系と略称）、実技科目系（以下、実技系と略称）、そして実験・実習・演習科目系（以下、実験系と略称）の３つに分けて実施し、集計を専門の業者に委託した。

（1）設問項目・回答方法

前年度と同様、３種類の授業形態に対し２０の質問項目（以下の５群からなる質問項目）からなるアンケートを全教科に対して実施した。

A群）授業の様子について
B群）授業の準備や工夫について
C群）授業の組み立てや評価について
D群）学生の授業への取り組みについて
E群）授業全般について

前年度からの設問内容を変更あるいは追加した点は、以下のとおりである。

［講義系］計３項目
C群 10
（旧）授業のレベルや進み具合は適切であった
（新）授業のレベルや進み具合は適切であった　※レベル：（高・適切・低）　進み具合：（速・適切・遅）
C群 11
（旧）試験の内容は適切であった
（新）試験の内容は適切であった　※内容：（難・適切・易）
C群 12

（旧）成績の評価は妥当であった
（新）成績の評価方法は妥当だと思う

［実技系］計３項目
C群 10
（旧）授業のレベルや進み具合は適切であった
（新）授業のレベルや進み具合は適切であった　※レベル：（高・適切・低）　進み具合：（速・適切・遅）
C群 11
（旧）試験の内容は適切であった
（試験のない場合：成績評価の対象となるレポート・課題・実技レベルの設定は適切であった）
（新）試験の内容は適切であった　※内容：（難・適切・易）
（試験のない場合：成績評価の対象となるレポート・課題・実技レベルの設定は適切であった）
C群 12
（旧）成績の評価は妥当であった
（新）成績の評価方法は妥当だと思う

［実験系］計０項目

回答は、各質問に対して１～４の４段階評価（中間値は２．５）で行い、各質問に対して肯定的な評価には、高い評価値を与えるようにした。すなわち、「あてはまる」を４、「ややあてはまる」を３、「あまりあてはまらない」を２、「あてはまらない」を１とした。

さらに、設問用紙には、例年どおり学生が自由に意見を記述するための自由記述欄を設けるとともに、講義系と実技系については、設問１０と１１に対し、どの程度適切であったかを問う設問を今年度新たに追加し、授業担当教員の参考資料とした。

（２）集計方法と結果の利用

回答用紙の集計作業は、専門の業者に依頼した。回答の集計は、受講単位の科目を３種類の系に分け、クラスごとで実施した。集計結果は、設問ごとの評価値の分布一覧、クラス平均値、系別ごとの総平均を表示し、併せて無回答の数値と割合も示した。各設問の評価の平均値が高いほど、質問内容に対して肯定的な考えを学生がもっていることになる。

なお、公開用には、評価の分布一覧表ではなく、上に示した５つの設問群ごとに各設問の平均値の平均をとり、レーダーチャートの形で表示し、同じように表示した３種類の系別の全体平均のグラフと左右に並べた。また、設問群ごとの各設問の平均値の平均（黒丸）をクラス平均値（棒グラフ）と比較できるよう示した。さらに同一群内の各設問の平均値の最大値と最小値の範囲を線分で表示した（今回調査分の全体平均（設問項目ごとの評価値の分布一覧付）についてはｐＸＸを参照）。

（３）担当教員による分析と課題

担当教員には、担当科目のクラスごとに集計した分布一覧表と５つの設問群ごとの平均値で示した公開用のグラフとを返却し、それらをふまえたうえでの学生へのコメントを「担当教員による分析と課題」と題して書いていただいた。その際には、以下の点に留意してもらった。

○学生に意味が伝わるよう、わかりやすく書くこと。
○分析は、できればＡ～Ｅの５つの群ごとにそれぞれ書くこと。
○各設問の評価に対する回答（例えば評価の最大値、最小値についての説明など）は、各群の分析の中で行うこと。
○各群を超えて各設問についてランダムに回答すると、説明がわかりにくくなるので、まとまりのある回答になるようにすること。
○できれば学生の自由記述についても、プラス評価のものとマイナス評価のものからそれぞれ適当なものを紹介し、それに回答すること。

- 4 -

（出典　平成１６年度授業アンケート報告書）

資料９－１－②－３　教務委員会議事要録

平成１７年１１月教務委員会議事概要　（抜粋）
日時：平成 17 年 11 月 1 日（火）16:35～18:05

６．授業アンケート進捗状況及びシラバスの作成について
　授業アンケートについて，本科前期集中科目は１０月３１日～１１月１７日，通年科目，後期集中科目は，１２月１４日～１月１６日の間に実施することとし，引き続き，委員への協力要請があった。

（出典　教務委員会議事概要）

資料９－１－②－４　専攻科授業アンケート用紙

奈良工業高等専門学校専攻科
授業アンケート（その１）

学年＿＿＿＿　科目名（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Ａから Ｐ までの各設問について、４～１の評点で該当するところに○印を記入してください。
［４：あてはまる　３：ややあてはまる　２：あまりあてはまらない　１：あてはまらない］

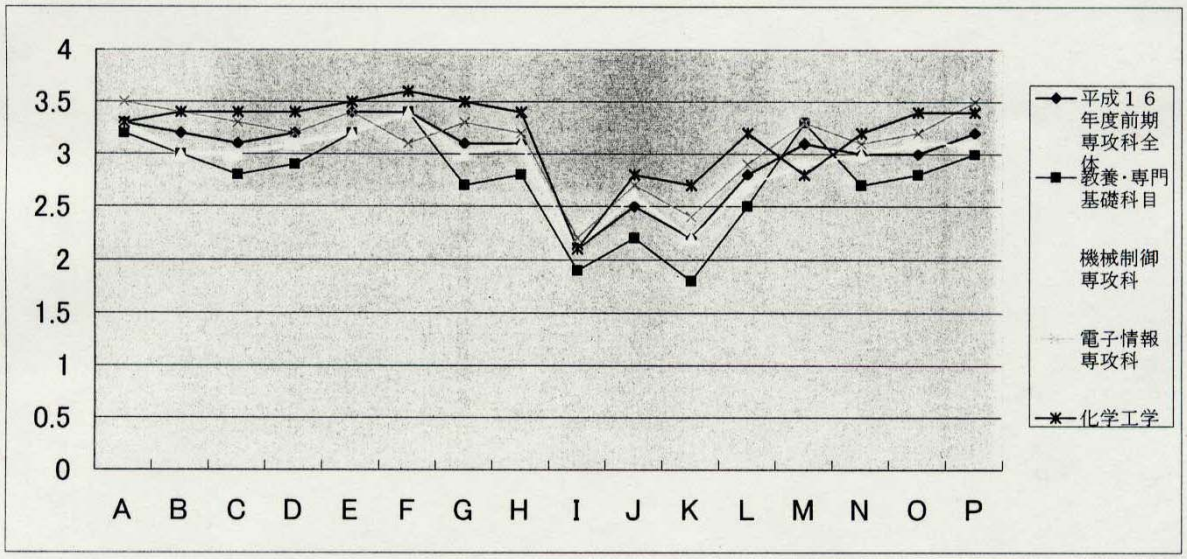
		4	3	2	1
（講義について）					
A	講義内容はシラバスと一致していた。				
B	教材（教科書、プリント等）は適切であった。				
C	教員のプレゼンテーション（板書、OHP,プロジェクター等）は適切であった。				
D	演習や課題は適切であった。				
（教員の講義の準備や進め方について）					
E	教員の講義に対する準備は十分であった。				
F	教員は熱心に講義を行った。				
G	教員の説明はわかりやすかった。				
H	講義の進み具合は適切であった。				
（自分自身の取り組について）					
I	シラバスを参考にした。				
J	講義に関係する参考書や文献等を活用した。				
K	講義中に質問や意見を述べた。				
L	総合的に講義には積極的に取り組んだ。				
（講義全般について）					
M	講義がおこなわれた部屋は広さ、設備、環境など適切であった。				
N	講義の内容には興味を持つことができ、レベルは適切であった。				
O	講義内容は将来役に立つと思う。				
P	総合的によい講義と評価できる。				

（出典　平成１６年度専攻科授業アンケート）

資料９－１－②－５　専攻科授業アンケートのまとめ

平成16年度前期　専攻科全体

		全体の結果		
講義について		人数	合計点	平均点
A	講義内容はシラバスと一致していた	405	1349	3.3
B	教員は熱心に講義を行った	406	1291	3.2
C	教員のプレゼンテーションは適切であった	406	1259	3.1
D	教材は適切であった	405	1282	3.2
教員の講義の準備や進め方について		1622	5181	3.2
E	教員の講義に対する準備は十分であった	405	1362	3.4
F	教員の説明はわかりやすかった	405	1381	3.4
G	演習や課題は適切であった	405	1238	3.1
H	講義の進み具合は適切であった	405	1243	3.1
自分自身の取り組みについて		1620	5224	3.2
I	シラバスを参考にした	405	859	2.1
J	講義に関係する参考書や文献等を活用した	405	1016	2.5
K	講義中に質問や意見を述べた	405	905	2.2
L	総合的に講義には積極的に取り組んだ	405	1119	2.8
講義全般について		1620	3899	2.4
M	講義が行われた部屋は広さ、設備、環境など適切であった	405	1264	3.1
N	講義の内容には興味を持つことができ、レベルは適切であった	405	1195	3.0
O	講義内容は将来役に立つと思う	405	1223	3.0
P	総合的に良い講義と評価できる	405	1299	3.2
	小計	1620	4981	3.1
	合計	6482	19285	3.0



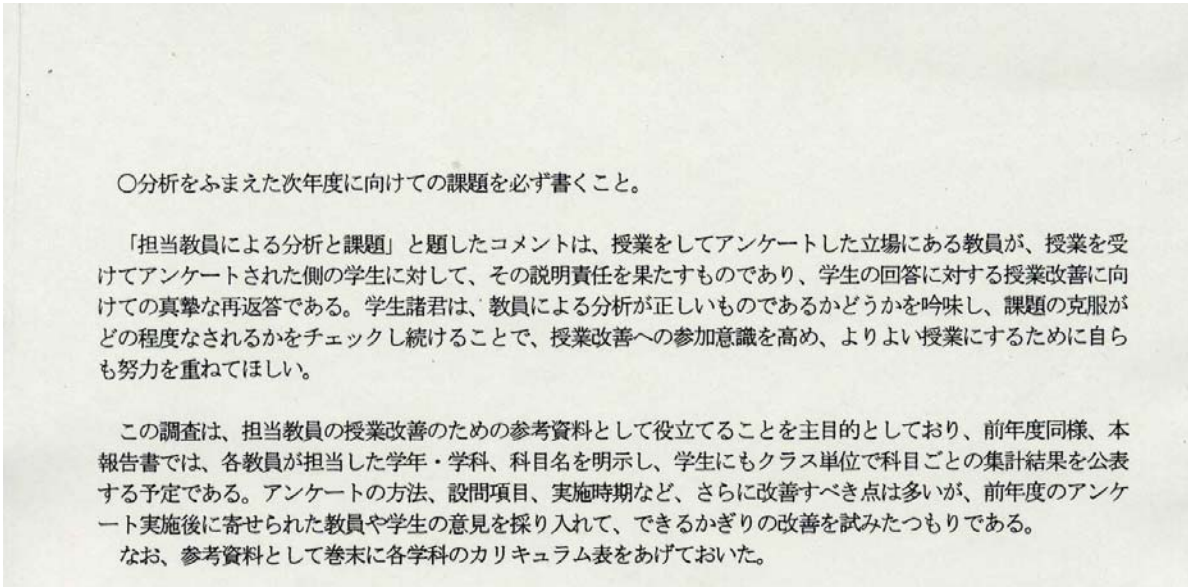
（出典　平成１６年度専攻科授業アンケートのまとめ）

資料９－１－②－６　ＦＤ委員会議事要録

第２回ＦＤ委員会議事要録
日　時　　平成１７年９月１５日（木）　１６：１３～１６：２８
議　事
１．授業アンケートについて
　教務委員会に付託されているが，本年度は前期科目，後期科目，通年科目に区分して実施し，自由記述に対する学生へのフィードバックは年度内に行う。アンケートは前期科目の１～３年は担任，４～５年は教務委員で後期開始後早い時期に実施する。後期・通年科目は教科担当者本人に１２月１４日～１月１６日に実施願う。アンケート回答の提出締め切りは１月１６日とし，アンケート回答はマークシートにすることで，業者に見積もりを取っている。冊子にするのは翌年度に行うことにしている等の説明があった。
　昨年は教科担当者以外でアンケートを取るようにとのことであったがとの質問があり，確認することとした。また，全体的な計画も提示することとした。

（出典　ＦＤ委員会議事要録）

資料９－１－②－７　授業アンケート報告書



○分析をふまえた次年度に向けての課題を必ず書くこと。

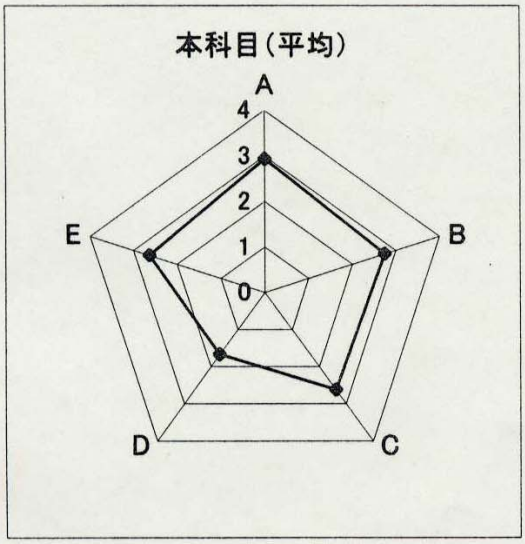
「担当教員による分析と課題」と題したコメントは、授業をしてアンケートした立場にある教員が、授業を受けてアンケートされた側の学生に対して、その説明責任を果たすものであり、学生の回答に対する授業改善に向けての真摯な再返答である。学生諸君は、教員による分析が正しいものであるかどうかを吟味し、課題の克服がどの程度なされるかをチェックし続けることで、授業改善への参加意識を高め、よりよい授業にするために自らも努力を重ねてほしい。

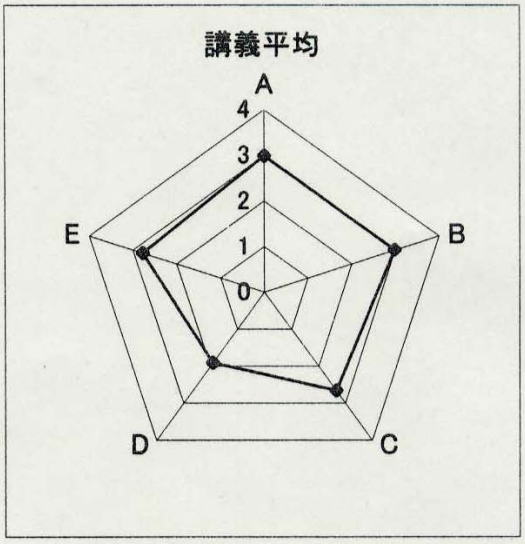
この調査は、担当教員の授業改善のための参考資料として役立てることを主目的としており、前年度同様、本報告書では、各教員が担当した学年・学科、科目名を明示し、学生にもクラス単位で科目ごとの集計結果を公表する予定である。アンケートの方法、設問項目、実施時期など、さらに改善すべき点は多いが、前年度のアンケート実施後に寄せられた教員や学生の意見を採り入れて、できるかぎりの改善を試みたつもりである。
なお、参考資料として巻末に各学科のカリキュラム表をあげておいた。

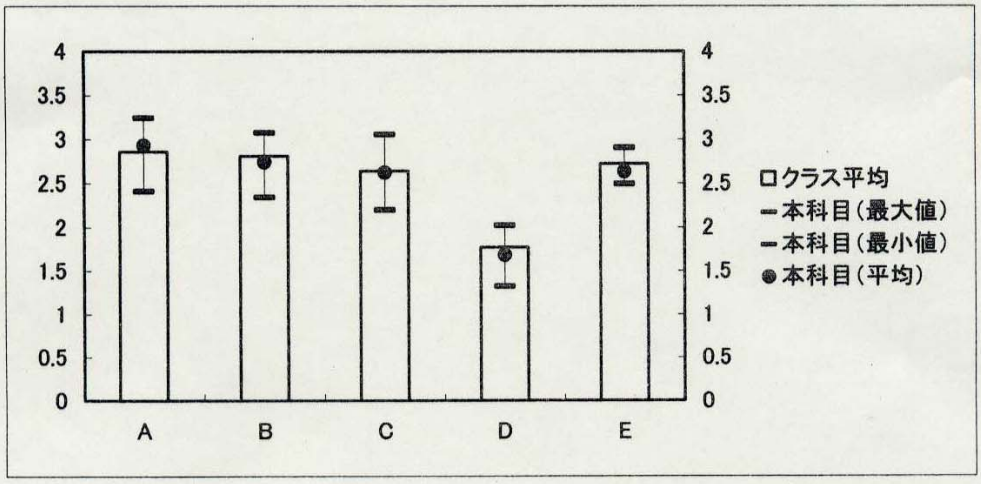
（出典　平成１６年度授業アンケート報告書）

資料９－１－②－８　授業アンケート報告書

学科	学年	科目	必修・選択	単位数
電子制御工学科	3	計測工学	必修	2







担当教官による分析と課題

Ａ群では、全体平均とほぼ変わりのない評価を受けており、授業の様子としての教員側の熱心さは学生にある程度伝わっていると考えられる。ただし、設問４の評価が低く質問のしやすさに工夫が必要であると思われる。Ｂ群も全体平均とほぼ同じ評価を受けており授業の準備や説明の仕方、教材については一定の評価を得ている。ただし、設問８の演習、宿題に関しては他の設問より低い値であり、演習、宿題が少し不足していたと思われる。Ｃ群については全体平均とほぼ変わりのない評価を受けており、授業の組み立てや評価については学生にとって適切であったと考えられる。また、授業のレベル、進み具合についても学生はほぼ適当であると感じているようである。Ｄ群も全体平均とほぼ同じ結果となっており、学生の自主的な学習である予習や参考書等の活用が十分に行われているとは思われない。Ｅ群の授業全般については、総合的には必要性を感じているものの積極的に学習に参加していない学生が多いと思われる。今後、自主的な学習である予習、復習を促すための演習や課題提出を多くすることにより、学生の授業への興味を増し、授業内容の理解度を向上するとともに、オフィスアワー等を利用した質問の機会を増やすことにより、授業に対する積極的な取り組みを助長することが必要であると考える。

（出典　平成１６年度授業アンケート報告書）

資料９－１－②－９　シラバス（ホームページ公開）

カリキュラム・シラバス

奈良高専 narakosen

▶ [受験生の方へ]のページへ戻る

本科

機械工学科	一般教科	[平成13～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成9～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
電気工学科	一般教科	[平成13～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成11～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
電子制御工学科	一般教科	[平成13～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成10～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
情報工学科	一般教科	[平成13～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]
	専門科目	[平成10～16年度入学者に適用]
		[平成17年度以降入学者に適用]

専攻科

機械制御工学専攻	[平成17年度入学者に適用]
	[平成18年度以降入学者に適用]
電子情報工学専攻	[平成17年度入学者に適用]
	[平成18年度以降入学者に適用]
化学工学専攻	[平成17年度入学者に適用]
	[平成18年度以降入学者に適用]

（出典　奈良高専ホームページ）

資料９－１－②－１０　シラバス

計測工学 (Engineering of Instrumentation)	３年・通年・２単位・必修 電子制御工学科・担当　押田　至啓
〔学習・教育目標との対応〕	〔JABEE 基準との対応〕

〔講義の目的〕

工学の各分野において計測，測定は必要不可欠で非常に重要な技術である。本講義では，計測工学の基本的な概念と知識を習得するとともに，計測システムの特性を正しく評価し適切な計測システムを構築するための知識を習得することを目的とする。

〔講義の概要〕

計測を情報の検出と処理を行うシステムとの観点からとらえ，情報をどのように検出，認識し，解析処理し，さらに，これを有効に利用するかということを中心にして，計測工学，計測システムの知識を習得する。

〔履修上の留意点〕

計測・制御システムの例は身近なところにも多く存在しているので，それらがどのようなシステムで構成されており，また，どのような考え方を基にして処理を行っているのか，計測工学の観点から見ることにより，学習内容を理解すること。

〔到達目標〕

前期中間試験：１）計測，測定に関する定義と考え方の理解，２）計測目的，計画の理解，３）単位の基本的な考え方と定義の理解，４）基本となる測定法の分類と特徴の理解

前期末試験：１）誤差と精度の定義とその表示方法の理解，２）誤差の原因とその対処方法の理解，３）測定値の統計的性質の理解，４）誤差の伝播法則と誤差等分の原理の理解と間接測定における誤差の解析能力

後期中間試験：１）有効数字の意味の理解と各演算法による有効数字の限定，２）グラフによる測定結果の整理法の理解，３）最小二乗法による回帰分析の能力

学年末試験：１）計測システムの理解，２）計測システムにおける静特性，動特性の定義とその意味の理解

〔評価方法〕

定期試験（８０％）を基本とし，レポートおよび授業中の演習課題（２０％）などにより総合的に評価する。また，授業に対する自発的な取り組みについても考慮する。

〔教　科　書〕

前田良昭・木村一郎・押田至啓　　「計測工学」　コロナ社

〔補助教材・参考書〕

岩田耕一・久保速雄・石垣博行・岩橋善久 共著　「新版 機械計測」　朝倉書店

〔関連科目〕

講義に当たっては確率，確率密度関数，分布関数等の概念と平均，分散等の統計的な処理，および微積分を利用する。また，各種物理現象，定理との関連により計測，測定を学習する。

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価＊
第１週	計測の定義	計測、測定に関する定義と基本となる考え方	
第２週	計測の意義	計測工学の工学各分野における必要性と意義	
第３週	計測の目的と計画	計測を行うにあたってのシステムとしての計画とその実施	
第４週	単位と標準	単位と標準の基本的な考え方	
第５週	国際単位系（ＳＩ）	国際単位系の定義とその意味	
第６週	直接測定と間接測定、絶対測定と比較測定	測定の一般的な手続き、手法である直接測定と間接測定、絶対測定と比較測定	
第７週	偏位法と零位法	測定の基本的手法である偏位法と零位法のそれぞれの特徴	
第８週	補償法と置換法	補償法と置換法のそれぞれの方法の基本とその特徴	
第９週	誤差の原因①　系統的誤差１	測定誤差の定義と、原因として測定量、測定方法に起因する誤差	
第１０週	誤差の原因②　系統的誤差２	測定器および測定技術に起因する誤差	
第１１週	誤差の原因③　人為誤差と偶然誤差	測定者が原因となる誤差と偶発的に生じる誤差	
第１２週	測定値の統計的意味	偶然誤差による測定値のばらつきの統計的な意味とその取り扱い	
第１３週	測定精度の意味とその表示	測定精度の定義とその意味、および表示方法	
第１４週	間接測定の誤差と誤差の伝播法則	間接測定における誤差の考え方と伝播法則	
第１５週	間接測定における誤差の最大限度	間接測定システム誤差の最大限度の推定と誤差等分の原理	
	前期期末試験		
第１６週	有効数字とは	有効数字の基本的な考え方と意味	
第１７週	有効数字の限定　加減演算	加減算演算における有効数字の限定方法	
第１８週	有効数字の限定　乗除演算	乗除算演算における有効数字の限定方法	
第１９週	グラフによる測定結果の整理	測定結果のグラフによる整理の方法と表示結果の意味	
第20週	統計図による測定結果の整理	各種統計図を用いた測定結果の表示方法とその意味	
第21週	各種確率紙による測定結果の整理	各種確率紙（特に正規確率紙）の意味、および確率紙を用いた測定結果の整理方法と表示結果の意味	
第22週	最小二乗法による回帰分析①	最小二乗法の考え方、方法と回帰直線の求め方	
第23週	最小二乗法による回帰分析②	最小二乗法による各種回帰曲線の求め方	
第24週	計測システムの基本構成	計測システムの基本的な構成と信号の流れとしてのとらえ方	
第25週	アナログ信号とディジタル信号	信号の基本であるアナログ信号とディジタル信号の特徴と取り扱い	
第26週	信号の表示と記録、記憶	計測システムと人とのｲﾝﾀｰﾌｪｰｽである表示方法および記録、記憶方法	
第27週	計測システムの特性　静特性	計測システムの静特性の表し方とその意味	
第28週	計測システムの特性　動特性	計測システムの動特性の表し方とその意味	
第29週	システム解析	計測システムを構築する上でのシステムの解析方法	
第30週	計測システムの身近な例	実際の工学、工業の分野における計測システムの実例	
	学年末試験		

＊４：完全に理解した，３：ほぼ理解した，２：やや理解できた，１：ほとんど理解できなかった，０：まったく理解できなかった．

（達成）　（達成）　（達成）　（達成）　（達成）

（出典　平成 18 年度シラバス）

資料９－１－②－１１　達成度点検シート

学生自身による学習目標の達成度点検シート

平成１７年６月３日

５S　システム工学　　出席番号　　氏名

１．学習項目毎の点検

① システムとシステム工学の定義と基本的な考え方を理解した。（　　）
② システム工学の源流となる考え方、手法を理解した。（　　）
③ システムを構築する問題における解決の手順と方法について理解した。（　　）
④ システム・モデルの意義と、種類およびその特徴について理解した。（　　）
⑤ システム・シミュレーションの意義と基本的な考え方を理解した。（　　）
⑥ モンテカルロ法による演算方法を理解した。（　　）

上記の（　）の中に、達成度に応じて 0～4 の数字を入れてください。

4：完全に達成した。（完全に理解できた。）
3：ほぼ達成した。（ほぼ理解できた。）
2：やや達成できた。（やや理解した。）
1：ほとんど達成できなかった。（ほとんど理解できなかった。）
0：まったく達成できなかった。（まったく理解できなかった。）

２．総合的な点検

自由記述（この教科に対する自身の達成度や取り組みについての反省など）

（出典　達成度点検シート）

資料９－１－②－１２　オフィスアワー

教　員　各　位

教　務　主　事

オフィスアワーの実施について

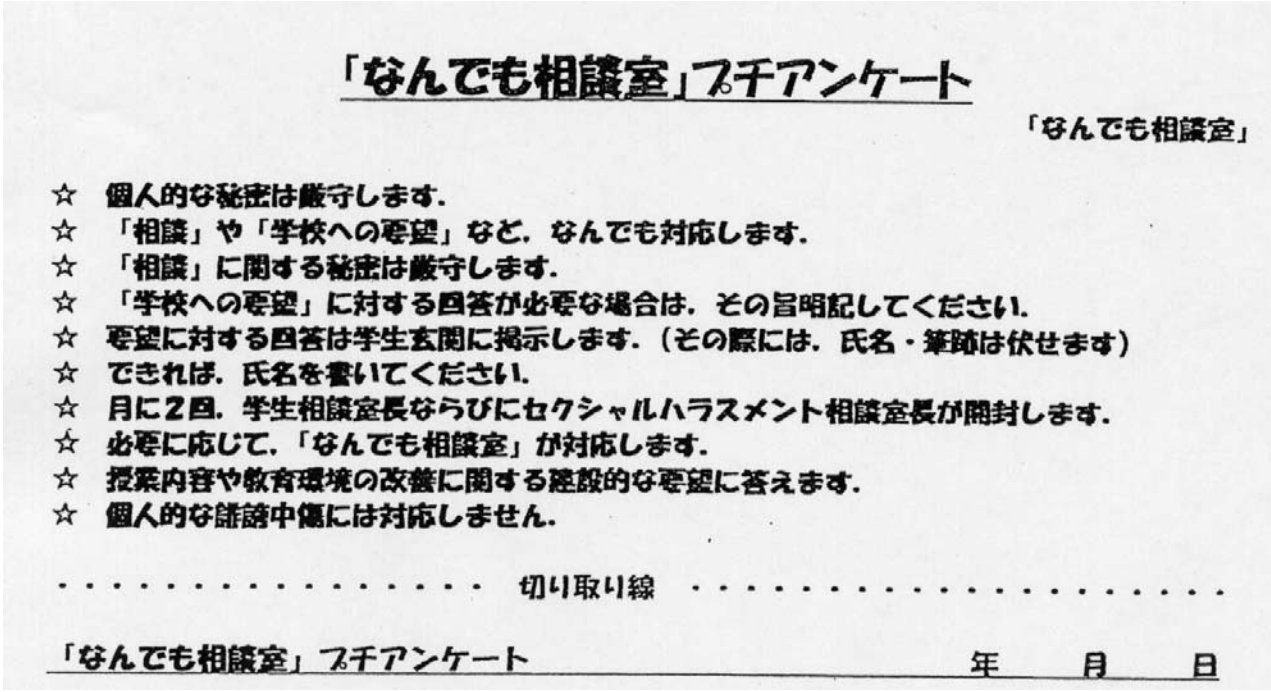
このことについて，別紙の一覧表にまとめました。授業等で積極的な利用を学生に呼びかけていただきますようお願いいたします。

また，この時間には先生方は必ず指定の部屋に在室されるようお願いいたします。

なお，出張・会議等でご都合が悪い場合には，事前に研究室入口にその旨を掲示してくださるよう併せてお願いいたします。

（出典　平成１８年度オフィスアワーの実施について依頼文）

資料９－１－②－１３　「何でも相談室」プチアンケート



「なんでも相談室」プチアンケート

「なんでも相談室」

☆ 個人的な秘密は厳守します.
☆ 「相談」や「学校への要望」など，なんでも対応します.
☆ 「相談」に関する秘密は厳守します.
☆ 「学校への要望」に対する回答が必要な場合は，その旨明記してください.
☆ 要望に対する回答は学生玄関に掲示します.（その際には，氏名・筆跡は伏せます）
☆ できれば，氏名を書いてください.
☆ 月に２回，学生相談室長ならびにセクシャルハラスメント相談室長が開封します.
☆ 必要に応じて，「なんでも相談室」が対応します.
☆ 授業内容や教育環境の改善に関する建設的な要望に答えます.
☆ 個人的な誹謗中傷には対応しません.

・・・・・・・・・・・・・・・・・ 切り取り線 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「なんでも相談室」プチアンケート　　年　月　日

（出典　何でも相談室プチアンケート）

資料９－１－②－１４　専攻科学生との懇談会

専攻科生との懇談会メモ　（抜粋）

１．日時　平成１７年6月１７日(金)１６：３０～１７：５０

１．内　容

学生から次の事項について要望・意見があり，回答した。（※は学校側からの回答）

１．専攻科生用の自転車（単車）置場について
職員用と混合しているので，専攻科生専用の自転車(単車)置場を確保してほしい。
研究室の近くに分散できないか。なぜ毎年駐車場を変更しなければならないのか。
自転車用の工作物があるので余計に狭くなっている。
※担当委員会に伝える。

２．英語（アルク）のネットでの学習について
各研究室でも使用できないか。ＬＬ教室・マルチ室の時間延長をしてほしい。
※現在はＬＬ教室・マルチ室のみを考えている。各研究室で使用できるようにするには予算的に無理である。２０時まで時間延長を検討している。

３．専攻科生への連絡について
掲示板への掲示方法を工夫してほしい。メールが届かない。
※掲示のしかたを工夫する。
学生へのメールを送るのに障害があってうまく送られていないようである。現在調査している。
ホームページの中で専攻科掲示板を作れないか。
※検討してみる。

４．就職関係について
求人関係の情報が各専攻で異なるが，一括して見られるようにしてほしい。
また，進路指導の担当教員を決めてほしい。
※担当者は各指導教員があたる。他専攻，他学科との就職関係の情報交換ができるよう検討してみる。

５．公欠について
本科では「公欠」の制度があるが専攻科はないのか。
※専攻科は大学生と同様の扱いで各授業担当者の判断に委ねていた。今後インターンシップ・就職試験・入試等の取り扱いを委員会として明確にする予定。

６．補助金について
学会発表の交通費を援助してもらっているが，増額できないか。
※　後援会から一人あたり年間１回 10,000 円までとなっている。現状では増額をお願いするのは無理である。

（出典　専攻科生との懇談会メモ）

資料９－１－②－１５　自己点検・評価報告書（学生への支援）

１．５　学生への支援

学校として実施している学生の勉学への支援体制としては，主に以下のようなことが挙げられる。

（1）シラバスの作成：従前の記載法をさらに改善し，JABEE 学習目標項目との関係，学生自身の達成目標値を明確化した。本年のシラバスについては，４月の後援会役員会の席上において一保護者から，以前のシラバスに比べ著しく改善している旨の声があった。

（2）オフィスアワーの実施：週１回，平日の 14 時 40 分以降２時間程度，教員の研究室などで，学生からの相談を受け入れる。学生の不得意教科の補講など，教科指導の充実を図るのに有効だが，指定の時間に教員が会議出席などで不在となる場合の措置など，教員側の対応に改善を必要とするところもある。

（3）TA による低学年の補習授業：第１学年の数学α，βについて，専攻科１年生による補習授業を実施しているが，年齢の近い TA に対する親近感から，積極的に質問する学生が多く，学習意欲と成績の向上に一定の成果があったと思われる。

（4）“ALC Network Academy”の導入：昼休み及び放課後にも学生に開放し，英語教員が交代で語学力増強の支援体制をとっているが，現状では物理的に厳しい状況があるため，専攻科生の TA を活用して，火曜日と木曜日は２０時まで開放しており，また，技術系職員の配置を検討している。さらに，卒業時に TOEIC400 点以上取得を課しているため，こうした演習システムの支援体制を早急に整備するする必要がある。

（5）障害を持つ学生への支援：平成１７年度の入学生に高機能自閉症（アスペルガー症候群）に該当する学生がいる。本校では平成１６年１月に文部科学省から出された「高機能自閉症等の児童生徒への教育支援体制のためのガイドライン」や平成１７年４月１日に施行された「発達障害者支援法」に基づき，当該学生が快適な学生生活を送れるように，学校として支援体制をとっている。

（出典　平成１７年度自己点検・評価報告書）

観点９－１－③：　学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学外関係者として，卒業生，専攻科修了生及び就職先企業へのアンケートを平成１８年３月に行った（資料９－１－③－１，２）。これらの集計結果をまとめ（資料９－１－③－３，４）にて公開した。また，専攻科修了生の進路先企業，大学に対しアンケートを行い集計結果を「システム創成工学」教育プログラム自己点検書で報告した（資料９－１－④－５，６）。

平成１４年度より産業界，大学，地域を代表する学外有識者により外部評価委員会を構成し，毎年評価を得ると共に，外部評価報告書として公表してきた。平成１７年度からは運営諮問会（資料９－１－③－７）と変更し，地元中学校長会長，本校同窓会長も委員に加え，幅広く評価を受け，運営諮問会報告書として公表した（資料９－１－③－８）。またその中で，前年度までの指摘内容についての検討，改善を示した（資料９－１－③－９）。

また，４，１０，３月の年３回開催される後援会役員会及び学校報告会（資料９－１－③－１０）において保護者からの意見を聴取している。

（分析結果とその根拠理由）

学外関係者にアンケートを行い広く意見を聴取していると共に，学外有識者による運営諮問会や後援会の意見を聴取し，これを改善に反映している。

以上のことから，学外関係者の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

資料９－１－③－１　卒業（修了）生対象アンケート

あなたの概要について　**（該当する箇所のみご記入ください）**

【問 1】本科を卒業し就職された方、あるいは専攻科を修了し就職された方についてお聞きします。あなたが勤務されている業種についてお聞かせ下さい。

ア．製造業　イ．商業　ウ．運輸・通信　エ．電気・ガス　オ．官公庁　カ．サービス・その他

【問 2】本科を卒業し就職された方、あるいは専攻科を修了し就職された方についてお聞きします。現在、あなたは、どの様な業務に従事していますか。

ア．設計　イ．研究開発　ウ．生産技術　エ．生産・品質管理　オ．製造ライン　カ．サービスエンジニア　キ．営業　ク．その他（具体的にご記入下さい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

【問 3】本科を卒業し進学された方、あるいは専攻科を修了し進学された方についてお聞きします。あなたの経歴をお聞かせ下さい。

●本科を卒業し進学された方

ア．大学に在籍中である。

イ．大学を卒業し、大学院へ進学しないで就職した。**（この場合、業種、業務を、【問 1】【問 2】中から選んで下さい）**

ウ．大学を卒業し、大学院在籍中である。

エ．大学を卒業、大学院へ進学し、就職した。**（この場合、業種、業務を、【問 1】【問 2】中から選んで下さい）**

●専攻科を修了し進学された方

オ．大学院在籍中である

カ．大学院を修了し、就職した。**（この場合、業種、業務を、【問 1】【問 2】中から選んで下さい）**

教育目的等が、社会に広く公表されているかについて、お聞きします

奈良高専では、本校の教育理念である「創造の意欲」、「幅広い視野」、「自律と友愛」をベースに据えつつ、「国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」を、新しい時代に向けた本校の教育目標としました。また、本科 4・5 年と専攻科では、「新しいシステムを設計、開発できる技術者の育成」を目標に揚げ、平成 17 年度からの「システム創成工学」教育プログラムを設定しています。

【問４】本校の教育目的・目標等は、学校概要やホームページ(http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/gaiyou/kyouiku.html)で公開しています。そこで、本校の教育目的等を、

ア．学校概要で見たことがある。　　イ．ホームページで見たことがある。
ウ．学校概要やホームページ以外で見たことがある。　　エ．見たことがない。

本校における教育の成果・効果の達成について、お聞きします

【問 5】奈良高専在学時に身に付けた学力、資質・能力は、十分に身に付いていますか

4 段階でお答え下さい（4：十分身に付いている、3：ある程度身に付いている、2：すこし身に付いている　1：身に付いていない）。

ア．思考能力　（ 4 、3 、2 、1 ）
イ．創造力　（ 4 、3 、2 、1 ）
ウ．実践力　（ 4 、3 、2 、1 ）

エ．教養に関する基礎学力　（ 4 、3 、2 、1 ）
オ．専門に関する基礎学力　（ 4 、3 、2 、1 ）
カ．自ら学習する能力　（ 4 、3 、2 、1 ）

キ．目的意識　（ 4 、3 、2 、1 ）
ク．表現力　（ 4 、3 、2 、1 ）
ケ．倫理観　（ 4 、3 、2 、1 ）

【問 6】業務を遂行する、あるいは大学等で勉学を進める上で、奈良高専で学んだ英語力で十分対応できていますか。

ア．十分対応できている　イ．ある程度対応できている
ウ．すこし対応できている　エ．対応できていない

【問 7】業務を遂行する、あるいは大学等で勉学を進める上で、奈良高専で学んだ出身学科（例えば、機械工学科出身においては、材料・加工・熱・流体・計測・制御などの基礎学力）の実力は、十分に身に付いていますか。

ア．十分身に付いている　イ．ある程度身に付いている
ウ．すこし身に付いている　エ．身に付いていない

【問 8】奈良高専では、実習・実験を通して、現象を科学的に分析・理解する能力を養っています。奈良高専で学んだこの能力が十分身に付いていますか。

ア．十分身に付いている　イ．ある程度身に付いている
ウ．すこし身に付いている　エ．身に付いていない

【問 9】奈良高専では、卒業研究、専攻科特別研究を通して、自主的・継続的に学習する能力を養っています。奈良高専で学んだこの能力が十分身に付いていますか。

ア．十分身に付いている　イ．ある程度身に付いている
ウ．すこし身に付いている　エ．身に付いていない

【問 10】あなたは、「技術者としての倫理的責任」について，十分な自覚を持っていますか。

ア．十分な自覚を持っている　イ．ある程度の自覚を持っている
ウ．すこし自覚を持っている　エ．自覚を持っていない

あなたの職場、あるいは大学・大学院在学中に要求される教育内容について、お聞きします

以下の項目は、あなはが、職場で業務を遂行する、あるいは大学等で勉学を進める上で、必要な事柄についてお聞きするものです。

【問 11】どの様な能力が必要とされますか？（重複可）

ア．コミュニケーション能力、イ．口頭発表能力　ウ．報告書等の記述能力　エ．自己学習能力　オ．研究開発能力　カ．マネージメント能力　キ．一般教養　ク．専門基礎能力ケ．その他（具体的にご記入下さい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

【問 12】奈良高専で学んだ以外に、どの様な事柄に関する講義が有効であるとお考えですか。（重複可）

ア．特許に関する講義　イ．経営に関する講義　ウ．マネージメントに関する講義　エ．その他（具体的にご記入下さい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

【問 13】「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」が必要とされますか？

ア．大いに必要　イ．ある程度必要　ウ．あまり必要ない　エ．必要ない

【問 14】あなたは、特許明細書を作成したことがありますか？また、作成する必要性に迫られていますか。

ア．作成したことがある　イ．作成したことはないが、作成する必要性に迫られている

ウ．作成したこともないし、作成する必要性にも迫られていない

【問 15】奈良高専卒業、あるいは専攻科修了後に、取得した資格はありますか。

ア．ある（取得した資格名：　　）

イ．ない

あなた、もしくは奈良高専卒業生、専攻科修了生の評価を自分自身で判断してご回答下さい

【問 16】入社時、あるいは大学等入学時において、奈良高専卒業生(修了生)の実力は、十分身に付いていますか。

ア．十分　イ．おおむね十分　　ウ．普通　エ．やや不十分　オ．わからない

【問 17】奈良高専卒業生(修了生)の仕事ぶり、あるいは大学・大学院在籍中の学習能力は、十分ですか。

ア．十分　イ．おおむね十分　　ウ．普通　エ．やや不十分　オ．わからない

【問 18】奈良高専卒業生(修了生)は、将来的に有望ですか。

ア．有望である　イ．おおむね有望　　ウ．普通　エ．やや不満　オ．わからない

【問 19】管理者としての資質は、そなわっていると思いますか。

ア．そなわっている　イ．おおむね　そなわっている　　ウ．普通　エ．やや不満

オ．わからない

【問 20】奈良高専の教育内容、教育方法は総合的に見てどう思われますか。

ア．大変満足　　イ．ほぼ満足　　ウ．少し不満　　エ．不満

【問 21】奈良高専の教育内容、教育方法をさらに良くするために、改善すればよいと思うことがあればお書きください。（自由記述）

【問 22】奈良高専の卒業生、専攻科修了生において、強い点、あるいは弱い点について、お気づきの事柄をお書きください。（自由記述）

ご協力有難うございました

（出典　卒業生対象アンケート）

資料９－１－③－２　就職先企業へのアンケート

貴社の概要について

【問 1】貴社の業種についてお聞かせ下さい
ア．製造業　イ．商業　ウ．運輸・通信　エ．電気・ガス　オ．官公庁　カ．サービス・その他

【問 2】貴社の従業員数についてお聞かせ下さい
ア．1～10　イ．11～50　ウ．51～100　エ．101～300　オ．301～1000　カ．1001～5000　キ．5001～10000　ク．10001～

【問 3】本校卒業生は、どの様な業務に多く従事していますか？（重複可）
ア．設計　イ．研究開発　ウ．生産技術　エ．生産・品質管理　オ．製造ライン　カ．サービスエンジニア　キ．営業　ク．その他（具体的にご記入下さい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

教育目的等が、社会に広く公表されているかについて、お聞きします

奈良高専では、本校の教育理念である「創造の意欲」、「幅広い視野」、「自律と友愛」をベースに据えつつ、「国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した，実践的かつ専門的技術者及び研究者を育成すること」を、新しい時代に向けた本校の教育目標としました。また、本科 4・5 年と専攻科では、「新しいシステムを設計、開発できる技術者の育成」を目標に揚げ、平成 17 年度からの「システム創成工学」教育プログラムを設定しています。

【問 4】本校の教育目的・目標等は、学校概要やホームページ(http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/gaiyou/kyouiku.html)で公開しています。そこで、本校の教育目的等を、
ア．学校概要で見たことがある。
イ．ホームページで見たことがある。
ウ．学校概要やホームページ以外で見たことがある。
エ．見たことがない。

本校における教育の成果・効果の達成について、お聞きします

【問 5】奈良高専卒業生(修了生)が在学時に身に付けた学力、資質・能力が、貴社の業務を遂行する上で、十分に身に付いていますか？

4 段階でお答え下さい（4：十分身に付けている、3：やや身に付けている、2：すこし身に付いている 1：身に付いていない）。

ア．思考能力　（ 4 、3 、2 、1 ）
イ．創造力　（ 4 、3 、2 、1 ）
ウ．実践力　（ 4 、3 、2 、1 ）

エ．教養に関する基礎学力　（ 4 、3 、2 、1 ）
オ．専門に関する基礎学力　（ 4 、3 、2 、1 ）

カ．自ら学習する能力　（ 4 、3 、2 、1 ）
キ．目的意識　（ 4 、3 、2 、1 ）
ク．表現力　（ 4 、3 、2 、1 ）
ケ．倫理観　（ 4 、3 、2 、1 ）

【問 6】業務を遂行する上で、奈良高専卒業生(修了生)の英語力で十分対応できていますか？
ア．十分対応できている　イ．ある程度対応できている　ウ．あまり対応できていない
エ．対応できていない

【問 7】貴社の業務を遂行する上で、採用された専門学科の主要分野（例えば、機械工学科においては、材料・加工・熱・流体・計測・制御などの基礎学力）の実力は、十分に身に付いていますか？
ア．十分身に付いている　イ．ある程度身に付いている　ウ．すこし身に付いている
エ．身に付いていない
【問 8】奈良高専では、実習・実験を通して、現象を科学的に分析・理解する能力を養っています。業務を遂行する上で、奈良高専卒業生はこの能力が十分身に付いていますか？
ア．十分身に付いている　イ．ある程度身に付いている　ウ．すこし身に付いている
エ．身に付いていない
【問 9】奈良高専では、卒業研究、専攻科特別研究，特別実験を通して、自主的・継続的なに学習する能力とデザイン能力、さらに日本語によるコミュニケーション能力を養っています。業務を遂行する上で、奈良高専卒業生はこの能力が十分身に付いていますか？
ア．十分身に付いている　イ．ある程度身に付いている　ウ．すこし身に付いている
エ．身に付いていない
【問 10】奈良高専卒業生(修了生)は、「技術者としての自覚と倫理的責任」について，十分な自覚を持っていますか？
ア．十分な自覚を持っている　イ．ある程度の自覚を持っている
ウ．あまり自覚を持っていない　エ．全く自覚を持っていない

貴社で要求される教育内容について、お聞きします

【問 11】貴社の職場ではどの様な能力が必要とされますか？　（重複可）
ア．コミュニケーション能力、イ．口頭発表能力　ウ．報告書等の記述能力　エ．自己学習能力　オ．研究開発能力　カ．マネージメント能力　キ．一般教養　ク．専門基礎能力ケ．その他（具体的にご記入下さい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
【問 12】貴社の業務を遂行する上で、どの様な事柄に関する講義が有効であるとお考えですか？　（重複可）
ア．特許に関する講義　イ．経営に関する講義　ウ．マネージメントに関する講義　エ．その他（具体的にご記入下さい＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
【問 13】貴社の業務を遂行する上で、「英語の会話力をはじめとする国際的に活躍するコミュニケーション能力」が必要とされますか？
ア．大いに必要　　イ．ある程度必要　　ウ．あまり必要ない　　エ．必要ない
【問 14】貴社の業務を遂行させる上で、奈良高専卒業生(修了生)に特許明細書を作成させる機会はありますか？また、書かせる必要性に迫られていますか？
ア．書かせたことがある　イ．書かせたことはないが、書かせる必要性に迫られている　ウ．書かせたこともないし、書かせる必要性にも迫られていない
【問 15】貴社の業務を遂行させる上で、入社後に奈良高専卒業生(修了生)に取得させた資格はありますか？
ア．ある（取得させた資格名：　　）
イ．ない

奈良高専卒業生（専攻科修了生）の評価を、総合的に判断してご回答下さい

【問 16】貴社入社時の奈良高専卒業生(修了生)に、満足していますか。
ア．満足　イ．おおむね満足　　ウ．普通　エ．やや不満　オ．わからない
【問 17】奈良高専卒業生(修了生)の仕事ぶりに、満足していますか。
ア．満足　イ．おおむね満足　　ウ．普通　エ．やや不満　オ．わからない
【問 18】奈良高専卒業生(修了生)は、将来的に有望と思いますか。
ア．有望である　イ．おおむね有望　　ウ．普通　エ．やや不満　オ．わからない
【問 19】管理者としての資質がそなわっている、と思いますか。
ア．そなわっている　　イ．おおむね　そなわっている　　ウ．普通
エ．やや不満　　オ．わからない
【問 20】奈良高専の卒業生において、強い点、あるいは弱い点について、お気づきの事柄をお書きください。

（出典　企業対象アンケート）

資料９－１－③－３　卒業生対象アンケートのまとめ（抜粋）

本科を卒業し就職した、あるいは専攻科を修了し就職した場合（【問1】、【問2】該当者）

本科卒業生・専攻科修了生アンケート　　H18.4.21

		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計	割合(%)
問1	ア	22	3	17		15	57	75
	イ			0			0	0
	ウ		1	1			2	2.631579
	エ	2	2	2			6	7.894737
	オ			1			1	1.315789
	カ		4	4		2	10	13.15789
	合計	24	10	25	0	17	76	
問2	ア	10	2	6			18	22.22222
	イ	3	1	0		4	8	9.876543
	ウ	9	1	9		2	21	25.92593
	エ	2	1	1		4	8	9.876543
	オ	2	1	2		1	6	7.407407
	カ	1		1		1	3	3.703704
	キ	3		3			6	7.407407
	ク	1	4	3		3	11	13.58025
	合計	31	10	25	0	15	81	
問3	ア						0	#DIV/0!
	イ						0	#DIV/0!
	ウ						0	#DIV/0!
	エ						0	#DIV/0!
	オ						0	#DIV/0!
	カ						0	#DIV/0!
	合計	0	0	0	0	0	0	
問4	ア	4	4	11		6	25	33.33333
	イ	9	2	9		5	25	33.33333
	ウ			0			0	0
	エ	11	4	4		6	25	33.33333
	合計	24	10	24	0	17	75	
問5 ア	4	4	1	5			10	13.51351
	3	11	5	15		8	39	52.7027
	2	7	4	4		7	22	29.72973
	1	2		1			3	4.054054
	合計	24	10	25	0	15	74	
問5 イ	4	2	2	2			6	7.894737
	3	12	5	13		9	39	51.31579
	2	8	2	7		7	24	31.57895
	1	2	1	3		1	7	9.210526
	合計	24	10	25	0	17	76	
問5 ウ	4	6	2	6		3	17	22.66667
	3	10	5	10		7	32	42.66667
	2	7	3	6		4	20	26.66667
	1	1		3		2	6	8
	合計	24	10	25	0	16	75	
問5 エ	4	1		2			3	4
	3	10	6	8		8	32	42.66667
	2	9	4	12		7	32	42.66667
	1	4		3		1	8	10.66667
	合計	24	10	25	0	16	75	
問5 オ	4	4		2		1	7	9.459459
	3	12	5	13		6	36	48.64865
	2	7	5	9		9	30	40.54054
	1	1		0			1	1.351351
	合計	24	10	24	0	16	74	
問5 カ	4	2	2	7		1	12	16
	3	10	6	11		8	35	46.66667
	2	11	2	4		6	23	30.66667
	1	1		3		1	5	6.666667
	合計	24	10	25	0	16	75	
問5 キ	4	4	1	4		3	12	16
	3	10	5	9		8	32	42.66667
	2	10	4	7		4	25	33.33333
	1			5		1	6	8
	合計	24	10	25	0	16	75	
問5 ク	4	1	2	3			6	8
	3	9	2	10		6	27	36
	2	14	6	8		9	37	49.33333
	1			4		1	5	6.666667
	合計	24	10	25	0	16	75	
問5 ケ	4	2	2	3		2	9	11.84211
	3	12	5	8		6	31	40.78947
	2	9	3	13		4	29	38.15789
	1	1		1		5	7	9.210526
	合計	24	10	25	0	17	76	
問6	ア			1			1	1.315789
	イ	2	3	3			8	10.52632
	ウ	8	1	4		3	16	21.05263
	エ	14	6	17		14	51	67.10526
	合計	24	10	25	0	17	76	
問7	ア	4		4		1	9	12
	イ	10	4	8		8	30	40
	ウ	10	5	11		5	31	41.33333
	エ		1	2		2	5	6.666667
	合計	24	10	25	0	16	75	
問8	ア	5	1	5		1	12	16
	イ	11	6	13		10	40	53.33333
	ウ	7	3	4		4	18	24

（出典　卒業生対象アンケートのまとめ）

資料９－１－③－４　企業対象アンケートのまとめ（抜粋）

企業用アンケート　　H18.5.8

問0		集計結果	割合(%)
問1	ア	25	56.81818
	イ	3	6.818182
	ウ	0	0
	エ	0	0
	オ	0	0
	カ	16	36.36364
	合計	44	
問2	ア	0	0
	イ	3	7.317073
	ウ	4	9.756098
	エ	7	17.07317
	オ	13	31.70732
	カ	7	17.07317
	キ	3	7.317073
	ク	4	9.756098
	合計	41	
問3	ア	17	20.98765
	イ	14	17.28395
	ウ	15	18.51852
	エ	10	12.34568
	オ	6	7.407407
	カ	13	16.04938
	キ	1	1.234568
	ク	5	6.17284
	合計	81	
問4	ア	25	49.01961
	イ	18	35.29412
	ウ	3	5.882353
	エ	5	9.803922
	合計	51	
問5	ア 4	13	31.70732
	ア 3	25	60.97561
	ア 2	2	4.878049
	ア 1	1	2.439024
	ア 合計	41	
	イ 4	5	12.19512
	イ 3	27	65.85366
	イ 2	8	19.5122
	イ 1	1	2.439024
	イ 合計	41	
	ウ 4	14	34.14634
	ウ 3	22	53.65854
	ウ 2	4	9.756098
	ウ 1	1	2.439024
	ウ 合計	41	
	エ 4	9	21.95122
	エ 3	27	65.85366
	エ 2	4	9.756098
	エ 1	1	2.439024
	エ 合計	41	
	オ 4	17	41.46341
	オ 3	18	43.90244
	オ 2	6	14.63415
	オ 1	0	0
	オ 合計	41	
	カ 4	19	46.34146
	カ 3	20	48.78049
	カ 2	1	2.439024
	カ 1	1	2.439024
	カ 合計	41	
	キ 4	15	36.58537
	キ 3	23	56.09756
	キ 2	2	4.878049

（出典　企業対象アンケートのまとめ）

資料９－１－③－５　専攻科修了生受入先企業対象アンケートのまとめ（抜粋）

6.1-28 進路先アンケート調査報告書

専攻科修了生の受入先企業（上司）へのアンケート

1．奈良高専卒業生の現在の（平均的な）担当業務は次のどれに該当しますか？当てはまるもの全てに○印をつけてください．
1）設計③ 2）研究開発① 3）生産技術② 4）生産・品質管理① 5）製造①
6）サービスエンジニア 7）営業① 8）その他（ ）

2．貴社における業務を遂行する際，奈良高専卒業生の英語力で十分対応できていますか?
1）十分対応できている① 2）ほぼ対応できている⑤ 3）あまり対応できていない②
4）全く対応できていない

3．貴社における業務を遂行する際，奈良高専卒業生の機械工学の主要分野（特に、材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステムなど）の知識で十分対応できていますか?
1）十分対応できている 2）ほぼ対応できている⑤ 3）あまり対応できていない②
4）全く対応できていない

☆奈良高専卒業生に特に不足していると感じているのはどの分野の知識ですか?
1）材料と構造 2）運動と振動 3）エネルギーと流れ
4）情報と計測・制御 5）設計と生産 6）機械とシステム
7）その他（ ）

4．特に研究や実験について，奈良高専卒業生の基礎的知識や取り組みは，貴社における業務の遂行において十分に役立っていますか（あるいは，活用されていますか）？
1）十分役立っている 2）まずまず役立っている 3）あまり役立っていない
4）全く役立っていない

5．貴社の業務を遂行する上で，奈良高専卒業生が修得している計算機利用技術および情報処理に関する基礎知識・技能で十分対応できていますか?
1）十分対応できている① 2）ほぼ対応できている⑤ 3）あまり対応できていない②
4）全く対応できていない

☆特に不足していると感じているのはどの分野の知識・技能ですか?
1）プログラミング言語 2）表・グラフ計算 3）ワープロ
4）図作成・CG 5）シミュレーション 6）プレゼンソフトの取扱い
7）その他（ ）

（出典　「システム創成工学」教育プログラム自己点検書）

資料９－１－③－６　専攻科修了生進学先大学院対象アンケートのまとめ（抜粋）

専攻科修了生の進学先大学院（指導教官）へのアンケート

1．貴学における学習・研究を行う際，奈良高専卒業生の基礎学力（数学・物理・化学）で十分対応できていますか?

1）十分対応できている④ 2）ほぼ対応できている④3）あまり対応できていない
4）全く対応できていない

2．貴学における学習・研究を行う際，奈良高専卒業生の英語力で十分対応できていますか?

1）十分対応できている　2）ほぼ対応できている⑤3）あまり対応できていない③
4）全く対応できていない

3．貴学における学習・研究を行う際，奈良高専卒業生のコミュニケーション・プレゼンテーション能力で十分対応できていますか？

1）十分対応できている⑤ 2）ほぼ対応できている②3）あまり対応できていない①
4）全く対応できていない

4．貴学における学習・研究を行う際，奈良高専卒業生の~~機械工学の主要分野（特に，材料と構造，運動と振動，エネルギーと流れ，情報と計測・制御，設計と生産，機械とシステムなど）~~の知識で十分対応できていますか?

1）十分対応できている② 2）ほぼ対応できている⑥3）あまり対応できていない
4）全く対応できていない

☆奈良高専卒業生に特に不足していると感じているのはどの分野の知識ですか?

1）材料と構造　2）運動と振動　3）エネルギーと流れ
4）情報と計測・制御　5）設計と生産　6）機械とシステム
7）その他（　　）

（出典　「システム創成工学」教育プログラム自己点検書）

資料９－１－③－７　運営諮問会規程

奈良工業高等専門学校運営諮問会規程

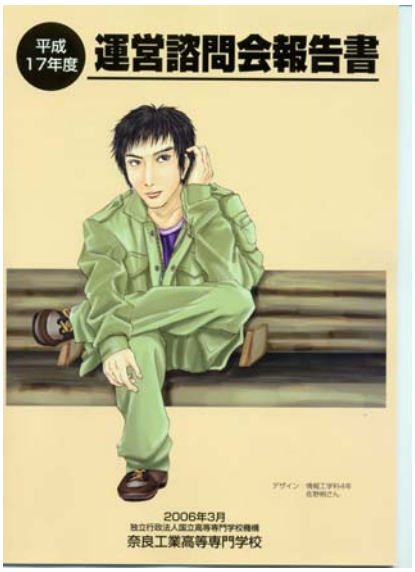
（平成１７年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，学校運営に関し，広く学外の有識者から意見を求
めるため，運営諮問会（以下「諮問会」という。）を置く。
（目的）
第２条 諮問会は，本校の教育研究活動等の状況について評価及び助言等の提言を行い，自己点検・評価等に関
する活動を支援することを目的とする。
（任務）
第３条 諮問会は，校長の諮問に応じて，次の各号に掲げる事項について外部評価及び助言等の提言を行うもの
とする。
（１）　本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
（２）　本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
（３）　その他本校の運営に関すること。
（組織）
第４条 諮問会は，本校の教職員以外の者で次の各号に掲げる者１０名以内の委員をもって組織する。
（１）　教育研究分野に精通した大学，高等専門学校等教育研究機関の教員等
（２）　産業界の産業動向に精通した者
（３）　本校の所在する地域の関係者で，教育に関し，広く，高い見識を有する者
（４）　その他本校の教育に精通した者
（委嘱）
第５条 諮問会の委員は，校長が委嘱する。
（任期）
第６条 諮問会の委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（会長）
第７条 諮問会に会長を置き，委員の互選によって決定する。
２　会長に支障があるときは，会長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
（運営）
第８条 諮問会の会議は，校長が招集し，会長がその議長となる。
２　校長は，前項の会議のほか，必要に応じて個別に委員の意見を求めることができる。
（意見の聴取）
第９条 会長が必要と認めたときは，委員以外の者を前条の会議に出席させ，意見を聴くことができる。
（事務）
第１０条 諮問会に関する事務は，庶務課において処理する。
（雑則）
第１１条 この規程に定めるもののほか，諮問会の運営に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則
１　この規程は，平成１７年４月１日から施行する。
２　奈良工業高等専門学校外部評価実施要項（平成１４年２月２２日制定）は廃止する。

（出典　奈良工業高等専門学校運営諮問会規程）

資料９－１－③－８　運営諮問会報告書

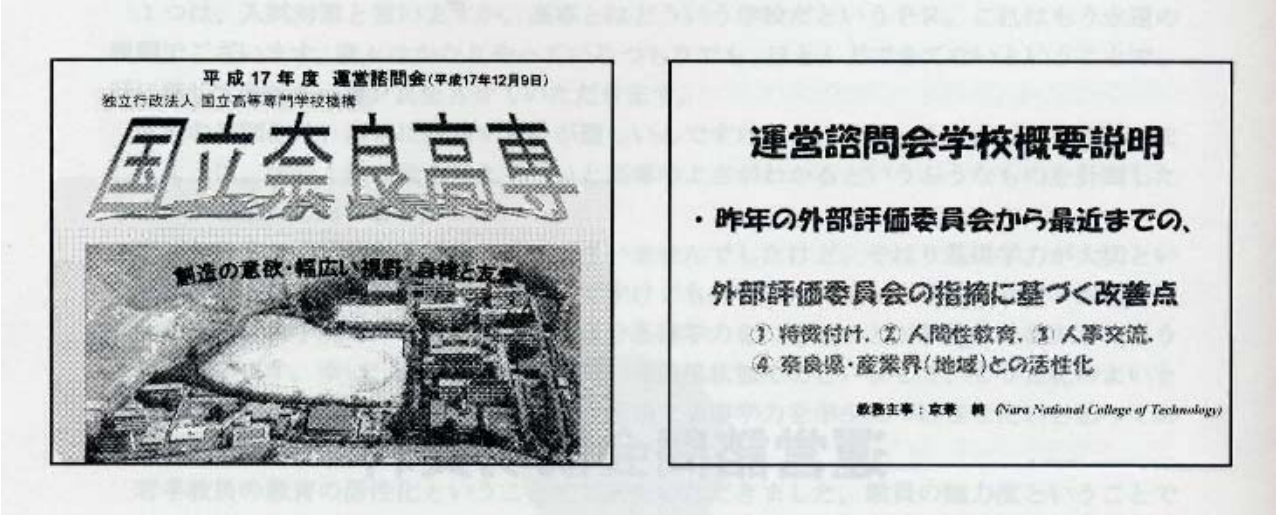


運営諮問会出席者名簿

委員	井ノ本　直　三	（奈良県商工労働部新産業創造課課長）
	上　田　　清	（大和郡山市長）
	木戸出　正　継	（奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科　教授）
	小　林　満　男	（奈良工業高等専門学校　同窓会長）
	竹　林　政　雄	（奈良県中学校長会会長(若草中学校長)）
	辻　　良　彰	（奈良工業会　専務理事）
	水　村　　勤	（株式会社奈良新聞社　編集部　政治経済課長）
	山　中　信　介	（奈良県工業技術センター　所長）
	米　津　宏　雄	（豊橋技術科学大学　電気・電子工学系　教授）
	和　田　　守	（三和澱粉工業株式会社　取締役　研究所長）

（出典　平成１７年度運営諮問会報告書）

資料９－１－③－９　運営諮問会学校概要説明



（出典　平成１７年度運営諮問会報告書）

資料９－１－③－１０　後援会役員会及び学校報告会

〔非開示につき省略〕

（出典　後援会役員会及び学校報告会要録）

観点９－１－④：　各種の評価（例えば，自己点検・評価，教員の教育活動に関する評価，学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直し等具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校では校長を中心とする企画会議（資料９－１－④－１）が基本方策を企画・立案し，点検・評価委員会（資料９－１－④－２）が各種項目を点検及び評価し，毎年，奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題－点検・評価報告書－（資料９－１－④－３）を作成，公表している。また，ＦＤ委員会が準学士課程の授業アンケートを企画，実施し，毎年授業アンケート報告書を作成，公表している（資料９－１－④－４）。専攻科課程に関しては専攻科委員会が授業アンケートを実施し，毎年授業アンケート報告書を作成，公表している。これらの報告を受け，教務委員会，専攻科委員会はじめ各種委員会，及び一般教科，各専門学科において検討，改善がなされ，点検・評価報告書に報告されている（資料９－１－④－５）。また，これらの結果をふまえて，将来計画委員会（資料９－１－④－６）において本校の将来計画を策定すると共に，将来計画委員会の専門部会により調査検討を行っている（資料９－２－②－１）。

（分析結果とその根拠理由）

点検・評価委員会により毎年各種の評価を検討し，まとめた形の点検・評価報告書が作成，公表されている。この作成を通じて教務委員会，専攻科委員会はじめ各種委員会，及び一般教科，各専門学科において検討，改善がなされている。

以上のことから，各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるようなシステムが整備され，教育課程の見直し等具体的かつ継続的な方策が講じられている。

資料９－１－④－１　企画会議規程

奈良工業高等専門学校企画会議規程　（抜粋）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に企画会議（以下「会議」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 会議は，次の各号に掲げる事項を企画・立案する。
（１）　本校の運営に関する基本方策に関すること。
（２）　本校の教育，研究の基本方策に関すること。
（３）　予算等財務に関する基本方策に関すること。
（４）　施設，設備の整備等に関する基本方策に関すること。
（５）　その他本校の管理，運営に関する重要事項。
第３条 会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事
（３）　学生主事
（４）　寮務主事
（５）　専攻科主任
（６）　事務部長
（７）　庶務課長，会計課長及び学生課長
（議長）
第４条 会議に議長を置き，校長をもって充てる。
２ 議長は，会議を招集し，その議長となる。
（会議の開催）
（会議の開催）
第５条 会議は，原則として毎月１回開催するものとし，必要ある時は臨時に開催することが出来る。

（出典　奈良工業高等専門学校企画会議規程）

資料９－１－④－２　点検・評価規程

奈良工業高等専門学校点検・評価規程

（平成５年４月１日制定）

（趣旨）

第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）が，本校の教育水準の向上を図り，本校の目的及び社会的使命を達成するため，教有研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価については，この規程の定めるところによる。

（委員会）

第２条 本校に，前条の趣旨に即し，点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会の委員は，奈良工業高等専門学校運営会議の委員をもって充てる。

３　委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

４　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

５　委員会に委員長補佐２名を置き，校長が指名した委員をもって充てる。

６　委員長に事故があるときは，委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（任務）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる事項を処理する。

（１）　点検及び評価の基本方針並びに実施基準の策定に関すること。

（２）　点検及び評価の実施に関すること。

（３）　点検及び評価に関する報告書の作成及び公表に関すること。

（点検・評価事項）

第４条 点検及び評価を行う事項は，次の各号に掲げるとおりとする。

（１）　本校の教育理念及び目標に関すること。

（２）　教育活動に関すること。

（３）　研究活動に関すること。

（４）　施設・設備に関すること。

（５）　国際交流に関すること。

（６）　生涯学習に関すること。

（７）　社会との連携に関すること。

（８）　学校運営に関すること。

（９）　自己評価体制に関すること。

(10)　委員会が特に必要と認めた事項

２　前項各号に係る具体的な点検・評価項目は，委員会が別に定める。

（点検・評価の実施）

第５条 委員会は，点検・評価項目により，一定期間毎に点検及び評価を行うものとする。

（報告書の作成及び公表）

第６条 委員会は，とりまとめた点検及び評価の結果を，報告書等として公表するものとする。

（点検・評価結果の対応）

第７条 校長は，委員会が行った点検及び評価の結果に基づき，改善が必要と認められるものについては，運営会議又は関係する委員会にその改善策の検討を付託するものとする。

（小委員会）

第８条 委員会の下に，小委員会を置く。

２　小委員会は，点検・評価の具体的な項目について検討し，その内容を委員会に報告するとともに，提出された点検・評価について報告書への纏めを行うものとする。

３　小委員会に委員長を置き，委員会の委員長補佐をもって充てる。

４　小委員会の委員は，選任教員の中から校長が指名する。

５　小委員会の委員の任期は１年とし，再任は妨げない。

（専門部会）

第９条 委員会に，点検及び評価に関し専門的な事項を調査検討及び実施させるため，専門部会を置くことができる。

２　専門部会に関して必要な事項は，その都度委員会において審議する。

（事務）

第１０条 委員会に関する事務は，庶務課で行う。

（雑則）

第１１条 この規程に定めるもののほか，点検及び評価に関し必要な事項は，委員会の議を経て校長が別に定める。

（出典　奈良工業高等専門学校点検・評価規程）

資料９－１－④－３　自己点検・評価報告書

（出典　平成１７年度点検・評価報告書）

資料９－１－④－４　ＦＤ委員会議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　ＦＤ委員会議事要録）

資料９－１－④－５　自己点検・評価報告書

１．３　教育方法

本校の教育目標達成のため平成 16 年度以降に，改善あるいは新たに実施した方策（※印）について以下に列挙する。

（1）※　“ALC Network Academy”の導入：コミュニケーション能力や国際的センスを養う言語教育充実，さらには JABEE 教育目標の一つである TOEIC-IP テスト 400 点達成のため，株式会社アルク（語学教育出版社）の語学演習システムを平成 16 年度に導入した。学生たちは，昼休みや放課後に積極的にこのシステムを利用して自学自習に励むようになっている。学生たちのこのような語学学習の姿勢は，英語教員の授業外での献身的な指導助言によって支えられている。

本年は当該取組みが評価され機構本部の学生指導の充実事項に選定され「学生の英語能力向上に関する取組」に対して予算化された。現在，本領域の拡充化に向けて教務主事補を中心にして検討をしている。

（2）※　学生の TOEIC-IP 受験：英語科教員と担任の協力のもと本年は，4 月 8 日（金）入学式の午後に昨年と同様，本校を会場にして TOEIC-IP 試験を実施した。受験者は 3 学年 204 名，4 学年 204 名，5 学年 77 名，専攻科学生 21 名の合計 506 名（留学生 8 名）で，内 217 名が再受験者であった。総受験者数は昨年に比べ 200 名ほど増加し成績も向上しており，最高は 915 点で最低は 85 点であった。再受験者の内 82%（178 名）は平均 53 点ほど成績がアップし，TOEIC-IP 試験を始めて僅か 1 年しか経過していないが着実に成果があらわれている。

9 月には本年第 2 回目の TOEIC-IP 試験を実施する予定である。

（3）低学年での学年共通テスト：学生の自学自習の定着を進めるために始めたもので，本年は 4 月 14 日（木）校外オリエンテーション日の午前中，第 1 学年（国語，英語，数学）と第 2 学年（英語，数学，物理）を対象に学年共通テストを実施した。事前に課題を与え，春期休業中においても継続的に学習させる意図で行ったものであり，本共通テストの結果と総括は 7 月 21 日（木）の月例 FD において各担当者から報告をいただいた。

（4）TA（ティーチングアシスタント）による数学の補習：本年の TA は数学科で先行決定し，従前通り実施している。

（5）※　インターンシップ（学生の学外実習）：技術者としての心構えを身につけ，自己能力の開発や職業意識を高めるために効果的なので，本年も積極的に推進するようにした。その結果，平成 17 年度のインターンシップ参加者は前年度に比べ 44 名増の 142 名となり，全体として増加傾向にある中で，特に電気工学科の参加者数が大幅に増加し，5 学科の実習生数は過去最大となっている。

またインターンシップ参加者（本科・専攻科生）に対する事前講演会には，これまでのマナー中心による企業人事系担当者に替え，本年は職業意識とともに具体的な仕事内容が理解できるよう技術系の方に依頼した。講師は本校 4 期生であるオムロン株式会社光通信デバイス事業推進部・生産課長・榊野隆弘氏にお願いした。

（6）教科指導以外の学校行事：春季ハイキング，スポーツ大会，古典芸能鑑賞会，マリンバ演奏会，秋季社会・工場見学，卒業旅行，高専祭。

（7）※ 古典芸能鑑賞会：従前は歌舞伎鑑賞として実施してきたが，諸般の状況により平成 17 年度から新しく古典芸能鑑賞会に衣替えし 6 月２３日（木）に開催した。内容は落語と講談鑑賞であり，学内で実施できることもあって日時の設定や移動などが大

－4－

（出典　平成１７年度自己点検・評価報告書）

資料９－１－④－６　将来計画委員会規程

奈良工業高等専門学校将来計画委員会規程

（設置）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，本校の今後の在り方や中期計画・中期目標等に関する事項を審議するため，将来計画委員会(以下「委員会」という。)を置く。
（目的）
第２条　委員会は，機構が定めた中期計画・中期目標に沿った本校の中期計画・中期目標の設定や，本校の将来の在り方を審議し，その結果を教職員・学生等に正しく認識させることを目的とする。
（審議事項）
第３条　委員会は，次の事項について審議する。
(1)　本校の今後の在り方に関すること。
(2)　本校の中期計画に関すること。
(3)　本校の中期目標に関すること。
（組織）
第４条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　校長
(2)　教務主事，学生主事及び寮務主事
(3)　専攻科主任
(4)　一般教科及び専門各学科主任
(6)　情報メディア教育センター長
(6)　事務部長
(7)　庶務課長，会計課長及び学生課長
（委員長及び委員長補佐）
第５条　　委員会に委員長及び委員長補佐を置く。
２　委員長は，校長をもって充てる。
３　委員長は委員会を招集し，その議長となる。
４　委員長補佐は，委員の中から校長が指名する。
５　委員長補佐は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，その職務を代行する。
（小委員会）
第６条　　委員会の下に，小委員会を置く。
２　小委員会は，本校の中期計画・中期目標に組み入れる具体的事項について検討し，その内容を委員会に報告する。
３　小委員会に委員長を置き。委員会委員長補佐をもって充てる。
４　小委員会の委員は，専任教員の中から校長が任命する。
５　小委員会の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。
（専門部会）
第７条　委員会は，特別の事項について調査・検討するため，専門部会を設置することが出来る。
（事務）
第８条　委員会に関する事務は，庶務課で行う。
附　則(平成 16 年 4 月 1 日)
この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校将来計画委員会規程）

観点９－１－⑤：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図ると共に，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

授業アンケートの結果をふまえ，報告書に担当教員による分析と課題を記述する（資料９－１－⑤－１）と共に，次年度のシラバスにこの改善を生かしている。公開授業時に提出された報告書はＦＤ委員会が収集保管すると共に,各教員にフィードバックされている(資料９－１－⑤－２，３)。また，各学科の改善への取組は自己点検・評価報告書に報告されている（資料９－１－⑤－４）と共に運営諮問会において報告されている（資料９－１－⑤－５）。

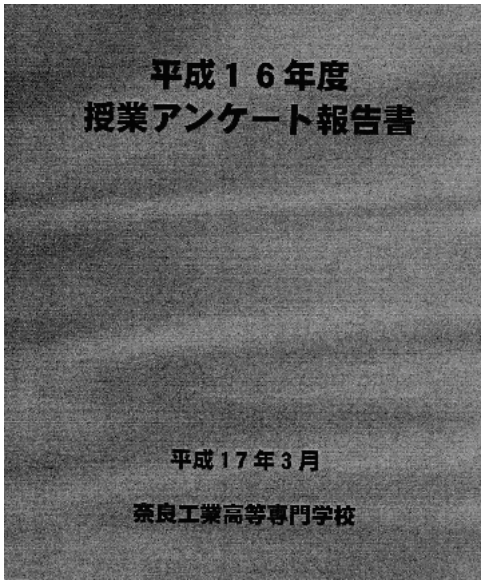
個々の教員の改善活動はアンケートとして聴取している（資料９－１－⑤－６，７）。

（分析結果とその根拠理由）

個々の教員は評価結果を検討し，次年度のシラバスに反映させている。また，授業改善への取組がなされており，これはアンケートの形で報告されている。

以上のことから，個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図ると共に，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っている。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握している。

資料９－１－⑤－１　授業アンケート報告書



（出典　平成１６年度授業アンケート報告書）

資料９－１－⑤－２　公開授業実施要領

平成 17 年 10 月 6 日

教職員・非常勤講師各位

FD 委員会委員長

平成 17 年度奈良高専公開授業実施にあたってのお願い

下記の実施要領にしたがい平成 17 年度奈良高専公開授業を実施することになりました。
つきましては、次の点にご留意下さい。

(1) 公開授業実施期間は、10 月 24 日(月)から 10 月 28 日(金)までです。この期間の全ての授業（非常勤講師担当教科及び専攻科教科を含む）を対象としますが、教員（常勤）においては複数の授業を参観してください。

(2) 授業参観にあたっては、当該授業の遂行に迷惑にならないよう教室等からの出入りを静かに行ってください。特に、実技教科・実験・実習・卒研・特別研究などを授業参観される場合、授業参観者は授業の妨害にならないよう、また自らの安全確保に十分ご配慮下さい。

(3) 学校としての FD 資料になりますので、授業参観者は別紙「平成 17 年度奈良高専公開授業参観報告」を必ずご提出下さい。なお、報告書の様式は、必要部数を各自でコピーしてご使用下さい。

(4) 学級担任の先生は、10 月 20 日（木）までに、学生に対して下記要領に基づき公開授業実施の趣旨をご説明下さい。
専攻科については専攻科委員会から学生への周知をお願いします。

(5) その他、不明な点がありましたら下記のＦＤ委員会委員にお尋ね下さい。
校長、３主事、専攻科主任、一般教科：荒金憲一（委員長補佐）、機械工学科：岩井保善、電気工学科：藤井治久、電子制御工学科：中田敏夫、情報工学科：近藤勝也、物質化学工学科：河越幹男、情報メディア教育センター長、事務部長

※公開授業時間割、授業場所等は後期授業時間割が確定しだい配布させていただきます。

平成１７年度奈良高専公開授業実施要領

１．目　的

奈良高専（以下、「本校」という。）の授業を公開することにより、本校教員（非常勤講師を含む。）の教育方法の改善に資することを目的とする。

２．実施形態

公開授業は、下記の実施形態により実施する。

（１） 授業参観者は本校教職員（非常勤講師を含む。）とする。

（２） 公開授業の期間は指定された１週間とし、その週の全ての授業（実技教科・実験・実習・卒研・専攻科授業を含める。）を対象とする。

３．実施方法

公開授業の実施は、下記の方法によるものとする。

（１）本校 FD 委員会は公開授業の計画を策定し、本校教職員（非常勤講師を含む。）に通知する。

（２）授業参観者は別紙様式で授業に対するコメントを記入し、庶務課専門員宛に FD 資料として提出する（授業担当教員へは庶務課専門員から写しを配布する。）。

（３） 授業担当者は、参観者からのコメントを参考にして、授業改善を図るとともに、参観者からの助言要請に応える。

４．所管

公開授業に関する所管は FD 委員会とする。

（出典　平成１７年度公開授業実施要領）

資料９－１－⑤－３　公開授業参観報告

平成１７年度奈良高専公開授業参観報告

参観者氏名		所属	

※　非常勤講師の方は、所属欄にその旨記入して下さい。

授　業　日	平成 17 年　　月　　日（　　曜日）　第　　時限		
教　科　名		クラス	
担当教員名		参観時間	約　　分

※　教科名や担当教員名が不明のときは、空欄にしておいて下さい。

(良かった点・参考になった点・改善すればよい点・感想など)
(教えて欲しい点など)

※　記入しにくい点は、直接授業担当者に伝えるか質問するなどしていただいても結構です。

※　本報告書は授業公開の最終日から 2 週間以内に提出して下さい。

（出典　公開授業参観報告書）

資料９－１－⑤－４　自己点検・評価報告書

１．１０．３　電気工学科

JABEE 対応，学生からのアンケートに基づきシラバスの充実化を図り，専攻科のカリキュラムを見直し，一部を変更した。

インターンシップは，４年生１１名が１０社（県内企業２社，県外企業８社）に参加した。昨年に比べ若干増加しているが，学生に企業実習の意義を説明し，より一層の参加を促していく必要がある。

１４年度の改築・改修に伴い実験室および研究室等の機能化を進め，本科生および専攻科生への教育と研究環境を確保した。特に，専攻科生に対しては学習と研究環境を著しく改善することができ，その結果，専攻科生が学会等で口頭発表した数は３０件である。

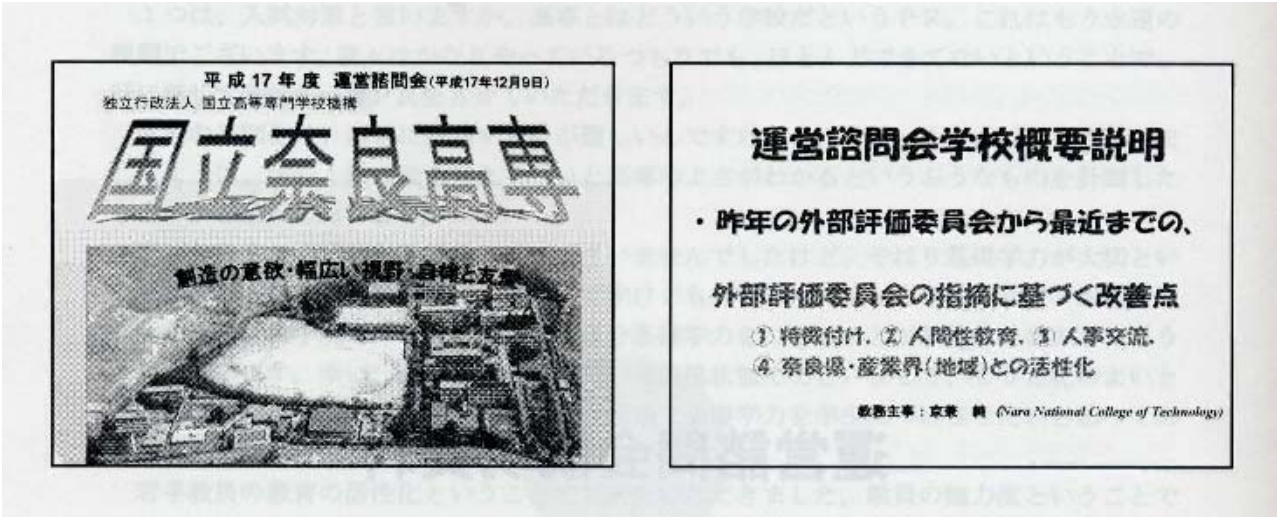
また，情報教育の高度化を目指して情報処理演習室の機器等の充実化を図ると共に，ものづくり工房（電気基礎実験室）を電気技術研究会等に放課後開放し，学生の「ものづくり」への支援と各種資格試験に対する学習の場として提供している。

進路指導に関しては，４年次の１２月と３月に行っており，また，保護者対象の進路説明会を５年次４月に実施している。さらに，５年生に対しては，OB・OG による企業説明会を４回４月下旬に設けている。

平成１６年度は卒業生３７名中，就職者２０名（一部上場企業１６社，その他３社），進学者１７名（専攻科５名，大阪大２名，豊橋技科大４名，長岡技科大２名，京都工繊大１名，大阪電通大１名，その他２名）となっている。

（出典　平成１７年度自己点検・評価報告書）

資料９－１－⑤－５　運営諮問会学校概要説明



（出典　平成１７年度運営諮問会報告書）

資料９－１－⑤－６　授業担当者アンケートのまとめ（抜粋）

準学士課程	教科書の執筆状況などのリスト	教材開発の実施例（詳細は別紙でお願いします）
電気磁気学Ⅱ、通信工学 電子･電気工学実験2年、5年	改訂･電気磁気学（コロナ社） マイコン基礎技術（パワー社）	
電気機器工学、電力制御工学、電力応用工学、基礎電気工学 電気･電子工学実験3年、5年		
電気材料工学、半導体工学 電気･電子工学実験4年、5年	改訂･高電圧工学（コロナ社、共著） 新しい有機太陽電池のオールプラスチック化への課題と対応策（技術情報協会、共著）	
電気磁気学演習、エネルギー変換工学、高電圧工学、学外実習 電気･電子工学実験4年、5年		
交流理論Ⅰ･Ⅱ 電気･電子工学実験2年、5年		
プログラミング、コンピュータ応用工学、情報工学 電気･電子工学実験4年、5年	Win32　API完璧マスタVisualC++プログラミングへのアプローチ（CQ出版）	
電子工学、半導体工学、電子応用工学、電気磁気学Ⅰ、電気磁気学演習 電気･電子工学実験4年、5年		「出前授業を教材としたデザイン能力の育成」
交流理論演習、情報処理、コンピュータ工学、信号処理 電気･電子工学実験3年、5年		
回路網理論、電子回路工学、工業外国語 電気･電子工学実験3年、4年、5年		
基礎電気工学、電気磁気学演習 電気･電子工学実験2年、3年、5年		

準学士課程	教科書の執筆状況などのリスト	教材開発の実施例（詳細は別紙でお願いします）
制御理論4，5年，システム設計Ⅱ4年，電子工学3年 インターフェース工学3年，電子制御工学実験3，4，5年	電子回路:コロナ社 機械工学概論(計測、制御分担)コロナ社	
基礎製図法2年，熱力学4年，エネルギ変換工学5年 電子制御工学実験3，4，5年		電子制御工学実験3年　指導書 電子制御工学実験4年　指導書
流体力学4年，数値解析5年，システム設計Ⅱ4年 電子制御工学実験4，5年，工業外国語5年		
計測工学3年，システム工学5年 電子制御工学実験Ⅰ1年，電子制御工学実験4，5年	計測工学(コロナ社、共	電子制御工学実験Ⅰ　指導書作成 電子制御工学実験4年　指導書作成
材料･加工学2年，材料力学4年，応用力学演習5年 電子制御工学実験Ⅰ1年，電子制御工学実験4，5年		電子制御工学実験Ⅰ用指導書 材料力学補助教材プリント、応用力学演習問題集
電子制御概論1年，システム設計13年，ロボティクス5年 電子制御工学実験3，4，5年	自動制御(森北出版株式会社･共著) 制御用アクチュエータの基礎(コロナ者･共著)	
情報数学1年，工業数学4年，計測工学4年，信号処理5年 電子制御工学実験2，4，5年，学外実習4年		
プログラミング2，3年，情報伝送工学5年 電子制御工学実験3，4，5年		
電磁気学3年，4年		
インターフェース工学3年，電子工学3年 電子制御工学実験2，3，5年		
電磁気学3年，電磁気学4年 電子制御工学実験1,3,5年		

（出典　授業担当者アンケートのまとめ）

資料９－１－⑤－７　教員対象アンケート回答

〔　問 A　〕各種の評価（自己点検評価、授業アンケート、学習目標達成度点検シート、公開授業報告書等）の結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等に関して改善活動を実施した具体例を挙げてください。

授業アンケートを参考に授業の内容，スピードを変更した

〔　問 A　〕各種の評価（自己点検評価、授業アンケート、学習目標達成度点検シート、公開授業報告書等）の結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等に関して改善活動を実施した具体例を挙げてください。

授業アンケートの内容を受けて，授業時間中の
課題を増やした．

〔　問 A　〕各種の評価（自己点検評価、授業アンケート、学習目標達成度点検シート、公開授業報告書等）の結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等に関して改善活動を実施した具体例を挙げてください。

1. 板書の書き方
2. 課題の内容

〔　問 A　〕各種の評価（自己点検評価、授業アンケート、学習目標達成度点検シート、公開授業報告書等）の結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等に関して改善活動を実施した具体例を挙げてください。

授業アンケートにより課題が少ないとの指摘をうけ、
演習課題を増やした．（平成15年度～16年度：1～2，平成17年度：5）

〔　問 A　〕各種の評価（自己点検評価、授業アンケート、学習目標達成度点検シート、公開授業報告書等）の結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等に関して改善活動を実施した具体例を挙げてください。

- 教科書に代わるプリントを作成した．
- 教育改善例を学会で口頭発表した．
- 教育改善法の私案を学会に論文投稿した．

〔　問 A　〕各種の評価（自己点検評価、授業アンケート、学習目標達成度点検シート、公開授業報告書等）の結果に基づいて、授業内容、教材、教授技術等に関して改善活動を実施した具体例を挙げてください。

毎年，前年のアンケート結果をもとに授業内容を考えている．
また，その年の学生の習熟度により内容進度を変えている．

（出典　教員対象アンケート回答）

観点９－１－⑥：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

各教員の専門分野と研究活動については，本校ホームページの教員の紹介（資料９－１－⑥－１）に掲示されている。研究活動については毎年研究紀要（資料９－１－⑥－２）を発行し研究成果を報告すると共に，その中に各年度の発表論文，学会発表等を教員研究活動一覧（資料９－１－⑥－３）として掲載している。これらの成果は，準学士課程卒業研究（資料９－１－⑥－４），専攻科課程特別研究（資料９－１－⑥－５）等の指導に生かされ，専攻科学生の学会発表も活発に行われている（資料９－１－⑥－６）。

また，研究成果は日常の授業にも生かされており，この実践例を教員に対するアンケートにより聴取している。（資料９－１－⑥－７，８，９）

（分析結果とその根拠理由）

本校教員による研究活動は活発に行われており，その活動が卒業研究や特別研究に生かされている。また，日常の授業にも取入れられている。

以上のことから，研究活動が教育の質の改善に寄与している。

資料９－１－⑥－１　教員の紹介（ホームページ）

（出典　奈良高専ホームページ）

資料９－１－⑥－２　研究紀要目次

目　次

衝撃強さとＡＥ発生の相関について（第２報）…… 市瀬 辰己・岩井 保善・谷口 幸典・尾崎 充紀 …… 1

取水口スクリーン塵埃浮流装置の開発（圧縮機－配管系内の圧力脈動の特性）
…… 山本 剛・坂本 雅彦・浅川 志郎・松林 俊夫 …… 5

対話的枠組による概念設計支援 …… 平 俊男 …… 9

文字の印象（力学的状態に注目して）…… 平 俊男・辻 政範 …… 15

ヒステリシス制御による高調波電流の抑制と力率改善（2）…… 井村 榮仁 …… 21

画像解析を用いたジグソーパズルの組立 …… 押田 至啓 …… 27

微粒子状の水噴霧によるレーザクリーニング促進に関する研究 …… 阪部 俊也・山本 真也・平尾 大輔 …… 33

サッカーロボットにおけるシュートシステムの研究
…… 道下 貴広・坂 圭司・土居 優太・横山 和明・阪部 俊也 …… 41

回転液中紡糸法によって製作された急冷凝固合金細線の引張破面形態
…… 島岡 三義・松村 礼央・後藤 守・勝井 祐貴 …… 47

オフライン草書体文字認識システムの開発 …… 西田 茂生・辻野 学 …… 53

Development of biped robot using ultrasonic motor (Fundamental experiment of bending for dynamic walking)
…… Yorihiko YANO, Kenta UMEZAKI, Yosuke NINOMIYA, Masaya HANDA …… 59

Overvoltages in a transformer caused by lightning surge from a small wind turbine generation system
…… Kazuo Yamamoto …… 65

超小型人工衛星CubeSat地上局用TNCの開発 …… 浅井 文男 …… 73

TSPを用いたサーボモータ速度制御系の周波数応答測定 …… 近藤 勝也・中坊 典史・杉本 真崇 …… 79

擬似許容関数集合を用いたCMOS回路の消費電力の削減 …… 世古 忠 …… 85

情報ネットワークに関する複数の中期目標達成支援
～平成16年度戦略的経費（学科等枠を超えた共同研究等）プロジェクト成果報告～ …… 松尾 賢一 …… 89

回路構造を利用したテスト容易化設計支援システム ……山口 賢一・吉田 宜司・岩田 大志・青山 瑠美 …… 95

グラファイト層間化合物の電極触媒及び光触媒への応用
…… 泉 生一郎・大西 康幸・松本 雅至・安永 夕香子・黒田 久美子・岩下 哲雄 …… 99

学生主体による小・中学生対象化学実験教室の運営 …… 三木 功次郎・直江 一光・石丸 裕士・宇田 亮子 …… 103

半ド・モルガン代数のシーケントによる形式化 …… 荒金 憲一 …… 109

Some Notes on Prehomogeneous Vector Spaces Associated with Tame-Type Quivers
…… Makoto NAGURA, Shin-ichi OTANI, and Daisuke TAKEDA …… 115

二次元リボン結び目のもろて型 III …… 安田 智之 …… 123

19世紀イギリスにおけるスポーツと制定法に関する史的考察 …… 松井 良明 …… 127

シルヴィア・プラス『巨像』再考 …… 髙橋 美帆 …… 141

前田河広一郎「戦碑」読解 …… 鍵本 有理・髙橋 美帆 …… 151

身近な題材を利用した文章表現指導（2）…… 鍵本 有理・小伏 志穂 …… 157

鶴見俊輔と周辺からの視点 …… 木村 倫幸 …… 163

前田家所蔵『文鶴七十賀俳諧集』（仮称）について …… 勢田 勝郭 …… 171

経験の技法（二）―夏目漱石『道草』を読む― …… 武田 充啓 …… 181

論文抄録 …… 193

図書館における図書の利用状況について ― …… 宮本 止戈雄 …… 197

教員研究活動一覧 …… 203

（出典　平成１７年度奈良工業高等専門学校高専研究紀要第４１号）

資料９－１－⑥－３　研究紀要教員研究活動一覧（一部）

教員研究活動一覧

（機械工学科）

軸対称波状流路を通過する高分子溶液の流れにおける圧力損失測定
浅野真幸，小柴 孝，森 教安（阪大院工）
日本機械学会平成16年度関西学生会学生員卒業研究発表講演会　2005年3月17日講演

フィラメントストレッチ法による高分子溶液の伸長粘度測定
岩井 豊，小柴 孝，森 教安（阪大院工）
日本機械学会平成16年度関西学生会学生員卒業研究発表講演会　2005年3月17日講演

波状流路における界面活性剤水溶液の拡大・縮小流れ
田中康平，小柴 孝，森 教安（阪大院工）
日本機械学会平成16年度関西学生会学生員卒業研究発表講演会　2005年3月17日講演

波状スリット流路を通過する界面活性剤水溶液の流れにおける光散乱測定
小柴 孝，森 教安（阪大院工）
日本機械学会2005年度年次大会
2005年9月22日講演

反復学習制御に基づく連続時間システム同定
酒井史敏，杉江俊治（京都大学）
計測自動制御学会論文集，Vol.40, No.11, pp.1098-1104
2004年11月

Continuous-time systems identification based on the iterative learning Control
Fumitoshi SAKAI, Toshiharu SUGIE (Kyoto Univ.)
Proc. of the 16th IFAC World congress, Prague, Czech, Mo-E03-TO/3　2005年7月4日講演

学習制御を利用した連続時間システム同定に関する数値的検証
田中拓治（京都大学），酒井史敏，杉江俊治（京都大学）
平成16年度計測自動制御学会関西支部学生研究発表会
2005年3月7日講演

耐雑音性を考慮した反復学習制御と連続時間システム同定への応用
酒井史敏，杉江俊治（京都大学）
計測自動制御学会第5回制御部門大会
2005年5月26日講演

高圧空気を直接の駆動源とする船舶用推進装置の性能向上に関する研究
蔦原道久（神戸大），小川和彦（大阪産大），坂本雅彦，松井隆宏（神戸大），田尻 慎介，田嶋正和，横山広樹
掲載誌名：日本機械学会論文集B編，第71巻 第707号，pp.1782-1788
2005年7月

Simulation of flows in a semi-open type nozzle for ship's propulsion equipment by a lattice Boltzmann model with large density difference.
M. Tsutahara (Kobe univ.), K. Ogawa (Osaka Sangyo univ.), M. Sakamoto, S. Tajiri (Kobe univ.), and M. Tajiri
Proceeding of 5th International Work Shop on Ship Hydrodynamics 2005, July 2005

機械系教科書シリーズ15　流体の力学
坂田光雄（和歌山高専），坂本雅彦
コロナ社
2005年4月15日　第3刷発行

（出典　平成１７年度奈良工業高等専門学校高専研究紀要第４１号）

資料９－１－⑥－４　卒業研究発表会（一部）

平成１７年度　奈良工業高等専門学校　電子制御工学科卒業研究発表会

２００６年　２月　１６日（木）　合同教室　RM　９：００～（集合８：５０分）

発表時間：６分／１人　質疑応答：各研究室毎 10 分　計時：発表終了１分前…１鈴（発表テーマ毎）
８分／２人　発表終了……２鈴（発表テーマ毎）
10 分／３人　質疑応答終了……３鈴

タイムテーブル			司会・計時
9:00~ 9:05		主任挨拶	
9:05~ 9:33		＜矢野研究室＞	押田・福田
	大畑　朋也	ダム等コンクリート構造物解体ロボットに関する研究	
	小山　剛弘	超音波モータの筋電制御システムに関する基礎研究	
	向井　謙太	超音波モータを用いた腰関節を有する二足歩行/走行ロボットの試作	
9:35~10:09		＜押田研究室＞	福田・中田
	和田亜友美	太陽電池の効率向上のための光学的研究	
	林　公造	ピコ秒レーザを用いた干渉計測	
	森川　雄大	位相シフトシアリング干渉法によるひずみ分布測定	
	三宅　基晴	位相シフト干渉計のための位相シフト量制御	
10:11~10:39		＜樫研究室＞	中田・島岡
	服部　佑哉	２台のカメラを用いた対象物追従システムに関する研究	
	畑内　慎也	人間に似た動きを実現するロボットアームの開発	
	藤田　慎一	バイラテラル制御を用いたマスタースレーブシステムに関する研究	
10:39~10:50		休憩	
10:50~11:22		＜阪部研究室＞	島岡・山本
	大井　勇人	光ファイバを用いたレーザクリーニングの研究	
	寺口　剛司		
	中谷　拓樹	サッカーロボットのシュート機構の開発	
	中井　裕文	植物に害を与えない照明灯の研究開発	
	本條　仙泰		
11:24~12:00		＜福田研究室＞	山本・早川
	今村　真也	潮流を利用した発電システムに関する研究	
	松村　彰士		
	井川　太介	磁性流体の性能特性に関する基礎研究	
	竹崎　友哉	可視化技術の検討と種々の円柱形状による後流可視化実験	
	森井　保宏	非定常運動中の物体周りの流場に関する研究	

（出典　平成１７年度卒業研究発表会講演予稿集）

資料９－１－⑥－５　専攻科特別研究概要集（一部）

目　　次

機械制御工学専攻

鬱血防止マットに関する基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 植田　尚良　1
回転成形によるアルミ合金管の偏心ビード加工に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・ 梅田　昌紀　3
太陽電池の光電変換効率向上に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 江副　陸也　5
小型回流水槽の設計と試作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 勝井　祐貴　7
垂直軸風車における翼角度制御と風車内部の流れに関する研究・・・・・・・・・・・・・・・ 栗本　直彰　9
数値流体解析を用いた低コスト小型水平軸風力発電システムの開発・・・・・・・・・・・・・ 後藤　守　11
(Ti,W,Si)Nコーテッド超硬工具の切削特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鹿本　直志　13
魚類における進行波運動推進の推力特性に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 濱添　亮　15
アルミニウム合金の表面改質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 原本　淳史　17
身体保護装具に関する基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 廣田　彰吾　19
突起接触モデルに関する研究－弾塑性接触領域におけるトランケーションの影響－・・・・・・ 福井　淳一　21
回転水中紡糸法によって製作されたAg－Pb合金細線の形態と凝固組織・・・・・・・・・・・ 松村　礼央　23
薄肉ステンレス鋼管のゴムバルジ加工に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 安田　和貴　25

電子情報工学専攻

低面積オーバヘッドを実現する組込み自己テスト容易化設計の実用化・・・・・・・・・・・ 青山　瑠美　27
パルス電析法によるCo-Pt薄膜磁石の作製・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 甘崎晋次郎　29
blogを用いた意見集約に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 荒田　裕介　31
筆跡鑑定支援システムの開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 粟津　優作　33
PUEソフトアクチュエータの低電圧駆動化に向けた分子構造制御の研究・・・・・・・・・・・ 石田　守　35
２次元平面上での動的情報を用いた署名照合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 井本　哲平　37
ＩＨ用電源システムの高周波化に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 中島　啓介　39
ユーザの動的な情報を利用した抄録作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 橘本　和希　41
形状特徴を用いた重ね書き文字の分離抽出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堀　元　43
奈良県のデジタル遺跡地図データベース作成に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・ 細見　裕記　45
リモートからのOS指定ブートシステムの開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉村　裕也　47

（出典　平成１７年度専攻科特別研究概要集）

資料９－１－⑥－６　専攻科学生の研究発表一覧（一部）

機械制御工学専攻学生の研究発表一覧（平成１６年度～１７年度）

平成１６年度

Al-17mass%Si 合金切削におけるダイヤモンド工具の摩耗特性，和田　任弘、小泉　秀樹，吉原　伸二（神戸製鋼所），
日本機械学会関東支部・精密工学会共催山梨講演会 2004，平成１６年 10 月 23 日

(Ti,W)(C,N)コーテッド工具の耐摩耗性，和田　任弘，釣井　大輔，戸井原　孝臣（オーエスジー(株)），
日本機械学会関東支部・精密工学会共催山梨講演会 2004，平成１６年 10 月 23 日

軽金属の表面改質，和田　任弘，原本　淳史，
日本機会学会関西支部第 80 期定時総会講演会，平成１７年３月

(Ti,W,Si)N コーテッド超硬の工具摩耗，和田　任弘，鹿本　直志，戸井原　孝臣（オーエスジー(株)），
日本機会学会関西支部第 80 期定時総会講演会，平成１７年３月

ジャイロプリセッションを用いた球関節アクチュエータの制御則設計，川畑良太，田中丈久，土江進太郎，松田正豊，矢野順彦，阪部俊也，精密工学会第９回「知能メカトロニクス」ワークショップ，pp279-284, 2004. (和歌山県和歌山市，8/6 講演)

A development of a spheroidal joint actuator using gyro principle, Masatoyo MATSUDA, Yorihiko YANO, Junya TANAKA, Ryota KAWABATA, Toshiya SAKABE, Proceedings of the 2004 IEEE International Midwest Symposium on Circuits and Systems (MWSCAS2004), III, pp161-162, 2004. (広島市中区，7/28 講演)

球関節アクチュエータの運動制御：制御則の設計，川畑良太，松田正豊，田中淳也，矢野順彦，阪部俊也，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会，2A1-L1-63, 2004. (名古屋市天白区，6/20 講演)

回折格子を用いたシアリング干渉法によるひずみ分布測定，野崎達也、押田至啓、岩橋善久，
精密工学会 2005 年春季大会，２００５年３月１７日講演

球状車輪型全方向移動車輌のファジィ制御，速水能弘，飯田賢一，宇都佑哉（長岡技術科学大学），安野　卓（徳島大学），鎌野琢也（徳島大学），平成 16 年電気学会産業応用部門大会 Y-33，2004 年９月 14 日講演

脚型搬送ロボットの上体変動に関する検証，速水能弘，飯田賢一，平　俊男，安野　卓（徳島大学），鎌野琢也（徳島大学），平成 15 年度電気関係学会関西支部連合大会，G3-20，2004 年 11 月 28 日講演

Development of a Silicon Outer Fence Mold Actuator with Human Compatibility, Yasuhiro Hayakawa and Kensuke Morishita Proceedings of the 2004 IEEE International Conference on Robotics & Automation, pp.4059-4064　2004 年４月 30 日講演

シリコン外殻型発泡ゴムアクチュエータを用いた体圧分散システムに関する基礎研究，早川　恭弘，森下　賢祐，樫　弘明
日本フルードパワーシステム学会平成 16 年春季フルードパワーシステム講演会，pp.67-69，2004 年５月 27 日講演

シリコン外殻型発泡ゴムアクチュエータを用いた身体保護装具開発のための基礎研究，早川 恭弘，秦 太一，廣田 彰吾，森下賢祐，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会，2A1-L1-66，2004 年６月 20 日講演

Basic Characteristics of a Body Protection Orthodis by using Silicon Outer Fence Mold Actuator，Yasuhiro Hayakawa, Kensuke Morishita, Taichi Hata and Syogo Hirota，Proceedings of SICE Annual Conference 2004，2004 年８月５日講演

Development of a Body Protection Orthosis by Using Silicon Outer Fence Mold Actuator，Yasuhiro Hayakawa, Kensuke Morishita, Taichi Hata and Shogo Hirota，Proceedings of the 2004 IEEE International Conference on Control Applications, pp.1147-1152
2004 年９月３日講演

（出典　平成１７年度専攻科特別研究概要集）

資料９－１－⑥－７　教員対象アンケート回答

【 問 B 】各教員の教育方法の改善についての研究における成果を授業で実践した具体例を挙げてください。

物理・応用物理の各学会，高専学会，物理教育学会 など自分の入会している学会の教育等の内容でよいものはとり入れているが具体的に何だと限定はできない
ただし，力学概念でつまずき易い所については，教材・演示実験を多く利用している。つまり，いつも小道具を使って学生に見せて関心を呼ぶ方法は効果的であり実践している．

【 問 B 】各教員の教育方法の改善についての研究における成果を授業で実践した具体例を挙げてください。

信号処理において簡単なPBLを行っている．

【 問 B 】各教員の教育方法の改善についての研究における成果を授業で実践した具体例を挙げてください。

実物教材（実物・模型・映像・写真・コピー）を活用．

（出典　教員対象アンケート回答）

資料９－１－⑥－８　教員対象アンケート回答

〔 問 C 〕各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れた具体例を挙げてください。

"倒立振子制御系"に関する研究成果について"5S 現代制御理論"の授業で具体例としてとりあげ概要説明した。
"航空機ジェットエンジン制御系"(会社でのテーマ)に関する成果について"5M 電子制御工学"の授業で具体例としてとりあげ概要説明した。

〔 問 C 〕各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れた具体例を挙げてください。

専攻科の講義において，学習している理論を，自身の研究において応用した例を紹介した。
自身の研究実績から，素材製造プロセスの合理化が達成されている現実を本科の授業で紹介した。

〔 問 C 〕各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れた具体例を挙げてください。

研究成果を授業に取り入れ，授業の内容が専門分野の研究にどのように利用されているかを学ばせている。

〔 問 C 〕各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れた具体例を挙げてください。

研究ではソフトウェアを作成しているが，それを作って授業をしたことがある。

〔 問 C 〕各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れた具体例を挙げてください。

計測工学の授業において具体例として紹介している
また，工学実験時にも行っている。

〔 問 C 〕各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れた具体例を挙げてください。

企業で経験を事例として出来るだけ取り上げるようにしている。

（出典　教員対象アンケート回答）

資料９－１－⑥－９　教員対象アンケート回答

〔 問 D 〕学生を交えて研究を行うなど，各教員の専門分野における研究過程を教育に役立てている具体例を挙げてください。

卒研において実施しており，成果を学会で発表させている。

〔 問 D 〕学生を交えて研究を行うなど，各教員の専門分野における研究過程を教育に役立てている具体例を挙げてください。

学生に，卒業研究・特別研究の内容を学会にて発表させる。

〔 問 D 〕学生を交えて研究を行うなど，各教員の専門分野における研究過程を教育に役立てている具体例を挙げてください。

卒業研究，専攻科特別実験，特別研究で実践してきている。

〔 問 D 〕学生を交えて研究を行うなど，各教員の専門分野における研究過程を教育に役立てている具体例を挙げてください。

福祉介護ロボット開発に関して，現地の視察を行い，
開発の流れを説明することにより，
研究の“やり方”を学ばせている。

〔 問 D 〕学生を交えて研究を行うなど，各教員の専門分野における研究過程を教育に役立てている具体例を挙げてください。

卒業研究，専攻科特別研究に関して，自らの研究テーマを小分けして
学生に研究してもらっている。

〔 問 D 〕学生を交えて研究を行うなど，各教員の専門分野における研究過程を教育に役立てている具体例を挙げてください。

学会発表などで連名とする。

（出典　教員対象アンケート回答）

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。

（観点に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）は平成１３年度から定例化し，教員の質的向上を図るための情報交換と研修の機会を増やすようにしている。平成１５年度からはＦＤ実施要項（資料９－２－①－１）を策定し，ＦＤ委員会が各種委員会からの意見を聴取し，テーマを決定し，月に１度教職員会議の前後及び適宜実施している（資料９－２－①－２）。

公開授業は平成１５年度からＦＤ委員会の主導のもとに，年１度実施しており，非常勤講師担当教科及び専攻科教科を含むすべての授業を本校教職員に公開している（資料９－２－①－３）。授業参観者には公開授業参観報告の提出を義務付けており，ＦＤ資料として保管すると共に，授業担当教員に配布している。また，授業担当者は参観者からのコメントを参考にして，授業改善を図ると共に，参観者からの助言要請に応えることとしている。

毎年夏期休業中に，厚生補導教職員研修会の名称で，教務，学生，寮務各委員会が持ち回りで，テーマを設定し，開催していたが，平成１６年度より教職員研修会と名称変更し，討議，研修を行い，報告書を公表している（資料９－２－①－４，５）。

（分析結果とその根拠理由）

ファカルティ・ディベロップメントはＦＤ委員会を中心として，講演会，研修会，公開授業等が計画的かつ継続的に実施されている。

以上のことから，ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されている。

資料９－２－①－１　ＦＤ実施要項

奈良工業高等専門学校ＦＤ実施要項

（趣旨）

第１ この要項は，奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育における教員の資質と能力の向上を図るため，組織的かつ継続的な取り組みを行なうこととし，その実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（ＦＤ委員会）

第２ 本校に，次の各号に掲げる事項について，ＦＤ（ファカルティ・ディベロプメント）の基本事項を審議し，それらを実施するため，ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（１） ＦＤの計画立案に関すること。

（２） ＦＤに関わる調査，研究，指導及び啓蒙に関すること。

（３） その他，委員会が特に必要と認めたこと。

（組織）

第３ 委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

（１） 校長

（２） 教務主事

（３） 学生主事

（４） 寮務主事

（５） 専攻科主任

（６） 一般教科及び専門各学科主任

（７） 情報メディア教育センター長

（８） 事務部長

（委員長）

第４ 委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。委員長は，委員会を招集し，その議長となる。ただし，委員長は必要に応じて委員長補佐を置き，その任を委ねることができる。

（委員以外の者の出席）

第５ 委員会が必要と認めたときは，委員以外の者を出席させ，その意見を聴くことができる。

（他の委員会等との連携）

第６ 委員会は，他の委員会等と相互に連携し，本校のＦＤ活動を効果的に推進する。

（事務）

第７ ＦＤの実施に関する事務は，庶務課において処理する。

附　記

この要項は，平成１５年４月１日から施行する。

附　記（平成１６年４月１日）

この要項は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校ＦＤ実施要項）

資料９－２－①－２　ＦＤ実施一覧

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　平成１７年度ＦＤ委員会資料）

資料９－２－①－３　公開授業実施要領

平成 17 年 10 月 6 日

教職員・非常勤講師各位

FD 委員会委員長

平成 17 年度奈良高専公開授業実施にあたってのお願い

下記の実施要領にしたがい平成 17 年度奈良高専公開授業を実施することになりました。
つきましては、次の点にご留意下さい。

(1) 公開授業実施期間は、10 月 24 日(月)から 10 月 28 日(金)までです。この期間の全ての授業（非常勤講師担当教科及び専攻科教科を含む）を対象としますが、教員（常勤）においては複数の授業を参観してください。

(2) 授業参観にあたっては、当該授業の遂行に迷惑にならないよう教室等からの出入りを静かに行ってください。特に、実技教科・実験・実習・卒研・特別研究などを授業参観される場合、授業参観者は授業の妨害にならないよう、また自らの安全確保に十分ご配慮下さい。

(3) 学校としての FD 資料になりますので、授業参観者は別紙「平成 17 年度奈良高専公開授業参観報告」を必ずご提出下さい。なお、報告書の様式は、必要部数を各自でコピーしてご使用下さい。

(4) 学級担任の先生は、10 月 20 日（木）までに、学生に対して下記要領に基づき公開授業実施の趣旨をご説明下さい。
専攻科については専攻科委員会から学生への周知をお願いします。

(5) その他、不明な点がありましたら下記のＦＤ委員会委員にお尋ね下さい。
校長、３主事、専攻科主任、一般教科：荒金憲一（委員長補佐）、機械工学科：岩井保善、電気工学科：藤井治久、電子制御工学科：中田敏夫、情報工学科：近藤勝也、物質化学工学科：河越幹男、情報メディア教育センター長、事務部長

※公開授業時間割、授業場所等は後期授業時間割が確定しだい配布させていただきます。

平成１７年度奈良高専公開授業実施要領

１．目　的

奈良高専（以下、「本校」という。）の授業を公開することにより、本校教員（非常勤講師を含む。）の教育方法の改善に資することを目的とする。

２．実施形態

公開授業は、下記の実施形態により実施する。

（１） 授業参観者は本校教職員（非常勤講師を含む。）とする。

（２） 公開授業の期間は指定された１週間とし、その週の全ての授業（実技教科・実験・実習・卒研・専攻科授業を含める。）を対象とする。

３．実施方法

公開授業の実施は、下記の方法によるものとする。

（１）本校 FD 委員会は公開授業の計画を策定し、本校教職員（非常勤講師を含む。）に通知する。

（２）授業参観者は別紙様式で授業に対するコメントを記入し、庶務課専門員宛に FD 資料として提出する（授業担当教員へは庶務課専門員から写しを配布する。）。

（３） 授業担当者は、参観者からのコメントを参考にして、授業改善を図るとともに、参観者からの助言要請に応える。

４．所管

公開授業に関する所管は FD 委員会とする。

（出典　平成１７年度公開授業実施要領）

資料９－２－①－４　教職員研修会報告書

平成１７年度

教 職 員 研 修 会 報 告 書

期　日：平成１７年８月２２日（月）
場　所：奈良市男女共同参画センター「あすなら」会議室

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈 良 工 業 高 等 専 門 学 校

平成１７年度　　教職員研修会報告書

目　　次

研修テーマ ・・・・・・・・・・・・・ 3

教職員研修会実施要項 ・・・・・・・・・・・・・ 4

厚生補導研修会開催にあたって ・・・・・・・・・・・・・ 5

平成１８年度の認証評価受審に向けて ・・・・・・・・・・・・・ 7

高等専門学校における単位計算方法の見直しについて ・・・・・・55

平成１７年度　教職員研修会参加者名簿 ・・・・・・・・・・・・・83

（出典　平成１７年度教職員研修会報告書）

資料９－２－①－５　教職員研修会報告書

厚生補導研修会開催にあたって

教務主事　京兼　純

皆さんおはようございます。本日、一岡校長は出張のため出席できませんので、私の方から開会に当りまして一言ご挨拶を申し上げます。

平成１７年度の厚生補導研修会は、昨年度実施しました着任５年以内の教職員研修会の続きではなく、緊急を要するテーマを二つに絞り、従前のような研究会方式としました。

テーマの一つは、平成１８年度に評価予定の大学評価・学位授与機構による機関別認証評価に関することです。この認証評価につきましては、現在、専攻科副主任の和田教授が学位授与機構・評価部門の専門委員をしていることもありまして、本校が評価を受けるに当っての背景、目的、自己評価書、実施方法等について話題提供をして戴きます。

二つ目は本科４～５年生への大学単位（国際単位）導入についてですが、ご承知のように、本年５月に高専機構主催の教務主事を対象とした説明会がありました。これを受けて本校では、大学単位化に向けて将来構想委員会のプロジェクトチーム（小委員会）を発足させ、大学単位導入時に生じる諸問題等につきまして、小委員会で鋭意検討を戴いているところです。今回は、片倉教務主事補が高専機構への会議出席ならびに小委員会のメンバーとして中心的な役割を果たしてくれていますので、大学単位導入に対する高専機構の考え方、小委員会でのこれまでの取り組みを核として話題提供をして戴きます。

両者とも本校にとっては非常に重要な事項ですので、先生方から活発な討議や忌憚のないご意見を頂戴して、実りのある研修会にしていきたいと考えています。本日は大変長丁場となっていますが、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

（出典　平成１７年度教職員研修会報告書）

観点９－２－②：　ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

公開授業への指摘等は，授業アンケート報告書の担当教員による分析と課題や，次年度のシラバスの記述で改善されている。

将来計画委員会の専門部会として，数学・物理教育ワーキンググループ，言語教育ワーキンググループ，情報教育支援ワーキンググループが構成され（資料９－２－②－１），一般教科と専門各学科との各科目におけるお互いの関連を調査し（資料９－２－②－２），連携を図ると共に，教育の質の向上を目指している。

また，教員を対象として，ファカルティ・ディベロップメントにより，カリキュラムや授業方法改善等を行った具体例のアンケート調査を実施している（資料９－２－②－３）。

（分析結果とその根拠理由）

各種ワーキンググループの活動を通じて学科の枠を超えた改善の取組みが行われており，またファカルティ・ディベロップメントによる改善の具体例が報告されている。

以上のことから，ファカルティ・ディベロップメントが，教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

資料９－２－②－１　将来計画委員会議事要録（抜粋）

〔非開示につき省略〕

（出典　将来計画委員会議事要録）

資料９－２－②－２　数学―専門科目関連表

機械工学科

				1年		2年					3年									4年								5年							
				機械設計製図Ⅰ	機械工学入門	機械設計製図Ⅱ	基礎材料学	機械工作法	情報処理	メカトロニクス	機械設計製図Ⅲ	エネルギ基礎力学	材料力学	材料強度学	機械工作法	情報処理	電気工学	創造設計製作	流体工学	熱工学	材料力学	新素材論	数値解析	電子工学	設計工学	設計工学演習	流体工学	熱工学	制御工学	生産システム工学	計測工学	設計工学演習	工業数学	エネルギ工学	材料工学特論
1年	前期	数学α	① 整式の計算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
			② 集合と命題													○																		
			③ 等式と不等式	○	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○		○	◎
		数学β	① 二次関数とグラフ	○	○	○			◎		○	◎	○		○	○			○	○	○				○	○	○	○	◎	○		○	◎		
			② 二次方程式・複素数・二次不等式						◎		○	◎				○	○			○					○	○	○	◎			○	◎		
	後期	数学α	① べき関数・分数関数		○				◎		○	◎				○	◎			○			○		○	○	○	◎			○	◎		
			② 無理関数・逆関数						◎			◎				○												◎				◎		
			③ 指数関数・対数関数		○			○	◎	○	○	◎	○		◎	○	◎		◎	◎	○		◎		○	○	○	◎			○	◎	◎	○
			④ 三角関数		◎		○	○	◎	○	◎	◎	○		◎	○	◎		◎		○		○	○	◎	◎			◎			◎	◎		○
		数学β	① 平面上の図形	○	○	○					○	◎													○	○					○	○		
			② 場合の数と二項定理																													○		
2年	前期	微積Ⅰ	① 数列の和と極限						◎		○	◎					◎				○		○		○			○			○	◎		○
			② 関数の極限								○	◎	○				◎		○	○	○		○		○		○	◎			○	◎	○	○
			③ 整式の導関数								○	◎	○				◎		◎	◎	◎		○	○	○	○	◎	◎			○	◎	◎	◎
			④ その積商の導関数								○	◎							○	○					○	○	◎	◎			○	◎	○	
		代数Ⅰ	① 平面ベクトル									◎					◎								○	○	◎					◎		
			② 空間ベクトル														○															◎		
	後期	微積Ⅰ	① 対数関数・指数関数・三角関数の導関数				○		○		◎	◎	◎	○		○	◎		◎	◎	○		○		◎	◎	◎	◎		○	◎	○	◎	○
			② 近似値・速度・加速度						○		○	◎				○	◎		○						○	○	○				○	○		
			③ 微分の逆としての積分								○	◎	◎				◎		◎	◎	◎			○	○	○	◎	◎	◎			○	◎		
			④ 面積と体積								○	◎					○		◎						○	○						○		
		代数Ⅰ	① 2×2行列						◎			○												○			◎					○		
			② 平面上の一次変換									○															○					○		
3年	前期	微積Ⅱ	① 曲線の凹凸								○	◎	○								○		○		○			○			○	○		○
			② 曲線の媒介変数表示・極座標表示								○	◎	○				◎								○	○	◎	◎			○	◎		
			③ テイラーの定理・近似計算								○	◎	◎				○		○		◎		◎		○	○	○	◎			○	○		◎
			④ 和の極限としての定積分								○	◎					◎						◎		○	○	○				○	○		
			⑤ ②利用で面積・体積・曲線の長さ								○	◎										1			○	○			◎		○	◎		
		代数Ⅱ	① 行列式と連立一次方程式									◎															○					○		
			② 行列の固有値と対角化																								○					○		
			③ 行列の階数																								○					○		
	後期	微積Ⅱ	① 一階常微分方程式									◎	◎				◎		◎	○	◎		◎	○	○	○		◎	◎			◎	◎		◎
			② 二階常微分方程式														○						○		○	○		◎				◎		
			③ 偏微分																○				○		○		◎	◎		○	◎	◎			
			④ 重積分									◎							○						○						○	◎			
4年	前期	応数α	① 複素数とその応用																								◎					◎		
			② 複素関数																								◎					◎		
			③ 複素関数の積分																													◎		
		応数β	① 確率																						○			○	○	○				
			② 確率変数，期待値																						○			○	○	○				
			③ 確率分布																						○			○	○	○				
			④ 正規分布																										○					
	後期	応数α	① 展開・留数・等角写像																								○					◎		
			② フーリエ級数																										◎			◎		
			③ フーリエ積分																										◎			◎		
		応数β	① 統計の概念																						○			○	◎	○				
			② 相関関数																				○		○			○	◎	○				
			③ 推定，検定の概念																										○					
			③ ラプラス変換																								◎					◎		
			④ 逆ラプラス変換																								◎					◎		

・特に重要な項目には「◎」印を入れ，ある程度関係している項目には「○」を記入ください．

（出典　教職員会議（平成１８年４月２５日）資料）

資料９－２－②－３　教員対象アンケート回答

〔　問 E　〕ファカルティ・ディベロップメント（教育方法等の研究・研修、教員相互の授業見学等）により、カリキュラムや授業方法改善等を行った具体例を挙げてください。

学生との対話を積極的に行っている，その結果，学生の講義への取り組みが少し改善された．

〔　問 E　〕ファカルティ・ディベロップメント（教育方法等の研究・研修、教員相互の授業見学等）により、カリキュラムや授業方法改善等を行った具体例を挙げてください。

授業見学で良いと見たことを自分の授業にとりれている．

〔　問 E　〕ファカルティ・ディベロップメント（教育方法等の研究・研修、教員相互の授業見学等）により、カリキュラムや授業方法改善等を行った具体例を挙げてください。

学生に見やすい板書の方法，説明のしかた．

〔　問 E　〕ファカルティ・ディベロップメント（教育方法等の研究・研修、教員相互の授業見学等）により、カリキュラムや授業方法改善等を行った具体例を挙げてください。

板書の書き方

（出典　教員対象アンケート回答）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- ＦＤは毎月実施し，教職員の研修を行うと共に教育改善に役立てている。
- 科目ファイルにより各科目の状況を把握，蓄積している。
- 授業アンケートを実施し，報告書として公表され，授業の改善に努めている。
- 数学・物理教育ワーキンググループ等の各種ワーキンググループにより一般教科及び専門各学科の間の連携を図っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

本校では，企画会議，運営会議の企画立案のもと教育活動の点検・評価のための資料やデータの収集と蓄積を行っている。各教員の教育活動の状況を把握するため科目ファイルを作成し，各教科の教育状況，学生の習熟度等のデータを収集，蓄積している。また，卒業生，専攻科修了生及び就職先企業に対しアンケート調査を行っている。ＦＤ委員会では学生に対する授業アンケートを実施し，学生からの評価等を収集すると共に，担当教員による分析と課題を加えて，授業アンケート報告書として公表している。また，公開授業を行うことにより，教員間相互の評価と助言を得ている。これら資料，アンケートに加え，学外有識者からなる運営諮問会による提言等をもとに，教務委員会，専攻科委員会等の各種委員会及び各学科において教育活動の改善への取組を恒常的に行っている。これらの取組は，毎年，点検・評価委員会により自己点検・評価報告書にまとめられ公表されている。さらに，将来計画委員会により将来計画に生かされている。

教員の研究活動は活発であり，卒業研究，専攻科特別研究をはじめ各授業にその成果が反映されている。

ファカルティ・ディベロップメントはＦＤ委員会を中心に，定例化されており，公開授業や各種研修会と共に，教育の質の向上や授業の改善に寄与している。また，数学・物理教育ワーキンググループ，言語教育ワーキンググループ，情報教育支援ワーキンググループが構成され，一般教科と専門各学科との各科目におけるお互いの関連を調査し，連携を図ると共に，教育の質の向上を目指している。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の教育研究活動を行う土地・建物・設備等の固定資産は，平成１６年度の独立行政法人化に伴い，それまで学校運営に使用してきた資産を国から出資されたものである（資料 10－１－①－１）。また，流動資産の財源は，運営費交付金，授業料収入等により恒常的な財源措置がされている。債務額は，未払金と未払費用の 127,873 千円であり，長期及び短期借入金は 0 円である（資料 10－１－①－２）。

（分析結果とその根拠理由）

本校の資産は，法人化に伴い国から出資されたものであり，法人化後も施設設備の充実を図っており，教育研究活動を安定して遂行できる資産を有している。また，債権額については，保有している現金・預金で支払いが可能であり，長期及び短期借入金もないことから，教育研究活動の遂行に支障はない。

資料１０－１－①－１　資産一覧表

固定資産の取得及び処分並びに減価償却費の明細

（単位:円）

資産の種類		法人承継資産	平成16年度				平成17年度				摘要
			増減額	期末残高	減価償却累計額	差引当期末残高	増減額	期末残高	減価償却累計額	差引当期末残高	
有形固定資産	建物	2,719,610,000	28,270,485	2,747,880,485	513,686,183	2,234,194,302	34,395,480	2,782,275,965	666,641,012	2,115,634,953	
	構築物	383,503,250	26,733,500	410,236,750	161,801,117	248,435,633	862,500	411,099,250	179,766,558	231,332,692	
	機械装置	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	船舶	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	車両運搬具	3,392,901	－	3,392,901	616,891	2,776,010	－	3,392,901	1,233,782	2,159,119	
	工具器具備品	98,226,125	59,666,332	157,892,457	26,746,501	131,145,956	15,315,522	173,207,979	61,686,950	111,521,029	
	土地	1,786,649,500	－	1,786,649,500	－	1,786,649,500	－	1,786,649,500	－	1,786,649,500	
	建設仮勘定	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	美術品･収蔵品	3,338,200	－	3,338,200	－	3,338,200	－	3,338,200	－	3,338,200	
	計	4,994,719,976	114,670,317	5,109,390,293	702,850,692	4,406,539,601	50,573,502	5,159,963,795	909,328,302	4,250,635,493	
無形固定資産	特許権	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	ソフトウェア	3,528,525	－	3,528,525	900,900	2,627,625	1,311,450	4,839,975	1,845,515	2,994,460	
	電話加入権	180,000	－	180,000	－	180,000	－	180,000	－	180,000	
	その他(実用新案権を含む)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	特許権仮勘定	－	913,862	913,862	－	913,862	532,980	1,446,842	－	1,446,842	
	計	3,708,525	913,862	4,622,387	900,900	3,721,487	1,844,430	6,466,817	1,845,515	4,621,302	
投資その他の資産	長期貸付金	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	破産債権、再生債権、更正債権その他これに準ずる債権	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	貸倒引当金	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	長期前払費用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	敷金･保証金	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	その他	－	4,640	4,640	－	4,640	－	4,640	－	4,640	
	計	－	4,640	4,640	－	4,640	－	4,640	－	4,640	

（出典　会計課総務係作成資料）

資料 10－１－①－２　貸借対照表（抜粋）

貸借対照表(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

（単位:円）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
[資産の部]	4,425,492,272	[負債の部]	328,057,320
流動資産	170,230,837	流動負債	197,555,839
現金及び預金	166,962,699	運営費交付金債務	656,720
未収学生納付金収入	1,184,400	授業料債務	0
その他	2,083,738	預り施設費	0
固定資産	4,255,261,435	預り補助金等	0
有形固定資産	4,250,635,493	預り寄附金	15,563,525
建物	2,782,275,965	前受受託研究費等	2,700,000
建物減価償却累計額	△ 666,641,012	前受受託事業費等	0
構築物	411,099,250	短期借入金	0
構築物減価償却累計額	△ 179,766,558	未払金	114,202,325
機械装置	0	未払消費税等	0
機械装置減価償却累計額	0	未払費用	13,671,232
車両運搬具	3,392,901	前受金	0
車両運搬具減価償却累計額	△ 1,233,782	預り金	50,762,037
工具器具備品	173,207,979	その他の流動負債	0
工具器具備品減価償却累計額	△ 61,686,950	固定負債	130,501,481
土地	1,786,649,500	資産見返負債	130,501,481
建設仮勘定	0	資産見返運営費交付金等	90,139,125
その他の有形固定資産	3,338,200	資産見返補助金等	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	資産見返寄附金	4,782,127
無形固定資産	4,621,302	資産見返物品受贈額	34,133,387
ソフトウェア	2,994,460	特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,446,842
電話加入権	180,000	長期借入金	0
特許権仮勘定	1,446,842	[資本の部]	4,087,571,638
投資その他の資産	4,640	資本金(政府出資金)	4,414,012,792
[本支店勘定]	△ 9,863,314	資本剰余金	△ 326,496,732
[本支店]機構本部	△ 9,863,314	利益剰余金	55,578
合　　計	4,415,628,958	合　　計	4,415,628,958

（出典　会計課総務係作成資料）

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校における平成 17 年度経常的収入は，授業料，検定料，入学料のほか，雑収入を合わせて年額 270,798 千円である。また，事業遂行に要する経費から収入額を差し引いたものが「運営費交付金」として措置されることになっており，平成 17 年度は，1,163,529 千円の配分を受けたところである（資料 10－１－②－１）。

なお，法人移行後は，外部資金獲得のために全学を挙げて取り組んでいることから，科学研究費補助金の応募件数が飛躍的に伸びている（資料 10－１－②－２）。また，地域企業等からの共同研究・受託研究，寄附金等についても，毎年順調に獲得している（資料 10－１－②－３）。

（分析結果と根拠理由）

本校への入学者確保の観点から，中学校訪問範囲の拡大，学校・入試説明会及び体験入学の充実，地元大和郡山市との学市連携事業の実施等の広報活動の展開により，平成 18 年度入学志願者数は，定員の 1.8 倍，入学者数も定員以上を確保していることから（資料 10－１－②－４），経常的収入は安定し，継続的に確保されている。また，外部資金についても若干の変動があるものの，増加傾向にある。

資料 10－１－②－１　経常的収入確保等の状況（平成 17 年度）

平成17年度 収入･支出予算配分

（単位:円）

収入	収入予算
運営費交付金	1,163,528,993
入学料収入	21,091,000
授業料収入	236,454,415
検定料収入	8,398,000
雑収入	
職員宿舎貸付料収入	2,932,000
寄宿料収入	1,087,000
その他収入	836,000
収入予算計	1,434,327,408

支出	支出予算
常勤職員人件費	1,002,794,720
退職手当	72,641,289
赴任旅費	869,399
その他経費(物件費)	358,022,000
支出予算計	1,434,327,408

（出典　会計課総務係作成資料）

資料 10－１－②－２　科学研究費補助金の応募・交付決定状況

科学研究費補助金の応募及び交付決定状況

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
応募件数	32件	36件	55件	53件
継続件数	5件	6件	8件	3件
合計	37件	42件	63件	56件

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
交付決定件数	11件	12件	10件	10件
うち　新規	6件	6件	2件	7件
継続	5件	6件	8件	3件
交付決定額	15,300千円	18,300千円	11,200千円	10,900千円

（出典　会計課総務係作成資料）

資料10－１－②－３　共同・受託研究・寄付金の受入状況

共同研究・受託研究・受託事業・寄附金の受入状況

		平成15年度	平成16年度	平成17年度
共同研究	件数	8件	19件	19件
	金額	2,900千円	19,565千円	10,410千円
受託研究	件数		1件	4件
	金額		1,050千円	3,010千円
受託事業	件数		2件	1件
	金額		2,070千円	904千円
寄附金	件数	14件	30件	17件
	金額	15,663千円	16,211千円	11,663千円

（出典　会計課総務係作成資料）

資料10－１－②－４　入試関係受験者等推移

	定員(A)	入学志願者(B)	入学者	倍率(B/A)
平成15年度	200	420	208	2.1
平成16年度	200	379	206	1.9
平成17年度	200	311	210	1.6
平成18年度	200	355	206	1.8

（出典　学生課教務係作成資料）

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するための財務上の基礎として，独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標，中期計画を踏まえて，奈良工業高等専門学校中期計画が定められ，将来計画委員会を通じて教職員に周知されている（資料10－２－①－１及び２）。

（分析結果と根拠理由）

財務・施設設備面を含めた中期計画が策定されており，将来計画委員会を通じて関係者に周知されている。

資料 10－２－①－１　奈良工業高等専門学校中期計画（抜粋）

奈良工業高等専門学校中期計画（抜　粋）

［基本方針］

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　外部からの教育研究資金その他の自己収入の増加のための措置

教育・研究・社会貢献等という高等専門学校の主要な機能の向上を図るため自己収入の確保に努めるとともに研究を活性化するために、受託・共同プロジェクト研究を中心に外部資金の獲得をめざす。また個々の研究者の個別研究に関する外部資金獲得についても、これを推進する体制を整える。

外部からの教育研究資金その他自己収入の増加に関する具体的方策

入学志願者数は平成１５年度実績を維持するとともに、検定料・入学料収入の安定化を図るとともに、受託研究、民間等との共同研究による資金はその総額で平成１５年度実績の維持を図る。

また、外部資金情報の収集分析と学内発信、学科横断型研究連携の模索、外部との受託・共同研究などを鋭意検討する戦略会議（仮称）を設置し、外部資金獲得増加を支援する。このため、本校のシーズ集を引き続き毎年発行することや、ホームページ等による広報活動を活発に行い、企業のニーズとのマッチングを進めるとともに、学外コーディネータと連携の下、地元企業や近郊の企業並びに地方公共団体との技術交流会等を開催し、技術相談等から受託・共同研究につながる案件を抽出推進する。

２　経費の抑制及び資産の管理の改善のための措置

中期目標期間中は毎事業年度に管理的経費対前年度比１％の削減を目標とし、その達成のための具体的計画を策定し、経費削減を積極的に進める。

（１）管理的経費の抑制に関する具体的方策

抑制可能な管理的経費の項目を調査するとともに、当面以下のような事項を推進する。

①新聞、雑誌等刊行物の購入は、部数、種類を厳選し、学術雑誌は電子ジャーナル利用への切り替えにより図書購入費の低減を図る。

②事務処理の効率化と印刷物の削減、用紙類の節約を図るため、配布文書の精選と電子ファイル機能活用によるペーパレス化を一層推進する。

外部委託等の固定経費については、契約内容を精査し、委託基準・内容を見直し、より一層の効率化を図る。

また、省エネルギー可能な個所の調査と点検を実施するとともに室内温度（夏季２８度、冬季２０度）の徹底化と光熱水料の節約を図るとともに、全学的に省エネルギー意識を高める方策を検討する。

（２）資産の適正な管理に関する具体的方策

予算配分については、均等配分方針を見直し、明示された基準による業績評価に応じて経費配分を行い、校長のリーダーシップが発揮できる経費については、包括的に校長裁量経費として配分を行う。また共同プロジェクト等の特殊事項に対しては重点配分を行う。

Ⅴ　その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

１　施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置

施設設備等が有効活用できるような体制整備やシステムの構築を行い、教育研究等の活動が円滑に効率的に実施できる環境を確保するとともに、施設の機能保全や安全対策に努める。また障害者を含めて広く学外の一般の方々が利用しやすい施設の整備を図り、施設の一般公開・利用を推進する。また、設備等を効率的に学内共同実験実習室に配置し、地域共同テクノセンターとともに、本校の教育研究の活性化並びに産学官の拠点とし、外部資金の増収に努める。

○整備すべき施設設備に関する具体的方策

施設整備に関しては、教育環境改善計画及び国立大学施設緊急整備５ヶ年計画に基づき、老朽化対策、耐震補強等の安全性の向上並びに身障者に対する利便性をも考慮した校舎改修計画を実施する。

1

（出典　奈良工業高等専門学校中期計画）

資料 10－２－①－２　平成 16 年度将来計画委員会議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 16 年 7 月 8 日及び平成 16 年 11 月 11 日将来計画委員会議事要録）

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

本校における平成 17 年度の収支の状況は，損益計算書（抜粋）のとおりであり，財務会計システムにより一元管理され，支出超過は生じていない（資料 10－２－②－１）。

（分析結果と根拠理由）

損益計算書（抜粋）で示すように収支は適正に管理されており，支出超過になっていない。

資料 10－２－②－１　平成 17 年度損益計算書（抜粋）

損益計算書（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
[経常費用]	1,488,556,738	[経常収益]	1,488,556,738
業務費	1,403,790,172	運営費交付金収益	1,125,796,736
教育・研究経費	210,526,022	授業料収益	256,291,800
教育研究支援費	41,138,533	入学金収益	21,545,100
受託研究費	14,183,381	検定料収益	7,079,800
受託事業費	904,000	受託研究等収益	12,720,000
教員人件費	771,046,484	受託事業等収益	904,000
職員人件費	365,991,752	補助金等収益	13,802,000
一般管理費	84,766,566	寄附金収益	16,496,031
財務費用	0	施設費収益	221,550
		資産見返負債戻入	28,437,562
		財務収益	1,436
		雑益	5,260,723
合計	1,488,556,738	合計	1,488,556,738

（出典　会計課総務係作成資料）

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

予算配分については，運営会議において予算配分方針及び学内支出予算配分案を審議・決定している（資料 10－２－③－１～６）。

校長裁量による戦略的経費については，特別事業計画書を徴取し，必要に応じてヒアリングを実施のうえ，適切に配分・執行している（資料 10－２－③－５）。

中期計画の期間中は，毎事業年度毎に１％の業務の効率化が求められていることから，当該効率化による予算削減額を，一般管理費(中央経費)において吸収するため及び一般管理費を節約し教育研究活動経費に充当するために，一般管理費(中央経費)管理部署から事業計画書を徴取のうえ，ヒアリングを実施して適切に配分している（資料 10－２－③－７～１０）。

（分析結果と根拠理由）

予算配分方針や予算配分案については，運営会議において審議し，校長が決定したうえで適正に配分され，教育研究活動に対し，適切な資源配布がなされている。

資料 10－２－③－１　平成 17 年度予算配分方針

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 4 月 5 日運営会議資料）

資料 10－２－③－２　平成 17 年度運営会議議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 4 月 5 日運営会議議事要録）

資料 10－２－③－３　平成 17 年度予算配分

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 5 月 12 日運営会議資料）

資料 10－２－③－４　平成 17 年度運営会議議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 5 月 12 日運営会議議事要録）

資料 10－２－③－５　平成 17 年度追加予算配分方針

平成17年7月12日
運 営 会 議 資 料

平成１７年度 追加予算配分 方針について

１．予算枠の設定について
追加配分の財源について、平成16年度の方針に準じ、予算枠を「戦略的経費」と設定する。
※参　考：平成16年度の方針のうち、「研究費基礎分」については、すでに平成17年度当初配分において配分措置済。

２．予算枠の概要について
「戦略的経費」とは、中期目標・中期計画・年度計画等の内容に応じて、年度毎に重点事項を整理して配分する予算とする。

３．予算配分事項等について
校長裁量により、下記配分事項のうちから「重点配分する事項」の選定、及び「その予算額」を決定する。

①「研究費傾斜配分分」として配分。
(1)研究計画書の評価及びその他評価事項を評価した傾斜配分予算。
(2)詳細については、「要領１」で定めるとおりとする。

②大型設備要求等に対して、まとまった金額を配分。
(1)特別事業計画書を聴取し、必要に応じて校長・主事によるヒアリングを実施した上で、重点配分する予算。
(2)詳細については、「要領２」で定めるとおりとする。

③学科等の枠を越えた共同研究等プロジェクトに配分。
(1)上記②と同じ。
(2)詳細については、「要領３」で定めるとおりとする。

④学校全体として必要な調査研究等に配分。
(1)上記②と同じ。
(2)詳細については、「要領４」で定めるとおりとする。

⑤学校の重点事項に対する共通経費に配分。
(1)上記②と同じ。
(2)詳細については、「要領４」で定めるとおりとする。

⑥緊急・突発的な事項等に対応するために配分。
(1)上記②と同じ。
(2)詳細については、「要領５」で定めるとおりとする。

（出典　平成 17 年 7 月 12 日運営会議資料）

資料 10－２－③－６　平成 17 年度運営会議議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 7 月 12 日運営会議議事要録）

資料 10－２－③－７　平成 17 年度中央経費事業計画書のヒアリング通知

平成１７年5月１９日

情報メディア教育センター長
ネットワーク管理室長
産学交流室長　　殿
総合技術室長
各　課　長

校　　長

平成17年度中央経費事業計画書のヒアリングについて

標記のことについて、先に提出していただいております事業計画書のヒアリングを下記のとおり実施させていただきますので、よろしくお願いします。
なお、どうしてもご都合が付かない場合は、会計課総務係(内線3233)まで連絡願います。

記

○日　　時　平成１７年6月1日(水)　１４：００～

○場　　所　第一会議室

○日程・割振　別紙１のとおり

○ﾋｱﾘﾝｸﾞ要領　別紙２のとおり

（出典　平成 17 年 5 月 11 日企画会議資料）

資料 10－２－③－８　平成 17 年度中央経費事業計画書査定（総表）

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 6 月 14 日運営会議資料）

資料 10－２－③－９　平成 17 年度組織別配分額一覧

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 6 月 14 日運営会議資料）

資料 10－２－③－１０　平成 17 年度運営会議議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年 6 月 14 日運営会議議事要録）

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

学校を設置する独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表は，独立行政法人通則法第 38 条（資料 10－３－①－１）の規定に基づき，当該事業年度終了後３月以内に主務大臣に提出し，承認を受けた後，官報に公示し，書面を備え置くとともに，機構本部のホームページ上で公表されている（資料 10－３－①－２）。本校財務諸表等（訪問調査時に提示可能）がある。

（分析結果と根拠理由）

財務諸表等については，学校を設置する法人である独立行政法人国立高等専門学校機構本部を通じ，独立行政法人通則法の規定に基づき適正な形で公表されている。

資料 10－３－①－１　独立行政法人通則法（第 38 条）

独立行政法人通則法（抜　粋）

（財務諸表等）

第三十八条　独立行政法人は、毎事業年度、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し、当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

２　（略）

３　（略）

４　独立行政法人は、第一項の規定による主務大臣の承認を受けたときは、遅滞なく、財務諸表を官報に公告し、かつ、財務諸表並びに第二項の事業報告書、決算報告書及び監事の意見を記載した書面を、各事務所に備えて置き、主務省令で定める期間、一般の閲覧に供しなければならない。

（出典　独立行政法人通則法）

資料 10－３－①－２　独立行政法人国立高等専門学校機構の公式ホームページでの公表

国立高等専門学校機構 > 情報公開 > 各種資料　1/2 ページ

独立行政法人 国立高等専門学校機構

Institute of National Colleges o

ホーム > 情報公開 > 各種資料

HOME
概 要
情報公開
イベント
国立高専だより
調達情報
工事情報
学生支援情報
入試情報
職員採用
アクセスマップ
LINK

情報公開

各種資料

■各種資料

このページの資料はPDFで作成されています
お持ちでない方は、Adobe Readerをダウンロードしてご覧ください

●情報公開の案内
- 請求書式
- 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（総務省行政管理局サイトへ）
- 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令（総務省行政管理局サイトへ

●個人情報の取扱
- 個人情報保護ファイル簿
- 独立行政法人等の保有する個人情報保護に関する法律（総務省行政管理局サイトへ）
- 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律施行令（総務省行政管理局サ
- 機構個人情報保護管理規則
- 機構個人情報の開示等に関する取扱規則
- 機構の保有する個人情報の開示等に係る審査基準
- 個人情報の請求等の方法（流れ図）

●組織に関する情報
- 組織運営体制・機能（図）
- 役員名簿
- 役職員の報酬・給与等について
- 独立行政法人国立高等専門学校機構役員給与規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構役員退職手当規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員給与規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員退職手当規則
- 独立行政法人国立高等専門学校機構非常勤教職員給与規則

●業務に関する情報
- 中期目標
- 中期計画
- 年度計画（平成16年度）
- 年度計画（平成17年度）
- 業務方法書
- 事業報告書

●財務に関する情報
- 財務諸表
- 決算報告書

●評価及び監査に関する情報
- 平成16年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
- 監事意見書

●吹き付けアスベスト等使用実態調査の結果等の公表
- 独立行政法人国立高等専門学校機構施設等における吹き付けアスベスト等使用実態調査
- 独立行政法人国立高等専門学校機構施設等における第1回吹き付けアスベスト等使用実等の公表

http://www.kosen-k.go.jp/information.html　2006/03/29

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構の公式ホームページ）

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

平成 16 年度については，機構の会計監査人による監査が実施されると共に，学内での内部監査(定期監査分，随時監査分)を実施するなど，適正な会計監査を行っている（資料 10－３－②－１～４）。

また，平成 17 年度においては，近畿地区国立四高専(明石・舞鶴・和歌山・奈良)で相互に会計監査を実施した（資料 10－３－②－５及び６）。

さらに，平成 18 年度以降においては，上記の監査以外に，独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱に基づく機構本部による監事監査が実施される予定である（資料 10－３－②－７）。

（分析結果とその根拠理由）

機構の会計監査人による監査を受けている。また，本校事務職員により内部監査を実施している。さらに，近畿地区国立四高専（明石・舞鶴・和歌山・奈良）による相互監査を行っている。

以上のことから，財務に対して適正に会計監査がなされている。

資料 10－３－②－１　機構の会計監査人による監査状況

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　中央青山監査法人通知）

資料 10－３－②－２　奈良工業高等専門学校内部監査規程

奈良工業高等専門学校内部監査規程

（目的）

第１条　この規程は，独立法人国立高等専門学校機構会計規則（平成１６年規則第３４号）第４５条の規定に基づく内部監査（以下「監査」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。

（監査の実施）

第２条　校長は，事務部長に監査を実施させるものとする。

（監査員等）

第３条　事務部長は，監査を実施するため会計課所属職員のうちから監査員を命ずるものとする。

第４条　監査員は，公正かつ厳正に監査に当たらなければならない。

（監査事項）

第５条　監査は，次に掲げる事項について実施するものとする。

(1)　会計経理に関する法令等の適用に関すること。
(2)　予算，決算に関すること。
(3)　収入，支出に関すること。
(4)　債権，出納に関すること。
(5)　現金等の出納及び保管状況に関すること。
(6)　物品に関すること。
(7)　不動産及び職員宿舎に関すること。
(8)　契約に関すること。
(9)　旅費に関すること。
(10)　科学研究費補助金，寄附金，受託研究及び共同研究等に関すること。
(11)　帳簿及び証拠書類に関すること。
(12)　その他，校長が特に必要と認める事項。

（監査の実施）

第６条　監査は，少なくとも毎会計年度１回実施するものとし，必要に応じて臨時に監査を実施することができる。

第７条　事務部長は，監査の実施細目を定め，監査を実施させなければならない。

（監査の報告）

第８条　監査員は，監査終了後速やかに報告書を作成し，事務部長を経由して校長に提出しなければならない。

（是正改善の措置）

第９条　校長は，監査の結果，是正改善の必要があると認めたときは，直ちにその措置をとらなければならない。

附　則

1　この規程は，平成１６年４月１日から施行する。
2　この規程施行に伴い，奈良工業高等専門学校部内会計実地監査規程（昭和４２年４月１日制定）は廃止する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料 10－３－②－３　内部監査（定期監査分）の監査状況

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 16 年度実施学内定期監査報告書）

資料 10－３－②－４　内部監査（臨時監査分）の監査状況

〔非開示につき省略〕

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 16 年度実施学内臨時監査報告書）

資料 10－３－②－５　近畿地区国立高等専門学校における相互会計監査に関する申合せ

近畿地区国立高等専門学校における相互会計監査に関する申合せ

（目的）
第１条　この申合せは、国立高等専門学校機構の近畿地区に所在する舞鶴工業高等専門学校（以下「舞鶴高専」という。）、明石工業高等専門学校（以下「明石高専」という。）、奈良工業高等専門学校（以下「奈良高専」という。）及び和歌山工業高等専門学校（以下「和歌山高専」という。）の四高専間で相互に会計監査を実施することを目的とし、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３４号）第４５条の規定に基づく内部監査に準じて、実施に必要な事項を定める。

（監査実施責任者）
第２条　四高専の校長は、それぞれの事務部長に相互会計監査（以下「監査」という。）を実施させるものとする。

（監査員）
第３条　監査を受ける高専（以下「被監査高専」という。）の校長は、監査を受けるため、監査員を派遣する高専の事務部職員を監査員に委嘱するものとする。

（監査時期等）
第４条　監査時期等は、四高専で協議のうえ決定するものとする。

（監査事項）
第５条　監査は、次に掲げる事項について実施するものとする。
（1）会計経理に関する法令及び高等専門学校機構規則等の適用に関すること。
（2）予算決算に関すること。
（3）収入支出に関すること。
（4）債権に関すること。
（5）物品に関すること。
（6）不動産に関すること。
（7）契約に関すること。
（8）旅費に関すること。
（9）寄附金、科学研究費補助金等に関すること。
（10）帳簿及び証拠書類に関すること。
（11）その他校長が特に必要と認める事項。

（監査の実施等）
第６条　監査員は監査マニュアルにより監査を実施するものとする。

2　監査員は、公正かつ厳正に監査に当たらなければならない。
3　監査員は、必要に応じて関係者を立ち会わせることができる。
4　監査員は、必要に応じて調書等の提出を求めることができる。

（監査報告）
第７条　監査員は、監査が終了したときは、速やかに監査報告書（別紙様式）を被監査高専の事務部長に提出しなければならない。
2　事務部長は、監査報告書をとりまとめ校長に報告するものとする。

（是正改善の措置）
第８条　被監査高専の校長は、監査の結果、会計経理に関し是正改善の措置をとる必要があると認めるときは、直ちに関係者に対し是正改善を命ずるものとする。

この申合せを確認するため、舞鶴高専、明石高専、奈良高専及び和歌山高専は、次に記名し、押印するものとする。
この申合せ書は、４通作成し、四者で各１通を所持するものとする。

平成１７年１２月７日

舞鶴工業高等専門学校　事務部長　永　井　康　夫

明石工業高等専門学校　事務部長　倉　橋　睦　雄

奈良工業高等専門学校　事務部長　東　　正　憲

和歌山工業高等専門学校　事務部長　奥　田　道　夫

（出典　平成 17 年度実施近畿地区四高専相互会計監査申合せ）

資料 10－３－②－６　近畿地区四高専相互監査の監査状況

〔非開示につき省略〕

（出典　平成 17 年度実施近畿地区四高専相互会計監査報告書）

資料 10－３－②－７　独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱

独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱

平成１６年４月１日制定

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の監事は，機構の理事長と協議してこの要綱を定める。

（趣旨）

第１条　この要綱は，独立行政法人通則法（平成１１年法律第１０３号。以下「通則法」という。）第１９条第４項及び第５項並びに第３８条第２項の規定に基づき，監事が行う監査及び意見の提出に関し必要な事項を定めるものとする。

（監査の目的）

第２条　監査は，機構の業務の適正且つ効率的な運営を図るとともに会計経理の適正を期することを目的とする。

（監査の対象及び種類）

第３条　監査は，業務及び会計について行う。

２　監査は，定期監査及び臨時監査とする。

（監査の方法）

第４条　監査は，書面，実地その他監事が必要と認める方法により行うものとする。

２　監事は，監査の実施に当たり，機構における業務の円滑な実施に配慮するものとする。

（監査計画）

第５条　監事は，監査の実施に当たり，監査項目，監査対象箇所等を定めた監査計画を作成するものとする。

２　監事は，監査計画を作成したときは，速やかに理事長に通知するものとする。

（監査の事務補助）

第６条　監事は，総務課及び財務課の職員に監査に関する事務を補助させることができる。

２　監事は，必要と認める場合，理事長の承認を得て，前項の職員以外の職員に臨時に監査の事務を補助させることができる。

３　監査の事務を補助する職員は，監査の実施に当たり知り得た事項を漏らしてはならない。

（役職員への質問等）

第７条　監事は，監査の必要に応じて，役員及び職員に質問し，又は説明若しくは資料の提出を求めることができる。

２　役員及び職員は，監事（監査の事務を補助する職員を含む。）が行う監査に協力しなければならない。

（重要な会議等への出席及び意見陳述）
第８条　監事は，機構の管理運営に係る重要な会議等に出席し，意見を述べることができる。

（監事に回付する文書）
第９条　次の各号に掲げる文書は，あらかじめ監事に回付しなければならない。
一　主務大臣に提出する認可又は承認の申請書その他重要な文書
二　前号以外の行政機関等に提出する重要な文書
三　規程の制定又は改廃に関する文書
四　契約に関する重要な文書
五　訴訟に関する重要な文書
六　その他業務に関する重要な文書
２　次の各号に掲げる文書は，監事に回付しなければならない。
一　主務大臣から発せられた認可又は承認の文書その他重要な文書
二　前号以外の行政機関等から発せられた重要な文書
三　その他業務に関する重要な報告又は供閲等の文書

（監査結果報告書の作成等）
第１０条　監事は，監査結果に基づき，監査結果報告書を作成し，監査終了後，理事長に提出するものとする。
２　監事は，必要があると認める場合，監査結果報告書に意見を付すことができる。
３　理事長は，監査結果報告書に基づき改善すべき事項がある場合には，速やかに改善措置を講じ，その結果を監事に回答するものとする。

（主務大臣への意見の提出）
第１１条　監事は通則法第１９条第５項の定めるところにより主務大臣に意見を提出するときは，あらかじめ理事長にその旨を通知するものとする。

（事故又は異例の事態の監事への報告）
第１２条　業務上の事故又は異例の事態が発生したときは，役員又は職員は，速やかにその旨を口頭又は文書で監事に報告しなければならない。

（実施細目）
第１３条　この要綱の実施について必要な事項は，監事が別に定めるものとする。

附　則
この要綱は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構監事監査要綱）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 予算配分において，教育費・研究費ともに均等配分方針を見直して，実績・業績に応じた配分となるようにした。
- 校長のリーダーシップが発揮できるよう，校長裁量による戦略的経費を設定し重点配分することにより，予算の効率的使用並びに教育研究の活性化を図っている。
- 共同研究，受託研究，科学研究費補助金等の外部（競争的）資金の獲得については，積極的に取り組んでいる。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準10の自己評価の概要

本校では，教育活動等を将来にわたって安定的に遂行するに必要な資産を有していることから，教育活動等の遂行に支障はなく，適正な財務状況である。

入学者確保の観点から，中学校訪問範囲の拡大，学校・入試説明会及び体験入学の充実，地元大和郡山市との学市連携事業の実施等の広報活動の展開により，平成 18 年度入学志願者数は，定員の 1.8 倍，入学者数も定員以上を確保していることから，授業料・検定料・入学料の各収入とも安定しており，経常的収入については継続的に確保されている状況である。

共同研究，受託研究，科学研究費補助金等の外部(競争的)資金の獲得については，積極的に取組んでいることから，増加傾向にあり適切である。

支出に見合う収入として，授業料・検定料・入学料・雑収入・外部資金のほか，機構本部から運営費交付金が措置されており，また，収支状況については，財務会計システムで一元管理されており，支出超過にはなっておらず，安定した財務基盤が確保されている。

中期計画の期間中は，毎事業年度毎に１％の業務の効率化が求められていることから，今後はより一層の業務効率化・経費節減に努める必要がある。

予算の配分については，中期計画・年度計画等を踏まえた予算配分方針・同要領・同配分案を策定のうえ，運営会議において審議し，校長により決定され適切に配分・執行している。また，校長裁量による戦略的経費や一般管理費については，企画会議で特別事業計画書を徴取し，ヒアリングを実施のうえ，適切に配分・執行している。

財務にかかる会計監査等については，機構の会計監査人監査及び近畿地区高専相互会計監査を受検し，会計指導を受けている。また，学内での内部監査も実施しており，適正に監査が行われている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の職務は，学校教育法第70条の７第3項及び独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第2項に「校務を掌り，所属職員を監督する」と明確に定められ，学校の責任者として，学校の目的を達成するための運営と管理を総括している。

校長を補佐する態勢は，教務主事を副校長に充て，学校運営全般の校長補佐を担当している。

学則に基づき教務主事，学生主事，寮務主事を配置し，役割を明確に定めている（資料11－１－①－１）。さらに，３主事の下に主事補を各３名置き，当該主事の職務を補佐している（独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条第３項）。本校の運営組織については，（資料11－１－①－２）に示すとおりである。

管理運営を担う各種委員会については，法人化を機会に合理化を検討し，平成１６年度から可能な審議決定事項は，運営会議に集約し少人数で行うワーキングや小委員会の設置を含めた改善を実施した。現在３２種類の委員会等の配置となっている（資料11－１－①－３）。校長のトップマネージメントを支える委員会は，校長，３主事，専攻科主任，事務部の部課長で構成されている企画会議と，同構成員に各学科主任，情報メディア教育センター長を加えた運営会議である。

企画会議では学校運営の基本方針の検討，決定，運営会議等校内機関への提案を行い，運営会議は学校運営の重要事項を審議・決定する機関と位置づけている。運営会議で審議・決定された事項の教職員への周知については，各学科内会議及び各課長から連絡し，議事録，運営会議資料は学内ＬＡＮを通じて教職員に周知するとともに（資料１１－1－①－４）重要事項は，全教員で構成する教職員会議で周知徹底を図っている（資料１１－１－①－５）。運営会議の下には，将来計画委員会，点検・評価委員会，情報公開委員会，人権教育推進委員会，広報委員会，産学交流促進委員会，防災対策委員会，ＦＤ委員会，留学生委員会，施設整備委員会，進路対策協議会，環境委員会等の各種委員会を配置している（資料11－１－①－３参照）。また，学校運営の基幹事項は，教務主事，学生主事，寮務主事を委員長とする教務委員会，学生委員会，寮務委員会，専攻科の運営に関する事項は，専攻科主任を委員長とする専攻科委員会をそれぞれ組織し専門的に対応している。

平成１６年度の法人化以降も，ＪＡＢＢＥ受審に伴う委員会の整備や，学校運営の基本となる企画会議，運営会議，教職員会議についても適宜責任と権限の明確化を図る等，名称，機能の変更，規程の整備を図っている（資料１１－１－①－６）。

（分析結果とその根拠理由）

教務主事，学生主事，寮務主事の３主事により，学校運営全般について校長のリーダーシップを補佐するとともに，各主事の補佐役として主事補３名をそれぞれ置く等，教職員を適正に配置し効果的な意思決定が行える態勢となっている。

学校運営に係る重要な委員会は，校長を議長とする企画会議，運営会議，教職員会議であり，企画会議では学校運営の基本方針の検討等，運営会議を本校の管理運営に関する重要事項を審議・決定する委員会として定義している。また，学校運営の基幹事項は，教務委員会，学生委員会，寮務委員会を置き，教務主事，学生主事，寮務主事がそれぞれ委員長として運営を行っており，委員会

ごとの役割が明確である。

改善提案等は，該当する各種委員会で審議・検討し，内容に応じて運営会議に諮り決定している。また，運営会議の議事録，配布資料は，学内LAN等や教職員会議で周知徹底が図られている。

以上のことから，本校では学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，効果的な意思決定が行える態勢となっている。

資料11－１－①－１　学則（抜粋）

第９条　本校に教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２ 教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３ 学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
４ 寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料１１－１－①－２　運営組織

□組織図　Organization Chart

（出典　平成１７年度学校概要）

資料11－１－①－３

平成１８年度役付職員，学級担任及び諸会議・各種委員会構成員一覧

１.役付職員

[教務主事]	京　兼	[教務主事補]	金　澤	藤　田	山　口（智）
[学生主事]	矢　尾	[学生主事補]	勢　田	土　井	山　口（賢）
[寮務主事]	桐　川	[寮務主事補]	北　村	平	大　植
[専攻科主任]	福　田	[専攻科副主任]	和　田		
[情報ﾒﾃﾞｨｱ教育ｾﾝﾀｰ長]	木　村	[図書担当副ｾﾝﾀｰ長]	武　田	[ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ担当副ｾﾝﾀｰ長	
[ネットワーク管理室長]	成　田	[ネットワーク管理副室長]		榊　原	大　谷
[産学交流室長]	早　川	[産学交流室副室長]		小　畠	石　飛

	[一般]	[M]	[E]	[S]	[I]	[C]
主　任	荒　金	野々垣	藤　井	押　田	多　喜	梅　原
副主任	武　田	岩　井	中　村	島　岡	浅　井	片　倉

２.学級担任（〇は学年毎の学級担任まとめ役）

	[M]	[E]	[S]	[I]	[C]
（第１学年）	〇鍵　本	大　谷	飯　田	小　山	神　澤
（第２学年）	廣	北　川	長　瀬	守　屋	〇三　木
（第３学年）	小　柴	市　原	中　西	片　山	中　谷
（第４学年）	〇宮　本	成　田	西　田	近　藤	森
（第５学年）	岩　井	井　村	中　田	世　古	嶋　田

３.諸会議・各種委員会構成員　（〇は委員会委員長，［　］は主事補と兼任）

３主事 ＝教務主事・学生主事・寮務主事　６主任 ＝一般・機械・電気・電子制御・情報・物質化学工学科主任
３課長 ＝庶務課長・会計課長・学生課長

会議・委員会名	構　成　員
企　画　会　議	校長，３主事，専攻科主任，事務部長，３課長
運　営　会　議	校長，３主事，専攻科主任，６主任，情報メディア教育センター長，事務部長（３課長，庶務係長，総務係長，教務係長）
人　事　委　員　会	〇教務主事，木村，岩井，藤井，阪部，近藤，泉，（事務部長，庶務課長，人事係長）

F　D　委　員　会	運営会議委員，委員長補佐(京兼，荒金)，（庶務課専門員）
広　報　委　員　会	運営会議委員，委員長補佐(京兼)，委員長補佐〈公開講座担当〉(野々垣)，３課長，（庶務課専門員）
広報小委員会	委員長(京兼)，教務主事補(山口(智))，学生主事補(山口(賢))，情報メディア教育副センター長（松尾），専攻科副主任（和田），(庶務課専門員)
情 報 公 開 委 員 会	運営会議委員，３課長，（庶務係長）
施 設 整 備 委 員 会	運営会議委員，委員長補佐(藤井)，会計課長，（総務係長，施設係長）
施設整備小委員会	委員長(藤井)，阪部，河越，（施設係長）
認証評価対応委員会	委員長（京兼），専攻科副主任（和田），教務主事補（金澤），学生主事補（勢田），寮務主事補（大植），情報メディア教育副センター長（武田），長瀬，坂本，藤井，押田，本間，河越，３課長
教　務　委　員　会	○教務主事，教務主事補，松井，堀内，酒井，石飛，西田，［山口(智)］，宇田，学生課長，（教務係長）
学　生　委　員　会	○学生主事，学生主事補，［勢田］，藤居，谷口，［土井］，櫟，［山口(賢)］，西野，学生課長,(学生係長
寮　務　委　員　会	○寮務主事，寮務主事補，［北村］，名倉，［平］，竹村，飯田，浅井，［大植］，学生課長，（寮務係長）
専　攻　科　委　員　会	○専攻科主任，専攻科副主任，大矢，和田，桐島，矢野，松村，伊月，学生課長，（学生課専門員）
産学交流促進委員会	校長，３主事，専攻科主任，６主任，産学交流室室長，事務部長，(庶務課長，会計課長，庶務係長）
産学交流室	産学交流室長，副室長，庶務課長，総合技術室長，（庶務係長）
防　災　委　員　会	運営会議委員，３課長，（用度係長，施設係長）
会議・委員会名	**構　成　員**
教　職　員　会　議	校長，教授，助教授，講師（専任），助手，事務部長，３課長，総合技術室長，（専門員，関係係長）
人権教育推進委員会	運営会議委員，委員長補佐（学生主事），幹事長，学生相談室長，セクハラ相談室長，（学生課長，学生係長）
人権教育推進委員会幹事会	北村，土井，金澤，武田
学　生　相　談　室	○福嶌，小畠，井村，島岡，多喜，泉（○は学生相談室長）
ｾｸｼｭｱﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室	○木村，【教職員部会】庶務課長，会計課長，学生課長，人事係長，安田，鍵本，塚原，【学生部会】学生相談室長（福嶌），市原，土井，宇田，伊月（○はｾｸｼｭｱﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長）
留　学　生　委　員　会	運営会議委員，委員長補佐(教務主事)，（学生課長，学生課専門員）
留学生指導部	教務主事，教務主事補（金澤），学生主事補（山口(賢)），寮務主事補（平），学級担任（中西，中谷，宮本，西田，近藤，森，井村，中田），指導教員（岩井，井村，中田，西田，阪部，早川，多喜，梅原，河越），国語代表（勢田），数学代表（市原），英語代表（神澤），（学生課長，学生課専門員）
システム創成工学教育プログラム統括会議	○校長，教務主事，専攻科主任，教育改善委員長（野々垣），教学委員長（河越），達成評価委員長（藤田），事務部長，（庶務課長，学生課長，庶務課専門員，学生課専門員）
ｼｽﾃﾑ創成工学教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ教学委員会	委員長（河越），松井，廣，桐島，矢野，嶋田，小山，（学生課長，学生課専門員）
ｼｽﾃﾑ創成工学教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ達成評価委員会	委員長（藤田），安田，名倉，岩井，石飛，櫟，松村，中谷，庶務課長，学生課長，(庶務課専門員，学生課専門員）
ｼｽﾃﾑ創成工学教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ教育改善委員会	委員長（野々垣），飯田，松尾，梅原，（庶務課長，学生課長，庶務課専門員，学生課専門員）
情報ﾒﾃﾞｨｱ教育センター運営委員会	○委員長，図書館担当副センター長，マルチメディア担当副センター長，［武田］，安田，坂本，中村，阪部，［松尾］，石丸，庶務課長，学生課長，（図書係長，総合情報センター員）
ネットワーク管理室	ネットワーク管理室室長，副室長，［榊原］，名倉，平，野々垣，［大谷］，竹村，島岡，道下，松尾，西野，片倉，中谷，（総合情報センター，事務電算室）
安全衛生委員会	○教務主事，事務部長，総合技術室長，衛生管理者，安全管理者，産業医，平，藤井，石丸，松井，葛西
環　境　委　員　会	校長，３主事，専攻科主任，６主任，情報メディア教育センター長，事務部長（３課長，庶務課専門員，庶務係長，総務係長，教務係長）
環境小委員会	○委員長（梅原），教務委員会（宇田），学生委員会（谷口），寮務委員会（竹村），各課係長（穴田）（山本(融)）　(阪井)
日本学生支援機構奈良高専委員部	○学生主事，学生委員会委員，（学生課長，学生係長）
学　寮　委　員　会	○寮務主事，寮務委員会委員，（寮生７名），（学生課長，寮務係長）
進　路　対　策　協　議　会	○教務主事，学生主事，専攻科主任，６主任，学生課長，（教務係長，学生係長）
公　開　講　座　担　当	野々垣，安田，酒井，土井，櫟，小山，大植
ＨＰ作成実行委員会	広報小委員会委員長，広報小委員会委員（副委員長）（松尾），教務主事補（山口(智)），学生主事補（山口(賢)），情報メディア教育センター副センター長（松尾），専攻科副主任（和田），庶務課専門員，庶務係員（川邉），教務係員（澤田），学生係員（中谷）
	榊原，平，大谷，道下，松村，中谷
職員ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ小委員会	安田，世古，清水(美)，垣本，山本(善)，庶務課長，会計課長，（庶務係長）

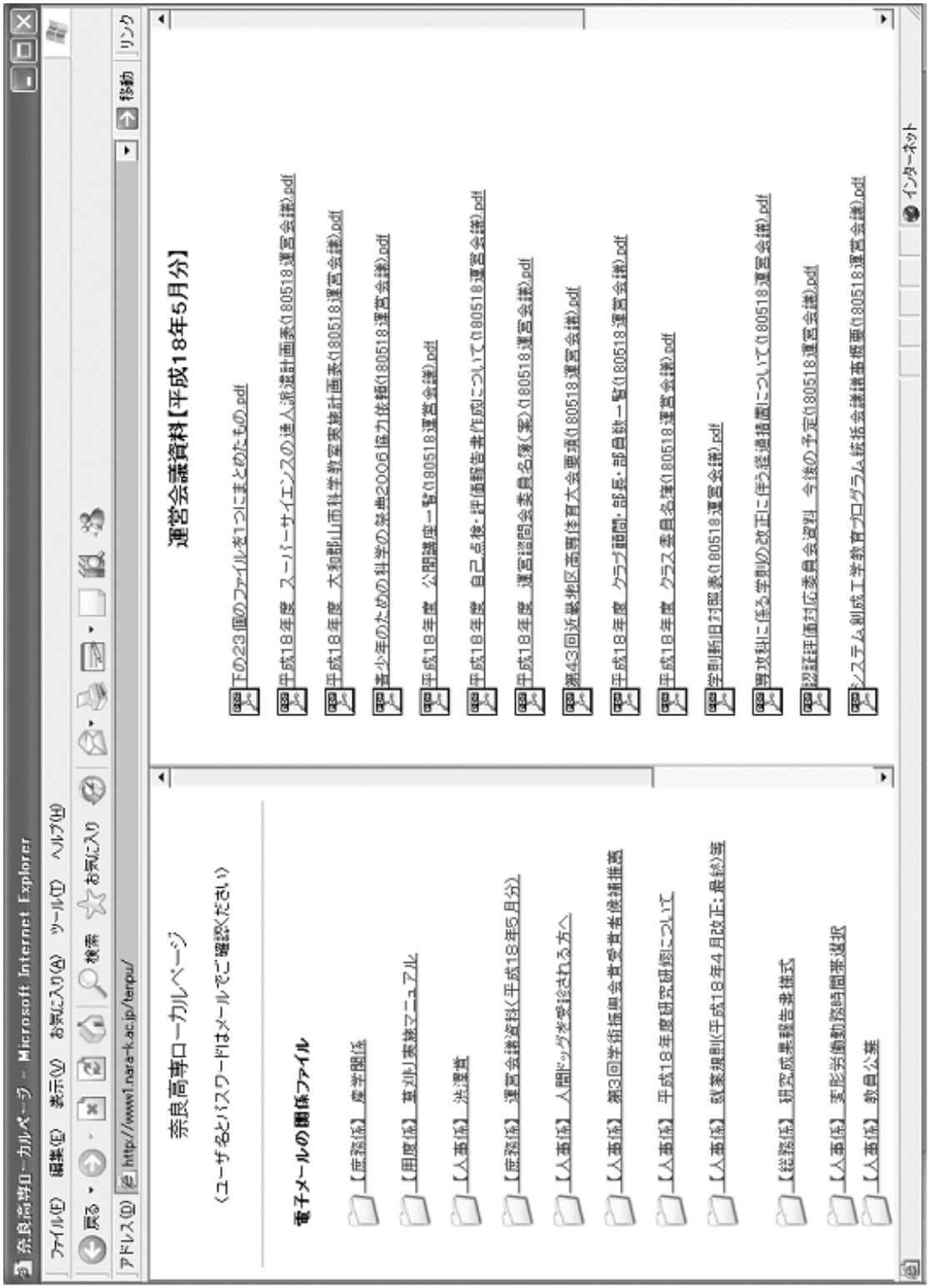
（出典　平成１８年５月教職員会議資料）

資料１１－１－①－４　運営会議議事要録メール送信記録（抄）

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務係長メール送信記録）

資料１１－１－①－４　平成１８年５月運営会議資料



（出典　奈良高専ホームページローカルページ）

資料１１－１－①－５　奈良工業高等専門学校教職員会議規程

奈良工業高等専門学校教職員会議規程

（平成１７年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教職員会議（以下「会議」という。）を置く。
（目的）
第２条 会議は本校の運営に関し，校長が必要と認める事項について連絡調整を図ることを目的とする。
（審議事項）
第３条 会議は，学籍に関する事項及び校長が必要と認める事項について審議する。
（組織）
第４条 会議は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）　校長
（２）　常勤の教員
（３）　事務部長
（４）　庶務課長，会計課長及び学生課長
（５）　総合技術室長
（会議の開催）
第５条 会議は，原則として毎月１回校長が召集し，その議長となる。なお，必要ある時は臨時に開催することができる。
（定足数）
第６条 会議は，出張者を除いた３分の２以上の出席をもって成立し，出席者の過半数をもって議決する。
（組織以外の出席）
第７条 会議の議事に関係のある係長以上（相当職を含む）の者は，会議に出席するものとする。
２　校長が必要と認めたときは，非常勤講師を出席させることができる。
（事務）
第８条 会議に関する事務は，庶務課で行う。

附　則
１　この規程は，平成１７年４月１日から施行する。
２　奈良工業高等専門学校会議等運営内規（昭和４２年１２月２１日制定）は廃止する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料１１－１－①－６　自己点検・評価報告書表紙 2004 年 10 月

（出典　自己点検・評価報告書 2004 年 10 月）

資料１１－１—①—６　自己点検・評価報告書表紙・目次 2005 年 10 月

（出典　自己点検・評価報告書 2005 年 10 月）

資料１１－１—①—６　自己点検・評価報告書表紙・目次 2005 年 10 月

目　　次

まえがき
本文編
第Ⅰ部　教育に関する評価 …… 1
第１章　教育手段，教育環境及び進路指導 …… 1
１．１　入学者選抜方針と方法 …… 1
１．２　カリキュラム編成 …… 3
１．３　教育方法 …… 4
１．４　教育組織 …… 5
１．５　学生への支援 …… 7
１．６　教室等 …… 8
１．７　共同利用施設・設備 …… 8
１．７．１　図書館 …… 8
１．７．２　総合情報センター …… 9
１．８　進路指導体制 …… 9
１．９　卒業生の進路状況 …… 9
１．１０　一般教科及び専門学科における教育手段，教育環境及び進路指導… 10
１．１０．１　一般教科 …… 10
１．１０．２　機械工学科 …… 10
１．１０．３　電気工学科 …… 12
１．１０．４　電子制御工学科 …… 13
１．１０．５　情報工学科 …… 14
１．１０．６　物質化学工学科 …… 16
第２章　学生生活 …… 17
第３章　学寮 …… 19
第４章　専攻科教育 …… 19
４．１　教育目標と教育課程 …… 19
４．２　１６年度専攻科入学者と修了者の現状…… 19
４．３　大阪大学との教育交流 …… 21
４．４　専攻科学生の学外実習（インターンシップ）…… 21
４．５　専攻科研特別研究と特別研究発表会…… 21
４．６　専攻科研究特別賞授与 …… 22
４．７　ＪＡＢＥＥ受審対応 …… 22
第Ⅱ部　研究に関する評価 …… 25

（出典　自己点検・評価報告書 2005 年 10 月）

資料１１－１—①—６　自己点検・評価報告書表紙・目次 2005 年 10 月

第１章　研究成果の発表状況 …… 25
１．１　学位取得について …… 25
１．２　学協会活動について …… 25
１．２．１　所属学協会 …… 25
１．２．２　役員活動 …… 25
１．３　研究活動について …… 25
第２章　研究資金の受入れ状況 …… 29
２．１　受託研究・共同研究 …… 29
２．２　奨学寄附金 …… 29
第３章　研究紀要について …… 30
第４章　受賞状況 …… 30
４．１　受賞関係 …… 30
４．２　特許等申請・取得状況 …… 30
第５章　研究活動 …… 30
５．１　学会活動ならびに研究成果の発表状況（平成１２年４月～平成１７年３月）… 31
第Ⅲ部　社会との連携，国際交流 …… 103
第１章　地域への開放 …… 103
１．１　地域との連携 …… 103
１．２　公開講座の開設状況 …… 106
１．３　図書館の開放 …… 106
１．４　その他の施設開放状況 …… 106
第２章　産学連携 …… 107
２．１　平成１６年度産学交流促進委員会の活動 …… 107
２．２　対外交流の計画と実施 …… 108
２．２．１　フォーラムおよびセミナーの開催 …… 108
２．２．２　企業間連携コーディネート事業 …… 111
２．２．３　高専間連携活動 …… 111
２．２．４　奈良県との連携活動 …… 113
２．２．５　奈良県下の各機関との連携活動 …… 115
２．２．６　八尾市との産学連携活動 …… 118
２．２．７　近畿経済産業局との連携 …… 119
２．２．８　会合・講演会・イベント …… 120
２．２．９　国際交流 …… 121
２．２．10　展示会への出展 …… 124
２．３　外部資金の受入と技術相談 …… 125

（出典　自己点検・評価報告書 2005 年 10 月）

資料１１－１—①—６　自己点検・評価報告書表紙・目次 2005 年 10 月

第３章　国際交流 …… 125
３．１　留学生の受入れ等 …… 125
第４章　社会への情報発信（広報活動） …… 127
第Ⅳ部　管理運営等 …… 129
第１章　運営組織 …… 129
１．１　運営組織 …… 129
１．２　諸会議・各種委員会等の役割と運営状況 …… 129
第２章　教員組織 …… 133
２．１　専任教官の配置（現員数）状況 …… 133
２．２　出身大学等の構成 …… 133
２．３　年齢構成 …… 134
２．４　採用・昇任等の手順・基準 …… 135
２．５　教官人事について …… 135
２．６　教官の兼業状況について …… 135
２．７　非常勤講師の配置状況 …… 136
第３章　事務組織 …… 137
３．１　事務部職員の配置状況 …… 137

資料編

第Ⅰ部　教育に関する評価関係

資料１　入試説明会等状況 …… 139
資料２　入学試験状況 …… 141
資料３　編入学試験状況 …… 142
資料４　教育課程（１～８） …… 143
資料５　年間行事予定表 …… 151
資料６　学科授業時間割表 …… 153
資料７　年度別博士号取得者一覧 …… 155
資料８　進路状況 …… 155
資料９　単車通学許可申請者 …… 156
資料10　学生委員会処分人数 …… 157
資料11　学生会組織図 …… 158
資料12　平成１７年度クラブ顧問，班長，部員数一覧 …… 159
資料13　平成１６年度大会等成績一覧 …… 160
資料14　日本学生支援機構第一種奨学金貸与月額 …… 162
資料15　日本学生支援機構奨学生推薦者数 …… 162
資料16　入学料免除者数 …… 163

（出典　自己点検・評価報告書 2005 年 10 月）

資料１１－１―①―６　自己点検・評価報告書表紙・目次 2005 年 10 月

資料17　授業料免除者数 …… 163
資料18　保健室利用学生数 …… 164
資料19　学生相談室相談件数 …… [illegible]
資料20　学生事故等連絡ルート …… 166
資料21　平成１６年度学生事故発生件数 …… 167
資料22　寮生数推移調べ …… 168
資料23　学寮の日課表 …… 169
資料24　寮生会の組織 …… 170
資料25　学寮の年間行事 …… [illegible]
資料26　専攻科入学者選抜方法 …… 172
資料27　年度別専攻科入学状況 …… 173
資料28　専攻科学力検査科目と学力検査の日時等（平成１７年度） …… 174
資料29　専攻科特別研究論文テーマ一覧 …… 175
資料30　専攻科授業科目学年配当表（平成１７年度） …… 180
資料31　平成１６年度授業時間割表 …… 183
資料32　専攻科特別講演会 …… 185
資料33　専攻科修了者の進路 …… 186
第Ⅱ部　研究に関する評価関係
[illegible]
資料45　科研費等受入額調べ …… 193
資料36　科学研究費採択状況一覧 …… 194
資料37　受託研究一覧 …… 197
資料38　共同研究一覧 …… 198
資料39　[illegible] …… [illegible]
資料40　学会賞の受賞状況 …… 208
資料41　特許等申請・取得状況 …… 209
第Ⅲ部　社会との連携　国際交流関係
資料42　公開講座実施実績一覧 …… 211
資料43　施設開放状況一覧 …… [illegible]
資料44　奈良県工業技術センター技術アドバイザー就任状況 …… [illegible]
資料45　奈良化学系産官学技術懇話会関係資料 …… 216
資料46　留学生年度別受入一覧表 …… 219
[illegible]
あとがき

（出典　自己点検・評価報告書 2005 年 10 月）

観点11－１－②：　管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。

（観点に係る状況）

本校の管理運営に関する委員会の役割と運営状況は，専攻科，各学科及び一般教科選出教員からの委員と関係する事務部課長等で構成されている。企画会議では学校運営の基本方針の検討を担っている（資料11－１－②－１）。運営会議では，各委員会等から提案された事項を審議し，全学の管理運営に関する重要事項を決定する委員会としている（資料11－１－②－２）。

また，校務に係る委員会として，教務委員会，学生委員会，学寮委員会が置かれ，それぞれ校長の命により教務委員会は，教務に関する重要事項等について，学生委員会は，学生の補導厚生に関する重要事項等について，学寮委員会は，学寮の管理運営並びに寮生の厚生補導に関する事項について審議事項としている。

（資料11－１－①－３）に示すように各種委員会に応じて事務部の担当課長等が委員として参画しており，教職員が協働で当該委員会の運営に当たり，教員・事務双方からの実務的な機動性を発揮することができる委員構成としている。

事務組織については，事務部に庶務課，会計課及び学生課を置き，事務組織規程により各課における係等ごとの担当業務を定めている（資料１１－１－②－３）。

各種委員会と事務組織は，例えば庶務課，会計課が校長の方針に基づき規程や予算等の原案を作成し，企画会議に諮り，了承を得た後に運営会議に諮っている。必要に応じて企画会議の前に事務部長，３課長で構成する部課長連絡会や内容に応じて事務担当係長を交えてK審議事項等の実務的な調整を行い情報の共有に努めている。

（分析結果とその根拠理由）

学校運営のための議決機関の役割を担う運営会議では，企画会議，各種委員会等から提案された本校の管理，運営に関する重要事項を審議し，意思決定している。

また，教務委員会，学生委員会，寮務委員会は，校長の命により，それぞれ教務，厚生補導，学寮の管理運営並びに厚生補導等に関する重要事項を審議する校務に直結した委員会であり，担当の各主事が委員長となり，管理運営に係る校長のトップマネジメントを支える重要な役割を果たしている。

事務組織は，庶務，会計，学生の３課それぞれが管理運営に係る所掌事務を分掌している。企画会議・教職員会議の委員として事務部長，３課長が，運営会議の委員として事務部長が参画しており，管理運営に係る重要事項の審議に直接関わっている。また，各種委員会にも課長が委員として加わることで実質的な審議を実務的に支えている。これにより現場と事務担当者が密接に関わり，効果的な運営のための実質的な役割と責任を担っている。

以上のことから，本校では管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動している。

資料１１－１－②－１　企画会議規程（抜粋）

（審議事項）
第２条　会議は，次の各号に掲げる事項を企画・立案する。
（１）　本校の運営に関する基本方策に関すること。
（２）　本校の教育，研究の基本方策に関すること。
（３）　予算等財務に関する基本方策に関すること。
（４）　施設，設備の整備等に関する基本方策に関すること。
（５）　その他本校の管理，運営に関する重要事項。
（組織）
第３条　会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事
（３）　学生主事
（４）　寮務主事
（５）　専攻科主任
（６）　事務部長
（７）　庶務課長，会計課長及び学生課長
（議長）
第４条　会議に議長を置き，校長をもって充てる。
２　議長は，会議を招集し，その議長となる。　　**（出典　奈良工業高等専門学校規程集）**

資料１１－１－②－２　運営会議規程（抜粋）

（審議事項）
第２条　会議は，企画会議，委員会等から提案された事項を審議する。
（組織）
第３条　会議は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事
（３）　学生主事
（４）　寮務主事
（５）　専攻科主任
（６）　一般教科及び専門各学科主任
（７）　情報メディア教育センター長
（８）　事務部長
（会議の招集等）
第４条　会議は，校長が招集し，その議長となる。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料１１－１－②－３　事務組織規程（抜粋）

第２章　事務組織

第２条　奈良工業高等専門学校の事務部に庶務課，会計課及び学生課を置き，その事務を分掌させるためそれぞれ次の係・室を置く。

庶務課　庶務係
　　人事係
　　図書係
会計課　総務係
　　用度係
　　出納係
　　施設係
学生課　教務係
　　学生係
　　寮務係
　　総合技術室

第３条　事務部に部長を，課に課長を，係に係長を置く。

2　事務の運営に必要があるときは，課に課長補佐又は専門員・専門職員を，係に主任を置くことができる。

3　前項に定めるもののほか，学生課の総合技術室に技術専門官及び技術専門職員を置くことができる。

4　技術専門官及び技術専門職員は，技術職員をもって充てる。

5　技術職員に関し必要な事項は，別に定める。

第４条　事務部長は，事務部の事務を総括し，課長は，課の事務を処理する。

2　課長補佐は，課長を補佐する。

3　専門員及び専門職員は上司の命を受け，課の事務に関する専門的事項を処理する。

4　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

5　主任は，係長を補佐する。

6　係員は，係の事務に従事する。ただし，上司の命があるときは，その指示された事務に従事しなければならない。

第３章　事務分掌

第５条　庶務課の専門員・専門職員及び各係は，次の事務をつかさどる。

専門員

(1)　将来計画，自己評価に係る企画・連絡調整に関すること。
(2)　組織，機構のあり方に係る企画・立案に関すること。
(3)　地域協力に係る企画・調査に関すること。
(4)　情報公開に係る専門的事項に関すること。
(5)　調査統計及び諸報告に関すること。
(6)　広報に関すること。
(7)　沿革史その他諸記録の編さん及び保存に関すること。

(8)　その他企画調査に係る事務に関すること。

専門職員(情報処理担当)

(1)　各課事務の電算化に係る専門的事項に関すること。

(2)　要員養成のための研修の企画・立案に係る専門的事項に関すること。

(3)　事務用電子計算機室の運用及び管理に係る専門的事項に関すること。

(4)　事務用電子計算機の更新等に係る専門的事項に関すること。

(5)　事務用電子計算機の運用及び管理に関すること。

(6)　その他情報処理に係る事務のうち，重要な企画，連絡調整に係る専門的事項に関すること。

庶務係

(1)　学校の事務の総括及び連絡調整に関すること。

(2)　機密に関すること。

(3)　渉外並びに秘書事務に関すること。

(4)　儀式，会議その他諸行事に関すること。

(5)　公印の管守(会計機関及び学生課で使用する公印を除く。)に関すること。

(6)　学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。

(7)　公文書類の発送，接受及び整理保存に関すること。

(8)　情報公開に関すること。

(9)　知的財産権（発明及び特許権等）に関すること。

(10)　内地研究員及び在外研究員に関すること。

(11)　職員の福利厚生に関すること。

(12)　学校要覧等刊行物に関すること。

(13)　電話交換に関すること。

(14)　校内の警備に関すること。

(15)　学外団体等との連絡に関すること。

(16)　産学官連携及び研究協力に関すること。

(17)　奨学寄付金の受入に関すること。

(18)　公開講座に関すること。

(19)　法人登記に関すること。

(20)　専攻科審査に関すること。

(21)　公用車に関すること。

(22)　その他他係に属しない事項に関すること。

人事係

(1)　教職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。

(2)　教職員の定員及び級別定数の管理に関すること。

(3)　教職員の給与及び諸手当に関すること。

(4)　教職員の人事記録の作成及び保管に関すること。

(5)　教職員の勤務評定に関すること。

(6)　教職員の研修に関すること。

(7)　教職員の安全衛生及び災害補償に関すること。
(8)　共済組合(長期給付に限る。)及び退職手当に関すること。
(9)　教職員の栄典，表彰及び賞罰に関すること。
(10)　機構に関すること。
(11)　教職員の労働時間及び休暇に関すること。
(12)　教職員の旅行命令等に関すること。
(13)　教職員団体に関すること。
(14)　教職員に関する諸証明に関すること。
(15)　その他人事に関すること。

図書係

(1)　図書等資料の整備及び管理に関すること。
(2)　図書等資料の閲覧及び貸出等に関すること。
(3)　研究紀要の編集及び交換に関すること。
(4)　その他図書に関すること。

第6条　会計課の各係は，次の事務をつかさどる。

総務係

(1)　会計事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2)　予算の編成，配分及び管理に関すること。
(3)　収入及び支出に関する書類の監査に関すること。
(4)　会計の諸規則に関すること。
(5)　会計機関の使用する公印の監守に関すること。
(6)　自己収入，運営費交付金，外部資金及び預り金の確認に関すること。
(7)　職員宿舎の入居及び退去に関すること。
(8)　科学研究費の申請に関すること。
(9)　旅費の計算及び支出関連業務に関すること。
(10)　共済組合(長期給付を除く。)に関すること。
(11)　財務会計システムの総括に関すること。
(12)　その他会計課の他係に属しない事項に関すること。

用度係

(1)　物品の管理及び計画に関すること。
(2)　物品の調達及び役務に関すること。
(3)　物件費及び諸謝金等の支出関連書類の作成に関すること。
(4)　物品の出納及び保管に関すること。
(5)　毒物及び劇物等の安全管理に関すること。
(6)　寄附物品の受入れに関すること。
(7)　政府調達に関すること。
(8)　不用物品の処分及び売払に関すること。
(9)　清掃業務等労務作業に関すること。

出納係

(1)　債権の管理に関すること。
(2)　収入，支出の決算及び計算証明に関すること。
(3)　現金，預金，貯金及びその他有価証券に関すること。
(4)　寄付金，受託研究費，共同研究費及び科学研究費等の経理に関すること。
(5)　自己収入，運営費交付金，外部資金及び預り金の残高等確認に関すること。
(6)　諸給与の支出に関する書類の作成に関すること。
(7)　給与等の支払及び所得税等の徴収に関すること。
(8)　共済組合資金の出納に関すること。

施設係

(1)　施設整備の長期計画に関すること。
(2)　施設実態調査に関すること。
(3)　施設・設備の点検及び評価に関すること。
(4)　施設マネジメントに関すること。
(5)　施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る契約に関すること。
(6)　施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る支出関連書類の作成に関すること。
(7)　施設整備及び営繕工事並びに不動産に係る契約の監督に関すること。
(8)　電気，ガス，水道，電話及び冷暖房施設等の維持管理に関すること。
(9)　不動産に関すること。
(10)　不動産登記に関すること。

第 7 条　学生課の専門員（専門職員）及び各係は，次の事務をつかさどる。

専門員(専門職員)

(1)　教育改善に関すること。
(2)　学生募集及び入学者の選抜に係る専門的事項に関すること。
(3)　専攻科学生の修学指導に係る専門的事項に関すること。
(4)　外国人留学生に係る専門的事項に関すること。
(5)　その他学務に係る事務のうち，重要な企画・調査及び連絡調整に関すること。

教務係

(1)　学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
(2)　教育課程の編成，授業及び試験に関すること。
(3)　学生の学籍に関すること。
(4)　学生の指導要録その他学生の諸記録の整理保管に関すること。
(5)　教科書及び補助教材に関すること。
(6)　進級及び卒業の認定に関すること。
(7)　学生の身分，成績，卒業等の証明に関すること。
(8)　学生の表彰及び懲戒に関すること。
(9)　学生の校外実習及び見学等に関すること。
(10)　外国人留学生に関すること。
(11)　研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
(12)　卒業証書及び修了証書等の交付に関すること。

（13） その他学生課の他係に属しない事項に関すること。

学生係

（1） 学生の課外教育活動に関すること。

（2） 学生の団体に関すること。

（3） 学生の集会，印刷物，掲示等に関すること。

（4） 学生の保健衛生及び保健施設の管理運営に関すること。

（5） 奨学生に関すること。

（6） 授業料の免除等に関すること。

（7） 学生旅客運賃割引証，通学証明書及び諸証明に関すること。

（8） 学生の就職及びアルバイトに関すること。

（9） 学生相談に関すること。

（10） その他学生の厚生補導に関すること。

寮務係

（1） 学寮の管理運営に関すること。

（2） 寮生の保健衛生並びに栄養管理に関すること。

（3） 寮生の団体，集会等に関すること。

（4） 寄宿料の免除等に関すること。

（5） 学寮における教官の宿日直に関すること。

（6） その他寮務に関すること。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

観点11－１－③：　管理運営の諸規定が整備されているか。

（観点に係る状況）

学則をはじめ，事務組織規程，企画会議規程，運営会議規程，教職員会議規程等の委員会規程の管理運営の諸規程が定められ，本校規程集として整備している（資料１１－１－③－１）。各規程はホームページに掲載され，教職員に公開されている（資料１１－１－③－２）。

諸規則の改正等があった場合には，学内ウェブの共有ファイルに掲載し全教職員に周知している（資料１１－１－①－４参照）。また，事務系職員には，チームウェアソフトを導入し，各職員個々のページから直接規程集にアクセス出来るよう工夫し，諸規則利用の利便性と共有化を図っている（資料１１－１－③－３）。

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に係る諸規則等が整備されているほか，情報公開や情報セキュリティ，安全衛生管理，健康管理，レクリエーションやセクシャルハラスメントの防止，諸施設の管理や毒物・劇物の管理や防災，図書館，学寮等に係る諸規則・規程が適切に整備されている。

また，校内教職員には，様々な情報周知の方策が講じられており，諸規則等の共有化が図られている。

以上のことから，本校では管理運営に必要な諸規程が整備されている。

資料１１－１－③－１　諸規程等整備状況（委員会を除く管理運営関係のみ）

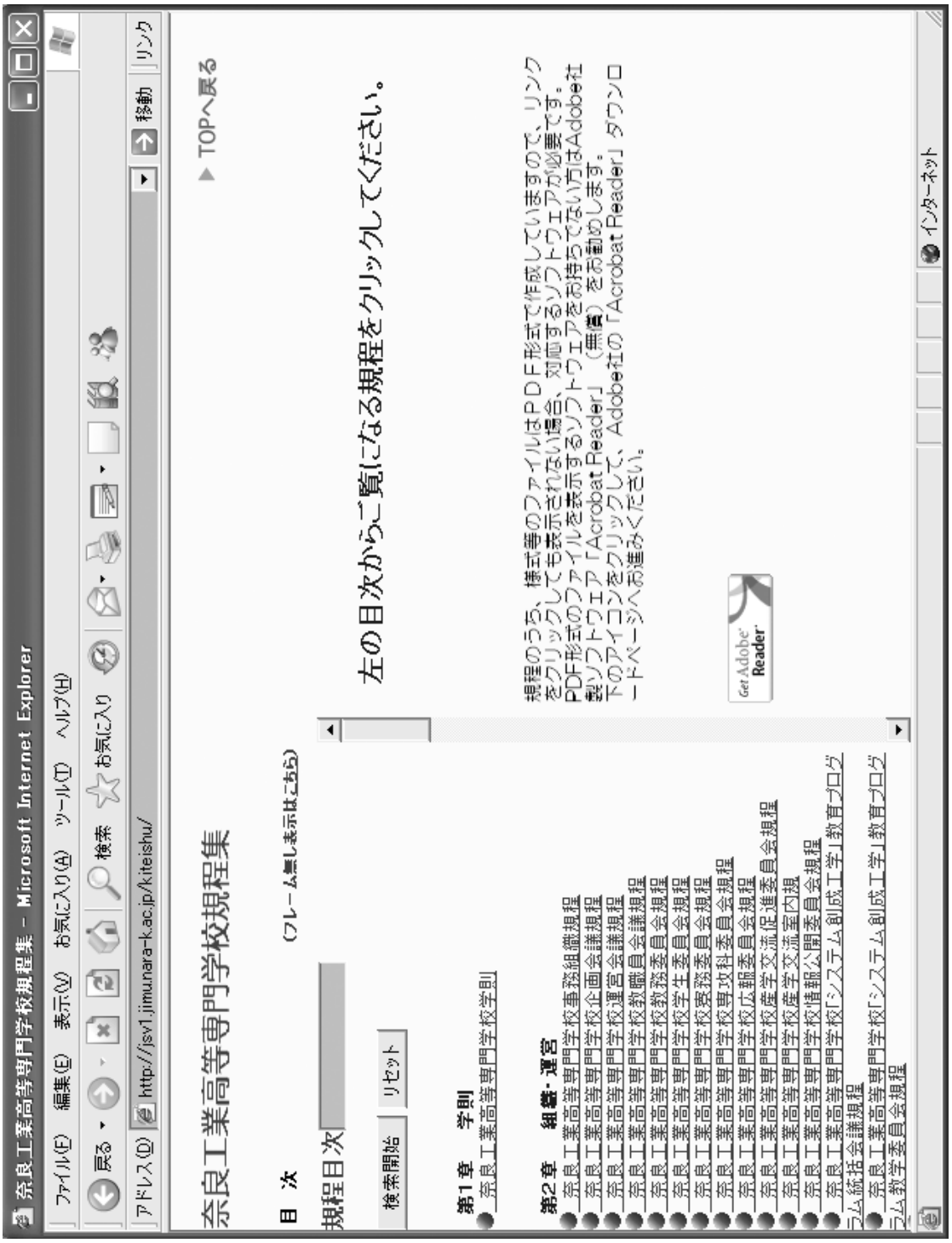
規則等の名称	主な内容	直近の改正等
事務組織規程	事務組織とその所掌	平成15年４月１日
産学交流室内規	産学交流室の組織と業務	平成16年４月１日
入学試験事務室組織規程	入学試験事務室の組織と業務	平成17年４月１日
学生相談室規程	相談室の組織と業務	平成17年４月１日
情報メディア教育センター規程	同センターの組織と業務	平成17年４月１日
ネットワーク管理室規程	同管理室の組織と業務	平成17年４月１日
文書処理規程及び管理に関する規程	文書の適正かつ迅速な処理	平成13年４月１日
公印規程	公印の管理	平成13年１月６日
情報公開取扱要項	行政文書の情報公開	平成13年４月１日
教職員安全衛生管理規程	衛生管理者，安全管理者等の業務	平成17年４月１日
安全衛生管理及び健康管理細則	職員の健康管理，衛生管理，安全管理	平成16年４月１日
放射線障害防止規程	放射線障害防止と設備の保守管理業務	平成16年４月１日
ホームページの管理及び運用に関する取扱要項	ホームページの管理及び運用業務	平成18年１月12日
セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程	セクシュアル・ハラスメントの相談対応や防止等	平成16年４月１日
図書閲覧規程	図書館の管理運営	平成16年４月１日
職員宿舎規程	宿舎の設置並びに維持及び管理	平成16年４月１日
毒物・劇物取扱規程	毒劇物の適正管理	平成16年４月１日
不動産取扱規程	土地，建物及び施設設備の管理	平成16年４月１日
防災規程	災害の防止と災害発生時の措置	平成16年４月１日
廃水管理規程	廃水管理と水質管理センターの管理	平成16年４月１日
学寮規則	学寮の管理運営	平成16年４月１日

（出典　奈良工業高等専門学校規程集から作成）

資料１１－１—③—２　規程集掲載

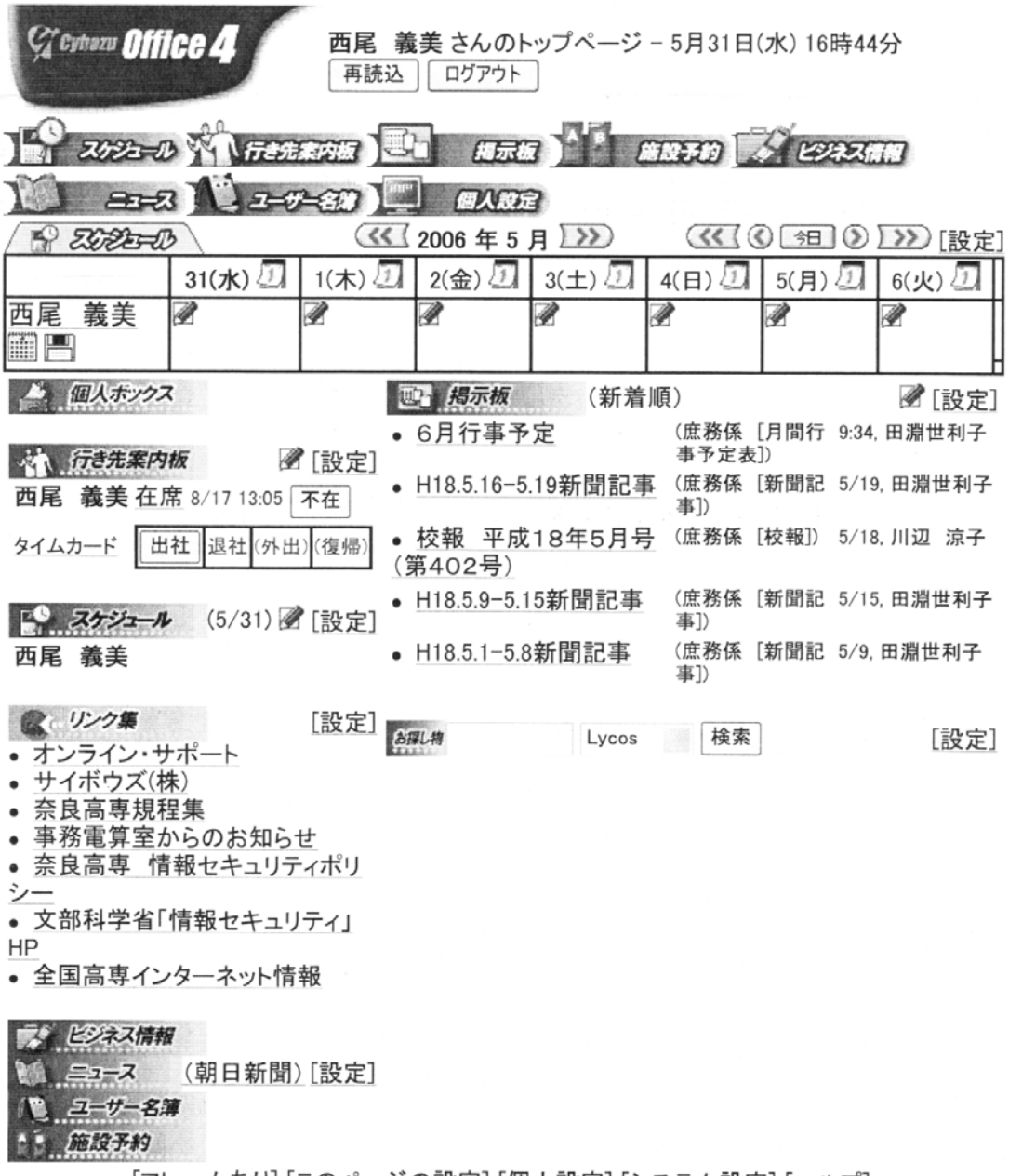
（出典　奈良高専ホームページ）

資料１１－１—③—２　規程集掲載



（出典　奈良高専ホームページ）

資料１１－１－③－３　規程集掲載



（出典　奈良工業高等専門学校サイボウズ）

観点 11－２－①：　外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

平成14年2月に外部評価委員会を設置し，行政，報道，有識者等から本校に対する評価と意見を聴取する体制を整備し，平成17年4月からは，外部評価委員会の活動を引き継ぐと共に校長の諮問に応じて助言等の提言を受ける運営諮問会に形を変え，委員に同窓会会長と県中学校長会会長を加え，より幅広く意見を聞く組織を設置した。評価，助言は平成15年３月から毎年外部評価報告書，平成18年３月からは運営諮問会報告書としてまとめ（資料１１－２－①－１），概要は点検・評価委員及び全教員が参加するＦＤ・教職員会議で報告・周知することにより活かしている（資料１１－２－①－２）。提言による改善点は，学内関係各委員会で対応を検討し，適宜改善の取組を実施し，次年度の自己点検評価報告書において必ず明示している。（資料１１－１－①－６）。

学校の関連団体として設置されている後援会は，学生の保護者による団体であり，校長が顧問として参画している。毎年３回開催される役員会には，校長，教務主事（副校長），学生主事，寮務主事，専攻科主任，各科主任等が陪席し，役員会後の学校説明会における保護者からの意見を学校運営の参考として取入れ，学生の抱える様々な悩みを早期に解決するための「なんでも相談室」や「プチアンケート」回収箱設置につながる等，開かれた学校運営に役立っている。

また，後援会役員会等を通じて意見が寄せられていた，ホームページのトップページ及び最新情報の発信等の充実は平成16年度から，女子学生の制服のリニューアルは平成18年度に実現した（資料１１－２―①－３）。

（分析結果とその根拠理由）

外部評価委員会は，平成14年度から16年度にかけて活動し，報告書を３回にわたり刊行しており，外部からの貴重な意見として学校運営に活用された。また，外部評価委員会の機能を引継いで運営諮問会を設置し，平成１７年度分運営諮問会報告書を刊行している。

後援会からの意見は，学生の学習指導や生活指導等に直結する課題が多く，「なんでも相談室」の設置や「プチアンケート」回収箱の設置に見られるように学校運営に直接活かされている（資料１１－２－①－４）。

以上のことから，本校では外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されている。

資料１１－２－①－１　平成１７年度運営諮問会報告書表紙・目次

平成
17年度

運営諮問会報告書

デザイン：情報工学科4年
佐野梢さん

2006年3月
独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校

目　　次

まえがき

運営諮問会出席委員 …… 1

奈良工業高等専門学校運営諮問会規程 …… 3

運営諮問会実施日程 …… 4

運営諮問会出席者名簿 …… 5

運営諮問会資料一覧 …… 6

運営諮問会の風景 …… 7

運営諮問会議事要録 …… 9

運営諮問会説明資料 …… 33

あとがき …… 37

（出典　運営諮問会報告書）

資料１１－２－①－２　平成１７年度運営諮問会講評

〔非開示につき省略〕

（出典　平成１８年１月教職員会議資料）

資料１１－２－①－３　後援会役員会及び学校報告会要録（平成１５年９月）

〔非開示につき省略〕

（出典　奈良工業高等専門学校後援会）

資料１１－２－①－３　後援会役員会及び学校報告会要録（平成１６年３月）

〔非開示につき省略〕

（出典　奈良工業高等専門学校後援会）

資料１１－２－①－３　後援会役員会及び学校報告会要録（平成１６年１０月）

〔非開示につき省略〕

（出典　奈良工業高等専門学校後援会）

資料１１－２－①－３　後援会役員会及び学校報告会要録（平成１８年４月）

〔非開示につき省略〕

（出典　奈良工業高等専門学校後援会）

資料１１－２－①－４　「なんでも相談室」開設

平成17年度の進路状況・スケジュールについて

平成17年度 進路対策協議会　担当主事（学生主事）　矢尾　匡永

本年度の進路状況の概要を説明します。下記の表は6月1日現在の本科卒業予定者の進路状況の調査結果を示しています。本年度の就職と進学の割合はそれぞれ43%と57%になっています。この数字は、数年来の平均値（就職が40～50%，進学が50～60%）の範囲内にあります。以下では、就職と進学のそれぞれについて、本年度と最近の状況を説明します。

進学について。6月1日にはまだ編入学試験は始まっていませんので、合格者はありません。この数年で受験日等はおおむね固定化された印象があります。一般的には6月から本校専攻科、技科大、立命館大等の推薦入試が始まります。7月には、多くの国立大学の学力試験が実施されます。8月には、京都大学工学部、大阪大学工学部・基礎工学部、神戸大学工学部の学力試験が行われ、編入学試験は一段落します。その後、少し間をおいて10月中に本校専攻科B日程、関西大学の学力試験が行われるとともに、その期間の前後で定員に満たなかった国立大学・専攻科の二次試験が実施されます。ただし、年度によって受験日等は前後しますので、学生玄関に掲示される入試情報や各大学のHPに注意する必要があります。

就職について。本年度のトピックスは何よりもまず、下記の表に現れています。すなわち、バブル崩壊以降の就職内定状況は、例年のこの時期には就職希望者の半数程度が内定しているのが普通でしたが、本年度は66名の学生が内定をもらっています。その割合は就職希望者の実に80%程度に達しています。また、内定先の企業もそのほとんどが、上場企業、一流企業と呼ばれる企業ばかりで極めて好調な内定状況を呈しています。（内定企業名については次号のcampusでお知らせします。）この原因は説明するまでもなく、2007年を待たずに、「2007年問題」の影響が出始めた為であると考えています。したがって、この傾向は数年の間、続くものと思われます。

最後に、5年生の学生はそれぞれに各自の就職や進学の目標を達成するため日々頑張っていますので、進路が未定の学生もきっと良い結果が得られると期待しています。いっぽうで、進路の決まった学生にとって各自が選択した進路は満足いくものであると思いますが、それに慢心することないようにも期待しています。

平成17年度卒業予定者進路状況（平成17年6月1日現在）

学科名	卒業予定者	就職希望者	就職内定者	進学予定者
機械工学科	48	22	21	26
電気工学科	39	20	14	19
電子制御工学科	40	13	8	27
情報工学科	37	13	11	24
物質化学工学科	29	15	12	14
合　計	193	83	66	110

「なんでも相談室」開設

学生主事　矢尾　匡永

中学とは雰囲気の異なる高専の講義になじめない。新しいクラスメートとの人間関係がうまく作れない。自分にとっては深刻な悩みなのに友人や保護者には理解してもらえない。自分の将来が見えずに不安だ。このようないろいろな悩みを抱いている学生がたくさんいると思います。奈良高専では、このような学生の悩みの相談窓口として「なんでも相談室」を設置することにしました。

「なんでも相談室」の相談員は、悩みが原因で健康を害したり、才能がありながら学業を断念することになった学生を今までに見てきて、「もっと早くに相談してくれたら…」と悔やんできた人たちの集まりです。学生の身になって悩み事を聞き、解決策を一緒になって考えていきます。どんな些細なことでもかまいません。躊躇することなく、「なんでも相談室」に相談してください。「なんでも相談室」は、さまざまな悩みを抱えた学生を支援します。

また、直接相談室を訪問するのが難しい学生は、「なんでも相談室」プチアンケート（7月上旬より学生玄関に設置しました）から始めて頂いてもいいかもしれません。

相談の仕方
直接「なんでも相談室」を訪問してください。

相談室の場所
凌雲館2階
カウンセリングルーム

開設日

相談員氏名	所　属	主な担当	相談曜日時間
矢尾　匡永	機械工学科 学生主事	学校への問題提起など何でも、進路（休・退学など）の相談奨学金・就職など、厚生関係の相談	金曜日 16:00～18:00
木村　倫幸	一般教科 セクシュアルハラスメント相談室長	進路（休・退学など）の相談 ハラスメントに関する相談	月曜日 16:30～18:30
福嶌　克彦	一般教科 学生相談室長	メンタルヘルスケア関係の相談	火曜日 14:35～16:35
塚崎　悦子	カウンセラー 学生相談室	臨床心理士 メンタルヘルスケア関係の相談	木曜日 （予約制）

（出典　奈良工業高等専門学校ＣＡＭＰＵＳ第９１号）

資料１１－２－①－４　プチアンケート回答

なんでも相談室　プチアンケート回答 No.5　05.10.20

要望

機械科棟はナゼ新しくならないのですか。9/25

回答　回答者　会計課長

・奈良高専は、平成 16 年 4 月 1 日付をもって「独立行政法人 国立高等専門学校機構 奈良工業高等専門学校」として、新しく生まれ変わりました。
・また、全国には本校と同様の高等専門学校が、55校存在し、それらを統括するために「独立行政法人 国立高等専門学校機構」(以下「機構」という。)が新たに組織され、更に、機構を含んだ日本のすべての教育研究機関を統括するために「文部科学省」が組織されています。

・奈良高専において、ほぼ毎年経常的に使用する予算(お金)は、文部科学省 → 機構 → 奈良高専 へと自動的に配分されます(流れてきます)。ところが、質問にある「機械工学科棟の改修工事費予算」(概算要求レベル予算)については、各校で個別に要求金額(約4億円)、必要理由等を明記した予算要求書に、関連書類・図面等を添えて 奈良高専 → 機構 → 文部科学省 へ要求し、それぞれの組織で要求内容が認められて初めて、予算が配分されるシステムになっています。

・数年前から、本校では「機械工学科棟の改修工事」については、本校内で協議のうえ緊急順位1位で要求しているところです。更に今年度は、自主的に実施した耐震診断結果資料や、地震発生確率資料等を補足説明資料として添えることにより、予算化が1年でも早く実現するように、強くアピールしたところです。
・しかしながら、近年の不景気・税収不足により政府予算そのものが緊縮化されている状況にあるため、政府から文部科学省や機構へ配分される予算総額が大幅削減されていること、また、全国55高専のみならず、全国国立大学法人等には、地震が頻発する危険な地域に存在し、かつ、本校機械工学科棟よりも老朽化し、耐震診断結果に基づく危険度が高い学校が、まだ数多く存在していること、等々の諸事情から、「本校機械工学科棟の改修工事」の予算化の順番が遅れています。

・今後も引き続き、本校の教育研究の発展のために、知恵を絞り、あらゆる手段を講じて、少しでも多額の予算が獲得できるように努力して行きたいと考えています。

（出典　プチアンケート回答　バックナンバー）

資料１１－２－①－４　プチアンケート設置状況

（出典　庶務課写真資料）

観点 11－３－①：　自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

平成５年４月から「点検・評価委員会」を設置し自ら行う点検・評価活動を開始し，点検・評価委員会では，平成６年度から授業アンケートや部門・テーマ別事項に対する自己評価を実施してきた（資料１１－３－①－２）。平成13年度からは毎年度の学校全体の諸活動に係る自己点検・評価報告書を作成して社会に公表してきた（資料１１－３－①－２）。また，平成16年度の独立行政法人化後は，国立高等専門学校機構の中期目標，中期計画及び年度計画に基づき，本校の中期計画と年度計画を策定している。年度計画については，当該年度終了後に自己点検を行い，総括と課題をまとめ，年度計画実施状況報告書として教職員に周知すると共に，次の年度計画策定に活用している（資料１１－３－①－１）。

本校では，学外からの貴重な意見を適切な学校運営に活かすため，平成14年度に外部評価委員会を組織して外部評価を実施し，平成15年３月から毎年度報告書を刊行している（資料11－３－①－２参照）。また，平成17年４月からは名称を運営諮問会に変更し，２名の委員を増員し，学外有識者による継続した外部評価活動を行っている。運営諮問会の構成は，資料のとおりである（資料11－３－①－３）。

本校では，高等教育機関における技術者教育を充実させ，国際的に通用する技術者を育成できるよう，準学士課程の４～５学年と専攻科課程を複合・融合した教育プログラム（「システム創成工学」教育プログラム）を設定し，技術者教育のさらなる充実・改善に取組んでいる。本校の「システム創成工学」教育プログラムは，日本技術者教育認定機構から平成１７年度にJABEE認定プログラムの工学（融合複合・新領域）関連分野として認証を受けた。

こうした取組みは，教育プログラムの学習，教育目標を校内各所に掲示するとともに学校概要，学生生活のしおりや専攻科便覧によって，全教職員及び全学生に周知し，本校ホームページを通じて学内外に同プログラムへの取組みを示すとともに，別途，全校集会の機会等に学習・教育目標，プログラムの修了要件，履修対象者について定期的あるいは随時学生に説明を行い，周知を図っている（資料１１－３－①－４）。

（分析結果とその根拠理由）

教育・研究・社会貢献への取組みと課題を分析した自己点検・評価を実施し報告書を刊行している。外部評価については，外部評価報告書を３回にわたり刊行し，その機能を引き継ぐかたちで運営諮問会報告書を刊行している。また，学校としての年度計画実施状況報告書を取りまとめ，全教職員に配付している。JABEE認定プログラムへの取組みは，学習・教育目標を校内各所に掲示すると共に学校概要，学生生活のしおりや専攻科便覧によって，全教職員及び全学生に周知している他，ホームページを通じて学内外に詳しく公表している。

以上のことから，本校では自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，それらの評価結果が公表されている。

資料１１－３—①—１　奈良高専の中期計画における年度計画の総括と課題

奈良高専の中期計画における平成１６年度計画の総括と課題

（前文）
本校は、奈良県唯一の工科系高等教育機関として、奈良県はもとより近隣の府県からも大きな期待を寄せられてきた。激しく移り変わる社会の中、今後も引き続き、その期待に応えるためには、地元企業のみならず、国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていくことが肝要であると考える。
本校は、平成４年に全国の高専に先駆けて専攻科が設置され、本年で１２年目を迎えたが、この間、本科で学んだ教育との関連を重視しつつ、より高度な教育・研究を行ってきた。今後は、専攻科生の定員増も視野に入れ、本科との一層の関係強化を図りながら、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定や特別研究の充実を目指し、その成果を学会発表や特許出願等を通して社会に積極的に発信していくことや、近隣の大学等とも連携し、大学院への進学率の向上にも力を入れていきたい。一方、本科の方では、国際社会で通用する人材を養成するためにも、特に低学年教育を重視し、英語等の言語教育、理科教育及び数学教育の拡充を図りたいと考えている。
教育研究等の質の向上については、教官の学位取得率の向上を目指すことや、研究費の重点配分などの評価の徹底、授業内容の学生による評価や教官の相互評価の導入等に努めていきたい。
組織では、より効率的な学校運営を行うための、役員の補佐体制の見直しや事務組織の抜本的な見直しを積極的に進めていく必要があると考える。
安全管理、事故防止については教職員のみならず学生も含めた全学的な危機管理体制の策定をめざす。
施設面では、教育・研究・社会貢献支援・産官学交流等を効率的に実現するための多目的施設として「TAMATOKORITAMA Hall of Science & Technology」の設置の可能性を模索していくことも考えていきたい。
財務内容の改善については、経費の抑制や資産の適正な管理に努めるとともに、外部資金の導入について積極的に取り組んでいかなければならない。
また、毎年自己点検・評価を行い、それを基に外部評価を受け、奈良高専の実状、課題、改善内容等をホームページや広報誌で公開していく等の方法により、情報を常に外部に向かって発信していくことも重要である。
さらに、国際的文化都市である「奈良」の特徴を最大限に生かすためにも、「文化と技術の融合」、「新しい伝統の創造」を目指した学科の新設・統合や、男女共同参画社会を推進させるために、女子学生が魅力を感じる学科作りも積極的に検討していきたい。
このような役割を果たすため、奈良工業高等専門学校の中期計画を、以下のとおり提言する。

奈良高専の中期計画（平成16年度～20年度）	奈良高専の年度計画（16年度）	状況	課題	執筆分担
1　業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ①中期目標期間中は毎事業年度毎に管理的経費対前年度比１％の削減を目標とし、その達成のための具体的計画を策定し、経費削減を積極的に進める。	①－（１）管理的経費の抑制可能な項目を調査するとともに、電子情報化等の推進により、印刷物、刊行物等の経費削減を図る。 ①－（２）既に実施している外部委託経費等については、契約内容等の精査・見直しを図るとともに、新たな外部委託業務の可否についても検討する。	管理的経費については各部署における抑制可能項目を調査した。学内における情報周知については、会議録事録等の電子化を進めた。会議資料の削減を図るため、運営委員会資料を先に教員に配布し、運営委員会委員への重複した配布を無くすことにより、教官会議の資料を削減を図った。 ○以下の契約について、契約内容等の精査・見直しを行った――①清掃業務請負（学生休業期間中における清掃回数の見直しによる清掃延面積削減。学生及び教職員の廃棄管理の観点から、化学物質を使用しない旨の仕様書への明文化。学生及び教職員の安全確保の観点から、定期消掃を休日に実施する旨を明文化。）、②警備業務請負（夜間の盗難事故防止の観点から、業務内容に、学生教室の施錠を追加。）、③暖房用ボイラー整備、④プール ろ過装置保守点検業務 ○以下の内容について、新たに外部委託業務を行った。――①職員宿舎維持管理業務委託（独立行政法人化に伴い職員宿舎の出資されたため）、②職員宿舎の消防設備点検（独立行政法人化に伴い職員宿舎の出資されたため）、③労働安全衛生法に基づく環境測定、④建築基準法による特殊建築物調査・建築設備検査。	引続き管理的経費抑制に向けて努めていく。学内ＬＡＮを充実させ、教職員会議を始め各種委員会の資料を提示することによる、紙による資料の廃止を進める必要がある。 ○清掃及び警備業務委託については、教育環境にふさわしい清潔な状態の維持、安全確保のために、引き続き委託業務の内容を随時改善していく必要がある。また、よりいっそうの経費節減のために、ニーズを再確認のうえ清掃面積の見直し等を精査していく必要がある。 ○新規委託業務については、厳しい財源の中、継続して実施する必要があり、委託業務の業務内容等を見直し、契約金額の削減に努力しつつ、効率的な予算執行を図る。 ○環境測定については年２回実施の必要があるが、今年度は１回しか実施できなかった。来年度は年２回の実施を行う。	

（出典　平成１７年６月将来計画委員会資料）

資料１１－３―①―１　奈良高専の中期計画における年度計画の総括と課題

奈良高専の中期計画（平成16年度～20年度）	奈良高専の年度計画（16年度）	総　括	課　題	執筆分担
4 管理運営に関する事項 ①教育研究の効率化を目指した戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	①－（1）戦略的プロジェクトへの重点的予算配分を検討する。	学科等の枠を超えた共同研究等についての戦略的経費プロジェクト予算配分につき、共同プロジェクトを６件実施した。共同プロジェクトは教育研究・共同研究等多岐に渡っている。	今年度が最初の学科枠を超えてのプロジェクトであるので、それぞれの取組み途上で明らかになってきた問題点の有効的な解決法を検討していく必要がある。	
	①－（2）教育研究への効果的計画的予算配分についての検討を推進する。	効果的予算配分を既に実施した。教育研究の効率化を目指して、教員が各自の教育に関する計画書及び研究に関する計画書を提出し査定に基づく予算配分を受けた。	計画的予算配分のための明確な目標を設定することが重要である。	
②トップダウン的なリーダーシップ機能とこれを支えるボトムアップ機能との連携を図る効率的な管理運営を目指し、校長の補佐体制の充実について検討する。	②－（1）既存の委員会体制の見直しをさらに推進して、フレキシブルで効果的な委員会体制の構築に努める。	既存の委員会体制の抜本的な改革を図って、企画会議・運営会議を核とする委員会体制を構築した。	委員会体制について必要な見直しの継続検討を図る。	
	②－（2）校長の補佐体制を充実させるために企画スタッフの設置について検討を始める。	校長の補佐体制として企画会議を設置するとともに、企画スタッフの設置について検討した。	引続き校長補佐体制について必要な見直しを検討する。	
	②－（3）教職員の意見をボトムアップ的に反映させる制度について検討する。	運営会議－科内会議が有機的に機能するよう努めた。	各種委員会での討議の活性化を図る。	
	②－（4）学内外の運営について校長に意見具申できる人材（学外公募制も等も含めて）や諮問会議等の構想について検討する。	運営諮問会規定を制定して、運営諮問会を設置した。	運営諮問会で出された意見を本校の教育活動の改善に反映していくシステムが必要である。	
③機構の計画による業務運営の向上のための財務会計管理、人事管理、給与管理の一元的共通システムの導入に基づき、円滑な運営に努める。	③業務効率の向上を図るため、業務手順・処理内容の見直しやマニュアル化の検討を推進する。	財務会計システムを導入して業務の効率化を図った。	引続き業務手順・処理内容の見直しやマニュアル化の検討を進めていく。	
④事務職員・技術職員の諸能力向上を図り、教育研究条件の効率的な整備に努める。	④－（1）事務職員・技術職員の諸能力向上のための研修会の計画的な実施、点検評価システムの構築について検討する。	○地区大学主催の初任者研修会へ新規採用事務系職員を参加させた（4月６～９日）。近畿地区高専技術職員研修を企画し、本校技術職員を参加させた（8月９～10日）。また、採用後５年以内の教職員を対象とした教職員研修会を実施した（8月20日）。教職員研修会の実施、本校事務職員、技術職員に係る独自研修についての議論を開始した。	現在必要とされている諸種の研修について引続き検討し、実施の方向で進めていく。	
	④－（2）文部科学省、企業、地方自治体が開催する研修会等への積極的な参加を推進し、その成果の普及に努める。	近畿大学主催の新採用研修、階層別研修、会計研修などに延べ28名の事務系職員を参加させた。各種研修会に積極的に参加した。	今年度と同様研修会等への積極的な参加を推進する。	
⑤事務職員の資質向上のため、国立大学法人等との人事交流を図る。	⑤人事計画に基づき、国立大学法人等との人事交流を推進する。	国立大学法人（京都大学、大阪大学等）との人事交流を実施した。	引続き人事交流を推進する	
⑥情報セキュリティ・ポリシーの充実を図る。		情報セキュリティ・ポリシー意識の普及に努めた。	個人情報保護法への対応を踏まえて、引続き情報セキュリティ・ポリシーの効果的なシステム等について検討していく。	
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 ①施設・設備等の実態調査を踏まえ、教育研究の推進や福利厚生の改善に必要な施設・設備等の計画的な整備を図る	①－（1）継続的な施設の点検・評価を踏まえ、教育研究活動に必要なスペース配分等、施設の有効利用を推進する。	平成15年度の調査結果を基に大視聴覚室の改修工事を実施し、利用率の低い大視聴覚室内の映写室２８㎡操作室８㎡を撤去し、大視聴覚室を２７６㎡から３１２㎡に改修することで収容人数の増加を図った。	調査結果の分析をもとに、学内共同スペース確保及び有効利用を推進する為の体制強化に努める。	
	①－（2）施設の定期的な点検保守、計画的な維持管理に努める。	○定期的な点検保守・維持管理として、①電気工作物維持管理②生活排水処理施設維持管理③実験排水処理施設維持管理④ガス炊き空調設備維持管理⑤昇降機設備維持管理⑥電話交換機設備維持管理⑦消防設備点検⑧暖房用ボイラー整備⑨プールろ過器維持管理⑩給水水設備管理⑪浄化槽設備管理⑫寄宿舎浴場水質点検建築基準法に伴う特殊建物・建築設備点検⑬学校保健法に伴う点検⑭労働安全衛生法に伴う点検大型空調機維持管理⑮職員宿舎消防設備点検を実施している。 ○突発的な修繕については、発見次第早急な対策を講じている。	○定期的な点検保守の業務委託を充実させていくと維持管理費用の増加を招く恐れがあるので、業務内容等の精査を実施していく必要がある。　○突発的な修繕に関しては、使用頻度の高い教室等の箇所であっても、完全に故障してからの事後報告によっているのが現状であり、修繕費用も割高となっている。管理上の異常箇所については管轄係に連絡を密にするよう指導する。	
2 人事に関する計画	①－（1）教職員の積極的な人事交流による多様な人材の育成について検討する。	教職員の積極的な人事交流を含む多様な人材の育成の諸条件について検討した。	引続き多様な人材の育成の諸条件の検討を進めていく。	

14

（出典　平成１７年６月将来計画委員会資料）

資料１１－３―①―１　奈良高専の中期計画における年度計画の総括と課題

奈良高専の中期計画（平成16年度～20年度）	奈良高専の年度計画（16年度）	総括	課題	執筆分担
（1）方針 職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。また教員における男女比率の均等化を推進する。	①－（2）各種研修の実施について計画検討する。	人事に関する諸種の研修実施について検討した。	諸種の研修について引続き検討し、実施の方向で進めていく。	
	①－（3）教員における男女比率の均等化について検討を準備する。	教員の採用について公募制を実施するとともに、人事委員会において教員における男女比率の均等化について検討した。	公募制を維持推進するとともに、男女比率の均等化について検討する。	

（出典　平成１７年６月将来計画委員会資料）

資料１１－３—①—１　平成１７年６月将来計画委員会議事要録

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課保存　議事要録綴り）

資料11－３－①－２　過去１０年間の点検・評価報告書等関係刊行物一覧

刊行物の名称	発行年月	内容その他	公表の状況
自己点検・評価報告書	平成８年３月	委員会制度の現状と課題	学内へ配付
専攻科点検・評価報告書	平成９年３月	専攻科の点検・評価	関係機関及び学内へ配付＊
報告書　将来構想検討プロジェクト	平成11年４月	教育改革・共同研究推進	学内へ配付
自己点検・評価報告書	平成14年２月	自己点検・評価	関係機関及び学内へ配付＊
〃　（資料編）	平成14年２月	〃　資料	〃
外部評価報告書	平成15年３月	外部評価	〃
自己点検・評価報告書	平成15年10月	自己点検・評価	〃
〃　（資料編）	平成15年10月	〃　資料	〃
外部評価報告書	平成16年３月	外部評価	〃
自己点検評価報告書	平成16年10月	自己点検・評価	〃
４０年史（資料集）	平成17年３月	〃　資料と兼用	〃
外部評価報告書	平成17年３月	外部評価	〃
自己点検・評価報告書	平成17年10月	自己点検・評価	〃
運営諮問会報告書	平成18年３月	外部評価・提言	〃

＊　関係機関とは，奈良教育大学をはじめ近隣の大学及び全国の高等専門学校

（出典　刊行報告書等から庶務課作成）

資料11－３－①－３　平成17年度外部評価委員会委員の構成

	氏　名	職　名（当時）
委員長	米津　宏雄	豊橋技術科学大学　電気・電子工学系　教授
委　員	上田　　清	大和郡山市長
〃	辻　　良彰	奈良工業会　専務理事
〃	木戸出正　繼	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授
〃	水村　　勤	株式会社奈良新聞社　編集部　政治経済課長
〃	森本　俊一	三和澱粉工業株式会社　社長
〃	山中　信介	奈良県工業技術センター　所長
〃	井ノ本直三	奈良県商工労働部新産業創造課課長
〃	小林　満男	奈良工業高等専門学校　同窓会長
〃	竹林　政雄	奈良県中学校長会会長

（出典　「奈良工業高等専門学校運営諮問会報告書」から抜粋）

資料１１－３－①－４　教育プログラムの学習教育目標・掲示

（出典　庶務課写真資料）

資料１１－３－①－４　平成１７年度専攻科学生便覧表紙・目次

平 成 17 年 度

専攻科学生便覧

国立 奈良工業高等専門学校

（出典　平成１７年度専攻科学生便覧）

資料１１－３－①－４　平成１７年度専攻科学生便覧表紙・目次

目　　次

１．専攻科の概要
(1)　専攻科の制度と特色…… 1
(2)　専攻科の沿革…… 1
(3)　教育研究組織…… 2
(4)　配置図…… 3

２．専攻科の教育方針と教育課程
(1)　教育方針…… 5
(2)　専攻科の教育目標…… 6
(3)　教育課程…… 7

３．履修に関すること
(1)　科目の単位と時間数…… 9
(2)　講義時間割…… 9
(3)　受講手続き…… 10
(4)　試験と単位認定…… 11
(5)　専攻科修了のための単位認定…… 11
(6)　学士（工学）号の取得…… 11

４．学籍に関すること
(1)　休学及び復学…… 13
(2)　退　学…… 13
(3)　住所・氏名の変更…… 13

５．就職と進学に関すること
(1)　就　職…… 15
(2)　大学院進学…… 15

６．学生生活
(1)　専攻科の年間行事予定…… 19
(2)　保健衛生…… 19
＜保健室＞…… 19
＜健康診断＞…… 19

（出典　平成１７年度専攻科学生便覧）

資料１１－３－①－４　平成１７年度専攻科学生便覧表紙・目次

＜健康相談＞…… 19
＜災害共済・傷害保険制度＞…… 20
(3) 学生相談室…… 21
(4) 生活上の注意事項…… 21
＜教室及び共同施設の利用にあたって＞…… 21
＜学生への連絡＞…… 22
(5) 学寮…… 22
(6) 警報発令時…… 22
(7) 交通機関ストライキの際の授業実施…… 24
(8) 通学時の交通安全…… 24
(9) 自動車通学…… 24
(10) 事故の届け出…… 25

7．経済援助に関すること
(1) 経済援助について…… 27
(2) 日本学生支援機構奨学金…… 27
＜奨学生の募集＞…… 27
＜その他＞…… 28
(3) その他の奨学制度…… 28
(4) 入学料および授業料の免除…… 28
＜入学料の免除・徴収猶予＞…… 28
＜授業料の免除・徴収猶予＞…… 28

8．課外活動に関すること
(1) 専攻科学生の課外活動…… 29
(2) 学友会について…… 29
(3) 施設利用および掲示の手続きについて…… 29

9．防災に関すること
防災規定（抄）…… 31
火災予防心得…… 31
火災発生時の処置（抄）…… 32
防災団内規（抄）…… 32
防災団編成組織図…… 33

10．手続きに関すること
(1) 届出について…… 35

（出典　平成１７年度専攻科学生便覧）

資料１１－３－①－４　平成１７年度専攻科学生便覧表紙・目次

(2)　証明書について…… 35
(3)　願出について…… 36
(4)　学生旅客運賃割引証・通学証明書の交付…… 37
(5)　納付金…… 38

11. 図書館に関すること
(1)　開館時間…… 39
(2)　図書の貸出…… 39
(3)　ビデオ・オーディオ機器の利用…… 39
(4)　パソコンによる蔵書検索…… 39
(5)　高度な情報提供サービス…… 39

12. 総合情報センターに関すること
総合情報センターの利用について…… 41
演習室の利用について…… 42
演習室の自由開放について…… 43
演習室を利用するときの注意点…… 43

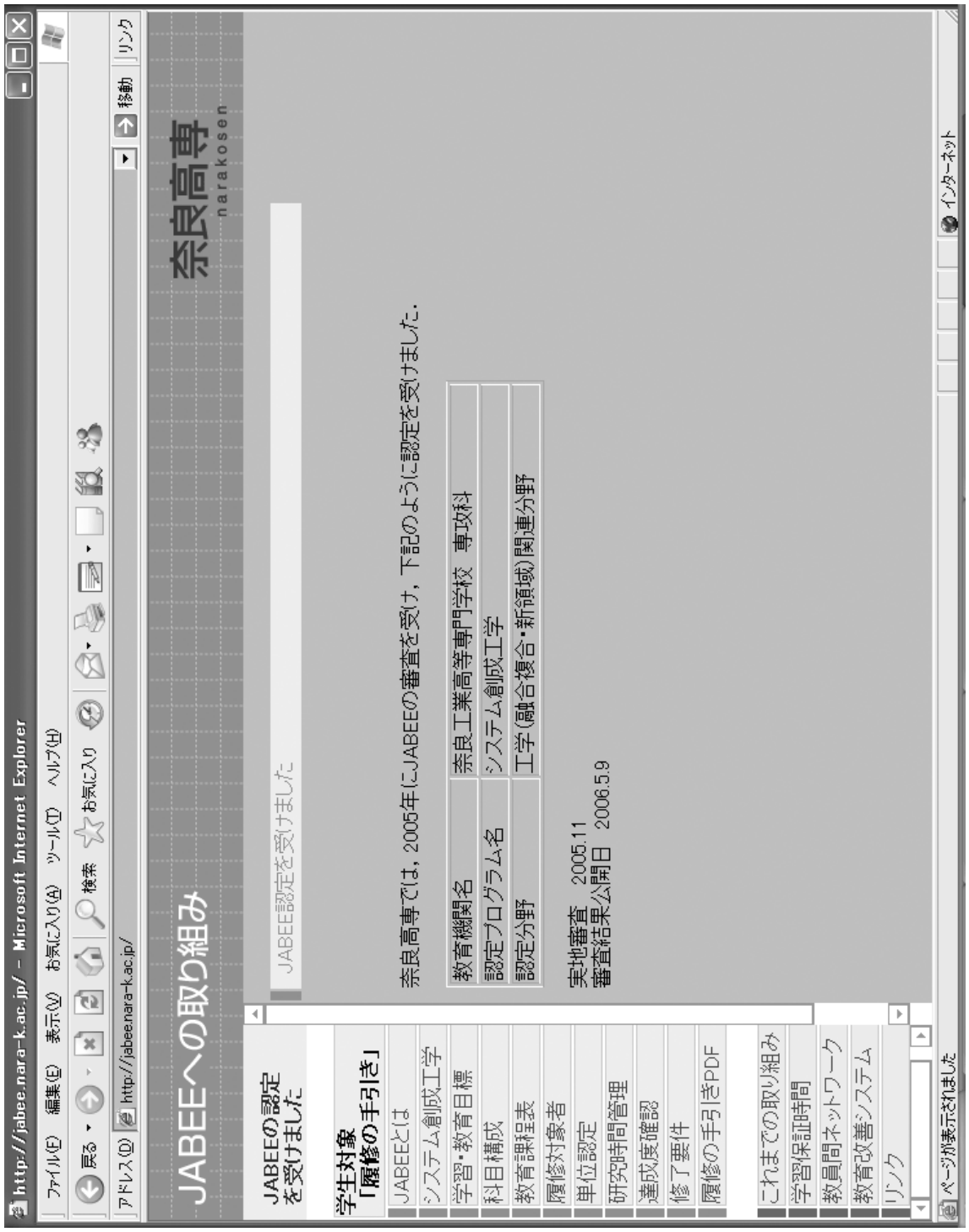
13. 諸規則
学　　則…… 45
専攻科の履修に関する規程…… 60
他の教育施設で修得した授業科目の単位の認定に関する内規…… 62
奈良工業高等専門学校「システム創成工学」教育プログラム履修規程…… 63
奈良工業高等専門学校専攻科学外実習実施要項…… 65

14.　年間行事予定表…… 72

授業科目学年配当表
授業科目学年配当表…… 75

（出典　平成１７年度専攻科学生便覧）

資料１１－３－①－４　教育プログラムの取り組み等



（出典　奈良高専ホームページ）

資料１１－３－①－４　教育プログラムの取り組み等

システム創成工学の学習・教育目標

「システム創成工学」教育プログラムでは，以下の学習・教育目標を設定しています．

(A) 豊かな人間性(Humanity)

(A-1) ・近隣に存在する古都奈良の豊富な歴史的文化遺産を通して伝統と文化の重要性を理解し，伝承された技術を通して技術の発展の重要さを理解できる。
・芸術・文化などの学習を通じ，他者・他国の立場に立って，その価値観の違いを認めることができる。

(A-2) ・人類の発展に係わる，社会問題や環境問題を地球的な視野で捉えることができる。
・科学技術が自然や人間に及ぼす影響・効果を考慮でき，技術者としての社会的責任を理解することができる。

(B) 工学の基礎知識(Foundation)

(B-1) ・数学(微・積分，線形代数，確率統計，数値解析)と自然科学(物理，化学，生物)の知識や思考力により，工学的諸問題の解決に適用することができる。

(B-2) ・基礎工学(設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術)の知識を専門工学に応用することができる。
・情報関連機器を駆使し，必要な情報の検索・収集やデータ解析をすることができる。

(C) コミュニケーション能力(Communication)

(C-1) ・日本語による，論理的な記述力を身につけ，技術論文を書くとともに内容について発表・討論することができる。

(C-2) ・英語で書かれた文献を読解し，情報収集できる。
・英語を用いて技術報告書を書く基礎能力を有する。
・英語を用いて口頭による発表および討論が行える基礎能力を有する。

(D) 新規システムを創成する意欲と能力(Challenge and Creation)

(D-1) ・機械工学，電気工学，電子制御工学，情報工学，物質化学工学(化学工学，生物工学を含む)のいずれかの専門分野に精通し，その分野の技術動向を把握することができる。
・異なる技術分野(融合・複合)を積極的に学習し，新たなシステムの創成に取り組む意欲と能力を身につけることができる。

(D-2) ・システムの安全性，品質保証，環境負荷，経済性など実務上の問題を理解することができる。
・与えられた課題について，解決するためのデザイン能力を身につけることができる。
・自主的・継続的に問題解決に向けて学習することができる．
・チームワークにより，定められた条件のもとで，課題を完成させることができる。

（２００５年４月5日改定）

（出典　奈良高専ホームページ）

観点11－３－②：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価は，全教職員が関わりを持つことで意識喚起を行っており，外部評価委員会による評価結果や運営諮問会による諮問結果は，その重点項目を速やかに点検・評価委員会，教職員会議に報告し，共通認識を持つと共に報告書を作成・配付し，全教職員にその内容を周知した。自己点検・評価報告書等は，刊行の都度，全教職員に配付している（資料11－３－①－２参照）。

評価結果による課題については，企画会議で具体的な検討を行い，運営会議で審議している。また，教職員から改善に係る申し出があった場合にも，各主事がその内容を確認し教務，学生，寮務の各委員会で検討し，必要に応じて企画会議及び運営会議で審議決定をしている(資料１１－３－②－１）。

また，自己点検・評価による検討課題，外部評価委員会の意見や提言等を参考として，本校としての第１期中期計画（平成16年度～平成20年度）を策定しており，その中で具体的な計画として採り上げている(資料１１－３－①－１）。

（分析結果とその根拠理由）

評価結果を全教職員が共有できるよう報告書を配付し，周知徹底を図っている。

また，評価結果を運営に活かすために，自己点検・評価委員会で検討，審議を経て，教職員会議で周知し，関係各委員会や各科・課で改善をするという仕組みがシステム化されている。

以上のことから，本校では評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような，システムが整備され，有効に運営されている。

資料１１－３－②－１　改善の具体例

１）外部評価報告書において指摘されている運営の決定にスピード感がなく，各層の効率的な運用が必要であるとの意見については，平成15年10月主事会議（現企画会議）において委員会合理化のための見直し提案がなされ，平成16年４月に改善が実施された。平成16年10月管理運営の一層の迅速化と強化を図るため，組織等の見直しを行い，企画会議の設置（主事会議の改組），運営委員会を運営会議に名称変更し，学校運営の議決機関とする見直しを行い，平成17年４月から実施している。

２）奈良高専としてどのように特徴のある学生を育て，そして社会に送り出すか，その特徴付けを明確にする必要があるとの意見への対応として

①地域連携をもう一段深める

②独法化を期に，過去の閉鎖的な高専から，社会に開かれた高専への変換が必要

③英語力の強化

等を確認した。管理運営に係る①②については，平成16年１月に地域連携・協力を強めようとする本校と理科離れの防止と理科教育の充実図ろうとする地元大和郡山市とで学市連携協定を締結し，地元自治体と足並みをそろえた理科系教育に取組むこととした。平成16年４月にはホームページの大幅なリニューアルを図り，積極的な情報発信を開始した。平成17年には，産学連携推進の一環として地元銀行２社及び都市銀行１社と相次いで協定を締結して中小企業等

の技術支援を行うこととした。
　等が挙げられる。

（出典　庶務課専門員作成資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- 管理運営に係る関係諸規則等が整備されており，ホームページにより全教職員が閲覧することが可能である。また，改正の場合にはホームページローカルページにより周知されている。
- 自己点検・評価及び外部評価を継続的に実施し，報告書等を刊行している。外部評価は平成１４年からこれまでに４回実施している。
- 「システム創成工学」教育プログラムが，工学（融合複合・新領域）関連分野で平成１７年度JABEE認定を受けている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準11の自己評価の概要

管理運営に係る意思決定の仕組みは，学則に基づき，教務主事，学生主事，寮務主事を置き，その役割を定めている。副校長に教務主事を充て，校長補佐に学生主事及び寮務主事を充てている。各種委員会は，規則等でその役割を明確に定め，現在３２の委員会と小委員会６を置いている。特に，企画会議は，校長，教務主事（副校長）及び学生主事，寮務主事，専攻科主任，事務部長及び３課長で構成しており，校長のトップマネジメントに直結した委員会となっている。ここで審議した事項については，運営会議で審議，決定し，構成員である各科主任及び各課長を通じて各科・課に周知されている。

事務組織は，事務部に庶務課，会計課及び学生課を置き，管理運営に関する基本方策を審議する企画会議等と密接に連携するため，部課長が会議開催前に審議事項の実務的な検討を行っている。

関係諸規則の整備状況については，管理運営に係る諸規則を整備している。

外部有識者の意見は，平成14年から外部評価委員会を設置し，平成17年からは運営諮問会に名称を変更し，外部評価と提言が毎年報告書にまとめられ，管理運営に反映している。また，学生の保護者により構成される後援会総会には，校長，教務主事（副校長），学生主事，寮務主事等が陪席し，保護者からの意見を学校運営の参考として取入れ，学校運営に活かしている。

自己点検・評価の実施は，平成５年に「点検・評価委員会」を設置し活動を開始している。JABEEについては，本校の「システム創成工学」教育プログラムが，平成１７年度にJABEE認定プログラムの工学（融合複合・新領域）関連分野として認定を受けた。

評価等のフィードバックシステムの状況は，運営諮問会（外部評価委員会）による評価概要を点検・評価委員会及び教職員会議で周知すると共に，報告書を刊行し，全教職員に配付し周知している。運営諮問会で指摘を受けた意見，提言については各委員会，各科等で改善に努め，次の年度の自己点検・評価報告書で改善点を明記している。これを含めて運営諮問会での外部評価と提言を学校運営に活かすシステムとしている。

Ⅳ　選択的評価事項に係る目的
選択的評価事項Ａ　「研究活動の状況」に係る目的

本校は，高度成長期に５年制の高等教育機関として，昭和39年に２学科（機械工学科：２学級，電気工学科：１学級）が創設され，昭和44年には化学工学科が増設された。技術者養成の期待に応えるべく本校では，中学卒業後という早い年齢段階から５年間の一貫した専門職業教育を行ってきた。また，県下に学部相当の工科系高等教育機関を持たなかったことから，社会が必要とする工学の分野拡大や時代の要請に対応して，昭和61年に情報工学科の新設，平成2年に機械工学科の分離改組による電子制御工学科の設置，平成9年には化学工学科を物質化学工学科へ改組し，いち早く生物系コースを導入した。現在，準学士課程では一般教育及び専門教育を５学科体制で実施している。さらに，本校では２年制の専攻科が全国の高専に先駆けて，平成４年に３専攻（機械制御工学専攻，電子情報工学専攻，化学工学専攻）で設置され，時代に即応した人材の育成を柔軟に進めてきた。その教育成果は，広く産業界や大学から高い評価を得る等，独自の複線型学校制度として定着している。

このような背景のもとで，本校は教育活動のみならず学術の進展や産業界等の要請により，高等教育機関の使命（高等専門学校設置基準第２条第２項）として研究活動も併行して進めてきた。研究活動を通して，これまで蓄積してきた成果は，地元企業を始め近隣府県の企業との受託・共同研究（含，大学）等に結びつき地域連携の一翼を担い，これらが学生のインターンシップ参加を促す等，研究成果を教育に還元することも重要な柱としている。外部機関との共同研究等の実施と連携は，平成16年4月に発足した独立行政法人国立高等専門学校機構の目的と業務の範囲にも記載されており，本校の研究活動の目的から大きく外れるものではない。

本校の研究活動の目的と方針は次の通りである。

(1) 高等教育機関として専門職業教育を実施し，実践的技術者を養成するために，本校教員は学術の進展や産業界等の要請により研究活動を行う。
(2) 研究活動の成果は学生の教育と研究指導に還元すると共に，技術シーズ集を発行し，また著書，学会誌，国際会議等の学術講演を利用して，広く公開し教員の資質向上につなげる。
(3) 研究活動を通して，これまで蓄積してきた研究成果により外部資金（科学研究費補助金・各種科学研究振興財団・奨学寄付金）の導入を図る。
(4) 平成12年4月には産学交流促進委員会を発足させ，技術交流室（現産学交流室）を設けて地域連携の窓口としている。本校は産学交流室を通して，地元大和郡山市・奈良県内企業を始め，近隣（八尾市・東大阪市）企業からの技術相談やものづくり支援，高度化，新産業の創出に寄与する。
(5) 企業との技術交流と支援を通して共同研究と受託研究を行い，外部資金導入を図ると共に，これらを礎にしてインターンシップ事業を活性化し，学生を参加させる。
(6) 本校は，奈良県，奈良県商工労働部・産業科学振興室，奈良県中小企業支援センター，近畿経済産業局との連携を密にして，産業活性化と新産業支援策，ものづくり技能伝承と技能人材育成方策の調査研究，各種シンポジウムや講演会等を実施して，主に中小企業の人材育成等を支援する。これらの成果を教育に還元し，技術者教育の質の向上を目指す。
(7) 本校独自の活動としては，卒業生を中心としたパートナーシップフォーラム，奈良高専技術セミナー，奈良県化学系産官学技術懇話会，産学官技術交流会等を開催し，これらの会合に５年生や専攻科生を積極的に参加させる。
(8) 国立高専機構産学連携・地域連携委員会，全国高専テクノフォ―ラム，近畿地区高専産学官連携活動推進協議会，近畿地区高専テクノサロン等の高専間の連携活動を推進する。

選択的評価事項Ｂ　「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校は高等教育機関として，奈良県，地元大和郡山市，及びそれらの教育委員会等の技術的・社会的要請に応えて連携を図り，教育サービスの一環として人材の養成と支援を行なうことも目的としている。この目的の主たるものは，平成16年1月に協定調印された本校と大和郡山市との学市連携事業である。

本学市連携事業を基盤とした取組は，平成17年度の「大学改革推進等補助金（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）」（現代GP）に採択された。応募領域は地域活性化への貢献（地元密着型）であり，取組名称は「サイエンス・『ものづくり』・地域力の展開」－ 教職員・学生が一体となった取組－ である。

本校の取組に関し文部科学省のホームページには，次のような評価（選定理由）がなされ広く公開されている。「本取組は，① 小中学の児童生徒の理科離れ・ものづくり離れへの歯止めと同時に，② 理科授業に携わる小中学校教員の資質の向上に寄与し，さらに ③ 学生の問題解決型学習（PBL）に役立てることを目的としたもので選定に値すると評価されます。また，これらの取組は地元自治体である大和郡山市との『学市連携協定』に基づいて行うもので，地域のサイエンス教育センターとなることも目指しており，この点も高く評価されます。具体的には，① 市内小中学生に対する出前授業（スーパーサイエンスの達人派遣）拡大充実，② 理科授業担当の小中学校教員に対するサイエンス・『ものづくり』講習会の開催，③ 専攻科生によるサイエンス・『ものづくり』を課題とする PBL 教育の実施です。創造性豊かな技術者の養成は高専教育目標の一つですが，PBL は効果的な教育方法の一つであり，この学習を小中学生の理科離れの歯止めと，理科教員の資質の向上に応用した試みは高く評価されます。」

現代 GP の基盤となるのは，「スーパーサイエンスの達人」派遣事業であり，本校の科学系分野の専門家を市内の小中学校に派遣するとともに，観察・実験・IT 活用等を積極的に実施し，児童生徒の学ぶ意欲や知的好奇心，探究心を高め，科学的な見方や考え方の育成を図ることである。出前授業以外には科学教室「高専教室」があり，これは大和郡山市科学教室が学校外活動の一環として，子どもの創造性を育み，科学に対する興味や関心を高めることを目的に４つのクラブ・教室が活動している。これらのクラブ・教室と本校とが連携することにより，充実した施設・設備の提供や専門教員の協力を通して内容の質的・量的拡充を図ると同時に，科学教室の運営にあたっている講師の資質向上を目指している。

上記した学市連携事業を包含した具体的な教育サービスとしての人材養成と支援は，次のとおりである。

(1) スーパーサイエンスの達人派遣事業等を円滑に実施するため「シーズ集」を発行し，配付する。
(2) 高専教室は，専門５学科と一般学科が持ち回りで毎年４講座実施する。
(3) 公開講座については，一般市民の生涯学習に応える講座，企業技術者のスキルアップと先端技術に関する講座，小中学校の児童生徒に対する科学・技術教室で毎年６ー８講座を計画する。
(4) 小中学校教員や高校・大学教員と共同で「青少年のための科学の祭典」（奈良女子大，奈良教育大，本校の３機関が主催し，平成１８年度の会場校は本校）を実施し，広く県民に対し科学と技術等に関する啓蒙活動を行う。
(5) 高専祭期間中に学生が主体となった，夢・化学-21，各学科展を実施し，科学のおもしろさを学生の視点から児童生徒に伝える。
(6) 小中学校の理科系教員に対するスキルアップ講習会等を行うと共に，これにより本校の各種取組の改善を目指す。
(7) シンポジウムを開催し，現代 GP の公表・普及とあわせ PBL 教育発表の場とする。
(8) 図書館の持つ蔵書や各種資料を積極的に社会に公開し，図書館機能の向上を図る。
(9) 体育施設等を市民に広く開放し，生涯学習や課外活動の便宜に資している。

選択的評価事項Ａ　研究活動の状況

（1）観点ごとの分析

観点 Ａ－１－①：　高等専門学校の研究の目的に照らして，研究体制及び支援体制が適切に整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校の研究活動の目的と指針は次のとおりである。

（1） 高等教育機関として専門職業教育を実施し，実践的技術者と研究者を養成するために，本校教員は学術の進展や産業界等の要請により研究活動を行う。

（2） 研究活動の成果は学生の教育と研究に還元するとともに，技術シーズ集を発行し，また著書，学会誌，国際会議等の学術講演を利用して，広く公開し教員の質的向上につなげる。

（3） 研究活動を通して，これまで蓄積した研究成果により外部資金（科学研究費補助金・各種科学研究振興財団・奨学寄附金）の導入を図る。

（4） 平成 12 年 4 月に産学交流促進委員会を発足させ，技術交流室を設けて地域連携の窓口としている。本校は技術交流室を通して，地元大和郡山市・奈良県企業を始め近隣（八尾市・東大阪市）の企業からの技術相談やものづくり支援，高度化，新産業の創出に寄与する。

（5） 企業との技術交流と支援を通して共同研究と受託研究を行い，外部資金導入を図るとともに，これらを礎にしてインターンシップ事業を活性化し学生を参加させる。

（6） 本校は，奈良県，奈良県商工労働部・産業科学振興室，奈良県中小企業支援室，近畿経済産業局との連携を密にして，産業活性化と新産業支援策，ものづくり技能伝承と技能人材育成方策の調査研究，各種シンポジウムや講演会等を実施して，主に中小企業の人材育成等を支援する。これらの成果を教育に還元し，技術者教育の質の向上を目指す。

（7） 本校独自の活動としては，卒業生を中心としたパートナーシップフォーラム，奈良高専技術セミナー，奈良県化学系産官学技術懇話会，産学官技術交流会等を開催し，これらの会合に 5 年生や専攻科生を積極的に参加させる。

（8） 国立高専機構産学連携・地域連携委員会，全国高専テクノフォーラム，近畿地区高専産学官連携活動推進協議会，近畿地区高専テクノサロン等の高専間の連携活動を推進する。

このような観点から，本校では一般教科及び専門 5 学科（機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，情報工学科，物質化学工学科）全教員が研究活動を行っている（資料 Ａ－1－①－1)。

研究としては，

- 自主研究
- 基盤・先行研究
- 受託・共同・実用化研究

に分類され，学術の進展，産業界等の要請に基づき活動を行っている。

特に，産業界等からの要請に対応するべく，平成 12 年 4 月に産学交流促進委員会を発足させ，技術交流室（平成 16 年度から産学交流室）を設けた。本産学交流室は，本校から地域に向けての情報発信基地としての機能と，地域を中心とする企業からの技術相談窓口としての機能を持ち，奈良県地域の産官学連携の拠点としての役割を担っている（資料 A－1－①－2) 。これまで産学交流室の活動から，「産」である奈良県工業会，奈良県異業種交流促進協議会，昭和工業団地協議会の会員企業，そして卒業生の就職先企業等，「官」である奈良県行政（新産業創造課，学研協力課），奈良県工業技術センター，奈良県中小企業振興公社並びに中小企業情報センター等との交流により，奈良県の産と官との人的ネットワーク並びに本校卒業生との技術交流ネットワークを構築してきている。産学交流室はこれらの人的・技術的ネットワークを有効に活用して，本校教員の教育的並びに研究的シーズを広く公開し（資料 A－1－①－3），新しい事業化に向けた技術開発，ベンチャー企業創設等の支援に貢献している。このような産学交流室の活動に対し，校長を委員長とする産学交流促進委員会が毎月 1 回開催され，活動状況の把握と活動に対する審議を行っている（資料 A－1－①－4）。

教員の研究活動に対する支援体制については，教員自身の研究を活性化させるため，国内の大学に研究員として派遣すると共に，高度な設備を利用した研究を行なう内地留学制度，また，自身の研究を深め，学位の取得を目指し，週に一度大学等で研修する機会を与える研究研修制度があり，教員が自主的にこの制度を利用している（資料 A－1－①－5）。研究費に対しては，基礎研究費と，教員から提出される研究計画書（資料 A－1―①―6）及び研究成果報告書（資料 A－1－①－7）を基に，校長と各学科主任等が評価し研究費を傾斜配分することや，校長裁量により重点的に配分する戦略的経費等により，研究費の面でのメリハリのある支援制度がある。

（分析結果とその根拠理由）

学術進展のため各教員が研究活動を行っており，民間企業等との共同研究等産学・地域連携に基づく研究の体制は，産業界の要請に対応するべく設置された産学交流室を中心に行われている。その活動は産学交流促進委員会で審議されており，適切に機能している。教員の研究遂行にあたっては，メリハリのある配分運用がなされている。しかしながら一層の産官学連携拠点として機能するためには，テクノセンター（仮称）を設け活動することが必要と考えられる。

以上のことから，本校では，高等専門学校の研究の目的に照らして，研究体制及び支援体制が適切に整備され，機能している。

資料Ａ－１－①－１　研究組織例（機械工学科）を示す資料

テクノレター/Nara National College of Technology 9

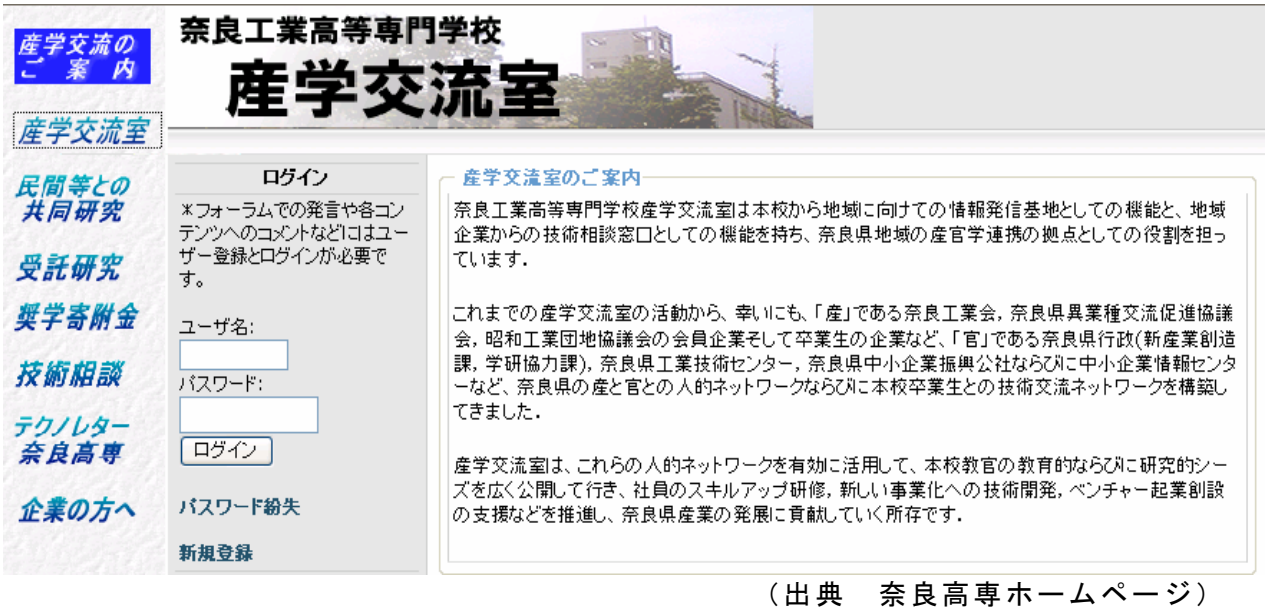
奈良高専の教育・研究組織 －平成16年４月現在－

機械工学科　Mechanical Engineering

氏名	職名	研究分野	担当科目
岩井 保善（いわい やすよし）	教授 工学博士	○高強度鋼の遅れ破壊 ○き裂進展挙動 ○アコースティックエミッション（AE）	材料力学 弾性力学 基礎材料学
小畠 耕二（こばたけ こうじ）	教授 工学博士	○局部加熱を利用したダイレスフォーミング ○古代製鉄法「たたら吹き」 ○各種機器の開発	機械工作法 生産加工学
和田 任弘（わだ ただひろ）	教授 工学博士	○難削材の高能率切削 ○高能率研削法の開発 ○コーテッド被膜の開発	精密加工学 機械工作法
矢尾 匡永（やお まさのり）	教授 博士(工学)	○伝熱促進 ○信号処理 ○乱流	熱工学 計算機力学
野々垣 稔（ののがき みのる）	教授 博士(工学)	○焼付き機構の解明 ○混合潤滑理論	設計工学 トライボロジー 機械設計製図
小柴 孝（こしば たかし）	助教授 博士(工学)	○複雑流体の流れ挙動 ○高分子流体の物性測定	工業数学 連続体力学 エネルギー基礎力学
坂本 雅彦（さかもと まさひこ）	助教授 博士(工学)	○二相流ウォータジェット ○流動抵抗低減デバイスの開発 ○数値解析	流体工学 工業外国語 連続体力学
平 俊男（ひら としお）	助教授 博士(工学)	○構造物の概念設計支援 ○多足ロボット歩行パターンの進化的獲得	数値解析 材料力学
廣 和樹（ひろ かずき）	講師	○金属のガス放出率と関連した物性値の測定 ○金属の摩擦特性の測定	創造設計製作 数値解析 情報処理
酒井 史敏（さかい ふみとし）	助手 博士(工学)	○拘束システムのモーションコントロール ○サーボモータの動特性の解析 ○連続時間システム同定	電気工学 メカトロニクス

（出典　テクノレター）

資料Ａ－１－①－２　産学交流室に関わる資料



産学交流のご案内

産学交流室

民間等との共同研究

受託研究

奨学寄附金

技術相談

テクノレター奈良高専

企業の方へ

奈良工業高等専門学校

産学交流室

ログイン

＊フォーラムでの発言や各コンテンツへのコメントなどにはユーザー登録とログインが必要です。

ユーザ名:

パスワード:

ログイン

パスワード紛失

新規登録

産学交流室のご案内

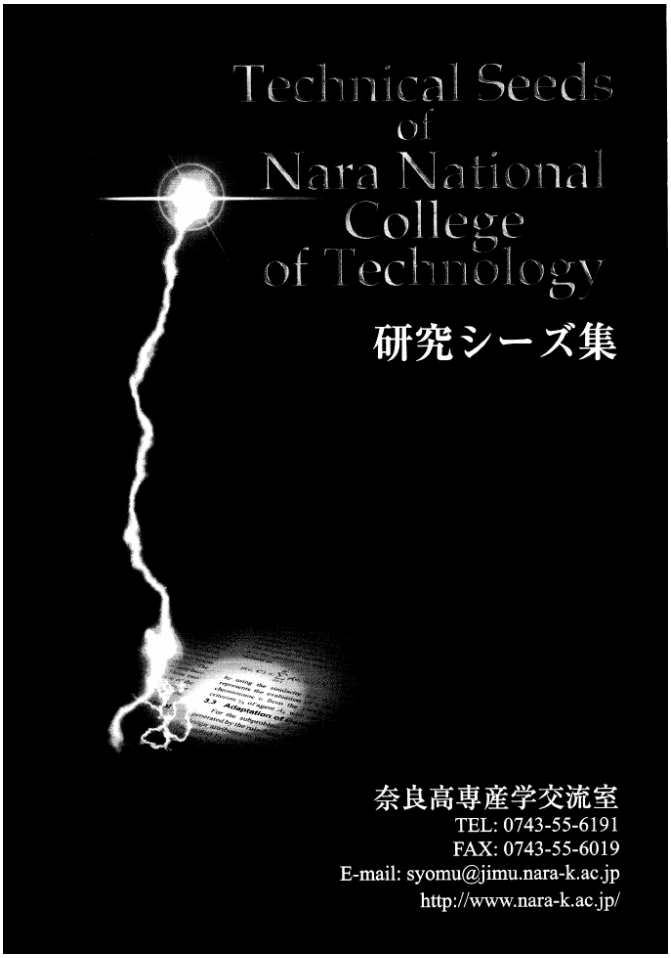
奈良工業高等専門学校産学交流室は本校から地域に向けての情報発信基地としての機能と、地域企業からの技術相談窓口としての機能を持ち、奈良県地域の産官学連携の拠点としての役割を担っています。

これまでの産学交流室の活動から、幸いにも、「産」である奈良工業会，奈良県異業種交流促進協議会，昭和工業団地協議会の会員企業そして卒業生の企業など、「官」である奈良県行政(新産業創造課，学研協力課)，奈良県工業技術センター，奈良県中小企業振興公社ならびに中小企業情報センターなど、奈良県の産と官との人的ネットワークならびに本校卒業生との技術交流ネットワークを構築してきました．

産学交流室は、これらの人的ネットワークを有効に活用して、本校教官の教育的ならびに研究的シーズを広く公開して行き、社員のスキルアップ研修，新しい事業化への技術開発，ベンチャー起業創設の支援などを推進し、奈良県産業の発展に貢献していく所存です．

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ａ－１－①－３　研究シーズ公開に関わる資料（研究シーズ集表紙）



（出典　研究シーズ集）

資料Ａ－１－①－４　産学交流促進委員会の活動を示す資料

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課作成資料）

資料Ａ－１－①－５　研究研修利用者一覧（平成 17 年度）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課作成資料）

資料Ａ－１－①－６　研究計画書

様式 1

平成17年度 研究計画書

研究実施者氏名	所属学科	研究実施期間
		2005年9月～2006年3月

研究課題		
要求金額	千円	※研究経費の申請件数は1人につき1件とし、要求額については、500千円を上限とすること。但し、配分決定時の財源、諸状況を勘案して決定されるため、減額されることがありますので、その旨了承願います。

要求額内訳	消耗品	備品	旅費	謝金	役務	その他
千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円

研究の趣旨・目的（予算措置を希望するにあたり、実施期間内に何をしようとするのか、研究の特色・独創性及び予想される結果と意義を具体的にかつ明確に記入してください。）

研究の実施計画・方法（本計画は中期計画に基づく研究事業について特に予算要求を必要とするものであるので、その目的を達成するための研究計画・方法について具体的にかつ明確に記入してください。）

（出典　会計課作成資料）

資料Ａ－１－①－７　研究成果報告書

様 式 6

平成17年度 研究成果報告書

研究実施者氏名	所属学科	研究実施期間

研究課題				
予算配分額	千円	執行額	千円	

研究成果の内容
(800字程度で記入願います。また適宜、新聞、雑誌等の掲載記事切り抜きを貼付して頂いても結構です。)

（出典　会計課作成資料）

観点 Ａ－1－②：　研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

（観点に関わる状況）

毎年，準学士課程専門学科（機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，情報工学科，物質化学工学科）における卒業研究，また，専攻科（機械制御工学専攻，電子情報工学専攻，化学工学専攻）における特別研究として行われている研究の成果は，卒業研究論文集，特別研究概要集としてまとめられている（資料 Ａ－1－②－1，2)。これらの研究は，先に述べた，自主研究，基盤・先行研究，受託・共同・実用化研究から成るものであり，準学士課程生にとっては５年間の教育・学習の集大成となり，専攻科生にとっては技術者としての研究手法・能力の育成に大きな役割を果たしている。これらの研究は，今後の受託・共同・実用化研究への素材提供として地元企業との技術交流を図る目的で，産学交流室により技術シーズ集としてまとめられている（前出資料 Ａ－1－①－3)。

本校の研究活動の成果は，教員が所属する学協会の論文集，国内外の講演会，本校研究紀要等で公表されている。その実績を下記に記す。

（1）著書と学術論文（査読付）

平成 12 年 4 月～17 年 3 月までの 5 年間における本校教員による著書と学術論文（査読付）の総数を学科別にグラフで示す（資料 A－1－②－3)。著書の総数が 47 冊，教員一人当たり 0.6 冊，1 年間あたり 9.4 冊/年，0.12 冊/（年・人）である。学術論文（査読付）の総数は 220 編，教員 1 人当たり 2.7 編，1 年あたり 44 編/年，0.54 編/（年・人）である。

（2）国内学会と国際会議（Proceeding 付）

平成 12 年 4 月～17 年 3 月までの 5 年間における国内学会と国際会議（Proceeding 付）での口頭発表総数を学科別にグラフで示す（資料 A－1－②－4)。国内学会での口頭発表総数は 877 件，教員 1 人当たり 10.8 件，1 年間あたり 175.4 件/年，2.17 件/（年・人）である。国際会議（Proceeding 付）での口頭発表総数は 202 件，教員 1 人あたり 2.5 件，1 年間当たり 40.4 件/年，0.5 件/（年・人）である。

（3）解説等と研究紀要

平成 12 年 4 月～17 年 3 月までの 5 年間における解説等と研究紀要の総数を学科別にグラフで示す（資料 A－1－②－5)。解説等の総数は 146 編，教員 1 人あたり 1.8 編，1 年間あたり 29.2 編/年，0.36 編/（年・人）である。研究紀要の総数は 145 編，教員 1 人あたり 1.8 編，1 年間あたり 29 編/年，0.36 編/（年・人）である。

（4）技術相談（1 年間）とその他の講演

平成 16 年度の技術相談と平成 12 年 4 月～17 年 3 月までの 5 年間におけるその他の講演（シンポジウム，講習会，講座等）の総数を学科別にグラフで示す（資料 A－1－②－6)。技術相談（1 年間）は 280 件，教員 1 人あたり 3.5 件である。その他の講演の総数は 530 件，教員 1 人あたり 6.5 件，1 年あたり 106 件/年，1.31 件/（年・人）である。

次に，これらの研究活動を通して，自主研究から基盤・先行研究として進展し，外部資金（科学研究費補助金，各種科学研究振興財団，奨学寄附金）の導入に至った実績を表に示す（資料 A－1－②－7)。同表には，地元企業を中心とする企業等との受託・共同・実用化研究の実績も示している。平成 16 年度，科学研究費補助金は，11 件，18,300 千円であった。共同研究は，20 件，19,565 千円，受託研究は，1 件，1,050 千円，奨学寄附金は，30 件，16,211 千円であった。16 年度は共同研究の伸びが著しい。奨学寄附金は県内企業等からの提供が大きくなっている。これらの成果としての共同研究と特許（出願を含む）の総数を平成 12 年 4 月～17 年 3 月までの 5 年間について学科別にグラフで示す（資料 A－1－②－8)。5 年間の共同研究の総数は 110 件，教員 1 人あたり 1.4 件，1 年間あたり 22 件/年，0.27 件/（年・人）である。特許の総数は 26 件，教員 1 人あたり 0.3 件，1 年あたり 5.2 件/年，0.06 件/（年・人）である。

次に，産学交流促進委員会，産学交流室を中心とする活動について述べる。平成 16 年度は奈良県内での産官学交流の更なる拡大を図るとともに，各種事業の充実を目指した。また，大阪の産業集積地や行政機関を視野に入れた活動の広域化を推し進めた。

奈良県内の活動では，大和郡山市（商工観光課）との交流を深め「元気城下町づくり商工フェア」に参画した。平成 15 年度にスタートした元気城下町クラブに平成 16 年度も多

くの教職員が参加し，研究成果のパネルを展示し，会合での交流の中から技術相談が生まれている。生駒市との交流では，生駒地域産学連携ものづくり構築事業の一環として実施された「産学連携等による共同研究マッチング事業」で先端加工技術研究会を発足させ，本校教員 2 名と企業 6 社が参画した。また，テクノパークなら工業団地との交流も生まれ，技術交流会を 2 回実施している。奈良県産業科学振興室との連携においては，都市エリア産学官連携促進事業や地域結集型共同事業について計画・立案した。

奈良県外との活動においては，八尾市異業種交流会，中小企業サポートセンター及び八尾ものづくり協議会との交流を深めた（資料 A－1－②－9)。近畿経済産業局とのつながりにおいては，「技能伝承と技能人材育成」についての調査研究に参画するとともに，シンポジウムを開催した。

国際交流の取組としては，平成 15 年度訪問した中国東北大学，軋制技術及連軋自動化国家重点実験室（遼寧省瀋陽市）のスタッフの訪問を受け，技術交流，共同研究の打ち合わせを行った（平成 16 年 5 月 28 日）（資料 A－1－②－10)。また，（独）国際協力機構（JICA）によるトルコ共和国の工業高校への教育支援も行っている（資料 A－1－②－11)。展示会については，神戸，大阪，奈良で合計 6 回の出展を行い（資料 A－1－②－12)，多くの企業とのつながりが生まれた。

資料Ａ－１－②－１　研究活動を示す資料（卒業研究）

平成１７年度 電気工学科 卒業研究発表会プログラム

平成 18 年 2 月 13 日（月）午前 9 時より 主任挨拶

会場：大講義室、　講演時間１人８分（発表:6 分　質疑応答:2 分）

指導教官	研　究　題　目	研究生	時刻	司会者
中村助教授	ペンアップ時の移動量を利用した文字切り出し	岩崎　健太	09:05	藤田
	ストロークの個人性を表す特徴量の検討	中村　誠之	09:13	
	配字・字形の特徴を用いたオフライン署名照合	吉川　真央	09:21	
井村教授 石飛助手	三相誘導電動機のＶＶＶＦ制御	岩田　修幸	09:29	大谷
	ヒステリシスコンパレータを用いたコンバータの直流側電圧制御	國弘　幸佑	09:37	
	高濃度イオンクラスタ発生用電源システムの開発	田中健太郎	09:45	
	IH クッキングヒータの高性能化に関する研究	野村　和哉	10:53	
	ハイブリッドコンバータの研究（I）	村田　悠	10:01	
休　　憩				
京兼教授	フッ素系ゲル電解質を用いた Li イオン二次電池の開発	土居　智輝	10:30	中村 石飛
	高イオン導電性ゲル電解質を用いた色素増感太陽電池の基礎研究	宮崎　悟	10:38	
	スパッタリング法を用いた膜厚制御による PUE ソフトアクチュエータの基礎研究	山田　真嗣	10:46	
桐島講師	ＶＲＭＬによる３次元物体閲覧システムの開発	梶井　義弘	10:54	
	画像処理によるＬＥＤ点滅周波数推定に関する研究	小林　政善	11:02	
	拡張現実感の介護ロボット制御への応用	畑田　和良	11:10	
藤田助教授	金属－酸化物同時電析法による金属－酸化物グラニュラ薄膜の作製	鈴木敦世志	11:18	
	微小 pH 電極の作製と界面 pH の測定による電気化学反応の解明	瀧　勇気	11:26	
	磁性微粒子への絶縁皮膜の形成	濱田　啓太	11:34	
	パルス電析法による Co-Pt 薄膜磁石の作製	弓場　央嗣	11:42	
休　　憩（写　真・昼　食）				
成田教授	ＡｖｉＳｙｎｔｈのＧＵＩ化に関する研究	岡　達也	13:00	土井 山本
	漢字画像の特徴量を用いた手書き文字認識についての研究	木下　知子	13:08	
	電気実験用ｅ－ラーニングシステムの開発に関する研究	木村　健治	13:16	
	音楽の高周波領域における分析に関する研究	嶋岡　俊朗	13:24	
	漢字要素の合成に関する研究	田中　大貴	13:32	
大谷講師	生物の初期視覚機能に基づくビジョンチップの考案と LSI 設計	田中　康祐	13:40	
	ＣＭＯＳイメージセンサとＦＰＧＡによる画像処理システムの検討	田中　聡	13:48	
	電気魚の電気定位機構に基づく水中探索ロボットの設計・製作	安川　真輔	13:56	
	アナログ演算増幅器を用いた動き検出回路の構築	山崎　健太	14:04	
	メタルゲート MOSFET プロセスの検討と IC 設計	山科イサク	14:12	
休　　憩				
土井助教授	色情報に着目した風景画像の特徴解析	池田　達哉	14:40	藤田 桐島
	圧電素子による位置決めセンサの製作	河田　康宏	14:48	
	広範囲型入場者数カウンタの製作	寺下　昌宏	14:56	
	電子楽器テルミンを応用した多次元入力装置	丹羽　厚	15:04	
	振動型サーフェスモータの製作	吉井　大樹	15:12	
藤井教授	宇宙用ワイヤの持続放電に関する研究	川辺　啓太	15:20	
	電子ビーム照射による真空中の沿面放電に関する研究	神社　生朗	15:28	
	油中微粒子の静電除去に関する研究	北浦　良泰	15:36	
	宇宙用太陽電池アレイの持続放電に関する研究	永岡　篤	15:44	
	静電選別装置の高効率化に関する研究	西　裕司	15:52	

終了予定時刻　１６時１５分

（出典　電気工学科保管資料）

資料Ａ－１－②－２　研究活動を示す資料（特別研究）

電子情報工学専攻　平成17年度特別研究発表会プログラム

開催時間:13:00－16:25
開催場所:大会議室

13:00－13:10 電子情報工学専攻代表 挨拶(近藤教授)
13:10－13:15 諸注意・連絡

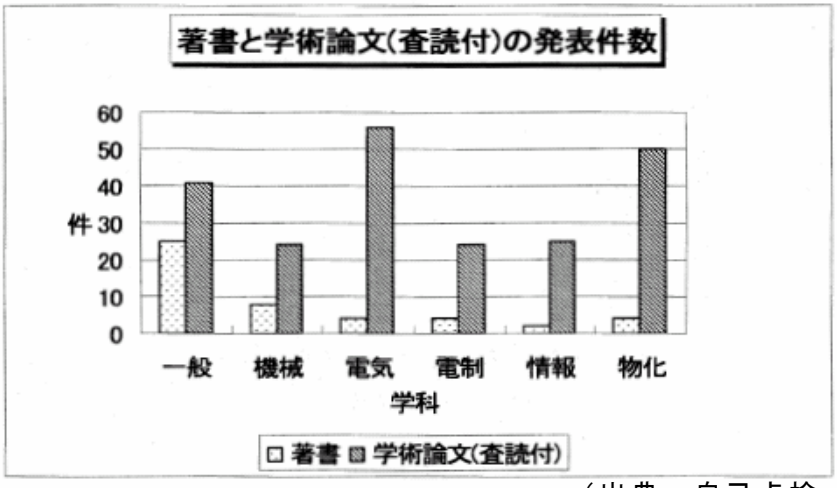
電子情報工学専攻 2年生特別研究発表(13:15—16:15)　(発表時間12分質疑3分)

(司会:世古教授　進行:小山講師)
13:15－13:30 “低面積オーバヘッドを実現する組込み自己テスト容易化設計の実用化”
発表者 青山 瑠美　(世古・山口賢研究室)
13:30－13:45 “blogを用いた意見集約に関する研究”
発表者 荒田 裕介　(小山研究室)
13:45－14:00 “筆跡鑑定支援システムの開発”
発表者 粟津 優作　(上田研究室)
14:00－14:15 “ユーザの動的な情報を利用した抄録作成”
発表者 橋本 和希　(小山研究室)
14:15－14:30 “複数特徴整合を用いた重ね書き文字の分離抽出”
発表者 堀 元　(松尾研究室)
14:30－14:45 “奈良県のデジタル遺跡地図データベース作成に関する研究”
発表者 細見 裕記　(多喜研究室)
14:45－15:00 ＜休 憩＞
(司会:中村助教授　進行:大谷講師)
15:00－15:15 “リモートからのOS指定ブートシステムの開発”
発表者 吉村 裕也　(本間研究室)
15:15－15:30 “パルス電析法によるCo-Pt薄膜磁石の作製”
発表者 甘崎晋次郎　(藤田研究室)
15:30－15:45 “PUEソフトアクチュエータの低電圧駆動化に向けた分子構造制御の研究”
発表者 石田 守　(京兼研究室)
15:45－16:00 “2次元空間上での動的情報を用いた署名照合”
発表者 井本 哲平　(中村研究室)
16:00－16:15 “IH用電源システムの高周波化に関する研究”
発表者 中島 啓介　(井村・石飛研究室)

16:15－16:25 講評(専攻代表, 学外参加者)　＜終了＞

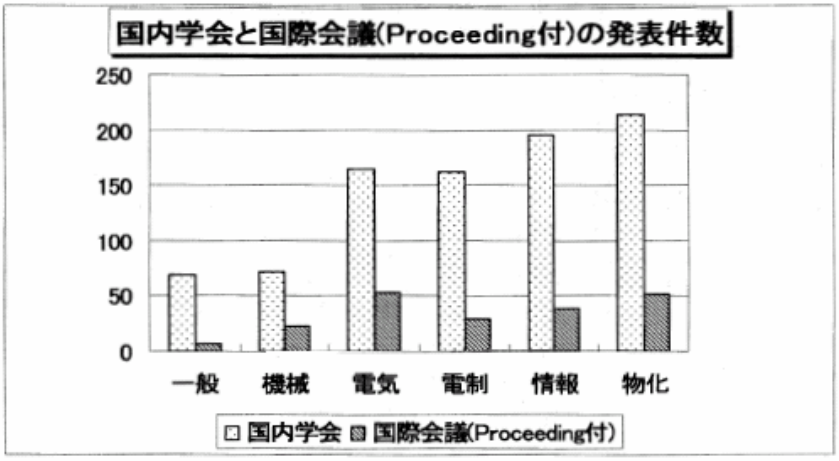
（出典　学生課統合学科事務室保管資料）

資料Ａ－１－②－３　研究活動成果を示す資料（1）



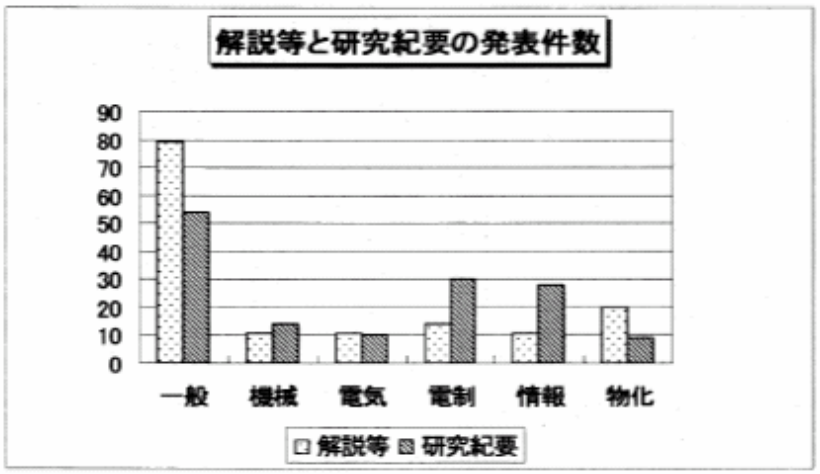
（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－４　研究活動成果を示す資料（2）



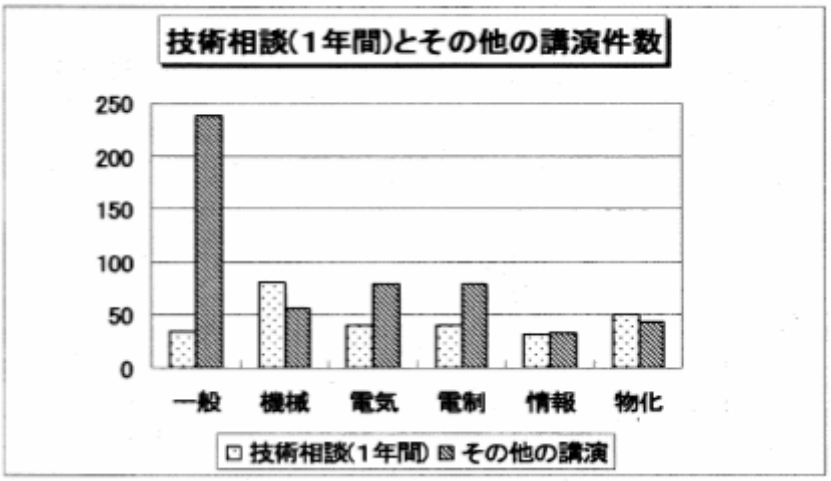
（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－５　研究活動成果を示す資料（3）



（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－６　研究活動成果を示す資料（4）



（出典　自己点検・評価報告書）

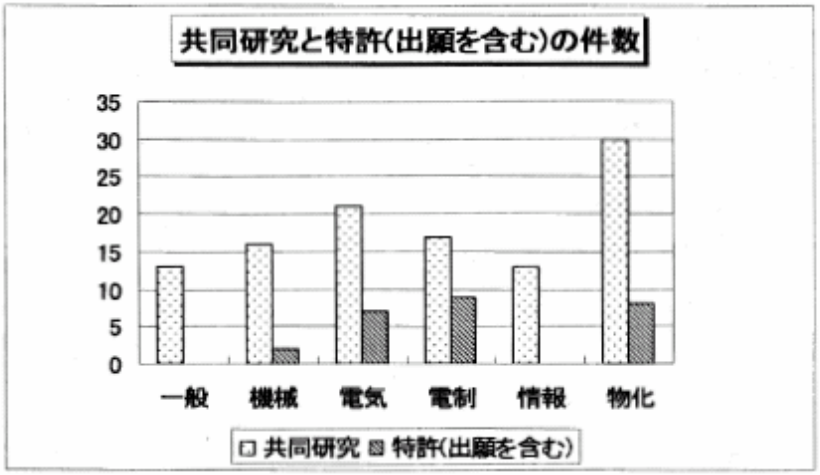
資料Ａ－１－②－７　外部資金受け入れに関わる資料

（単位:円）

学科名	科学研究費補助金		共同研究（産学連携等研究費）		受託研究（産学連携等研究費）		奨学寄付金		うち県内		うち県外	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成12年度	14	40,600,000	0	0	1	150,000	23	17,110,000	7	6,850,000	16	10,260,000
平成13年度	14	33,600,000	4	6,727,000	1	150,000	18	21,605,000	5	11,410,000	13	10,195,000
平成14年度	14	18,400,000	4	1,900,000	1	400,000	16	13,838,000	7	6,240,000	9	7,598,000
平成15年度	11	15,300,000	8	2,900,000	0	0	14	15,663,000	7	8,943,000	7	6,720,000
平成16年度	11	18,300,000	20	19,565,000	1	1,050,000	30	16,211,000	15	9,911,000	15	6,300,000

（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－８　研究成果に関わる資料（5）



（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－９　産学交流活動に関わる資料

（2）奈良高専技術セミナー　－シリーズ1・制御の基礎から応用まで－

1．開催時期：平成16年8月～12月の5回（月1回），金曜日 18:00～19:30
2．開催場所：八尾市文化会館（プリズムホール）会議室2
3．対　　象：八尾市中小企業，東大阪市中小企業，奈良県中小企業
4．講　　師：（5名）電子制御工学科　飯田　賢一　　樫　弘明　　矢野　順彦
　　機械工学科　　平　俊男　　酒井　史敏
5．後　　援：奈良県中小企業支援センター，八尾市中小企業サポートセンター
6．内　　容：

8月6日（金）　第1回　制御の基礎
～古典制御からインテリジェント制御へ～(飯田)
・制御の基礎（状態方程式と伝達関数）
・古典制御から始まるさまざまな制御手法について
キーワード：古典制御，現代制御，ロバスト制御（最適制御，H∞制御），適応制御，学習制御，強化学習，ファジィ理論，遺伝的アルゴリズム，ニューラルネットなどの工学的応用

9月3日（金）　第2回　制御系設計の基礎
～フィードバック制御からロバスト制御の考え方～
(酒井)
・制御対象のもつ不確かさや外乱による影響
・H∞ループ整形法による制御系設計，柔軟構造物や磁気浮上系への適用例

10月1日（金）　第3回　学習制御に関する話（樫）
・学習制御の基礎
・ロボットアームの制御に学習制御を適用した研究結果など

11月5日（金）　第4回　ファジィ理論の制御への応用に関する話（矢野）
・ファジィ理論の基礎
・超音波モータの制御にファジィ理論を用いた場合，PID と比較を含めた研究結果など

12月3日（金）　第5回　遺伝的アルゴリズムの制御への応用に関する話（平）
適応制御に関する話（飯田）
・遺伝的アルゴリズムの基礎
・歩行型ロボットの制御に遺伝的アルゴリズムを用いた研究結果など
・適応制御の基礎

（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－10　国際交流の取組例（1）

２．２．９．国際交流

（1）「中国東北大学・軋制技術及連軋自動化国家重点実験室と
奈良工業高等専門学校・機械工学科との交流会

日　時：２００４年5月２８日（金）９：３０～１３：３０
場　所：奈良高専　第１会議室
出席者：中国東北大学訪日団
中国東北大学・軋制技術及連軋自動化国家重点実験室
副主任　教授　劉　相華
教授　張　殿華
教授　朱　伏先
高級工程師　牛　文勇
高級工程師　李　建平
講師　何　純玉
奈良工業高等専門学校
副校長　教授　桑　生一郎（物質化学工学科）
産学交流室長　教授　小畠　耕二
機械工学科
主任　教授　和田　任弘
副主任　教授　野々垣　稔
教授　岩井　保善
教授　矢尾　匡永
助教授　小柴　孝
助教授　坂本　雅彦
助教授　平　俊男
講師　廣　和樹

（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－11　国際交流の取組例（2）

（2）「トルコ共和国におけるアナトリア工業高校への支援（研修生の専門教育）」
1）研修の背景・目的
トルコにおいては，自動制御学科をアナトリア工業高校イズミール校・コンヤ校に設置することで，中堅技術者を養成する日本型工業教育のモデルを導入し，トルコの産業界のニーズに合致した人材を育成することを目標に，独立行政法人国際協力機構（JICA）によるプロジェクトが平成12年から実施されている。トルコは，プロジェクトの効果を全国に普及させるべく，他のアナトリア工業高校２０校に自動制御学科を設立し，さらにその学科を担う教員を養成すべく教員養成センターの設立を計画している。
しかしながら，本プロジェクトの効果を全国に普及させるためには，新学科の担い手となる教員の能力向上が不可欠となる。こうした観点から本研修では，普及拠点対象校教員の専門教育に関するスキルアップを図ると共に，日本式の工業教育と学校運営等について理解し，各校のモデルケースとなることを目的とする。特に高専においては，高度な専門教育と研究に焦点を合わせて研修を実施する。
2）本研修に求める成果・到達目標
① 研修員氏名：ビュレント・バルダル　(Mr. Bulent VARDAL)
トルコ共和国 イズミール・マザール・ゾルルアナトリア工業高校
情報電子科教諭
1977年1月16日生まれ（27歳）
② 到達目標
・初等教育から高等教育までの教育行政全般について理解する。
・実践的な活動を通して，日本における工業教育の意義や役割を理解する。
・教科書，教員研修システム，学校運営，学科運営等について理解する。
・工業自動化技術教育において，情報電子科での主要担当科目であるコンピューターネットワーク，コンピュータ応用，計算機ソフトウエア，デジタル信号処理，シリアル・ポート制御，ロボットアーム制御に関する基礎技術，あるいは関係技術を修得する。
・本年は，特にファイナルプロジェクトに関する計画立案および実施方法についても視野に入れて研修を行なう。
・また昨年の反省項目として日常会話等をスムーズに行なうため，初級日本語（会話）学習を留学生等と共に実施することで，研修効果が向上するように配慮する。
3）研修項目と担当者および研修日程
① 研修項目
デジタル信号処理の学習。
コンピュータ応用・計算機ソフトウエアと教材作成。
シリアルポート制御と教材作成。
多関節ロボットアーム制御と教材作成。
リヤルロボットの試作と制御実験。
コンピューターネットワークトレーニングと教材作成。
UNIXプログラミング（X-Window，Socket Programming）の学習。
ファイナルプロジェクトの計画立案。
初級日本語（会話）学習。
② 研修担当者
土井滋貴：デジタル信号処理（DSP）・PICの応用・計算機ソフトウエア・シリアルポート制御の基礎学習と教授法，ファイナルプロジェクトの実施計画，教材作成。
早川恭弘：多関節ロボットアーム制御の基礎と応用実験，教材作成。
桐島俊之：UNIX プログラミング（X-Window，Socket Programming）の基礎学習と教授法，制御システム実験と教材作成。
西野貴之：コンピューターネットワークに関する基礎と応用実験，教材作成。
大谷真弘：PICマイコンの応用，ファイナルプロジェクトの実施計画と助言，教材作成に関する助言。
藤田直幸：LAB VIEW による自動計測実験，ファイナルプロジェクトの実施計画。
中西　薫：初級日本語（会話）学習。
京兼　純：リヤルロボットの試作と制御実験，ファイナルプロジェクトの計画立案と教授法，教育および学校運営に関する助言。研修計画・研修生活全般。
③ 研修日程
平成16年11月8日～平成17年3月22日

（出典　自己点検・評価報告書）

資料Ａ－１－②－12　展示会参加に関わる資料

２．２．１０．展示会への出展

（1）「城下町商工フェア―」市制施行５０周年記念事業
期　間：平成１６年９月１８日（土）～１９日（日）
場　所：松下電器産業（株）松下ホームアプライアンス社奈良工場
奈良高専出展：機械工学科，電気工学科，電子制御工学科，物質化学工学科の
４学科より出展。研究紹介パネル，ロボット，アクチュエータ，
流動抵抗低減管路などの展示。
奈良高専参加者：校長，泉，小畠，坂本，早川，土井，和田，京兼，福田，声
越，中谷，俣野，穴田ほか。

（2）「近畿特許流通ファー２００４神戸」
平成１６年度文部科学省大学知的財産本部整備事業
（近畿産学官連携ビジネスショウ２００４神戸）
期　間：平成１６年１０月１４日（木）～１５日（金）
場　所：神戸国際展示場２号館（神戸ポートアイランド）
奈良高専出展：産学交流室の展示・土井助教授の面モーター展示
奈良高専参加者：小畠，土井

（3）「中小企業総合展２００４　in　KANSAI」
期　間：平成１６年１０月２７日（水）～２９日（金）
場　所：インテックス大阪
奈良高専出展：産学交流室の展示・土井助教授の面モーター展示
奈良高専参加者：小畠，土井

（4）「生駒ものづくりフェア―」
期　間：平成１６年１１月５日（金）
場　所：奈良先端科学技術大学院大学
奈良高専出展：産学交流室の展示
奈良高専参加者：小畠，穴田

（5）「第３回元気企業ビジネスフェア―NANTO」
期　間：平成１６年１２月１日（水）～２日（木）
場　所：マイドームおおさか３Ｆ
奈良高専出展：産学交流室の展示，たたら製鉄および日本刀の展示（小畠）
コーテッド超硬工具の展示（和田）
奈良高専参加者：小畠，和田，穴田，土井，木村
アルバイト：渡邉，安田（専攻科学生）

（6）「ビジネスマッチング博２００４－八尾産業博」
期　間：平成１６年１２月１日（水）～２日（木）
場　所：マイドームおおさか１Ｆ
奈良高専出展：産学交流室の展示，ロボットの展示（櫟，矢野）
奈良高専参加者：櫟，矢野，小畠，和田，穴田，土井，木村

（出典　自己点検・評価報告書）

（分析結果とその根拠理由）

平成 12 年 4 月～17 年 3 月までの 5 年間における著書，学術論文（査読付），解説等，国内学会，国際会議（Proceeding 付）での口頭発表の総数を合算すると 1492 件（研究紀要，技術相談は除く）となり，教員 1 人が 5 年間で発表した件数は 18.4 件/人，教員 1 人が 1 年間で発表した件数は 3.68 件/（年・人）となる。これ以外に，技術相談，雑誌投稿論文，研究紀要,学協会での講習会等の講師,ハンドブック等への技術資料の提供等を加えると，教員 1 人が 1 年間に発表する件数はかなりの数になる。このことからも，活発な研究活動が日常的に行われていることがわかる。

また，産学連携に関しては，技術相談や共同研究が増え，平成 16 年度の技術相談は 280 件となった。平成 14 年度から産学交流室の活動を活性化させたため，その成果が翌年以降に出ている。平成16年度の技術相談の増加に伴い共同研究の件数も20件と大幅に増加し，共同研究の総額も平成 15 年度に比べ約 4 倍になっている。受託研究も増えるとともに奨学

寄附金の件数もかなり多くなった。技術相談件数が増加したのは，フォーラムやセミナーを通じての本校の PR や研究シーズ集を機会あるごとに配布したことによる。

以上のことから，研究の目的に沿った活動の成果が挙げられている。

観点 Ａ－１－③：　研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

機構教員顕彰推薦を行うにあたり，年に一度教員へ自己採点表としてアンケートが実施される。その項目として，

- 研究活動の状況（最近 5 年間）
  - 著書・論文等件数
  - 科学研究補助金等の受託
  - 奨学寄附金，受託研究，共同研究等の受託（産学連携）及び特記事項
  - 口頭発表，講演等の特記事項（国際会議招待講演等）
- 学会及び社会における活動状況（最近 5 年間）
  - 学会役員歴
  - 海外協力，社会活動歴
  - 地域協力活動歴
  - 産学連携活動歴

があり（資料 Ａ－1－③－1），それぞれの項目について，教員自身が定量評価し，集計されている。

学校長，３主事，専攻科主任，各学科主任等から構成される「点検・評価委員会」を毎月開催し，評価を行なうとともに，毎年度「自己点検・評価報告書」（資料 Ａ－1－③－2）を発行している。

本校内に，複数の国立大学教授，県中学校長会会長，工業技術センター所長，行政，県工業会，報道関係等の外部有識者からなる外部評価委員会（平成 17 年度から運営諮問会）を設置している（資料 Ａ－1－③－3）。毎年 1 回運営諮問会を開催し，本校の教育と研究の評価を行っている。教員の研究活動についても，実績や今後の研究活動について検討を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

研究活動や産学連携活動に関する教員の自己評価を行っている。また，点検・評価委員会でも教育研究の評価を行っている。さらに，運営諮問会においては，外部有識者がさまざまな視点から本校の教育研究を評価している。

以上のことから，研究活動の実施状況や問題点を把握して改善を図っていくための体制が整備され，機能している。

資料Ａ－１－③－１　研究活動に関する教員の自己評価に関する資料

（教員の自己採点表）

4、研究活動の状況（最近５年間）　（２０点）

・著書・論文等件数

著書	；	編
学術雑誌への論文発表	；	編　（但し、ＦＤ活動で挙げた教育論文は除く）
紀要等への論文発表	；	編
学会発表等	；	件　（含：国際会議）
科学研究費補助金申請	；	件
特許出願等	；	件

・科学研究補助金等の受託
・奨学寄付金、受託研究、共同研究等の受託（産学連携）および特記事項
・口頭発表、講演等の特記事項（国際会議招待講演等）

［定量評価］

１）著書論文・特許等件数（１０点満点；１０以上は１０とする）
上記に基づき累計件数＝（　）を記入して下さい。（著書と査読付き論文は×２）

２）科学研究費補助金（５点満点；５点以上は５とする）
上記に基づき累計件数＝（　）を記入して下さい。（１年単位で集計）

３）奨学寄付金，受託研究，共同研究等件数（５点満点；５点以上は５とする）
上記に基づき累計件数＝（　）を記入して下さい。（１年単位で集計）

6、学会および社会における活動の状況（最近５年間）　（１５点）

・学会役員歴

・海外協力，社会活動歴

・地域協力活動歴（公開講座を含む）

・産官学連携活動歴

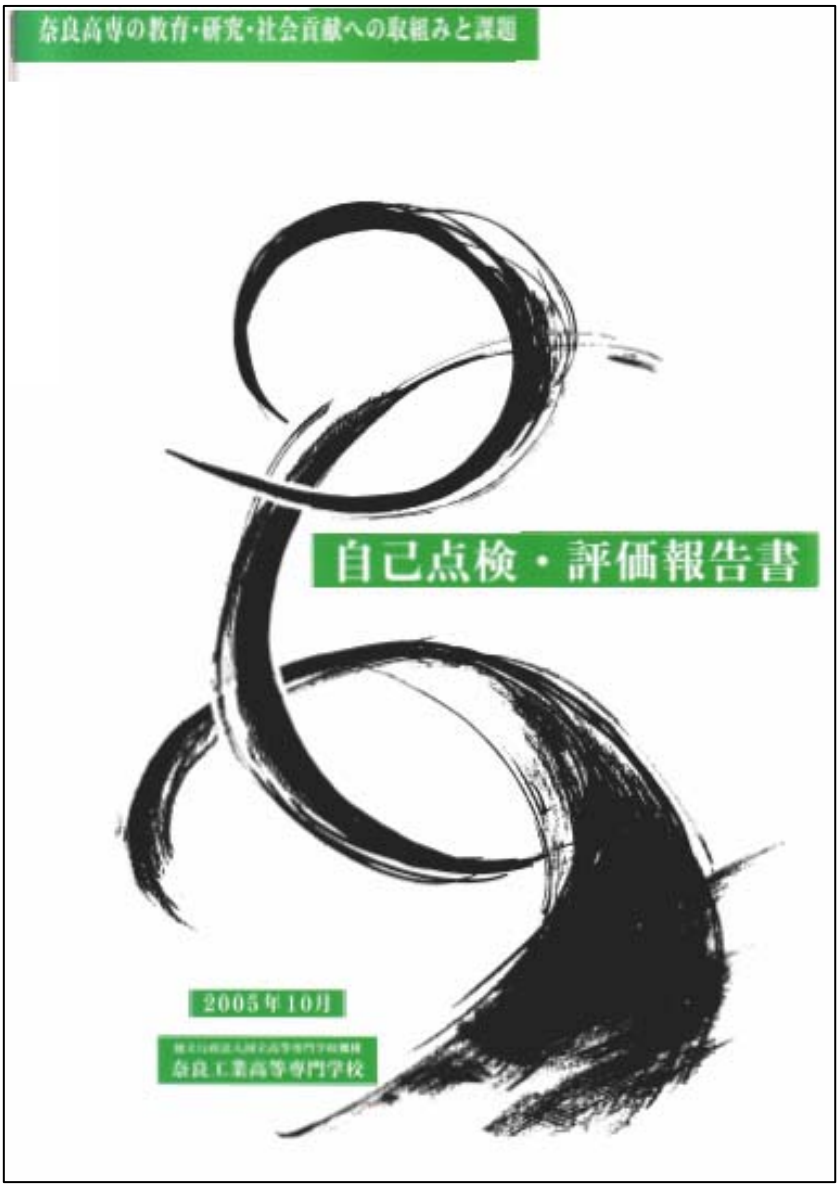
・その他広い範囲で活動歴があれば評価して下さい。

［定量評価］（１５点満点；１５点以上は１５とする）

上記に基づき，就任期間，活動期間の長短に関わらず１件２ポイントとして累計し、
累計ポイント数＝（　）を記入して下さい。

（出典　庶務課作成資料）

資料Ａ－１－③－２　自己点検・評価報告書（表紙）



（出典　庶務課保管資料）

資料Ａ－１－③－３　外部評価に関わる資料

平成１６年度　奈良工業高等専門学校外部評価委員会出席者名簿

委員長	米津宏雄 氏	（豊橋技術科学大学　電気・電子工学系　教授）
委員	荒木弘治 氏	（奈良県工業技術センター　所長）
	板橋知義 氏	（奈良工業会　専務理事）
	上田　清 氏	（大和郡山市長）
	木戸出正繼 氏	（奈良先端科学技術大学院大学　情報科学研究科　教授）
	福田将人 氏	（奈良県商工労働部新産業創造課　課長）
	和田　守 氏	（三和澱粉工業株式会社　取締役　研究所長）

学校側出席者

校長	一岡芳樹	（点検・評価委員長）
副校長（教務主事）	泉　生一郎	（点検・評価委員長補佐）
学生主事	矢尾匡永	
寮務主事	桐川　修	
専攻科主任	阪部俊也	
情報メディア教育センター長	宮本止戈雄	
ネットワーク管理室長	成田紘一	
一般教科主任	木村倫幸	
機械工学科主任	和田任弘	（点検・評価委員長補佐）
電気工学科主任	京兼　純	
電子制御工学科主任	福田和廣	
情報工学科主任	近藤勝也	
物質化学工学科主任	河越幹男	
産学交流室長	小畠耕二	
事務部長	東　正憲	
庶務課長	俣野　正	
会計課長	畑　基	
学生課長	吉田泰彦	
（陪席者）		
庶務課専門員	西尾義美	
庶務課庶務係長	穴田善昭	
庶務課人事係長	滝本健治	
会計課総務係長	舟窪　優	
学生課教務係長	前田弘人	

（出典　外部評価報告書）

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・産学交流室は，本校から地域への情報発信機能，地域を中心とする企業からの技術相談窓口としての機能を持ち，学部相当の工科系の高等教育機関を持たない奈良県下の産官学連携の拠点としての役割を担っている。

・科学研究費補助金の応募，共同研究，受託研究，技術相談等の件数が多い。

・一般教科，専門５学科の全教員が学術の進展動向，産業界等の動向を把握し研究活動を日常的に活発化させ，研究活動の成果件数が多い。

（改善を要する点）

該当なし

（3）選択的評価事項Ａの自己評価の概要

本校は研究活動の目的と指針に則り，全校的に研究体制，研究支援体制がとられ，産学交流促進委員会，産学交流室を中心に，地域と連携を密にした活動が進展している。特に，産学交流室は，学部相当の工科系の高等教育機関を持たない奈良県において産学官共同研究の中心的役割を担っている。教員自身は学術動向の把握により研究活動を活発に行ない，これらの研究成果を卒業研究，特別研究へフィードバックし，学生への教育の質的向上が図られている。さらに，これらの成果と実績は産学連携による共同研究・受託研究の推進，あるいは科学研究費補助金の採択増へつながっている。

（4）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

選択的評価事項Ｂ　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

（１）観点ごとの分析

観点Ｂ－１－①：　高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の中期目標には，その前文に教育理念が次のように謳われている（資料Ｂ－１－①－１）。

資料Ｂ－１－①－１　（前文）

本校は，奈良県唯一の工科系高等教育機関として，奈良県はもとより近隣の府県からも大きな期待を寄せられてきた。激しく移り変わる社会の中，今後も引き続き，その期待に応えるためには，地元産業のみならず，国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていくことが肝要であると考える。

（出典　奈良高専の中期計画における年度計画　）

「実践的かつ専門的技術者及び研究者」の育成をめざす高専は，絶えずその知識や技術を社会に還元していく責務があり，本校でも，一例をあげれば公開講座規程（資料Ｂ－１－①－２）において，地域社会に対する教育サービスの目的が以下のように明記されている。

資料Ｂ－１－①－２　（目的）

第２条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）における公開講座は，本校の広報活動の一環として，本校における学術研究の成果を広く地域住民並びに社会一般に開放し，生活上，職業上必要な知識の普及と一般教養の向上を図ることを目的とする。

（出典　奈良工業高等専門学校公開講座規程）

その他，産業界への技術支援，技術者のキャリア・アップ教育，地域住民の生涯教育や社会活動への支援といった地域社会との連携を視野に入れた，正規課程の学生以外に対する教育サービスが中期計画・年度計画でも重点目標として謳われ，具体的方針が次のように定められている（資料Ｂ－１－①－１）。

資料Ｂ－１－①－１　奈良高専の中期計画における年度計画

Ⅱ　１

（４）教育の質の向上及び改善のためのシステム

②－（１）16年度から引き続き，他高専との連携と学校枠を超えた学生の交流活動の促進を検討する。

②－（２）他高専との学生間の連携を図るための制度的経済支援的な事項を含めて検討する。

②－（３）大阪大学及び奈良先端科学技術大学院大学との交流活動の活性化を検討する。

⑤－（１）現在実施中のインターンシップへの学生の参加を全学的に推進し，受入れ事業所の開拓に努力するとともに，長期インターンシップの実施について検討を始める。

⑤－（２）地域の各企業や工業会等との連携の強化に努め，地方自治体や工業会主催の講演会，見学会，交流会等，各種の行事への参加に努めるとともに，参加者の範囲を拡大していく方策を検討する。

⑥－（１）奈良先端科学技術大学院大学との定期的な協議の場の設定に努め，教育研究交流を実施する。

⑥－（２）平成16年度に締結した協定に基づき，大阪大学工学部・大学院工学研究科との教育研究交流を実施する。
（５）学生支援・生活支援
②－（１）図書館の地域への開放の拡充に努め，地域の利用者に利用しやすい方策を検討する。
②－（２）図書館情報ネットワークシステムの効率的な整備に向けて，長岡技科大を始めとする全国的なネットワークへの参加を検討する。
②－（３）本校教育に必要な図書の系統的な収集に努め，教員・学生の購入希望を反映できる方策を検討する。
②－（４）寄宿舎の保健衛生・住環境，防災体制等の条件整備に努めるとともに，安全管理に対する方策を検討する。
②－（５）寮生の自主的・自立的な活動の支援を推進し，寮生活の相談体制について検討する。
Ⅱ　３
①－（１）多目的施設「YAMATOKORIYAMA Hall of Science and Technology」の設置に関する調査検討を行い，具体的な内容を議論する。
①－（２）地域共同テクノセンター設置に関して具体案を検討し，申請する準備を行う。
②－（１）技術交流フォーラム，イブニングセミナー，産学共同シンポジウム等の効率的な運営を検討する。
②－（２）シーズ集の更新を行い，HPでの公開を含めた情報発信の方法を検討する。
②－（３）技術交流会に加えて，HPでの技術相談システムを検討し，相談件数増加を図る。
②－（４）公開講座，出前授業，学市連携事業等を担当する組織を整理検討し，社会的ニーズを反映した効率的な運用を実現する。
②－（５）教員の研究分野，共同研究・受託研究の成果等の情報を継続して積極的定期的にマスコミ等に発信していく。
③－（１）公開講座の講座数の増加を図り，内容の多様化を実現するために，全学的な協力体制を検討する。
③－（２）公開講座参加者に対して実施したアンケート結果の分析を踏まえ，満足度を高める効果的な方策を継続して検討する。
③－（３）「青少年のための科学の祭典」や「大和郡山親子まつり」をはじめとする理工系イベントに対し，継続して積極的参加を進める。

（出典　奈良高専の中期計画における年度計画）

以上のとおり，本校では，地域社会に対する教育サービスの提供を，学校本来の任務として明らかにし，その達成のための計画や具体的な方針を定めている。

上記の目的に基づいて本校で実施している教育サービスに関する事業は，以下の5種類に大別される。

１．公開講座
２．大和郡山市との学市連携事業（その他各種イベントへの参加）
３．産学交流室の運営
４．大阪大学との交流協定
５．図書館開放事業

以下に各事業の実施計画等について述べる。

１．　公開講座

平成17年度の実施計画は「公開講座実施実績一覧（平成17年度)」(資料Ｂ－１－①－３）に示すとおりである。本校の公開講座は，内容的には一般市民の生涯学習意欲に応えようとするもの，青少年の科学への興味喚起や理科離れに対応しようとするもの及び技術者への技術支援・キャリア・アップに貢献するものに類別される。したがって受講対象者も一般市民ばかりでなく，小中学生限定等多様な形態となっている。また，開催場所も本校の他，講座内容の対象となる奈良県内外の現地に赴く等，参加者が実際に見聞できるよう配慮した事業もある。

広報活動は，大和郡山市広報誌『つながり』への掲載（資料Ｂ－１－①－４），大和郡山市教育委員会への市内小中学校への周知依頼（資料Ｂ－１－①－５），大和郡山市と奈良市の小学校への開催通知（資料Ｂ－１－①－６），各種報道機関への掲載依頼（資料Ｂ－１－①－７),「広報カレンダー」(資料Ｂ－１－①－８）の作成・配布，ホームページへの掲載（資料Ｂ－１－①－９）等を行っている。また公開講座の実施報告記事を掲載した本校の広報誌『Campus』は「学校＆入試説明会」に参加した中学生にも配布している（資料Ｂ－１－①－10)。

以上のように，本校では，広報活動を参加者確保のほかにも本校の取組を広く社会に伝えるという意味で重要なものと位置づけ，積極的に行っている。

平成17年度の公開講座計画のうち,「子どもたちの世界遺産ウォーク」(資料Ｂ－１－①－３）は，応募者の希望に応じて保護者にまで参加対象を広げて実施した。また「楽しく作るライン追跡ロボット」（資料Ｂ－１－①－３）では，定員の４倍に近い応募があったが，設備上やむなく受講者を制限せざるを得なかった。

小中学生対象の「子どもたちの世界遺産ウォーク」「小中学生のためのデジカメ活用講座」は無料で行われている。ただし，同じ小中学生対象ながら実製作を伴う講座である「楽しく作るライン追跡ロボット」「楽しい電気教室」(資料Ｂ－１－①－３）は材料費を有料にしている。「文化探訪講座」「機械設計技術者初級講座」(資料Ｂ－１－①－３）はそれぞれ，一般市民，あるいは機械設計技術者を対象とした講座であり，交通費や資料費にあてるため有料で行われている。なお，本校では平成12年4月，産学交流促進委員会を開設，その対外窓口として産学交流室をスタートさせている (資料Ｂ－１－①－11)。同室の事業は，産学連携を推進することにあるが，事業計画として技術フォーラム及びセミナー・技術交流会等の開催が計画されており，その成果が冊子「産学連携活動」にまとめられている（資料Ｂ－１－①－12)。

２．　学市連携事業

平成17年度の実施計画は,「大和郡山市科学教室（高専教室）実施表」(資料Ｂ－１－①－13),「学市連携『スーパーサイエンスの達人』派遣計画表」(資料Ｂ－１－①－14）に示すとおりである。実施計画は，また本校ホームページ上（資料Ｂ－１－①－15）でも案内している。本校と大和郡山市は，子供の「理科離れ」を防ごうと，本校の教員を小中学校に派遣して科学の授業をすること等を盛り込んだ連携事業協定を結び，本校の教員65名を「スーパーサイエンスの達人」として，子供達にも理解できるわかりやすい内容の教育シーズ集「スーパーサイエンスの達人一覧」(資料Ｂ－１－①－16）を作成して，大和郡山市教育委員会を通じて各小中学校に配布している。各校の要請によって選ばれた「達人」が，理科や総合学習の時間に出前授業をするだけでなく，本校の施設を使用した授業も行っている。また，大和郡山市が市民会館で開催している市科学教室の「少年少女発明クラブ」や「少年少女パソコンクラブ」等も本校教員により分担実施している。

「大和郡山市科学教室（高専教室)」の企画は，５つの専門学科と一般教科がそれぞれ最低１企画以

上提供することとしている。各々の企画の内容は，各学科で学ぶ専門分野と密接な関係を持っており，子供達に対して自然科学や科学技術に対する興味や関心を喚起することはもとより，高専で学ぶことへの関心も持ってもらえる内容となっている。

出前授業の案内・広報活動も公開講座と同様，大和郡山市教育委員会を通じて大和郡山市内にある全小中学校に対し行い（資料Ｂ－１－①－17)，大和郡山市広報誌『つながり』にも掲載した（資料Ｂ－１－①－18)。上記シーズ集「スーパーサイエンスの達人一覧」を示し，各学校のニーズにより選択してもらう形式をとっている。

その他「青少年のための科学の祭典」,「郡山親子祭り」「奈良県アイデア工夫作品展」等各種イベントへの参加等の実績は，冊子「新聞記事に見る奈良高専Topics 2003～2004年度」（資料Ｂ－１－①－19）でも明らかにされている。

本校の教員が，どのような形で一般市民や企業のために役立つか，どういう研究を行っていて，どのようなシーズを持っているか，それらをできるだけわかりやすい表現で情報発信しようという意図で，本校産学交流室が教員シーズ集（資料Ｂ－１－①－20）を刊行している。

3.　産学交流室の運営

本校では，奈良県地域の産官学連携の拠点となるべく，産学交流室を設置・運営している（資料Ｂ－１－①－21)。産学交流室は本校から地域に向けての情報発信基地としての機能と，地域企業からの技術相談窓口としての機能を持ち，奈良県地域の産官学連携の拠点としての役割を担っている。これまでの産学交流室の活動を通じて,「産」である奈良工業会，奈良県異業種交流促進協議会，昭和工業団地協議会の会員企業そして卒業生の企業等,「官」である奈良県行政（新産業創造課，学研協力課)，奈良県工業技術センター，奈良県中小企業振興公社並びに中小企業情報センター等，奈良県の産と官との人的ネットワーク並びに本校卒業生との技術交流ネットワークを構築してきた。産学交流室は，これらの人的ネットワークを有効に活用して，本校教員の教育的並びに研究的シーズを広く公開し，技術者のスキルアップ研修，新しい事業化への技術開発，ベンチャー起業創設の支援等を推進し，奈良県産業の発展に貢献している。これらの事業の成果については,「自己点検・評価報告書　－奈良高専の教育と研究の現状」にある「奈良県工業技術センター技術アドバイザー就任状況」（資料Ｂ－１－①－22),「奈良化学系産官学技術懇話会関係資料」(資料Ｂ－１－①－23),「産学交流室関係新聞記事一覧」の他,「新聞記事に見る奈良高専Topics 2003～2004年度」（資料Ｂ－１－①－24）にも明らかである。

本校は多岐にわたる理工学分野で活躍している専門家を擁しており，企業等が抱える課題に対し，可能な限りの技術相談に応じている。既に奈良県地域活性化アドバイザーをはじめ，講演会講師としての派遣等地域社会に貢献すべく，技術相談窓口を設けている。ホームページ上でも産学交流室案内をしており（資料Ｂ－１－①－25)，企業に向けた教員紹介頁もある（資料Ｂ－１－①－26)。

4.　大阪大学との交流協定

本校と大阪大学工学部・大学院工学研究科は，教育及び学術研究上の協力関係を推進するため，平成16年9月3日大阪大学において教育研究交流に関する包括的な協定を締結した（資料Ｂ－１－①－27)。これに基づき，教育分野では本校学生と阪大生がそれぞれの学校の授業を受講できる相互履修と，それぞれの授業を受講した場合に各校の単位として認める単位互換のほか，本校学生が大阪大学の研究に参加するインターンシップ，本科卒業生の大阪大学工学部3年生への推薦による編入学，専攻科修了生の大阪大学大学院工学研究科博士前期課程への推薦による入学の制度化について具体的に協議を進めることにしている。研究面では共同研究等の実施とこれに伴う研究者交流や相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換を実施することにしている。

5. 図書館開放事業

一般市民に対する学習機会の提供を図る目的で，図書館の開放が平成8年度から行われている。平成18年３月現在，408名が登録され，利用されている。一般利用者への案内や利用実績については広報誌『Campus』及び，本校ホームページでも明らかにされている（資料Ｂ－１－①－28，29，30)。公開講座の参加者に「利用の手引き」や「開館カレンダー」を配付し，図書館利用を呼びかける等の取組を行っている（資料Ｂ－１－①－31，32)。

（分析結果とその根拠理由）

本校において，正規課程の学生以外に対する教育サービスは，中期計画の中で学校本来の任務として明確に示されており，その実施計画や具体的方針が明らかにされている。教育サービスの目的は，分かりやすい表現により社会に公表されている。公開講座，科学教室，出前授業（「スーパーサイエンスの達人」派遣）等の事業が多くの企画により実施され，その内容は，一般市民の生涯学習意欲に応えるもの，青少年の科学への興味喚起や子供たちの理科離れに対応するもの，企業向けの技術支援に関するもの等多岐にわたるが，いずれも本校の教育サービスの目的を十分に意識した内容となっており，学生の参加やインターンシップの受け入れ等の面においても地域社会との連携，協力が成立している。

各事業における広報活動は，単に参加者の確保を図る以外に，本校の取組を社会に広く伝えるための重要なものとして位置づけられ積極的に行われている。また，市民・企業向け教員シーズ集だけでなく，小学生にもわかりやすいシーズ集を刊行し，小中学校，一般市民，企業等に対し情報発信を行っている。

以上のことから，高等専門学校の教育サービスの目的に照らして，公開講座等の正規課程の学生以外に対する本校の教育サービスは，その目的や具体的方針が明確に定められ，計画的に実施されている。

資料Ｂ－１－①－１　奈良高専の中期計画における年度計画

奈良高専の中期計画における年度計画

（前文）

本校は、奈良県唯一の工科系高等教育機関として、奈良県はもとより近隣の府県からも大きな期待を寄せられてきた。激しく移り変わる社会の中、今後も引き続き、その期待に応えるためには、地元企業のみならず、国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていくことが肝要であると考える。

本校は、平成４年に全国の高専に先駆けて専攻科が設置され、本年で１２年目を迎えたが、この間、本科で学んだ教育との関連を重視しつつ、より高度な教育・研究を行ってきた。今後は、専攻科生の定員増も視野に入れ、本科との一層の関係強化を図りながら、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定や特別研究の充実を目指し、その成果を学会発表や特許出願等を通して社会に積極的に発信していくことや、近隣の大学等とも連携し、大学院への進学率の向上にも力を入れていきたい。 一方、本科の方では、国際社会で通用する人材を養成するためにも、特に低学年教育を重視し、英語等の言語教育、理科教育及び数学教育の拡充と徹底を図りたいと考えている。

教育研究等の質の向上については、教官の学位取得率の向上を目指すことや、研究費の重点配分などの評価の徹底、授業内容の学生による評価や教官の相互評価の導入等に努めていきたい。

組織では、より効率的な学校運営を行うための、校長の補佐体制の見直しや事務組織の抜本的な見直しを積極的に進めていく必要があると考える。

安全管理、事故防止については教職員のみならず学生も含めた全学的な危機管理体制の策定をめざす。

施設面では、教育・研究・社会貢献支援・産官学交流等を効率的に実現するための多目的施設として「YAMATOKORIYAMA Hall of Science & Technology」の設置の可能性を模索していくことも考えていきたい。

財務内容の改善については、経費の抑制や資産の適正な管理に努めるとともに、外部資金の導入について積極的に取り組んでいかなければならない。

また、毎年自己点検・評価を行い、それを基に外部評価を受け、奈良高専の実状、課題、改善内容等をホームページや広報誌で公開していく等の方法により、情報を常に外部に向かって発信していくことも重要である。 さらに、国際的文化都市である「奈良」の特徴を最大限に生かすためにも、「文化と技術の融合」、「新しい伝統の創造」を目指した学科の新設・統合や、男女共同参画社会を推進させるために、女子学生が魅力を感じる学科作りも積極的に検討していきたい。

このような役割を果たすため、奈良工業高等専門学校の中期計画を、以下のとおり提言する。

奈良高専の中期計画（平成16年度～20年度）	奈良高専の年度計画（16年度）	奈良高専の年度計画（17・18年度）
１　業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ①中期目標期間中は毎事業年度毎に管理的経費対前年度比１％の削減を目標とし、その達成のための具体的計画を策定し、経費削減を積極的に進める。	①－（１）管理的経費の抑制可能な項目を調査するとともに、電子情報化等の推進により、印刷物、刊行物等の経費削減を図る。	①－（１）管理的経費の抑制可能な項目の調査を踏まえて、電子情報化等を更に推進させることにより、印刷物、刊行物等の経費削減を図る。
	①－（２）既に実施している外部委託経費等については、契約内容等の精査・見直しを図るとともに、新たな外部委託業務の可否についても検討する。	①－（２）既に実施している外部委託経費等については、契約内容等の精査・見直しをもとに、より効果的な外部委託業務の可否について検討する。
	①－（３）省資源・省エネルギーの推進を図り、効率的な方策を検討する。	①－（３）省資源・省エネルギーの更なる推進を図り、効率的な方策の具体化を検討する。
②予算配分については、均等配分を見直し、明示された基準による業績等の評価に応じて経費配分を行い、校長のリーダーシップが発揮できる経費については、包括的に戦略的経費として重点配分を行う。	②－（１）均等配分方針を見直し、業績等の評価に応じた傾斜配分方式の検討を始める。	②－（１）均等配分方針の見直しを継続的に実施し、業績等の評価に応じた傾斜配分方式を推進する。
	②－（２）校長裁量経費としての配分や包括的な戦略的経費として、共同プロジェクト等の特殊事項に対する重点配分のあり方を検討する。	②－（２）校長裁量経費や包括的な戦略的経費の配分として、共同プロジェクト等本校の教育を特徴付ける計画や事項に対する重点配分を推進する。

1

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－２　奈良工業高等専門学校公開講座規程

奈良工業高等専門学校公開講座規程

（平成３年２月１日制定）

（趣旨）
第１条 奈良工業高等専門学校学則第６１条に基づき，公開講座に関する必要な事項を定める。
（目的）
第２条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）における公開講座は，本校の広報活動の一環として，
本校における学術研究の成果を広く地域住民並びに社会一般に開放し，生活上，職業上必要な知識の普及と一
般教養の向上を図ることを目的とする。
（開設時期及び場所）
第３条 公開講座は，授業に支障のない時期に開設する。
２　公開講座は，本校の諸施設を使用して行う。ただし，必要がある場合は，本校外で実施することができる。
（講師）
第４条 公開講座の講師は，本校の教職員とし，校長が委嘱する。ただし，必要がある場合は，本校外の学識経験
者を講師として委嘱することができる。
（修了証書）
第５条 公開講座において，所定の時間の３分の２以上出席した者には，修了証書を授与することができる。
（講習料）
第６条 公開講座の受講料の額は，独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規
則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３５号）第１４条で定められた額とする。
２　講習料は，公開講座の受講者を決定した際に速やかに徴収するものとする。
３　既納の講習料は，返還しない。
（公開講座担当）
第７条 一般教科及び専門各学科に，公開講座を円滑に行うため，公開講座担当を置く。
（公開講座会議）
第８条 広報委員会委員長補佐は，公開講座を実施するため，公開講座会議を開催し，その議長となる。
２　公開講座会議は第７条で定めた教職員をもって構成する。
（事務）
第９条 公開講座に関する事務は，庶務課で行う。

附　則
１　この規程は，平成３年２月１日から施行する。
２　公開講座について（昭和５７年１１月２２日教官会議承認）は廃止する。
附　則（平成４年４月１日）
この規程は，平成４年４月１日から施行する。
附　則（平成１３年１月６日）
この規程は，平成１３年１月６日から施行する。
附　則（平成１４年４月１日）
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。
附　則（平成１６年４月１日）
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－３　公開講座実施実績一覧（平成17年度）

公開講座実施実績一覧　（平成１７年度）

講　座　名	開催日時	対　象	募集人数 （受講者数）	担当学科 または委員会等
子どもたちの世界遺産ウォーク	5月5日（平城宮跡・東大寺）	小学生5～6年生及び保護者	50 （7）	一般教科
文化探訪講座ＸⅣ「源平争乱と東大寺再興～重源没後８００年～」	7月5日（奈良県新公会堂・東大寺） 7月15日（兵庫県小野市浄土寺）	一般社会人	50 （34）	一般教科
機械設計技術者初級講座	6月8日，6月9日，6月22日，6月23日，7月6日，7月7日，7月26日，7月27日，8月3日，8月4日，8月24日，8月25日，9月21日，9月22日，9月28日	一般社会人 （機械設計技術者）	20 （12）	機械工学科
楽しい電気教室	8月4日・8月5日	小学生高学年生	32 （32）	電気工学科
楽しく作るライン追跡ロボット	7月25日・7月26日	小学校5～6年生	20 （21）	電子制御工学科
小中学生のためのデジカメ活用講座	7月24日	小学生、中学生	30 （24）	情報工学科

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－４　大和郡山市広報誌『つながり』への掲載依頼

平成１７年３月２８日

大和郡山市企画政策部秘書広報課　御中

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校
庶務課長　　俣　野　　正

広報「つながり」への情報の掲載について（依頼）

標記のことについて，別紙のとおり掲載情報を送付しますので，よろしくお取り計らい願います

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－４　大和郡山市広報誌『つながり』(№865，2005/6/1)

information

男女共同参画社会の実現に向けた市民講座

男女が互いに理解し、真の平等・対等な関係が築けることを目的とした講座です。

6/26(日)	7/4(月)	7/29(金)
どうなる？どうする？母子家庭 講師　シングルマザーズフォーラム 関西　中野　冬美氏	「精神障害」の正しい認識 講師　生駒こころのクリニック 植田　昭一氏	家族をひらく「ひきこもり」「ニート」からの脱出をめざして 講師　NPOニュースタート事務局 橋爪　久実氏

時間＝午後1時30分～3時
場所＝市民交流館
定員＝50人（先着順）
受講料＝無料（託児有）
申込・問合せ＝住所・氏名・電話番号・託児所要、不要・希望受講日を記入して、はがきまたはFAXで、人権施策推進課（〒639－1198北郡山町248－4、FAX53・1049）へ。電話での申し込みもできます。（内線332）

老人介護支援センターによる「転倒骨折予防教室」

【骨粗鬆症にならないために、今の食生活をふりかえる】
日時＝6月7日(火)午後1時30分～3時30分
場所＝社会福祉会館
対象＝おおむね60歳以上の人
講師＝管理栄養士
参加費＝無料
申込・問合せ＝社会福祉協議会老人介護支援センター　☎54・8880（吉岡）

【転倒予防の大切さについて・転倒予防体操】
日時＝6月9日(木)午後1時30分～3時30分
場所＝昭和地区公民館
対象＝おおむね60歳以上の人
講師＝理学療法士　新名　久枝氏
参加費＝無料
申込・問合せ＝あすなら苑老人介護支援センター　☎58・4165（苗村）

赤十字水上安全法講習会

【救助員養成コース】
日時＝6月26日(日)、28日(火)～30日(木)午前9時30分～午後4時30分（受付午前9時）
場所＝26日は県解放センター、28～30日は県営プール
受講資格＝満18歳以上で次の泳力基準をおおむね満たす人（クロール・平泳ぎ100m以上、横泳ぎ25m以上、立ち泳ぎ1分以上、潜行15m以上）
定員＝50人（申込多数の場合は抽選）
教材費＝1500円
認定証＝講習会を皆勤し検定に合格した人には、日本赤十字社水上安全法救助員の認定証を交付

【一般コース】
日時＝6月28日(火)
場所＝県営プール
受講資格＝満15歳以上（泳げない人でも受講可）
定員＝20人（申込多数の場合は抽選）
教材費＝1000円

【共通】
内容＝水上安全法について・水と生活・水の事故防止・泳ぎの基本と事故保全・救助・応急手当
持ちもの＝筆記用具・水着・トレーニングウェアー・保険証（写し）・昼食・プールサイドでの履物
受講証＝所定の科目を皆勤し、検定に合格した人には受講証交付
申込・問合せ＝往復はがきで、希望コース・住所・氏名・性別・生年月日・電話番号・職業を記入して、〒630－8133奈良市大安寺1－23－2日本赤十字社奈良県支部事業推進課☎0742・61・5666へ。6月10日必着。市厚生福祉課（内線532）

奈良工業高等専門学校公開講座

講座名・内容	開催日程	対象・定員・受講料等
源平争乱と東大寺再興～重源没後800年～ 東大寺や播磨浄土寺を探訪します。	日時＝7月5日(火) 午前9時～午後5時 場所＝奈良県新公会堂、東大寺 日時＝7月15日(金) 午前9時～午後5時 場所＝兵庫県小野市（浄土寺他）	対象＝市民一般 定員＝50人 受講料＝7,200円 申込期限＝6月21日
小中学生のためのデジカメ活用講座 デジカメの基本的な使い方を学ぼう。	日時＝7月24日(日) 午前10時～午後4時 場所＝奈良工業高等専門学校	対象＝小・中学生 定員＝30人 受講料＝無料 申込期限＝7月8日
楽しく作るライン追跡ロボット 市販のキットを改造して、ライン追跡ロボットを作ろう。	日時＝7月25日(月)、26日(火) 午前10時～午後4時 場所＝奈良工業高等専門学校	対象＝小学校5～6年生 定員＝20人 受講料＝3,100円 申込期限＝7月11日
楽しい電気教室 電気の性質を学んで小型ソーラーカーを作り、屋外レースをしよう。	日時＝8月4日(木)、5日(金) 午前9時30分～午後0時30分 場所＝奈良工業高等専門学校	対象＝小学校高学年 定員＝32人 受講料＝3,100円 申込期限＝7月15日

申込＝住所・氏名・電話番号・受講希望講座を記入して、申込期限内に奈良工業高等専門学校庶務課へ。FAXか電子メールでのみ受付。
問合せ＝奈良工業高等専門学校（☎55・6013、FAX55・6019、shomu@jimu.nara-k.ac.jp）
※上記以外の講座もあります。詳しくはホームページ（http://www.nara-k.ac.jp/）で。

◆市役所は〒639－1198　☎53・1151(代)　FAX53・1049

13

（出典　大和郡山市広報誌）

資料Ｂ－１－①－５　大和郡山市教育委員会への市内小中学校への周知依頼

平成１７年３月　日

大和郡山市教育委員会教育長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長
一　岡　芳　樹
（公印省略）

公開講座の開催について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

平素は何かと本校教育にご支援を賜り，厚くお礼申しあげます。

さて，本校では学校開放の一環として公開講座を実施しておりますが，この度，別添募集要項のとおり公開講座を開催することといたしました。

つきましては，別添募集要項により郡山市内の小学校へ周知願いたく，ご協力方よろしくお願いします。

敬　具

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－６　大和郡山市と奈良市の小学校への開催通知

平成１７年３月　　日

（小学校長）　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長
一　岡　芳　樹
（公印省略）

公開講座の開催について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

平素は何かと本校教育にご支援を賜り，厚くお礼申しあげます。

さて，本校では学校開放の一環として公開講座を実施しておりますが，この度，別添募集要項のとおり公開講座を開催することといたしました。

つきましては，別添募集要項により貴校生徒へ周知願いたく，ご協力方よろしくお願いします。

敬　具

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－６　小学校配布先一覧（大和郡山市・奈良市）

別紙2（小学校長あて）

		学校名	郵便番号	住所	募集要項
大和郡山市	1	郡山南小学校	639-1134	大和郡山市柳町85	170
	2	筒井小学校	639-1123	大和郡山市筒井町120	130
	3	矢田小学校	639-1058	大和郡山市矢田町966－2	140
	4	平和小学校	639-1103	大和郡山市美濃庄町262	150
	5	治道小学校	639-1115	大和郡山市横田町254	70
	6	昭和小学校	639-1037	大和郡山市額田部北町555	180
	7	片桐小学校	639-1027	大和郡山市池之内町117	170
	8	郡山北小学校	639-1160	大和郡山市北郡山町115	220
	9	片桐西小学校	639-1042	大和郡山市小泉町1618	190
	10	郡山西小学校	639-1028	大和郡山市田中町632	210
	11	矢田南小学校	639-1057	大和郡山市山田町430	140
奈良市	12	奈良女子大付属小学校	631-0024	奈良市百楽園1－7－28	4
	13	奈良教育大付属小学校	630-8301	奈良市高畑町奈良教育大学構内	6
	14	椿井小学校	630-8343	奈良市椿井町25	4
	15	飛鳥小学校	630-8306	奈良市紀寺町785	8
	16	鼓阪小学校	630-8211	奈良市雑司町97	2
	17	済美小学校	630-8325	奈良市西木辻町5－2	6
	18	佐保小学校	630-8113	奈良市法蓮町280－1	6
	19	大宮小学校	630-8115	奈良市大宮町4－223－1	6
	20	都跡小学校	630-8014	奈良市四条大路5－6－1	240
	21	大安寺小学校	630-8133	奈良市大安寺2－15－1	4
	22	平城小学校	631-0811	奈良市秋篠町1394	6
	23	辰市小学校	630-8453	奈良市西九条町1－7－1	5
	24	伏見小学校	631-0842	奈良市菅原町370	6
	25	富雄南小学校	631-0052	奈良市中町4185	210
	26	あやめ池小学校	631-0033	奈良市あやめ池南9－939－39	4
	27	六条小学校	630-8043	奈良市六条2－14－1	320
	28	西大寺北小学校	631-0818	奈良市西大寺赤田町1－6－1	6
	29	大安寺西小学校	630-8135	奈良市大安寺西1-342	6
	30	三碓小学校	631-0046	奈良市西千代ケ丘1-20-9	260
	31	済美南小学校	630-8141	奈良市南京終町676	4
	32	伏見南小学校	631-0845	奈良市宝来5-2-1	5
	33	佐保川小学校	630-8113	奈良市法蓮町229-1	6
	34	奈良育英小学校	630-8113	奈良市法蓮町1000	2
					2896

1／1 ページ

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－７　各種報道機関への掲載依頼

平成１７年３月２５日

報道機関各位

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長
一　岡　芳　樹
（公印省略）

公開講座の開催について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

さて，本校では学校開放の一環として，公開講座を実施しておりますが，この度，本校では別添募集要項のとおり公開講座を開催することといたしました。

つきましては，貴社発行紙に記事掲載方よろしくお取り計らい願います。

敬　具

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－７　依頼先報道機関一覧

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－８　平成17年度広報活動カレンダー

平成１７年度　広報活動カレンダー

奈良工業高等専門学校　17. 3. 8現在

月		行　事　等　関　係		印　刷　物　等　関　係
4月	1日	～　図書館の一般開放（通年）	②	・15日　校報発行（毎月15日発行）
	※	大和郡山市との学市連携に係る事業への教員派遣等（希望のあるたび）	①	・上旬　学生相談室案内の配布
				・編入学募集要項の発行
	※	奈良高専見学会（希望のあるたび）	③	・寮生活のしおり（冊子）発行
	※	市町村行事への参加（希望のあるたび）	②	
5月	5日	公開講座　子どもたちの世界遺産ウォーク	①	・専攻科入学募集要項・入学案内の発行
	21日	～22日　第４２回近畿地区高専体育大会（硬式野球）		・学校概要の発行
				・奈良高専テクノレター（冊子）の発行
				・奈良高専テクノレターの発行
6月	8日	～９月28日（15回）　公開講座 機械設計技術者初級講座	②	・公開講座開催案内ポスター発行
	※	全国高専ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞｺﾝﾃｽﾄ予選		・研究紀要寄稿募集
	8日	奈良化学系産官学技術懇話会	③	・図書館だよりの発行
	※	パートナーシップフォーラム	③	
	※	イヴニングセミナー	③	
7月	2日	～３日　寮祭	②	・奈良高専案内の発行
	5日	・15日　公開講座　文化探訪講座XIV　源平争乱と東大寺再興　～重源没後８００年～	②	・奈良高専ポケットガイド発行
				・学生募集ポスターの発行
	12日	～24日　第４２回近畿地区高専体育大会		・奈良高専テクノレターの発行
	25日	・26日　公開講座　楽しく作るライン追跡ロボット	①	・寮通信の発行
	28日	～29日　体験入学	①	
	※	イヴニングセミナー	③	
	※	公開講座　小中学生のためのデジカメ活用講座　～撮影から編集・自刷まで～	①	
8月	1日	～２日　公開講座　楽しい電気教室	①	・学生募集要項・入学案内の発行
	4日	～11日　第４０回全国高専体育大会		・公開講座開催案内ポスター発行
	※	～10月初旬　中学校訪問	①	
	※	イヴニングセミナー	③	
	※	～12月の第1金曜日　技術セミナー	③	
9月	21日	産官学交流会	③	
10月	※	全国高専ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞｺﾝﾃｽﾄ本選		・奈良高専テクノレターの発行
	初旬	～中旬　中学校進路指導担当者対象入試説明会	①	・ＣＡＭＰＵＳ秋号の発行
	中旬	学習塾指導者対象入試説明会	①	・研究紀要原稿締切
	22日	～23日　入試説明会	①	
	30日	アイデア対決ロボットコンテスト近畿大会		
	※	イヴニングセミナー	③	
11月	3日	大和郡山市「親子まつり」	②	
	5日	～６日　高専祭	②	
	※	夢一化学２１	①	
	※	パートナーシップフォーラム	③	
	19日	～22日　第４２回近畿地区高専体育大会（ラグビー）		
	※	奈良高専フォーラム	③	
12月	4日	アイデア対決ロボットコンテスト全国大会		
1月				・専攻科特別研究発表会プログラム作成
				・寮通信の発行
2月	14日	専攻科特別研究発表会	③	・図書館だよりの発行
				・奈良高専テクノレターの発行
3月	1日	奈良化学系産官学技術懇話会	③	・学生相談室案内作成
	※	パートナーシップフォーラム	③	・専攻科シラバス及び専攻科学生便覧発行
				・専攻科特別研究論文概要集発行
				・専攻科パンフレット発行　・学生生活のしおり発行
				・シラバス発行　・研究紀要の発行

（注）　行事関係の※印は未定，丸数字は次の通り対象を表す。　①小中学生，②地域，③産業界・卒業生

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－９　公開講座のお知らせ

公開講座のお知らせ

▶ [地域の方へ]のページへ戻る　▶ TOP

平成17年度公開講座一覧

小学生・中学生向け

講座名	開催日程	対象・定員・受講料等
子どもたちの世界遺産ウォーク	日時：平成17年5月5日（木） 9:30～15:30 場所：平城宮跡，東大寺	対象：小学校5・6年生 とその保護 定員：50名（25組） 受講料：無料 申込期限：4月21日（木
小中学生のためのデジカメ活用講座 （電子情報通信学会関西支部共催）	日時：平成17年7月24日（日） 10:00～16:00 場所：本校	対象：小学生，中学生 定員：30名 受講料：無料 申込期限：7月8日（金）
楽しく作るライン追跡ロボット	日時：平成17年7月25日（月） ～26日（火） 10:00～16:00 場所：本校	対象：小学校5～6年生 定員：20名 受講料：3，200円 申込期限：7月11日（月
楽しい電気教室	日時：平成17年8月4日（木） ～5日（金） 9:30～12:30 場所：本校	対象：小学校高学年生 定員：32名 受講料：3，200円 申込期限：7月15日（金

※「楽しい電気教室」の開催日は、8月1日～2日から8月4日～5日に変更となりま

一般向け

講座名	開催日程	対象・定員・受講料等
文化探訪講座ＸⅣ 源平争乱と東大寺再興 ～重源没後800年～	日時：平成17年7月5日（火） 9:30～16:00 場所：奈良県新公会堂，東大寺 日時：平成17年7月15日（金） 9:00～18:30 場所：兵庫県小野市（浄土寺他）	対象：市民一般 定員：50名 受講料：7，400円 申込期限：6月21日（火

※「文化探訪講座ＸⅣ」の時間は、上記（赤字）のとおり変更となりました。

機械設計技術者向け

講座名	開催日程	対象・定員・受講料等
機械設計技術者初級講座	日時：平成17年6月8日（水） ～9日（木） 6月22日（水）～23日（木） 7月6日（水）～7日（木） 7月26日（火）～27日（水） 8月3日（水）～4日（木） 8月24日（水）～25日（木） 9月21日（水）～22日（木） 9月28日（水） 18:30～20:30 場所：本校	対象：機械設計技術者 定員：20名 受講料：10，400円 申込期限：5月25日（木

※各講座の受講料が改正されておりますので、ご注意ください。（5月30日修正）

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/kokaikouza17/　　2006/05/11

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－①－10　本校広報誌『Campus』

平成14年度公開講座

親子のためのインターネット入門

総合情報センター　川　邉　涼　子

平成14年度公開講座として総合情報センターでは『親子のためのインターネット入門』と題し、小学生5・6年生、中学生と保護者の方を対象とした講座を開催しました。開催日程は8月22日（木）・23日（金）の2日間、講座内容はインターネットのしくみ、ウインドウズを使おう、ホームページを見よう、メールを送ろう、そして、ホームページを作ろう、でした。講座終了後、受講者の方々（小学5年生～中学3年生10名・保護者の方10名）にご協力いただいたアンケートの集計結果をご紹介します。

1．講座全体について

とてもわかりやすかった	0
わかりやすかった	16
どちらでもない	2
わかりにくかった	0
とてもわかりにくかった	1

2．よくわかった講義内容（複数回答あり）

インターネットのしくみ	9
ウインドウズを使おう	7
ホームページを見よう	9
メールを送ろう	11
ホームページを作ろう	3

3．わかりにくかった講義内容（複数回答あり）

インターネットのしくみ	10
ウインドウズを使おう	1
ホームページを見よう	2
メールを送ろう	5
ホームページを作ろう	8

4．講座日程について

とても長いと思う	1
長いと思う	3
適当だと思う	12
短いと思う	3
とても短いと思う	0

5．講師の態度について

とても良かった	4
良かった	12
普通だった	3
悪かった	0
とても悪かった	0

6．受講料について（保護者の方のみに質問）

とても安いと思う	0
安いと思う	1
適当だと思う	3
高いと思う	5
とても高いと思う	0

7．おうちのパソコンについて
（小・中学生のみに質問）

持っている	9
持っていない	1

その他、アンケートでは「感想および意見」もお聞きし貴重なご意見をいただきました。それらは次のアドレスのWebページに掲載しております。http://www.center.nara-k.ac.jp/KOUZA/をご覧ください。受講者の皆さんが作成されたホームページや講座風景の画像も併せて掲載しております。

文化探訪講座『日本古代文化と朝鮮』について

一般教科教授　大　矢　良　哲

文化探訪講座は今年で11年目を迎えた。11月に講座を終え、ほっとした矢先、年末には公開講座委員会から15年度講座の企画の話が出ている。今講座をやり終えたところで、次年度のことまで考える余裕はない。「誰か良いテーマをください」という心境である。

また、今回の講座概要を春の広報紙に掲載する話もある。これも10年近く恒例となり、毎年同じようなことを書き続けている。私の正直な気持ちは、「誰か代わってよ」という心境である。

今年度は統一テーマを「日本古代文化と朝鮮」として、都合三回、三日間にわたって実施した。第一日目は、国宝第一号として知られる京都・広隆寺の宝冠弥勒菩薩半跏像を取り上げ、同像の知られざる素顔について紹介した。この弥勒菩薩像は、かつて大学生によって指を折られたこと、また韓国の国立中央博物館に所蔵される弥勒菩薩像に酷似していることでも広く知られている。私がこの弥勒像を取り上げた要因は他にあった。

それは私が十数年前に某デパートの古美術展で入手していた広隆寺弥勒の顔の鋳金像を紹介することによって、明治36年頃の修理（整形）前の広隆寺弥勒像の顔が、今の像の素顔より、さらに韓国中央博物館の弥勒像の顔に近似している事実を指摘することにあった。今の広隆寺弥勒の顔は本来の顔ではないのである。昔は顔の全体に漆喰が盛られ、より膨よかな顔であった。私の鋳金像の箱書には、かつて本堂で修理された際本尊の顔に石膏で型を取り保存されていたものを型に、昭和35年に鋳金家大国寿郎が作ったとある。

第二日は「河内の渡来文化」、第三日は「近江湖東の渡来文化」をテーマに日本の中に朝鮮文化を探訪した。

（出典　本校広報誌『Campus』2003年 Spring 第86号）

資料Ｂ－１－①－10 『Campus』配布先

（伺）

印 刷 物　学校だより（CAMPUS 2006 Spring）第 93 号

印刷部数　１，８００部

内 訳	学生（本科・専攻科生）	1,097	部
	教職員	132	部
	後援会役員	70	部
	中学校配付用等（広報用他）	501	部
	計	1,800 部	広報活動経費

仕様　Ａ４版　１２頁
表紙裏表紙カラー印刷、本紙中央４ページカラー印刷

納期　平成 18 年 3 月 15 日
配付　平成 18 年 3 月 17 日　５年専攻科２年卒業式配付、１～４年保護者宛郵送予定
秋号実績　154,600 円（@85.8 円×1,800 冊）授業料収入
広報活動諸経費

（出典　学生課学生係保存資料）

資料Ｂ－１－①－10　学校＆入試説明会における配布資料等

学校＆入試説明会実施計画

１．期　　日　　平成１７年１０月２２日（土），　１０月２３日（日）

２．場　　所　　大視聴覚室　・各専門科棟　他

３．入試説明会　校長，教務主事，学生主事，寮務主事，教務主事補
　　出 席 者　学生課長(司会)

４．日　　程

時間	内容
10:00	
	受　　付
10:30	
	校 長 挨 拶
10:35	
	本校の概要説明 ……教務主事
10:50	
	入 試 説 明 ……教務主事補（金澤・山口・片倉）
11:15	
	質 疑 応 答 ……学生課長
11:35	
	午後の日程説明 ……学生課長
11:45	
	（昼　食・休　憩）
	学寮・クラブ活動・図書館自由見学及び個別相談会
	・学寮　（12:20 集合）……寮務主事・寮務主事補
	・クラブ活動 ……学生主事・学生委員会 他
	・図書館 ……情報メディア教育センター長 他
	・個別相談会（大視聴覚室）……教務主事・教務主事補
12:50	
	大視聴覚室集合
13:00	
	各専門学科・総合情報センター見学及び図書館自由見学
	（13:00 から専門学科へ案内した後，各施設の自由見学）
	・各専門学科 ……学科主任他
	・各学科へ案内・案内所 ……一般教科教員
	・総合情報センター・図書館 …情報メディア教育センター長 他
	・個別相談会（大視聴覚室）……教務主事・教務主事補
15:00	
	片付け
15:30	

５．配布資料等　① 学校説明会リーフレット　② 学校案内　③ 募集要項　④ ポケットガイド
⑤ 奈良新聞記事　⑥ アンケート　⑦ 専門学科作成パンフ　⑧ 本日のスケジュール
⑨ 公開クラブ一覧表　⑩ CAMPAUS

（出典　学生課教務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－11　奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程

奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程

（平成１２年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校に産学交流促進委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）　産学交流促進の基本方針に関すること。
（２）　奨学寄附金の受入れに関すること。
（３）　共同研究の受入れに関すること。
（４）　受託研究の受入れに関すること。
（５）　発明に係る権利の帰属等に関すること。
（組織）
第３条 委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事，学生主事及び寮務主事
（３）　専攻科主任
（４）　一般教科及び専門各学科主任
（５）　専任教員のうち校長が指名した者
（６）　事務部長
２　前項第５号の委員の任期は１年とする。
第４条 委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員会に委員長補佐を置き，前条第１項第４号の委員をもって充てる。
４　委員長補佐は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，その職務を代行する。
（専門部会）
第５条 委員会から付託された事項について調査及び検討を行うため，委員会に専門部会を置く。
２　専門部会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）　委員長補佐
（２）　専攻科主任
（３）　一般教科及び専門各学科から選出された専任教員　各１名
３　前項第３号の委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
４　前項第３号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。
５　専門部会に部会長を置き，前項第２号及び第３号の委員うちから互選する。
（産学交流室）
第６条 産学の技術交流を促進するため委員会に産学交流室を置く。
２　産学交流室に室長を置き，委員長補佐をもって充てる。
３　産学交流室に関しその他必要な事項は，別に定める。
（事務）
第７条 委員会に関する事務は，庶務課及び会計課で行う。

附　則
この規程は，平成１２年４月１日から施行する。
附　則（平成１４年４月１日）
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。
附　則（平成１５年４月１日）
この規程は，平成１５年４月１日から施行する。
附　則（平成１６年４月１日）
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

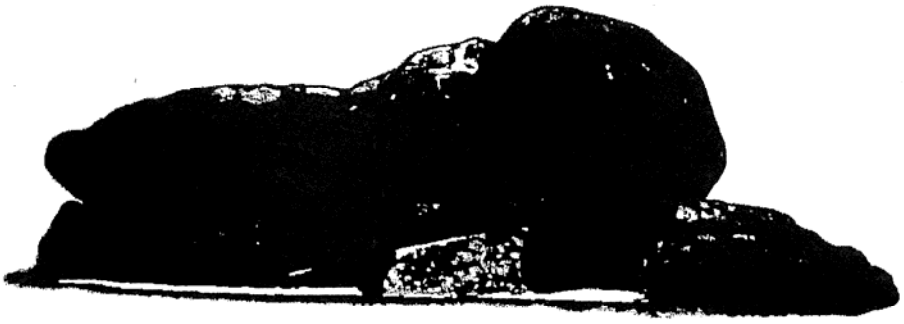
（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－12　産学交流室発行冊子『産学連携活動』(表紙)

産学
連携活動

Report of Joint Industry-College R&D Projects

2004



国立奈良工業高等専門学校
産学交流室
Nara National College of Technology
http://www.nara-k.ac.jp/

（出典　産学交流室発行冊子）

資料Ｂ－１－①－12　産学交流室発行冊子『産学連携活動』(抄)

１．フォーラムおよびセミナーの開催

（１）パートナーシップフォーラム

本フォーラムは平成１３年１２月１日に第１回が開催され、以来毎年２～４回の会合が実施されている。これは主として本校卒業生の産学交流組織である新芽交流会員を対象にしたものであるが、毎回一般市民、企業の経営者や技術者なども参加し、活発なディスカッションが行なわれている。

「第１０回パートナーシップフォーラム」　平成１６ 年７月２４ 日（土）
奈良高専大会議室　参加者　　名

１．特別話題提供
「こんなことはどうでしょうか」
奈良経済同友会　代表幹事　　岡村　元嗣　氏
（岡村印刷工業株式会社　代表取締役社長）

２．奈良高専教官の研究紹介
「静電気・放電の制御と応用」
電気工学科　　教授　　藤井　治久 氏

３．卒業生からのメッセージ
「ヒューマンネットワーク高専との係わり」
オムロン株式会社　エレクトロニクスコンポーネンツ
ビジネスカンパニーエンジニアリングセンター開発センター
グループ長　主幹　榊野　隆弘 氏（昭和47 年度卒）

「第１１回パートナーシップフォーラム」　平成１７ 年１月２９日（土）
奈良高専大会議室　参加者　　名

１．特別話題提供
「奈良県の職員を振り返って」
財団法人　奈良県中小企業支援センター
専務理事　　池田　好紀　　氏
（前奈良県商工労働部長）

２．奈良高専教官の研究紹介
「本校での流体工学に関する研究活動を通して…」
機械工学科　　助教授　　坂本　雅彦 氏

３．卒業生からのメッセージ
「私の知る中国」
クラレトレーディング株式会社
ケミカル部エラストマー課　　宮田　麻里　氏（平成１１年度卒）

（２）奈良高専技術セミナー
－シリーズ１・制御の基礎から応用まで－

１．開催時期：　　平成16 年８月～12月の５回（月１回）、金曜日１８：００～１９：３０
２．開催場所：　　八尾市文化会館（プリズムホール）会議室２
３．対　　象：　八尾市中小企業、東大阪市中小企業、奈良県中小企業
４．講師（５名）電子制御工学科：飯田　賢一・樫　弘明・矢野　順彦
機械工学科　　：平　俊男・酒井　史敏
５．後　　援　：奈良県中小企業支援センター、八尾市中小企業サポートセンター

（出典　産学交流室発行冊子）

資料Ｂ－１－①－13　平成17年度 大和郡山市科学教室(高専教室)実施表

平成１７年度　大和郡山市科学教室（高専教室）実施表

奈良工業高等専門学校　18．2．6現在
市担当：社会教育課　渡辺辰

テーマ名（担当学科）	（区分）	開催日時	対　象	募集人員（参加者数）	実　施　概　要　等
電気モーターのしくみを学ぶ（電気工学科）	親子手作り教室 一日工作教室 発明クラブ ○ 高専教室	7月17日(日)	小学生（4年以上）	２０名まで 〔１３名〕	電気の不思議，手作りモーター，電池作成を通して科学の面白さを体験してもらう。（受講生の傷害保険加入）
いろいろな電池を作ろう（物質化学工学科）	親子手作り教室 一日工作教室 発明クラブ ○ 高専教室	8月27日(土)	小学生（4年以上）	２４名まで 〔９名〕	化学の力を使うと，さまざまなものから電気エネルギーが作り出せることを学びます。具体的には備長炭，アルミホイル，食塩，などの身近な材料を使って電池を作ってもらいます。また化学的な反応が起こるとリトマス試験紙の色が変化していく様子なども観察してもらいます。 （受講生の傷害保険加入）
大和郡山市少年少女パソコン教室（パソコンによるアニメーション体験）（全３回）（情報工学科）	○ パソコン教室	9月3日(土) 9月17日(土) 10月1日(土) （3回連続講座）	小学４年以上	２４名まで ①〔１７名〕 ②〔１７名〕 ③〔１５名〕	（市企画分・アニメーション部門） ・線画アニメーション ・モデリングクレイによるアニメーション ・アニメ発表会
回転翼機の飛行原理を学ぶ（ゴム動力へリコプターの制作）（機械工学科）	親子手作り教室 一日工作教室 発明クラブ ○ 高専教室	11月19日(土)	小学生（4年以上）	２４名まで 〔１８名〕	ゴム動力ヘリコプターの製作や机上実験を通して，固定翼・回転翼機の飛行原理を理解する。 （受講生の傷害保険加入）
静電気ってなんだ！電気をためてモーターを回そう（一般教科）	親子手作り教室 一日工作教室 発明クラブ ○ 高専教室	2月4日(土)	小学生（4年以上）	２０名まで 〔１７名〕	冬などの乾燥した時期にセーターを脱ぐときに下着がまとわりついたりパチパチと鳴ったりします。これは物と物がこすれるときに発生する電気のしわざであって，この電気を「ためさつ電気」又は「静電気」と呼びます。この教室では，いろいろな物をこすって電気をつくり静電気の不思議を探検します。そして電気をためる装置（コンデンサー）を作り，その装置を使ってクルクル回るモーターをつくって遊びます。（受講生の傷害保険加入）

※　電子制御工学科は市の予算の都合により来年度実施。

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－14　平成17年度 学市連携「スーパーサイエンスの達人」派遣計画表

平成17年度　学市連携「スーパーサイエンスの達人」派遣計画表

奈良工業高等専門学校

市担当：学校教育課 當麻(とうま)指導係長　18. 2. 8現在

整理番号	派遣番号	教員氏名	学科(職名)	月　日(曜日)	時　間	派遣(希望)小・中学校名	学年(人数)	授業科目・内容	備　考
1	1	榊原和彦	一般 助教授	7月7日(木) 7月11日(月)	10:00～11:00 10:00～12:00	郡山北小学校	6年(109)	超低温の世界を探る	組別(3組)に実施 職員補助者1人
2	2	成田誠一	電気 教授	8月10日(水)	9:30～16:00	奈良高専で	幼稚園教職員 48人	幼稚園の先生対象にパソコン教室(ワードを中心に学級通信を作れるよう)をお願いしたい。	学生補助者9人 職員補助者2人
3	3	矢野順彦	電制 助手	8月24日(水)	9:00～12:00	郡山西小学校	教職員30人	児童を指導するためのパワーポイントの活用の仕方について学習したい。	学生補助者6人
4		榊原和彦	一般 助教授	10月18日(火)	10:00～11:00 11:00～12:00	矢田南小学校	6年(87)	超低温の世界を探る　「不思議発見・感動体験」をお願いします。	組別(2組)に実施 職員補助者1人
5	4	泉 生一郎	物化 教授	10月20日(木)	9:35～12:15	郡山西小学校	4年(94)	「太陽の光でエネルギーをため，環境をきれいにする」	3組に実施 職員補助者1人 学生補助者4人
6	5	服部敬也	電制 教授	11月17日(木)	9:30～11:00	郡山北小学校	5年(104)	ロボットの実演と一部操作体験(スターキング，レスキューロボット他)	3組を2班に分けて実施 職員補助者1人 学生補助者5人
7	6	藤田直幸	電気 助教授	11月25日(金)	15:00～15:45	郡山西小学校	科学クラブ (4～6年31)	消えるビーカー，光ファイバー，ずり抜ける黒塗などの実験を通じて，光の屈折，偏光などについて学ぶ	派遣学生4人(PBL)
8	7	片倉勝己	物化 助教授	1月26日(木)	9:35～12:15 (2～4時限)	郡山西小学校	3年(110)	「電池づくりの達人」 鉛電池を使っての学習の発展として身近な材料を活用した電池作りを見せてほしい。	組別(3組)に実施 学生補助者2人
9	8	井村榮仁	電気 教授	2月1日(火)	9:35～12:15 (2～4時限)	郡山西小学校	6年(87)	子どもたちにとってわかりやすくモータについての講話をしてほしい。	学生補助者0人
10		片倉勝己	物化 助教授	2月8日(水)	8:50～12:45 (2～4時限)	郡山東中学校	1年(98)	「電池は息をするか」 鉛蓄電池等身近な材料を活用した電池作りの体験等	組別(3組)に実施 学生補助者1人
11		藤田直幸	電気 助教授	2月27日(月)	9:40～11:30	郡山北小学校	3年(112)	磁石の達人	(調整中) 4組を2組にして実施 学生補助者　人

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－15　大和郡山市学市連携事業

大和郡山市学市連携事業

▶[地域の方へ]のページへ

大和郡山市学市連携事業（科学教室・スーパーサイエンス

本校と大和郡山市は、子どもの「理科離れ」を防ごうと、本校の教員を小中学校に派遣するなどを盛り込んだ連

本校の教員65人を「スーパーサイエンスの達人」として、子ども達にも理解できるわかりやすい内容の教育シー
中学校に配布し、各校が選んだ「達人」が、理科や総合学習の時間に出前授業をしたり、本校の施設を使用した

また、大和郡山市が市民会館で開催している科学教室の「少年少女発明クラブ」や「少年少女パソコンクラブ」な
います。

科学教室（平成１７年度）

日時	内容	対象者	担当学科
7月17日(日)	電気モータのしくみを学ぶ	小学生(4年生以上)	電気工学科
8月27日(土)	いろいろな電池を作ろう	小学生(4年生以上)	物質化学工学科
9月 3日(土) 9月17日(土) 10月 1日(土)	少年少女パソコン教室	小学生(4年生以上)	情報工学科
11月19日(土)	回転翼機の飛行原理を学ぶ	小学生(4年生以上)	機械工学科
2月 4日(土)	静電気ってなんだ！	小学生(4年生以上)	一般教科

科学教室（平成１６年度）

日時	内容	対象者	担当学科
5月29日(土)	エンジンって何だ	小学生(4年生以上)	機械工学科
7月24日(土)	連続講座① 電気モータのしくみを学ぶ	小学生(4年生以上)	電気工学科
7月31日(土)	連続講座② センサのしくみを学ぶ	小学生(4年生以上)	電子制御工学科
8月 1日(日)	連続講座③ 楽しく作るライン追跡ロボット	小学生(4年生以上)	電子制御工学科
8月28日(日)	いろいろな電池を作ろう	小学生(4年生以上)	物質化学工学科
12月 4日(土) 12月18日(土) 1月8日(土)	少年少女パソコン教室	小学生(4年生以上)	情報工学科

スーパーサイエンスの達人派遣【出前授業】（平成１７年度）

開催日	内容	派遣小・中学校等	担当教員	学科
7月 7日(木) 7月11日(月)	超低温の世界を探る	郡山北小学校	榊原　和彦	一般教科
8月10日(水)	パソコンによる学級通信の作成	本校 (幼稚園教職員)	成田　紘一	電気工学科
8月24日(水)	プレゼンテーションソフトウェアの活用	郡山西小学校	矢野　順彦	電子制御工学科
10月18日(火)	超低温の世界を探る	矢田南小学校	榊原　和彦	一般教科
	太陽の光でエネルギーをため			

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－①－16 スーパーサイエンスの達人一覧（抄）

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－17「スーパーサイエンスの達人一覧」送付先

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－18　大和郡山市広報誌『つながり』(№879, 2006/1/10)

information

科学教室　高専教室受講者募集

～静電気って何だ？～

市科学教室では、奈良高専の協力を得て楽しい工作会を開催します。

日時＝２月４日㈯　午前９時10分～正午
場所＝奈良工業高等専門学校
対象＝小学４年生～６年生　20人
※申込多数の場合は抽選。結果ははがきでお知らせします。
内容＝いろいろな物をこすって電気をおこし、静電気の不思議を体験します。そして、電気をためる装置（コンデンサー）を作り、その装置を使ってクルクル回るモーターを作って遊びます。
参加費＝材料費、保険代込みで５００円
申込＝1月24日（必着）までの平日の午前8時30分～午後５時の間に、通知用のはがきを持って、市社会教育課へ。郵送の場合は、往復はがきに、住所・氏名・電話番号・小学校名・学年・性別を記入して、下記へ。
申込・問合せ＝〒６３９－１１９８北郡山町２４８－４　市社会教育課（内線７３２）

記憶力フォーラム

円周率暗唱世界一の原口證さんを講師にお迎えして記憶のノウハウや仕組みに触れてみませんか？

日時＝２月４日㈯午後４時～６時
場所＝やまと郡山城ホール
内容＝①講話「円周率は波瀾万丈の物語だ！」
②記憶力フォーラム／パネラー＝原口證（円周率暗唱世界一）、久保田競（京都大学名誉教授）、ウィリアム・リード（ブザンジャパン代表）、上田忠男（稗田阿礼研究家）ほか（敬称略）
※参加費無料、申込不要
問合せ＝市社会教育課（内線７３１）

こおりやま大百科

⑨

郡山城外堀

こおりやまじょうそとぼり

郡山城のお堀といえば、まず城址の周りを取り囲んでいる中堀（なかぼり）や内堀（うちぼり）が思い浮かびます。これらの堀は、城の中枢部分においては斜面を堅固な石垣で固めており、さらに往時には石垣の上に櫓（やぐら）や塀が巡っていました。

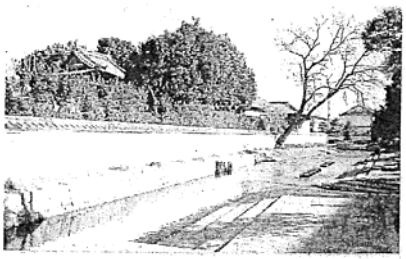
しかし郡山城には、こうしたお城の郭（くるわ）そのものを取り囲む堀のほかに、城下町や家臣団の住んでいた部分をぐるりと取り囲む「外堀（そとぼり）」と呼ばれるものがありました。その延長は五・三キロにも及びます。現在、外堀の一部（南東部分）は「外堀緑地公園」として整備されていますので、そこから「外堀」の名を知った人も多いと思います。

郡山城の外堀は、文禄五年（一五九六）、時の郡山城城主であった増田長盛（ましたながもり）がたいへんな労力を割いて普請（ふしん＝土木工事）したものです。東側では秋篠川の流路を東に曲げて、もとの川跡を堀とし、西は丘陵の端部を切岸（きりぎし＝人工的に急な斜面を作ること）した上で点在する溜池をつないで堀を巡らしました。また、北側は自然の谷地形を利用したと考えられます。

ところで、外堀の内側には土を盛り上げた土居（どい）が設けられていました。この土居は、堀を掘った土などを盛ったもので、堀とセットで外敵の侵入を阻む役割を持っていました。郡山城の土居は松が植えられ、あるいは藪に覆われた雄大なものでしたが、近年の開発によって、今日ではその姿をほとんど目にすることができません（矢田町通りの薬園八幡宮の裏手などでは比較的良好に残っています）。

郡山城の外堀と土居は、長きにわたって郡山の人々を外敵や洪水から守ってきた、郡山にとっての「縁の下の力持ち」的存在です。われわれ市民にはその景観を後世に伝え、顕彰して行く義務があるのではないでしょうか。

問合せ＝社会教育課文化財係（内線７３３）



▶外堀緑地公園から見た薬園八幡宮

広報「つながり」は自然保護のため、再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK
R100

（出典　大和郡山市広報誌）

資料Ｂ－１－①－19 『新聞記事に見る奈良高専Topics 2003～2004年度』(表紙)

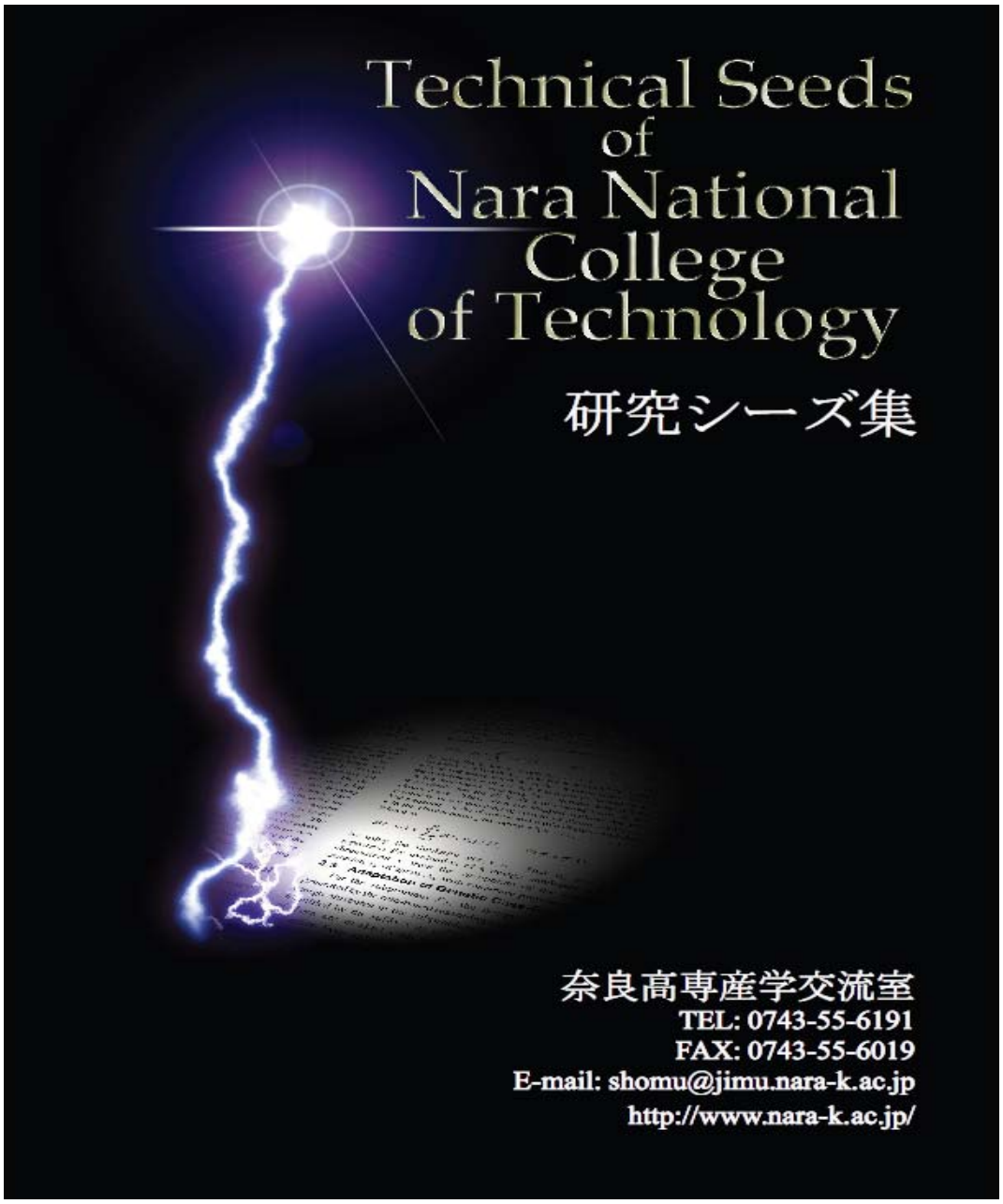
（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－19 『新聞記事に見る奈良高専Topics 2003～2004年度』(抄)

〔非開示につき省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－20　『研究シーズ集』（表紙）



（出典　産学交流室発行冊子）

資料Ｂ－１－①－20　『研究シーズ集』(目次抄)

研 究 シ ー ズ 集 目 次

シーズ集発刊に寄せて　　校長　一岡 芳樹

整理番号　　研 究 テ ー マ

（校　長）

1．光学、電子工学、計算機工学を融合した情報・通信システムの研究（一岡）…… 1

（機械工学科）

2．高強度鋼の遅れ破壊について（岩井）…… 3

3．ダイレスフォーミング法による難加工性金属材料の加工（工具を用いない塑性加工法）（小畠）…… 4

4．パイプのプラネタリービード加工機の開発（新しい冷間回転成形加工法）（小畠）… 5

5．炭素鋼の焼もどし温間鍛造(高加工性および強靭化のための加工熱処理法)（小畠）… 6

6．たたら製鉄における和鋼の製造と刃物鋼としての工業的利用(小畠)…… 7

7．(1) 工具材の開発 (2) 難削材切削における工具摩耗 (3) 高能率切削法の開発 (4) 高能率研削法の開発(和田)…… 8

8．(1)ジャーナル滑り軸受の混合潤滑摩擦特性となじみに関する研究(2)なじみ過程に関する研究(3)人工関節用セラミックスのトライボロジーに関する研究(野々垣)…… 9

9．複雑流路内の高分子流体の流れ解析に関する研究(小柴)…… 11

10．円管内壁面へのマイクロファイバー（不織布）植毛による流動抵抗低減(坂本)…… 12

11．高圧空気により駆動される船舶用推進装置…… 13

12．Al-Si 合金の摩擦，摩耗，PVD コーティングの工具摩耗，負圧測定法の確立(広)…… 14

13．ILC アルゴリズムによる連続時間システム同定（酒井）…… 15

（電気工学科）

14．電磁環境性に適合する半導体電力変換装置の基礎研究(井村)…… 17

15．高イオン導電性ゲル電解質の開発と Li イオン二次電池の試作(京兼)…… 18

16．フラレノール・ＣＮＴ導入ＰＵＥフィルムの電歪・圧電効果に関する研究（京兼）…… 19

17．色素増感型太陽電池の基礎研究(京兼)…… 20

18．静電気と放電の抑制･防止と応用に関する研究(藤井)…… 21

19．教育支援プログラムの開発(宮田)…… 22

20．空間フィルタを用いた速度計測(山内)…… 23

21．筆跡に現れる個人性の抽出と個人認証への応用(中村)…… 24

22．注視点の学習と選択制御に基づく身振りの実時間画像認識(桐島)…… 25

23．生物の初期視覚機構に学んだアナログビジョンチップの製作(大谷)…… 26

（表紙作成　機械工学科　平俊男）

（出典　産学交流室発行冊子）

資料Ｂ－１－①－20　『研究シーズ集』(抄)

奈良工業高等専門学校 研究シーズ集((技術的) 教育的)			整理番号	1
研究者の職・氏名	校長・一岡芳樹	所属学科		
専門分野	応用物理学、光学、光工学、光・電子情報システム、画像システム			
研究テーマ	光学、電子工学、計算機工学を融合した情報・通信システムの研究			

キーワード(3 つ以上)

次世代超容量超高速情報・通信システム、各種光システム、光学設計・評価、微細光学素子

研究内容・活用用途

1．光学、電子工学、計算機工学を融合した次世代の超容量超高速情報システムの研究に従事。システムアーキテクチャ（構成法）、基盤要素技術開発、超精密光学素子、などの研究に従事・指導。
2．フェムト秒パルスレーザーを利用する超高速光計測技術と応用
3．デジタルカメラに代わる次世代の情報獲得インターフェースシステム開発
4．新しい光情報・通信システム、各種光学素子、新回折光学素子などの開発
5．画像システムの開発、応用　など

技術相談、共同研究、研修会などについて対応可能な事項

1．光関連産業との技術コーディネート、人材育成
2．光学、光工学、光情報・通信システム全般にわたる講義、講演、教育
3．国の産学官連携プロジェクト等の概要紹介、フォーメーション、申請等の相談

（出典　産学交流室発行冊子）

資料Ｂ－１－①－21　奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程

奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程

（平成１２年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校に産学交流促進委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）　産学交流促進の基本方針に関すること。
（２）　奨学寄附金の受入れに関すること。
（３）　共同研究の受入れに関すること。
（４）　受託研究の受入れに関すること。
（５）　発明に係る権利の帰属等に関すること。
（組織）
第３条 委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事，学生主事及び寮務主事
（３）　専攻科主任
（４）　一般教科及び専門各学科主任
（５）　専任教員のうち校長が指名した者
（６）　事務部長
２　前項第５号の委員の任期は１年とする。
第４条 委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員会に委員長補佐を置き，前条第１項第４号の委員をもって充てる。
４　委員長補佐は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，その職務を代行する。
（専門部会）
第５条 委員会から付託された事項について調査及び検討を行うため，委員会に専門部会を置く。
２　専門部会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）　委員長補佐
（２）　専攻科主任
（３）　一般教科及び専門各学科から選出された専任教員　各１名
３　前項第３号の委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
４　前項第３号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。
５　専門部会に部会長を置き，前項第２号及び第３号の委員うちから互選する。
（産学交流室）
第６条 産学の技術交流を促進するため委員会に産学交流室を置く。
２　産学交流室に室長を置き，委員長補佐をもって充てる。
３　産学交流室に関しその他必要な事項は，別に定める。
（事務）
第７条 委員会に関する事務は，庶務課及び会計課で行う。

附　則
この規程は，平成１２年４月１日から施行する。
附　則（平成１４年４月１日）
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。
附　則（平成１５年４月１日）
この規程は，平成１５年４月１日から施行する。
附　則（平成１６年４月１日）
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－22 奈良県工業技術センター技術アドバイザー就任状況

資料４４

奈良県工業技術センター技術アドバイザー就任状況

（本人が辞退等しない限り継続）

○平成１２～１３年度

所属学科	氏名	専門分野	備考
機械工学科	小畠耕二	機械（塑性加工）	
電気工学科	成田紘一	電気（コンピュータ）	
電気工学科	京兼純	電気（電気電子材料）	
物質化学工学科	泉生一郎	化学（材料）	

○平成１４年度

所属学科	氏名	専門分野	備考
電気工学科	高橋晴雄	電気（光電子工学）	
機械工学科	小畠耕二	機械（塑性加工）	
電子制御工学科	阪部俊也	電気（計測、センサ）	
情報工学科	工藤英男	情報（ソフトウエア工学）	
物質化学工学科	片倉勝己	化学（工業電気）	

○平成１５年度

所属学科	氏名	専門分野	備考
機械工学科	小畠耕二	機械（塑性加工）	
電子制御工学科	阪部俊也	電気（計測、センサ）	
機械工学科	坂本雅彦	機械（流体工学）	
電子制御工学科	早川恭弘	電気（ロボット工学）	
物質化学工学科	片倉勝己	化学（工業電気）	

○平成１６年度

所属学科	氏名	専門分野	備考
電気工学科	藤田直幸	電気（電気電子材料）	

－ 215 －

（出典　奈良高専「自己点検・評価報告書」2005年10月）

資料Ｂ－１－①－23 奈良化学系産官学技術懇話会関係資料

資料４５

奈良化学系産官学技術懇話会関係資料

懇話会加入企業名

１．東邦化成㈱（副会長）　２．ニッタ㈱　３．川北化学㈱　４．太平化学産業㈱　５．共栄社化学㈱　６．住江織物㈱　７．東洋シール㈱　８．佐藤薬品工業㈱　９．三和ゴム工業㈱　１０．三和澱粉工業㈱　１１．ダイヤ製薬㈱　１２．㈱ヒラノテクシード　１３．ヨツギテクノ　１４．三笠産業㈱　１５．㈱ナカイテクノ　１６．社団法人奈良工業会　１７．奈良県工業技術センター

◎　化学技術セミナー関係

第６回化学技術セミナー　平成１２年１０月１１日

「PET ボトルのケミカルリサイクル」
宮惣ケミカル株式会社　リサイクル事業部　主任　坂本登志生　氏

「短寿命活性種の化学反応性」
奈良工業高等専門学校　一般教科　教授　土岐　進　氏

「技術相談における聞き分析事例」
奈良県工業技術センター　総括研究員　谷口　正　氏

「有用微生物の探索と育種（品種改良）」
奈良先端科学技術大学院大学　バイオサイエンス研究科　助教授　佳樹　徹　氏

第７回化学技術セミナー　平成１３年１０月９日

「中世酒造技術の発掘とその展開」　－菩提もと清酒の研究開発－
奈良県工業技術センター　食品技術チーム総括研究員　松澤　一幸　氏

「文化財保存に関する研究―出土木材と鉄器の保存処理―　」
奈良工業高等専門学校　物質化学工学科　教授　河越　幹男　氏

「オリゴヌクレオチド導入抗体を用いた免疫測定法の開発」
日水製薬株式会社　主任研究員　梅田　衛　氏

「生分解性プラスチック開発のための生分解に関する研究」
－セルロースアセテートを中心に－
大阪市立工業研究所　生物化学課　研究副主幹　酒井　清文　氏

第８回　化学技術セミナー（環境と分析）　平成 14 年 10 月 4 日（金）

「ナノテクノロジーに迫る－分析から機能性材料までの応用－」

1）講演

「ナノレベルで自己組織化された新しいフッ素系分子集合体の構築とその応用」
奈良高専　物質化学工学科教授　澤田　英夫　氏

「デンドリマーを用いた単分子ナノキャリヤーの設計」
大阪府立大学　工学研究科教授　河野　健司　氏

「金属ナノ粒子の形態制御と機能性材料への応用」
奈良女子大学　生活環境学部助教授　原田　雅史　氏

「多孔質シリコンに現れる多様な形態とその応用」
京都大学　エネルギー理工学研究所教授　尾形　幸生　氏

第９回　化学技術セミナー（環境と分析）　日程：平成１５年９月２４日（金）

1）講演

「ナノテクノロジーに迫る」－分析から機能性材料までの応用－

『化学分析と環境プラントに関する生物学的な考察』
クボタ株式会社水環境エンジニアリング技術第一部　植松　淳　氏

－ 216 －

（出典　奈良高専「自己点検・評価報告書」2005年10月）

資料Ｂ－１－①－24 『新聞記事に見る奈良高専Topics 2003～2004年度』(抄)

〔個人情報が含まれているので省略〕

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－①－25　産学交流のご案内

産学交流のご案内

産学交流室

民間等との共同研究

受託研究

奨学寄附金

技術相談

テクノレター奈良高専

企業の方へ

奈良工業高等専門学校

産学交流室

産学交流室のご案内

奈良工業高等専門学校産学交流室は本校から地域に向けての情報発信基地としての機能と、地域企業からの技術相談窓口としての機能を持ち、奈良県地域の産官学連携の拠点としての役割を担っています.

これまでの産学交流室の活動から、幸いにも、「産」である奈良工業会, 奈良県異業種交流促進協議会, 昭和工業団地協議会の会員企業そして卒業生の企業など、「官」である奈良県行政(新産業創造課, 学研協力課), 奈良県工業技術センター, 奈良県中小企業振興公社ならびに中小企業情報センターなど、奈良県の産と官との人的ネットワークならびに本校卒業生との技術交流ネットワークを構築してきました.

産学交流室は、これらの人的ネットワークを有効に活用して、本校教官の教育的ならびに研究的シーズを広く公開して行き、社員のスキルアップ研修, 新しい事業化への技術開発, ベンチャー起業創設の支援などを推進し、奈良県産業の発展に貢献していく所存です.

ログイン
＊フォーラムでの発言や各コンテンツへのコメントなどにはユーザー登録とログインが必要です。

ユーザ名:

パスワード:

最新ニュースブロック

- 第13回パートナーシップフォーラム (2005-12-1)
- 第12回パートナーシップフォーラムの開催 (2005-6-18)
- 第23回 奈良化学系

検索

検索

高度な検索

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－①－26　企業の方へ

奈良高専　　1/1 ページ

企業の方へ

本校では、産学官交流による共同研究・受託研究・奨学寄附金の制度のもとで研究をおこなってお
この制度は昭和58年に創設され、既に全国の国立大学、高専等で行われ、多くの優れた研究成果
は、民間等（民間企業、地方公共団体、各種法人等）の研究者が、高専の教員と共通の課題につい
うところにあります。本校は、理工学分野で活躍している専門家を擁しております。共同研究には至
られる課題などございましたら、本校技術相談窓口からお問い合わせください。各専門の教員が可能
相談に応じます。

奈良高専では、奈良県地域活性化アドバイザーをはじめ、講演会講師など、地域社会に貢献すべく
れらの活動を推進させ、開かれた高専を目指して進んでいこうと考えております。

産学交流

産学交流室　　民間等との共同
奨学寄付金について　　受託研究につい
技術相談について　　テクノレター奈良

教員の紹介

校長
一般教科　　電子制御工学科
機械工学科　　情報工学科
電気工学科　　物質化学工学科

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/kigyou/index.html　　2006/05/11

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－①－27　大阪大学との教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と奈良工業高等専門学校との間
における教育研究交流に関する協定書

大阪大学工学部・大学院工学研究科と奈良工業高等専門学校は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意するものである。

第１条　大阪大学工学部・大学院工学研究科と奈良工業高等専門学校は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、次により交流を行うものとする。
１．講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生、研究者の交流
２．両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
３．上記１以外の学生、研究者の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度両者で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　本協定は、両者の代表者による署名完了の日に効力が生じるものとし、５年間有効とする。なお、両者は６ヶ月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期限内に廃止されない場合は、本協定の有効期限満了日の６ヶ月前までに両者により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　この協定書に定めるもののほか、必要事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　この協定の定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、両者が協議のうえ処理するものとする。

上記協定の証として、協定書を２通作成し、両者がそれぞれ１通保有するものとする。

平成16年9月3日

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校
校長

一岡　芳樹

平成16年9月3日

国立大学法人大阪大学
工学部長
大学院工学研究科長

豊田　政男

（出典　庶務課庶務係保存資料）

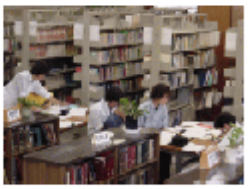
資料Ｂ－１－①－28　学外者利用案内（抄）

奈良高専図書館　　1/2 ページ

学外者利用案内

▶[地域の方へ]のページへ戻る　▶[図書館TOP]

■図書館のご紹介



奈良工業高等専門学校図書館は、本校教職員・学生のみでなく、教育・研究のない範囲において、利用を希望される一般の方々に図書館資料の閲覧公開ています。

今日の情報化時代に対応すべく蔵書のすべてを電算化して、事前にOPAC検索システム）で所蔵を確認することができます。

図書・雑誌等の資料は全面開架方式とし、利用者はすべての資料を直接手て見る事ができます

■利用案内

入館・資料の閲覧利用

- どなたでも利用できます。
- 図書館を利用するには、利用証が必要です。
- 利用できる資料は、図書館備え付けの図書等資料で、館内閲覧や、館利用することができます。
- 図書目録は、館内の蔵書検索用パソコンで検索ができます。
- 開架図書は、自由に閲覧することができます。

◇ 利 用 証

閲覧利用するときは、「図書館利用申込書」に住所・氏名を記入して提出してください。

◇ 開館時間

期　　間	平　日	土曜日
通常期(授業期間)	9:00～20:00	9:00～16:30
休業期(夏休み等)	9:00～17:00	閉　館

※ 休業期

春季休業　4月 1日～4月7日　夏季休業　7月21日～8月
冬季休業　12月25日～1月7日　学年末休業　3月20日～3月

◇ 休 館 日

日曜日・国民の祝日・休日・年末年始（12月29日から1月3日まで

http://library.nara-k.ac.jp/NewHP/Plibguid/PLibguide.htm　　2006/05/12

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－①－29　2002～2004年度 図書館利用状況

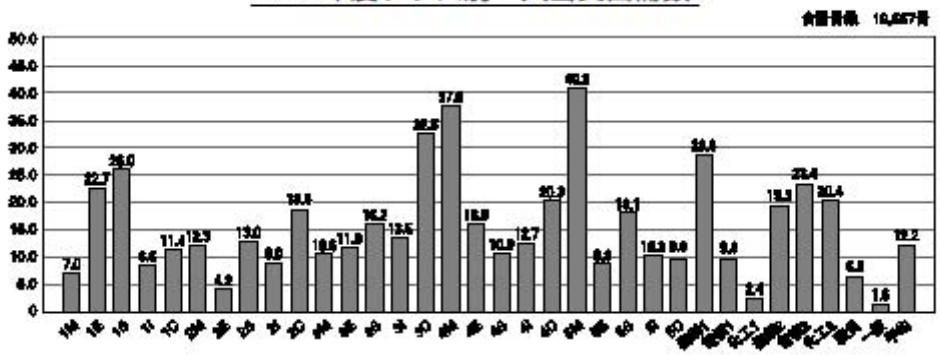
図書館利用状況

	2002年度	2003年度	2004年度
開館日数	266日	270日	270日
平日	231	235	233
土曜日	34	37	37
図書館入館者数	90,773人	92,030人	73,639人
平日	85,563	86,619	73,626
土曜日	5,210	4,461	5,013
一日平均入館者数			
平日	370人	367人	316人
土曜日	153	121	135
文献複写依頼件数	410件	425件	397件
受付件数	0	4	7
図書借受冊数	0冊	0冊	4冊
図書貸出冊数	16,008冊	18,063冊	19,567冊
1学年	2,978	3,044	3,177
2学年	2,114	2,272	2,385
3学年	1,996	2,307	3,715
4学年	2,982	4,553	4,054
5学年	3,263	3,934	3,483
専攻科	1,109	1,354	1,256
職員	933	905	1,021
一般	634	644	586

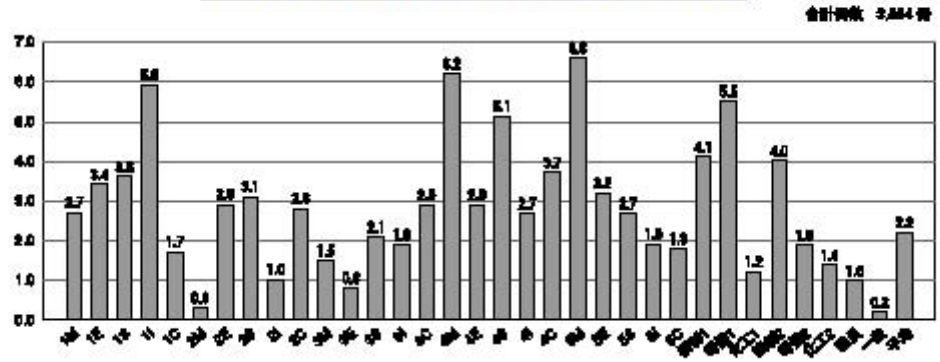
	2002年度	2003年度	2004年度
分類別貸出数	16,008冊	18,063冊	19,567冊
総記	1,512	1,436	1,345
哲学	233	281	380
歴史	305	382	429
社会科学	254	335	357
自然科学	3,402	3,770	3,980
技術	4,548	4,829	5,260
産業	53	63	76
芸術	1,194	1,194	1,220
言語	619	865	963
文学	3,944	4,572	5,502
未分類	51	251	257

CD-ROM等の視聴覚資料も含む。ノート記入による貸出分は含んでいない。

2004年度クラス別一人当貸出冊数



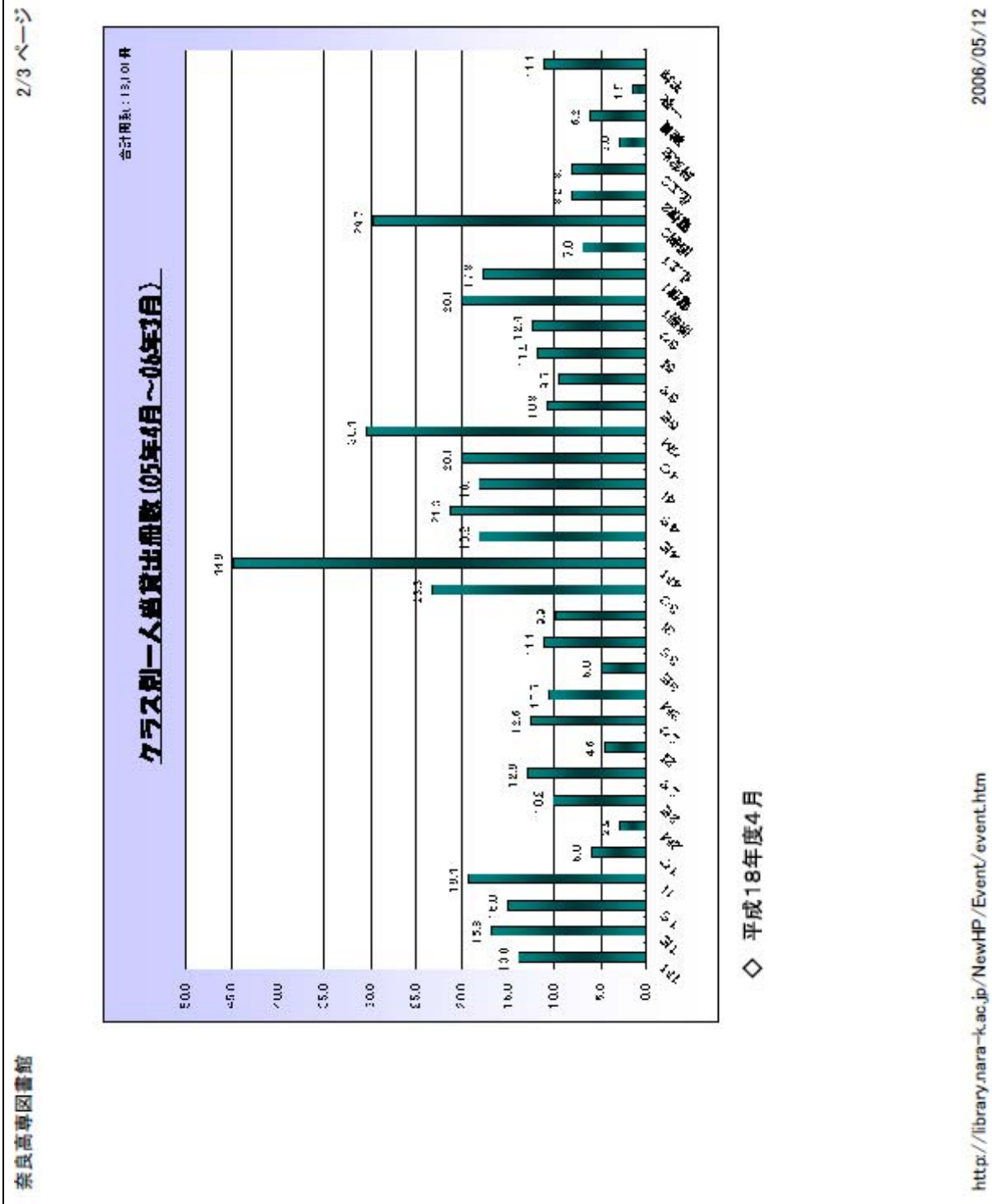
今年度クラス別一人当貸出冊数（05年5月）



- 11 -

（出典　本校広報誌『Campus』2005年Summer第91号）

資料Ｂ－１－①－30　図書館利用者一人当たり貸出冊数



（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－①－31　図書館一般利用案内(抄)

図　書　館
一般利用案内

開館時間
平　日　8:30～20:00
土曜日　8:30～16:30

奈良工業高等専門学校図書館

・一般の方の利用時間
平　日９：００～２０：００
土曜日９：００～１６：３０
ただし、春・夏・冬の休業期間中は平日の午前９時から午後５時まで。

・利用できない日
日曜日・祝日・開校記念日・年末年始休業期間中の土曜日・その他、整理・清掃等のため臨時休館する日・本校行事・学生の試験期間等学校であらかじめ指定する日

・一般の方の利用手続き(中学生以上)
住所・氏名を確認できるものをご用意のうえ、利用願に必要事項を記入して利用証の交付を受けて下さい。

・利用できる資料の範囲
図書館内資料の閲覧・貸出。ただし視覚資料の貸出はできません。

・貸出冊数・貸出期間
一人３冊以内・２週間以内

・資料を探す。
図書は、閲覧室と書庫（閉架）にあります。閲覧室の図書は日本十進分類法と著者別によって配列されています。本を探すときは、カウンターにあるコンピュータで検索できます。使い方がわからない時、検索した本がどこにあるかわからない時は、係員にお尋ね下さい。

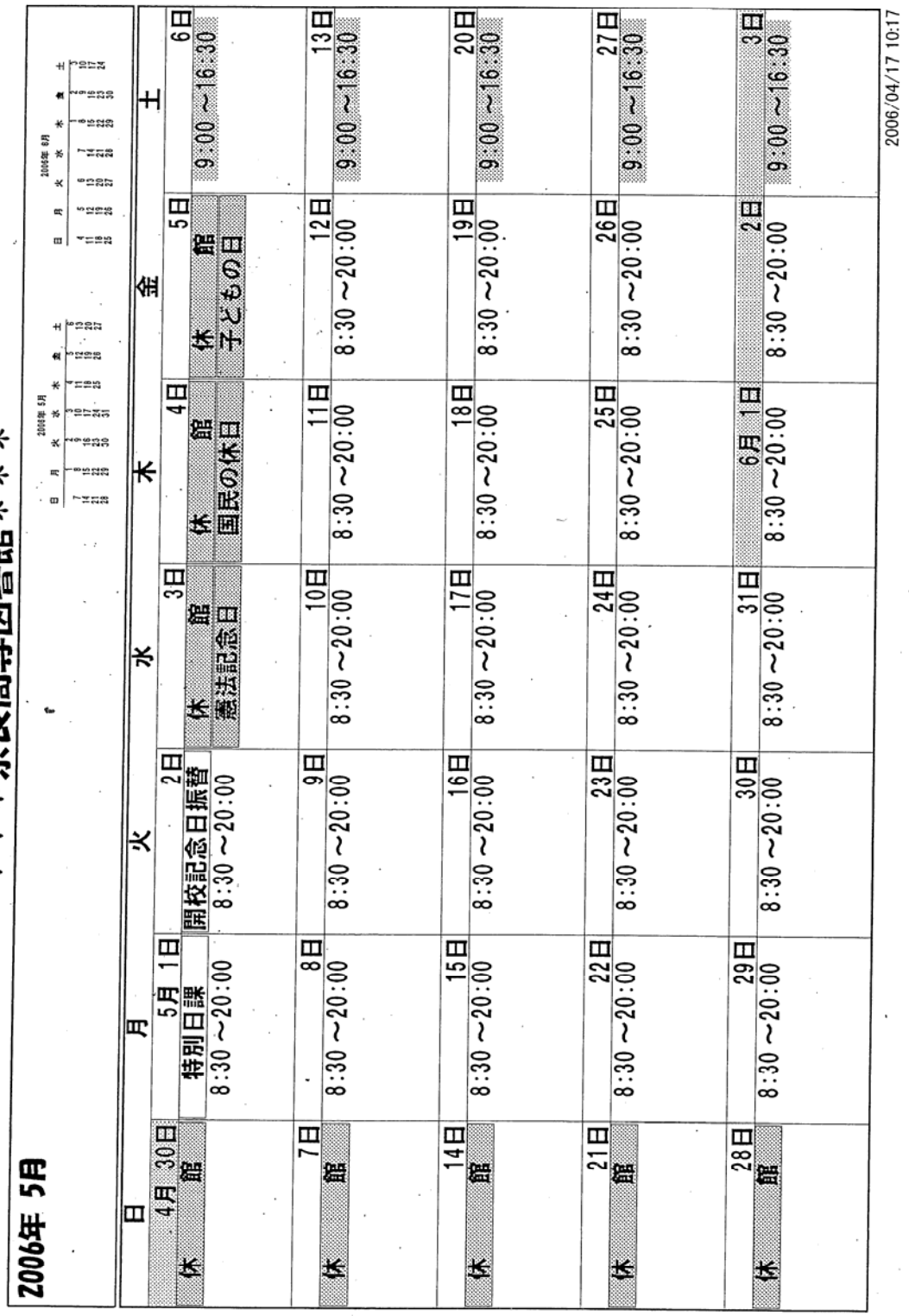
〒639－1080
大和郡山市矢田町２２番地
TEL (0743)55－6015
FAX (0743)55－6018
URL　http://libns.jimu.nara-k.ac.jp/

400 自然科学
002 科学史・事情
004 科学評論．雑著
008 叢書
010 数学
011 代数学
013 解析学
014 幾何学
015 位相数学
017 確率論．数理統計学
018 計算法
020 物理学
021 理論物理学
025 光学
027 電磁気学
028 物性物理学
029 原子物理学
030 化学
031 物理化学．理論化学
032 実験化学［化学実験法］
033 分析化学［化学分析］
034 合成化学［化学合成］
035 無機化学
037 有機化学
040 天文学．宇宙科学
050 地球科学．地学．地質学
060 生物科学．一般生物学
070 植物学
080 動物学
090 医学．薬学

500 技術．工学．工業
510 建設工学．土木工学
519 公害．環境工学
520 建築学
530 機械工学
539 原子力工学
540 電気工学．電子工学
550 海洋工学．船舶工学．兵器
560 金属工学．鉱山工学
570 化学工業．化学機器
571 化学工学．化学工業
572 電気化学工業
573 窯業．珪酸塩化学工業
575 燃料．爆発物
576 油脂類
577 染料
578 高分子化学工業
580 製造工業
590 家政学．生活科学

（出典　庶務課図書係保存資料）

資料Ｂ－１－①－32　開館日カレンダー



（出典　庶務課図書係保存資料）

観点Ｂ－１－②：　サービス享受者数やその満足度等から判断して，活動の成果が上がっているか。また，改善のためのシステムがあり，機能しているか。

（観点に係る状況）

公開講座の実績は，以下に示す中期計画における年度計画（資料Ｂ－１－②－１）の（Ⅱ－３－②－（４））に見合う企画がなされ，内容も豊富なものとなっている。

資料Ｂ－１－②－１　奈良高専の中期計画における年度計画

Ⅱ　３

②－（４）公開講座，出前授業，学市連携事業等について積極的に取組みを進める。

③公開講座は，講座数の増加を図るとともに，参加者のアンケートによる満足度が高まるような内容を検討する。

③－（１）公開講座の講座数の増加を図るとともに，内容の多様化に努める。

③－（２）公開講座参加者に対してアンケートを実施し，満足度を高める効果的な方策を検討する。

（出典　中期計画）

受講者数は募集人数をほぼ充足している。講座によっては有料で計画したものもあったが，小中学生対象のものは，特別な場合を除いてすべて無料の講座として実施した。すべての講座で，受講者によるアンケート調査を実施し，次の企画へ反映させる取組を行っている（資料Ｂ－１－②－２，３）。

アンケートによる満足度調査の結果では，ほぼすべての講座で好評の評価を得ている。この結果は，前掲した中期計画（Ⅱ－３－③－（１），（２））を十分に満たすものとなっている。アンケートでは開催時期や参加のきっかけについて尋ね，また受講者の参加回数，年齢構成がつかめる質問項目も設け，開催時期や広報の仕方，リピーターの増やし方，講座のあり方を改善するための参考とした。

「文化探訪講座」は，文系教員による長期にわたって続けられている，国際文化都市「奈良」を地元とする奈良高専ならではの定番の人気講座であり，高専が理系のみにとどまらない高等教育機関であるという存在意義を広く社会に知らしめている。

学市連携事業は，子どもたちの「理科離れ」への対応を目的としている。こうした事業の地道で継続的な取組は今後も必要と思われるが，予算・広報・子ども達への人的な広がりの面（参加者の確保）等で課題も出てきている。その改善の方策として，平成17年度には文部科学省の主催する「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP)」に応募し採択された。その概要を資料として示す（資料Ｂ－１－②－４）。

現代GPでの取組は「サイエンス・『ものづくり』・地域力の展開 －教職員・学生一体となった取組－」と題し，本校の所在地である大和郡山市との学市連携のもとに，理科離れ・「ものづくり」離れが進んでいるといわれる状況に対して，本校教職員・学生一体となったサイエンス・「ものづくり」授業プログラムによって歯止めをかけ，小中学生のサイエンス・「ものづくり」への関心を呼び起こし，同時に小中学校において理科授業に携わる教員の力量を高める方策を実施することで地域全体のサイエンス・「ものづくり」教育を活性化していくことを目的とする。また本校専攻科生が当プログラムに積極的に参加することで，学生自らが問題解決型学習（PBL）能力を習得し，キャリア・アップを図っていくことを目指している。さらに当プログラムを発展定着させるかたちで，本校が地域のサイエンス・「ものづくり」教育の拠点（サイエンス教育センター）となることも展望している。現代GPに関してはホームページでも案内している（資料Ｂ－１－②－５，６，７，８，９，10）。

「スーパーサイエンスの達人」派遣事業では，派遣先学校教員へのアンケート（資料Ｂ－１－②－11），

派遣教員へのアンケート（資料Ｂ－１－②－12）を行い，それぞれ集計結果を得ている（資料Ｂ－１－②－13，14）。

派遣教員へのアンケートでは，ほとんどの教員が満足，概ね満足してもらえたと回答している。派遣先教員に対するアンケート結果でも，児童・生徒，担当教員ともに満足，概ね満足がほとんどで，好評を得ている。また実施したすべての学校で，今後も授業を期待したいとの回答を得た。単発的な内容ではなく，ともに相談しながら進めたいとのコメントを頂いたので，連携のとれたプログラムが提供できるシステムの構築が今後の課題であり，事業の改善に資するため，翌年度の計画作りに着手する時期に小中学校教員との意見交換会の開催を企画している。

本校では，教育サービスに関する事業については，教員は講座の内容の企画やテーマに関し専門的識見を生かして計画に関与し，事務職員は事業全体の広報活動，アンケートの実施・集計・分析等を行うかたちを取っており，教職員とさらに学生との協同・連携として実施している（資料Ｂ－１－②－15，16，17）。こうした事業の広報に係る部分は，広報委員会において計画・立案・運営を行っている（資料Ｂ－１－②－18）。

（分析結果とその根拠理由）

公開講座，科学教室，出前授業（「スーパーサイエンスの達人」派遣）の教育サービスに係る主要３事業ともに，中期計画で設定した数値目標を，実施回数，参加者数，満足度の面で十分達成しており成果が上がっている。また，全受講者に対し実施したアンケート調査，出前授業における小中学校教員との意見交換会等の改善のためのシステムがあり，有効に機能しており，テーマ数の充実や現代GPの採択等改善に貢献している。

資料Ｂ－１－②－１　奈良高専の中期計画における年度計画

奈良高専の中期計画における年度計画

（前文）

本校は、奈良県唯一の工科系高等教育機関として、奈良県はもとより近隣の府県からも大きな期待を寄せられてきた。激しく移り変わる社会の中、今後も引き続き、その期待に応えるためには、地元企業のみならず、国際社会でも活躍しうる高度な教養と独創性を有した実践的かつ専門的技術者及び研究者を育てていくことが肝要であると考える。

本校は、平成４年に全国の高専に先駆けて専攻科が設置され、本年で１２年目を迎えたが、この間、本科で学んだ教育との関連を重視しつつ、より高度な教育・研究を行ってきた。今後は、専攻科生の定員増も視野に入れ、本科との一層の関係強化を図りながら、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定や特別研究の充実を目指し、その成果を学会発表や特許出願等を通じて社会に積極的に発信していくことや、近隣の大学等とも連携し、大学院への進学率の向上にも力を入れていきたい。一方、本科の方では、国際社会で通用する人材を養成するためにも、特に低学年教育を重視し、英語等の言語教育、理科教育及び数学教育の拡充と徹底を図りたいと考えている。

教育研究等の質の向上については、教官の学位取得率の向上を目指すことや、研究費の重点配分などの評価の徹底、授業内容の学生による評価や教官の相互評価の導入等に努めていきたい。

組織では、より効率的な学校運営を行うための、校長の補佐体制の見直しや事務組織の抜本的な見直しを積極的に進めていく必要があると考える。

安全管理、事故防止については教職員のみならず学生も含めた全学的な危機管理体制の策定をめざす。

施設面では、教育・研究・社会貢献支援・産官学交流等を効率的に実現するための多目的施設として「YAMATOKORIYAMA Hall of Science & Technology」の設置の可能性を模索していくことも考えていきたい。

財務内容の改善については、経費の抑制や資産の適正な管理に努めるとともに、外部資金の導入について積極的に取り組んでいかなければならない。

また、毎年自己点検・評価を行い、それを基に外部評価を受け、奈良高専の実状、課題、改善内容等をホームページや広報誌で公開していく等の方法により、情報を常に外部に向かって発信していくことも重要である。さらに、国際的文化都市である「奈良」の特徴を最大限に生かすためにも、「文化と技術の融合」、「新しい伝統の創造」を目指した学科の新設・統合や、男女共同参画社会を推進させるために、女子学生が魅力を感じる学科作りも積極的に検討していきたい。

このような役割を果たすため、奈良工業高等専門学校の中期計画を、以下のとおり提言する。

奈良高専の中期計画（平成16年度～20年度）	奈良高専の年度計画（16年度）	奈良高専の年度計画（17・18年度）
Ⅰ　業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ①中期目標期間中は毎事業年度毎に管理的経費対前年度比１％の削減を目標とし、その達成のための具体的計画を策定し、経費削減を積極的に進める。 ②予算配分については、均等配分を見直し、明示された基準による業績等の評価に応じて経費配分を行い、校長のリーダーシップが発揮できる経費については、包括的に戦略的経費として重点配分を行う。	①－（１）管理的経費の抑制可能な項目を調査するとともに、電子情報化等の推進により、印刷物、刊行物等の経費削減を図る。 ①－（２）既に実施している外部委託経費等については、契約内容等の精査・見直しを図るとともに、新たな外部委託業務の可否についても検討する。 ①－（３）省資源・省エネルギーの推進を図り、効率的な方策を検討する。 ②－（１）均等配分方針を見直し、業績等の評価に応じた傾斜配分方式の検討を始める。 ②－（２）校長裁量経費としての配分や包括的な戦略的経費として、共同プロジェクト等の特殊事項に対する重点配分のあり方を検討する。	①－（１）管理的経費の抑制可能な項目の調査を踏まえて、電子情報化等を更に推進させることにより、印刷物、刊行物等の経費削減を図る。 ①－（２）既に実施している外部委託経費等については、契約内容等の精査・見直しをもとに、より効果的な外部委託業務の可否について検討する。 ①－（３）省資源・省エネルギーの更なる推進を図り、効率的な方策の具体化を検討する。 ②－（１）均等配分方針の見直しを継続的に実施し、業績等の評価に応じた傾斜配分方式を推進する。 ②－（２）校長裁量経費や包括的な戦略的経費の配分として、共同プロジェクト等本校の教育を特徴付ける計画や事項に対する重点配分を推進する。

1

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－２　平成16年度公開講座アンケート集計表

平成16年度公開講座アンケート集計表

講座名		子どもたちの世界遺産ウォーク		機械設計技術者初級講座		楽しく作るライン追跡ロボット		楽しい電気教室		狂言一日入門		文化探訪講座ＸⅢ	
開催日		5.4		6.5		7.26-27		8.5-6		8.21		11.19-12.3	
参加人数		40人		38人		20人		31人		52人		40人	
アンケート回答数%		25人	(62.5)%	36人	(94.7)%	14人	(70.0)%	28人	(90.3)%	46人	(88.5)%	32人	(80.0)%
(アンケート内容)													
内容	とても良かった	10人	(40.0)%	4人	(11.1)%	11人	(78.6)%	21人	(75.0)%	34人	(73.9)%	18人	(56.3)%
	良かった	12人	(48.0)%	18人	(50.0)%	2人	(14.3)%	6人	(21.4)%	9人	(19.6)%	14人	(43.8)%
	どちらでもない	2人	(8.0)%	10人	(27.8)%	0人	(0.0)%	1人	(3.6)%	3人	(6.5)%	0人	(0.0)%
	あまり良くなかった	0人	(0.0)%	3人	(8.3)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%
	良くなかった	0人	(0.0)%	1人	(2.8)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%
	無記入	1人	(4.0)%	0人	(0.0)%	1人	(7.1)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%
開催期日	とても良かった	4人	(16.0)%	4人	(11.1)%	5人	(35.7)%	10人	(35.7)%	10人	(21.7)%	12人	(37.5)%
	良かった	10人	(40.0)%	18人	(50.0)%	3人	(21.4)%	8人	(28.6)%	20人	(43.5)%	15人	(46.9)%
	どちらでもない	9人	(36.0)%	11人	(30.6)%	4人	(28.6)%	4人	(14.3)%	10人	(21.7)%	2人	(6.3)%
	あまり良くなかった	0人	(0.0)%	3人	(8.3)%	1人	(7.1)%	3人	(10.7)%	2人	(4.3)%	3人	(9.4)%
	良くなかった	1人	(4.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	1人	(2.2)%	0人	(0.0)%
	無記入	1人	(4.0)%	0人	(0.0)%	1人	(7.1)%	3人	(10.7)%	3人	(6.5)%	0人	(0.0)%
きっかけ	ポスター・ちらし	5人	(20.0)%	6人	(16.7)%	14人	(100.0)%	22人	(78.6)%	23人	(50.0)%	19人	(59.4)%
	新聞	17人	(68.0)%	2人	(5.6)%	0人	(0.0)%	1人	(3.6)%	8人	(17.4)%	6人	(18.8)%
	ホームページ	0人	(0.0)%	5人	(13.9)%	0人	(0.0)%	1人	(3.6)%	2人	(4.3)%	1人	(3.1)%
	その他	2人	(8.0)%	21人	(58.3)%	0人	(0.0)%	3人	(10.7)%	11人	(23.9)%	5人	(15.6)%
	無記入	1人	(4.0)%	2人	(5.6)%	0人	(0.0)%	1人	(3.6)%	2人	(4.3)%	1人	(3.1)%
参加回数	今回が初めて	24人	(96.0)%	35人	(97.2)%	10人	(71.4)%	20人	(71.4)%	42人	(91.3)%	7人	(21.9)%
	2回	0人	(0.0)%	1人	(2.8)%	3人	(21.4)%	8人	(28.6)%	2人	(4.3)%	5人	(15.6)%
	3回	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	4人	(12.5)%
	4回	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	1人	(7.1)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	3人	(9.4)%
	5回以上	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	13人	(40.6)%
	無記入	1人	(4.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	2人	(4.3)%	0人	(0.0)%
性別	男性	8人	(32.0)%	32人	(88.9)%	13人	(92.9)%	25人	(89.3)%	12人	(26.1)%	13人	(40.6)%
	女性	17人	(68.0)%	3人	(8.3)%	1人	(7.1)%	2人	(7.1)%	30人	(65.2)%	19人	(59.4)%
	無記入	0人	(0.0)%	1人	(2.8)%	0人	(0.0)%	1人	(3.6)%	4人	(8.7)%	0人	(0.0)%
年齢	小学生	9人	(36.0)%	0人	(0.0)%	14人	(100.0)%	28人	(100.0)%	9人	(19.6)%	0人	(0.0)%
	中学生	1人	(4.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%
	高校生	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	1人	(2.2)%	0人	(0.0)%
	学生	0人	(0.0)%	2人	(5.6)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%
	20代	0人	(0.0)%	16人	(44.4)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%
	30代	3人	(12.0)%	10人	(27.8)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	4人	(8.7)%	0人	(0.0)%
	40代	11人	(44.0)%	3人	(8.3)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	18人	(39.1)%	0人	(0.0)%
	50代	1人	(4.0)%	2人	(5.6)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	6人	(13.0)%	5人	(15.6)%
	60～64	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	1人	(2.2)%	4人	(12.5)%
	65～69	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	2人	(4.3)%	7人	(21.9)%
	70代以上	0人	(0.0)%	1人	(2.8)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	1人	(2.2)%	12人	(37.5)%
	無記入	0人	(0.0)%	2人	(5.6)%	0人	(0.0)%	0人	(0.0)%	4人	(8.7)%	4人	(12.5)%

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－３　平成17年度公開講座アンケート集計表

平成17年度公開講座アンケート集計表

講座名		子どもたちの世界遺産ウォーク	機械設計技術者初級講座	楽しく作るライン追跡ロボット	楽しい電気教室	デジカメ初級講座	文化探訪講座ＸⅣ
開催日		5/5	6/8～9/28　計15回	7/25.7/26	8/4.8/5	7/24	7/5.7/15
定員		50人	20人	20人	32人	30人	50人
申込		7人　(14.0%)	12人　(60.0%)	73人　(365.0%)	36人　(112.5%)	24人　(80.0%)	34人　(68.0%)
参加人数		7人　(14.0%)	12人　(60.0%)	21人　(105.0%)	32人　(100.0%)	24人　(80.0%)	34人　(68.0%)
アンケート回答数%		2人　(28.6%)	9人　(75.0%)	9人　(42.9%)	30人　(93.8%)	24人　(80.0%)	32人　(94.1%)
(アンケート内容)						アンケート内容は別紙のとおり	
内容	とても満足できた	1人　(50.0%)	1人　(11.1%)	7人　(77.8%)	15人　(50.0%)		16人　(50.0%)
	だいたい満足できた	1人　(50.0%)	3人　(33.3%)	2人　(22.2%)	5人　(16.7%)		16人　(50.0%)
	どちらでもない	0人	3人　(33.3%)	0人	10人　(33.3%)		0人
	あまり良くなかった	0人	2人　(22.2%)	0人	0人		0人
	良くなかった	0人	0人	0人	0人		0人
	無記入	0人	0人	0人	1人　(3.3%)		0人
開催期日	とても良かった	0人	0人	2人　(22.2%)	3人　(10.0%)		0人
	良かった	2人　(100.0%)	6人　(66.7%)	2人　(22.2%)	17人　(56.7%)		23人　(71.9%)
	どちらでもない	0人	2人　(22.2%)	1人　(11.1%)	6人　(20.0%)		6人　(18.8%)
	あまり良くなかった	0人	1人　(11.1%)	3人　(33.3%)	5人　(16.7%)		3人　(9.4%)
	良くなかった	0人	0人	2人　(22.2%)	0人		0人
	無記入	0人	0人	0人	0人		0人
きっかけ	ポスター・ちらし	0人	0人	3人　(33.3%)	16人　(53.3%)		0人
	新聞	1人　(50.0%)	0人	0人	0人		1人　(3.1%)
	ホームページ	0人	4人　(44.4%)	1人　(11.1%)	1人　(3.3%)		0人
	その他	1人　(50.0%)	5人　(55.6%)	4人　(44.4%)	11人　(36.7%)		30人　(93.8%)
	無記入	0人	0人	1人　(11.1%)	2人　(6.7%)		1人　(3.1%)
参加回数	今回が初めて	2人　(100.0%)	3人　(33.3%)	6人　(66.7%)	23人　(76.7%)		1人　(3.1%)
	2回	0人	2人　(22.2%)	3人　(33.3%)	4人　(13.3%)		10人　(31.3%)
	3回	0人	3人　(33.3%)	0人	1人　(3.3%)		5人　(15.6%)
	4回	0人	0人	0人	0人		7人　(21.9%)
	5回以上	0人	0人	0人	0人		9人　(28.1%)
	無記入	0人	1人　(11.1%)	0人	2人　(6.7%)		0人
性別	男性	0人	9人　(100.0%)	7人　(77.8%)	30人　(100.0%)		13人　(40.6%)
	女性	2人　(100.0%)	0人	2人　(22.2%)	0人		18人　(56.3%)
	無記入	0人	0人	0人	0人		0人
年齢	小学生	2人　(100.0%)	0人	9人　(100.0%)	30人　(100.0%)		0人
	中学生	0人	0人	0人	0人		0人
	高校生	0人	0人	0人	0人		0人
	学生	0人	0人	0人	0人		0人
	20代	0人	4人　(44.4%)	0人	0人		0人
	30代	0人	2人　(22.2%)	0人	0人		0人
	40代	0人	0人	0人	0人		0人
	50代	0人	1人　(11.1%)	0人	0人		4人　(12.5%)
	60～64	0人	0人	0人	0人		3人　(9.4%)
	65～69	0人	0人	0人	0人		3人　(9.4%)
	70代以上	0人	0人	0人	0人		22人　(68.8%)
	無記入	0人	2人　(22.2%)	0人	0人		0人

6講座を計画・実施し、募集人員202名に対し応募者186名
受講定員を超える応募があった為、最終的には130名が受講

＊デジカメ初級講座は電子情報通信学会関西支部と共催の講座であるため、別様式のアンケートを実施している。

平成17年度公開講座（デジカメ初級講座・情報工学科）アンケート集計表

講座名		デジカメ初級講座	
開催日		7/24	
定員		30人	
申込		23人	(76.7)%
参加人数		23人	(76.7)%
アンケート回答数%		23人	(100.0)%
（アンケート内容）			
説明のやさしさ	よく分かった	9人	(39.1)%
	分かった	15人	(65.2)%
	難しかった	5人	
参考度	参考になった	15人	
	ふつう	13人	
	そうでもない	1人	
内容（撮影～印刷）	面白かった	16人	
	ふつう	12人	(52.2)%
	そうでもない	1人	
指導・学生補助	良かった	24人	
	ふつう	5人	
	物足りなかった	0人	
講義時間	足りなかった	0人	
	ちょうど良い	26人	
	長すぎた	3人	
全体の満足度	充分満足	8人	
	おおむね満足	14人	
	ふつう	7人	
	あまり満足でない		
	まったく満足でない		
きっかけ	小学校の案内・先生の紹介	11人	
	県や市の広報	11人	(47.8)%
	新聞記事		
	インターネット	7人	(30.4)%
	その他		
希望する実施時期	夏休み前	4人	(17.4)%
	夏休み前半	21人	
	夏休み後半	5人	
	夏休み後	0人	
希望曜日	平日	7人	
	週末	20人	
性別	男性		
	女性		(0.0)%
	無記入		
年齢	小学生	29人	(126.1)%
	中学生		
	高校生		
	学生		
	20代		
	30代		
	40代		
	50代		
	60～64		
	65～69		
	70代以上		
	無記入		

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－４　平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」申請書

（様式１）

整理番号	

平成１７年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」申請書

申請区分	① 単独　2 共同	設置形態	① 国立　2 公立　3 私立
大学・短期大学・高等専門学校名 共同申請の場合は主となる１つの大学・短期大学・高等専門学校名を記入	奈良工業高等専門学校		
所在地	〒６３９－１０８０ 奈良県大和郡山市矢田町２２		
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構		
ふりがな	いちおか　よしき		
学長の氏名	一　岡　芳　樹		

申請テーマ	１	取組期間	平成１７年度から平成１８年度
取組名称	サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開 ―教職員・学生一体となった取組―		
取組単位	学校単位		
キーワード	①学市連携、②小中学生のサイエンス・「ものづくり」への関心、③小中学校の理科担当教員、④問題解決型学習（PBL学習）、⑤サイエンス教育センター		

ふりがな	きょうかね　じゅん	所属部局名	電気工学科
取組担当者	京　兼　純	職名	教務主事
住所（勤務先等）	奈良県大和郡山市矢田町２２		
電話番号	０７４３－５５－６０９３	ＦＡＸ番号	０７４３－５５－６０１９

ふりがな	ばば　おさむ	所属部局名	学生課
事務担当者	馬　場　整	職名	学生課長
住所（勤務先等）	奈良県大和郡山市矢田町２２		
電話番号	０７４３－５５－６０３１	ＦＡＸ番号	０７４３－５５－６０３９
E-mailアドレス	baba@jimu.nara-k.ac.jp		

1

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－５　現代GP採択

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）

◀ＴＯＰへ戻

サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開

－ 教職員・学生一体となった取組 －

1. 現 代 Ｇ Ｐ 採 択

平成17年度における申請数は509件（内訳：大学396件、短大52件、高専50件、複数校による共同申請件）あり、採択数は84件ありました。そのうち高専は8件と、大変健闘しています。

採択された高専のテーマ等一覧

テーマ1：地域活性化への貢献（地元密着型）

○サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開 －教職員・学生一体となった取組－
奈良工業高等専門学校　　京兼 純

○学生参画型産学連携推進プログラム －"技術者の卵"の地産地消を目指して－
苫小牧工業高等専門学校　　古崎 毅

○越の国 ひとづくり・まちづくりコミュニティ
福井工業高等専門学校　　太田 恭雄

○創発的なものづくりリテラシー教育活動 －マイコン教材によるロボット技術（RT）の啓発を目的とした地域貢献－
岐阜工業高等専門学校　　奥川 雅之

○地域ニーズ対応型教育の実践
松江工業高等専門学校　　高田 龍一

テーマ2：地域活性化への貢献（広域展開型）

○日中相互交流による実践的青年技術者の育成 －「佐世保市・中国ウェルカム学術研究交流特区」利用地域活性化プログラム－
佐世保工業高等専門学校　　須田 義昭

テーマ3：知的財産関連教育の推進

（高専の採択なし）

テーマ4：仕事で英語が使える日本人の育成

（高専の採択なし）

テーマ5：人材交流による産学連携教育

○地域と連携した「ものづくり」教育
宇部工業高等専門学校　　村上 定瞭

テーマ6：ニーズに基づく人材育成を目指したe- Learning Program の開発

○創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発」共同
高知工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、
石川工業高等専門学校、長野工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鈴鹿電波工業高等専門学校、
新居浜工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校、有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校
今井 一雅

新 聞 記 事

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/gendai-gp/gendai-gp-011.html　　2006/05/11

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－②－６　現代GP取組の概要

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）

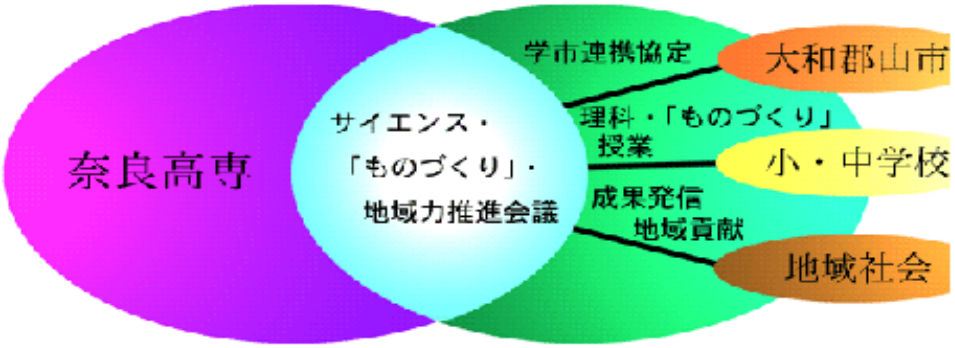
◀ＴＯＰへ戻

サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開

－ 教職員・学生一体となった取組 －

2. 取 組 の 概 要

本取組は、本校の所在地である大和郡山市との学市連携のもとに、理科離れ・「ものづくり」離れが進んでいいわれる状況に対して、本校教職員・学生一体となったサイエンス・「ものづくり」授業プログラムによって歯止かけ、小中学生のサイエンス・「ものづくり」への関心を呼起こし、同時に小中学校において理科授業に携わる員の力量を高める方策を実施することで地域全体のサイエンス・「ものづくり」教育を活性化していくことを目的る。また本校専攻科生（大学の3・4年生にあたる）が当プログラムに積極的に参加することで、学生自らが問題決型学習（PBL学習）能力を習得し、キャリア・アップを図っていくことを目指している。さらに当プログラムを発着させるかたちで、本校が地域のサイエンス・「ものづくり」教育の拠点（サイエンス教育センター）となることも
している。
また、その組織図は次のとおりである。



組 織 図

◀ＴＯＰへ戻る　戻る◀　▶次へ

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－②－７　現代GP年度計画

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）

◀ＴＯＰへ戻

サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開

－ 教職員・学生一体となった取組 －

3. 年 度 計 画

平成17年10月	：	教材の検討・設計・製作
平成17年10月～平成18年2月	：	スーパーサイエンスの達人派遣事業の実施
平成17年10月～平成18年2月	：	科学教室拡充事業の実施
平成17年10月～平成18年2月	：	問題解決型学習（PBL学習）の実施
平成17年11月	：	大和郡山市親子まつりへの参加
平成17年11月	：	夢・化学21の実施
平成17年11月	：	青少年のための科学の祭典2005奈良大会への参加
平成17年11月～平成18年3月	：	サイエンスホール，大学・高専等への調査
平成17年12月	：	小中学校教員に対する講習会の実施
平成18年3月	：	第1回シンポジウムの開催
平成18年3月	：	中間報告書，評価概要の作成

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－②－８　現代GP進捗状況

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）

◀ＴＯＰへ戻

サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開

－ 教職員・学生一体となった取組 －

4. 進 捗 状 況

● スーパーサイエンスの達人派遣

開催日程	内　容	派遣学校	派遣教員等	詳細および当日の模様
10月18日（火）	超低温の世界を探る	矢田南小学校	榊原　和彦	On Click !
10月20日（木）	太陽の光でエネルギーをため環境をきれいにする	郡山西小学校	泉　生一郎	On Click !
11月17日（木）	ロボットの実演	郡山北小学校	阪部　俊也	On Click !
11月25日（金）	光と遊ぼう （PBL教育による専攻科生の派遣）	郡山西小学校	藤田　直幸 機械制御工学専攻科1年生2名 電子情報工学専攻科1年生2名	On Click !
1月26日（木）	電池作りの達人	郡山西小学校	片倉　勝己	On Click !
2月1日（火）	電磁力の不思議とモータへの応用	郡山西小学校	井村　榮仁	On Click !
2月8日（水）	電池作りの達人	郡山東中学校	片倉　勝己	On Click !
2月27日（月）	磁石の達人	郡山北小学校	藤田　直幸	On Click !

● 科学教室の実施

開催日程	内　容	対 象 者	担当学科	詳細および当日の模様
11月19日（土）	回転翼機の飛行原理を学ぶ	小学生（4年生以上）	機械工学科	On Click !!
2月4日（土）	静電気ってなんだ！	小学生（4年生以上）	一般教科	On Click !!

● 親子まつりへの参加

開催日程	場　所	内　容	担当教員	詳細および当日の模様
11月3日（祝）	郡山城跡	様々な理科に関する現象を演示	宮本　止戈雄	On Click !

● 科学の祭典への参加

				詳細およ

http://jsv1.jimu.nara-k.ac.jp/gendai-gp/gendai-gp-014.html　2006/05/11

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－②－９　現代GPシンポジウム・セミナー等のお知らせ

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）

◀ＴＯＰへ戻

サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開

－ 教職員・学生一体となった取組 －

5.　シンポジウム・セミナー等のお知らせ

○第１回シンポジウムは平成１８年３月６日に開催し、無事終了しました。

多数のご参加、ご協力どうもありがとうございました。

○第2回シンポジウムは平成１８年１１月頃開催の予定です。

◀ＴＯＰへ戻る　戻る◀　▶次へ

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－②－10　現代GPシンポジウム・セミナー等参加報告，成果報告

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）

◀ＴＯＰへ戻

サイエンス・「ものづくり」・地域力の展開

－ 教職員・学生一体となった取組 －

6.　シンポジウム・セミナー等参加報告，成果報告

● 第1回シンポジウムの実施

開催日程	場　所	内　容	対 象 者	詳細および当日の模
3月6日（月）	やまと郡山城ホール レセプションホール	実践報告，ポスタープレゼンテーション及び交流会	大和郡山市小中学校理科系担当教員等	On Click

◀ＴＯＰへ戻る　戻る◀　▶次へ

（出典　奈良高専ホームページ）

資料Ｂ－１－②－11「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の派遣先学校教員へのアンケート

「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の派遣先学校教員へのアンケート

奈良工業高等専門学校

本校・大和郡山市の学市連携に係る「スーパーサイエンスの達人」派遣事業として，貴校において授業を実施させていただきました。今後の参考とさせていただきたいので，お手数ですが以下のアンケートにご協力くださいますようお願いします。

１．「スーパーサイエンスの達人」派遣事業による授業の貴校での正課授業の科目名
　１．科目〔　　〕　２．その他〔　　〕

２．１の正課授業科目の教科書と今回のような外部からの派遣教員による特別授業の関連
　１．有　　２．無　　３．その他〔　　〕

３．２で正課授業科目の教科書との関連が無又はその他の場合，特別授業を実施する目的，或いはねらいについてお聞かせ下さい。
（　　）

４．授業内容について児童，生徒は満足していると思いますか。
　１．充分満足している　２．概ね満足している　３．普通
　４．あまり満足していない　５．全く満足していない
　（○をされた項目の理由はなんですか。）
（　　）

５．担当教員からみて，今回の特別授業に満足していますか。
　１．充分満足している　２．概ね満足している　３．普通
　４．あまり満足していない　５．全く満足していない
　（○をされた項目の理由はなんですか。）
（　　）

６．今後も特別授業を希望したいと考えていますか。
　１．希望したい　　２．希望しない　　３．今はどちらともいえない

７．今後の「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の派遣授業について希望，要望等ありましたらお書き願います。
（　　）

学校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
担当学年又は担当科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（差し支えなければ記名願います。）
教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力ありがとうございました。

なお，このアンケート結果は，今後の学市連携事業運営の参考とさせていただくほか，広報データとして利用（教員名を除く。）させていただきますのでご承知願います。

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－12「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の派遣教員へのアンケート

「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の派遣教員へのアンケート

奈良工業高等専門学校　広報委員会

本校・大和郡山市の学市連携に係る「スーパーサイエンスの達人」派遣事業として，出前授業を実施していただきましてありがとうございます。今後の参考とさせていただきますので，お手数ですが以下のアンケートにご協力くださいますようお願いします。

１．今回実施した「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の授業の実施日，学校名・学年等，授業時間についてお聞かせ下さい。

実施日　平成　　年　　月　　日（　）
学校名　１.〔　　〕小学校・中学校　２．その他（　　）
学年等　１.〔　　〕学年　２．その他（　　）
授業時間　１．　時　　分～　　時　　分（　　時限目）
　　２．　時　　分～　　時　　分（　　時限目）
　　３．　時　　分～　　時　　分（　　時限目）

２．今回実施した授業のテーマ及び主な内容についてお聞かせください。
テーマ：

主な内容

３．今回実施した授業内容について児童，生徒に満足してもらえたと思いますか。
１．充分満足してもらえた　２．概ね満足してもらえた　３．普通
４．あまり満足してもらえなかった　５．全く満足してもらえなかった
（○をされた項目の理由はなんですか。）
（　　）

４．小・中学校の担当教諭から授業への希望等について聞いたことがあればお書きください。
（　　）

５．授業実施に際して，今後，設備品の充実や教材で必要と思われるものがありましたらお聞かせください。
（　　）

６．その他，ご感想，意見及び希望等がありましたらお書きください。
（　　）

教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
所属科・職名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力ありがとうございました。
なお，このアンケート結果は，今後の学市連携事業運営の参考とさせていただくほか，広報データとして利用（教員名を除く。）させていただきますのでご承知願います。

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－13「スーパーサイエンスの達人」派遣事業アンケート集計派遣先学校教員より

「スーパーサイエンスの達人」派遣事業アンケート集計

（１）派遣先学校教員より

１．「スーパーサイエンスの達人」派遣事業による授業の貴校での正課授業の科目名（　）内が集計数
・理科（３）　・科学クラブ（１）　・職員のパソコン研修（１）

２．１の正課授業科目の教科書と今回のような外部からの派遣教員による特別授業の関連（　）内が集計数
１．有（３）　２．無（１）　３．その他（０）〔　　〕

３．２で正課授業科目の教科書との関連が無又はその他の場合，特別授業を実施する目的，或いはねらいについてお聞かせ下さい。
「教職員のパソコン技能の向上（今回はパワーポイントの活用)」「電磁石のしくみを専門の方に詳しく教えていただき、理解を深める」「実験等を見せてもらって理科の楽しさを感じる」

４．授業内容について児童，生徒は満足していると思いますか。（　）内が集計数
１．充分満足している（１）……　理由　○身近な材料が自分たちが普段よく使う物になることに大変驚き、深く興味を持った〔くうき電池の授業〕
２．概ね満足している（３）……　理由　○楽しく実験に参加できた〔エネルギー・環境の授業〕
○理論等は難解で理解しにくいが、実験等非常に興味を持って取り組んでいたと思う〔光の屈折等の授業〕
○児童の感想を読むと、いろいろ知らなかったことが分かり喜んでいた。理科に対する興味を持った児童もいた〔モータの授業〕
３．普通（１）……　理由　○学生の方も一緒に来てもらい指導してもらったので、よく理解できたようであった〔教職員パソコン研修〕
４．あまり満足していない（０）
５．全く満足していない（０）

５．担当教員からみて，今回の特別授業に満足していますか。（　）内が集計数
１．充分満足している（１）……　理由　○より高度な知識で、子供たちが興味、関心を持つような授業を展開していただけたから〔くうき電池の授業〕
２．概ね満足している（４）……　理由　○子供たちがいきいきと活動していた〔エネルギー・環境の授業〕
○小学生には光の屈折や反射等の理論は難解だが、実験を通して光の不思議さおもしろさに触れ、科学に対する興味は深まったと思う〔光の屈折等の授業〕
○総合的な学習の時間にパワーポイントを使って子供に指導する教員がいた〔教職員パソコン研修〕
○内容がやや難しかったことはあるが、いろいろな実験装置を用いて熱心に教えてくださったので良かったと思う〔モータの授業〕
３．普通（０）
４．あまり満足していない（０）
５．全く満足していない（０）

６．今後も特別授業を希望したいと考えていますか。（　）内が集計数
１．希望したい（５）　○郡山西小（４年担当)、○郡山西小（科学クラブ担当)、○郡山西小（教頭)、○郡山西小（６年担当)、○郡山西小（３年担当)
２．希望しない（０）

３．今はどちらともいえない（0）

７．今後の「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の派遣授業について希望，要望等ありましたらお書き願います。

「要望は特にないですが、子供向けに丁寧に説明していただき、よくわかりました」「教科の授業作りに直接関わってもらうようなことができたら良いと思う。単発的な内容でなく、共に相談をし、アドバイスをもらいながら授業に参加してもらうようなシステムができたら良い」

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－14「スーパーサイエンスの達人」派遣事業アンケート集計派遣教員より

「スーパーサイエンスの達人」派遣事業アンケート集計

（２）派遣教員より

１．今回実施した「スーパーサイエンスの達人」派遣事業の授業の実施日，学校名・学年等，授業時間についてお聞かせ下さい。

① 平成１７年　７月　７日（木）、７月１１日（月）　郡山北小学校　６学年
　授業時間　１．１０時００分～１１時００分（１時限目）
　　２．１０時００分～１２時００分（２，３時限目）
　平成１７年１０月１８日（火）　矢田南小学校　６学年
　授業時間　１．１０時００分～１１時００分（１時限目）
　　２．１１時００分～１２時００分（２時限目）
② 平成１７年１０月２０日（木）　郡山西小学校　４学年
　授業時間　１．　９時３５分～１０時２０分（２時限目）
　　２．１０時３０分～１１時１５分（３時限目）
　　３．１１時２０分～１２時０５分（４時限目）
③ 平成１７年１１月１７日（木）　郡山北小学校　５学年
　授業時間　１．　９時３０分～１０時１５分（　時限目）
　　２．１０時１５分～１１時００分（　時限目）
④ 平成１７年１１月２５日（金）　郡山西小学校　４～６学年（科学クラブ）
⑤ 平成１８年　１月２６日（木）　郡山西小学校　３学年
　授業時間　１．　９時３５分～　時　分（２時限目）
　　２．　時　分～　時　分（３時限目）
　　３．　時　分～　時　分（４時限目）
⑥ 平成１８年　２月　１日（水）　郡山西小学校　６学年
　授業時間　１．　９時３５分～１０時２０分（２時限目）
　　２．１０時４０分～１１時２５分（３時限目）
　　３．１１時３５分～１２時２０分（４時限目）
⑦ 平成１８年　２月　８日（水）　郡山東中学校　１学年
⑧ 平成１８年　２月２７日（月）　郡山北小学校　３学年
　授業時間　１．　時　分～　時　分（２時限目）
　　２．　時　分～　時　分（３時限目）

２．今回実施した授業のテーマ及び主な内容についてお聞かせください。

① テーマ「超低温の世界を探る」　主な内容「液体窒素を用いた実験」
② テーマ「太陽の光とエネルギー・環境」　主な内容「(1)ブルーベリー太陽電池　(2)光触媒による超親水効果」
③ テーマ「ロボットについて学ぼう」　主な内容「４S システム設計で製作したロボットのアイディアの紹介と実機の実演，高専ロボコンのスターキングの解説と実演と児童により操作体験」
④ テーマ「光で遊ぶ」　主な内容「消えるビーカ、光ファイバなど」
⑤ テーマ「くうき電池をつくろう」　主な内容「備長炭電池の作製」
⑥ テーマ「電磁力の不思議とモータへの応用」　主な内容「まず磁石の基本性質についてを話と実験で説明し、次いで電磁石とその極性について述べ、実験による確認をする。また、模型による実際の直流モータ、教材モータの構造と回る仕組について理解させる。最後に電磁力の応用として従来のモータの種類、現在研究中のモータについて概説した」
⑦ テーマ「くうき電池を作って燃料電池へ応用しよう」　主な内容「備長炭電池の作製と水電解、そして燃料電池への応用」
⑧ テーマ「磁石の達人　楽しい！不思議！磁石と遊ぼう」　主な内容「磁石に関するクイズ、強力磁石による実験、いろいろな仕事をする磁石」

３．今回実施した授業内容について児童，生徒に満足してもらえたと思いますか。
（　）内が集計数

１．充分満足してもらえた（３）　理由　○作文を読ませて頂いたが、先端技術を学んだ感動が伝わってくる
○後日送付された感想文と当日の反応を総合した結果、理科に興味を持ってくれた児童数が非常に多かった
○模型を多数用意したことと話の裏付けとしての実験を各所に実施したからと思う

２．概ね満足してもらえた（６）　理由　○反応等十分に得られ、喜んでもらえた
○反応は十分に良かったし、生徒が喜んでいた
○専攻科学生によるPBL授業の一環のロボット体験は非常に希望者も多く好評であったと思われる。また４Ｓロボットも活発な質問もあり満足してもらえたと思われる
○楽しそうだった
○簡単な実験の割にいろいろと工夫しながら真剣に取り組んでいた。また、驚きの声がかなり多く聞こえてきた
○楽しく授業参加していたので

３．普通（０）
４．あまり満足してもらえなかった（０）
５．全く満足してもらえなかった（０）

４．小・中学校の担当教諭から授業への希望等について聞いたことがあればお書きください。
「生徒へ理科の魅力を伝えてほしい等」「感謝の気持ちを述べられただけで、特に希望はなかった」「西小と高専で連携してほしい」「話す時間がなかったので、特になし」「工場見学での工場の自動化ロボットとの関係でロボットに関心を持たせたいとの希望があった」「生徒の反応が思っていた以上に良かったとの感想を頂いた」「西小として現代GPへの協力をさせて頂く用意がある点、大和郡山市の小学生は県下共通テストで理科の成績が極めて高いとの話でした」

５．授業実施に際して，今後，設備品の充実や教材で必要と思われるものがありましたらお聞かせください。
「消耗品は授業の都度必要です」「大型（高額）の機器は１０年程度に一度必要になります。現品がなくなると現状の物理科の予算では購入できないです」「ほとんど持ち出しで行っている」「教材費をアップして欲しい、特に１回目は。２回目以降はOKです」「今回、実験用コンテナを購入させて頂きましたが、とても便利でした。ただ、保管場所があればありがたいです。また、完成したプログラムには番号をつけて頂いて、後日利用できるようにしてもらえればと考えています」「移動台（軽量で大きさは学生机かそれより少し大きめのもの。高さは少し高い方が後方の生徒からよく見える）」「演示実験装置その他器材」

６．その他，ご感想，意見及び希望等がありましたらお書きください。
「テキスト等の印刷（特にカラーコピー等）はどうするのか。今回は電気工学科のカラーコピーで一部印刷した」「今後、実験コンテナの貸し出しを行い、中学校や小学校の先生が利用できるようにするのも一案かと思います」

（出典　庶務課庶務係保存資料）

資料Ｂ－１－②－15　奈良工業高等専門学校公開講座規程

奈良工業高等専門学校公開講座規程

（平成３年２月１日制定）

（趣旨）
第１条 奈良工業高等専門学校学則第６１条に基づき，公開講座に関する必要な事項を定める。
（目的）
第２条 奈良工業高等専門学校（以下「本校」という。）における公開講座は，本校の広報活動の一環として，
本校における学術研究の成果を広く地域住民並びに社会一般に開放し，生活上，職業上必要な知識の普及と一
般教養の向上を図ることを目的とする。
（開設時期及び場所）
第３条 公開講座は，授業に支障のない時期に開設する。
２　公開講座は，本校の諸施設を使用して行う。ただし，必要がある場合は，本校外で実施することができる。
（講師）
第４条 公開講座の講師は，本校の教職員とし，校長が委嘱する。ただし，必要がある場合は，本校外の学識経験
者を講師として委嘱することができる。
（修了証書）
第５条 公開講座において，所定の時間の３分の２以上出席した者には，修了証書を授与することができる。
（講習料）
第６条 公開講座の受講料の額は，独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規
則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３５号）第１４条で定められた額とする。
２　講習料は，公開講座の受講者を決定した際に速やかに徴収するものとする。
３　既納の講習料は，返還しない。
（公開講座担当）
第７条 一般教科及び専門各学科に，公開講座を円滑に行うため，公開講座担当を置く。
（公開講座会議）
第８条 広報委員会委員長補佐は，公開講座を実施するため，公開講座会議を開催し，その議長となる。
２　公開講座会議は第７条で定めた教職員をもって構成する。
（事務）
第９条 公開講座に関する事務は，庶務課で行う。

附　則
１　この規程は，平成３年２月１日から施行する。
２　公開講座について（昭和５７年１１月２２日教官会議承認）は廃止する。
附　則（平成４年４月１日）
この規程は，平成４年４月１日から施行する。
附　則（平成１３年１月６日）
この規程は，平成１３年１月６日から施行する。
附　則（平成１４年４月１日）
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。
附　則（平成１６年４月１日）
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料Ｂ－１－②－16　奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程

奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程

（平成１２年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校に産学交流促進委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）　産学交流促進の基本方針に関すること。
（２）　奨学寄附金の受入れに関すること。
（３）　共同研究の受入れに関すること。
（４）　受託研究の受入れに関すること。
（５）　発明に係る権利の帰属等に関すること。
（組織）
第３条 委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）　校長
（２）　教務主事，学生主事及び寮務主事
（３）　専攻科主任
（４）　一般教科及び専門各学科主任
（５）　専任教員のうち校長が指名した者
（６）　事務部長
２　前項第５号の委員の任期は１年とする。
第４条 委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員会に委員長補佐を置き，前条第１項第４号の委員をもって充てる。
４　委員長補佐は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，その職務を代行する。
（専門部会）
第５条 委員会から付託された事項について調査及び検討を行うため，委員会に専門部会を置く。
２　専門部会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）　委員長補佐
（２）　専攻科主任
（３）　一般教科及び専門各学科から選出された専任教員　各１名
３　前項第３号の委員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
４　前項第３号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。
５　専門部会に部会長を置き，前項第２号及び第３号の委員うちから互選する。
（産学交流室）
第６条 産学の技術交流を促進するため委員会に産学交流室を置く。
２　産学交流室に室長を置き，委員長補佐をもって充てる。
３　産学交流室に関しその他必要な事項は，別に定める。
（事務）
第７条 委員会に関する事務は，庶務課及び会計課で行う。

附　則
この規程は，平成１２年４月１日から施行する。
附　則（平成１４年４月１日）
この規程は，平成１４年４月１日から施行する。
附　則（平成１５年４月１日）
この規程は，平成１５年４月１日から施行する。
附　則（平成１６年４月１日）
この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料Ｂ－１－②－17　奈良工業高等専門学校産学交流室内規

奈良工業高等専門学校産学交流室内規

（平成１６年４月１日制定）

（設置）
第１条 奈良工業高等専門学校産学交流促進委員会規程第６条の規定に基づき産学交流室に関し必要な事項を定める。
（業務）
第２条 産学交流室は，次の各号に掲げる業務を行う。
（１）　技術相談に関すること。
（２）　産学官交流に関すること。
（３）　技術者教育に関すること。
（４）　その他対外窓口業務に関すること。
（組織）
第３条 産学交流室の室員は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
（１）　産学交流室長
（２）　産学交流室副室長　若干名
（３）　専任教員の中から産学交流室長の指名を受けた者　若干名
（４）　庶務課長
（５）　総合技術室長
２　産学交流室副室長は，専任教員の中から室長が指名する。
３　産学交流室副室長の任期は１年とし，再任を妨げない。
４　第１項第３号の室員の任期は１年とし，再任を妨げない。
（技術相談への対応）
第４条 技術相談があった場合には，室長および関連する室員とで連絡調整を図り，速やかに相談者に対応する。
２　技術相談を受けた教員は，その対応を技術相談記録に記載し，室長に報告する。
（産学官交流）
第５条 産学交流室においては，産学官の交流事業を計画・実施するとともに，外部において開催される交流事業にも積極的に参加するものとする。
（事務）
第６条 産学交流室に関する事務は庶務課で行う。

附　則
１　この内規は，平成１６年４月１日から施行する。
２　奈良工業高等専門学校技術交流室内規（平成１２年４月１日制定）は廃止する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

資料Ｂ－１―②―18　奈良工業高等専門学校広報委員会規程

奈良工業高等専門学校広報委員会規程

（平成１２年４月１日制定）

（設置）
第１条 本校の広報活動に関する事項を審議するため，奈良工業高等専門学校広報委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条 委員会は，学生，保護者，教職員，卒業生及びその他関係機関並びに地域住民に対し，広報活動を通じ本校を広く正しく認識させることを目的とする。
（審議事項）
第３条 委員会は，次の事項について審議する。
（１） 広報の基本計画に関すること。
（２） 広報の企画に関すること。
（３） その他の広報に関すること。
（組織）
第４条 委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１） 校長
（２） 教務主事，学生主事及び寮務主事
（３） 専攻科主任
（４） 一般教科及び専門各学科主任
（５） 情報メディア教育センター長
（６） 事務部長
（７） 庶務課長，会計課長及び学生課長
（委員長及び委員長補佐）
第５条 委員会に委員長及び委員長補佐を置く。
２ 委員長は，校長をもって充てる。
３ 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
４ 委員長補佐は２名とし，委員の内から委員長が指名する。
５ 委員長に事故があるときは，委員長の指名した委員がその職務を代行する。
（小委員会）
第６条 委員会の下に，小委員会を置く。
２ 小委員会は，本校の広報活動の具体的事項について検討し，その内容を委員会に報告するとともに，実施に向けた対策を講じることとする。
３ 小委員会に委員長を置き，委員会の委員長補佐をもって充てる。
４ 小委員会は，次の各号に掲げる委員をもって構成する。
（１） 小委員会委員長
（２） 教務主事補のうちから選任された者　１名
（３） 学生主事補のうちから選任された者　１名
（４） 情報メディア教育センター副センター長のうちから選任された者　１名
（５） 専攻科副主任
（事務）
第７条 委員会に関する事務は，庶務課で行う。

附　則

この規程は，平成１２年４月１日から施行する。

附　則（平成１４年４月１日）

この規程は，平成１４年４月１日から施行する。

附　則（平成１６年４月１日）

この規程は，平成１６年４月１日から施行する。

（出典　奈良工業高等専門学校規程集）

（２）優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

・教育サービスの目的を達成するための計画や具体的方針が明らかにされ，これを達成している。
・各事業の広報活動やシーズ集の刊行等が，高専の取組を広く社会に伝えるための重要なものとして位置づけられ積極的に行われている。
・全受講者に対して実施したアンケート調査等改善のためのシステムが機能した結果，現代GPの採択等新事業の実施に結びつき，成果を上げている。

(改善を要する点)

該当なし。

（３）選択的評価事項Ｂの自己評価の概要

正規課程の学生以外に対する教育サービスが，本校の教育理念のなかで学校本来の任務として明確に示され，その実施計画や具体的方針が明らかにされている。公開講座は，一般市民の生涯学習意欲に応えるもの，青少年の科学への興味喚起や子供達の理科離れに対応するもの及び企業向けの先端技術に関するものを豊富な内容で計画的に実施されている。科学教室，出前授業（「スーパーサイエンスの達人」派遣）も多彩なプログラムを用意し，小中学生のニーズに応える内容により数多く実施されている。各事業の広報活動は，参加者確保の目的以外に本校の取組を社会に広く伝えるための重要な位置づけとして積極的に行われ，また，教員シーズ集を刊行し一般市民・企業に役立つ情報を発信している。

平成 17 年度の実施状況は，公開講座，科学教室，出前授業（「スーパーサイエンスの達人」派遣）で，開催回数，参加者数，アンケート調査による満足度でともに目標を達成しており，十分な成果を上げている。アンケートは全受講者に対し行われ，また，出前授業の対象となる小中学校教員との意見交換会の開催等改善のためのシステムがあり,現代 GP の採択による新事業の実施等改善に結びついている。こうした事業の広報に係る部分は，広報委員会において計画・立案し運営を行っている。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。